

交野市

子どもの生活に関する実態調査

令和6年3月

交野市

調査研究業務 受注者

公立大学法人大阪 大阪公立大学

目次

はじめに	2
I 調査概要	3
1. 調査の目的	3
2. 調査方法	3
3. 調査内容	3
4. 調査対象者	3
5. 調査実施日	3
6. 調査配布・回収率(数)	3
7. 調査実施主体	5
8. 研究者一覧	5
9. 大阪府内全自治体のデータ統合時の扱い	5
II 調査結果	7
1. 単純集計結果〔小学生・中学生〕	7
2. 単純集計結果〔保護者〕	84
3. 単純集計結果〔5歳児の保護者〕	182
4. クロス集計および分析結果	231
4-1. 基本情報	231
(1) 経済状況	231
(2) 家庭状況(制度等)	250
4-2. 雇用	297
4-3. 健康	305
4-4. 家庭生活、学習	347
4-5. 対人関係	407
III 総合考察	474
1) 大阪府共同調査の意義	474
2) 単純集計	474
3) クロス集計	477
まとめ	479
IV 資料編	487

はじめに

2014年1月「子どもの貧困対策の推進に関する法律」が施行されたことをスタートに、2014年8月「子供の貧困対策に関する大綱」が策定された。これら政府の動きを受けて、大阪市や大阪府内自治体含む大阪府は約10万件にも及ぶ子どもの生活に関する実態調査に共同で取り組んだ。府内すべてを網羅したこと、同じ調査で実施したことの意味は、大きい。なぜなら、各自治体がばらばらに実施し結果を見せても共通の指標にならず、この数値がどうなのか、意味があるのか、よくわからない実態も少なくない。世間でもかなり話題になり、マスコミに多数取り上げられた。この頃には、子どもの貧困が広く知られ社会問題化されつつあったが、この大規模な調査の動きは拍車をかけたのみならず、データ数の多さから、全て実証され、以下に示す政策にも少なからず影響をもたらした。

2019年6月「子どもの貧困対策の推進に関する法律」が5年ぶりに見直され、「子どもの貧困対策の推進に関する法律の一部を改正する法律」が施行された。それを受けて、同年11月「子供の貧困対策に関する大綱～日本の将来を担う子供たちを誰一人取り残すことがない社会に向けて～」が再策定された。大綱では、「支援が届いていない、又は届きにくい子ども・家庭に配慮して対策を推進する」、「困窮層が多様であること」、「社会的孤立に陥ることのないように配慮する」など新たな視点が基本方針として追加され、ヤングケアラーと思われる子どもや、外国籍や障がいを持つ子どもたちなど、具体的な困窮層の子どもや家庭が示された。同時に、2023年4月にこども家庭庁が発足され、貧困をはじめとする子どもを取り巻く社会問題にシームレスに向き合い、途切れない政策・支援を打ち立てていくことが期待されている。

こうして子どもの貧困に関する社会的認知や政策が知られるようになったが、子どもの実態はどう変わったのであろうか。政策の効果は表れたであろうか。そんな思いをもって、大阪府では再度府内自治体とともに子どもの生活に関する実態調査が共同実施されることになった。全国的にここまで一体的に実施する都道府県は存在せず、大阪府が、大阪府内の大半を占める大阪市も含めて牽引した役割は大きい。

子どもの貧困については、前回と同様に、その国の貧困線未満の所得で暮らす相対的貧困の17歳以下の子どもの存在および生活状況を指す相対的貧困率でとらえる。OECDや厚生労働省調査の貧困率には等価可処分所得の中央値の50%が使用されているが、絶対的なものではなく、EU、ユニセフは公式の貧困基準のひとつに中央値の60%を使用（ただし、常に60%基準採用ではない）している。前回同様、60%のラインも含め検討している。子どもの相対的貧困率については、発表主体、統計利用データ年次によって変動する。内容的には、タウンゼンドの定義を元にChild Poverty Action Group (CPAG) が示している、①所得や資産など経済的資本 (capital) の欠如、②健康や教育など人的資本 (human capital) の欠如、③つながりやネットワークなど社会関係資本 (social capital) の欠如、の3つの資本の欠如を基本的な枠組みとしてとらえる。

I 調査概要

1. 調査の目的

交野市では、子どもたちが積極的に自分の生き方を選択し、自立できるよう様々な施策を実施している中、今後、効果的な子どもの貧困対策を検証するために調査を実施し、得られた結果を分析することによって、支援を必要とする子どもや家庭に対する方策を検証することを目的としている。

2. 調査方法

交野市内の調査対象の世帯に、学校、認定こども園等を通じて調査票を配付し、回収を得たもの。

3. 調査内容

巻末の調査票参照

4. 調査対象者

小学校5年生・その保護者（671世帯）、中学校2年生・その保護者（633世帯）
5歳児保護者（602世帯）

5. 調査実施日

交野市：令和5年7月7日～令和5年7月20日

大阪府内全自治体：令和5年6月27日～令和5年9月30日

6. 調査配布・回収率(数)

表1. 調査票の回収状況

		回収率(%)	回収数	配布数
交野市	小学5年生	87.8	589	671
	小学5年生の保護者	62.4	419	671
	中学2年生	87.7	555	633
	中学2年生の保護者	58.9	373	633
	小学5年生・中学2年生合計	87.7	1,144	1,304
	小学5年生保護者・中学2年生保護者合計	60.7	792	1,304
	5歳児の保護者	60.8	366	602
	計	71.7	2,302	3,210
大阪府全自治体	小学5年生	56.2	23,289	41,458
	小学5年生の保護者	55.0	22,819	41,458
	中学2年生	51.4	19,990	38,911
	中学2年生の保護者	49.8	19,390	38,911
	小学5年生・中学2年生合計	54.0	43,370	80,369
	小学5年生保護者・中学2年生保護者合計	53.9	43,358	80,369
	計	54.0	86,728	160,738

※大阪府内全自治体の小学5年生・中学2年生合計、小学5年生保護者・中学2年生保護者合計の数値については、学年不明分を含んだものとなっている（子ども：91件、保護者：1,149件）

※大阪府内全自治体の小学5年生、小学5年生保護者、中学2年生、中学2年生保護者、小学5年生・中学2年生合計、小学5年生保護者・中学2年生保護者合計の数値については、一部自治体の他学年分を含んだものとなっている。

※「計」は、「小学5年生・中学2年生合計」と「小学5年生保護者・中学2年生保護者合計」の合計となっている。

大阪府内全自治体回収状況配布・回収方法別

		回収率(%)	回収数	配布数
学校配布・学校回収	小学5年生	61.6	15,927	25,852
	小学5年生の保護者	62.6	16,178	25,852
	中学2年生	58.3	13,712	23,539
	中学2年生の保護者	58.2	13,707	23,539
	小学5年生・中学2年生合計	60.1	29,674	49,391
	小学5年生保護者・中学2年生保護者合計	60.7	29,977	49,391
	計	60.4	59,651	98,782
学校配布・郵送回収	小学5年生	22.6	1,401	6,191
	小学5年生の保護者	22.2	1,376	6,191
	中学2年生	15.3	936	6,099
	中学2年生の保護者	15.5	943	6,099
	小学5年生・中学2年生合計	19.2	2,362	12,290
	小学5年生保護者・中学2年生保護者合計	19.2	2,361	12,290
	計	19.2	4,723	24,580
郵送配布・郵送回収	小学5年生	21.3	2,003	9,415
	小学5年生の保護者	21.0	1,978	9,415
	中学2年生	17.8	1,646	9,273
	中学2年生の保護者	17.8	1,653	9,273
	小学5年生・中学2年生合計	19.7	3,676	18,688
	小学5年生保護者・中学2年生保護者合計	19.7	3,675	18,688
	計	19.7	7,351	37,376
学校配布・WEB回答	小学5年生	23.0	3,007	13,068
	小学5年生の保護者	17.0	2,228	13,068
	中学2年生	21.3	2,714	12,718
	中学2年生の保護者	16.0	2,037	12,718
	小学5年生・中学2年生合計	22.2	5,723	25,786
	小学5年生保護者・中学2年生保護者合計	19.2	4,949	25,786
	計	20.7	10,672	51,572
郵送配布・WEB回答	小学5年生	10.1	951	9,415
	小学5年生の保護者	11.2	1,059	9,415
	中学2年生	10.6	982	9,273
	中学2年生の保護者	11.3	1,050	9,273
	小学5年生・中学2年生合計	10.4	1,935	18,688
	小学5年生保護者・中学2年生保護者合計	12.8	2,396	18,688
	計	11.6	4,331	37,376

※各配布・回収方法の小学5年生・中学2年生合計、小学5年生保護者・中学2年生保護者合計の数値については、学年不明分を含んだものとなっている（子ども：91件、保護者：1,149件）

※大阪府内全自治体の小学5年生、小学5年生保護者、中学2年生、中学2年生保護者、小学5年生・中学2年生合計、小学5年生保護者・中学2年生保護者合計の数値については、一部自治体の他学年分を含んだものとなっている。

※「計」は、「小学5年生・中学2年生合計」と「小学5年生保護者・中学2年生保護者合計」の合計となっている。

なお、未就学児童の保護者を対象とした調査も大阪府内の3自治体において実施した。さらに1自治体では、小5・中2以外の学年の児童とその保護者を対象とした調査も実施した。これらの合計配布数は、19,513件、回収数は、14,626件、回収率75.0%であった。

7. 調査実施主体

交野市

調査研究業務受託者

公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院 現代システム科学研究科

8. 研究者一覧

担当者 公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院 現代システム科学研究科

教授 山野 則子（業務責任者）

特任講師 橋本 磨和

シニア研究員 永田 麻衣 佐伯 厘咲 李 孟

協力者 公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院 現代システム科学研究科

准教授 嵯峨 嘉子

研究補助者 公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院 経済学研究科

准教授 牛 冰

武庫川女子大学 社会情報学部 社会情報学科 助教 駒田 安紀

大阪商業大学 公共学部 公共学科 助教 林 萍萍

奈良佐保短期大学 地域こども学科 講師 河村 信子

公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院 現代システム科学研究科

研究員 黄 健育 渡邊 陽亮

大阪公立大学大学院 現代システム科学研究科 専攻社会福祉学分野 林 慎吾

松浦 孝範 久地井 寿哉 渡邊 祐作

9. 大阪府内全自治体のデータ統合時の扱い

本報告書においては、交野市と大阪府内全自治体をそれぞれ掲載している。交野市のデータについては既に「I 調査概要 2～8」で述べた方法で収集したものである。大阪府内全自治体については、大阪府25市町村のデータに共同実施18市町のデータを統合したものである。これら全自治体においては、小学生・中学生27問、保護者26問をそれぞれ共通設問として調査項目を設計し、全体を統合して扱うあるいは比較することが可能なものとした。なお、一部の市においては、これらの共通設問とは別途把握したい内容がある場合に限り、追加で独自設問を設けている。

調査の結果、府と他共同実施18市町との間で回収率や回収数に差が生じた。府では、予めサンプリングした対象8000件への配布を行いその約30%の回収となったのに対し、他共同実施市ではほとんどの市が全数配布の結果、高いところでは70%を超える回収率となっている。このため、自治体間で回収率あるいはサンプルサイズの補正を行うか否かについて検討し、補正は行わないとの結論に達した。

1点目の理由としては、今回の調査では調査票配布の方法に郵送配布と学校配布の2種類があり、いずれを用いるかは自治体の状況に基づいて決定された。配布方法が異なることで回収率に差が生じることは避けられないものであった。

2点目の理由としては、このような状況に対して、例えば回収率の高かった自治体についてデータの再サンプリングなどの方法を用いて削減を行うことも意見が出された。しかし、その

場合、どのような基準で選択するのかが恣意的になってしまうこと、削減後の結果を提示した場合、施策を提言するための貴重な調査結果であるにもかかわらずその一部が掬い取られないことになり、全数調査をした市においては意義が失われてしまう。

このような理由から、大阪府内全自治体のデータは回収したデータをすべて統合したものとなっている。

本報告書では、「交野市」、「大阪府内全自治体」両者のグラフを掲載しているため、このように書き分けて論じていく。

なお、報告書においてはパーセンテージを用いて記述し、議論を進める。この中で、パーセンテージで示される数値同士の加・減・除を行う（合計する・差を把握する・何倍かに着目する）ことがあるが、実際に示された数値で算出しても結果が異なることがある。これは、示されている数値は小数第二位以下を四捨五入しているものであり、算出には四捨五入前の厳密な数値を用いていることによるものである。

Ⅱ 調査結果

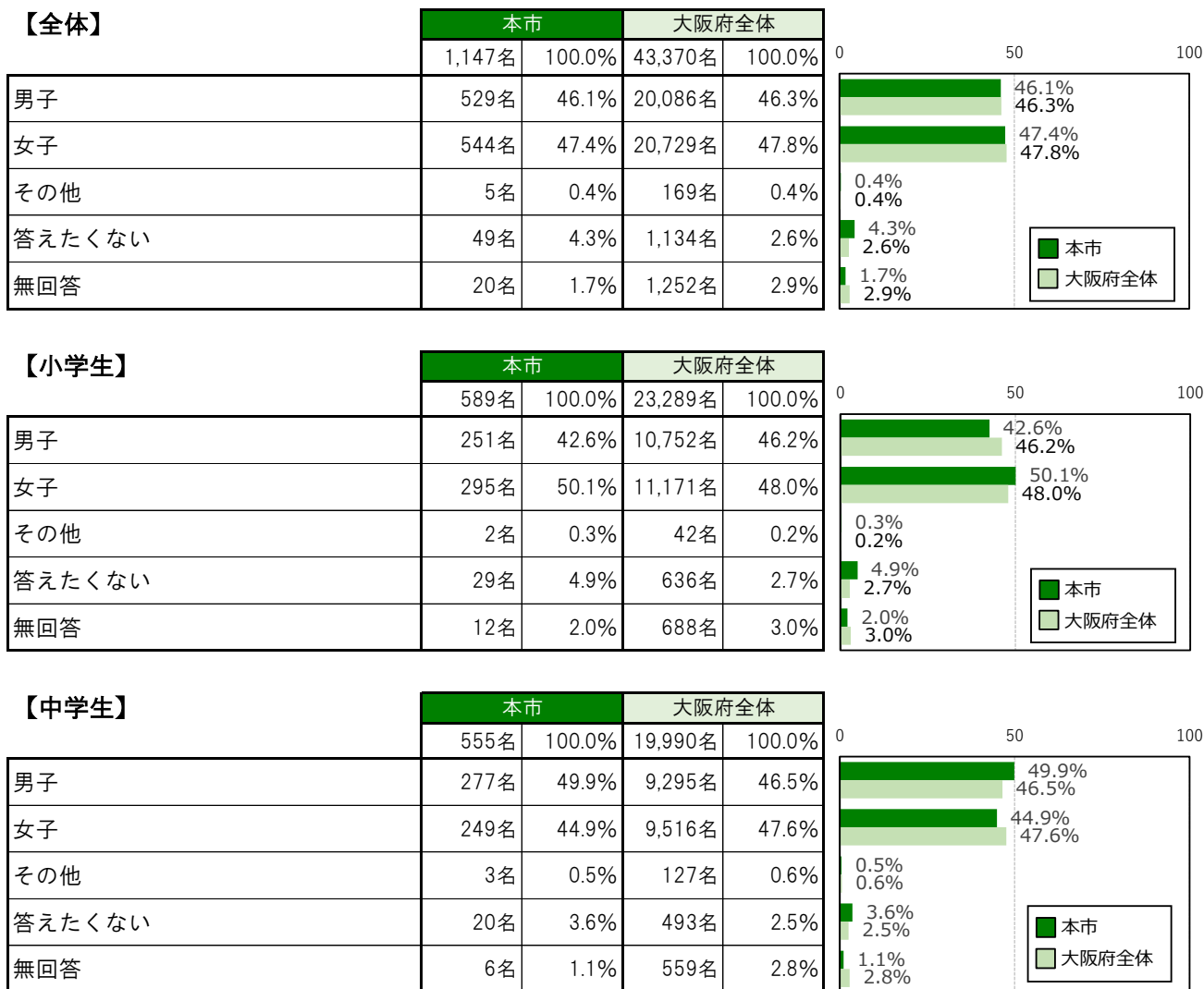
1. 単純集計結果〔小学生・中学生〕

交野市

回答者の属性

問27 性別

全体は、「男子」が46.1%、「女子」が47.4%となっている。
小学生は、「男子」が42.6%、「女子」が50.1%となっている。
中学生は、「男子」が49.9%、「女子」が44.9%となっている。



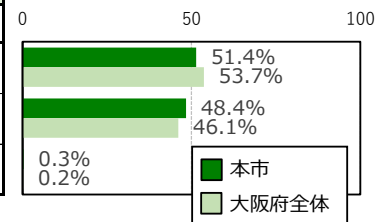
回答者の属性

問1 学年

子どもの学年は、「小学生」が589名・51.4%、「中学生」が555名・48.4%となっている。

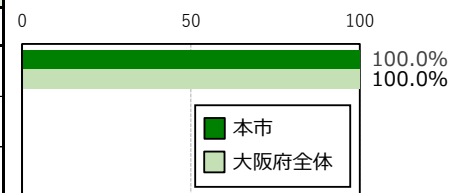
【全体】

	本市		大阪府全体	
	1,147名	100.0%	43,370名	100.0%
小学生	589名	51.4%	23,289名	53.7%
中学生	555名	48.4%	19,990名	46.1%
無回答	3名	0.3%	91名	0.2%



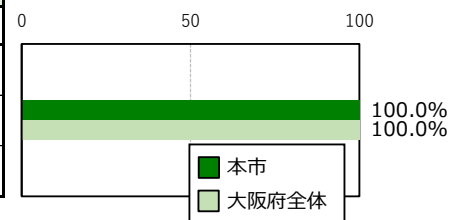
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	589名	100.0%	23,289名	100.0%
小学生	589名	100.0%	23,289名	100.0%
中学生	-	-	-	-
無回答	-	-	-	-



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	555名	100.0%	19,990名	100.0%
小学生	-	-	-	-
中学生	555名	100.0%	19,990名	100.0%
無回答	-	-	-	-



ふだんの生活のことについて

問2 起床時間の規則性

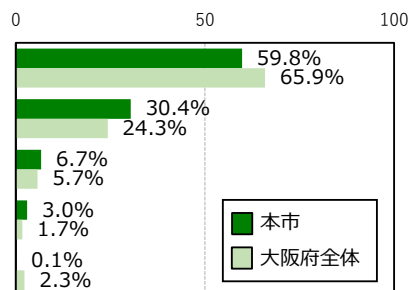
全体は、「起きている」が59.8%で最も多く、次いで「どちらかといえば、起きている」が30.4%、「あまり、起きていない」が6.7%、「起きていない」が3.0%となっている。

小学生は、「起きている」が58.9%で最も多く、次いで「どちらかといえば、起きている」が32.1%、「あまり、起きていない」が6.6%、「起きていない」が2.4%となっている。

中学生は、「起きている」が60.7%で最も多く、次いで「どちらかといえば、起きている」が28.8%、「あまり、起きていない」が6.8%、「起きていない」が3.6%となっている。

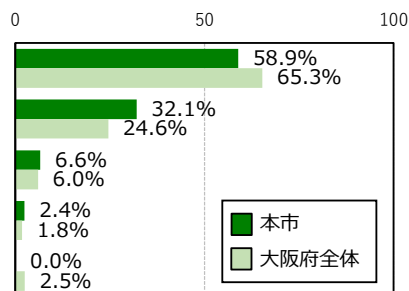
【全体】

	本市		大阪府全体	
	1,147名	100.0%	43,370名	100.0%
起きている	686名	59.8%	28,594名	65.9%
どちらかといえば、起きている	349名	30.4%	10,539名	24.3%
あまり、起きていない	77名	6.7%	2,478名	5.7%
起きていない	34名	3.0%	741名	1.7%
無回答	1名	0.1%	1,018名	2.3%



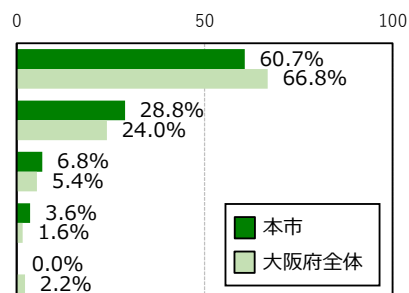
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	589名	100.0%	23,289名	100.0%
起きている	347名	58.9%	15,198名	65.3%
どちらかといえば、起きている	189名	32.1%	5,722名	24.6%
あまり、起きていない	39名	6.6%	1,386名	6.0%
起きていない	14名	2.4%	410名	1.8%
無回答	-	-	573名	2.5%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	555名	100.0%	19,990名	100.0%
起きている	337名	60.7%	13,344名	66.8%
どちらかといえば、起きている	160名	28.8%	4,791名	24.0%
あまり、起きていない	38名	6.8%	1,088名	5.4%
起きていない	20名	3.6%	328名	1.6%
無回答	-	-	439名	2.2%



ふだんの生活のことについて

問3 就寝時間

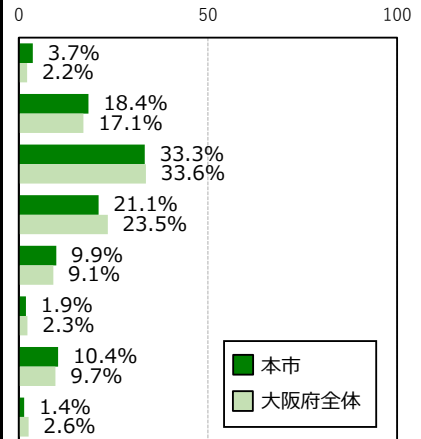
全体は、「午後10時台」が33.3%で最も多く、次いで「午後11時台」が21.1%、「午後9時台」が18.4%、「きまっていない」が10.4%、「午前0時台」が9.9%となっている。

小学生は、「午後10時台」が39.4%で最も多く、次いで「午後9時台」が30.6%、「午後11時台」が11.7%、「きまっていない」が7.8%、「午後9時より前」が6.6%となっている。

中学生は、「午後11時台」が31.0%で最も多く、次いで「午後10時台」が27.0%、「午前0時台」が19.3%、「きまっていない」が13.2%、「午後9時台」が5.6%となっている。

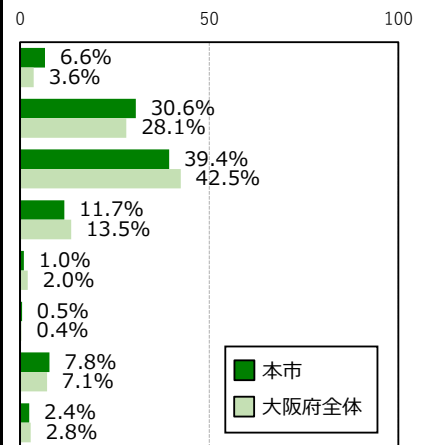
【全体】

	本市		大阪府全体	
	1,147名	100.0%	43,370名	100.0%
午後9時より前	42名	3.7%	963名	2.2%
午後9時台	211名	18.4%	7,400名	17.1%
午後10時台	382名	33.3%	14,573名	33.6%
午後11時台	242名	21.1%	10,204名	23.5%
午前0時台	113名	9.9%	3,927名	9.1%
午前1時より後	22名	1.9%	979名	2.3%
きまっていない	119名	10.4%	4,213名	9.7%
無回答	16名	1.4%	1,111名	2.6%



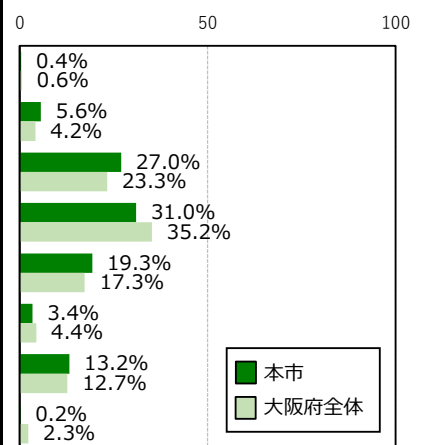
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	589名	100.0%	23,289名	100.0%
午後9時より前	39名	6.6%	845名	3.6%
午後9時台	180名	30.6%	6,553名	28.1%
午後10時台	232名	39.4%	9,894名	42.5%
午後11時台	69名	11.7%	3,139名	13.5%
午前0時台	6名	1.0%	455名	2.0%
午前1時より後	3名	0.5%	95名	0.4%
きまっていない	46名	7.8%	1,660名	7.1%
無回答	14名	2.4%	648名	2.8%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	555名	100.0%	19,990名	100.0%
午後9時より前	2名	0.4%	113名	0.6%
午後9時台	31名	5.6%	830名	4.2%
午後10時台	150名	27.0%	4,655名	23.3%
午後11時台	172名	31.0%	7,043名	35.2%
午前0時台	107名	19.3%	3,464名	17.3%
午前1時より後	19名	3.4%	883名	4.4%
きまっていない	73名	13.2%	2,544名	12.7%
無回答	1名	0.2%	458名	2.3%



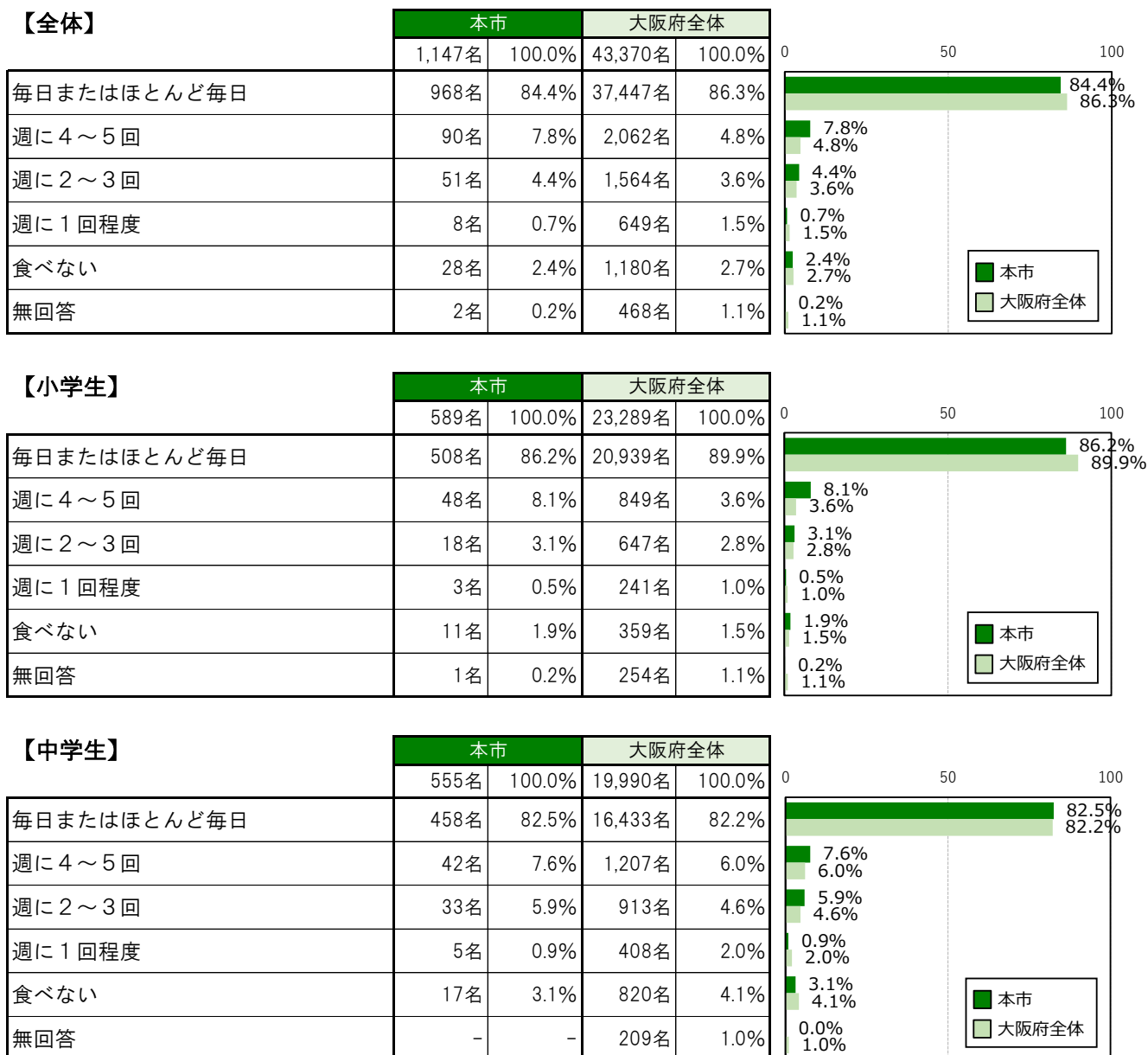
ふだんの生活のことについて

問 4 (1) 朝食の頻度

全体は、「毎日またはほとんど毎日」が84.4%で最も多く、次いで「週に4～5回」が7.8%、「週に2～3回」が4.4%、「食べない」が2.4%となっている。

小学生は、「毎日またはほとんど毎日」が86.2%で最も多く、次いで「週に4～5回」が8.1%、「週に2～3回」が3.1%、「食べない」が1.9%となっている。

中学生は、「毎日またはほとんど毎日」が82.5%で最も多く、次いで「週に4～5回」が7.6%、「週に2～3回」が5.9%、「食べない」が3.1%となっている。



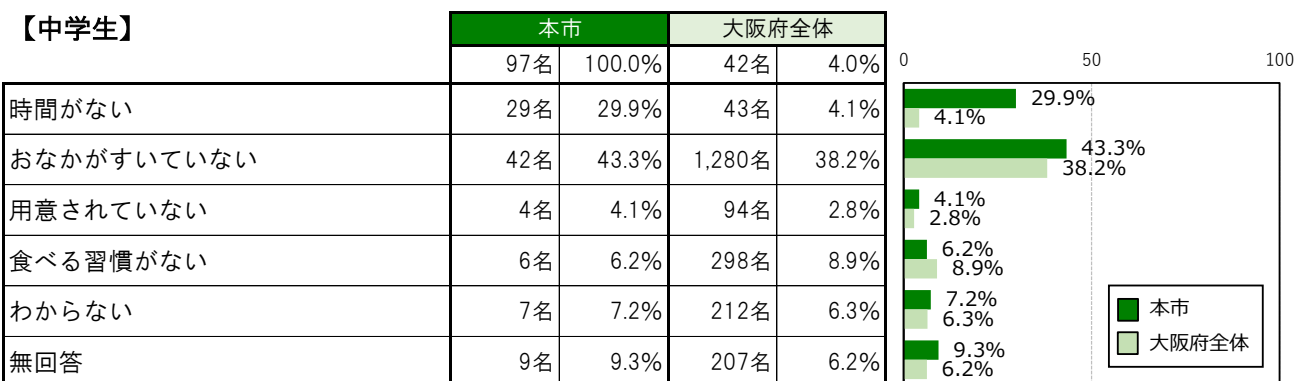
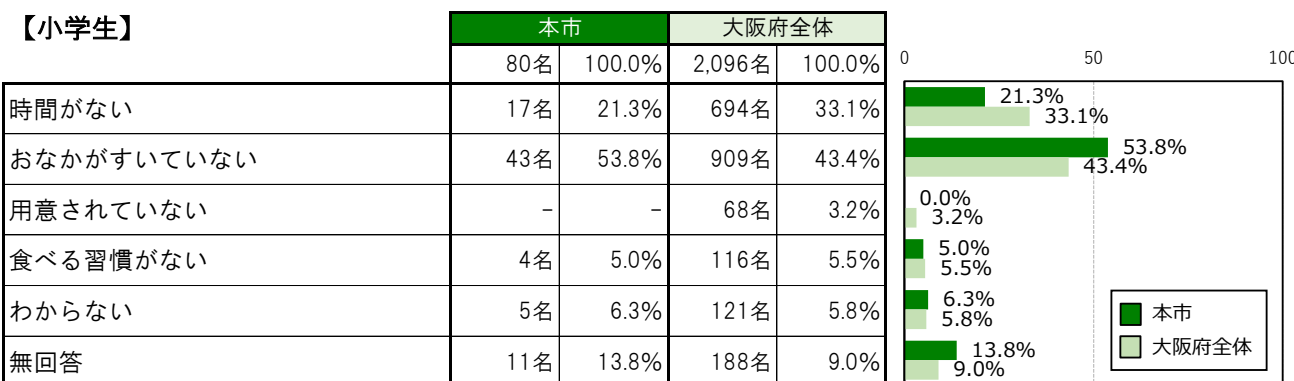
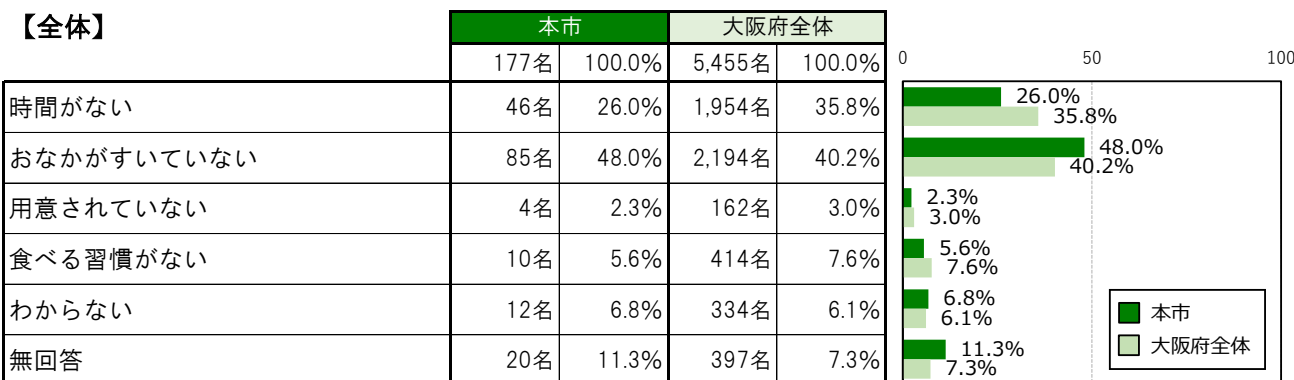
ふだんの生活のことについて

問4（2）朝食を食べない理由

全体は、「おなかがすいていない」が48.0%で最も多く、次いで「時間がない」が26.0%、「食べる習慣がない」が5.6%、「用意されていない」が2.3%となっている。

小学生は、「おなかがすいていない」が53.8%で最も多く、次いで「時間がない」が21.3%、「食べる習慣がない」が5.0%となっている。

中学生は、「おなかがすいていない」が43.3%で最も多く、次いで「時間がない」が29.9%、「食べる習慣がない」が6.2%、「用意されていない」が4.1%となっている。



ふだんの生活のことについて

問5（1）夕食の頻度

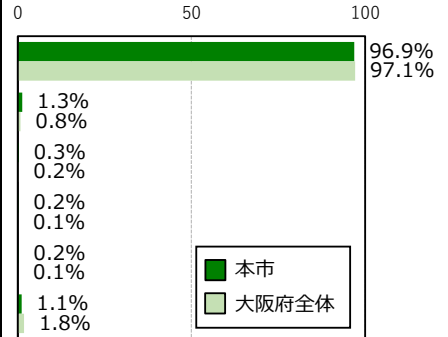
全体は、「毎日またはほとんど毎日」が96.9%で最も多く、次いで「週に4～5回」が1.3%となっている。

小学生は、「毎日またはほとんど毎日」が97.3%で最も多く、次いで「週に4～5回」が1.2%となっている。

中学生は、「毎日またはほとんど毎日」が96.6%で最も多く、次いで「週に4～5回」が1.4%となっている。

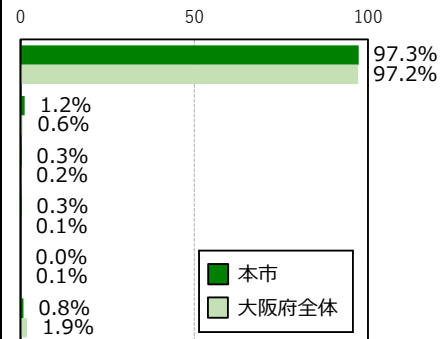
【全体】

	本市		大阪府全体	
	1,147名	100.0%	43,370名	100.0%
毎日またはほとんど毎日	1,111名	96.9%	42,110名	97.1%
週に4～5回	15名	1.3%	327名	0.8%
週に2～3回	4名	0.3%	100名	0.2%
週に1回程度	2名	0.2%	31名	0.1%
食べない	2名	0.2%	32名	0.1%
無回答	13名	1.1%	770名	1.8%



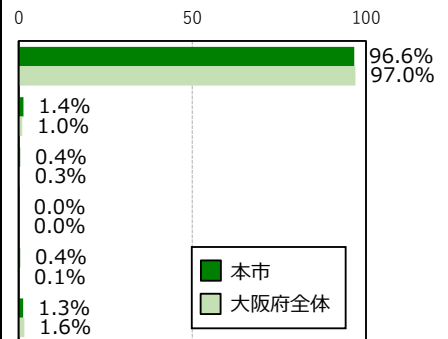
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	589名	100.0%	23,289名	100.0%
毎日またはほとんど毎日	573名	97.3%	22,637名	97.2%
週に4～5回	7名	1.2%	132名	0.6%
週に2～3回	2名	0.3%	39名	0.2%
週に1回程度	2名	0.3%	23名	0.1%
食べない	-	-	16名	0.1%
無回答	5名	0.8%	442名	1.9%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	555名	100.0%	19,990名	100.0%
毎日またはほとんど毎日	536名	96.6%	19,393名	97.0%
週に4～5回	8名	1.4%	195名	1.0%
週に2～3回	2名	0.4%	60名	0.3%
週に1回程度	-	-	8名	0.0%
食べない	2名	0.4%	16名	0.1%
無回答	7名	1.3%	318名	1.6%



ふだんの生活のことについて

問5（2）夕食を食べない理由

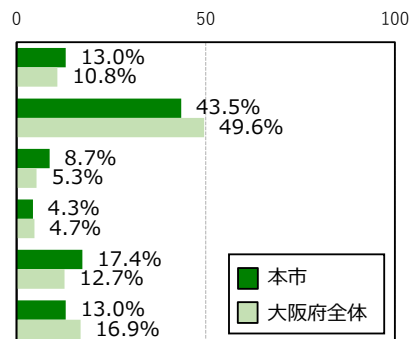
全体は、「おなかがすいていない」が43.5%（10名）で最も多く、次いで「時間がない」が13.0%（3名）、「用意されていない」が8.7%（2名）、「食べる習慣がない」が4.3%（1名）となっている。

小学生は、「おなかがすいていない」が54.5%（6名）で最も多く、次いで「用意されていない」が9.1%（1名）となっている。

中学生は、「おなかがすいていない」が33.3%（4名）で最も多く、次いで「時間がない」が25.0%（3名）、「用意されていない」、「食べる習慣がない」がそれぞれ8.3%（1名）となっている。

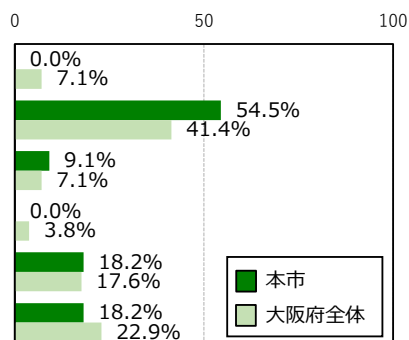
【全体】

	本市		大阪府全体	
	23名	100.0%	490名	100.0%
時間がない	3名	13.0%	53名	10.8%
おなかがすいていない	10名	43.5%	243名	49.6%
用意されていない	2名	8.7%	26名	5.3%
食べる習慣がない	1名	4.3%	23名	4.7%
わからない	4名	17.4%	62名	12.7%
無回答	3名	13.0%	83名	16.9%



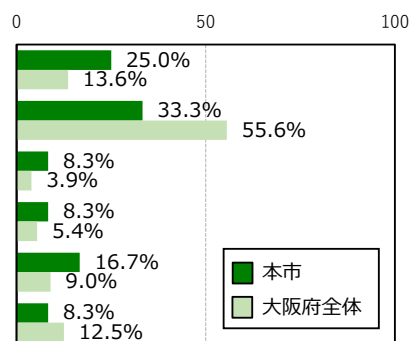
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	11名	100.0%	210名	100.0%
時間がない	-	-	15名	7.1%
おなかがすいていない	6名	54.5%	87名	41.4%
用意されていない	1名	9.1%	15名	7.1%
食べる習慣がない	-	-	8名	3.8%
わからない	2名	18.2%	37名	17.6%
無回答	2名	18.2%	48名	22.9%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	12名	100.0%	279名	100.0%
時間がない	3名	25.0%	38名	13.6%
おなかがすいていない	4名	33.3%	155名	55.6%
用意されていない	1名	8.3%	11名	3.9%
食べる習慣がない	1名	8.3%	15名	5.4%
わからない	2名	16.7%	25名	9.0%
無回答	1名	8.3%	35名	12.5%



ふだんの生活のことについて

問6（１）休日の昼食の頻度

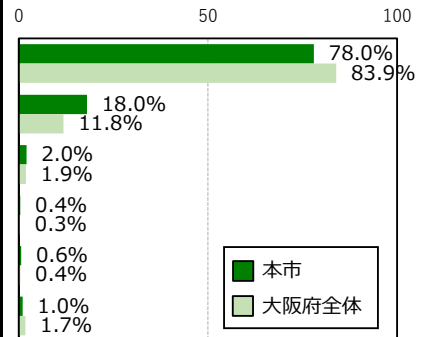
全体は、「必ず食べる」が78.0%で最も多く、次いで「食べることが多い」が18.0%、「食べないことが多い」が2.0%となっている。

小学生は、「必ず食べる」が80.5%で最も多く、次いで「食べることが多い」が16.0%、「食べないことが多い」が1.5%となっている。

中学生は、「必ず食べる」が75.5%で最も多く、次いで「食べることが多い」が20.2%、「食べないことが多い」が2.5%となっている。

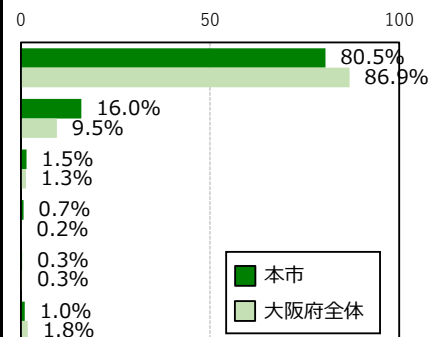
【全体】

	本市		大阪府全体	
	1,147名	100.0%	43,370名	100.0%
必ず食べる	895名	78.0%	36,388名	83.9%
食べるが多い	206名	18.0%	5,118名	11.8%
食べないことが多い	23名	2.0%	830名	1.9%
食べない	5名	0.4%	117名	0.3%
わからない	7名	0.6%	180名	0.4%
無回答	11名	1.0%	737名	1.7%



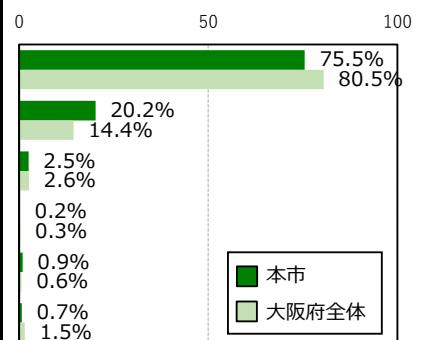
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	589名	100.0%	23,289名	100.0%
必ず食べる	474名	80.5%	20,227名	86.9%
食べるが多い	94名	16.0%	2,221名	9.5%
食べないことが多い	9名	1.5%	306名	1.3%
食べない	4名	0.7%	51名	0.2%
わからない	2名	0.3%	62名	0.3%
無回答	6名	1.0%	422名	1.8%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	555名	100.0%	19,990名	100.0%
必ず食べる	419名	75.5%	16,090名	80.5%
食べるが多い	112名	20.2%	2,886名	14.4%
食べないことが多い	14名	2.5%	524名	2.6%
食べない	1名	0.2%	66名	0.3%
わからない	5名	0.9%	117名	0.6%
無回答	4名	0.7%	307名	1.5%



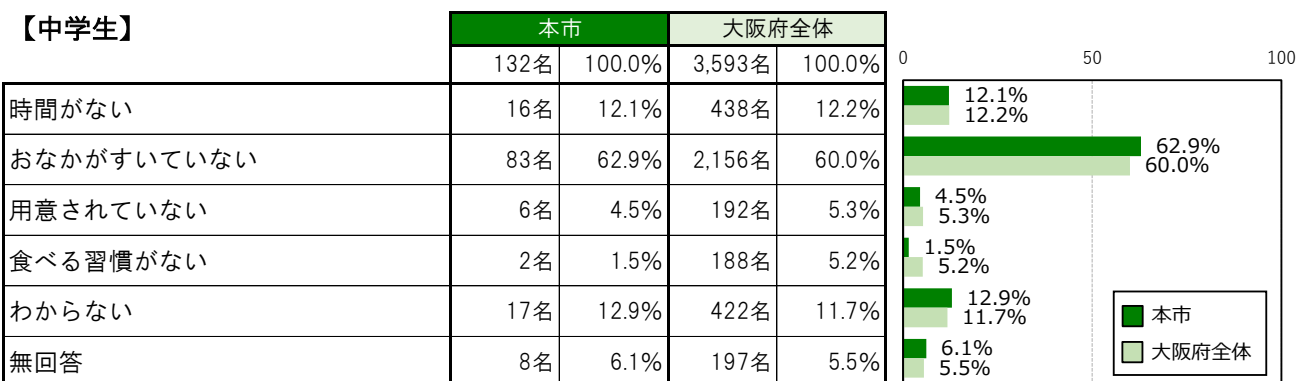
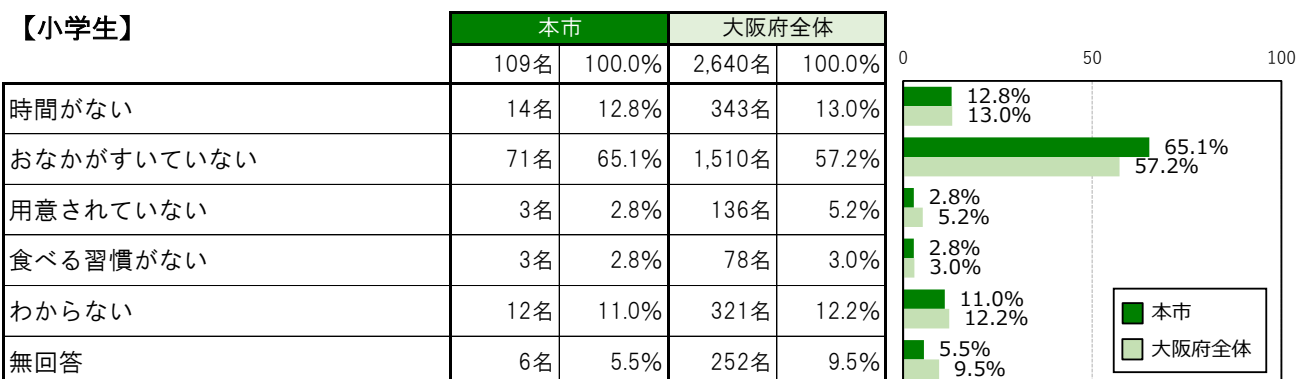
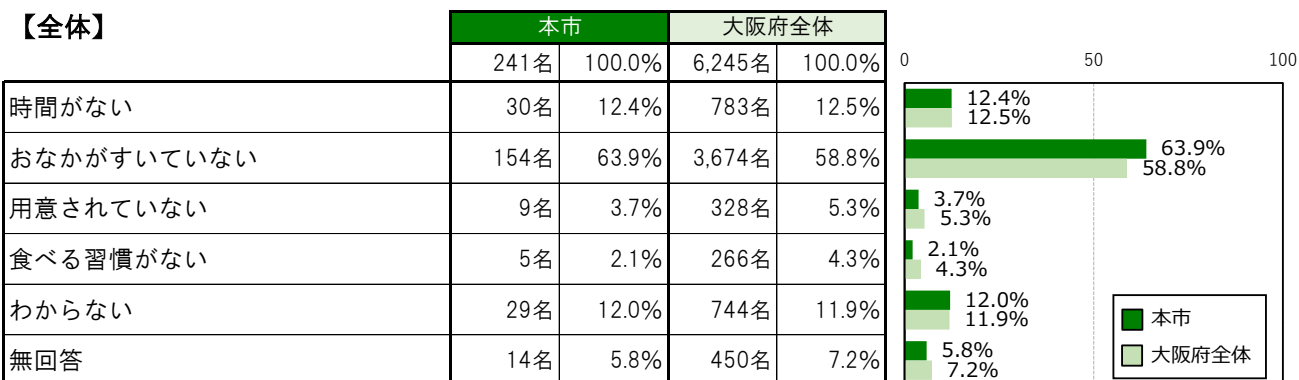
ふだんの生活のことについて

問6（2）休日に昼食を食べない理由

全体は、「おなかがすいていない」が63.9%で最も多く、次いで「時間がない」が12.4%、「用意されていない」が3.7%、「食べる習慣がない」が2.1%となっている。

小学生は、「おなかがすいていない」が65.1%で最も多く、次いで「時間がない」が12.8%、「用意されていない」、「食べる習慣がない」がそれぞれ2.8%となっている。

中学生は、「おなかがすいていない」が62.9%で最も多く、次いで「時間がない」が12.1%、「用意されていない」が4.5%、「食べる習慣がない」が1.5%となっている。



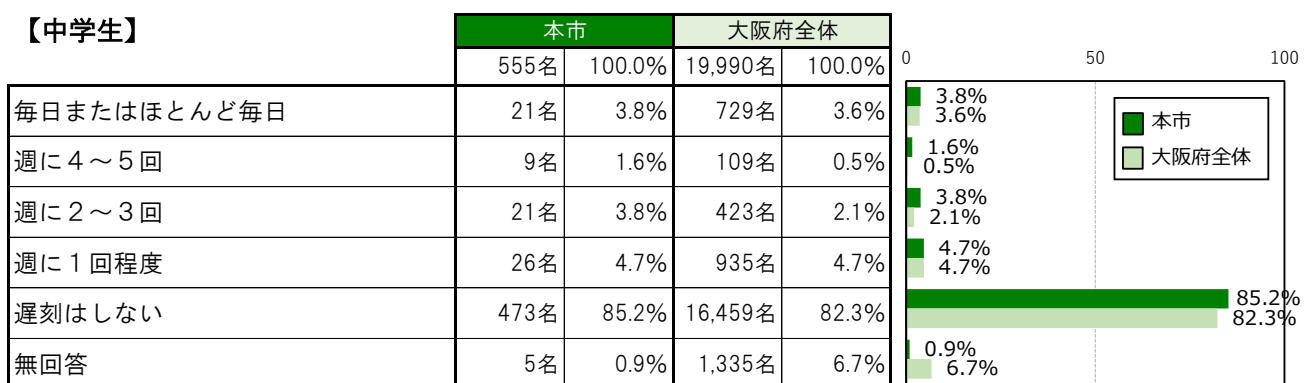
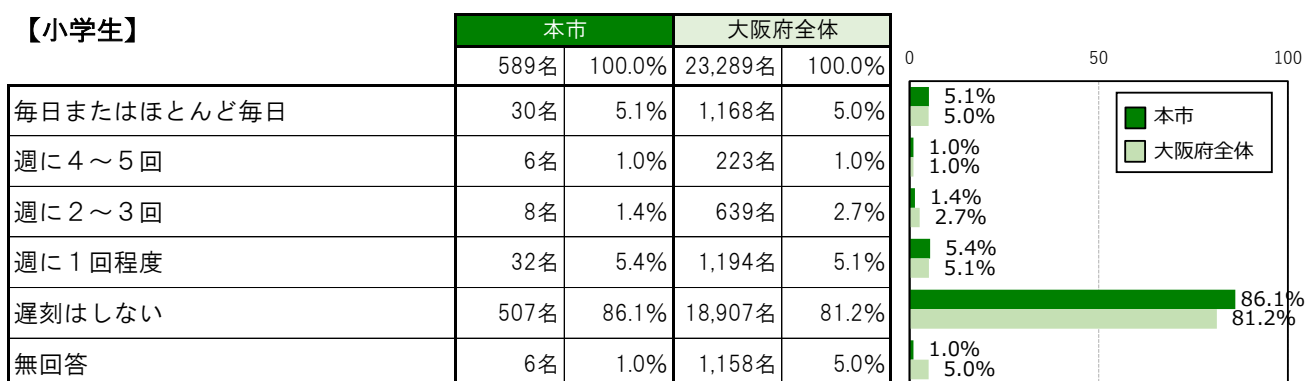
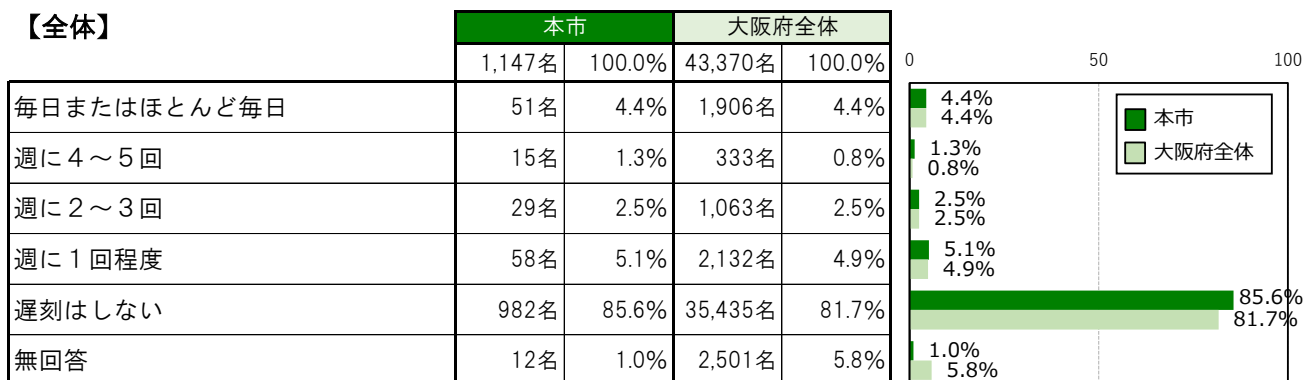
ふだんの生活のことについて

問 7 学校への遅刻

全体は、「遅刻はしない」が85.6%で最も多く、次いで「週に1回程度」が5.1%、「毎日またはほとんど毎日」が4.4%、「週に2～3回」が2.5%、「週に4～5回」が1.3%となっている。

小学生は、「遅刻はしない」が86.1%で最も多く、次いで「週に1回程度」が5.4%、「毎日またはほとんど毎日」が5.1%、「週に2～3回」が1.4%、「週に4～5回」が1.0%となっている。

中学生は、「遅刻はしない」が85.2%で最も多く、次いで「週に1回程度」が4.7%、「毎日またはほとんど毎日」が3.8%、「週に2～3回」が3.8%、「週に4～5回」が1.6%となっている。



ふだんの生活のことについて

問8 保護者との関係性 ①おうちの大人の人と一緒に朝食を食べているか

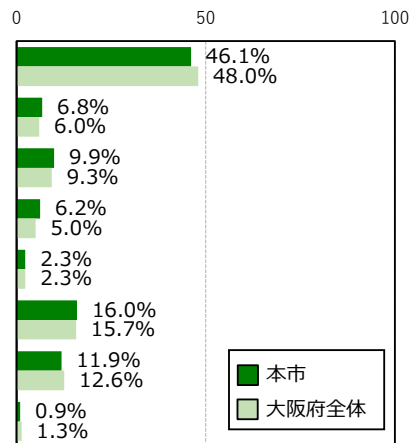
全体は、「ほとんど毎日」が46.1%で最も多く、次いで「ほとんどない」が16.0%、「まったくない」が11.9%、「週に2～3回」が9.9%となっている。

小学生は、「ほとんど毎日」が51.8%で最も多く、次いで「ほとんどない」が15.4%、「週に2～3回」が9.2%、「まったくない」が8.8%となっている。

中学生は、「ほとんど毎日」が40.0%で最も多く、次いで「ほとんどない」が16.6%、「まったくない」が15.1%、「週に2～3回」が10.8%となっている。

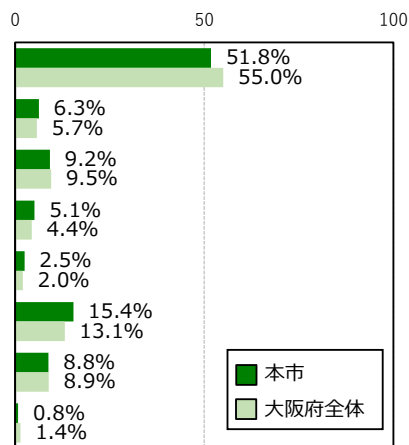
【全体】

	本市		大阪府全体	
	1,147名	100.0%	43,370名	100.0%
ほとんど毎日	529名	46.1%	20,810名	48.0%
週に4～5回	78名	6.8%	2,583名	6.0%
週に2～3回	114名	9.9%	4,012名	9.3%
週に1回程度	71名	6.2%	2,155名	5.0%
月に1～2回	26名	2.3%	995名	2.3%
ほとんどない	183名	16.0%	6,794名	15.7%
まったくない	136名	11.9%	5,475名	12.6%
無回答	10名	0.9%	546名	1.3%



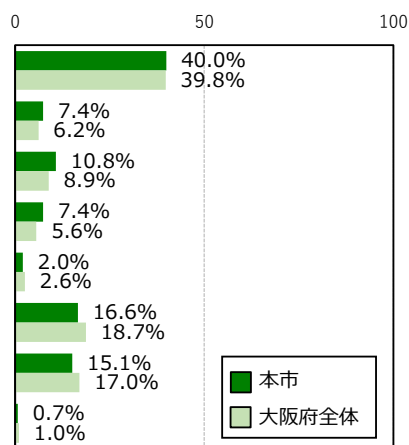
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	589名	100.0%	23,289名	100.0%
ほとんど毎日	305名	51.8%	12,809名	55.0%
週に4～5回	37名	6.3%	1,328名	5.7%
週に2～3回	54名	9.2%	2,222名	9.5%
週に1回程度	30名	5.1%	1,023名	4.4%
月に1～2回	15名	2.5%	469名	2.0%
ほとんどない	91名	15.4%	3,042名	13.1%
まったくない	52名	8.8%	2,065名	8.9%
無回答	5名	0.8%	331名	1.4%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	555名	100.0%	19,990名	100.0%
ほとんど毎日	222名	40.0%	7,962名	39.8%
週に4～5回	41名	7.4%	1,248名	6.2%
週に2～3回	60名	10.8%	1,780名	8.9%
週に1回程度	41名	7.4%	1,128名	5.6%
月に1～2回	11名	2.0%	526名	2.6%
ほとんどない	92名	16.6%	3,737名	18.7%
まったくない	84名	15.1%	3,400名	17.0%
無回答	4名	0.7%	209名	1.0%



ふだんの生活のことについて

問8 保護者との関係性 ②おうちの大人の人と一緒に夕食を食べているか

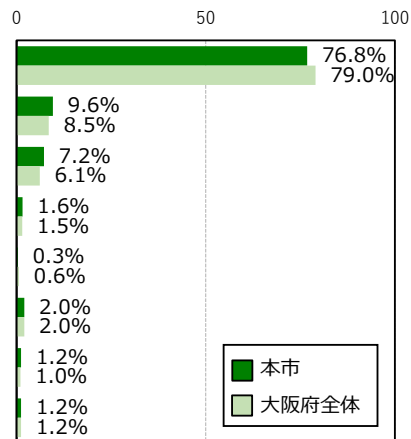
全体は、「ほとんど毎日」が76.8%で最も多く、次いで「週に4～5回」が9.6%、「週に2～3回」が7.2%、「ほとんどない」が2.0%となっている。

小学生は、「ほとんど毎日」が83.5%で最も多く、次いで「週に4～5回」が6.3%、「週に2～3回」が5.1%となっている。

中学生は、「ほとんど毎日」が69.7%で最も多く、次いで「週に4～5回」が13.2%、「週に2～3回」が9.5%、「週に1回程度」が2.7%となっている。

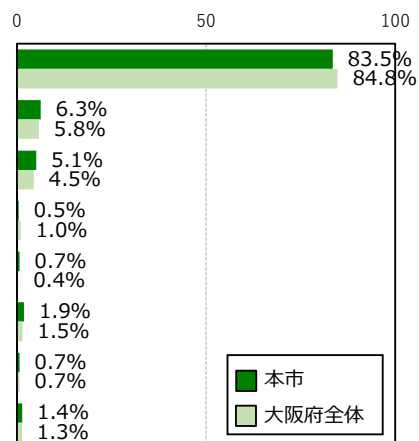
【全体】

	本市		大阪府全体	
	1,147名	100.0%	43,370名	100.0%
ほとんど毎日	881名	76.8%	34,246名	79.0%
週に4～5回	110名	9.6%	3,679名	8.5%
週に2～3回	83名	7.2%	2,667名	6.1%
週に1回程度	18名	1.6%	656名	1.5%
月に1～2回	4名	0.3%	262名	0.6%
ほとんどない	23名	2.0%	889名	2.0%
まったくない	14名	1.2%	455名	1.0%
無回答	14名	1.2%	516名	1.2%



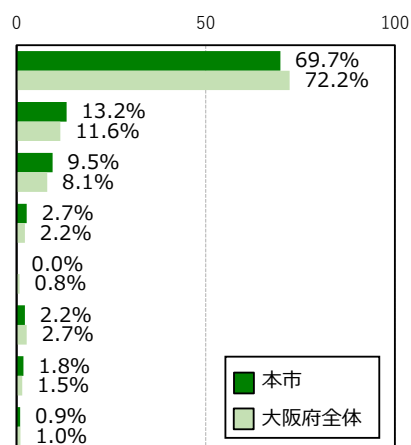
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	589名	100.0%	23,289名	100.0%
ほとんど毎日	492名	83.5%	19,748名	84.8%
週に4～5回	37名	6.3%	1,360名	5.8%
週に2～3回	30名	5.1%	1,048名	4.5%
週に1回程度	3名	0.5%	222名	1.0%
月に1～2回	4名	0.7%	100名	0.4%
ほとんどない	11名	1.9%	349名	1.5%
まったくない	4名	0.7%	154名	0.7%
無回答	8名	1.4%	308名	1.3%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	555名	100.0%	19,990名	100.0%
ほとんど毎日	387名	69.7%	14,429名	72.2%
週に4～5回	73名	13.2%	2,310名	11.6%
週に2～3回	53名	9.5%	1,616名	8.1%
週に1回程度	15名	2.7%	431名	2.2%
月に1～2回	-	-	162名	0.8%
ほとんどない	12名	2.2%	539名	2.7%
まったくない	10名	1.8%	301名	1.5%
無回答	5名	0.9%	202名	1.0%



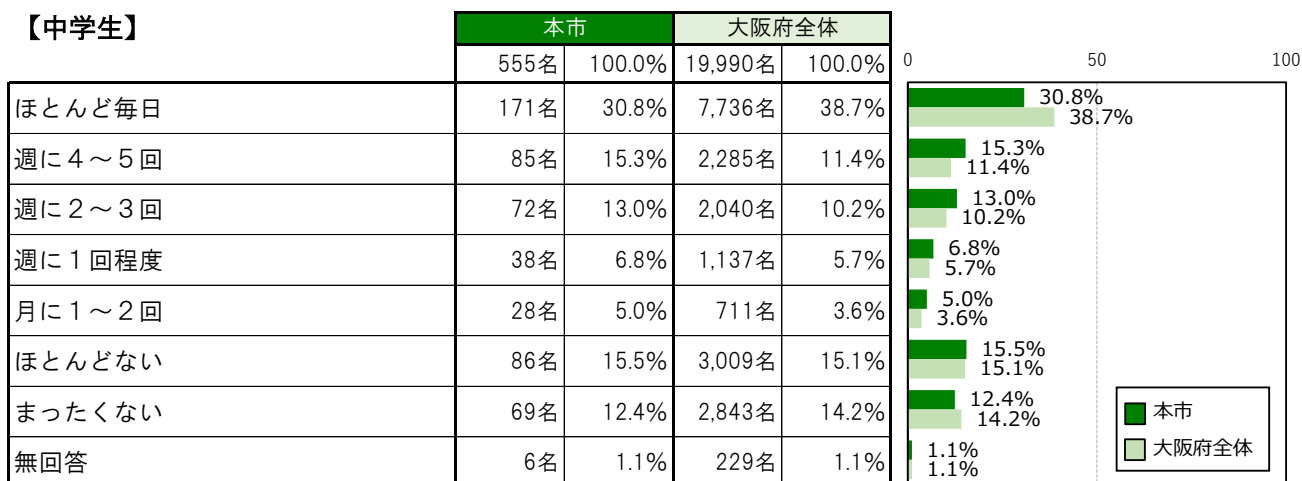
ふだんの生活のことについて

問8 保護者との関係性 ③おうちの大人の人に朝、起こしてもらうか

全体は、「ほとんど毎日」が36.0%で最も多く、次いで「ほとんどない」が15.9%、「まったくない」が13.9%、「週に4～5回」が13.0%となっている。

小学生は、「ほとんど毎日」が41.1%で最も多く、次いで「ほとんどない」が16.3%、「まったくない」が15.3%、「週に4～5回」が10.9%となっている。

中学生は、「ほとんど毎日」が30.8%で最も多く、次いで「ほとんどない」が15.5%、「週に4～5回」が15.3%、「週に2～3回」が13.0%となっている。



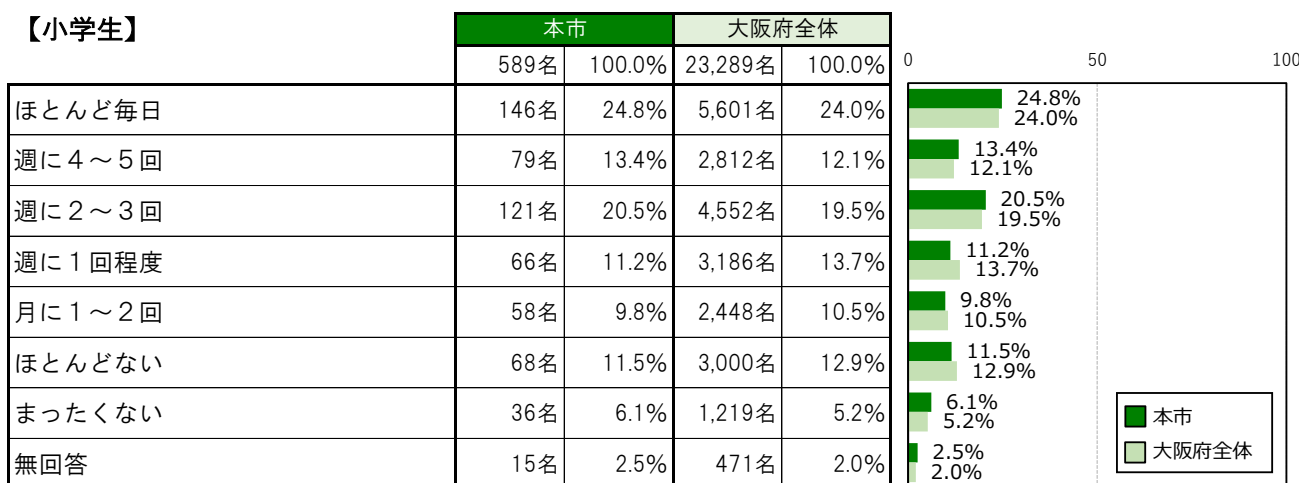
ふだんの生活のことについて

問8 保護者との関係性 ④おうちの手伝いをしているか

全体は、「ほとんど毎日」が22.2%で最も多く、次いで「週に2～3回」が22.0%、「ほとんどない」が14.9%、「週に4～5回」、「週に1回程度」がそれぞれ11.9%となっている。

小学生は、「ほとんど毎日」が24.8%で最も多く、次いで「週に2～3回」が20.5%、「週に4～5回」が13.4%、「ほとんどない」が11.5%となっている。

中学生は、「週に2～3回」が23.6%で最も多く、次いで「ほとんど毎日」が19.6%、「ほとんどない」が18.4%、「週に1回程度」が12.8%となっている。



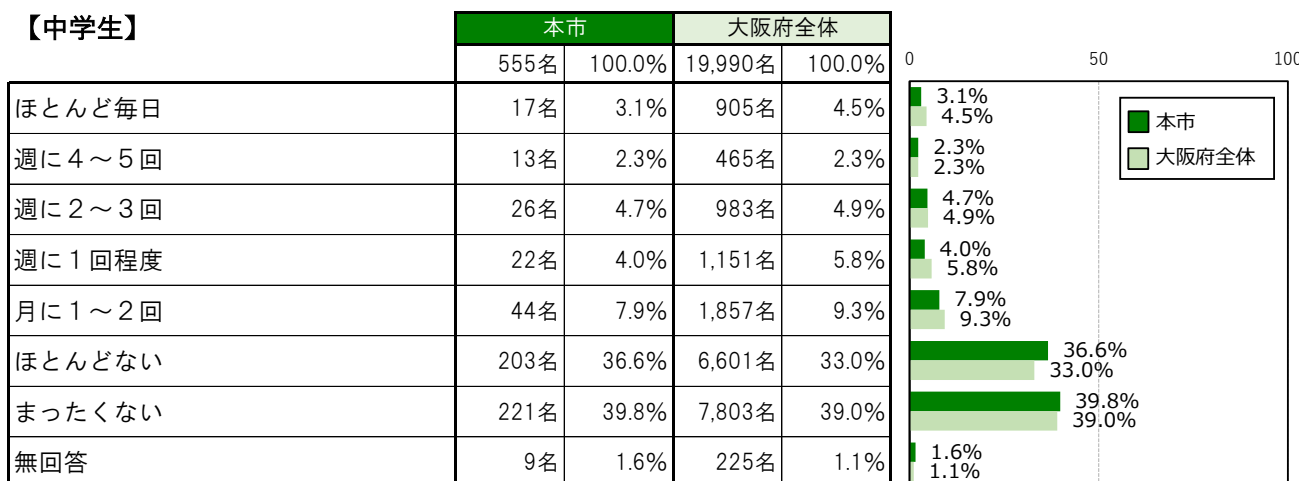
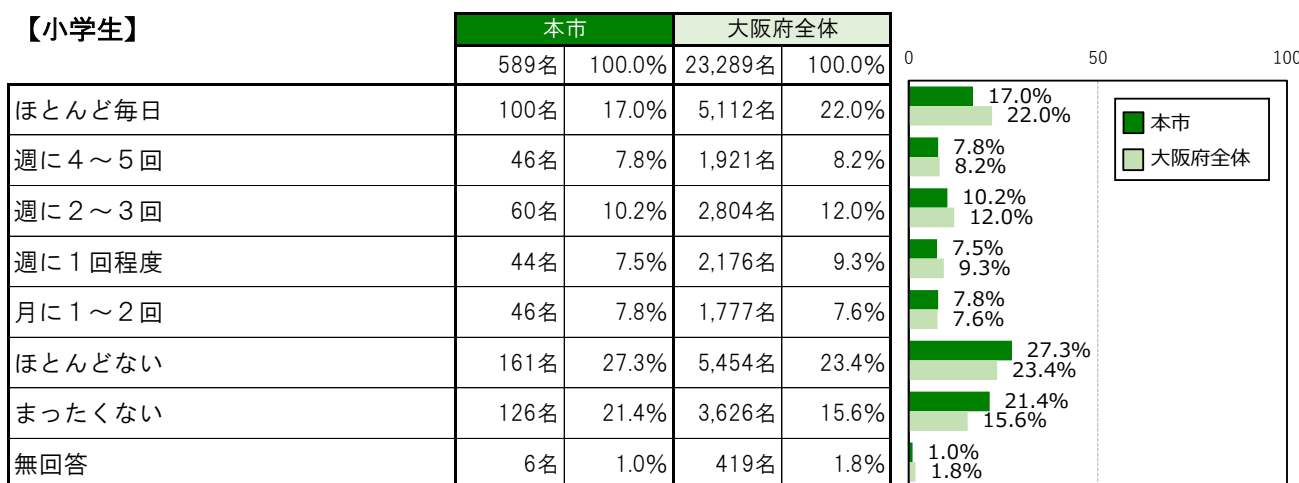
ふだんの生活のことについて

問8 保護者との関係性 ⑤おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか

全体は、「ほとんどない」が31.7%で最も多く、次いで「まったくない」が30.3%、「ほとんど毎日」が10.2%、「月に1～2回」が7.9%となっている。

小学生は、「ほとんどない」が27.3%で最も多く、次いで「まったくない」が21.4%、「ほとんど毎日」が17.0%、「週に2～3回」が10.2%となっている。

中学生は、「まったくない」が39.8%で最も多く、次いで「ほとんどない」が36.6%、「月に1～2回」が7.9%、「週に2～3回」が4.7%となっている。



ふだんの生活のことについて

問8 保護者との関係性 ⑥おうちの大人のひとと学校でのできごとについて話すか

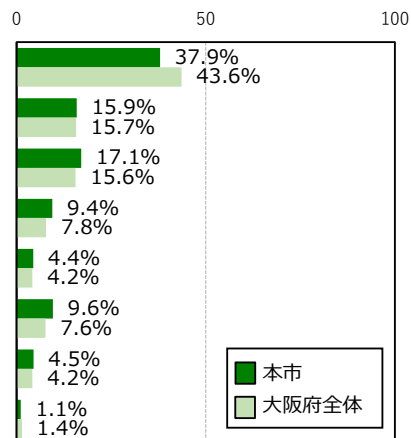
全体は、「ほとんど毎日」が37.9%で最も多く、次いで「週に2～3回」が17.1%、「週に4～5回」が15.9%、「ほとんどない」が9.6%となっている。

小学生は、「ほとんど毎日」が38.9%で最も多く、次いで「週に2～3回」が17.5%、「週に4～5回」が14.6%、「ほとんどない」が10.7%となっている。

中学生は、「ほとんど毎日」が36.8%で最も多く、次いで「週に4～5回」が17.3%、「週に2～3回」が16.8%、「週に1回程度」が11.2%となっている。

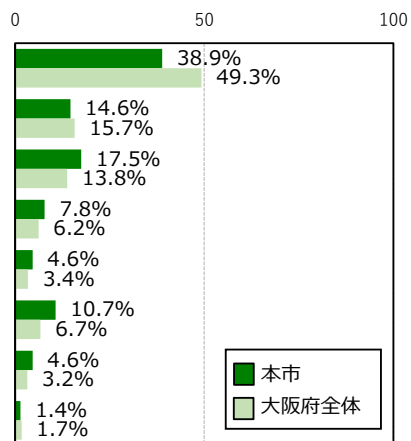
【全体】

	本市		大阪府全体	
	1,147名	100.0%	43,370名	100.0%
ほとんど毎日	435名	37.9%	18,891名	43.6%
週に4～5回	182名	15.9%	6,809名	15.7%
週に2～3回	196名	17.1%	6,773名	15.6%
週に1回程度	108名	9.4%	3,386名	7.8%
月に1～2回	51名	4.4%	1,801名	4.2%
ほとんどない	110名	9.6%	3,283名	7.6%
まったくない	52名	4.5%	1,802名	4.2%
無回答	13名	1.1%	625名	1.4%



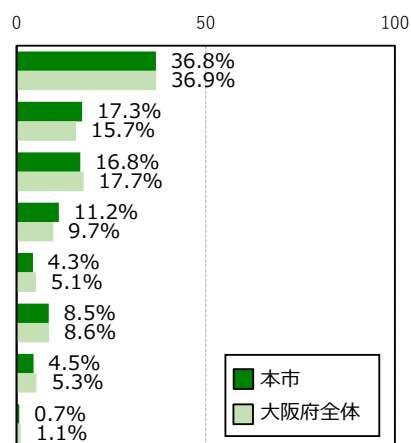
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	589名	100.0%	23,289名	100.0%
ほとんど毎日	229名	38.9%	11,483名	49.3%
週に4～5回	86名	14.6%	3,660名	15.7%
週に2～3回	103名	17.5%	3,225名	13.8%
週に1回程度	46名	7.8%	1,447名	6.2%
月に1～2回	27名	4.6%	783名	3.4%
ほとんどない	63名	10.7%	1,558名	6.7%
まったくない	27名	4.6%	739名	3.2%
無回答	8名	1.4%	394名	1.7%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	555名	100.0%	19,990名	100.0%
ほとんど毎日	204名	36.8%	7,374名	36.9%
週に4～5回	96名	17.3%	3,138名	15.7%
週に2～3回	93名	16.8%	3,533名	17.7%
週に1回程度	62名	11.2%	1,933名	9.7%
月に1～2回	24名	4.3%	1,015名	5.1%
ほとんどない	47名	8.5%	1,716名	8.6%
まったくない	25名	4.5%	1,056名	5.3%
無回答	4名	0.7%	225名	1.1%



ふだんの生活のことについて

問8 保護者との関係性 ⑦おうちの大人のひとと遊んだり、体を動かしたりするか

全体は、「ほとんどない」が25.2%で最も多く、次いで「週に2～3回」が15.1%、「まったくない」が14.3%、「月に1～2回」が14.2%となっている。

小学生は、「ほとんどない」が23.4%で最も多く、次いで「週に2～3回」が20.5%、「ほとんど毎日」が13.9%、「週に1回程度」、「月に1～2回」がそれぞれ11.7%となっている。

中学生は、「ほとんどない」が27.0%で最も多く、次いで「まったくない」が20.2%、「月に1～2回」が16.9%、「週に1回程度」が12.4%となっている。



ふだんの生活のことについて

問8 保護者との関係性 ⑧おうちの大人のひととニュースなど社会のできごとについて話すか

全体は、「ほとんどない」が20.7%で最も多く、次いで「ほとんど毎日」が16.7%、「週に2～3回」が16.5%、「まったくない」が12.6%、「週に4～5回」が11.9%となっている。

小学生は、「ほとんどない」が23.3%で最も多く、次いで「ほとんど毎日」が16.6%、「週に2～3回」が15.3%、「まったくない」が14.1%、「週に4～5回」が10.7%となっている。

中学生は、「ほとんどない」が18.2%で最も多く、次いで「週に2～3回」が17.7%、「ほとんど毎日」が16.9%、「週に4～5回」が13.3%、「週に1回程度」が11.7%となっている。



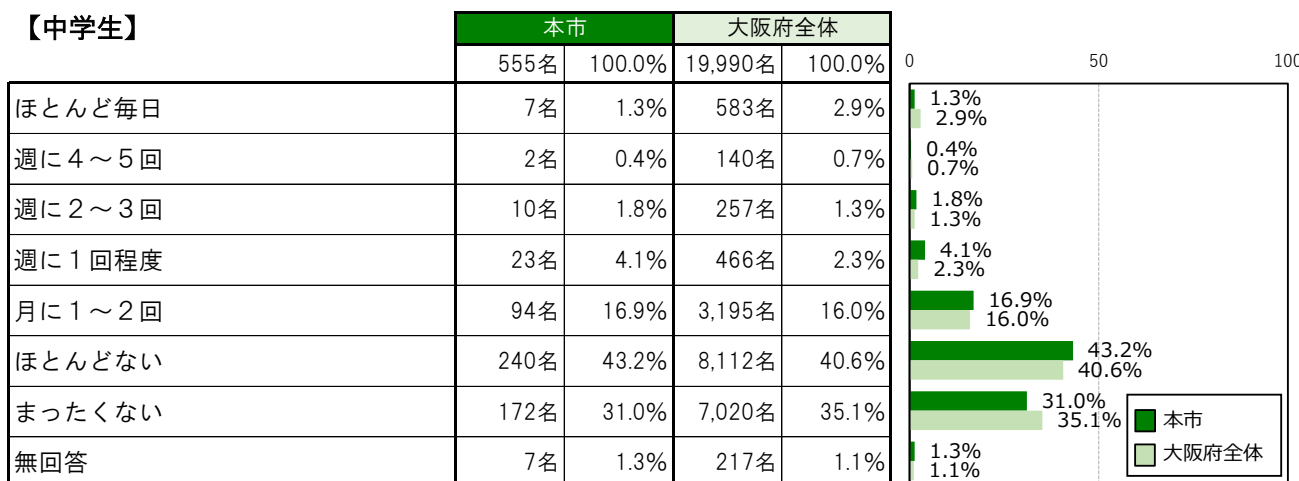
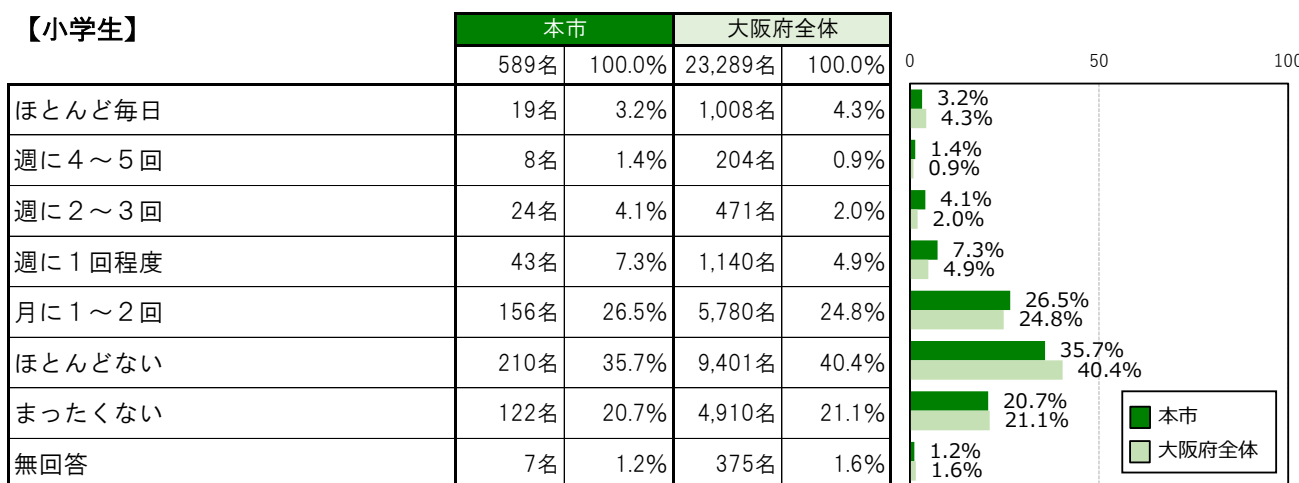
ふだんの生活のことについて

問8 保護者との関係性 ⑨おうちの大人の人と文化活動（図書館や美術館、博物館、音楽鑑賞に行くなど）をするか

全体は、「ほとんどない」が39.3%で最も多く、次いで「まったくない」が25.6%、「月に1～2回」が21.9%、「週に1回程度」が5.8%、「週に2～3回」が3.0%となっている。

小学生は、「ほとんどない」が35.7%で最も多く、次いで「月に1～2回」が26.5%、「まったくない」が20.7%、「週に1回程度」が7.3%、「週に2～3回」が4.1%となっている。

中学生は、「ほとんどない」が43.2%で最も多く、次いで「まったくない」が31.0%、「月に1～2回」が16.9%、「週に1回程度」が4.1%、「週に2～3回」が1.8%となっている。



ふだんの生活のことについて

問8 保護者との関係性 ⑩おうちの大人の人と一緒に外出するか（散歩する・買い物に出かける・外食をするなど）

全体は、「週に1回程度」が27.6%で最も多く、次いで「週に2～3回」が26.8%、「月に1～2回」が20.4%、「週に4～5回」が9.3%、「ほとんど毎日」が9.2%となっている。

小学生は、「週に2～3回」が30.7%で最も多く、次いで「週に1回程度」が22.6%、「月に1～2回」が14.6%、「週に4～5回」が13.6%、「ほとんど毎日」が11.9%となっている。

中学生は、「週に1回程度」が33.0%で最も多く、次いで「月に1～2回」が26.5%、「週に2～3回」が22.7%、「ほとんど毎日」が6.5%、「週に4～5回」が4.9%となっている。



ふだんの生活のことについて

問9 毎日の生活で楽しいこと

全体は、「ともだちと一緒に過ごしているとき」が83.4%で最も多く、次いで「おうちの人と一緒に過ごしているとき」が65.6%、「学校生活やクラブ活動・部活動に参加しているとき」が54.6%となっている。

小学生は、「ともだちと一緒に過ごしているとき」が79.8%で最も多く、次いで「おうちの人と一緒に過ごしているとき」が73.7%、「学校生活やクラブ活動・部活動に参加しているとき」が49.1%となっている。

中学生は、「ともだちと一緒に過ごしているとき」が87.6%で最も多く、次いで「学校生活やクラブ活動・部活動に参加しているとき」が60.5%、「おうちの人と一緒に過ごしているとき」が57.3%となっている。

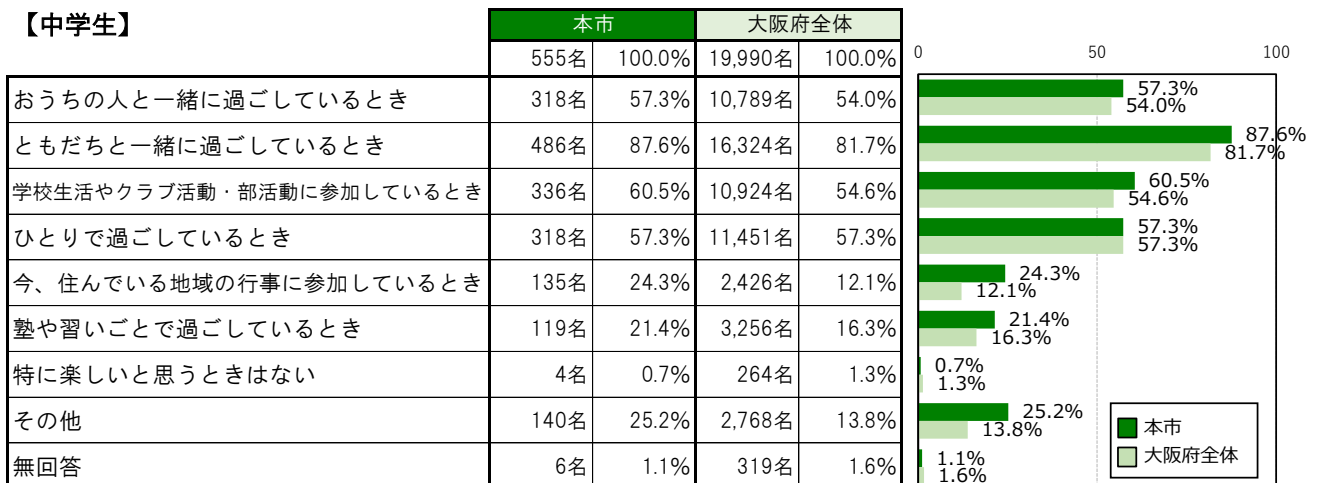
【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問10 放課後を一緒に過ごす人

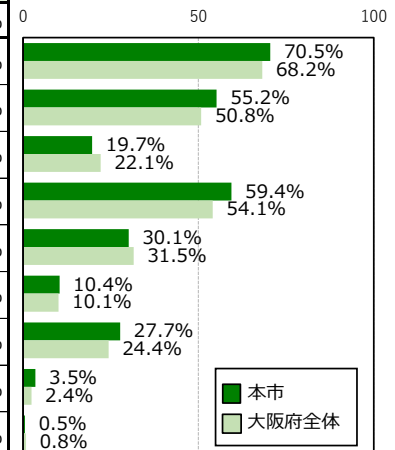
全体は、「おうちの大人の人（お母さん・お父さん・おばあちゃん・おじいちゃん・親せきなど）」が70.5%で最も多く、次いで「学校のともだち」が59.4%、「きょうだい」が55.2%、「クラブ活動・部活動の仲間」が30.1%、「ひとりでいる」が27.7%となっている。

小学生は、「おうちの大人の人（お母さん・お父さん・おばあちゃん・おじいちゃん・親せきなど）」が70.5%で最も多く、次いで「学校のともだち」が64.2%、「きょうだい」が55.2%、「ひとりでいる」が25.5%、「おうちの人以外の大人」が18.2%となっている。

中学生は、「おうちの大人の人（お母さん・お父さん・おばあちゃん・おじいちゃん・親せきなど）」が70.8%で最も多く、次いで「クラブ活動・部活動の仲間」が56.8%、「きょうだい」が55.3%、「学校のともだち」が54.2%、「ひとりでいる」が30.3%となっている。

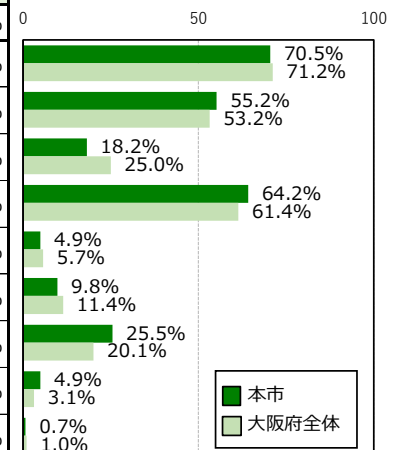
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
おうちの大人の人（お母さん・お父さん・おばあちゃん・おじいちゃん・親せきなど）	809名	70.5%	29,595名	68.2%
きょうだい	633名	55.2%	22,046名	50.8%
おうちの人以外の大人（近所の大人、塾や習いごとの先生など）	226名	19.7%	9,564名	22.1%
学校のともだち	681名	59.4%	23,476名	54.1%
クラブ活動・部活動の仲間（※1）	345名	30.1%	13,664名	31.5%
学校以外のともだち（地域のスポーツクラブ、近所のともだちなど）	119名	10.4%	4,370名	10.1%
ひとりでいる	318名	27.7%	10,573名	24.4%
その他の人	40名	3.5%	1,050名	2.4%
無回答	6名	0.5%	366名	0.8%



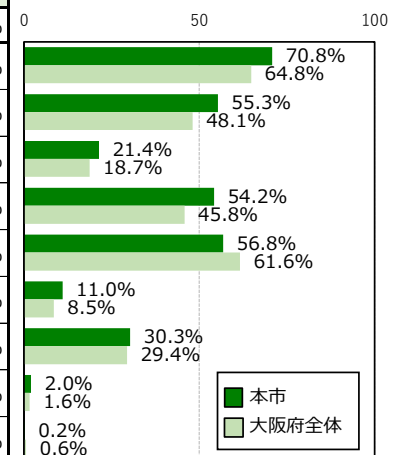
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
おうちの大人の人（お母さん・お父さん・おばあちゃん・おじいちゃん・親せきなど）	415名	70.5%	16,588名	71.2%
きょうだい	325名	55.2%	12,396名	53.2%
おうちの人以外の大人（近所の大人、塾や習いごとの先生など）	107名	18.2%	5,819名	25.0%
学校のともだち	378名	64.2%	14,289名	61.4%
クラブ活動・部活動の仲間（※1）	29名	4.9%	1,326名	5.7%
学校以外のともだち（地域のスポーツクラブ、近所のともだちなど）	58名	9.8%	2,657名	11.4%
ひとりでいる	150名	25.5%	4,686名	20.1%
その他の人	29名	4.9%	732名	3.1%
無回答	4名	0.7%	243名	1.0%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
おうちの大人の人（お母さん・お父さん・おばあちゃん・おじいちゃん・親せきなど）	393名	70.8%	12,950名	64.8%
きょうだい	307名	55.3%	9,608名	48.1%
おうちの人以外の大人（近所の大人、塾や習いごとの先生など）	119名	21.4%	3,729名	18.7%
学校のともだち	301名	54.2%	9,146名	45.8%
クラブ活動・部活動の仲間（※1）	315名	56.8%	12,308名	61.6%
学校以外のともだち（地域のスポーツクラブ、近所のともだちなど）	61名	11.0%	1,706名	8.5%
ひとりでいる	168名	30.3%	5,874名	29.4%
その他の人	11名	2.0%	316名	1.6%
無回答	1名	0.2%	118名	0.6%



※1 2016年度調査では「クラブ活動の仲間」

●2016年度 調査結果【参考データ】

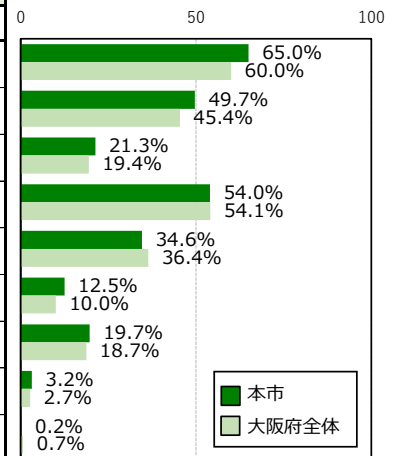
2016年度調査と比較すると、全体は、「ひとりでいる」が8.0ポイント高くなっている。

小学生は、「ひとりでいる」が7.9ポイント高いが、「学校のともだち」が6.0ポイント低くなっている。

中学生は、「クラブ活動・部活動の仲間」(2016年度調査では「クラブ活動の仲間」)が10.3ポイント低い、
「学校のともだち」が17.6ポイント高くなっている。

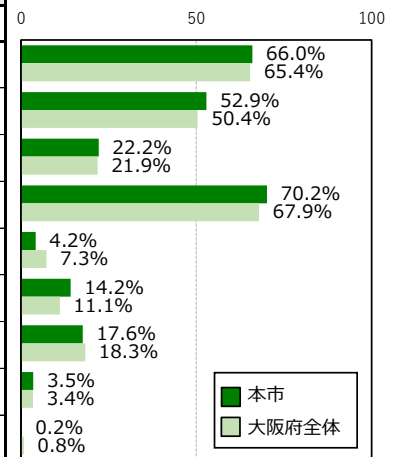
【全体】

	本市		大阪府全体	
	1,052名	100.0%	50,106名	100.0%
おうちの大人の人（お母さん・お父さん・おばあちゃん・おじいちゃん・親せきなど）	684名	65.0%	30,087名	60.0%
きょうだい	523名	49.7%	22,725名	45.4%
おうちの人以外の大人（近所の大人、塾や習いごとの先生など）	224名	21.3%	9,699名	19.4%
学校のともだち	568名	54.0%	27,090名	54.1%
クラブ活動の仲間	364名	34.6%	18,236名	36.4%
学校以外のともだち（地域のスポーツクラブ、近所のともだちなど）	132名	12.5%	5,025名	10.0%
ひとりでいる	207名	19.7%	9,347名	18.7%
その他の人	34名	3.2%	1,367名	2.7%
無回答	2名	0.2%	329名	0.7%



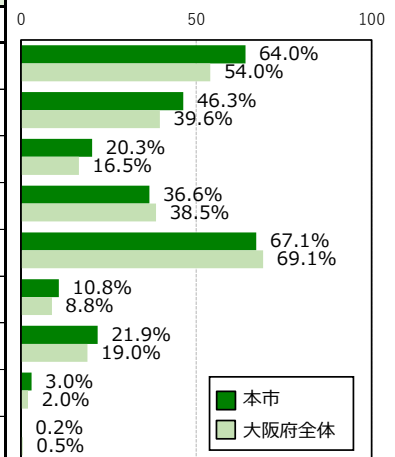
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	544名	100.0%	26,540名	100.0%
おうちの大人の人（お母さん・お父さん・おばあちゃん・おじいちゃん・親せきなど）	359名	66.0%	17,359名	65.4%
きょうだい	288名	52.9%	13,384名	50.4%
おうちの人以外の大人（近所の大人、塾や習いごとの先生など）	121名	22.2%	5,810名	21.9%
学校のともだち	382名	70.2%	18,009名	67.9%
クラブ活動の仲間	23名	4.2%	1,947名	7.3%
学校以外のともだち（地域のスポーツクラブ、近所のともだちなど）	77名	14.2%	2,955名	11.1%
ひとりでいる	96名	17.6%	4,861名	18.3%
その他の人	19名	3.5%	895名	3.4%
無回答	1名	0.2%	203名	0.8%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	508名	100.0%	23,558名	100.0%
おうちの大人の人（お母さん・お父さん・おばあちゃん・おじいちゃん・親せきなど）	325名	64.0%	12,724名	54.0%
きょうだい	235名	46.3%	9,340名	39.6%
おうちの人以外の大人（近所の大人、塾や習いごとの先生など）	103名	20.3%	3,887名	16.5%
学校のともだち	186名	36.6%	9,081名	38.5%
クラブ活動の仲間	341名	67.1%	16,288名	69.1%
学校以外のともだち（地域のスポーツクラブ、近所のともだちなど）	55名	10.8%	2,069名	8.8%
ひとりでいる	111名	21.9%	4,485名	19.0%
その他の人	15名	3.0%	470名	2.0%
無回答	1名	0.2%	124名	0.5%



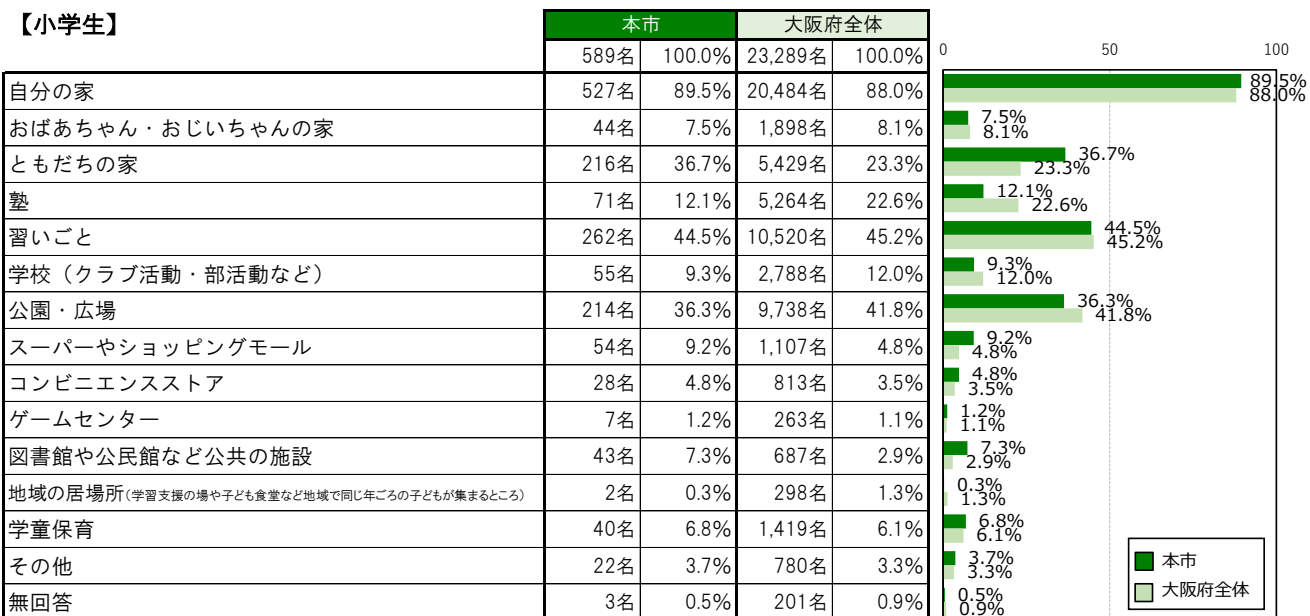
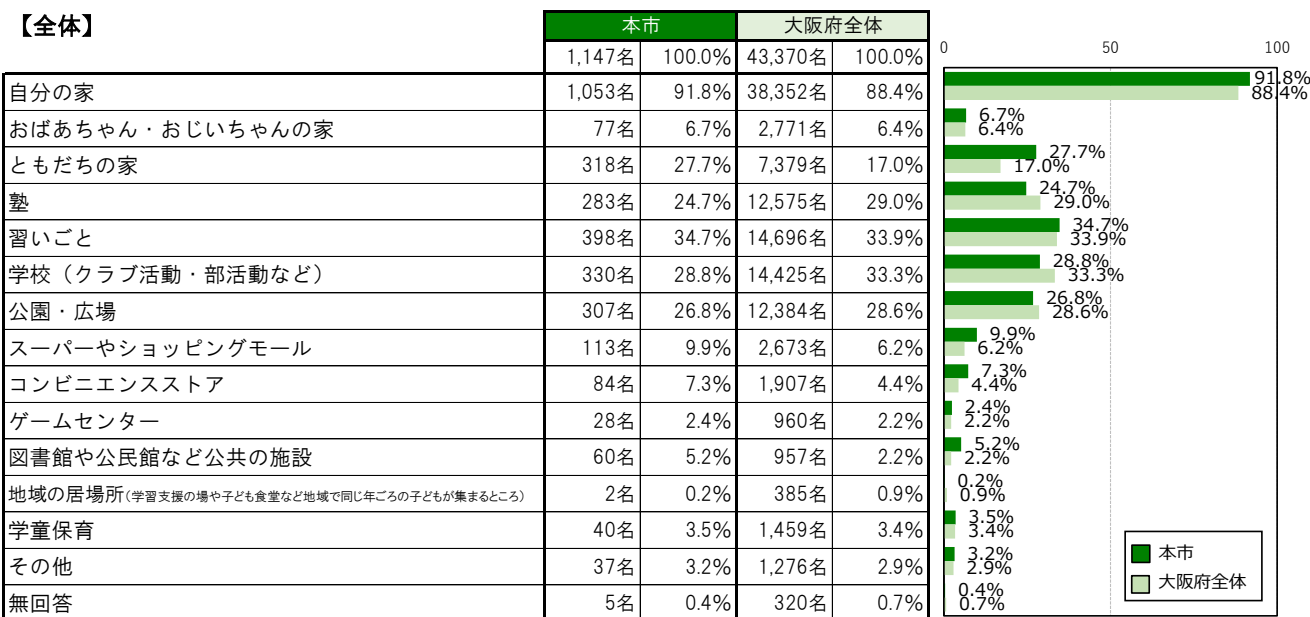
ふだんの生活のことについて

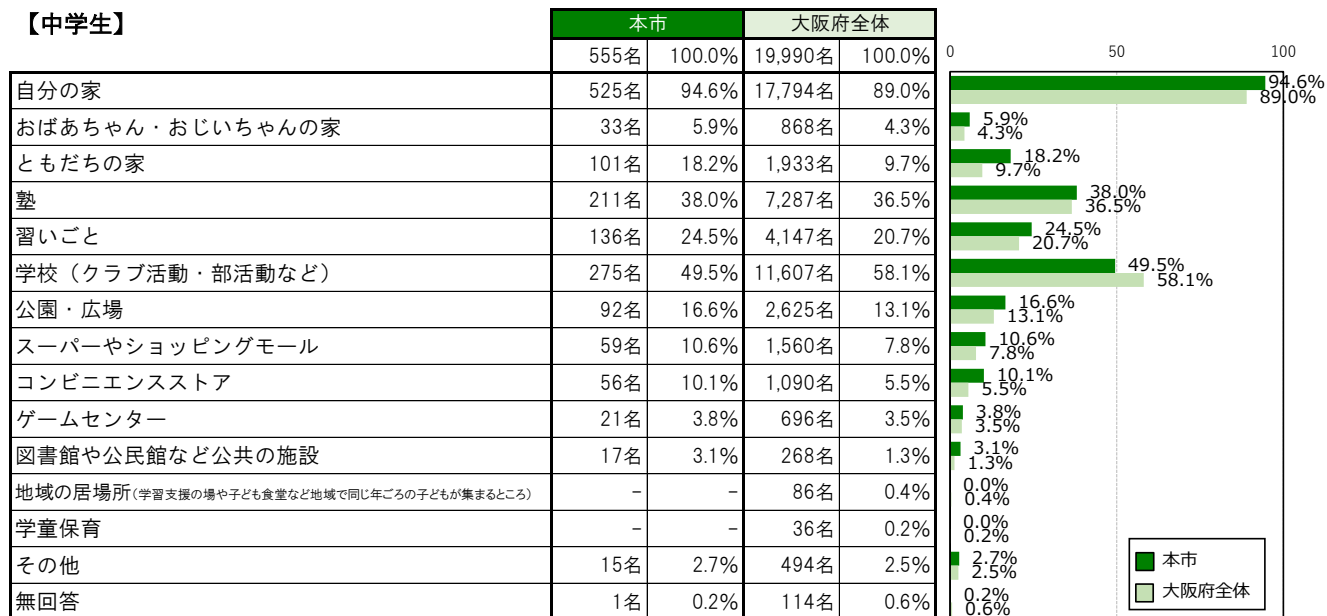
問11 放課後を過ごす場所

全体は、「自分の家」が91.8%で最も多く、次いで「習いごと」が34.7%、「学校（クラブ活動・部活動など）」が28.8%、「ともだちの家」が27.7%、「公園・広場」が26.8%となっている。

小学生は、「自分の家」が89.5%で最も多く、次いで「習いごと」が44.5%、「ともだちの家」が36.7%、「公園・広場」が36.3%、「塾」が12.1%となっている。

中学生は、「自分の家」が94.6%で最も多く、次いで「学校（クラブ活動・部活動など）」が49.5%、「塾」が38.0%、「習いごと」が24.5%、「ともだちの家」が18.2%となっている。





ふだんの生活のことについて

問12 授業以外の勉強状況

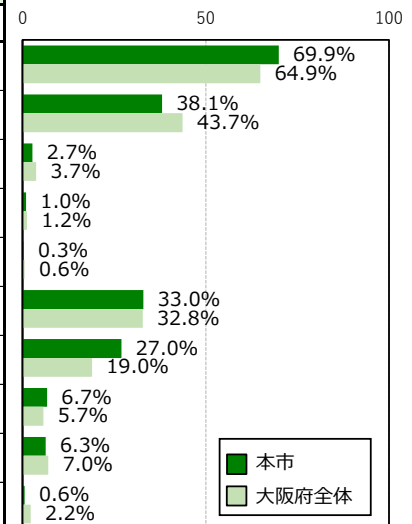
全体は、「自分で勉強する」が69.9%で最も多く、次いで「塾で勉強する」が38.1%、「おうちの人に教えてもらう」が33.0%、「ともだちと勉強する」が27.0%となっている。

小学生は、「自分で勉強する」が68.9%で最も多く、次いで「おうちの人に教えてもらう」が44.3%、「ともだちと勉強する」が27.7%、「塾で勉強する」が23.4%となっている。

中学生は、「自分で勉強する」が71.2%で最も多く、次いで「塾で勉強する」が53.7%、「ともだちと勉強する」が26.3%、「おうちの人に教えてもらう」が20.7%となっている。

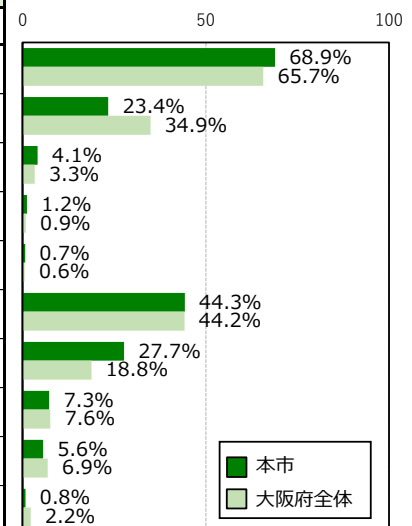
【全体】

	本市		大阪府全体	
	1,147名	100.0%	43,370名	100.0%
自分で勉強する	802名	69.9%	28,136名	64.9%
塾で勉強する	437名	38.1%	18,941名	43.7%
学校の補習を受ける	31名	2.7%	1,587名	3.7%
家庭教師に教えてもらう	12名	1.0%	505名	1.2%
地域の人などが行う無料の勉強会に参加する	4名	0.3%	264名	0.6%
おうちの人に教えてもらう	378名	33.0%	14,227名	32.8%
ともだちと勉強する	310名	27.0%	8,251名	19.0%
その他	77名	6.7%	2,461名	5.7%
学校の授業以外で勉強はしない	72名	6.3%	3,051名	7.0%
無回答	7名	0.6%	934名	2.2%



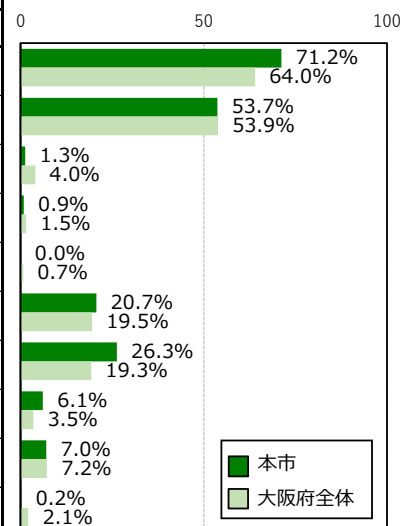
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	589名	100.0%	23,289名	100.0%
自分で勉強する	406名	68.9%	15,292名	65.7%
塾で勉強する	138名	23.4%	8,125名	34.9%
学校の補習を受ける	24名	4.1%	777名	3.3%
家庭教師に教えてもらう	7名	1.2%	203名	0.9%
地域の人などが行う無料の勉強会に参加する	4名	0.7%	130名	0.6%
おうちの人に教えてもらう	261名	44.3%	10,302名	44.2%
ともだちと勉強する	163名	27.7%	4,381名	18.8%
その他	43名	7.3%	1,759名	7.6%
学校の授業以外で勉強はしない	33名	5.6%	1,601名	6.9%
無回答	5名	0.8%	508名	2.2%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	555名	100.0%	19,990名	100.0%
自分で勉強する	395名	71.2%	12,789名	64.0%
塾で勉強する	298名	53.7%	10,777名	53.9%
学校の補習を受ける	7名	1.3%	805名	4.0%
家庭教師に教えてもらう	5名	0.9%	300名	1.5%
地域の人などが行う無料の勉強会に参加する	-	-	134名	0.7%
おうちの人に教えてもらう	115名	20.7%	3,895名	19.5%
ともだちと勉強する	146名	26.3%	3,859名	19.3%
その他	34名	6.1%	697名	3.5%
学校の授業以外で勉強はしない	39名	7.0%	1,443名	7.2%
無回答	1名	0.2%	421名	2.1%



ふだんの生活のことについて

問13 授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ①学校がある日（月～金曜日）

全体は、「30分以上、1時間より少ない」が23.8%で最も多く、次いで「30分より少ない」が21.6%、「1時間以上、2時間より少ない」が19.2%、「まったくしない」が12.3%となっている。

小学生は、「30分以上、1時間より少ない」が29.5%で最も多く、次いで「30分より少ない」が22.9%、「1時間以上、2時間より少ない」が17.3%、「まったくしない」が9.8%となっている。

中学生は、「1時間以上、2時間より少ない」が21.3%で最も多く、次いで「30分より少ない」が20.2%、「30分以上、1時間より少ない」が17.8%、「まったくしない」が15.0%となっている。



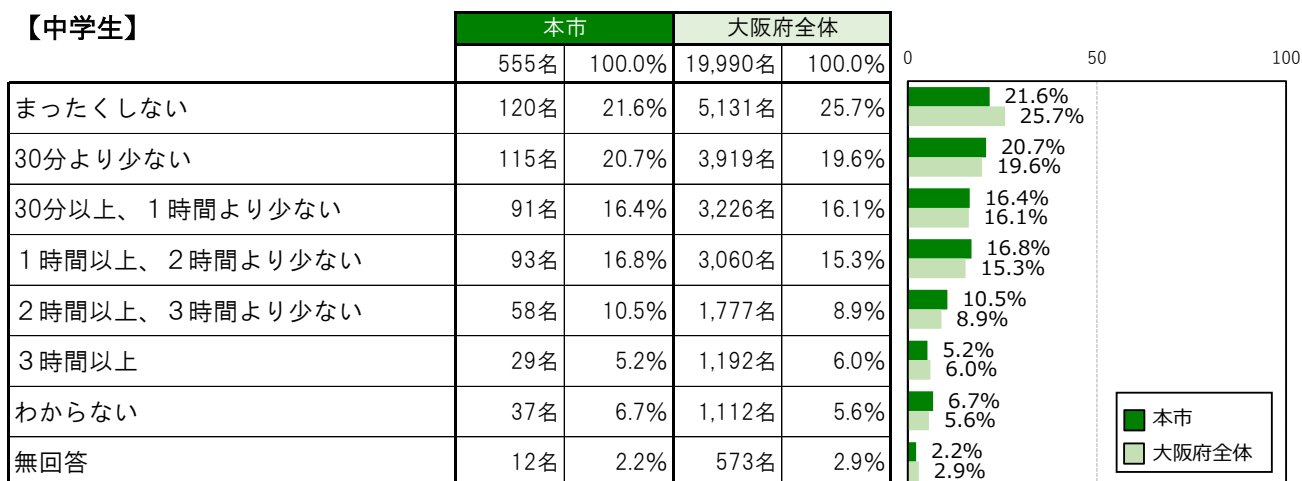
ふだんの生活のことについて

問13 授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ②学校がない日（土・日曜日・祝日）

全体は、「まったくしない」が25.0%で最も多く、次いで「30分より少ない」が22.2%、「30分以上、1時間より少ない」が17.1%、「1時間以上、2時間より少ない」が14.0%となっている。

小学生は、「まったくしない」が28.4%で最も多く、次いで「30分より少ない」が23.6%、「30分以上、1時間より少ない」が17.8%、「1時間以上、2時間より少ない」が11.5%となっている。

中学生は、「まったくしない」が21.6%で最も多く、次いで「30分より少ない」が20.7%、「1時間以上、2時間より少ない」が16.8%、「30分以上、1時間より少ない」が16.4%となっている。



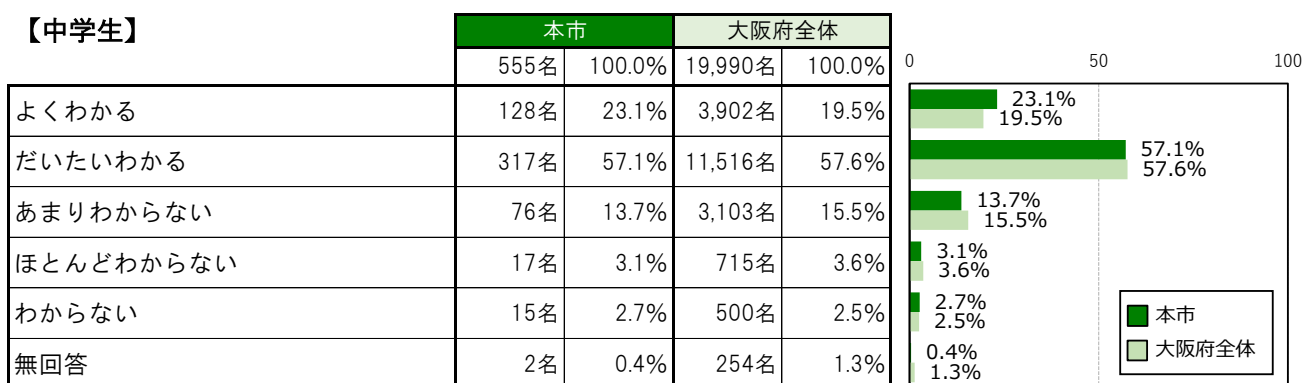
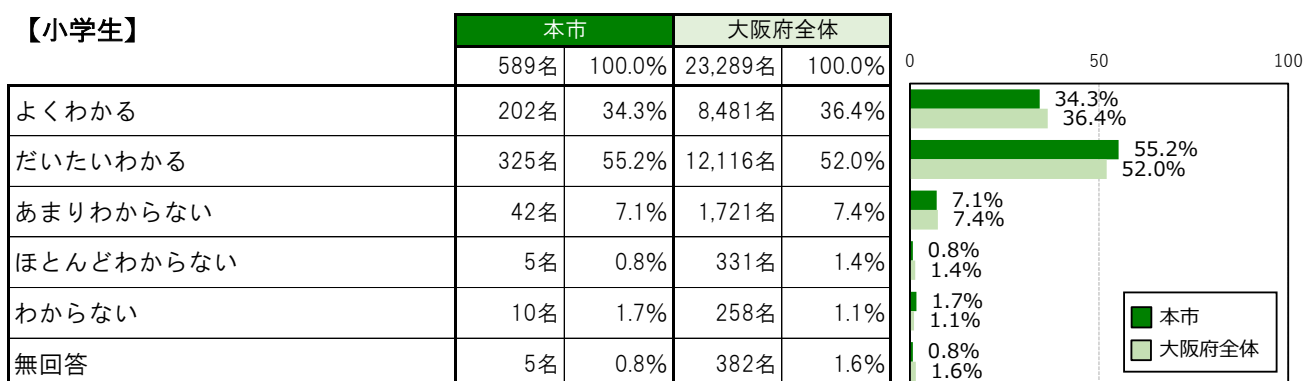
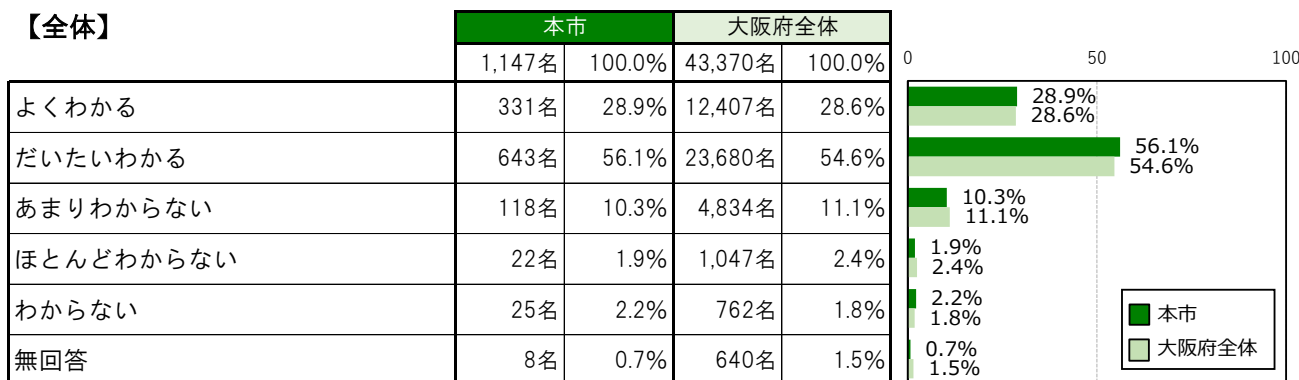
ふだんの生活のことについて

問14（１）学校の勉強で気持ちに近いもの

全体は、「だいたいわかる」が56.1%で最も多く、次いで「よくわかる」が28.9%、「あまりわからない」が10.3%、「わからない」が2.2%となっている。

小学生は、「だいたいわかる」が55.2%で最も多く、次いで「よくわかる」が34.3%、「あまりわからない」が7.1%、「わからない」が1.7%となっている。

中学生は、「だいたいわかる」が57.1%で最も多く、次いで「よくわかる」が23.1%、「あまりわからない」が13.7%、「ほとんどわからない」が3.1%となっている。



ふだんの生活のことについて

問14（２）授業がわからなくなった時期

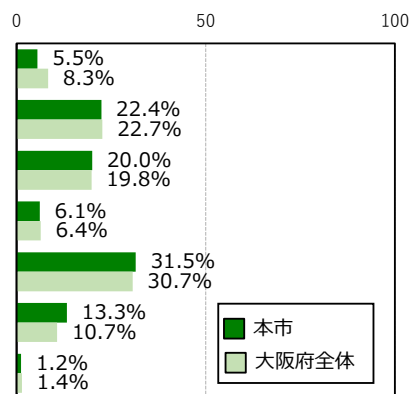
全体は、「中学１年生のころ」が31.5%で最も多く、次いで「小学３・４年生のころ」が22.4%、「小学５年生になってから」が20.0%、「中学２年生になってから」が13.3%、「小学６年生のころ」が6.1%となっている。

小学生は、「小学３・４年生のころ」が52.6%で最も多く、次いで「小学５年生になってから」が36.8%、「小学１・２年生のころ」が7.0%となっている。

中学生は、「中学１年生のころ」が48.1%で最も多く、次いで「中学２年生になってから」が20.4%、「小学５年生になってから」が11.1%、「小学６年生のころ」が9.3%となっている。

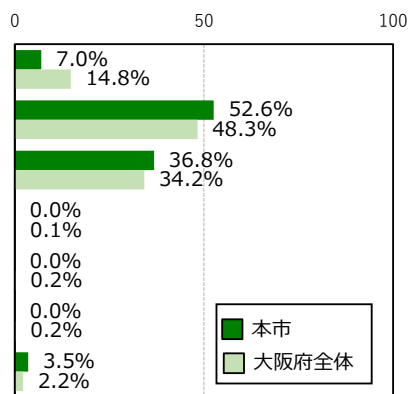
【全体】

	本市		大阪府全体	
	165名	100.0%	6,577名	100.0%
小学１・２年生のころ	9名	5.5%	547名	8.3%
小学３・４年生のころ	37名	22.4%	1,494名	22.7%
小学５年生になってから	33名	20.0%	1,301名	19.8%
小学６年生のころ	10名	6.1%	420名	6.4%
中学１年生のころ	52名	31.5%	2,022名	30.7%
中学２年生になってから	22名	13.3%	701名	10.7%
無回答	2名	1.2%	92名	1.4%



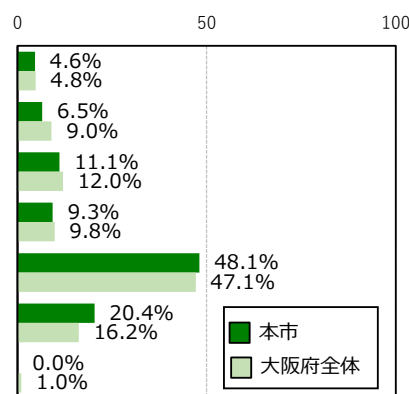
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	57名	100.0%	2,291名	100.0%
小学１・２年生のころ	4名	7.0%	339名	14.8%
小学３・４年生のころ	30名	52.6%	1,106名	48.3%
小学５年生になってから	21名	36.8%	784名	34.2%
小学６年生のころ	-	-	3名	0.1%
中学１年生のころ	-	-	5名	0.2%
中学２年生になってから	-	-	4名	0.2%
無回答	2名	3.5%	50名	2.2%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	108名	100.0%	4,272名	100.0%
小学１・２年生のころ	5名	4.6%	206名	4.8%
小学３・４年生のころ	7名	6.5%	386名	9.0%
小学５年生になってから	12名	11.1%	513名	12.0%
小学６年生のころ	10名	9.3%	417名	9.8%
中学１年生のころ	52名	48.1%	2,014名	47.1%
中学２年生になってから	22名	20.4%	694名	16.2%
無回答	-	-	42名	1.0%



ふだんの生活のことについて

問15 授業以外の読書時間

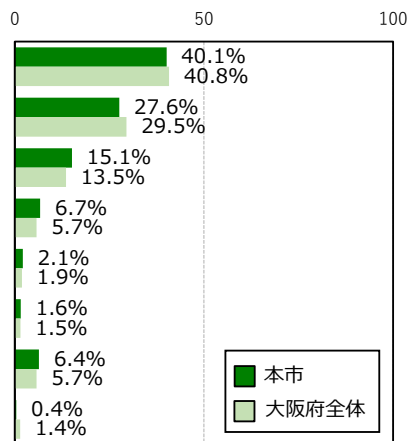
全体は、「まったくしない」が40.1%で最も多く、次いで「30分より少ない」が27.6%、「30分以上、1時間より少ない」が15.1%、「1時間以上、2時間より少ない」が6.7%となっている。

小学生は、「まったくしない」が31.7%で最も多く、次いで「30分より少ない」が26.7%、「30分以上、1時間より少ない」が19.7%、「1時間以上、2時間より少ない」が8.1%となっている。

中学生は、「まったくしない」が49.2%で最も多く、次いで「30分より少ない」が28.5%、「30分以上、1時間より少ない」が10.3%、「1時間以上、2時間より少ない」が5.2%となっている。

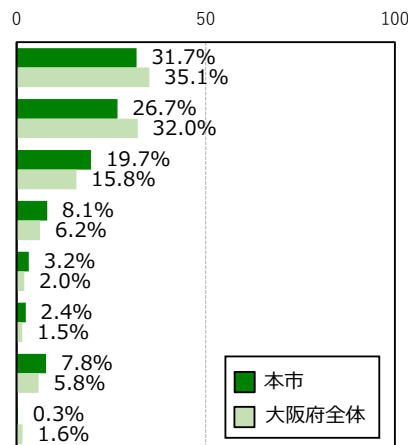
【全体】

	本市		大阪府全体	
	1,147名	100.0%	43,370名	100.0%
まったくしない	460名	40.1%	17,709名	40.8%
30分より少ない	317名	27.6%	12,811名	29.5%
30分以上、1時間より少ない	173名	15.1%	5,864名	13.5%
1時間以上、2時間より少ない	77名	6.7%	2,453名	5.7%
2時間以上、3時間より少ない	24名	2.1%	818名	1.9%
3時間以上	18名	1.6%	631名	1.5%
わからない	73名	6.4%	2,470名	5.7%
無回答	5名	0.4%	614名	1.4%



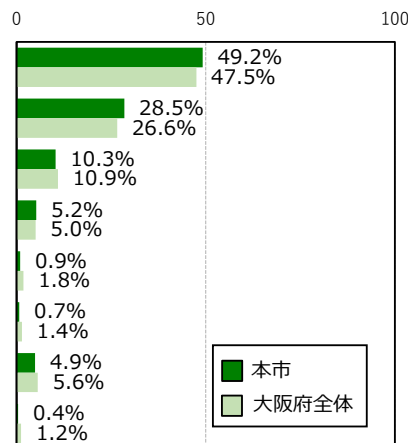
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	589名	100.0%	23,289名	100.0%
まったくしない	187名	31.7%	8,177名	35.1%
30分より少ない	157名	26.7%	7,458名	32.0%
30分以上、1時間より少ない	116名	19.7%	3,685名	15.8%
1時間以上、2時間より少ない	48名	8.1%	1,440名	6.2%
2時間以上、3時間より少ない	19名	3.2%	463名	2.0%
3時間以上	14名	2.4%	354名	1.5%
わからない	46名	7.8%	1,346名	5.8%
無回答	2名	0.3%	366名	1.6%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	555名	100.0%	19,990名	100.0%
まったくしない	273名	49.2%	9,496名	47.5%
30分より少ない	158名	28.5%	5,324名	26.6%
30分以上、1時間より少ない	57名	10.3%	2,169名	10.9%
1時間以上、2時間より少ない	29名	5.2%	1,008名	5.0%
2時間以上、3時間より少ない	5名	0.9%	354名	1.8%
3時間以上	4名	0.7%	277名	1.4%
わからない	27名	4.9%	1,118名	5.6%
無回答	2名	0.4%	244名	1.2%



ふだんの生活のことについて

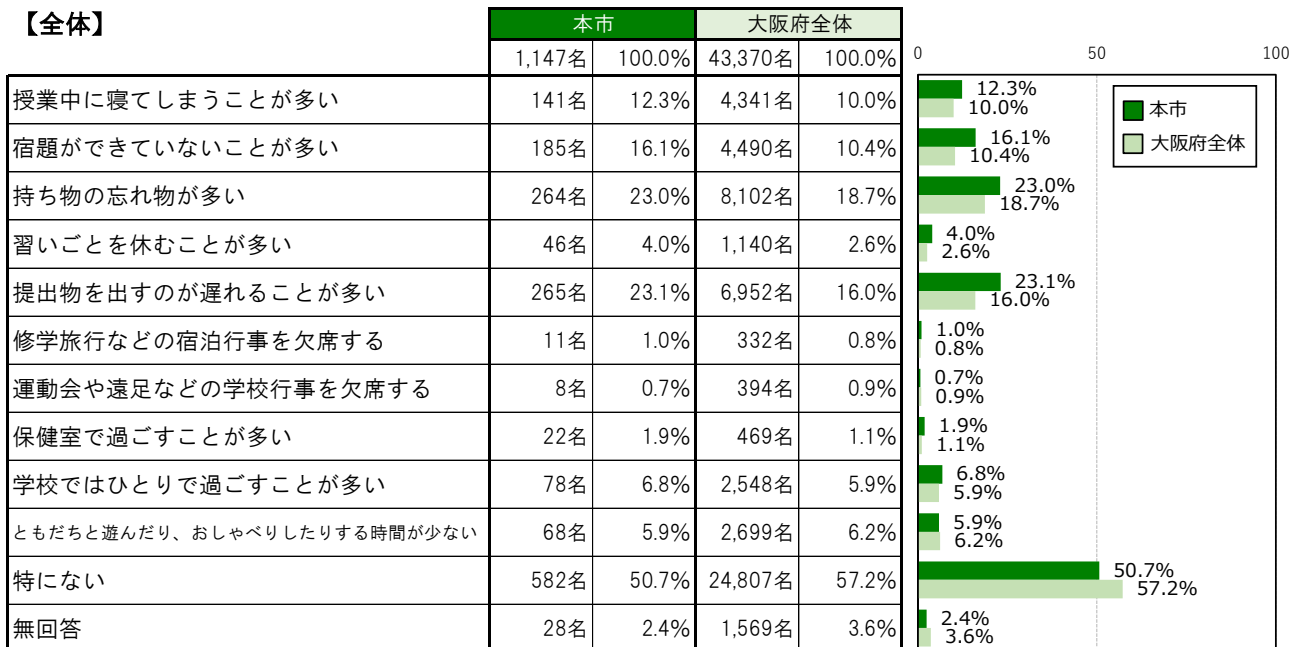
問16 学校や学校の行事等の状況

全体は、「提出物を出すのが遅れることが多い」が23.1%で最も多く、次いで「持ち物の忘れ物が多い」が23.0%、「宿題ができていないことが多い」が16.1%、「授業中に寝てしまうことが多い」が12.3%となっている。

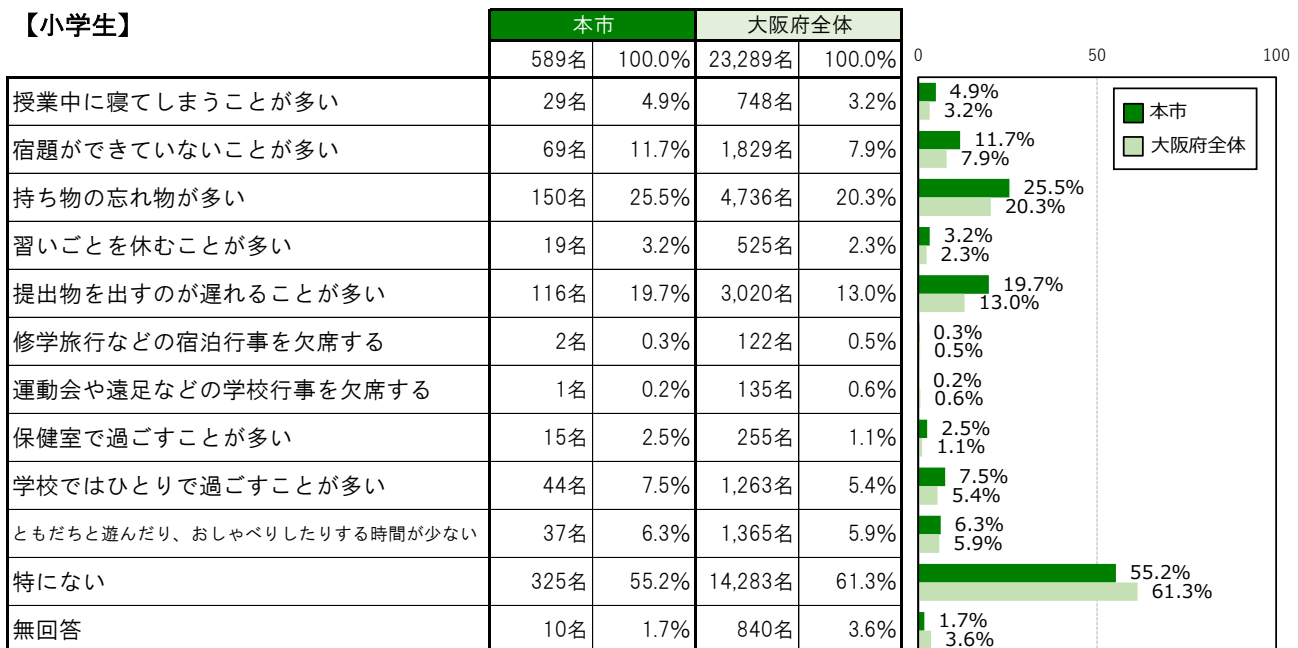
小学生は、「持ち物の忘れ物が多い」が25.5%で最も多く、次いで「提出物を出すのが遅れることが多い」が19.7%、「宿題ができていないことが多い」が11.7%、「学校ではひとりで過ごすことが多い」が7.5%となっている。

中学生は、「提出物を出すのが遅れることが多い」が26.8%で最も多く、次いで「宿題ができていないことが多い」が20.9%、「持ち物の忘れ物が多い」が20.4%、「授業中に寝てしまうことが多い」が20.0%となっている。

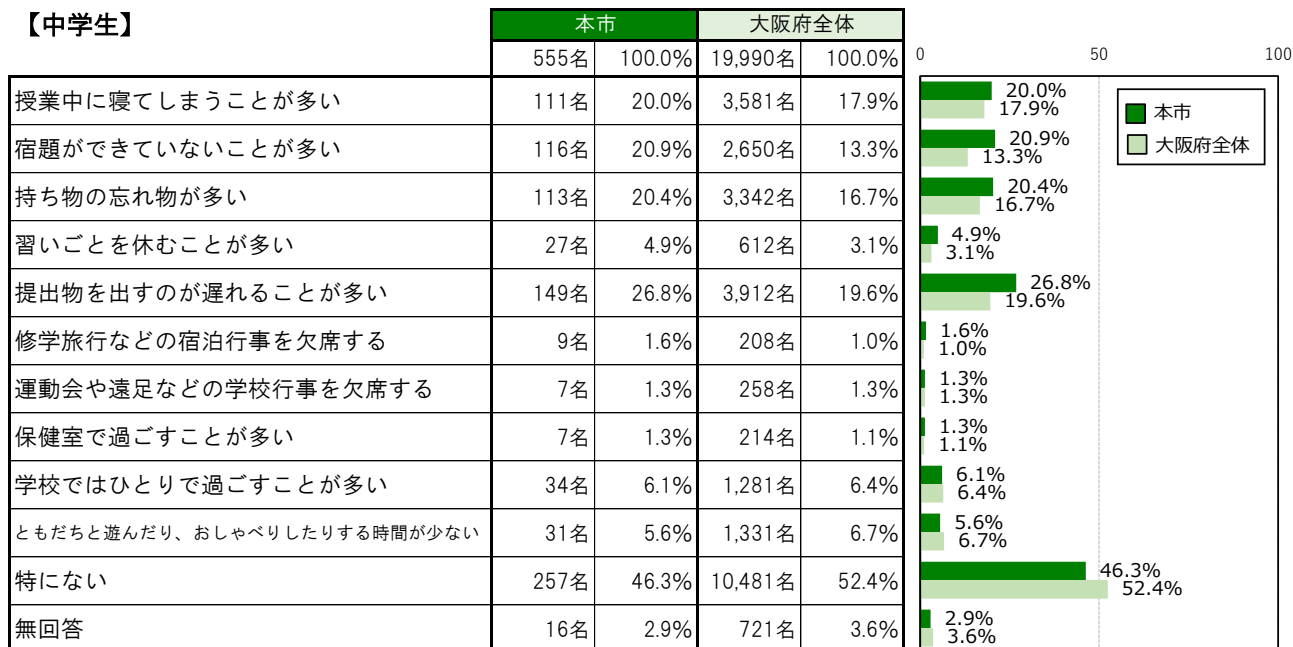
【全体】



【小学生】



【中学生】



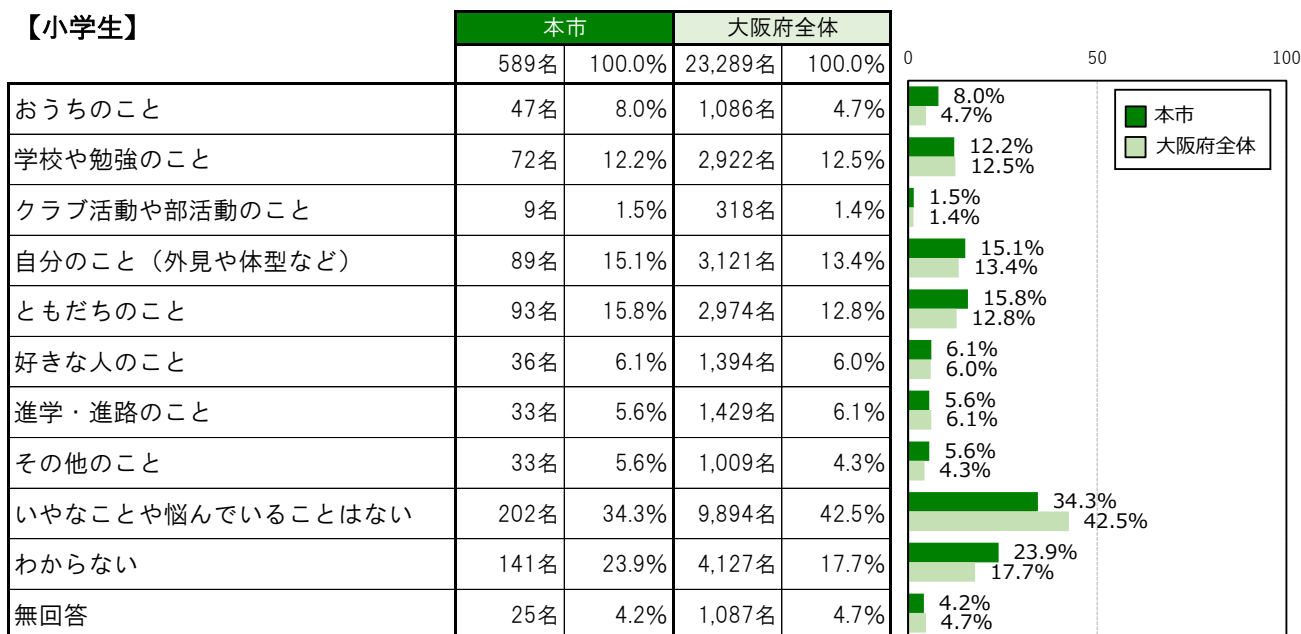
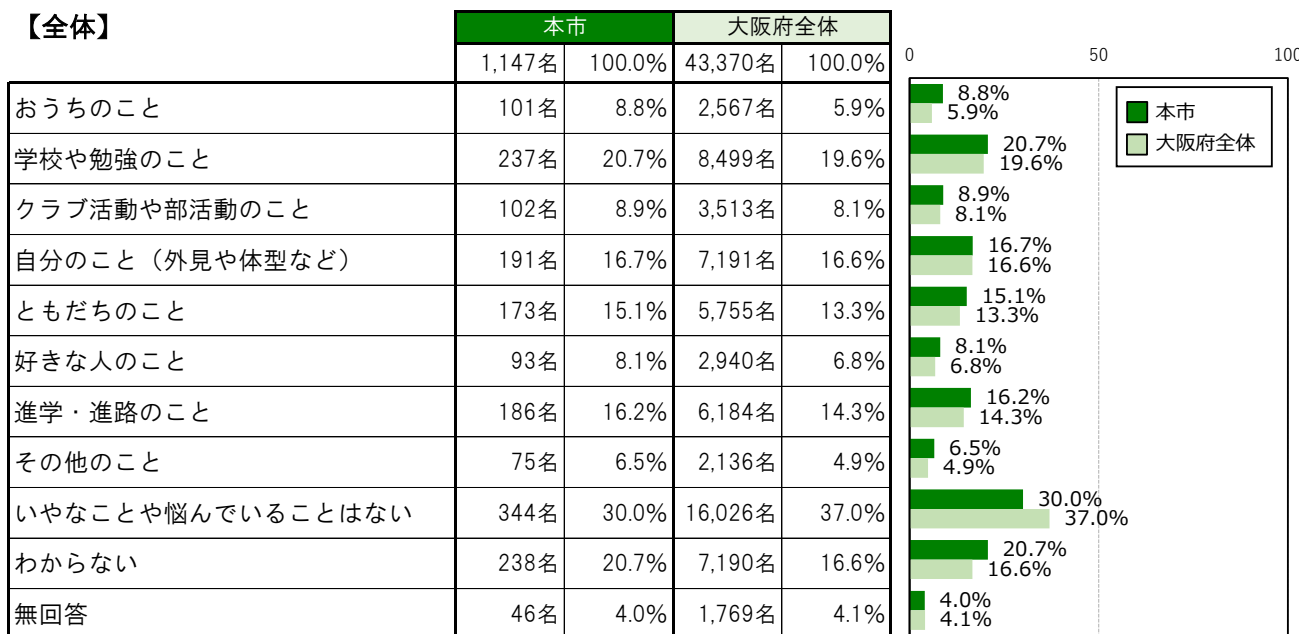
ふだんの生活のことについて

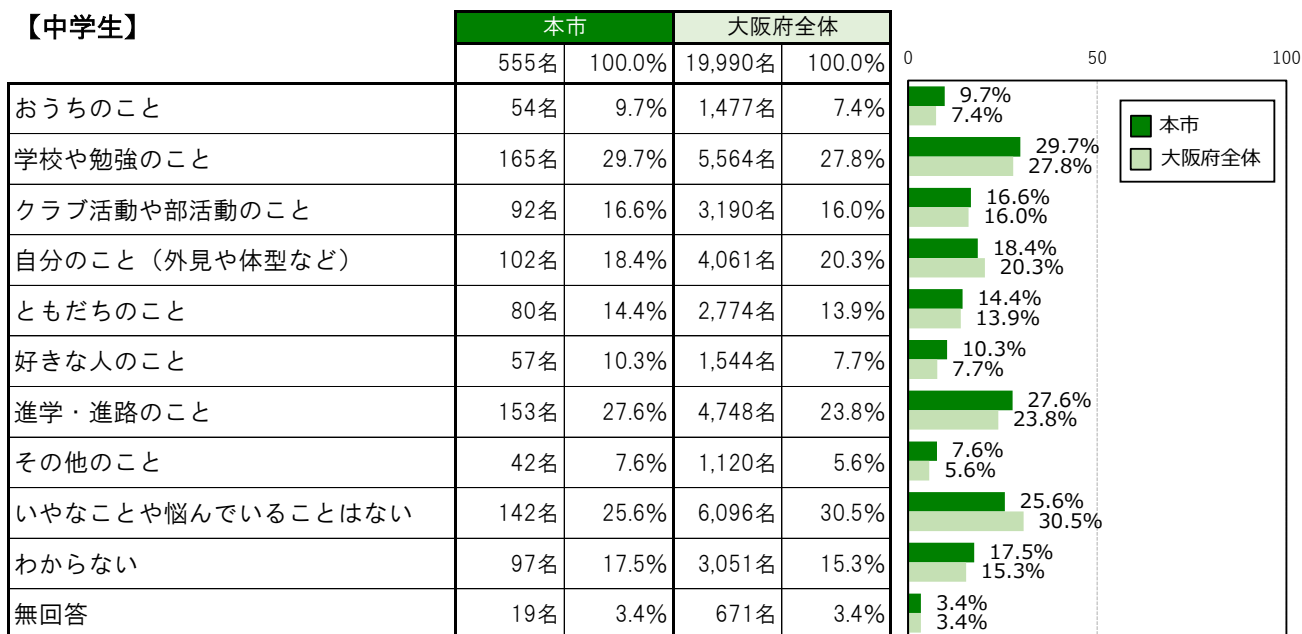
問17 嫌なことや悩んでいること

全体は、「いやなことや悩んでいることはない」が30.0%で最も多く、次いで「学校や勉強のこと」が20.7%、「自分のこと（外見や体型など）」が16.7%、「進学・進路のこと」が16.2%となっている。

小学生は、「いやなことや悩んでいることはない」が34.3%で最も多く、次いで「ともだちのこと」が15.8%、「自分のこと（外見や体型など）」が15.1%となっている。

中学生は、「学校や勉強のこと」が29.7%で最も多く、次いで「進学・進路のこと」が27.6%、「いやなことや悩んでいることはない」が25.6%、「自分のこと（外見や体型など）」が18.4%となっている。





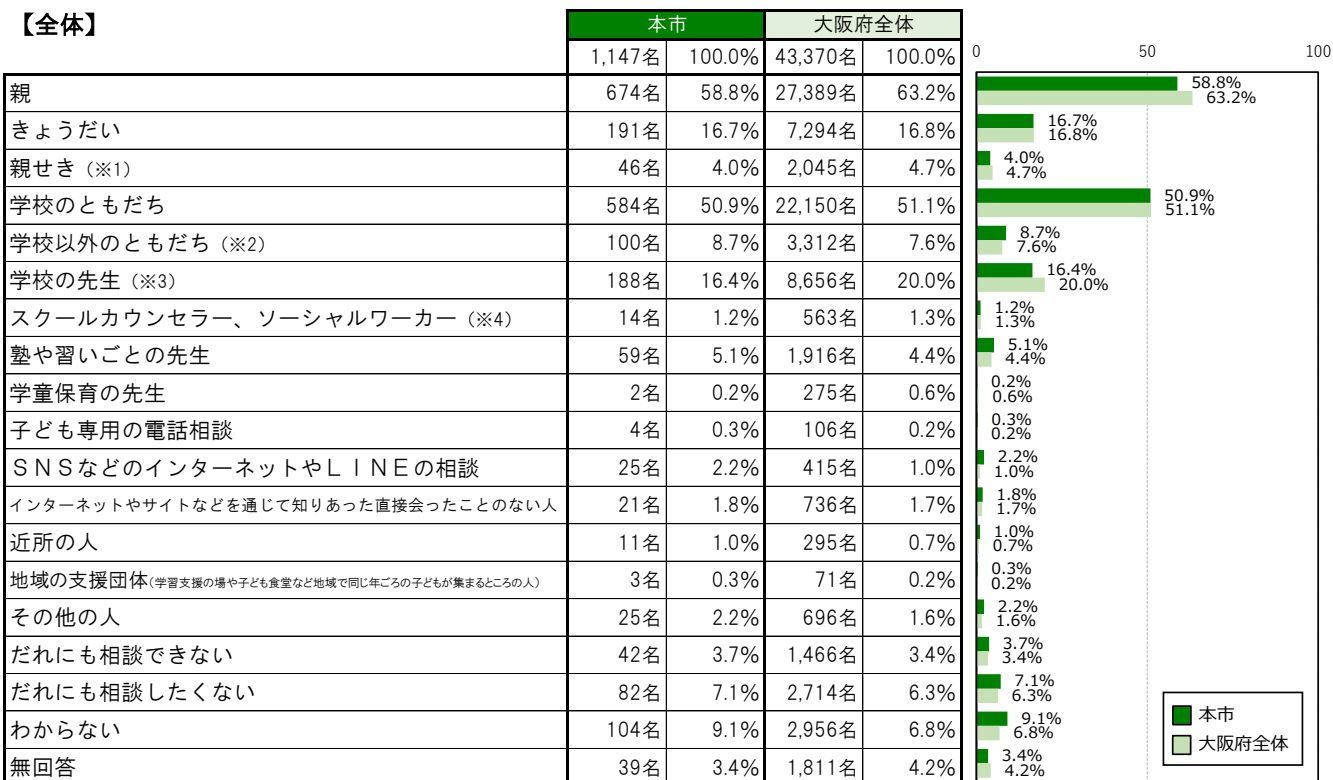
ふだんの生活のことについて

問18 嫌なことや悩んでいるときの相談相手

全体は、「親」が58.8%で最も多く、次いで「学校のともだち」が50.9%、「きょうだい」が16.7%、「学校の先生」が16.4%となっている。

小学生は、「親」が63.2%で最も多く、次いで「学校のともだち」が44.0%、「学校の先生」が20.2%、「きょうだい」が18.0%となっている。

中学生は、「学校のともだち」が58.4%で最も多く、次いで「親」が54.2%、「きょうだい」が15.1%、「学校以外のともだち」、「学校の先生」がそれぞれ12.3%となっている。



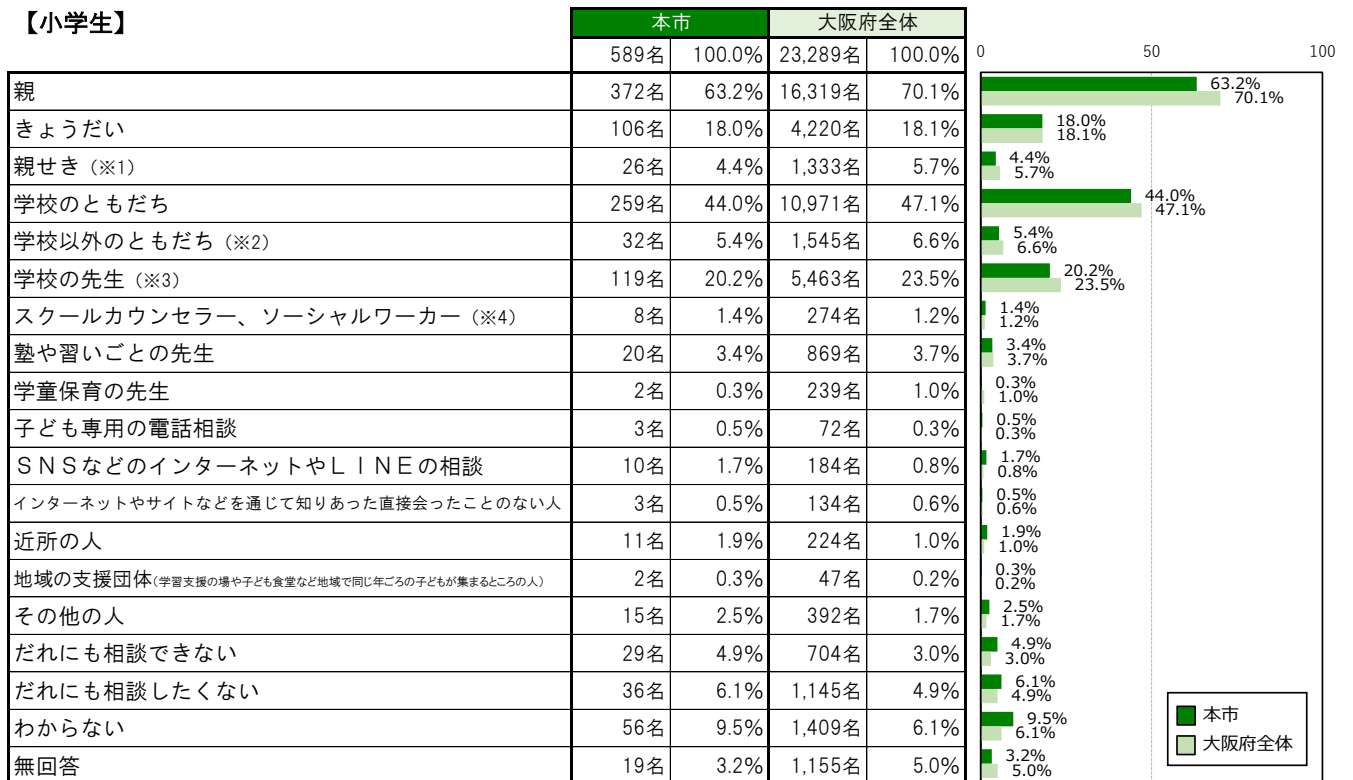
※1 2016年度調査では「おじ、おばなど親戚」

※2 2016年度調査では「塾や習いごとのともだち」「その他のともだち」

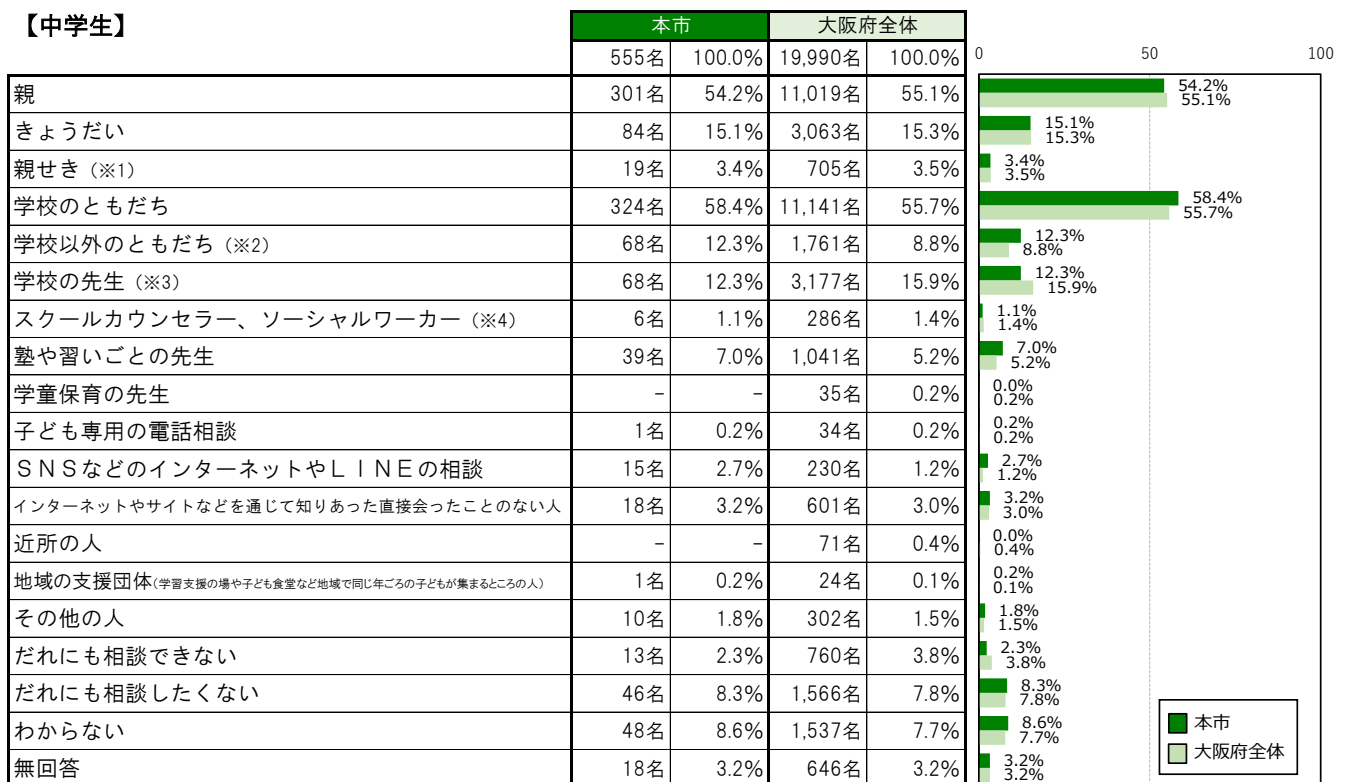
※3 2016年度調査では「担任の先生や他のクラスの先生」「保健室の先生」

※4 2016年度調査では「スクールカウンセラー」

【小学生】



【中学生】



※1 2016年度調査では「おじ、おばなど親戚」

※2 2016年度調査では「塾や習いごとのともだち」「その他のともだち」

※3 2016年度調査では「担任の先生や他のクラスの先生」「保健室の先生」

※4 2016年度調査では「スクールカウンセラー」

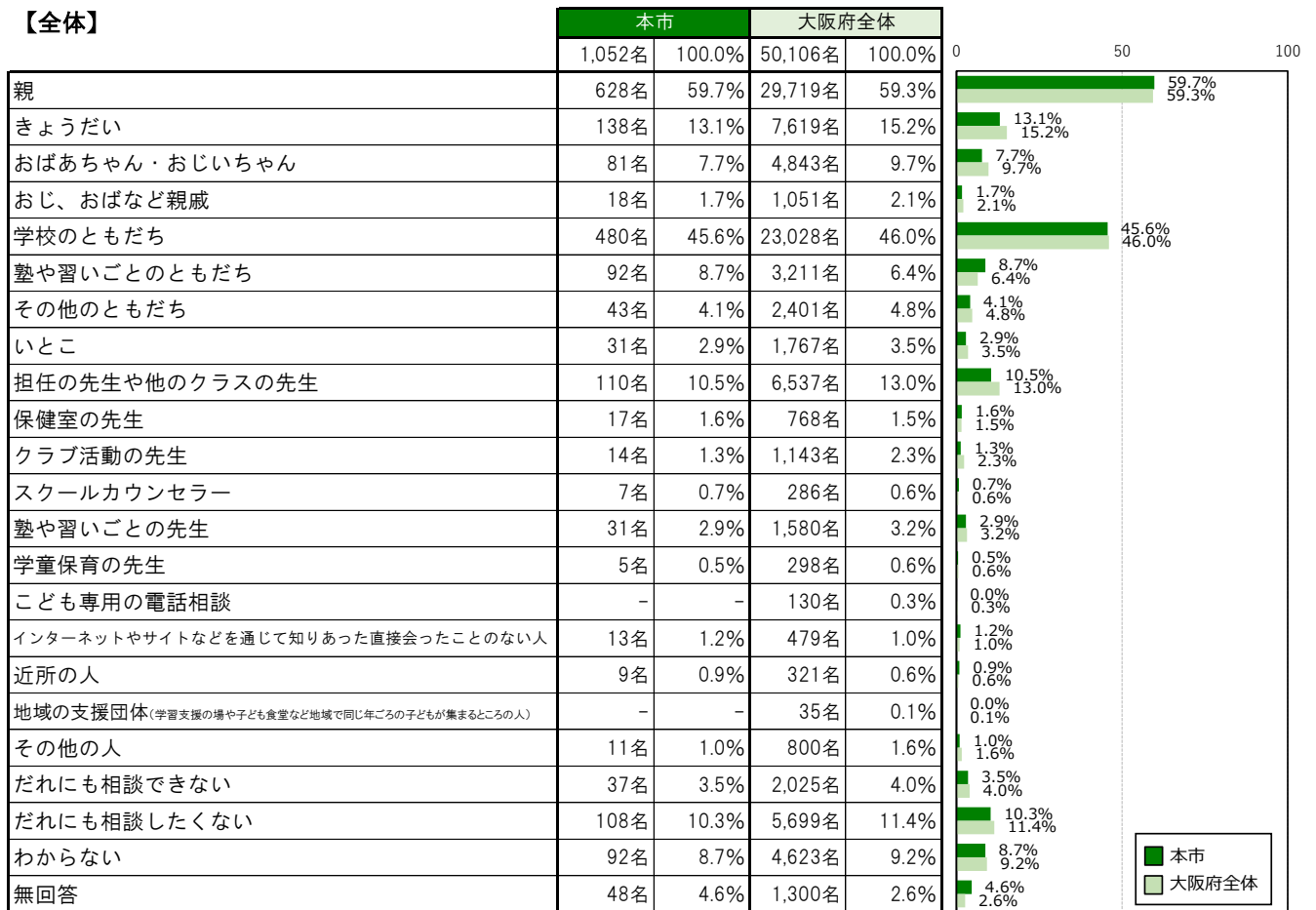
●2016年度 調査結果〔参考データ〕

2016年度調査と比較すると、全体は、「学校のともだち」が5.3ポイント高くなっている。

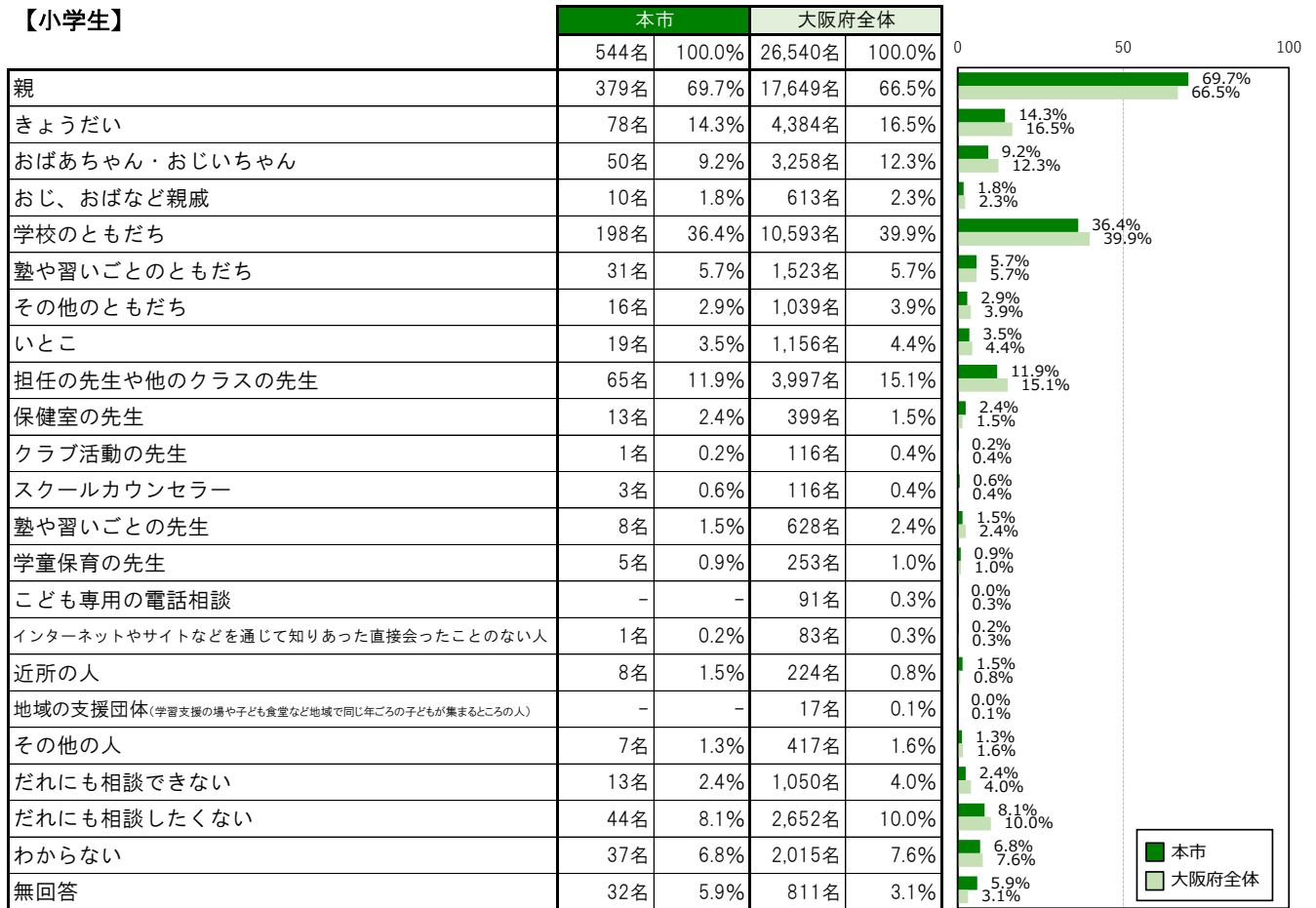
小学生は、「学校のともだち」が7.6ポイント、「学校の先生」（2016年度調査は「担任の先生や他のクラスの先生」「保健室の先生」をあわせた割合）が5.9ポイント高くなっている。

中学生は、「親」が5.2ポイント高くなっている。

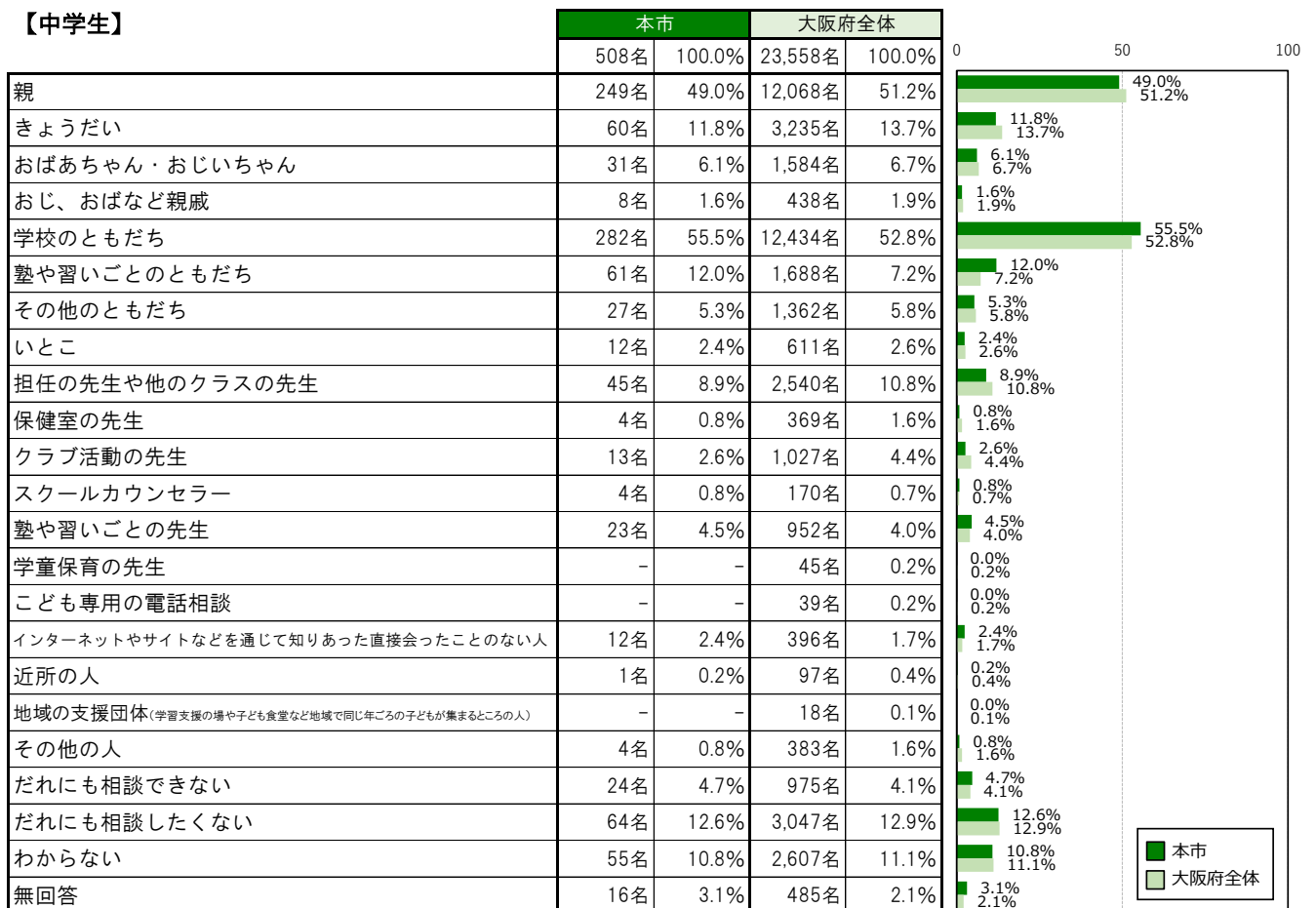
【全体】



【小学生】



【中学生】



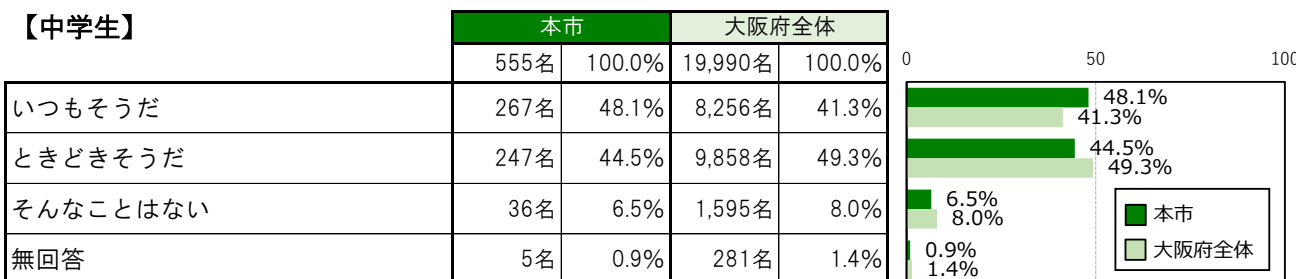
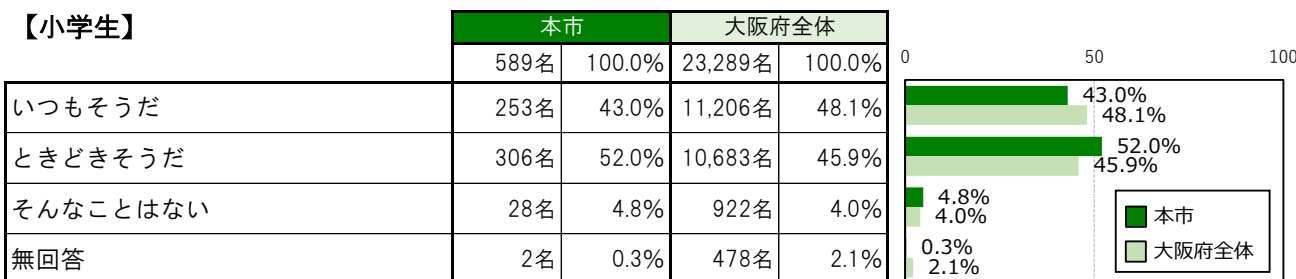
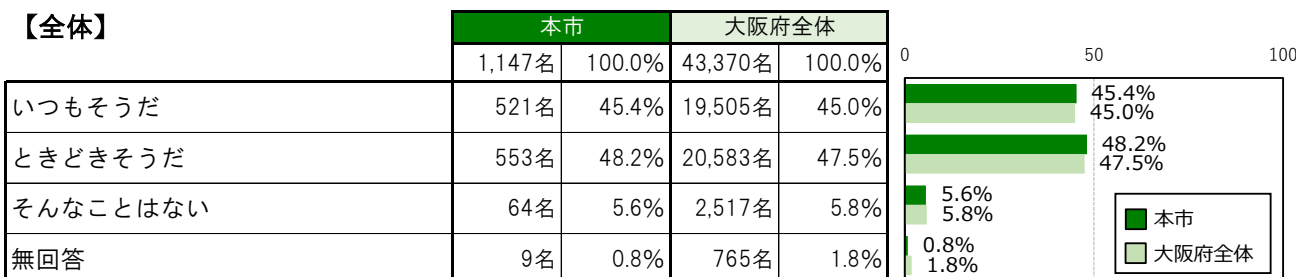
ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ①楽しみにしていることがたくさんある

全体は、「ときどきそうだ」が48.2%で最も多く、次いで「いつもそうだ」が45.4%、「そんなことはない」が5.6%となっている。

小学生は、「ときどきそうだ」が52.0%で最も多く、次いで「いつもそうだ」が43.0%、「そんなことはない」が4.8%となっている。

中学生は、「いつもそうだ」が48.1%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が44.5%、「そんなことはない」が6.5%となっている。



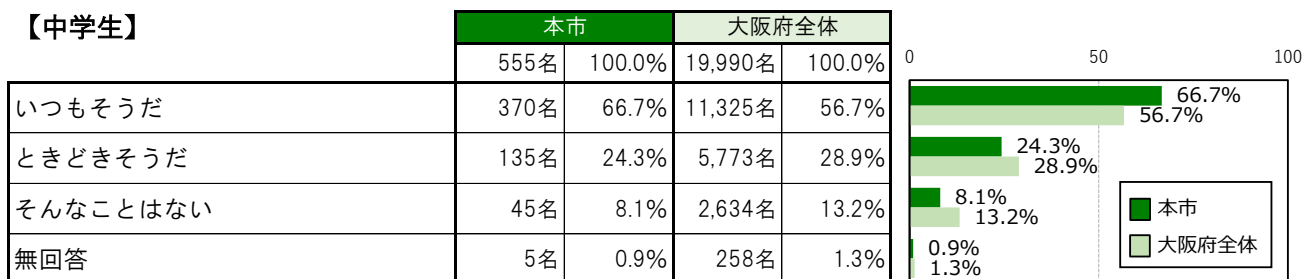
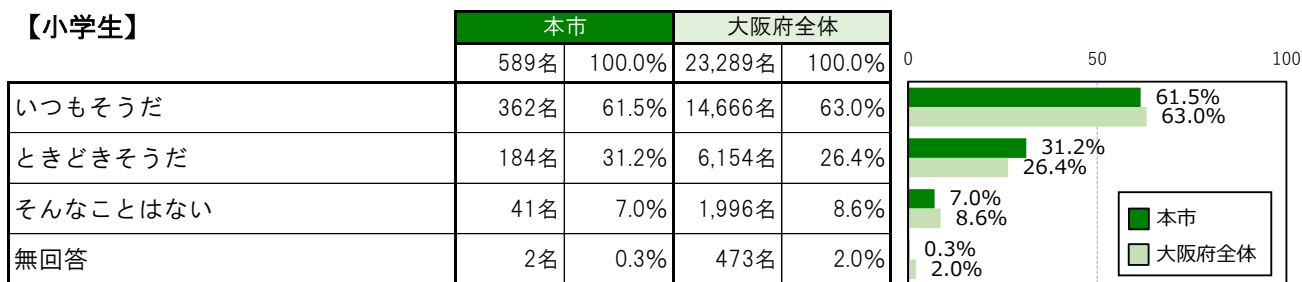
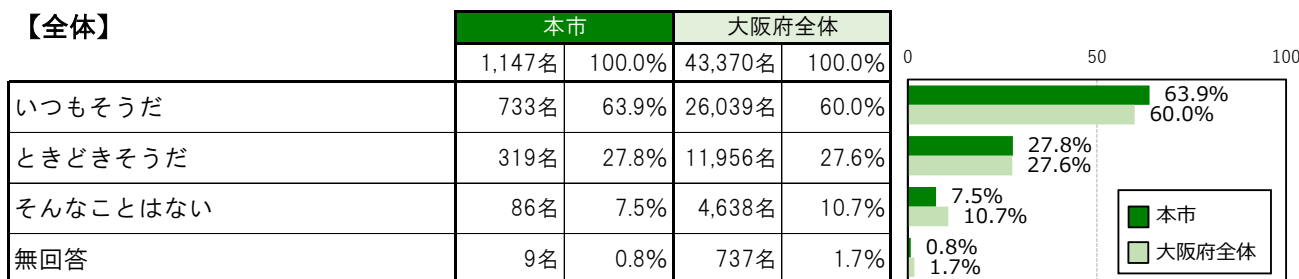
ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ②遊びにでかけるのが好きだ

全体は、「いつもそうだ」が63.9%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が27.8%、「そんなことはない」が7.5%となっている。

小学生は、「いつもそうだ」が61.5%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が31.2%、「そんなことはない」が7.0%となっている。

中学生は、「いつもそうだ」が66.7%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が24.3%、「そんなことはない」が8.1%となっている。



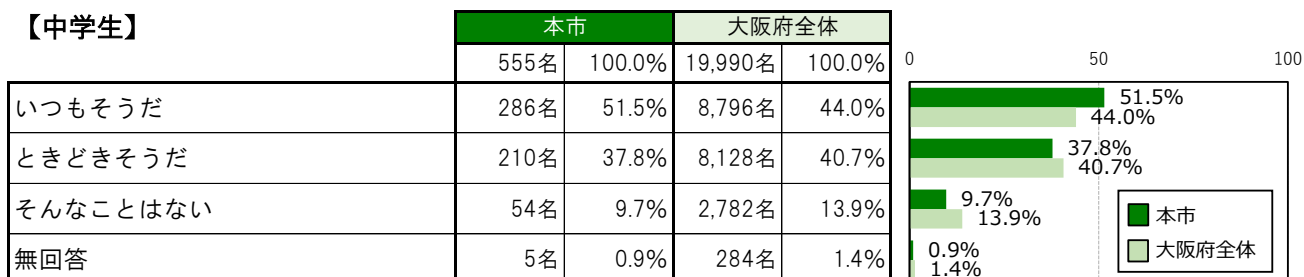
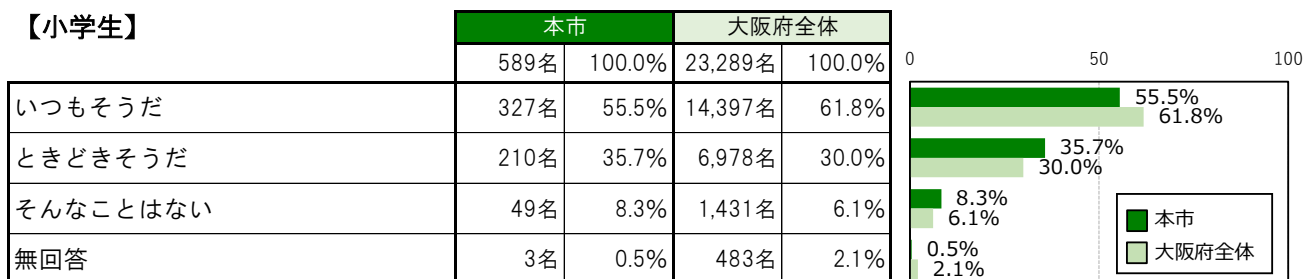
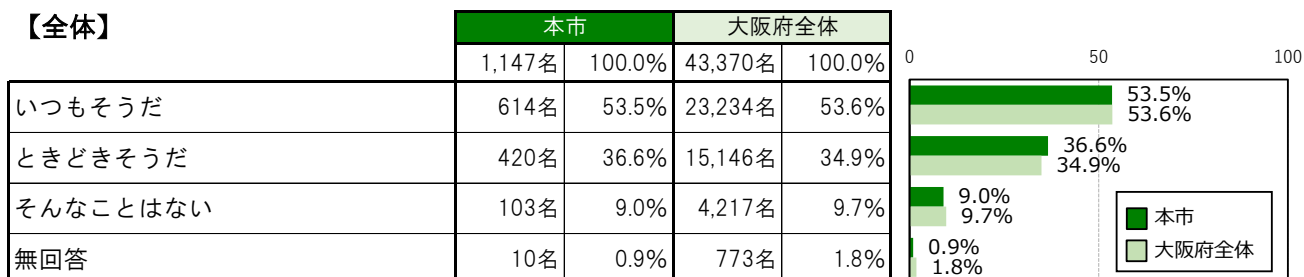
ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱいだ

全体は、「いつもそうだ」が53.5%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が36.6%、「そんなことはない」が9.0%となっている。

小学生は、「いつもそうだ」が55.5%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が35.7%、「そんなことはない」が8.3%となっている。

中学生は、「いつもそうだ」が51.5%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が37.8%、「そんなことはない」が9.7%となっている。



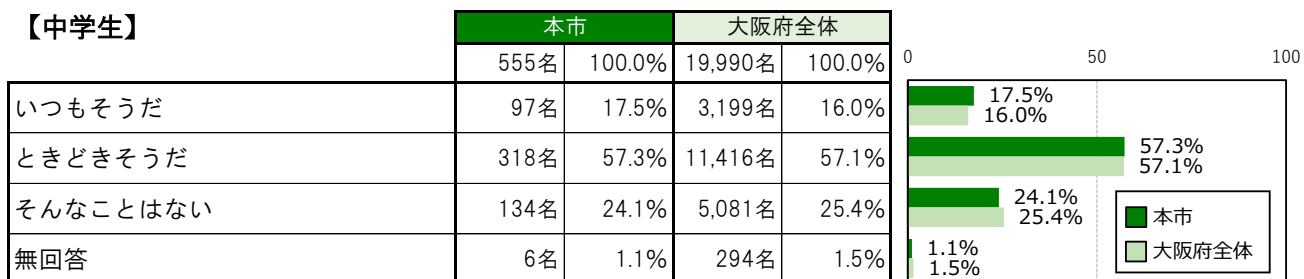
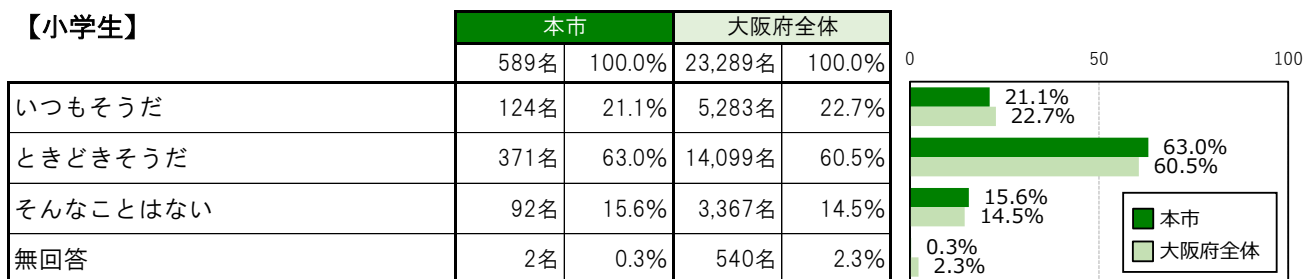
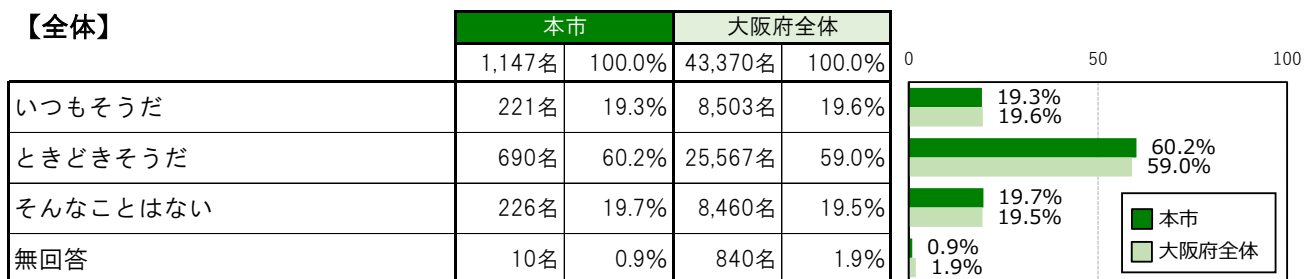
ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ④やろうと思ったことがうまくできる

全体は、「ときどきそうだ」が60.2%で最も多く、次いで「そんなことはない」が19.7%、「いつもそうだ」が19.3%となっている。

小学生は、「ときどきそうだ」が63.0%で最も多く、次いで「いつもそうだ」が21.1%、「そんなことはない」が15.6%となっている。

中学生は、「ときどきそうだ」が57.3%で最も多く、次いで「そんなことはない」が24.1%、「いつもそうだ」が17.5%となっている。



ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ⑤一人ぼっちのような気がする

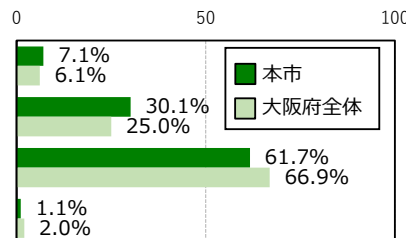
全体は、「そんなことはない」が61.7%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が30.1%、「いつもそうだ」が7.1%となっている。

小学生は、「そんなことはない」が66.4%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が26.0%、「いつもそうだ」が7.1%となっている。

中学生は、「そんなことはない」が57.1%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が34.4%、「いつもそうだ」が7.0%となっている。

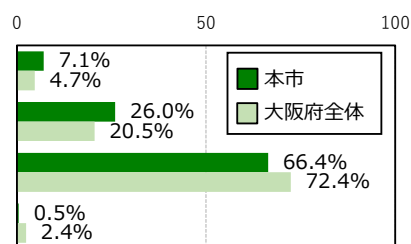
【全体】

	本市		大阪府全体	
	1,147名	100.0%	43,370名	100.0%
いつもそうだ	81名	7.1%	2,628名	6.1%
ときどきそうだ	345名	30.1%	10,860名	25.0%
そんなことはない	708名	61.7%	29,021名	66.9%
無回答	13名	1.1%	861名	2.0%



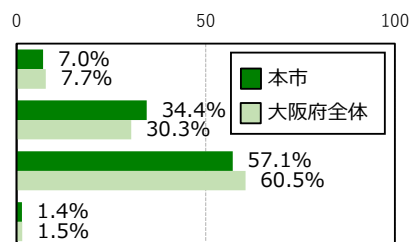
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	589名	100.0%	23,289名	100.0%
いつもそうだ	42名	7.1%	1,091名	4.7%
ときどきそうだ	153名	26.0%	4,776名	20.5%
そんなことはない	391名	66.4%	16,872名	72.4%
無回答	3名	0.5%	550名	2.4%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	555名	100.0%	19,990名	100.0%
いつもそうだ	39名	7.0%	1,534名	7.7%
ときどきそうだ	191名	34.4%	6,057名	30.3%
そんなことはない	317名	57.1%	12,095名	60.5%
無回答	8名	1.4%	304名	1.5%



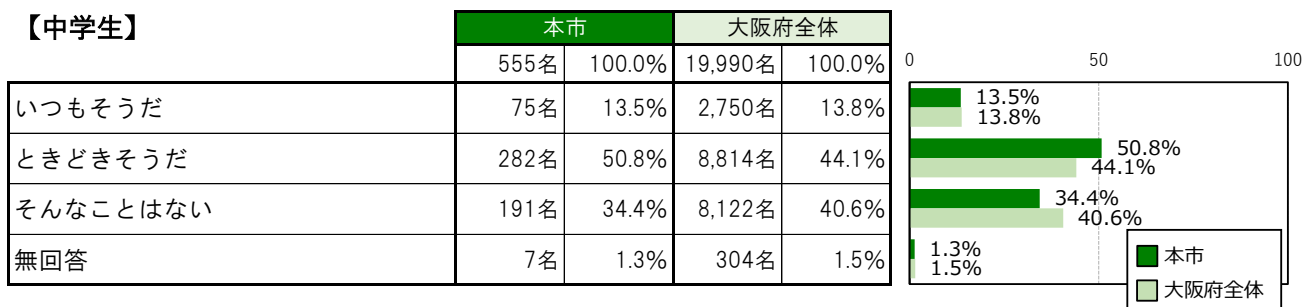
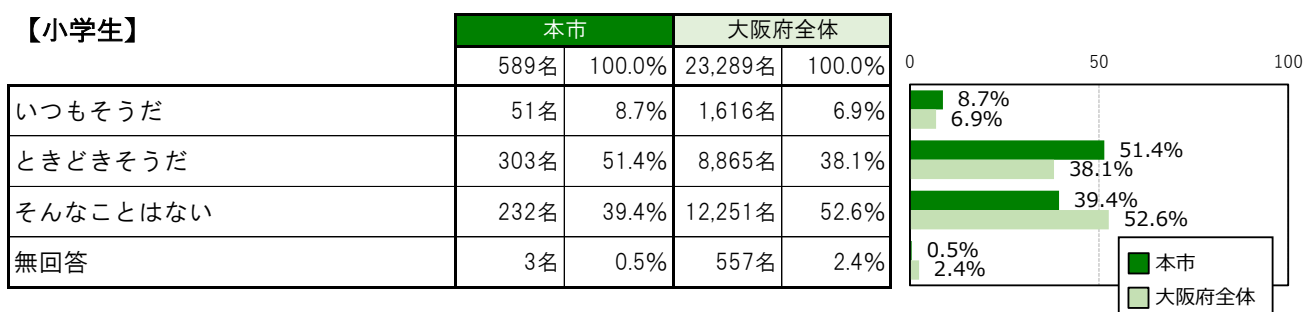
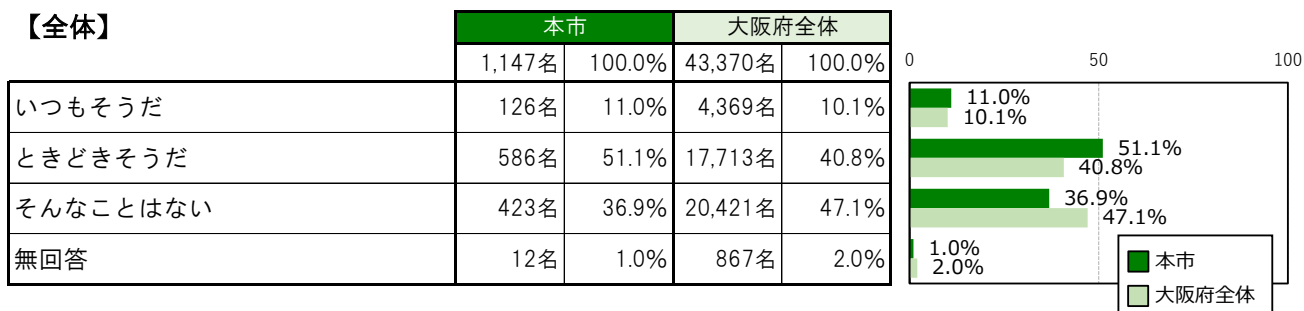
ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ⑥不安な気持ちになる

全体は、「ときどきそうだ」が51.1%で最も多く、次いで「そんなことはない」が36.9%、「いつもそうだ」が11.0%となっている。

小学生は、「ときどきそうだ」が51.4%で最も多く、次いで「そんなことはない」が39.4%、「いつもそうだ」が8.7%となっている。

中学生は、「ときどきそうだ」が50.8%で最も多く、次いで「そんなことはない」が34.4%、「いつもそうだ」が13.5%となっている。



ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる

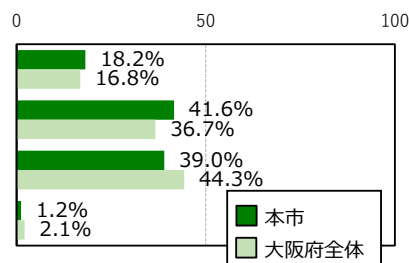
全体は、「ときどきそうだ」が41.6%で最も多く、次いで「そんなことはない」が39.0%、「いつもそうだ」が18.2%となっている。

小学生は、「そんなことはない」が44.1%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が41.4%、「いつもそうだ」が13.6%となっている。

中学生は、「ときどきそうだ」が42.0%で最も多く、次いで「そんなことはない」が33.7%、「いつもそうだ」が23.1%となっている。

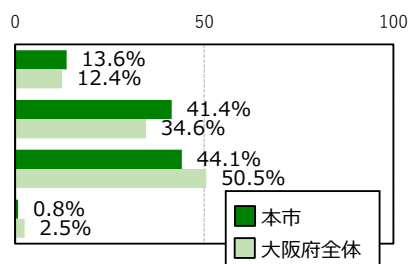
【全体】

	本市		大阪府全体	
	1,147名	100.0%	43,370名	100.0%
いつもそうだ	209名	18.2%	7,300名	16.8%
ときどきそうだ	477名	41.6%	15,932名	36.7%
そんなことはない	447名	39.0%	19,222名	44.3%
無回答	14名	1.2%	916名	2.1%



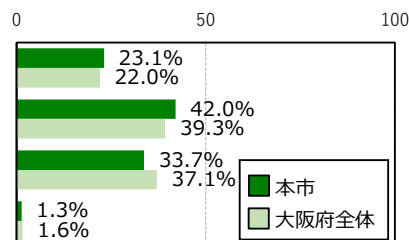
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	589名	100.0%	23,289名	100.0%
いつもそうだ	80名	13.6%	2,893名	12.4%
ときどきそうだ	244名	41.4%	8,049名	34.6%
そんなことはない	260名	44.1%	11,759名	50.5%
無回答	5名	0.8%	588名	2.5%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	555名	100.0%	19,990名	100.0%
いつもそうだ	128名	23.1%	4,399名	22.0%
ときどきそうだ	233名	42.0%	7,848名	39.3%
そんなことはない	187名	33.7%	7,422名	37.1%
無回答	7名	1.3%	321名	1.6%



ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない

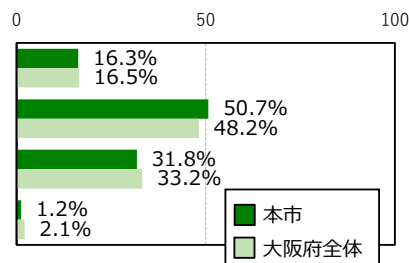
全体は、「ときどきそうだ」が50.7%で最も多く、次いで「そんなことはない」が31.8%、「いつもそうだ」が16.3%となっている。

小学生は、「ときどきそうだ」が47.0%で最も多く、次いで「そんなことはない」が42.4%、「いつもそうだ」が9.8%となっている。

中学生は、「ときどきそうだ」が54.6%で最も多く、次いで「いつもそうだ」が23.2%、「そんなことはない」が20.7%となっている。

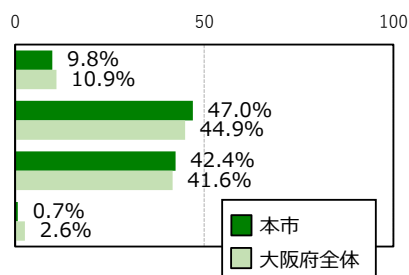
【全体】

	本市		大阪府全体	
	1,147名	100.0%	43,370名	100.0%
いつもそうだ	187名	16.3%	7,152名	16.5%
ときどきそうだ	581名	50.7%	20,902名	48.2%
そんなことはない	365名	31.8%	14,387名	33.2%
無回答	14名	1.2%	929名	2.1%



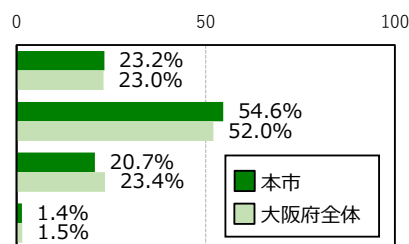
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	589名	100.0%	23,289名	100.0%
いつもそうだ	58名	9.8%	2,541名	10.9%
ときどきそうだ	277名	47.0%	10,454名	44.9%
そんなことはない	250名	42.4%	9,677名	41.6%
無回答	4名	0.7%	617名	2.6%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	555名	100.0%	19,990名	100.0%
いつもそうだ	129名	23.2%	4,606名	23.0%
ときどきそうだ	303名	54.6%	10,396名	52.0%
そんなことはない	115名	20.7%	4,682名	23.4%
無回答	8名	1.4%	306名	1.5%



ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ⑨いらいらする

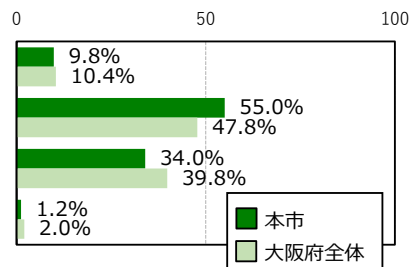
全体は、「いつもそうだ」が9.8%、「ときどきそうだ」が55.0%、「そんなことはない」が34.0%となっている。

小学生は、「いつもそうだ」が10.2%、「ときどきそうだ」が57.6%、「そんなことはない」が31.6%となっている。

中学生は、「いつもそうだ」が9.4%、「ときどきそうだ」が52.4%、「そんなことはない」が36.8%となっている。

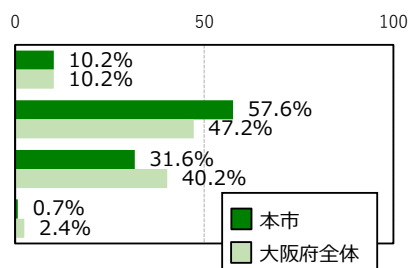
【全体】

	本市		大阪府全体	
	1,147名	100.0%	43,370名	100.0%
いつもそうだ	112名	9.8%	4,525名	10.4%
ときどきそうだ	631名	55.0%	20,712名	47.8%
そんなことはない	390名	34.0%	17,270名	39.8%
無回答	14名	1.2%	863名	2.0%



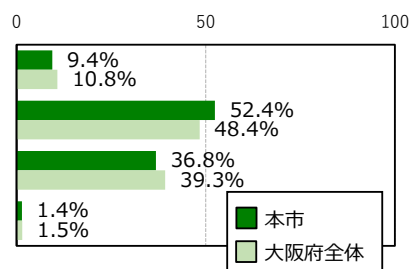
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	589名	100.0%	23,289名	100.0%
いつもそうだ	60名	10.2%	2,364名	10.2%
ときどきそうだ	339名	57.6%	10,997名	47.2%
そんなことはない	186名	31.6%	9,370名	40.2%
無回答	4名	0.7%	558名	2.4%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	555名	100.0%	19,990名	100.0%
いつもそうだ	52名	9.4%	2,152名	10.8%
ときどきそうだ	291名	52.4%	9,674名	48.4%
そんなことはない	204名	36.8%	7,865名	39.3%
無回答	8名	1.4%	299名	1.5%



ふだんの生活のことについて

問20 自分の体の状態で気になること

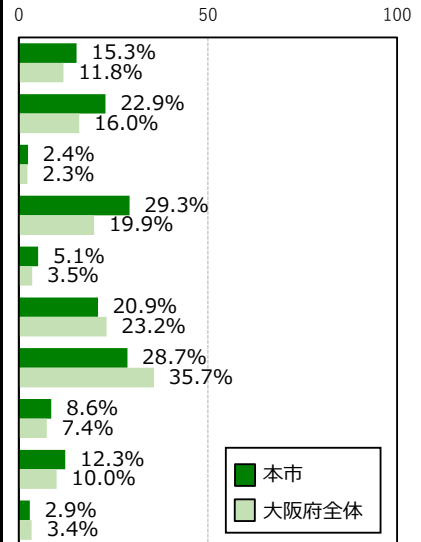
全体は、「よくおなかがいたくなる」が29.3%で最も多く、次いで「とくに気になるところはない」が28.7%、「よく頭がいたくなる」が22.9%、「よくかゆくなる」が20.9%となっている。

小学生は、「よくおなかがいたくなる」が30.9%で最も多く、次いで「とくに気になるところはない」が26.7%、「よくかゆくなる」が22.9%、「よく頭がいたくなる」が20.0%となっている。

中学生は、「とくに気になるところはない」が31.0%で最も多く、次いで「よくおなかがいたくなる」が27.6%、「よく頭がいたくなる」が26.1%、「よくかゆくなる」が18.7%となっている。

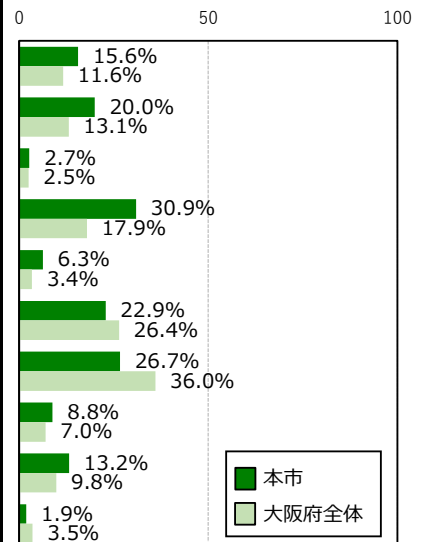
【全体】

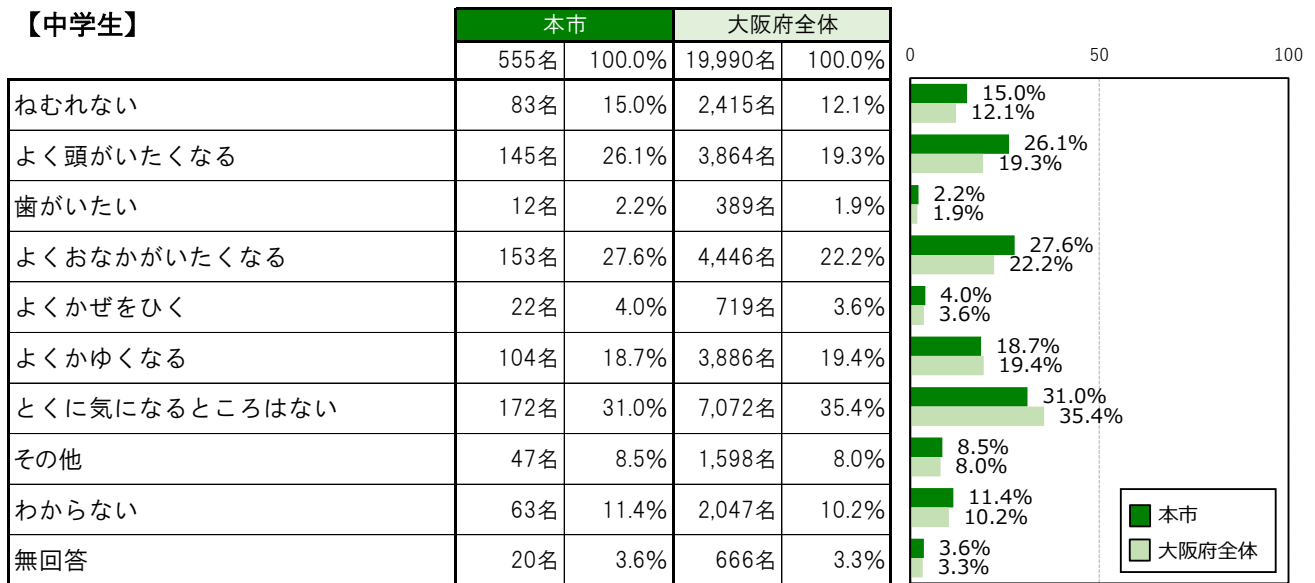
	本市		大阪府全体	
	1,147名	100.0%	43,370名	100.0%
ねむれない	175名	15.3%	5,129名	11.8%
よく頭がいたくなる	263名	22.9%	6,935名	16.0%
歯がいたい	28名	2.4%	979名	2.3%
よくおなかがいたくなる	336名	29.3%	8,644名	19.9%
よくかぜをひく	59名	5.1%	1,506名	3.5%
よくかゆくなる	240名	20.9%	10,046名	23.2%
とくに気になるところはない	329名	28.7%	15,487名	35.7%
その他	99名	8.6%	3,228名	7.4%
わからない	141名	12.3%	4,331名	10.0%
無回答	33名	2.9%	1,491名	3.4%



【小学生】

	本市		大阪府全体	
	589名	100.0%	23,289名	100.0%
ねむれない	92名	15.6%	2,704名	11.6%
よく頭がいたくなる	118名	20.0%	3,057名	13.1%
歯がいたい	16名	2.7%	589名	2.5%
よくおなかがいたくなる	182名	30.9%	4,177名	17.9%
よくかぜをひく	37名	6.3%	786名	3.4%
よくかゆくなる	135名	22.9%	6,142名	26.4%
とくに気になるところはない	157名	26.7%	8,390名	36.0%
その他	52名	8.8%	1,622名	7.0%
わからない	78名	13.2%	2,273名	9.8%
無回答	11名	1.9%	815名	3.5%





ふだんの生活のことについて

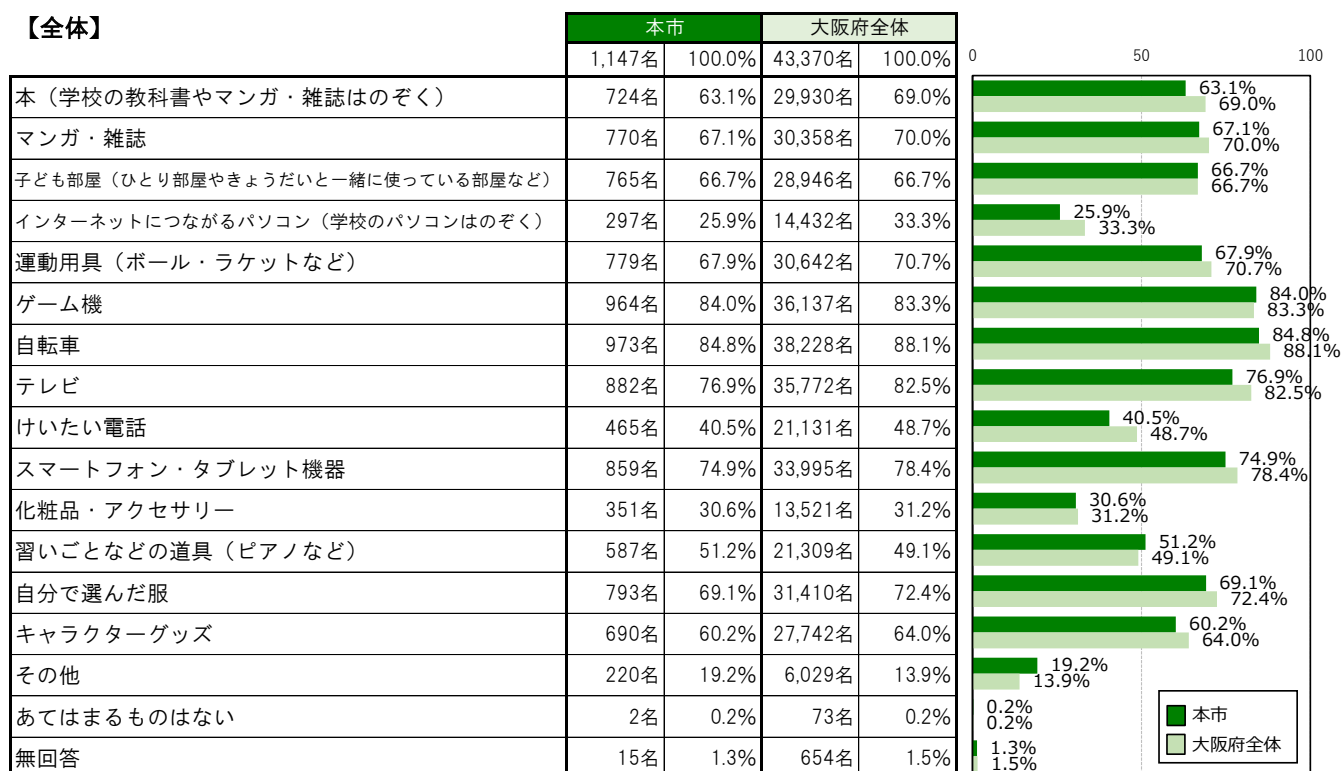
問21 持っているもの、使うことができるもの

全体は、「自転車」が84.8%で最も多く、次いで「ゲーム機」が84.0%、「テレビ」が76.9%、「スマートフォン・タブレット機器」が74.9%となっている。

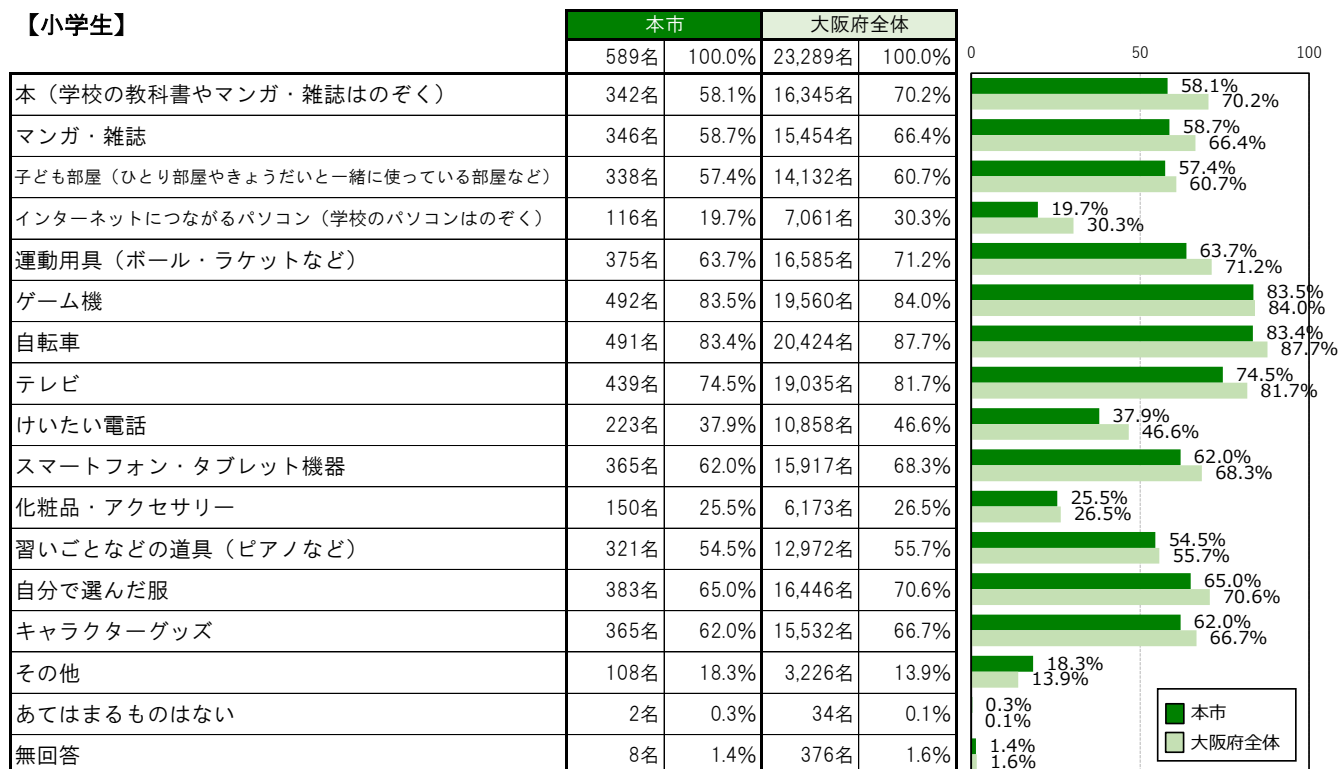
小学生は、「ゲーム機」が83.5%で最も多く、次いで「自転車」が83.4%、「テレビ」が74.5%、「自分で選んだ服」が65.0%となっている。

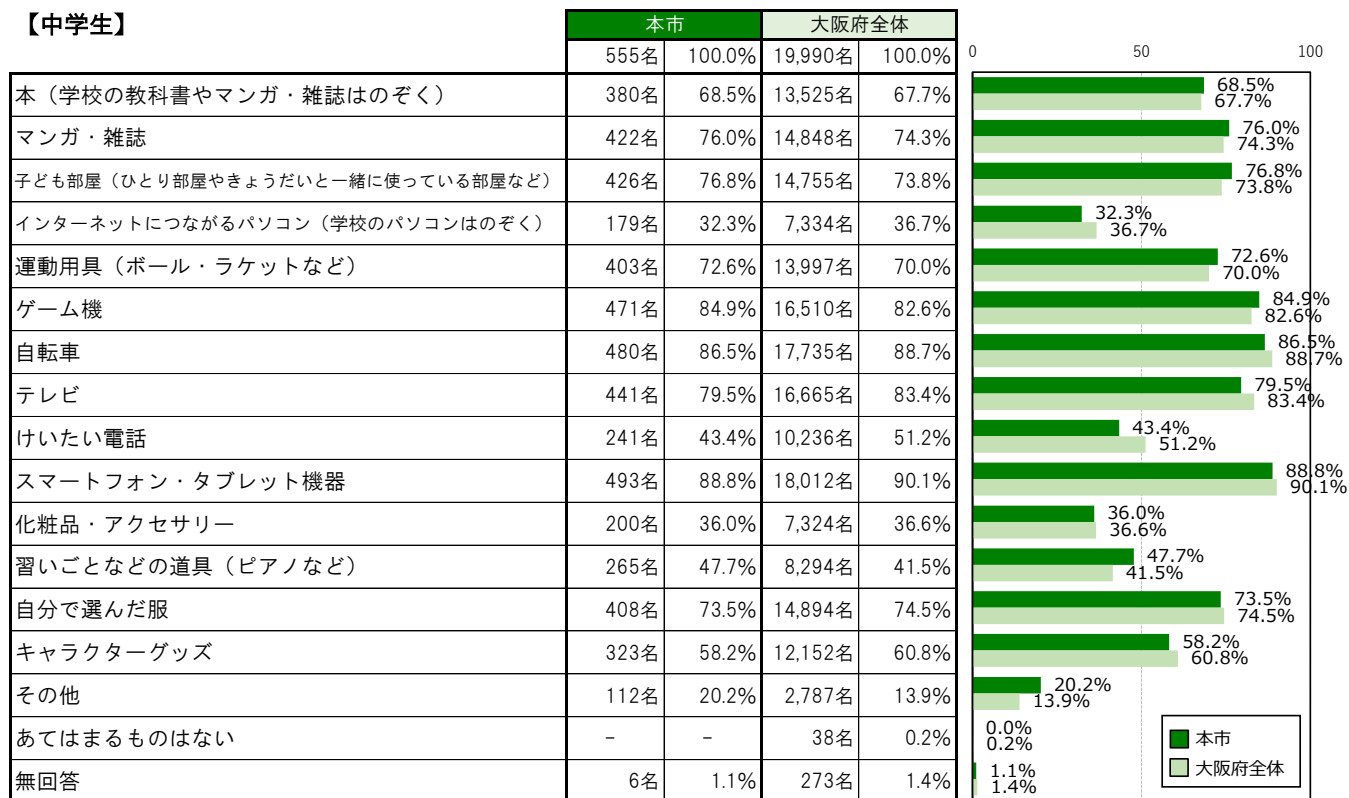
中学生は、「スマートフォン・タブレット機器」が88.8%で最も多く、次いで「自転車」が86.5%、「ゲーム機」が84.9%、「テレビ」が79.5%となっている。

【全体】



【小学生】



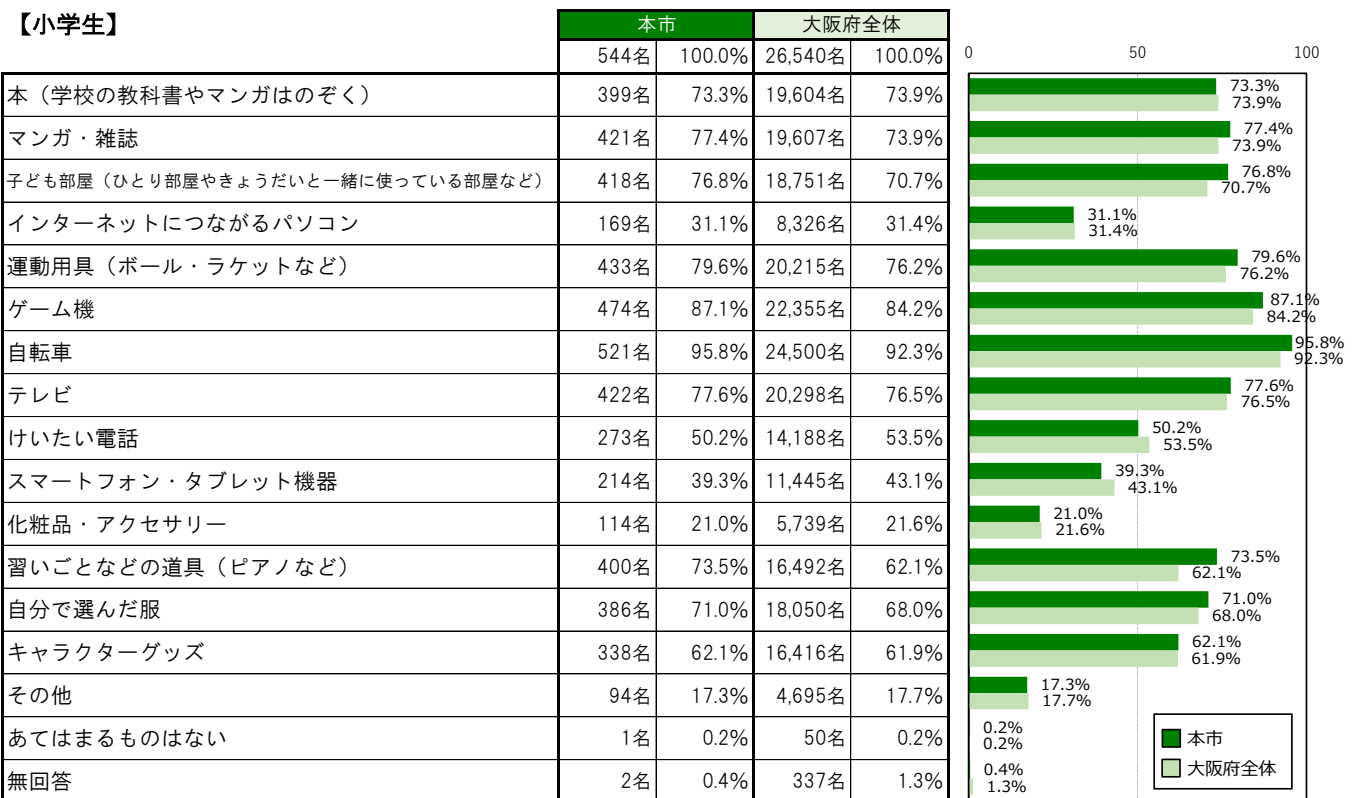
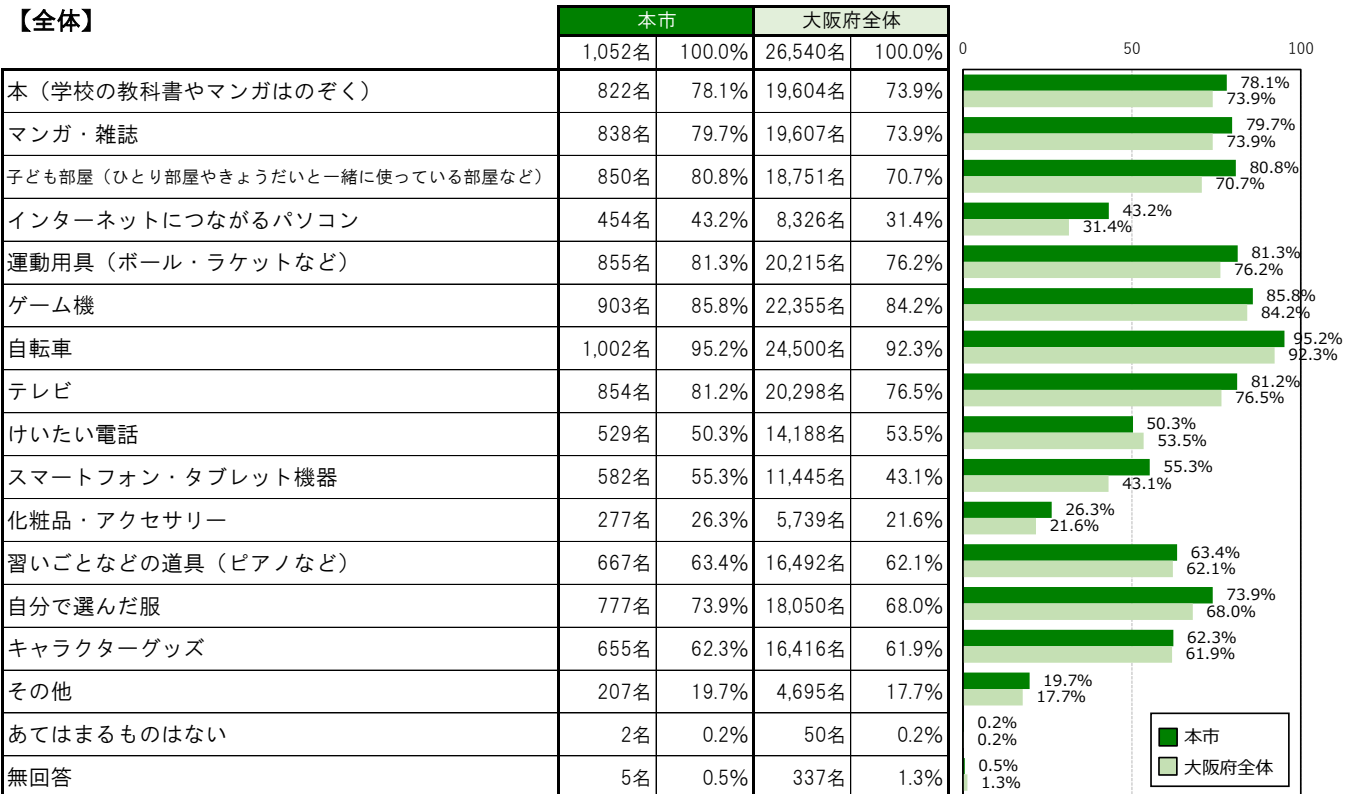


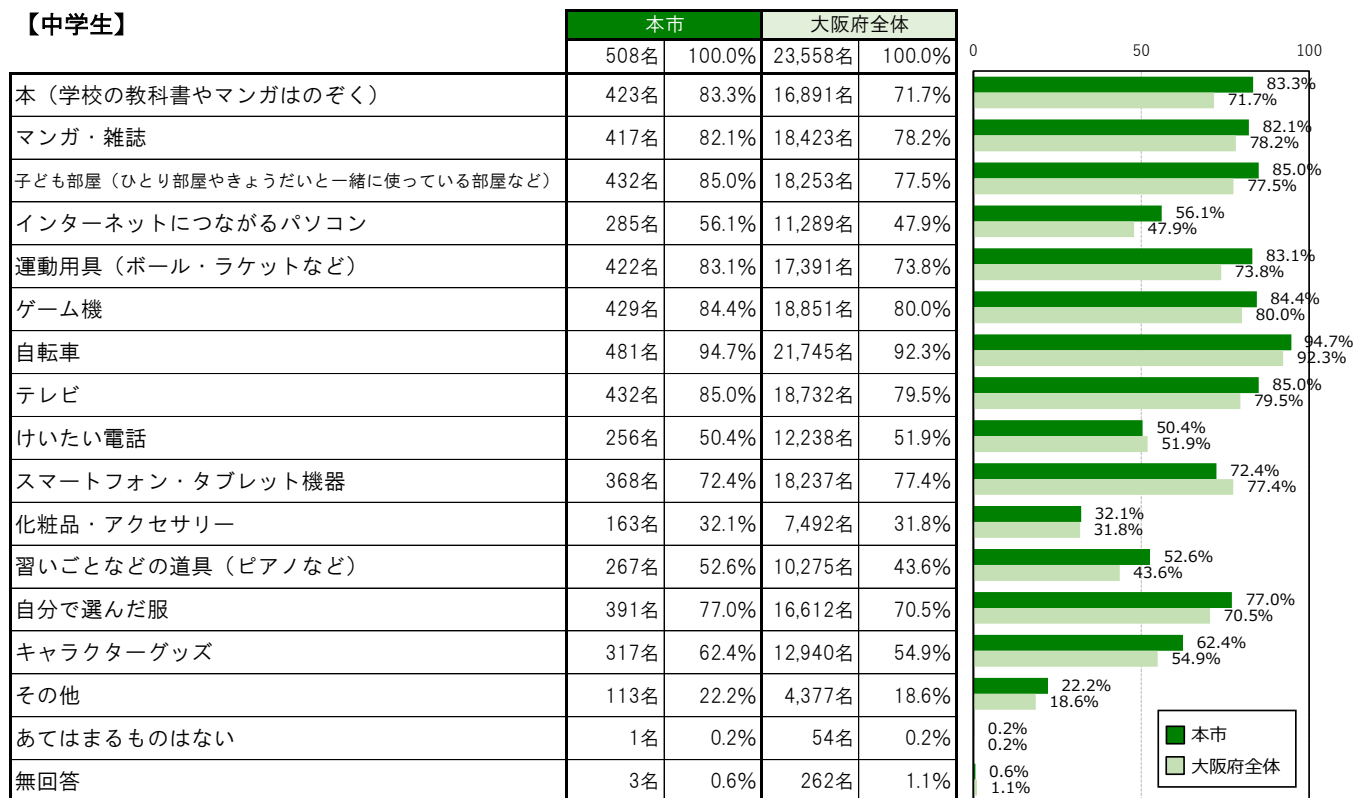
●2016年度 調査結果〔参考データ〕

2016年度調査と比較すると、全体は、「スマートフォン・タブレット機器」は19.6ポイント高いが、「インターネットにつながるパソコン」は17.3ポイント低くなっている。

小学生は、「スマートフォン・タブレット機器」は22.7ポイント高いが、「子ども部屋（ひとり部屋やきょうだいと一緒に使っている部屋など）」は19.4ポイント低くなっている。

中学生は、「スマートフォン・タブレット機器」は16.4ポイント高いが、「インターネットにつながるパソコン（学校のパソコンはのぞく）」は23.8ポイント低くなっている。





ふだん考えていることについて

問22 すぐに立ち直ることができる

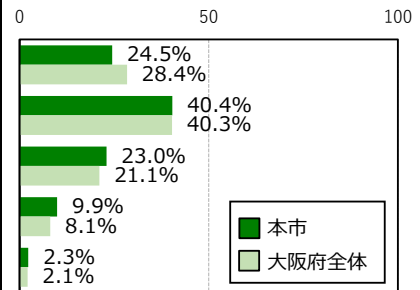
全体は、「そう思う」が24.5%、「どちらかというと思う」が40.4%、「どちらかというと思わない」が23.0%、「そう思わない」が9.9%となっている。

小学生は、「そう思う」が24.1%、「どちらかというと思う」が40.7%、「どちらかというと思わない」が23.4%、「そう思わない」が9.2%となっている。

中学生は、「そう思う」が24.9%、「どちらかというと思う」が40.0%、「どちらかというと思わない」が22.7%、「そう思わない」が10.6%となっている。

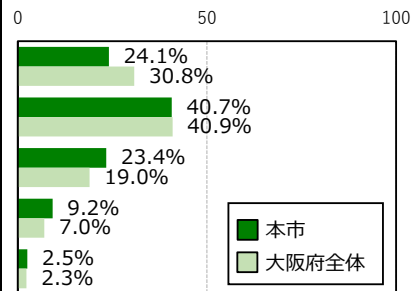
【全体】

	本市		大阪府全体	
	1,147名	100.0%	43,370名	100.0%
そう思う	281名	24.5%	12,318名	28.4%
どちらかというと思う	463名	40.4%	17,480名	40.3%
どちらかというと思わない	264名	23.0%	9,144名	21.1%
そう思わない	113名	9.9%	3,521名	8.1%
無回答	26名	2.3%	907名	2.1%



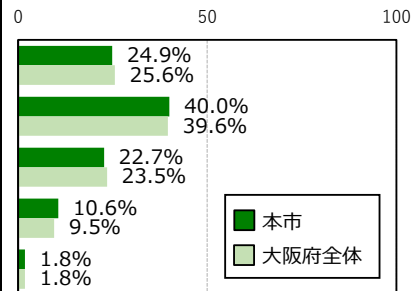
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	589名	100.0%	23,289名	100.0%
そう思う	142名	24.1%	7,172名	30.8%
どちらかというと思う	240名	40.7%	9,521名	40.9%
どちらかというと思わない	138名	23.4%	4,431名	19.0%
そう思わない	54名	9.2%	1,625名	7.0%
無回答	15名	2.5%	540名	2.3%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	555名	100.0%	19,990名	100.0%
そう思う	138名	24.9%	5,119名	25.6%
どちらかというと思う	222名	40.0%	7,917名	39.6%
どちらかというと思わない	126名	22.7%	4,703名	23.5%
そう思わない	59名	10.6%	1,891名	9.5%
無回答	10名	1.8%	360名	1.8%



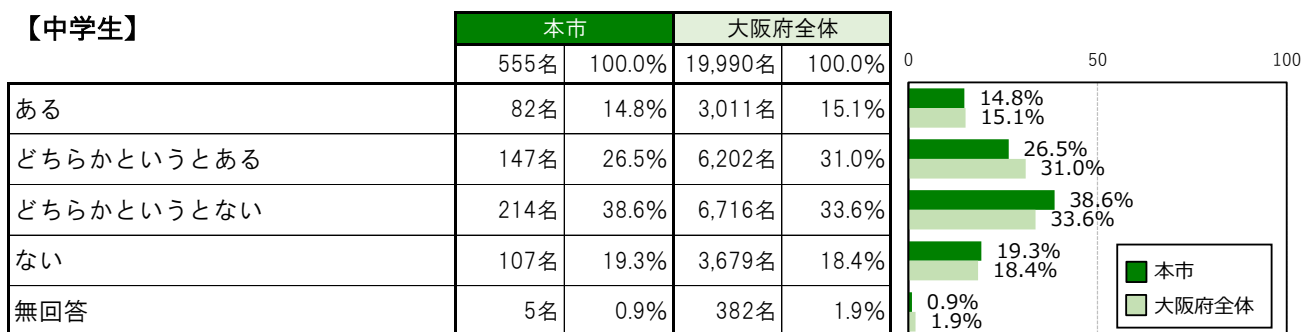
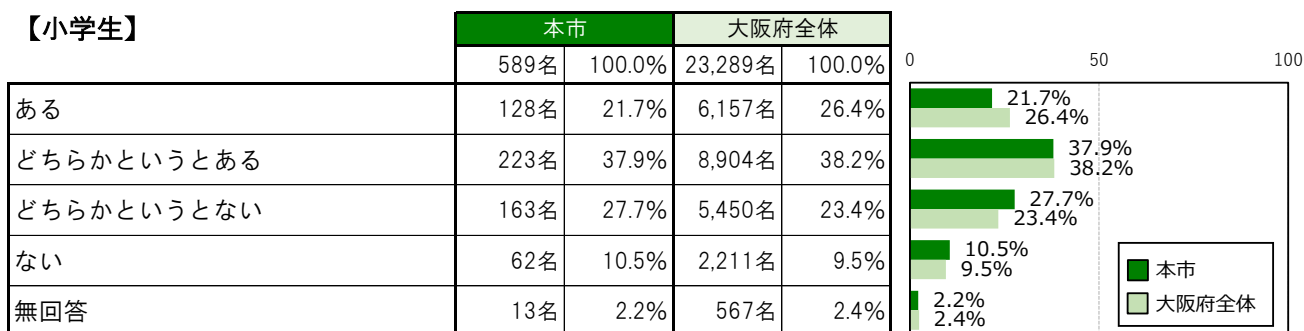
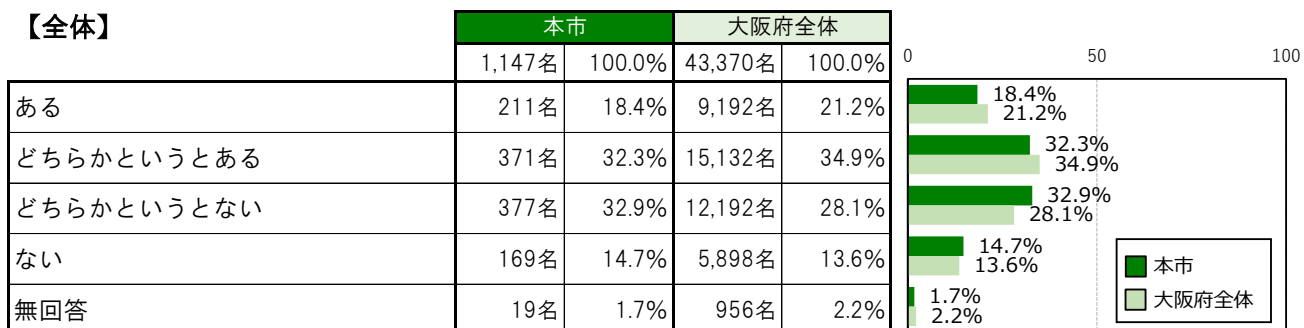
ふだん考えていることについて

問23 ふだん考えていること（１）自分に自信がある

全体は、「ある」が18.4%、「どちらかというところがある」が32.3%、「どちらかというところはない」が32.9%、「ない」が14.7%となっている。

小学生は、「ある」が21.7%、「どちらかというところがある」が37.9%、「どちらかというところはない」が27.7%、「ない」が10.5%となっている。

中学生は、「ある」が14.8%、「どちらかというところがある」が26.5%、「どちらかというところはない」が38.6%、「ない」が19.3%となっている。



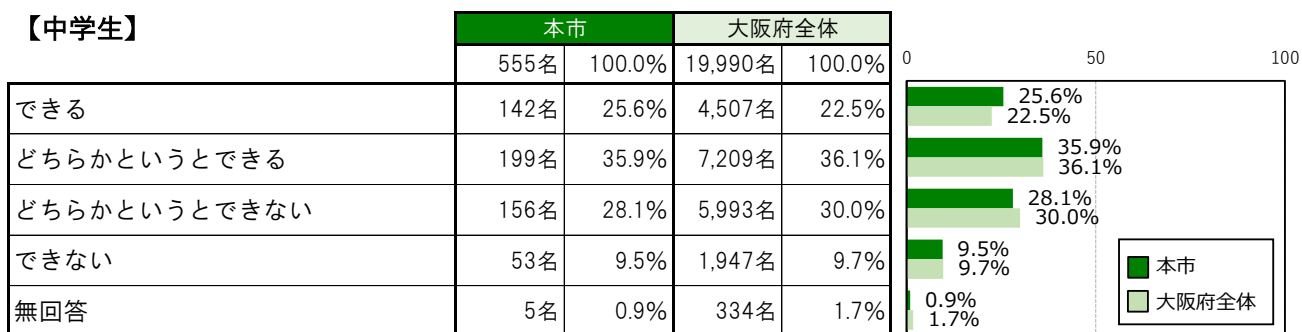
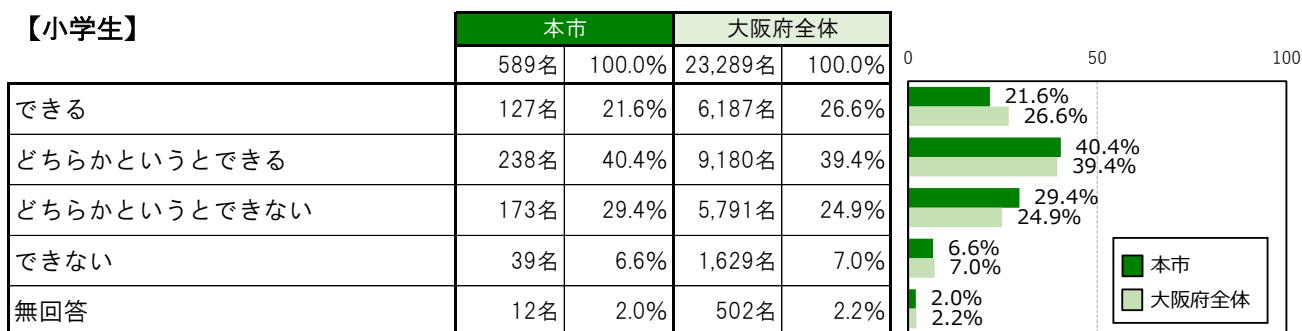
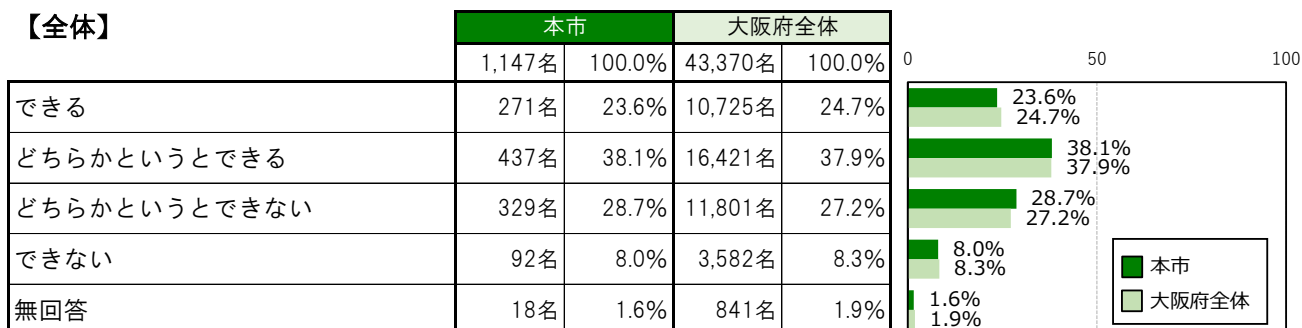
ふだん考えていることについて

問23 ふだん考えていること（2）自分の考えをはっきり相手に伝えることができる

全体は、「できる」が23.6%、「どちらかというところできる」が38.1%、「どちらかというところできない」が28.7%、「できない」が8.0%となっている。

小学生は、「できる」が21.6%、「どちらかというところできる」が40.4%、「どちらかというところできない」が29.4%、「できない」が6.6%となっている。

中学生は、「できる」が25.6%、「どちらかというところできる」が35.9%、「どちらかというところできない」が28.1%、「できない」が9.5%となっている。



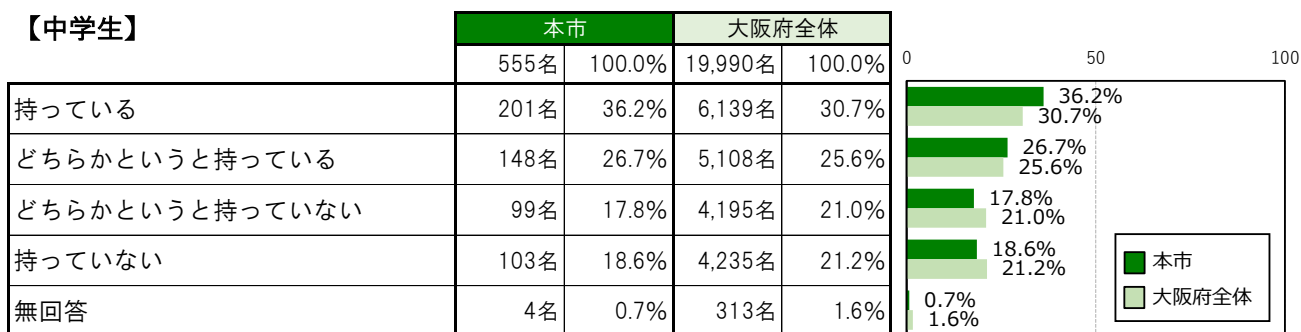
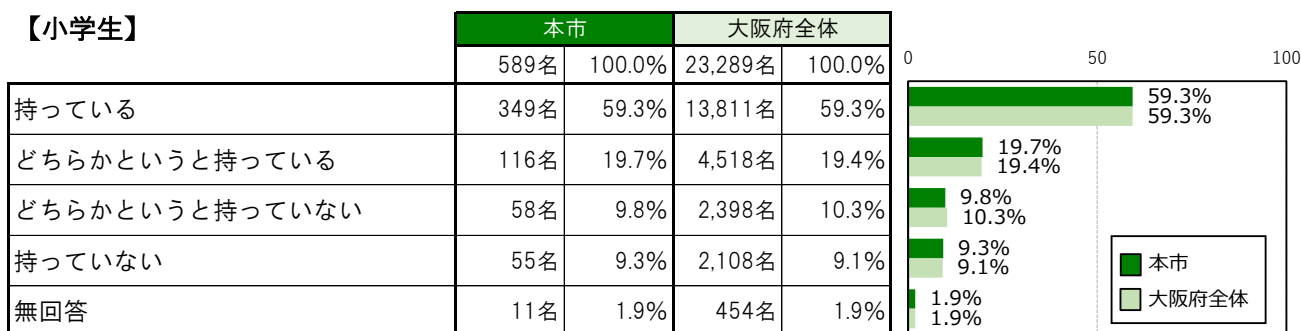
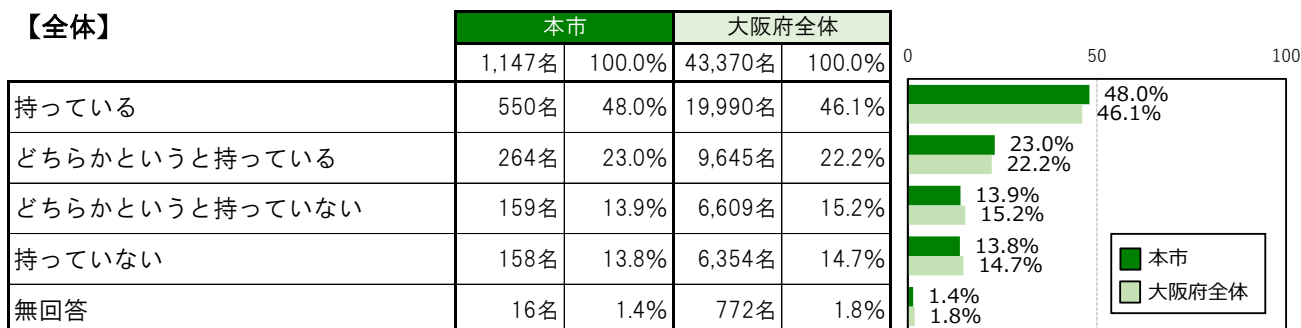
ふだん考えていることについて

問23 ふだん考えていること（3）自分の将来の夢や目標を持っている

全体は、「持っている」が48.0%、「どちらかというを持っている」が23.0%、「どちらかというと持っていない」が13.9%、「持っていない」が13.8%となっている。

小学生は、「持っている」が59.3%、「どちらかというを持っている」が19.7%、「どちらかというと持っていない」が9.8%、「持っていない」が9.3%となっている。

中学生は、「持っている」が36.2%、「どちらかというを持っている」が26.7%、「どちらかというと持っていない」が17.8%、「持っていない」が18.6%となっている。



ふだん考えていることについて

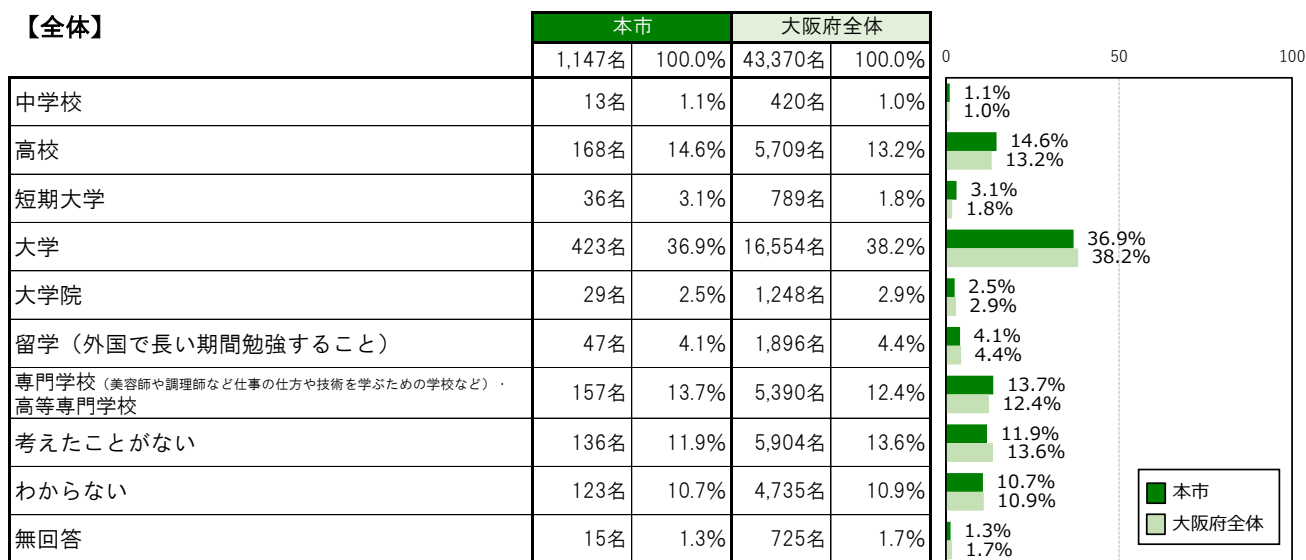
問24 希望する進学先

全体は、「大学」が36.9%で最も多く、次いで「高校」が14.6%、「専門学校（美容師や調理師など仕事の仕方や技術を学ぶための学校など）・高等専門学校」が13.7%、「考えたことがない」が11.9%、「留学（外国で長い期間勉強すること）」が4.1%となっている。

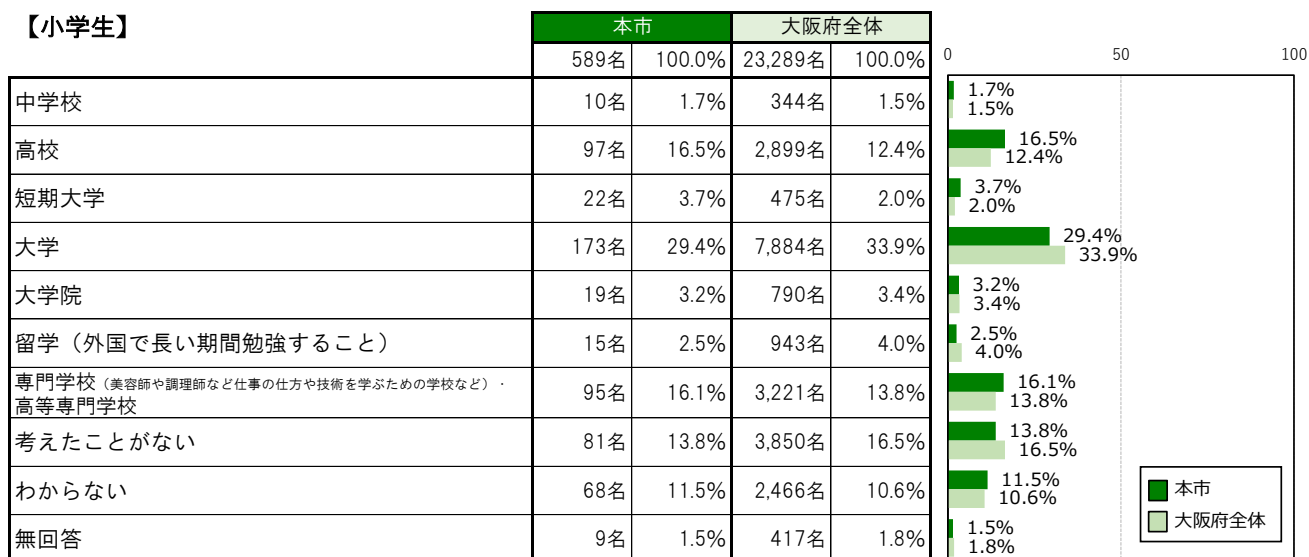
小学生は、「大学」が29.4%で最も多く、次いで「高校」が16.5%、「専門学校（美容師や調理師など仕事の仕方や技術を学ぶための学校など）・高等専門学校」が16.1%、「考えたことがない」が13.8%、「短期大学」が3.7%となっている。

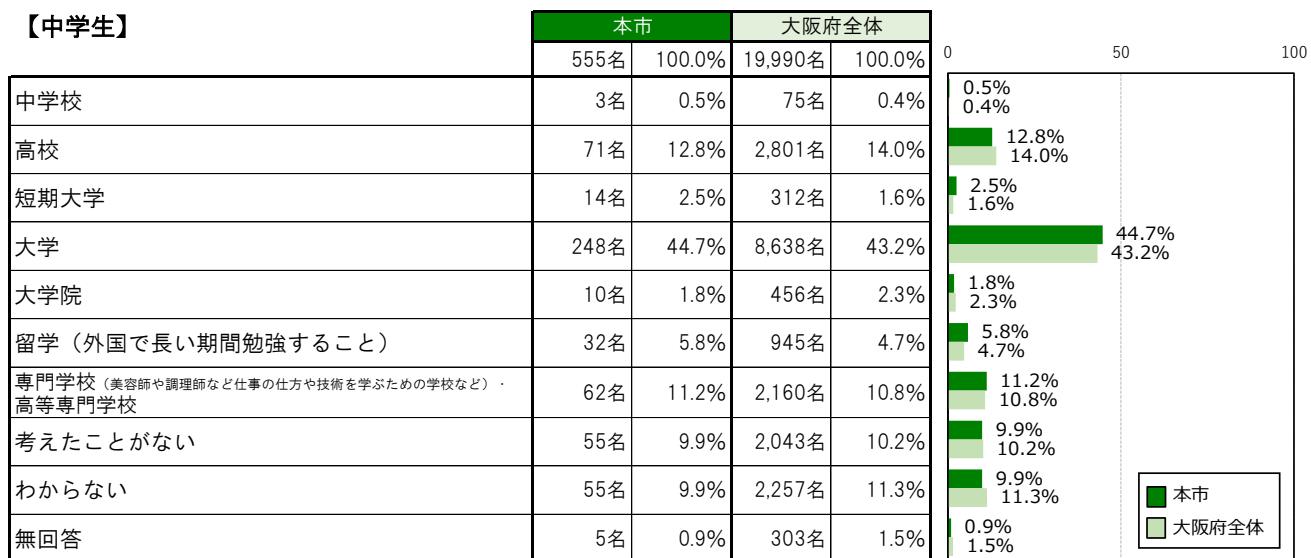
中学生は、「大学」が44.7%で最も多く、次いで「高校」が12.8%、「専門学校（美容師や調理師など仕事の仕方や技術を学ぶための学校など）・高等専門学校」が11.2%、「考えたことがない」が9.9%、「留学（外国で長い期間勉強すること）」が5.8%となっている。

【全体】



【小学生】





あなたのことについて

問25（１）子どもの居場所の利用状況 ①平日の夜や休日を過ごすことができる場所（学童保育など）

全体は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が40.7%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が25.5%、「利用したことがある」が22.1%となっている。

小学生は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が36.5%で最も多く、次いで「利用したことがある」が25.1%、「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が24.6%となっている。

中学生は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が45.4%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が26.3%、「利用したことがある」が19.1%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



あなたのことについて

問25(1) 子どもの居場所の利用状況

②昼食や夕食、お弁当を無料か安い料分で食べることができる場所(子ども食堂など)

全体は、「利用したことはない(今後も利用したいか分からない)」が45.9%で最も多く、次いで「利用したことはない(あれば利用したいと思う)」が23.6%、「利用したことはない(今後も利用したいと思わない)」が20.3%、「利用したことがある」が9.2%となっている。

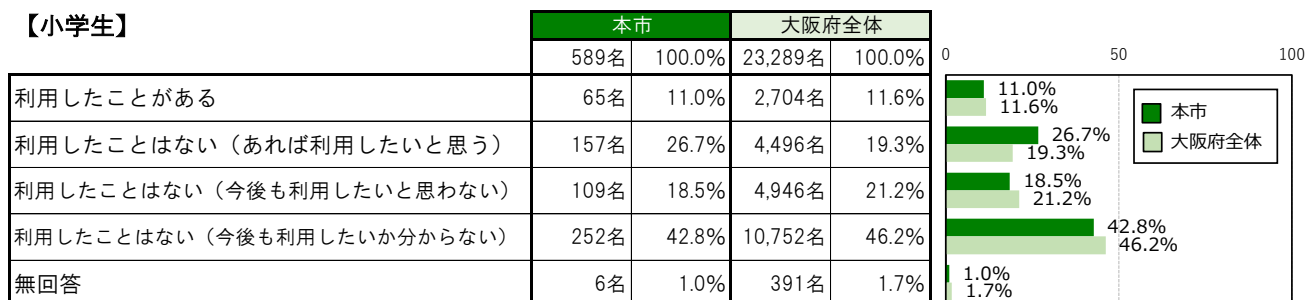
小学生は、「利用したことはない(今後も利用したいか分からない)」が42.8%で最も多く、次いで「利用したことはない(あれば利用したいと思う)」が26.7%、「利用したことはない(今後も利用したいと思わない)」が18.5%、「利用したことがある」が11.0%となっている。

中学生は、「利用したことはない(今後も利用したいか分からない)」が49.5%で最も多く、次いで「利用したことはない(あれば利用したいと思う)」が22.2%、「利用したことはない(今後も利用したいと思わない)」が20.4%、「利用したことがある」が7.4%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



あなたのことについて

問25（１）子どもの居場所の利用状況

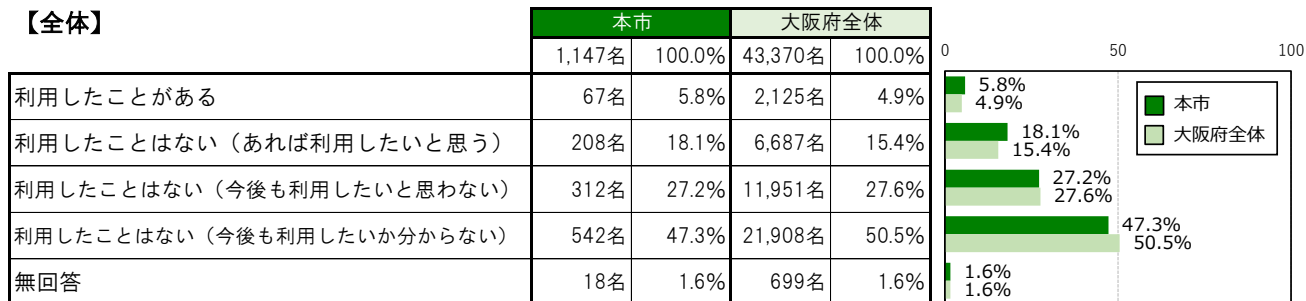
③勉強を無料か安い料金でみてる場所（一般的な学習塾とはちがう学習支援など）

全体は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が47.3%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が27.2%、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が18.1%となっている。

小学生は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が45.8%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が27.2%、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が18.3%となっている。

中学生は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が49.0%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が27.2%、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が17.8%となっている。

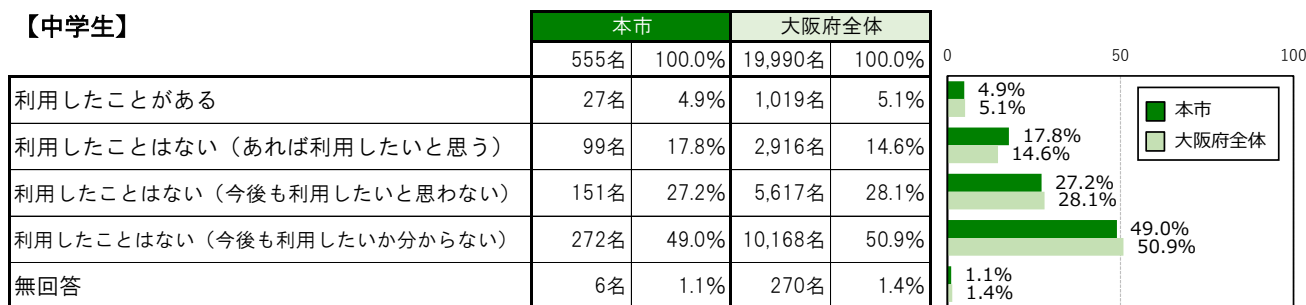
【全体】



【小学生】



【中学生】



あなたのことについて

問25 (1) 子どもの居場所の利用状況 ④何でも相談できる場所（電話やネットの相談をふくむ。）

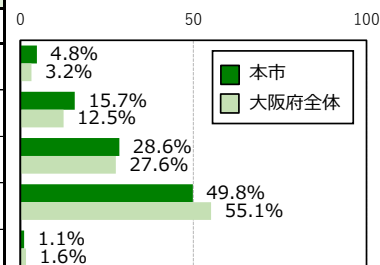
全体は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が49.8%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が28.6%、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が15.7%、「利用したことがある」が4.8%となっている。

小学生は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が49.1%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が27.3%、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が17.0%、「利用したことがある」が5.3%となっている。

中学生は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が50.8%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が29.7%、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が14.4%、「利用したことがある」が4.3%となっている。

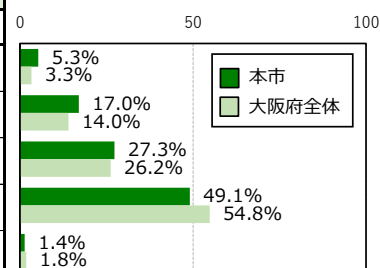
【全体】

	本市		大阪府全体	
	1,147名	100.0%	43,370名	100.0%
利用したことがある	55名	4.8%	1,392名	3.2%
利用したことはない（あれば利用したいと思う）	180名	15.7%	5,439名	12.5%
利用したことはない（今後も利用したいと思わない）	328名	28.6%	11,956名	27.6%
利用したことはない（今後も利用したいか分からない）	571名	49.8%	23,876名	55.1%
無回答	13名	1.1%	707名	1.6%



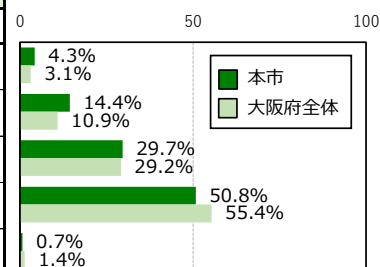
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	589名	100.0%	23,289名	100.0%
利用したことがある	31名	5.3%	763名	3.3%
利用したことはない（あれば利用したいと思う）	100名	17.0%	3,254名	14.0%
利用したことはない（今後も利用したいと思わない）	161名	27.3%	6,091名	26.2%
利用したことはない（今後も利用したいか分からない）	289名	49.1%	12,751名	54.8%
無回答	8名	1.4%	430名	1.8%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	555名	100.0%	19,990名	100.0%
利用したことがある	24名	4.3%	625名	3.1%
利用したことはない（あれば利用したいと思う）	80名	14.4%	2,178名	10.9%
利用したことはない（今後も利用したいと思わない）	165名	29.7%	5,839名	29.2%
利用したことはない（今後も利用したいか分からない）	282名	50.8%	11,076名	55.4%
無回答	4名	0.7%	272名	1.4%



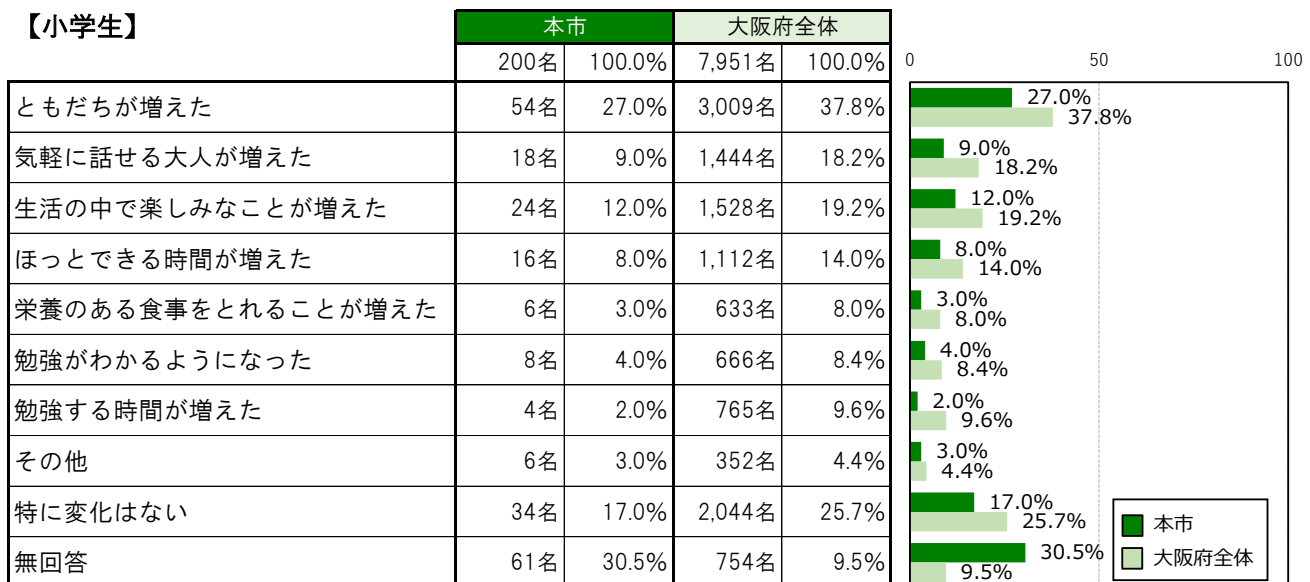
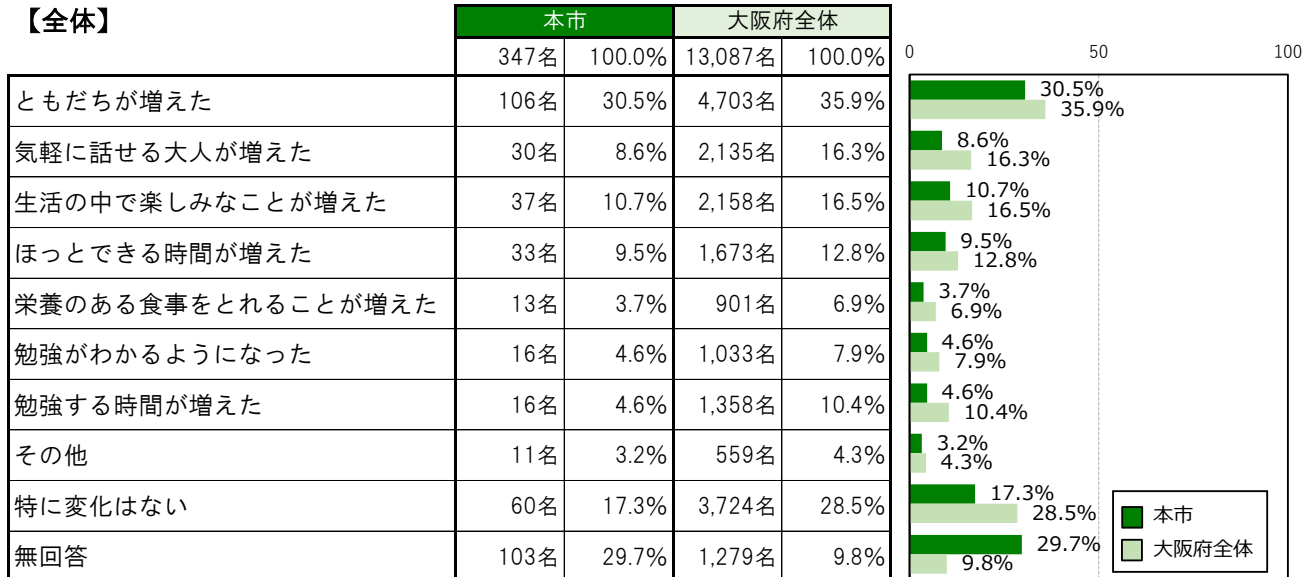
あなたのことについて

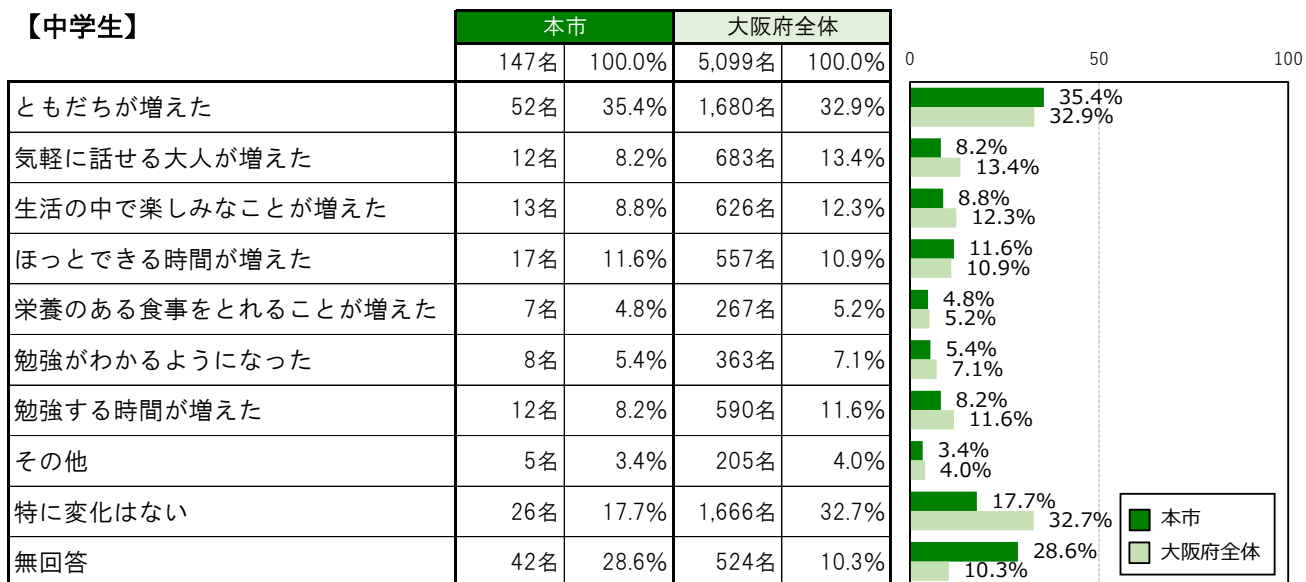
問25（２）子どもの居場所を利用したときの変化

全体は、「ともだちが増えた」が30.5%で最も多く、次いで「生活の中で楽しいことが増えた」が10.7%、「ほっとできる時間が増えた」が9.5%、「気軽に話せる大人が増えた」が8.6%となっている。

小学生は、「ともだちが増えた」が27.0%で最も多く、次いで「生活の中で楽しいことが増えた」が12.0%、「気軽に話せる大人が増えた」が9.0%、「ほっとできる時間が増えた」が8.0%となっている。

中学生は、「ともだちが増えた」が35.4%で最も多く、次いで「ほっとできる時間が増えた」が11.6%、「生活の中で楽しいことが増えた」が8.8%、「気軽に話せる大人が増えた」、「勉強する時間が増えた」がそれぞれ8.2%となっている。





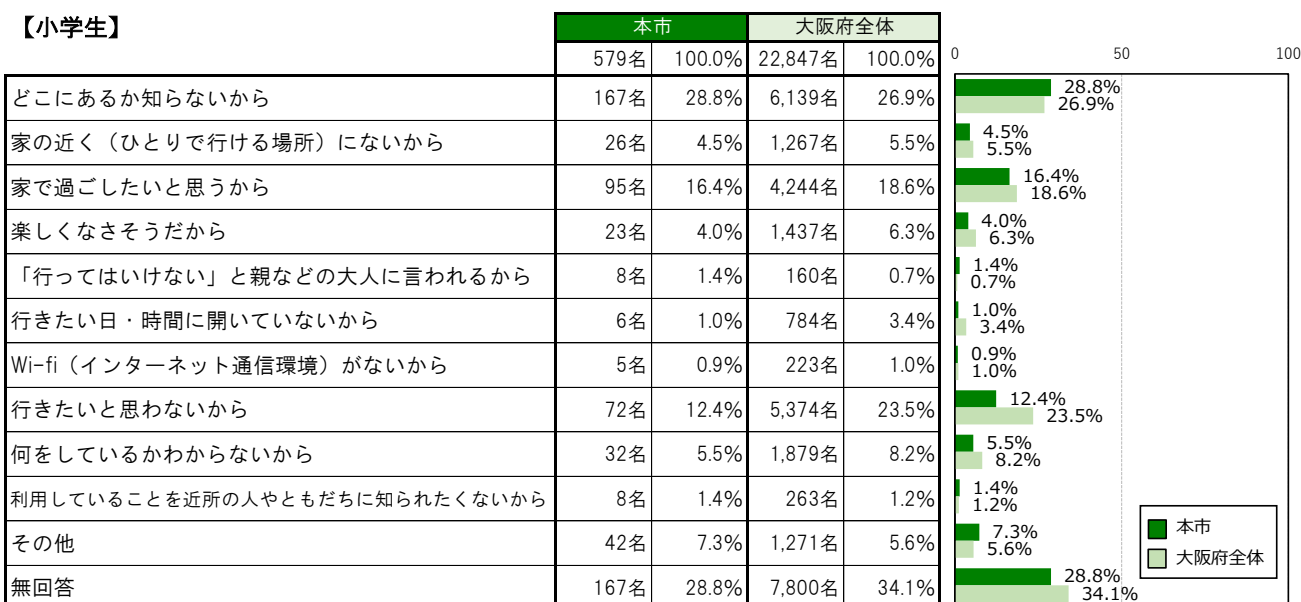
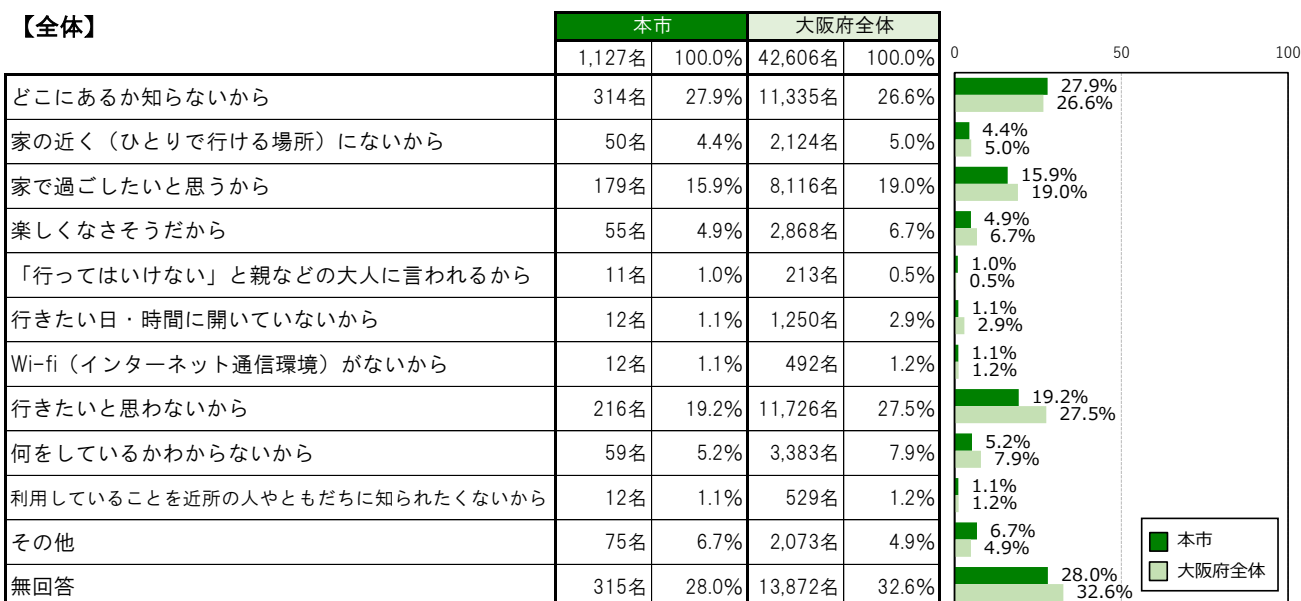
あなたのことについて

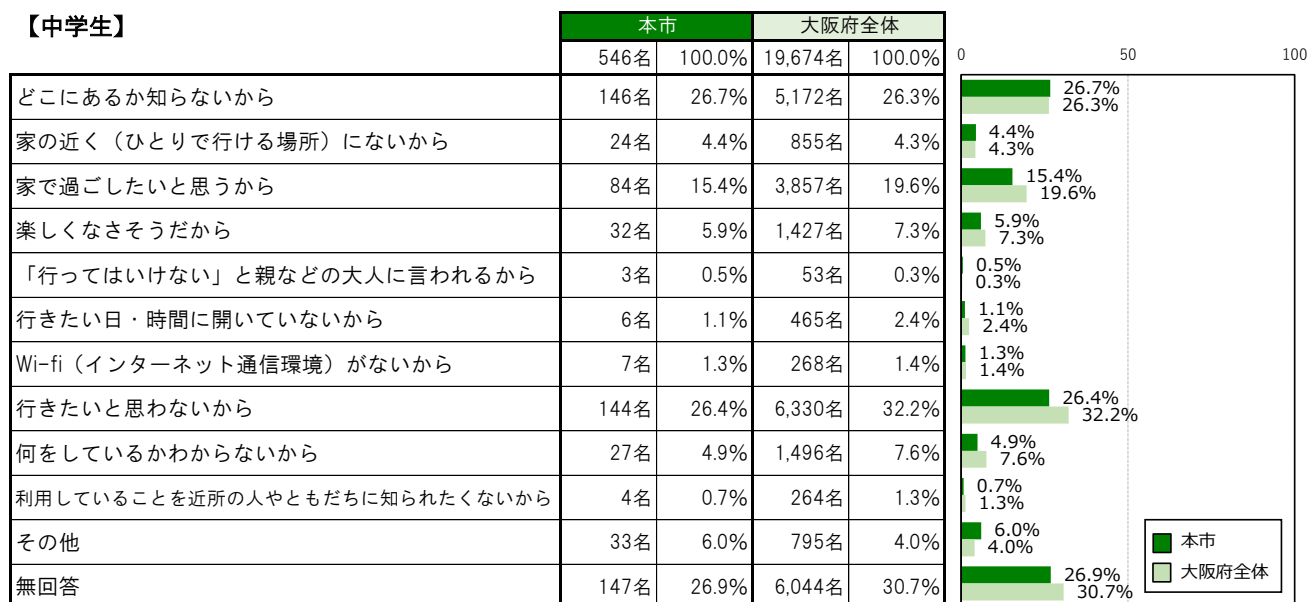
問25（3）子どもの居場所を利用したことがない理由

全体は、「どこにあるか知らないから」が27.9%で最も多く、次いで「行きたいと思わないから」が19.2%、「家で過ごしたいと思うから」が15.9%、「何をしているかわからないから」が5.2%となっている。

小学生は、「どこにあるか知らないから」が28.8%で最も多く、次いで「家で過ごしたいと思うから」が16.4%、「行きたいと思わないから」が12.4%、「何をしているかわからないから」が5.5%となっている。

中学生は、「どこにあるか知らないから」が26.7%で最も多く、次いで「行きたいと思わないから」が26.4%、「家で過ごしたいと思うから」が15.4%、「楽しくなさそうだから」が5.9%となっている。





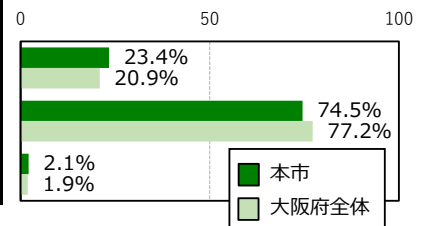
あなたのことについて

問26（１）自分が世話をしている人の有無

全体は、「いる」が23.4%、「いない」が74.5%となっている。
 小学生は、「いる」が32.3%、「いない」が65.5%となっている。
 中学生は、「いる」が14.1%、「いない」が84.1%となっている。

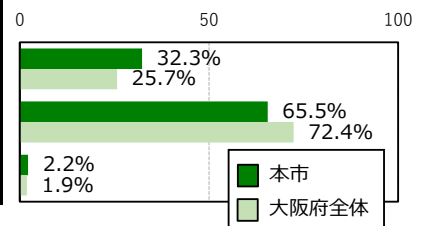
【全体】

	本市		大阪府全体	
	1,147名	100.0%	43,370名	100.0%
いる	268名	23.4%	9,054名	20.9%
いない	855名	74.5%	33,476名	77.2%
無回答	24名	2.1%	840名	1.9%



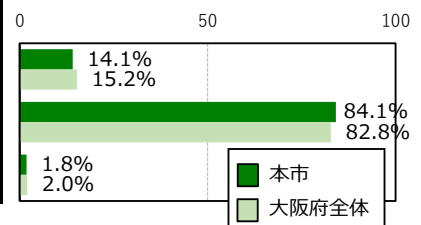
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	589名	100.0%	23,289名	100.0%
いる	190名	32.3%	5,988名	25.7%
いない	386名	65.5%	16,856名	72.4%
無回答	13名	2.2%	445名	1.9%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	555名	100.0%	19,990名	100.0%
いる	78名	14.1%	3,045名	15.2%
いない	467名	84.1%	16,553名	82.8%
無回答	10名	1.8%	392名	2.0%



あなたのことについて

問26（2）世話をしている相手

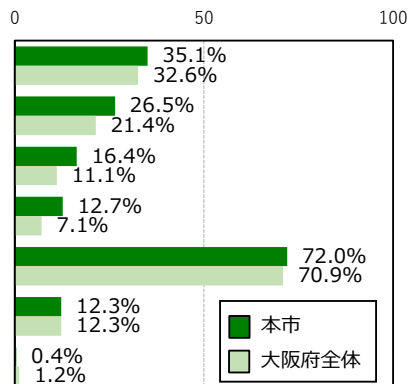
全体は、「お母さん」が35.1%、「お父さん」が26.5%、「おばあちゃん」が16.4%、「おじいちゃん」が12.7%、「きょうだい」が72.0%となっている。

小学生は、「お母さん」が36.8%、「お父さん」が26.8%、「おばあちゃん」が17.4%、「おじいちゃん」が15.3%、「きょうだい」が74.7%となっている。

中学生は、「お母さん」が30.8%、「お父さん」が25.6%、「おばあちゃん」が14.1%、「おじいちゃん」が6.4%、「きょうだい」が65.4%となっている。

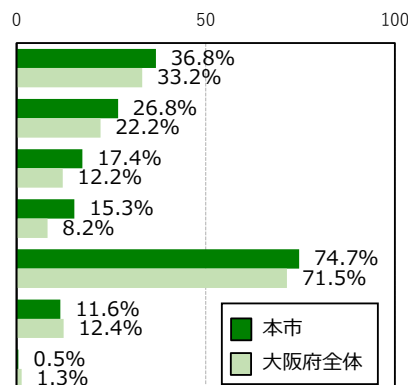
【全体】

	本市		大阪府全体	
	268名	100.0%	9,054名	100.0%
お母さん	94名	35.1%	2,954名	32.6%
お父さん	71名	26.5%	1,939名	21.4%
おばあちゃん	44名	16.4%	1,009名	11.1%
おじいちゃん	34名	12.7%	647名	7.1%
きょうだい	193名	72.0%	6,419名	70.9%
その他	33名	12.3%	1,117名	12.3%
無回答	1名	0.4%	112名	1.2%



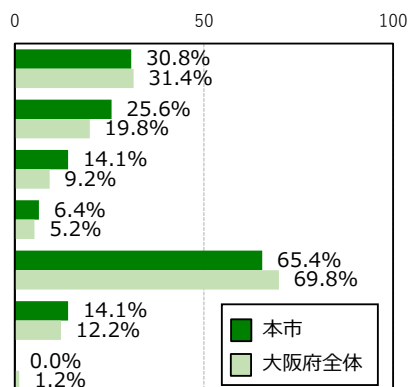
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	190名	100.0%	5,988名	100.0%
お母さん	70名	36.8%	1,990名	33.2%
お父さん	51名	26.8%	1,332名	22.2%
おばあちゃん	33名	17.4%	728名	12.2%
おじいちゃん	29名	15.3%	489名	8.2%
きょうだい	142名	74.7%	4,280名	71.5%
その他	22名	11.6%	741名	12.4%
無回答	1名	0.5%	75名	1.3%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	78名	100.0%	3,045名	100.0%
お母さん	24名	30.8%	957名	31.4%
お父さん	20名	25.6%	604名	19.8%
おばあちゃん	11名	14.1%	280名	9.2%
おじいちゃん	5名	6.4%	157名	5.2%
きょうだい	51名	65.4%	2,125名	69.8%
その他	11名	14.1%	370名	12.2%
無回答	-	-	37名	1.2%



あなたのことについて

問26（3）世話をしている内容

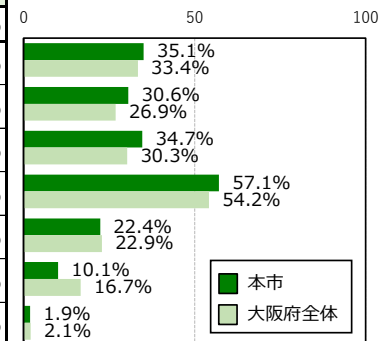
全体は、「きょうだいのめんどうを見ることや保育所のおむかえなど」が57.1%で最も多く、次いで「料理や買い物、食器洗いなど」が35.1%、「そうじやゴミ捨てなど」が34.7%、「洗濯など」が30.6%となっている。

小学生は、「きょうだいのめんどうを見ることや保育所のおむかえなど」が56.3%で最も多く、次いで「そうじやゴミ捨てなど」が35.8%、「料理や買い物、食器洗いなど」が34.7%、「洗濯など」が32.1%となっている。

中学生は、「きょうだいのめんどうを見ることや保育所のおむかえなど」が59.0%で最も多く、次いで「料理や買い物、食器洗いなど」が35.9%、「そうじやゴミ捨てなど」が32.1%、「洗濯など」が26.9%となっている。

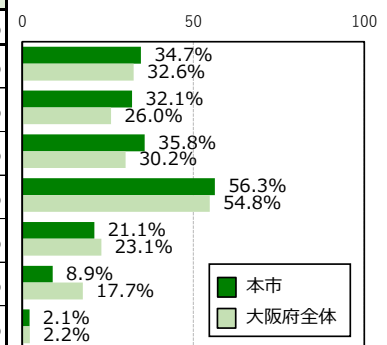
【全体】

	本市		大阪府全体	
	268名	100.0%	9,054名	100.0%
料理や買い物、食器洗いなど	94名	35.1%	3,021名	33.4%
洗濯など	82名	30.6%	2,439名	26.9%
そうじやゴミ捨てなど	93名	34.7%	2,746名	30.3%
きょうだいのめんどうを見ることや保育所のおむかえなど	153名	57.1%	4,907名	54.2%
病院へ一緒に行くことやお風呂・トイレのお世話、見守りをする、話し相手になる、通訳をする、お金の管理、薬の管理など	60名	22.4%	2,069名	22.9%
その他	27名	10.1%	1,516名	16.7%
無回答	5名	1.9%	189名	2.1%



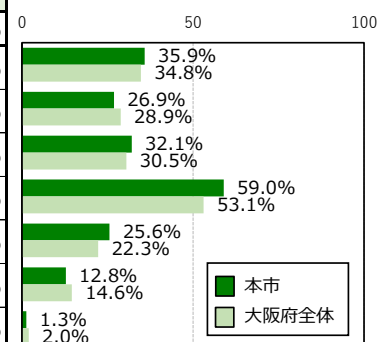
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	190名	100.0%	5,988名	100.0%
料理や買い物、食器洗いなど	66名	34.7%	1,954名	32.6%
洗濯など	61名	32.1%	1,554名	26.0%
そうじやゴミ捨てなど	68名	35.8%	1,810名	30.2%
きょうだいのめんどうを見ることや保育所のおむかえなど	107名	56.3%	3,280名	54.8%
病院へ一緒に行くことやお風呂・トイレのお世話、見守りをする、話し相手になる、通訳をする、お金の管理、薬の管理など	40名	21.1%	1,385名	23.1%
その他	17名	8.9%	1,062名	17.7%
無回答	4名	2.1%	129名	2.2%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	78名	100.0%	3,045名	100.0%
料理や買い物、食器洗いなど	28名	35.9%	1,061名	34.8%
洗濯など	21名	26.9%	879名	28.9%
そうじやゴミ捨てなど	25名	32.1%	928名	30.5%
きょうだいのめんどうを見ることや保育所のおむかえなど	46名	59.0%	1,617名	53.1%
病院へ一緒に行くことやお風呂・トイレのお世話、見守りをする、話し相手になる、通訳をする、お金の管理、薬の管理など	20名	25.6%	678名	22.3%
その他	10名	12.8%	446名	14.6%
無回答	1名	1.3%	60名	2.0%



あなたのことについて

問26（５）世話をする頻度

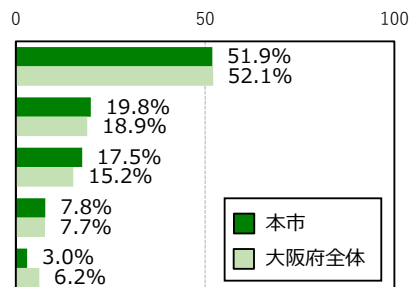
全体は、「ほぼ毎日」が51.9%で最も多く、次いで「週に３日～５日」が19.8%、「週に１日または２日」が17.5%、「１か月に数日」が7.8%となっている。

小学生は、「ほぼ毎日」が53.7%で最も多く、次いで「週に３日～５日」が18.9%、「週に１日または２日」が16.8%、「１か月に数日」が7.4%となっている。

中学生は、「ほぼ毎日」が47.4%で最も多く、次いで「週に３日～５日」が21.8%、「週に１日または２日」が19.2%、「１か月に数日」が9.0%となっている。

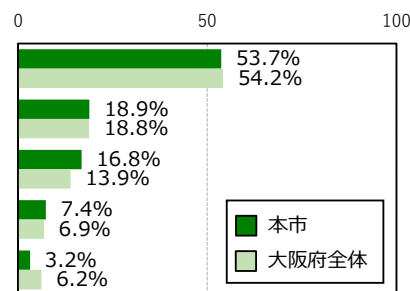
【全体】

	本市		大阪府全体	
	268名	100.0%	9,054名	100.0%
ほぼ毎日	139名	51.9%	4,716名	52.1%
週に３日～５日	53名	19.8%	1,708名	18.9%
週に１日または２日	47名	17.5%	1,375名	15.2%
１か月に数日	21名	7.8%	694名	7.7%
無回答	8名	3.0%	561名	6.2%



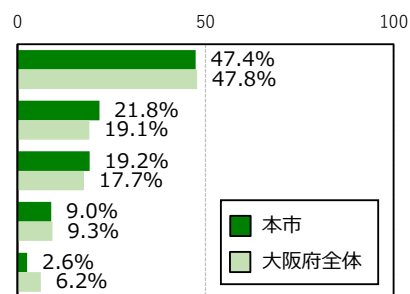
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	190名	100.0%	5,988名	100.0%
ほぼ毎日	102名	53.7%	3,246名	54.2%
週に３日～５日	36名	18.9%	1,125名	18.8%
週に１日または２日	32名	16.8%	832名	13.9%
１か月に数日	14名	7.4%	412名	6.9%
無回答	6名	3.2%	373名	6.2%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	78名	100.0%	3,045名	100.0%
ほぼ毎日	37名	47.4%	1,455名	47.8%
週に３日～５日	17名	21.8%	582名	19.1%
週に１日または２日	15名	19.2%	538名	17.7%
１か月に数日	7名	9.0%	282名	9.3%
無回答	2名	2.6%	188名	6.2%



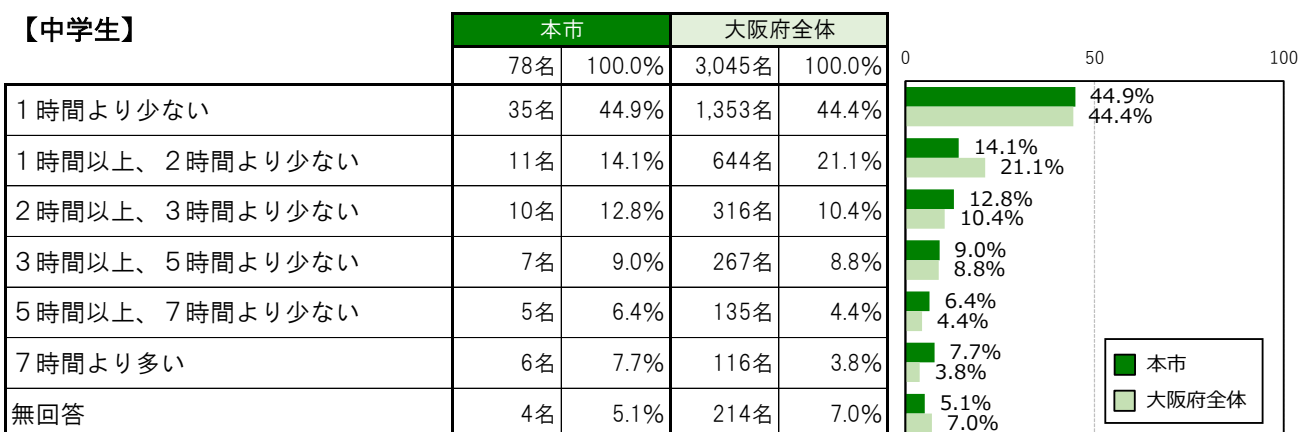
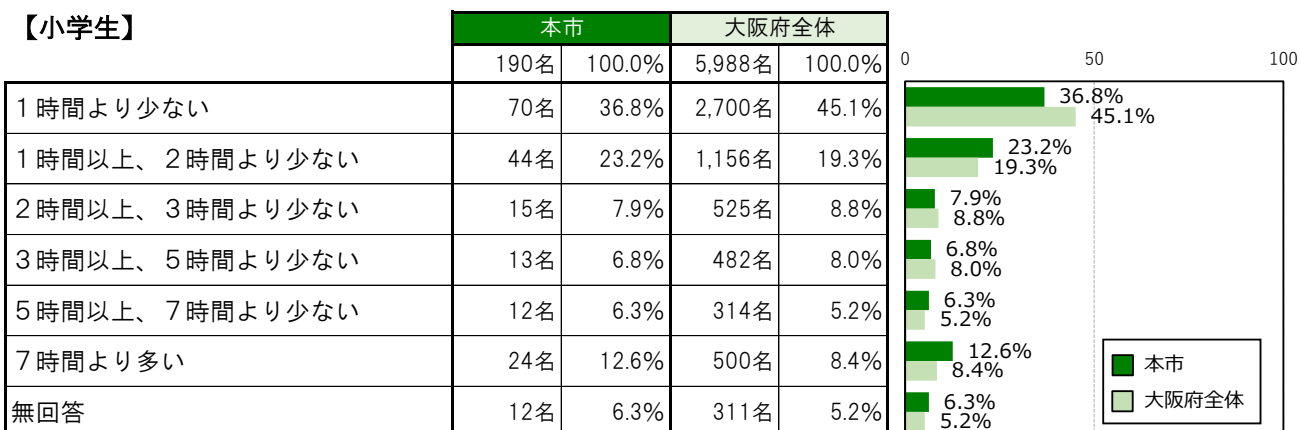
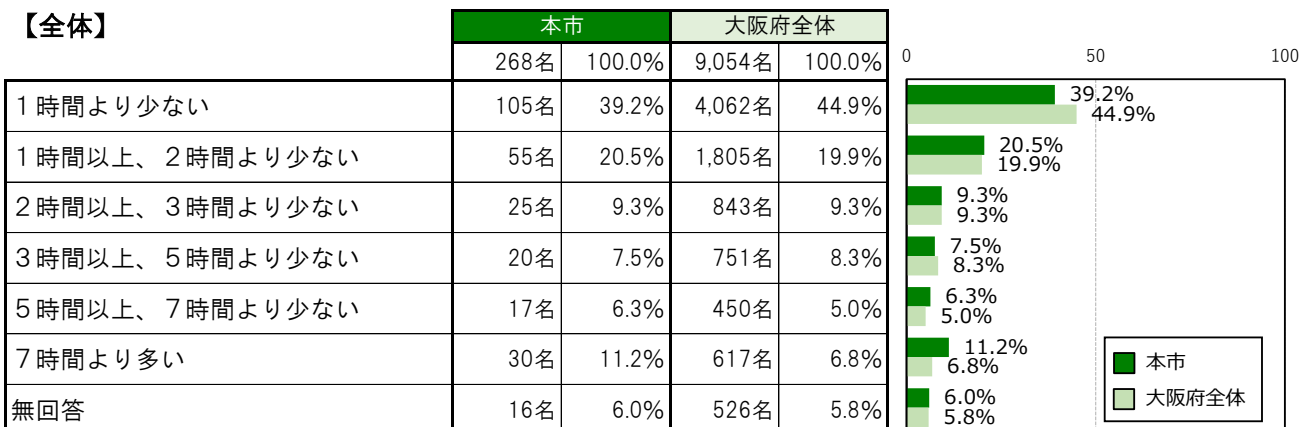
あなたのことについて

問26（６）学校がある日に世話をする１日の時間

全体は、「１時間より少ない」が39.2%で最も多く、次いで「１時間以上、２時間より少ない」が20.5%、「７時間より多い」が11.2%、「２時間以上、３時間より少ない」が9.3%となっている。

小学生は、「１時間より少ない」が36.8%で最も多く、次いで「１時間以上、２時間より少ない」が23.2%、「７時間より多い」が12.6%、「２時間以上、３時間より少ない」が7.9%となっている。

中学生は、「１時間より少ない」が44.9%で最も多く、次いで「１時間以上、２時間より少ない」が14.1%、「２時間以上、３時間より少ない」が12.8%、「３時間以上、５時間より少ない」が9.0%となっている。



あなたのことについて

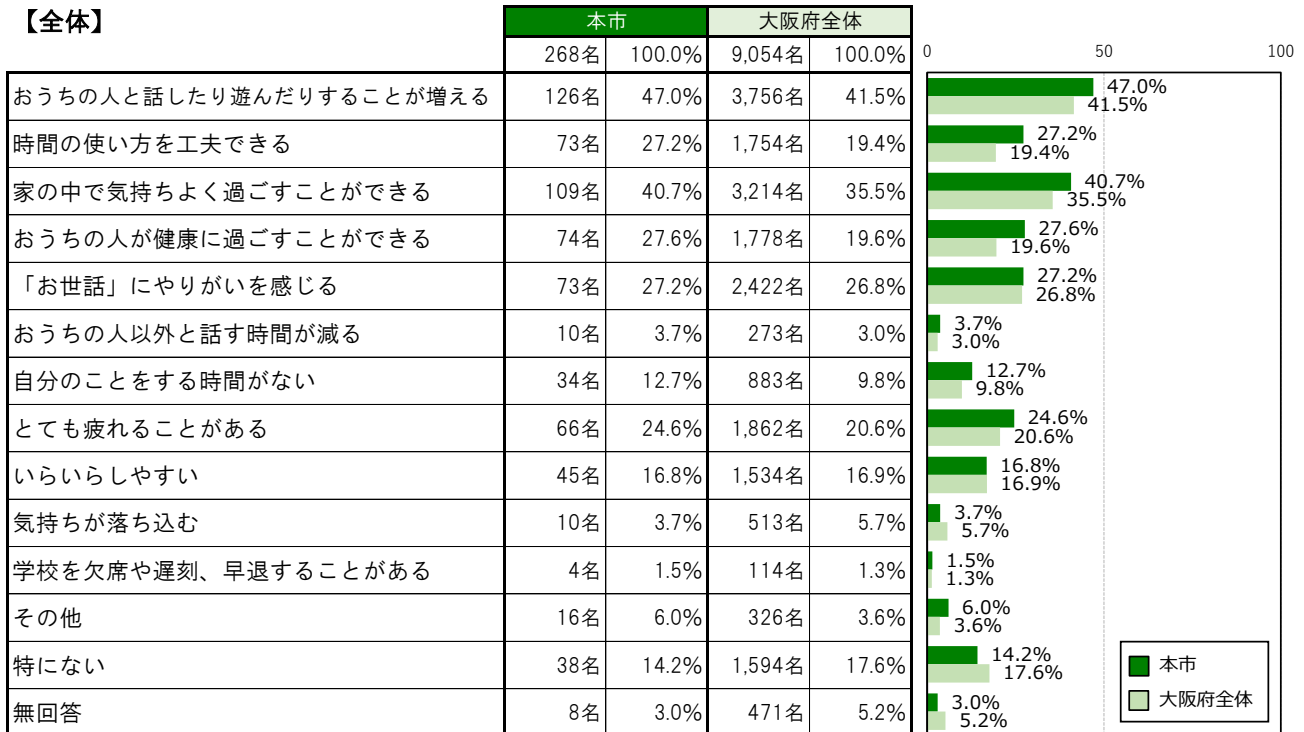
問26（7）世話をしていることの影響

全体は、「おうちの人と話したり遊んだりすることが増える」が47.0%で最も多く、次いで「家の中で気持ちよく過ごすことができる」が40.7%、「おうちの人が健康に過ごすことができる」が27.6%、「時間の使い方を工夫できる」、「「お世話」にやりがいを感じる」がそれぞれ27.2%となっている。

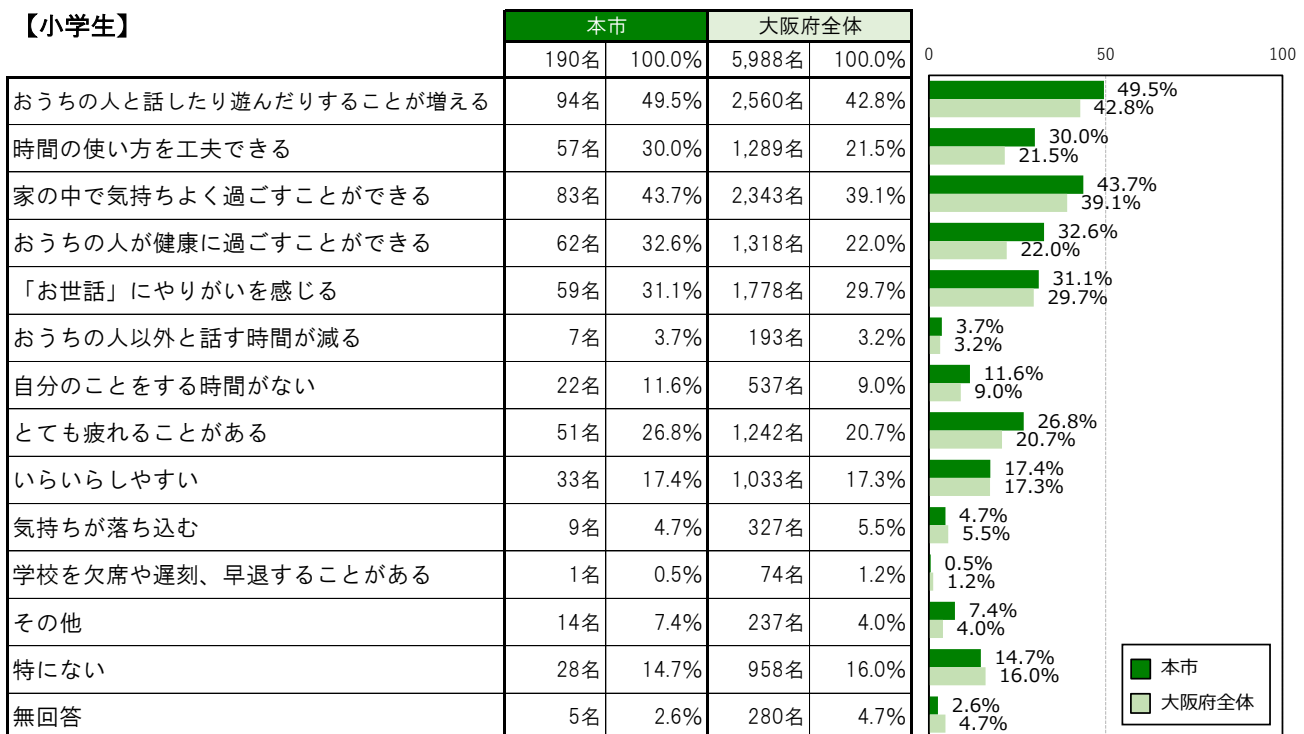
小学生は、「おうちの人と話したり遊んだりすることが増える」が49.5%で最も多く、次いで「家の中で気持ちよく過ごすことができる」が43.7%、「おうちの人が健康に過ごすことができる」が32.6%、「「お世話」にやりがいを感じる」が31.1%となっている。

中学生は、「おうちの人と話したり遊んだりすることが増える」が41.0%で最も多く、次いで「家の中で気持ちよく過ごすことができる」が33.3%、「時間の使い方を工夫できる」が20.5%、「とても疲れることがある」が19.2%となっている。

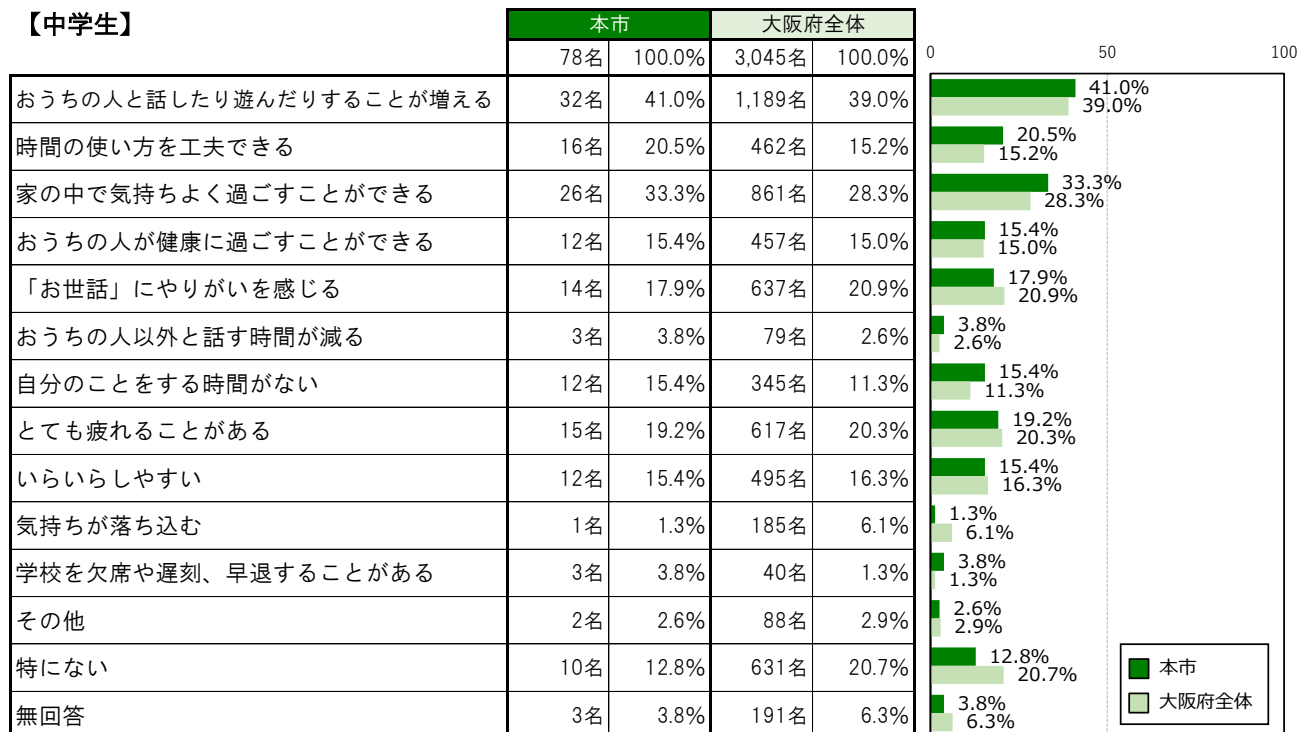
【全体】



【小学生】



【中学生】



2. 単純集計結果〔保護者〕

交野市

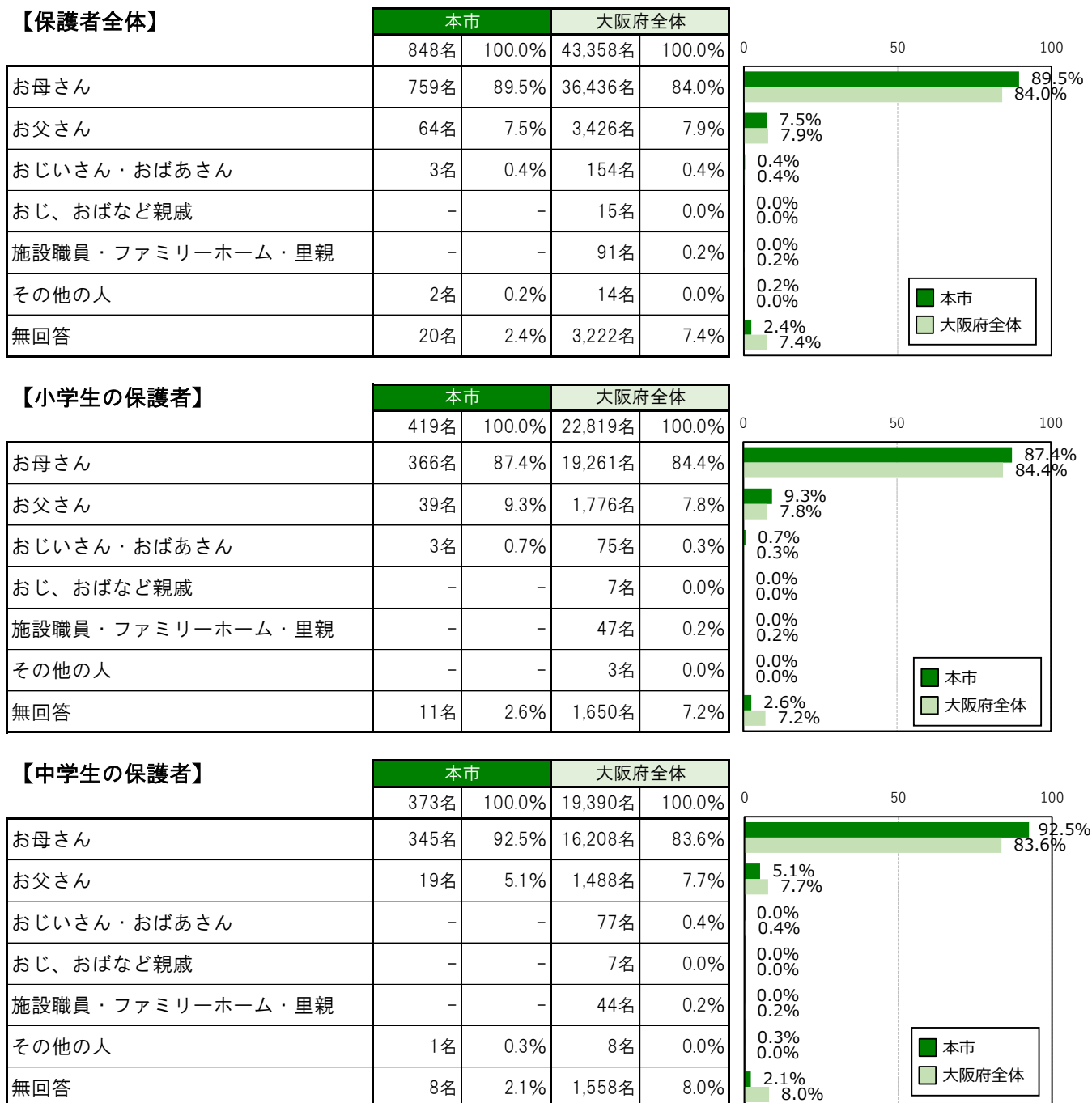
子どもとの関係について

問1 子どもとの続柄

保護者全体は、「お母さん」が89.5%で最も多く、次いで「お父さん」が7.5%、「おじいさん・おばあさん」が0.4%となっている。

小学生の保護者は、「お母さん」が87.4%で最も多く、次いで「お父さん」が9.3%となっている。

中学生の保護者は、「お母さん」が92.5%で最も多く、次いで「お父さん」が5.1%となっている。



世帯の状況について

問2 世帯構成 ①おばあさん

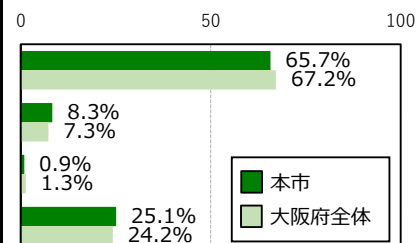
保護者全体は、「いない」が65.7%で最も多く、次いで「1人」が8.3%、「2人」が0.9%となっている。

小学生の保護者は、「いない」が66.8%で最も多く、次いで「1人」が7.2%、「2人」が1.0%となっている。

中学生の保護者は、「いない」が64.9%で最も多く、次いで「1人」が8.8%、「2人」が1.1%となっている。

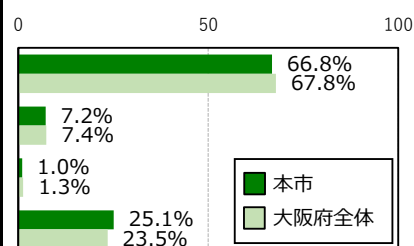
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	557名	65.7%	29,081名	67.2%
1人	70名	8.3%	3,181名	7.3%
2人	8名	0.9%	555名	1.3%
無回答	213名	25.1%	10,483名	24.2%



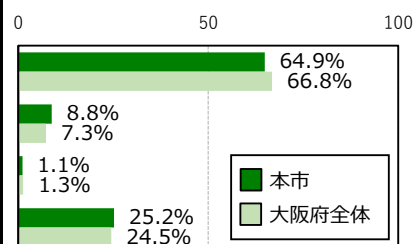
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	280名	66.8%	15,456名	67.8%
1人	30名	7.2%	1,681名	7.4%
2人	4名	1.0%	286名	1.3%
無回答	105名	25.1%	5,363名	23.5%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	242名	64.9%	12,942名	66.8%
1人	33名	8.8%	1,422名	7.3%
2人	4名	1.1%	257名	1.3%
無回答	94名	25.2%	4,744名	24.5%



世帯の状況について

問2 世帯構成 ②おじいさん

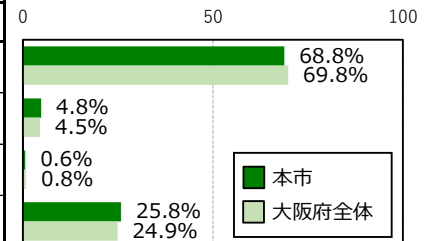
保護者全体は、「いない」が68.8%で最も多く、次いで「1人」が4.8%、「2人」が0.6%となっている。

小学生の保護者は、「いない」が69.9%で最も多く、次いで「1人」が4.1%、「2人」が0.5%となっている。

中学生の保護者は、「いない」が68.1%で最も多く、次いで「1人」が4.8%、「2人」が0.8%となっている。

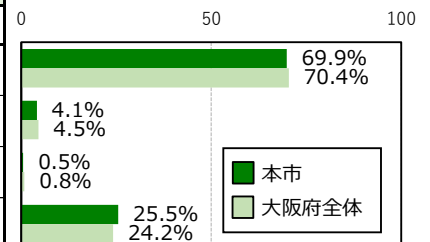
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	583名	68.8%	30,230名	69.8%
1人	41名	4.8%	1,932名	4.5%
2人	5名	0.6%	340名	0.8%
無回答	219名	25.8%	10,798名	24.9%



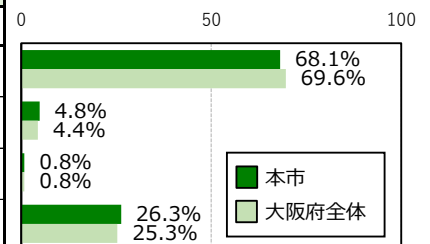
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	293名	69.9%	16,050名	70.4%
1人	17名	4.1%	1,031名	4.5%
2人	2名	0.5%	186名	0.8%
無回答	107名	25.5%	5,519名	24.2%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	254名	68.1%	13,474名	69.6%
1人	18名	4.8%	853名	4.4%
2人	3名	0.8%	148名	0.8%
無回答	98名	26.3%	4,890名	25.3%



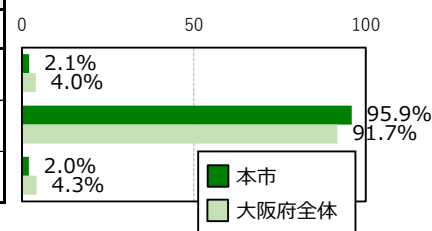
世帯の状況について

問2 世帯構成 ③お母さん

保護者全体は、「いない」が2.1%、「1人」が95.9%となっている。
 小学生の保護者は、「いない」が1.7%、「1人」が96.2%となっている。
 中学生の保護者は、「いない」が2.4%、「1人」が95.7%となっている。

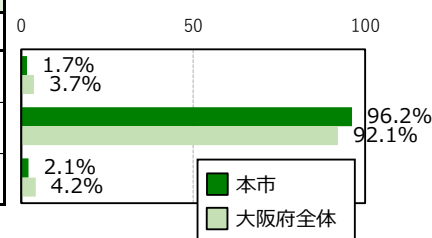
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
	848名	100.0%	43,300名	100.0%
いない	18名	2.1%	1,729名	4.0%
1人	813名	95.9%	39,706名	91.7%
無回答	17名	2.0%	1,865名	4.3%



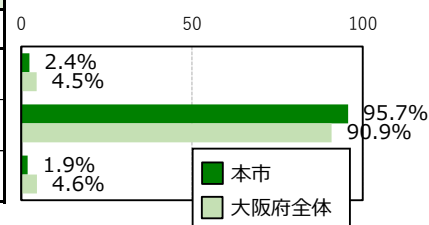
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
	419名	100.0%	22,786名	100.0%
いない	7名	1.7%	841名	3.7%
1人	403名	96.2%	20,990名	92.1%
無回答	9名	2.1%	955名	4.2%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
	373名	100.0%	19,365名	100.0%
いない	9名	2.4%	872名	4.5%
1人	357名	95.7%	17,597名	90.9%
無回答	7名	1.9%	896名	4.6%



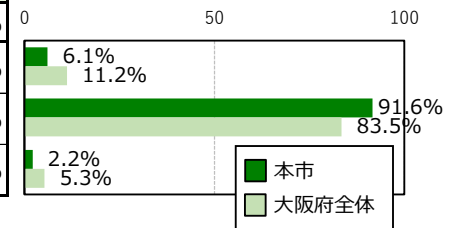
世帯の状況について

問2 世帯構成 ④お父さん

保護者全体は、「いない」が6.1%、「1人」が91.6%となっている。
 小学生の保護者は、「いない」が5.5%、「1人」が93.1%となっている。
 中学生の保護者は、「いない」が6.7%、「1人」が90.1%となっている。

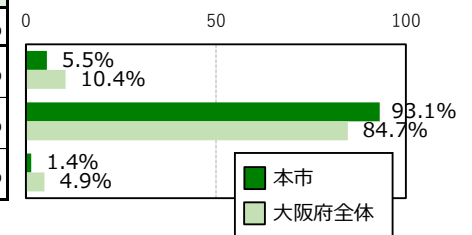
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
	848名	100.0%	43,300名	100.0%
いない	52名	6.1%	4,852名	11.2%
1人	777名	91.6%	36,166名	83.5%
無回答	19名	2.2%	2,282名	5.3%



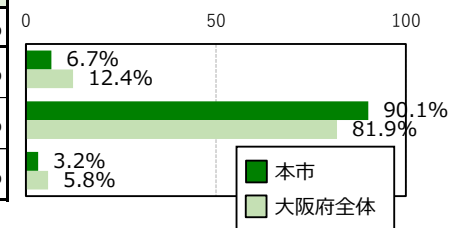
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
	419名	100.0%	22,786名	100.0%
いない	23名	5.5%	2,372名	10.4%
1人	390名	93.1%	19,301名	84.7%
無回答	6名	1.4%	1,113名	4.9%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
	373名	100.0%	19,365名	100.0%
いない	25名	6.7%	2,394名	12.4%
1人	336名	90.1%	15,852名	81.9%
無回答	12名	3.2%	1,119名	5.8%



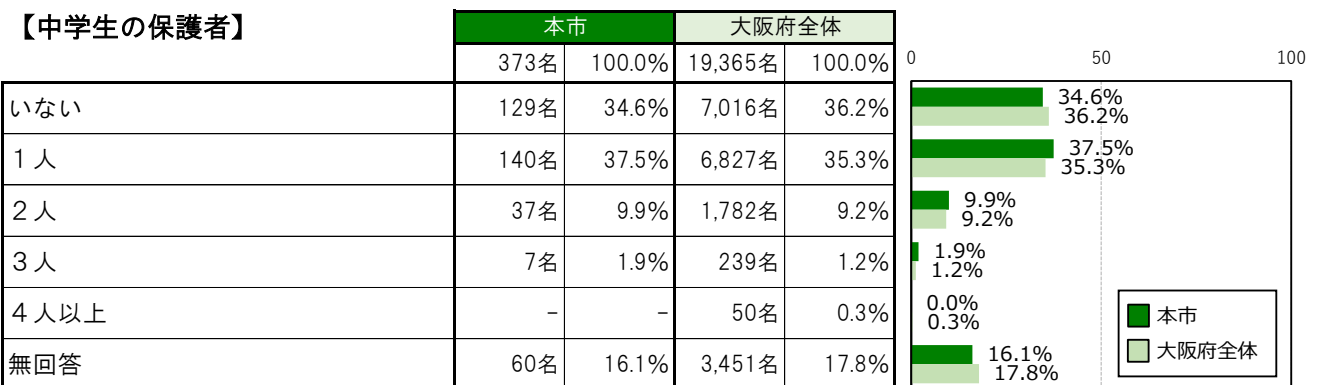
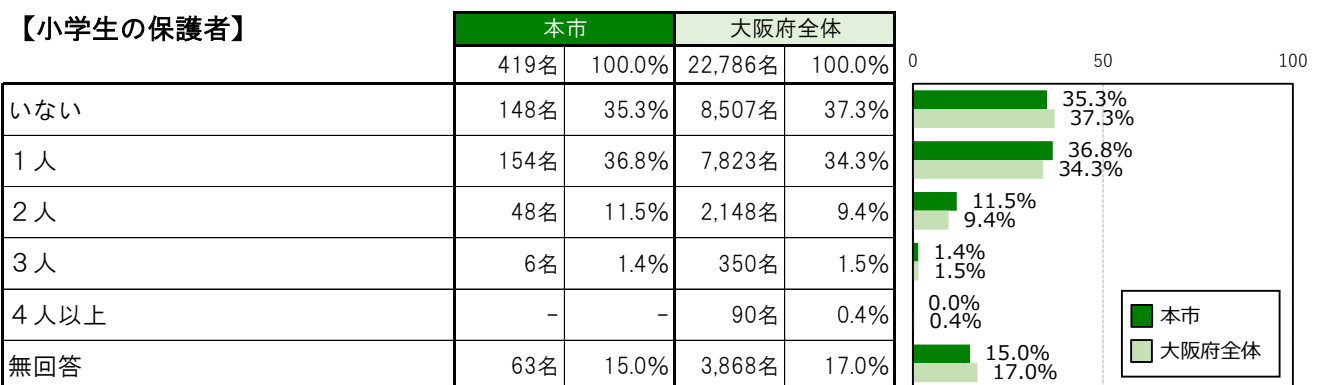
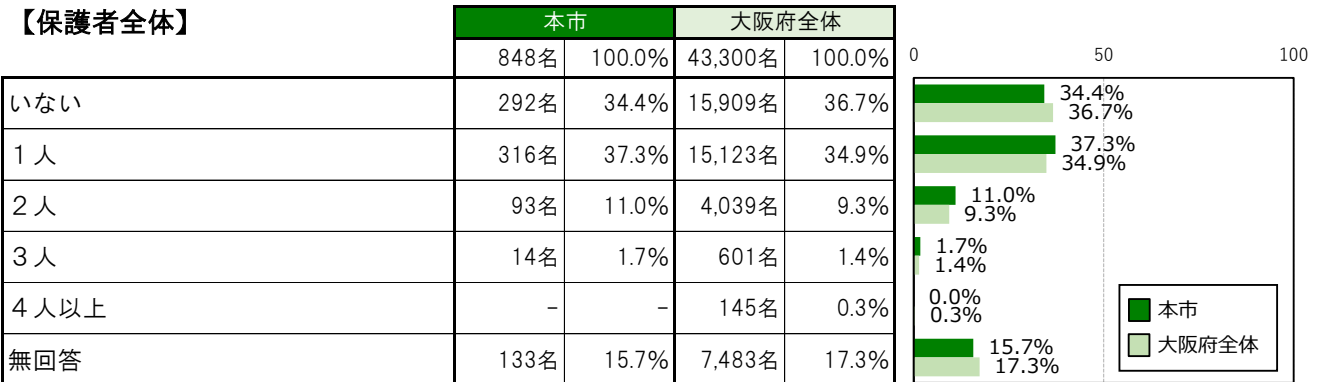
世帯の状況について

問2 世帯構成 ⑤姉・兄

保護者全体は、「1人」が37.3%で最も多く、次いで「いない」が34.4%、「2人」が11.0%、「3人」が1.7%となっている。

小学生の保護者は、「1人」が36.8%で最も多く、次いで「いない」が35.3%、「2人」が11.5%、「3人」が1.4%となっている。

中学生の保護者は、「1人」が37.5%で最も多く、次いで「いない」が34.6%、「2人」が9.9%、「3人」が1.9%となっている。



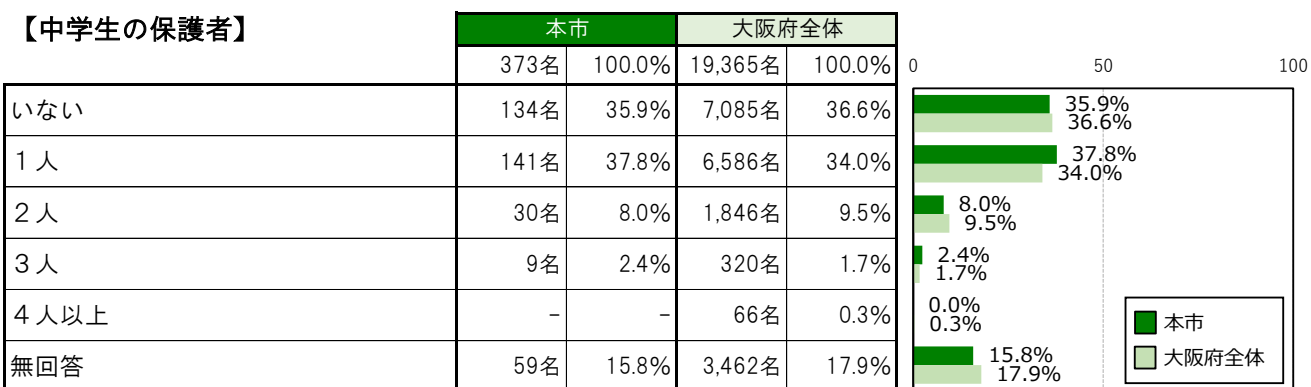
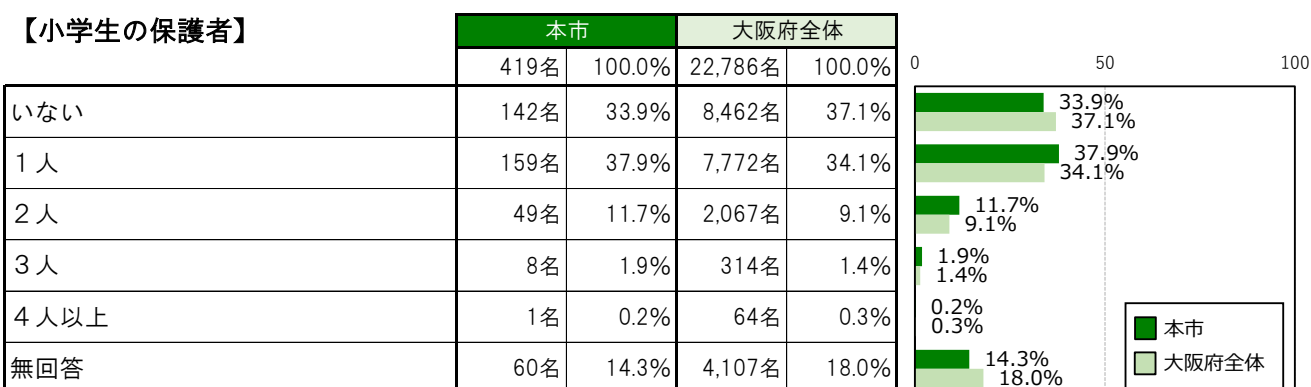
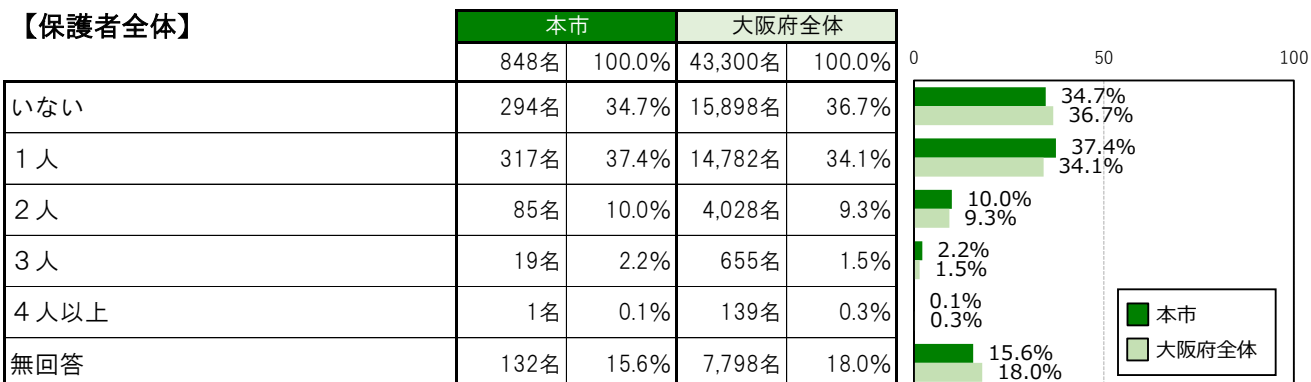
世帯の状況について

問2 世帯構成 ⑥妹・弟

保護者全体は、「1人」が37.4%で最も多く、次いで「いない」が34.7%、「2人」が10.0%、「3人」が2.2%となっている。

小学生の保護者は、「1人」が37.9%で最も多く、次いで「いない」が33.9%、「2人」が11.7%、「3人」が1.9%となっている。

中学生の保護者は、「1人」が37.8%で最も多く、次いで「いない」が35.9%、「2人」が8.0%となっている。



世帯の状況について

問2 世帯構成 ⑦その他

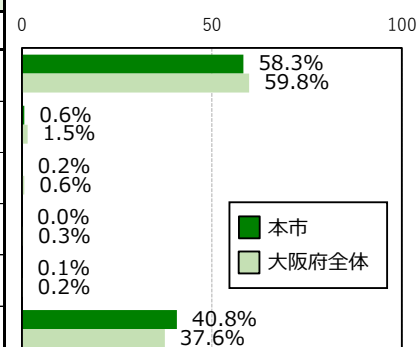
保護者全体は、「いない」が58.3%で最も多く、次いで「1人」が0.6%、「2人」が0.2%となっている。

小学生の保護者は、「いない」が59.7%で最も多く、次いで「1人」が0.5%となっている。

中学生の保護者は、「いない」が57.9%で最も多く、次いで「1人」が0.8%となっている。

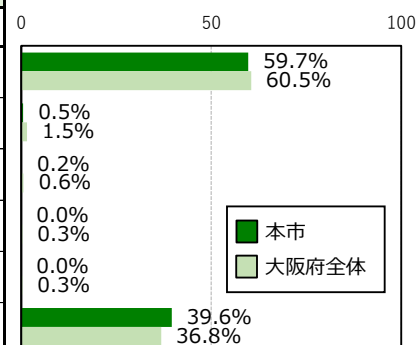
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	494名	58.3%	25,890名	59.8%
1人	5名	0.6%	628名	1.5%
2人	2名	0.2%	261名	0.6%
3人	-	-	133名	0.3%
4人以上	1名	0.1%	98名	0.2%
無回答	346名	40.8%	16,290名	37.6%



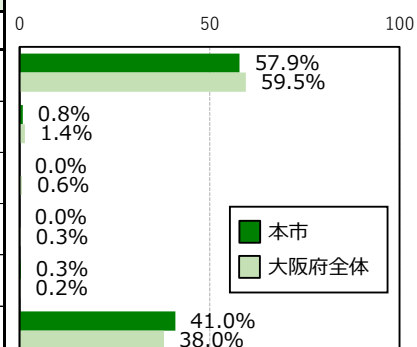
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	250名	59.7%	13,780名	60.5%
1人	2名	0.5%	347名	1.5%
2人	1名	0.2%	139名	0.6%
3人	-	-	73名	0.3%
4人以上	-	-	59名	0.3%
無回答	166名	39.6%	8,388名	36.8%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	216名	57.9%	11,529名	59.5%
1人	3名	0.8%	275名	1.4%
2人	-	-	119名	0.6%
3人	-	-	55名	0.3%
4人以上	1名	0.3%	36名	0.2%
無回答	153名	41.0%	7,351名	38.0%



世帯の状況について

問2 世帯構成 <世帯員の続柄>

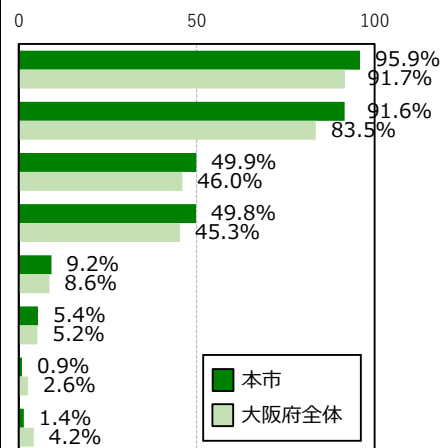
保護者全体は、「お母さん」が95.9%で最も多く、次いで「お父さん」が91.6%、「姉・兄」が49.9%、「妹・弟」が49.8%となっている。

小学生の保護者は、「お母さん」が96.2%で最も多く、次いで「お父さん」が93.1%、「妹・弟」が51.8%、「姉・兄」が49.6%となっている。

中学生の保護者は、「お母さん」が95.7%で最も多く、次いで「お父さん」が90.1%、「姉・兄」が49.3%、「妹・弟」が48.3%となっている。

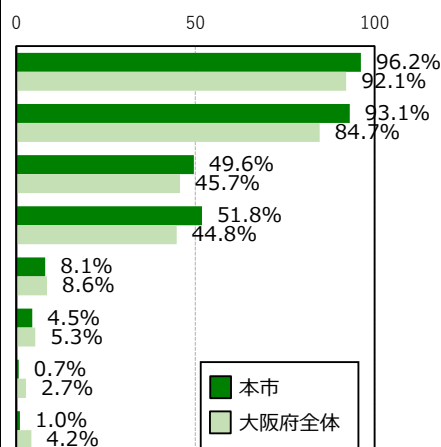
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	848名	100.0%	43,300名	100.0%
お母さん	813名	95.9%	39,706名	91.7%
お父さん	777名	91.6%	36,166名	83.5%
姉・兄	423名	49.9%	19,908名	46.0%
妹・弟	422名	49.8%	19,604名	45.3%
おばあさん	78名	9.2%	3,736名	8.6%
おじいさん	46名	5.4%	2,272名	5.2%
その他	8名	0.9%	1,120名	2.6%
無回答	12名	1.4%	1,839名	4.2%



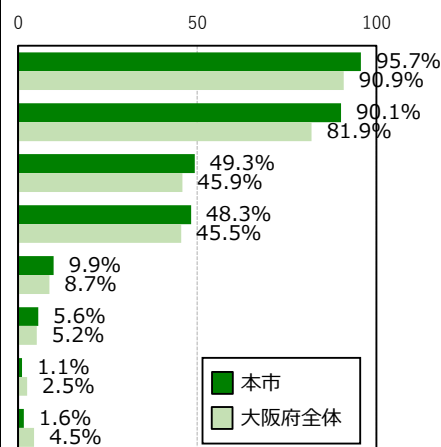
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	419名	100.0%	22,786名	100.0%
お母さん	403名	96.2%	20,990名	92.1%
お父さん	390名	93.1%	19,301名	84.7%
姉・兄	208名	49.6%	10,411名	45.7%
妹・弟	217名	51.8%	10,217名	44.8%
おばあさん	34名	8.1%	1,967名	8.6%
おじいさん	19名	4.5%	1,217名	5.3%
その他	3名	0.7%	618名	2.7%
無回答	4名	1.0%	953名	4.2%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	373名	100.0%	19,365名	100.0%
お母さん	357名	95.7%	17,597名	90.9%
お父さん	336名	90.1%	15,852名	81.9%
姉・兄	184名	49.3%	8,898名	45.9%
妹・弟	180名	48.3%	8,818名	45.5%
おばあさん	37名	9.9%	1,679名	8.7%
おじいさん	21名	5.6%	1,001名	5.2%
その他	4名	1.1%	485名	2.5%
無回答	6名	1.6%	876名	4.5%



世帯の状況について

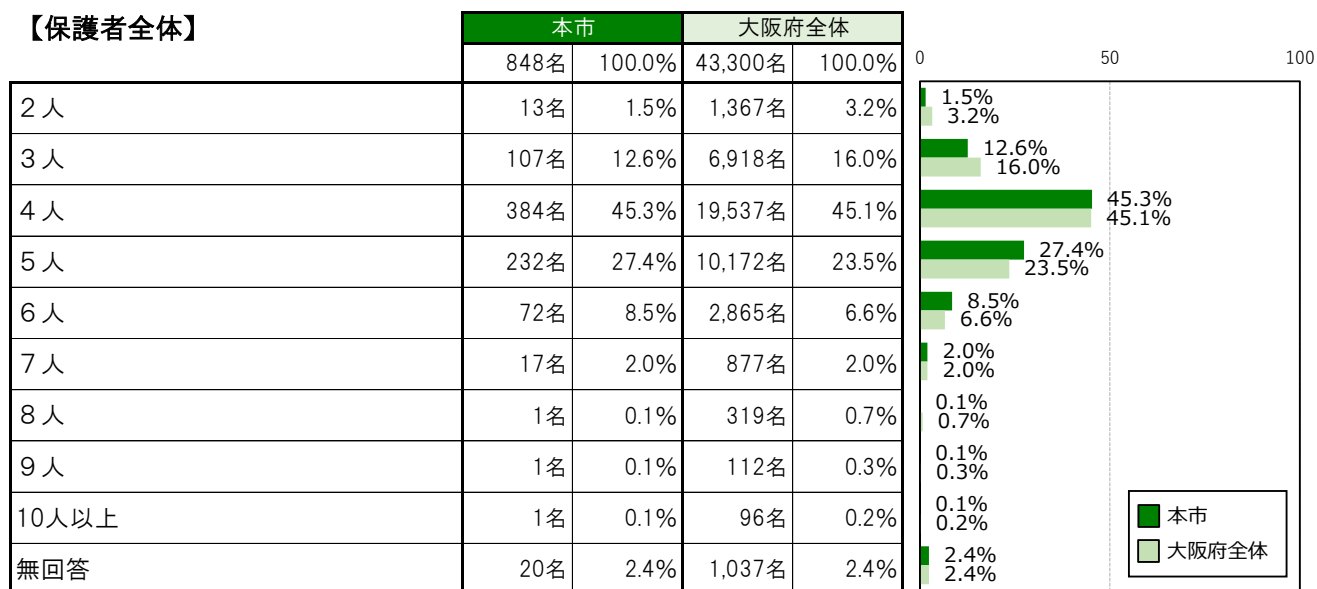
問2 世帯構成 ⑧世帯人数

保護者全体は、「4人」が45.3%で最も多く、次いで「5人」が27.4%、「3人」が12.6%、「6人」が8.5%となっている。

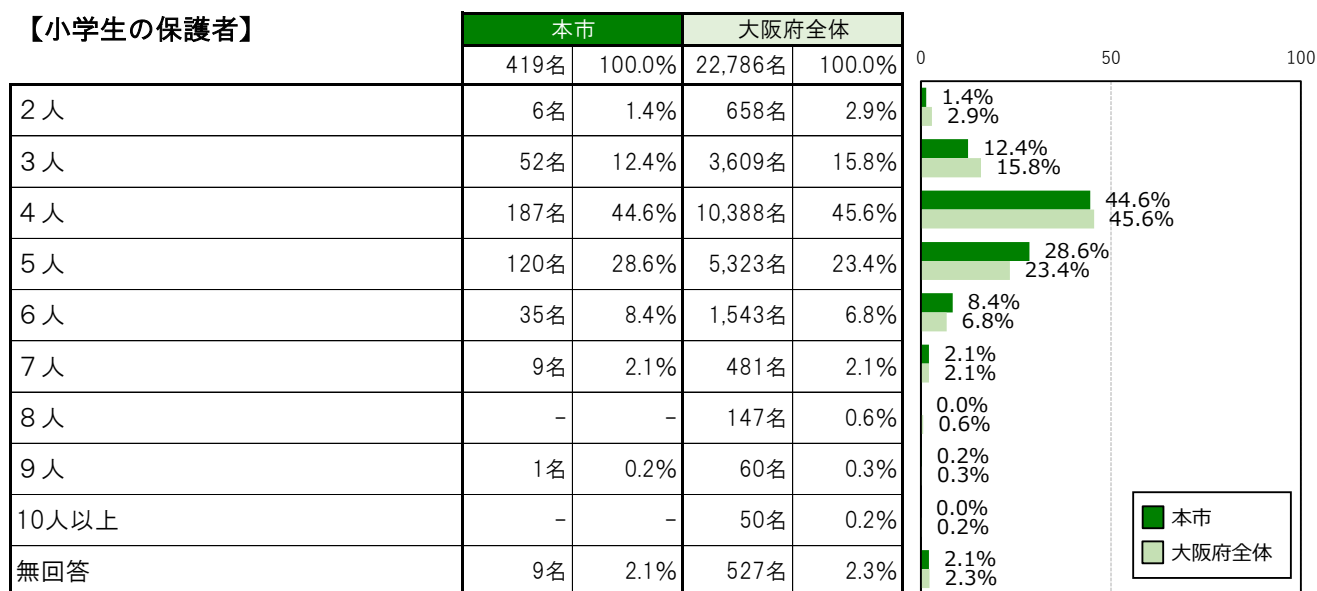
小学生の保護者は、「4人」が44.6%で最も多く、次いで「5人」が28.6%、「3人」が12.4%、「6人」が8.4%となっている。

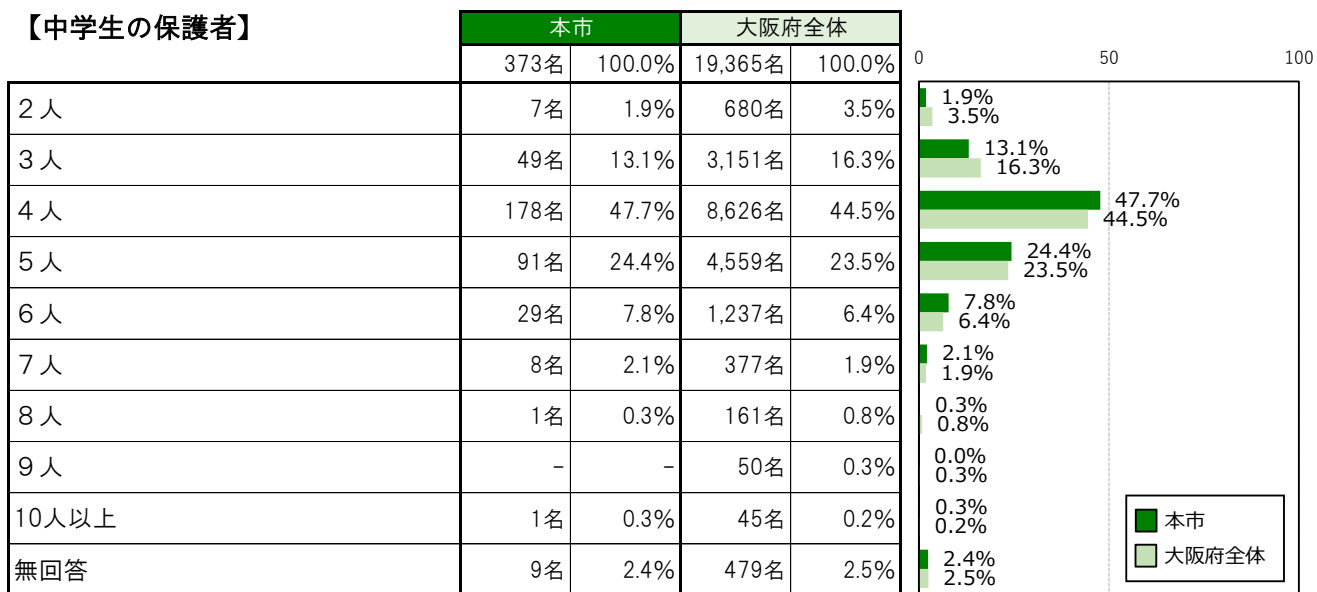
中学生の保護者は、「4人」が47.7%で最も多く、次いで「5人」が24.4%、「3人」が13.1%、「6人」が7.8%となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】





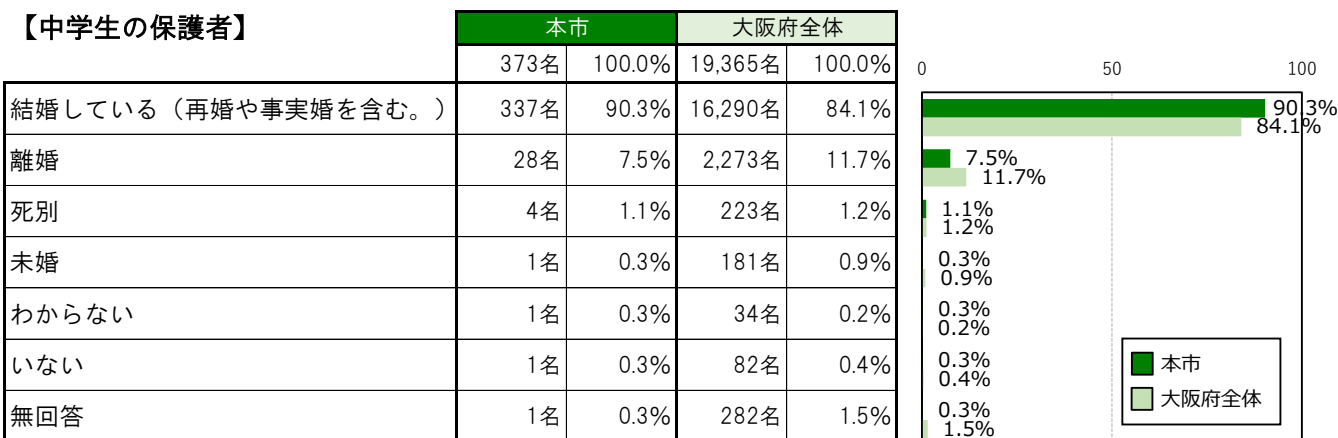
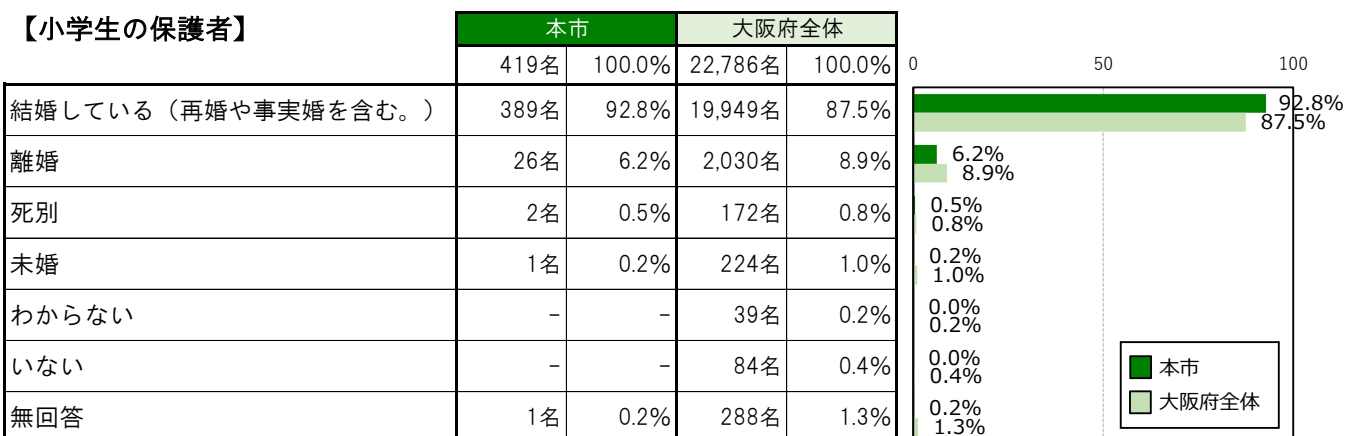
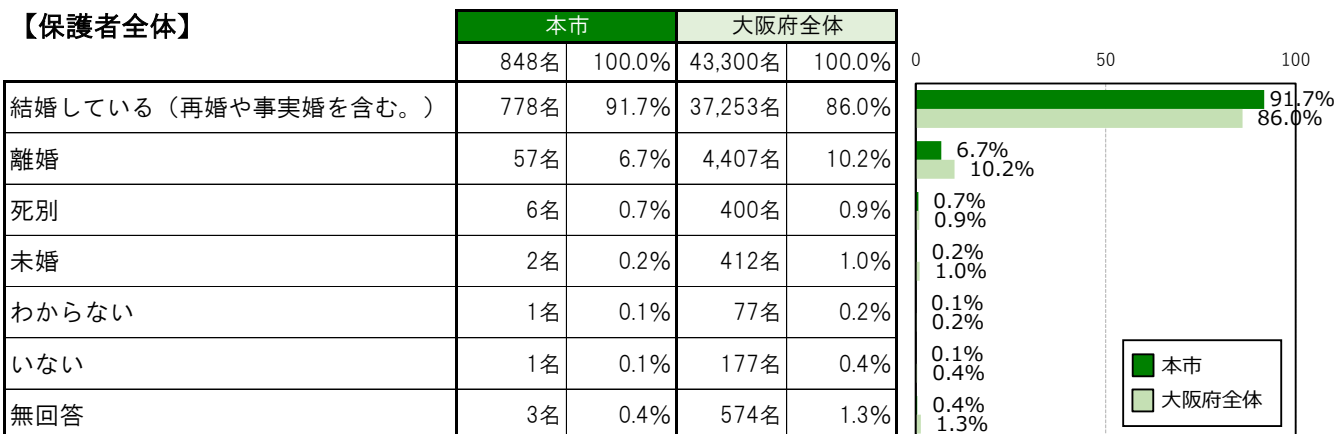
世帯の状況について

問3 親の婚姻状況

保護者全体は、「結婚している（再婚や事実婚を含む。）」が91.7%で最も多く、次いで「離婚」が6.7%、「死別」が0.7%となっている。

小学生の保護者は、「結婚している（再婚や事実婚を含む。）」が92.8%で最も多く、次いで「離婚」が6.2%、「死別」が0.5%となっている。

中学生の保護者は、「結婚している（再婚や事実婚を含む。）」が90.3%で最も多く、次いで「離婚」が7.5%、「死別」が1.1%となっている。



世帯の状況について

問4 離婚相手との養育費の取り決めや受け取り

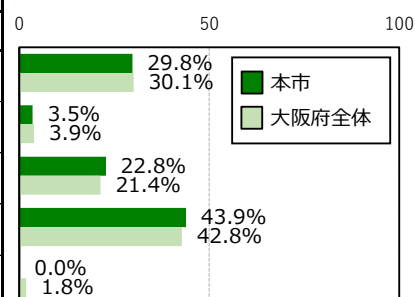
保護者全体は、「取り決めをしておらず、受け取っていない」が43.9%で最も多く、次いで「取り決めをしており、受け取っている」が29.8%、「取り決めをしているが、受け取っていない」が22.8%となっている。

小学生の保護者は、「取り決めをしておらず、受け取っていない」が38.5%で最も多く、次いで「取り決めをしているが、受け取っていない」が30.8%、「取り決めをしており、受け取っている」が23.1%となっている。

中学生の保護者は、「取り決めをしておらず、受け取っていない」が50.0%で最も多く、次いで「取り決めをしており、受け取っている」が32.1%となっている。

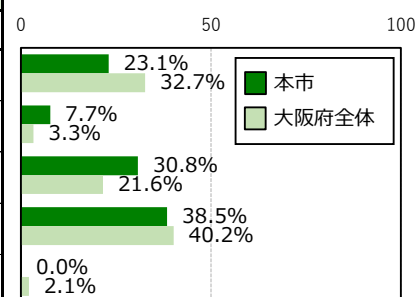
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	57名	100.0%	4,407名	100.0%
取り決めをしており、受け取っている	17名	29.8%	1,325名	30.1%
特に取り決めはしていないが、受け取っている	2名	3.5%	174名	3.9%
取り決めをしているが、受け取っていない	13名	22.8%	941名	21.4%
取り決めをしておらず、受け取っていない	25名	43.9%	1,888名	42.8%
無回答	-	-	79名	1.8%



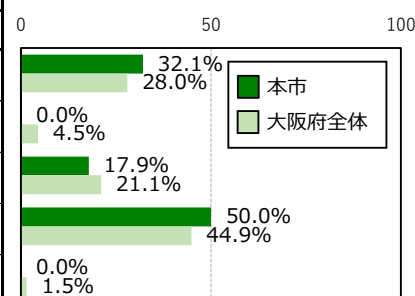
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	26名	100.0%	2,030名	100.0%
取り決めをしており、受け取っている	6名	23.1%	664名	32.7%
特に取り決めはしていないが、受け取っている	2名	7.7%	68名	3.3%
取り決めをしているが、受け取っていない	8名	30.8%	438名	21.6%
取り決めをしておらず、受け取っていない	10名	38.5%	817名	40.2%
無回答	-	-	43名	2.1%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	28名	100.0%	2,273名	100.0%
取り決めをしており、受け取っている	9名	32.1%	636名	28.0%
特に取り決めはしていないが、受け取っている	-	-	103名	4.5%
取り決めをしているが、受け取っていない	5名	17.9%	479名	21.1%
取り決めをしておらず、受け取っていない	14名	50.0%	1,020名	44.9%
無回答	-	-	35名	1.5%



世帯の状況について

問5 住居形態

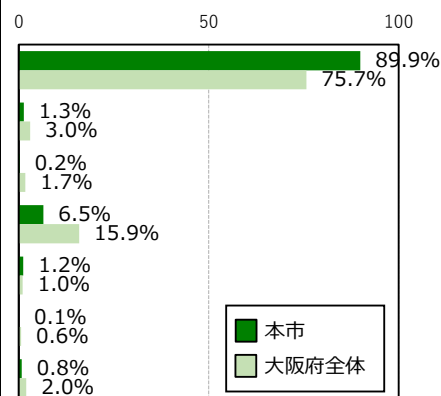
保護者全体は、「持ち家（親・きょうだいの名義を含む）」が89.9%で最も多く、次いで「民間の賃貸住宅」が6.5%、「府営・市営の住宅」が1.3%、「官舎・社宅」が1.2%となっている。

小学生の保護者は、「持ち家（親・きょうだいの名義を含む）」が90.5%で最も多く、次いで「民間の賃貸住宅」が6.7%、「官舎・社宅」が1.2%となっている。

中学生の保護者は、「持ち家（親・きょうだいの名義を含む）」が90.1%で最も多く、次いで「民間の賃貸住宅」が6.2%、「府営・市営の住宅」が1.9%となっている。

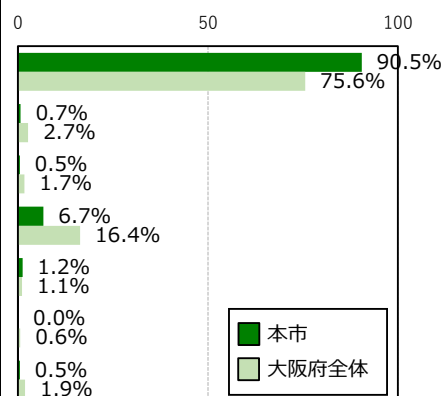
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	848名	100.0%	43,300名	100.0%
持ち家（親・きょうだいの名義を含む）	762名	89.9%	32,784名	75.7%
府営・市営の住宅	11名	1.3%	1,316名	3.0%
UR賃貸住宅・公社賃貸住宅	2名	0.2%	752名	1.7%
民間の賃貸住宅	55名	6.5%	6,890名	15.9%
官舎・社宅	10名	1.2%	438名	1.0%
その他	1名	0.1%	257名	0.6%
無回答	7名	0.8%	863名	2.0%



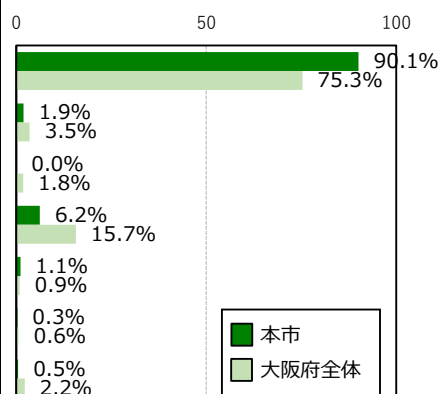
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	419名	100.0%	22,786名	100.0%
持ち家（親・きょうだいの名義を含む）	379名	90.5%	17,221名	75.6%
府営・市営の住宅	3名	0.7%	620名	2.7%
UR賃貸住宅・公社賃貸住宅	2名	0.5%	386名	1.7%
民間の賃貸住宅	28名	6.7%	3,738名	16.4%
官舎・社宅	5名	1.2%	255名	1.1%
その他	-	-	129名	0.6%
無回答	2名	0.5%	437名	1.9%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	373名	100.0%	19,365名	100.0%
持ち家（親・きょうだいの名義を含む）	336名	90.1%	14,585名	75.3%
府営・市営の住宅	7名	1.9%	676名	3.5%
UR賃貸住宅・公社賃貸住宅	-	-	356名	1.8%
民間の賃貸住宅	23名	6.2%	3,036名	15.7%
官舎・社宅	4名	1.1%	171名	0.9%
その他	1名	0.3%	121名	0.6%
無回答	2名	0.5%	420名	2.2%



世帯の状況について

問6（1）家計の状況

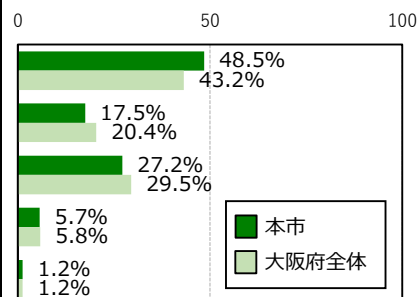
保護者全体は、「貯蓄ができています」が48.5%で最も多く、次いで「赤字でもなく黒字でもない」が27.2%、「赤字である」が17.5%となっている。

小学生の保護者は、「貯蓄ができています」が49.6%で最も多く、次いで「赤字でもなく黒字でもない」が26.7%、「赤字である」が17.4%となっている。

中学生の保護者は、「貯蓄ができています」が45.6%で最も多く、次いで「赤字でもなく黒字でもない」が30.0%、「赤字である」が17.2%となっている。

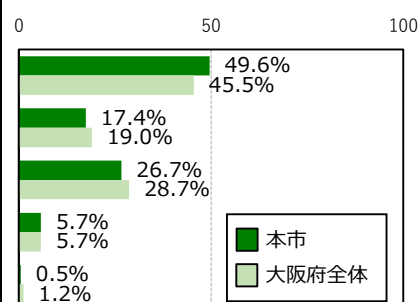
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	848名	100.0%	43,300名	100.0%
貯蓄ができています	411名	48.5%	18,686名	43.2%
赤字である	148名	17.5%	8,818名	20.4%
赤字でもなく黒字でもない	231名	27.2%	12,767名	29.5%
わからない	48名	5.7%	2,523名	5.8%
無回答	10名	1.2%	506名	1.2%



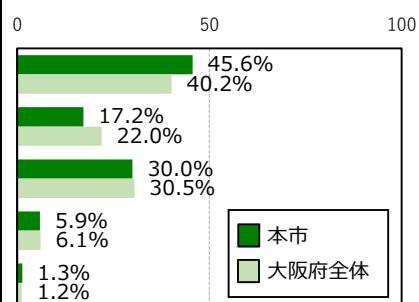
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	419名	100.0%	22,786名	100.0%
貯蓄ができています	208名	49.6%	10,376名	45.5%
赤字である	73名	17.4%	4,319名	19.0%
赤字でもなく黒字でもない	112名	26.7%	6,535名	28.7%
わからない	24名	5.7%	1,292名	5.7%
無回答	2名	0.5%	264名	1.2%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	373名	100.0%	19,365名	100.0%
貯蓄ができています	170名	45.6%	7,790名	40.2%
赤字である	64名	17.2%	4,255名	22.0%
赤字でもなく黒字でもない	112名	30.0%	5,912名	30.5%
わからない	22名	5.9%	1,173名	6.1%
無回答	5名	1.3%	235名	1.2%



世帯の状況について

問6（2）子どもの将来のための貯蓄状況

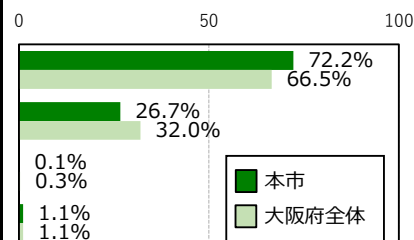
保護者全体は、「貯蓄をしている」が72.2%で最も多く、次いで「貯蓄をしたいが、できていない」が26.7%、「貯蓄をするつもりはない」が0.1%となっている。

小学生の保護者は、「貯蓄をしている」が74.5%で最も多く、次いで「貯蓄をしたいが、できていない」が25.1%、「貯蓄をするつもりはない」が0.2%となっている。

中学生の保護者は、「貯蓄をしている」が70.2%で最も多く、次いで「貯蓄をしたいが、できていない」が28.7%となっている。

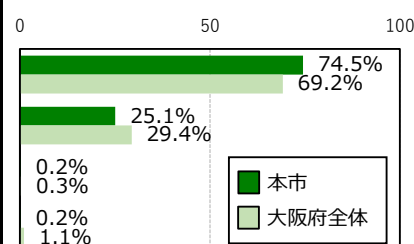
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
貯蓄をしている	612名	72.2%	28,802名	66.5%
貯蓄をしたいが、できていない	226名	26.7%	13,877名	32.0%
貯蓄をするつもりはない	1名	0.1%	138名	0.3%
無回答	9名	1.1%	483名	1.1%



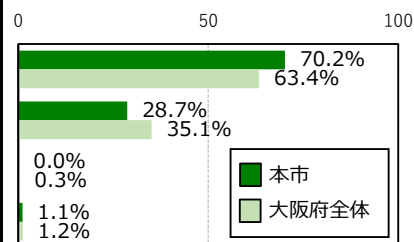
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
貯蓄をしている	312名	74.5%	15,765名	69.2%
貯蓄をしたいが、できていない	105名	25.1%	6,698名	29.4%
貯蓄をするつもりはない	1名	0.2%	74名	0.3%
無回答	1名	0.2%	249名	1.1%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
貯蓄をしている	262名	70.2%	12,277名	63.4%
貯蓄をしたいが、できていない	107名	28.7%	6,798名	35.1%
貯蓄をするつもりはない	-	-	63名	0.3%
無回答	4名	1.1%	227名	1.2%



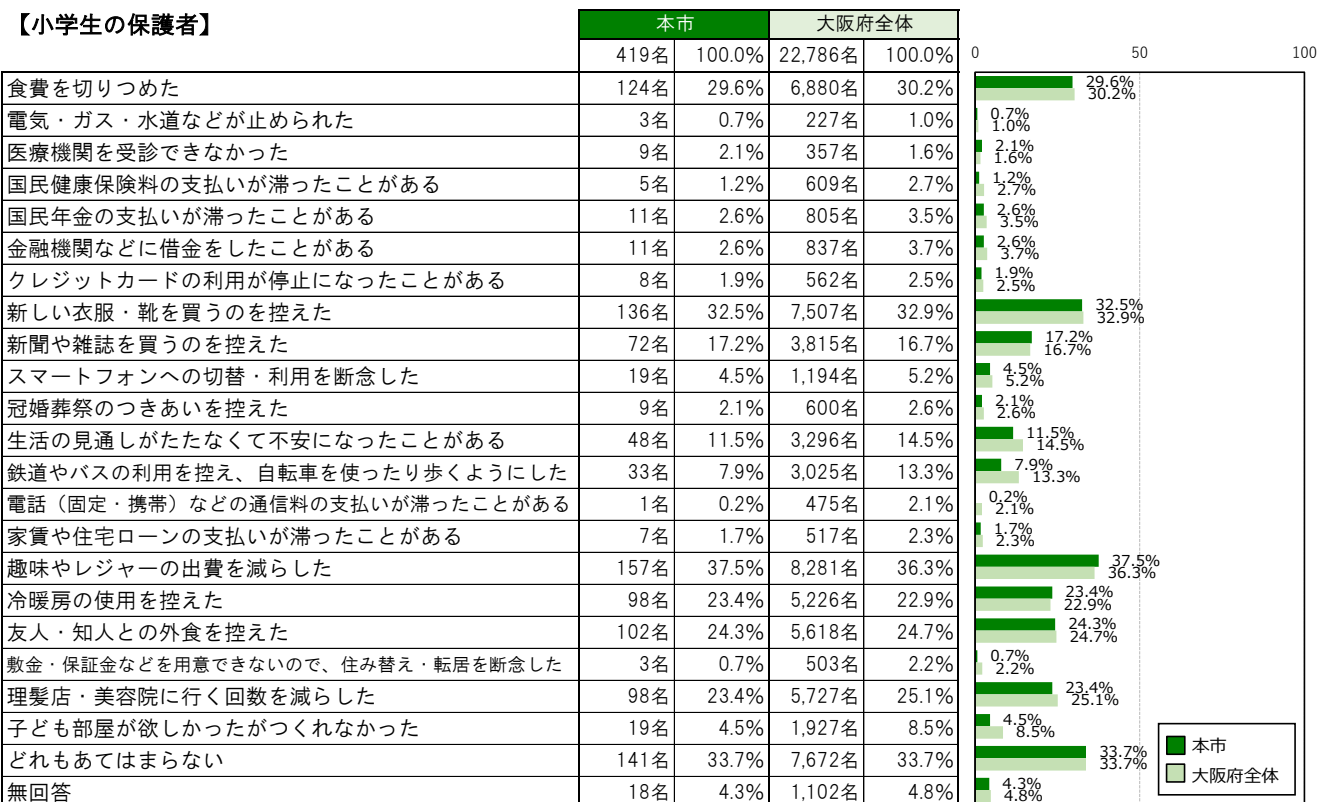
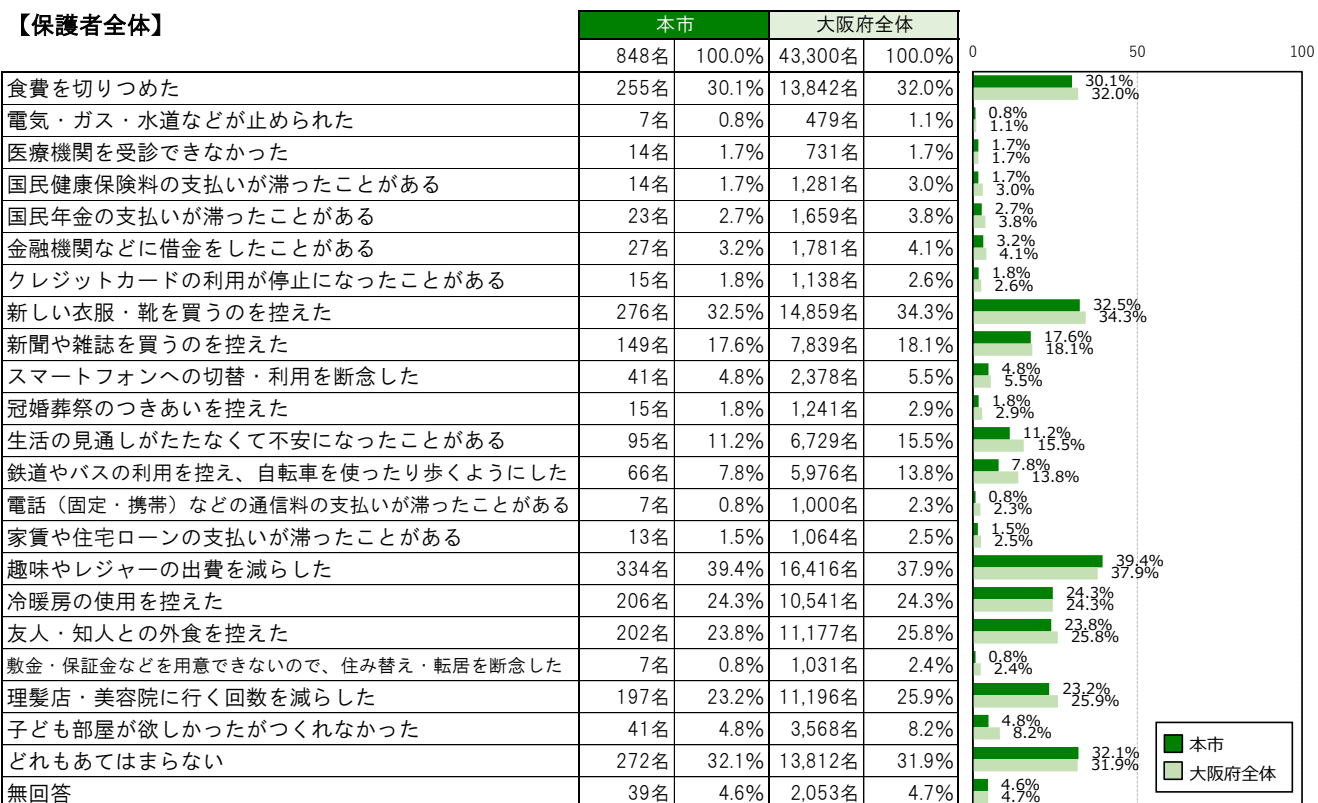
世帯の状況について

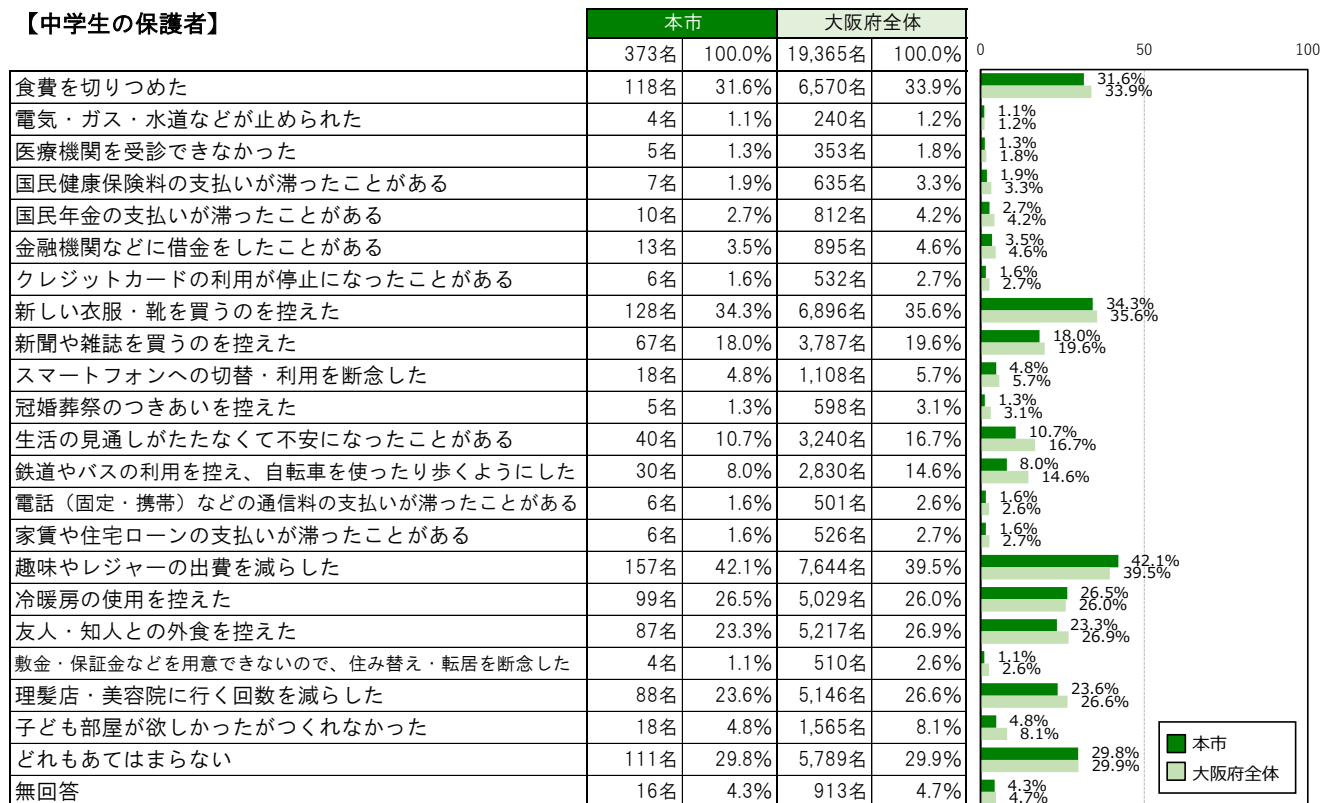
問7 経済的な理由による経験

保護者全体は、「趣味やレジャーの出費を減らした」が39.4%で最も多く、次いで「新しい衣服・靴を買うのを控えた」が32.5%、「どれもあてはまらない」が32.1%、「食費を切りつめた」が30.1%となっている。

小学生の保護者は、「趣味やレジャーの出費を減らした」が37.5%で最も多く、次いで「どれもあてはまらない」が33.7%、「新しい衣服・靴を買うのを控えた」が32.5%、「食費を切りつめた」が29.6%となっている。

中学生の保護者は、「趣味やレジャーの出費を減らした」が42.1%で最も多く、次いで「新しい衣服・靴を買うのを控えた」が34.3%、「食費を切りつめた」が31.6%、「どれもあてはまらない」が29.8%となっている。



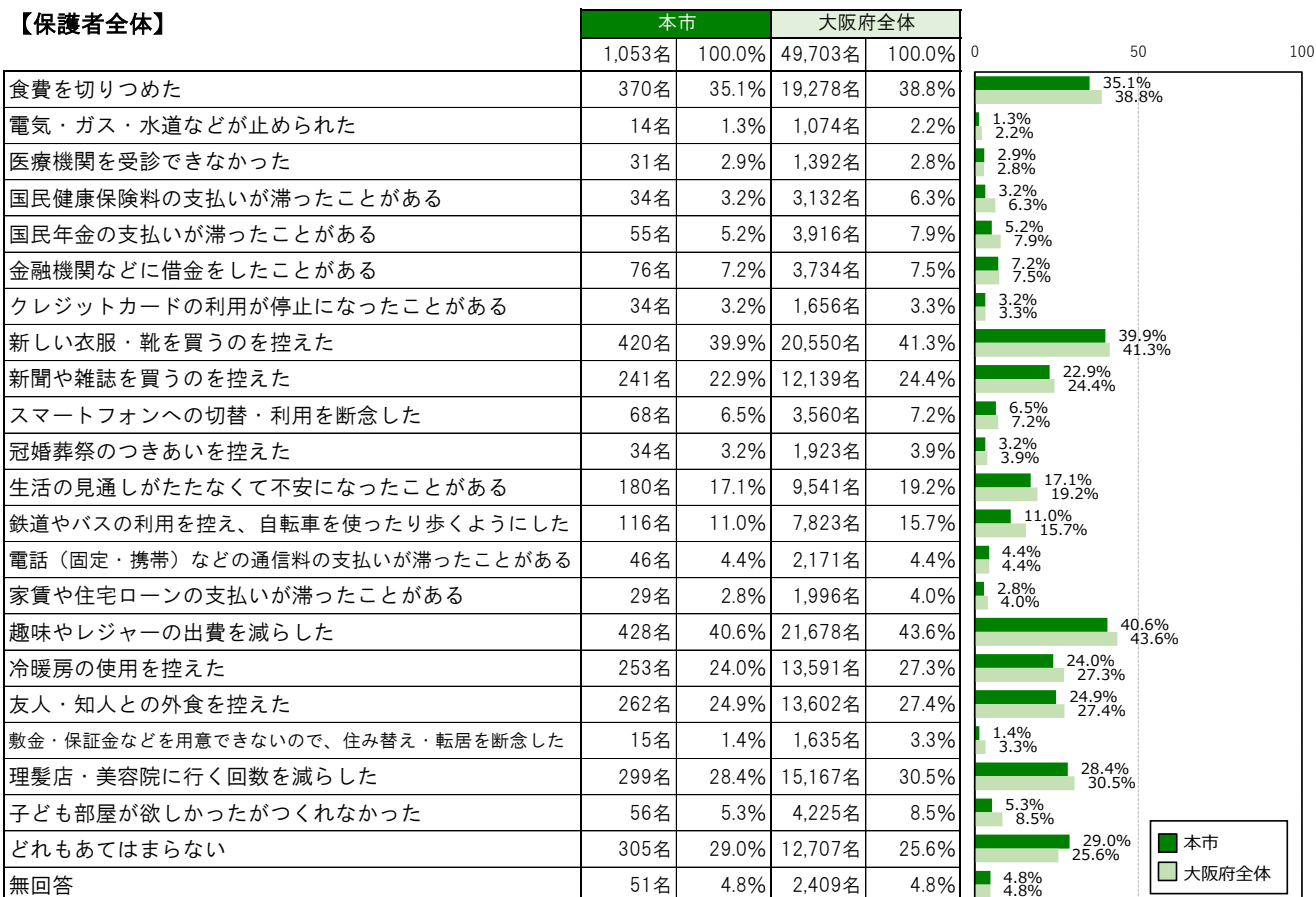


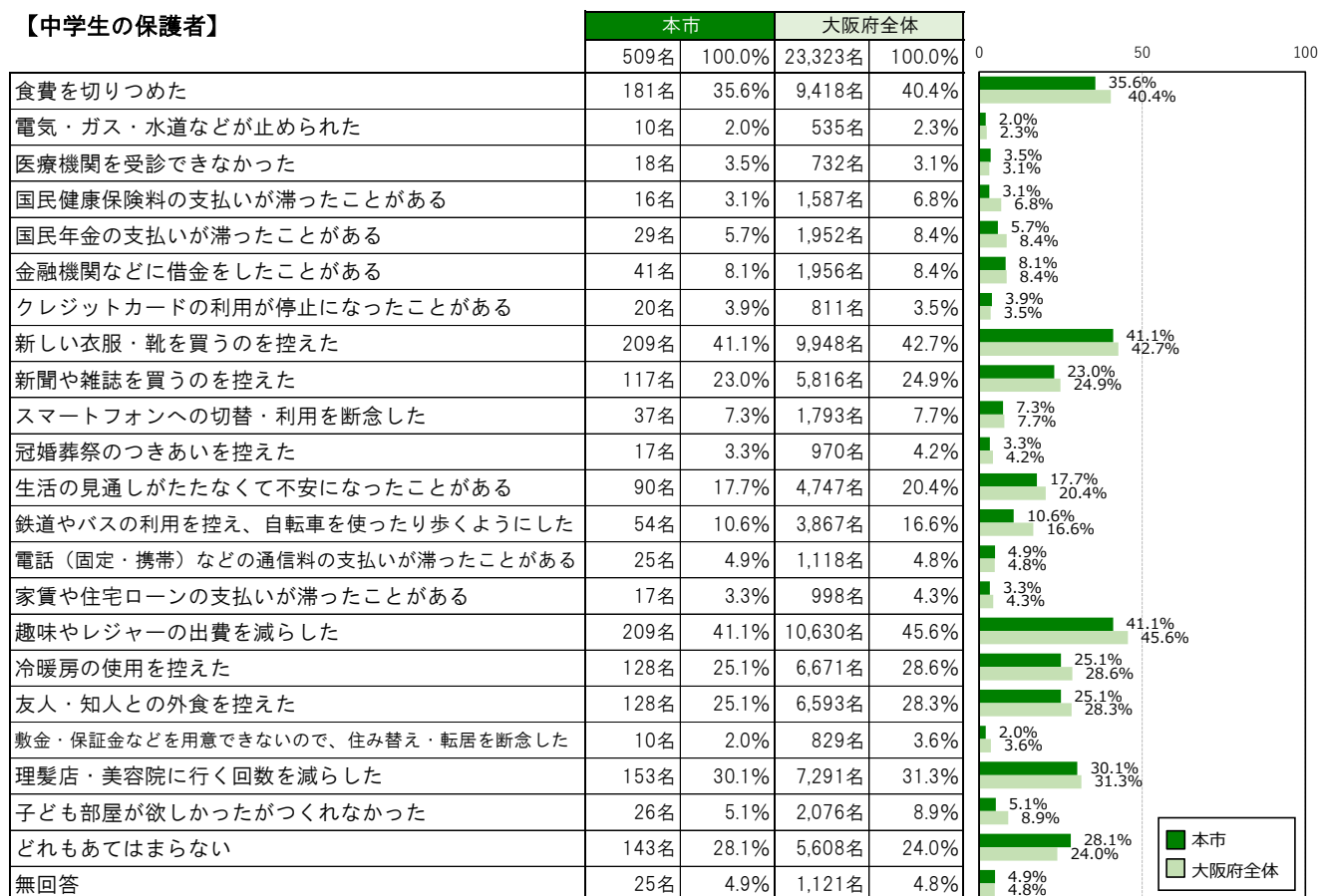
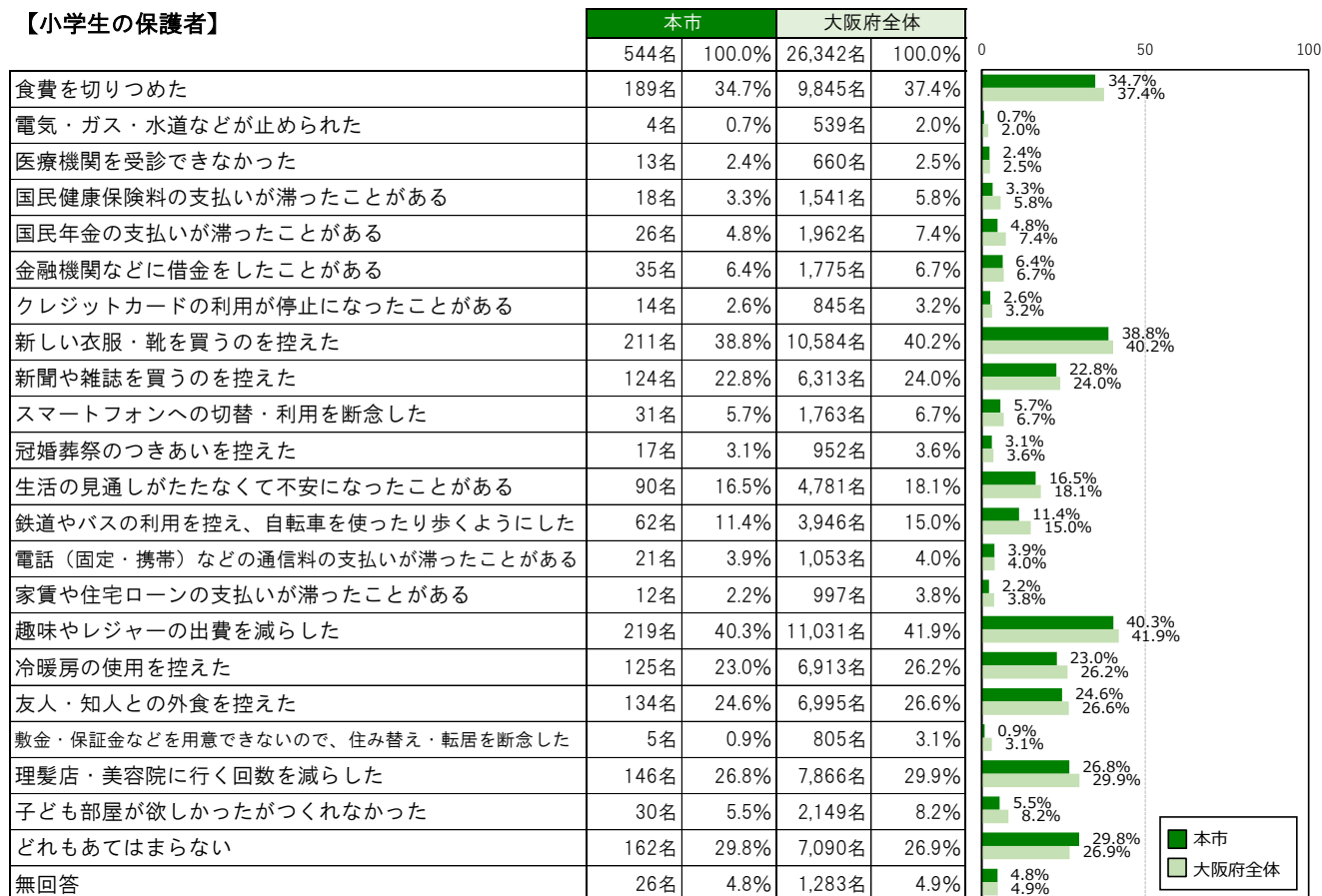
●2016年度 調査結果〔参考データ〕

2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「新しい衣服・靴を買うのを控えた」が7.4ポイント、「生活の見通しがたたなくて不安になったことがある」が5.9ポイント、「新聞や雑誌を買うのを控えた」が5.3ポイント、それぞれ低くなっている。

小学生の保護者は、「新しい衣服・靴を買うのを控えた」が6.3ポイント、「新聞や雑誌を買うのを控えた」が5.6ポイント、「食費を切りつめた」が5.1ポイント、それぞれ低くなっている。

中学生の保護者は、「生活の見通しがたたなくて不安になったことがある」が7.0ポイント、「新しい衣服・靴を買うのを控えた」が6.8ポイント、それぞれ低くなっている。





世帯の状況について

問 7 経済的な理由による経験（はく奪指標）

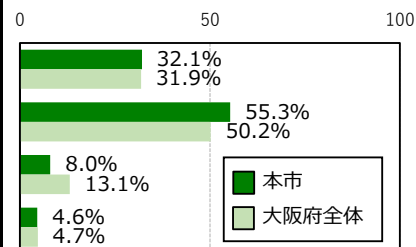
経済的な理由による経験について、はく奪指標でみると、保護者全体は、「1～6個に該当」が55.3%で最も多く、次いで「該当なし」が32.1%、「7個以上に該当」が8.0%となっている。

小学生の保護者は、「1～6個に該当」が54.4%で最も多く、次いで「該当なし」が33.7%、「7個以上に該当」が7.6%となっている。

中学生の保護者は、「1～6個に該当」が57.1%で最も多く、次いで「該当なし」が29.8%、「7個以上に該当」が8.8%となっている。

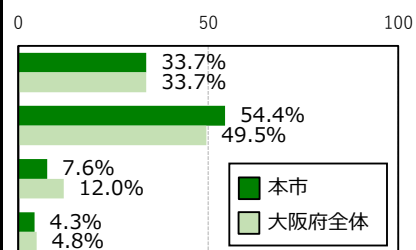
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
該当なし	272名	32.1%	13,812名	31.9%
1～6個に該当	469名	55.3%	21,747名	50.2%
7個以上に該当	68名	8.0%	5,688名	13.1%
無回答	39名	4.6%	2,053名	4.7%



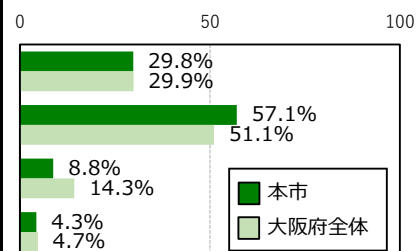
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
該当なし	141名	33.7%	7,672名	33.7%
1～6個に該当	228名	54.4%	11,270名	49.5%
7個以上に該当	32名	7.6%	2,742名	12.0%
無回答	18名	4.3%	1,102名	4.8%



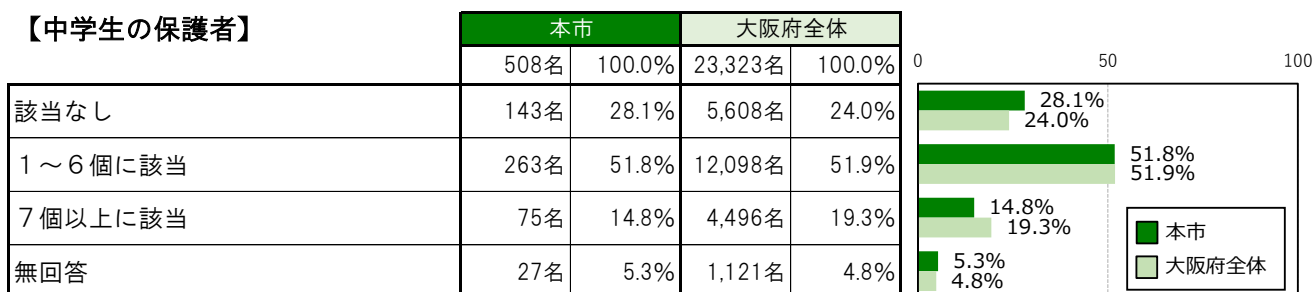
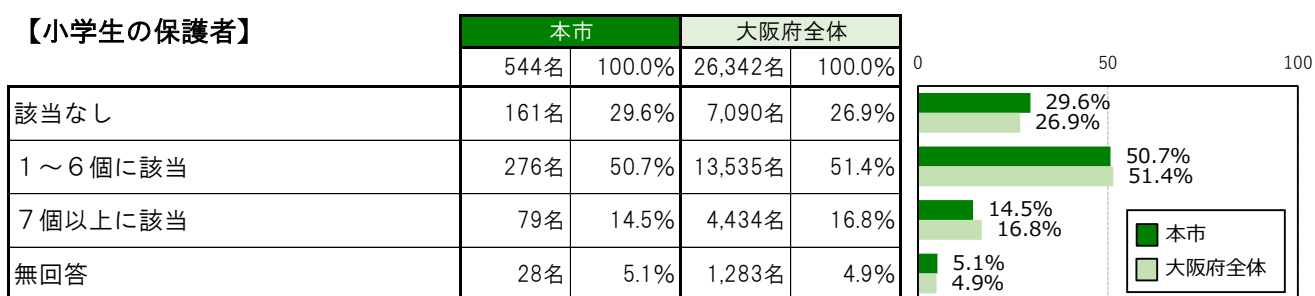
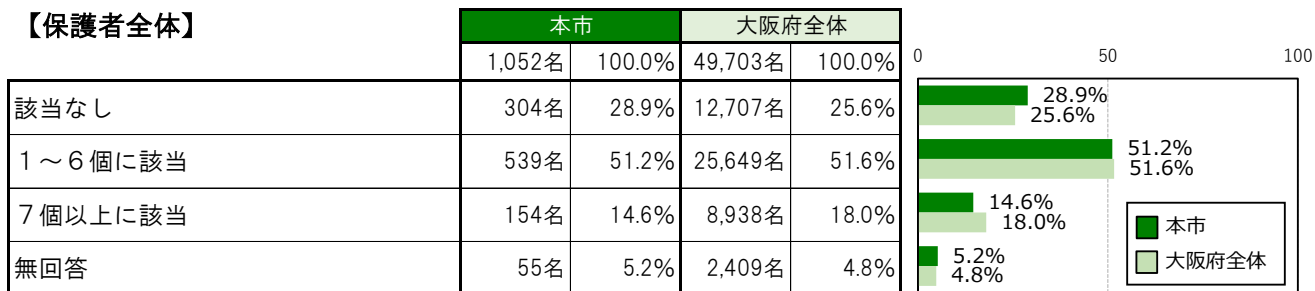
【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
該当なし	111名	29.8%	5,789名	29.9%
1～6個に該当	213名	57.1%	9,888名	51.1%
7個以上に該当	33名	8.8%	2,775名	14.3%
無回答	16名	4.3%	913名	4.7%



●2016年度 調査結果〔参考データ〕

2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「7個以上に該当」が6.6ポイント低くなっている。
小学生の保護者は、「7個以上に該当」が6.9ポイント低くなっている。
中学生の保護者は、「7個以上に該当」が6.0ポイント低くなっている。



世帯の状況について

問8 お母さんの最終学歴

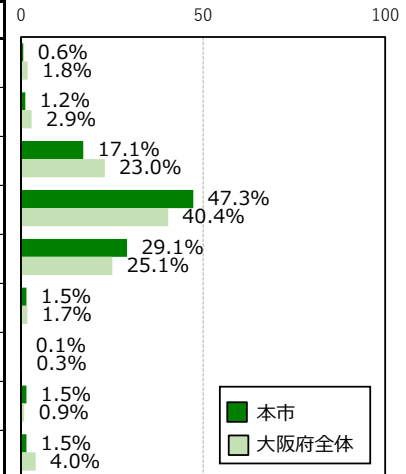
保護者全体は、「高専、短大、専門学校等卒業」が47.3%で最も多く、次いで「大学卒業」が29.1%、「高等学校卒業」が17.1%となっている。

小学生の保護者は、「高専、短大、専門学校等卒業」が43.4%で最も多く、次いで「大学卒業」が33.7%、「高等学校卒業」が17.2%となっている。

中学生の保護者は、「高専、短大、専門学校等卒業」が51.7%で最も多く、次いで「大学卒業」が24.9%、「高等学校卒業」が16.4%となっている。

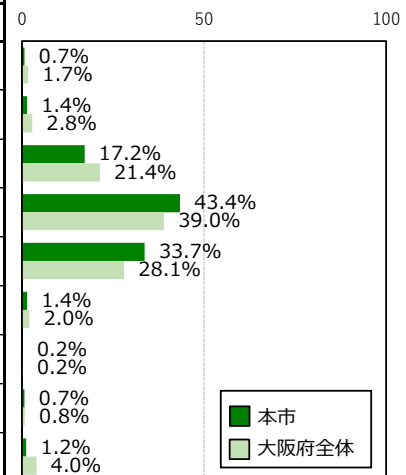
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	848名	100.0%	41,472名	100.0%
中学校卒業	5名	0.6%	729名	1.8%
高等学校中途退学	10名	1.2%	1,211名	2.9%
高等学校卒業	145名	17.1%	9,539名	23.0%
高専、短大、専門学校等卒業	401名	47.3%	16,755名	40.4%
大学卒業	247名	29.1%	10,392名	25.1%
大学院修了	13名	1.5%	703名	1.7%
その他の教育機関卒業	1名	0.1%	116名	0.3%
答えたくない	13名	1.5%	376名	0.9%
無回答	13名	1.5%	1,651名	4.0%



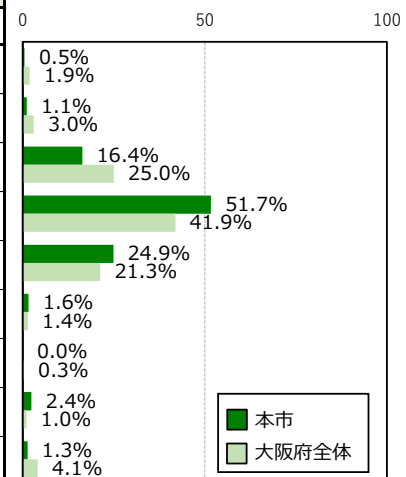
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	419名	100.0%	21,824名	100.0%
中学校卒業	3名	0.7%	365名	1.7%
高等学校中途退学	6名	1.4%	620名	2.8%
高等学校卒業	72名	17.2%	4,673名	21.4%
高専、短大、専門学校等卒業	182名	43.4%	8,501名	39.0%
大学卒業	141名	33.7%	6,142名	28.1%
大学院修了	6名	1.4%	433名	2.0%
その他の教育機関卒業	1名	0.2%	53名	0.2%
答えたくない	3名	0.7%	170名	0.8%
無回答	5名	1.2%	867名	4.0%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	373名	100.0%	18,499名	100.0%
中学校卒業	2名	0.5%	349名	1.9%
高等学校中途退学	4名	1.1%	560名	3.0%
高等学校卒業	61名	16.4%	4,623名	25.0%
高専、短大、専門学校等卒業	193名	51.7%	7,751名	41.9%
大学卒業	93名	24.9%	3,947名	21.3%
大学院修了	6名	1.6%	255名	1.4%
その他の教育機関卒業	-	-	60名	0.3%
答えたくない	9名	2.4%	194名	1.0%
無回答	5名	1.3%	760名	4.1%



世帯の状況について

問8 お父さんの最終学歴

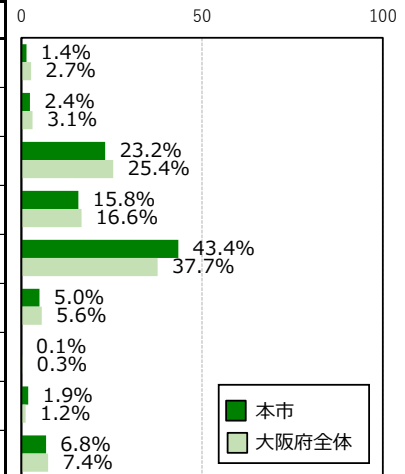
保護者全体は、「大学卒業」が43.4%で最も多く、次いで「高等学校卒業」が23.2%、「高専、短大、専門学校等卒業」が15.8%、「大学院修了」が5.0%となっている。

小学生の保護者は、「大学卒業」が43.9%で最も多く、次いで「高等学校卒業」が22.9%、「高専、短大、専門学校等卒業」が15.8%、「大学院修了」が5.7%となっている。

中学生の保護者は、「大学卒業」が42.6%で最も多く、次いで「高等学校卒業」が23.9%、「高専、短大、専門学校等卒業」が15.8%、「大学院修了」が4.3%となっている。

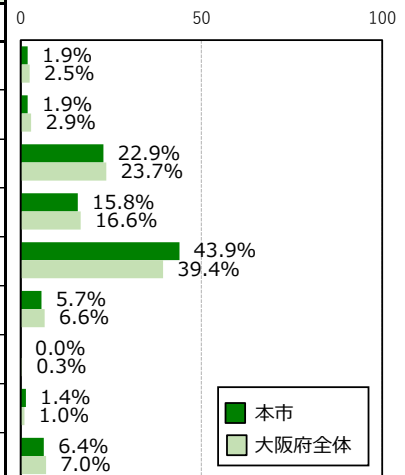
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	848名	100.0%	39,336名	100.0%
中学校卒業	12名	1.4%	1,048名	2.7%
高等学校中途退学	20名	2.4%	1,205名	3.1%
高等学校卒業	197名	23.2%	10,006名	25.4%
高専、短大、専門学校等卒業	134名	15.8%	6,549名	16.6%
大学卒業	368名	43.4%	14,832名	37.7%
大学院修了	42名	5.0%	2,219名	5.6%
その他の教育機関卒業	1名	0.1%	104名	0.3%
答えたくない	16名	1.9%	477名	1.2%
無回答	58名	6.8%	2,896名	7.4%



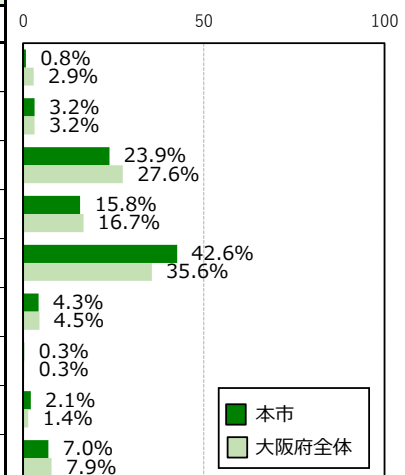
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	419名	100.0%	20,863名	100.0%
中学校卒業	8名	1.9%	524名	2.5%
高等学校中途退学	8名	1.9%	603名	2.9%
高等学校卒業	96名	22.9%	4,950名	23.7%
高専、短大、専門学校等卒業	66名	15.8%	3,468名	16.6%
大学卒業	184名	43.9%	8,211名	39.4%
大学院修了	24名	5.7%	1,384名	6.6%
その他の教育機関卒業	-	-	56名	0.3%
答えたくない	6名	1.4%	217名	1.0%
無回答	27名	6.4%	1,450名	7.0%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	373名	100.0%	17,324名	100.0%
中学校卒業	3名	0.8%	500名	2.9%
高等学校中途退学	12名	3.2%	561名	3.2%
高等学校卒業	89名	23.9%	4,775名	27.6%
高専、短大、専門学校等卒業	59名	15.8%	2,900名	16.7%
大学卒業	159名	42.6%	6,169名	35.6%
大学院修了	16名	4.3%	772名	4.5%
その他の教育機関卒業	1名	0.3%	45名	0.3%
答えたくない	8名	2.1%	235名	1.4%
無回答	26名	7.0%	1,367名	7.9%



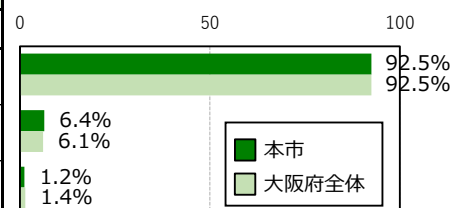
世帯の状況について

問9 お母さんの有無

保護者全体は、「いる」が92.5%、「いない」が6.4%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が92.6%、「いない」が6.7%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が92.2%、「いない」が6.7%となっている。

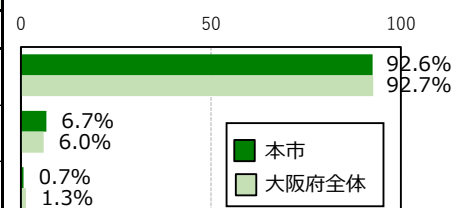
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	784名	92.5%	40,053名	92.5%
いない	54名	6.4%	2,634名	6.1%
無回答	10名	1.2%	613名	1.4%



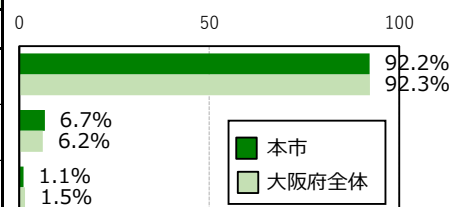
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	388名	92.6%	21,115名	92.7%
いない	28名	6.7%	1,368名	6.0%
無回答	3名	0.7%	303名	1.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	344名	92.2%	17,877名	92.3%
いない	25名	6.7%	1,192名	6.2%
無回答	4名	1.1%	296名	1.5%



世帯の状況について

問9 お母さんの就業状況

保護者全体は、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が48.0%で最も多く、次いで「勤め（常勤・正規職員）」が27.0%、「仕事を探していない」が9.1%、「自営業・家業」が7.1%となっている。

小学生の保護者は、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が46.4%で最も多く、次いで「勤め（常勤・正規職員）」が27.6%、「仕事を探していない」が10.8%、「自営業・家業」が6.4%となっている。

中学生の保護者は、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が49.4%で最も多く、次いで「勤め（常勤・正規職員）」が27.3%、「自営業・家業」が7.6%、「仕事を探していない」が6.7%となっている。

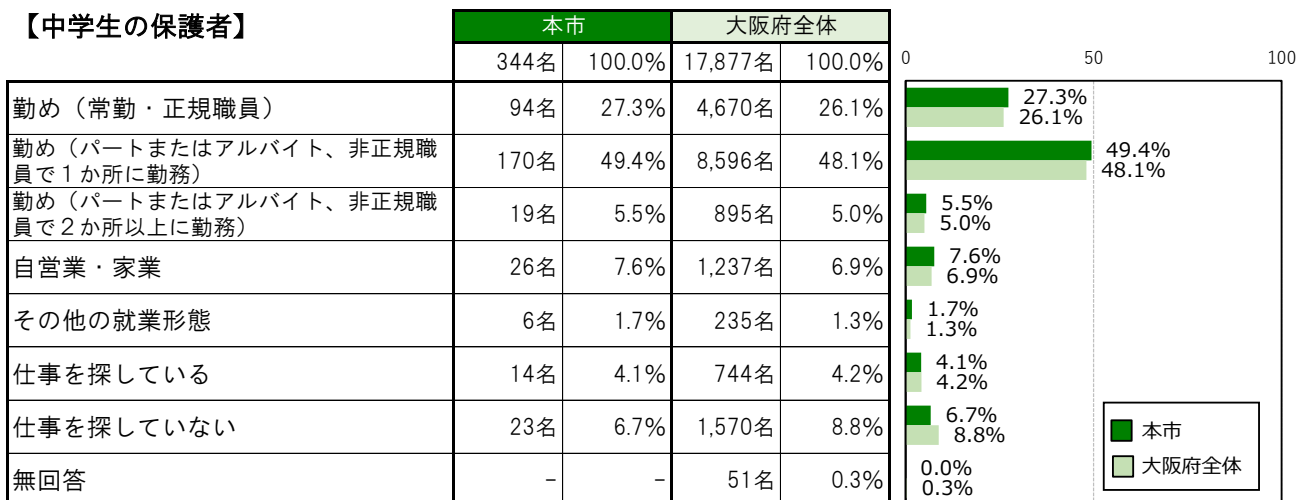
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



●2016年度 調査結果〔参考データ〕

2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「仕事を探していない」は5.2ポイント、「仕事を探している」は2.4ポイント低いが、「勤め（常勤・正規職員）」は7.5ポイント高くなっている。

小学生の保護者は、「仕事を探していない」は5.3ポイント低いが、「勤め（常勤・正規職員）」は7.8ポイント高くなっている。

中学生の保護者は、「仕事を探していない」は5.6ポイント低くなっている。

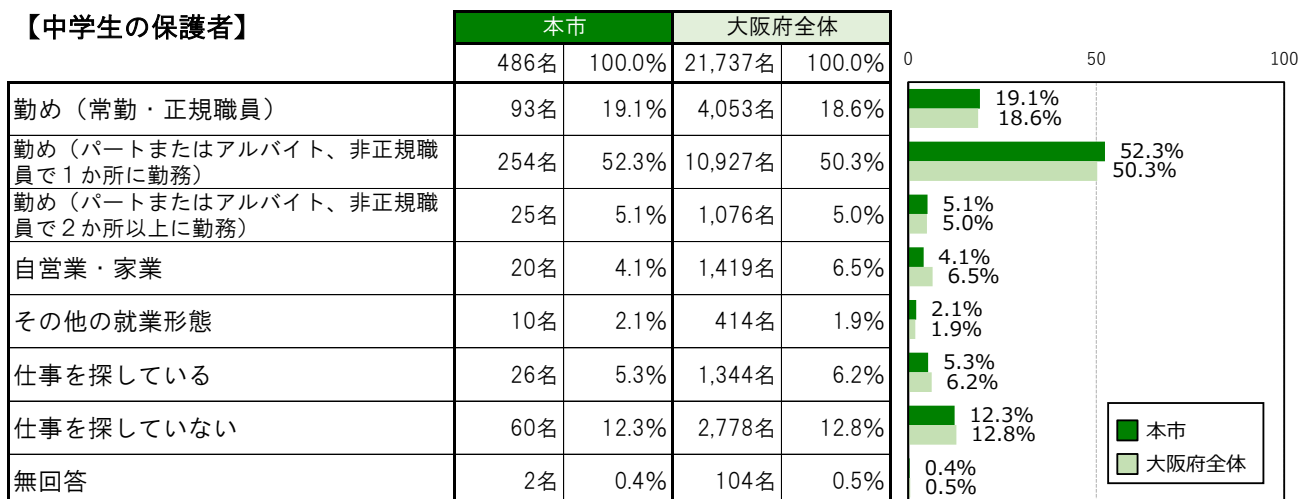
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



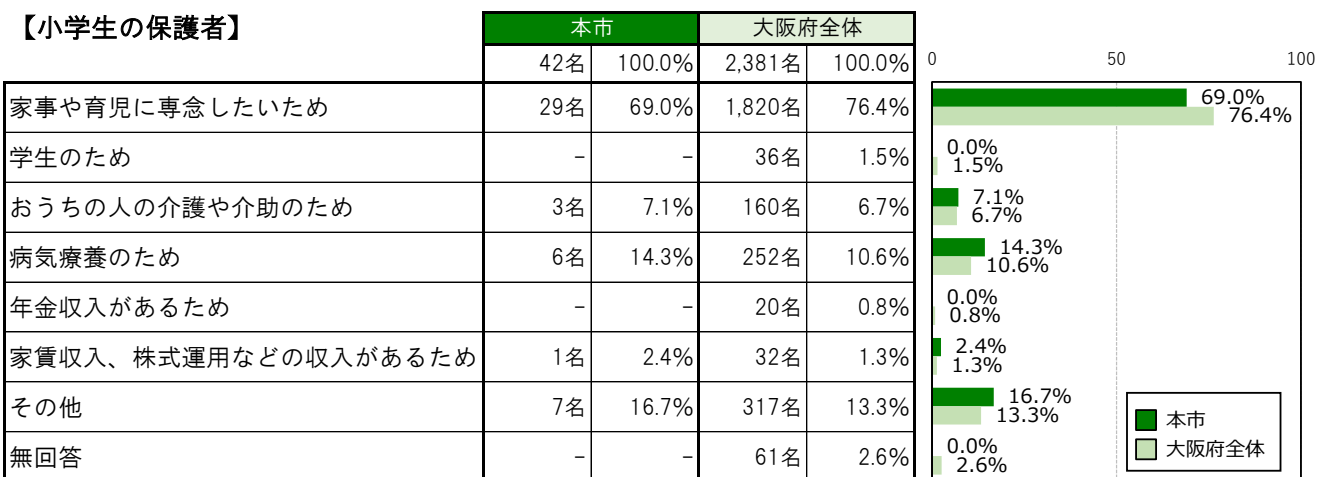
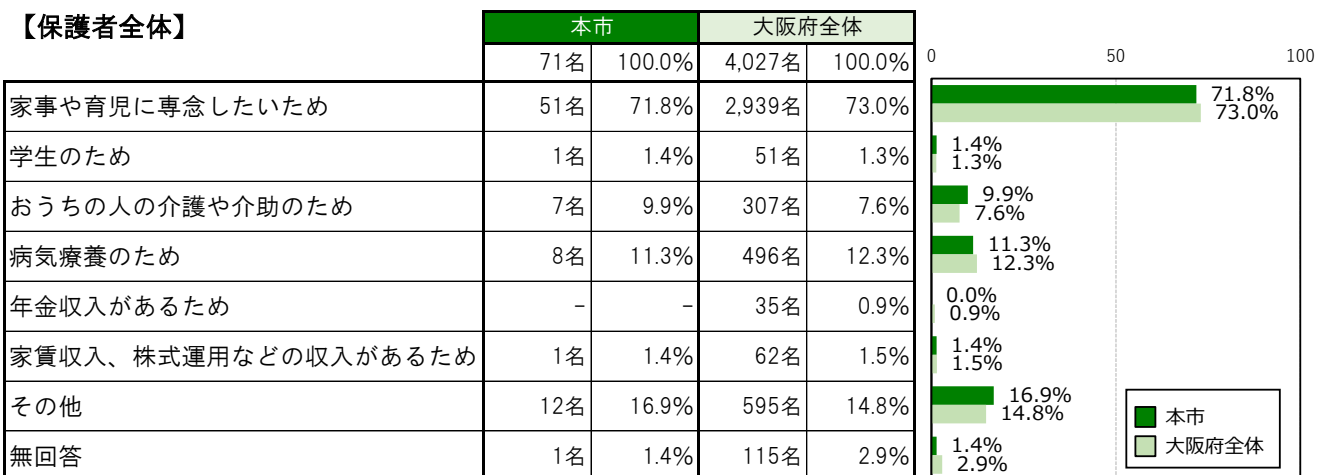
世帯の状況について

問9 お母さんが仕事を探していない理由

保護者全体は、「家事や育児に専念したいため」が71.8%で最も多く、次いで「病気療養のため」が11.3%、「おうちの人の介護や介助のため」が9.9%となっている。

小学生の保護者は、「家事や育児に専念したいため」が69.0%で最も多く、次いで「病気療養のため」が14.3%、「おうちの人の介護や介助のため」が7.1%となっている。

中学生の保護者は、「家事や育児に専念したいため」が78.3%で最も多く、次いで「おうちの人の介護や介助のため」が17.4%となっている。



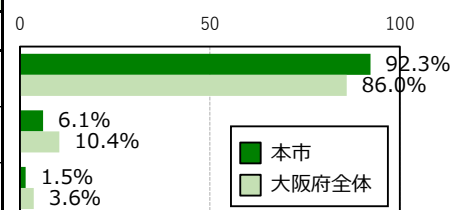
世帯の状況について

問9 お父さんの有無

保護者全体は、「いる」が92.3%、「いない」が6.1%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が93.3%、「いない」が5.0%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が91.4%、「いない」が7.5%となっている。

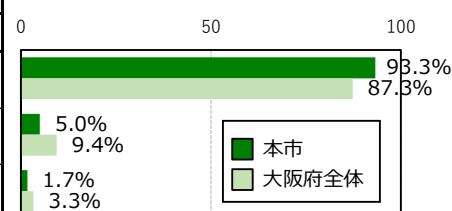
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	783名	92.3%	37,256名	86.0%
いない	52名	6.1%	4,504名	10.4%
無回答	13名	1.5%	1,540名	3.6%



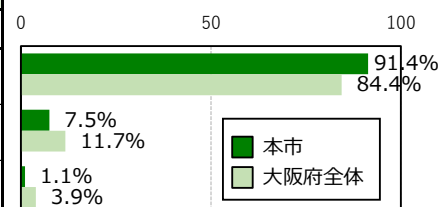
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	391名	93.3%	19,882名	87.3%
いない	21名	5.0%	2,149名	9.4%
無回答	7名	1.7%	755名	3.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	341名	91.4%	16,352名	84.4%
いない	28名	7.5%	2,261名	11.7%
無回答	4名	1.1%	752名	3.9%



世帯の状況について

問9 お父さんの就業状況

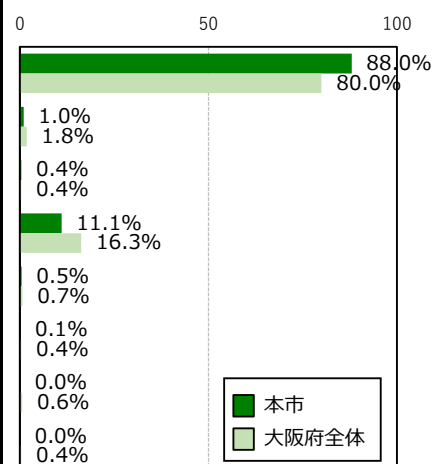
保護者全体は、「勤め（常勤・正規職員）」が88.0%で最も多く、次いで「自営業・家業」が11.1%、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が1.0%となっている。

小学生の保護者は、「勤め（常勤・正規職員）」が90.0%で最も多く、次いで「自営業・家業」が9.7%、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が1.3%となっている。

中学生の保護者は、「勤め（常勤・正規職員）」が86.5%で最も多く、次いで「自営業・家業」が12.3%となっている。

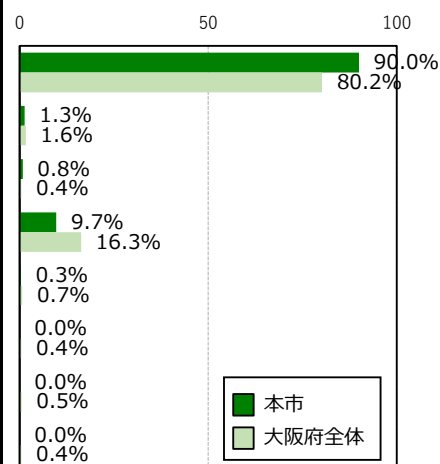
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	783名	100.0%	37,256名	100.0%
勤め（常勤・正規職員）	689名	88.0%	29,790名	80.0%
勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）	8名	1.0%	660名	1.8%
勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で2か所以上に勤務）	3名	0.4%	161名	0.4%
自営業・家業	87名	11.1%	6,063名	16.3%
その他の就業形態	4名	0.5%	258名	0.7%
仕事を探している	1名	0.1%	154名	0.4%
仕事を探していない	-	-	206名	0.6%
無回答	-	-	163名	0.4%



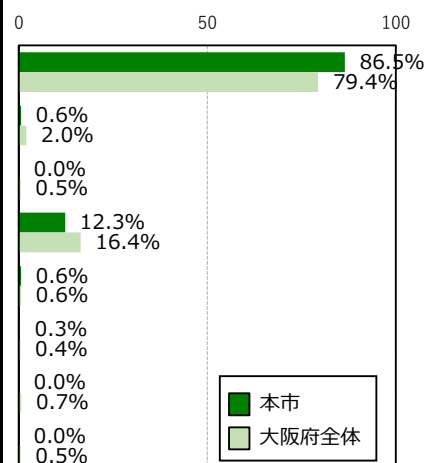
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	391名	100.0%	19,882名	100.0%
勤め（常勤・正規職員）	352名	90.0%	15,955名	80.2%
勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）	5名	1.3%	324名	1.6%
勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で2か所以上に勤務）	3名	0.8%	80名	0.4%
自営業・家業	38名	9.7%	3,232名	16.3%
その他の就業形態	1名	0.3%	143名	0.7%
仕事を探している	-	-	80名	0.4%
仕事を探していない	-	-	95名	0.5%
無回答	-	-	77名	0.4%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	341名	100.0%	16,352名	100.0%
勤め（常勤・正規職員）	295名	86.5%	12,988名	79.4%
勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）	2名	0.6%	323名	2.0%
勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で2か所以上に勤務）	-	-	79名	0.5%
自営業・家業	42名	12.3%	2,675名	16.4%
その他の就業形態	2名	0.6%	106名	0.6%
仕事を探している	1名	0.3%	72名	0.4%
仕事を探していない	-	-	109名	0.7%
無回答	-	-	82名	0.5%

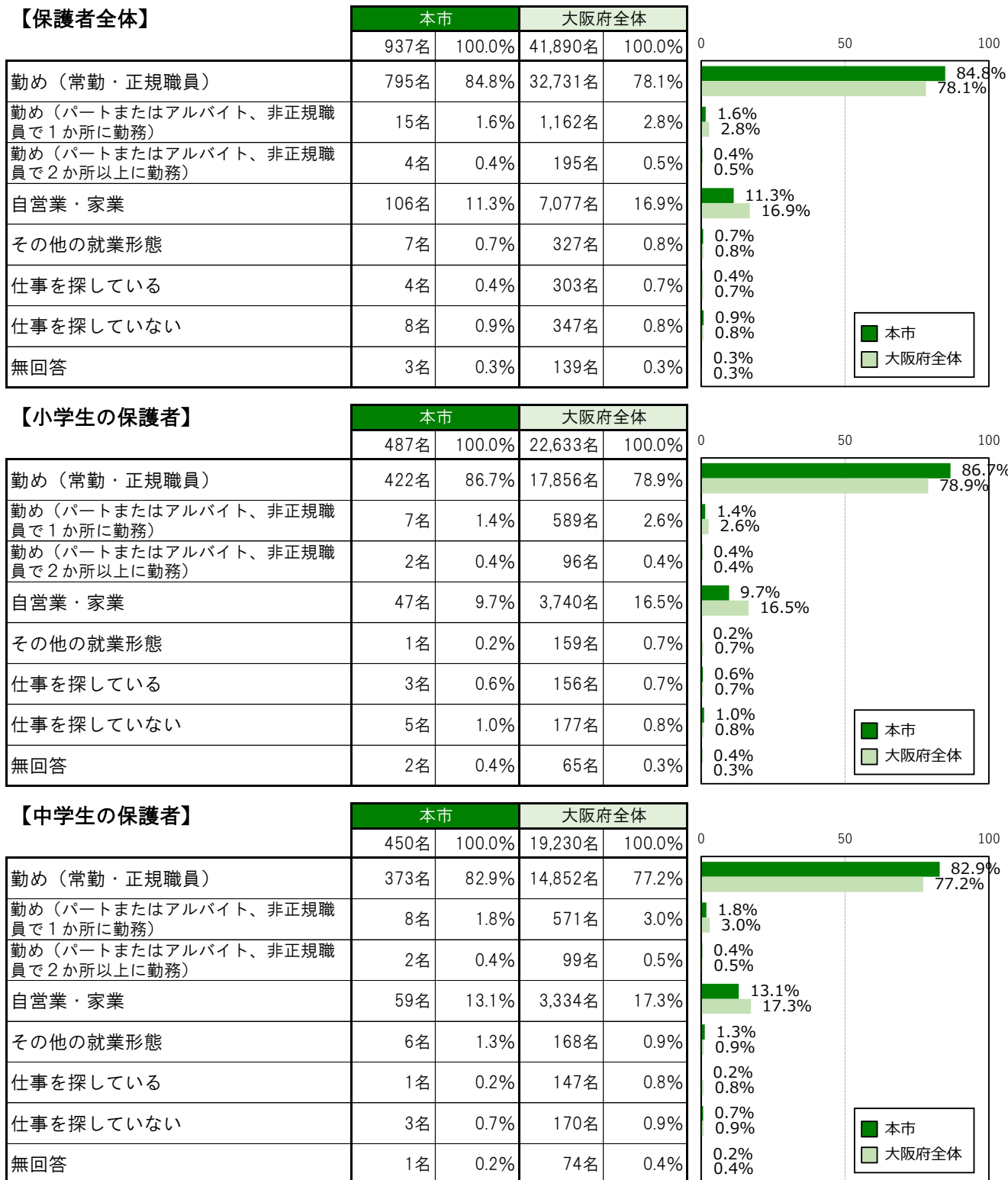


●2016年度 調査結果〔参考データ〕

2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「勤め（常勤・正規職員）」は3.2ポイント高くなっている。

小学生の保護者は、「勤め（常勤・正規職員）」は3.3ポイント高くなっている。

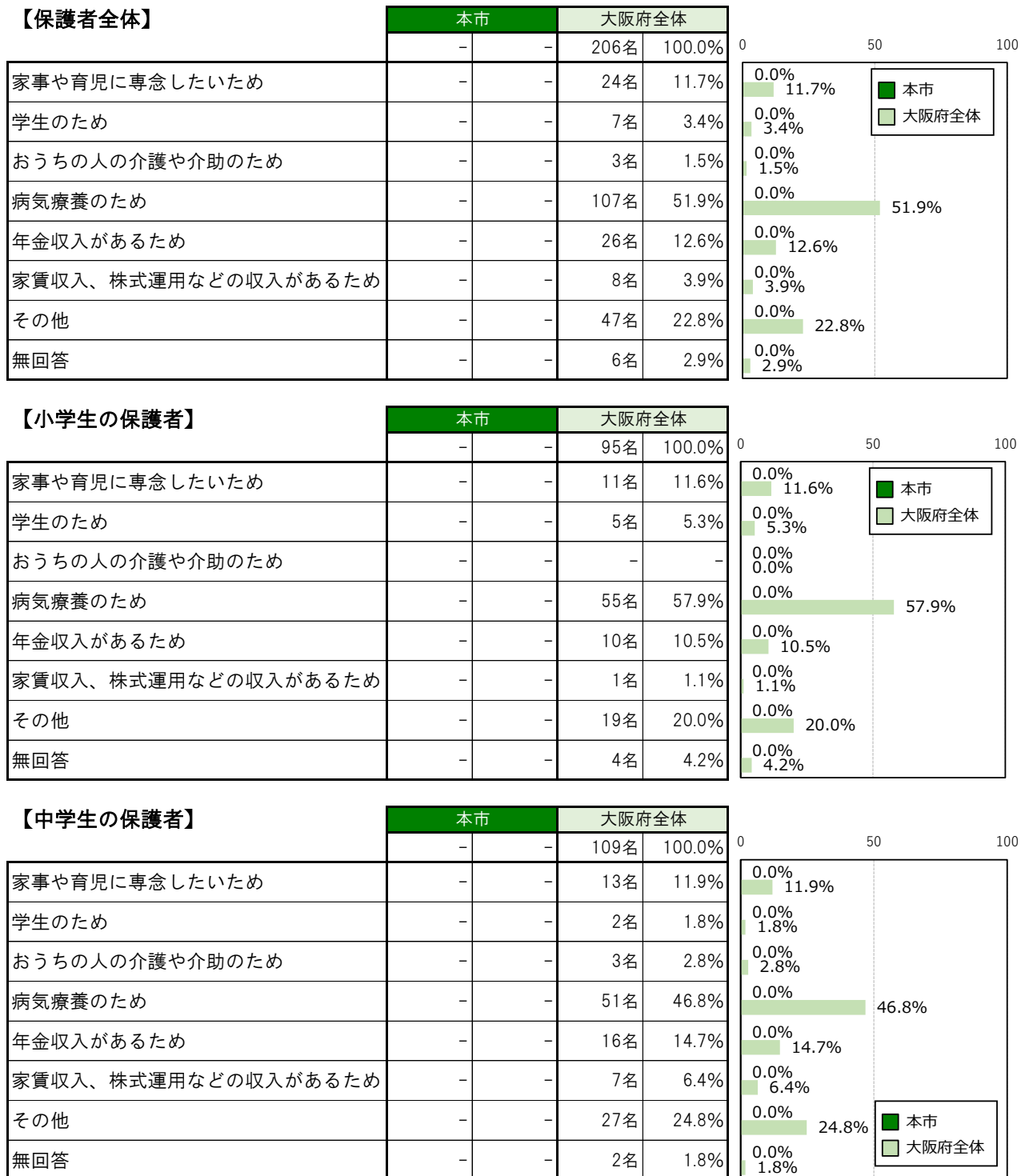
中学生の保護者は、「勤め（常勤・正規職員）」は3.6ポイント高くなっている。



世帯の状況について

問9 お父さんが仕事を探していない理由

保護者全体、小学生の保護者は、中学生の保護者は、いずれも回答がなかった。



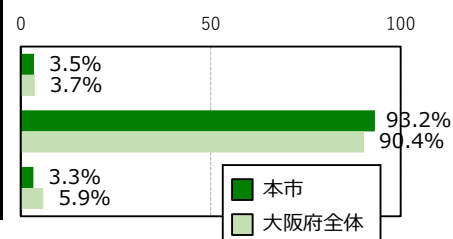
世帯の状況について

問9 親以外に主として家計を支えている人の有無

保護者全体は、「いる」が3.5%、「いない」が93.2%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が2.9%、「いない」が93.8%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が4.3%、「いない」が92.8%となっている。

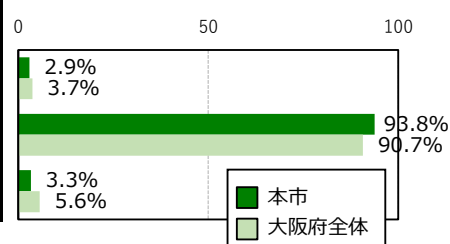
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
	848名	100.0%	43,300名	100.0%
いる	30名	3.5%	1,611名	3.7%
いない	790名	93.2%	39,140名	90.4%
無回答	28名	3.3%	2,549名	5.9%



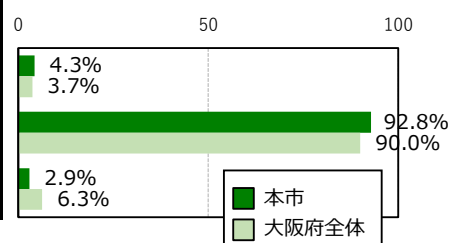
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
	419名	100.0%	22,786名	100.0%
いる	12名	2.9%	854名	3.7%
いない	393名	93.8%	20,666名	90.7%
無回答	14名	3.3%	1,266名	5.6%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
	373名	100.0%	19,365名	100.0%
いる	16名	4.3%	718名	3.7%
いない	346名	92.8%	17,432名	90.0%
無回答	11名	2.9%	1,215名	6.3%



世帯の状況について

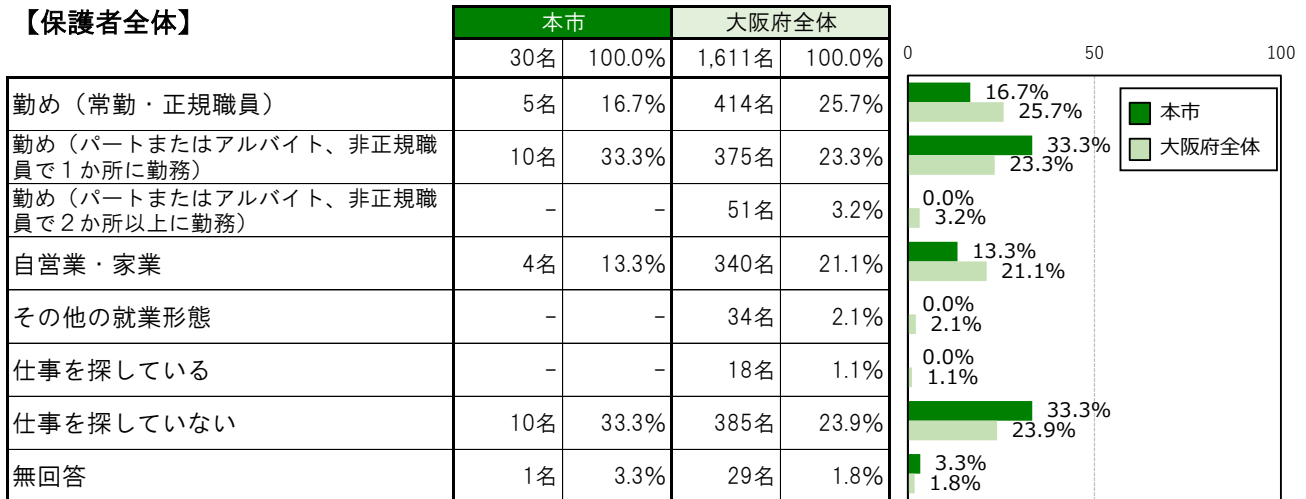
問9 親以外に主として家計を支えている人の就業状況

保護者全体は、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」、「仕事を探していない」がそれぞれ33.3%（各10名）で最も多く、次いで「勤め（常勤・正規職員）」が16.7%（5名）、「自営業・家業」が13.3%（4名）となっている。

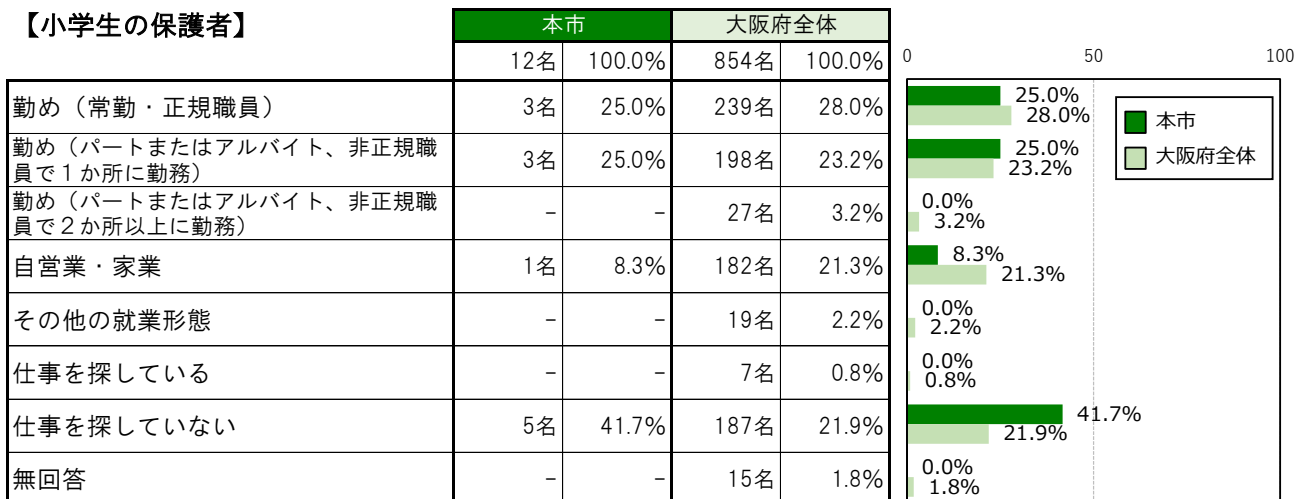
小学生の保護者は、「仕事を探していない」が41.7%（5名）で最も多く、次いで「勤め（常勤・正規職員）」、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」がそれぞれ25.0%（各3名）、「自営業・家業」が8.3%（1名）となっている。

中学生の保護者は、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が43.8%（7名）で最も多く、次いで「自営業・家業」、「仕事を探していない」がそれぞれ18.8%（各3名）、「勤め（常勤・正規職員）」が12.5%（2名）となっている。

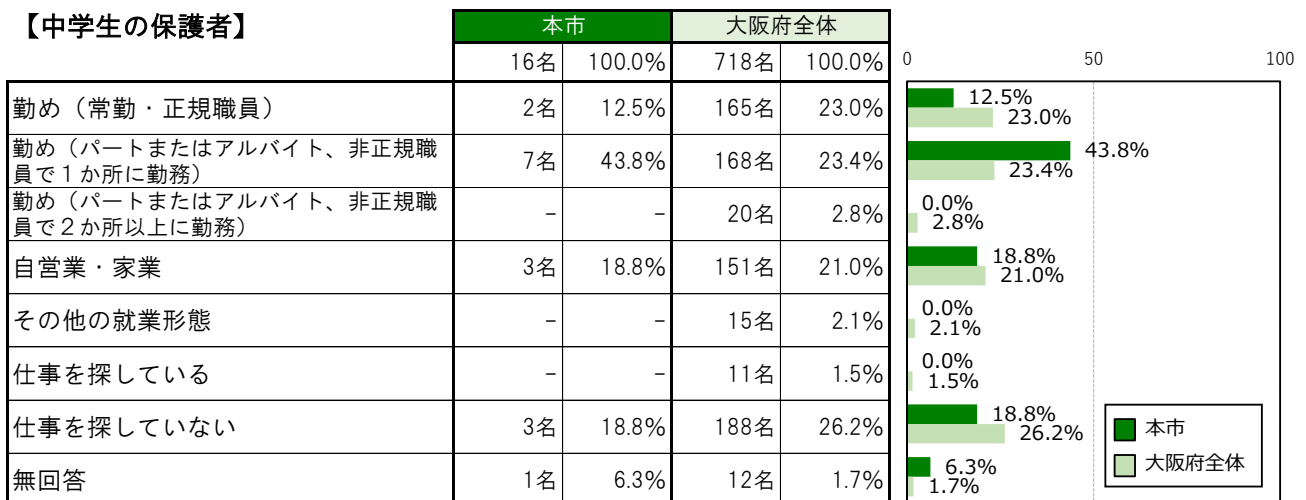
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



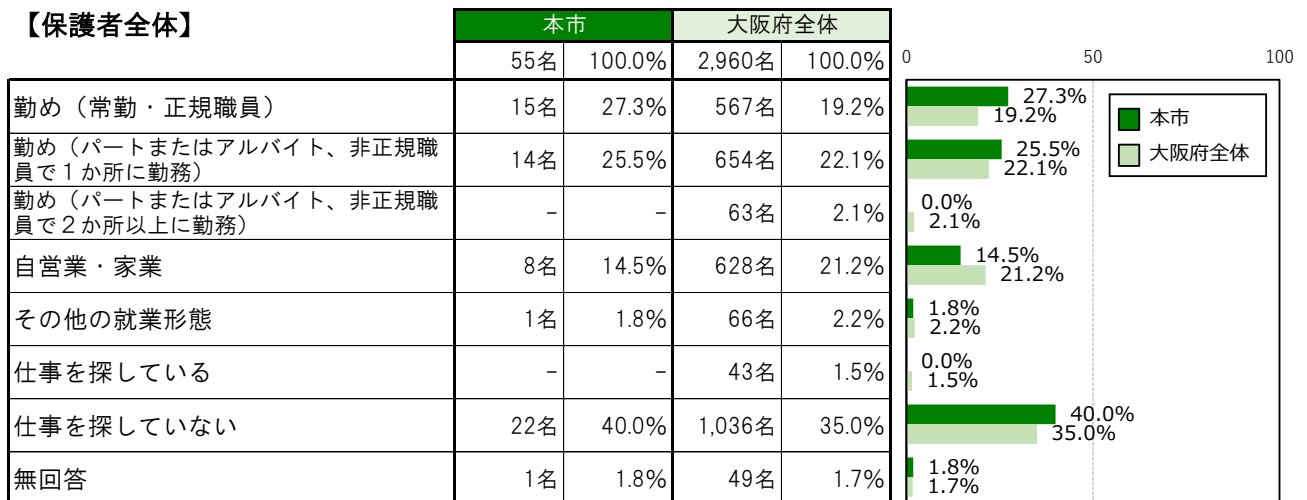
●2016年度 調査結果〔参考データ〕

2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「勤め（常勤・正規職員）」が10.6ポイント低くなっている。

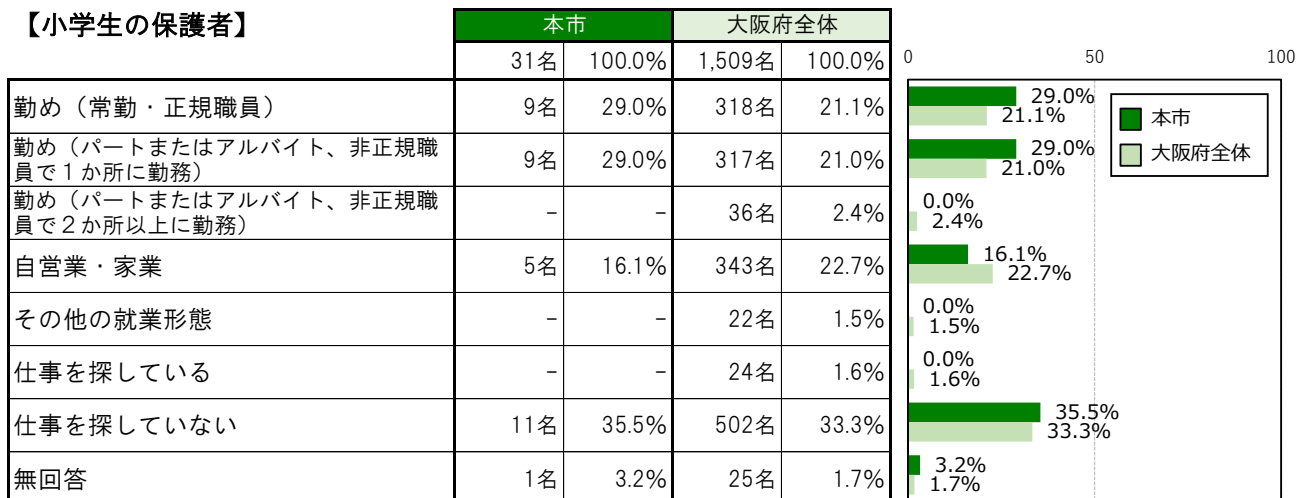
小学生の保護者は、「自営業・家業」は7.8ポイント低くなっている。

中学生の保護者は、「仕事を探していない」は27.0ポイント低くなっている。

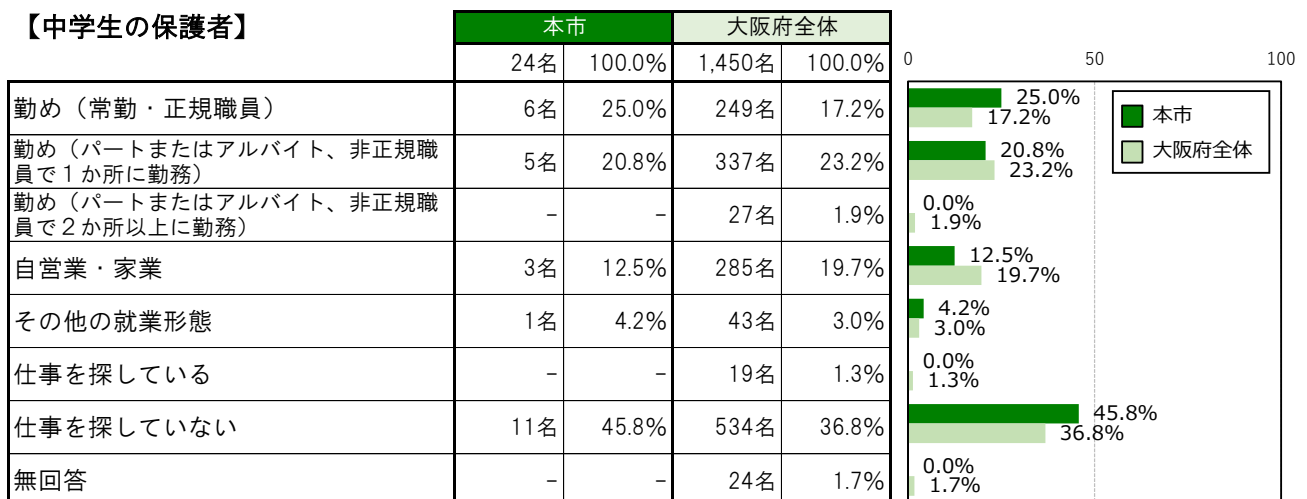
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



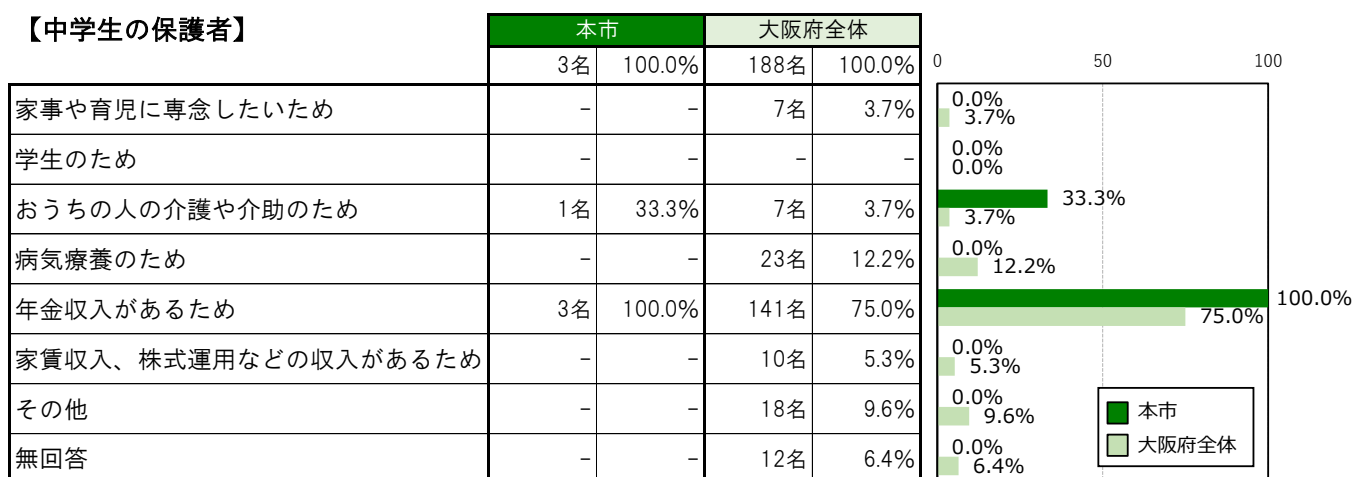
世帯の状況について

問9 親以外に主として家計を支えている人が仕事を探していない理由

保護者全体は、「年金収入があるため」が80.0%（8名）で最も多く、次いで「おうちの人の介護や介助のため」、「家賃収入、株式運用などの収入があるため」がそれぞれ10.0%（各1名）となっている。

小学生の保護者は、「年金収入があるため」が80.0%（4名）で最も多く、次いで「家賃収入、株式運用などの収入があるため」が20.0%（1名）となっている。

中学生の保護者は、「年金収入があるため」が100.0%（3名）で最も多く、次いで「おうちの人の介護や介助のため」が33.3%（1名）となっている。



世帯の状況について

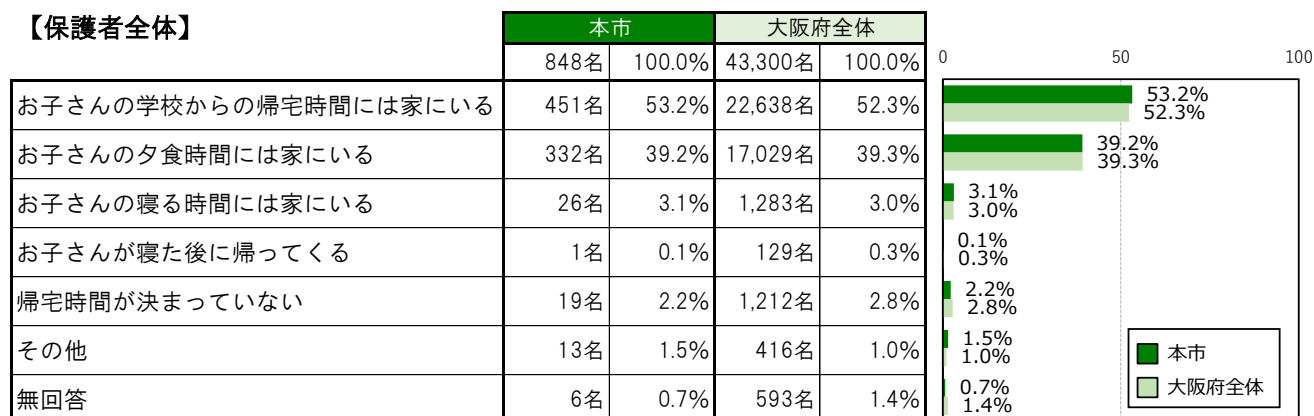
問10 保護者が家にいる時間帯

保護者全体は、「お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる」が53.2%で最も多く、次いで「お子さんの夕食時間には家にいる」が39.2%、「お子さんの寝る時間には家にいる」が3.1%、「帰宅時間が決まっていない」が2.2%となっている。

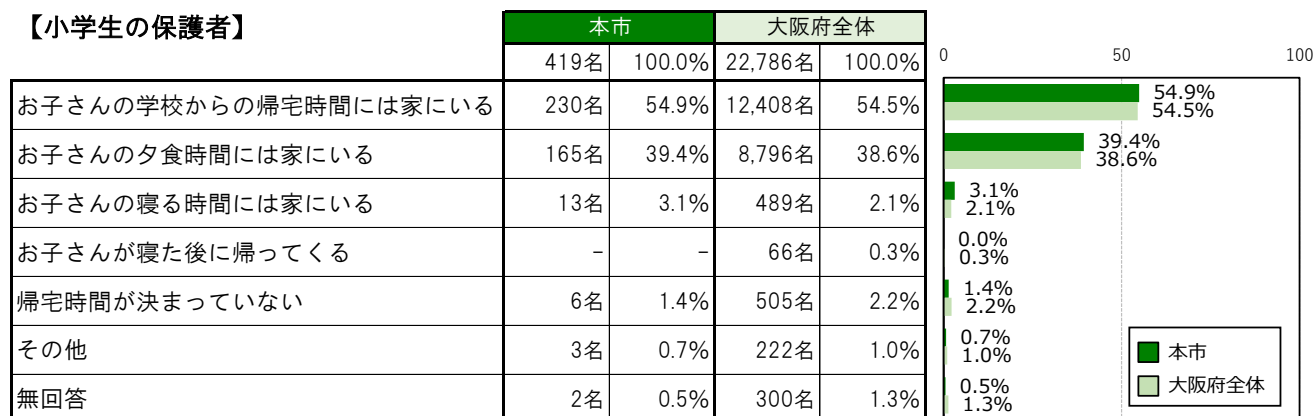
小学生の保護者は、「お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる」が54.9%で最も多く、次いで「お子さんの夕食時間には家にいる」が39.4%、「お子さんの寝る時間には家にいる」が3.1%となっている。

中学生の保護者は、「お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる」が51.7%で最も多く、次いで「お子さんの夕食時間には家にいる」が38.9%、「お子さんの寝る時間には家にいる」が3.5%、「帰宅時間が決まっていない」が2.7%となっている。

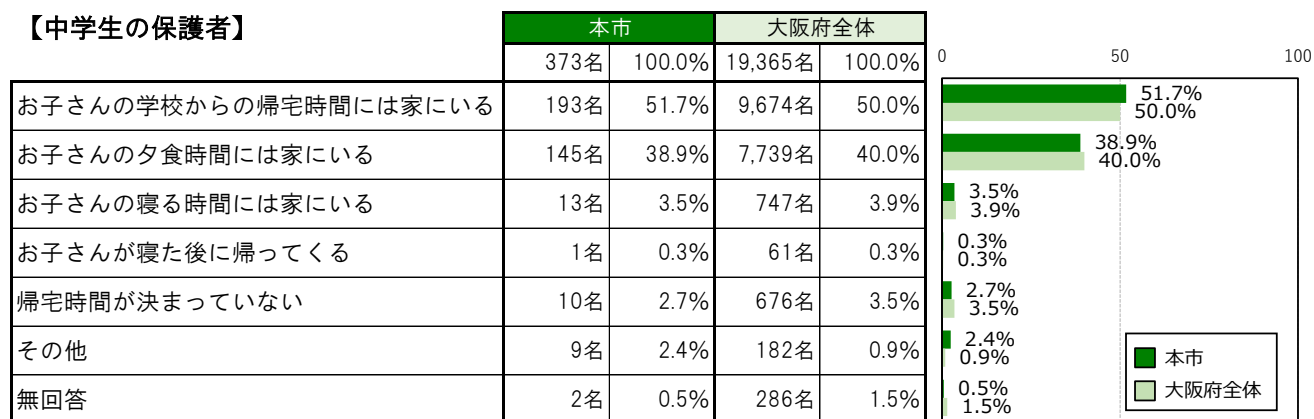
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



世帯の状況について

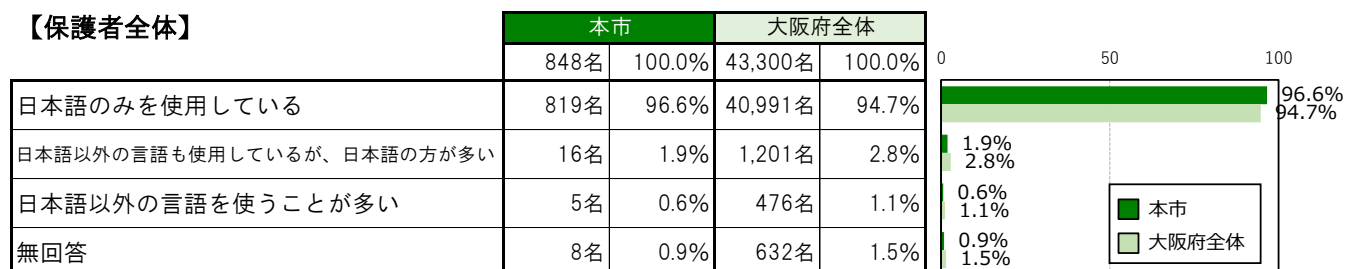
問11 日本語以外の言語の使用状況

保護者全体は、「日本語のみを使用している」が96.6%で最も多く、次いで「日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い」が1.9%となっている。

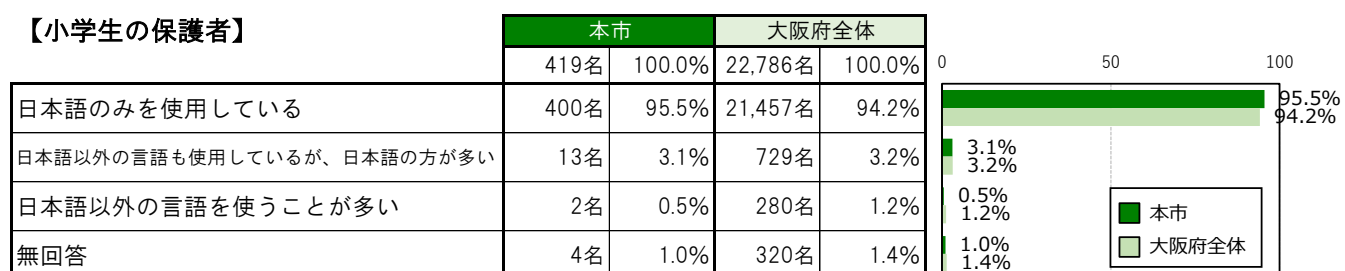
小学生の保護者は、「日本語のみを使用している」が95.5%で最も多く、次いで「日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い」が3.1%となっている。

中学生の保護者は、「日本語のみを使用している」が98.4%で最も多く、次いで「日本語以外の言語を使うことが多い」が0.8%となっている。

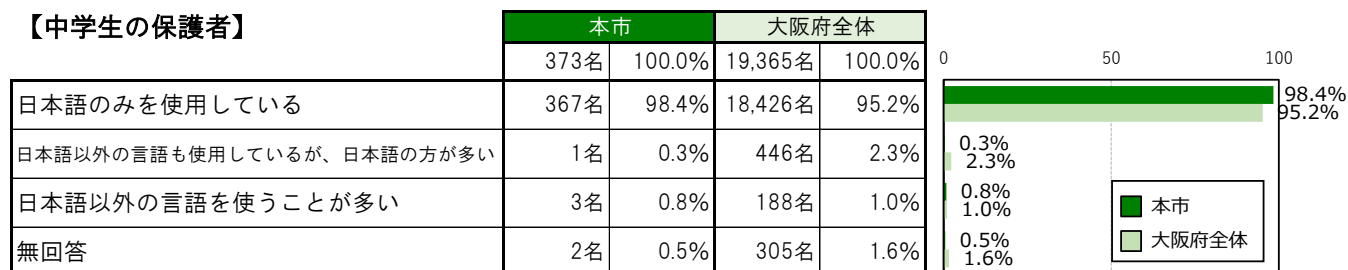
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



子どもに関することについて

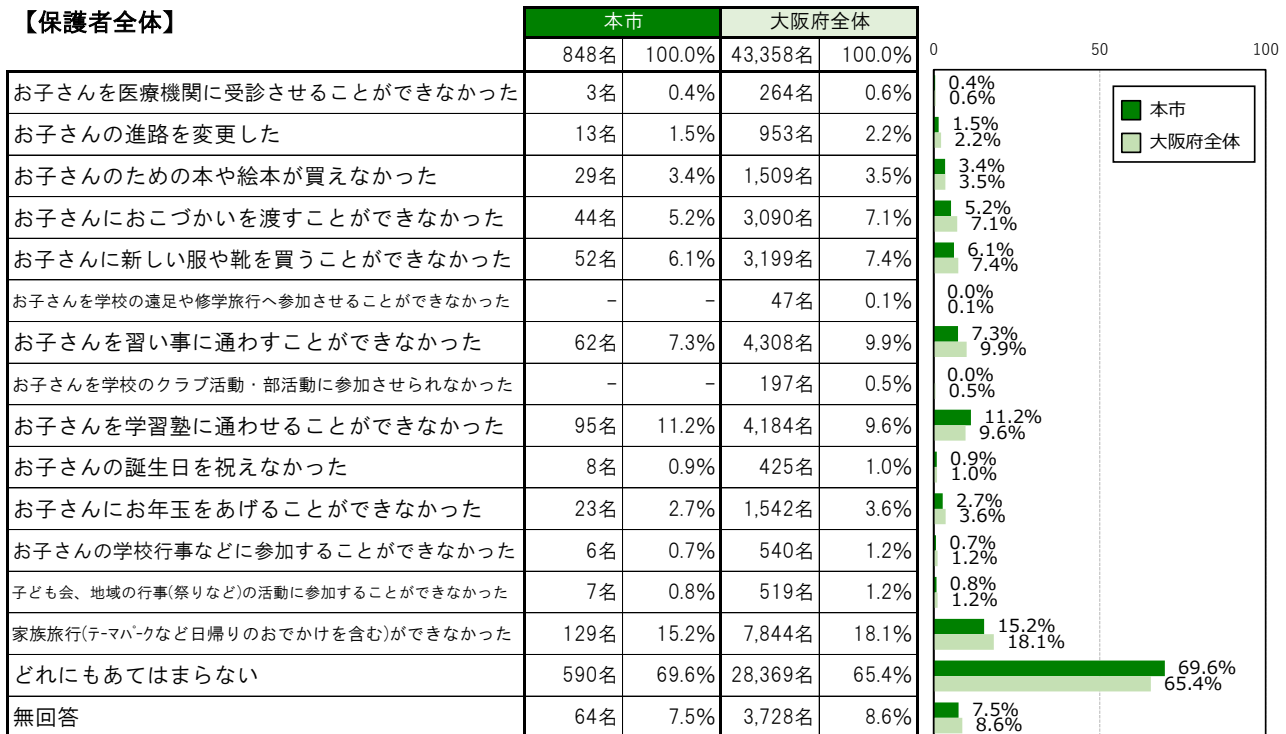
問12 経済的な理由による子どもに関する経験

保護者全体は、「どれにもあてはまらない」が69.6%で最も多く、次いで「家族旅行(テーマパークなど日帰りのおでかけを含む)ができなかった」が15.2%、「お子さんを学習塾に通わせることができなかった」が11.2%、「お子さんを習い事に通わすことができなかった」が7.3%となっている。

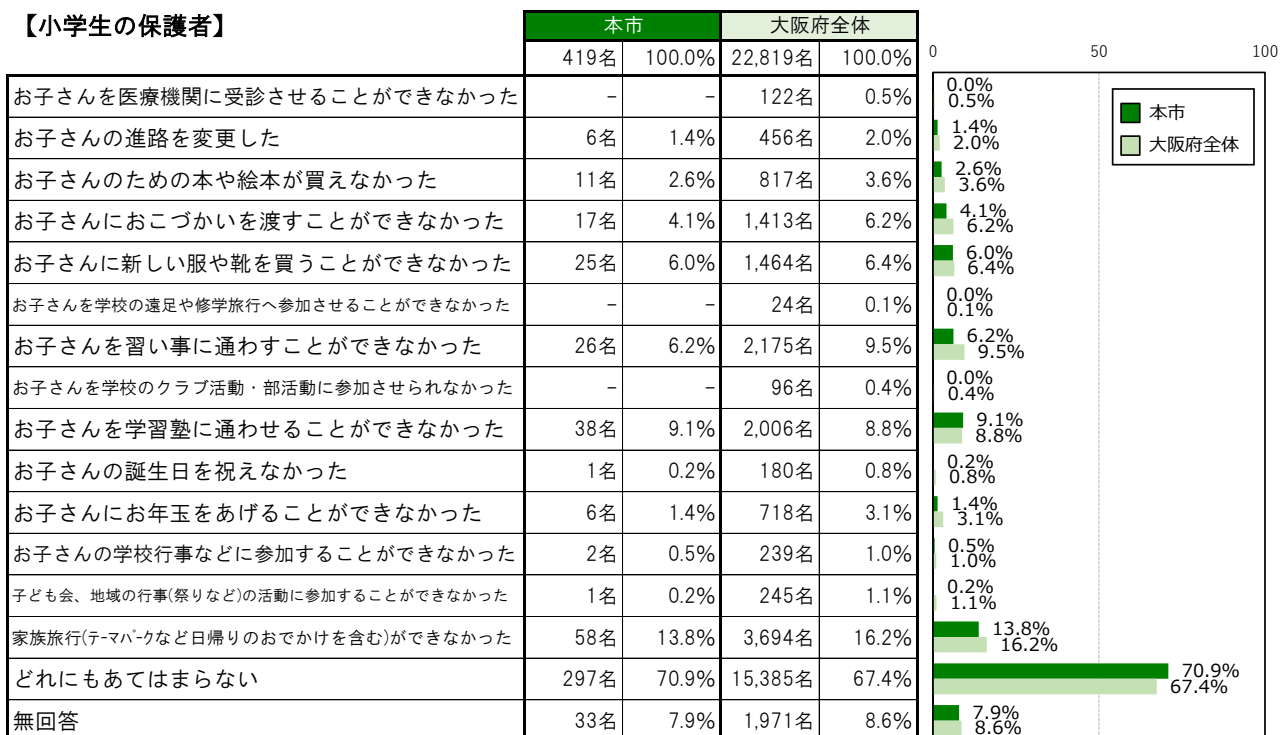
小学生の保護者は、「どれにもあてはまらない」が70.9%で最も多く、次いで「家族旅行(テーマパークなど日帰りのおでかけを含む)ができなかった」が13.8%、「お子さんを学習塾に通わせることができなかった」が9.1%、「お子さんを習い事に通わすことができなかった」が6.2%となっている。

中学生の保護者は、「どれにもあてはまらない」が68.1%で最も多く、次いで「家族旅行(テーマパークなど日帰りのおでかけを含む)ができなかった」が16.6%、「お子さんを学習塾に通わせることができなかった」が13.7%、「お子さんを習い事に通わすことができなかった」が8.8%となっている。

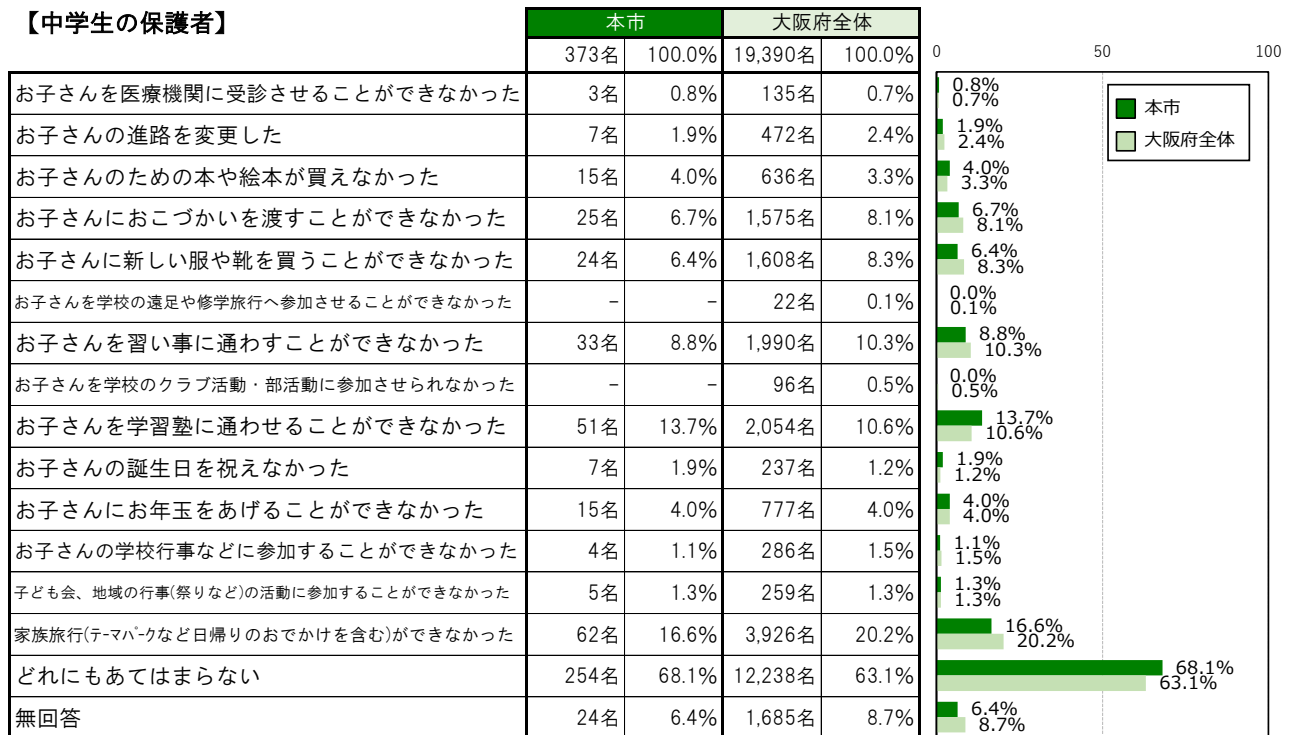
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】

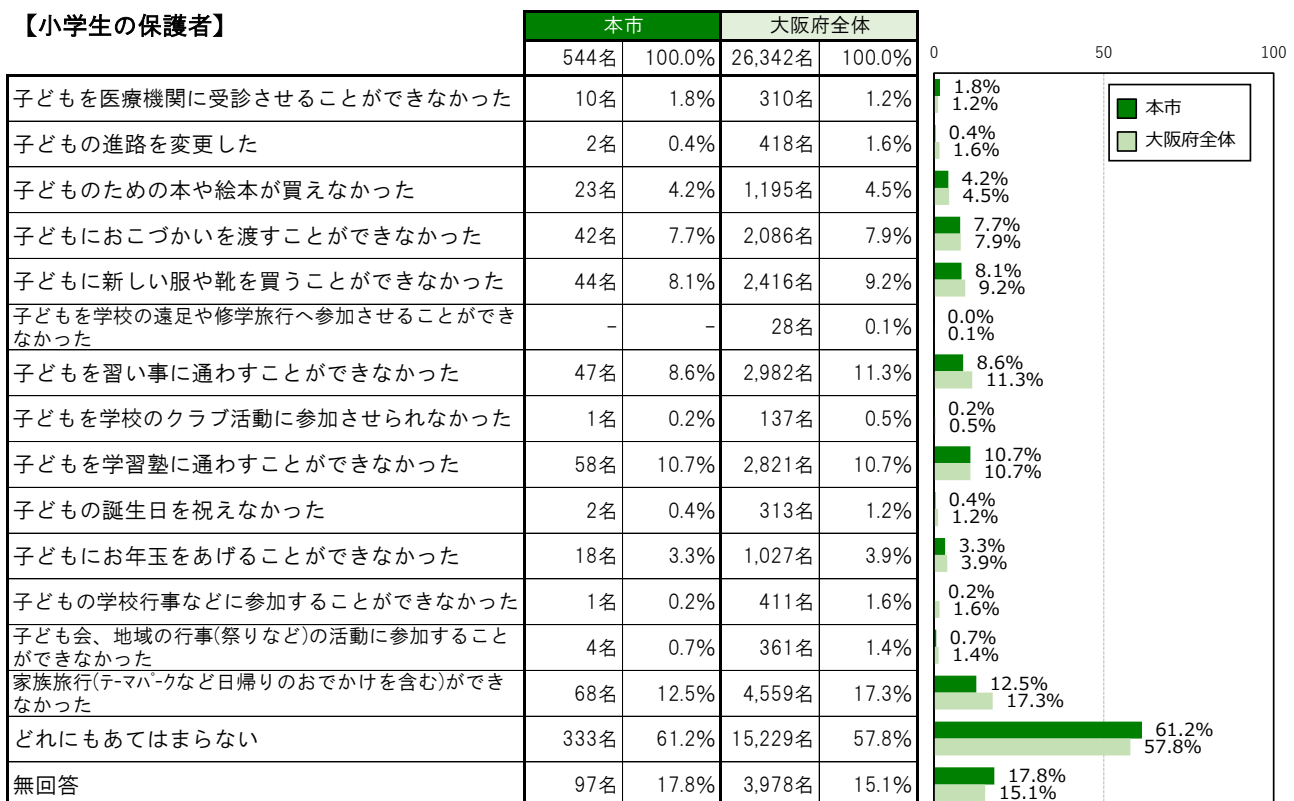
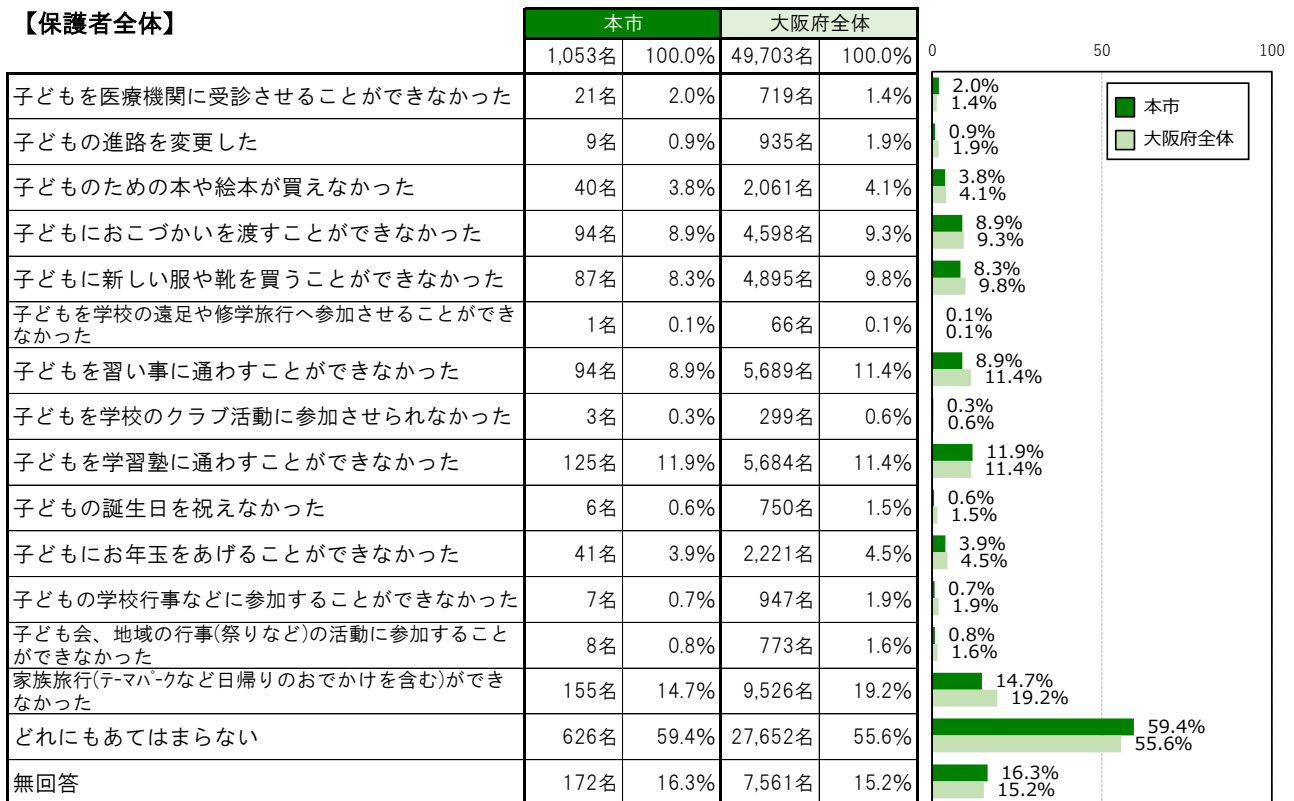


●2016年度 調査結果〔参考データ〕

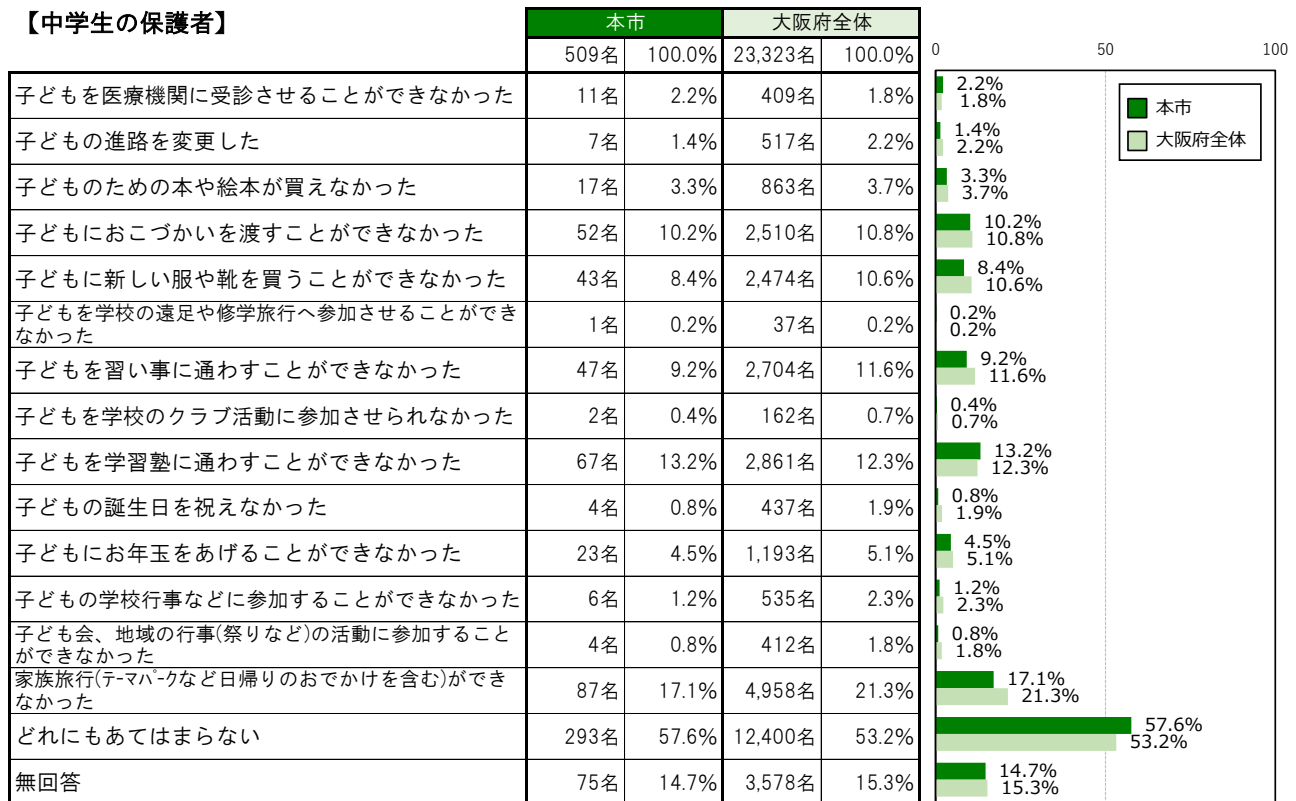
2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「どれにもあてはまらない」が10.2ポイント高くなっている。

小学生の保護者は、「どれにもあてはまらない」が9.7ポイント高くなっている。

中学生の保護者は、「どれにもあてはまらない」が10.5ポイント高くなっている。



【中学生の保護者】



子どもに関することについて

問13（１）子どもへの信頼度

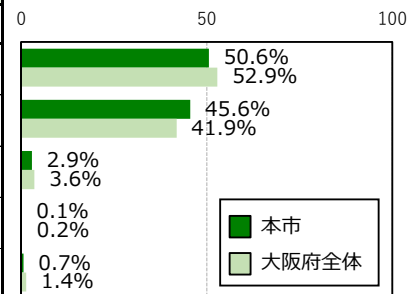
保護者全体は、「とても信頼している」が50.6%で最も多く、次いで「信頼している」が45.6%、「あまり信頼していない」が2.9%となっている。

小学生の保護者は、「とても信頼している」が54.7%で最も多く、次いで「信頼している」が41.5%、「あまり信頼していない」が3.3%となっている。

中学生の保護者は、「信頼している」が50.7%で最も多く、次いで「とても信頼している」が45.8%、「あまり信頼していない」が2.4%となっている。

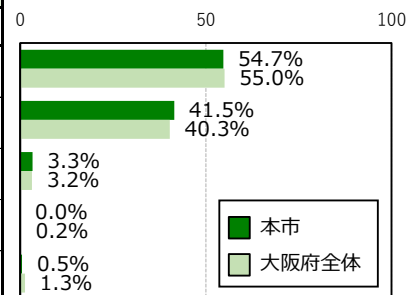
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	848名	100.0%	43,358名	100.0%
とても信頼している	429名	50.6%	22,948名	52.9%
信頼している	387名	45.6%	18,151名	41.9%
あまり信頼していない	25名	2.9%	1,566名	3.6%
信頼していない	1名	0.1%	101名	0.2%
無回答	6名	0.7%	592名	1.4%



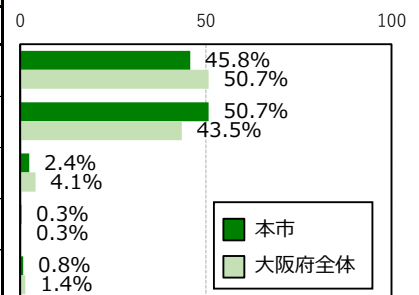
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	419名	100.0%	22,819名	100.0%
とても信頼している	229名	54.7%	12,553名	55.0%
信頼している	174名	41.5%	9,191名	40.3%
あまり信頼していない	14名	3.3%	720名	3.2%
信頼していない	-	-	48名	0.2%
無回答	2名	0.5%	307名	1.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	373名	100.0%	19,390名	100.0%
とても信頼している	171名	45.8%	9,835名	50.7%
信頼している	189名	50.7%	8,429名	43.5%
あまり信頼していない	9名	2.4%	796名	4.1%
信頼していない	1名	0.3%	50名	0.3%
無回答	3名	0.8%	280名	1.4%



子どもに関することについて

問13（2）子どもとの会話頻度

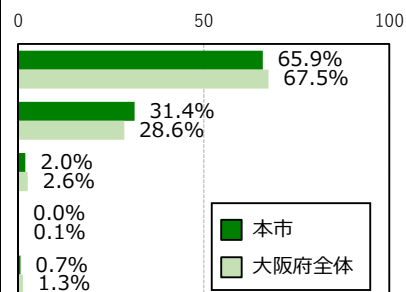
保護者全体は、「よくする」が65.9%で最も多く、次いで「する」が31.4%、「あまりしない」が2.0%となっている。

小学生の保護者は、「よくする」が69.5%で最も多く、次いで「する」が28.2%、「あまりしない」が1.9%となっている。

中学生の保護者は、「よくする」が60.9%で最も多く、次いで「する」が36.2%、「あまりしない」が2.1%となっている。

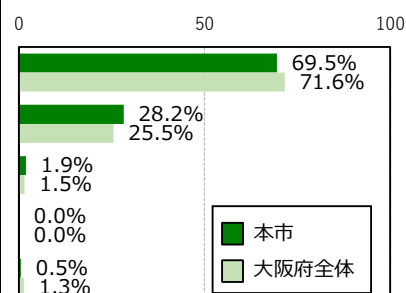
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
よくする	559名	65.9%	29,262名	67.5%
する	266名	31.4%	12,391名	28.6%
あまりしない	17名	2.0%	1,110名	2.6%
しない	-	-	30名	0.1%
無回答	6名	0.7%	565名	1.3%



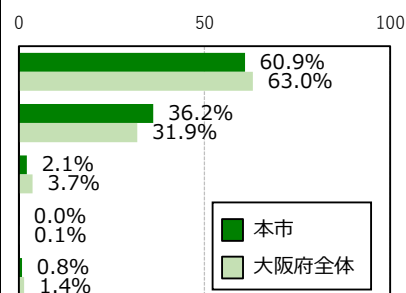
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
よくする	291名	69.5%	16,345名	71.6%
する	118名	28.2%	5,827名	25.5%
あまりしない	8名	1.9%	337名	1.5%
しない	-	-	10名	0.0%
無回答	2名	0.5%	300名	1.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
よくする	227名	60.9%	12,214名	63.0%
する	135名	36.2%	6,176名	31.9%
あまりしない	8名	2.1%	719名	3.7%
しない	-	-	19名	0.1%
無回答	3名	0.8%	262名	1.4%



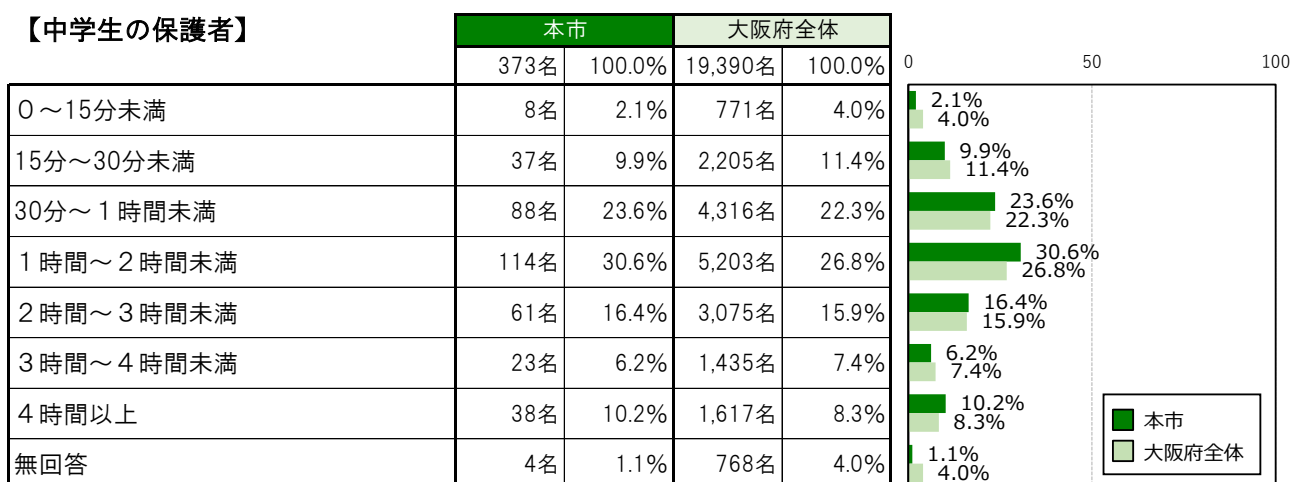
子どもに関することについて

問13（3）平日での子どもとの関わり時間

保護者全体は、「1時間～2時間未満」が28.8%で最も多く、次いで「30分～1時間未満」が20.3%、「2時間～3時間未満」が15.3%、「4時間以上」が12.6%となっている。

小学生の保護者は、「1時間～2時間未満」が27.0%で最も多く、次いで「30分～1時間未満」が17.2%、「4時間以上」が15.3%、「3時間～4時間未満」が14.8%となっている。

中学生の保護者は、「1時間～2時間未満」が30.6%で最も多く、次いで「30分～1時間未満」が23.6%、「2時間～3時間未満」が16.4%、「4時間以上」が10.2%となっている。



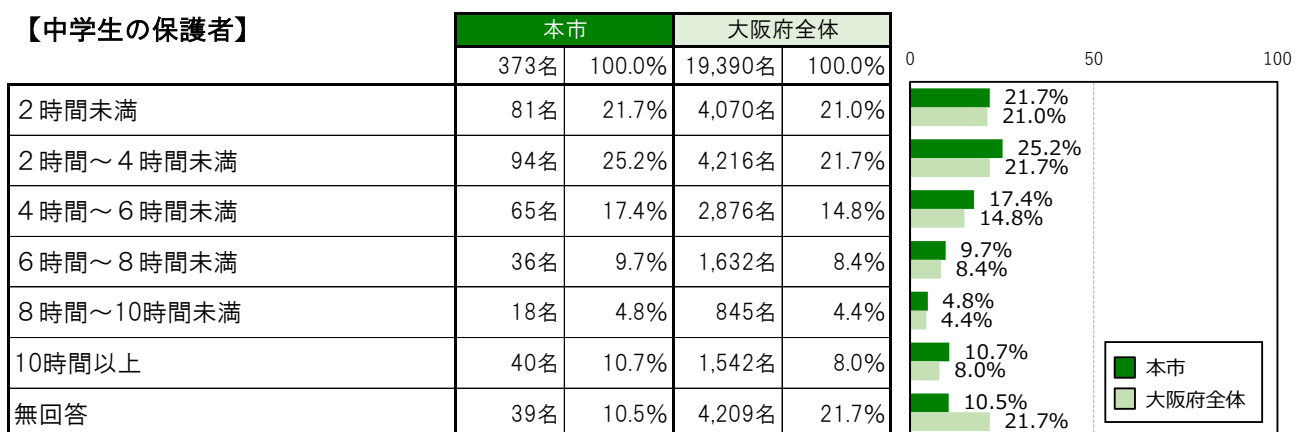
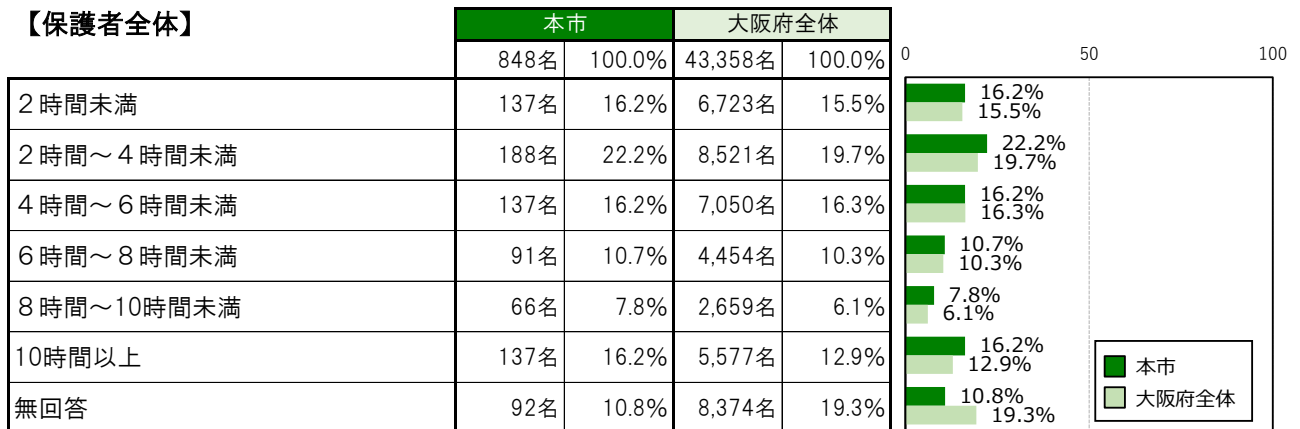
子どもに関することについて

問13（3）休日での子どもとの関わり時間

保護者全体は、「2時間～4時間未満」が22.2%で最も多く、次いで「2時間未満」、「4時間～6時間未満」、「10時間以上」がそれぞれ16.2%となっている。

小学生の保護者は、「10時間以上」が20.8%で最も多く、次いで「2時間～4時間未満」が19.1%、「4時間～6時間未満」が15.8%、「6時間～8時間未満」が11.9%となっている。

中学生の保護者は、「2時間～4時間未満」が25.2%で最も多く、次いで「2時間未満」が21.7%、「4時間～6時間未満」が17.4%、「10時間以上」が10.7%となっている。



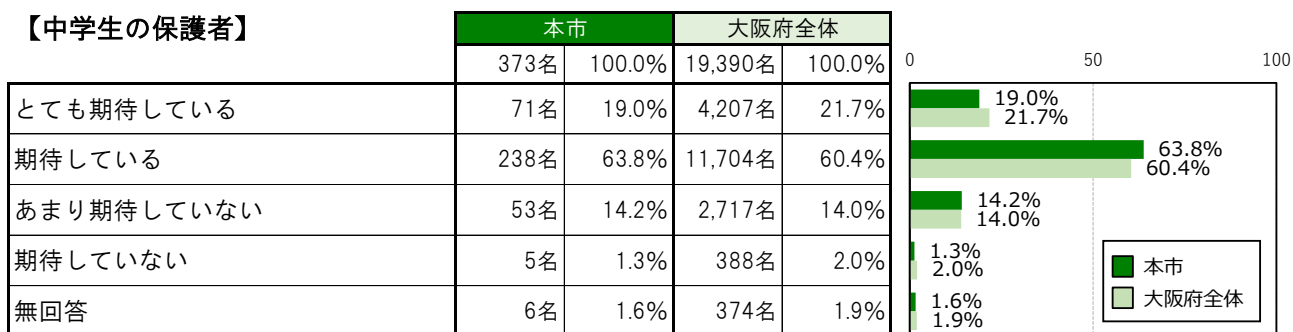
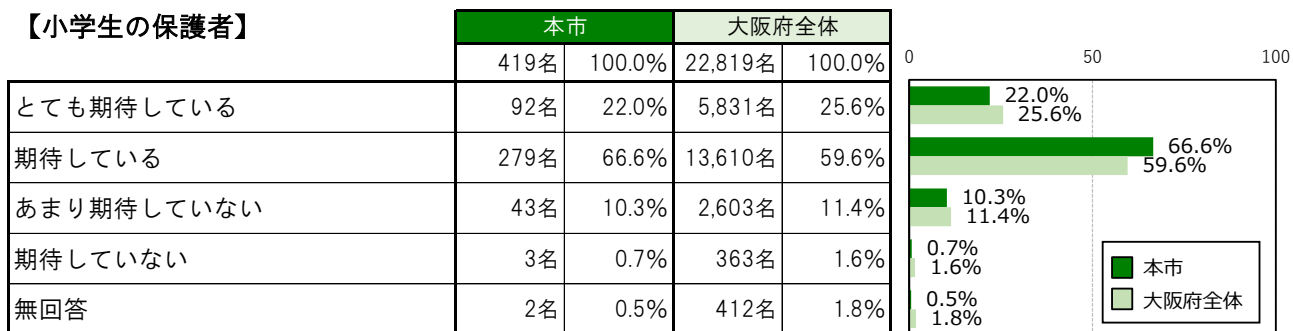
子どもに関することについて

問13（４）子どもの将来への期待度

保護者全体は、「期待している」が64.5%で最も多く、次いで「とても期待している」が20.8%、「あまり期待していない」が12.6%となっている。

小学生の保護者は、「期待している」が66.6%で最も多く、次いで「とても期待している」が22.0%、「あまり期待していない」が10.3%となっている。

中学生の保護者は、「期待している」が63.8%で最も多く、次いで「とても期待している」が19.0%、「あまり期待していない」が14.2%となっている。



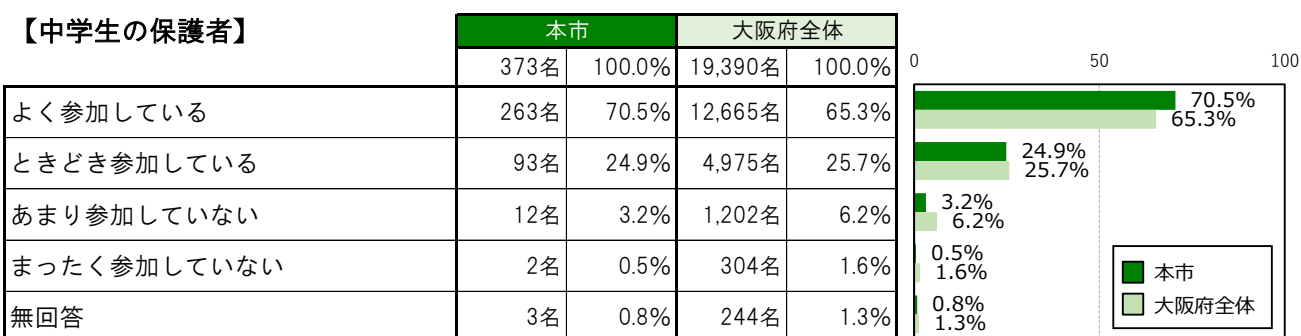
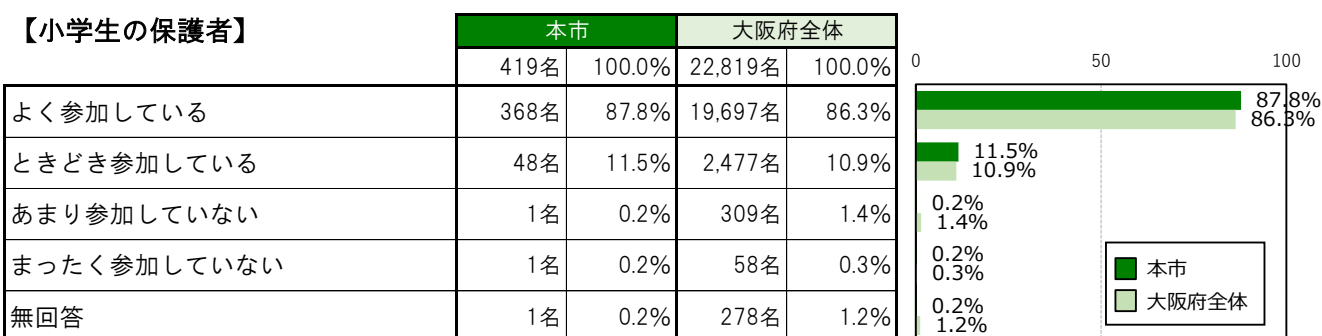
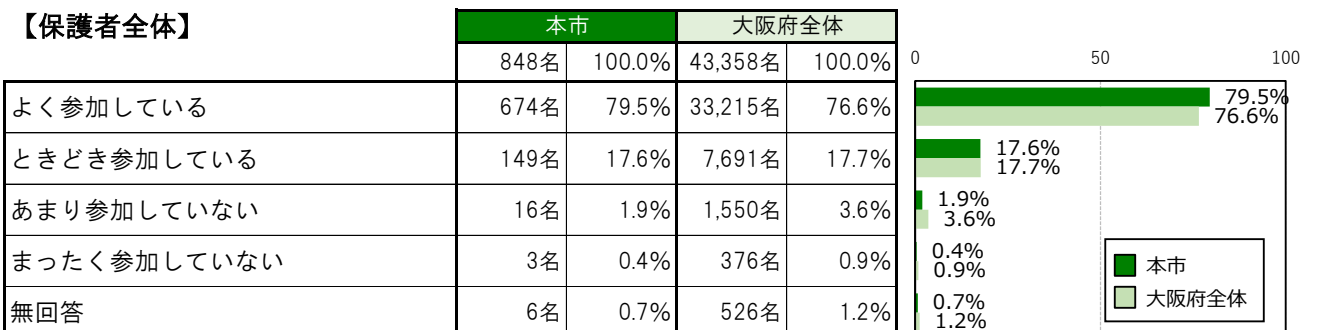
子どもに関することについて

問13（５）子どもの授業参観や運動会などの学校行事への参加状況

保護者全体は、「よく参加している」が79.5%で最も多く、次いで「ときどき参加している」が17.6%、「あまり参加していない」が1.9%となっている。

小学生の保護者は、「よく参加している」が87.8%で最も多く、次いで「ときどき参加している」が11.5%となっている。

中学生の保護者は、「よく参加している」が70.5%で最も多く、次いで「ときどき参加している」が24.9%、「あまり参加していない」が3.2%となっている。



子どもに関することについて

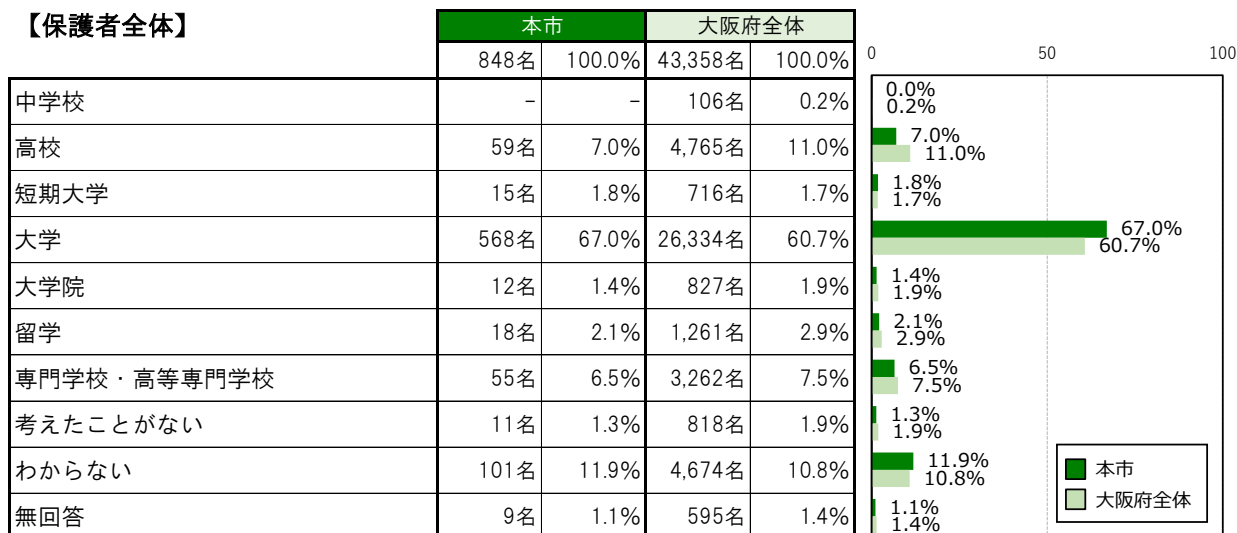
問14 子どもに希望する進学

保護者全体は、「大学」が67.0%で最も多く、次いで「高校」が7.0%、「専門学校・高等専門学校」が6.5%、「留学」が2.1%となっている。

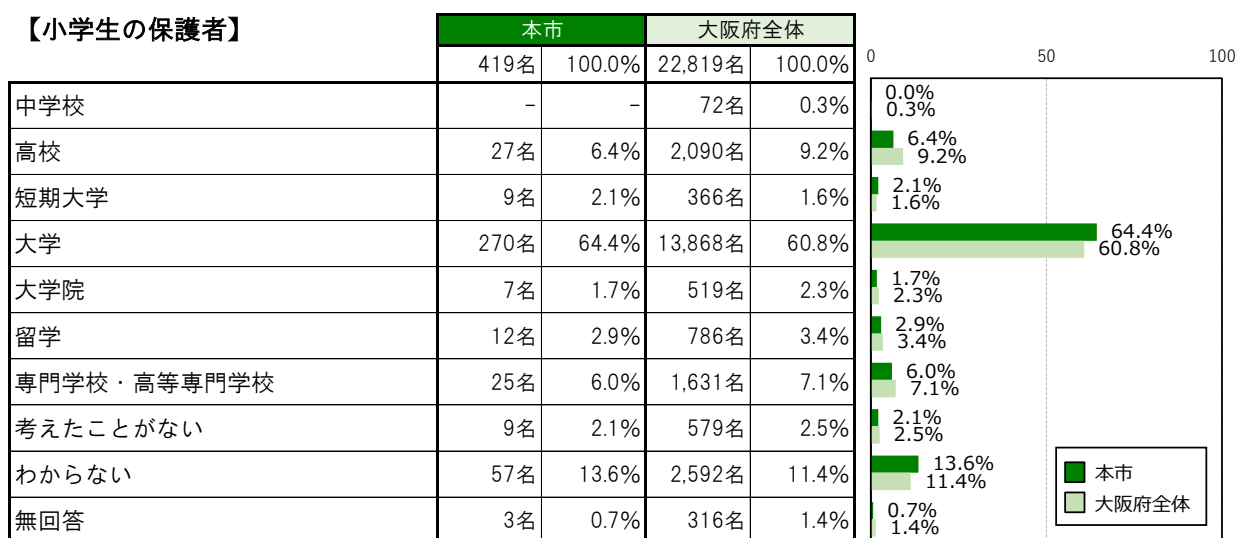
小学生の保護者は、「大学」が64.4%で最も多く、次いで「高校」が6.4%、「専門学校・高等専門学校」が6.0%、「留学」が2.9%となっている。

中学生の保護者は、「大学」が70.2%で最も多く、次いで「高校」が8.3%、「専門学校・高等専門学校」が6.7%、「短期大学」が1.6%となっている。

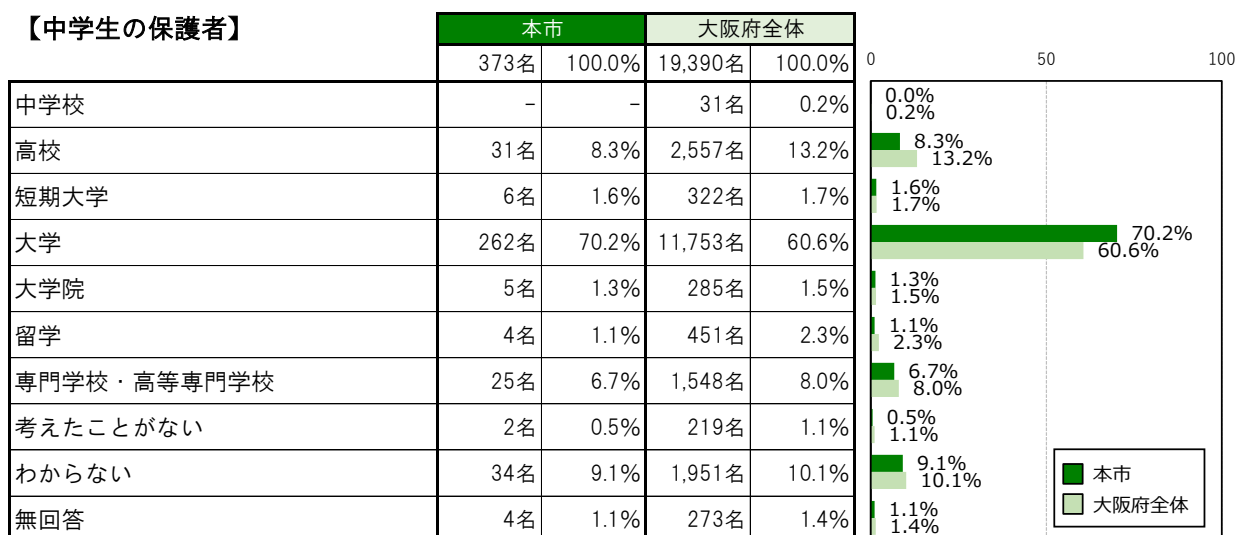
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



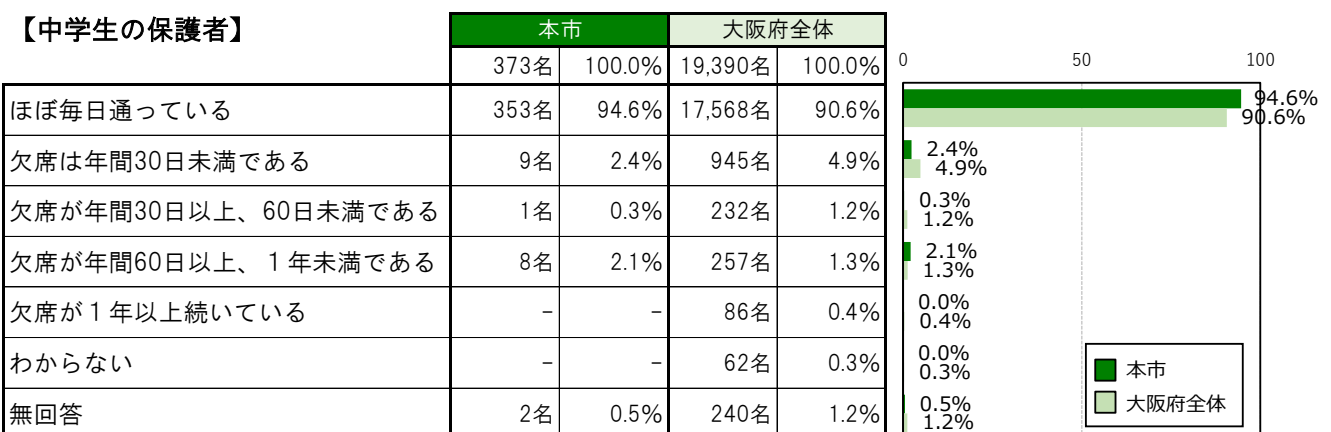
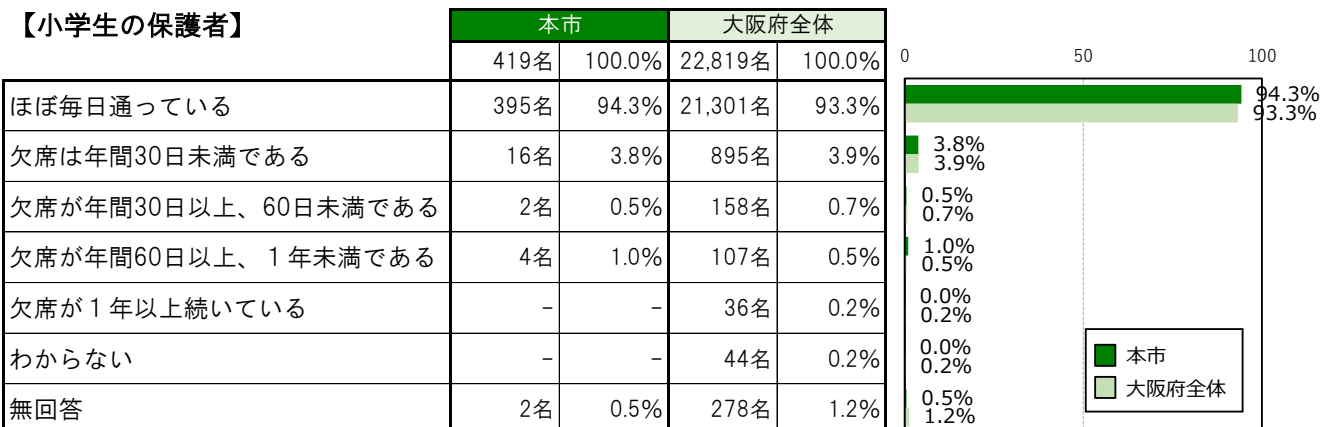
子どもに関することについて

問15 子どもの通学状況

保護者全体は、「ほぼ毎日通っている」が94.2%で最も多く、次いで「欠席は年間30日未満である」が3.2%、「欠席が年間60日以上、1年未満である」が1.4%となっている。

小学生の保護者は、「ほぼ毎日通っている」が94.3%で最も多く、次いで「欠席は年間30日未満である」が3.8%、「欠席が年間60日以上、1年未満である」が1.0%となっている。

中学生の保護者は、「ほぼ毎日通っている」が94.6%で最も多く、次いで「欠席は年間30日未満である」が2.4%、「欠席が年間60日以上、1年未満である」が2.1%となっている。



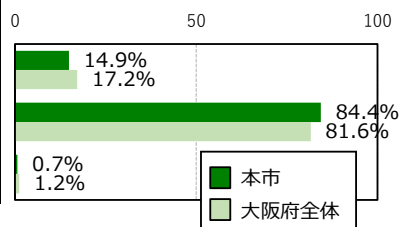
子どもに関することについて

問16（１）子どもの居場所の利用経験

保護者全体は、「利用したことがある」が14.9%、「利用したことがない」が84.4%となっている。
 小学生の保護者は、「利用したことがある」が15.5%、「利用したことがない」が84.0%となっている。
 中学生の保護者は、「利用したことがある」が13.9%、「利用したことがない」が85.5%となっている。

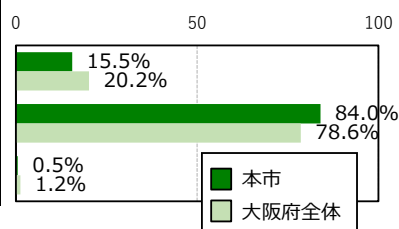
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
	848名	100.0%	43,358名	100.0%
利用したことがある	126名	14.9%	7,459名	17.2%
利用したことがない	716名	84.4%	35,367名	81.6%
無回答	6名	0.7%	532名	1.2%



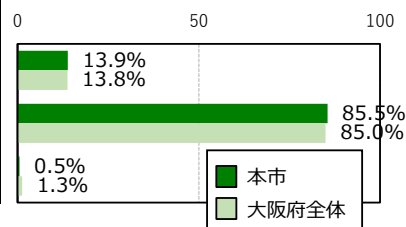
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
	419名	100.0%	22,819名	100.0%
利用したことがある	65名	15.5%	4,599名	20.2%
利用したことがない	352名	84.0%	17,945名	78.6%
無回答	2名	0.5%	275名	1.2%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
	373名	100.0%	19,390名	100.0%
利用したことがある	52名	13.9%	2,667名	13.8%
利用したことがない	319名	85.5%	16,472名	85.0%
無回答	2名	0.5%	251名	1.3%



子どもに関することについて

問16(2) 子どもの居場所を利用することで良いと思うこと

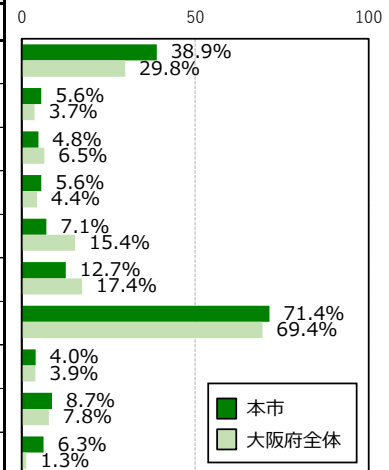
保護者全体は、「お子さんが楽しんでいるから」が71.4%で最も多く、次いで「地域の人とつながれるから」が38.9%、「宿題など勉強を見てくれるから」が12.7%、「低額（または無料）でご飯が食べられるから」が7.1%となっている。

小学生の保護者は、「お子さんが楽しんでいるから」が75.4%で最も多く、次いで「地域の人とつながれるから」が36.9%、「宿題など勉強を見てくれるから」が15.4%、「低額（または無料）でご飯が食べられるから」が7.7%となっている。

中学生の保護者は、「お子さんが楽しんでいるから」が69.2%で最も多く、次いで「地域の人とつながれるから」が38.5%、「お子さんが一人でご飯を食べなくてすむから」が7.7%、「低額（または無料）でご飯が食べられるから」、「宿題など勉強を見てくれるから」がそれぞれ5.8%となっている。

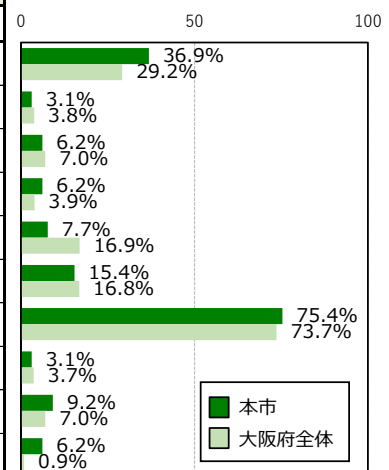
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	126名	100.0%	7,459名	100.0%
地域の人とつながれるから	49名	38.9%	2,226名	29.8%
お子さんが一人でご飯を食べなくてすむから	7名	5.6%	275名	3.7%
栄養バランスがとれた食事がとれるから	6名	4.8%	484名	6.5%
運営者が相談に乗ってくれるから	7名	5.6%	329名	4.4%
低額（または無料）でご飯が食べられるから	9名	7.1%	1,152名	15.4%
宿題など勉強を見てくれるから	16名	12.7%	1,301名	17.4%
お子さんが楽しんでいるから	90名	71.4%	5,178名	69.4%
特になし	5名	4.0%	291名	3.9%
その他	11名	8.7%	579名	7.8%
無回答	8名	6.3%	95名	1.3%



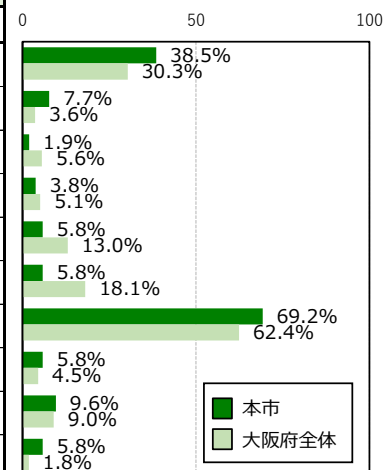
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	65名	100.0%	4,599名	100.0%
地域の人とつながれるから	24名	36.9%	1,344名	29.2%
お子さんが一人でご飯を食べなくてすむから	2名	3.1%	173名	3.8%
栄養バランスがとれた食事がとれるから	4名	6.2%	322名	7.0%
運営者が相談に乗ってくれるから	4名	6.2%	180名	3.9%
低額（または無料）でご飯が食べられるから	5名	7.7%	778名	16.9%
宿題など勉強を見てくれるから	10名	15.4%	773名	16.8%
お子さんが楽しんでいるから	49名	75.4%	3,388名	73.7%
特になし	2名	3.1%	168名	3.7%
その他	6名	9.2%	324名	7.0%
無回答	4名	6.2%	43名	0.9%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	52名	100.0%	2,667名	100.0%
地域の人とつながれるから	20名	38.5%	808名	30.3%
お子さんが一人でご飯を食べなくてすむから	4名	7.7%	97名	3.6%
栄養バランスがとれた食事がとれるから	1名	1.9%	150名	5.6%
運営者が相談に乗ってくれるから	2名	3.8%	136名	5.1%
低額（または無料）でご飯が食べられるから	3名	5.8%	348名	13.0%
宿題など勉強を見てくれるから	3名	5.8%	482名	18.1%
お子さんが楽しんでいるから	36名	69.2%	1,664名	62.4%
特になし	3名	5.8%	120名	4.5%
その他	5名	9.6%	241名	9.0%
無回答	3名	5.8%	47名	1.8%



子どもに関することについて

問16（3）子どもの居場所を利用しない理由

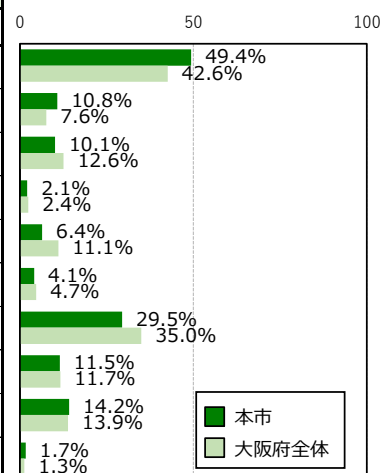
保護者全体は、「どこにあるか知らないから」が49.4%で最も多く、次いで「利用したいと思わないから」が29.5%、「何をしているかわからないから」が11.5%、「家の近く（小学校区内）にないから」が10.8%となっている。

小学生の保護者は、「どこにあるか知らないから」が50.0%で最も多く、次いで「利用したいと思わないから」が27.6%、「家の近く（小学校区内）にないから」が13.4%、「何をしているかわからないから」が10.5%となっている。

中学生の保護者は、「どこにあるか知らないから」が47.3%で最も多く、次いで「利用したいと思わないから」が32.0%、「何をしているかわからないから」が11.9%、「家で過ごしてほしいと思うから」が11.3%となっている。

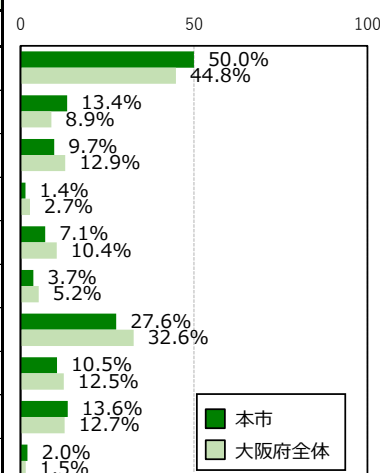
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	716名	100.0%	35,367名	100.0%
どこにあるか知らないから	354名	49.4%	15,060名	42.6%
家の近く（小学校区内）にないから	77名	10.8%	2,697名	7.6%
家で過ごしてほしいと思うから	72名	10.1%	4,452名	12.6%
居場所のイメージがよいから	15名	2.1%	862名	2.4%
お子さんが「行きたくない」と言っているから	46名	6.4%	3,936名	11.1%
行きたい日・時間に開いていないから	29名	4.1%	1,647名	4.7%
利用したいと思わないから	211名	29.5%	12,386名	35.0%
何をしているかわからないから	82名	11.5%	4,149名	11.7%
その他	102名	14.2%	4,908名	13.9%
無回答	12名	1.7%	473名	1.3%



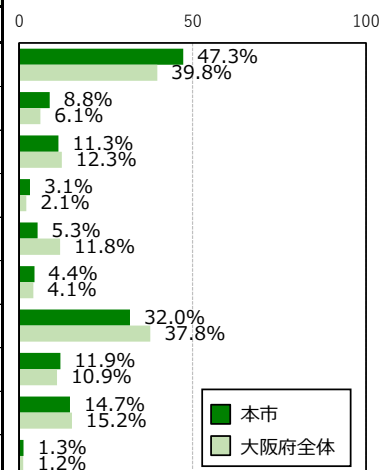
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	352名	100.0%	17,945名	100.0%
どこにあるか知らないから	176名	50.0%	8,048名	44.8%
家の近く（小学校区内）にないから	47名	13.4%	1,594名	8.9%
家で過ごしてほしいと思うから	34名	9.7%	2,318名	12.9%
居場所のイメージがよいから	5名	1.4%	476名	2.7%
お子さんが「行きたくない」と言っているから	25名	7.1%	1,873名	10.4%
行きたい日・時間に開いていないから	13名	3.7%	936名	5.2%
利用したいと思わないから	97名	27.6%	5,849名	32.6%
何をしているかわからないから	37名	10.5%	2,243名	12.5%
その他	48名	13.6%	2,278名	12.7%
無回答	7名	2.0%	261名	1.5%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	319名	100.0%	16,472名	100.0%
どこにあるか知らないから	151名	47.3%	6,563名	39.8%
家の近く（小学校区内）にないから	28名	8.8%	1,006名	6.1%
家で過ごしてほしいと思うから	36名	11.3%	2,030名	12.3%
居場所のイメージがよいから	10名	3.1%	347名	2.1%
お子さんが「行きたくない」と言っているから	17名	5.3%	1,950名	11.8%
行きたい日・時間に開いていないから	14名	4.4%	673名	4.1%
利用したいと思わないから	102名	32.0%	6,227名	37.8%
何をしているかわからないから	38名	11.9%	1,797名	10.9%
その他	47名	14.7%	2,509名	15.2%
無回答	4名	1.3%	195名	1.2%



保護者のことについて

問17 初めて親となった年齢

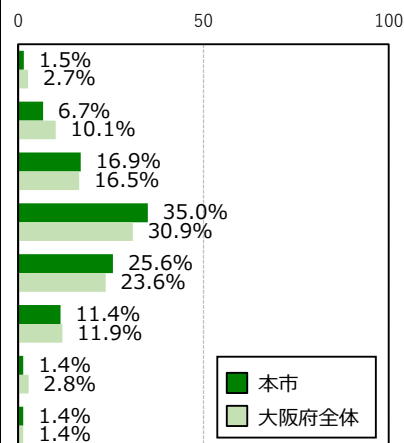
保護者全体は、「27～30歳」が35.0%で最も多く、次いで「31～34歳」が25.6%、「24～26歳」が16.9%、「35～39歳」が11.4%となっている。

小学生の保護者は、「27～30歳」が35.8%で最も多く、次いで「31～34歳」が23.9%、「24～26歳」が17.7%、「35～39歳」が12.6%となっている。

中学生の保護者は、「27～30歳」が35.9%で最も多く、次いで「31～34歳」が26.0%、「24～26歳」が17.2%、「35～39歳」が9.9%となっている。

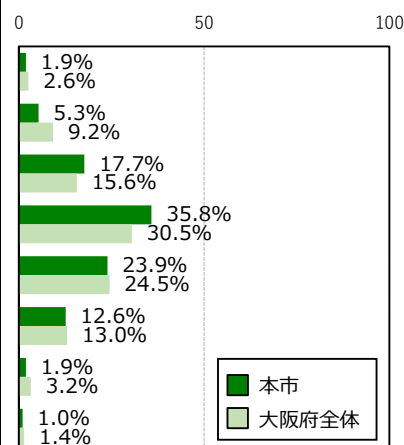
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	848名	100.0%	43,300名	100.0%
10代	13名	1.5%	1,166名	2.7%
20～23歳	57名	6.7%	4,373名	10.1%
24～26歳	143名	16.9%	7,159名	16.5%
27～30歳	297名	35.0%	13,389名	30.9%
31～34歳	217名	25.6%	10,233名	23.6%
35～39歳	97名	11.4%	5,150名	11.9%
40歳以上	12名	1.4%	1,206名	2.8%
無回答	12名	1.4%	624名	1.4%



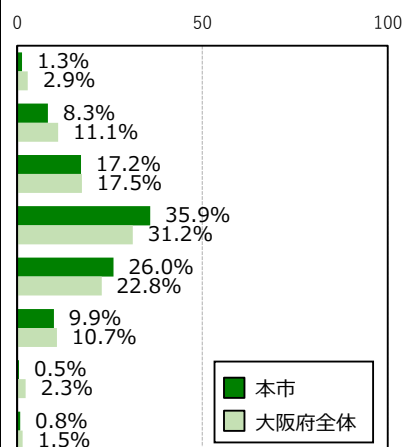
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	419名	100.0%	22,786名	100.0%
10代	8名	1.9%	587名	2.6%
20～23歳	22名	5.3%	2,104名	9.2%
24～26歳	74名	17.7%	3,559名	15.6%
27～30歳	150名	35.8%	6,941名	30.5%
31～34歳	100名	23.9%	5,575名	24.5%
35～39歳	53名	12.6%	2,969名	13.0%
40歳以上	8名	1.9%	735名	3.2%
無回答	4名	1.0%	316名	1.4%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	373名	100.0%	19,365名	100.0%
10代	5名	1.3%	552名	2.9%
20～23歳	31名	8.3%	2,142名	11.1%
24～26歳	64名	17.2%	3,389名	17.5%
27～30歳	134名	35.9%	6,049名	31.2%
31～34歳	97名	26.0%	4,419名	22.8%
35～39歳	37名	9.9%	2,069名	10.7%
40歳以上	2名	0.5%	447名	2.3%
無回答	3名	0.8%	298名	1.5%



保護者のことについて

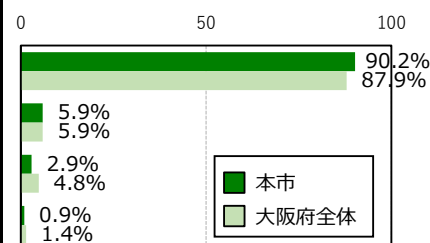
問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

①心配ごとや悩みごとを親身になって聞いてくれる人

保護者全体は、「いる」が90.2%、「いない」が5.9%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が91.4%、「いない」が4.8%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が89.5%、「いない」が7.2%となっている。

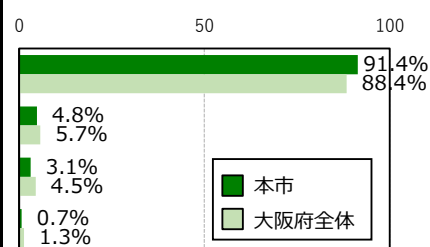
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	848名	100.0%	43,300名	100.0%
いる	765名	90.2%	38,049名	87.9%
いない	50名	5.9%	2,548名	5.9%
わからない	25名	2.9%	2,099名	4.8%
無回答	8名	0.9%	604名	1.4%



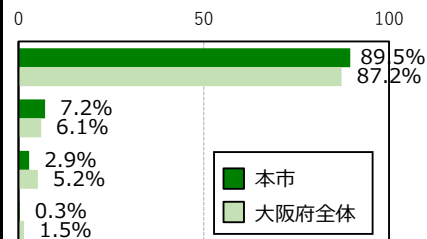
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	419名	100.0%	22,786名	100.0%
いる	383名	91.4%	20,150名	88.4%
いない	20名	4.8%	1,304名	5.7%
わからない	13名	3.1%	1,026名	4.5%
無回答	3名	0.7%	306名	1.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	373名	100.0%	19,365名	100.0%
いる	334名	89.5%	16,885名	87.2%
いない	27名	7.2%	1,173名	6.1%
わからない	11名	2.9%	1,016名	5.2%
無回答	1名	0.3%	291名	1.5%



保護者のことについて

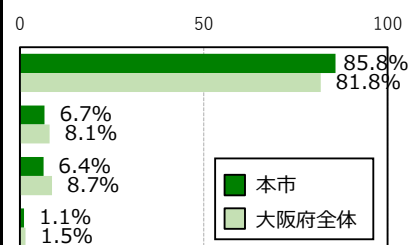
問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

②気持ちを察して思いやってくれる人

保護者全体は、「いる」が85.8%、「いない」が6.7%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が87.4%、「いない」が6.0%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が84.5%、「いない」が7.8%となっている。

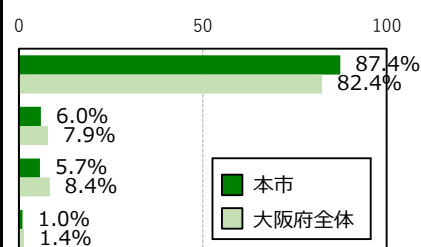
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	728名	85.8%	35,406名	81.8%
いない	57名	6.7%	3,491名	8.1%
わからない	54名	6.4%	3,748名	8.7%
無回答	9名	1.1%	655名	1.5%



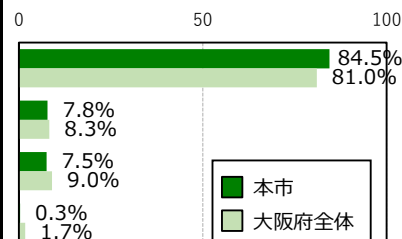
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	366名	87.4%	18,767名	82.4%
いない	25名	6.0%	1,791名	7.9%
わからない	24名	5.7%	1,904名	8.4%
無回答	4名	1.0%	324名	1.4%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	315名	84.5%	15,691名	81.0%
いない	29名	7.8%	1,610名	8.3%
わからない	28名	7.5%	1,741名	9.0%
無回答	1名	0.3%	323名	1.7%



保護者のことについて

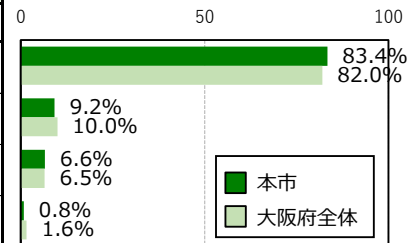
問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

③趣味や興味のあることを一緒に話して、気分転換させてくれる人

保護者全体は、「いる」が83.4%、「いない」が9.2%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が83.5%、「いない」が8.1%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が83.9%、「いない」が11.0%となっている。

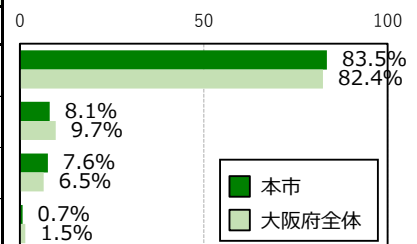
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	707名	83.4%	35,496名	82.0%
いない	78名	9.2%	4,317名	10.0%
わからない	56名	6.6%	2,806名	6.5%
無回答	7名	0.8%	681名	1.6%



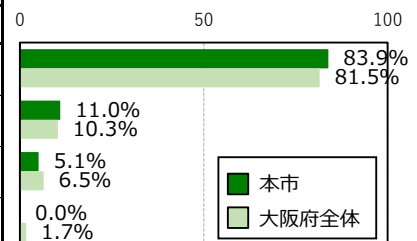
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	350名	83.5%	18,771名	82.4%
いない	34名	8.1%	2,201名	9.7%
わからない	32名	7.6%	1,474名	6.5%
無回答	3名	0.7%	340名	1.5%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	313名	83.9%	15,782名	81.5%
いない	41名	11.0%	1,990名	10.3%
わからない	19名	5.1%	1,259名	6.5%
無回答	-	-	334名	1.7%



保護者のことについて

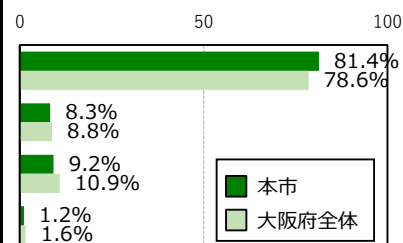
問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

④子どもとの関わりについて、適切な助言をしてくれる人

保護者全体は、「いる」が81.4%、「いない」が8.3%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が83.3%、「いない」が6.2%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が80.2%、「いない」が11.0%となっている。

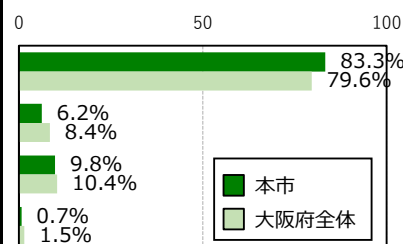
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	690名	81.4%	34,034名	78.6%
いない	70名	8.3%	3,824名	8.8%
わからない	78名	9.2%	4,731名	10.9%
無回答	10名	1.2%	711名	1.6%



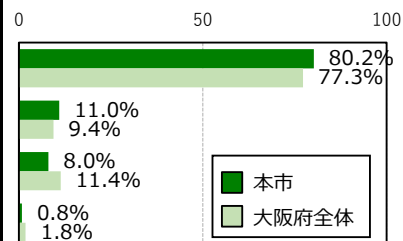
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	349名	83.3%	18,149名	79.6%
いない	26名	6.2%	1,912名	8.4%
わからない	41名	9.8%	2,381名	10.4%
無回答	3名	0.7%	344名	1.5%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	299名	80.2%	14,966名	77.3%
いない	41名	11.0%	1,826名	9.4%
わからない	30名	8.0%	2,217名	11.4%
無回答	3名	0.8%	356名	1.8%



保護者のことについて

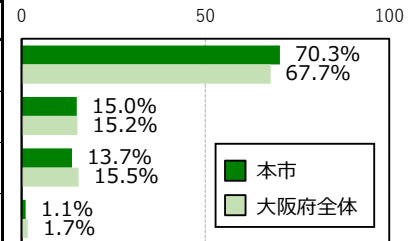
問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

⑤子どもの学びや遊びをゆたかにする情報を教えてくれる人（運動や文化活動）

保護者全体は、「いる」が70.3%、「いない」が15.0%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が73.5%、「いない」が12.9%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が67.6%、「いない」が18.2%となっている。

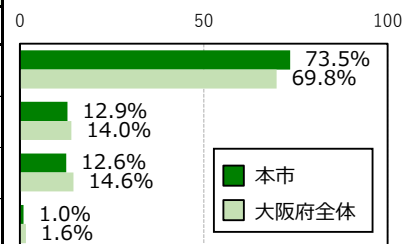
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	596名	70.3%	29,297名	67.7%
いない	127名	15.0%	6,570名	15.2%
わからない	116名	13.7%	6,713名	15.5%
無回答	9名	1.1%	720名	1.7%



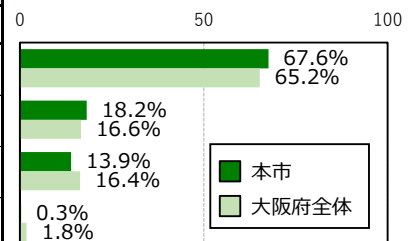
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	308名	73.5%	15,896名	69.8%
いない	54名	12.9%	3,195名	14.0%
わからない	53名	12.6%	3,334名	14.6%
無回答	4名	1.0%	361名	1.6%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	252名	67.6%	12,629名	65.2%
いない	68名	18.2%	3,218名	16.6%
わからない	52名	13.9%	3,167名	16.4%
無回答	1名	0.3%	351名	1.8%



保護者のことについて

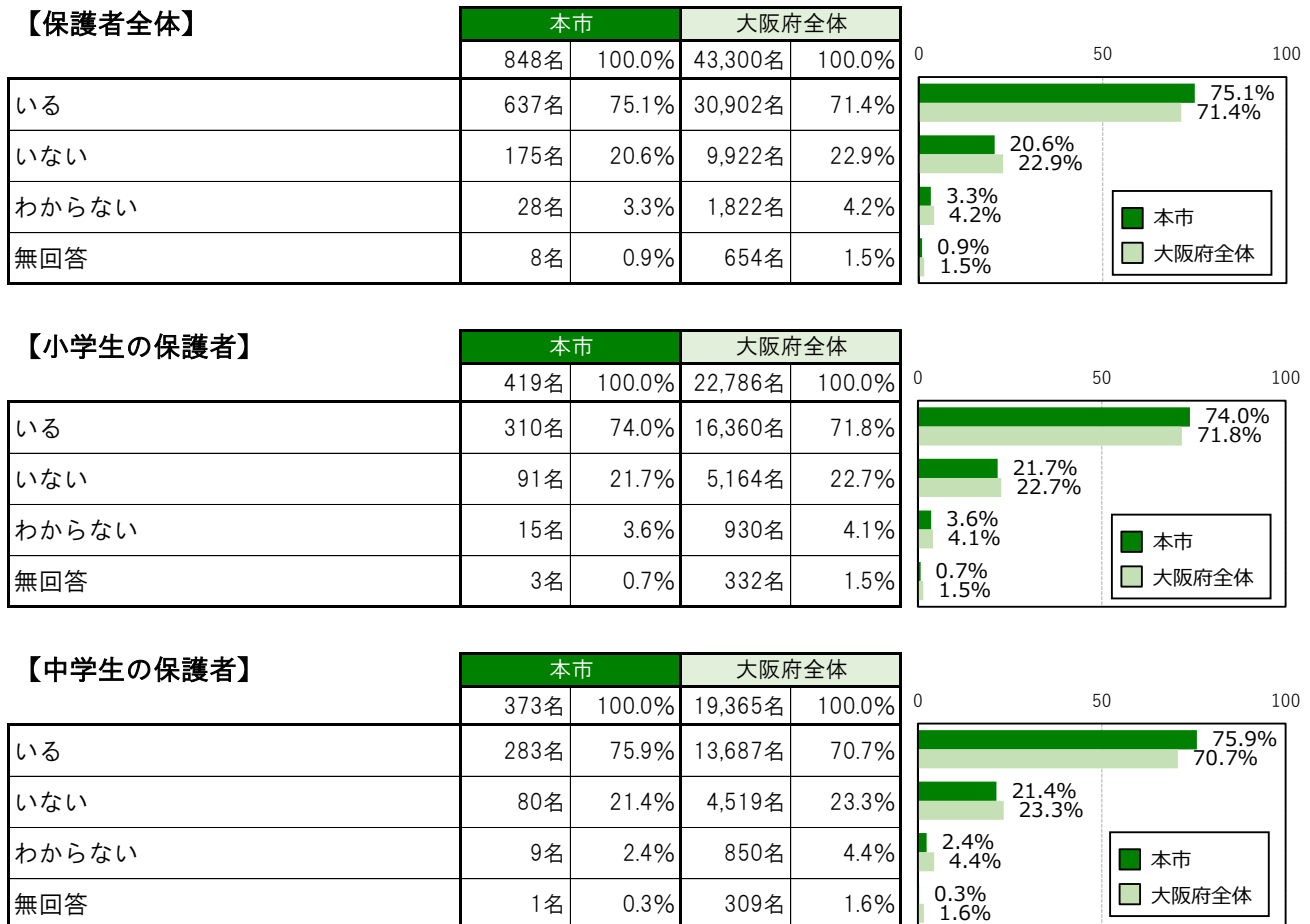
問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

⑥子どもの体調が悪いとき、医療機関に連れて行ってくれる人

保護者全体は、「いる」が75.1%、「いない」が20.6%となっている。

小学生の保護者は、「いる」が74.0%、「いない」が21.7%となっている。

中学生の保護者は、「いる」が75.9%、「いない」が21.4%となっている。

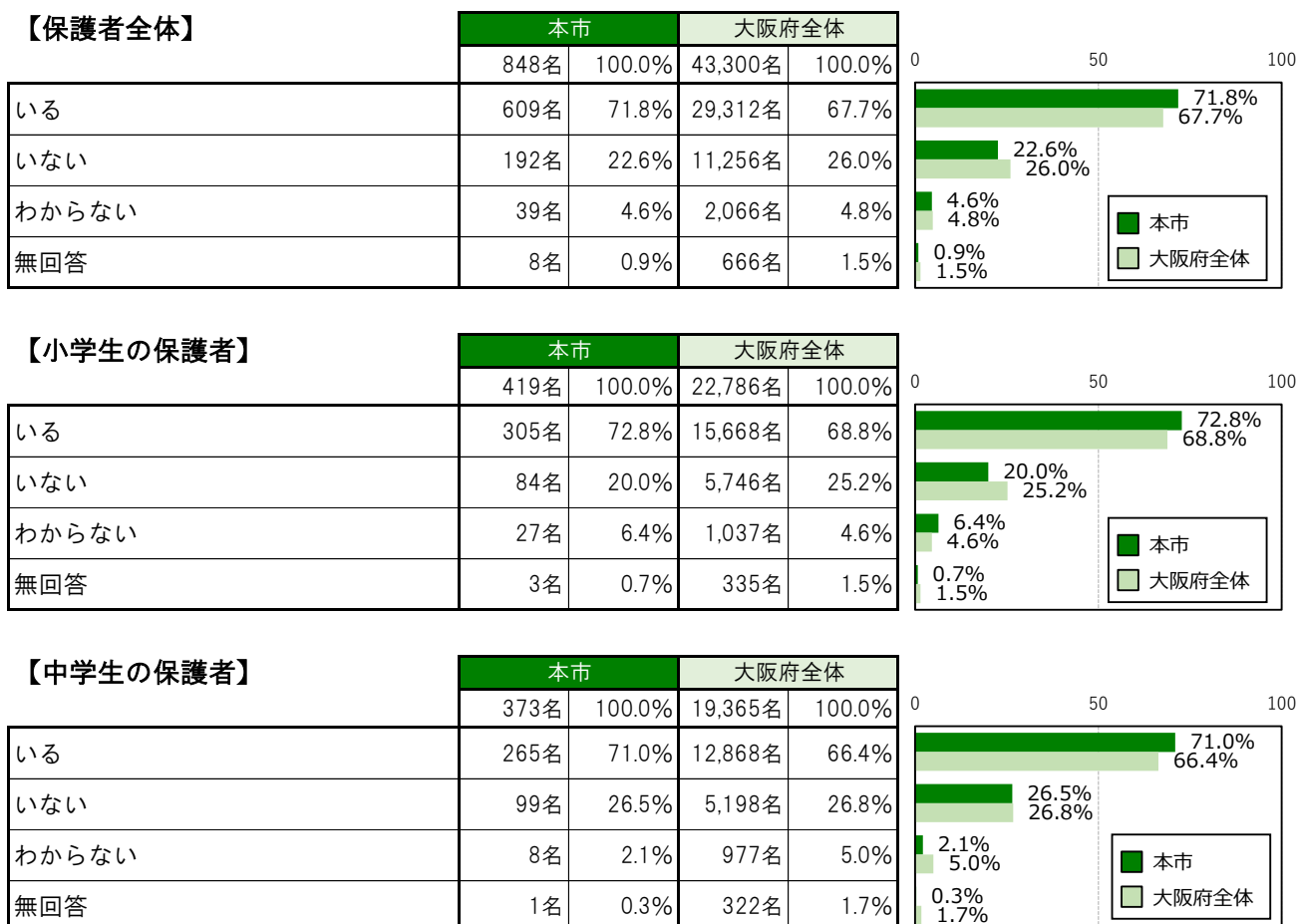


保護者のことについて

問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

⑦留守を頼める人

保護者全体は、「いる」が71.8%、「いない」が22.6%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が72.8%、「いない」が20.0%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が71.0%、「いない」が26.5%となっている。



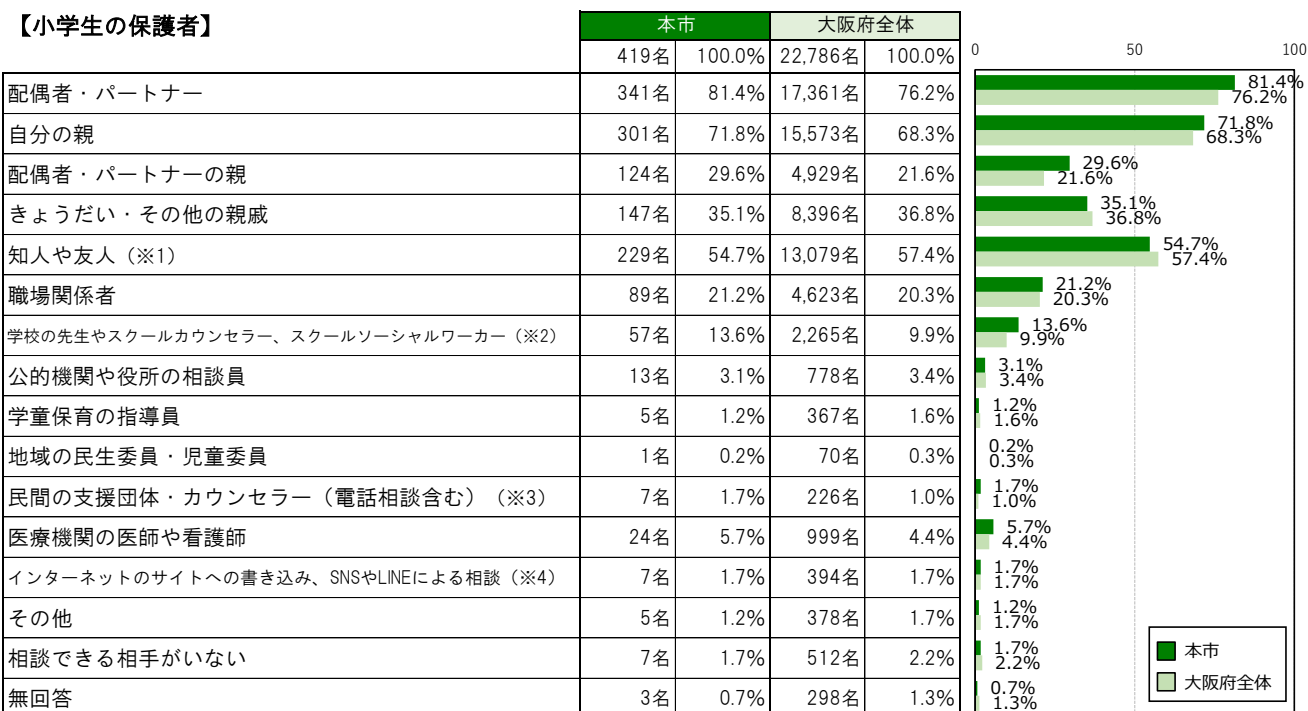
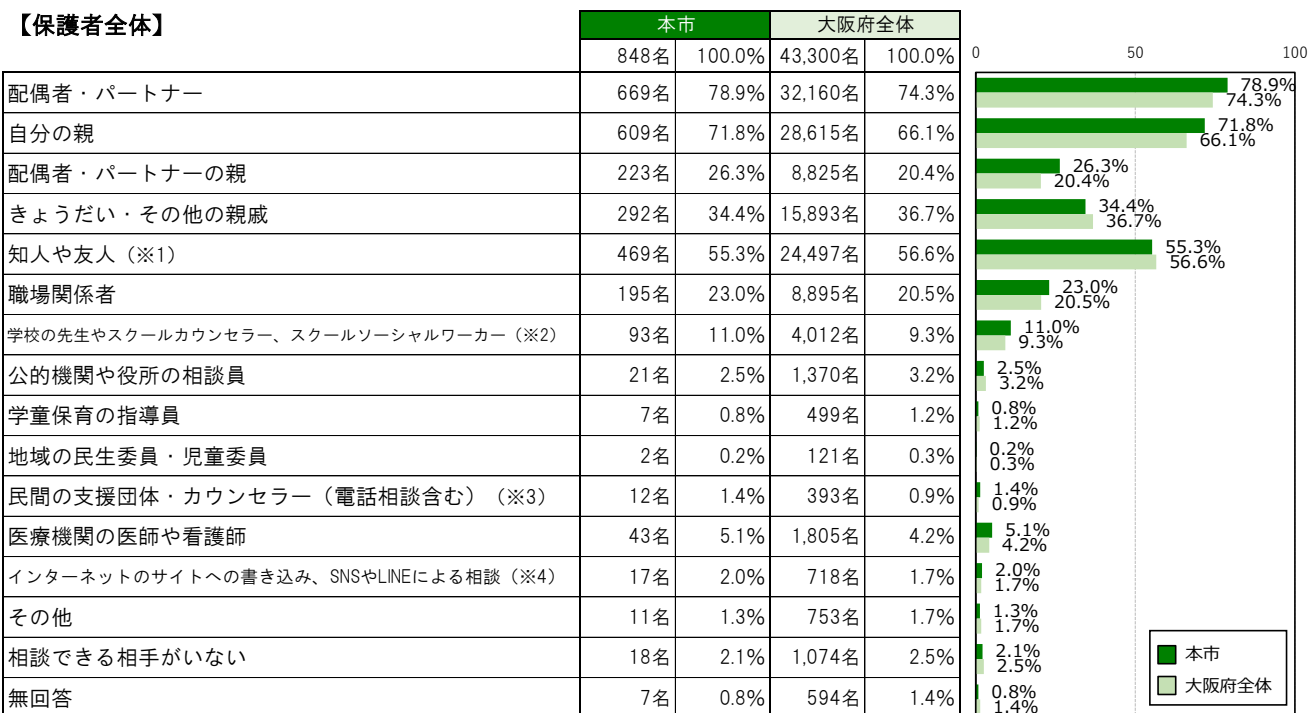
保護者のことについて

問19 本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先

保護者全体は、「配偶者・パートナー」が78.9%で最も多く、次いで「自分の親」が71.8%、「知人や友人」が55.3%、「きょうだい・その他の親戚」が34.4%となっている。

小学生の保護者は、「配偶者・パートナー」が81.4%で最も多く、次いで「自分の親」が71.8%、「知人や友人」が54.7%、「きょうだい・その他の親戚」が35.1%となっている。

中学生の保護者は、「配偶者・パートナー」が75.9%で最も多く、次いで「自分の親」が71.8%、「知人や友人」が56.0%、「きょうだい・その他の親戚」が33.8%となっている。

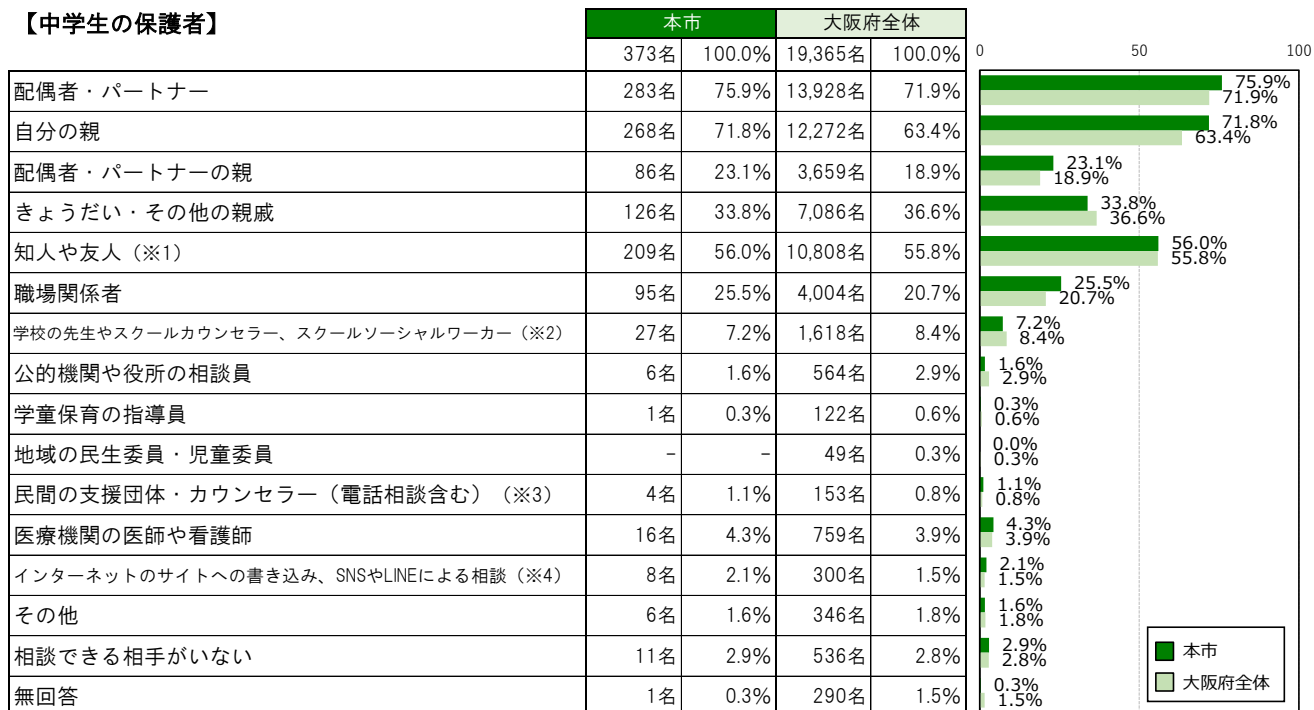


※1 2016年度調査の「近隣に住む知人や友人」と「近隣に住んでいない知人や友人」を「知人や友人」に変更

※2 2016年度調査では「学校の先生やスクールカウンセラー」

※3 2016年度調査の「民間の支援団体」と「民間のカウンセラー・電話相談」を「民間の支援団体・カウンセラー(電話相談含む)」に変更

※4 2016年度調査では「インターネットのサイトへの書き込み」



※1 2016年度調査の「近隣に住む知人や友人」と「近隣に住んでいない知人や友人」を「知人や友人」に変更

※2 2016年度調査では「学校の先生やスクールカウンセラー」

※3 2016年度調査の「民間の支援団体」と「民間のカウンセラー・電話相談」を「民間の支援団体・カウンセラー（電話相談含む）」に変更

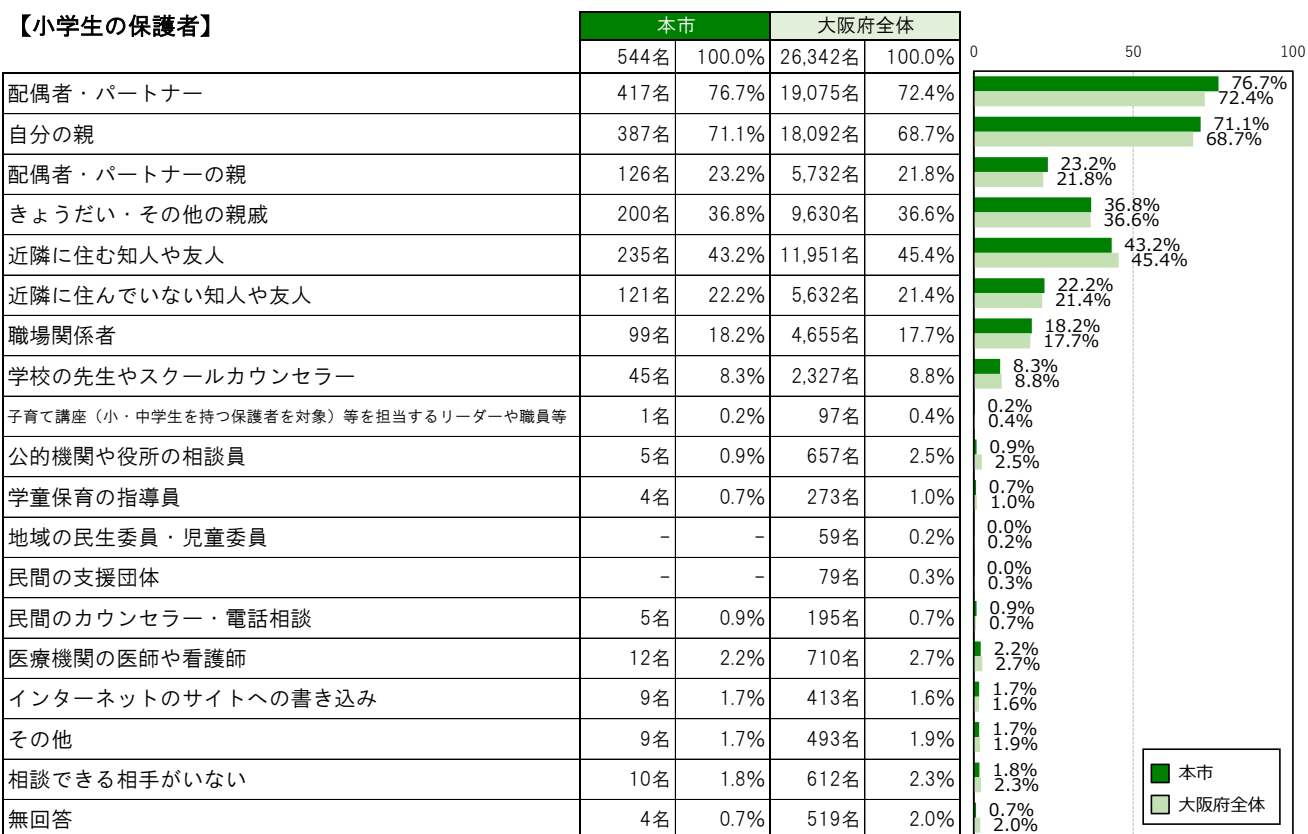
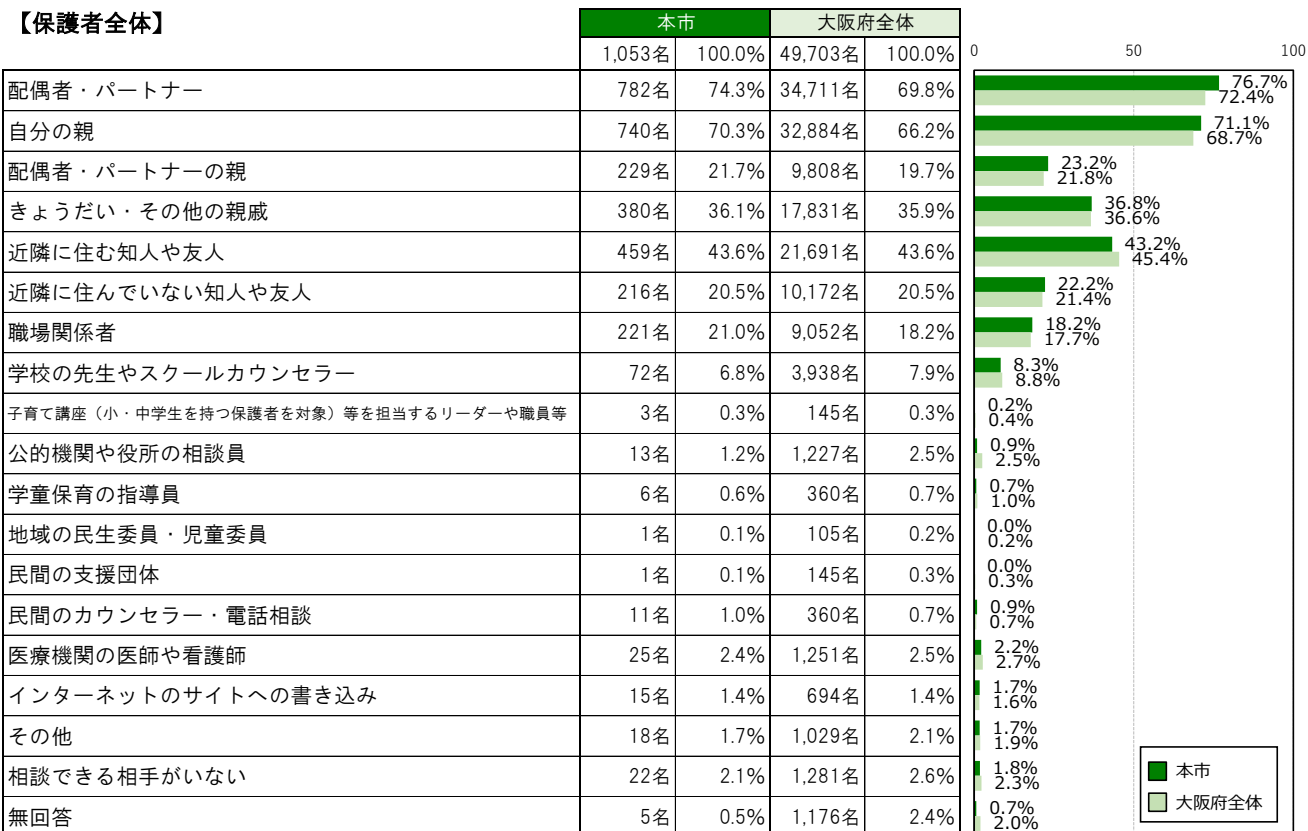
※4 2016年度調査では「インターネットのサイトへの書き込み」

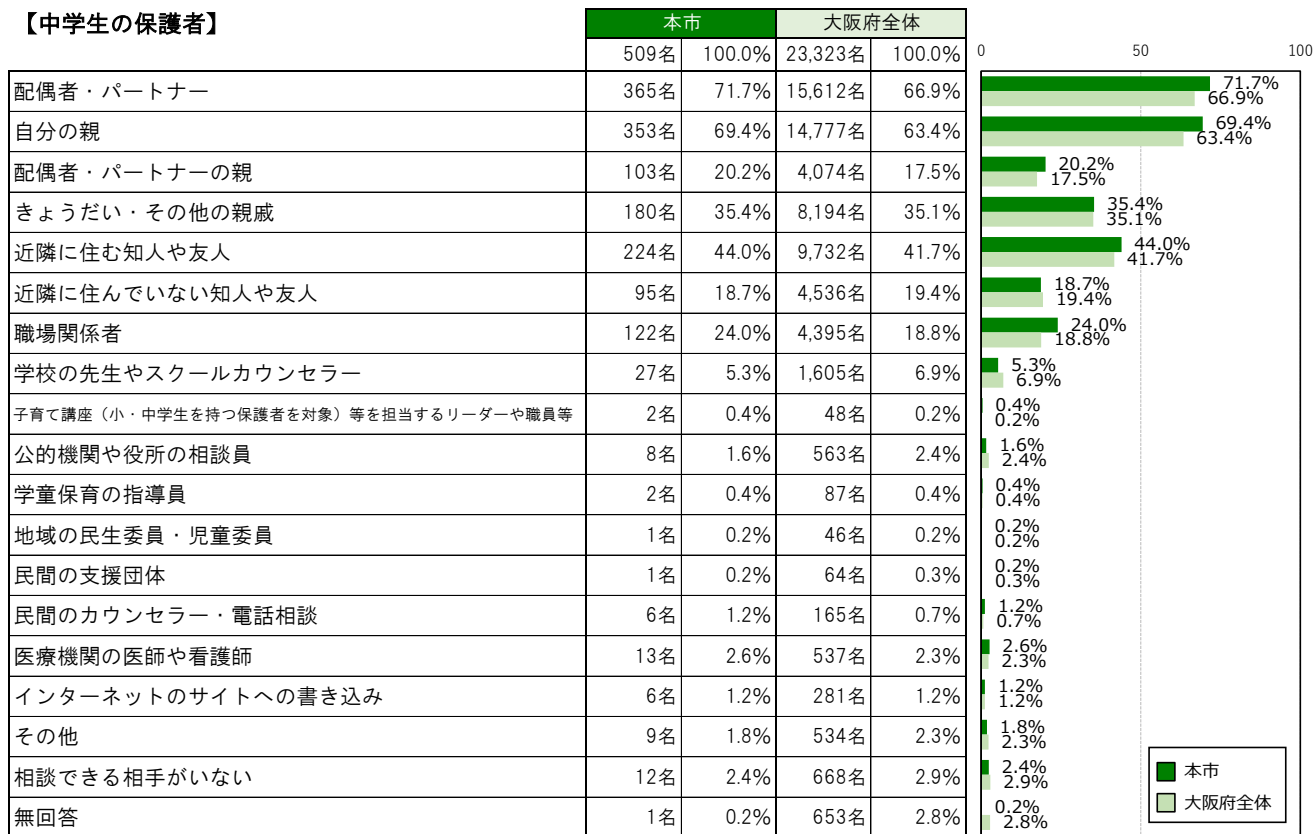
●2016年度 調査結果〔参考データ〕

2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「知人や友人」（2016年度は「近隣に住む知人や友人」と「近隣に住んでいない知人や友人」の合計）が8.8ポイント低くなっている。

小学生の保護者は、「知人や友人」が10.7ポイント低く、「配偶者・パートナーの親」が6.4ポイント高くなっている。

中学生の保護者は、「知人や友人」が6.7ポイント低く、「配偶者・パートナー」が4.2ポイント高くなっている。





保護者のことについて

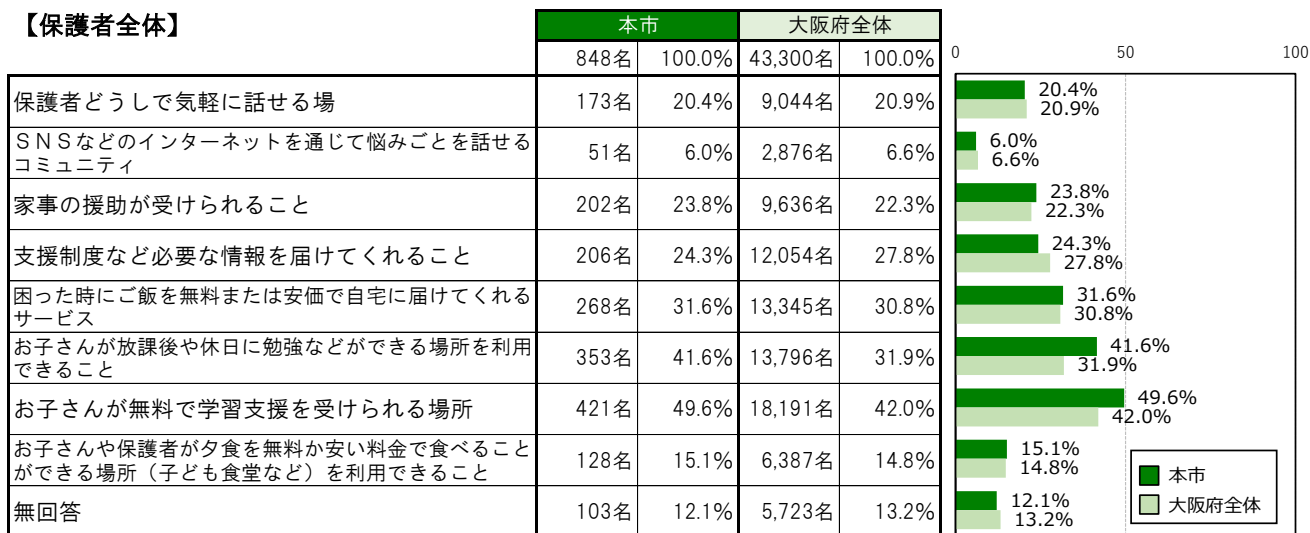
問20 身近にあるといいと思うこと

保護者全体は、「お子さんが無料で学習支援を受けられる場所」が49.6%で最も多く、次いで「お子さんが放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること」が41.6%、「困った時にご飯を無料または安価で自宅に届けてくれるサービス」が31.6%となっている。

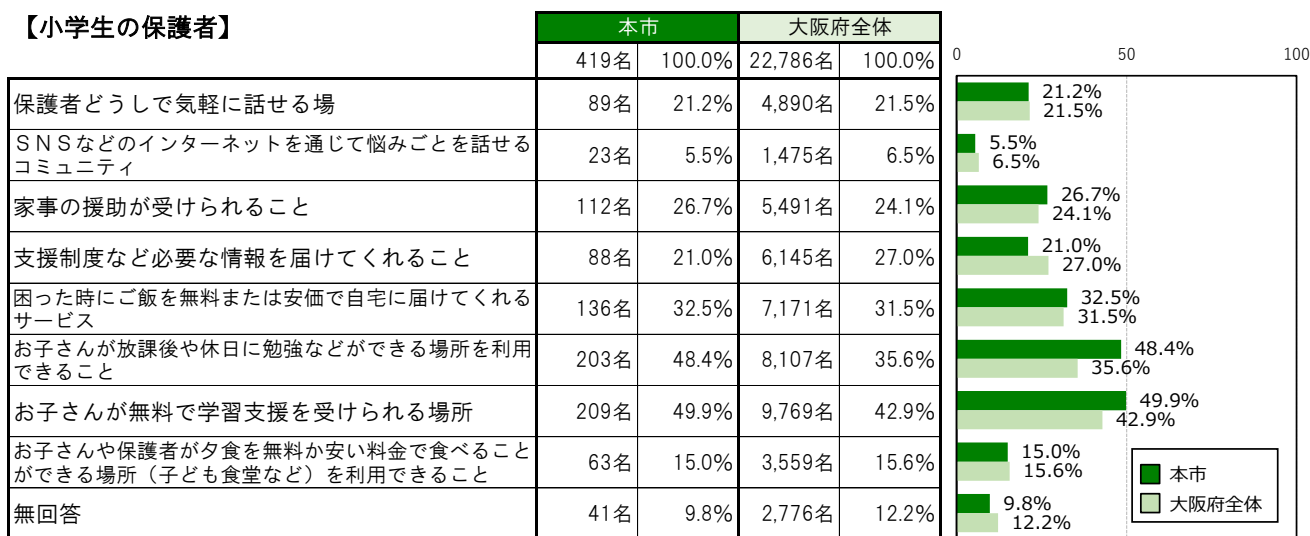
小学生の保護者は、「お子さんが無料で学習支援を受けられる場所」が49.9%で最も多く、次いで「お子さんが放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること」が48.4%、「困った時にご飯を無料または安価で自宅に届けてくれるサービス」が32.5%となっている。

中学生の保護者は、「お子さんが無料で学習支援を受けられる場所」が49.1%で最も多く、次いで「お子さんが放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること」が34.0%、「困った時にご飯を無料または安価で自宅に届けてくれるサービス」が30.0%となっている。

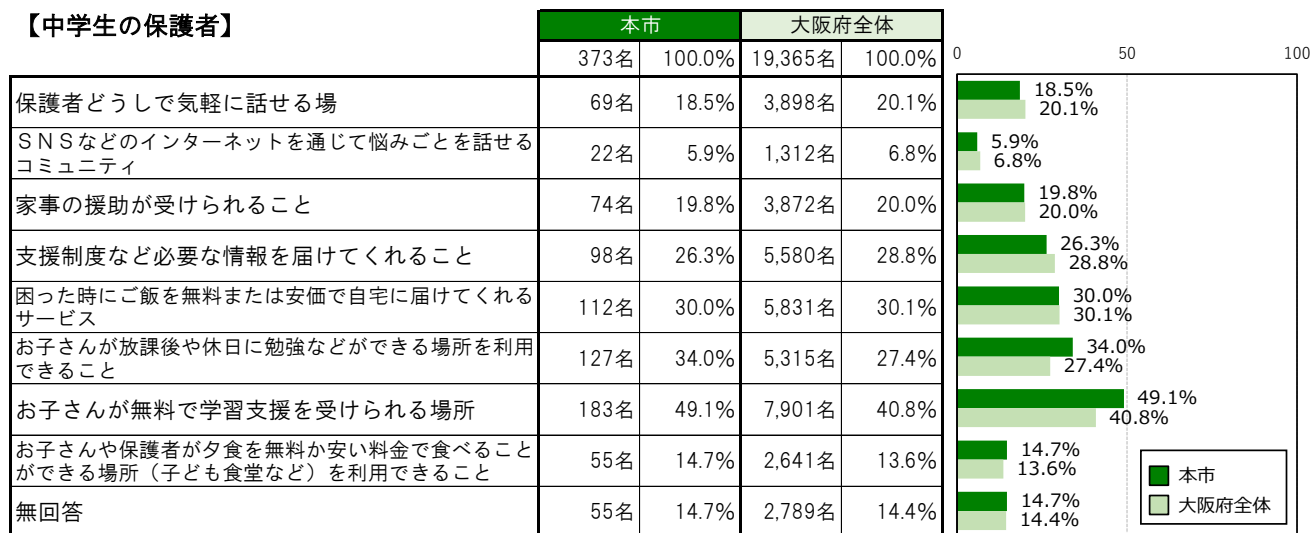
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



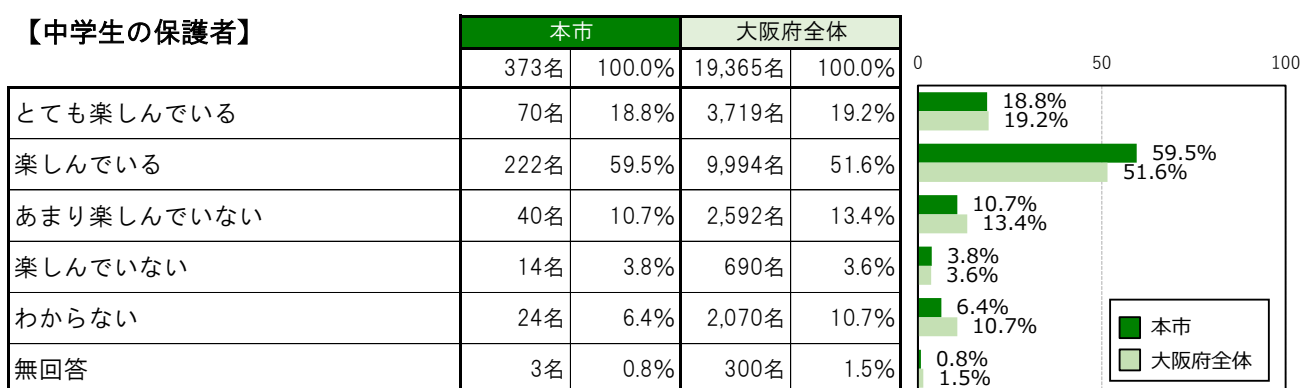
保護者のことについて

問21（１）生活を楽しんでいるか

保護者全体は、「楽しんでいる」が57.5%で最も多く、次いで「とても楽しんでいる」が20.0%、「あまり楽しんでいない」が12.0%、「楽しんでいない」が2.8%となっている。

小学生の保護者は、「楽しんでいる」が57.3%で最も多く、次いで「とても楽しんでいる」が21.2%、「あまり楽しんでいない」が11.9%、「楽しんでいない」が2.1%となっている。

中学生の保護者は、「楽しんでいる」が59.5%で最も多く、次いで「とても楽しんでいる」が18.8%、「あまり楽しんでいない」が10.7%、「楽しんでいない」が3.8%となっている。



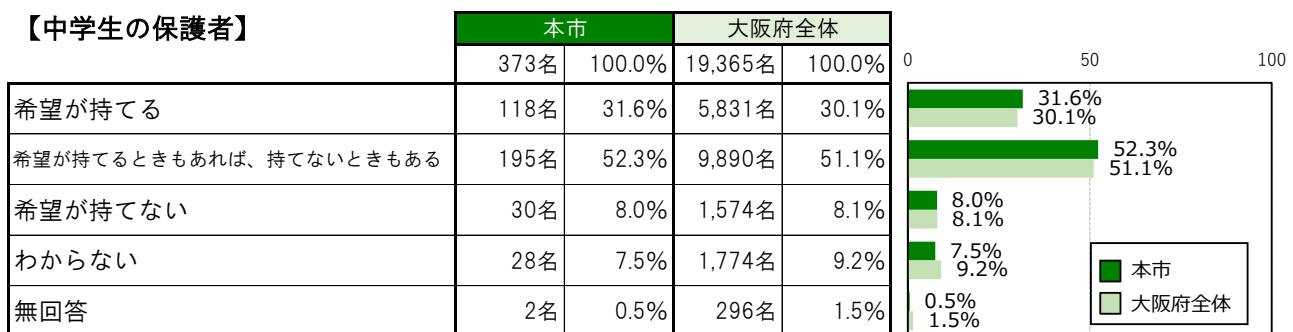
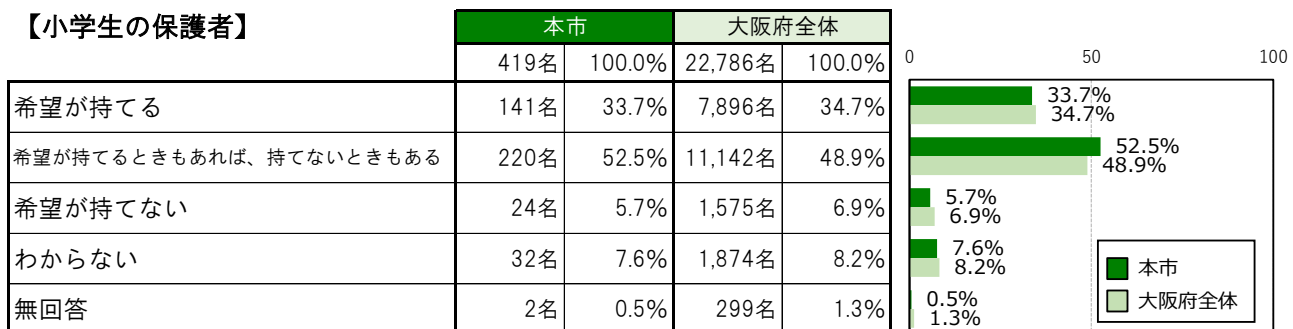
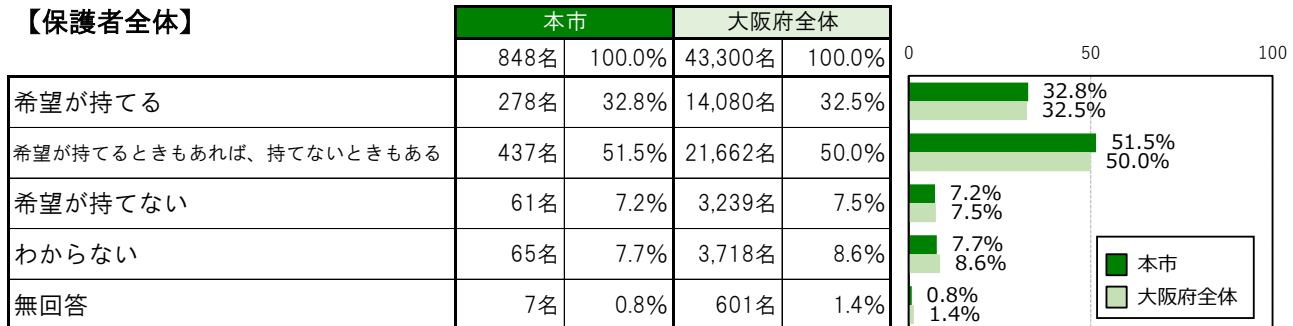
保護者のことについて

問21（２）将来に対して希望を持っているか

保護者全体は、「希望が持てるときもあれば、持てないときもある」が51.5%で最も多く、次いで「希望が持てる」が32.8%、「希望が持てない」が7.2%となっている。

小学生の保護者は、「希望が持てるときもあれば、持てないときもある」が52.5%で最も多く、次いで「希望が持てる」が33.7%、「希望が持てない」が5.7%となっている。

中学生の保護者は、「希望が持てるときもあれば、持てないときもある」が52.3%で最も多く、次いで「希望が持てる」が31.6%、「希望が持てない」が8.0%となっている。



保護者のことについて

問21（3）ストレスを発散できるものがあるか

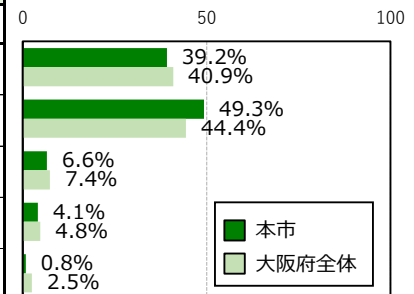
保護者全体は、「あるときもあれば、ないときもある」が49.3%で最も多く、次いで「ある」が39.2%、「ない」が6.6%となっている。

小学生の保護者は、「あるときもあれば、ないときもある」が53.7%で最も多く、次いで「ある」が36.5%、「ない」が5.7%となっている。

中学生の保護者は、「あるときもあれば、ないときもある」が45.8%で最も多く、次いで「ある」が41.6%、「ない」が7.2%となっている。

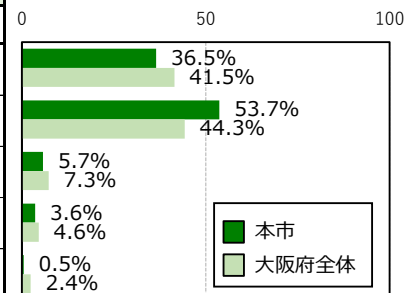
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ある	332名	39.2%	17,707名	40.9%
あるときもあれば、ないときもある	418名	49.3%	19,240名	44.4%
ない	56名	6.6%	3,221名	7.4%
わからない	35名	4.1%	2,061名	4.8%
無回答	7名	0.8%	1,071名	2.5%



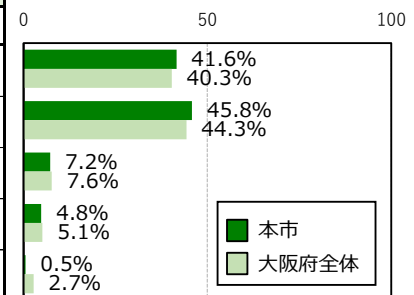
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ある	153名	36.5%	9,455名	41.5%
あるときもあれば、ないときもある	225名	53.7%	10,090名	44.3%
ない	24名	5.7%	1,668名	7.3%
わからない	15名	3.6%	1,037名	4.6%
無回答	2名	0.5%	536名	2.4%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ある	155名	41.6%	7,803名	40.3%
あるときもあれば、ないときもある	171名	45.8%	8,576名	44.3%
ない	27名	7.2%	1,467名	7.6%
わからない	18名	4.8%	990名	5.1%
無回答	2名	0.5%	529名	2.7%



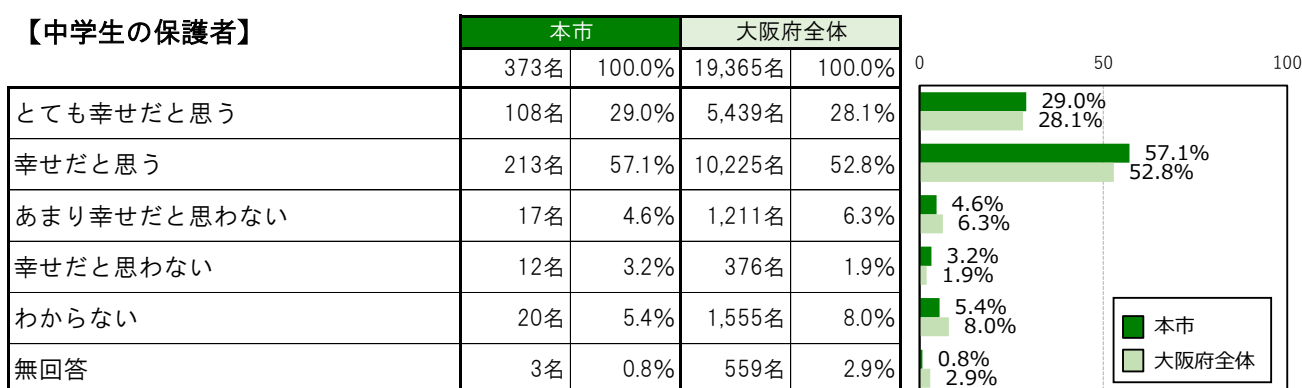
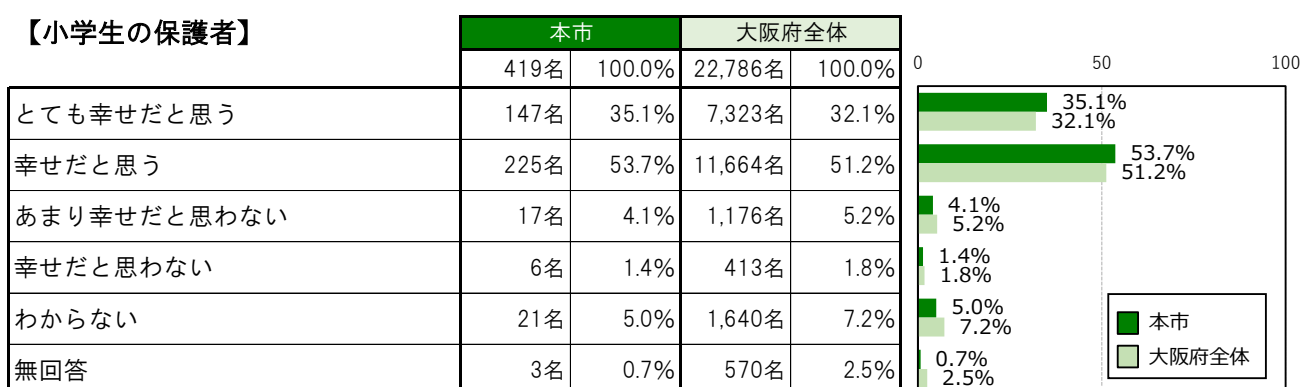
保護者のことについて

問21（４）自分が幸せだと思うか

保護者全体は、「幸せだと思う」が54.6%で最も多く、次いで「とても幸せだと思う」が32.3%、「あまり幸せだと思わない」が4.7%、「幸せだと思わない」が2.2%となっている。

小学生の保護者は、「幸せだと思う」が53.7%で最も多く、次いで「とても幸せだと思う」が35.1%、「あまり幸せだと思わない」が4.1%、「幸せだと思わない」が1.4%となっている。

中学生の保護者は、「幸せだと思う」が57.1%で最も多く、次いで「とても幸せだと思う」が29.0%、「あまり幸せだと思わない」が4.6%、「幸せだと思わない」が3.2%となっている。



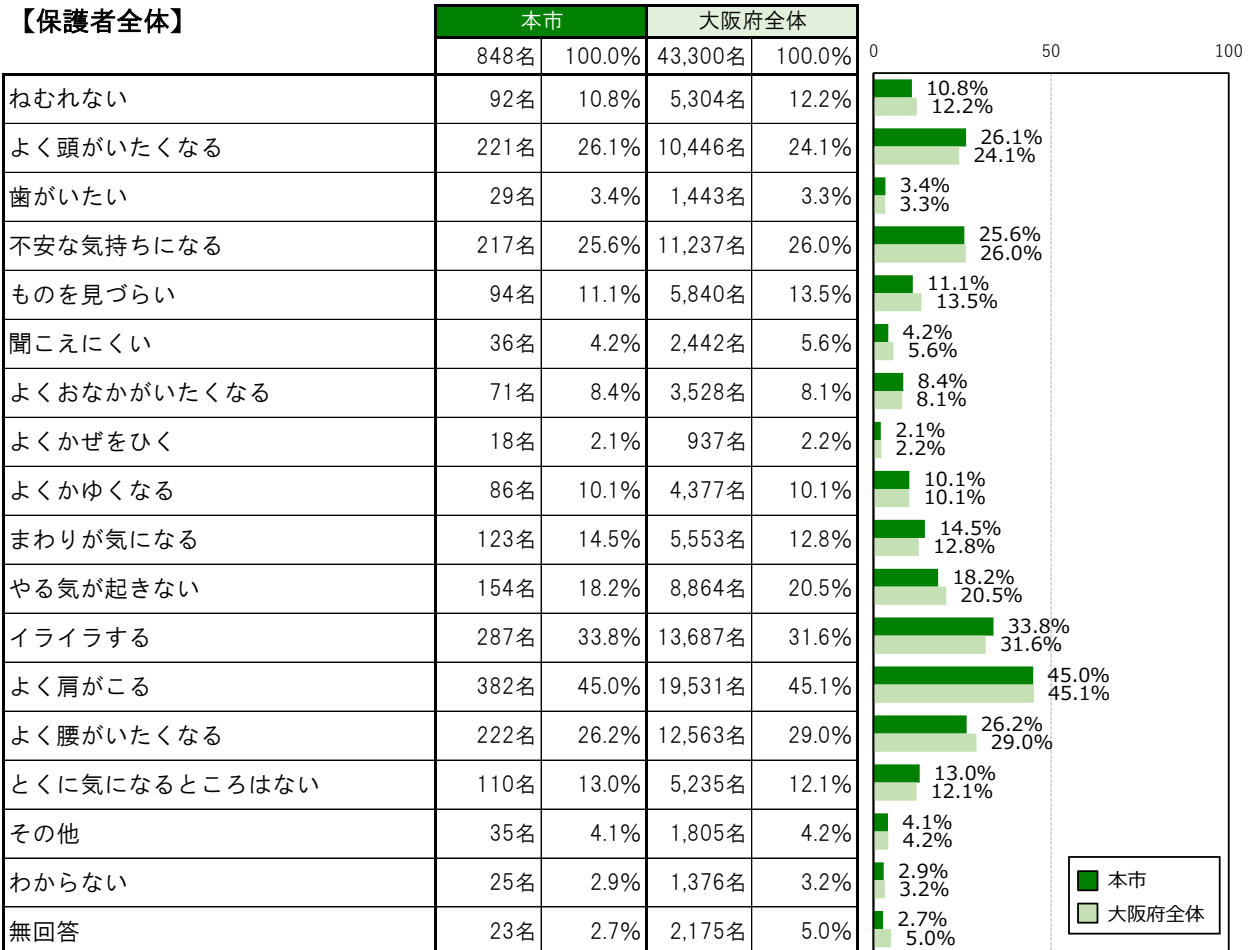
保護者のことについて

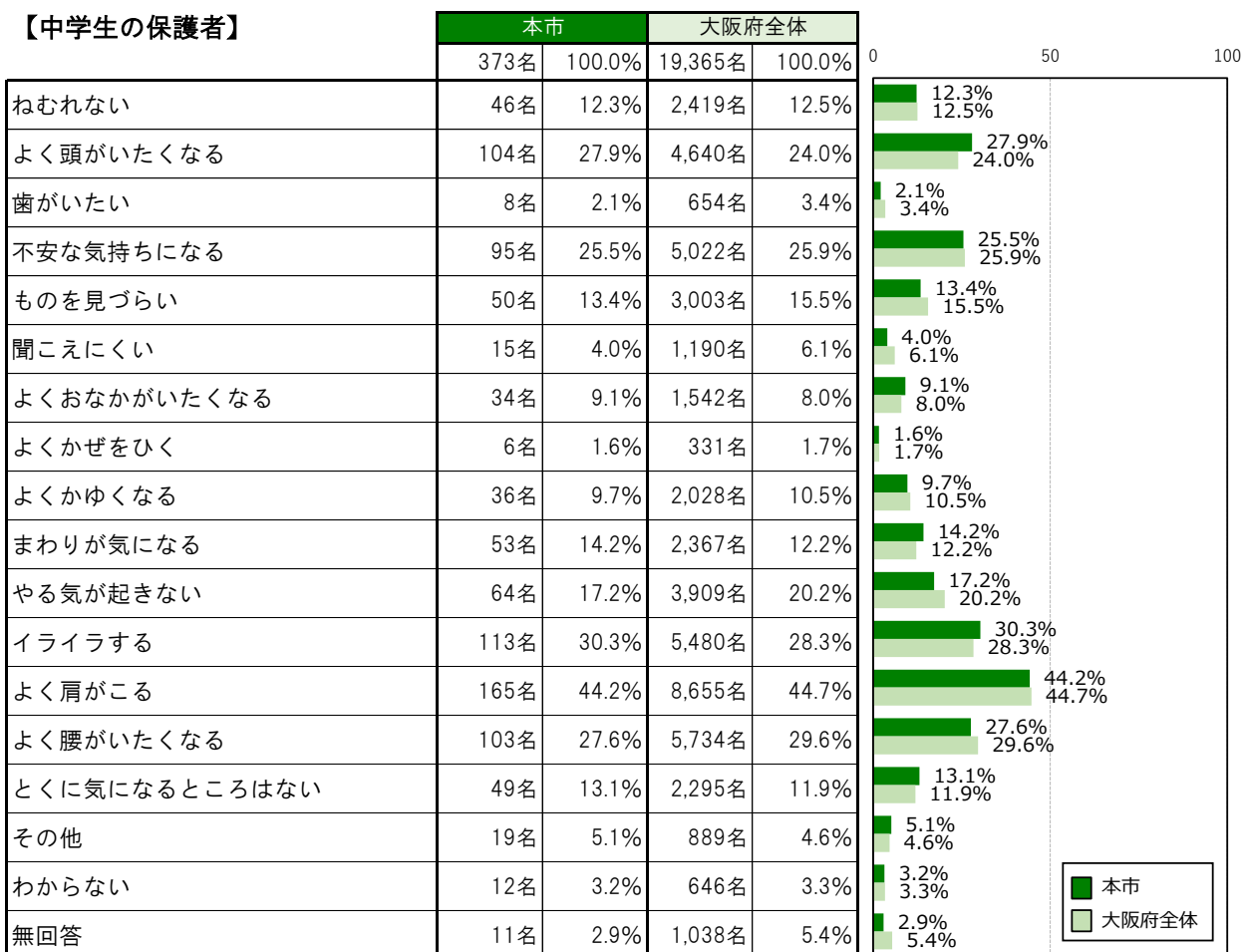
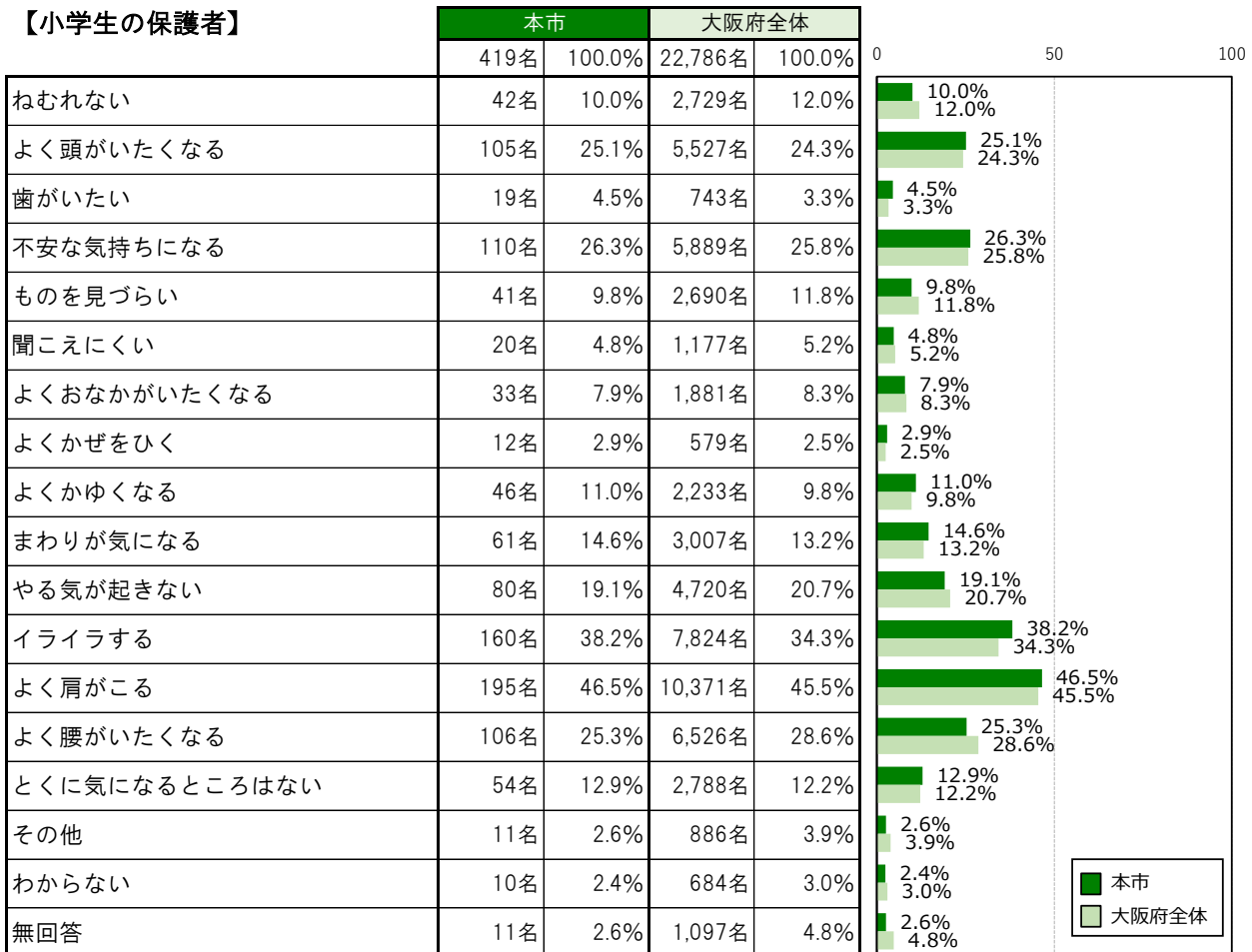
問22 自分の体や気持ちで気になること

保護者全体は、「よく肩がこる」が45.0%で最も多く、次いで「イライラする」が33.8%、「よく腰がいたくなる」が26.2%、「よく頭がいたくなる」が26.1%となっている。

小学生の保護者は、「よく肩がこる」が46.5%で最も多く、次いで「イライラする」が38.2%、「不安な気持ちになる」が26.3%、「よく腰がいたくなる」が25.3%となっている。

中学生の保護者は、「よく肩がこる」が44.2%で最も多く、次いで「イライラする」が30.3%、「よく頭がいたくなる」が27.9%、「よく腰がいたくなる」が27.6%となっている。





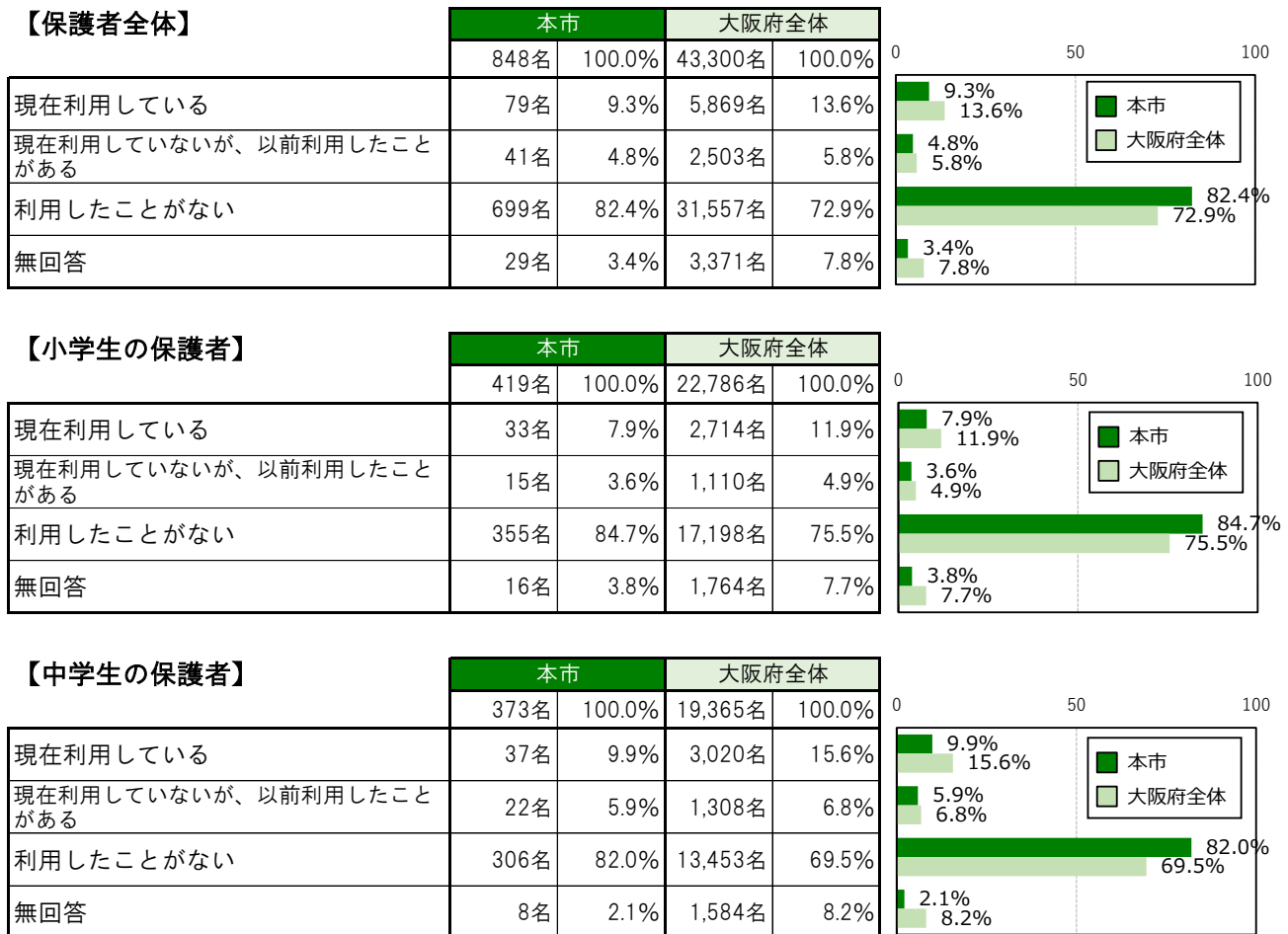
保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 a 就学援助

保護者全体は、「利用したことがない」が82.4%で最も多く、次いで「現在利用している」が9.3%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が4.8%となっている。

小学生の保護者は、「利用したことがない」が84.7%で最も多く、次いで「現在利用している」が7.9%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が3.6%となっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」が82.0%で最も多く、次いで「現在利用している」が9.9%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が5.9%となっている。



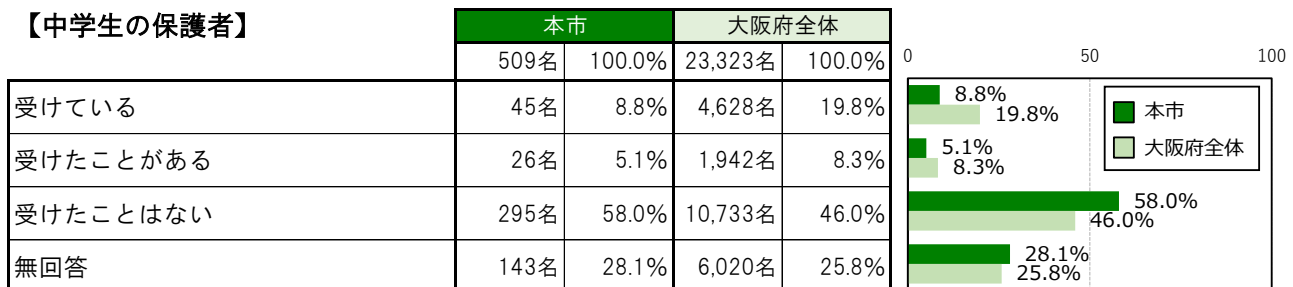
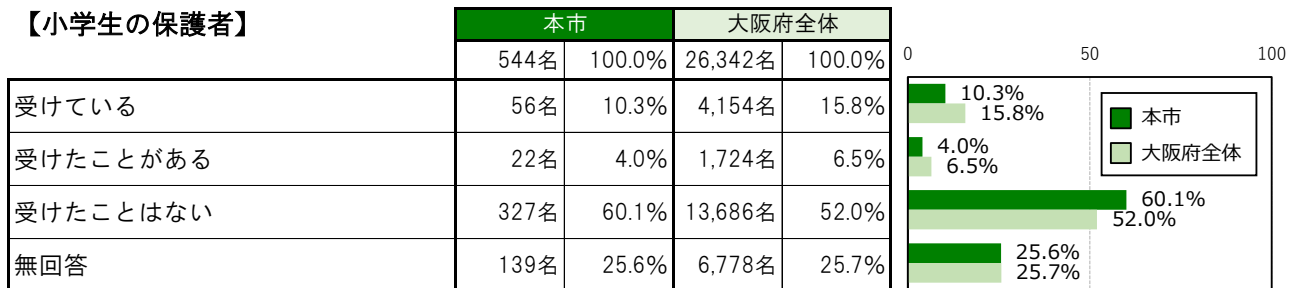
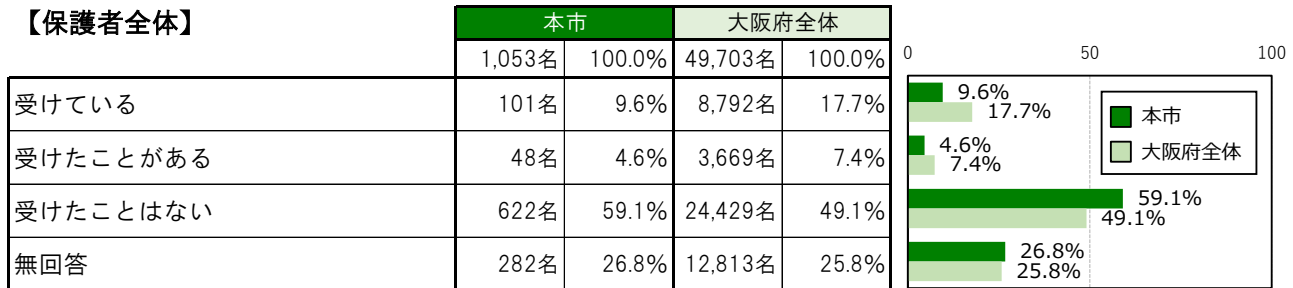
※ 2016年度調査では「受けている」「受けたことがある」「受けたことはない」

●2016年度 調査結果【参考データ】

2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「利用したことがない」（2016年度調査では「受けたこと
はない」）が23.3ポイント高くなっている。

小学生の保護者は、「利用したことがない」が24.6ポイント高くなっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」が24.0ポイント高くなっている。



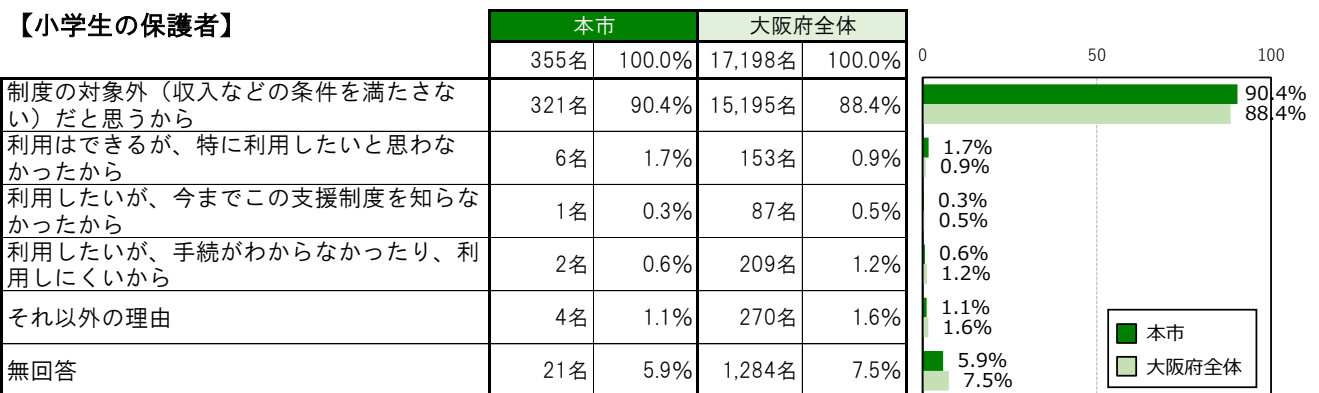
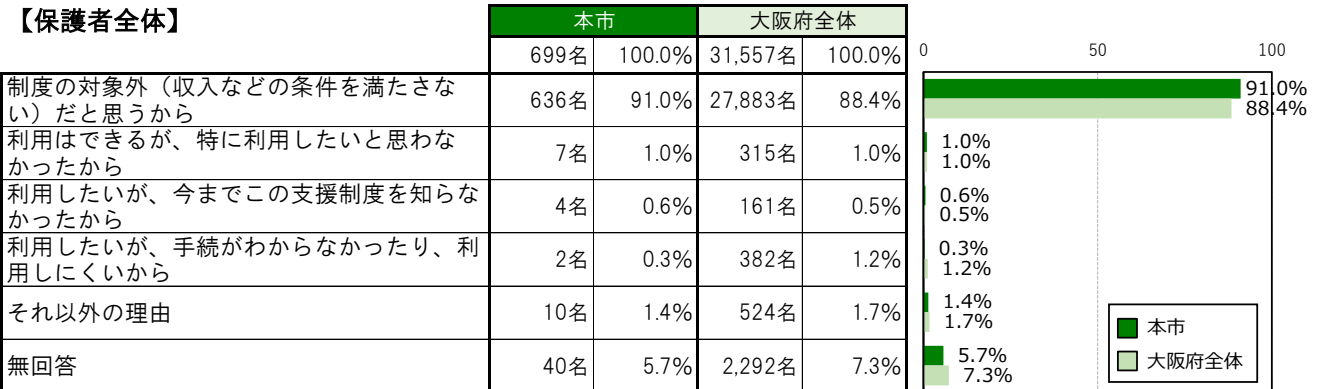
保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 a 就学援助 <利用したことがない理由>

保護者全体は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が91.0%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が1.4%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が1.0%となっている。

小学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が90.4%で最も多く、次いで「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が1.7%、「それ以外の理由」が1.1%となっている。

中学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が90.8%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が2.0%となっている。



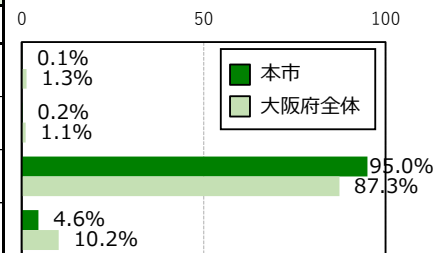
保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 b 生活保護

保護者全体は、「利用したことがない」が95.0%で最も多くなっている。
 小学生の保護者は、「利用したことがない」が95.2%で最も多くなっている。
 中学生の保護者は、「利用したことがない」が96.0%で最も多くなっている。

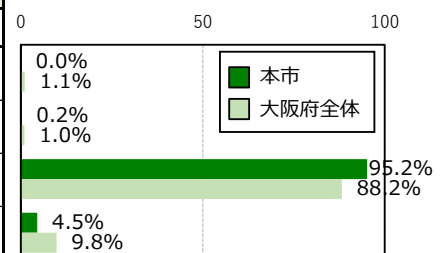
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	848名	100.0%	43,300名	100.0%
現在利用している	1名	0.1%	580名	1.3%
現在利用していないが、以前利用したことがある	2名	0.2%	497名	1.1%
利用したことがない	806名	95.0%	37,793名	87.3%
無回答	39名	4.6%	4,430名	10.2%



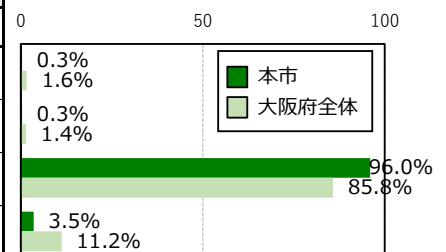
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	419名	100.0%	22,786名	100.0%
現在利用している	-	-	254名	1.1%
現在利用していないが、以前利用したことがある	1名	0.2%	218名	1.0%
利用したことがない	399名	95.2%	20,090名	88.2%
無回答	19名	4.5%	2,224名	9.8%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	373名	100.0%	19,365名	100.0%
現在利用している	1名	0.3%	316名	1.6%
現在利用していないが、以前利用したことがある	1名	0.3%	267名	1.4%
利用したことがない	358名	96.0%	16,608名	85.8%
無回答	13名	3.5%	2,174名	11.2%



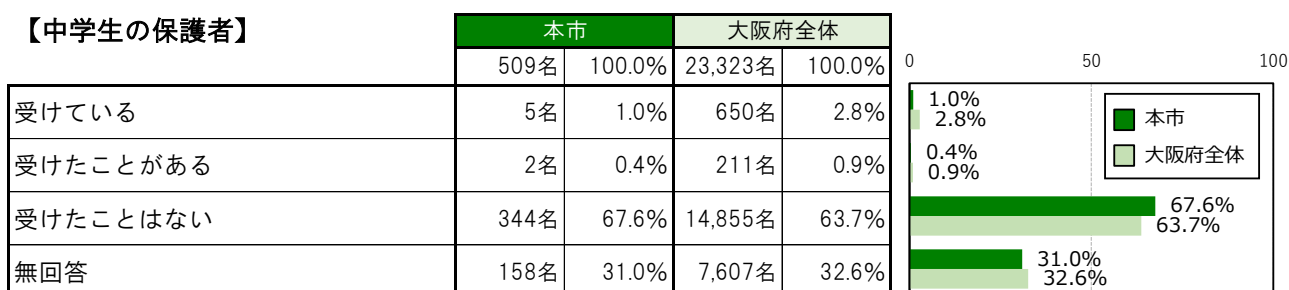
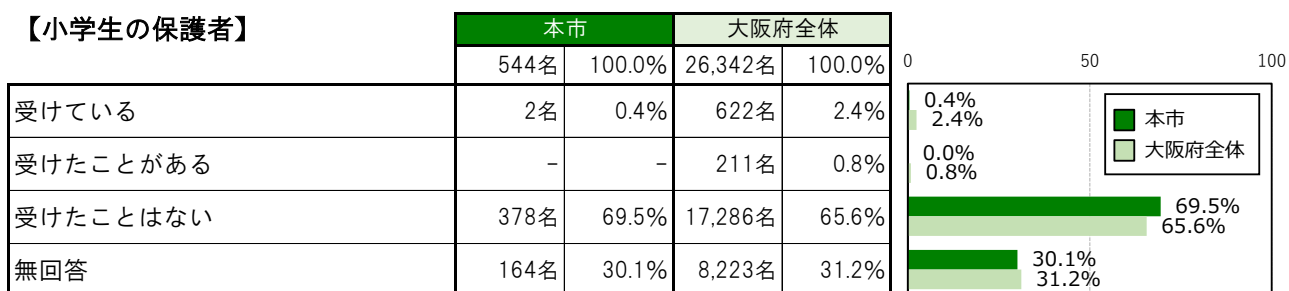
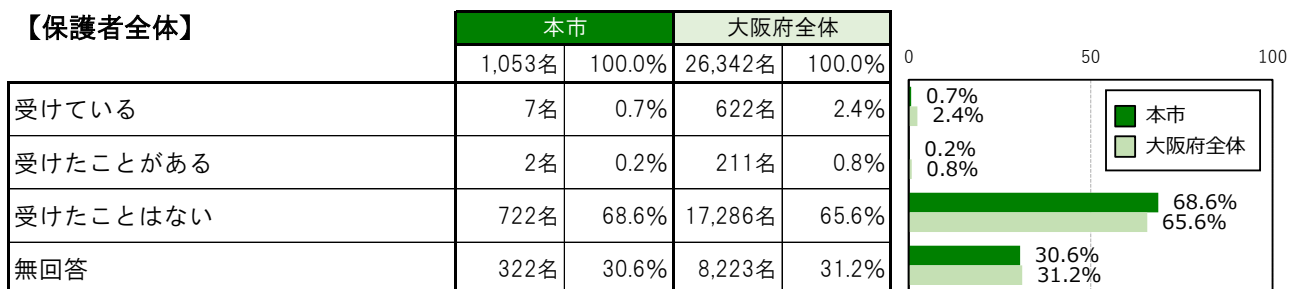
※ 2016年度調査では「受けている」「受けたことがある」「受けたことはない」

●2016年度 調査結果【参考データ】

2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「利用したことがない」（2016年度調査では「受けたことはない」）が26.4ポイント高くなっている。

小学生の保護者は、「利用したことがない」が25.7ポイント高くなっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」が28.4ポイント高くなっている。



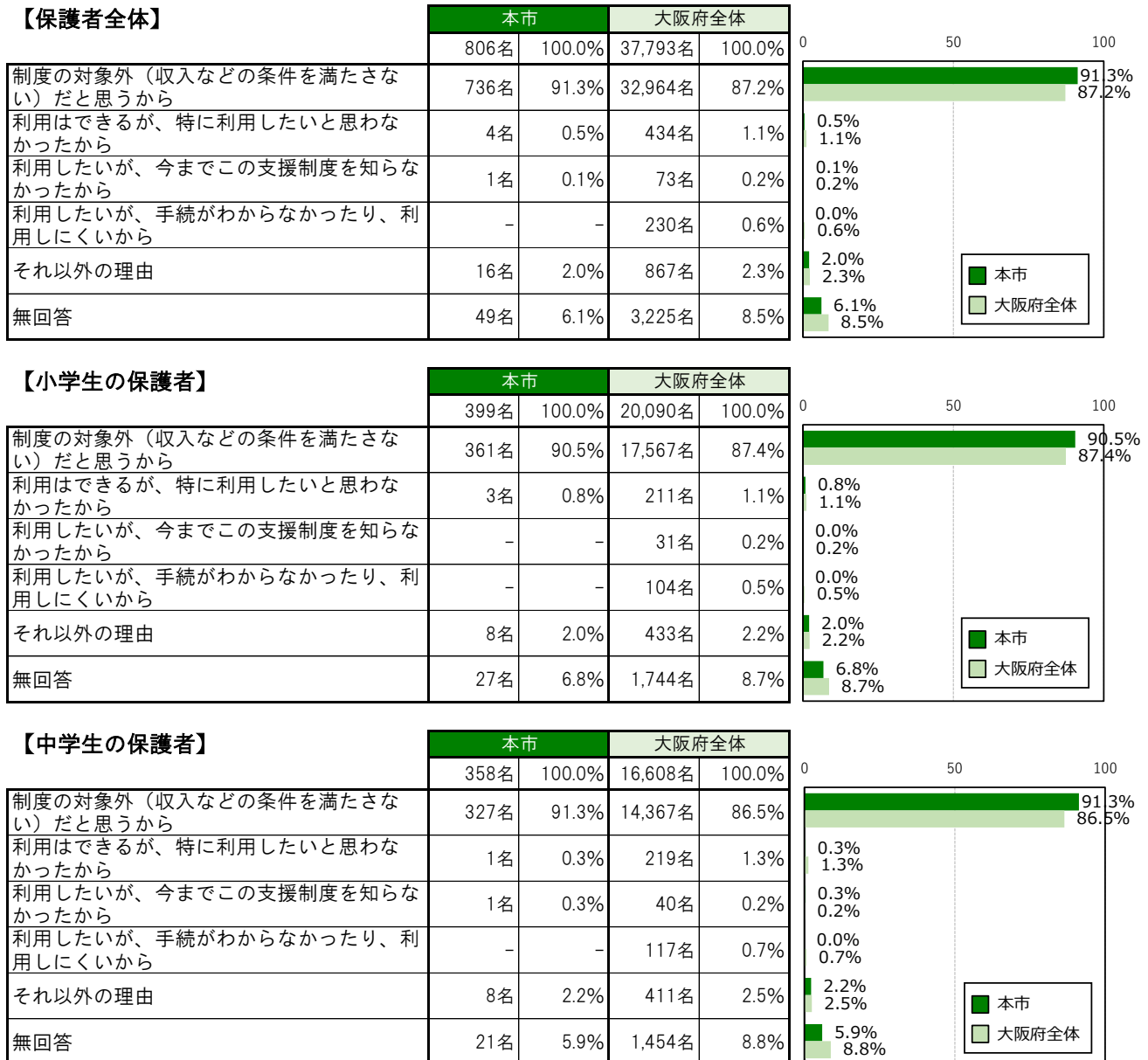
保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 b 生活保護 <利用したことがない理由>

保護者全体は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が91.3%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が2.0%となっている。

小学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が90.5%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が2.0%となっている。

中学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が91.3%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が2.2%となっている。

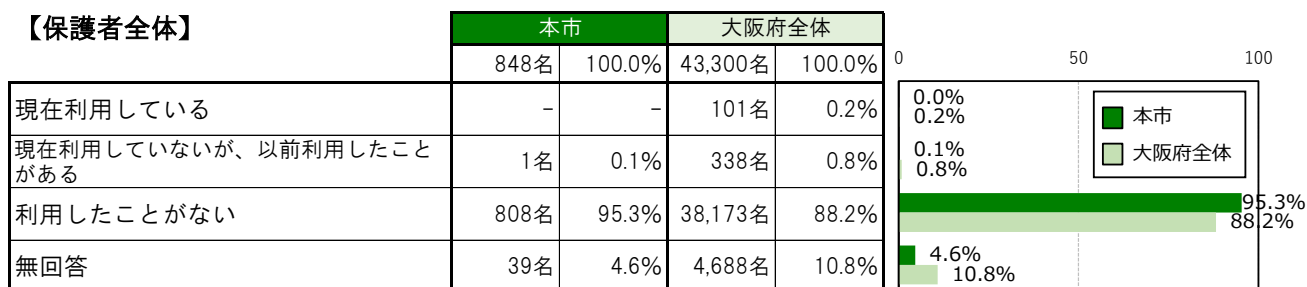


保護者のことについて

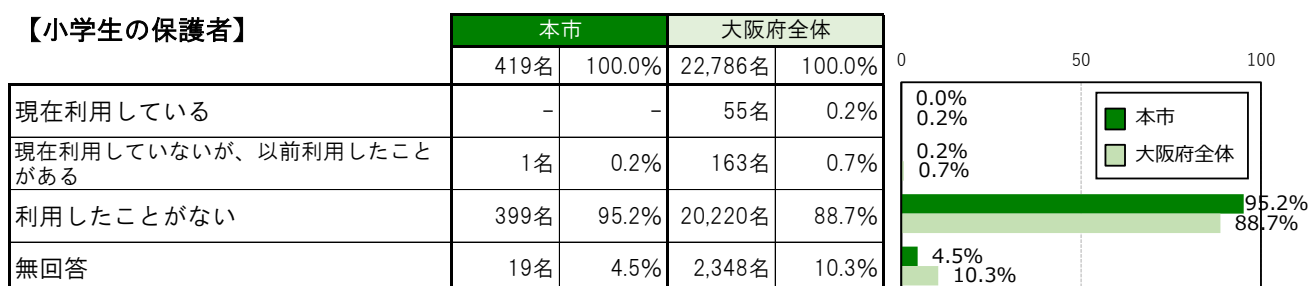
問23 支援制度の利用状況 c 生活困窮者の自立支援相談窓口

保護者全体は、「利用したことがない」が95.3%で最も多くなっている。
 小学生の保護者は、「利用したことがない」が95.2%で最も多くなっている。
 中学生の保護者は、「利用したことがない」が96.5%で最も多くなっている。

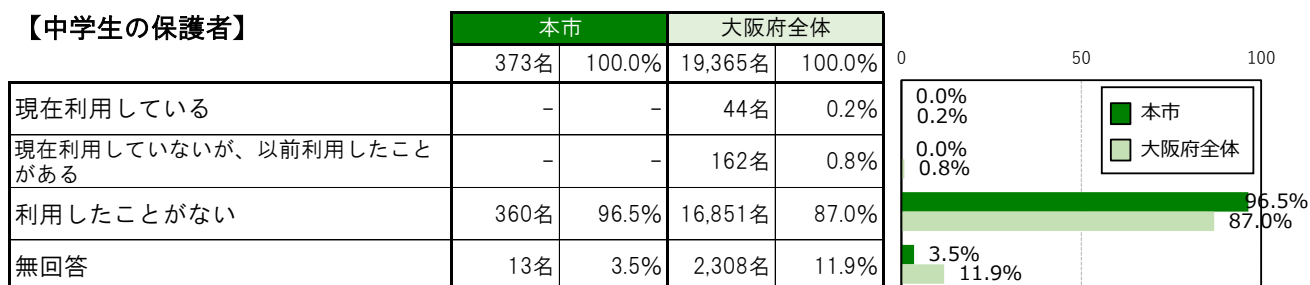
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 c 生活困窮者の自立支援相談窓口 <利用したことがない理由>

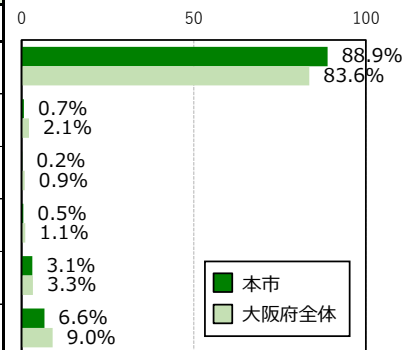
保護者全体は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が88.9%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が3.1%となっている。

小学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が88.7%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が2.8%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が1.0%となっている。

中学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が88.3%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が3.6%となっている。

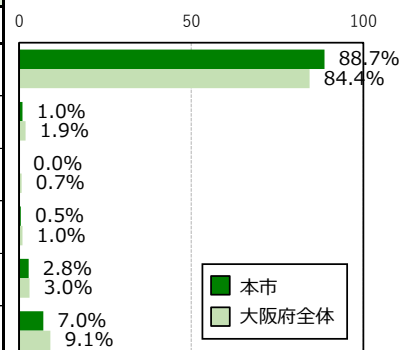
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	808名	100.0%	38,173名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	718名	88.9%	31,919名	83.6%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	6名	0.7%	790名	2.1%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	2名	0.2%	332名	0.9%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	4名	0.5%	410名	1.1%
それ以外の理由	25名	3.1%	1,275名	3.3%
無回答	53名	6.6%	3,447名	9.0%



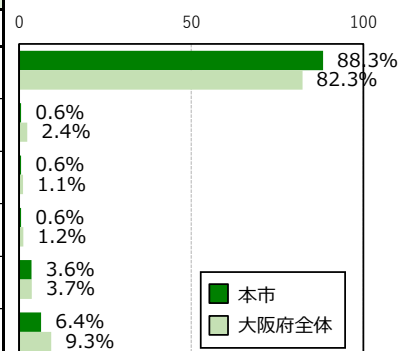
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	399名	100.0%	20,220名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	354名	88.7%	17,059名	84.4%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	4名	1.0%	382名	1.9%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	-	-	134名	0.7%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	2名	0.5%	193名	1.0%
それ以外の理由	11名	2.8%	609名	3.0%
無回答	28名	7.0%	1,843名	9.1%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	360名	100.0%	16,851名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	318名	88.3%	13,863名	82.3%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	2名	0.6%	397名	2.4%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	2名	0.6%	192名	1.1%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	2名	0.6%	204名	1.2%
それ以外の理由	13名	3.6%	625名	3.7%
無回答	23名	6.4%	1,570名	9.3%



保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 d 児童扶養手当（ひとり親世帯のみ）

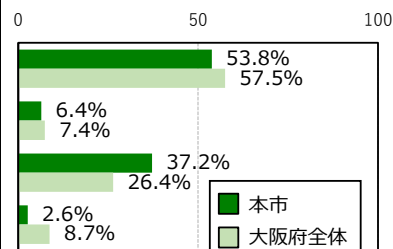
保護者全体は、「現在利用している」が53.8%で最も多く、次いで「利用したことがない」が37.2%となっている。

小学生の保護者は、「現在利用している」が57.1%で最も多く、次いで「利用したことがない」が34.3%となっている。

中学生の保護者は、「現在利用している」が51.3%で最も多く、次いで「利用したことがない」が41.0%となっている。

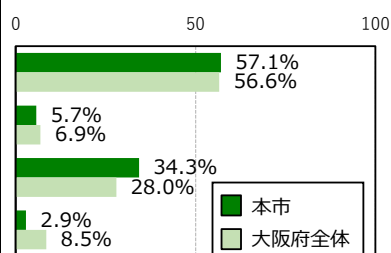
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	78名	100.0%	5,126名	100.0%
現在利用している	42名	53.8%	2,948名	57.5%
現在利用していないが、以前利用したことがある	5名	6.4%	380名	7.4%
利用したことがない	29名	37.2%	1,354名	26.4%
無回答	2名	2.6%	444名	8.7%



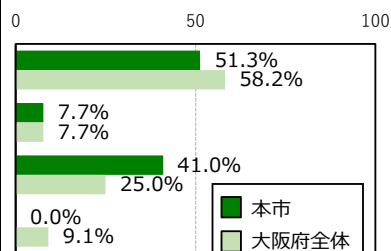
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	35名	100.0%	2,447名	100.0%
現在利用している	20名	57.1%	1,385名	56.6%
現在利用していないが、以前利用したことがある	2名	5.7%	168名	6.9%
利用したことがない	12名	34.3%	686名	28.0%
無回答	1名	2.9%	208名	8.5%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	39名	100.0%	2,547名	100.0%
現在利用している	20名	51.3%	1,483名	58.2%
現在利用していないが、以前利用したことがある	3名	7.7%	196名	7.7%
利用したことがない	16名	41.0%	636名	25.0%
無回答	-	-	232名	9.1%



※ 2016年度調査では「受けている」「受けたことがある」「受けたことはない」

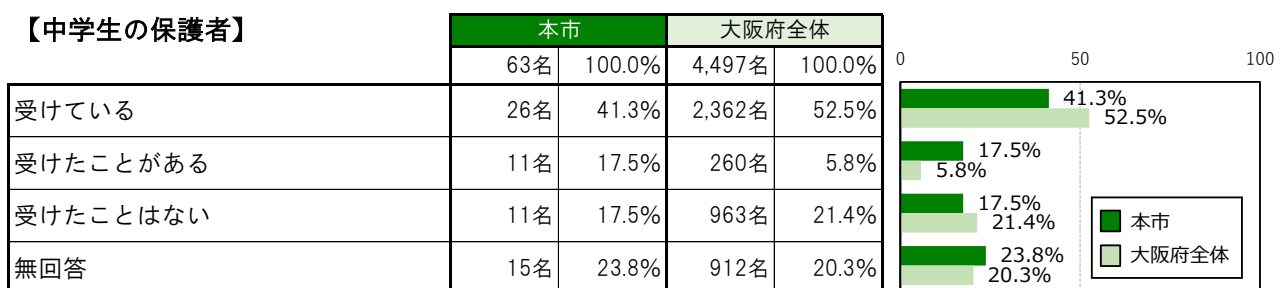
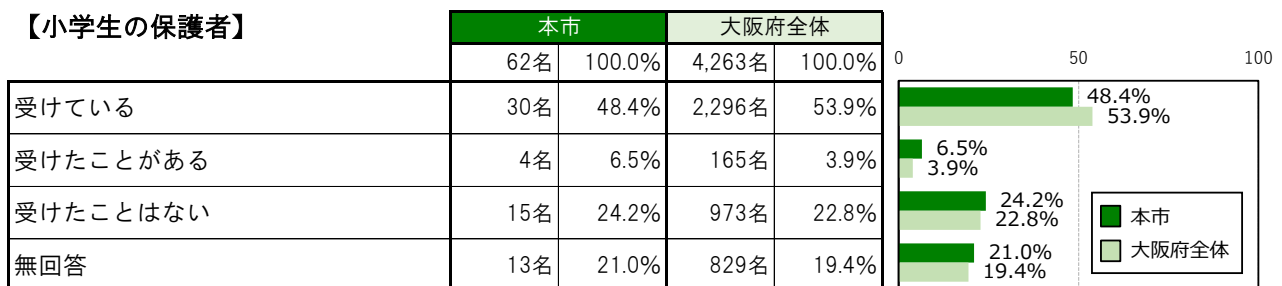
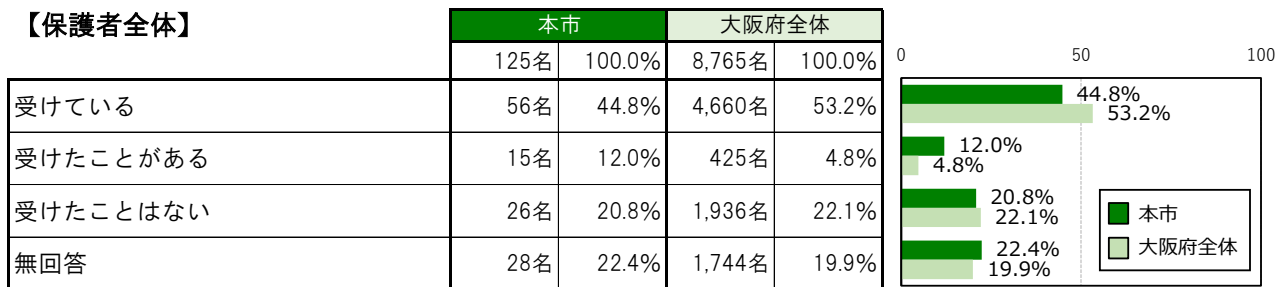
※ ひとり親世帯のみで集計。

●2016年度 調査結果【参考データ】

2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「利用したことがない」（2016年度調査では「受けたことは
ない」）が16.4ポイント高くなっている。

小学生の保護者は、「利用したことがない」が10.1ポイント高くなっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」が23.5ポイント高くなっている。



※ ひとり親世帯のみで集計。

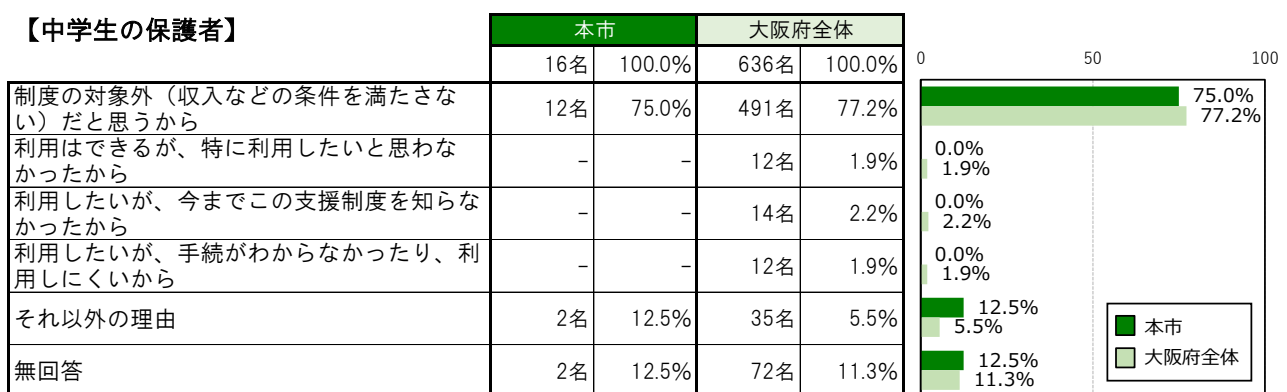
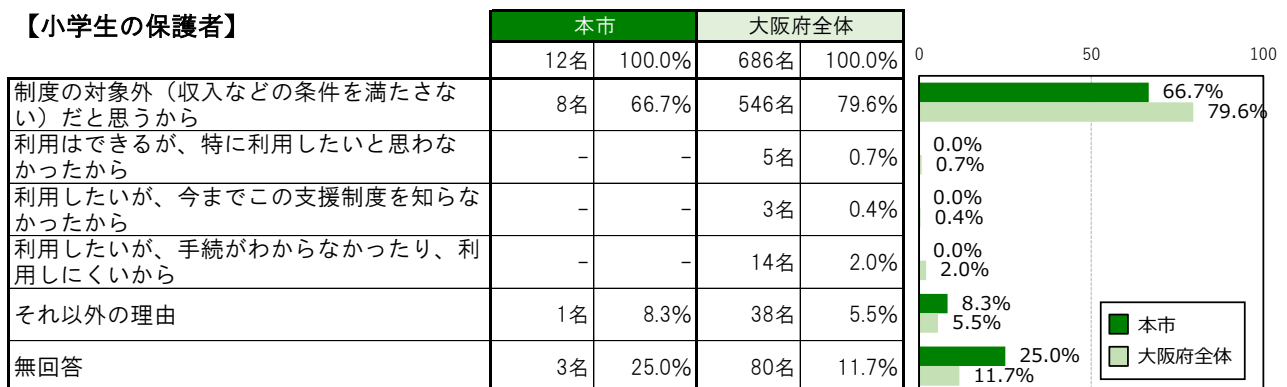
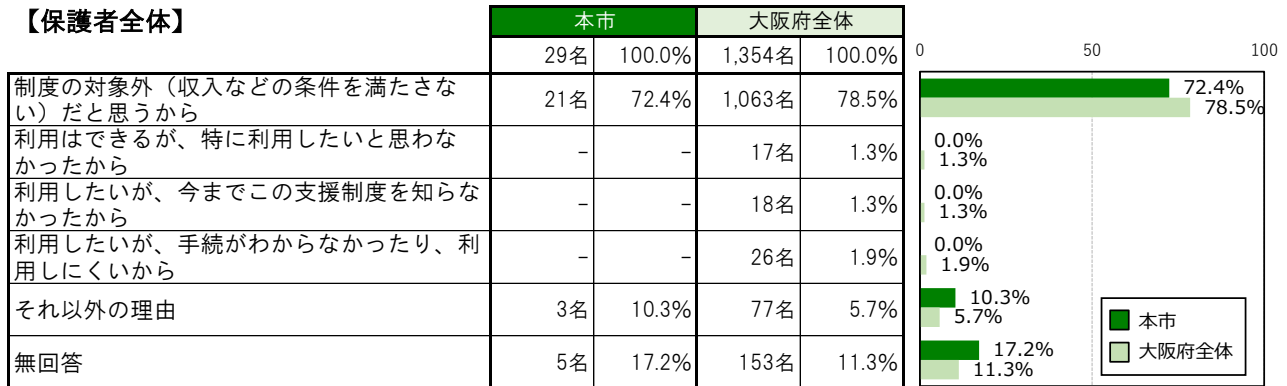
保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 d 児童扶養手当 <利用したことがない理由> (ひとり親世帯のみ)

ひとり親世帯のみでみると、保護者全体は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が72.4%（21名）で最も多く、次いで「それ以外の理由」が10.3%（3名）となっている。

小学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が66.7%（8名）で最も多く、次いで「それ以外の理由」が8.3%（1名）となっている。

中学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が75.0%（12名）で最も多く、次いで「それ以外の理由」が12.5%（2名）となっている。



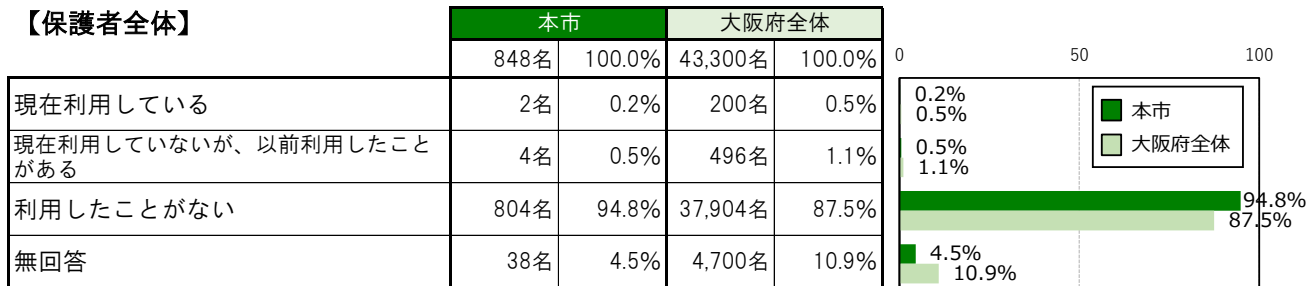
※ ひとり親世帯のみで集計。

保護者のことについて

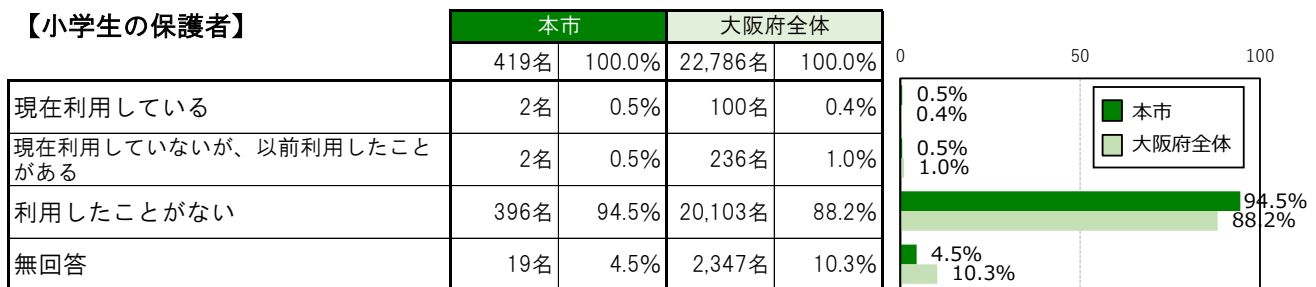
問23 支援制度の利用状況 e 母子家庭等就業・自立支援センター

保護者全体は、「利用したことがない」が94.8%で最も多くなっている。
 小学生の保護者は、「利用したことがない」が94.5%で最も多くなっている。
 中学生の保護者は、「利用したことがない」が96.2%で最も多くなっている。

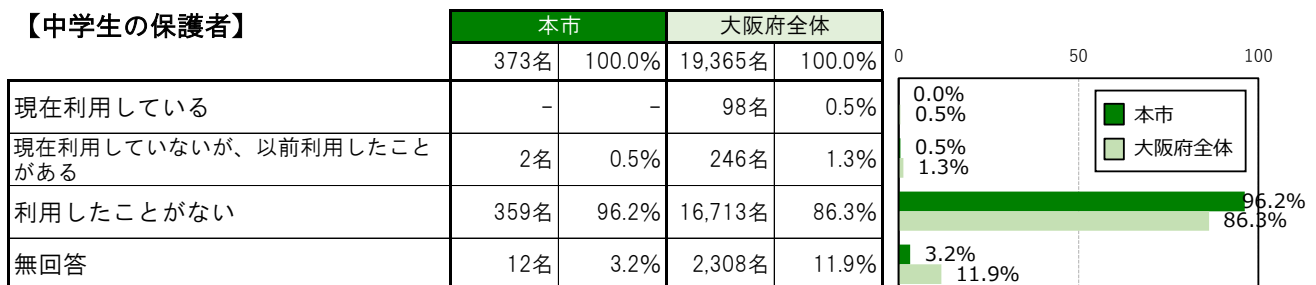
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



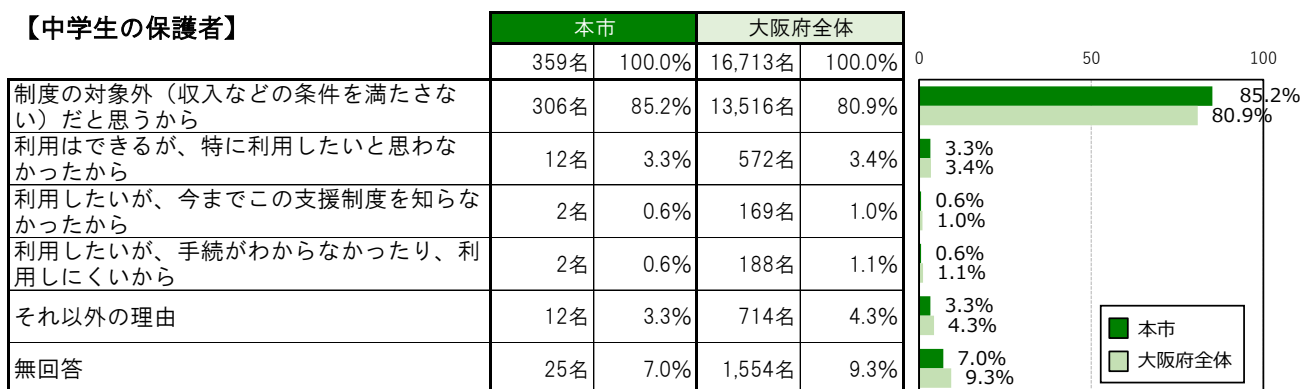
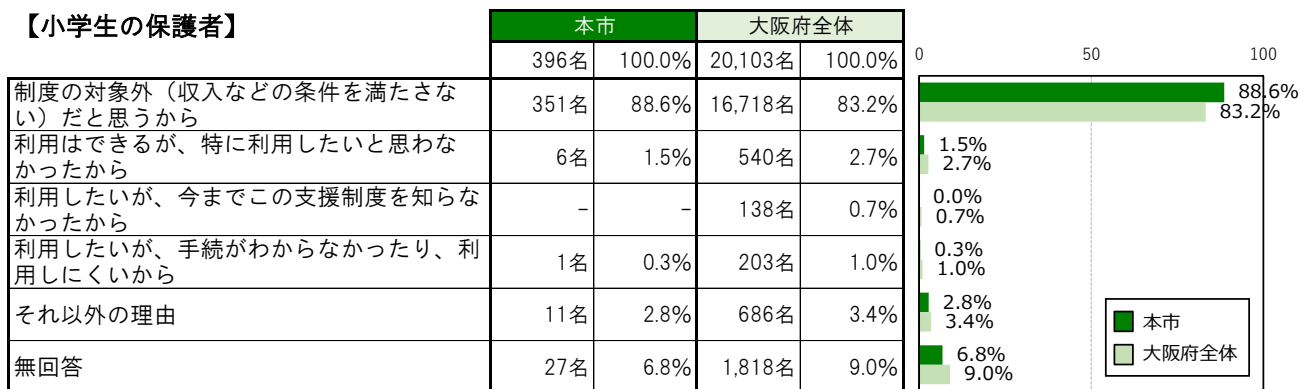
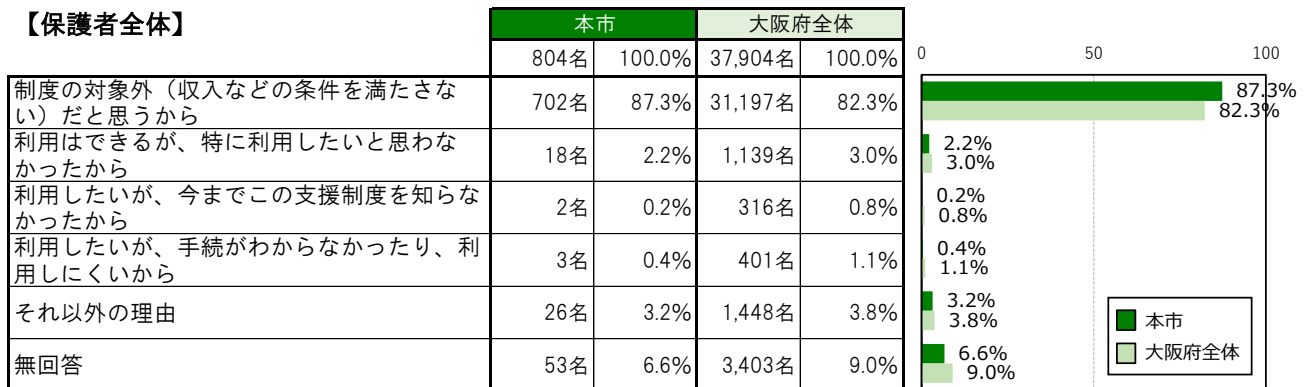
保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 e 母子家庭等就業・自立支援センター <利用したことがない理由>

保護者全体は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が87.3%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が3.2%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が2.2%となっている。

小学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が88.6%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が2.8%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が1.5%となっている。

中学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が85.2%で最も多く、次いで「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」、「それ以外の理由」がそれぞれ3.3%となっている。



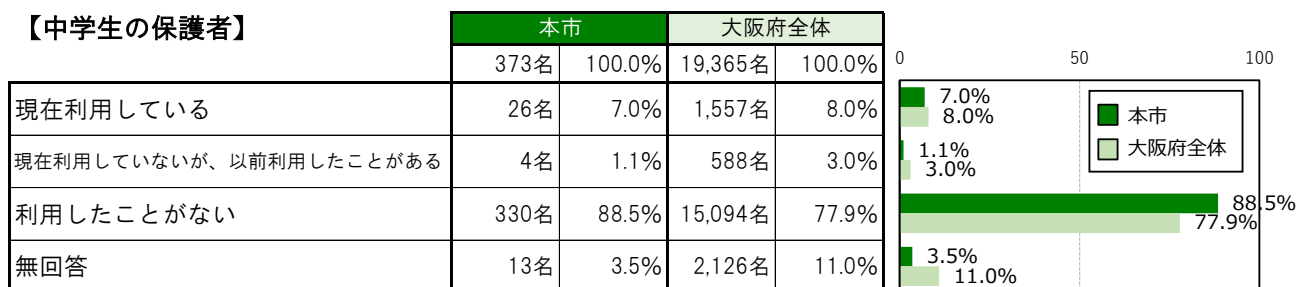
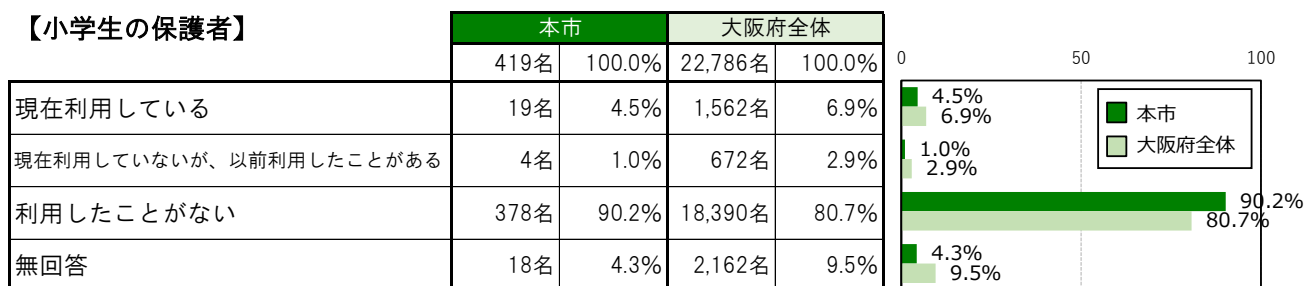
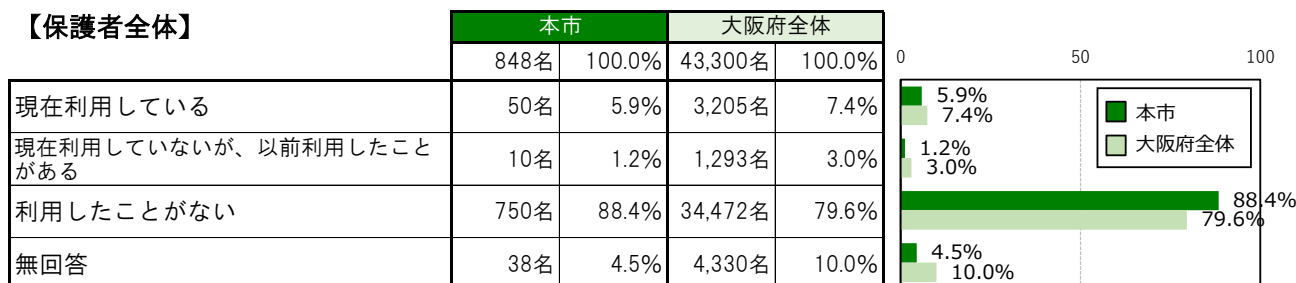
保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 f 低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金

保護者全体は、「利用したことがない」が88.4%で最も多く、次いで「現在利用している」が5.9%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が1.2%となっている。

小学生の保護者は、「利用したことがない」が90.2%で最も多く、次いで「現在利用している」が4.5%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が1.0%となっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」が88.5%で最も多く、次いで「現在利用している」が7.0%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が1.1%となっている。



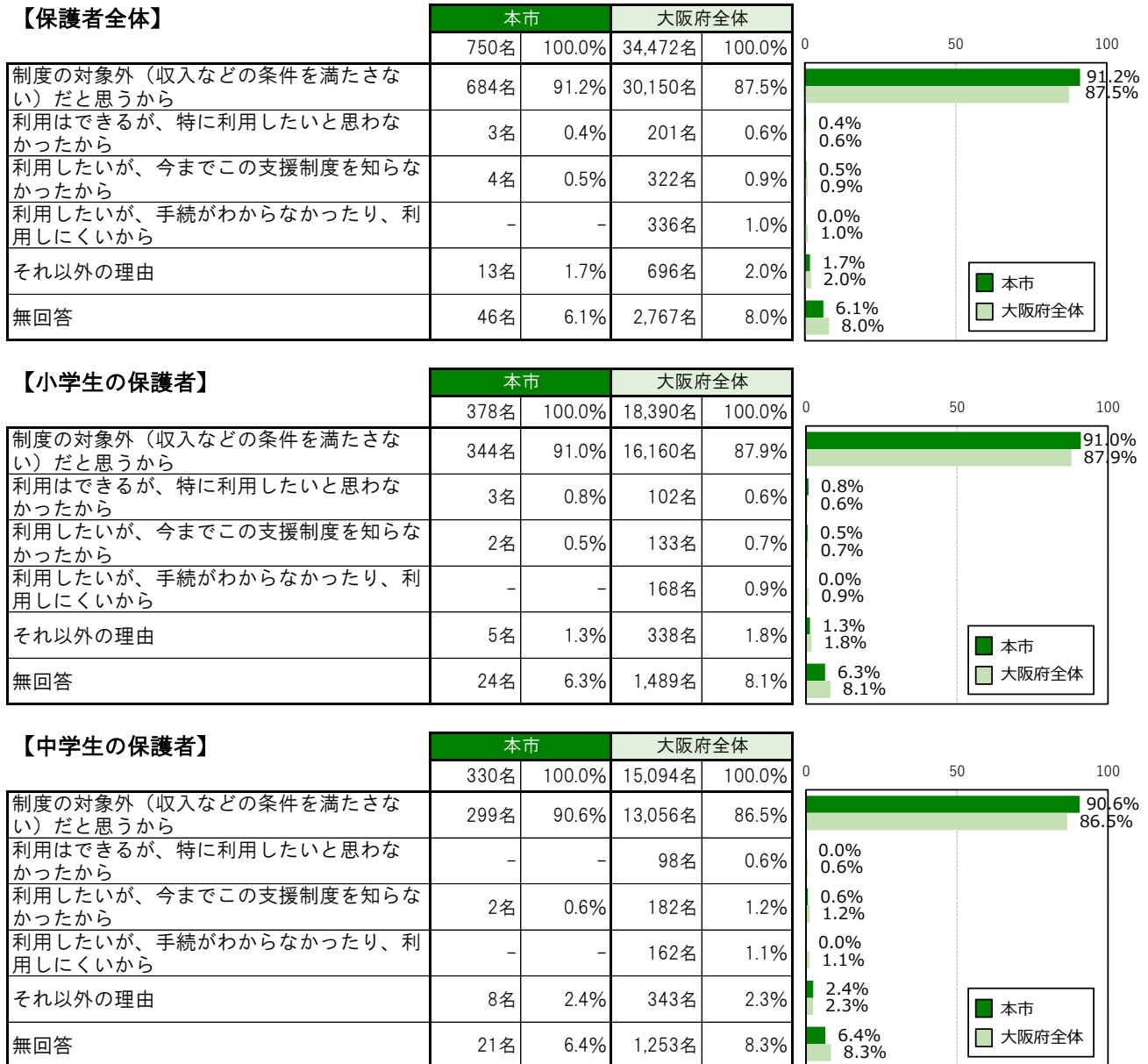
保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 f 低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金
＜利用したことがない理由＞

保護者全体は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が91.2%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が1.7%となっている。

小学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が91.0%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が1.3%となっている。

中学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が90.6%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が2.4%となっている。



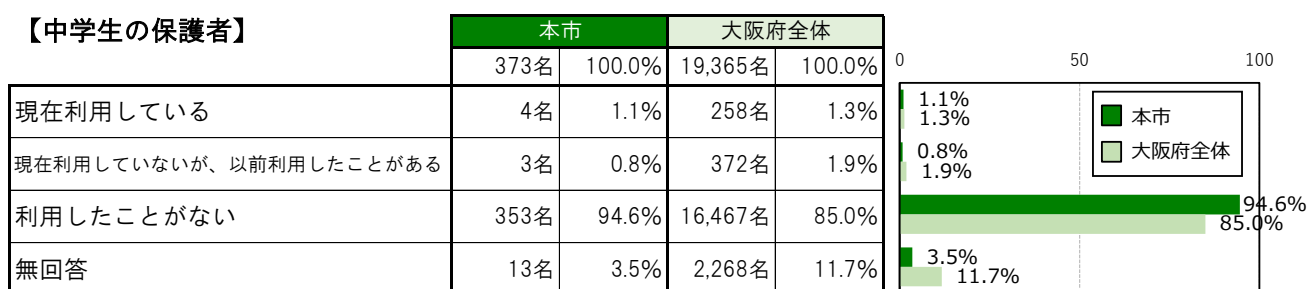
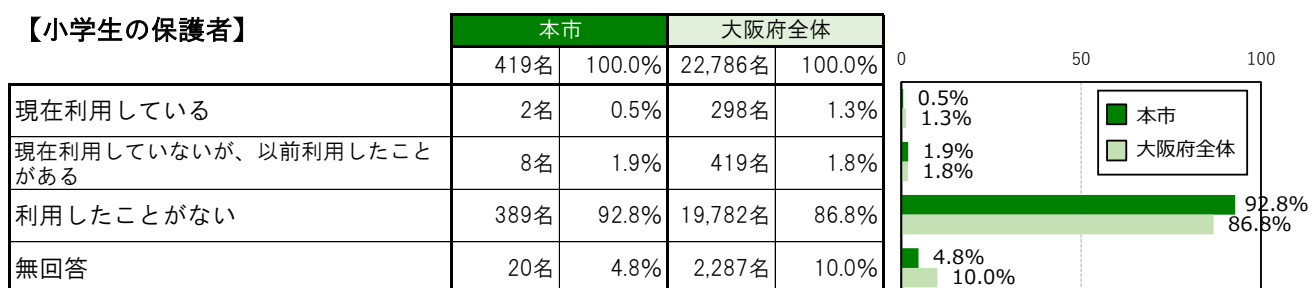
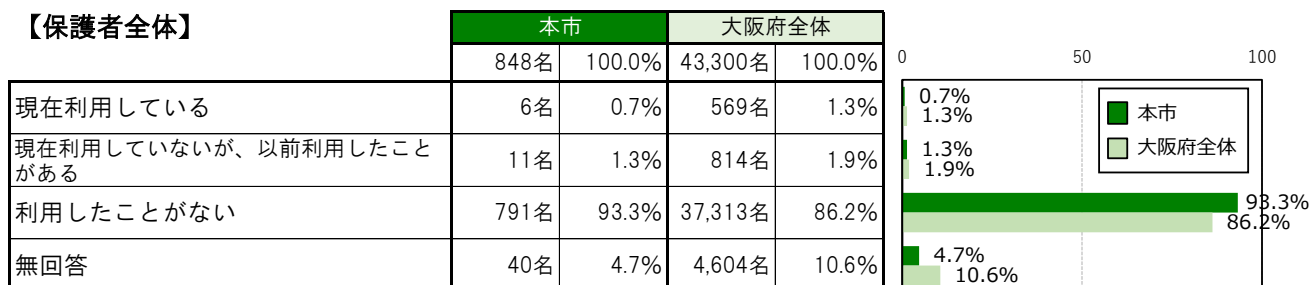
保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 g 新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）

保護者全体は、「利用したことがない」が93.3%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が1.3%となっている。

小学生の保護者は、「利用したことがない」が92.8%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が1.9%となっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」が94.6%で最も多く、次いで「現在利用している」が1.1%となっている。



保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 g 新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）
＜利用したことがない理由＞

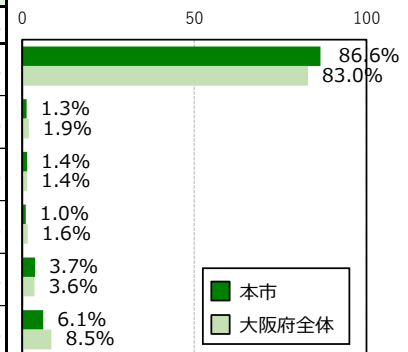
保護者全体は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が86.6%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が3.7%、「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」が1.4%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が1.3%となっている。

小学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が88.4%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が3.3%となっている。

中学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が85.0%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が3.4%、「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」が2.0%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が1.7%となっている。

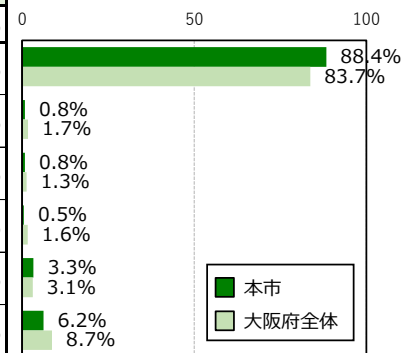
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	791名	100.0%	37,313名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	685名	86.6%	30,971名	83.0%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	10名	1.3%	708名	1.9%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	11名	1.4%	529名	1.4%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	8名	1.0%	611名	1.6%
それ以外の理由	29名	3.7%	1,331名	3.6%
無回答	48名	6.1%	3,163名	8.5%



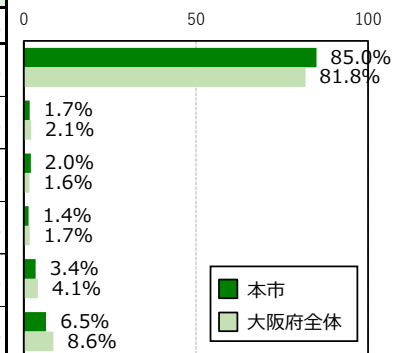
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	389名	100.0%	19,782名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	344名	88.4%	16,548名	83.7%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	3名	0.8%	343名	1.7%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	3名	0.8%	258名	1.3%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	2名	0.5%	308名	1.6%
それ以外の理由	13名	3.3%	613名	3.1%
無回答	24名	6.2%	1,712名	8.7%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	353名	100.0%	16,467名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	300名	85.0%	13,474名	81.8%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	6名	1.7%	350名	2.1%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	7名	2.0%	263名	1.6%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	5名	1.4%	284名	1.7%
それ以外の理由	12名	3.4%	675名	4.1%
無回答	23名	6.5%	1,421名	8.6%



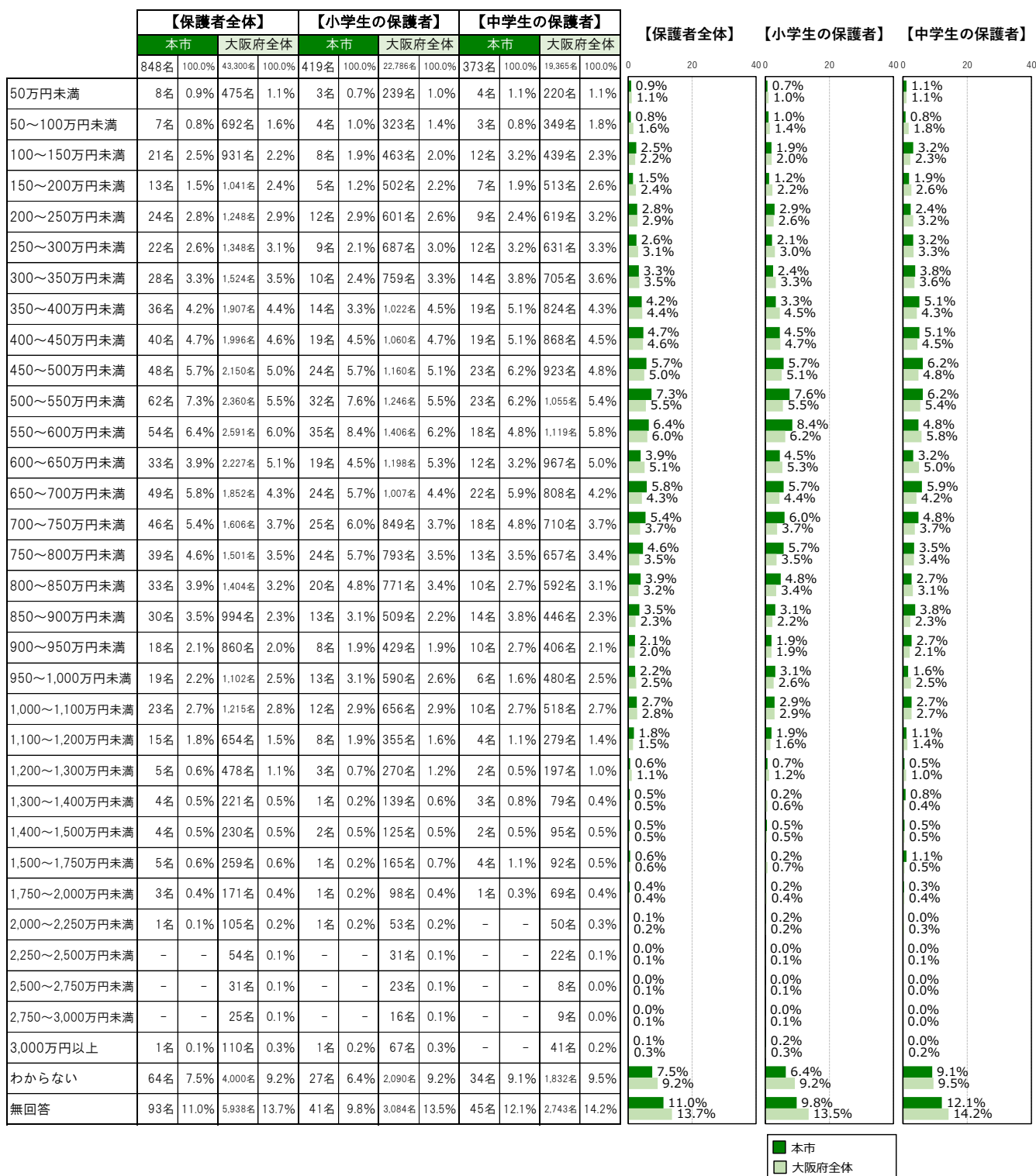
保護者のことについて

問24 世帯収入

保護者全体は、「500～550万円未満」が7.3%で最も多く、次いで「550～600万円未満」が6.4%、「650～700万円未満」が5.8%、「450～500万円未満」が5.7%、「700～750万円未満」が5.4%となっている。

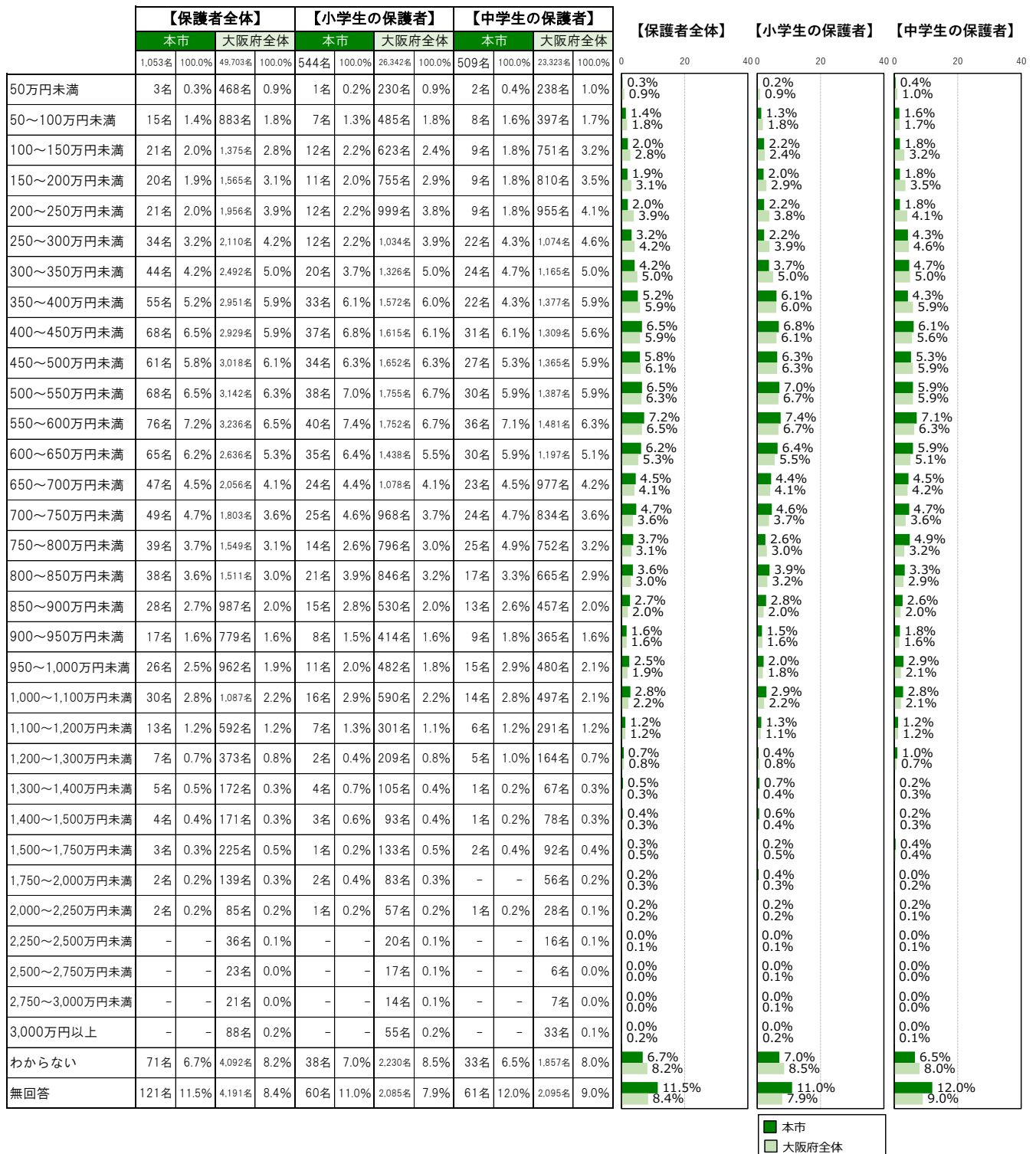
小学生の保護者は、「550～600万円未満」が8.4%で最も多く、次いで「500～550万円未満」が7.6%、「700～750万円未満」が6.0%、「450～500万円未満」、「650～700万円未満」、「750～800万円未満」がそれぞれ5.7%となっている。

中学生の保護者は、「450～500万円未満」、「500～550万円未満」がそれぞれ6.2%で最も多く、次いで「650～700万円未満」が5.9%、「350～400万円未満」、「400～450万円未満」がそれぞれ5.1%、「550～600万円未満」、「700～750万円未満」がそれぞれ4.8%となっている。



●2016年度 調査結果【参考データ】

2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「600～650万円未満」が2.3ポイント低くなっている。
小学生の保護者は、「750～800万円未満」が3.1ポイント高くなっている。
中学生の保護者は、「600～650万円未満」が2.7ポイント低くなっている。



世帯収入額と世帯人数に基づく等価可処分所得

今回の調査において世帯所得をたずねているが、この回答のみで世帯の困窮の状態を測ることはできない。実際の生活上の体験や困りごとを把握するため、多面的に貧困を測る指標として、「等価可処分所得」およびそれらを基に区分した「困窮度」を用いている。

国民生活基礎調査における相対的貧困率は、一定基準（貧困線）を下回る等価可処分所得しか得ていない者の割合をいう。貧困線とは、等価可処分所得（世帯の可処分所得（収入から税金・社会保険料等を除いたいわゆる手取り収入）を世帯人員の平方根で割って調整した所得）の中央値の半分の額をいう。算出方法は、OECD（経済協力開発機構）の作成基準に基づく。EU、ユニセフ（ただし、常に60%基準採用ではない）は60%を採用している。

世帯の可処分所得はその世帯の世帯人員数に影響されるので、世帯人員数で調整する必要がある。最も簡単なのは「世帯の可処分所得÷世帯人員数」とすることであるが、生活水準を考えた場合、世帯人員数が少ない方が生活コストが割高になることを考慮する必要がある、このため、世帯人員数の違いを調整するにあたって「世帯人員数の平方根」を用いている。

出典：厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/dl/20-21a-01.pdf>

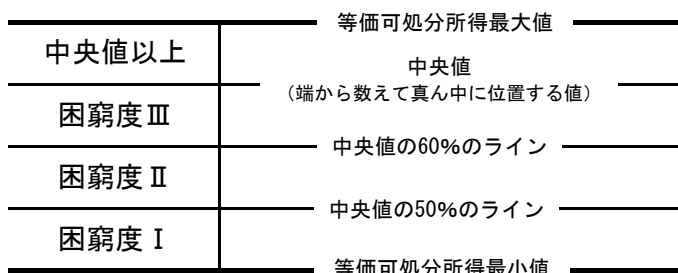
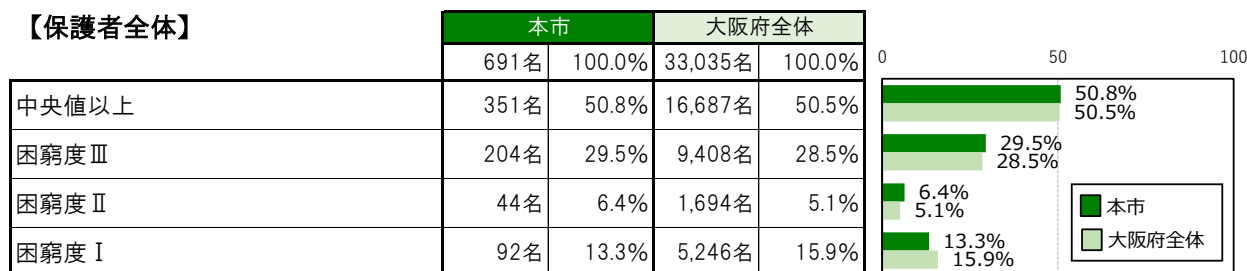


図 困窮度の分類と基準

中央値は288万円、国の定める基準で行くと相対的貧困率は13.3%であった。
なお、大阪府内全自治体における相対的貧困率は15.9%であった。

【保護者全体】



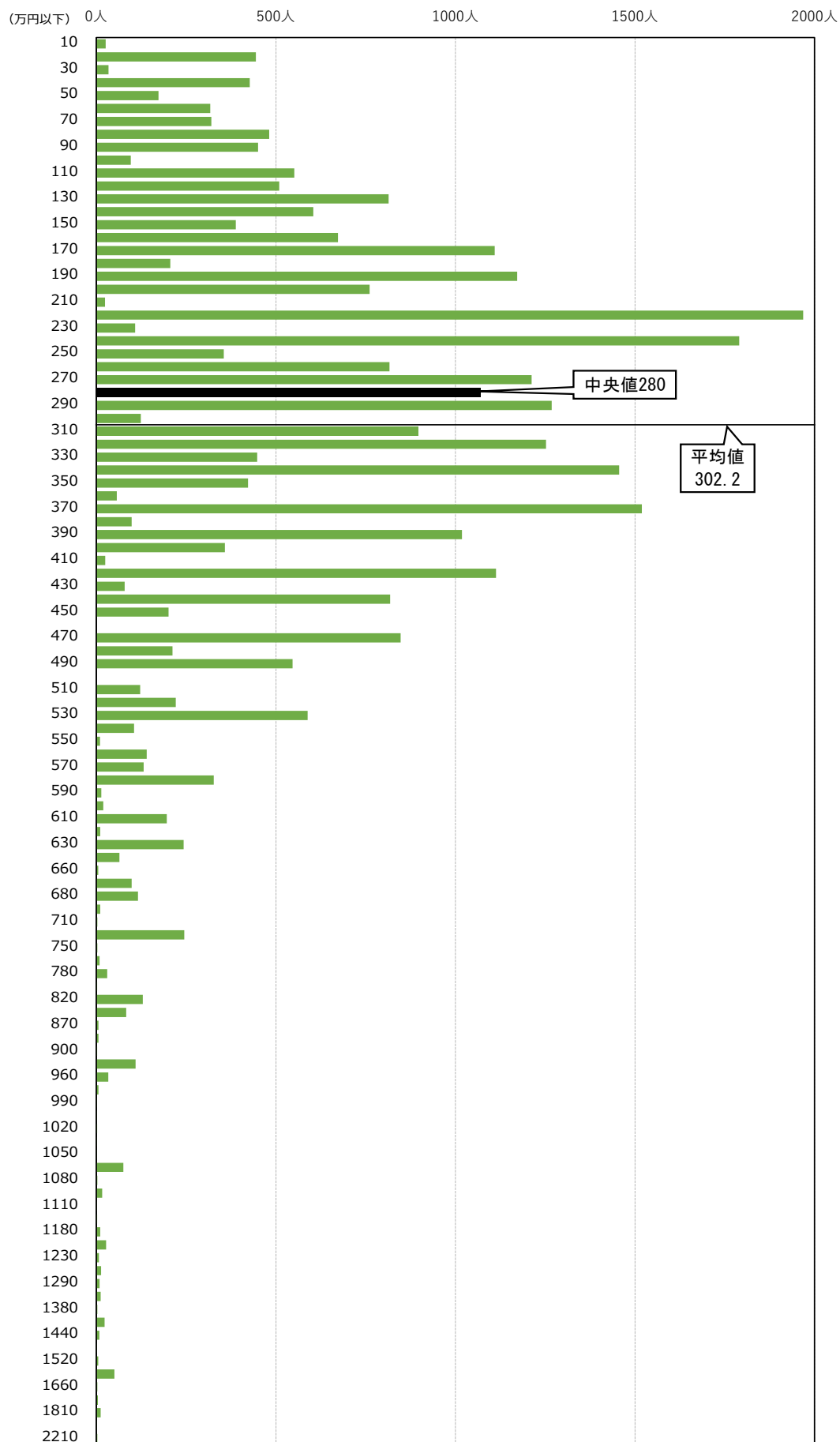
保護者全体は、「中央値以上」が50.8%で最も多く、次いで「困窮度Ⅲ」が29.5%、「困窮度Ⅰ」が13.3%、「困窮度Ⅱ」が6.4%となっている。

●2016年度 調査結果【参考データ】

2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「困窮度Ⅰ」が2.7ポイント高くなっている。

【保護者全体】





※ 2016年度調査では、中央値255万円、平均値272.7万円であった。
 注) 2023年度調査ではグラフ作成方法を改訂している。

図 大阪府内全自治体における等価可処分所得の分布

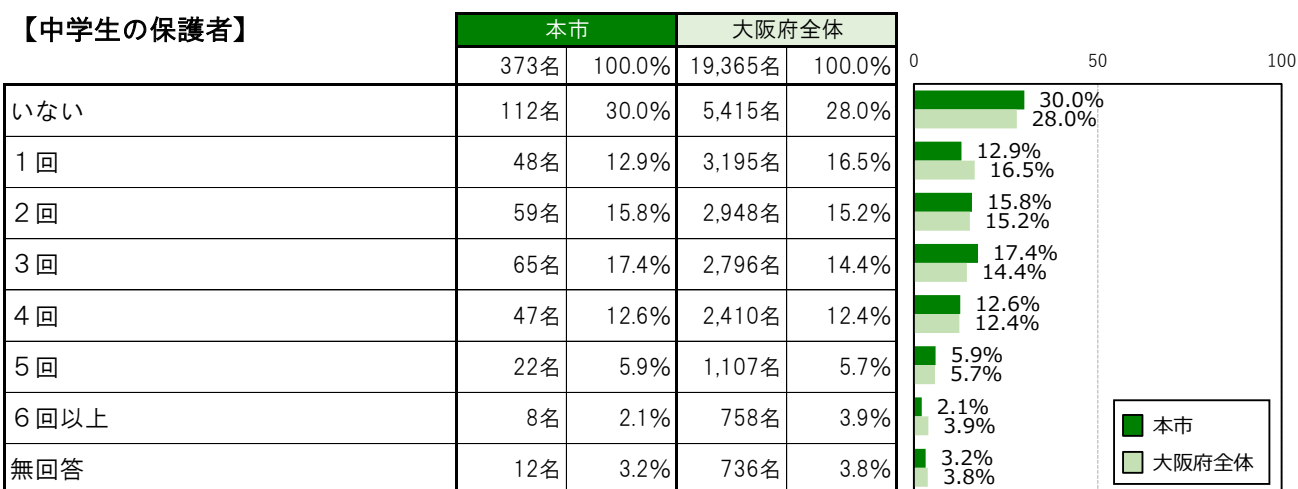
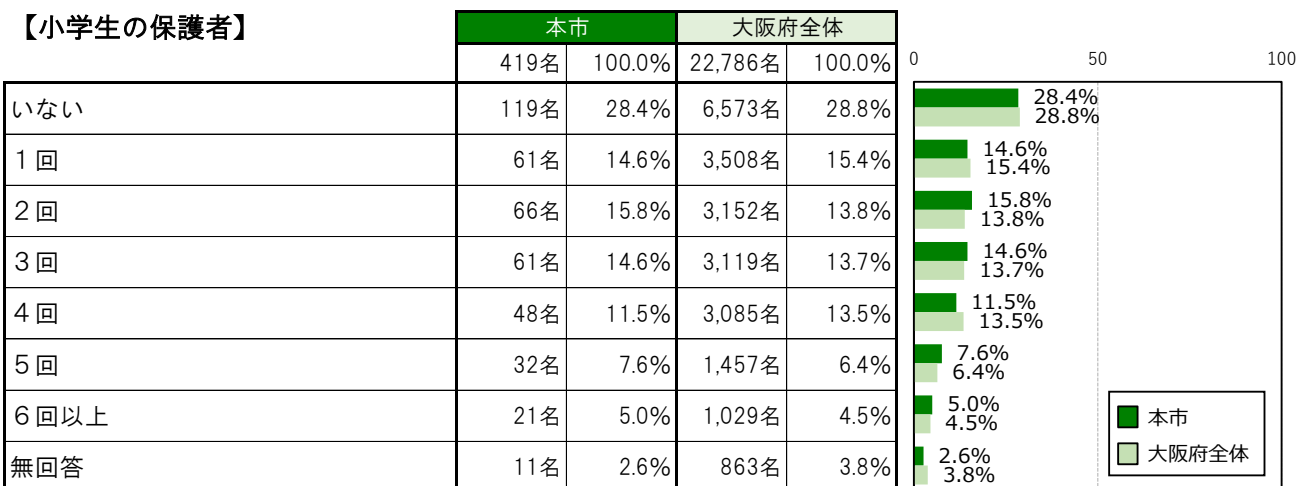
保護者のことについて

問25 同居家族が新型コロナウイルスに感染した延べ回数

保護者全体は、「いない」が29.1%で最も多く、次いで「3回」が16.3%、「2回」が15.7%、「1回」が13.7%、「4回」が11.9%となっている。

小学生の保護者は、「いない」が28.4%で最も多く、次いで「2回」が15.8%、「1回」、「3回」がそれぞれ14.6%、「4回」が11.5%、「5回」が7.6%となっている。

中学生の保護者は、「いない」が30.0%で最も多く、次いで「3回」が17.4%、「2回」が15.8%、「1回」が12.9%、「4回」が12.6%となっている。



保護者のことについて

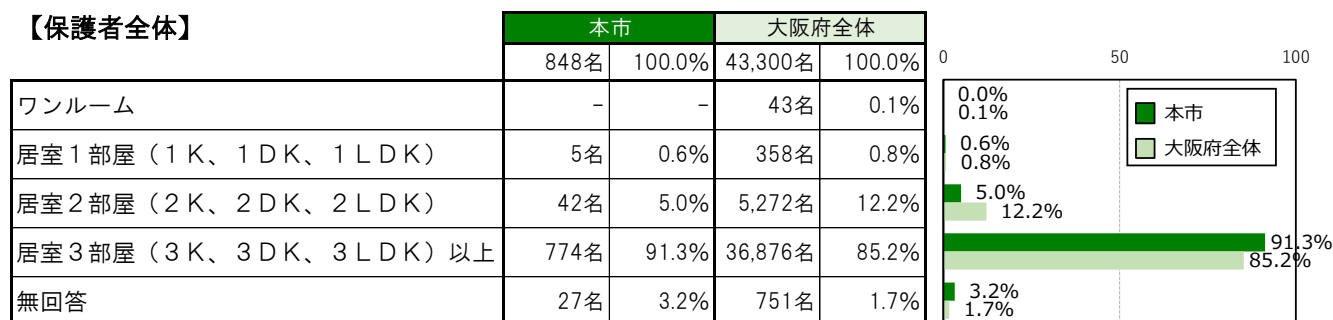
問26（１）住居の間取り

保護者全体は、「居室３部屋（３Ｋ、３ＤＫ、３ＬＤＫ）以上」が91.3%で最も多く、次いで「居室２部屋（２Ｋ、２ＤＫ、２ＬＤＫ）」が5.0%となっている。

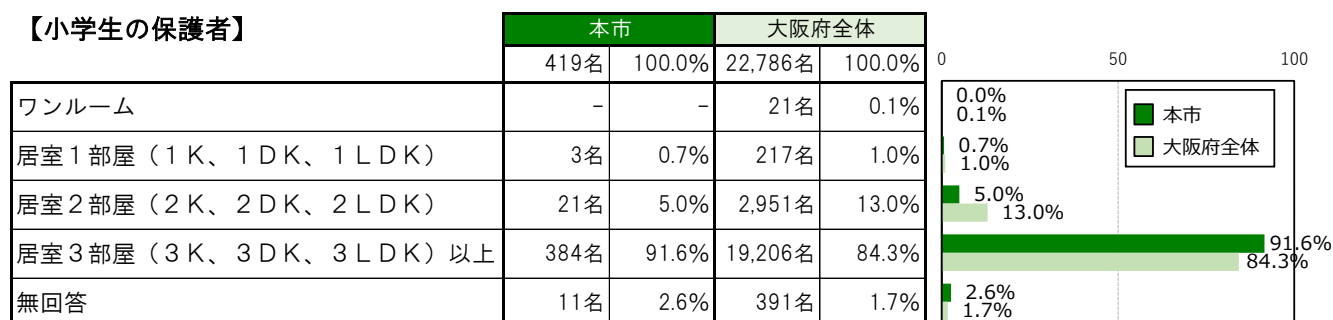
小学生の保護者は、「居室３部屋（３Ｋ、３ＤＫ、３ＬＤＫ）以上」が91.6%で最も多く、次いで「居室２部屋（２Ｋ、２ＤＫ、２ＬＤＫ）」が5.0%となっている。

中学生の保護者は、「居室３部屋（３Ｋ、３ＤＫ、３ＬＤＫ）以上」が91.2%で最も多く、次いで「居室２部屋（２Ｋ、２ＤＫ、２ＬＤＫ）」が5.1%となっている。

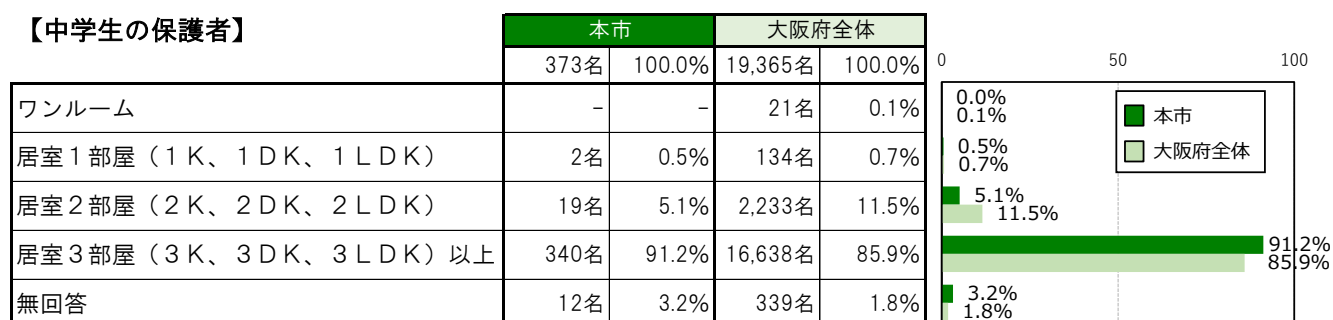
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



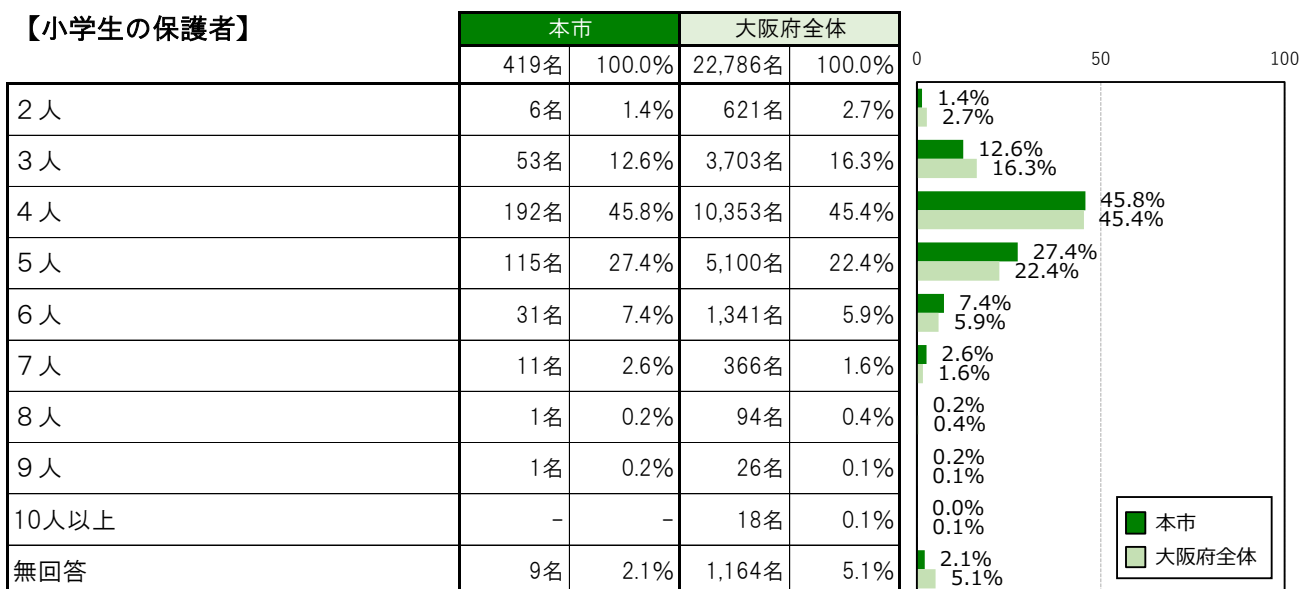
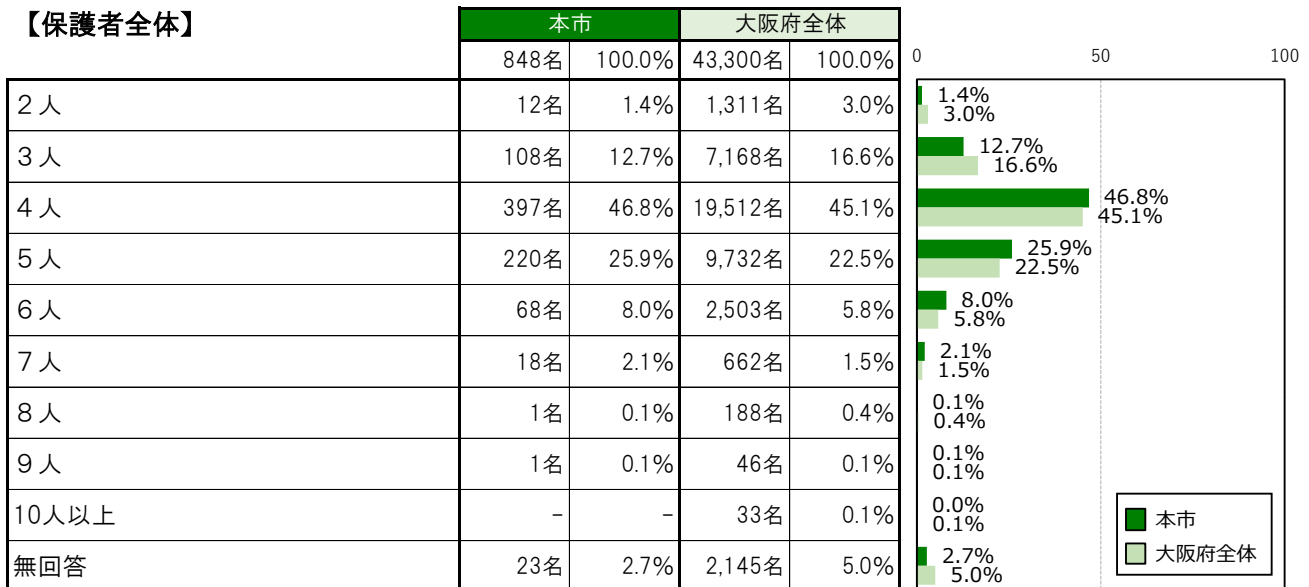
保護者のことについて

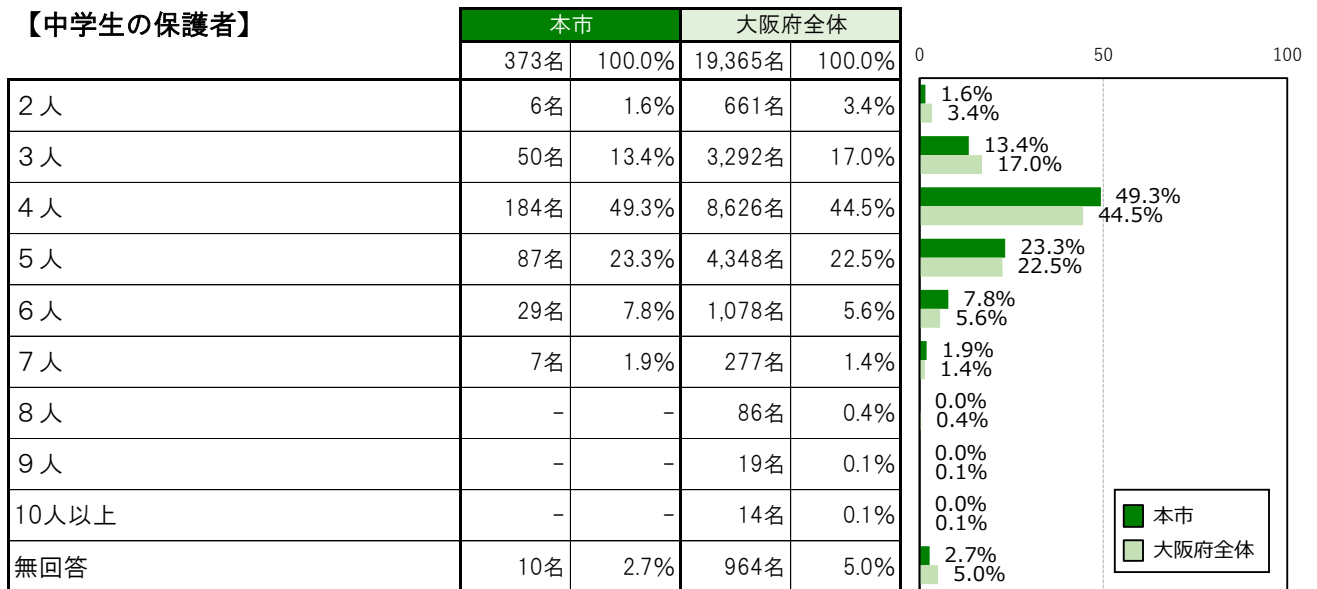
問26（2）同居人数

保護者全体は、「4人」が46.8%で最も多く、次いで「5人」が25.9%、「3人」が12.7%、「6人」が8.0%となっている。

小学生の保護者は、「4人」が45.8%で最も多く、次いで「5人」が27.4%、「3人」が12.6%、「6人」が7.4%となっている。

中学生の保護者は、「4人」が49.3%で最も多く、次いで「5人」が23.3%、「3人」が13.4%、「6人」が7.8%となっている。





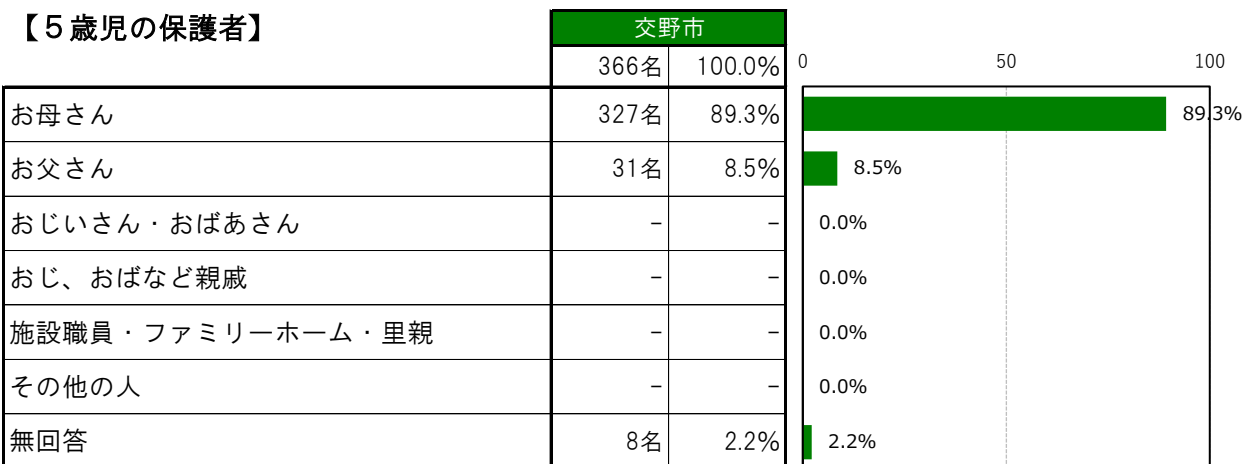
3. 単純集計結果〔5歳児の保護者〕

交野市

子どもとの関係について

問1 子どもとの続柄

「お母さん」が89.3%で最も多く、次いで「お父さん」が8.5%となっている。



世帯の状況について

問2 世帯構成 ①おばあさん

「いない」が62.8%で最も多く、次いで「1人」が4.4%、「2人」が1.6%となっている。

【5歳児の保護者】



問2 世帯構成 ②おじいさん

「いない」が63.4%で最も多く、次いで「1人」が4.6%、「2人」が0.5%となっている。

【5歳児の保護者】



問2 世帯構成 ③お母さん

「1人」が97.0%で、「いない」が1.4%となっている。

【5歳児の保護者】



問2 世帯構成 ④お父さん

「1人」が96.4%で、「いない」が2.7%となっている。

【5歳児の保護者】

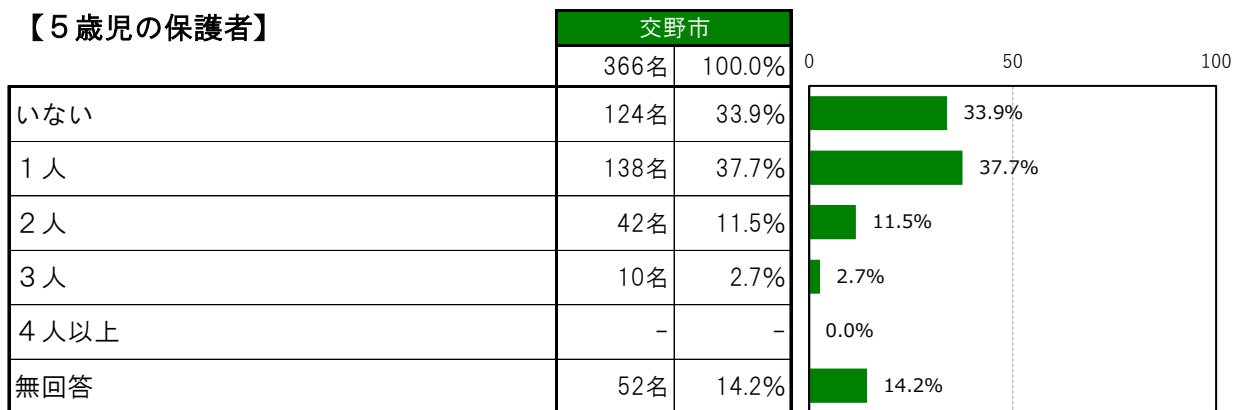


世帯の状況について

問2 世帯構成 ⑤姉・兄

「1人」が37.7%で最も多く、次いで「いない」が33.9%、「2人」が11.5%、「3人」が2.7%となっている。

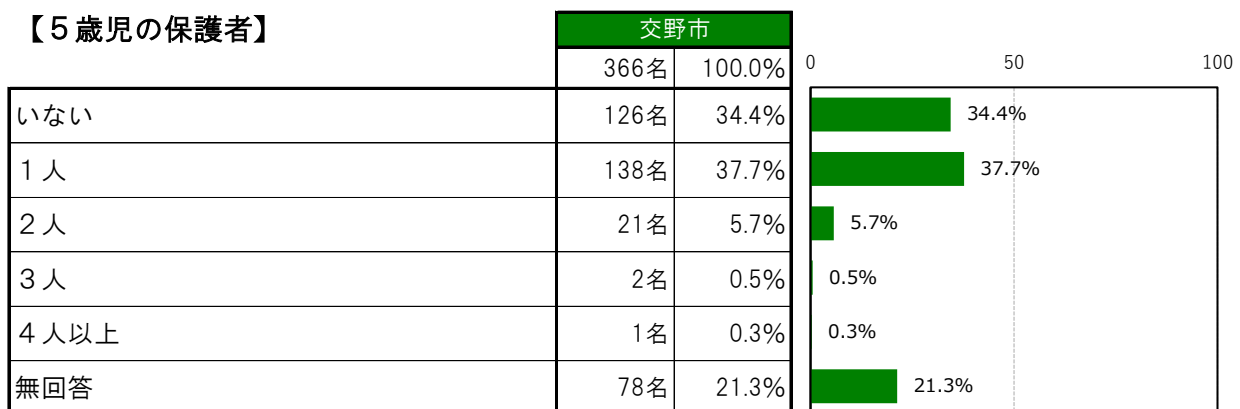
【5歳児の保護者】



問2 世帯構成 ⑥妹・弟

「1人」が37.7%で最も多く、次いで「いない」が34.4%、「2人」が5.7%、「3人」が0.5%、「4人以上」が0.3%となっている。

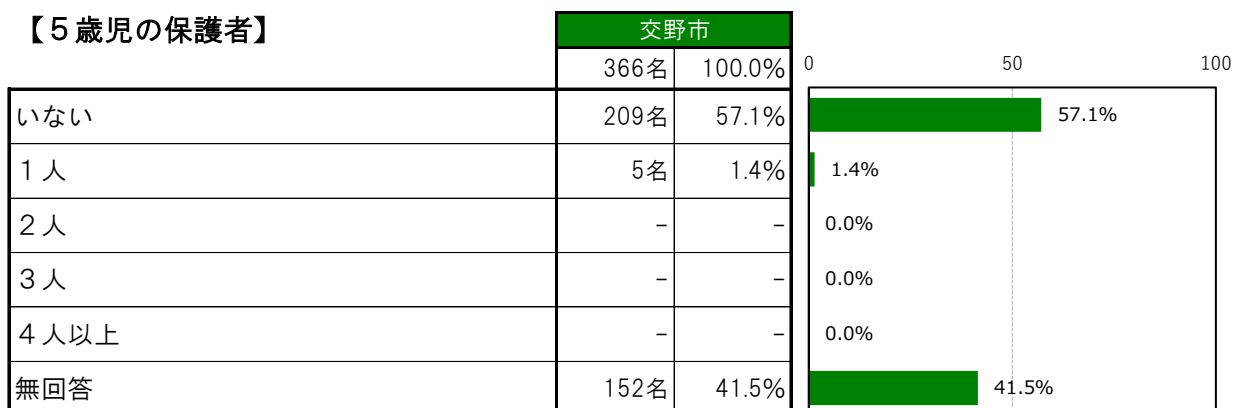
【5歳児の保護者】



問2 世帯構成 ⑦その他

「いない」が57.1%で最も多く、次いで「1人」が1.4%となっている。

【5歳児の保護者】

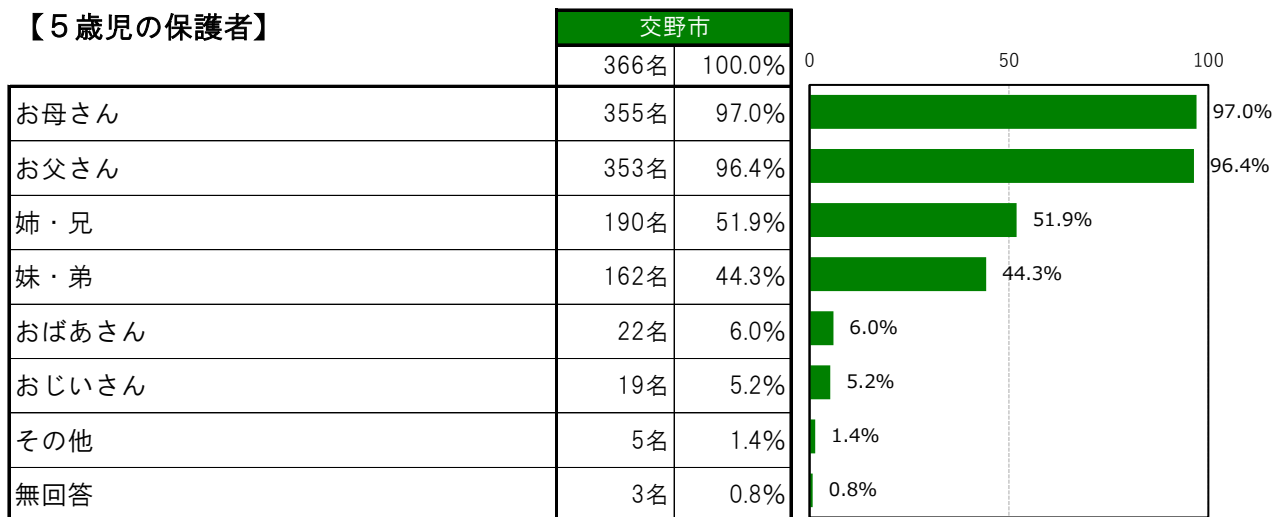


世帯の状況について

問2 世帯構成 <世帯員の続柄>

「お母さん」が97.0%で最も多く、次いで「お父さん」が96.4%、「姉・兄」が51.9%、「妹・弟」が44.3%となっている。

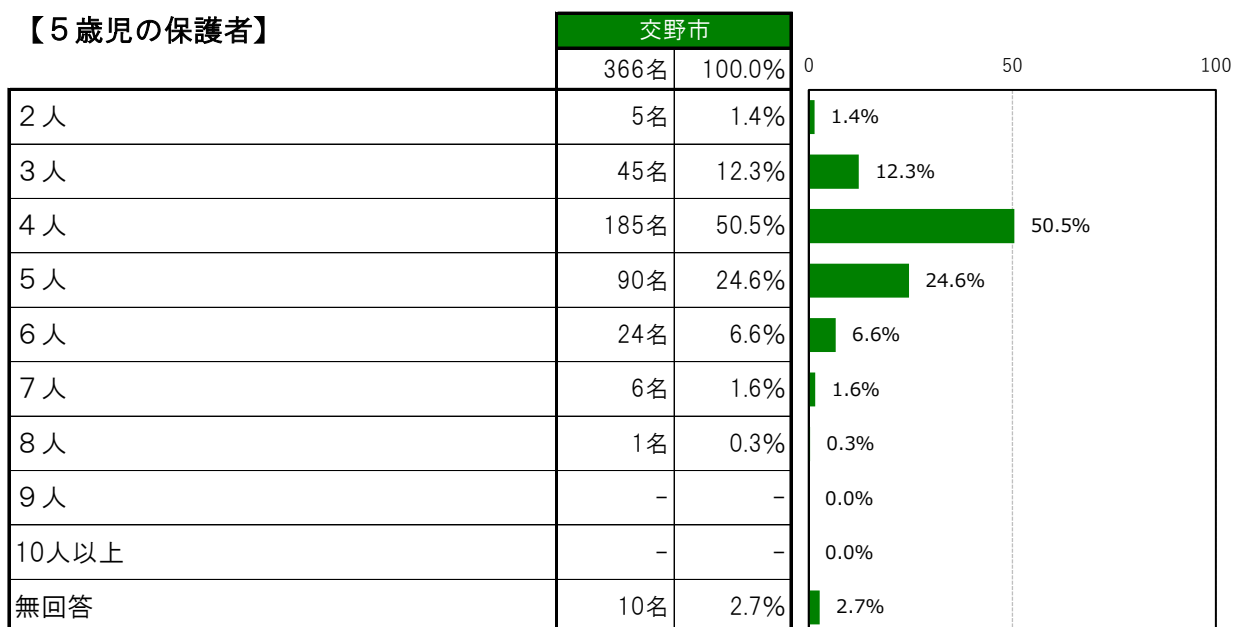
【5歳児の保護者】



問2 世帯構成 ⑧世帯人数

「4人」が50.5%で最も多く、次いで「5人」が24.6%、「3人」が12.3%、「6人」が6.6%となっている。

【5歳児の保護者】

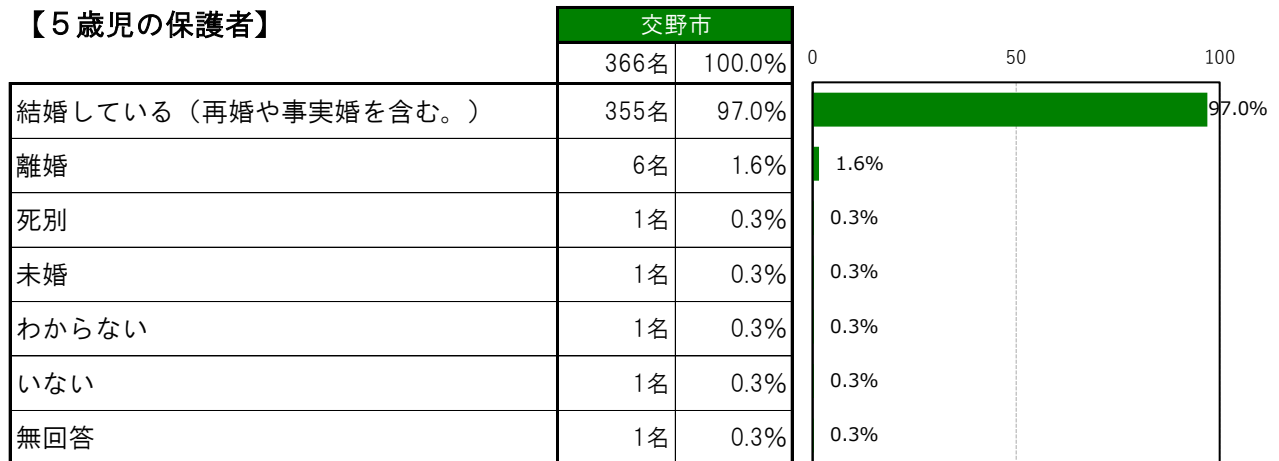


世帯の状況について

問3 親の婚姻状況

「結婚している（再婚や事実婚を含む。）」が97.0%で最も多く、次いで「離婚」が1.6%、「死別」、「未婚」がそれぞれ0.3%となっている。

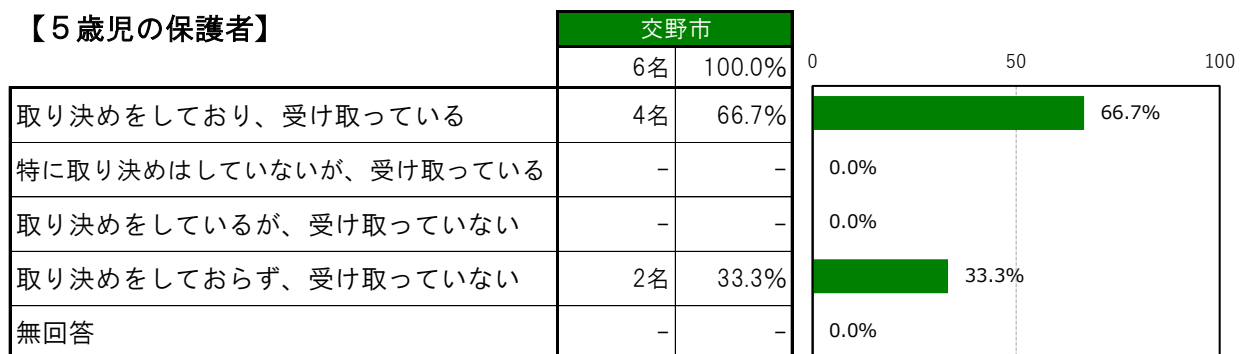
【5歳児の保護者】



問4 離婚相手との養育費の取り決めや受け取り

「取り決めをしており、受け取っている」が66.7%（4名）で最も多く、次いで「取り決めをしておらず、受け取っていない」が33.3%（2名）となっている。

【5歳児の保護者】

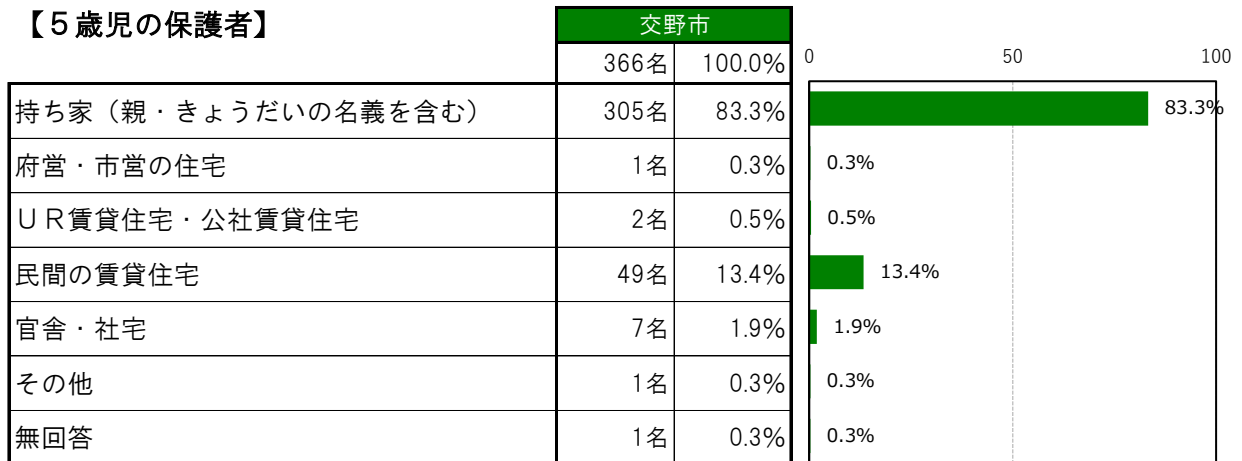


世帯の状況について

問5 住居形態

「持ち家（親・きょうだいの名義を含む）」が83.3%で最も多く、次いで「民間の賃貸住宅」が13.4%、「官舎・社宅」が1.9%となっている。

【5歳児の保護者】

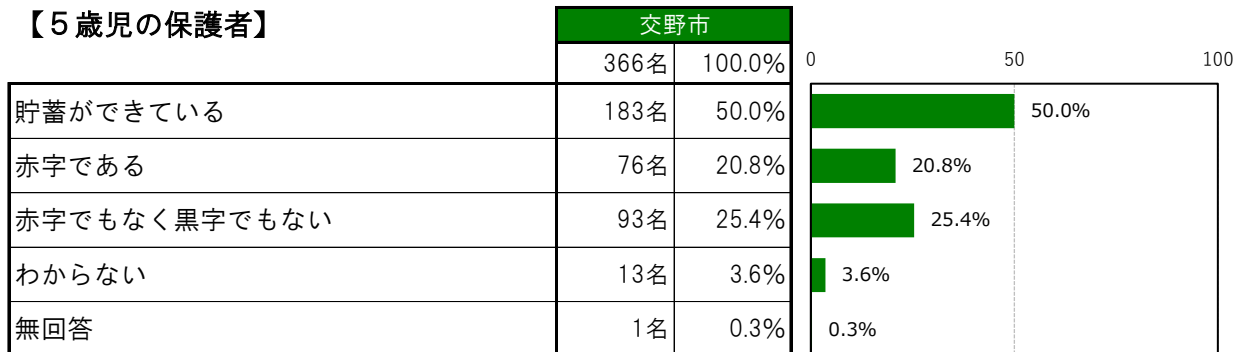


世帯の状況について

問6（1）家計の状況

「貯蓄ができています」が50.0%で最も多く、次いで「赤字でもなく黒字でもない」が25.4%、「赤字である」が20.8%となっている。

【5歳児の保護者】



問6（2）子どもの将来のための貯蓄状況

「貯蓄をしている」が69.1%で最も多く、次いで「貯蓄をしたいが、できていない」が30.3%となっている。

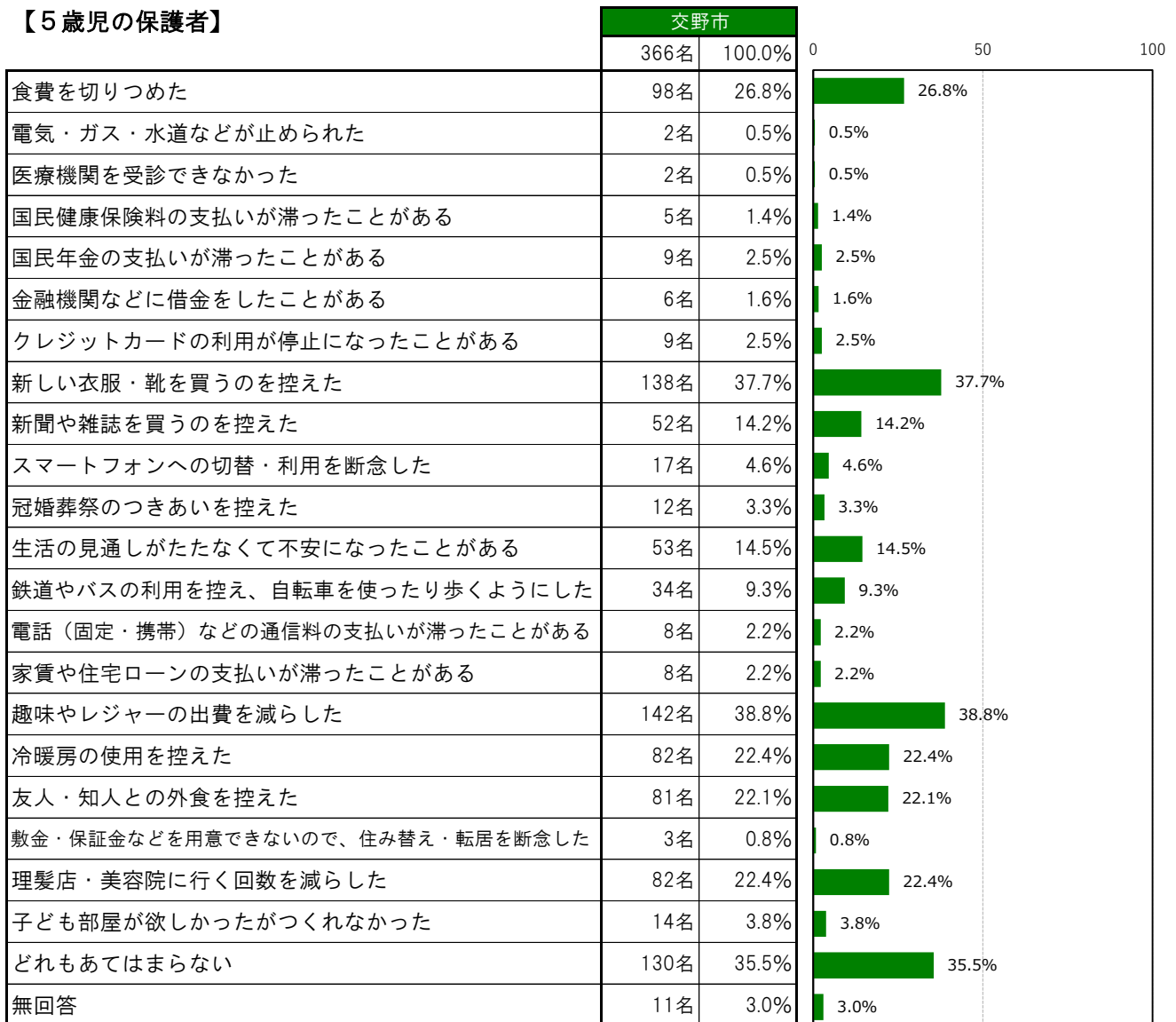
【5歳児の保護者】



世帯の状況について

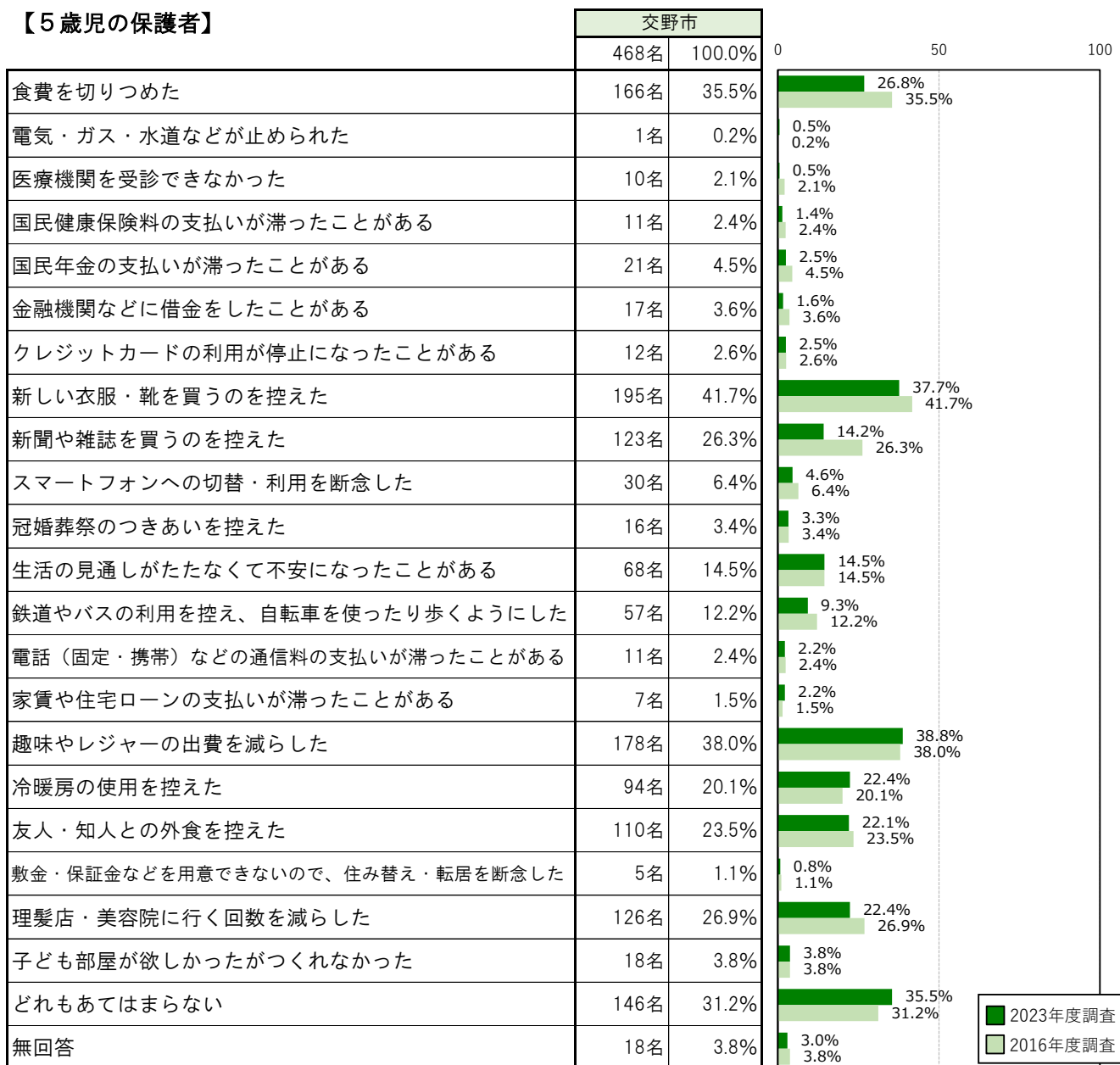
問7 経済的な理由による経験

「趣味やレジャーの出費を減らした」が38.8%で最も多く、次いで「新しい衣服・靴を買うのを控えた」が37.7%、「どれもあてはまらない」が35.5%、「食費を切りつめた」が26.8%となっている。



●2016年度 調査結果〔参考データ〕

2016年度調査と比較すると、「新聞や雑誌を買うのを控えた」は12.1ポイント、「食費を切りつめた」は8.7ポイント、それぞれ低くなっている。

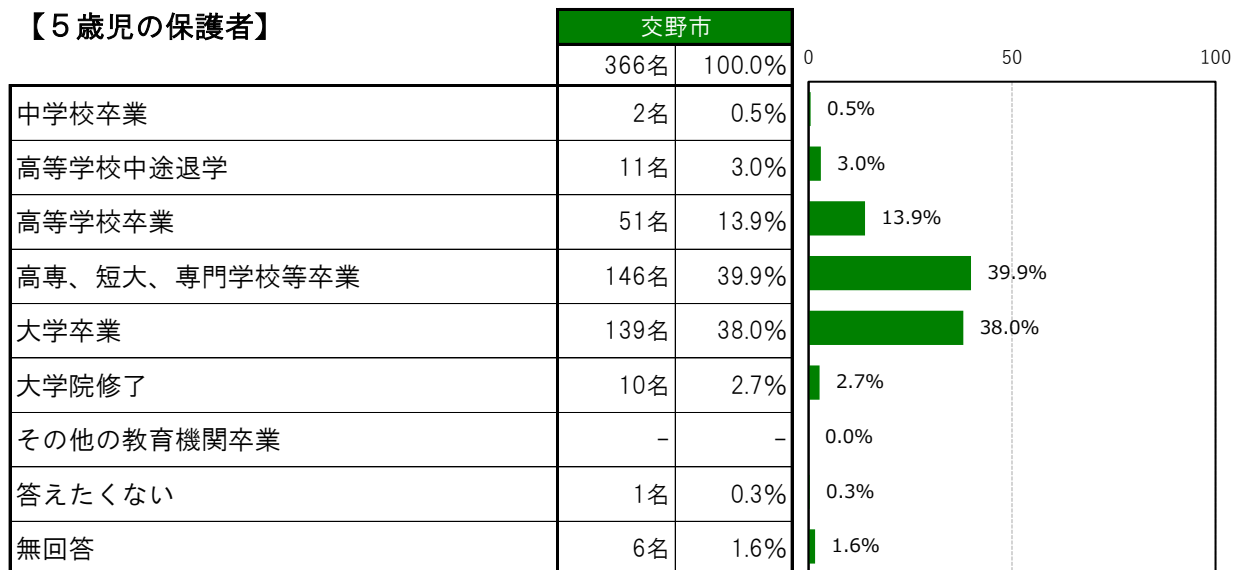


世帯の状況について

問8 お母さんの最終学歴

「高専、短大、専門学校等卒業」が39.9%で最も多く、次いで「大学卒業」が38.0%、「高等学校卒業」が13.9%、「高等学校中途退学」が3.0%となっている。

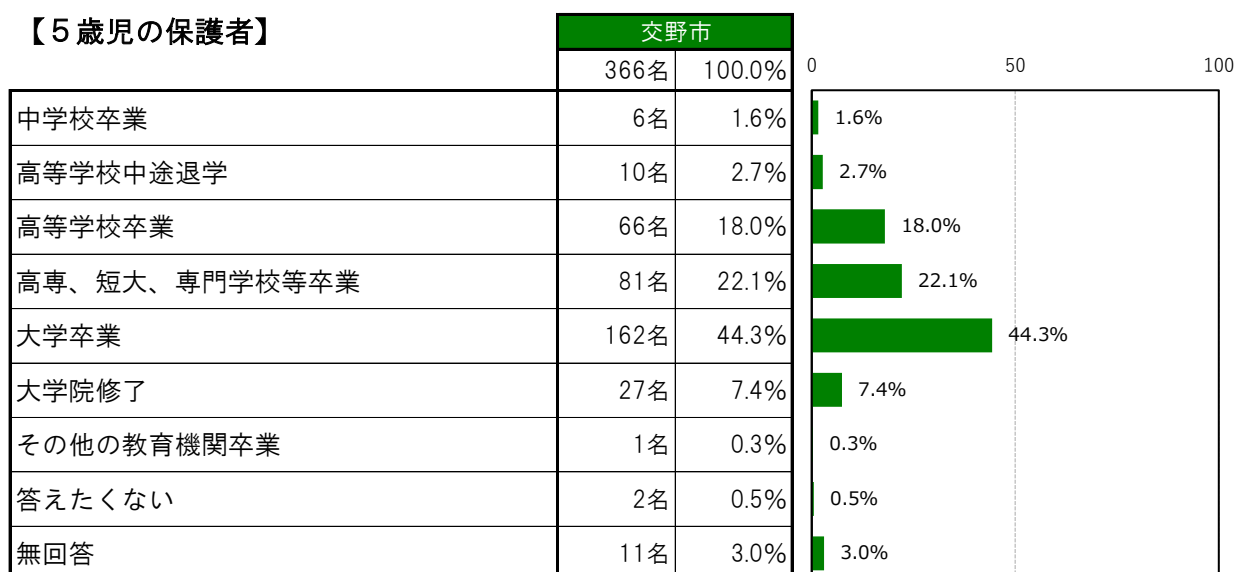
【5歳児の保護者】



問8 お父さんの最終学歴

「大学卒業」が44.3%で最も多く、次いで「高専、短大、専門学校等卒業」が22.1%、「高等学校卒業」が18.0%、「大学院修了」が7.4%となっている。

【5歳児の保護者】



世帯の状況について

問9 お母さんの有無

「いる」が91.0%、「いない」が8.5%となっている。

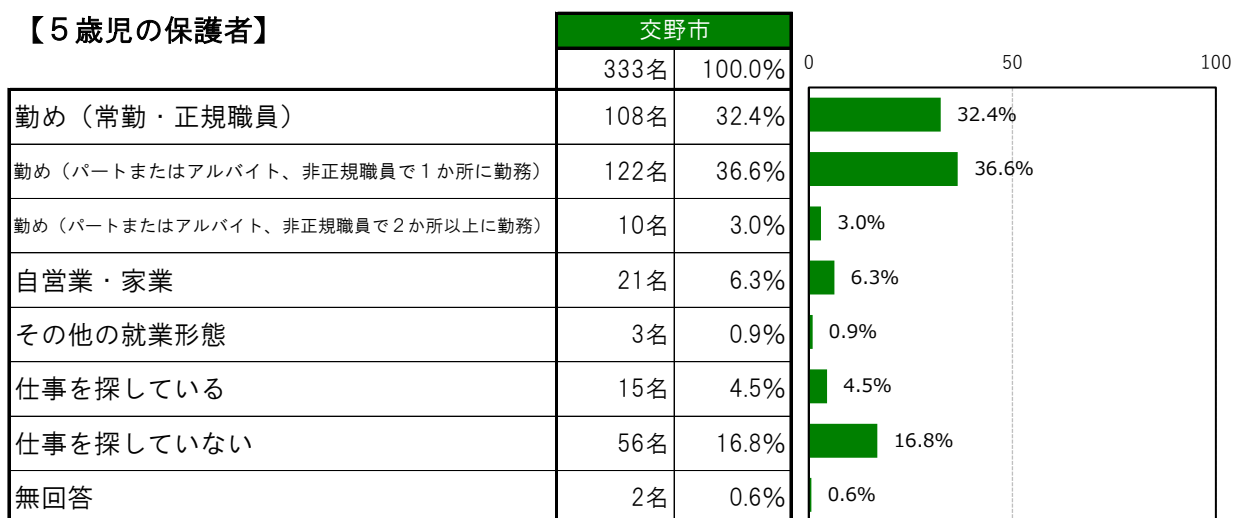
【5歳児の保護者】



問9 お母さんの就業状況

「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が36.6%で最も多く、次いで「勤め（常勤・正規職員）」が32.4%、「仕事を探していない」が16.8%、「自営業・家業」が6.3%となっている。

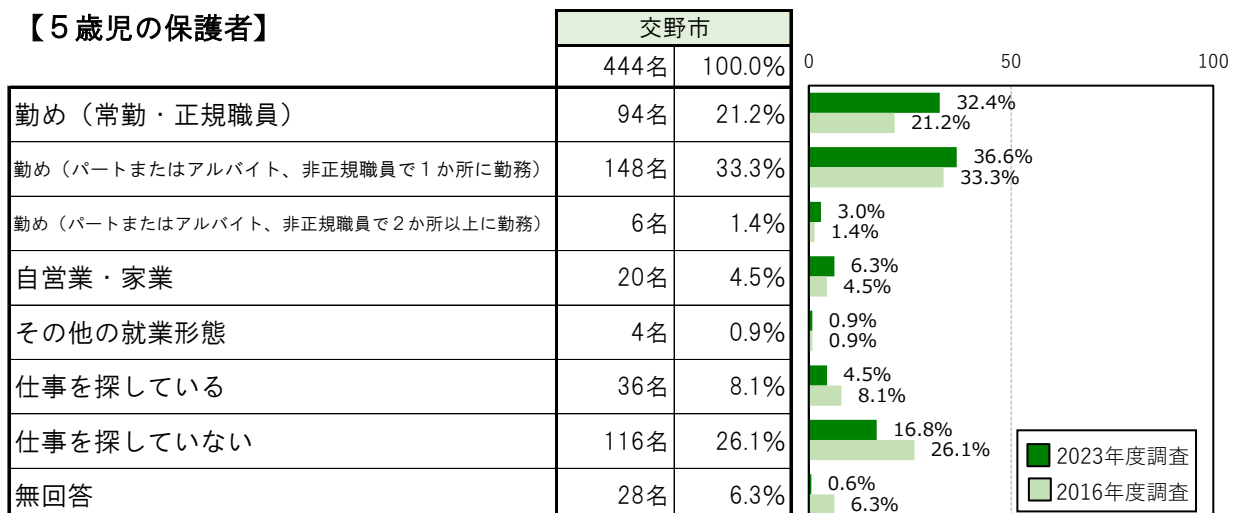
【5歳児の保護者】



●2016年度 調査結果〔参考データ〕

2016年度調査と比較すると、「勤め（常勤・正規職員）」は11.2ポイント高くなっている。

【5歳児の保護者】

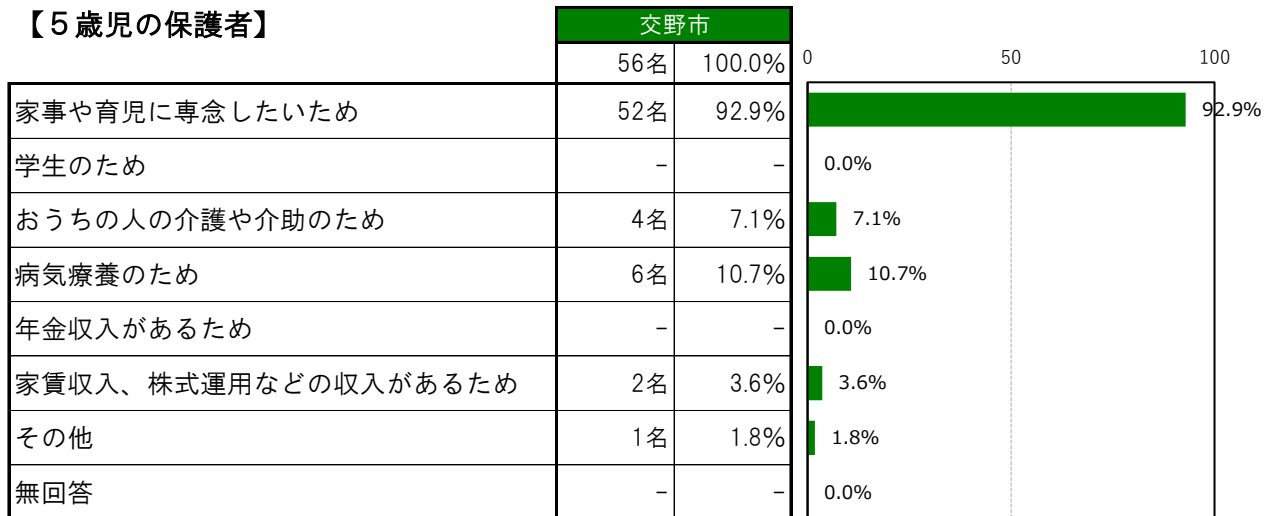


世帯の状況について

問9 お母さんが仕事を探していない理由

「家事や育児に専念したいため」が92.9%で最も多く、次いで「病気療養のため」が10.7%、「おうちの人の介護や介助のため」が7.1%となっている。

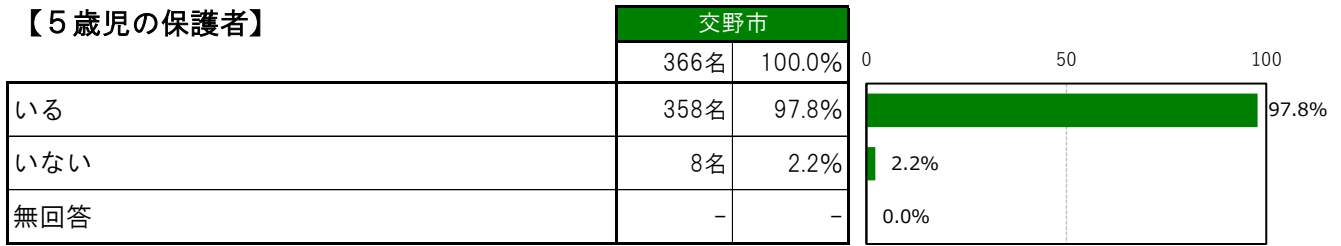
【5歳児の保護者】



世帯の状況について

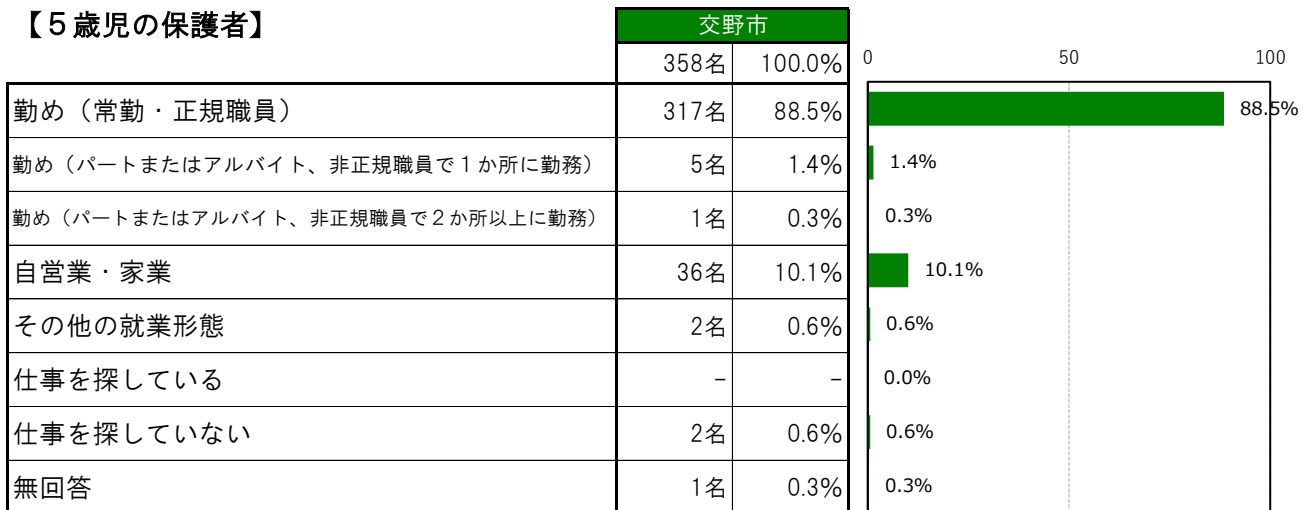
問9 お父さんの有無

「いる」が97.8%、「いない」が2.2%となっている。



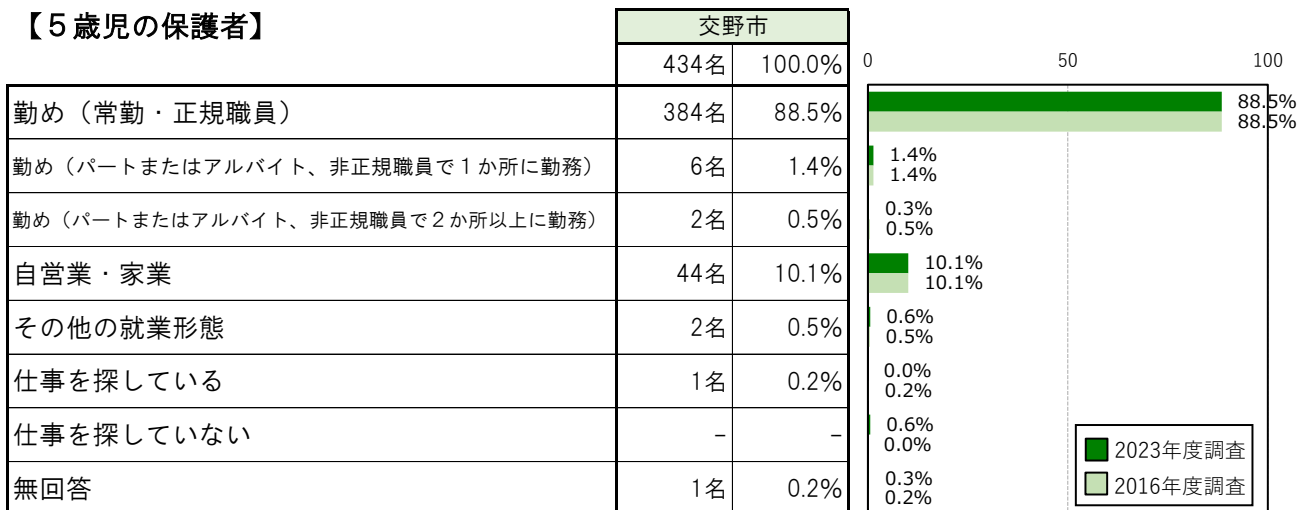
問9 お父さんの就業状況

「勤め（常勤・正規職員）」が88.5%で最も多く、次いで「自営業・家業」が10.1%、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が1.4%となっている。



●2016年度 調査結果〔参考データ〕

2016年度調査と比較しても、大きな差はみられない。



世帯の状況について

問9 お父さんが仕事を探していない理由

「病気療養のため」が50.0%（1名）となっている。

【5歳児の保護者】

	交野市			
	2名	100.0%		
家事や育児に専念したいため	-	-	0.0%	50.0%
学生のため	-	-	0.0%	
おうちの人の介護や介助のため	-	-	0.0%	
病気療養のため	1名	50.0%		
年金収入があるため	-	-	0.0%	
家賃収入、株式運用などの収入があるため	-	-	0.0%	
その他	1名	50.0%		
無回答	-	-	0.0%	

世帯の状況について

問9 親以外に主として家計を支えている人の有無

「いる」が3.3%、「いない」が92.6%となっている。

【5歳児の保護者】

	交野市			
	366名	100.0%		
いる	12名	3.3%	3.3%	
いない	339名	92.6%	92.6%	
無回答	15名	4.1%	4.1%	

問9 親以外に主として家計を支えている人の就業状況

「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」と「仕事を探していない」がそれぞれ33.3%（4名）で最も多く、次いで「自営業・家業」が25.0%（3名）となっている。

【5歳児の保護者】

	交野市			
	12名	100.0%		
勤め（常勤・正規職員）	1名	8.3%	8.3%	
勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）	4名	33.3%	33.3%	
勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で2か所以上に勤務）	-	-	0.0%	
自営業・家業	3名	25.0%	25.0%	
その他の就業形態	1名	8.3%	8.3%	
仕事を探している	-	-	0.0%	
仕事を探していない	4名	33.3%	33.3%	
無回答	-	-	0.0%	

●2016年度 調査結果〔参考データ〕

2016年度調査と比較すると、母数が少ないため一概には言えないが、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」は17.5ポイント高くなっている。

【5歳児の保護者】

	交野市				
	19名	100.0%			
勤め（常勤・正規職員）	3名	15.8%	8.3%	15.8%	
勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）	3名	15.8%	33.3%	15.8%	
勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で2か所以上に勤務）	1名	5.3%	0.0%	5.3%	
自営業・家業	3名	15.8%	25.0%	15.8%	
その他の就業形態	-	-	8.3%	0.0%	
仕事を探している	-	-	0.0%	0.0%	
仕事を探していない	8名	42.1%	33.3%	42.1%	
無回答	2名	10.5%	0.0%	10.5%	

世帯の状況について

問9 親以外に主として家計を支えている人が仕事を探していない理由

「年金収入があるため」が100.0%（4名）となっている。

【5歳児の保護者】

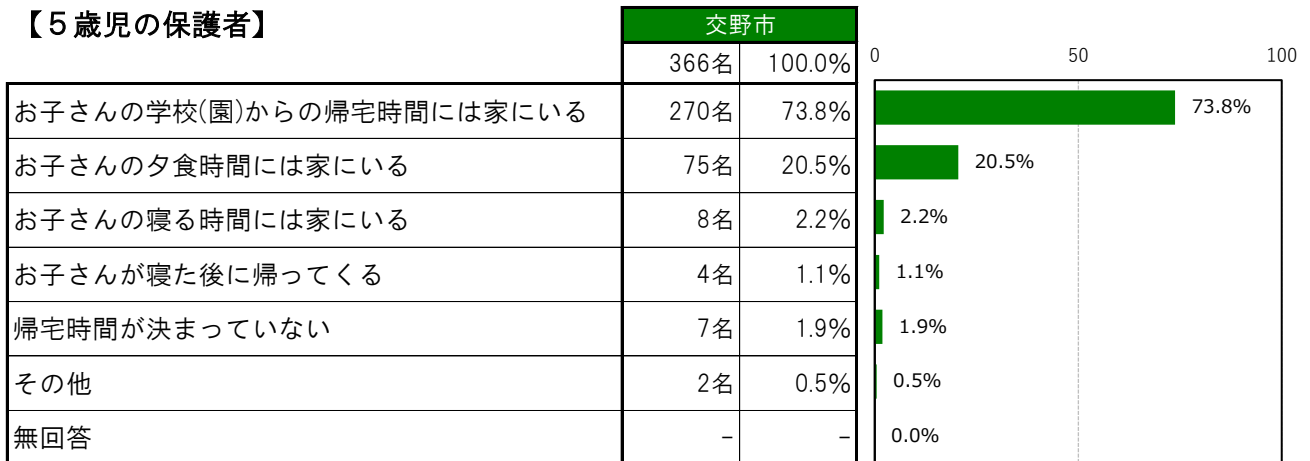
	交野市		0	50	100
	4名	100.0%			
家事や育児に専念したいため	-	-	0.0%		
学生のため	-	-	0.0%		
おうちの人の介護や介助のため	-	-	0.0%		
病気療養のため	-	-	0.0%		
年金収入があるため	4名	100.0%			100.0%
家賃収入、株式運用などの収入があるため	-	-	0.0%		
その他	-	-	0.0%		
無回答	-	-	0.0%		

世帯の状況について

問10 保護者が家にいる時間帯

「お子さんの学校（園）からの帰宅時間には家にいる」が73.8%で最も多く、次いで「お子さんの夕食時間には家にいる」が20.5%、「お子さんの寝る時間には家にいる」が2.2%となっている。

【5歳児の保護者】



世帯の状況について

問11 日本語以外の言語の使用状況

「日本語のみを使用している」が97.3%で最も多く、次いで「日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い」が2.7%となっている。

【5歳児の保護者】

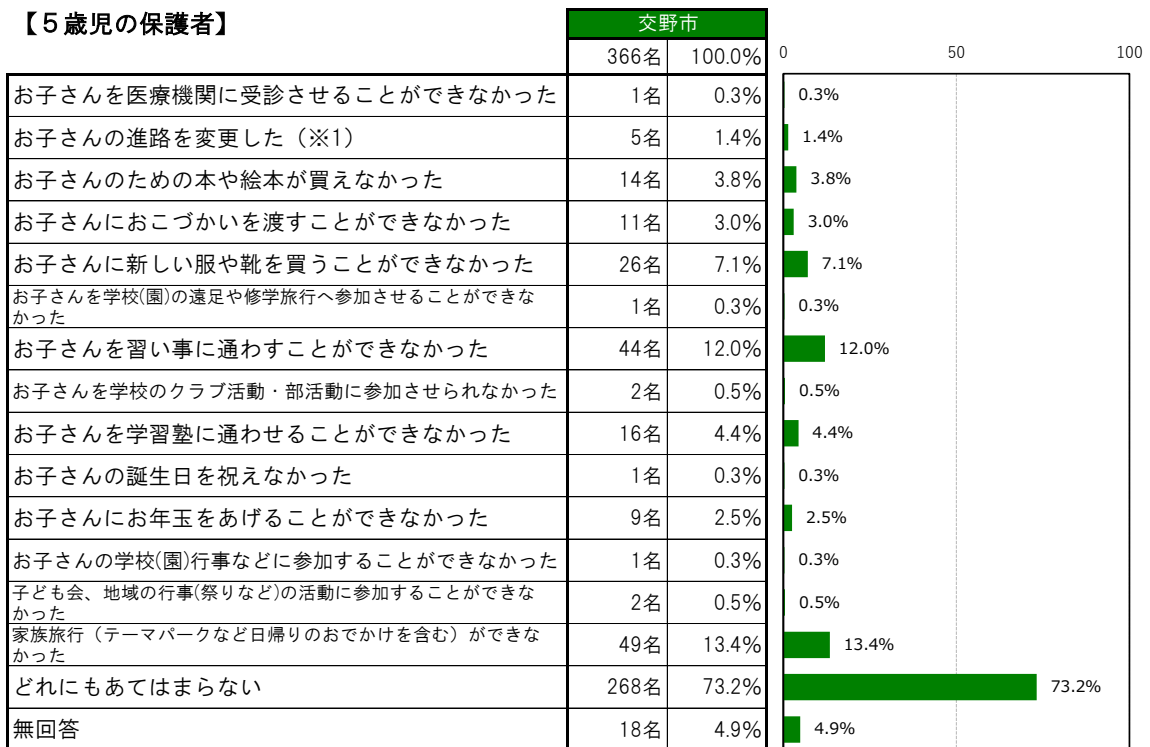


子どもに関することについて

問12 経済的な理由による子どもに関する経験

「どれにもあてはまらない」が73.2%で最も多く、次いで「家族旅行（テーマパークなど日帰りのおでかけを含む）ができなかった」が13.4%、「お子さんを習い事に通わすことができなかった」が12.0%、「お子さんに新しい服や靴を買うことができなかった」が7.1%となっている。

【5歳児の保護者】

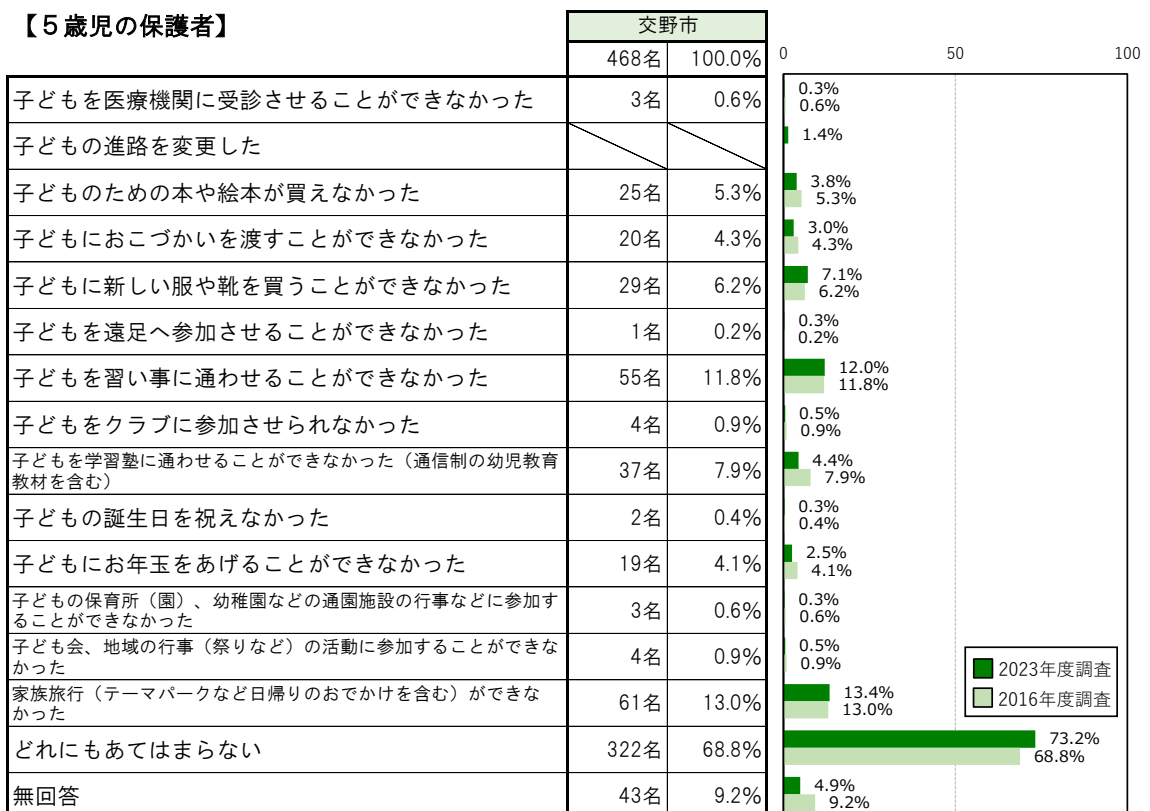


※2016年度調査では、「子どもの進路を変更した」はなかった。

●2016年度 調査結果【参考データ】

2016年度調査と比較すると、「子どもを学習塾に通わせることができなかった」は3.5ポイント低くなっている。

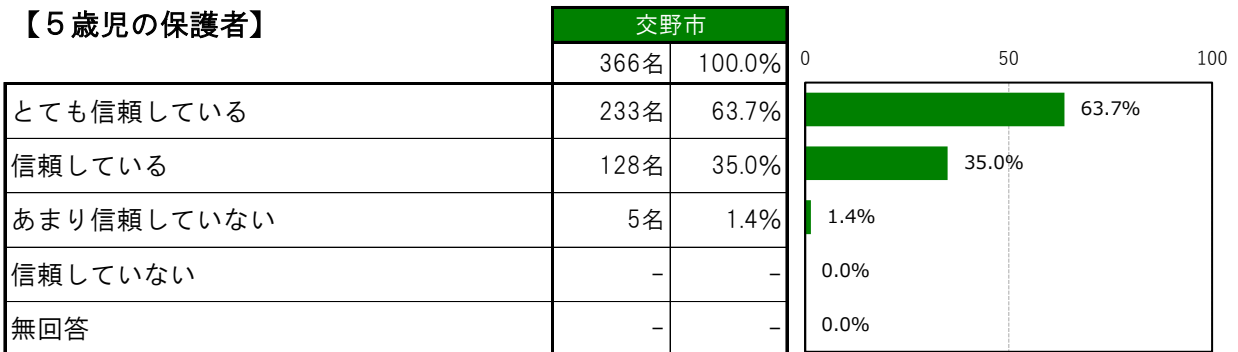
【5歳児の保護者】



子どもに関することについて

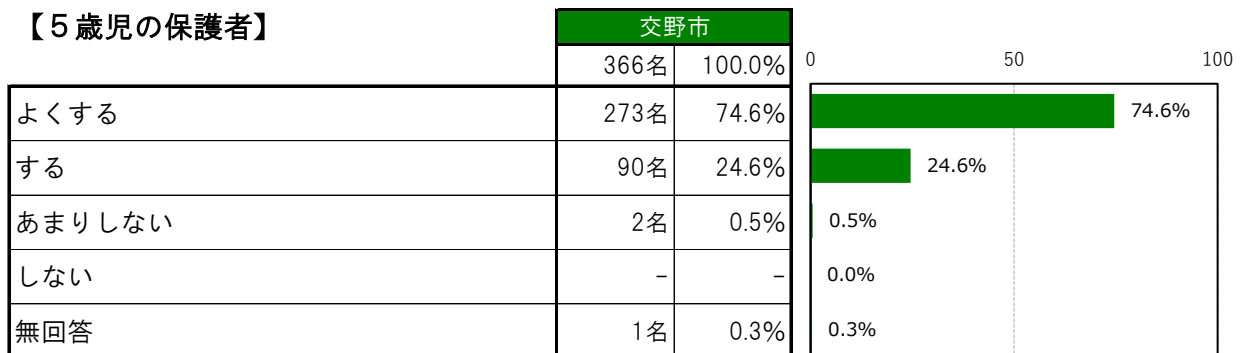
問13（１）子どもへの信頼度

「とても信頼している」が63.7%で最も多く、次いで「信頼している」が35.0%、「あまり信頼していない」が1.4%となっている。



問13（２）子どもとの会話頻度

「よくする」が74.6%で最も多く、次いで「する」が24.6%、「あまりしない」が0.5%となっている。

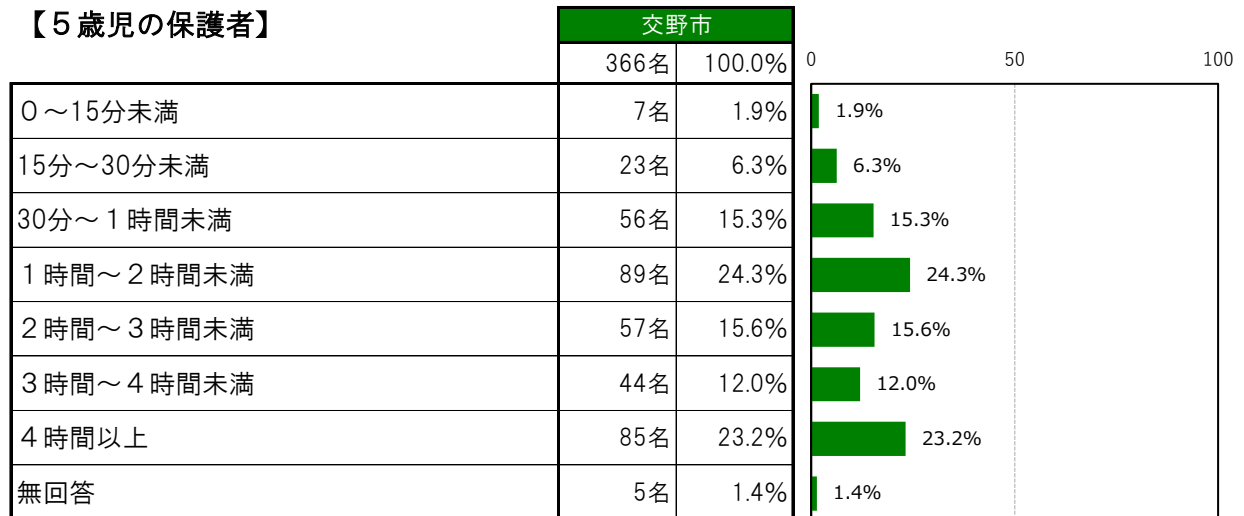


子どもに関することについて

問13（3）平日での子どもとの関わり時間

「1時間～2時間未満」が24.3%で最も多く、次いで「4時間以上」が23.2%、「2時間～3時間未満」が15.6%、「30分～1時間未満」が15.3%となっている。

【5歳児の保護者】

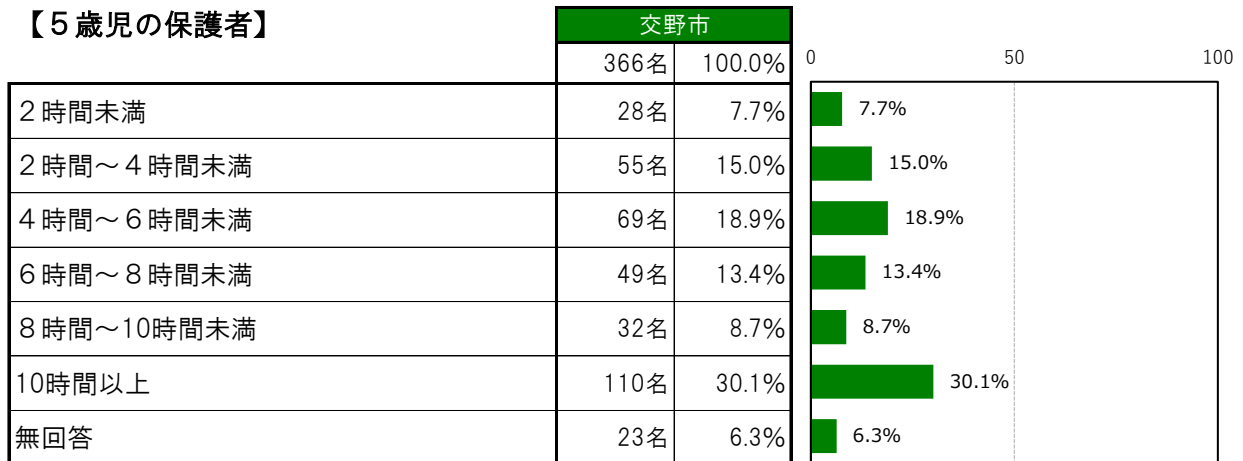


子どもに関することについて

問13（3）休日での子どもとの関わり時間

「10時間以上」が30.1%で最も多く、次いで「4時間～6時間未満」が18.9%、「2時間～4時間未満」が15.0%、「6時間～8時間未満」が13.4%となっている。

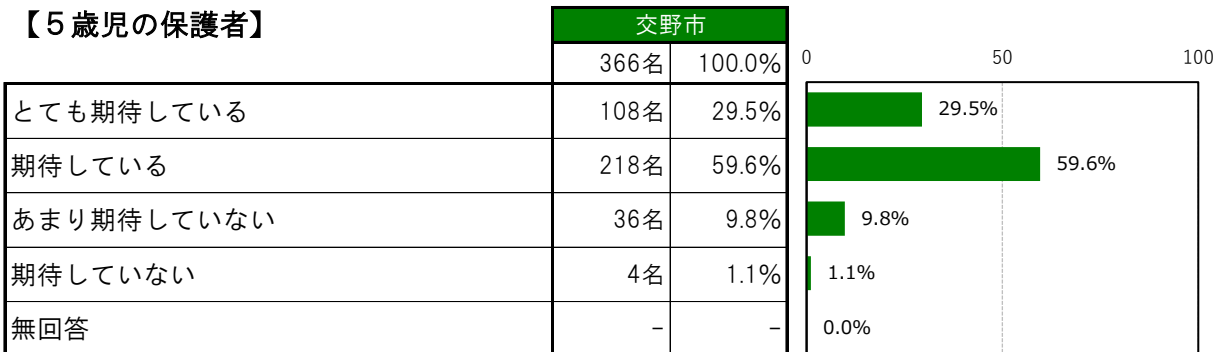
【5歳児の保護者】



子どもに関することについて

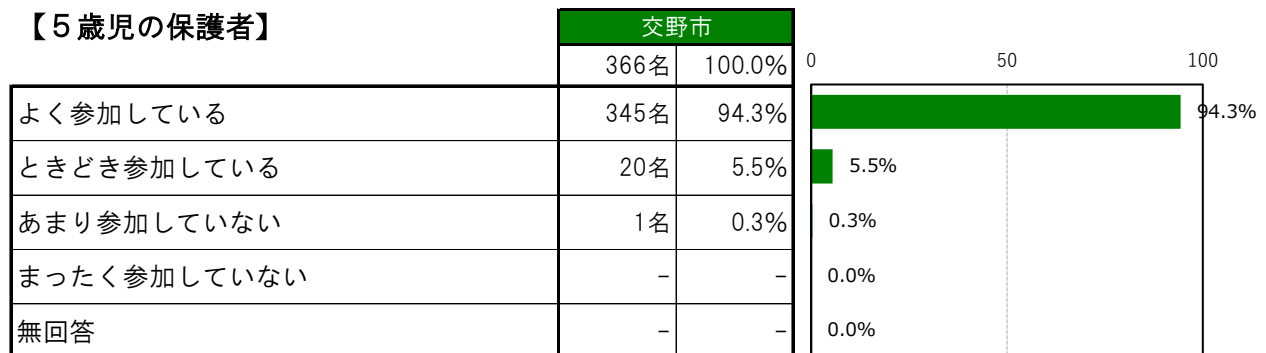
問13（４）子どもの将来への期待度

「期待している」が59.6%で最も多く、次いで「とても期待している」が29.5%、「あまり期待していない」が9.8%、「期待していない」が1.1%となっている。



問13（５）子どもの授業参観や運動会などの学校(園)行事への参加状況

「よく参加している」が94.3%で最も多く、次いで「ときどき参加している」が5.5%、「あまり参加していない」が0.3%となっている。

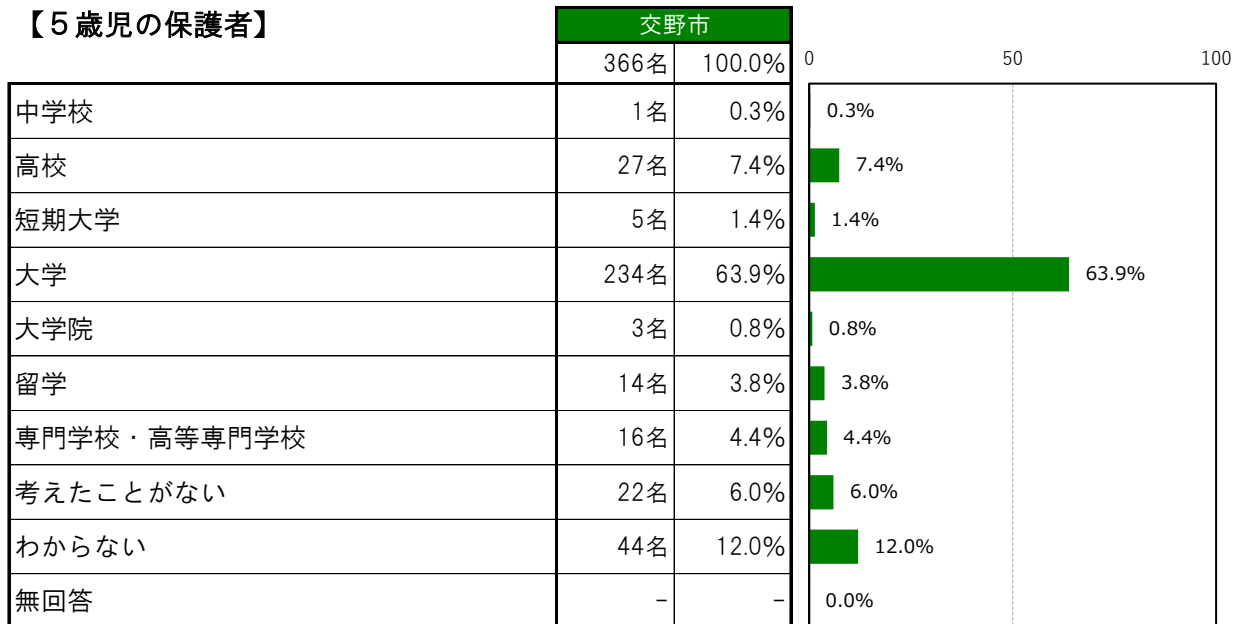


子どもに関することについて

問14 子どもに希望する進学

「大学」が63.9%で最も多く、次いで「高校」が7.4%、「考えたことがない」が6.0%、「専門学校・高等専門学校」が4.4%となっている。

【5歳児の保護者】

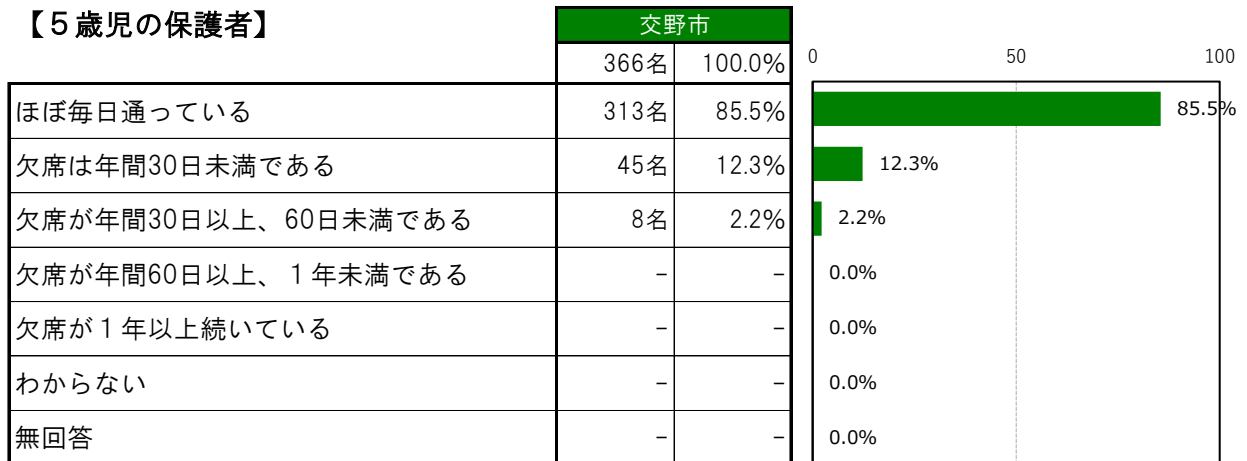


子どもに関することについて

問15 子どもの通園状況

「ほぼ毎日通っている」が85.5%で最も多く、次いで「欠席は年間30日未満である」が12.3%、「欠席が年間30日以上、60日未満である」が2.2%となっている。

【5歳児の保護者】

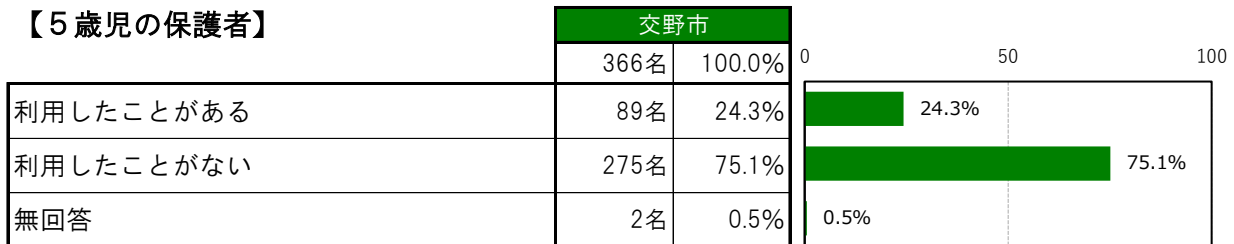


子どもに関することについて

問16（１）子どもの居場所の利用経験

「利用したことがある」が24.3%、「利用したことがない」が75.1%となっている。

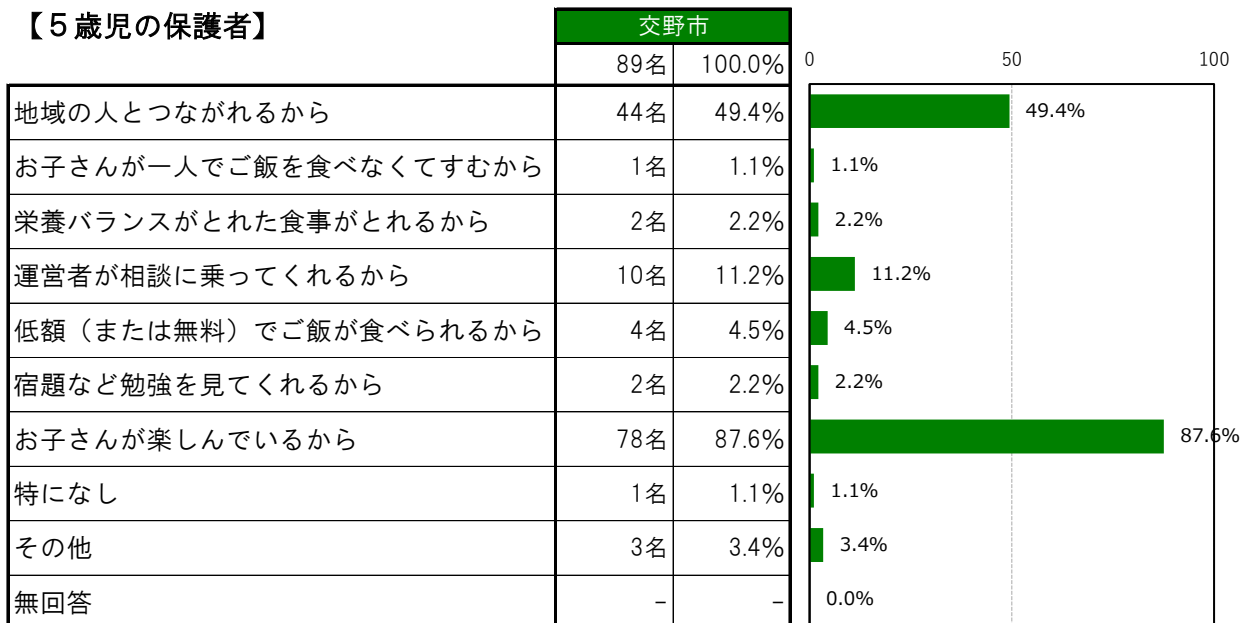
【５歳児の保護者】



問16（２）子どもの居場所を利用することで良いと思うこと

「お子さんが楽しんでいるから」が87.6%で最も多く、次いで「地域の人とつながれるから」が49.4%、「運営者が相談に乗ってくれるから」が11.2%、「低額（または無料）でご飯が食べられるから」が4.5%となっている。

【５歳児の保護者】

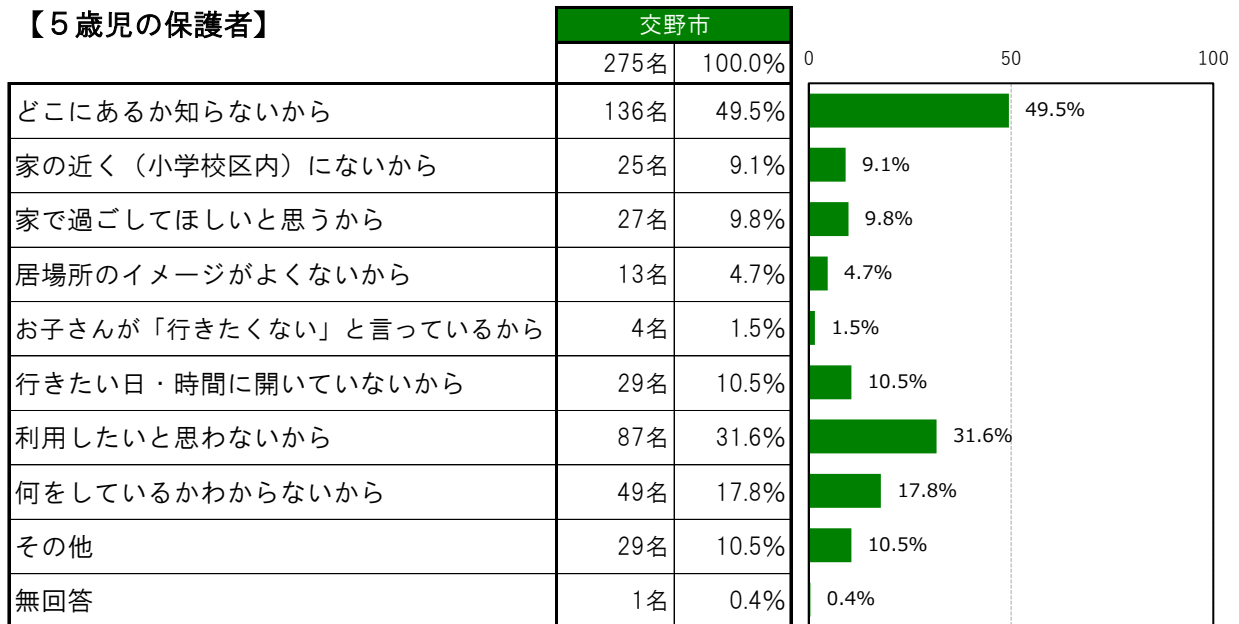


子どもに関することについて

問16（3）子どもの居場所を利用しない理由

「どこにあるか知らないから」が49.5%で最も多く、次いで「利用したいと思わないから」が31.6%、「何をしているかわからないから」が17.8%、「行きたい日・時間に開いていないから」が10.5%となっている。

【5歳児の保護者】

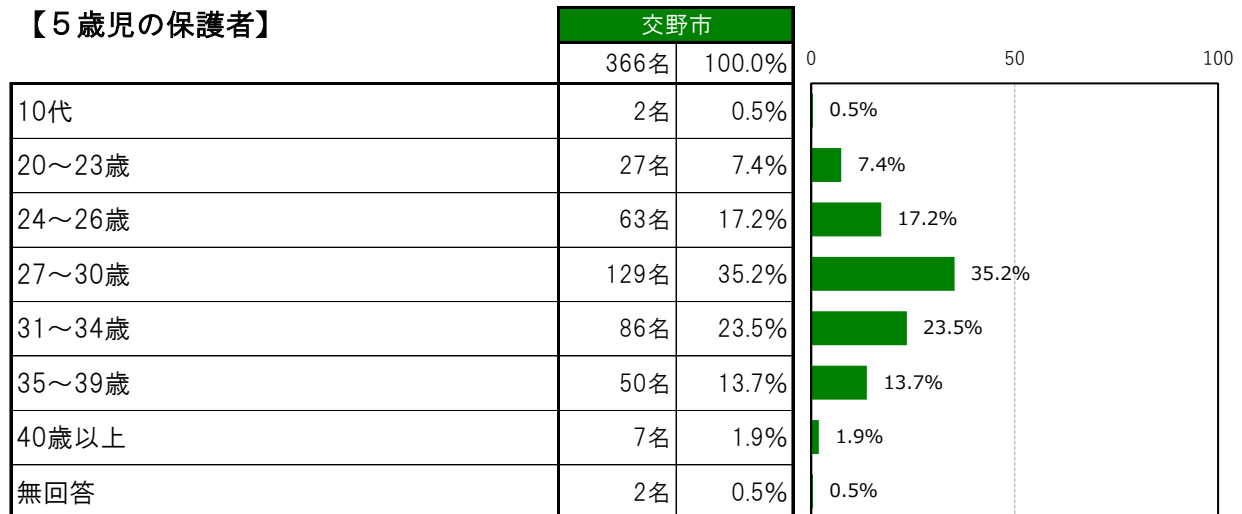


保護者のことについて

問17 初めて親となった年齢

「27～30歳」が35.2%で最も多く、次いで「31～34歳」が23.5%、「24～26歳」が17.2%、「35～39歳」が13.7%となっている。

【5歳児の保護者】



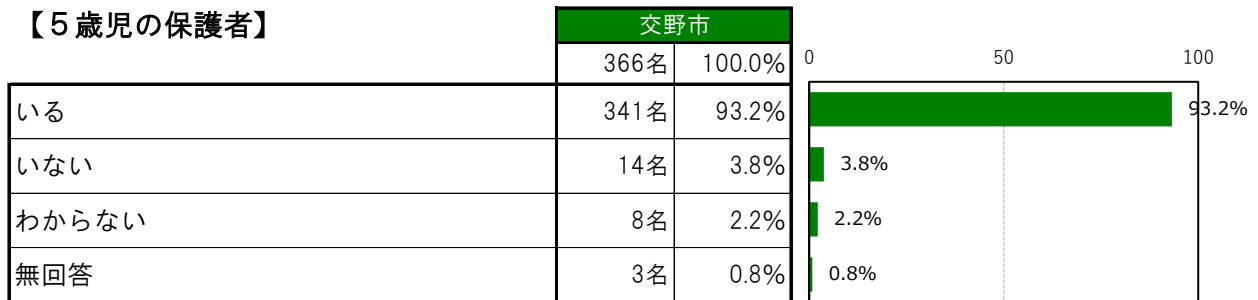
保護者のことについて

問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

①心配ごとや悩みごとを親身になって聞いてくれる人

「いる」が93.2%、「いない」が3.8%となっている。

【5歳児の保護者】

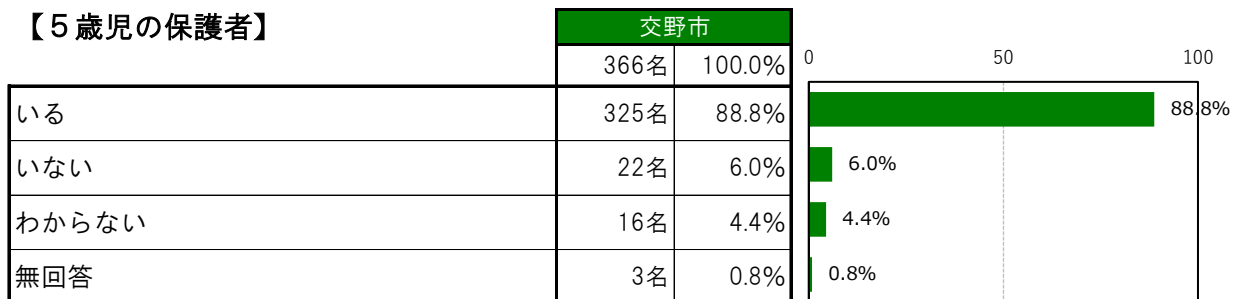


問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

②気持ちを察して思いやってくれる人

「いる」が88.8%、「いない」が6.0%となっている。

【5歳児の保護者】



問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

③趣味や興味のあることを一緒に話して、気分転換させてくれる人

「いる」が82.5%、「いない」が11.5%となっている。

【5歳児の保護者】



保護者のことについて

問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

④子どもとの関わりについて、適切な助言をしてくれる人

「いる」が82.0%、「いない」が6.6%となっている。

【5歳児の保護者】



問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

⑤子どもの学びや遊びをゆたかにする情報を教えてくれる人（運動や文化活動）

「いる」が71.3%、「いない」が13.1%となっている。

【5歳児の保護者】



問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

⑥子どもの体調が悪いとき、医療機関に連れて行ってくれる人

「いる」が76.0%、「いない」が20.8%となっている。

【5歳児の保護者】



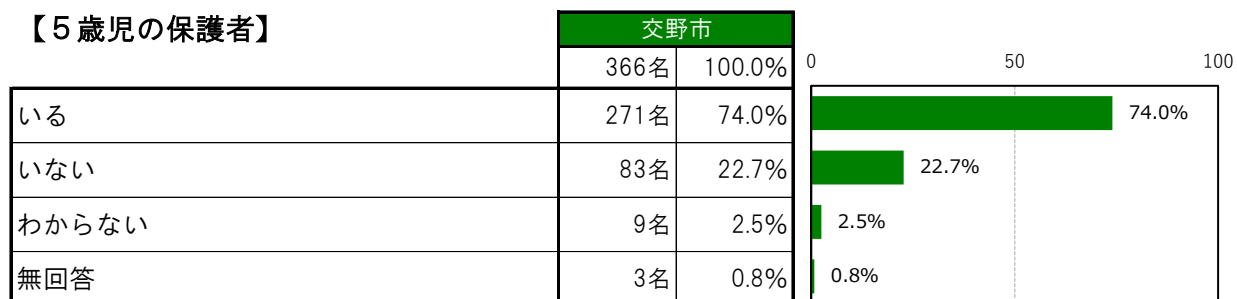
保護者のことについて

問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

⑦留守を頼める人

「いる」が74.0%、「いない」が22.7%となっている。

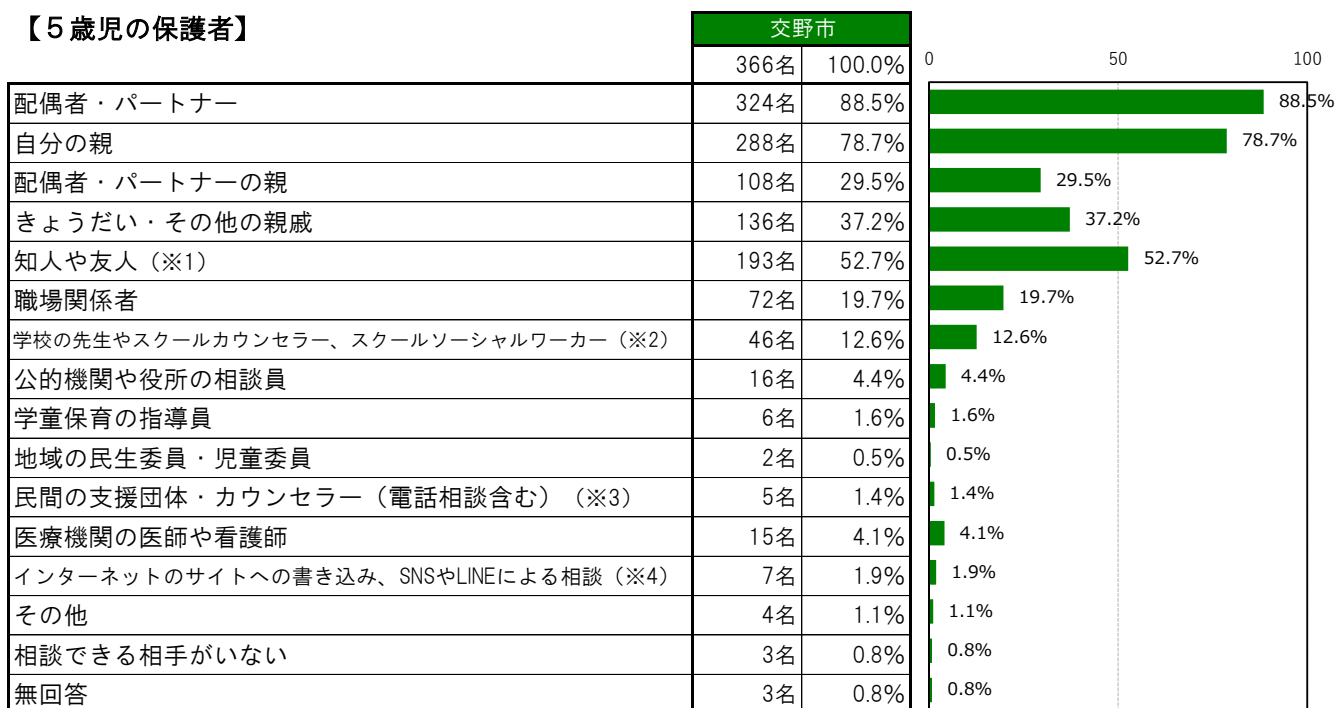
【5歳児の保護者】



保護者のことについて

問19 本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先

「配偶者・パートナー」が88.5%で最も多く、次いで「自分の親」が78.7%、「知人や友人」が52.7%、「きょうだい・その他の親戚」が37.2%となっている。



※1 2016年度調査の「近隣に住む知人や友人」と「近隣に住んでいない知人や友人」を「知人や友人」に変更

※2 2016年度調査では「学校の先生やスクールカウンセラー」

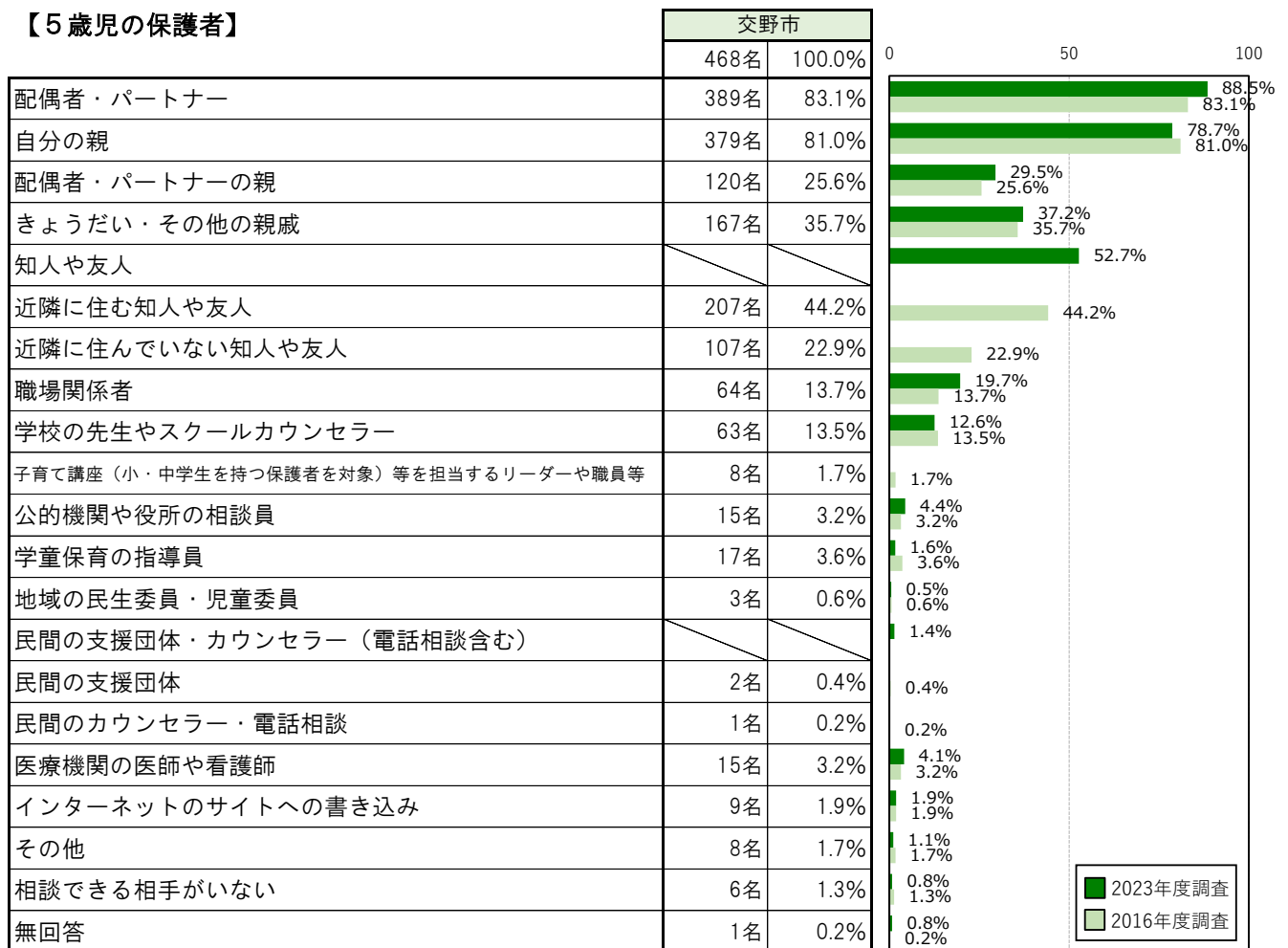
※3 2016年度調査の「民間の支援団体」と「民間のカウンセラー・電話相談」を「民間の支援団体・カウンセラー（電話相談含む）」に変更

※4 2016年度調査では「インターネットのサイトへの書き込み」

●2016年度 調査結果【参考データ】

2016年度調査と比較すると、「知人や友人」（2016年度調査は「近隣に住む知人や友人」と「近隣に住んでいない知人や友人」をあわせた割合）は14.4ポイント低くなっている。

【5歳児の保護者】

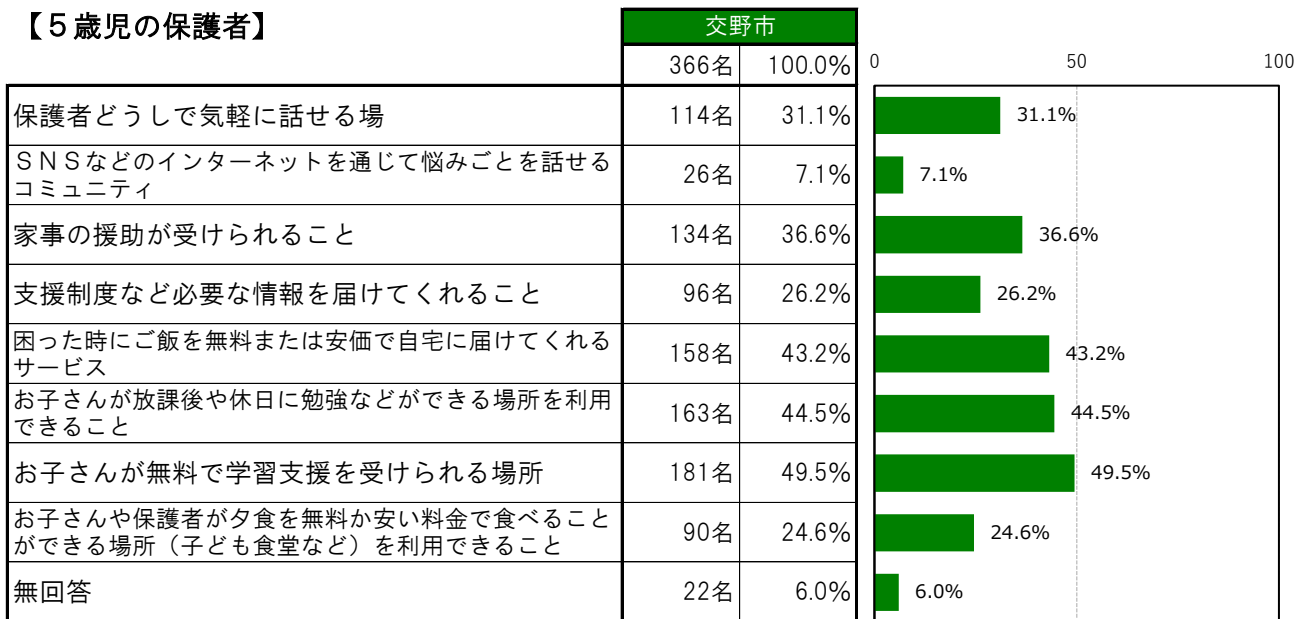


保護者のことについて

問20 身近にあると思うこと

「お子さんが無料で学習支援を受けられる場所」が49.5%で最も多く、次いで「お子さんが放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること」が44.5%、「困った時にご飯を無料または安価で自宅に届けてくれるサービス」が43.2%、「家事の援助を受けられること」が36.6%となっている。

【5歳児の保護者】

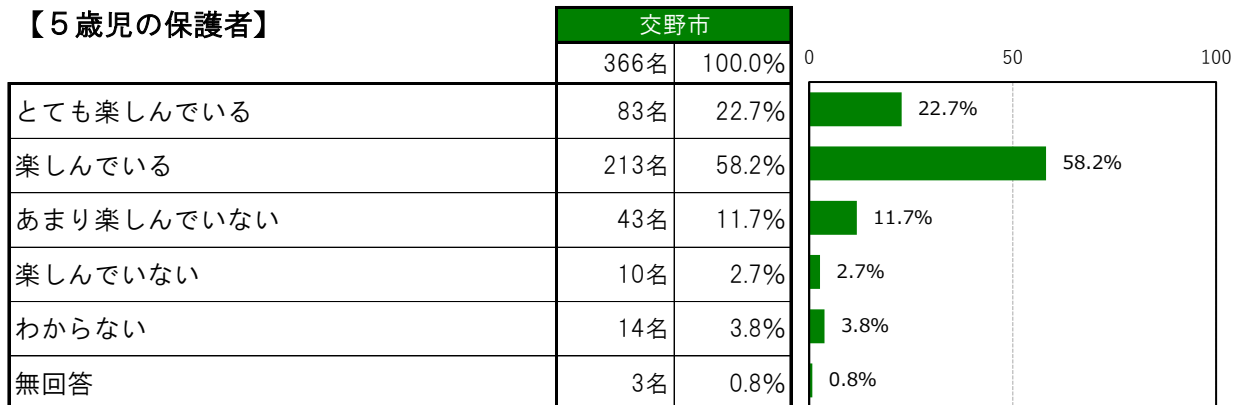


保護者のことについて

問21（１）生活を楽しんでいるか

「楽しんでいる」が58.2%で最も多く、次いで「とても楽しんでいる」が22.7%、「あまり楽しんでいない」が11.7%、「楽しんでいない」が2.7%となっている。

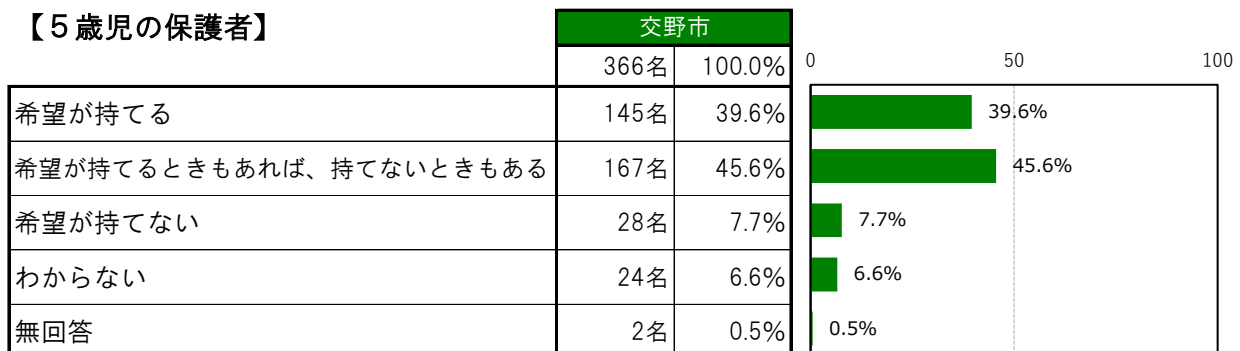
【５歳児の保護者】



問21（２）将来に対して希望を持っているか

「希望が持てる」ときもあれば、持てないときもある」が45.6%で最も多く、次いで「希望が持てる」が39.6%、「希望が持てない」が7.7%となっている。

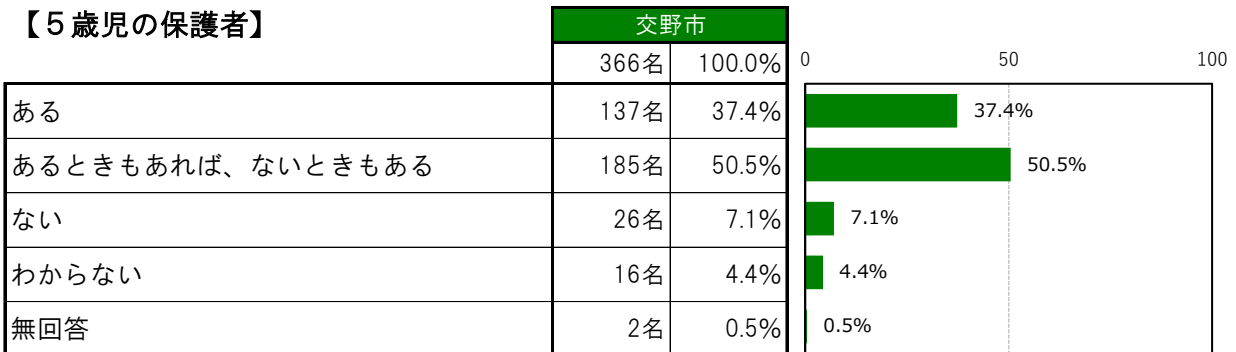
【５歳児の保護者】



保護者のことについて

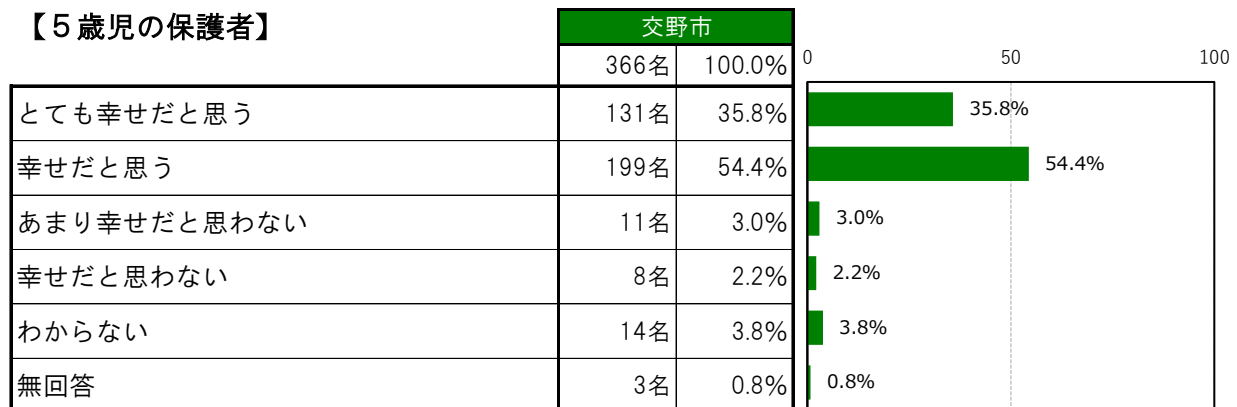
問21（3）ストレスを発散できるものがあるか

「あるときもあれば、ないときもある」が50.5%で最も多く、次いで「ある」が37.4%、「ない」が7.1%となっている。



問21（4）自分が幸せだと思うか

「幸せだと思う」が54.4%で最も多く、次いで「とても幸せだと思う」が35.8%、「あまり幸せだと思わない」が3.0%、「幸せだと思わない」が2.2%となっている。

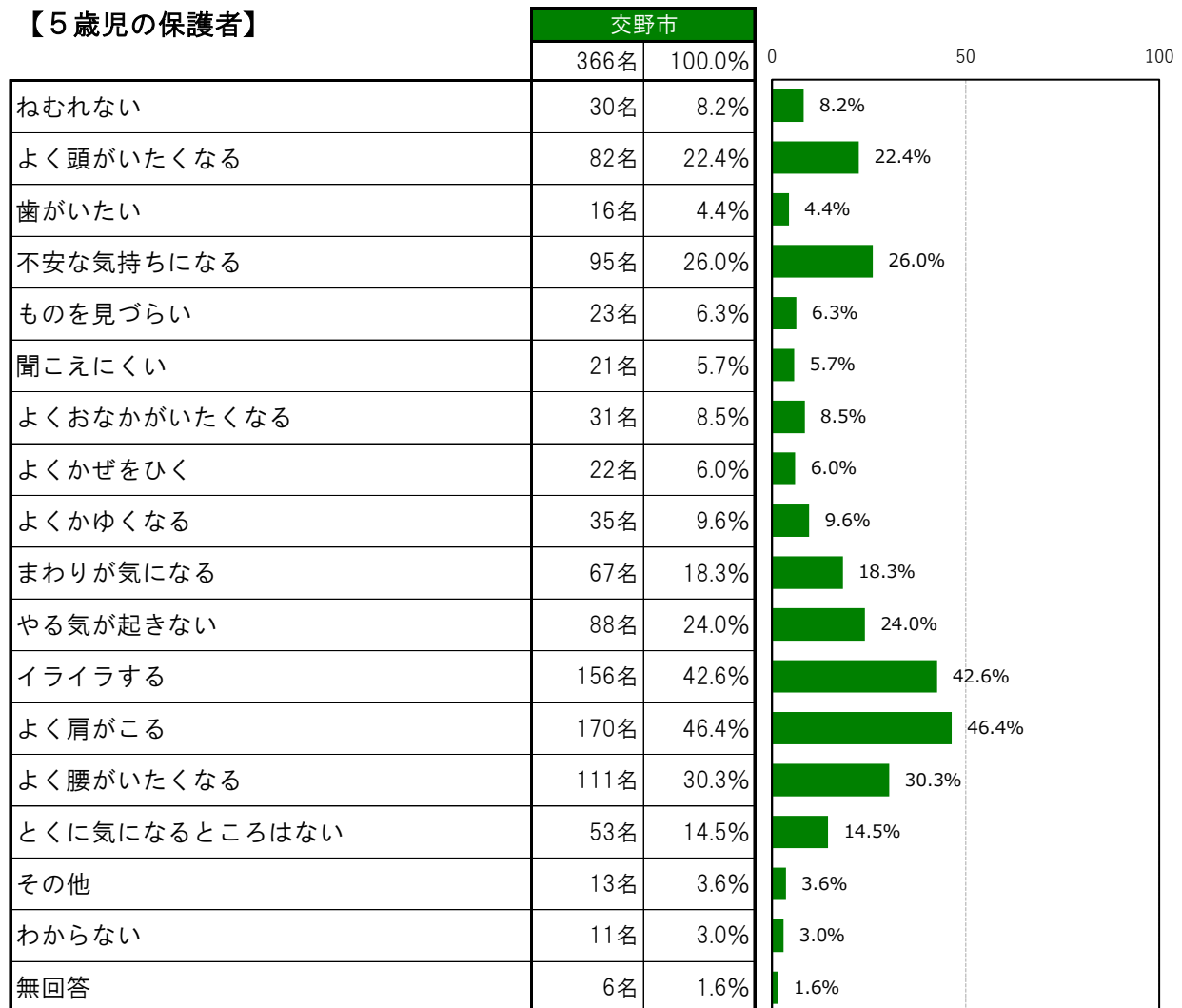


保護者のことについて

問22 自分の体や気持ちで気になること

「よく肩がこる」が46.4%で最も多く、次いで「イライラする」が42.6%、「よく腰がいたくなる」が30.3%、「不安な気持ちになる」が26.0%となっている。

【5歳児の保護者】



保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 a 就学援助

「利用したことがない」が92.3%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が3.0%、「現在利用している」が1.9%となっている。

【5歳児の保護者】

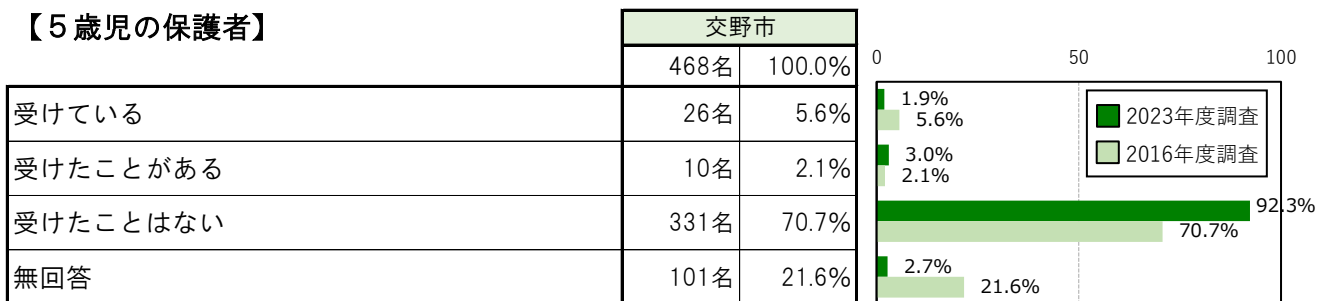


※ 2016年度調査では「受けている」「受けたことがある」「受けたことはない」

●2016年度 調査結果〔参考データ〕

2016年度調査と比較すると、「利用したことがない」(2016年度調査は「受けたことはない」)は21.6ポイント高くなっている。

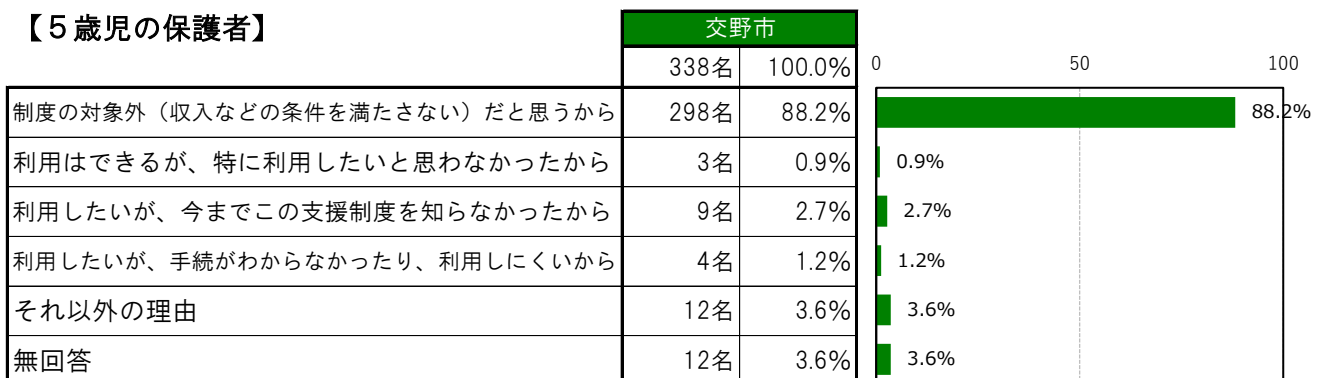
【5歳児の保護者】



問23 支援制度の利用状況 a 就学援助 <利用したことがない理由>

「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が88.2%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が3.6%、「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」が2.7%、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」が1.2%となっている。

【5歳児の保護者】

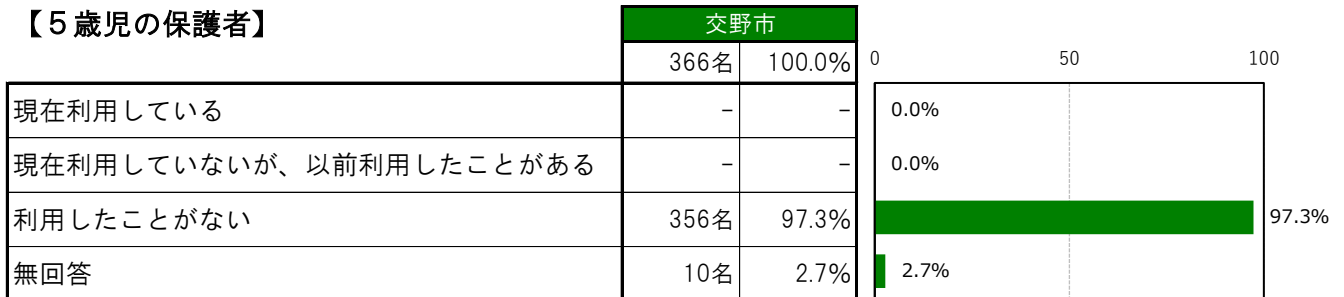


保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 b 生活保護

「利用したことがない」が97.3%となっている。

【5歳児の保護者】



※ 2016年度調査では「受けている」「受けたことがある」「受けたことはない」

●2016年度 調査結果【参考データ】

2016年度調査と比較すると、「利用したことがない」(2016年度調査は「受けたことはない」)は20.8ポイント高くなっている。

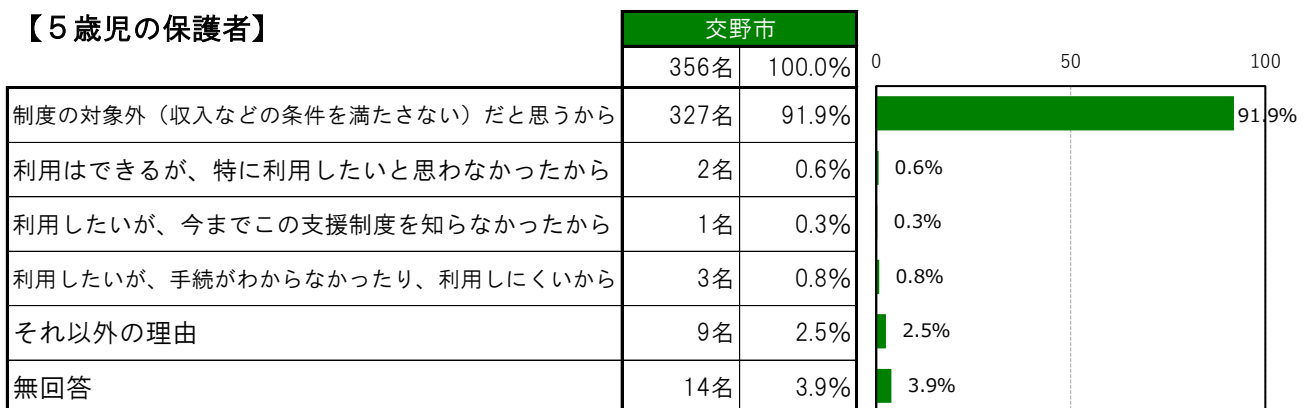
【5歳児の保護者】



問23 支援制度の利用状況 b 生活保護 <利用したことがない理由>

「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が91.9%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が2.5%、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」が0.8%となっている。

【5歳児の保護者】

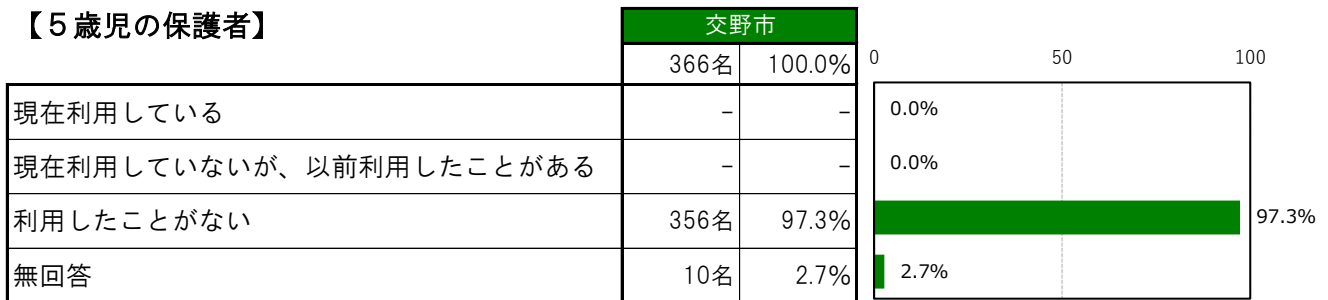


保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 c 生活困窮者の自立支援相談窓口

「利用したことがない」が97.3%となっている。

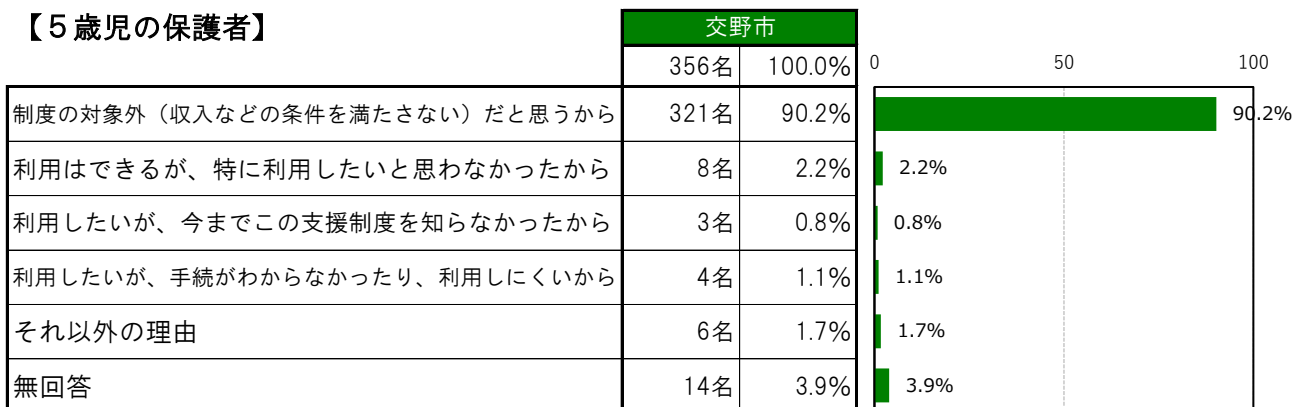
【5歳児の保護者】



問23 支援制度の利用状況 c 生活困窮者の自立支援相談窓口 <利用したことがない理由>

「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が90.2%で最も多く、次いで「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が2.2%、「それ以外の理由」が1.7%となっている。

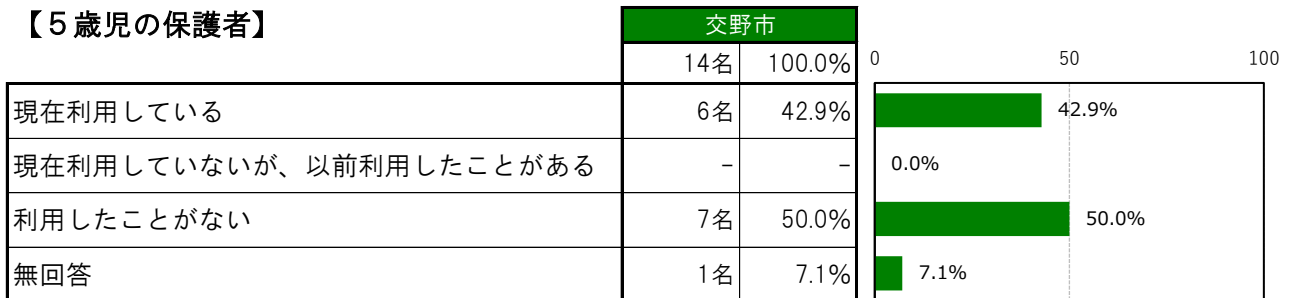
【5歳児の保護者】



保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 d 児童扶養手当（ひとり親世帯のみ）

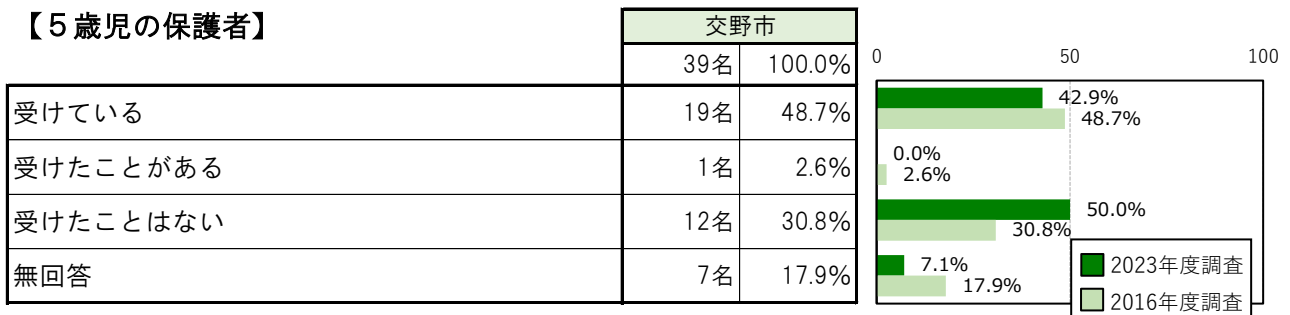
ひとり親世帯のみでみると、母数が少ないため一概には言えないが、「利用したことがない」が50.0%（7名）で最も多く、次いで「現在利用している」が42.9%（6名）となっている。



※ 2016年度調査では「受けている」「受けたことがある」「受けたことはない」
 ※ ひとり親世帯のみで集計。

●2016年度 調査結果〔参考データ〕

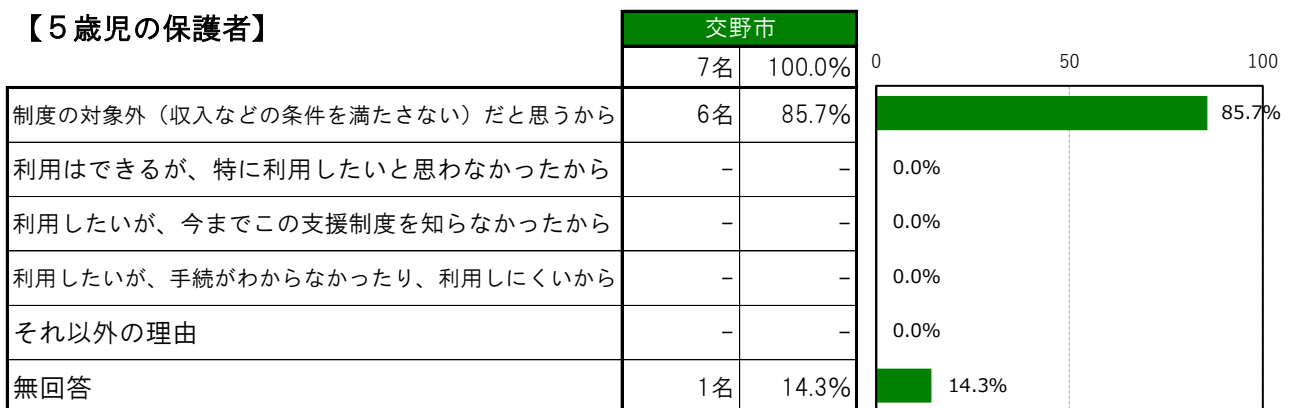
2016年度調査と比較すると、「利用したことがない」（2016年度調査は「受けたことはない」）は19.2ポイント高くなっている。



※ ひとり親世帯のみで集計。

問23 支援制度の利用状況 d 児童扶養手当＜利用したことがない理由＞（ひとり親世帯のみ）

「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が85.7%（6名）で最も多くなっている。



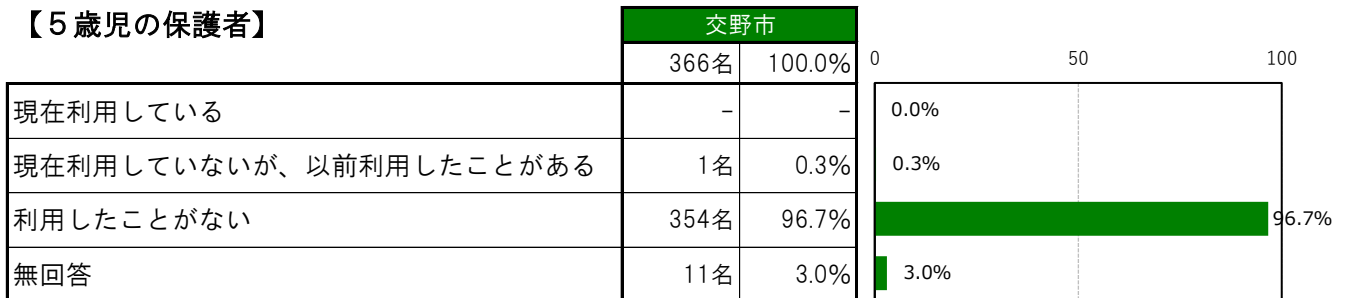
※ ひとり親世帯のみで集計。

保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 e 母子家庭等就業・自立支援センター

「利用したことがない」が96.7%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が0.3%となっている。

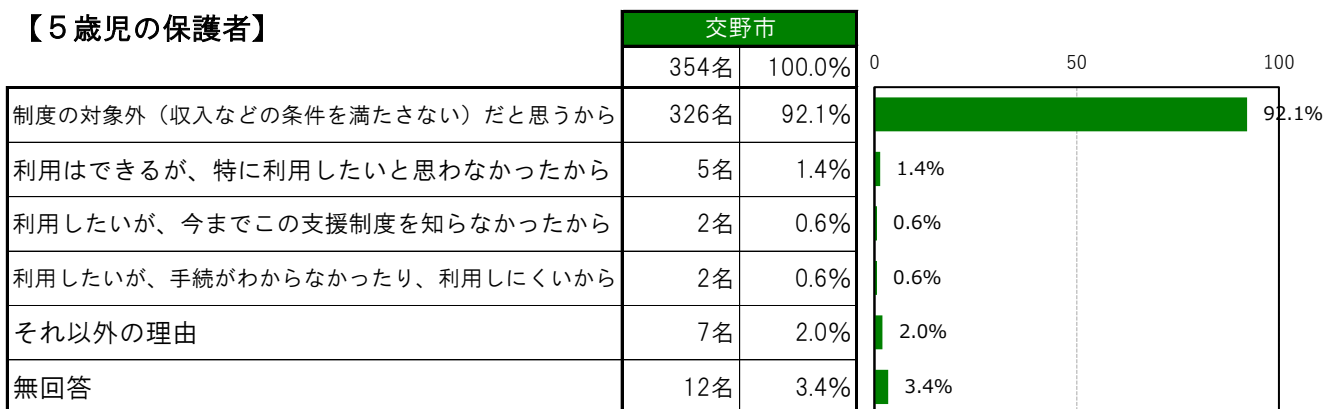
【5歳児の保護者】



問23 支援制度の利用状況 e 母子家庭等就業・自立支援センター <利用したことがない理由>

「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が92.1%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が2.0%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が1.4%となっている。

【5歳児の保護者】

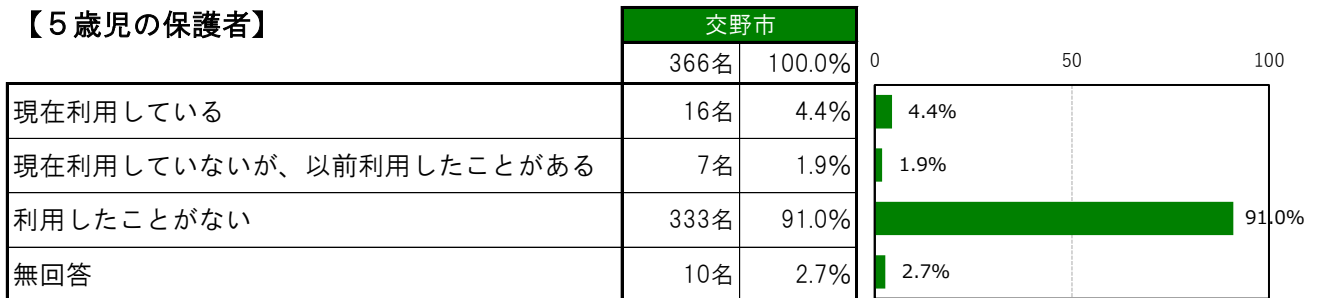


保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 f 低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金

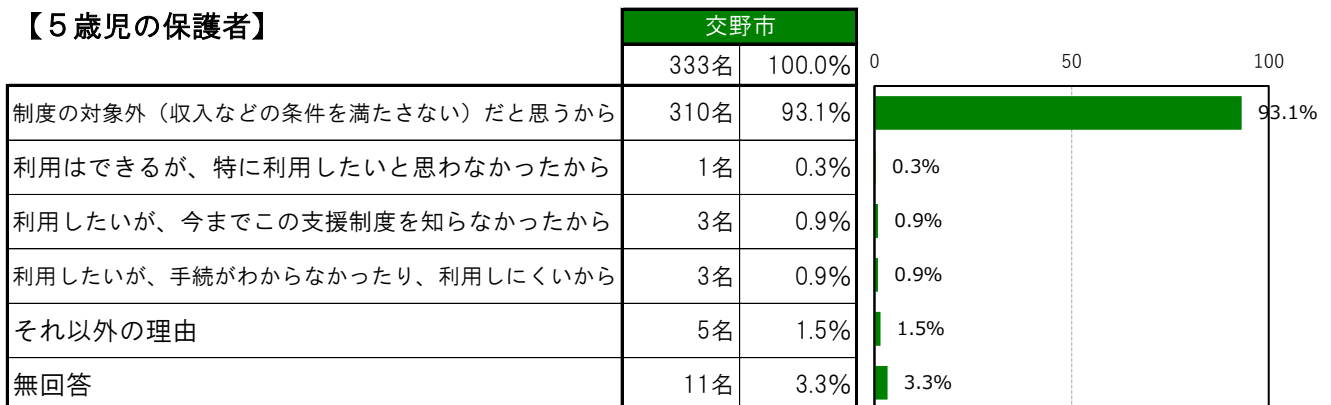
「利用したことがない」が91.0%で最も多く、次いで「現在利用している」が4.4%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が1.9%となっている。

【5歳児の保護者】

問23 支援制度の利用状況 f 低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金
＜利用したことがない理由＞

「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が93.1%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が1.5%、「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」と「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」がそれぞれ0.9%となっている。

【5歳児の保護者】



保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 g 新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）

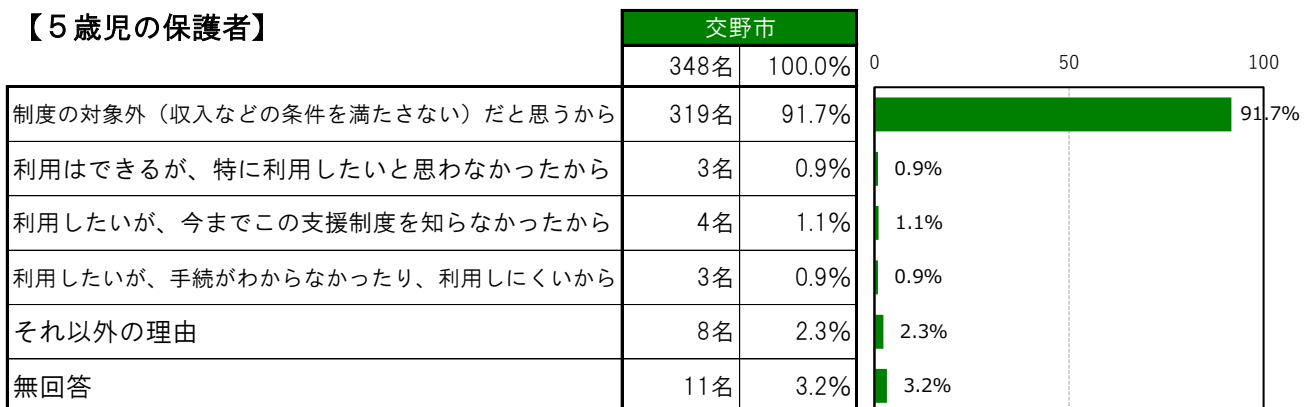
「利用したことがない」が95.1%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が1.6%、「現在利用している」が0.3%となっている。

【5歳児の保護者】

問23 支援制度の利用状況 g 新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）
＜利用したことがない理由＞

「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が91.7%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が2.3%、「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」が1.1%となっている。

【5歳児の保護者】

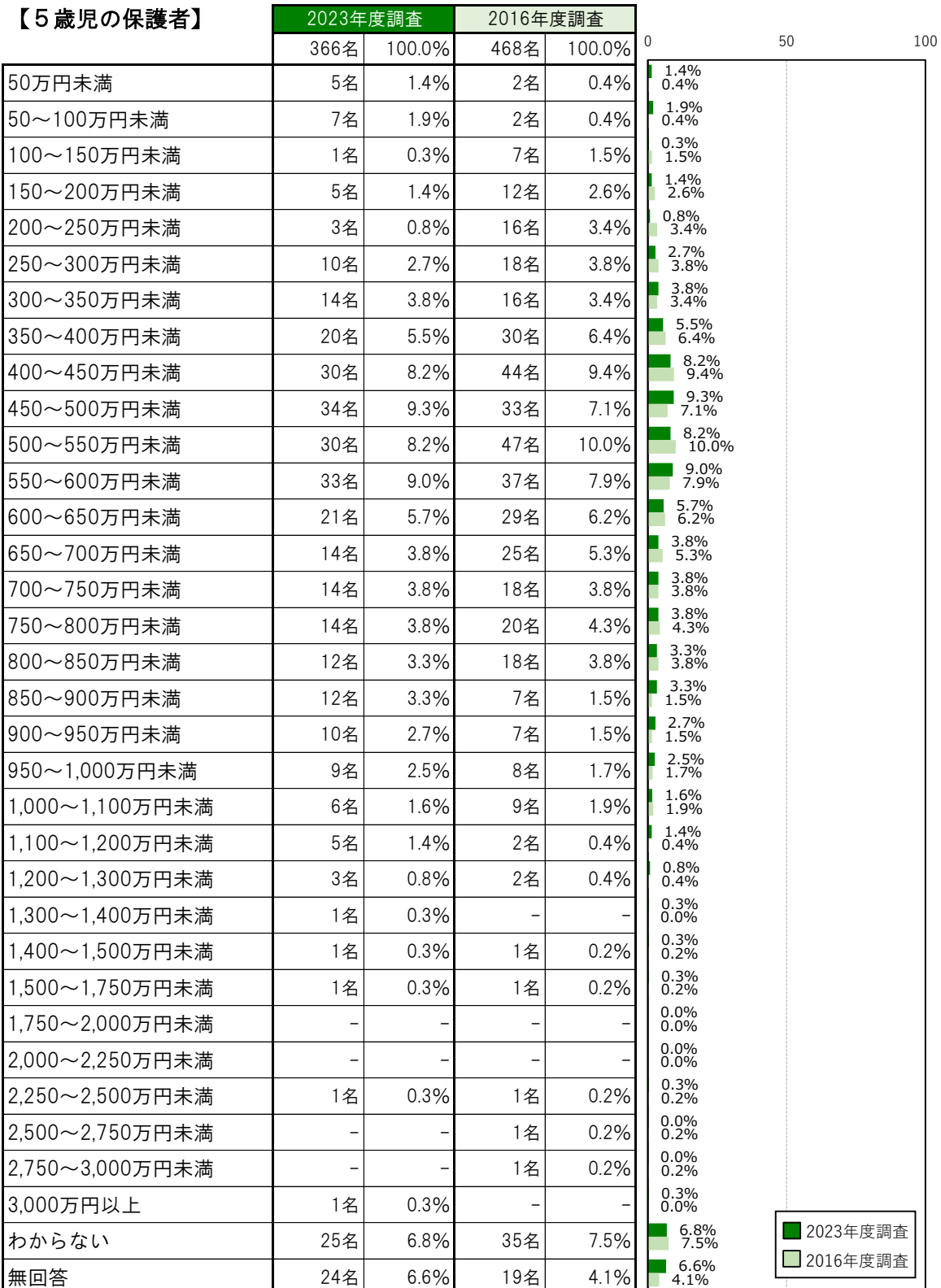


保護者のことについて

問24 世帯収入

「450～500万円未満」が9.3%で最も多く、次いで「550～600万円未満」が9.0%、「400～450万円未満」、「500～550万円未満」がそれぞれ8.2%、「600～650万円未満」が5.7%、「350～400万円未満」が5.5%となっている。

2016年度調査と比較すると、「200～250万円未満」は2.6ポイント低いが、「450～500万円未満」は2.2ポイント高くなっている。



世帯収入額と世帯人数に基づく等価可処分所得

今回の調査において世帯所得をたずねているが、この回答のみで世帯の困窮の状態を測ることはできない。実際の生活上の体験や困りごとを把握するため、多面的に貧困を測る指標として、「等価可処分所得」およびそれらを基に区分した「困窮度」を用いている。

国民生活基礎調査における相対的貧困率は、一定基準（貧困線）を下回る等価可処分所得しか得ていない者の割合をいう。貧困線とは、等価可処分所得（世帯の可処分所得（収入から税金・社会保険料等を除いたいわゆる手取り収入）を世帯人員の平方根で割って調整した所得）の中央値の半分の額をいう。算出方法は、OECD（経済協力開発機構）の作成基準に基づく。EU、ユニセフ（ただし、常に60%基準採用ではない）は60%を採用している。

世帯の可処分所得はその世帯の世帯人員数に影響されるので、世帯人員数で調整する必要がある。最も簡単なのは「世帯の可処分所得÷世帯人員数」とすることであるが、生活水準を考えた場合、世帯人員数が少ない方が生活コストが割高になることを考慮する必要がある、このため、世帯人員数の違いを調整するにあたって「世帯人員数の平方根」を用いている。

出典：厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/dl/20-21a-01.pdf>

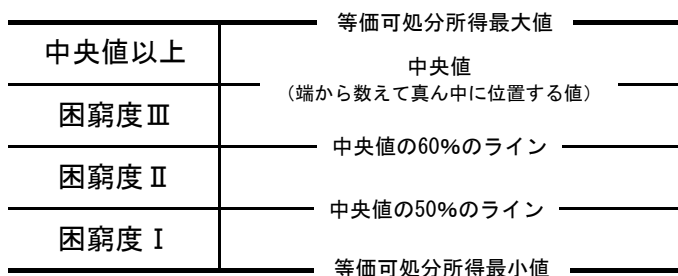
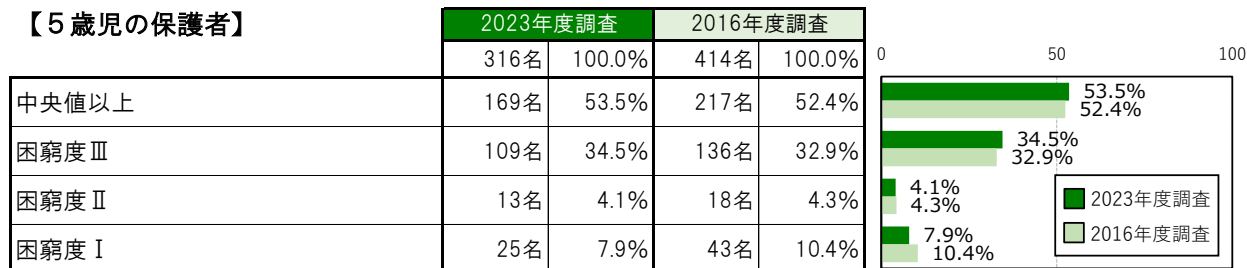


図 困窮度の分類と基準

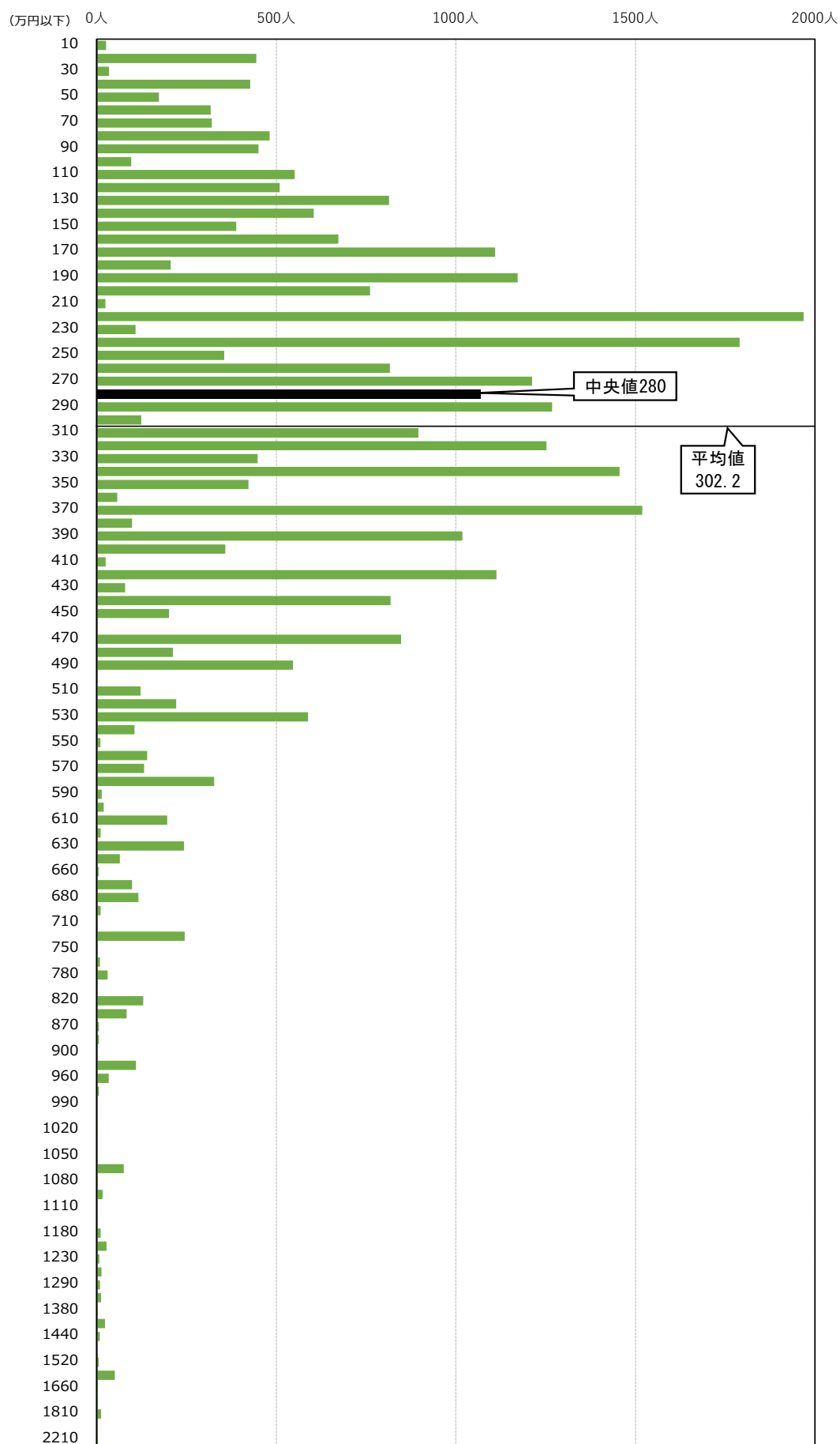
中央値は263万円、国の定める基準で行くと相対的貧困率は7.9%であった。

【5歳児の保護者】



5歳児の保護者は、「中央値以上」が53.5%で最も多く、次いで「困窮度Ⅲ」が34.5%、「困窮度Ⅰ」が7.9%、「困窮度Ⅱ」が4.1%となっている。

2016年度調査と比較すると、「困窮度Ⅰ」が2.5ポイント低くなっている。



※ 2016年度調査では、中央値255万円、平均値272.7万円であった。

注) 2023年度調査ではグラフ作成方法を改訂している。

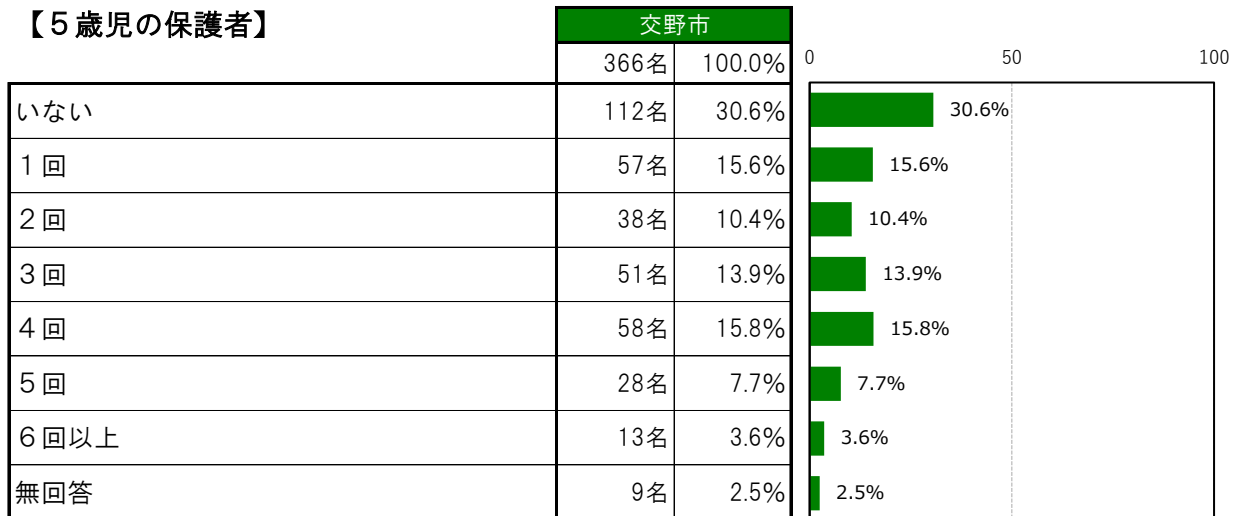
図 大阪府内全自治体における等価可処分所得の分布

保護者のことについて

問25 同居家族が新型コロナウイルスに感染した延べ回数

「いない」が30.6%で最も多く、次いで「4回」が15.8%、「1回」が15.6%、「3回」が13.9%となっている。

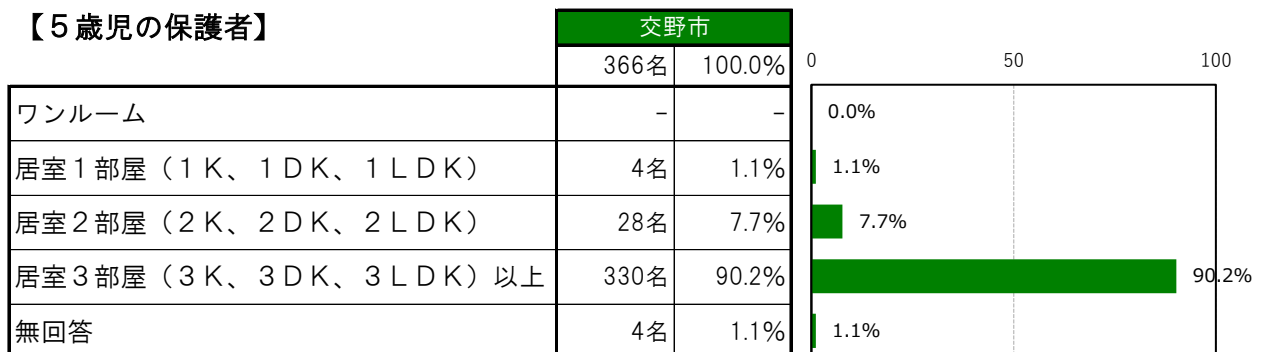
【5歳児の保護者】



問26（1）住居の間取り

「居室3部屋（3K、3DK、3LDK）以上」が90.2%で最も多く、次いで「居室2部屋（2K、2DK、2LDK）」が7.7%、「居室1部屋（1K、1DK、1LDK）」が1.1%となっている。

【5歳児の保護者】

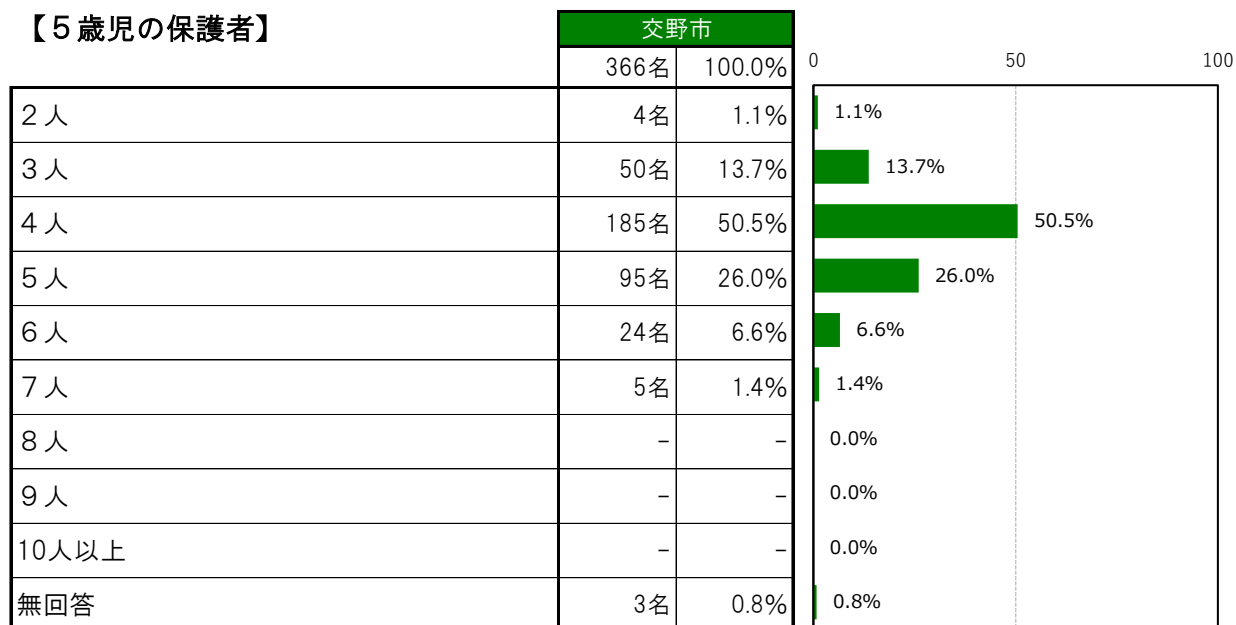


保護者のことについて

問26（2）同居人数

「4人」が50.5%で最も多く、次いで「5人」が26.0%、「3人」が13.7%、「6人」が6.6%となっている。

【5歳児の保護者】



4. クロス集計および分析結果

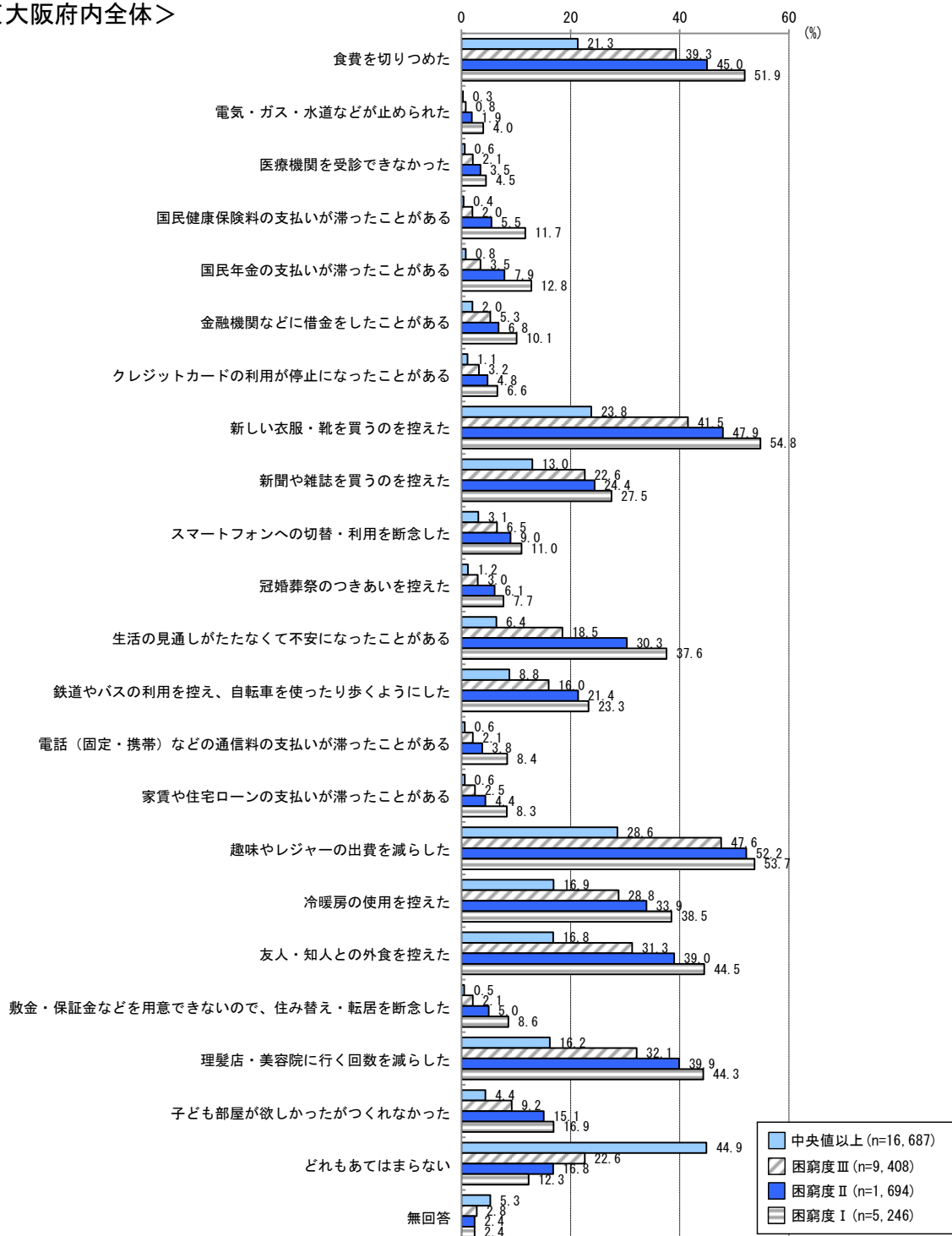
以下のグラフは、主に困窮度別に示している。大阪府内全自治体の傾向については記述していないが、多くにおいて、本自治体調査結果と同様の傾向が見られる。さらに顕著な傾向が見られるものもある。

4-1. 基本情報

(1) 経済状況

困窮度別に見た、経済的な理由による経験（保護者票問7）

<大阪府内全体>



＜交野市＞

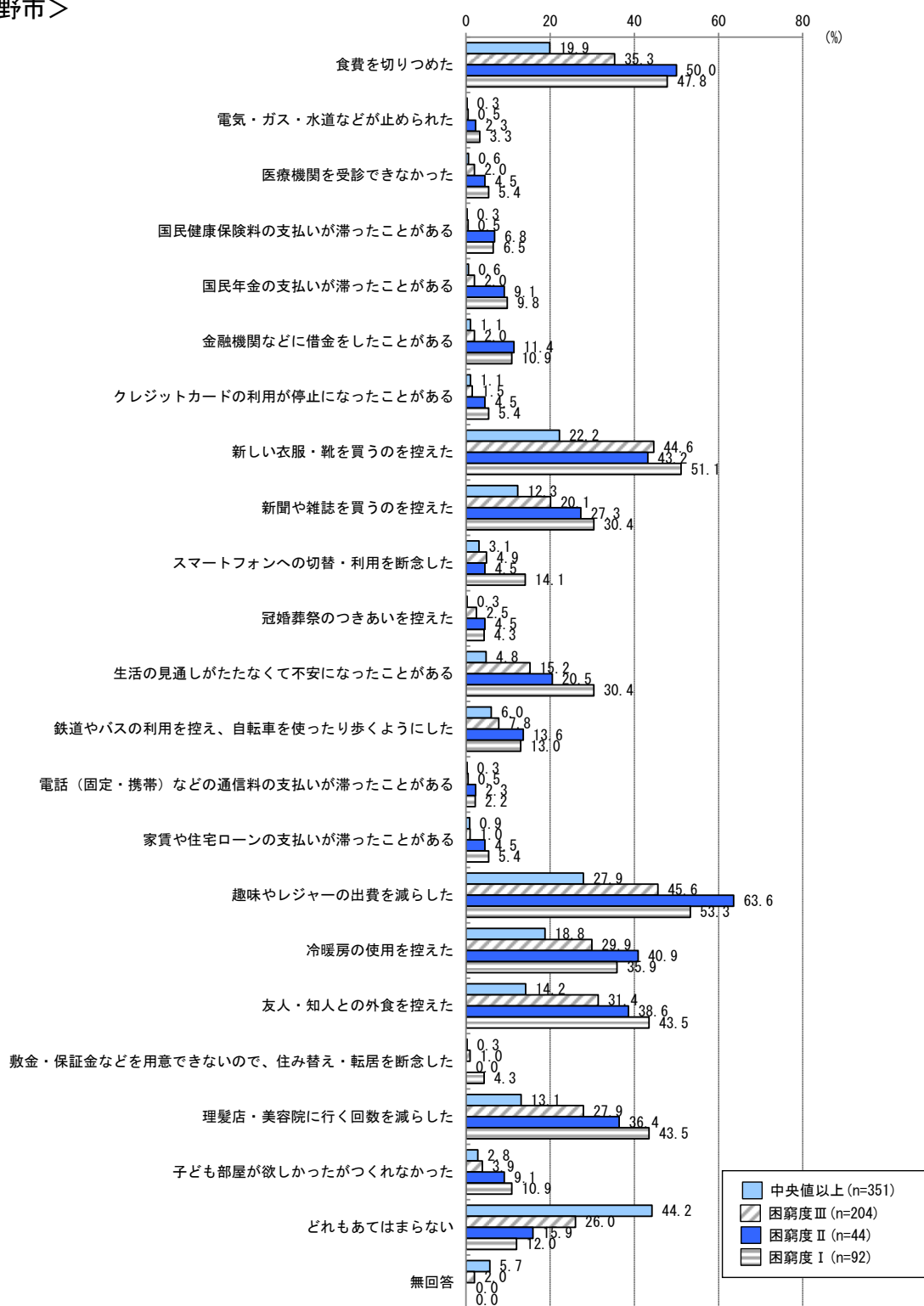
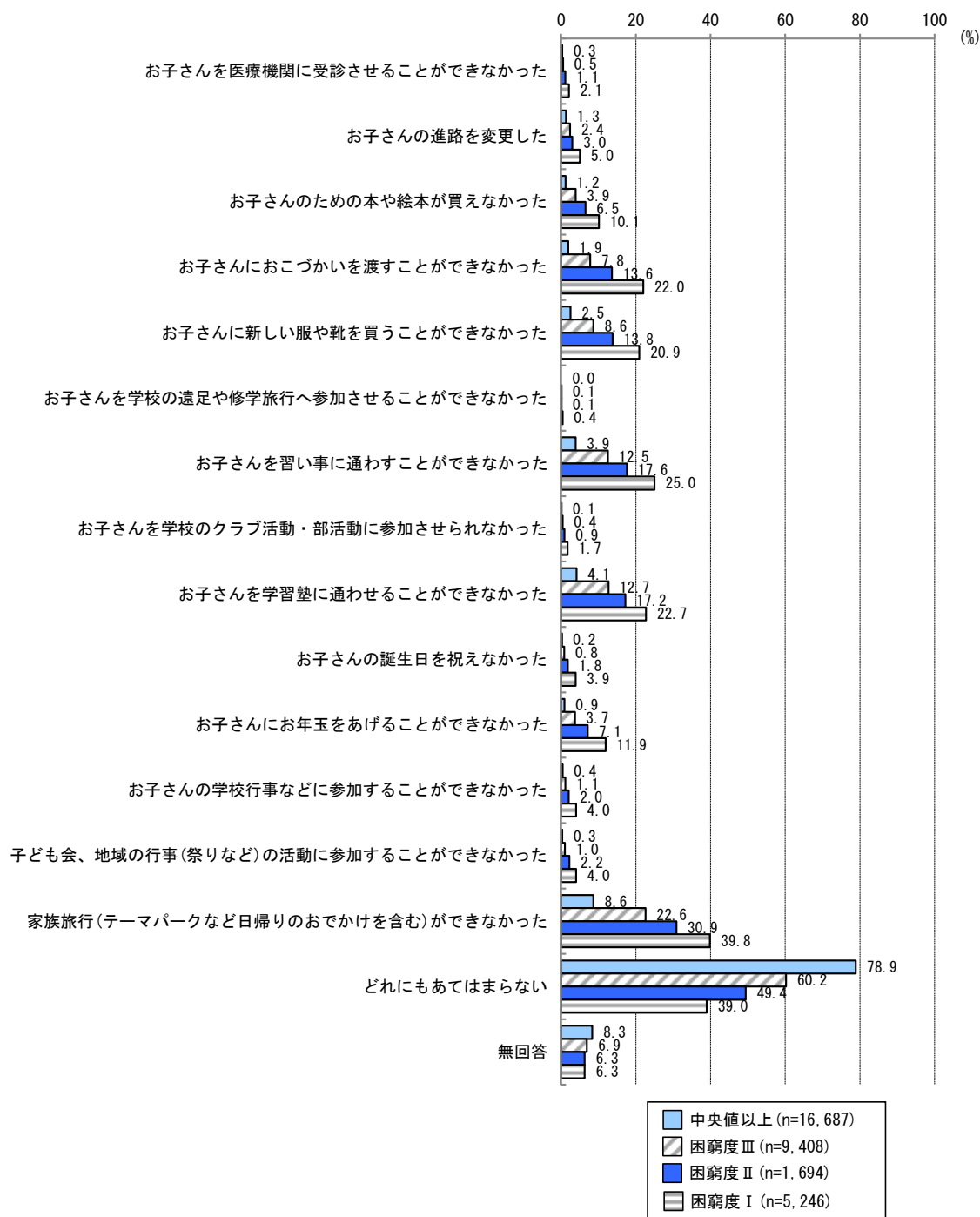


図 1. 困窮度別に見た、経済的な理由による経験

困窮度別に経済的な理由による経験を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群を見ると、「国民健康保険料の支払いが滞ったことがある」が6.5%（中央値以上群に対して21.7倍）、「国民年金の支払いが滞ったことがある」が9.8%（同様に16.3倍）、「冠婚葬祭のつきあいを控えた」が4.3%（同様に14.3倍）となり、困窮度Ⅰ群において高い項目が複数みられた。また「どれもあてはまらない」は中央値以上群で44.2%に対して、困窮度Ⅰ群において12.0%だった。

困窮度別に見た、子どもへの経済的な理由による経験（保護者票問 12）

＜大阪府内全体＞



＜交野市＞

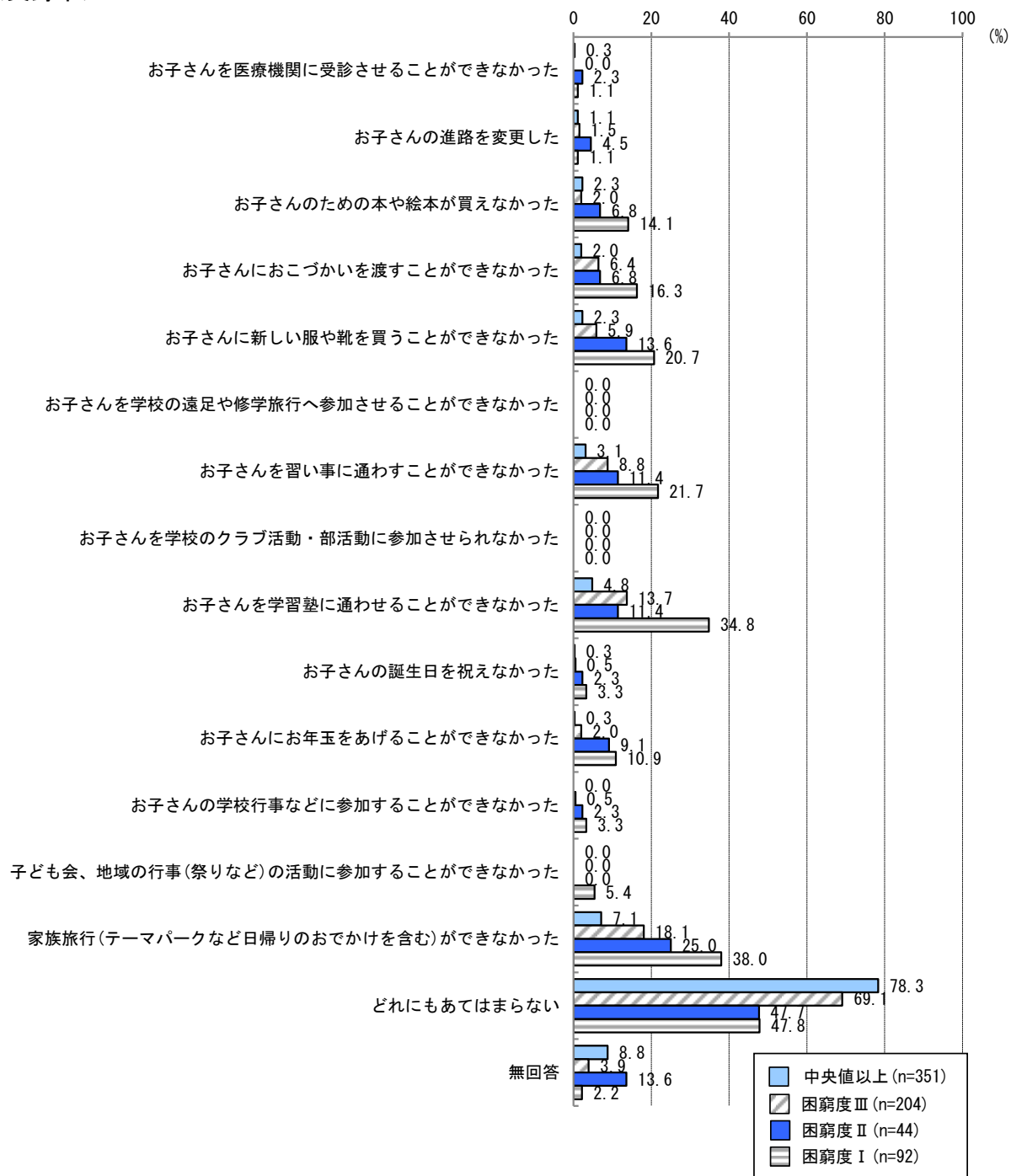


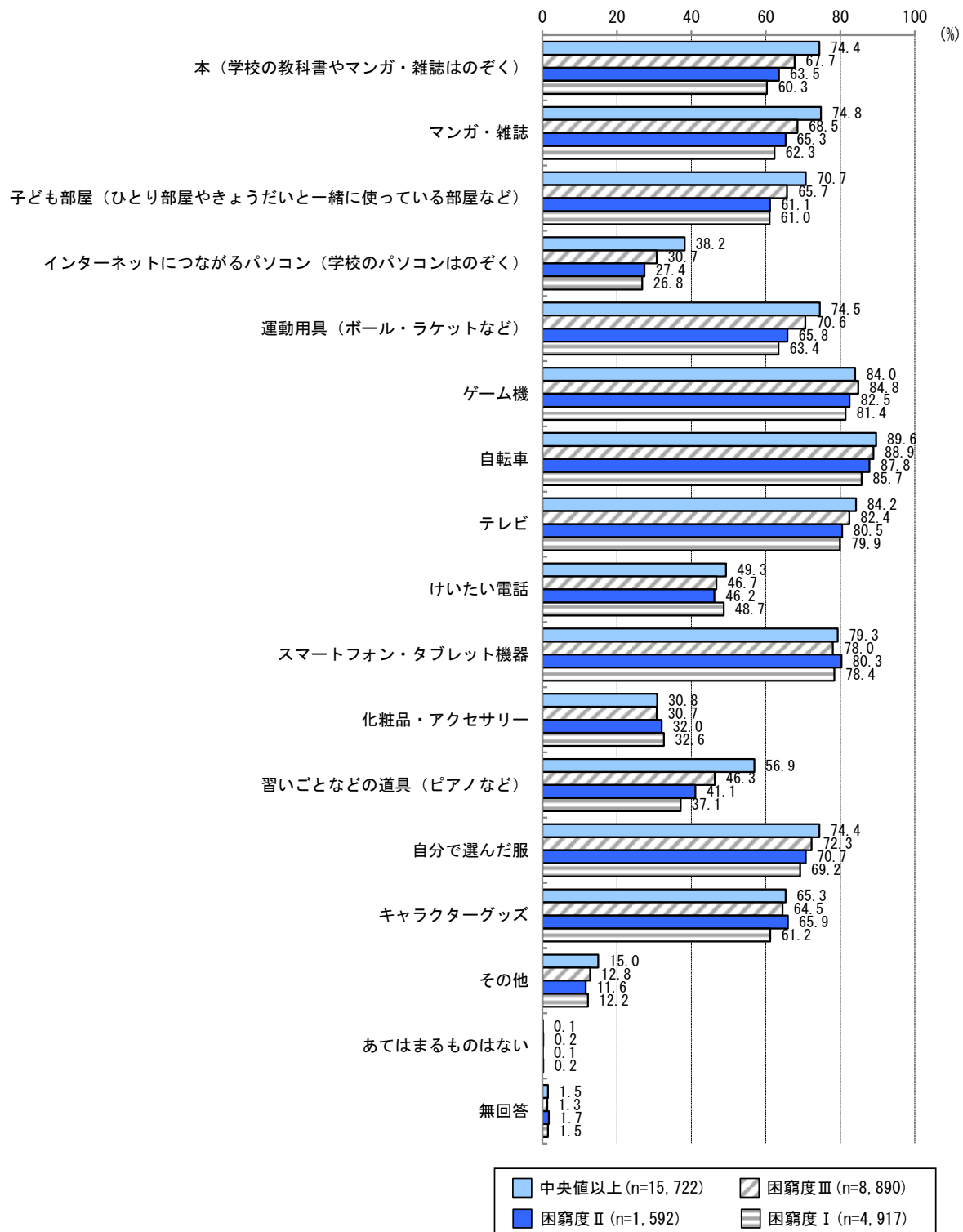
図 2. 困窮度別に見た、子どもへの経済的な理由による経験

困窮度別に子どもへの経済的な理由による経験を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群を見ると、「お子さんにお年玉をあげることができなかった」が10.9%（中央値以上群に対して36.3倍）、「お子さんの誕生日を祝えなかった」が3.3%（同じく11.0倍）、「お子さんに新しい服や靴を買うことができなかった」が20.7%（同じく9.0倍）となっている。

また、「どれにもあてはまらない」は中央値以上群で78.3%に対して、困窮度Ⅰ群において47.8%だった。

困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるもの（子ども票問 21）

<大阪府内全体>



<交野市>

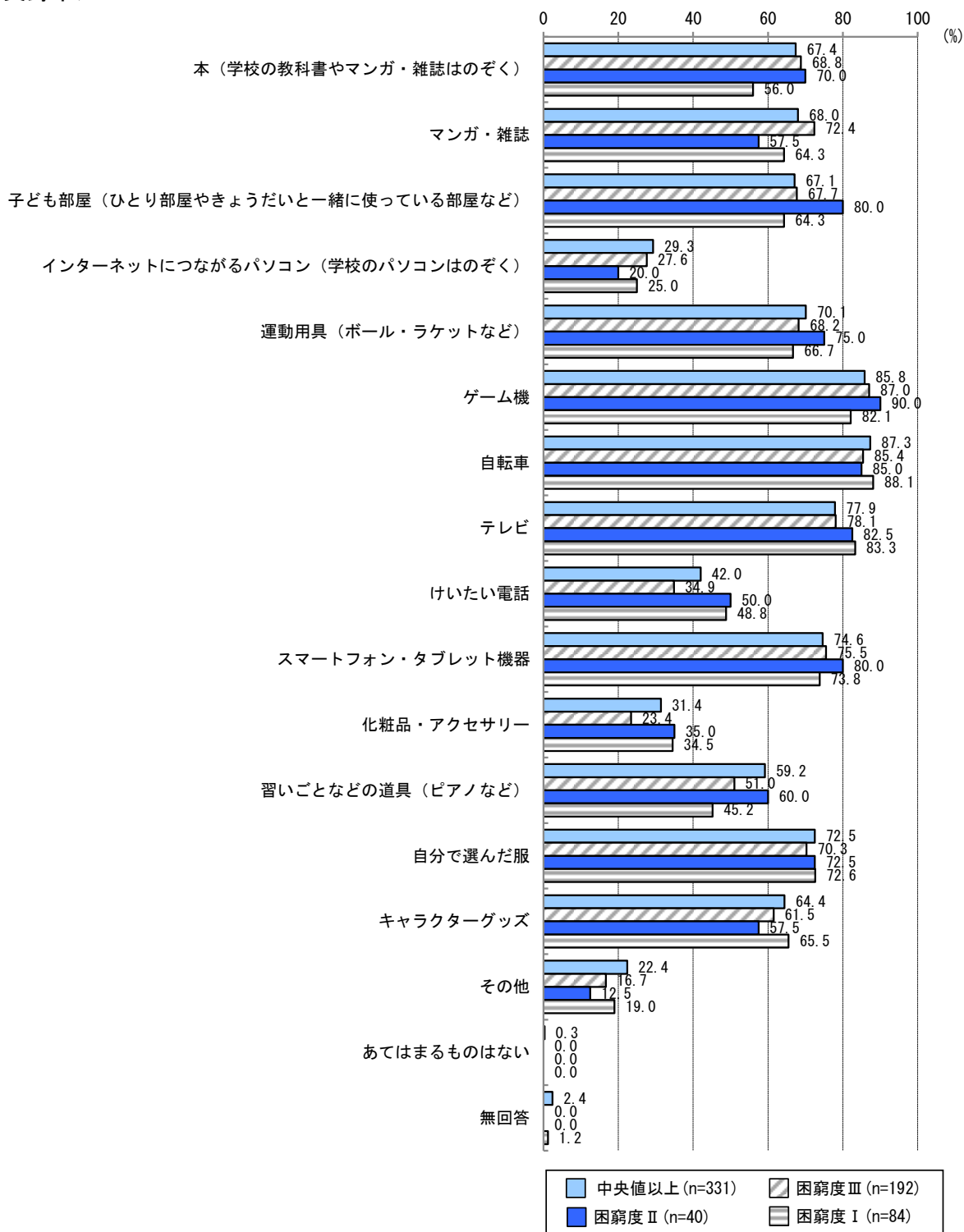
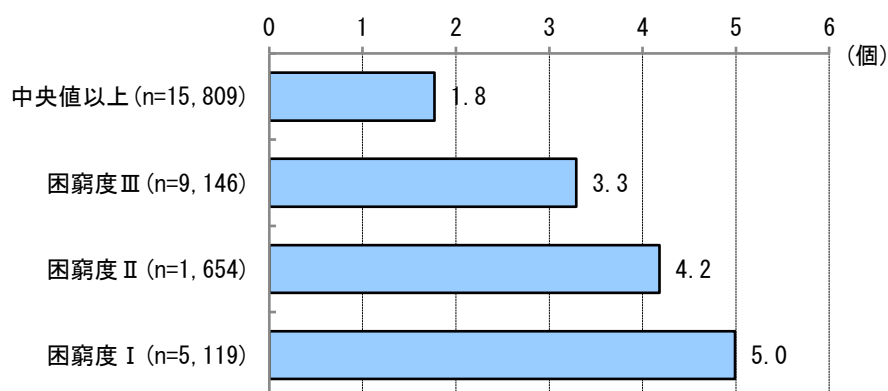


図 3. 困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるもの

困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるものを見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、中央値以上群を見ると、「習いごとなどの道具（ピアノなど）」が59.2%（困窮度Ⅰ群に対して1.3倍）、「本（学校の教科書やマンガ・雑誌はのぞく）」が67.4%（同じく1.2倍）、「インターネットにつながるパソコン（学校のパソコンはのぞく）」が29.3%（同じく1.2倍）となり、中央値以上群において高い項目、すなわち困窮度Ⅰ群においては低い項目が複数みられた。

困窮度別に見た、経済的な理由による経験の該当数の平均（保護者票問7）

<大阪府内全体>



<交野市>

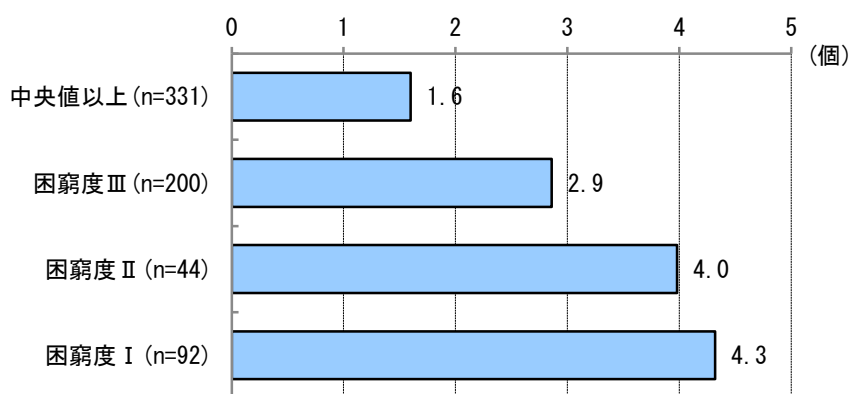


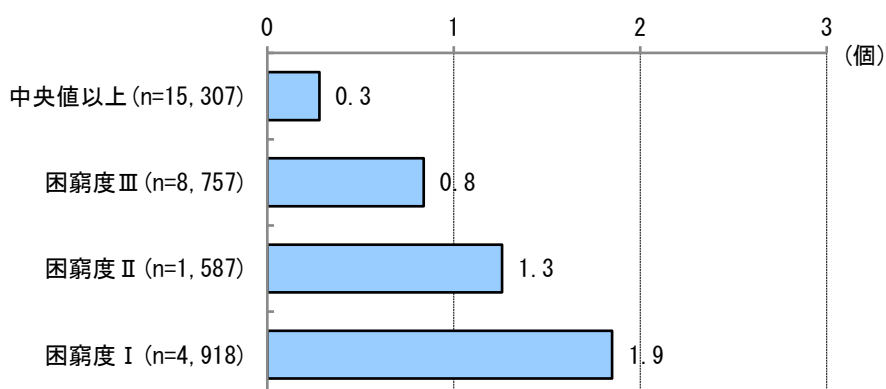
図 4. 困窮度別に見た、経済的な理由による経験の該当数の平均

経済的な理由による経験として示した21個の項目のうち、該当すると回答された数について、困窮度別に平均値を算出した。

その結果、困窮度が高くなるにつれ、経済的な理由による経験の該当数は多くなっていることがみられた。

困窮度別に見た、子どもへの経済的な理由による経験の該当数の平均（保護者票問 12）

<大阪府内全体>



<交野市>

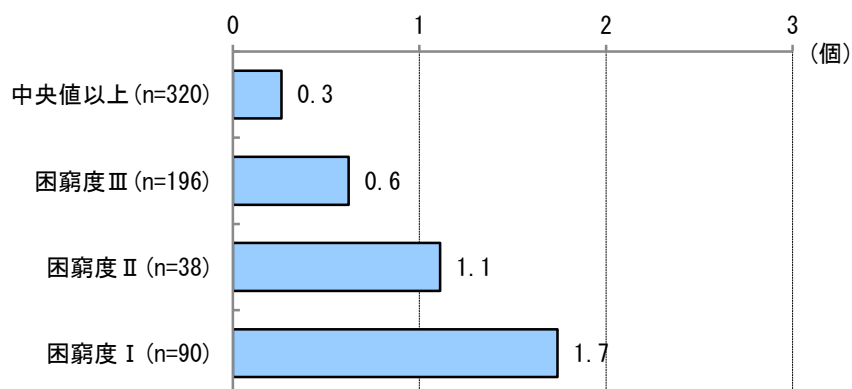


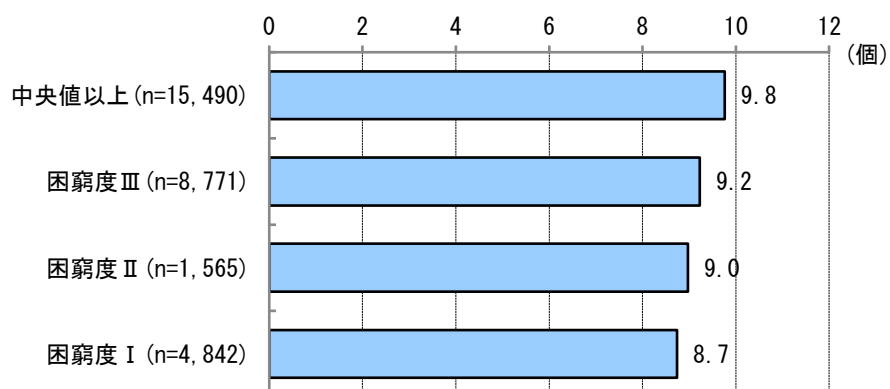
図 5. 困窮度別に見た、子どもへの経済的な理由による経験の該当数の平均

子どもに関して経済的な理由による経験として示した14個の項目のうち、該当すると回答された数について、困窮度別に平均値を算出した。

その結果、困窮度が高くなるにつれ、経済的な理由で子どもにできなかったことの該当数は多くなっていることがみられた。

困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるものの該当数の平均（子ども票問 21）

<大阪府内全体>



<交野市>

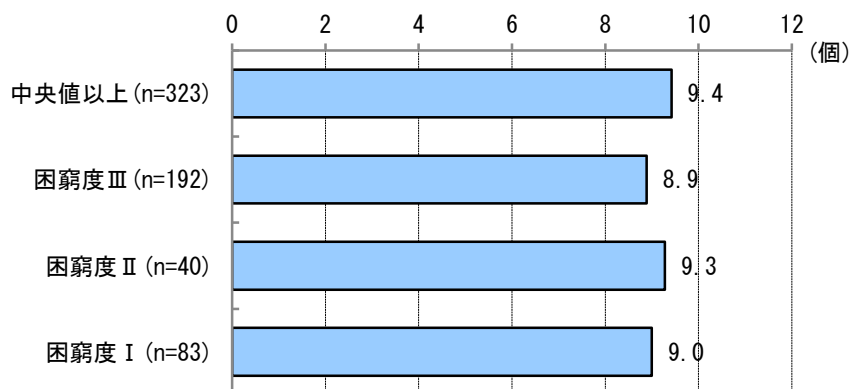


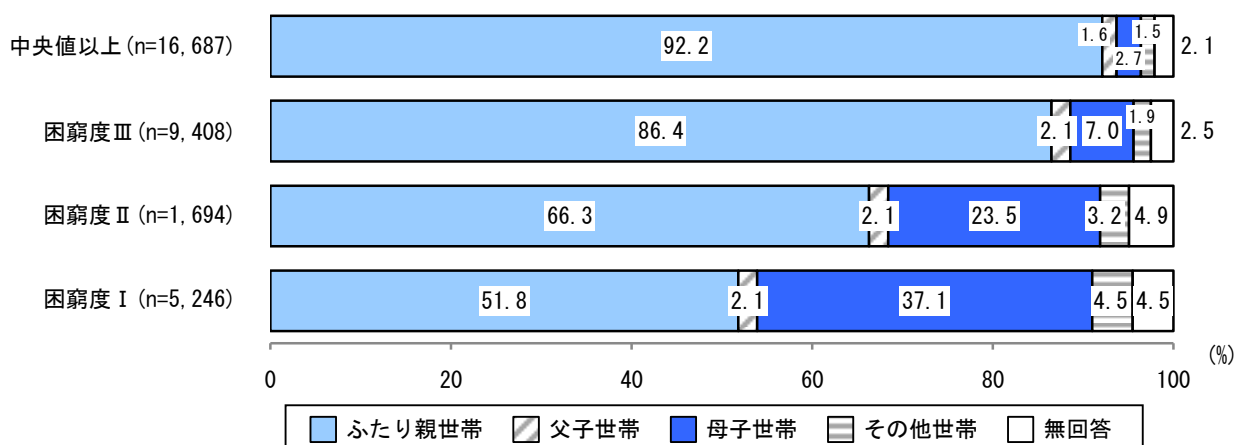
図 6. 困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるものの該当数の平均

子どもの持っているもの、使うことができるものとして示した14個の項目のうち、該当すると回答された数について、困窮度別に平均値を算出した。

その結果、困窮度によって子どもの持ちもの、使えるものの該当数に大きな差は見られなかった。

困窮度別に見た、世帯員の構成（保護者票問2より）

<大阪府内全体>



<交野市>

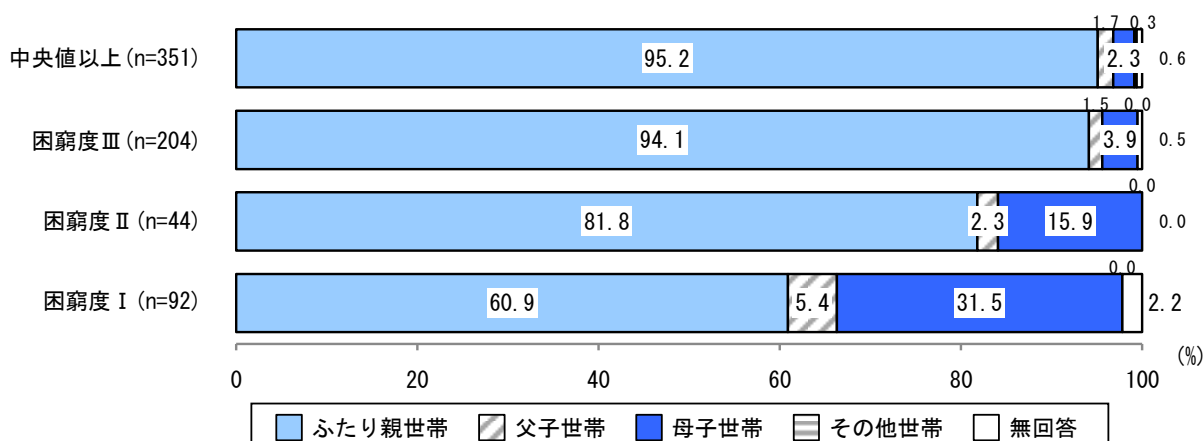


図 7. 困窮度別に見た、世帯員の構成

困窮度別に世帯員の構成を見ると、「ふたり親世帯」と回答した割合は、困窮度が高くなるにつれ低くなり、中央値以上群が95.2%であるのに対し、困窮度Ⅰ群は60.9%となっている。

<2016年度調査との比較／交野市>

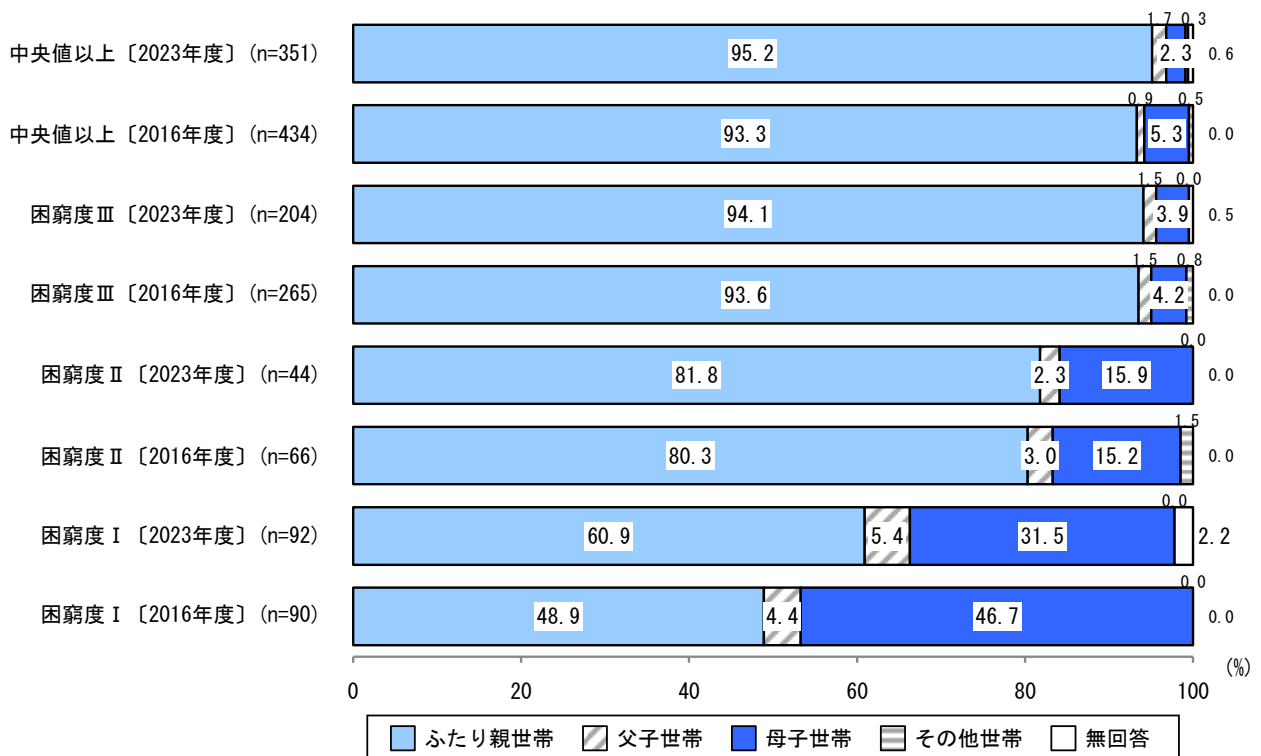
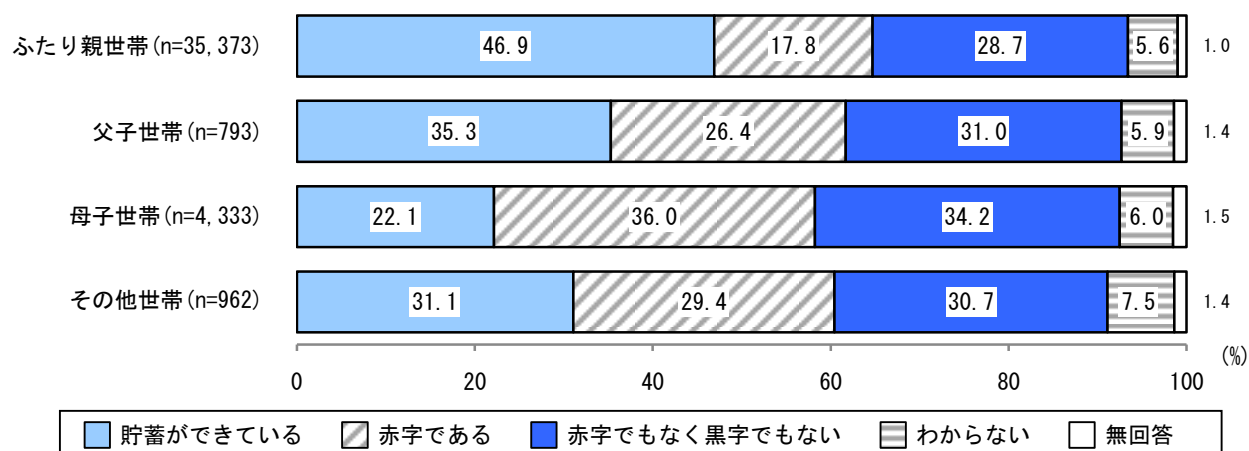


図 8. 困窮度別に見た、世帯員の構成（2016 年度調査との比較）

2016年度調査と比較すると、「ふたり親世帯」と回答した割合は、いずれの困窮度も2016年度調査に比べて高くなっている。

世帯構成別に見た、家計の状況（保護者票問 6(1)）

<大阪府内全体>



<交野市>

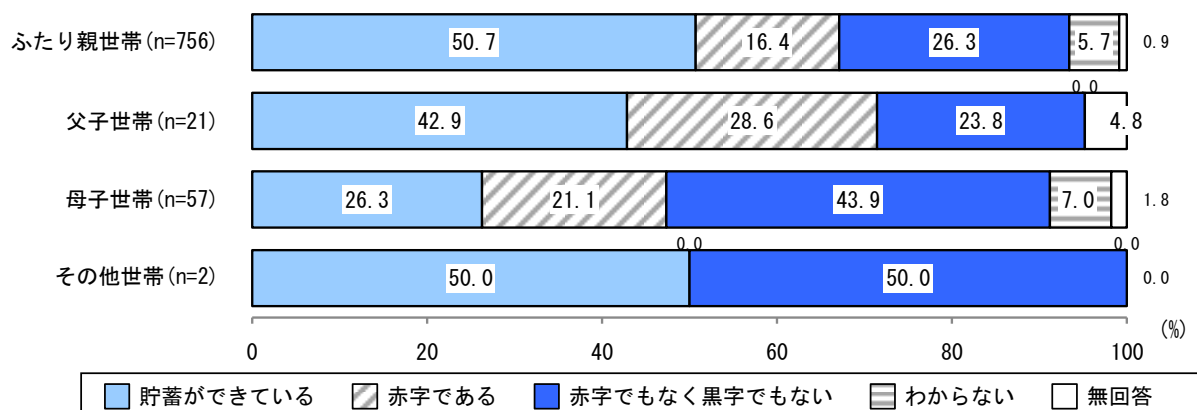
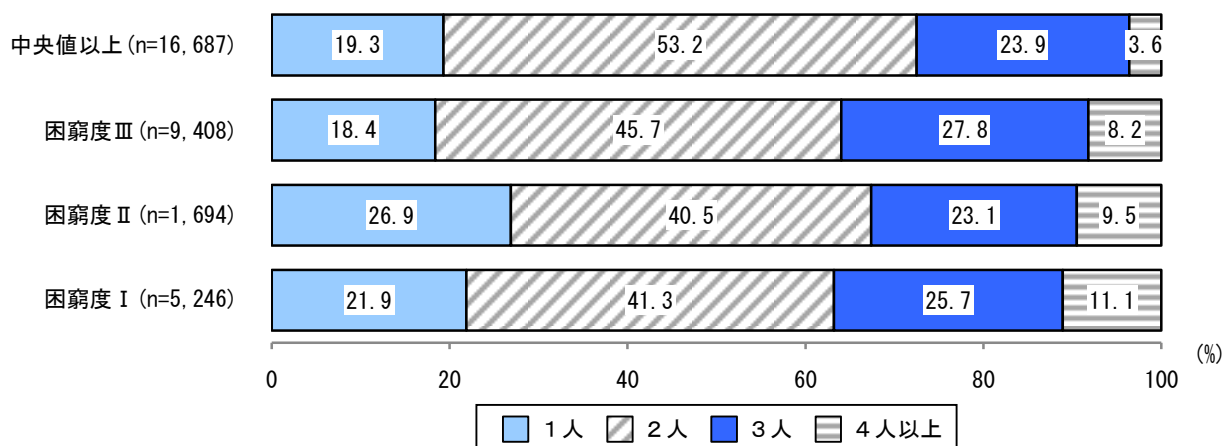


図 9. 世帯構成別に見た、家計の状況

世帯構成別に家計の状況を見ると、「貯蓄ができていない」と回答した割合は、ふたり親世帯が 50.7%であるのに対し、母子世帯は26.3%と低くなっている。また、「赤字である」と回答した割合は、ふたり親世帯が16.4%であるのに対し、父子世帯は28.6%となっている。

困窮度別に見た、子どもの人数（保護者票問2より）

<大阪府内全体>



<交野市>

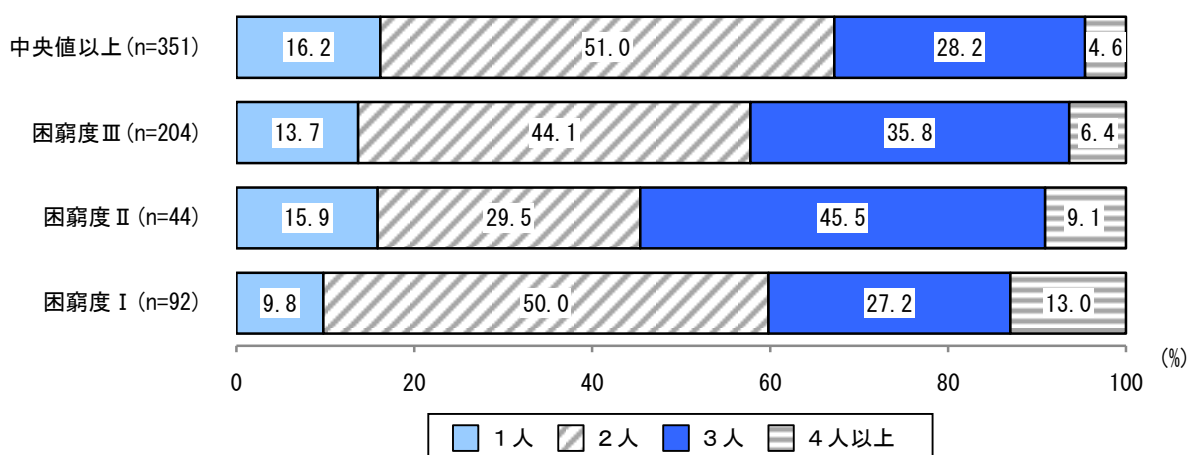
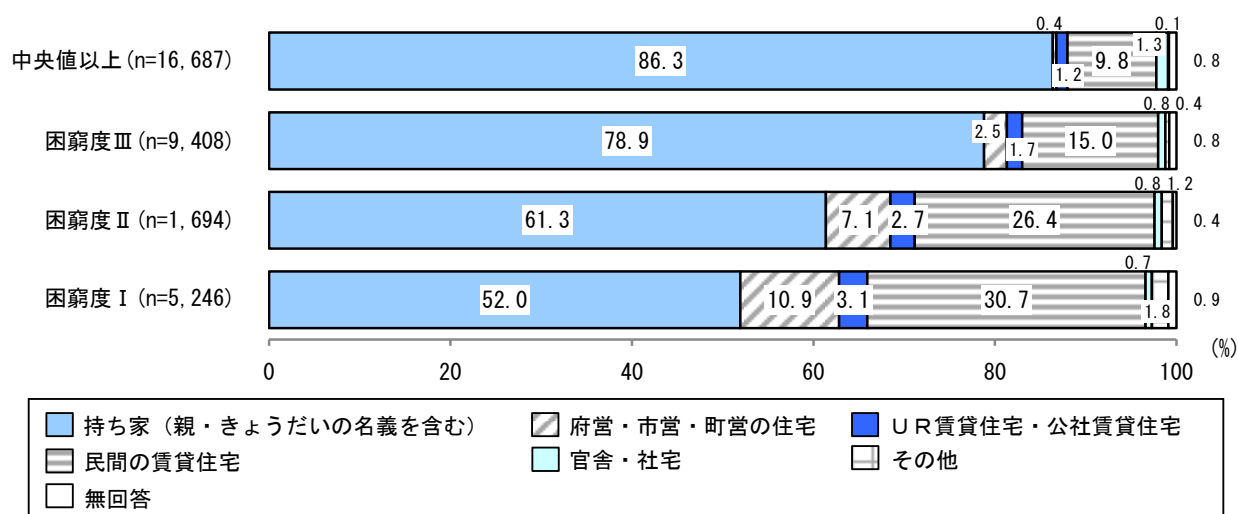


図 10. 困窮度別に見た、子どもの人数

困窮度別に子どもの人数を見ると、中央値以上群において3人以上が32.8%（3人28.2%、4人以上4.6%）であるのに対し、困窮度Ⅱ群では、3人以上が54.6%（3人45.5%、4人以上9.1%）と高くなっている。

困窮度別に見た、住居形態（保護者票問5）

<大阪府内全体>



<交野市>

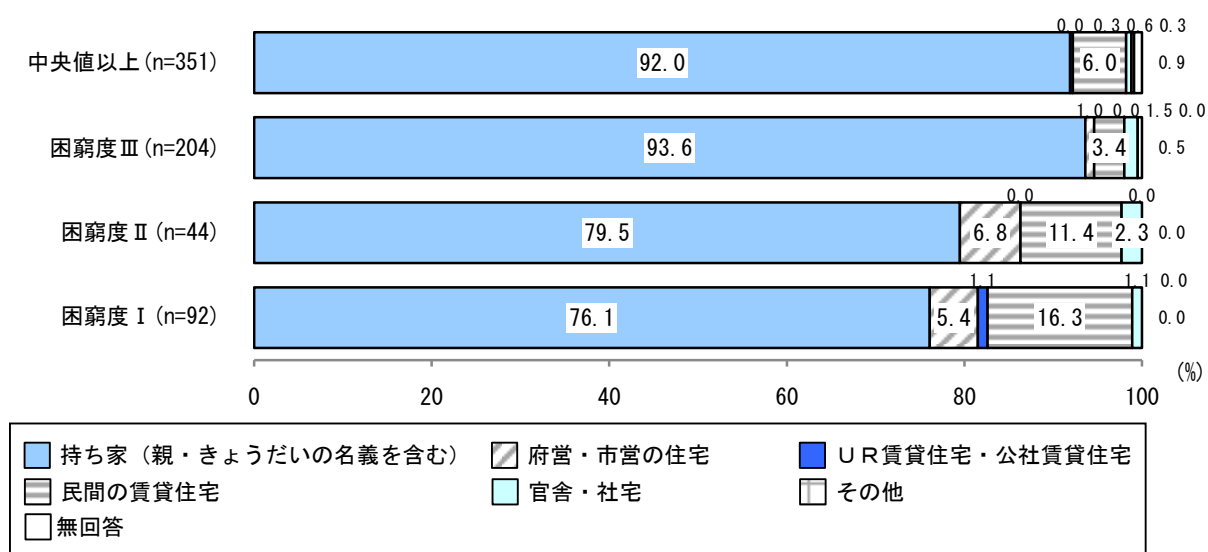
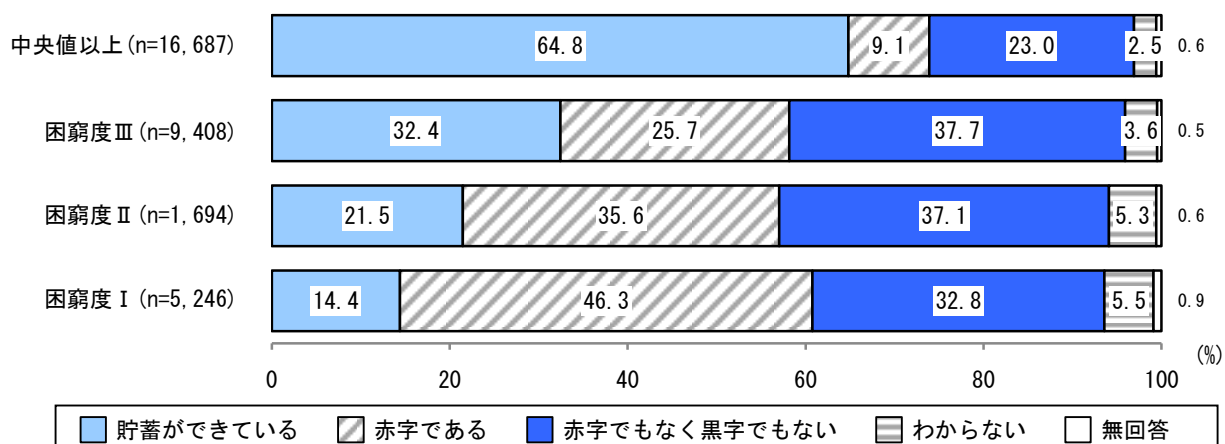


図 11. 困窮度別に見た、住居形態

困窮度別に住居形態を見ると、中央値以上群を除くと、困窮度が高まるにつれ「持ち家（親・きょうだいの名義を含む）」と回答した割合は低くなっている。

困窮度別に見た、家計の状況（保護者票問 6(1)）

<大阪府内全体>



<交野市>

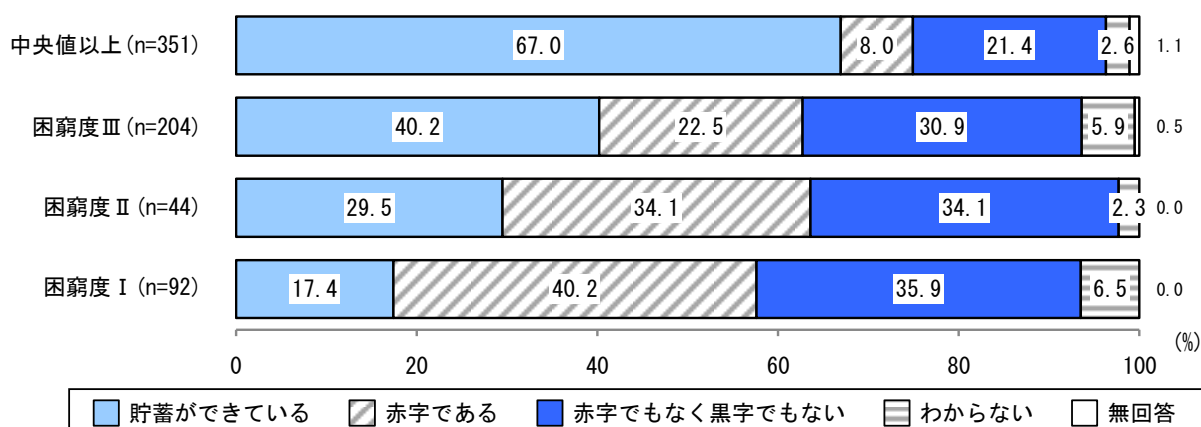
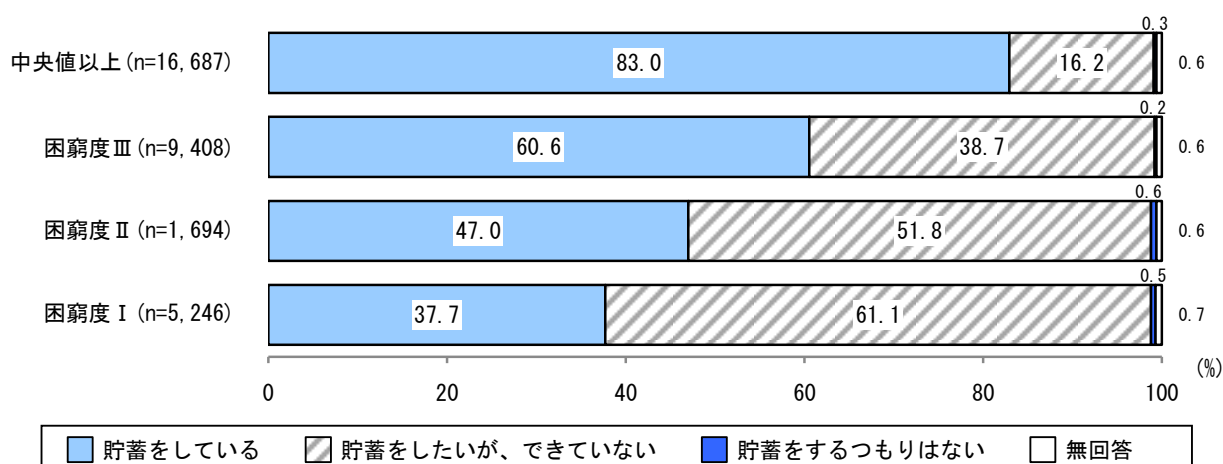


図 12. 困窮度別に見た、家計の状況

困窮度別に家計の状況を見ると、困窮度が高まるにつれ、「貯蓄ができている」と回答した割合は低くなり、一方で「赤字である」と回答した割合は高くなっている。中央値以上群では、「赤字である」と回答した割合は8.0%であるのに対し、困窮度Ⅰ群では40.2%と高くなっている。

困窮度別に見た、子どもの将来のための貯蓄状況（保護者票問 6(2)）

<大阪府内全体>



<交野市>

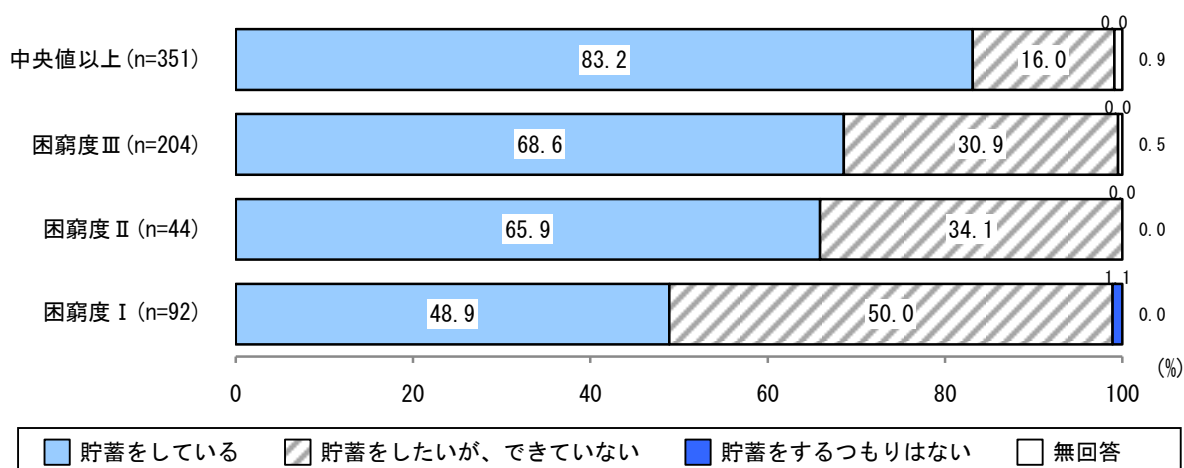
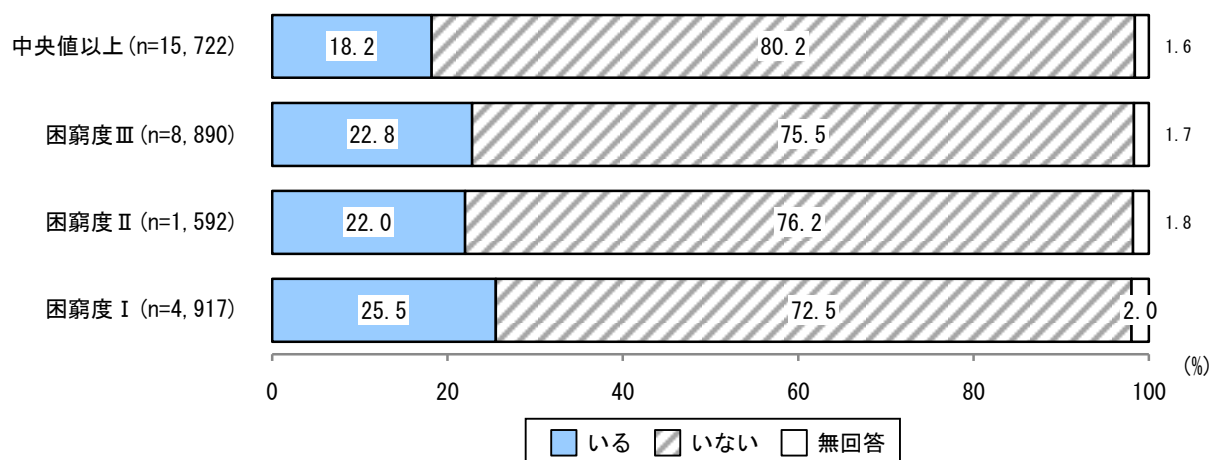


図 13. 困窮度別に見た、子どもの将来のための貯蓄状況

困窮度別に子どもの将来のための貯蓄状況を見ると、困窮度が高まるにつれ、「貯蓄をしたいが、できていない」と回答した割合が高くなっている。中央値以上群では、「貯蓄をしている」と回答した割合が83.2%を占めているが、困窮度Ⅰ群では48.9%にとどまり、5割が「貯蓄をしたいが、できていない」と回答している。

困窮度別に見た、自分が世話をしている人の有無（子ども票問 26(1)）

<大阪府内全体>



<交野市>

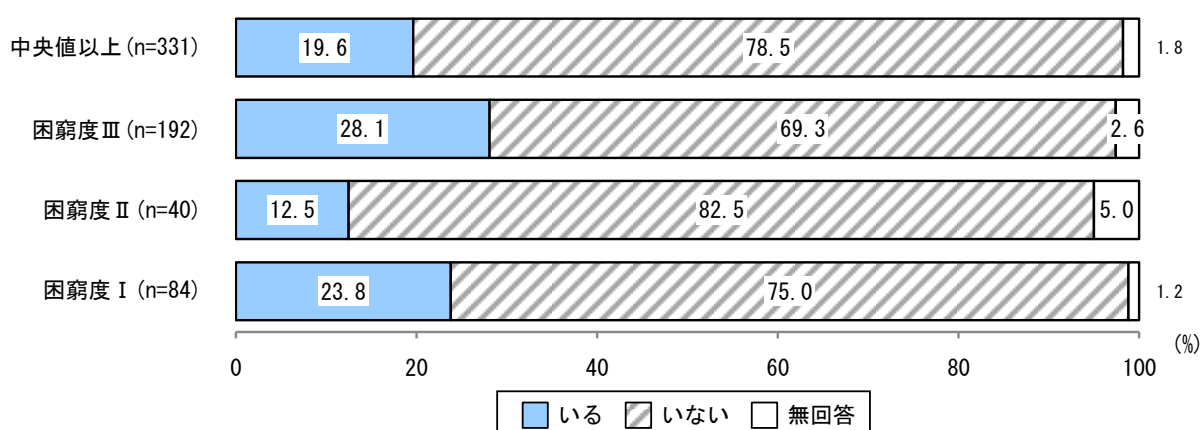


図 14. 困窮度別に見た、自分が世話をしている人の有無

困窮度別に自分が世話をしている人の有無を見ると、自分が世話をしている人が「いる」と回答した割合は困窮度Ⅲ群が28.1%で、最も高くなっている。困窮度Ⅱ群では、「いない」と回答する割合が82.5%を占め、最も高くなっている。

＜経済状況に関する考察＞

経済的理由で生じた生活上の困難についての質問項目は、現在の日本社会において、「通常であれば可能な生活」を基準に設定している。「どれもあてはまらない」という回答は、その基準に達していることを示すものであるが、中央値以上群で44.2%に対して、困窮度Ⅰ群では12.0%にすぎない。一方、困窮度が深刻化するにしたがい経済的理由から生活面での困難は増す傾向にあり、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「食費を切りつめた」(47.8%対19.9%)、「冷暖房の使用を控えた」(35.9%対18.8%)、「理髪店・美容院に行く回数を減らした」(43.5%対13.1%)と回答した割合が高くなっており、生活面で大きな格差が存在する。また、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「国民年金の支払いが滞ったことがある」(9.8%対0.6%)と回答した割合が高くなっており、子どもの親(保護者)の将来(老後)の生活困窮を示唆するデータであると言える。さらに、こういった経済状況は、親の心理的な面にも影響しており、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「生活の見通しがたたなくて不安になったことがある」(30.4%対4.8%)と回答した割合が高くなっている。これらの結果から、経済的困難な家庭では、生活費の切りつめや年金支払いの義務が果たせなくなることに加え、将来への不安感が多いことが示唆される。

世帯の経済状況は、子どもの教育にも影響を及ぼしていることが確認できる。主な項目をあげると、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「お子さんを習い事に通わすことができなかった」(21.7%対3.1%)、「お子さんを学習塾に通わせることができなかった」(34.8%対4.8%)、「お子さんのための本や絵本が買えなかった」(14.1%対2.3%)と回答した割合が高くなっており、子どもに与える教育の格差が示されている。これらの結果から、経済状況によって、子どもの学習環境、家族以外の社会的交流を行う機会が制限されることが示唆される。

同様に、学校以外での子どもの多様な「体験」の有無は、子どものヒューマンキャピタルの形成に影響を与えることが予想されるが、調査結果では、所得階群によって体験の機会に格差があることが示されている。具体的には、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「家族旅行(日帰りのおでかけを含む)ができなかった」(38.0%対7.1%)といった経験に大きな差がある。その一方、「どれにもあてはまらない」が、中央値以上群では78.3%であり、困窮度Ⅰ群でも47.8%ある。所得階群によって体験の機会に差が見られるが、どの階群においても子どもに対して様々な体験や勉強の機会が提供できている世帯も多数いるという点がデータから読み取れる。

また、「子どもの将来のための貯蓄状況」という質問項目に対して、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「貯蓄をしている」と回答した割合が高くなっている(83.2%対48.9%)。また、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「貯蓄をしたいが、できていない」と回答した割合が高くなっており(50.0%対16.0%)、貯蓄の状況に大きな差があることが確認できる。これらの結果から、経済的困難な家庭では、貯蓄不足により、将来子どもに起こり得るリスク(病気や進路選択など)に備えることや、子どもに対しての投資が難しくなると予想される。

近年、子どもの貧困やヤングケアラーへの社会的関心が深まりつつあり、厚生労働省と文部科学省が連携して行った全国調査では、ヤングケアラーと思われる子どもは小学6年生で6.5%(令和3年度実施)、中学2年生で5.7%(令和2年度実施)と報告されている(『ヤングケアラーの支援に向けた福祉・介護・医療・教育の連携プロジェクトチーム報告(令和3年5月17日)』)。全国調査の結果より、回答した小学6年生の15人に1人程度、中学2年生の17人に1人程度が家族の世話をしていることが明らかになった。

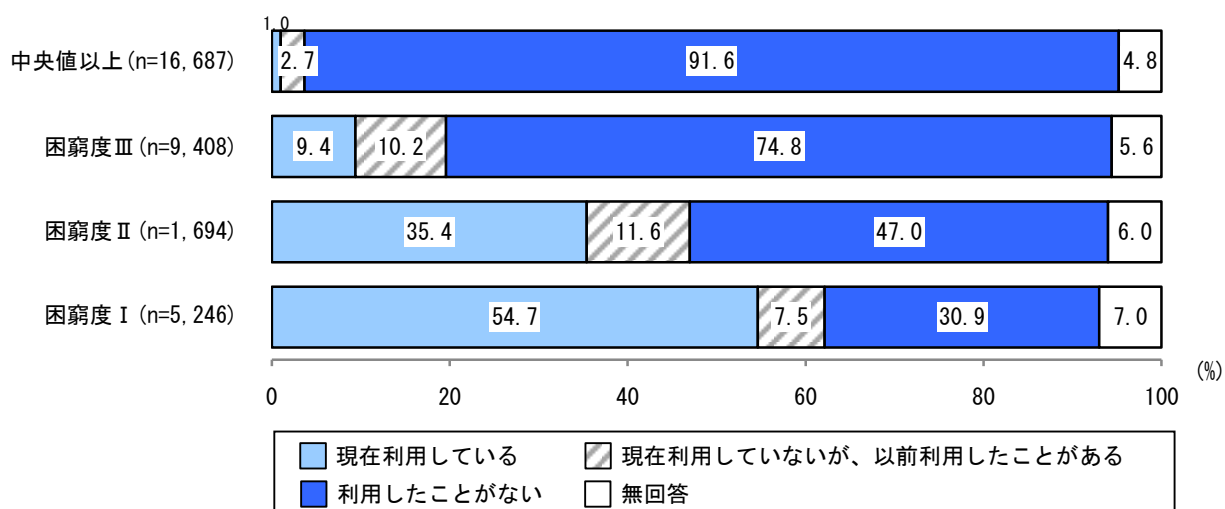
全国の状況を踏まえて、交野市が令和5年に実施した、小学5年生、中学2年生を対象とする本調査では、「自分が世話をしている人の有無」という質問に対して「いる」と答えている割合は、全体においては23.0%であるが、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べて「いる」と答えた割合がや

や高くなっている（23.8%対19.6%）。これは、困窮度Ⅰ群では、回答した4人に1人程度が、中央値以上群では、5人に1人程度が世話をしている人が「いる」と回答していることになる。これらの結果から、交野市ではヤングケアラーと思われる子どもの割合が高く、特に経済的困難な家庭ではその割合が高いことが読み取れる。

（２）家庭状況（制度等）

困窮度別に見た、就学援助の利用状況（保護者票問 23-a）

<大阪府内全体>



<交野市>

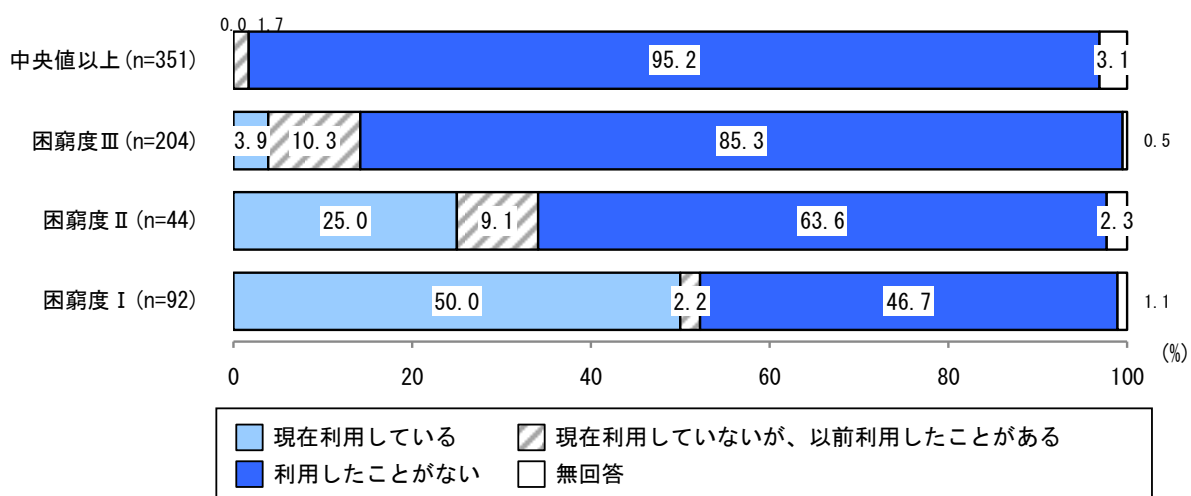
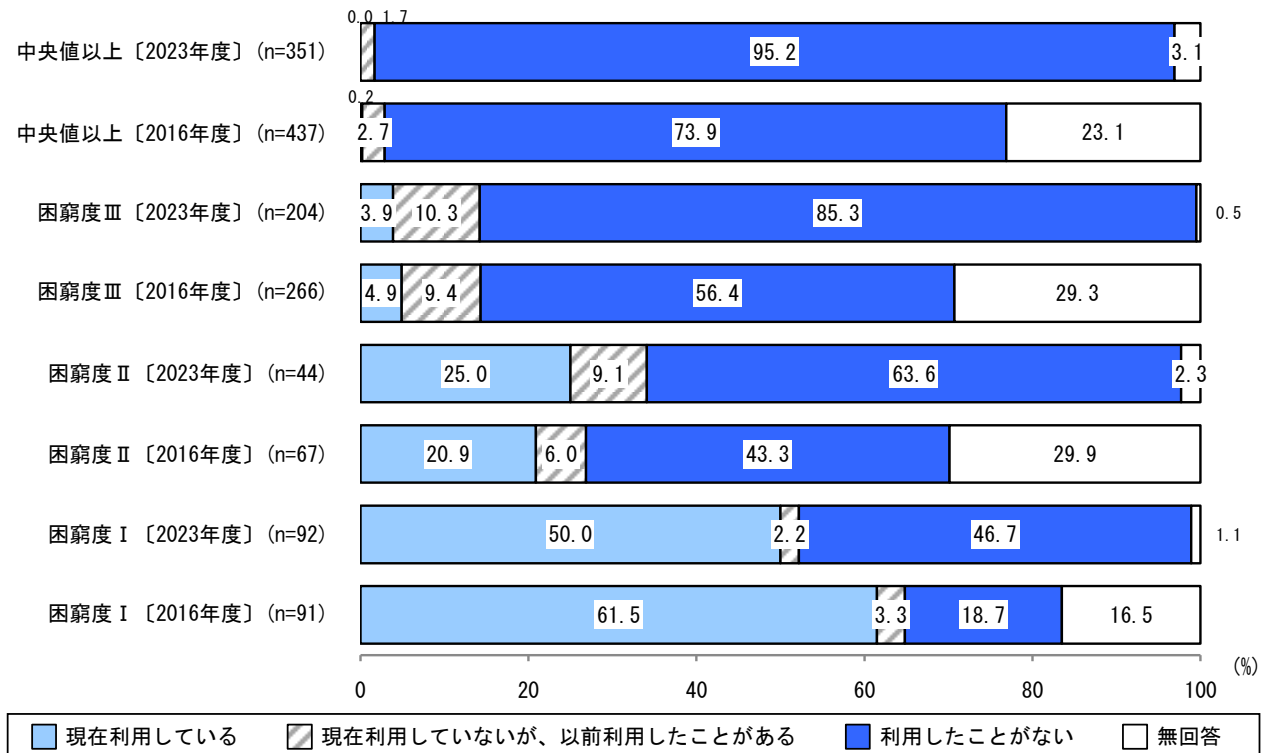


図 15. 困窮度別に見た、就学援助の利用状況

困窮度別に就学援助の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した割合は、中央値以上群では回答はみられず、困窮度が高まるにつれ割合は高くなっている。

<2016年度調査との比較／交野市>



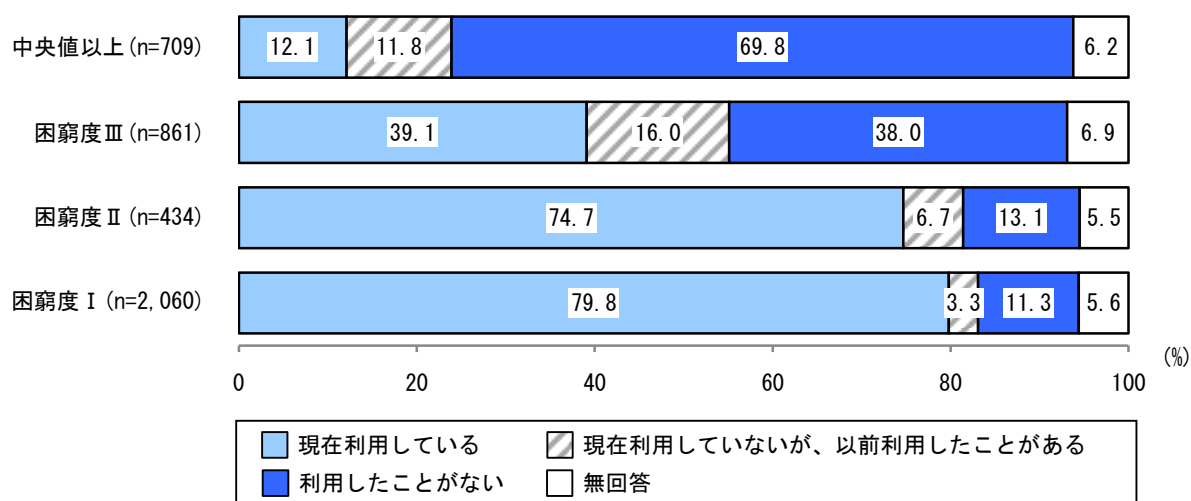
※ 2016年度調査では「受けている」「受けたことがある」「受けたことはない」

図 16. 困窮度別に見た、就学援助の利用状況（2016年度調査との比較）

2016年度調査と比較すると、「現在利用している」と回答した割合は、困窮度Ⅱ群では2016年度調査より高いが、それ以外の困窮度では2016年度調査に比べて低くなっており、一方で、「利用したことがない」は2016年度調査に比べて割合が高くなっている。

困窮度別に見た、児童扶養手当の利用状況（保護者票問 23-d）・ひとり親世帯のみ

<大阪府内全体>



<交野市>

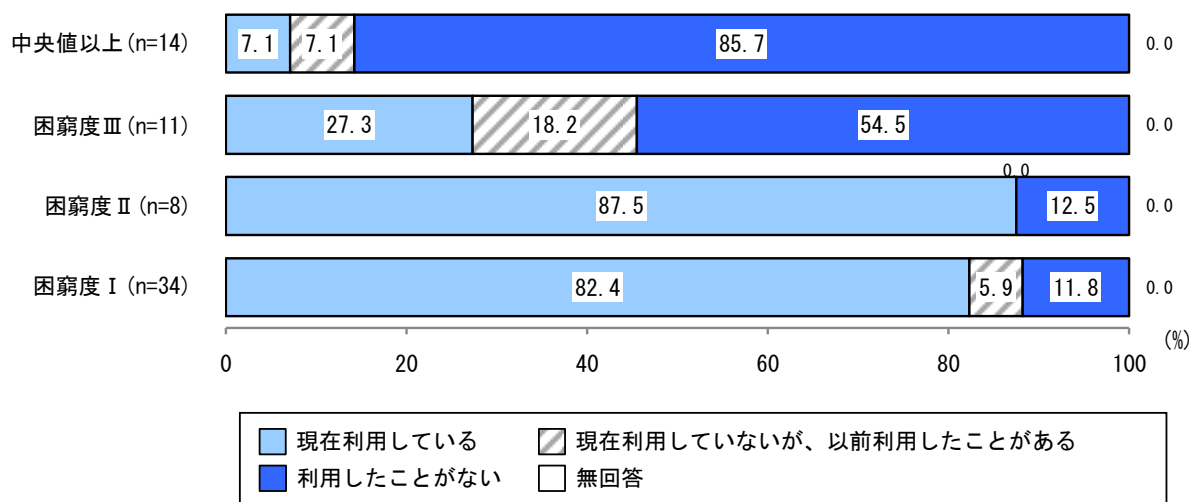
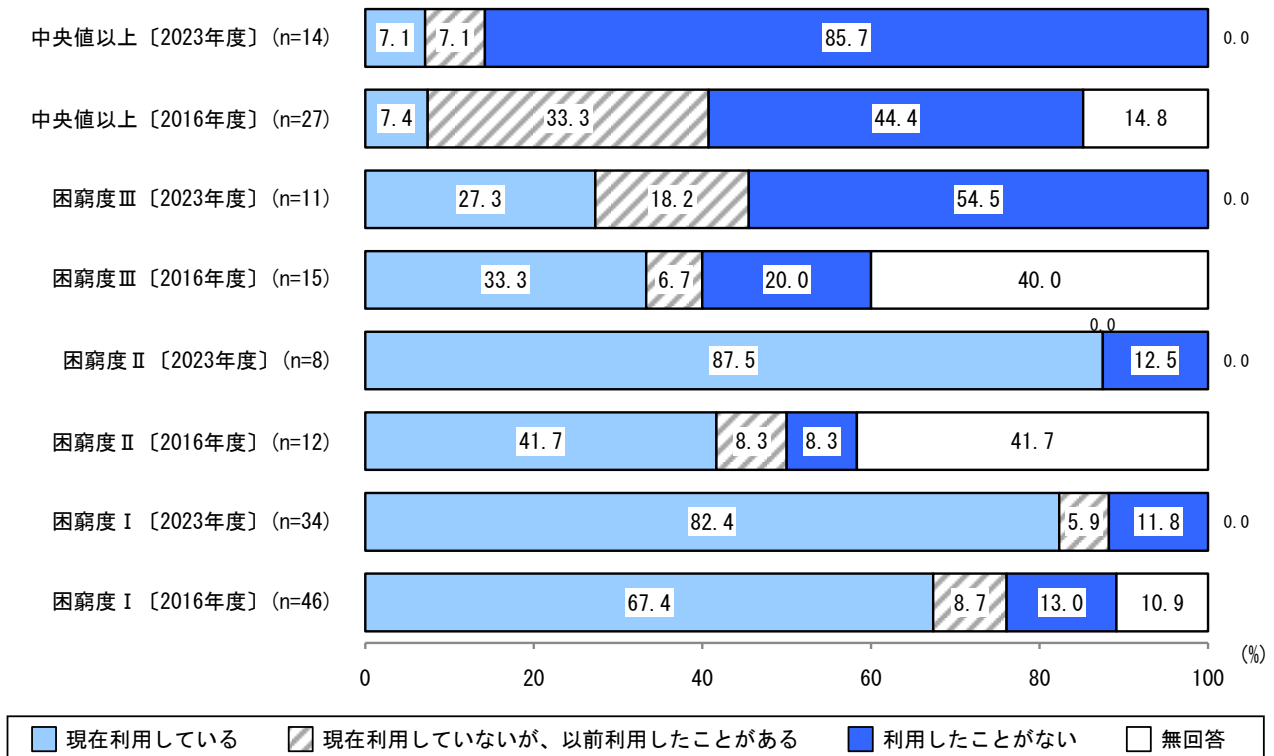


図 17. 困窮度別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）

ひとり親世帯の困窮度別に児童扶養手当の利用状況を見ると、困窮度が高まるにつれ、「利用したことがない」と回答した割合が低くなっている。また、「現在利用している」と回答した割合は、中央値以上群が7.1%であるのに対し、困窮度Ⅱ群では87.5%と高くなっている。

<2016年度調査との比較／交野市>



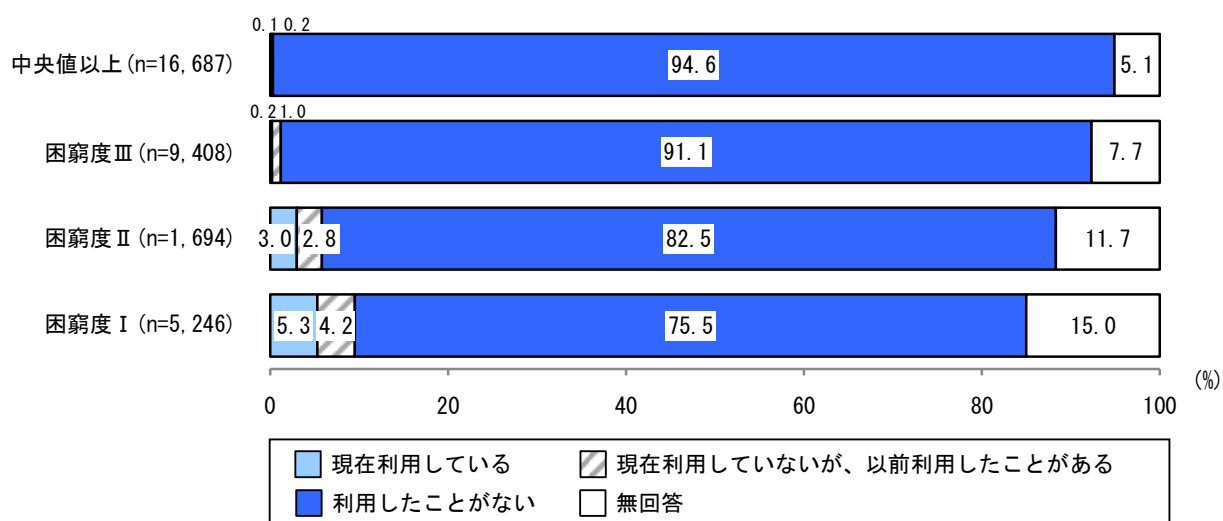
※ 2016年度調査では「受けている」「受けたことがある」「受けたことはない」

図 18. 困窮度別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）（2016年度調査との比較）

2016年度調査と比較すると、「現在利用している」と回答した割合は、困窮度Ⅰ・Ⅱ群では2016年度調査より割合が高いが、それ以外の困窮度では2016年度調査よりも低くなっている。

困窮度別に見た、生活保護の利用状況（保護者票問 23-b）

<大阪府内全体>



<交野市>

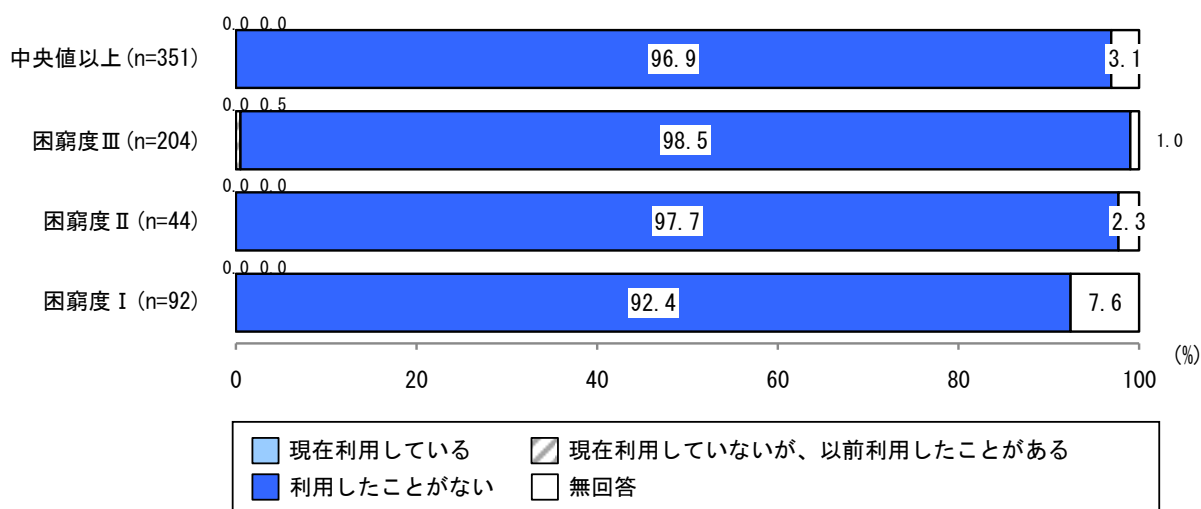
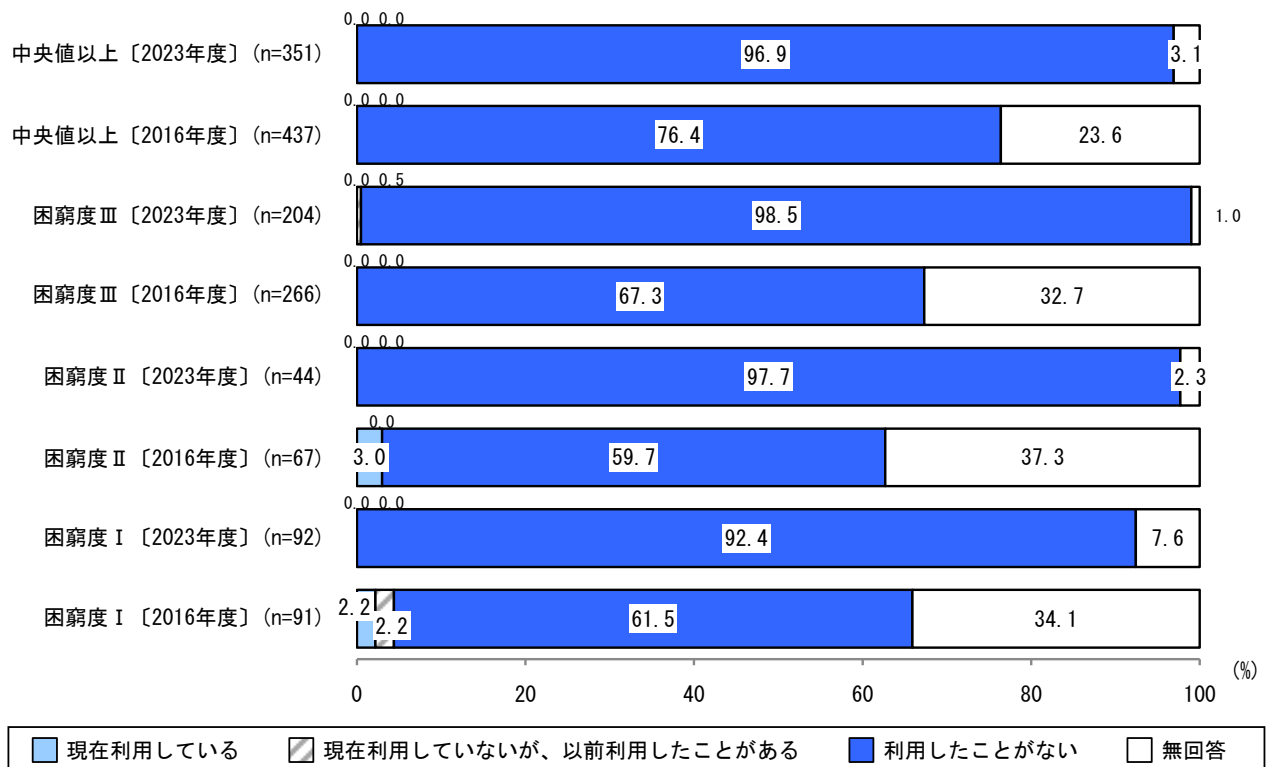


図 19. 困窮度別に見た、生活保護の利用状況

困窮度別に生活保護の利用状況を見ても、困窮度による大きな差はみられず、「利用したことがない」が9割以上を占めている。

<2016年度調査との比較／交野市>



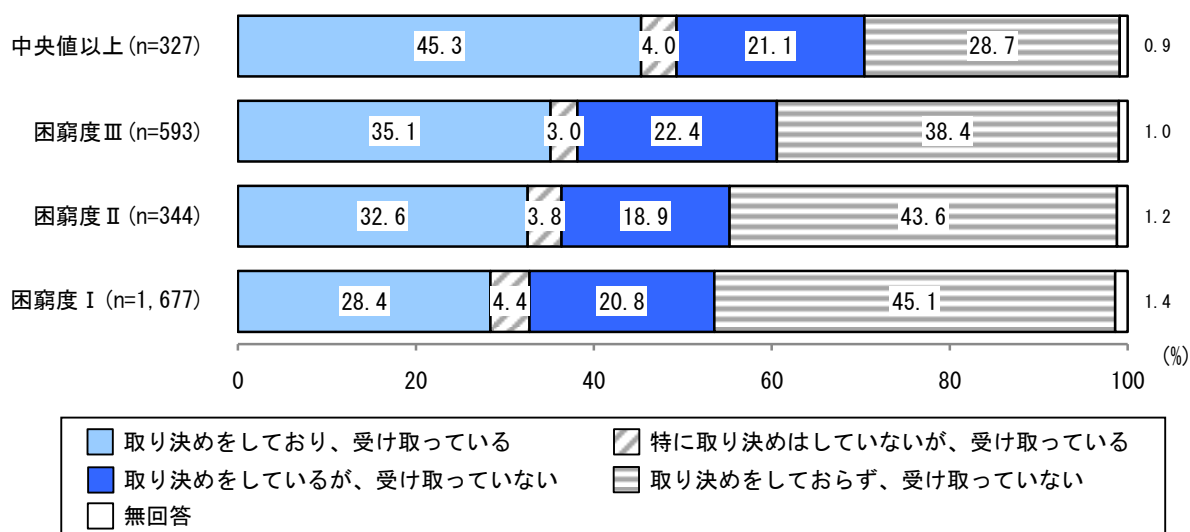
※ 2016年度調査では「受けている」「受けたことがある」「受けたことはない」

図 20. 困窮度別に見た、生活保護の利用状況（2016年度調査との比較）

2016年度調査と比較すると、「現在利用している」と回答した割合は、いずれの困窮度も2016年度調査より割合が低くなっている。

困窮度別に見た、離婚相手との養育費の取り決めや受け取り（保護者票問4）・ひとり親世帯のみ

<大阪府内全体>



<交野市>

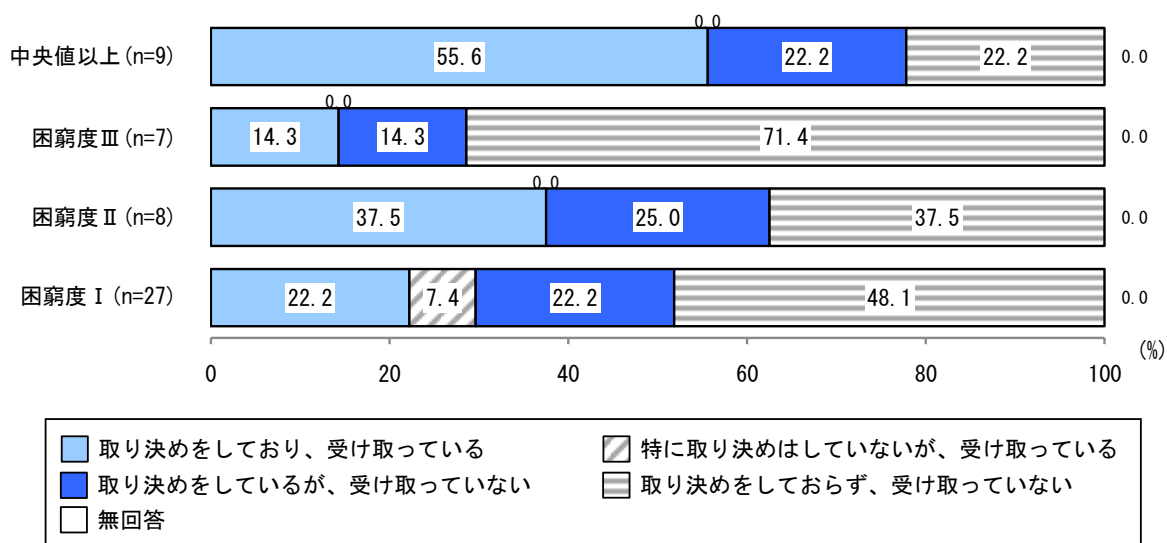
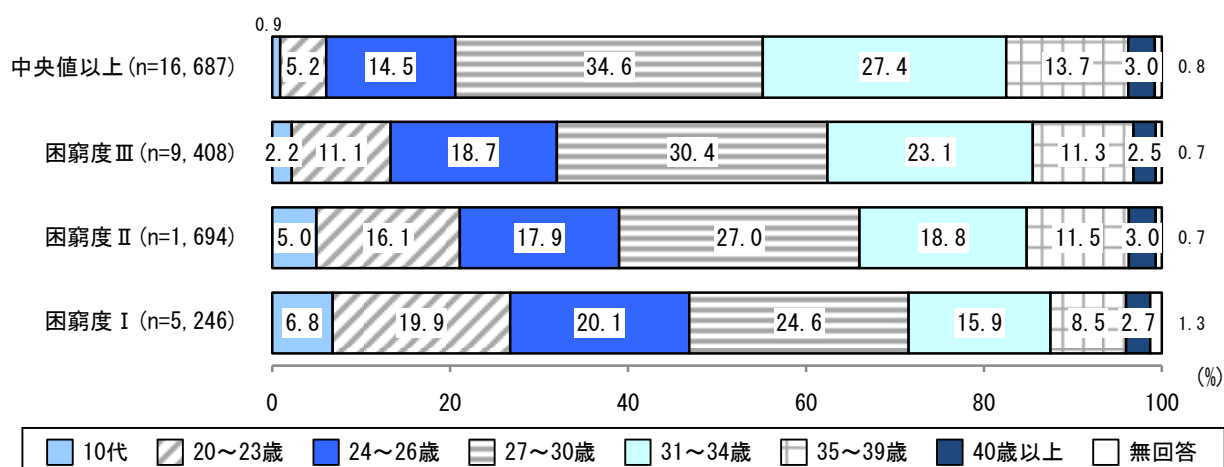


図 21. 困窮度別に見た、離婚相手との養育費の取り決めや受け取り（ひとり親世帯のみ）

ひとり親世帯の困窮度別に離婚相手との養育費の取り決めや受け取りを見ると、「取り決めをしており、受け取っている」と回答した割合は、中央値以上群が55.6%であるのに対し、困窮度Ⅲ群は14.3%と低くなっている。また、養育費を受け取っていないと回答した割合は困窮度Ⅲ群が85.7%（「取り決めをしているが、受け取っていない」14.3%、「取り決めをしておらず、受け取っていない」71.4%）で、最も高くなっている。

困窮度別に見た、初めて親となった年齢（保護者票問 17）

<大阪府内全体>



<交野市>

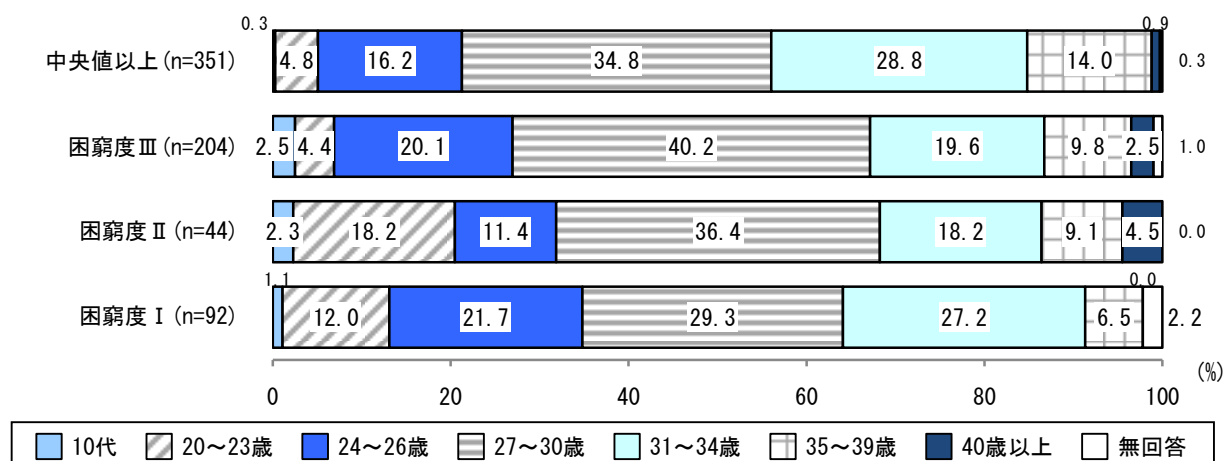
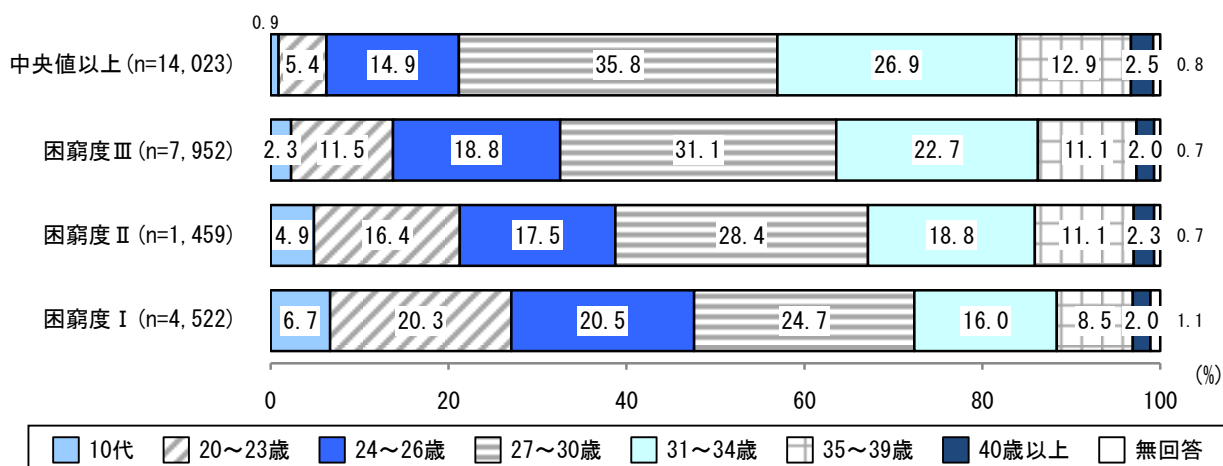


図 22. 困窮度別に見た、初めて親となった年齢

全ての回答者を対象として、困窮度別に初めて親となった年齢を見ると、23歳までに初めて親となったと回答した割合は、中央値以上群が5.1%（「10代」0.3%、「20～23歳」4.8%）であるのに対し、困窮度Ⅱ群は20.5%（「10代」2.3%、「20～23歳」18.2%）と高くなっている。

困窮度別に見た、初めて親となった年齢（保護者票問 17）・母親の回答者のみ

<大阪府内全体>



<交野市>

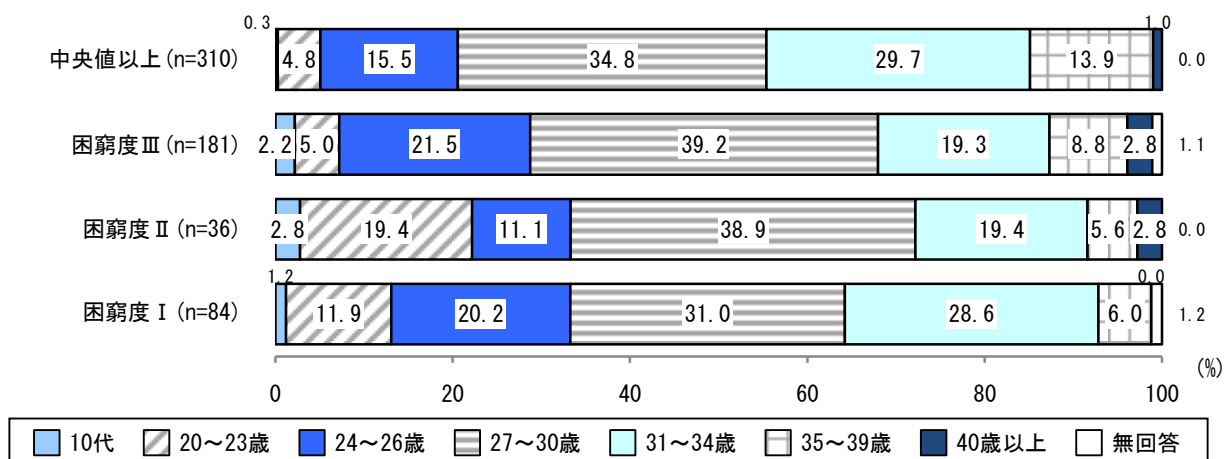
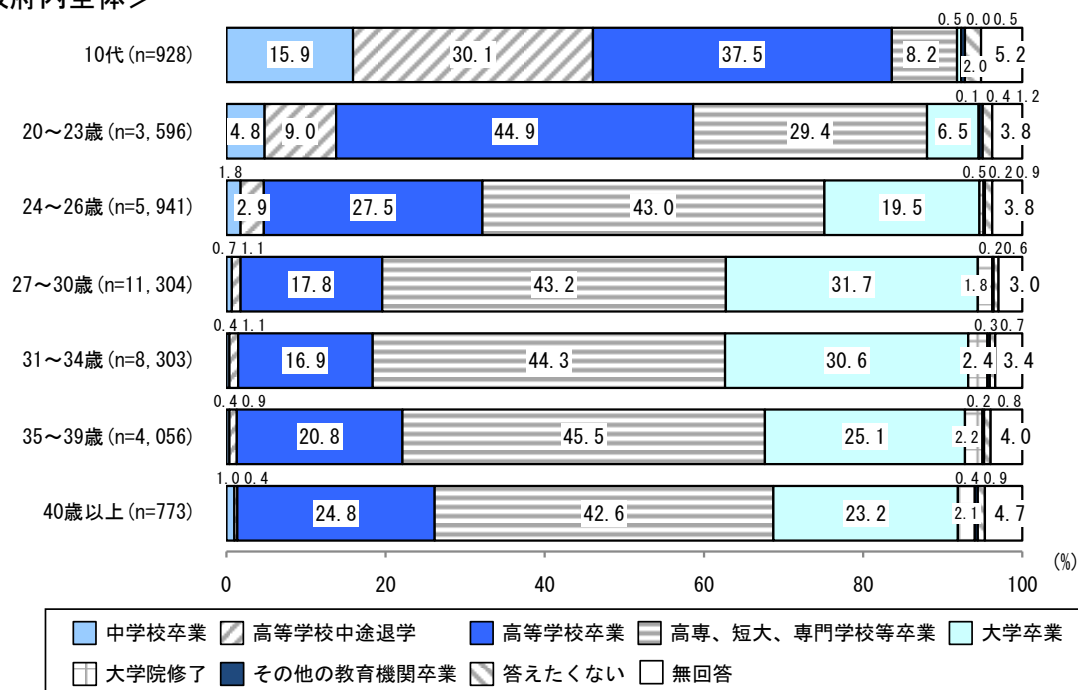


図 23. 困窮度別に見た、初めて親となった年齢（母親の回答者のみ）

母親回答者を対象として、困窮度別に初めて親となった年齢を見ると、23歳までに初めて親となったと回答した割合は、中央値以上群が5.1%（「10代」0.3%、「20～23歳」4.8%）であるのに対し、困窮度Ⅱ群は22.2%（「10代」2.8%、「20～23歳」19.4%）と高くなっている。

初めて親となった年齢別に見た、お母さんの最終学歴（保護者票問 17×保護者票問 8）
※母親の回答者のみ

<大阪府内全体>



<交野市>

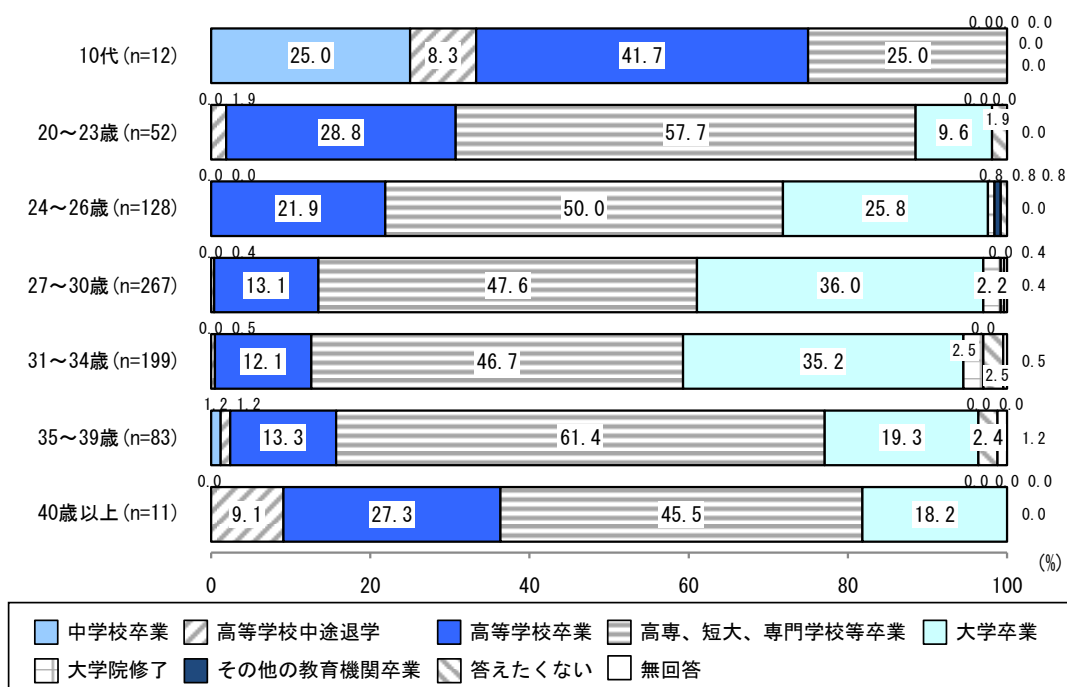
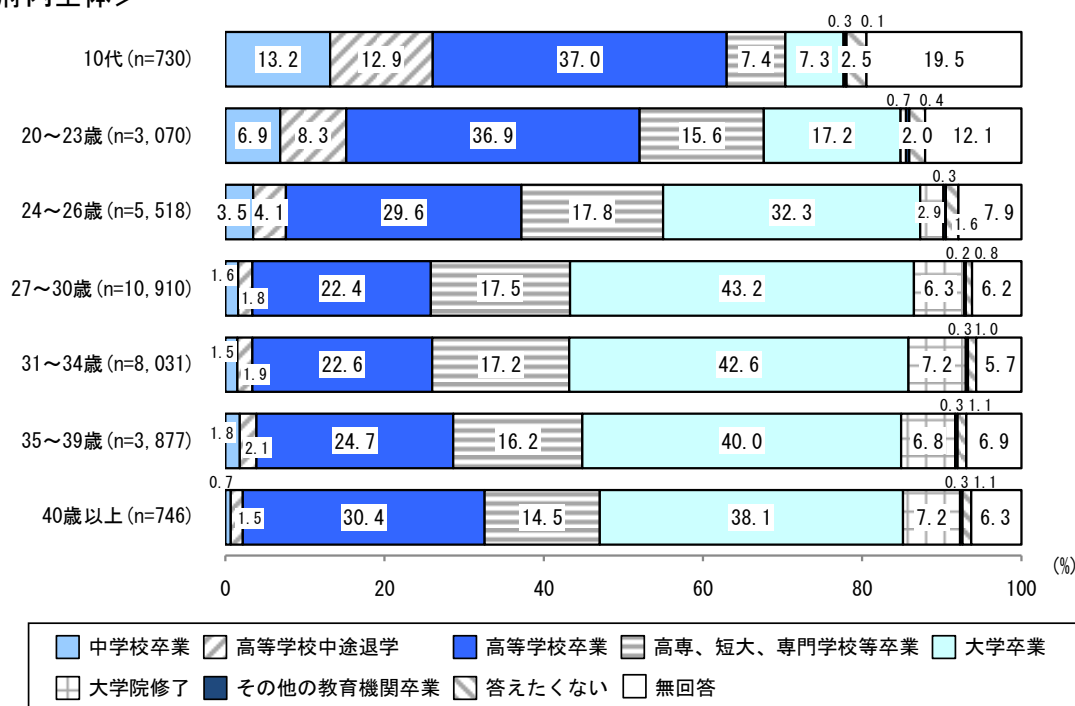


図 24. 初めて親となった年齢別に見た、お母さんの最終学歴（母親の回答者のみ）

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢別に母親自身の最終学歴を見ると、「中学校卒業」と回答した割合は、10代が25.0%で最も高くなっている。

初めて親となった年齢別に見た、お父さんの最終学歴（保護者票問 17×保護者票問 8）
※母親の回答者のみ

<大阪府内全体>



<交野市>

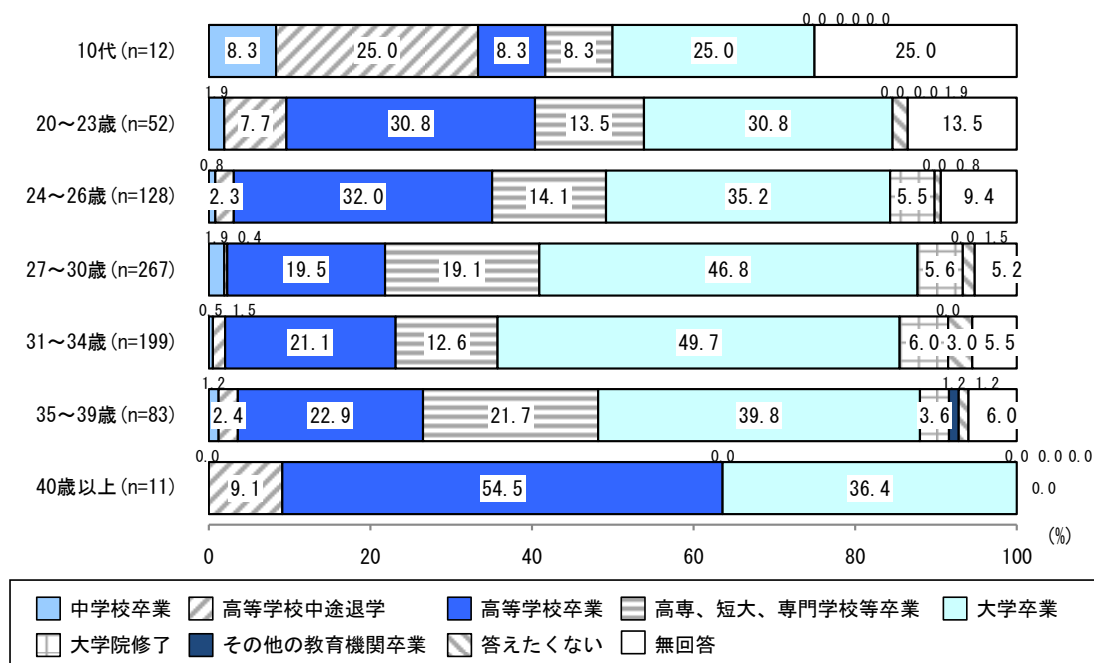
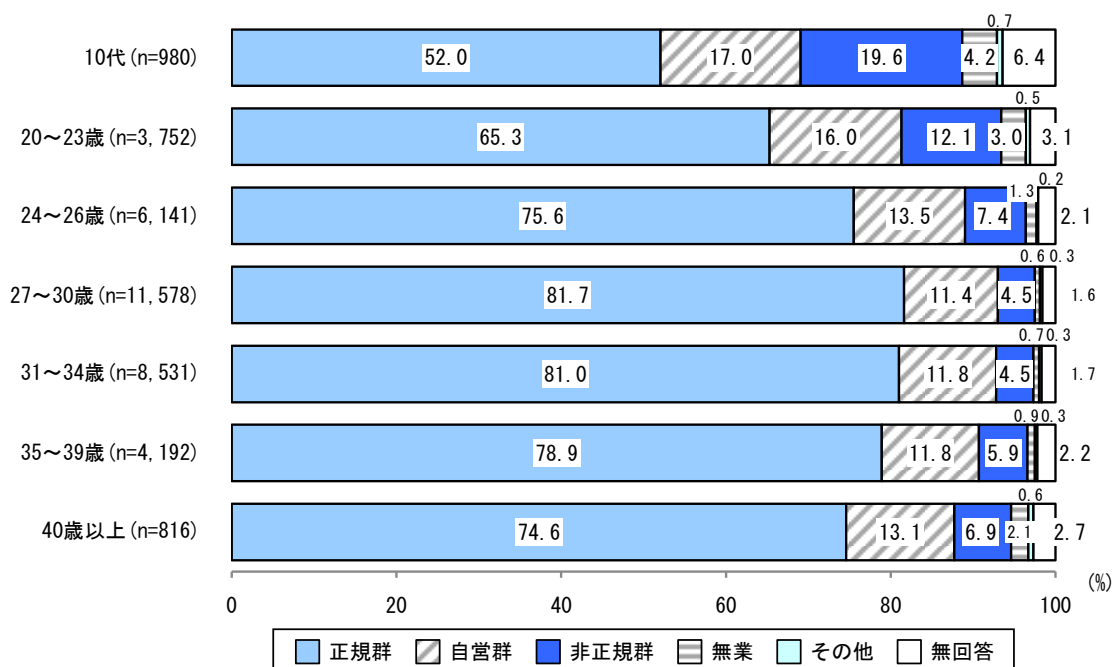


図 25. 初めて親となった年齢別に見た、お父さんの最終学歴（母親の回答者のみ）

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢別に父親の最終学歴を見ると、「中学校卒業」、「高等学校中途退学」と回答した割合は、10代が8.3%・25.0%で、それぞれ最も高くなっている。

初めて親となった年齢別に見た、就労状況（保護者票問 17×保護者票問 9）
※母親の回答者のみ

<大阪府内全体>



<交野市>

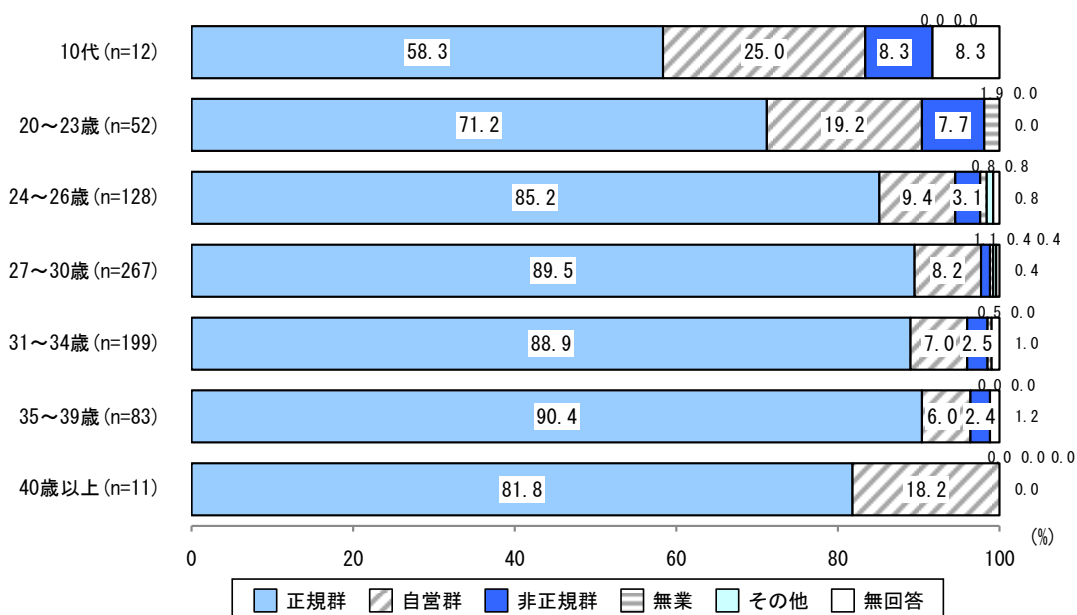
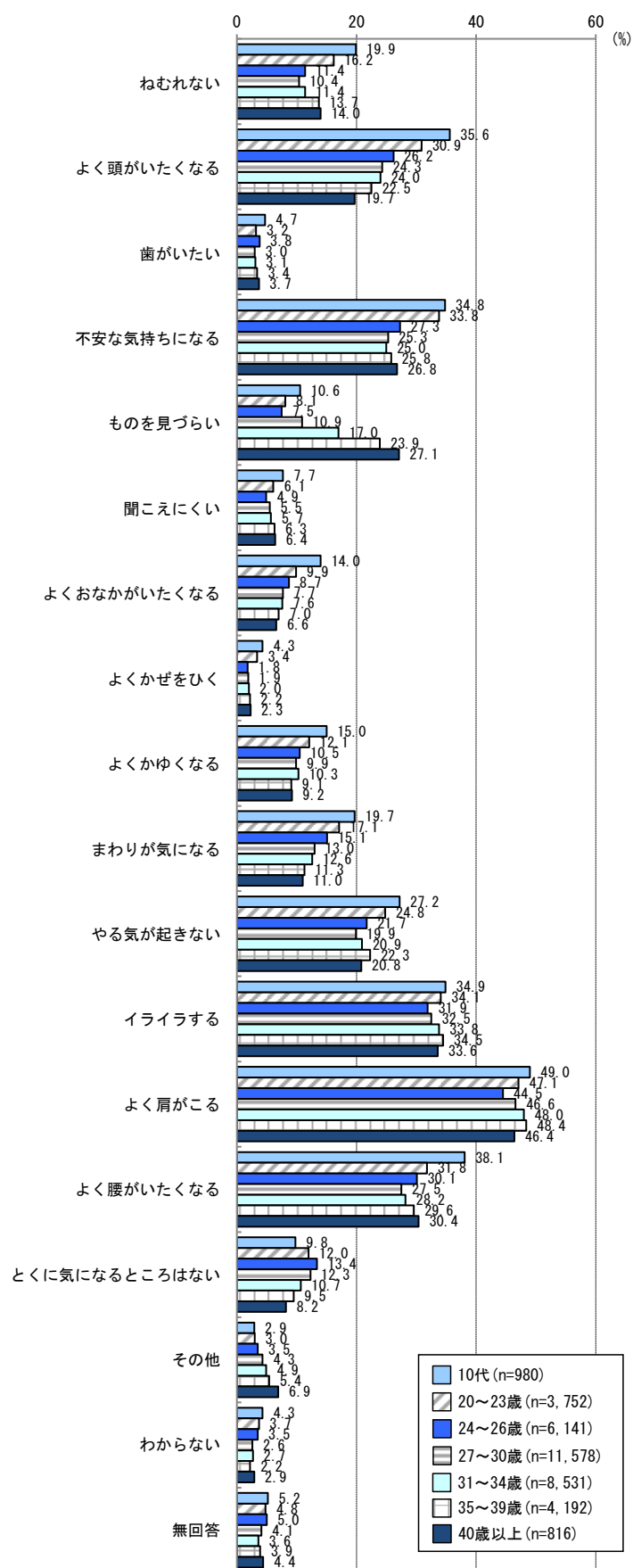


図 26. 初めて親となった年齢別に見た、就労状況（母親の回答者のみ）

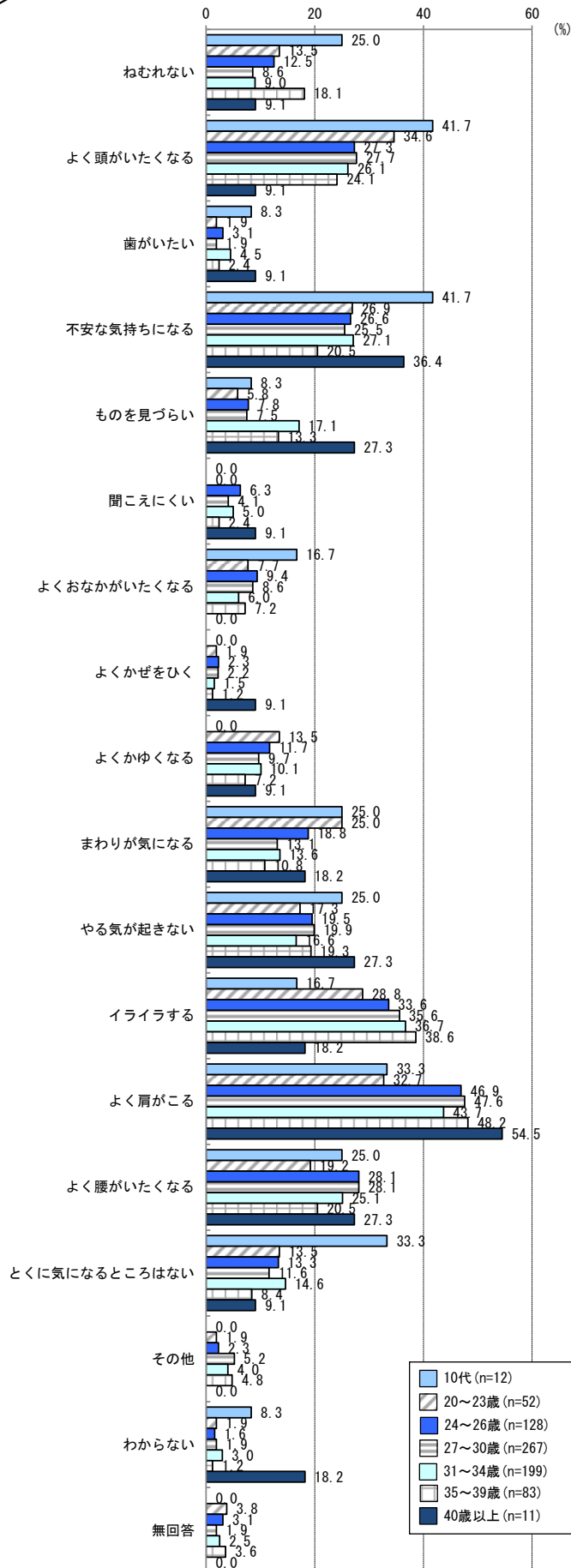
母親回答者を対象として、初めて親となった年齢別に就労状況を見ると、10代は他の群と比較して「正規群」と回答した割合が低く、「自営群」、「非正規群」の割合が高くなっている。

初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること
 (保護者票問 17×保護者票問 22) ※母親の回答者のみ

<大阪府内全体>



<交野市>

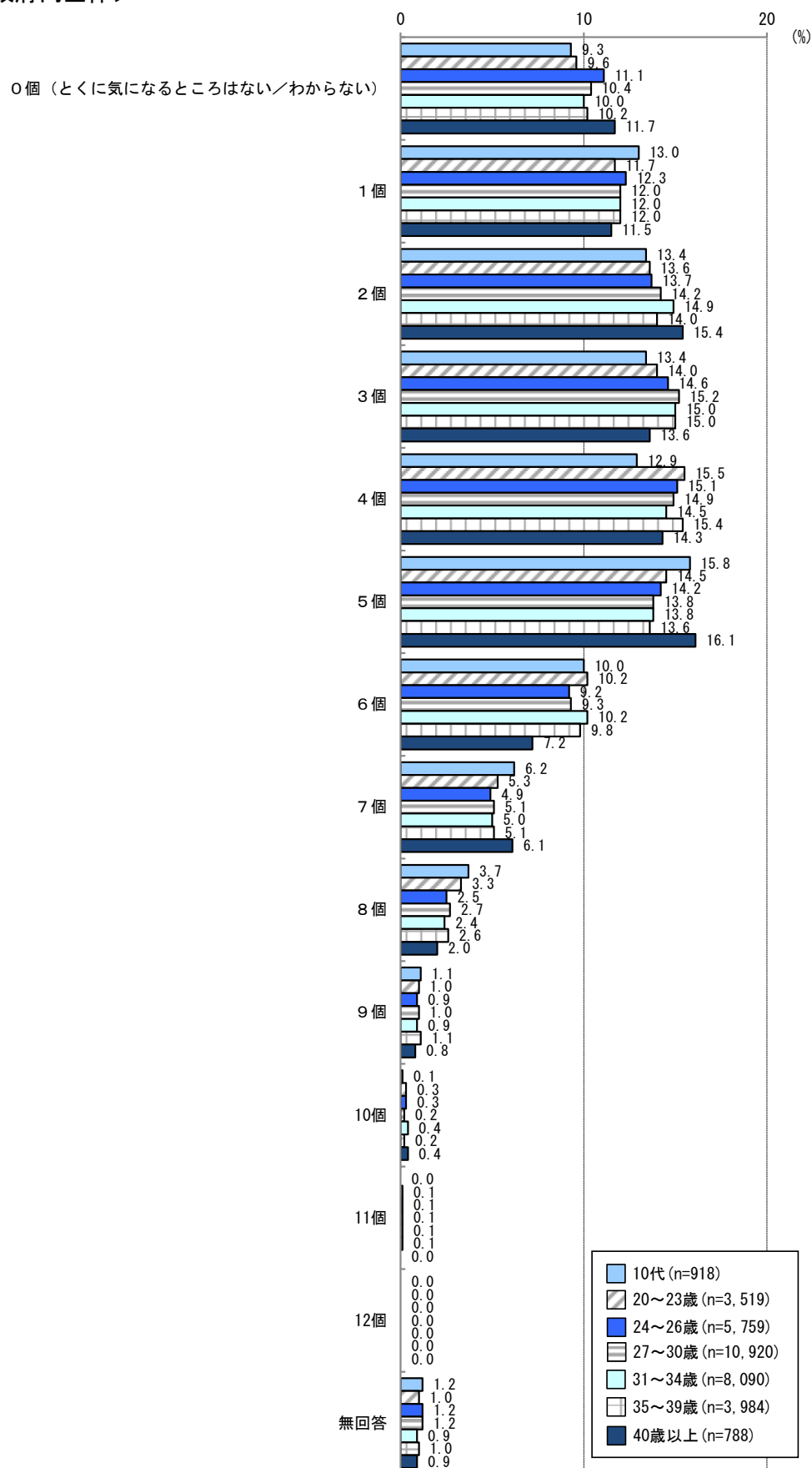


母親回答者を対象として、初めて親となった年齢別に自分の体や気持ちで気になることを見ると、「不安な気持ちになる」と回答した割合は、10代が41.7%、40歳以上が36.4%で、他の年齢が30.0%未満であるのに対し、高くなっている。

図 27. 初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること（母親の回答者のみ）

初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数（保護者票問 17
× 子ども票問 19・20） ※母親の回答者のみ

<大阪府内全体>



<交野市>

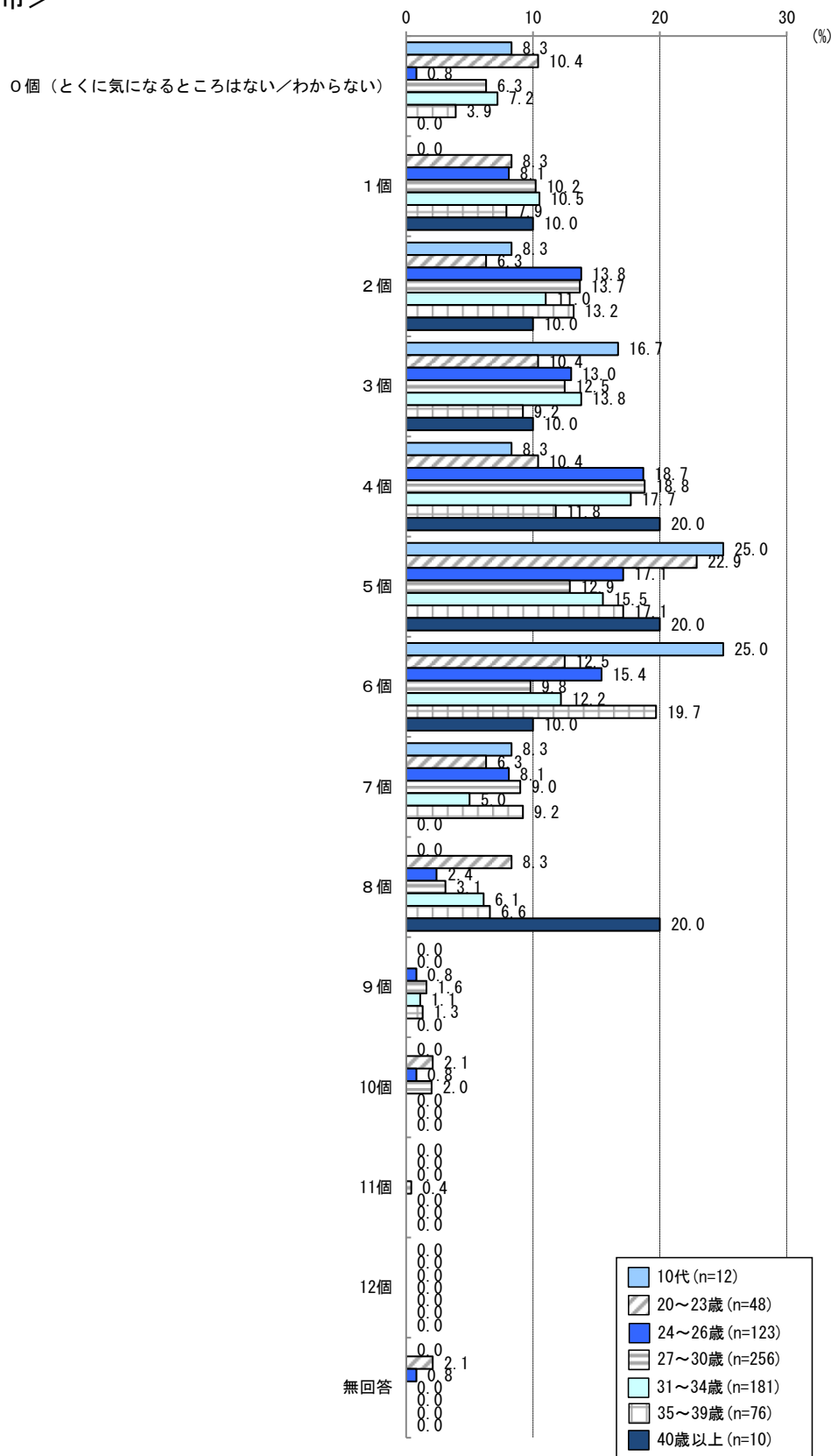
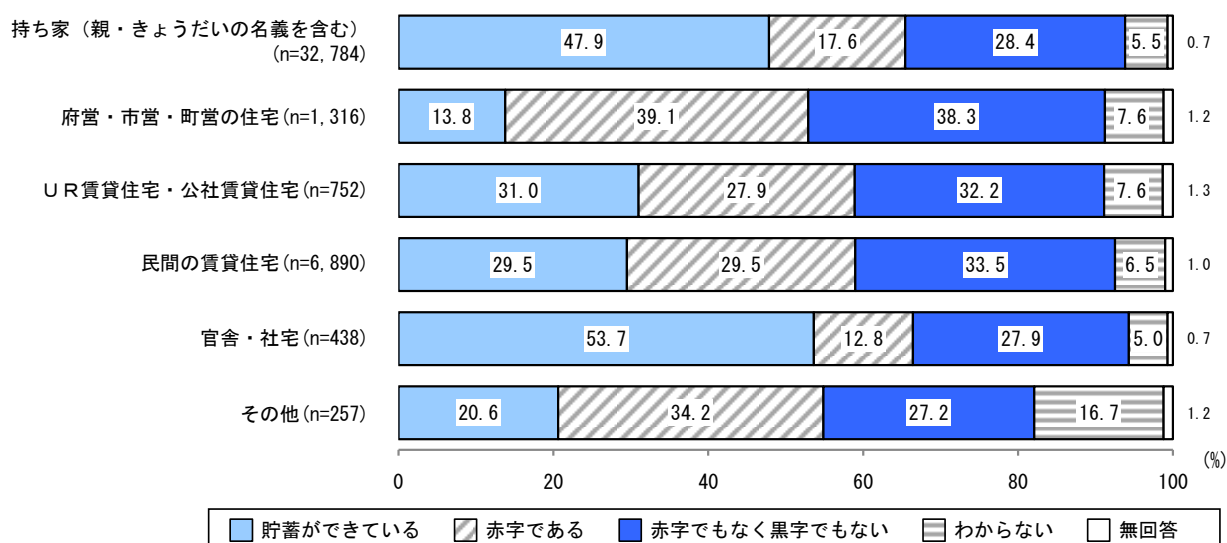


図 28. 初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数（母親の回答者のみ）

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢別に自分の体や気持ちで気になることの該当数を見ると、10代は、他の年齢と比較して「5個」「6個」と回答した割合が最も高かった。

住居形態別に見た、家計の状況（保護者票問5×保護者票問6(1)）

＜大阪府内全体＞



＜交野市＞

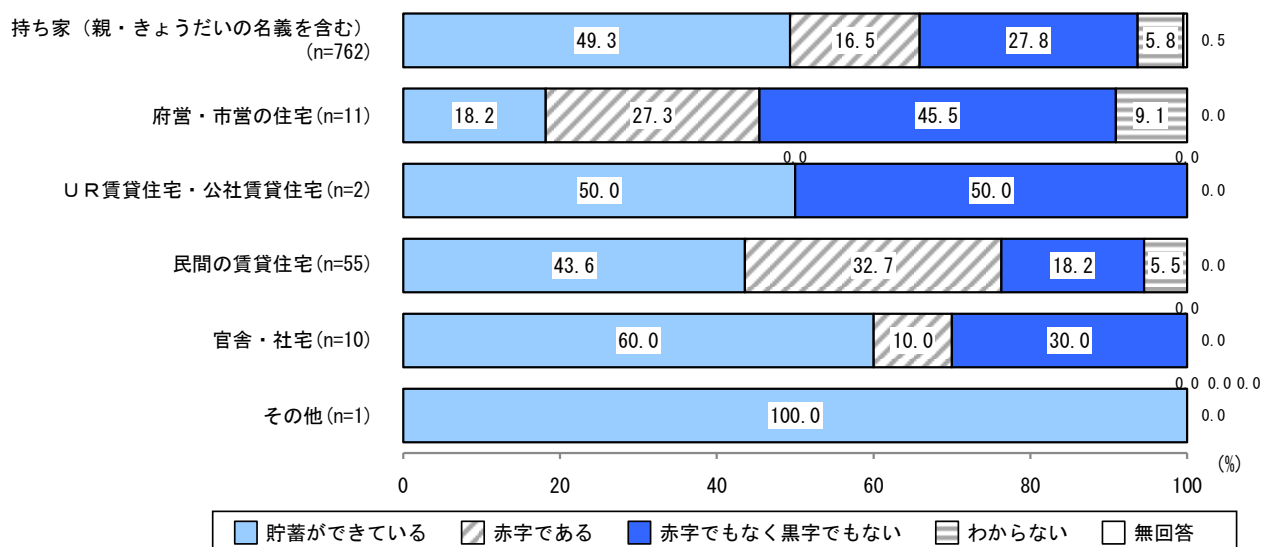
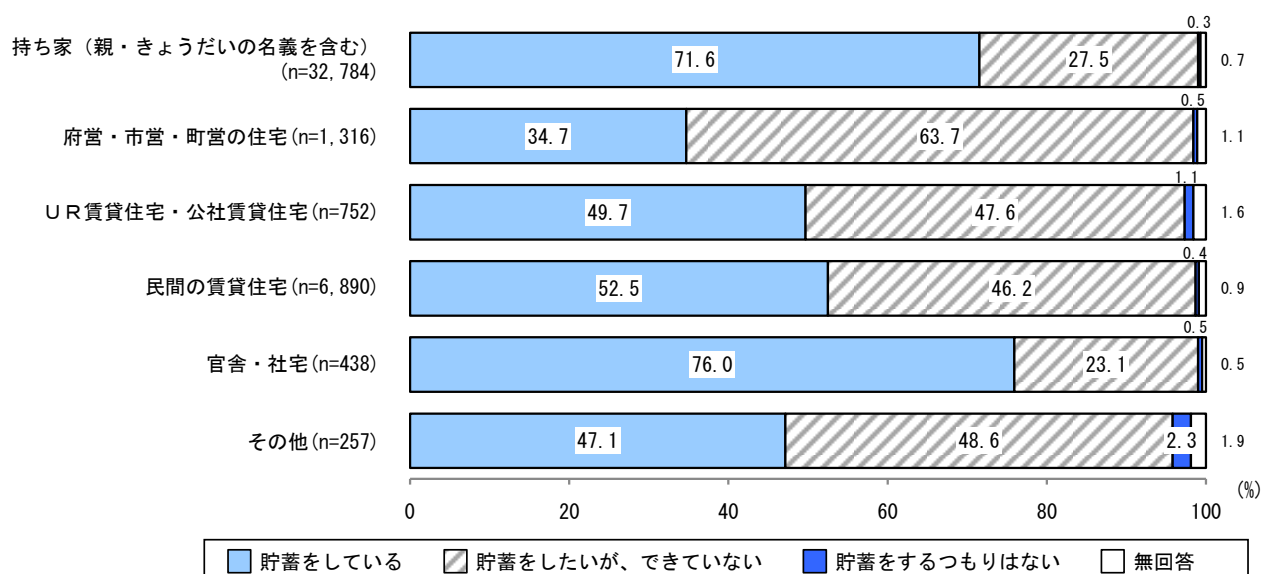


図 29. 住居形態別に見た、家計の状況

住居別到家計状況を見ると、「貯蓄ができている」と回答した割合は、府営・市営の住宅に住む人が18.2%で、最も低くなっている。

住居形態別に見た、子どもの将来のための貯蓄状況（保護者票問5×保護者票問6(2)）

<大阪府内全体>



<交野市>

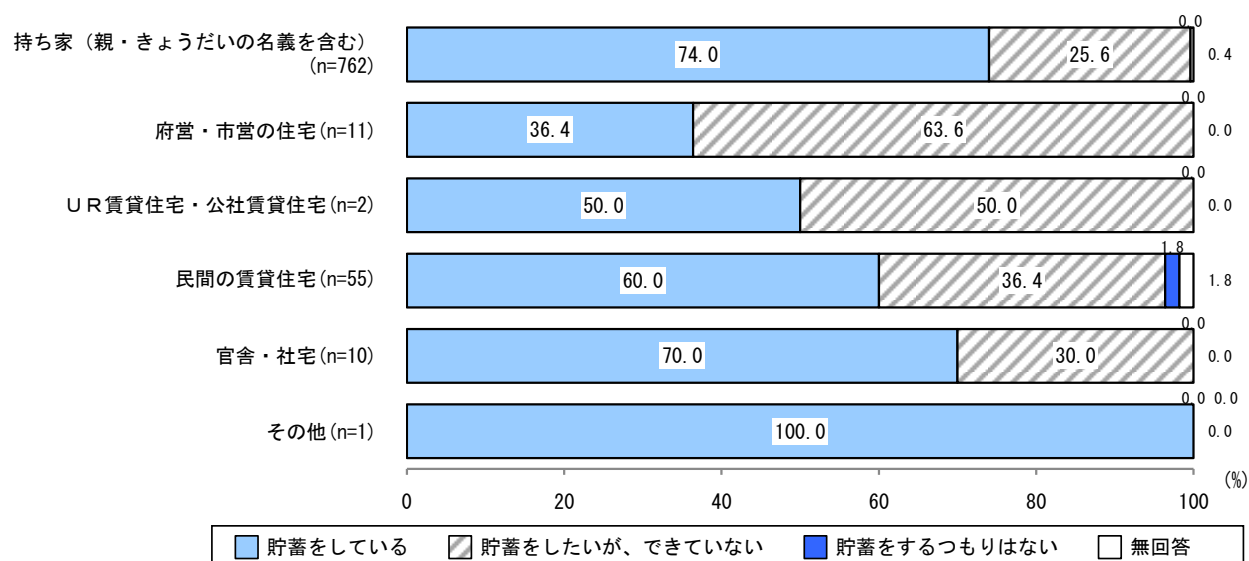
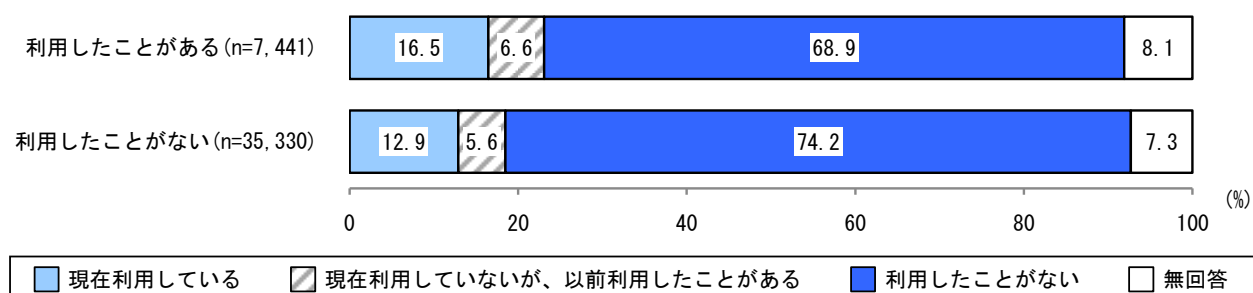


図 30. 住居形態別に見た、子どもの将来のための貯蓄状況

住居形態別に子どもの将来のための貯蓄状況を見ると、「貯蓄をしている」と回答した割合は、持ち家（親・きょうだいの名義を含む）に住む人が74.0%であるのに対し、府営・市営の住宅に住む人は36.4%と低くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、就学援助の利用状況
(保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-a)

<大阪府内全体>



<交野市>

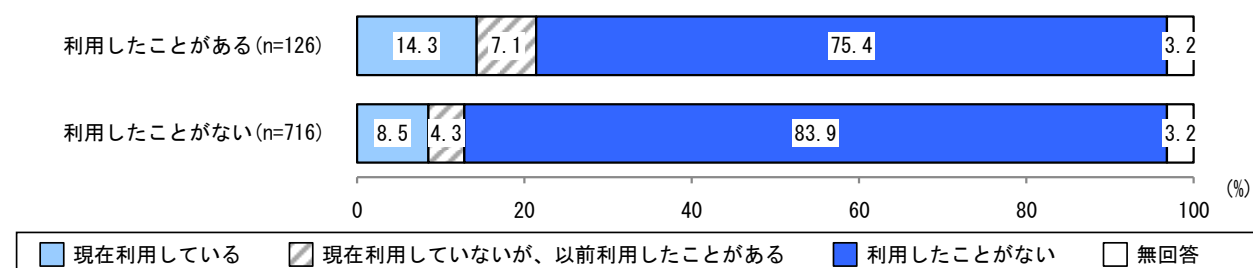
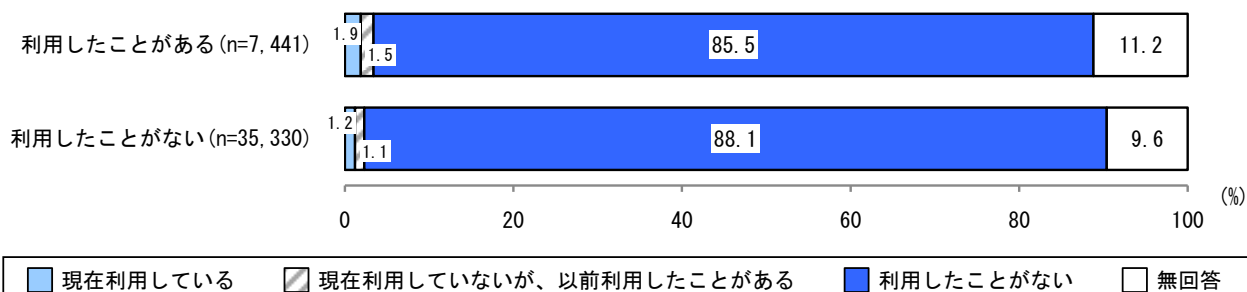


図 31. 子どもの居場所の利用経験別に見た、就学援助の利用状況

子どもの居場所の利用経験別に就学援助の利用状況を見ると、子どもの居場所を利用したことがない人より利用したことがある人のほうが就学援助を「現在利用している」、「現在利用していないが、以前利用したことがある」と回答した割合がやや高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、生活保護の利用状況
(保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-b)

<大阪府内全体>



<交野市>

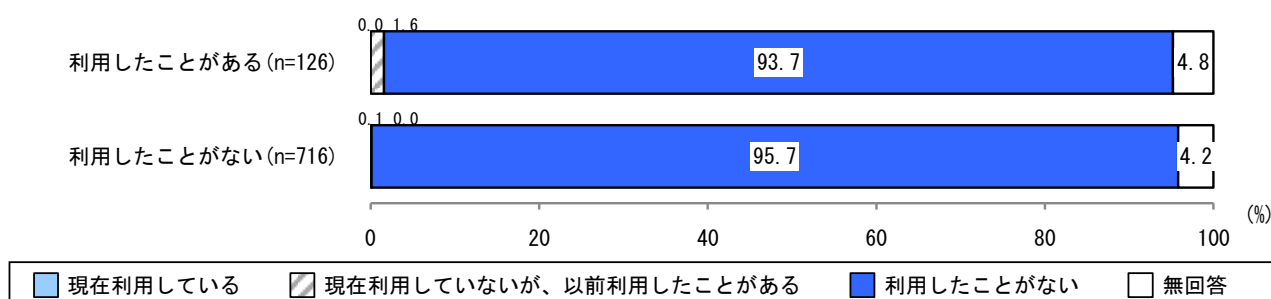
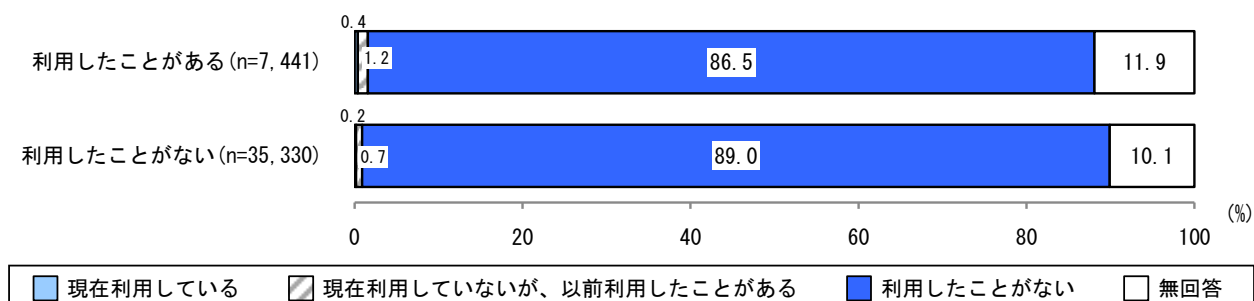


図 32. 子どもの居場所の利用経験別に見た、生活保護の利用状況

子どもの居場所の利用経験別に生活保護の利用状況を見ても、子どもの居場所の利用経験の有無による大きな差はみられなかった。

子どもの居場所の利用経験別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況
(保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-c)

<大阪府内全体>



<交野市>

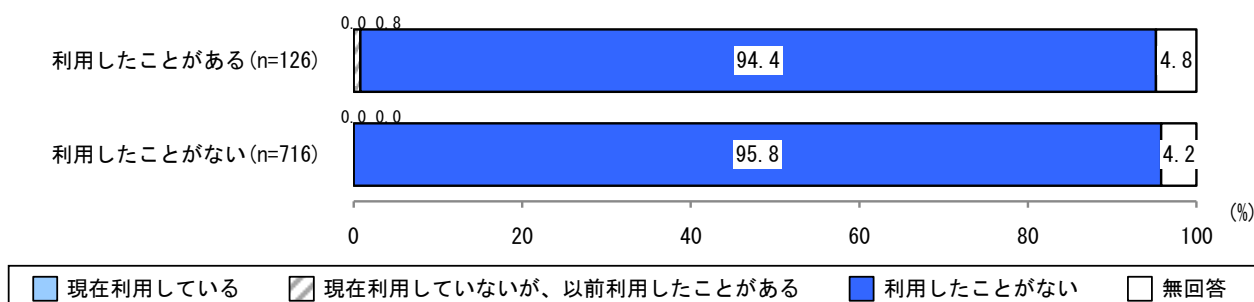
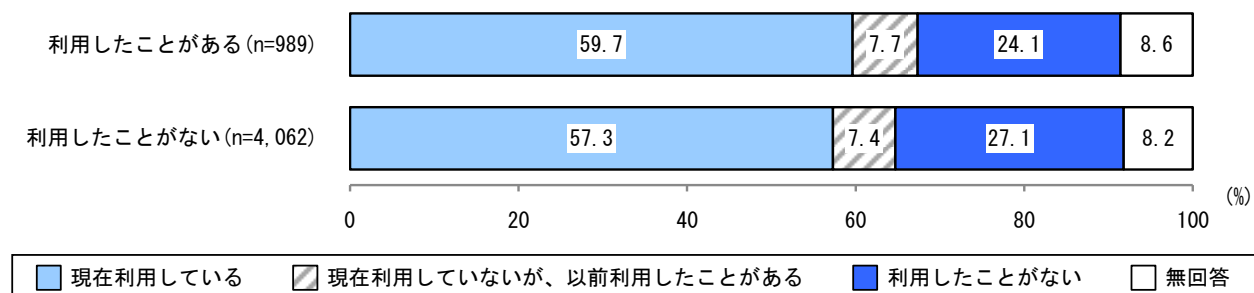


図 33. 子どもの居場所の利用経験別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況

子どもの居場所の利用経験別に生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況を見ると、子どもの居場所を利用したことがある人より利用したことがない人のほうが生活困窮者の自立支援相談窓口を「利用したことがない」と回答した割合がわずかに高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）
（保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-d)

<大阪府内全体>



<交野市>

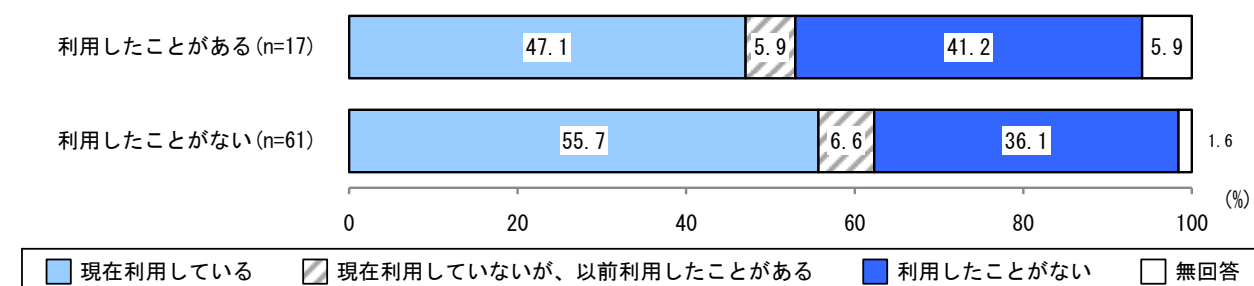
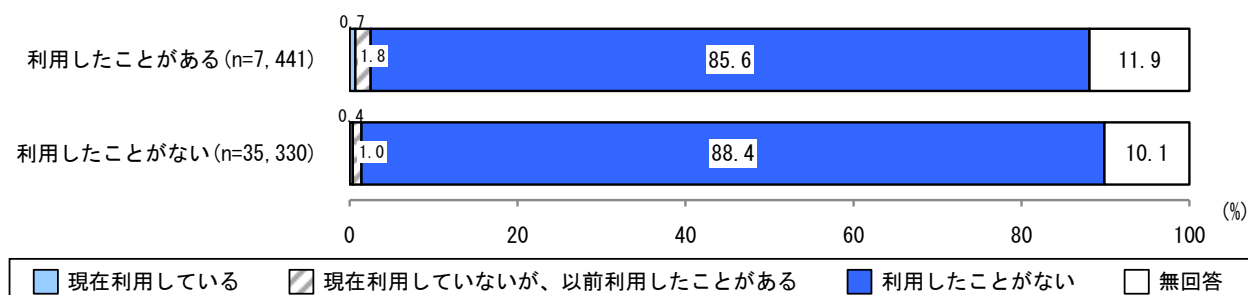


図 34. 子どもの居場所の利用経験別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）

子どもの居場所の利用経験別に児童扶養手当の利用状況を見ると、子どもの居場所を利用したことがある人より利用したことがない人のほうが児童扶養手当を「現在利用している」、「現在利用していないが、以前利用したことがある」と回答した割合が高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況
(保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-e)

<大阪府内全体>



<交野市>

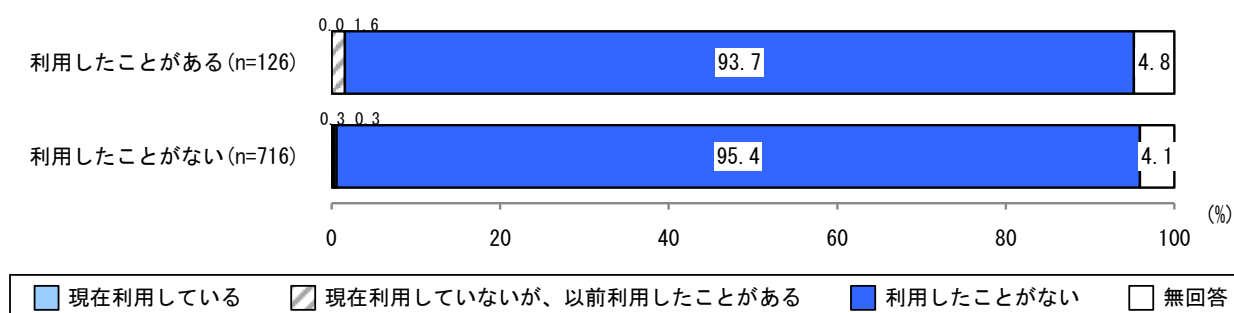
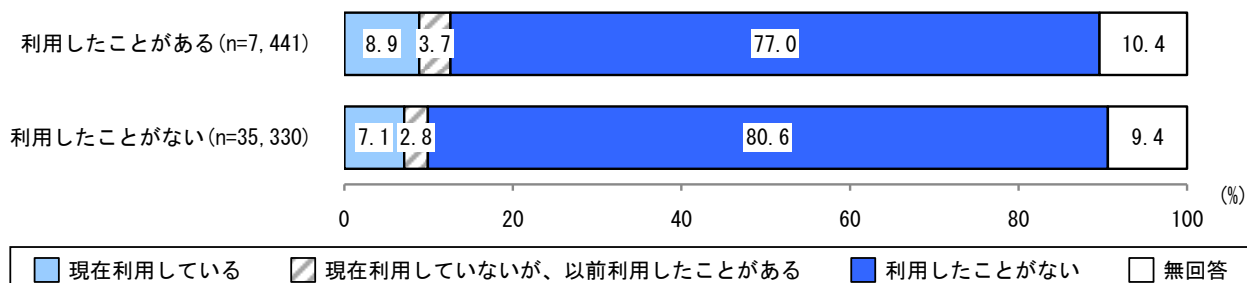


図 35. 子どもの居場所の利用経験別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況

子どもの居場所の利用経験別に母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況を見ても、子どもの居場所の利用経験による大きな差はみられなかった。

子どもの居場所の利用経験別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況（保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-f）

<大阪府内全体>



<交野市>

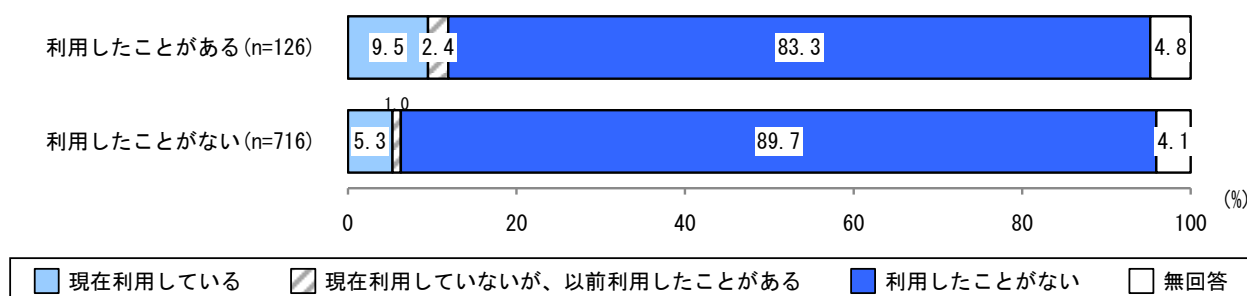
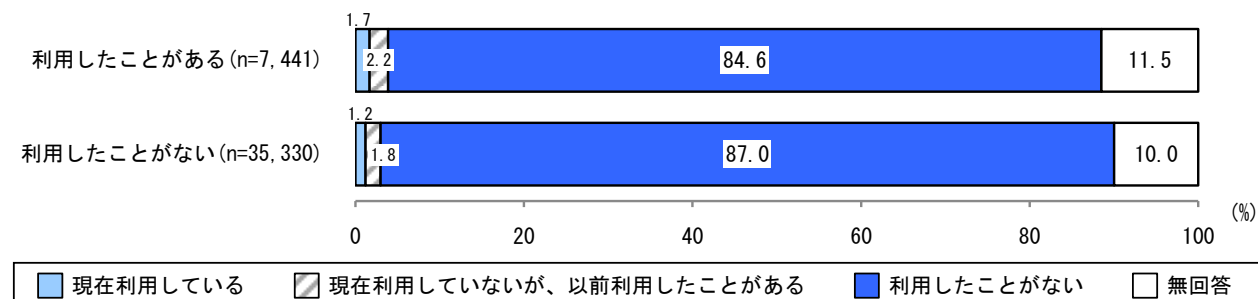


図 36. 子どもの居場所の利用経験別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況

子どもの居場所の利用経験別に低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況を見ると、子どもの居場所を利用したことがある人より利用したことがない人のほうが低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金を「利用したことがない」と回答した割合が高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況（保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-g)

<大阪府内全体>



<交野市>

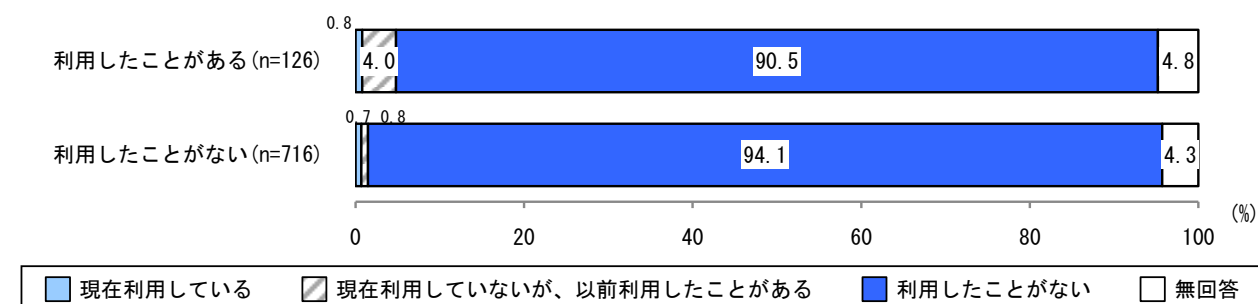
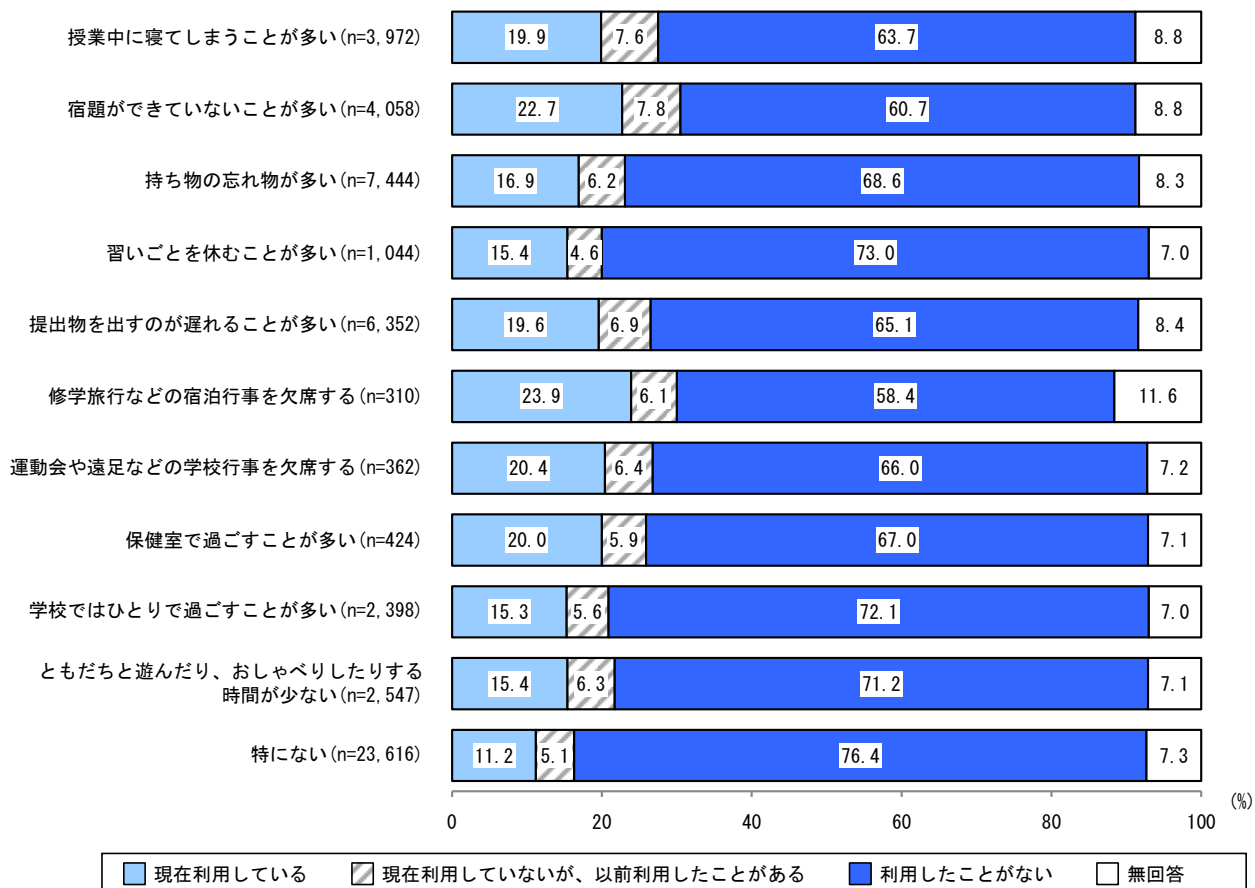


図 37. 子どもの居場所の利用経験別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況

子どもの居場所の利用経験別に新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況を見ると、子どもの居場所を利用したことがある人より利用したことがない人のほうが新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）を「利用したことがない」と回答した割合が高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、就学援助の利用状況（子ども票問 16×保護者票問 23-a）

<大阪府内全体>



<交野市>

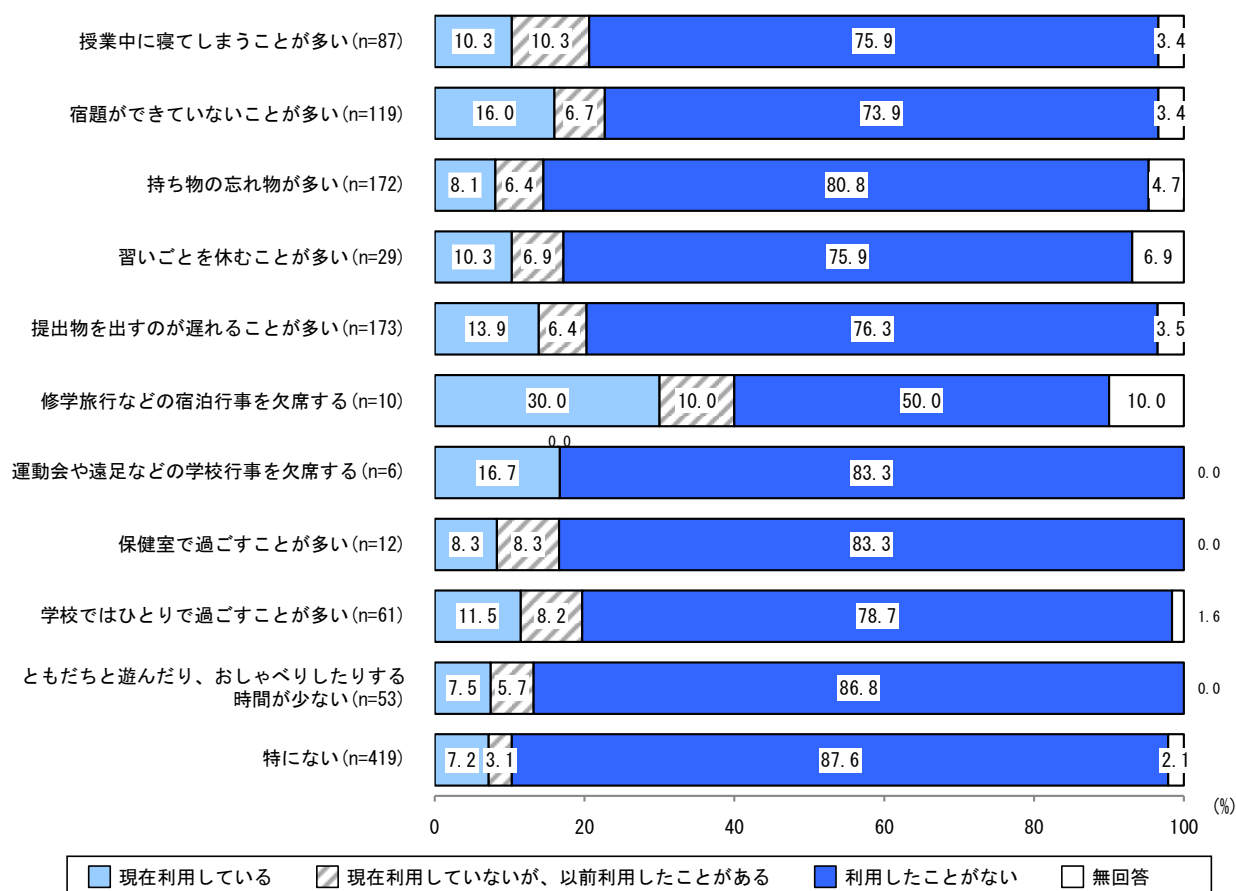
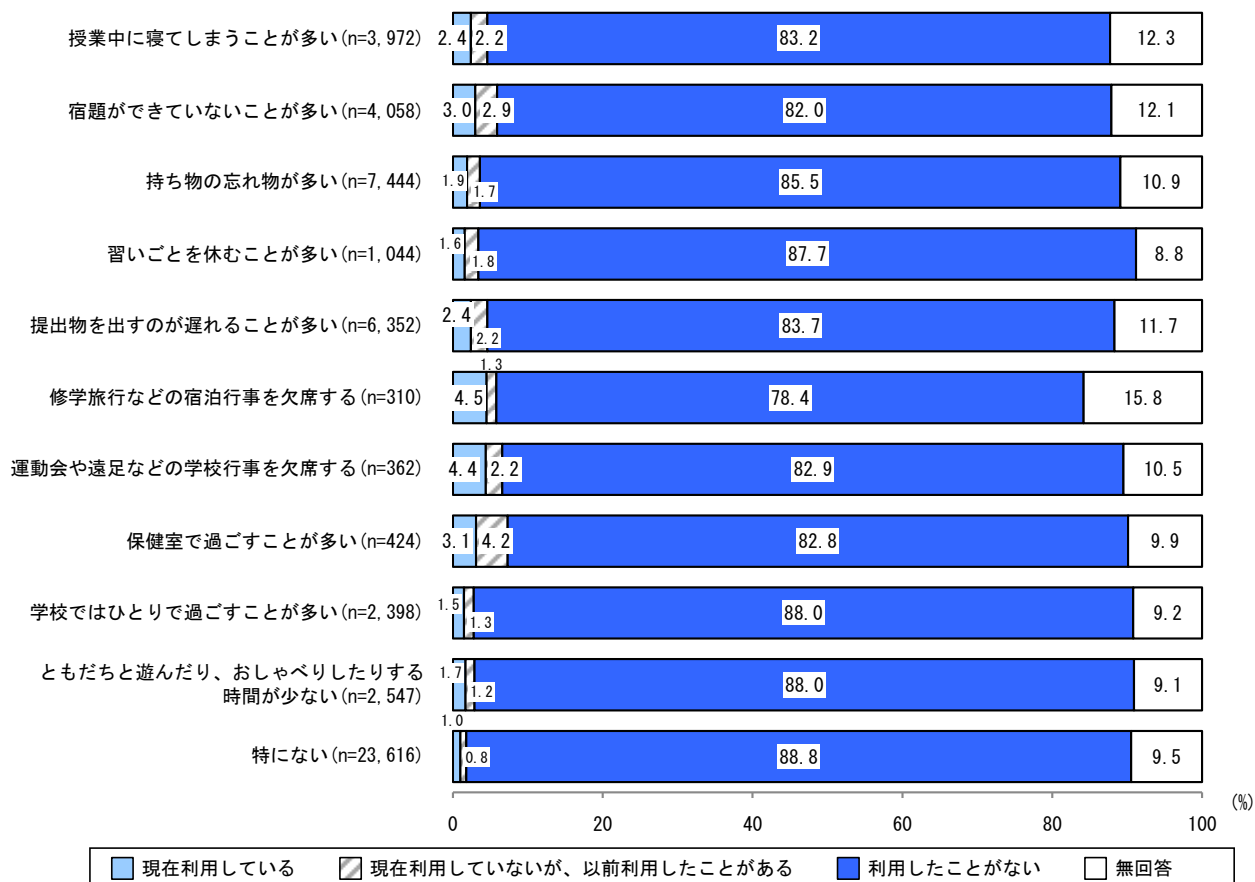


図 38. 学校や学校の行事等の状況別に見た、就学援助の利用状況

学校や学校の行事等の状況別に就学援助の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「修学旅行などの宿泊行事を欠席する」と回答した割合が30.0%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、生活保護の利用状況（子ども票問 16×保護者票問 23-b）

<大阪府内全体>



<交野市>

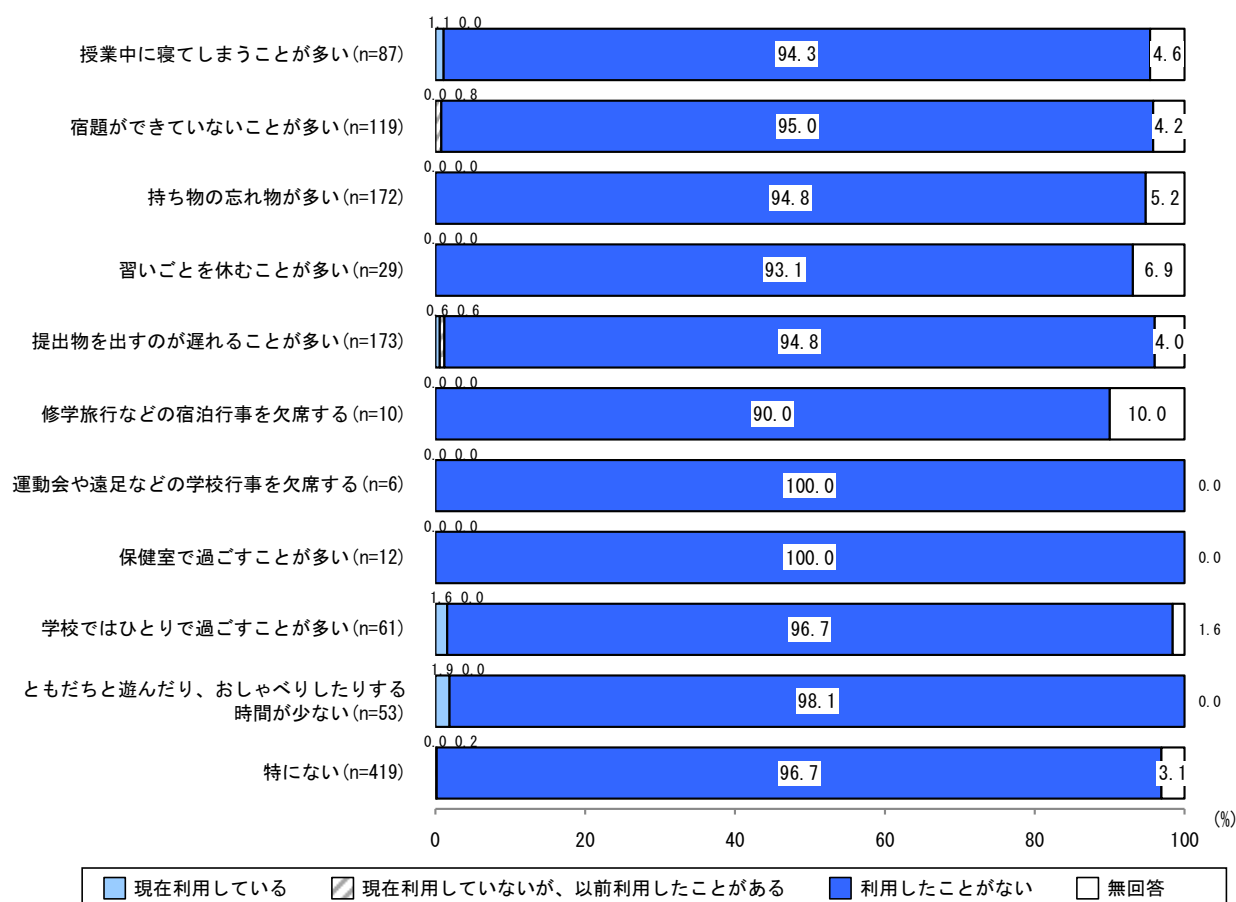
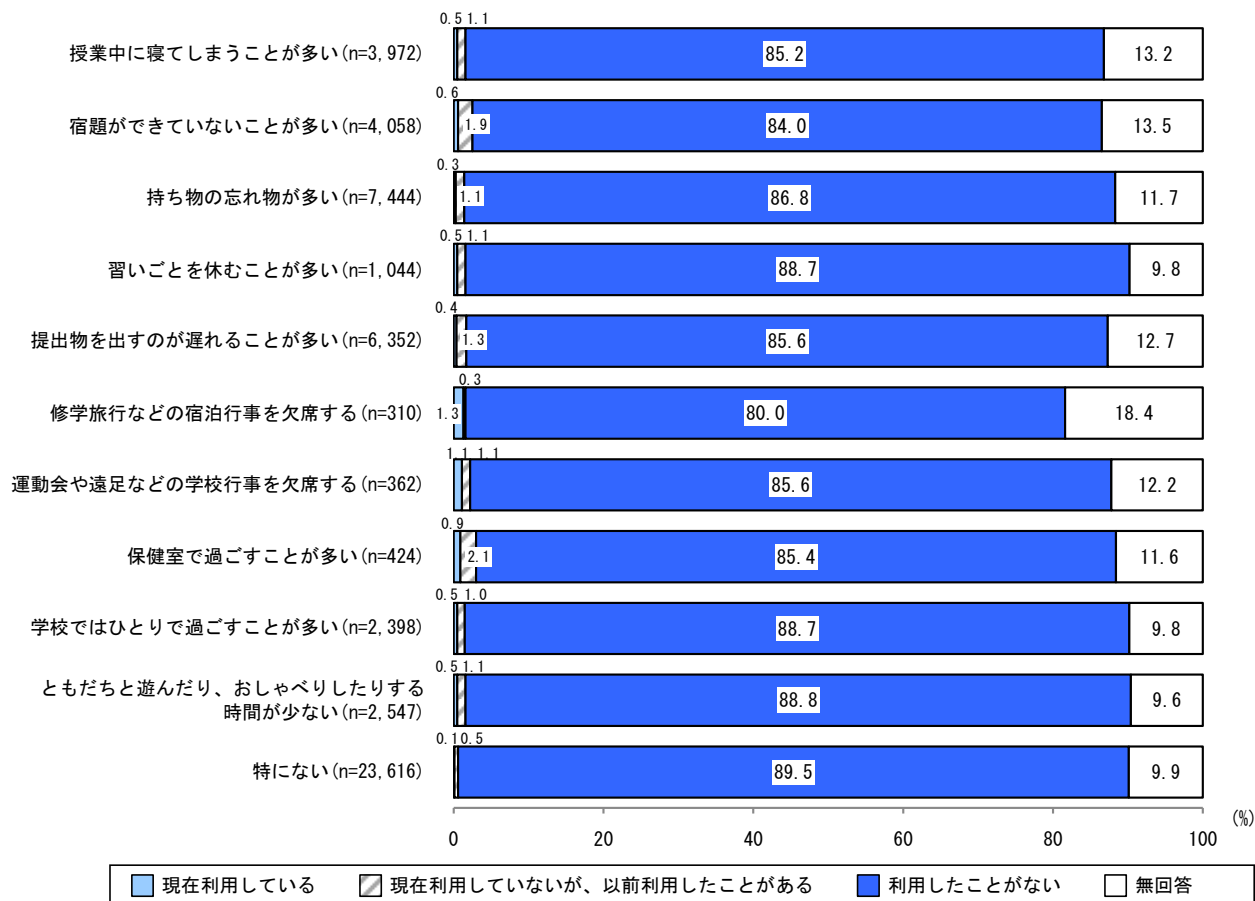


図 39. 学校や学校の行事等の状況別に見た、生活保護の利用状況

学校や学校の行事等の状況別に生活保護の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「ともだちと遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない」と回答した割合が1.9%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況
(子ども票問 16×保護者票問 23-c)

<大阪府内全体>



<交野市>

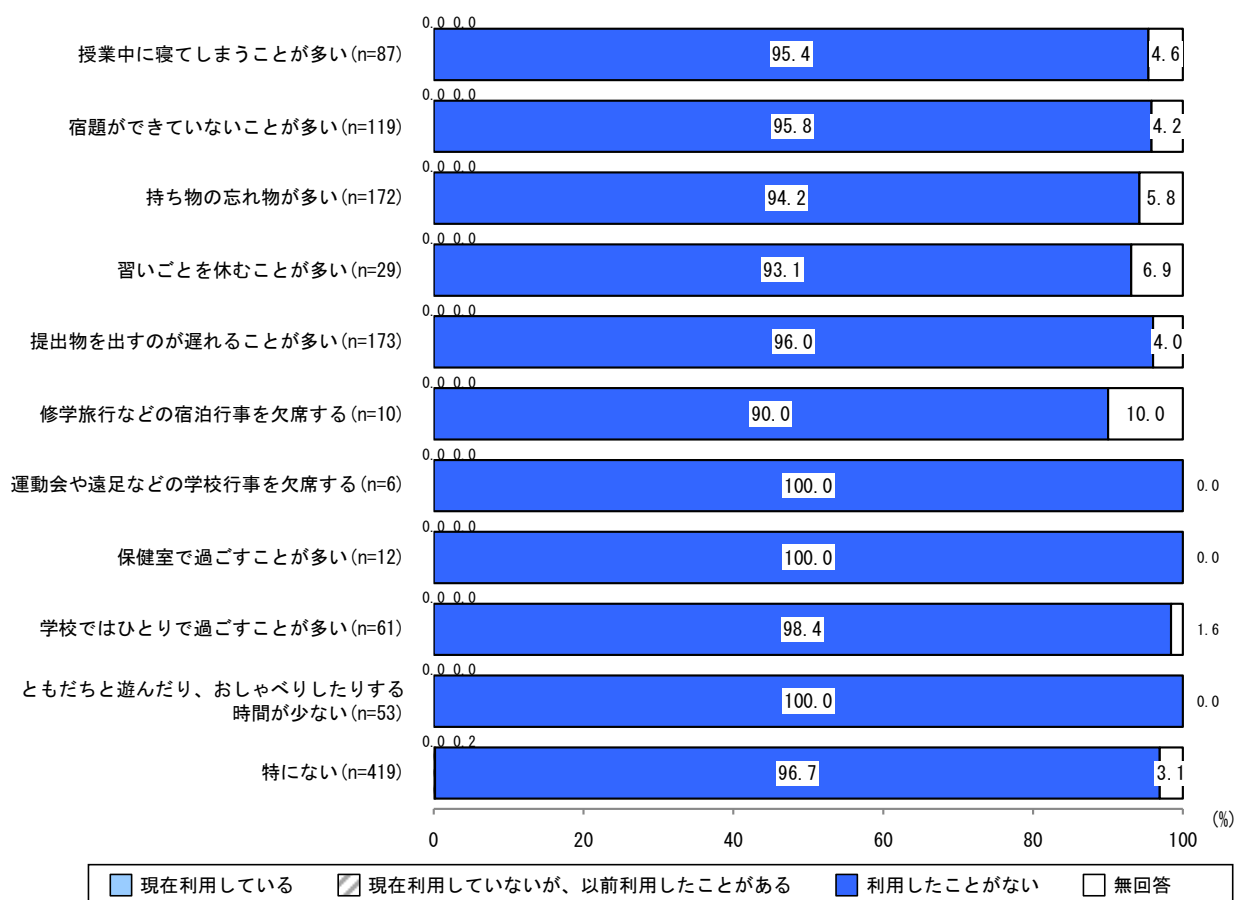
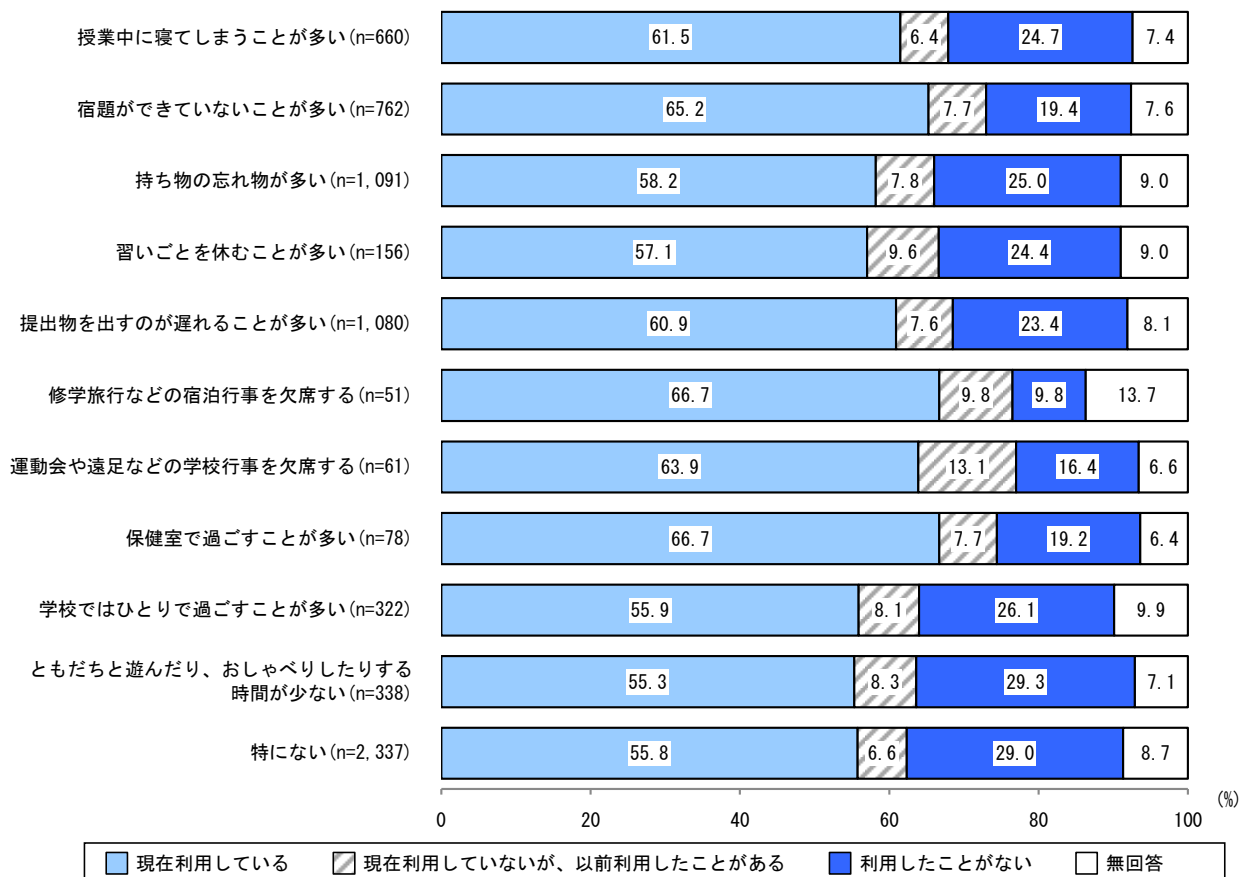


図 40. 学校や学校の行事等の状況別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況

学校や学校の行事等の状況別に生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況を見ても、大きな差はみられない。

学校や学校の行事等の状況別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）
（子ども票問 16×保護者票問 23-d）

<大阪府内全体>



<交野市>

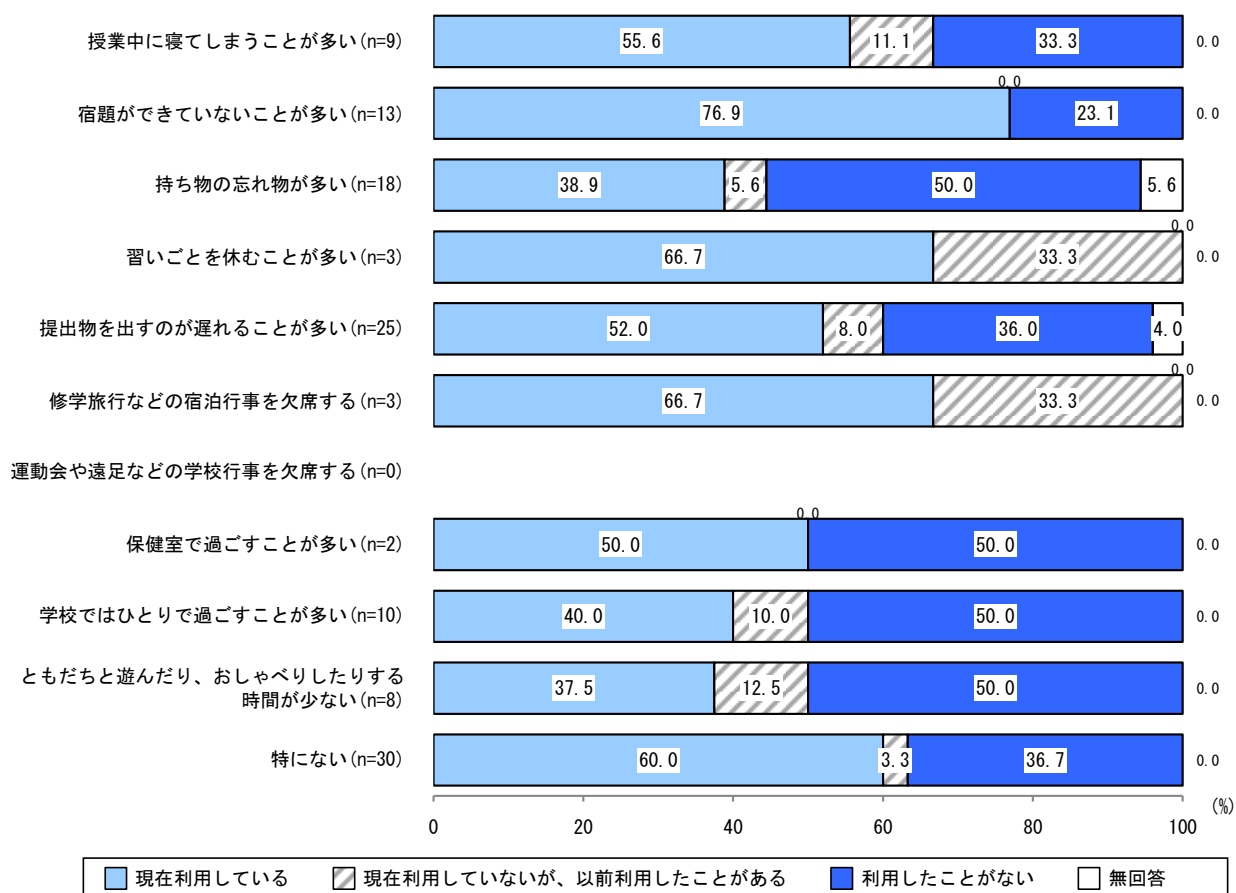
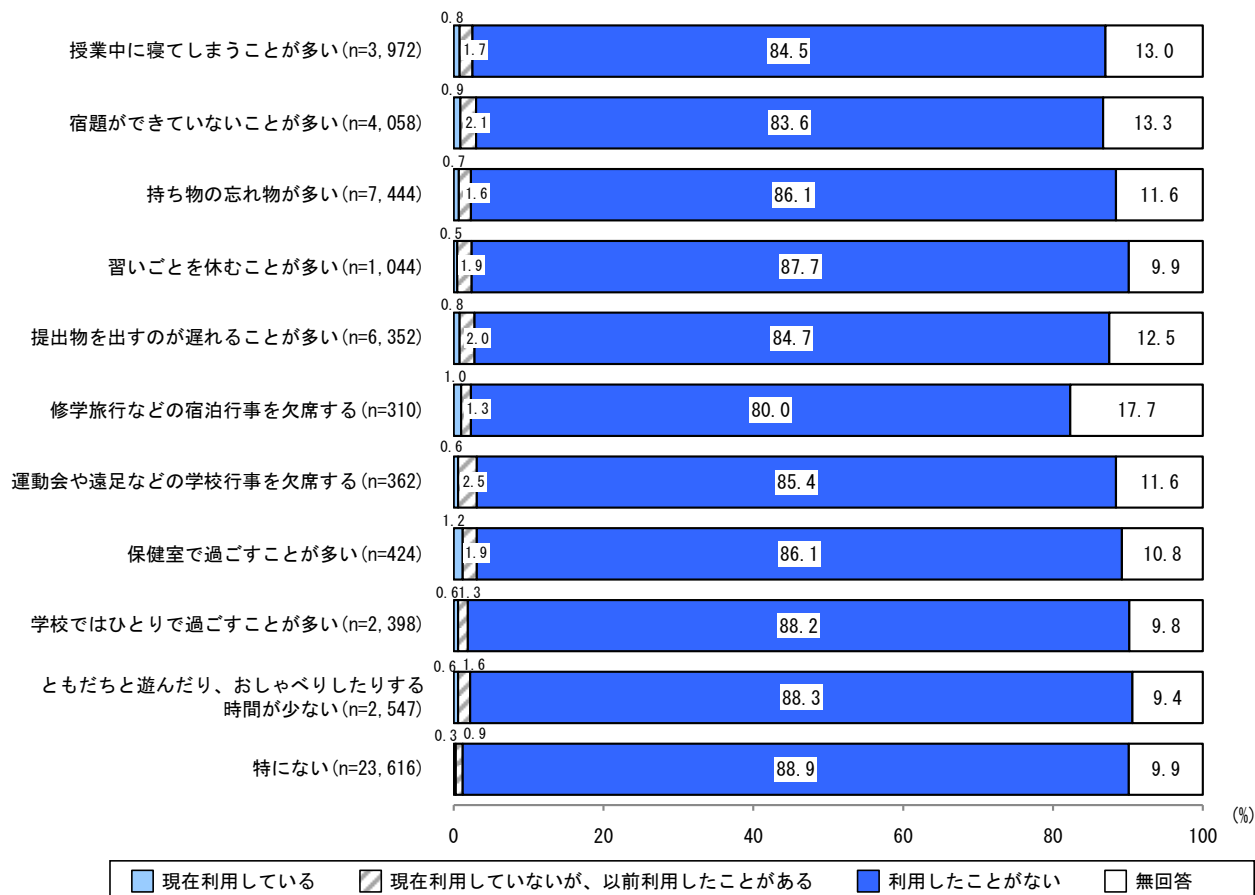


図 41. 学校や学校の行事等の状況別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）

学校や学校の行事等の状況別に児童扶養手当の利用状況を見ると、母数が少ないため一概には言えないが、「現在利用している」と回答した人の割合は、「ともだちと遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない」と回答した割合が37.5%で最も低くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況
(子ども票問 16×保護者票問 23-e)

<大阪府内全体>



<交野市>

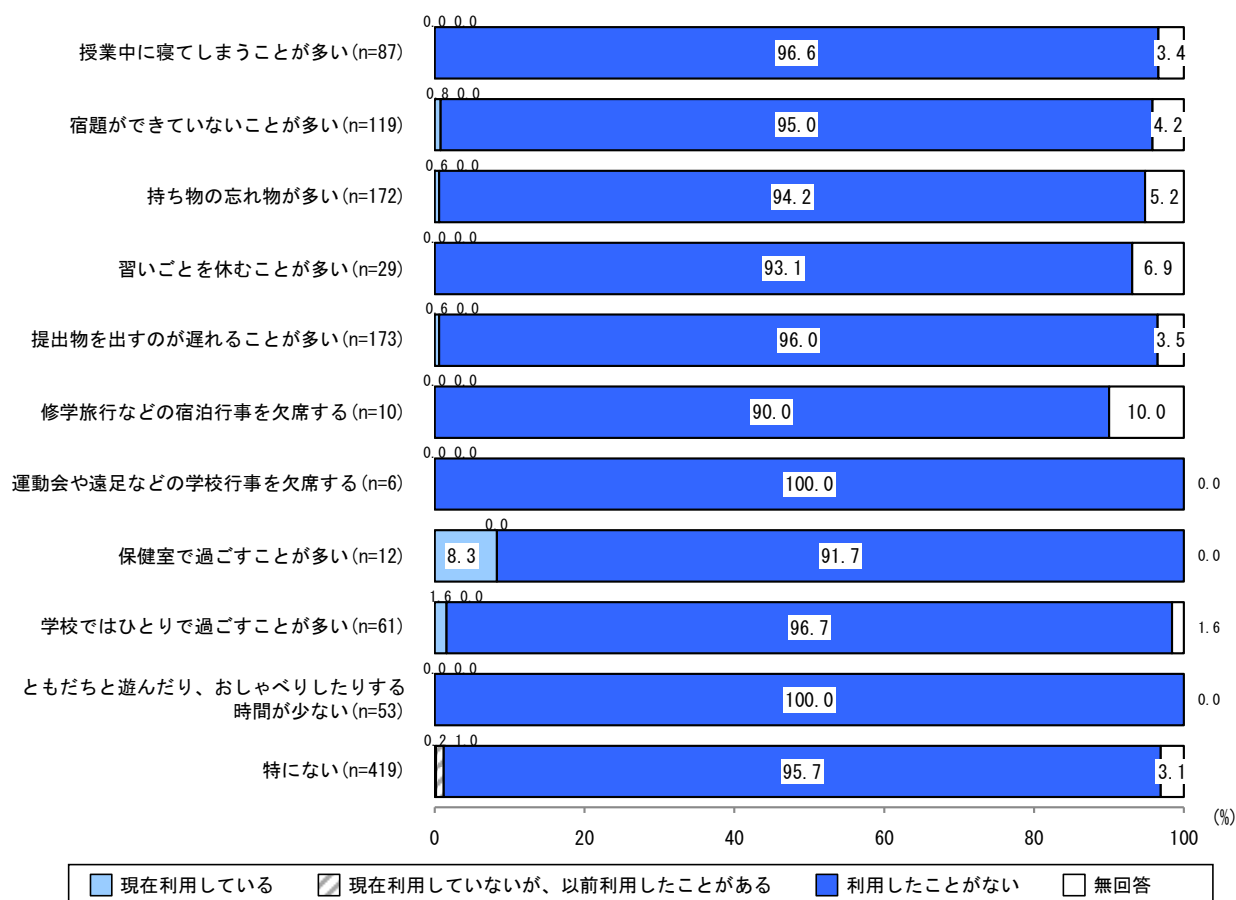
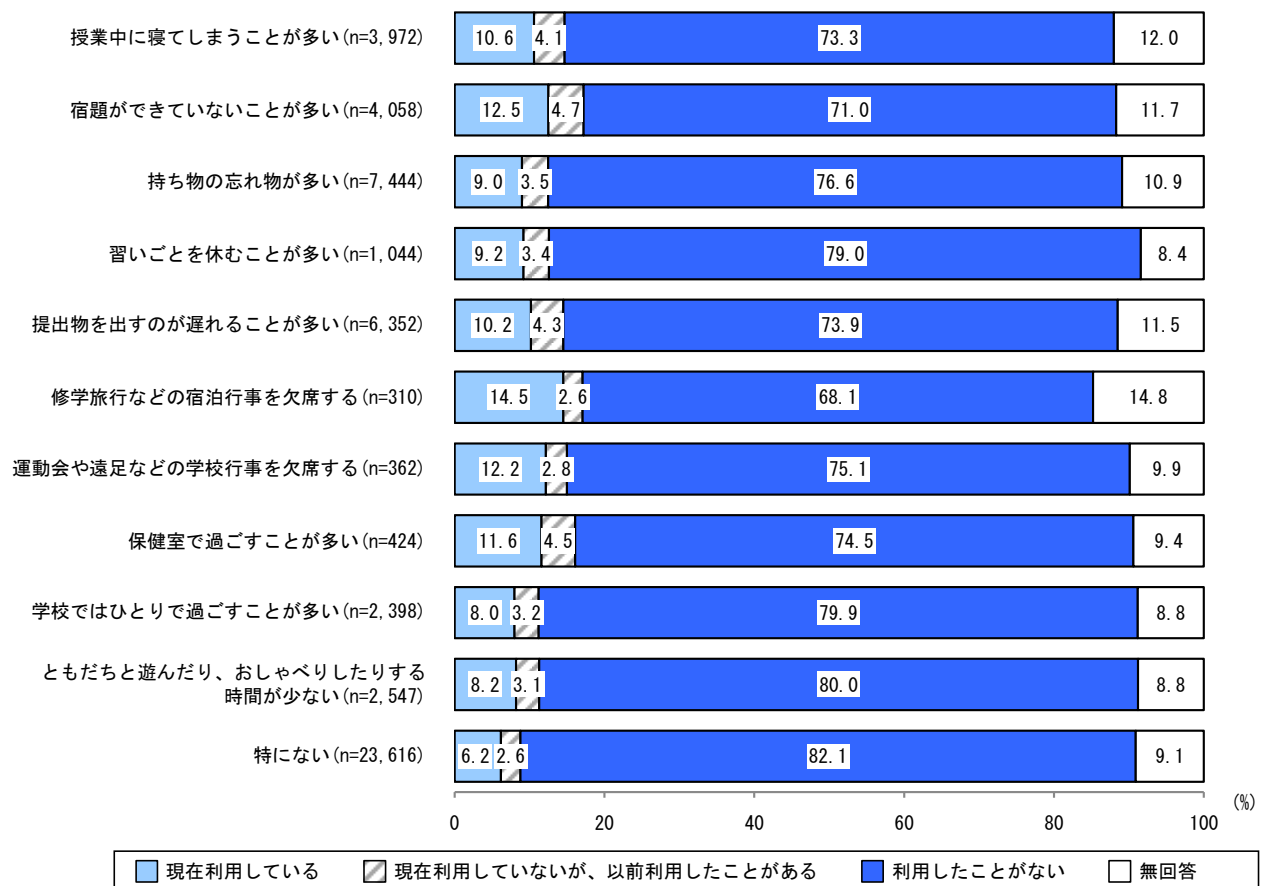


図 42. 学校や学校の行事等の状況別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況

学校や学校の行事等の状況別に母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「保健室で過ごすことが多い」と回答した割合が8.3%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況（子ども票問 16×保護者票問 23-f）

<大阪府内全体>



<交野市>

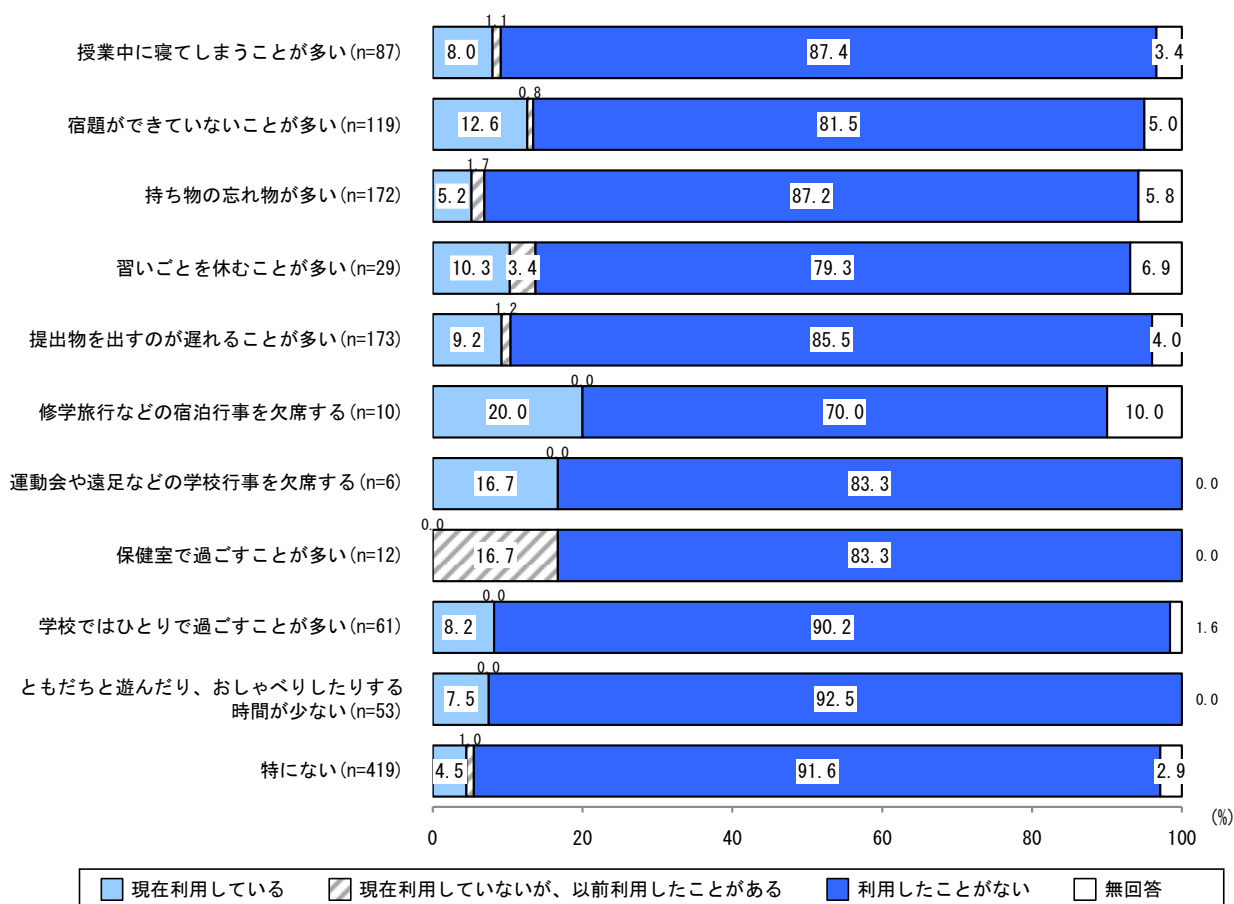
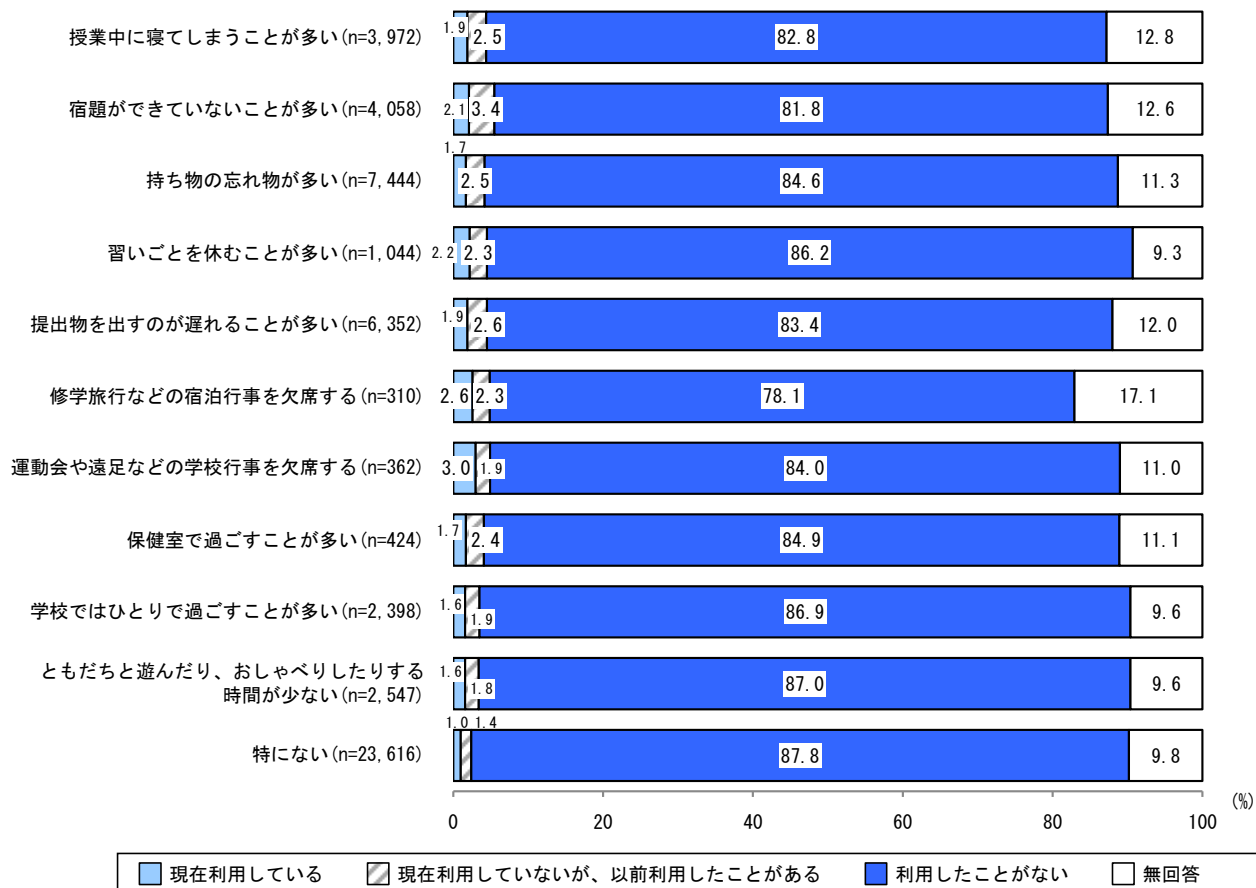


図 43. 学校や学校の行事等の状況別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況

学校や学校の行事等の状況別に低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「修学旅行などの宿泊行事を欠席する」と回答した割合が20.0%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況（子ども票問 16×保護者票問 23-g）

<大阪府内全体>



<交野市>

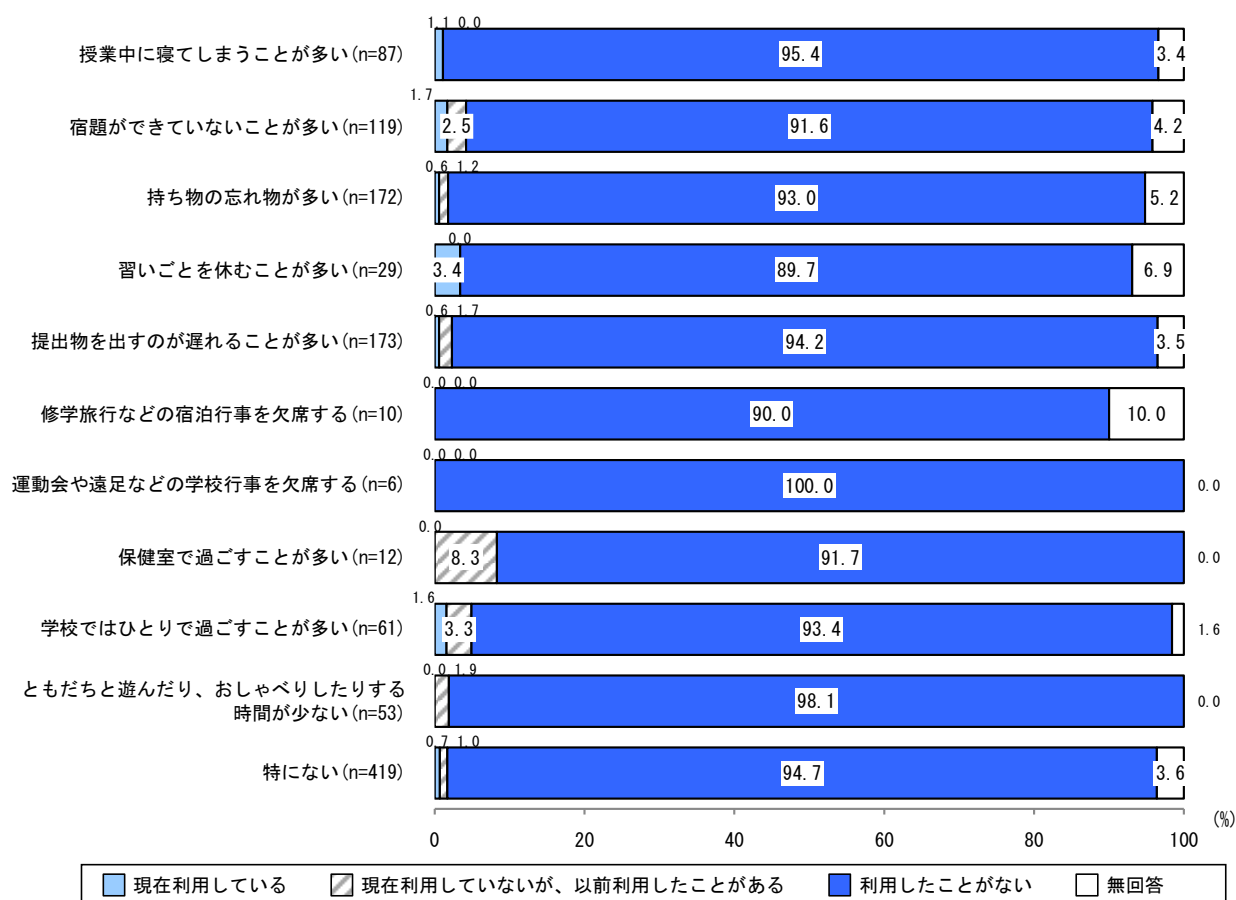
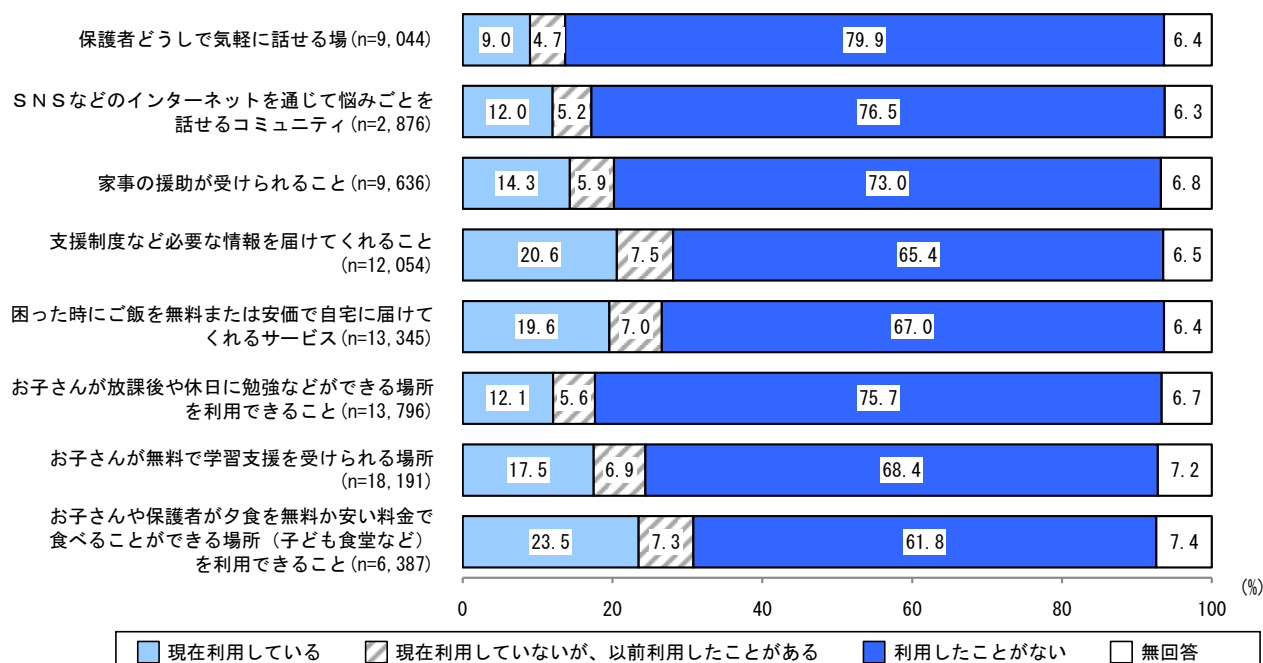


図 44. 学校や学校の行事等の状況別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況

学校や学校の行事等の状況別に新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「習いごとを休むことが多い」と回答した割合が3.4%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、就学援助の利用状況
(保護者票問 20×保護者票問 23-a)

<大阪府内全体>



<交野市>

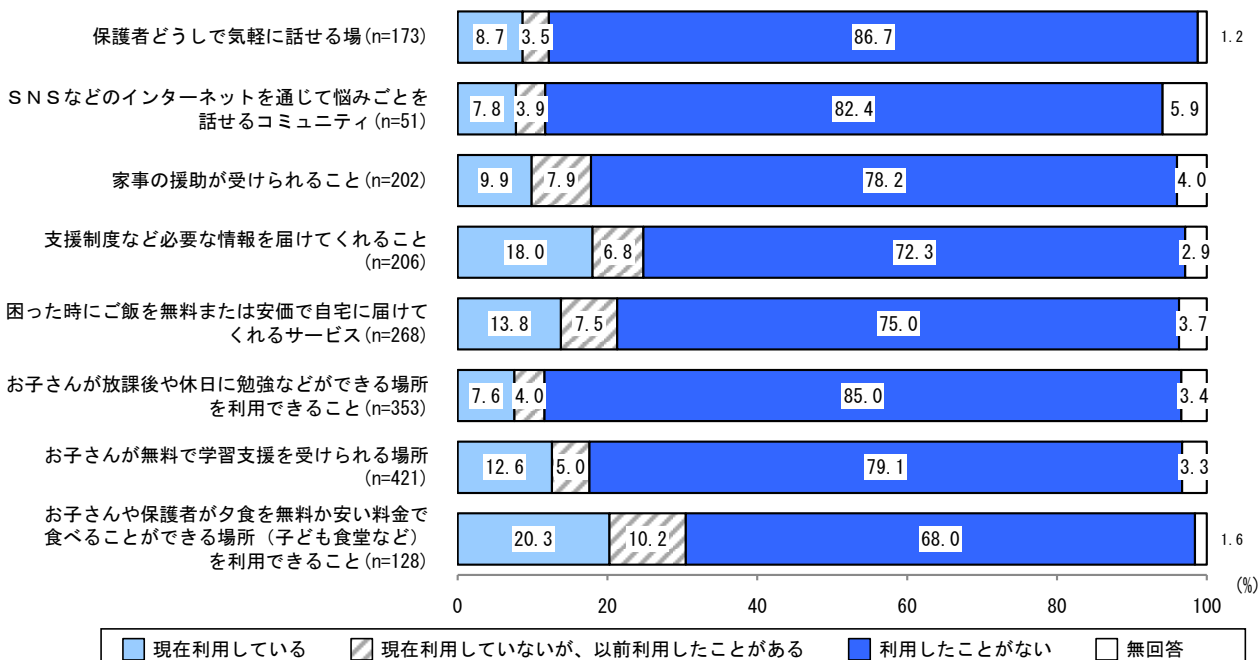
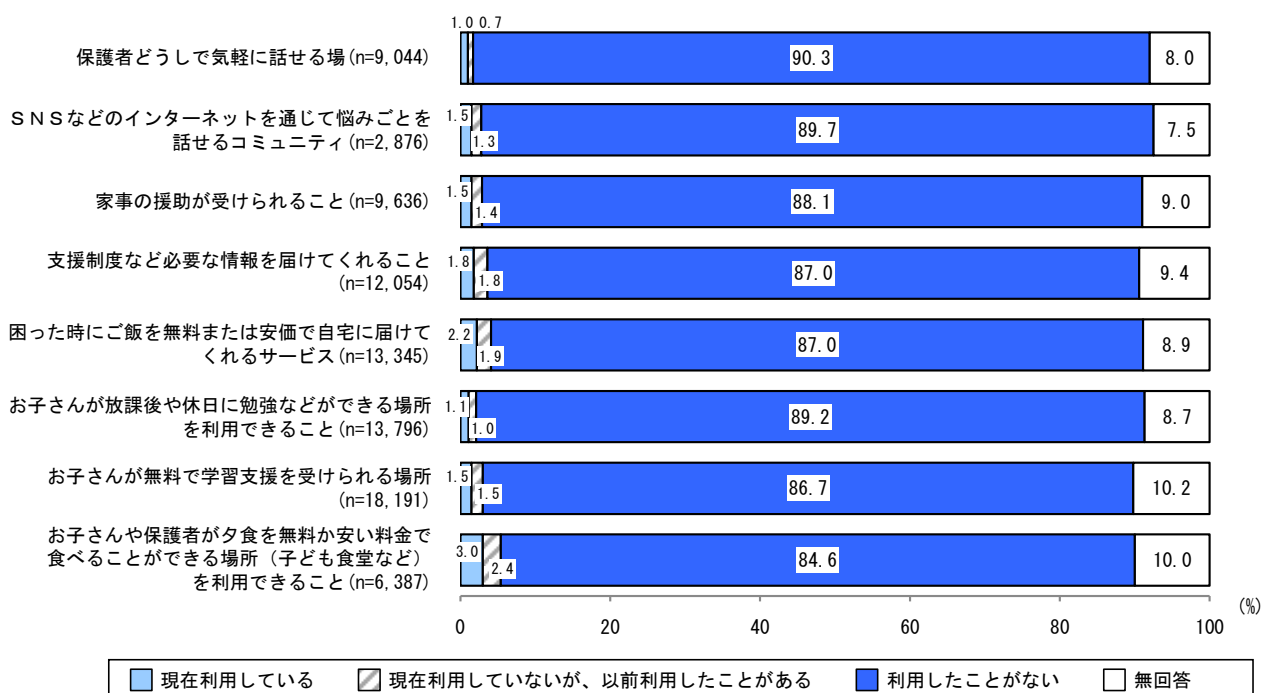


図 45. 身近にあるといいと思うこと別に見た、就学援助の利用状況

身近にあるといいと思うこと別に就学援助の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所 (子ども食堂など) を利用できること」と回答した割合が20.3%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、生活保護の利用状況
(保護者票問 20×保護者票問 23-b)

<大阪府内全体>



<交野市>

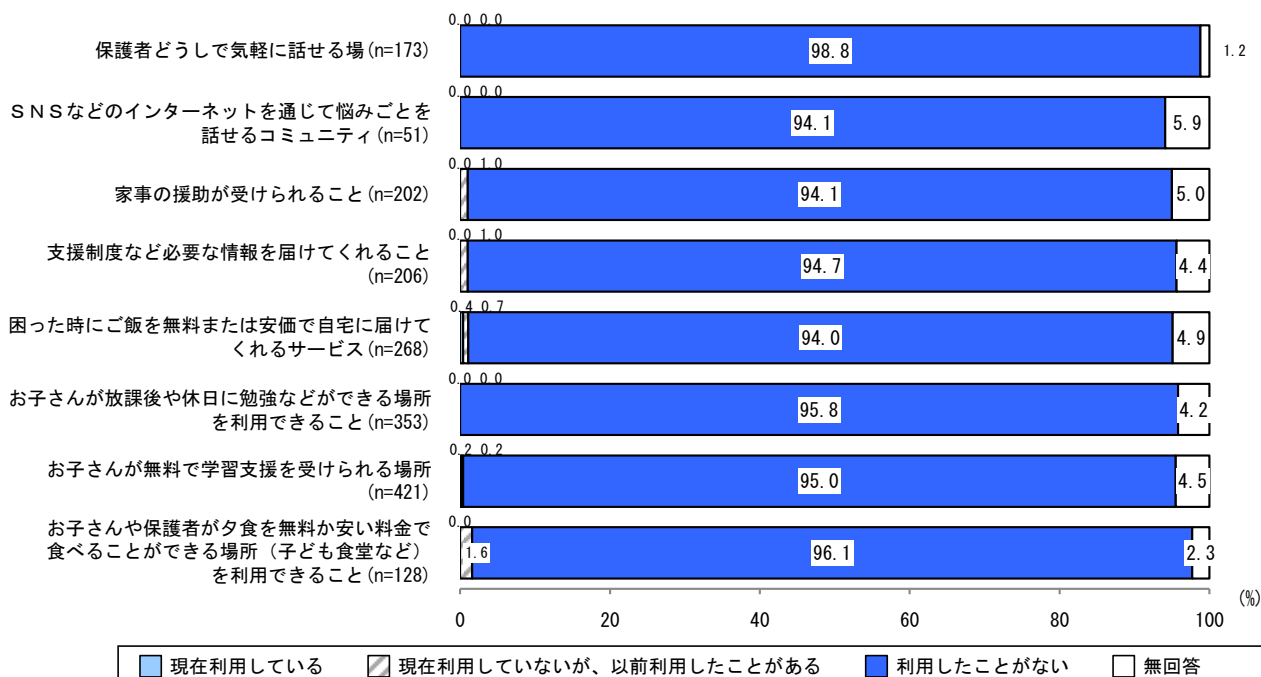
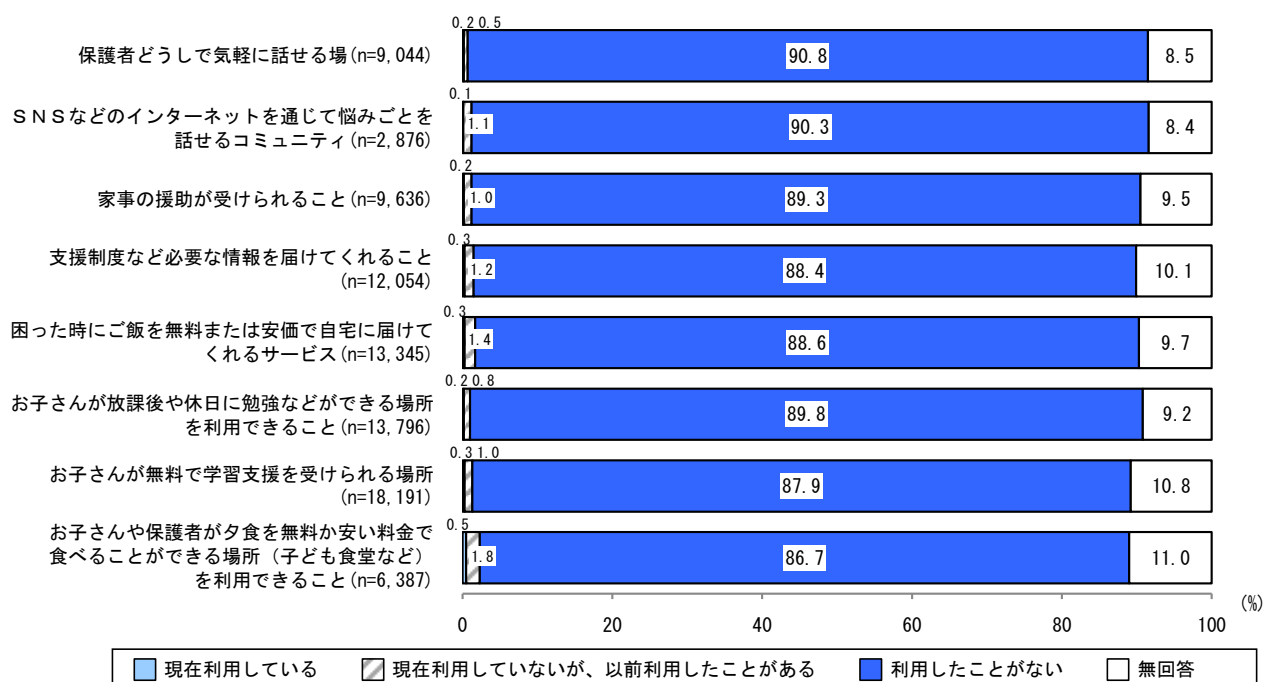


図 46. 身近にあるといいと思うこと別に見た、生活保護の利用状況

身近にあるといいと思うこと別に生活保護の利用状況を見ても、大きな差はみられなかった。

身近にあるといいと思うこと別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況
(保護者票問 20×保護者票問 23-c)

<大阪府内全体>



<交野市>

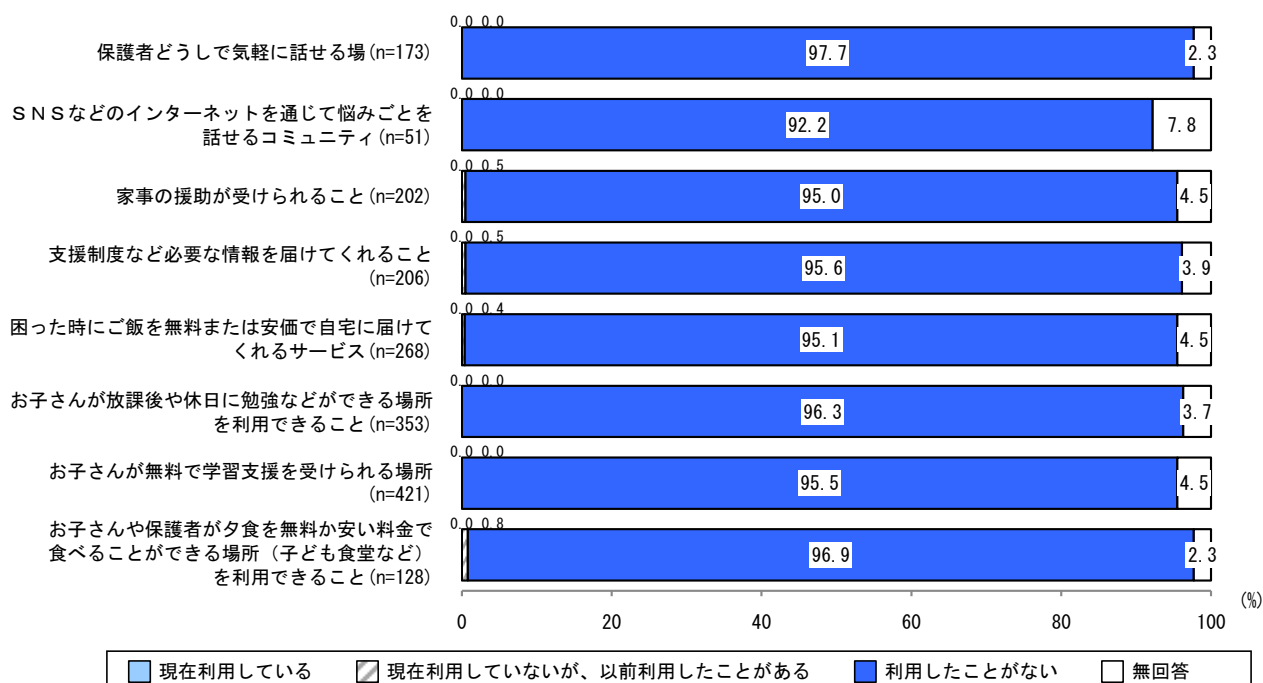
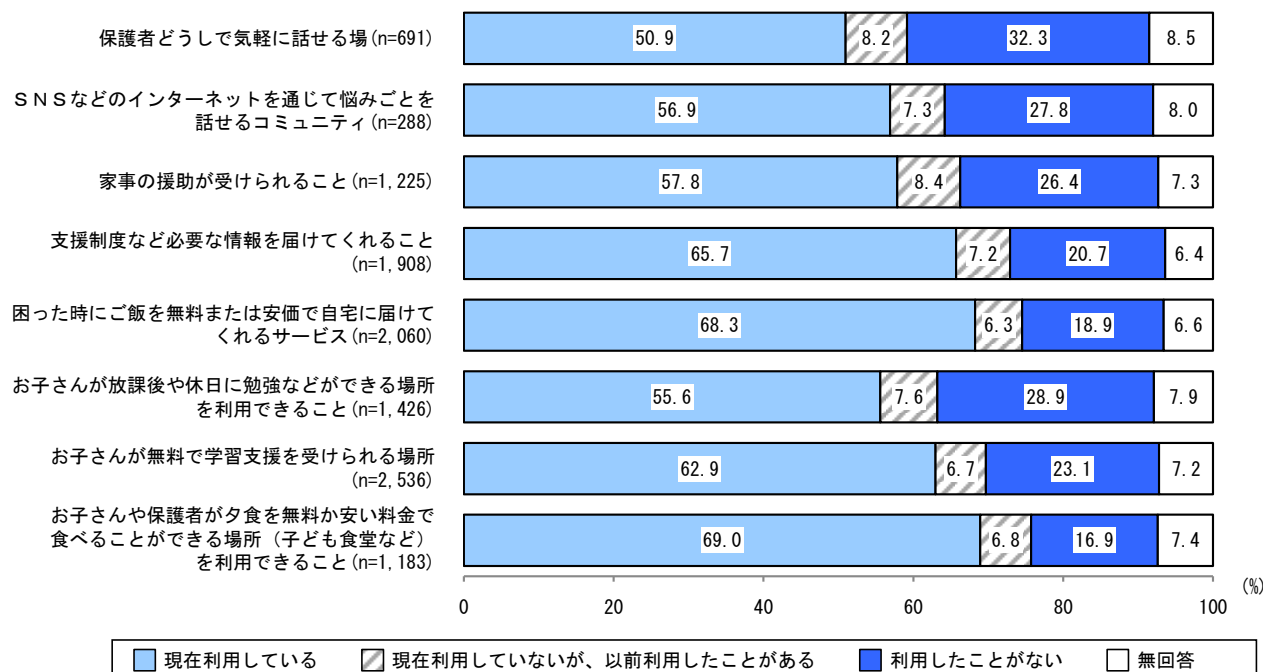


図 47. 身近にあるといいと思うこと別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況

身近にあるといいと思うこと別に生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況を見ても、大きな差はみられなかった。

身近にあるといいと思うこと別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）
（保護者票問 20×保護者票問 23-d）

<大阪府内全体>



<交野市>

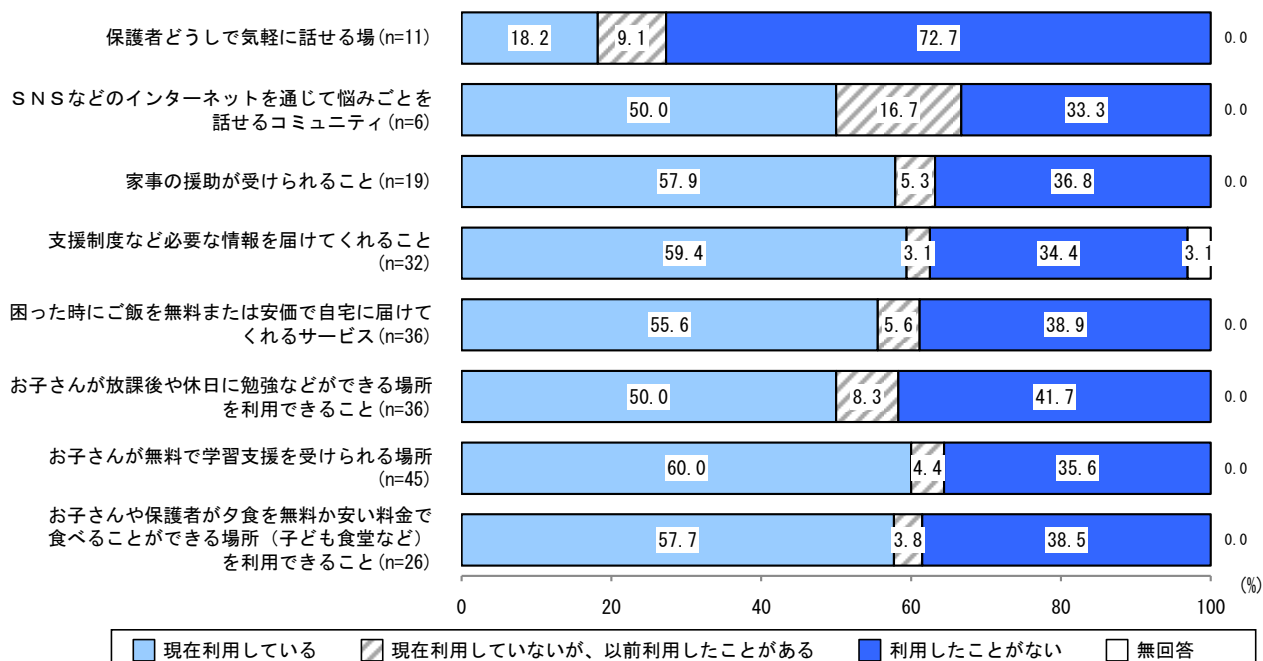
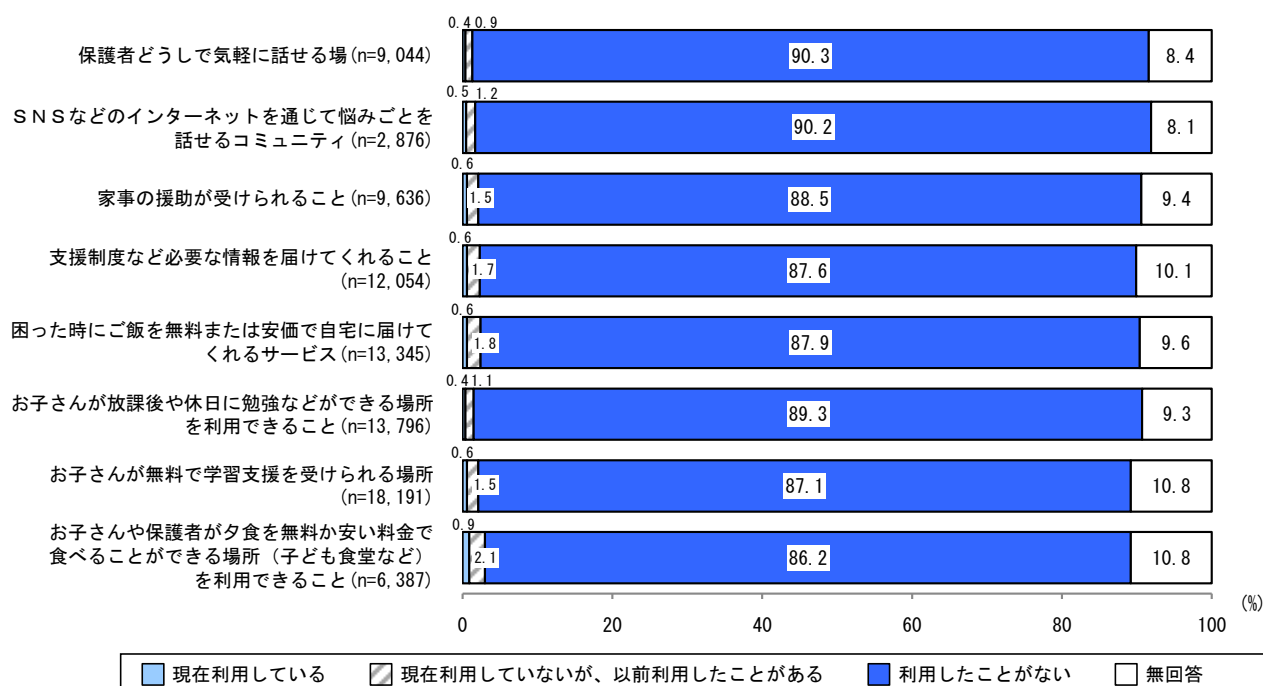


図 48. 身近にあるといいと思うこと別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）

身近にあるといいと思うこと別に児童扶養手当の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「お子さんが無料で学習支援を受けられる場所」と回答した割合が60.0%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況
(保護者票問 20×保護者票問 23-e)

<大阪府内全体>



<交野市>

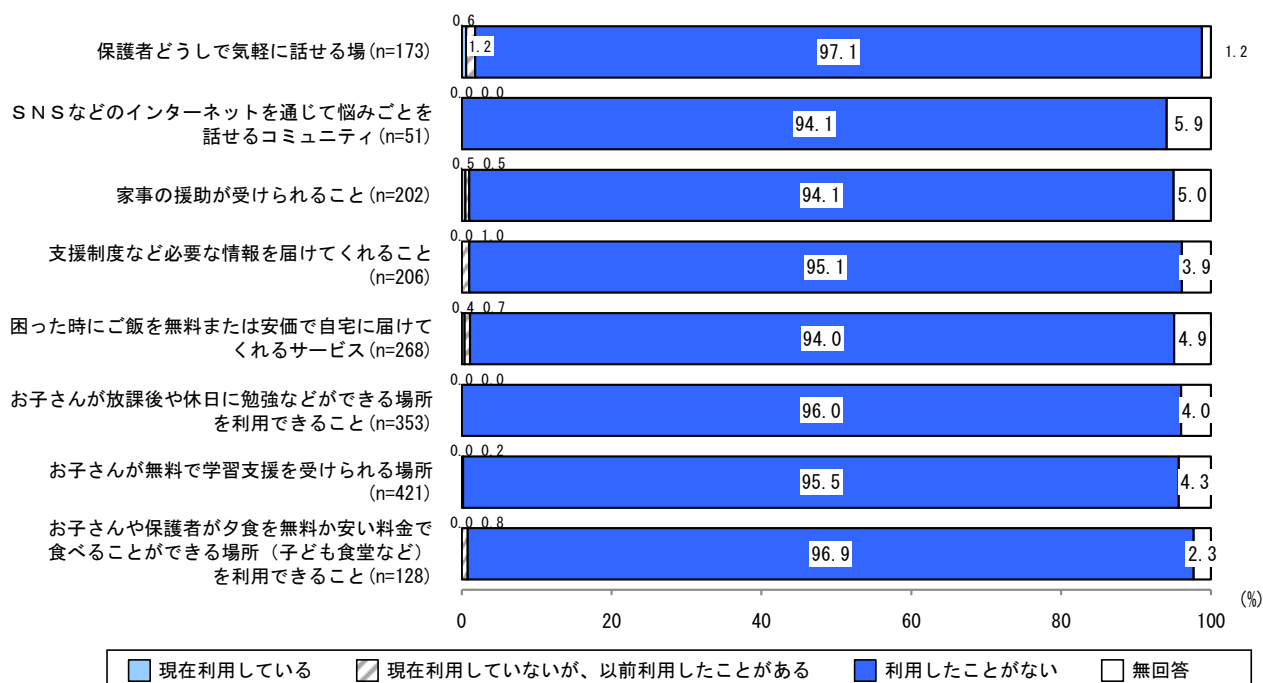
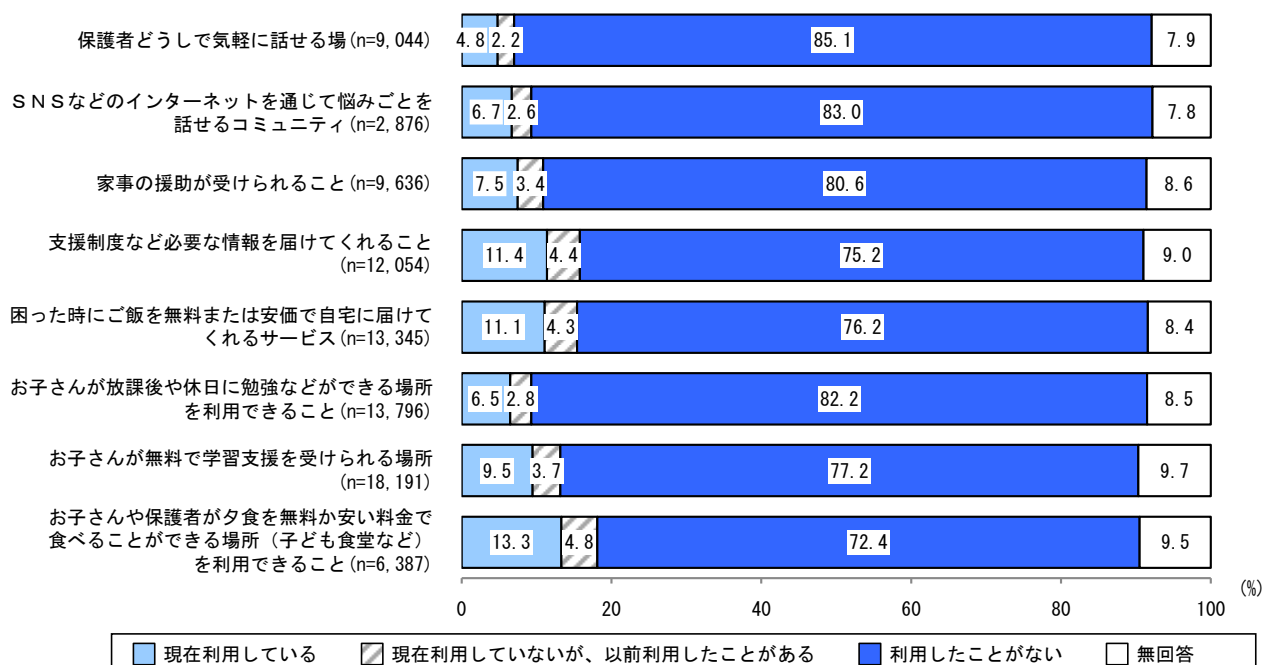


図 49. 身近にあるといいと思うこと別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況

身近にあるといいと思うこと別に母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況を見ても、大きな差はみられなかった。

身近にあるといいと思うこと別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況（保護者票問 20×保護者票問 23-f）

<大阪府内全体>



<交野市>

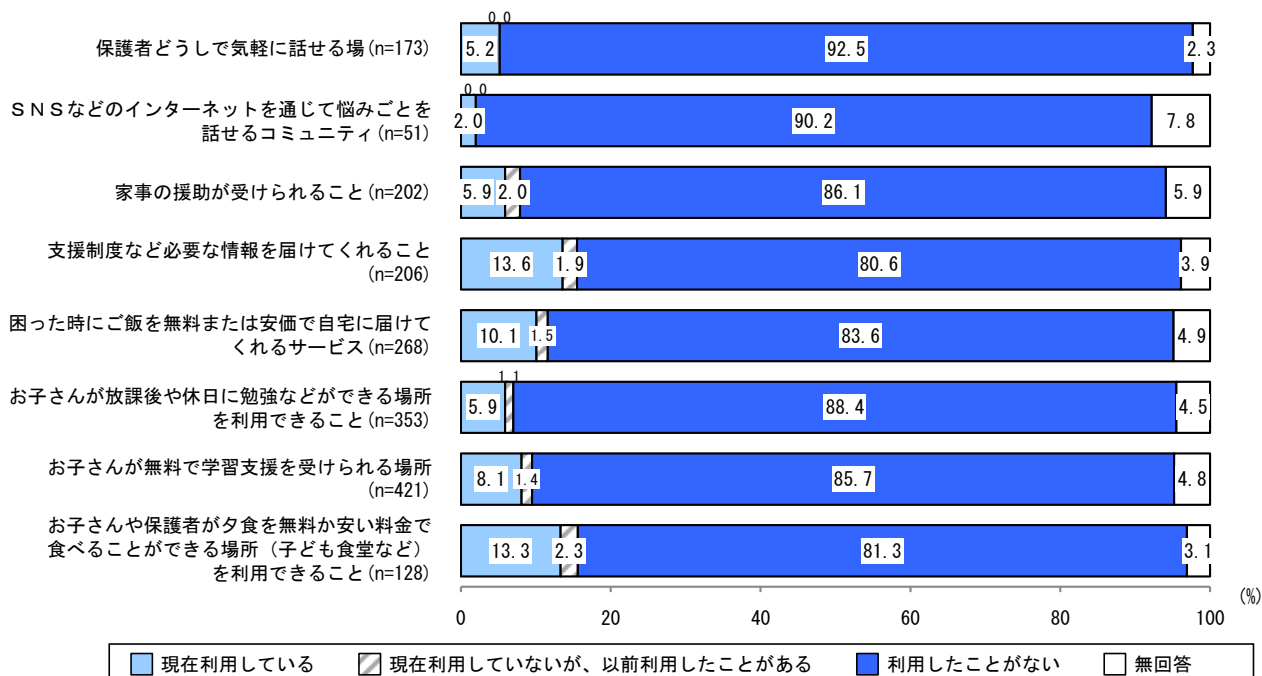
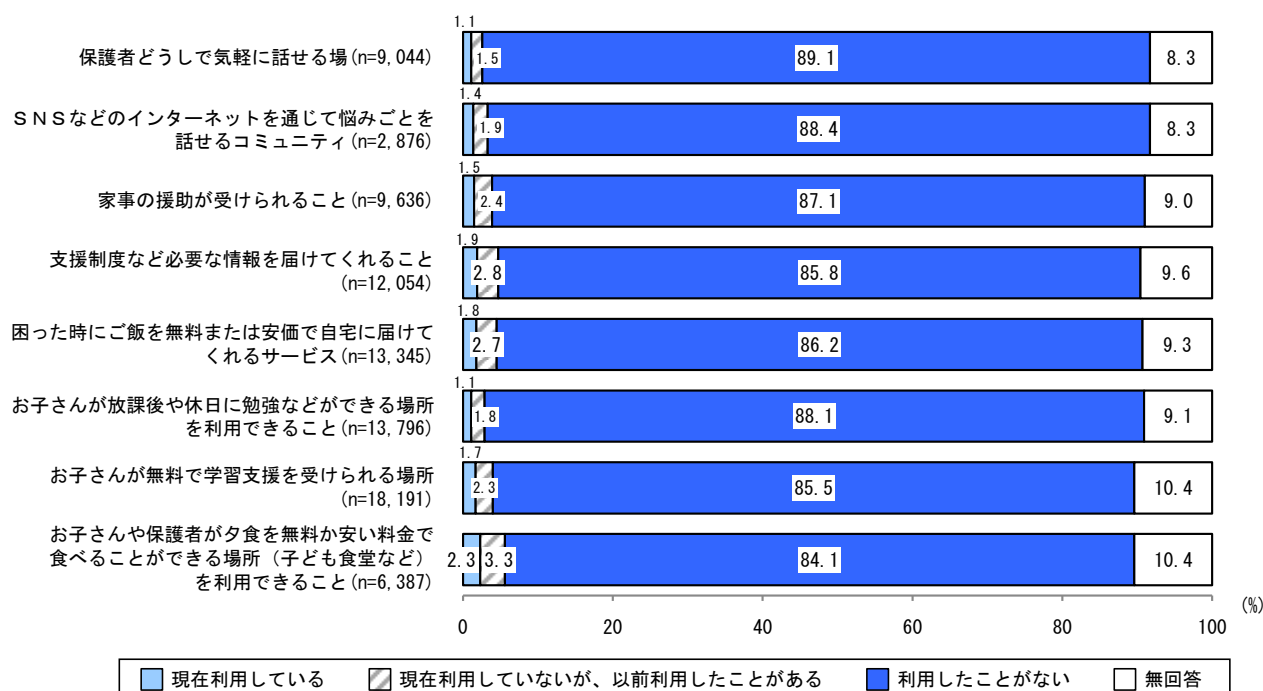


図 50. 身近にあるといいと思うこと別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況

身近にあるといいと思うこと別に低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「支援制度など必要な情報を届けてくれること」と回答した割合が13.6%で、最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況（保護者票問 20×保護者票問 23-g）

<大阪府内全体>



<交野市>

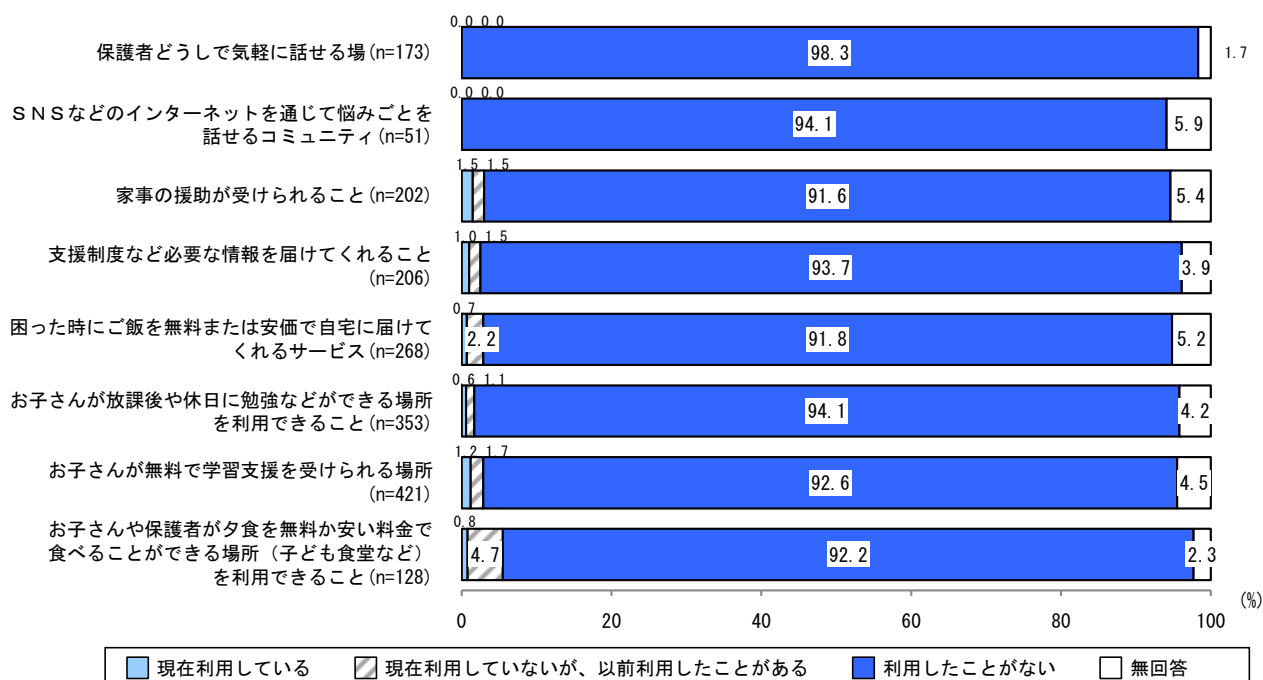


図 51. 身近にあるといいと思うこと別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況

身近にあるといいと思うこと別に新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「家事の援助が受けられること」と回答した割合が1.5%で最も高くなっている。

<家庭状況（制度等）に関する考察>

就学援助の利用状況については、全体で、「現在利用している」が9.3%となっている。困窮度Ⅰ群では、50.0%、困窮度Ⅱ群では、25.0%を占めている。次にひとり親世帯を対象とする児童扶養手当の利用状況は、全体で53.8%、困窮度Ⅰ群で82.4%、困窮度Ⅱ群で87.5%となっている。生活保護制度の利用状況は、全体で0.1%と低水準にとどまっている。今回調査の回答者から一定層の貧困層が漏れ落ちている可能性についても留意しておく必要がある。いずれにしても、社会保障制度の捕捉率を上げるために、給付に必要な世帯が利用しやすいような各制度の要件緩和、手続きの簡素化等の施策が求められている。

ひとり親世帯について、養育費の取り決めや受け取りをしている世帯は、全体で29.6%にとどまっている。「取り決めをしておらず、受け取っていない」と回答した割合は、困窮度Ⅰ群で48.1%、困窮度Ⅱ群で37.5%、また困窮度Ⅲ群で71.4%となっている。離別の場合、生活状況の激変のなか、ひとり親自身が養育費の取り決めを行うことは容易なことではないため、相談機関等の支援策の充実が求められる。

初めて親となった年齢と最終学歴について、特に母親に着目すると、「10代」で中学校卒業が25.0%、高等学校中途退学が8.3%と、他の年齢階層に比べて高くなっている。妊娠・出産しても学修を中断せず継続できるような学修面でのサポート体制、子育て支援が求められる。また学びを一時中断した者についても、あとからでも「学び直し」を可能にするような学修機会の提供等が求められる。

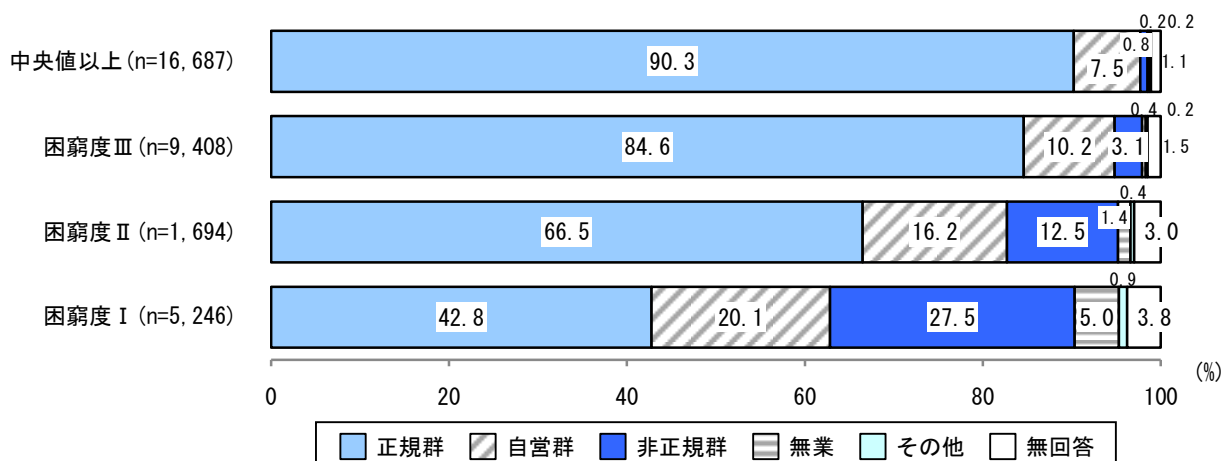
住宅形態別に家計の状況をみると、「民間の賃貸住宅」において「赤字である」と回答した者の割合が32.7%を占める。「民間の賃貸住宅」については、「子どもの将来のための貯蓄状況」についても「貯蓄をしたいが、できていない」が36.4%である。一方、この項目については、「府営・市営の住宅」における値の方が高く、63.6%となっている。いずれにせよ、賃貸住宅に共住する世帯における経済的余裕のなさが示されている。家賃分の負担軽減に加えて、生活費部分の経済的支援の必要性が示されている。

全般的に、公的支援の受給率は困窮度の高い世帯において高めの水準を示している。また、母子世帯における養育費の受け取り世帯割合が十分ではなく、若くして母親になった者への教育支援の必要性も示唆される。一方で、公共・民間ともに賃貸住宅に住む世帯が経済的な余裕を欠いている傾向が示された。

4-2. 雇用

困窮度別に見た、就労状況（保護者票問9より）

<大阪府内全体>



<交野市>

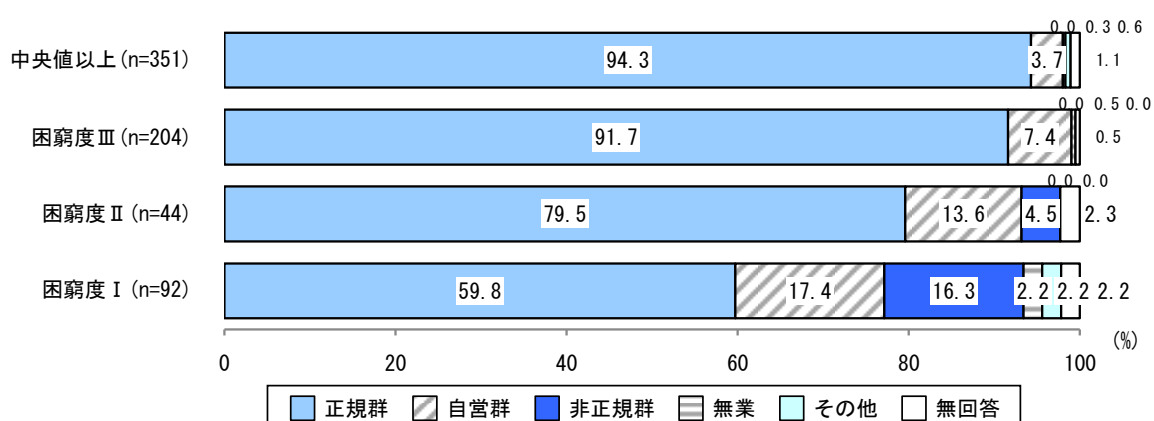


図 52. 困窮度別に見た、就労状況

困窮度別に就労状況を見ると、困窮度が高まるにつれ、「正規群」と回答した割合は低くなり、「自営群」、「非正規群」の割合が高くなっている。困窮度Ⅰ群においては他と比べて「非正規群」、「無業」の割合が高く、それぞれ16.3%・2.2%となっている。

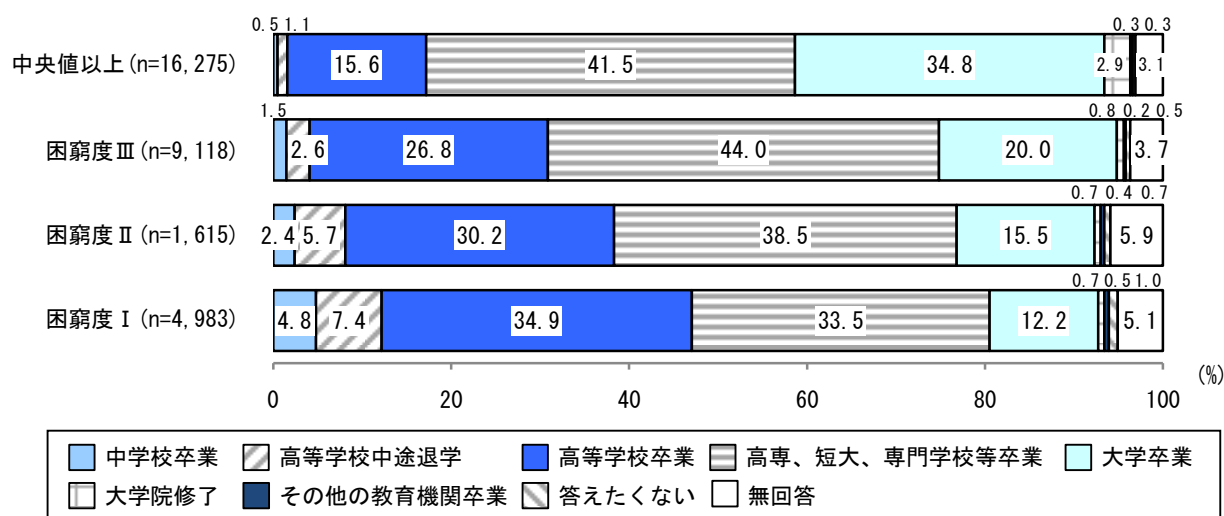
※分類方法は以下の通り。

父母あるいは主たる生計者に正規が含まれば「正規群」（問9選択肢1）、
上記以外で、父母あるいは主たる生計者に自営が含まれば「自営群」（問9選択肢4）、
上記以外で、父母あるいは主たる生計者に非正規が含まれば「非正規群」（問9選択肢2、3）、
上記以外で、誰も働いていなければ（問9選択肢6、7）「無業」。
上記以外が「その他」となる。

ここでの無業とは、「ふだん仕事をしていない者、すなわち、ふだん全く仕事をしていない者及び臨時的にしか仕事をしていない者」を指す（就業構造基本調査による）。クロス集計で「就労状況」を用いる時は、上記区分による。

困窮度別に見た、お母さんの最終学歴（保護者票問8）

<大阪府内全体>



<交野市>

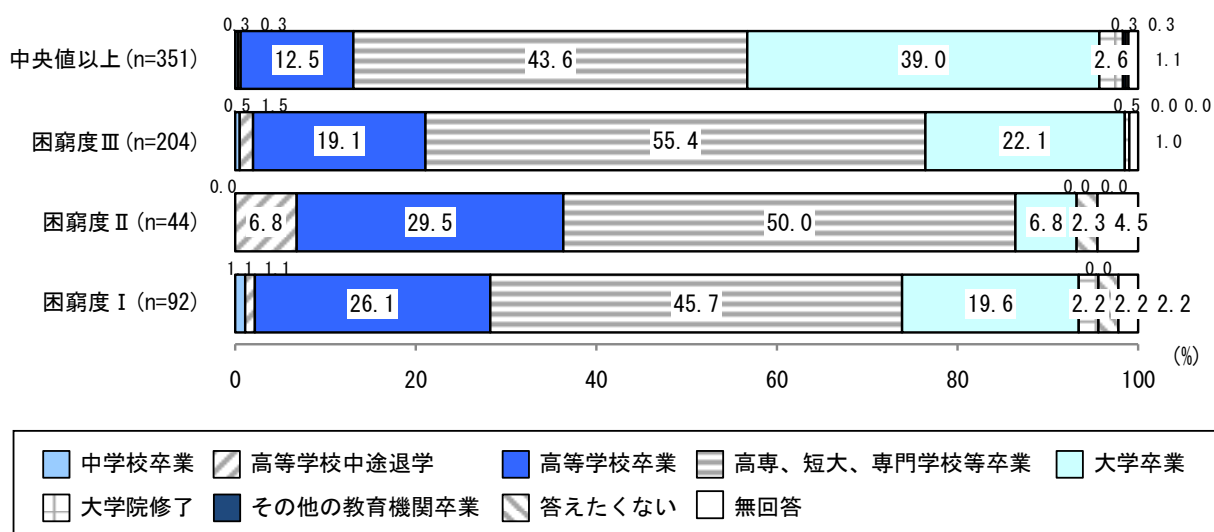
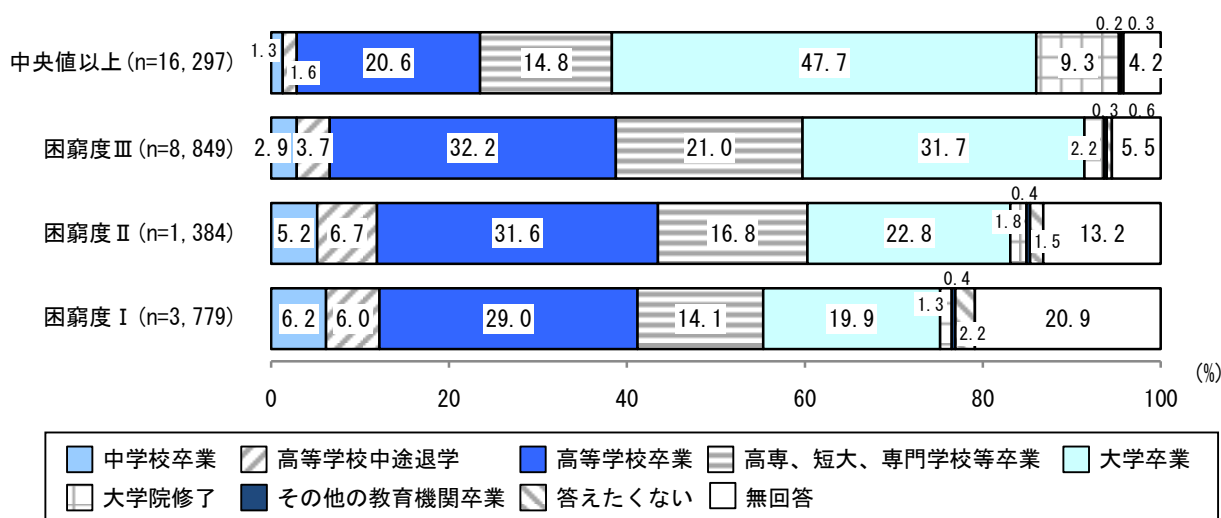


図 53. 困窮度別に見た、お母さんの最終学歴

困窮度別に母親の最終学歴を見ると、「高等学校中途退学」と回答した割合は、困窮度Ⅱ群は6.8%で最も高くなっている。また、「大学卒業」の割合は、中央値以上群が39.0%であるのに対し困窮度Ⅰ～Ⅲ群は低く、特に困窮度Ⅱ群は6.8%で最も低くなっている。

困窮度別に見た、お父さんの最終学歴（保護者票問8）

<大阪府内全体>



<交野市>

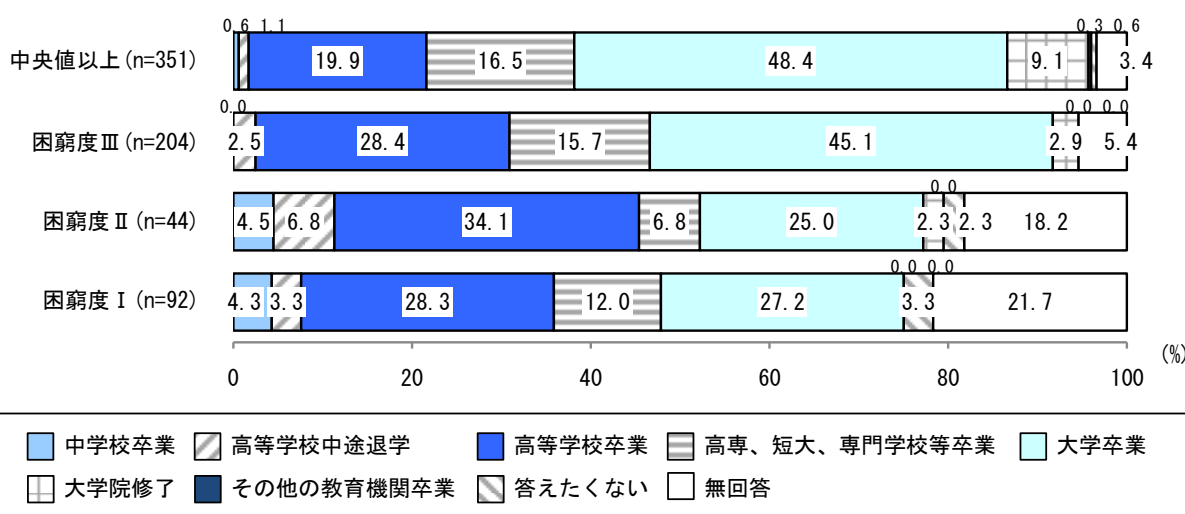
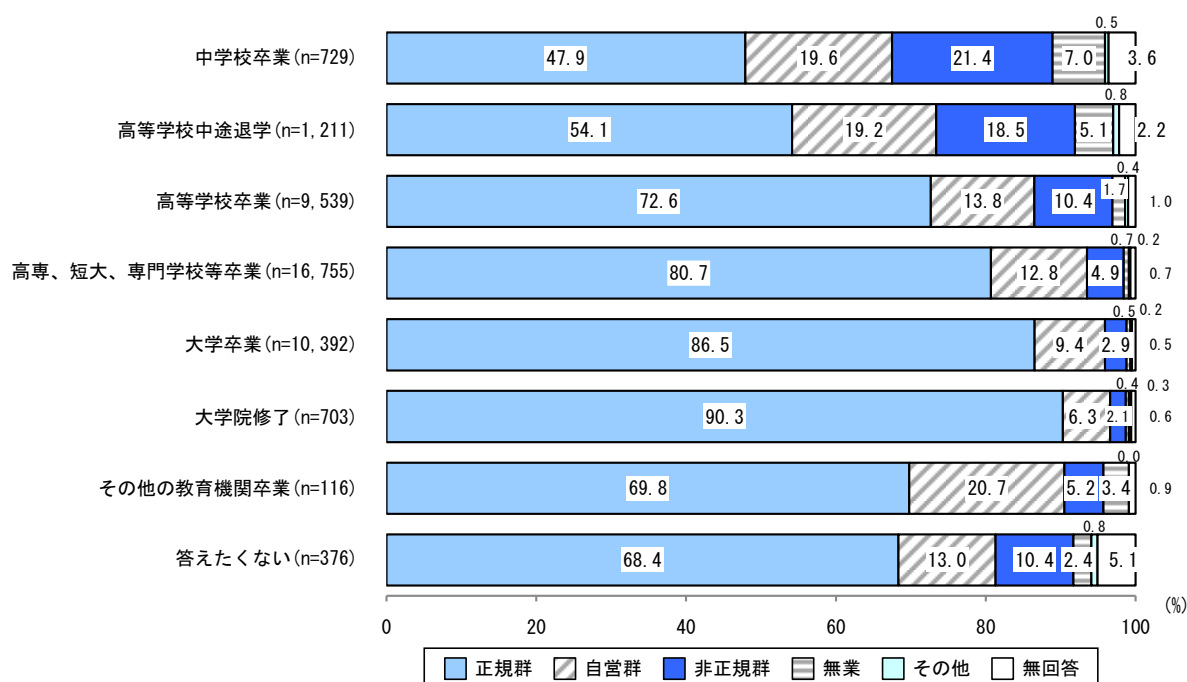


図 54. 困窮度別に見た、お父さんの最終学歴

困窮度別に父親の最終学歴を見ると、「大学卒業」と回答した割合は、中央値以上群が48.4%、困窮度Ⅲ群が45.1%であるのに対し、困窮度Ⅱ群、困窮度Ⅰ群はいずれも30.0%未満と低くなっている。

お母さんの最終学歴別に見た、就労状況（保護者票問 8 × 保護者票問 9）

<大阪府内全体>



<交野市>

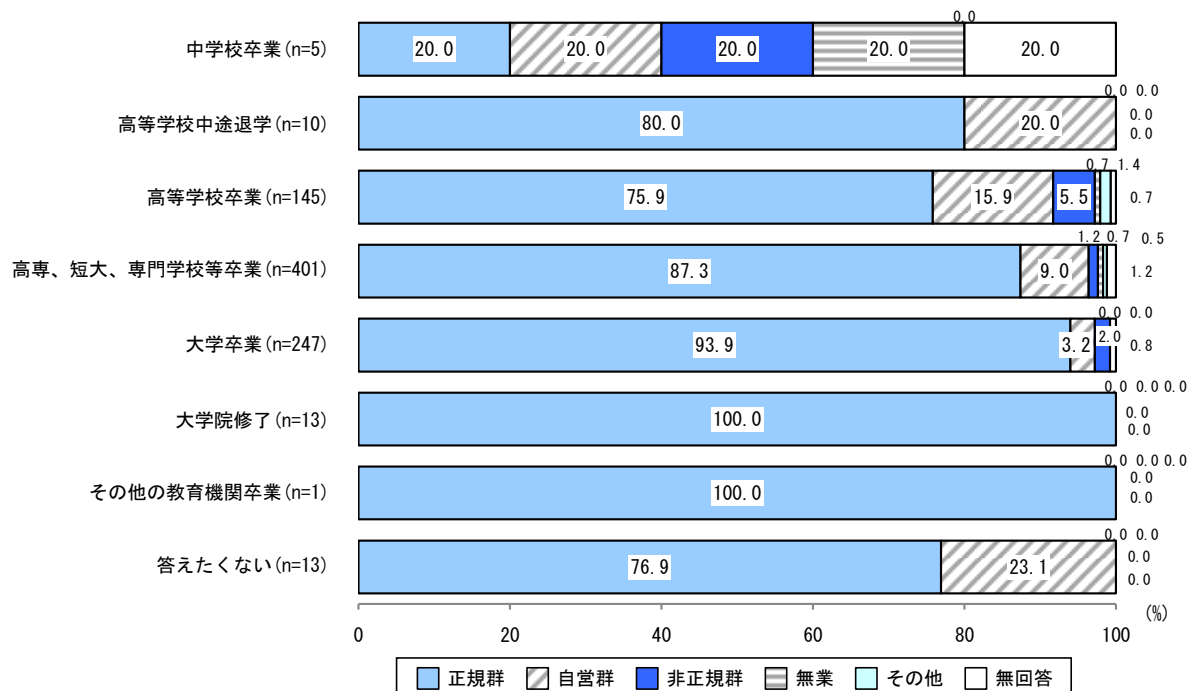
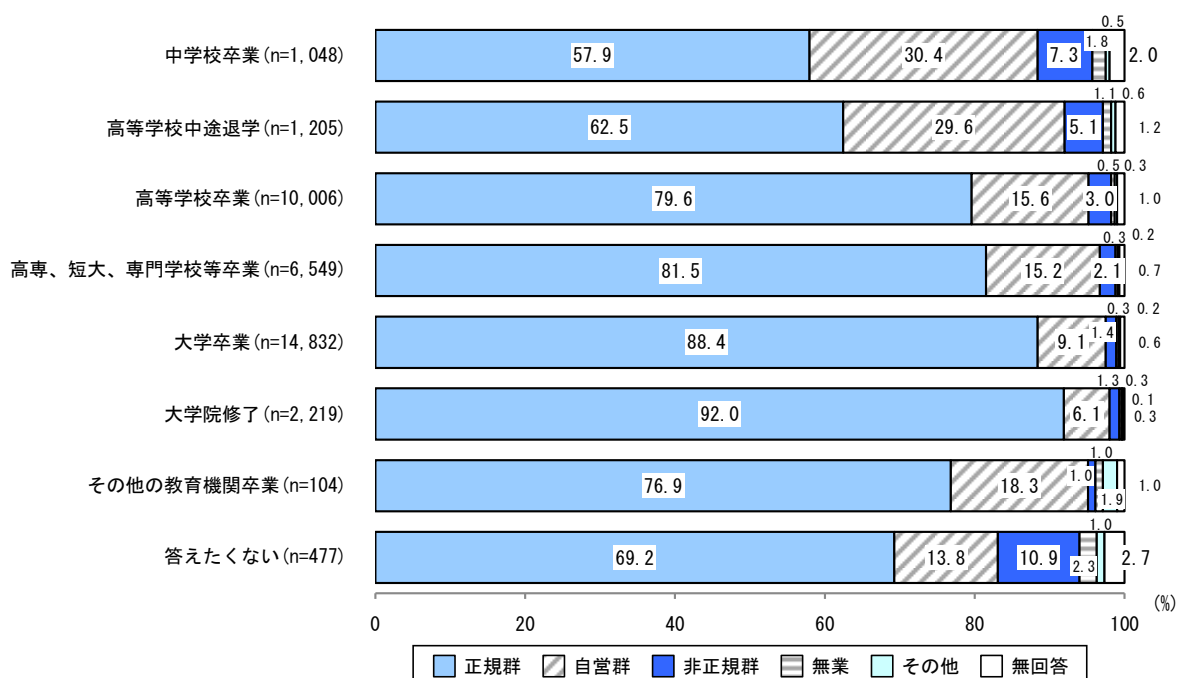


図 55. お母さんの最終学歴別に見た、就労状況

母親の最終学歴別に就労状況を見ると、概ね、「母親の最終学歴」が高くなるにつれて「正規群」の割合が高くなっている。

お父さんの最終学歴別に見た、就労状況（保護者票問 8 × 保護者票問 9）

<大阪府内全体>



<交野市>

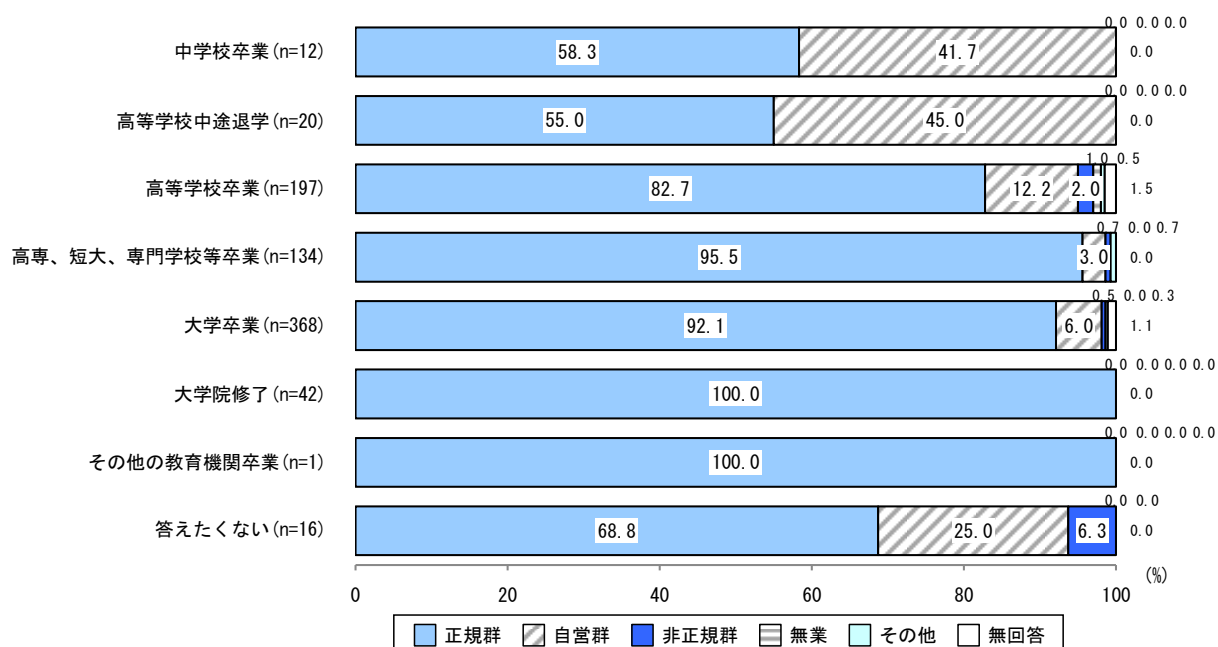
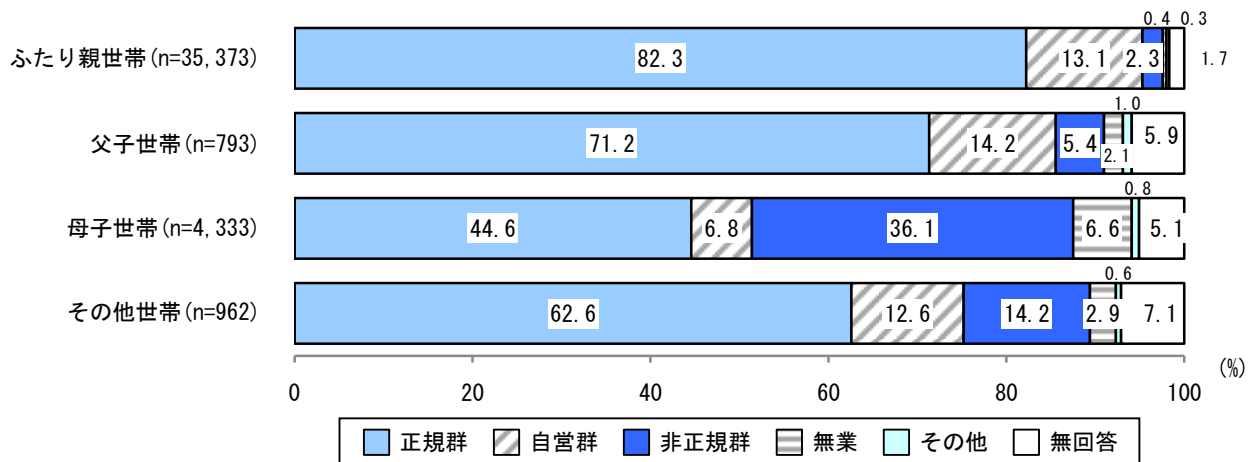


図 56. お父さんの最終学歴別に見た、就労状況

父親の最終学歴別に就労状況を見ると、「正規群」と回答した割合は、最終学歴が中学校卒業、高等学校中途退学では60.0%未満と低くなっている。

世帯構成別に見た、就労状況（保護者票問2×保護者票問9）

<大阪府内全体>



<交野市>

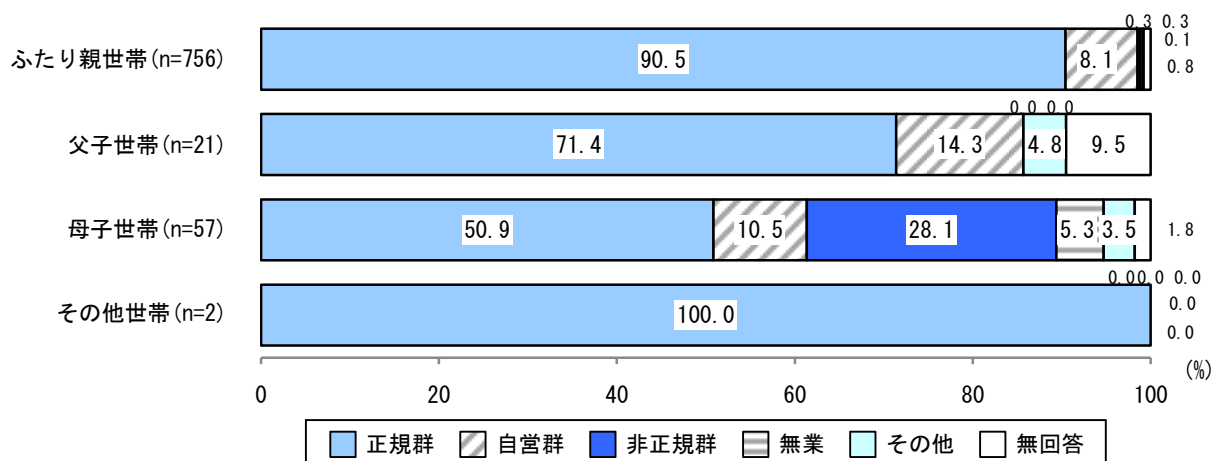
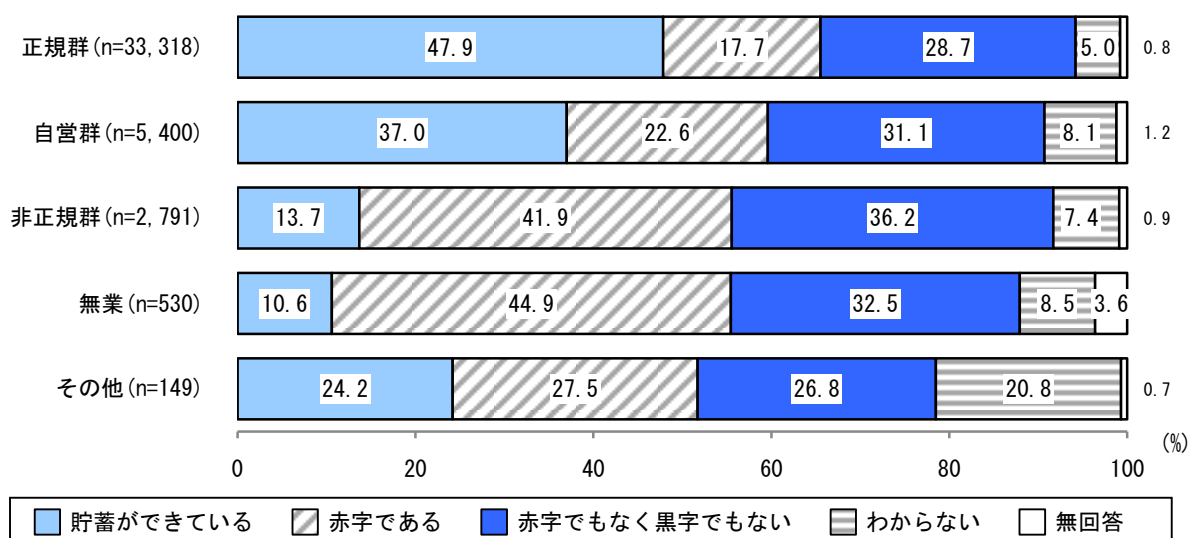


図 57. 世帯構成別に見た、就労状況

世帯構成別に就労状況を見ると、「正規群」と回答した割合は、ふたり親世帯が90.5%であるのに対し、母子世帯では50.9%と低くなっている。

就労状況別に見た、家計の状況（保護者票問9×保護者票問6（1））

<大阪府内全体>



<交野市>

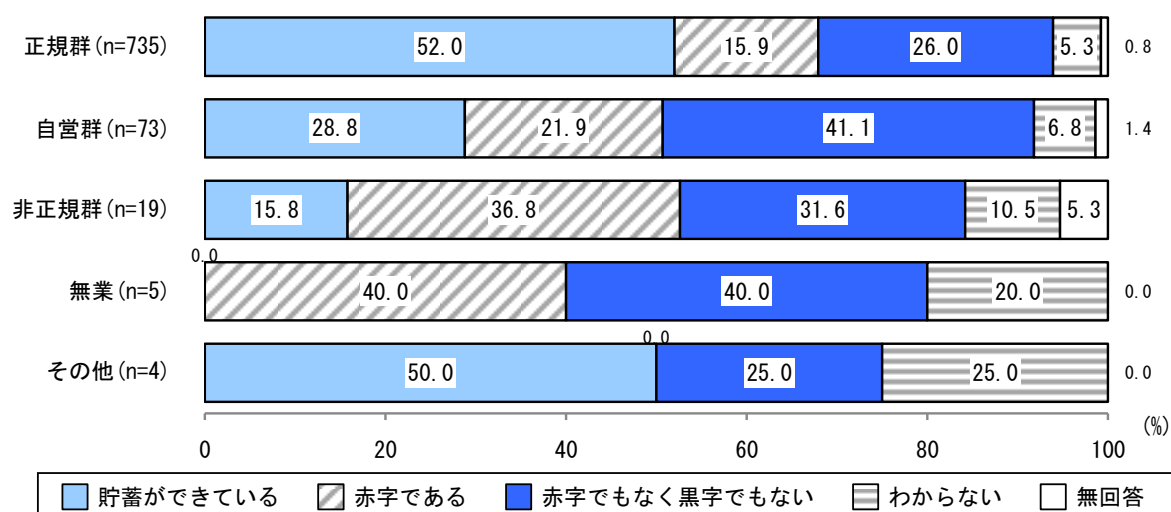


図 58. 就労状況別に見た、家計の状況

就労状況別に家計状況を見ると、「貯蓄ができています」と回答した割合は、正規群の人が52.0%で最も高くなっている。

<雇用に関する考察>

はじめに、困窮度別の保護者の就労状況と最終学歴について、中央値以上群と困窮度Ⅰ群の間で差が大きい項目に着目して述べる。親の就労状況を困窮度別に見ると、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「正規」群（94.3%対59.8%）が約35ポイント高く、大きな開きがある。一方で、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「非正規」群（16.3%対0.0%）が15ポイント以上高くなっている。母親の最終学歴を困窮度別に見ると、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「高等学校卒業」群（26.1%対12.5%）が2倍以上である。一方で、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「大学卒業」群（39.0%対19.6%）が約2倍となっている。同様に、父親の最終学歴においても、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「高等学校卒業」群（28.3%対19.9%）が約10ポイント高くなっている。また、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、大学以上（「大学卒業」と「大学院修了」）群（57.5%対27.2%）が約30ポイント高く、大きな差があることが確認できる。これらの結果から、経済的に困難な世帯の保護者の雇用形態が所得階層の分布に反映されていることがわかる。また、困窮度が高い群では親の最終学歴が低い傾向が見られる。

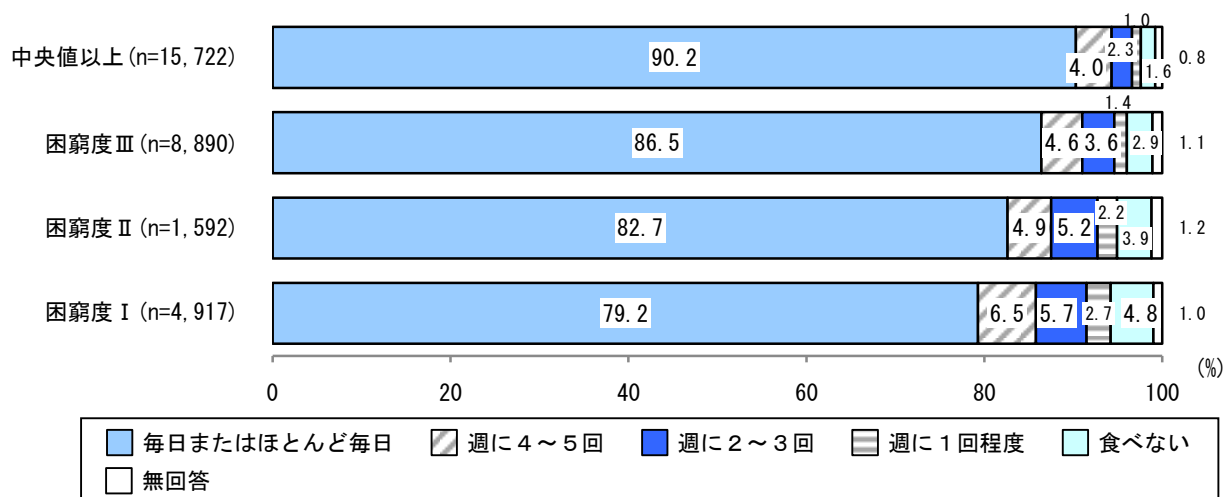
次に、世帯構成別に親の就労状況を確認すると、ふたり親世帯は母子世帯と比べ、「正規」群（90.5%対50.9%）が約40ポイント高くなっている。また、父子世帯は母子世帯と比べ、「正規」群（71.4%対50.9%）が20ポイント以上高くなっており、母子世帯の正規雇用の割合の低さが顕著である。さらに、母子世帯は、「非正規」群（28.1%）の割合が他の世帯構成に比べて極めて高くなっており、不安定な就労状況にあることが示唆される。

最後に、保護者の就労状況別に見る家計の状況に着目すると、「正規」群は「非正規」群と比べ、「貯蓄ができています」（52.0%対15.8%）が3倍以上である。一方で、「非正規」群は「正規」群と比べ、家計状況が「赤字である」（36.8%対15.9%）が20ポイント以上高くなっている。この結果から、保護者が正規雇用であるほど、貯蓄ができるなど生活が安定している傾向が見られる。

4－3．健康

困窮度別に見た、朝食の頻度（子ども票問4(1)）

<大阪府内全体>



<交野市>

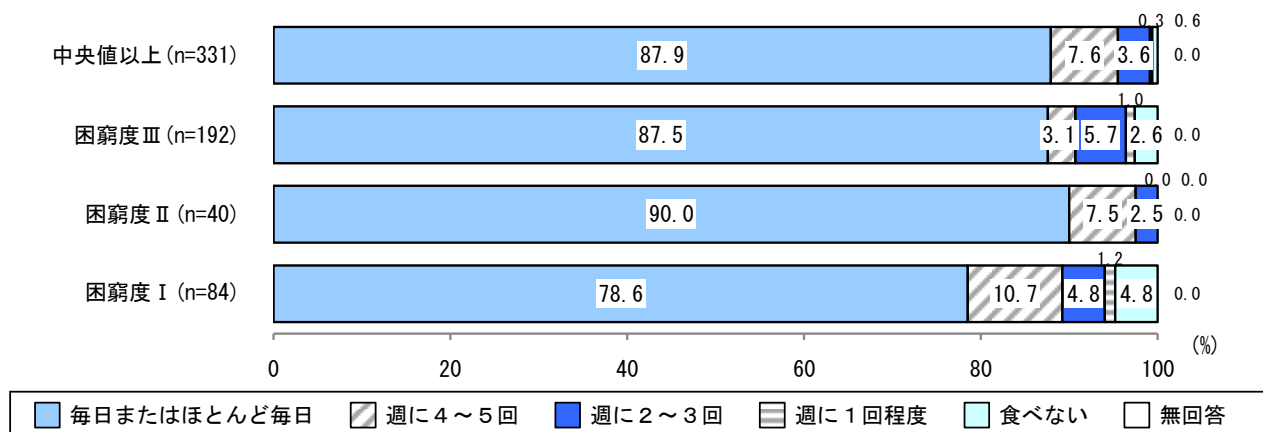
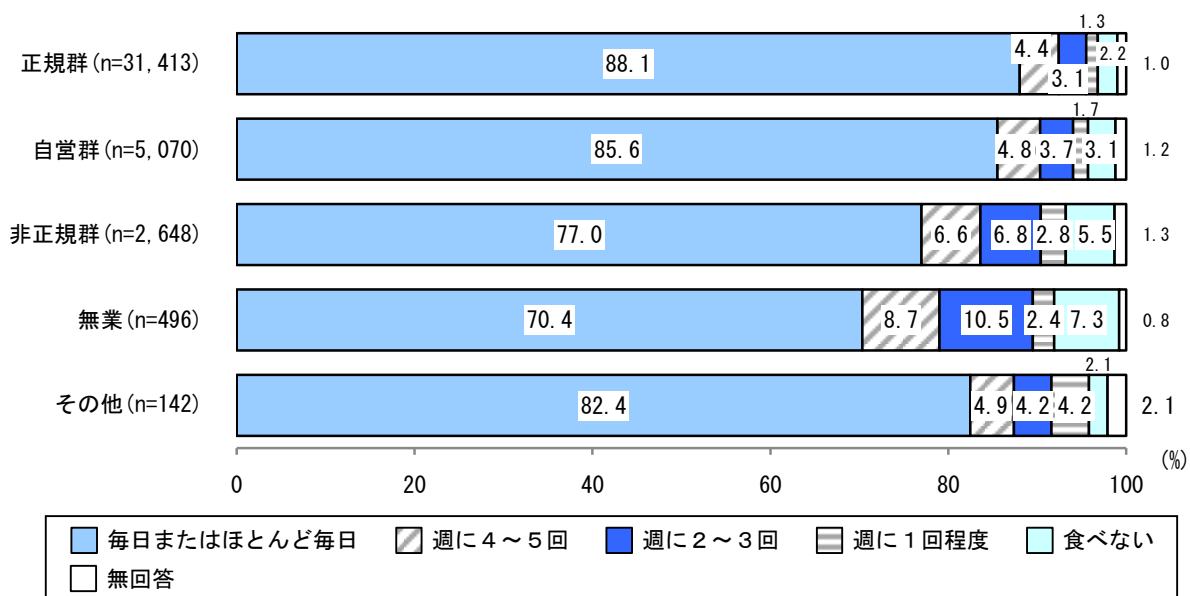


図 59. 困窮度別に見た、朝食の頻度

困窮度別に朝食の頻度を見ると「食べない」と回答した割合は、困窮度Ⅰ群が4.8%で最も高くなっている。

就労状況別に見た、朝食の頻度（子ども票問4(1)）

<大阪府内全体>



<交野市>

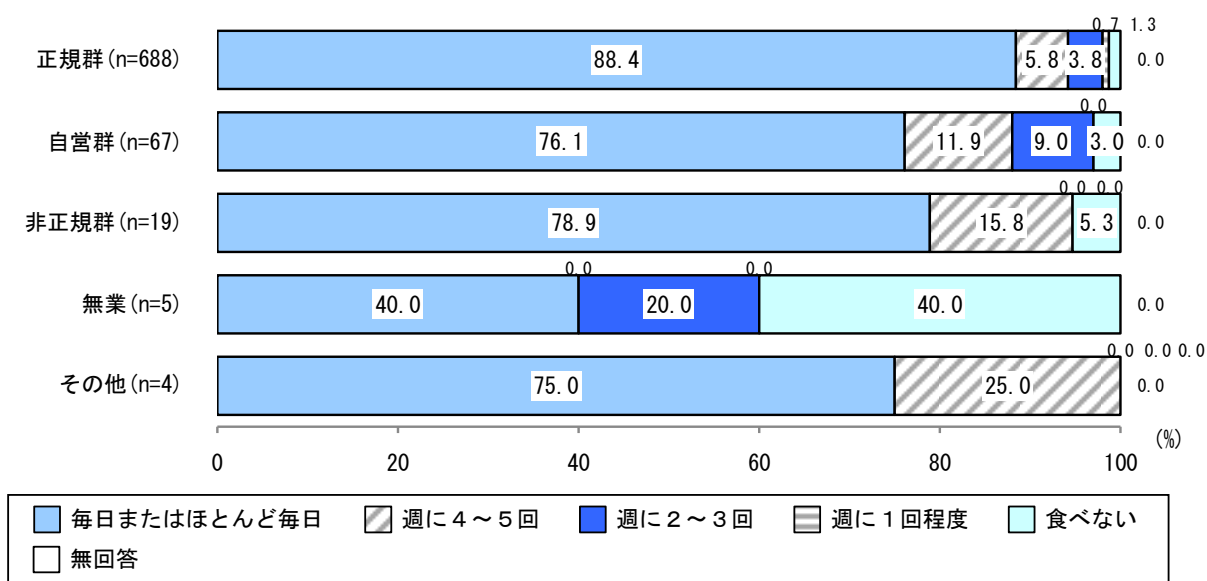
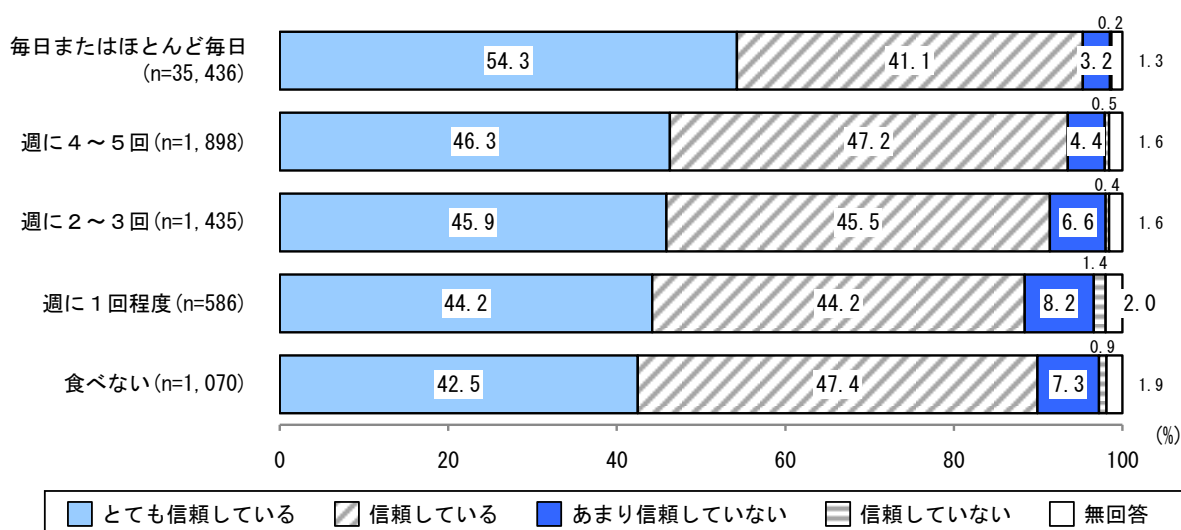


図 60. 就労状況別に見た、朝食の頻度

就労状況別に朝食の頻度を見ると、無業の人は「毎日またはほとんど毎日」と回答した割合が40.0%で最も低く、「食べない」の割合は40.0%で最も高くなっている。

朝食の頻度別に見た、子どもへの信頼度（子ども票問4(1)×保護者票問13(1)）

<大阪府内全体>



<交野市>

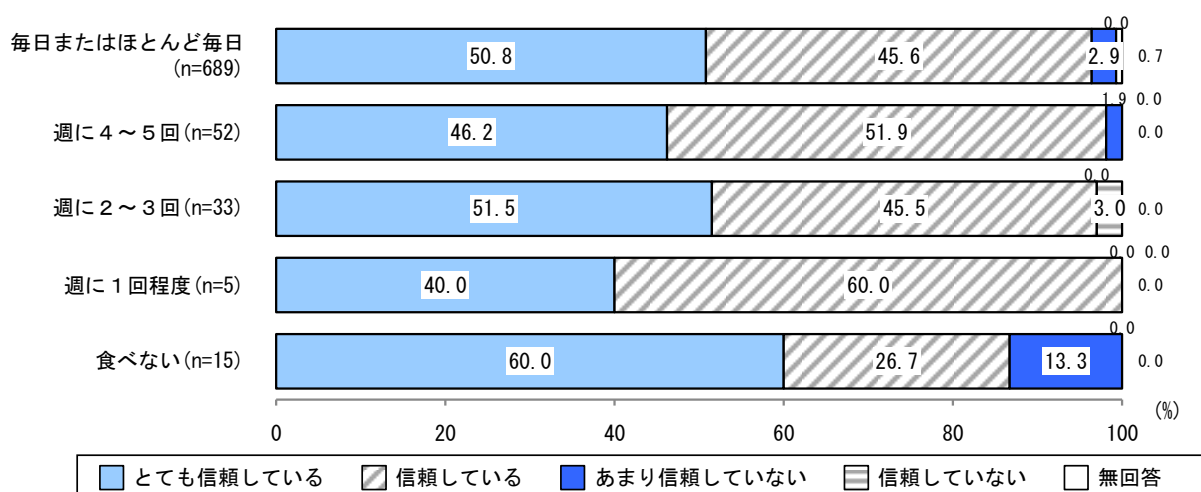
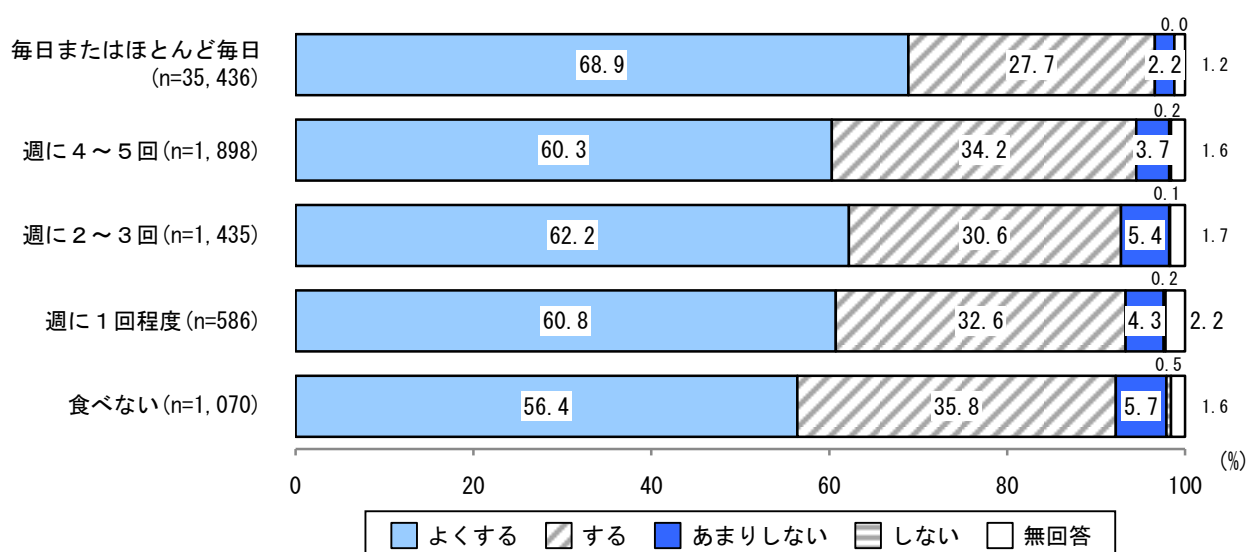


図 61. 朝食の頻度別に見た、子どもへの信頼度

朝食の頻度別に子どもへの信頼度を見ると、「あまり信頼していない」と回答した割合は、朝食を食べない人が13.3%と最も高くなっている。また、朝食を週に2～3回食べる人にも「信頼していない」の回答がみられた。

朝食の頻度別に見た、子どもとの会話頻度（子ども票問 4 (1) × 保護者票問 13 (2)）

<大阪府内全体>



<交野市>

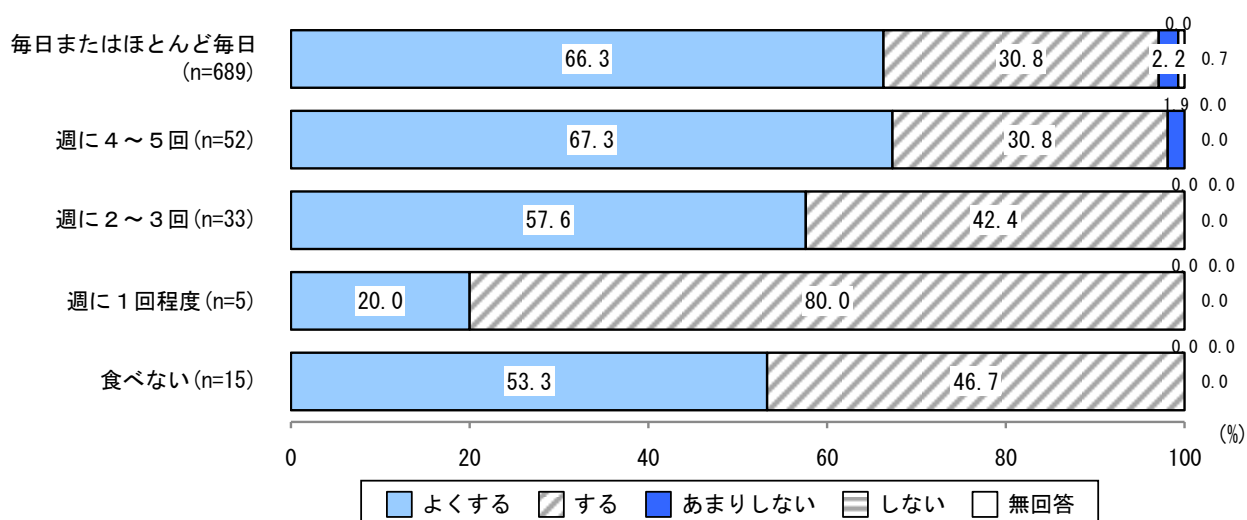
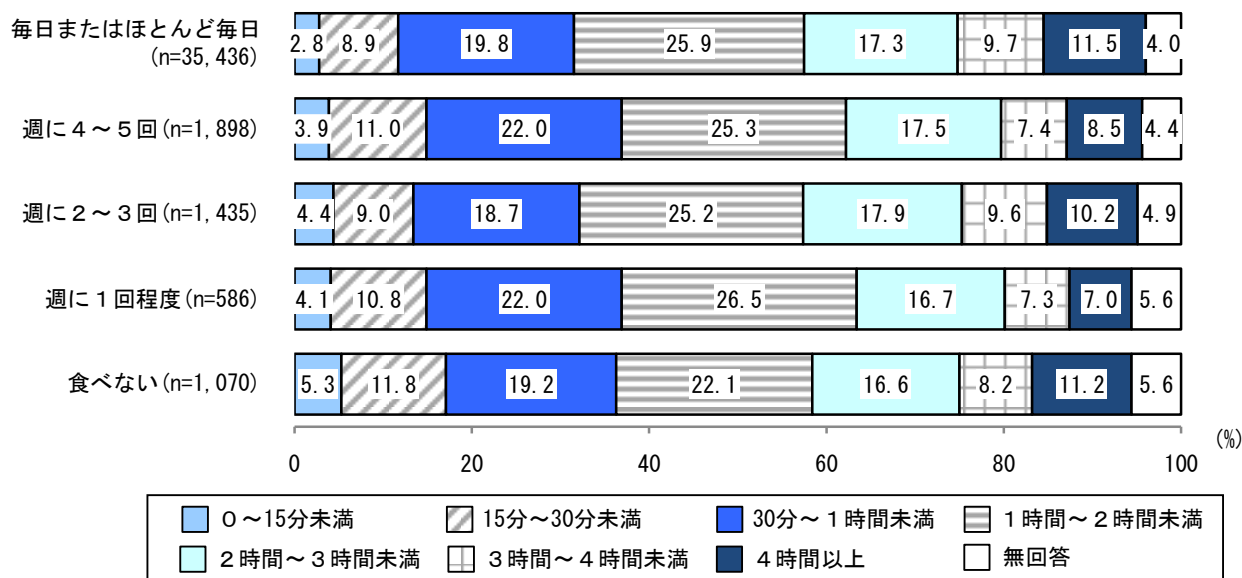


図 62. 朝食の頻度別に見た、子どもとの会話頻度

朝食の頻度別に子どもと会話頻度を見ると、「よくする」と回答した割合は、朝食を週に4回以上食べる人がおよそ7割を占めているのに対し、朝食を週に1回程度食べる人は20.0%と低くなっている。

朝食の頻度別に見た、平日での子どもとの関わり時間（子ども票問4(1)×保護者票問13(3)）

<大阪府内全体>



<交野市>

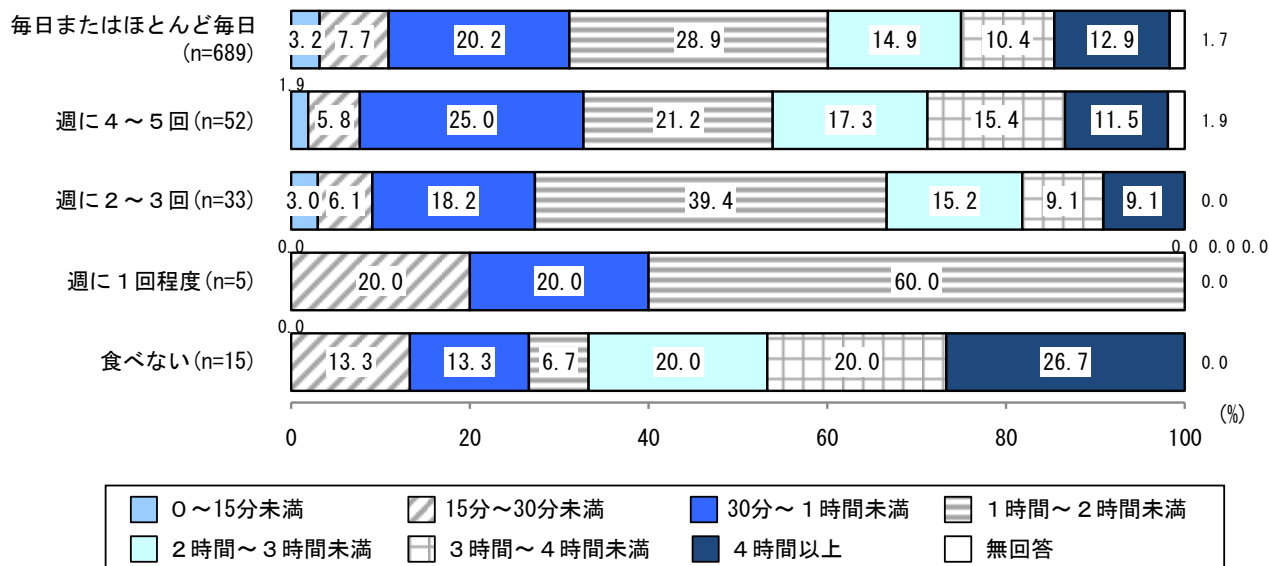
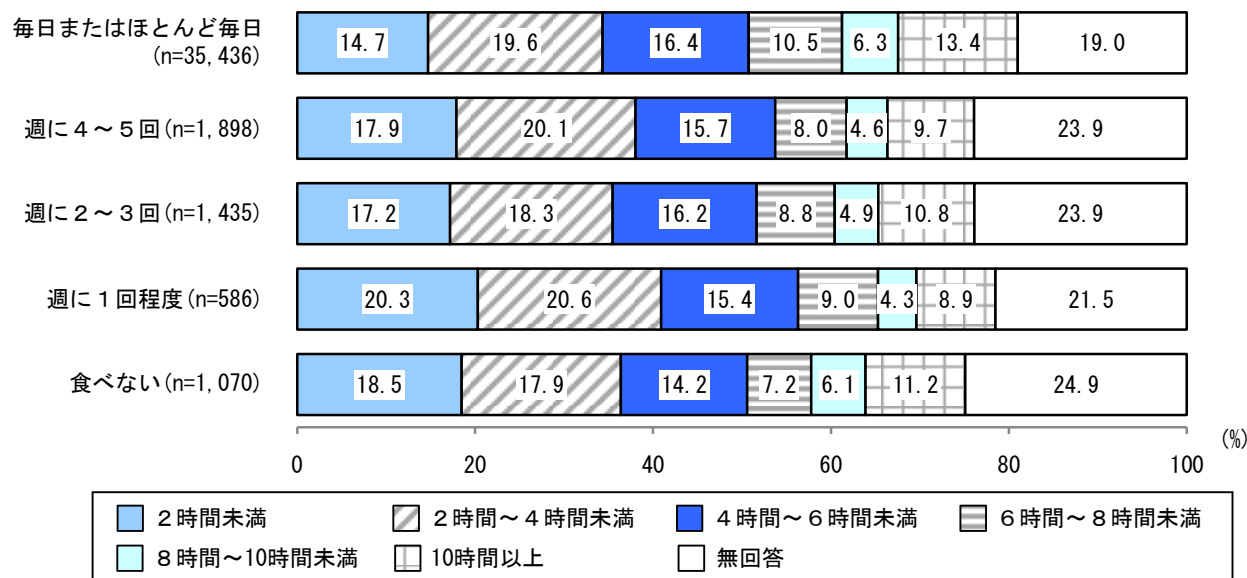


図 63. 朝食の頻度別に見た、平日での子どもとの関わり時間

朝食の頻度別に平日での子どもとの関わり時間を見ると、朝食を週に1回程度食べる人には、平日に2時間以上子どもと関わる回答がみられなかった。

朝食の頻度別に見た、休日での子どもとの関わり時間（子ども票問4(1)×保護者票問13(3)）

<大阪府内全体>



<交野市>

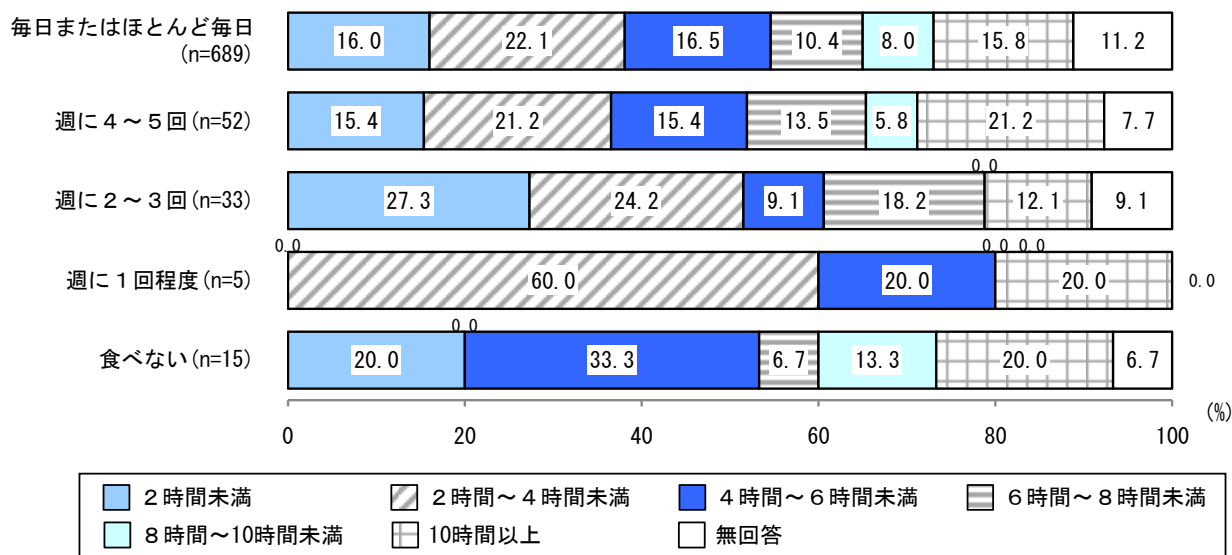
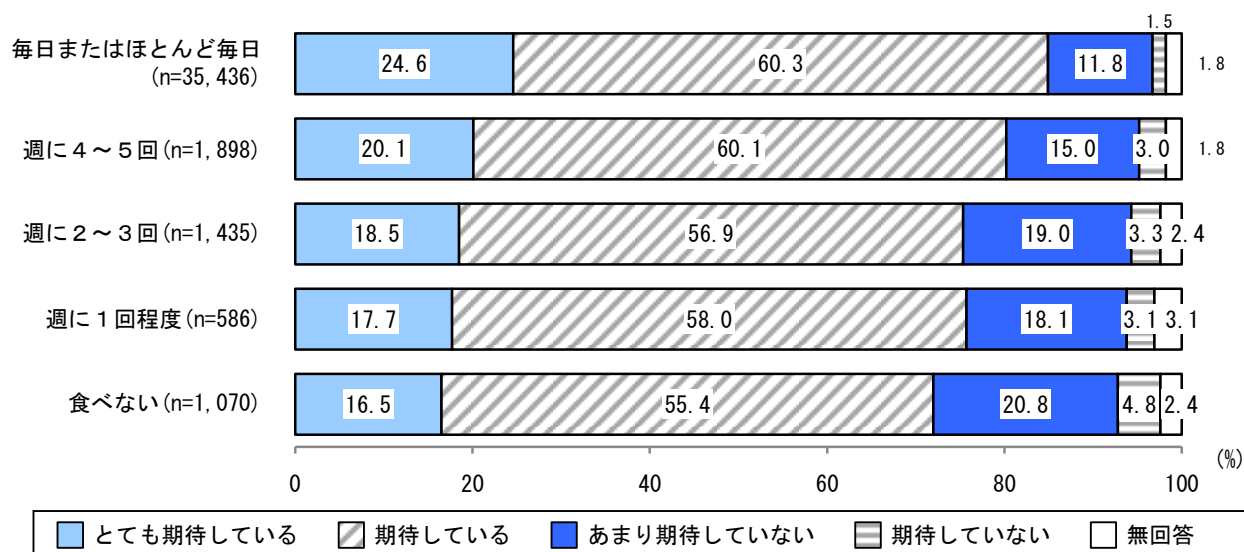


図 64. 朝食の頻度別に見た、休日での子どもとの関わり時間

朝食の頻度別に休日での子どもとの関わり時間を見ると、朝食を食べない人は食べる人より、休日に4時間以上子どもと関わる回答の割合が高くなっている。

朝食の頻度別に見た、子どもの将来への期待度（子ども票問 4 (1) × 保護者票問 13 (4)）

<大阪府内全体>



<交野市>

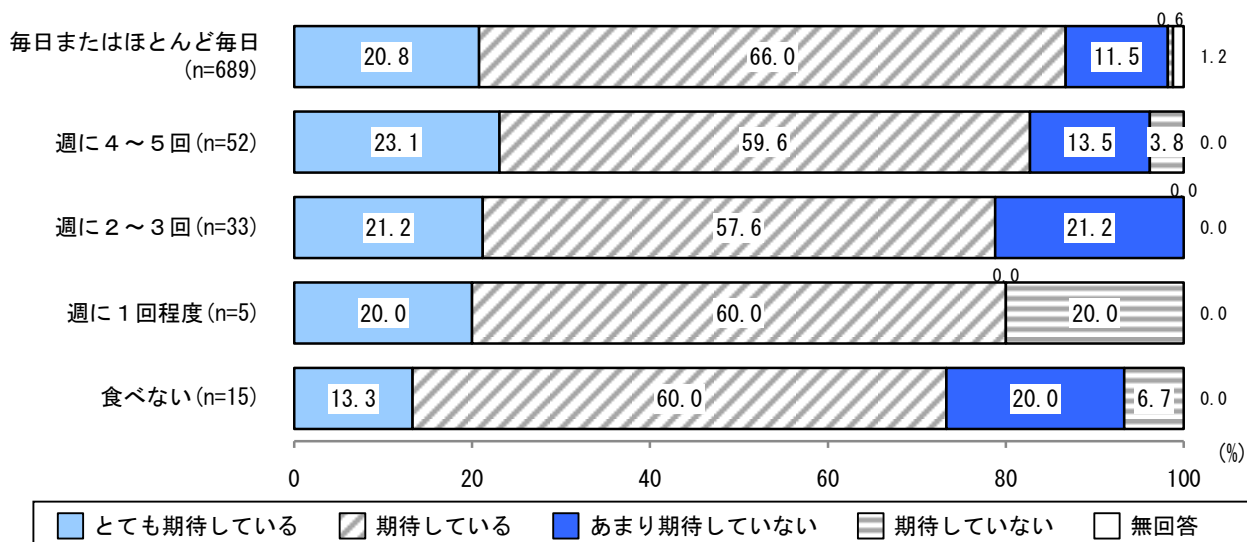


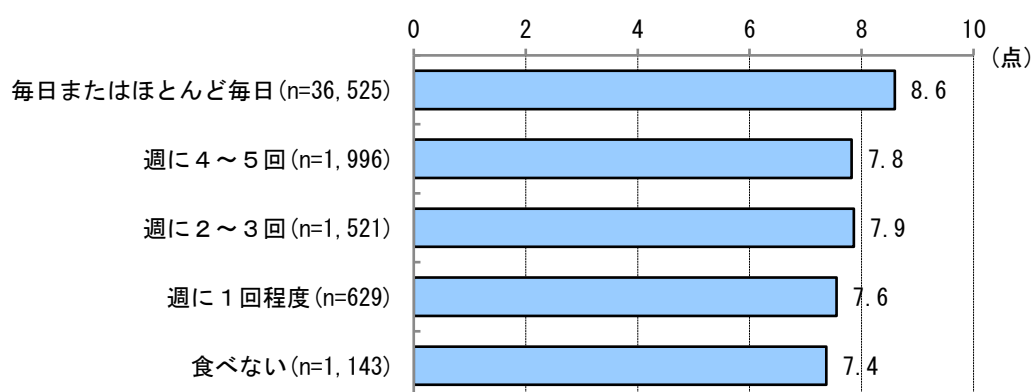
図 65. 朝食の頻度別に見た、子どもの将来への期待度

朝食の頻度別に子どもの将来への期待度を見ると、概ね朝食を食べる頻度が高くなるにつれ、「とても期待している」と回答した割合が高くなっている。

朝食の頻度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）
（子ども票問4（1）×子ども票問23）

※「自分に自信がある」「自分の考えをはっきり相手に伝えることができる」「自分の将来の夢や目標を持っている」の3項目について、それぞれ4段階で評価させ、その値を合計した得点を、セルフ・エフィカシー得点とした。得点が高いほど、自己効力感（セルフ・エフィカシー）が高いことを表す。

<大阪府内全体>



<交野市>

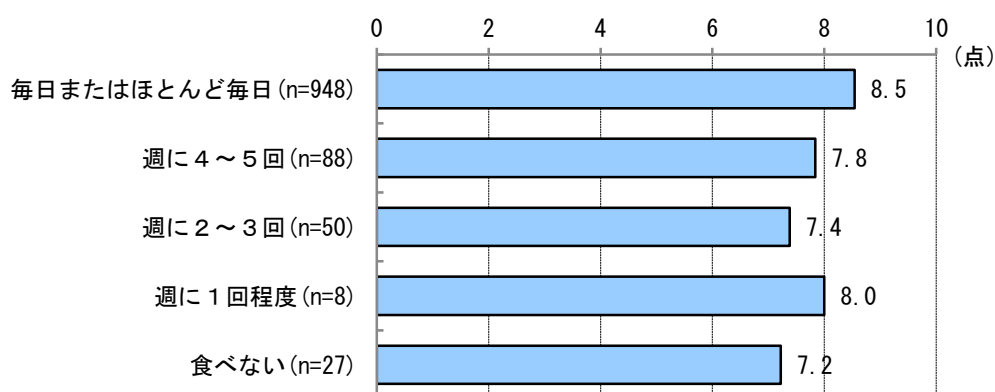
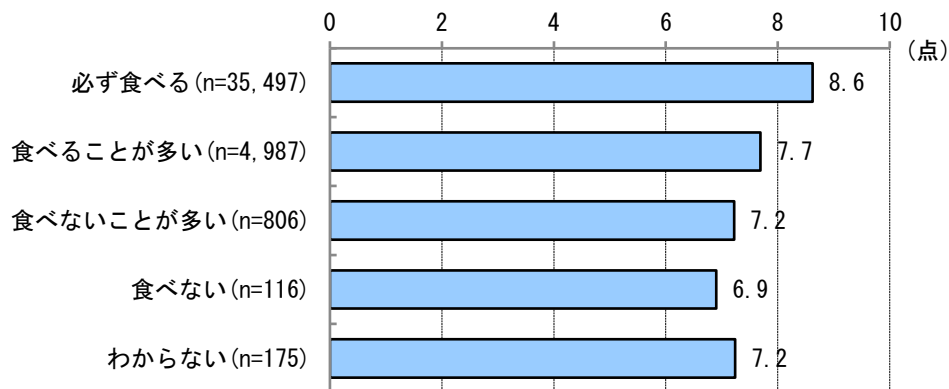


図 66. 朝食の頻度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

朝食の頻度別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の得点を見ると、毎日またはほとんど毎日朝食をとっている人では、8.5点であるのに対し、食べない人は、7.2点と、毎日またはほとんど毎日朝食をとっていると回答した人のほうが子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）が高い結果となった。

休日の昼食の頻度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）
（子ども票問6（1）×子ども票問23）

<大阪府内全体>



<交野市>

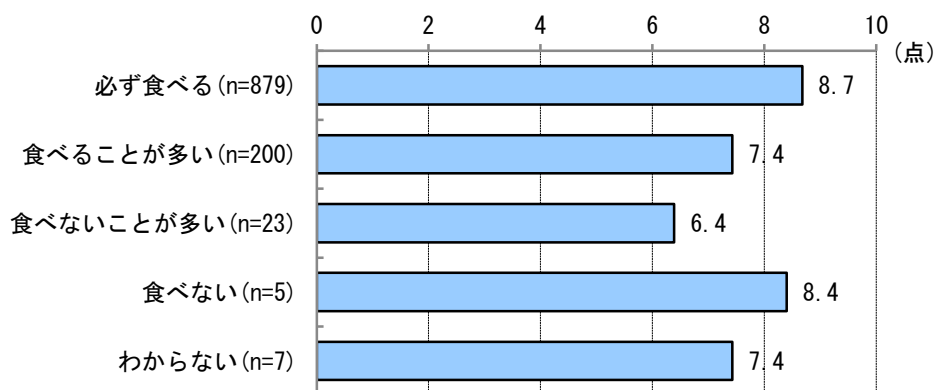
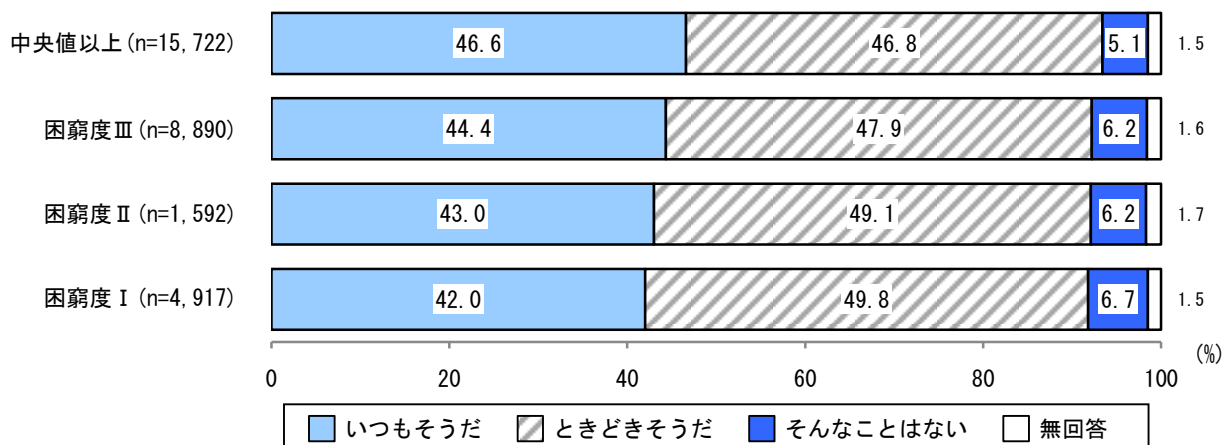


図 67. 休日の昼食の頻度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

休日の昼食の頻度別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の得点を見ると、必ず食べる人の得点が8.7点であるのに対して、食べないことが多い人は6.4点と、昼食を必ず食べる人のほうが、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）が高い結果となった。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ①楽しみにしていることがたくさんある
(子ども票問 19①)

<大阪府内全体>



<交野市>

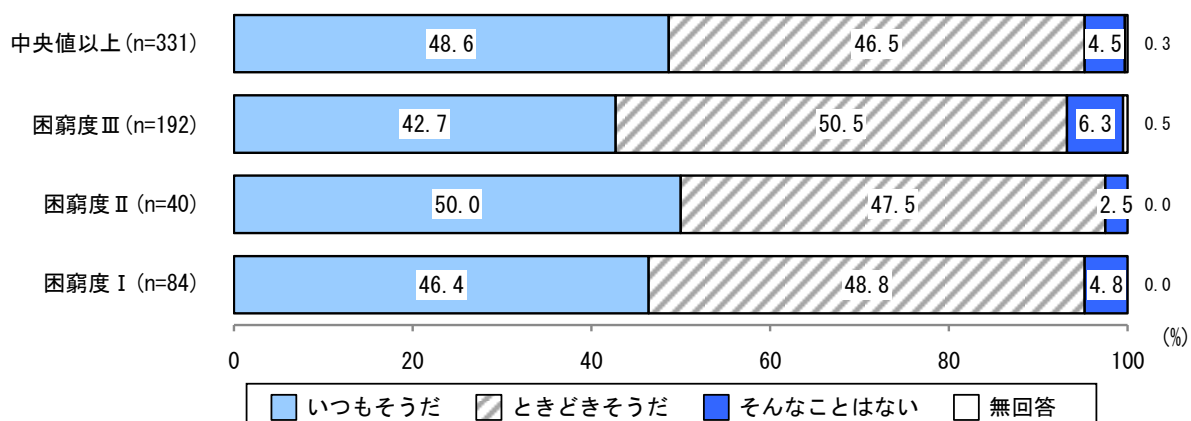
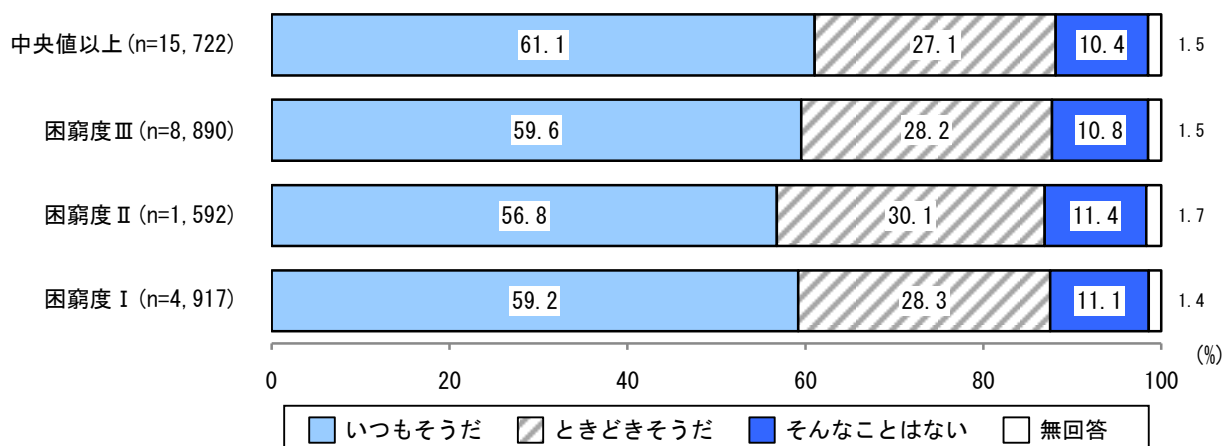


図 68. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ①楽しみにしていることがたくさんある

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況で楽しみにしていることがたくさんあるを見ると、「いつもそうだ」と回答した割合は困窮度Ⅲ群が42.7%で最も低くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ②遊びにでかけるのが好きだ(子ども票問 19②)

<大阪府内全体>



<交野市>

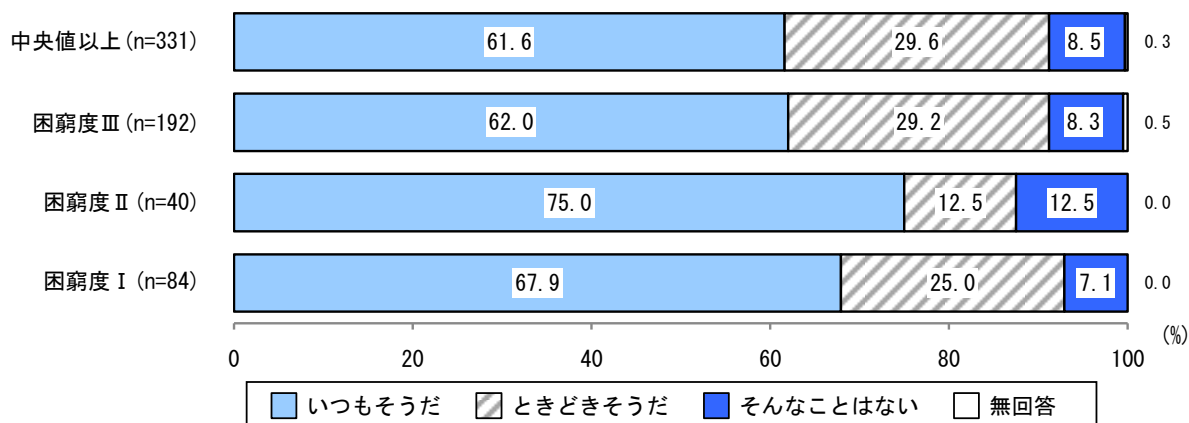
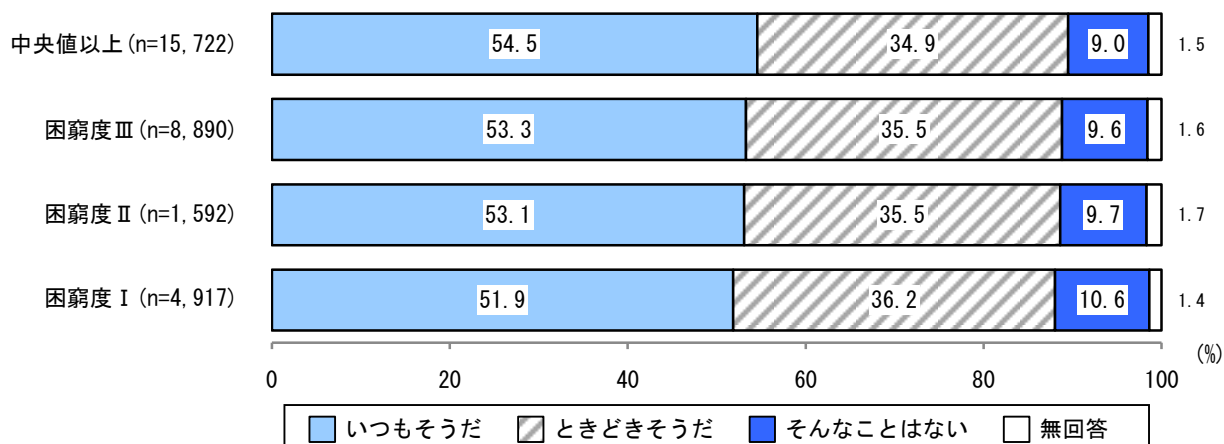


図 69. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ②遊びにでかけるのが好きだ

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況で遊びにでかけるのが好きだを見ると、「そんなことはない」と回答した割合は、困窮度Ⅱ群が12.5%で最も高くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱいだ（子ども票問 19③）

<大阪府内全体>



<交野市>

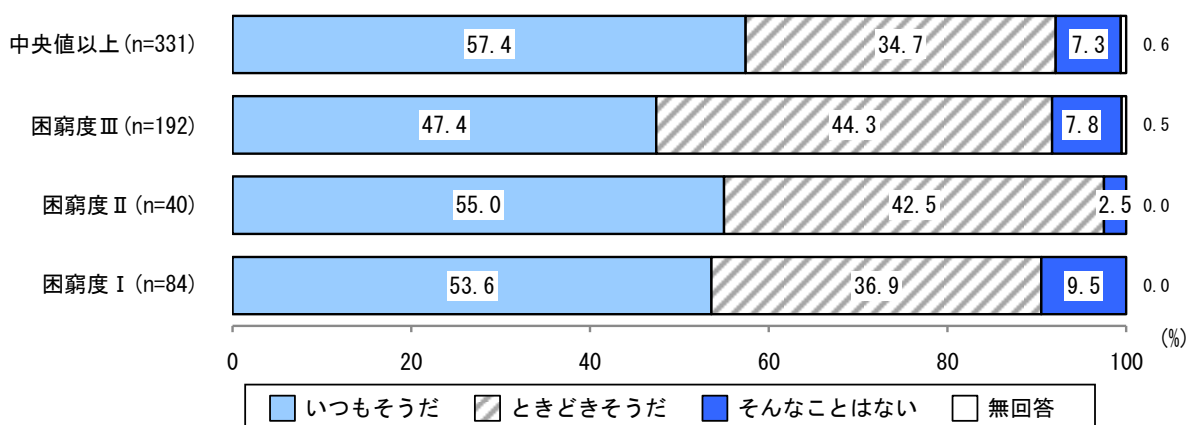
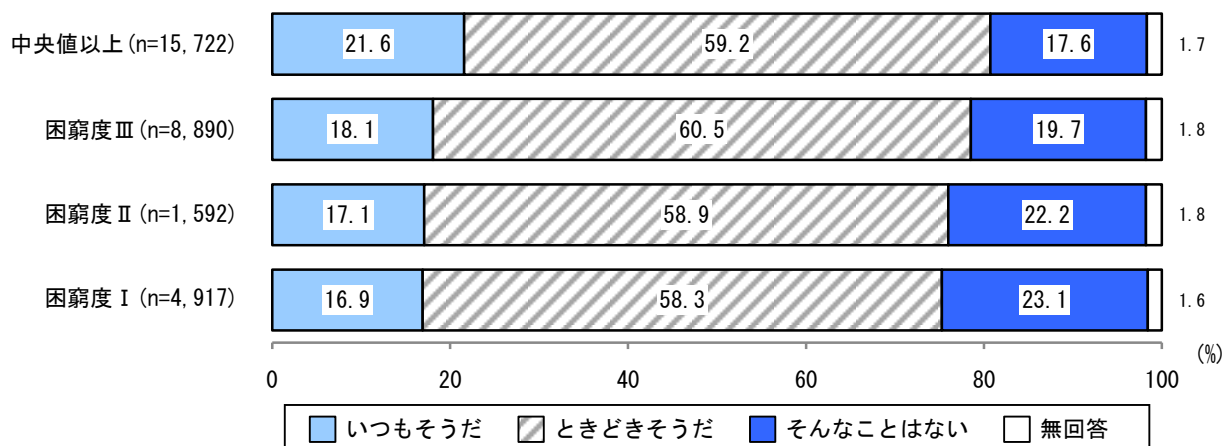


図 70. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱいだ

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況で元気いっぱいだを見ると、「いつもそうだ」と回答した割合は、困窮度Ⅲ群が47.4%で、最も低くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ④やろうと思ったことがうまくできる
(子ども票問 19④)

<大阪府内全体>



<交野市>

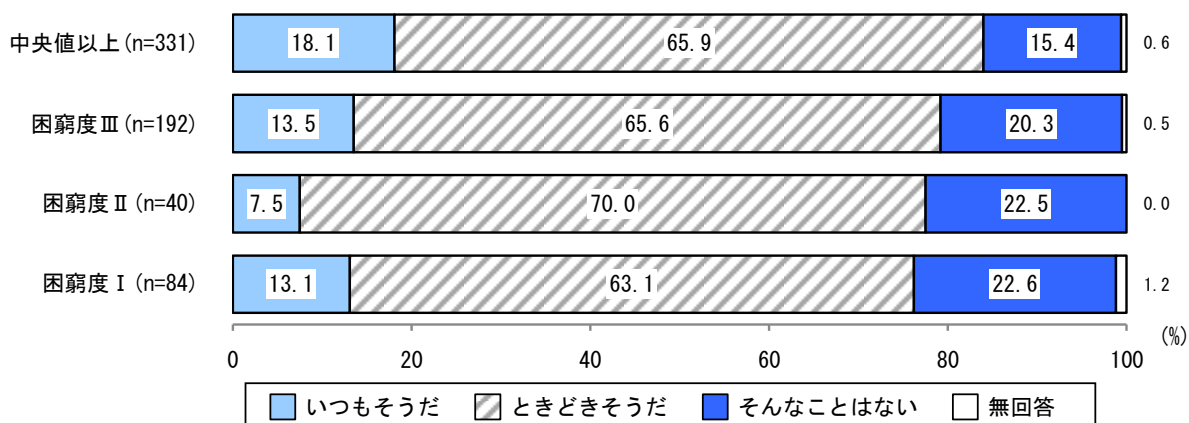
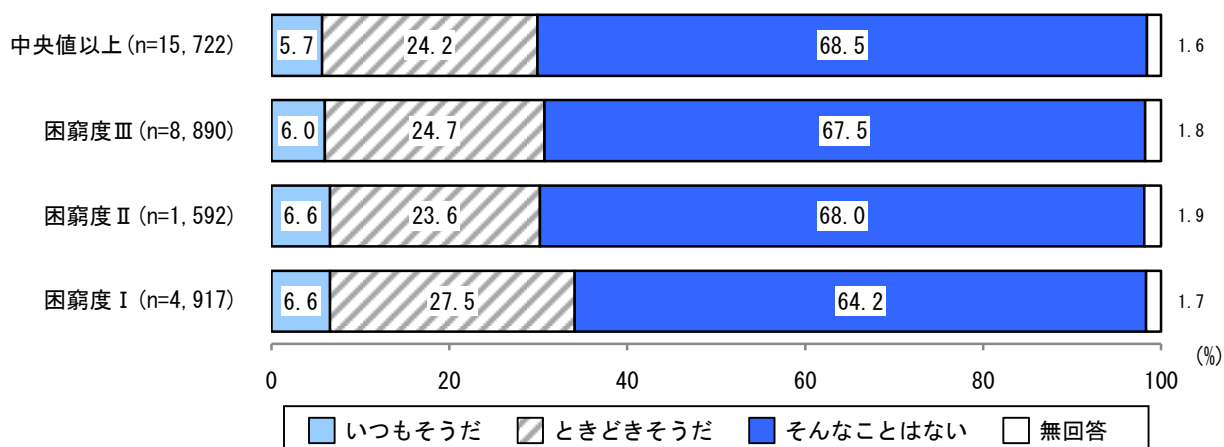


図 71. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ④やろうと思ったことがうまくできる

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況でやろうと思ったことがうまくできるを見ると、困窮度が高くなるにつれ、「そんなことはない」と回答した割合が高くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑤一人ぼっちのような気がする
(子ども票問 19⑤)

<大阪府内全体>



<交野市>

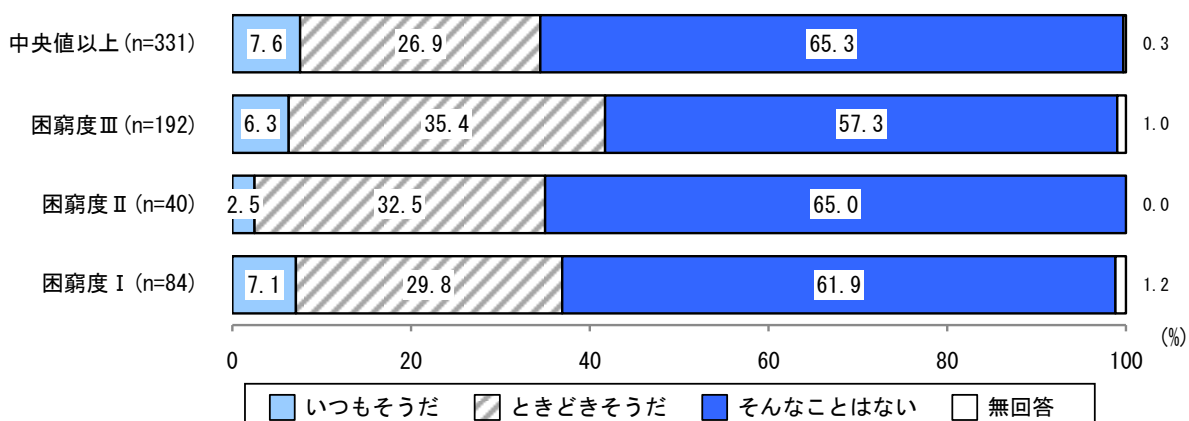
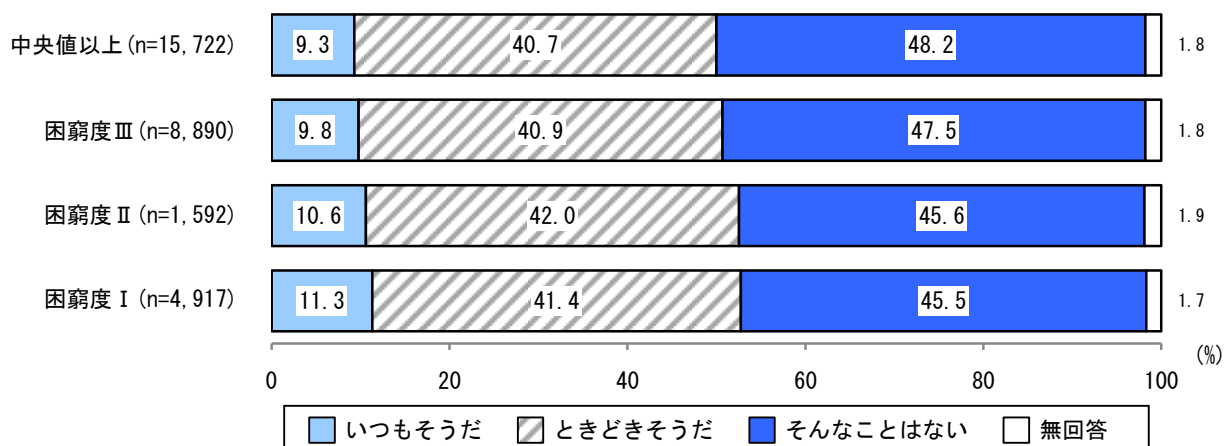


図 72. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑤一人ぼっちのような気がする

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況で一人ぼっちのような気がするを見ると、「いつもそうだ」と回答した割合は、困窮度Ⅱ群が2.5%で最も低くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑥不安な気持ちになる（子ども票問 19⑥）

<大阪府内全体>



<交野市>

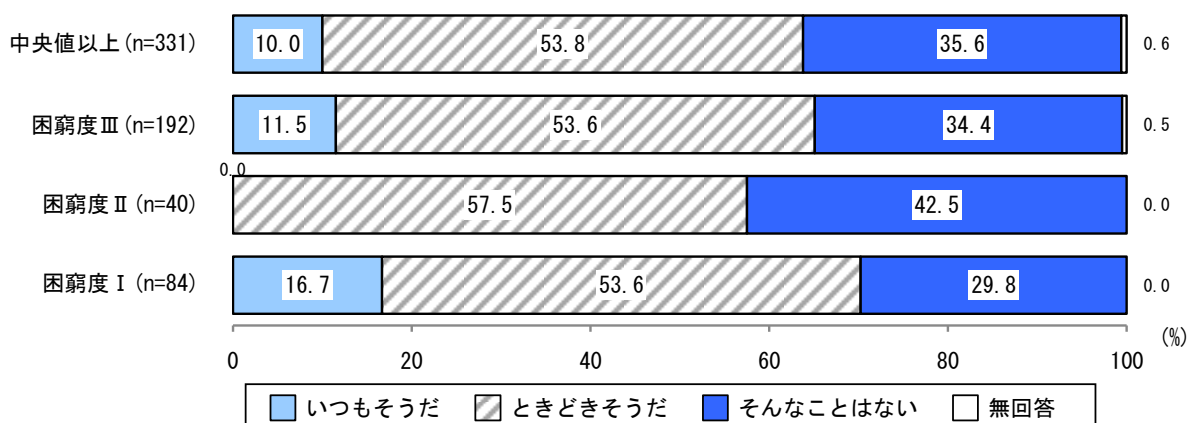
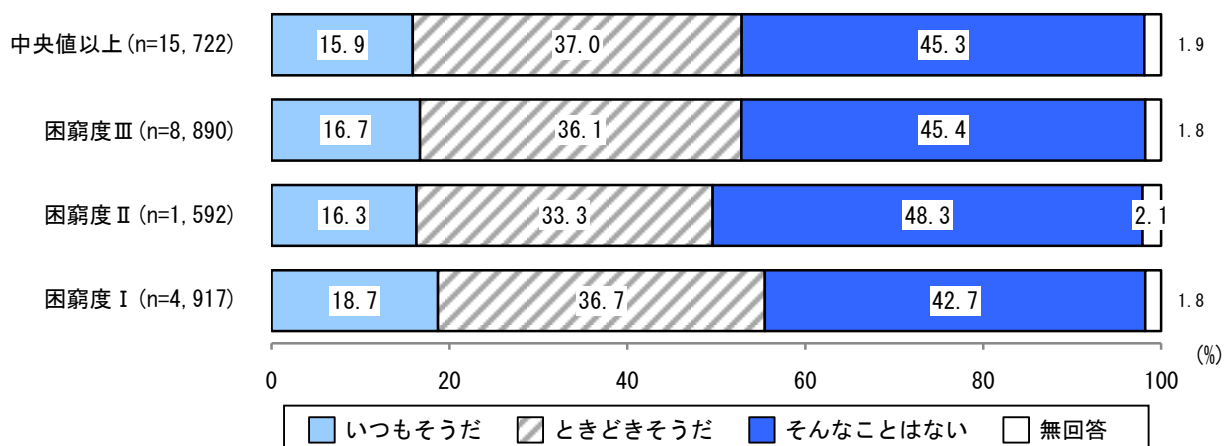


図 73. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑥不安な気持ちになる

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況で不安な気持ちになるを見ると、「そんなことはない」と回答した割合は、困窮度Ⅰ群が29.8%で最も低くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる（子ども票問 19⑦）

<大阪府内全体>



<交野市>

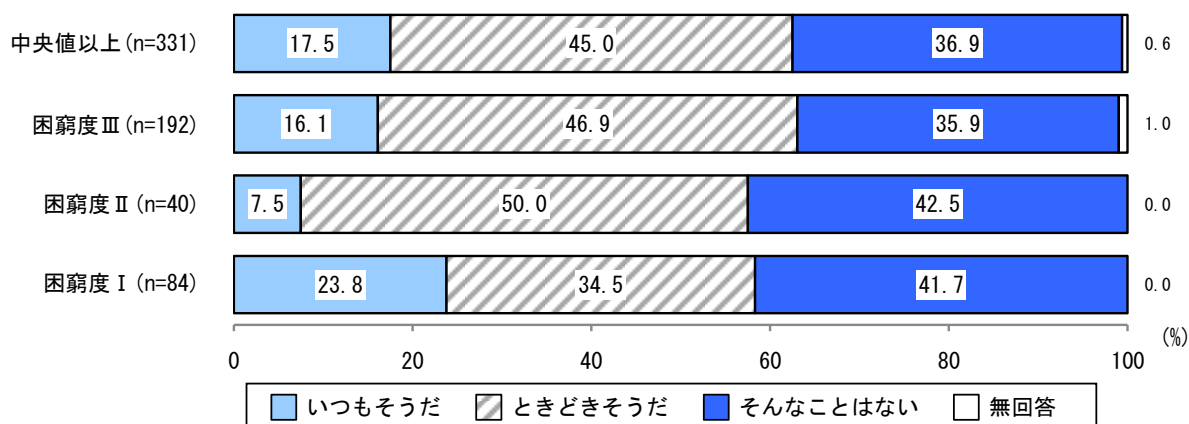
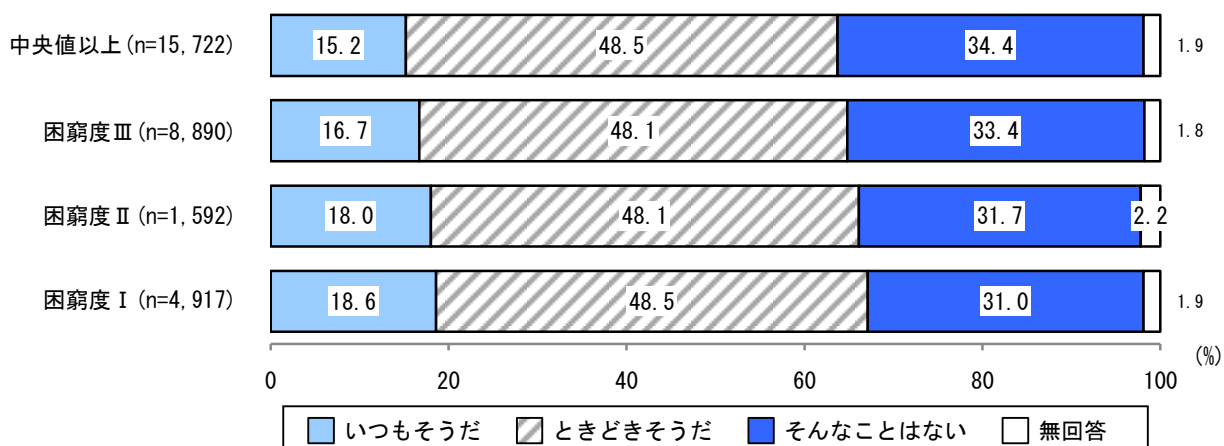


図 74. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況でまわりが気になるを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は困窮度Ⅰ群が23.8%で最も高くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない（子ども票問 19⑧）

<大阪府内全体>



<交野市>

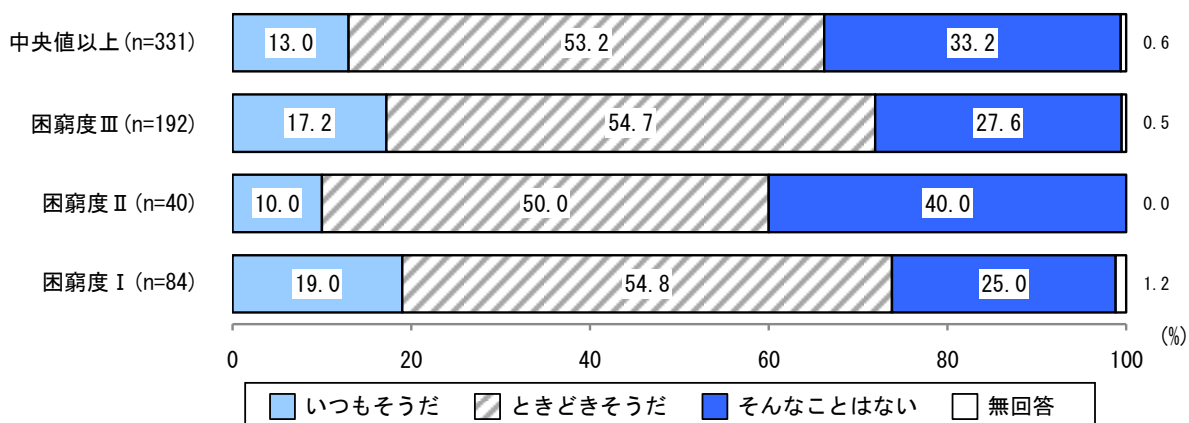
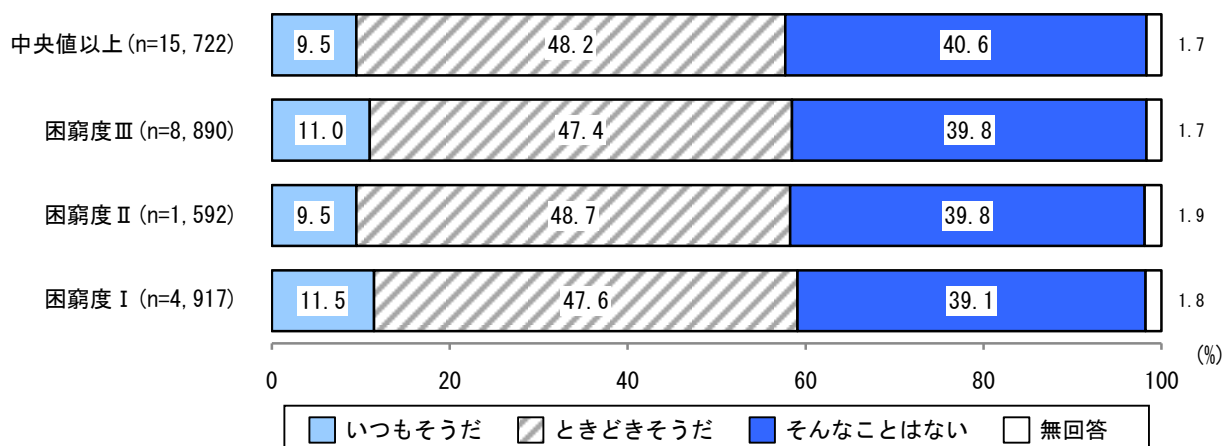


図 75. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況でやる気が起きないを見ると、「そんなことはない」と回答した割合は、困窮度Ⅰ群が25.0%で最も低くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑨いらいらする（子ども票問 19⑨）

<大阪府内全体>



<交野市>

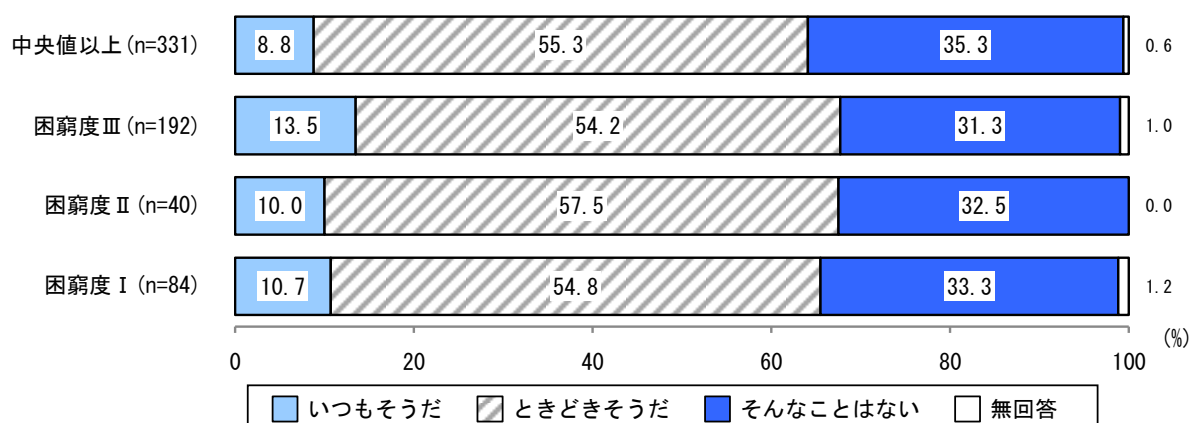
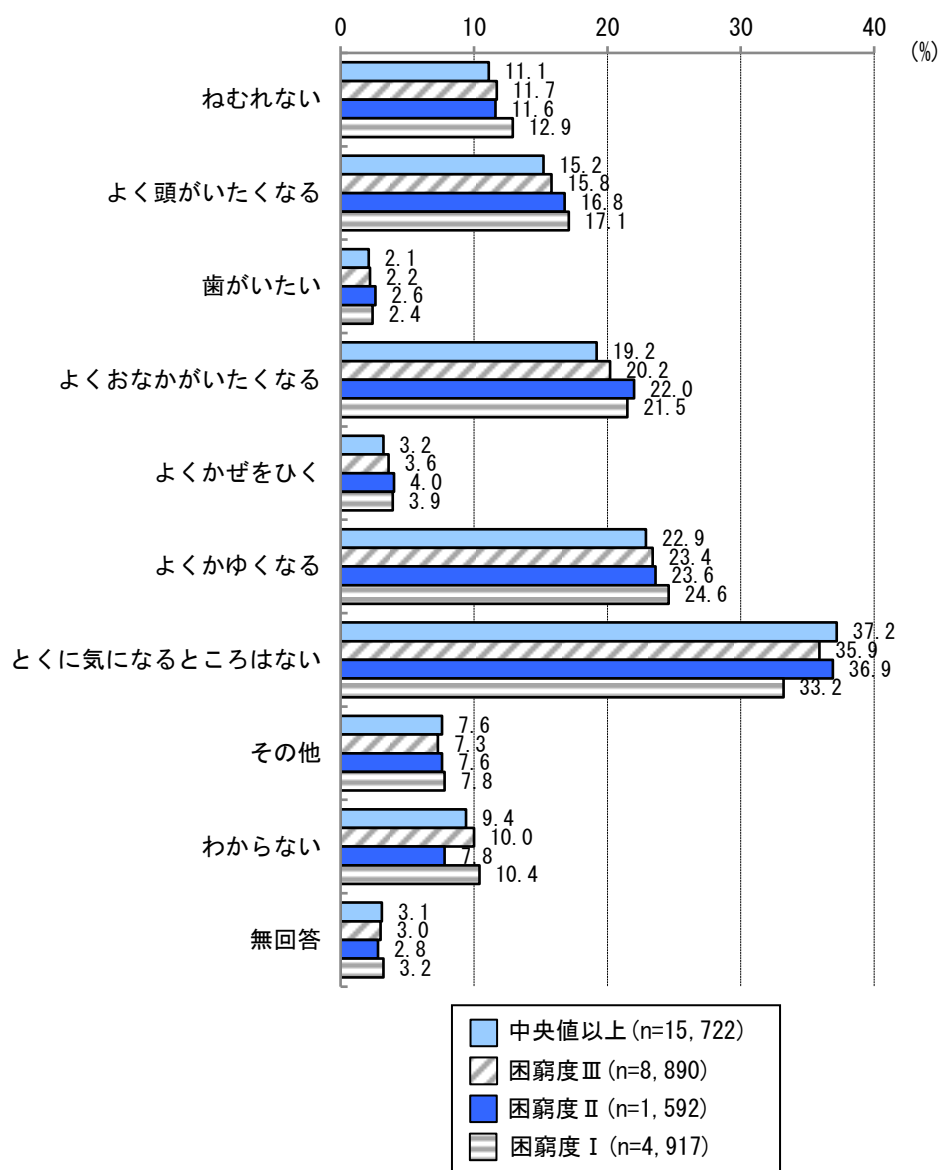


図 76. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑨いらいらする

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況でいらいらするを見ると、「そんなことはない」と回答した割合は困窮度Ⅲ群が31.3%で最も低くなっている。

困窮度別に見た、自分の体の状態で気になること（子ども票問 20）

<大阪府内全体>



<交野市>

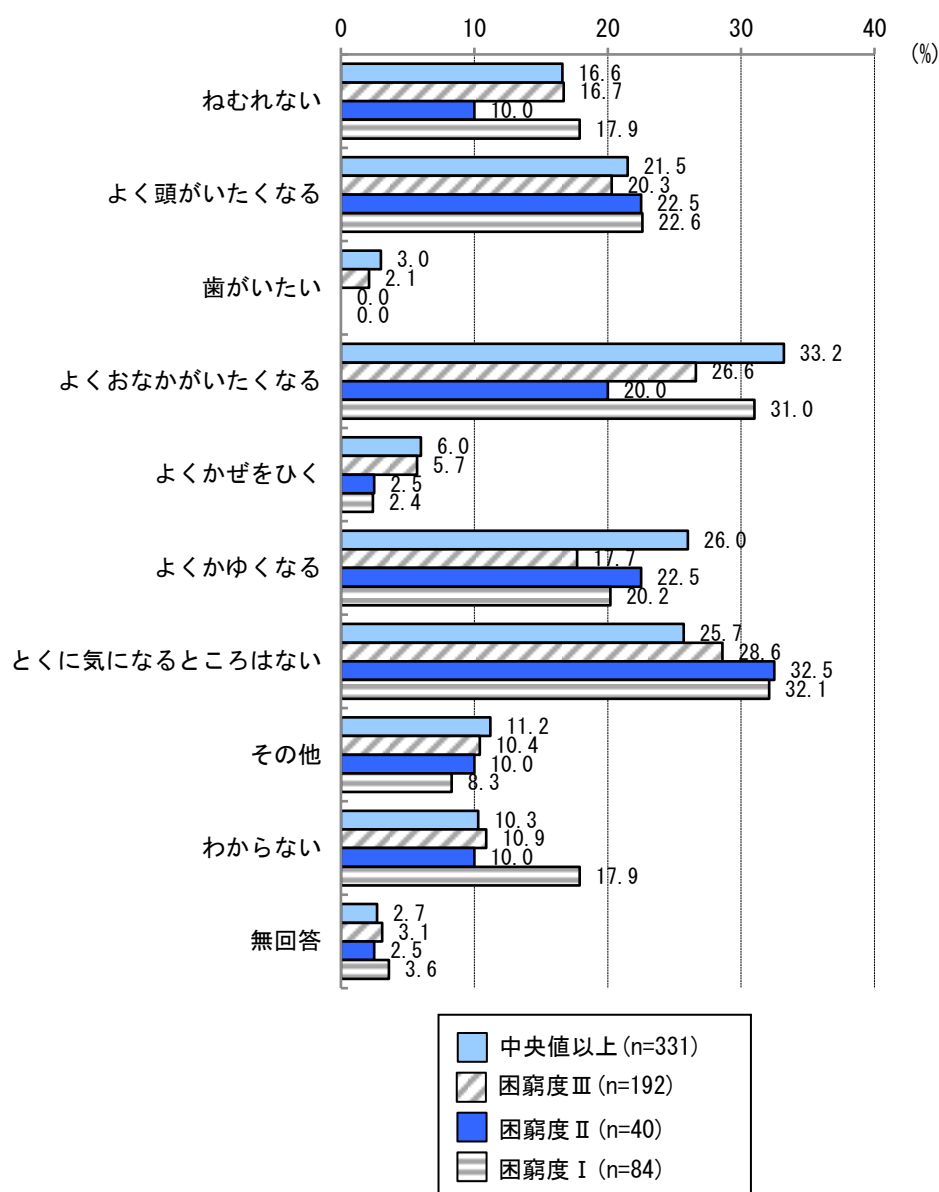
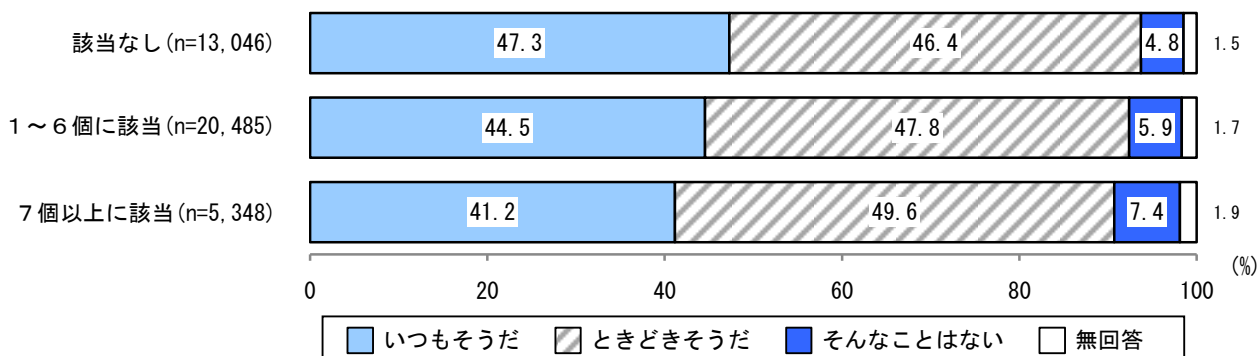


図 77. 困窮度別に見た、自分の体の状態で気になること

困窮度別に自分の体の状態で気になることを見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「ねむれない」17.9%（中央値以上群に対して1.1倍）、「よく頭がいたくなる」22.6%（同じく1.1倍）となっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ①楽しみにしていることがたくさんある（保護者票問7×子ども票問19①）

<大阪府内全体>



<交野市>

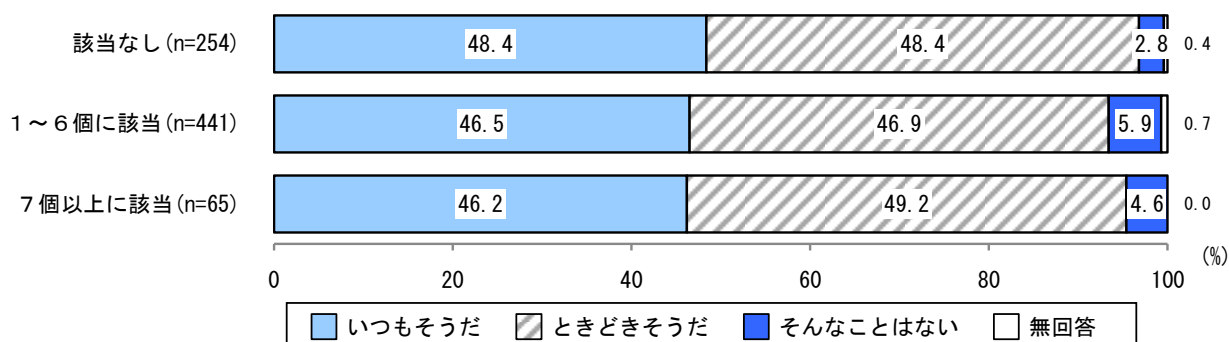
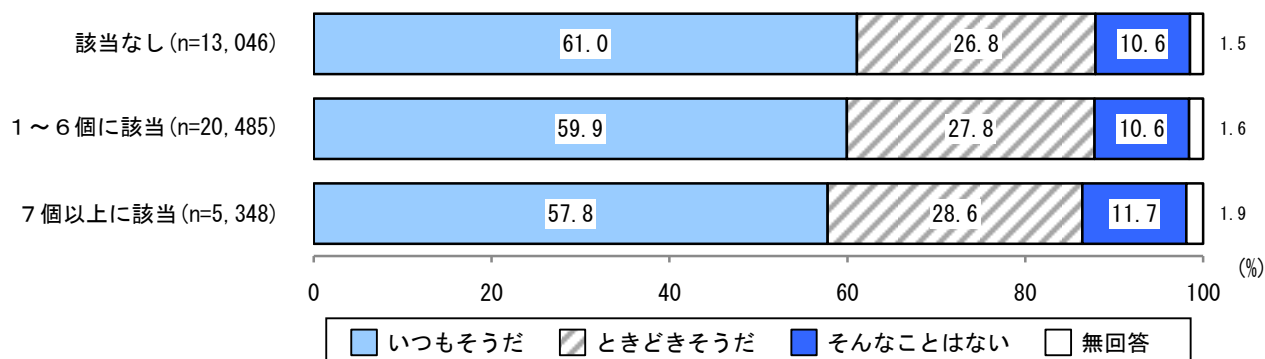


図 78. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況
①楽しみにしていることがたくさんある

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況で楽しみにしていることがたくさんあるを見ると、「そんなことはない」と回答した割合は、該当なしの人が2.8%で最も低くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ②遊びにでかけるのが好きだ（保護者票問7×子ども票問19②）

<大阪府内全体>



<交野市>

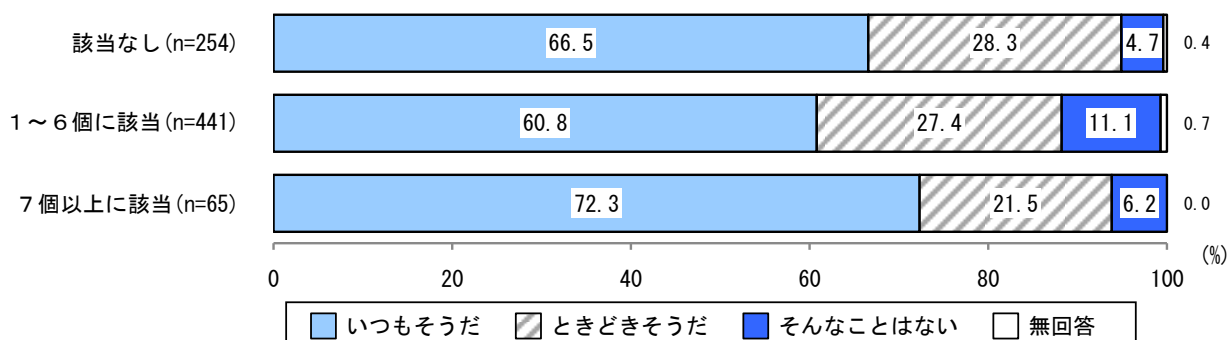
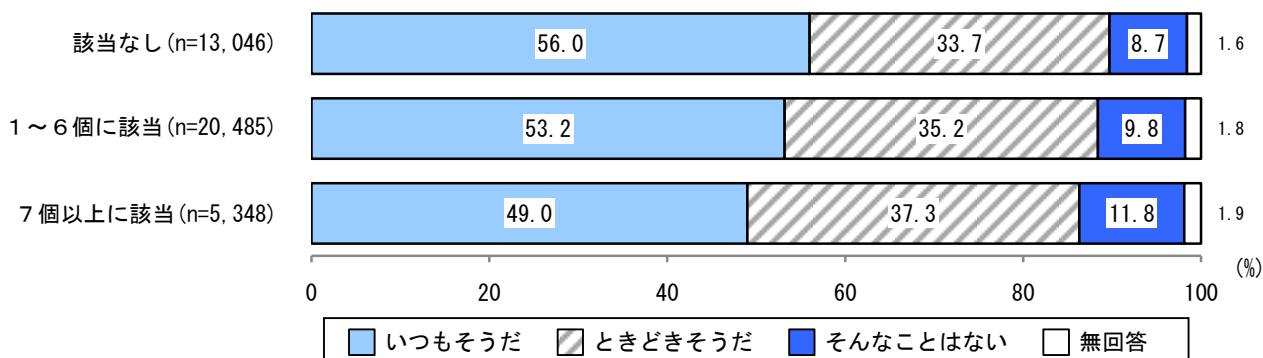


図 79. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況
②遊びにでかけるのが好きだ

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況で遊びにでかけるのが好きだを見ると、「いつもそうだ」と回答した割合は、7個以上に該当した人が72.3%で最も高くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱい
(保護者票問7×子ども票問19③)

<大阪府内全体>



<交野市>

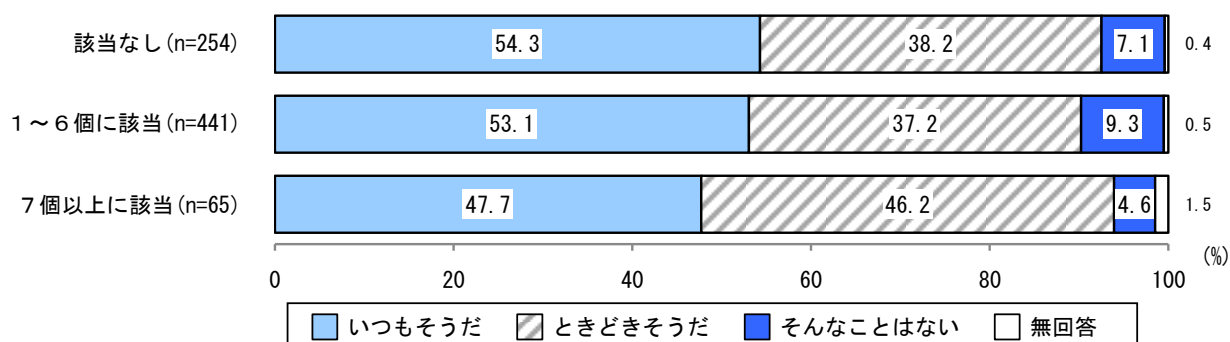
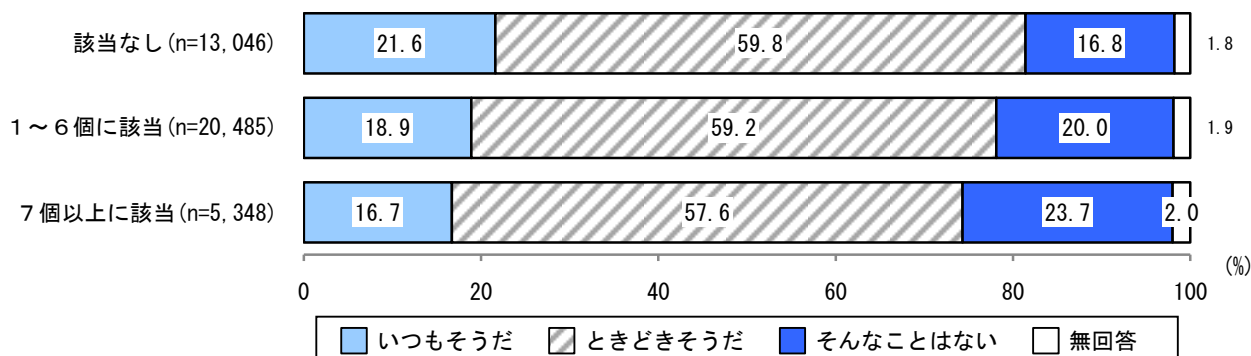


図 80. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱい

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況で元気いっぱいを見ると、「いつもそうだ」と回答した割合は、該当数が多い人ほど低くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ④やろうと思ったことがうまくできる（保護者票問7×子ども票問19④）

<大阪府内全体>



<交野市>

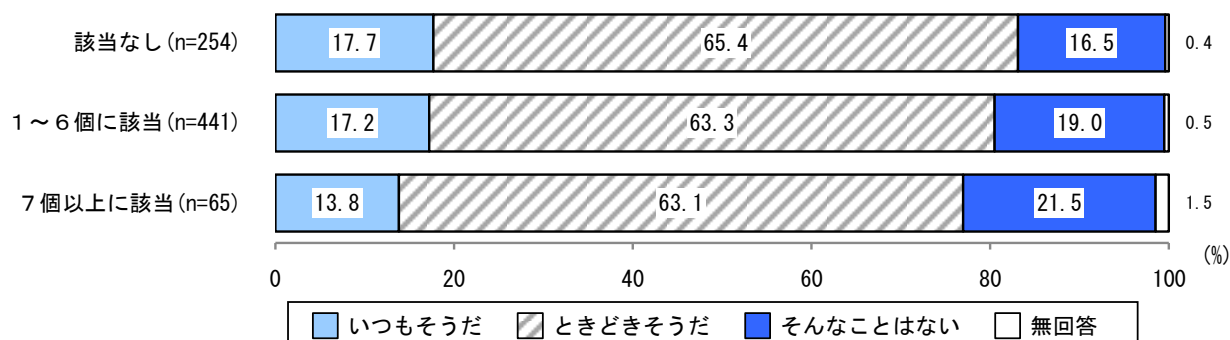
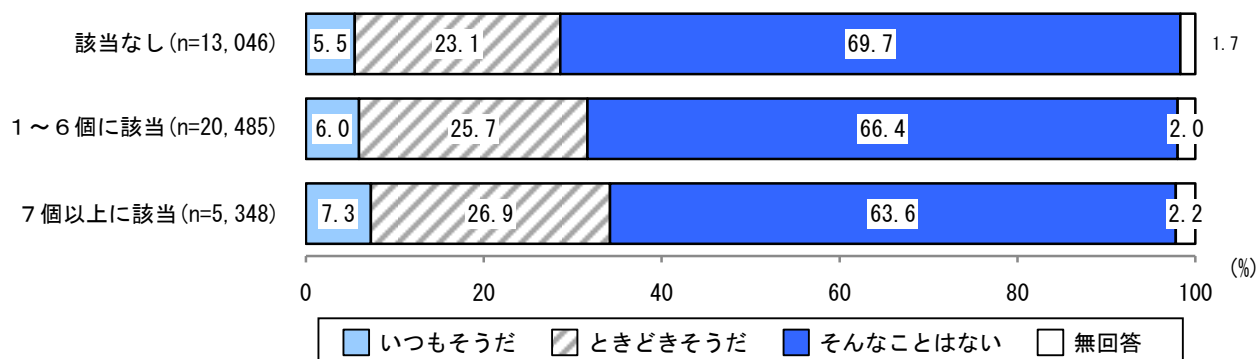


図 81. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況
④やろうと思ったことがうまくできる

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況でやろうと思ったことがうまくできるを見ると、「そんなことはない」と回答した割合は、該当数が多い人ほど高くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑤一人ぼっちのような気がする（保護者票問7×子ども票問19⑤）

<大阪府内全体>



<交野市>

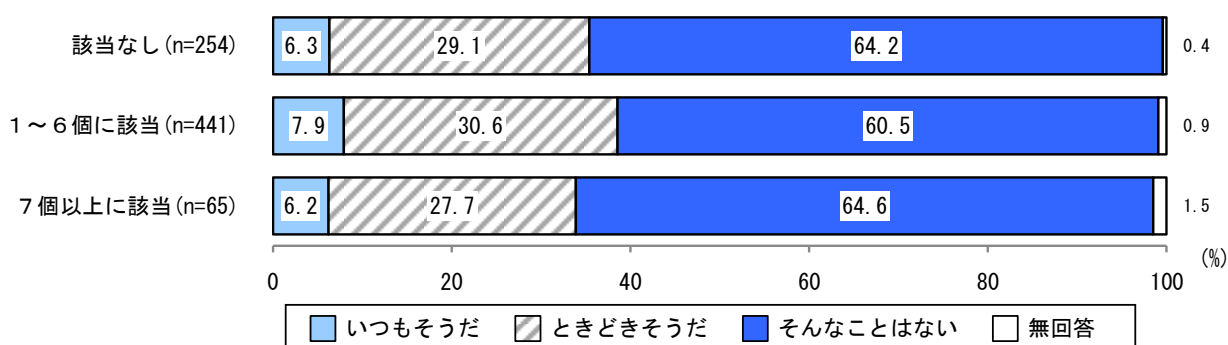
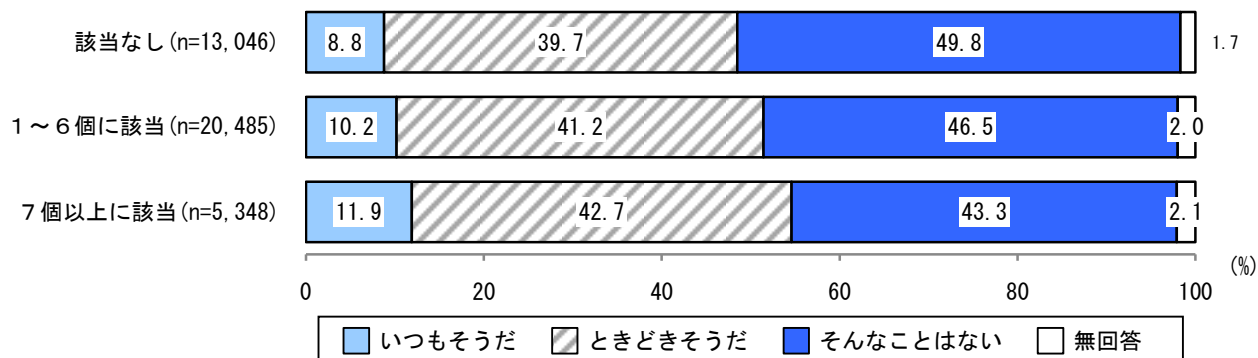


図 82. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況
⑤一人ぼっちのような気がする

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況で一人ぼっちのような気がするを見ると、「そんなことはない」と回答した割合は、7個以上に該当する人が64.6%で最も高くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況
⑥不安な気持ちになる（保護者票問7×子ども票問19⑥）

<大阪府内全体>



<交野市>

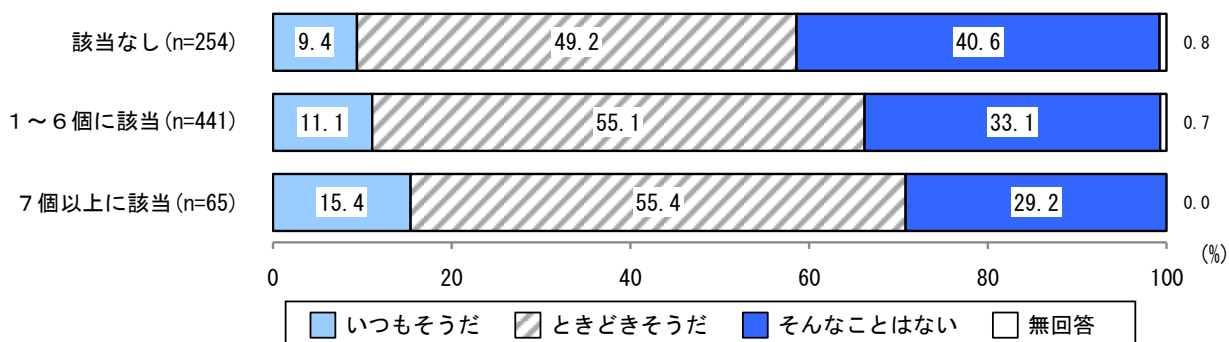
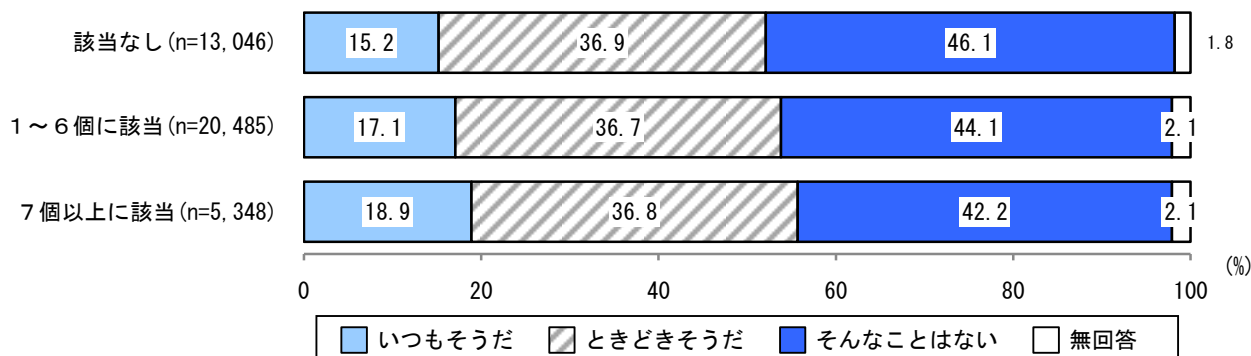


図 83. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑥不安な気持ちになる

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況で不安な気持ちになるを見ると、「そんなことはない」と回答した割合は、該当数が多い人ほど低くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる
(保護者票問7×子ども票問19⑦)

<大阪府内全体>



<交野市>

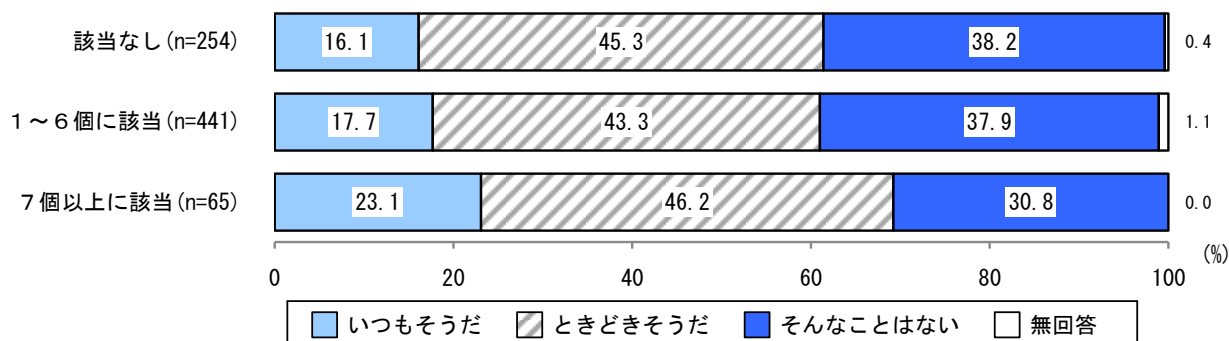
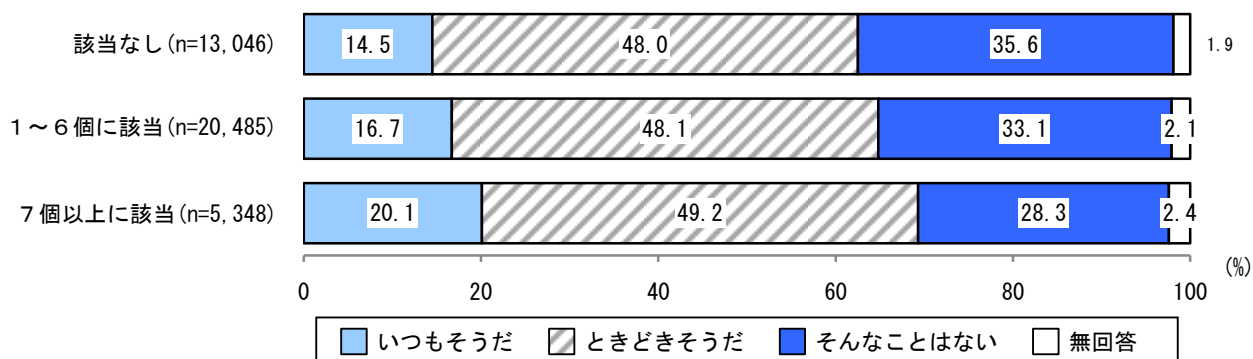


図 84. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況でまわりが気になるを見ると、「そんなことはない」と回答した割合は、該当数が多い人ほど低くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない
(保護者票問7×子ども票問19⑧)

<大阪府内全体>



<交野市>

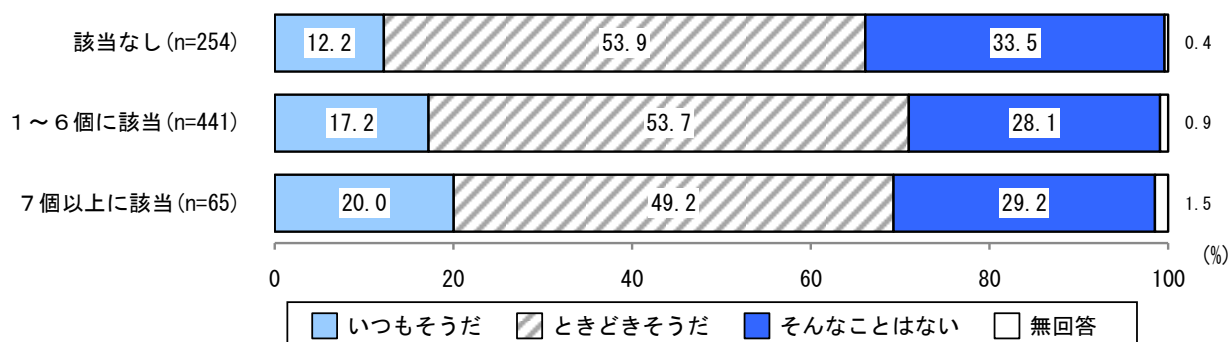
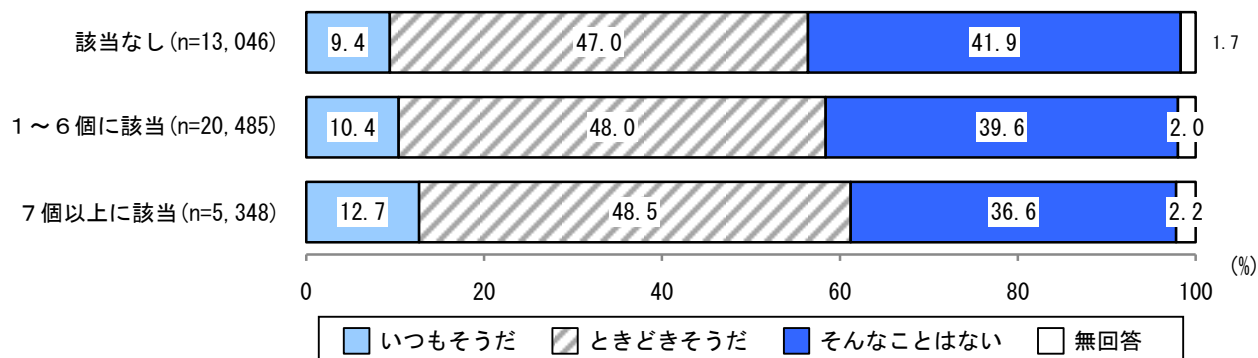


図 85. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況でやる気が起きないを見ると、「いつもそうだ」と回答した割合は該当数が多い人ほど高くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑨いろいろする
(保護者票問7×子ども票問19⑨)

<大阪府内全体>



<交野市>

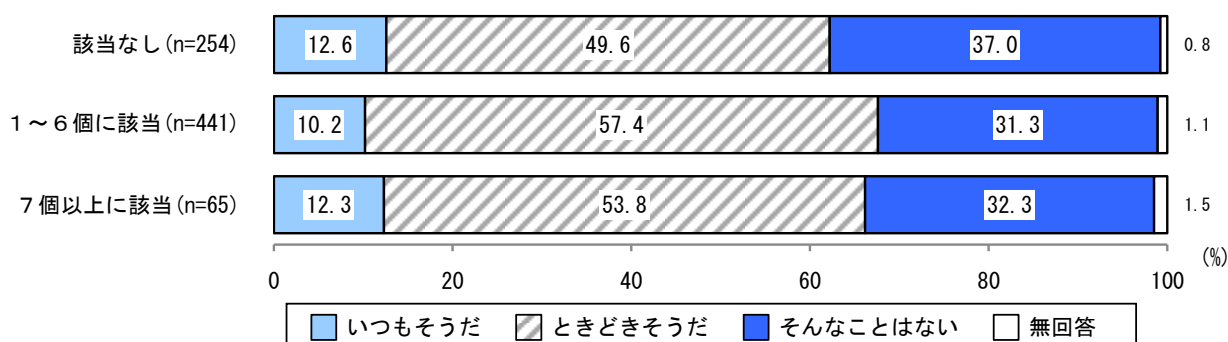
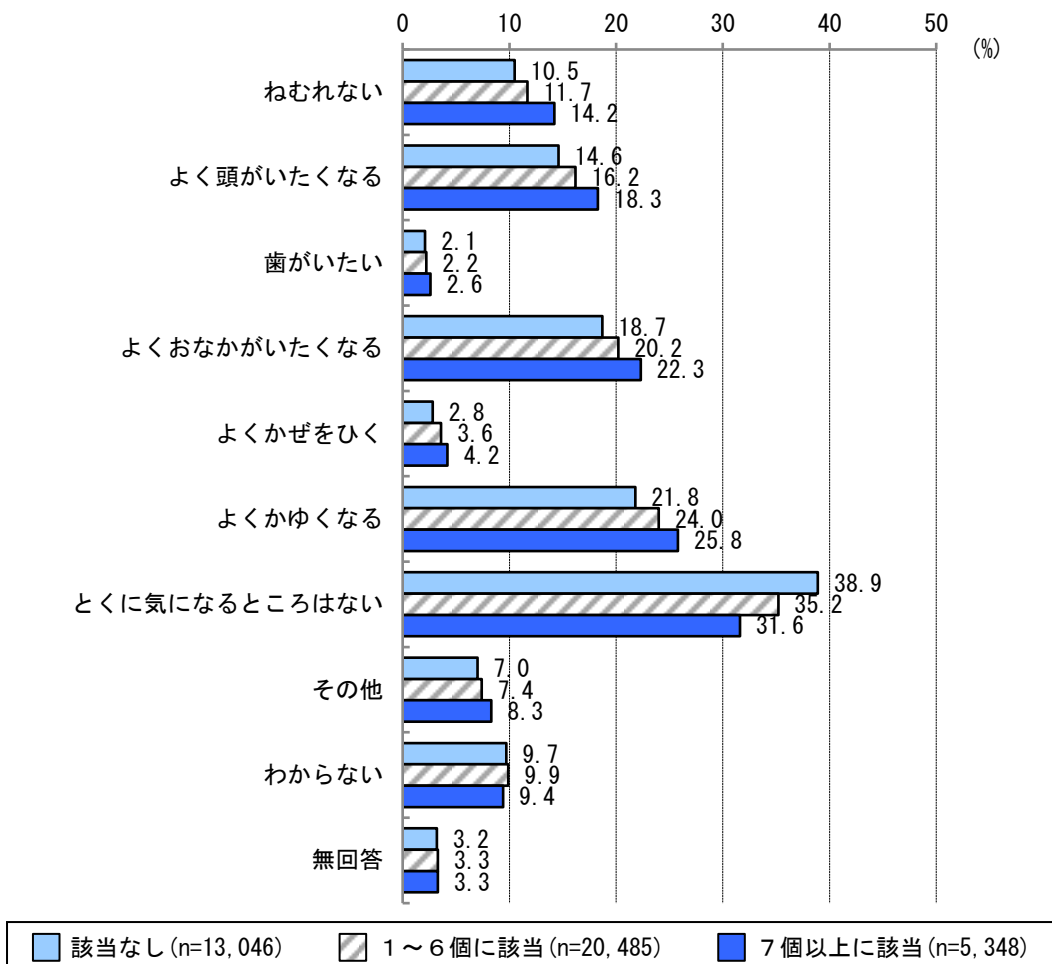


図 86. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑨いろいろする

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況でいろいろするを見ても、大きな差はみられなかった。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、自分の体の状態で気になること
 (保護者票問7×子ども票問20)

<大阪府内全体>



<交野市>

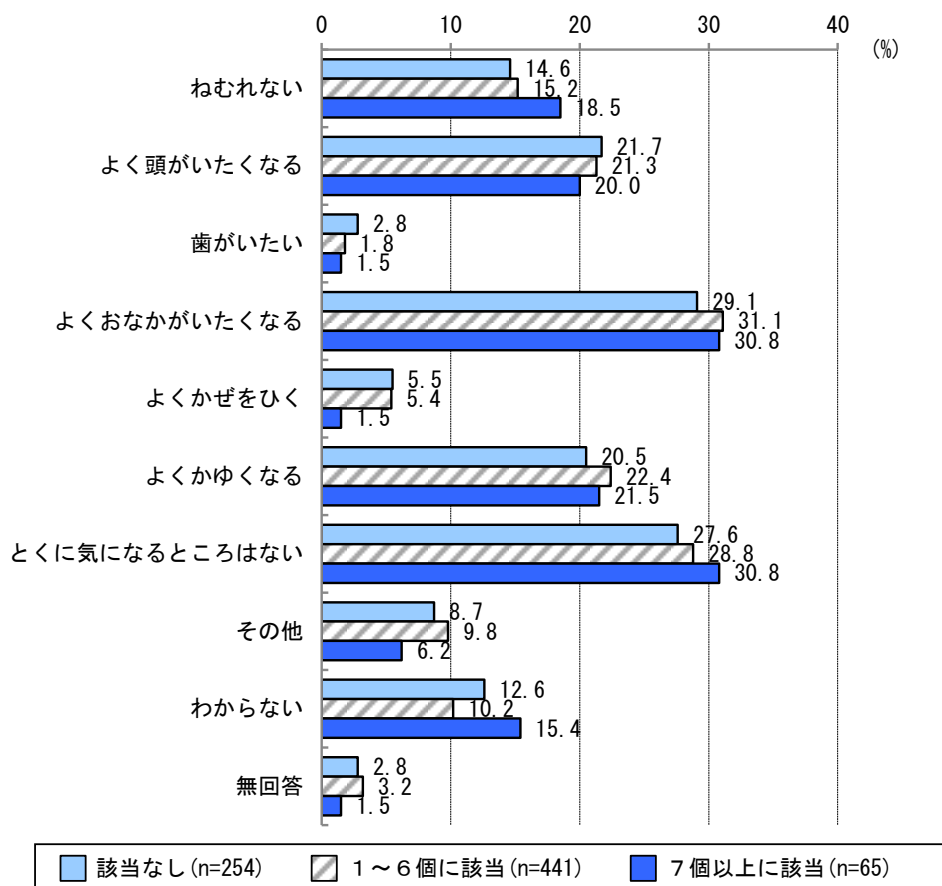
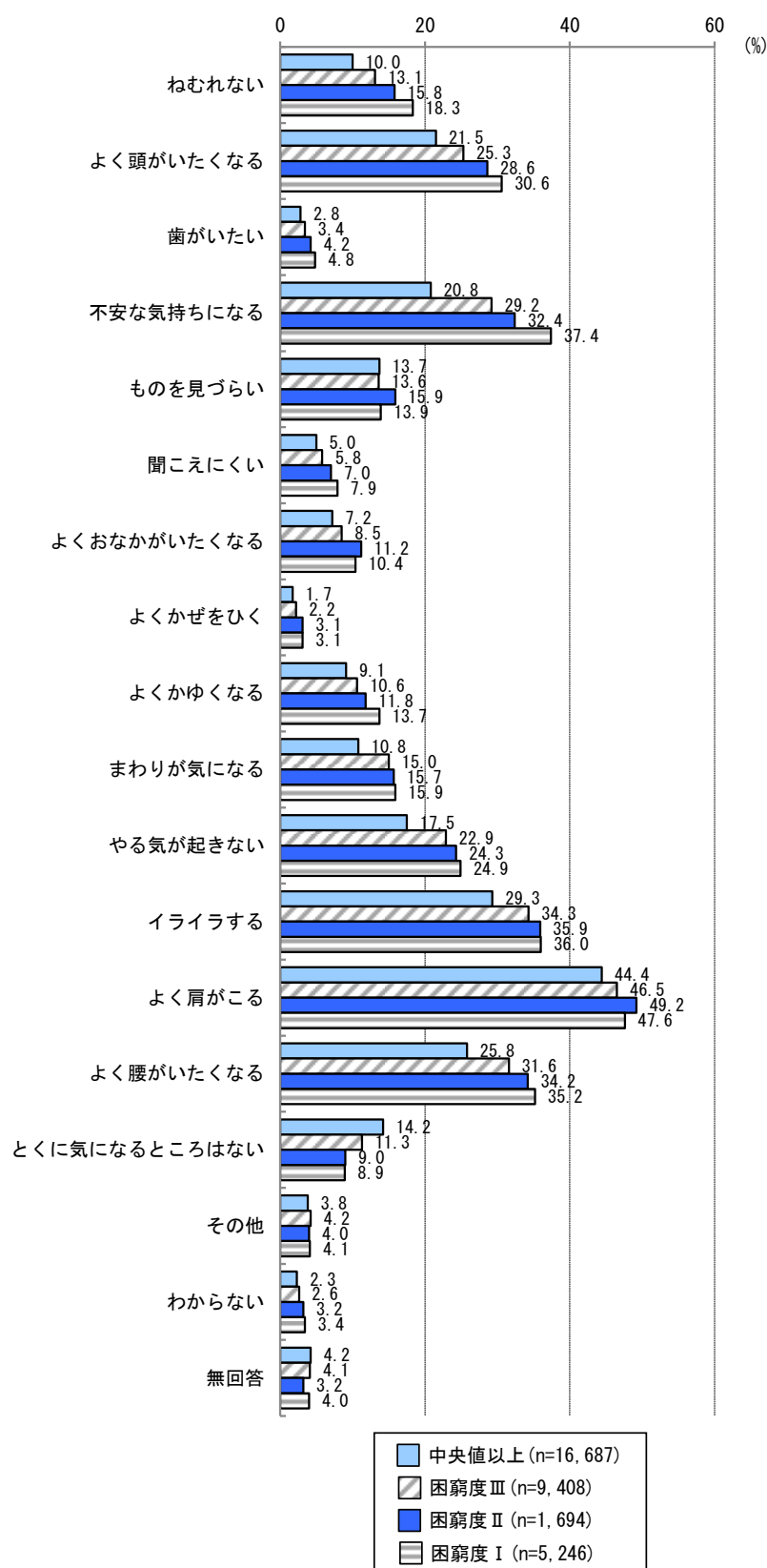


図 87. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、自分の体の状態で気になること

経済的な理由による経験の該当数別に自分の体の状態で気になることを見ると、7個以上に該当群と該当なし群間で差が大きい項目に着目しながら、7個以上に該当群の数値を挙げると、「ねむれない」18.5%（該当なし群に対して1.3倍）、「よくおなかがいたくなる」30.8%（同じく1.1倍）となっている。

困窮度別に見た、自分の体や気持ちで気になること（保護者票問 22）

<大阪府内全体>



<交野市>

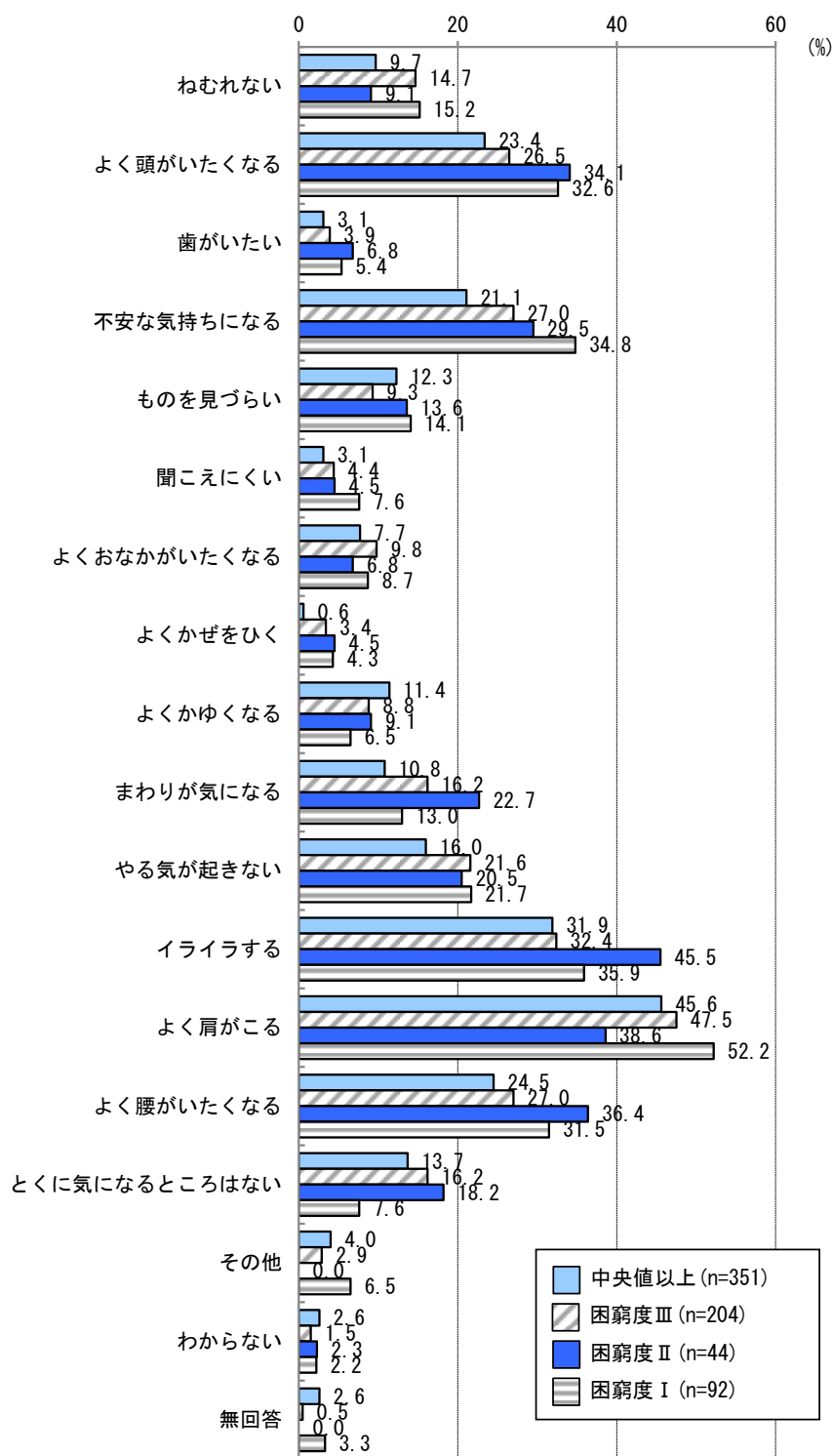
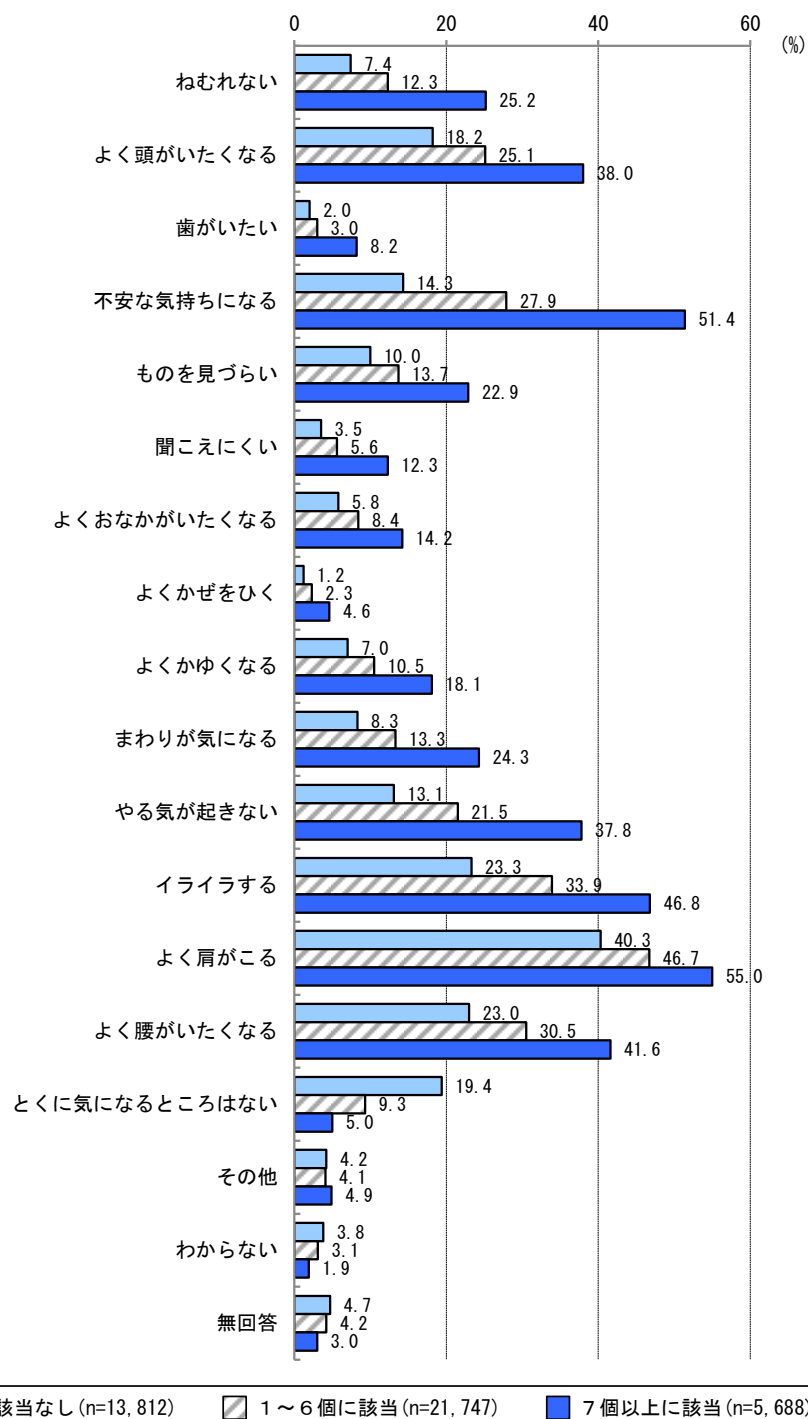


図 88. 困窮度別に見た、自分の体や気持ちで気になること

困窮度別に自分の体や気持ちで気になること（保護者）を見ると、多くの項目において、概ね困窮度が高まるにつれ、自分の体や気持ちで気になることのそれぞれの項目が高くなっている。特に、困窮度Ⅰ群に着目して、中央値以上群との差が大きい順に挙げると、「よくかぜをひく」4.3%（中央値以上群に対し7.2倍）、「聞こえにくい」7.6%（同じく2.5倍）、「歯がいたい」5.4%（同じく1.7倍）となっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、自分の体や気持ちで気になること
(保護者票問7×保護者票問22)

<大阪府内全体>



<交野市>

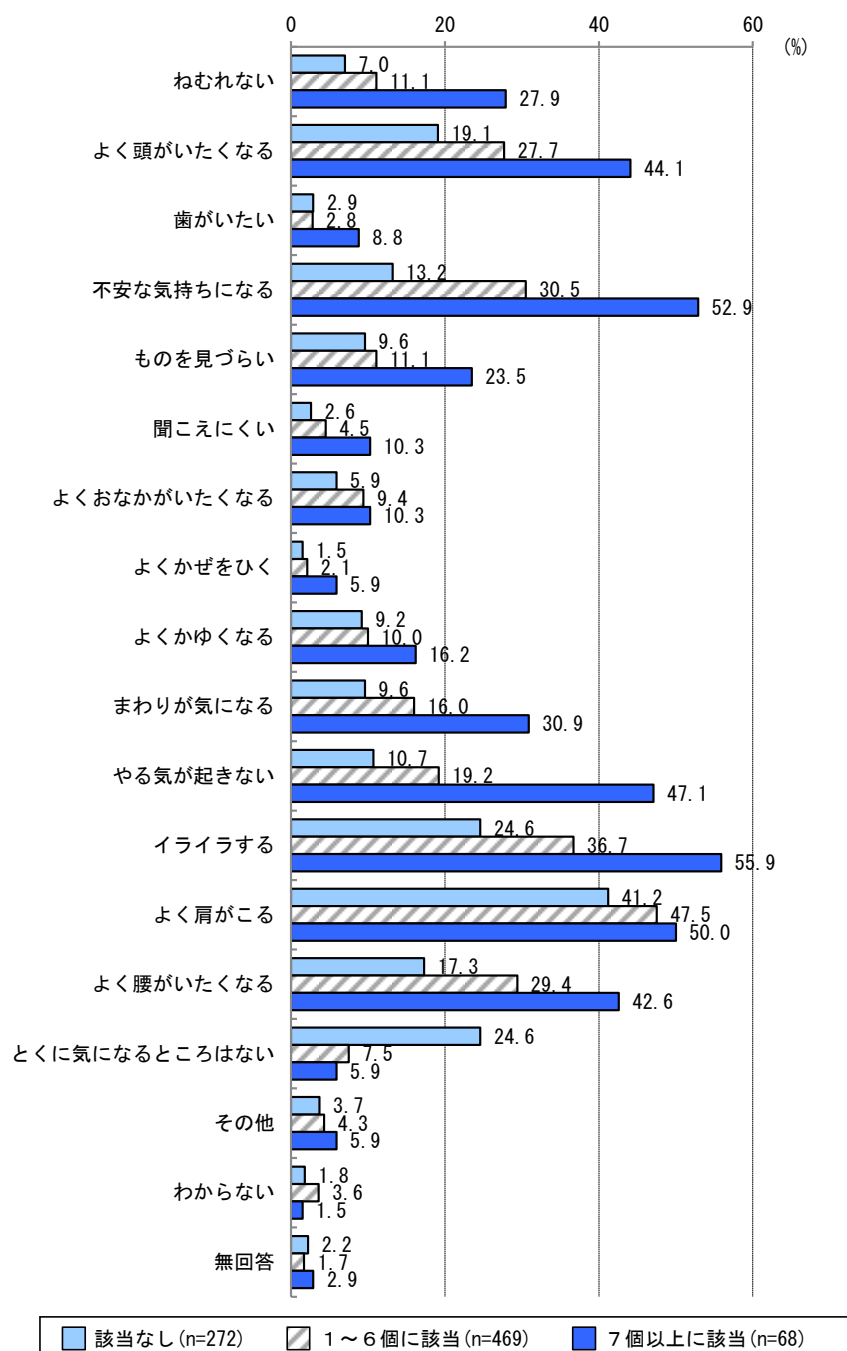
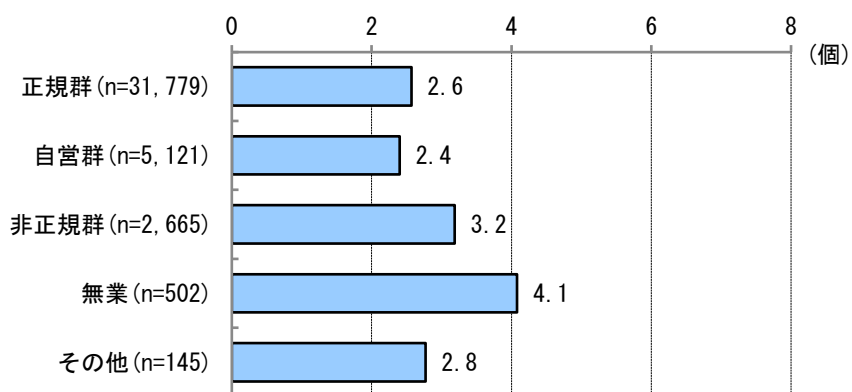


図 89. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、自分の体や気持ちで気になること

経済的な理由による経験の該当数別に自分の体や気持ちで気になること(保護者)を見ると、「歯がいたい」を除くすべての項目において、経済的な理由による経験の該当数が多くなるにつれて、自分の体や気持ちで気になることのそれぞれの項目が高くなっている。特に、7個以上に該当した人と該当なしと回答した人との差が大きく開いている。7個以上に該当群について、該当なしとの差が大きい順に挙げると、「やる気が起きない」47.1%（該当なしに対して4.4倍）、「ねむれない」27.9%（同じく4.0倍）、「不安な気持ちになる」52.9%（同じく4.0倍）、「聞こえにくい」10.3%（同じく4.0倍）となっている。

就労状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数（保護者票問 22）

<大阪府内全体>



<交野市>

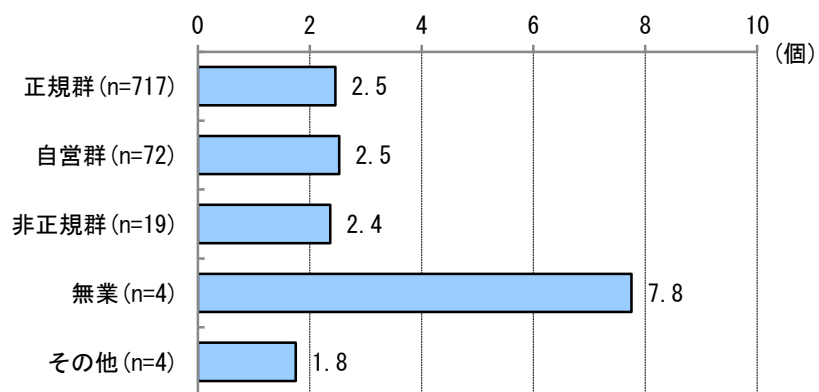


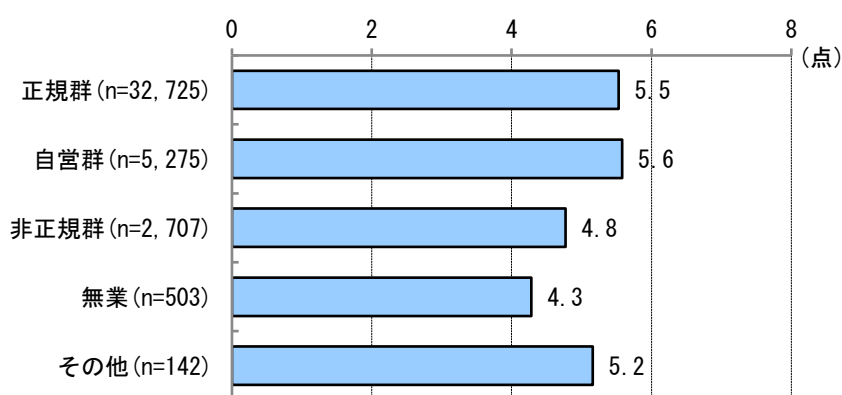
図 90. 就労状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数

就労状況別に自分の体や気持ちで気になることの該当数を見ると、「無業」以外の人には大きな差はみられないが、「無業」の人は7.8個と多くなっている。

就労状況別に見た、支えてくれる人得点（保護者票問18）

※「あなたを支え、手伝ってくれる人はいですか」という質問について、「心配ごとや悩みごとを親身になって聞いてくれる人」「あなたの気持ちを察して思いやってくれる人」「趣味や興味のあることを一緒に話して、気分転換させてくれる人」「子どもとの関わりについて、適切な助言をしてくれる人」「子どもの学びや遊びを豊かにする情報を教えてくれる人（運動や文化活動）」「子どもの体調が悪いとき、医療機関に連れて行ってくれる人」「留守を頼める人」の7項目を提示した。それぞれの人物が「いる」か「いない」かで評定させたうえで、「いない」を0点、「いる」を1点とし、7項目の合計得点を「支えてくれる人得点」とした。得点が高いほど、身近に支えてくれる人が多く存在することを表す。

<大阪府内全体>



<交野市>

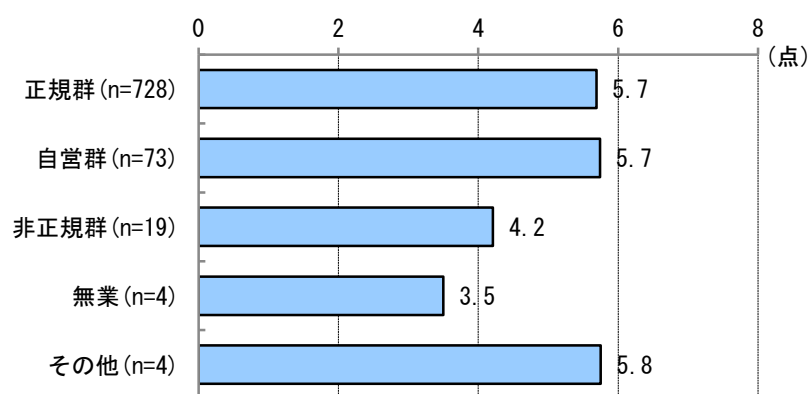
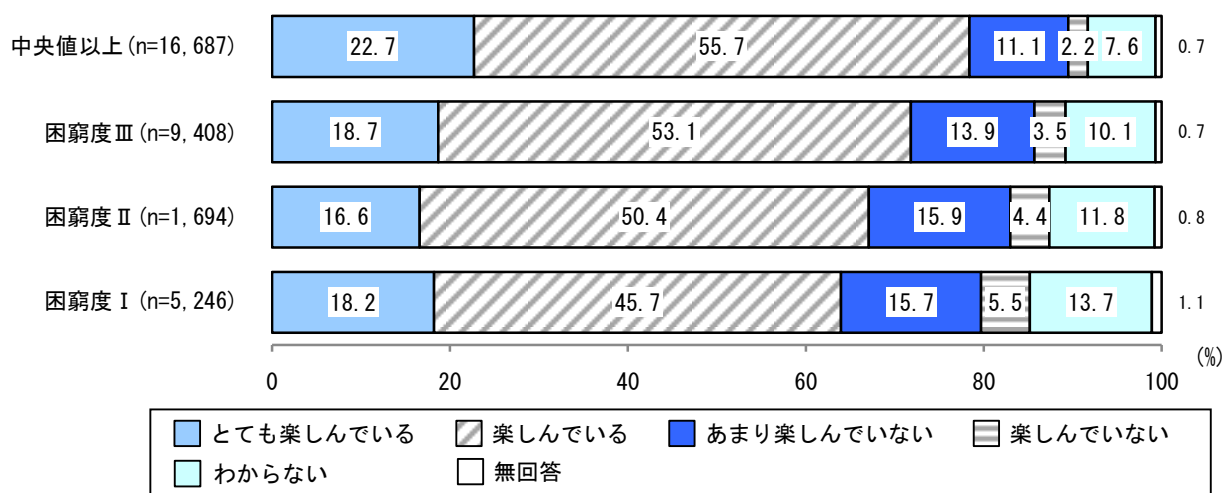


図 91. 就労状況別に見た、支えてくれる人得点

就労状況別に「支えてくれる人」の有無を得点化し、その平均値を見ると、「正規群」、「自営群」がいずれも5.7点で高く、「非正規群」で4.2点と低下し、「無業」で3.5点と最も低くなっている。

困窮度別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）（保護者票問 21(1)）

<大阪府内全体>



<交野市>

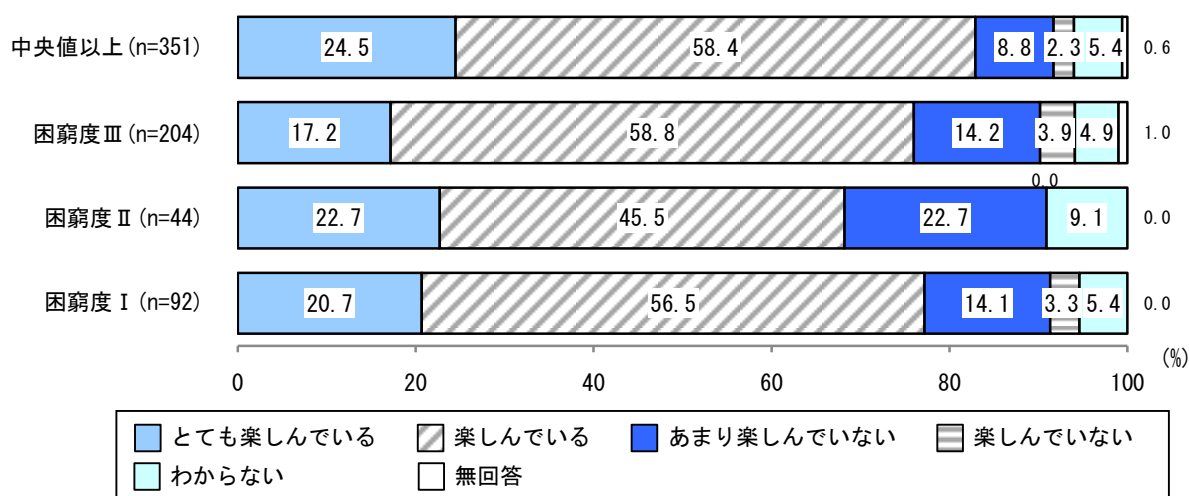
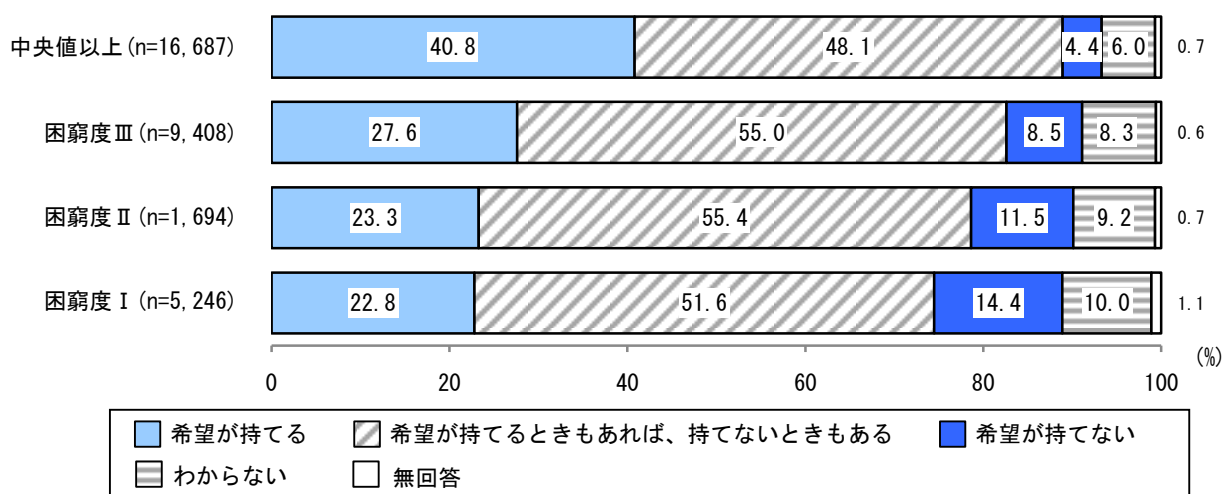


図 92. 困窮度別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）

困窮度別に生活を楽しんでいるかを見ると、中央値以上群の生活を楽しんでいると回答した割合は、82.9%（「とても楽しんでいる」24.5%、「楽しんでいる」58.4%）で最も高く、一方で困窮度Ⅱ群の割合は68.2%（「とても楽しんでいる」22.7%、「楽しんでいる」45.5%）で最も低くなっている。

困窮度別に見た、心の状態（将来に対して希望を持っているか）（保護者票問 21(2)）

<大阪府内全体>



<交野市>

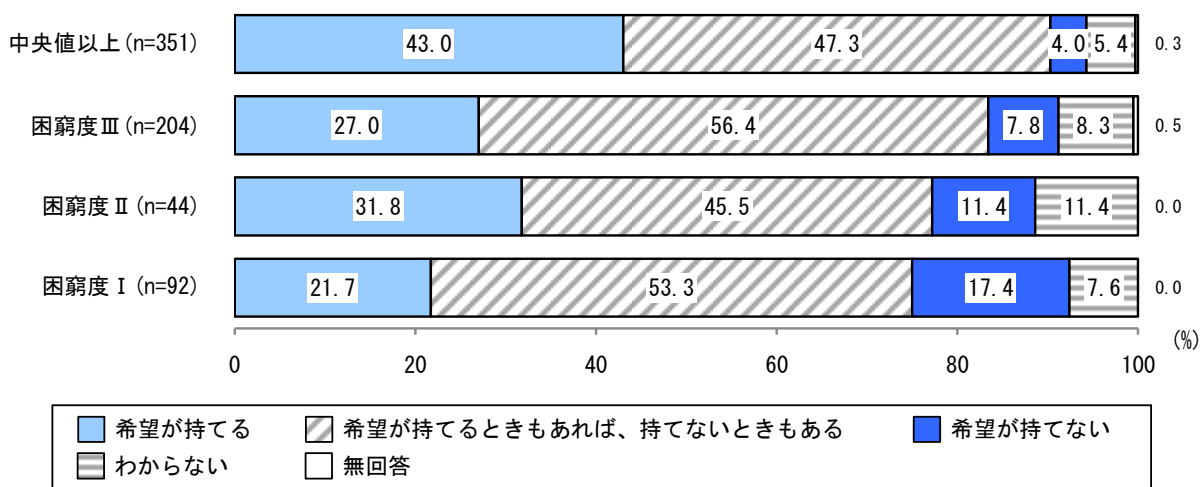
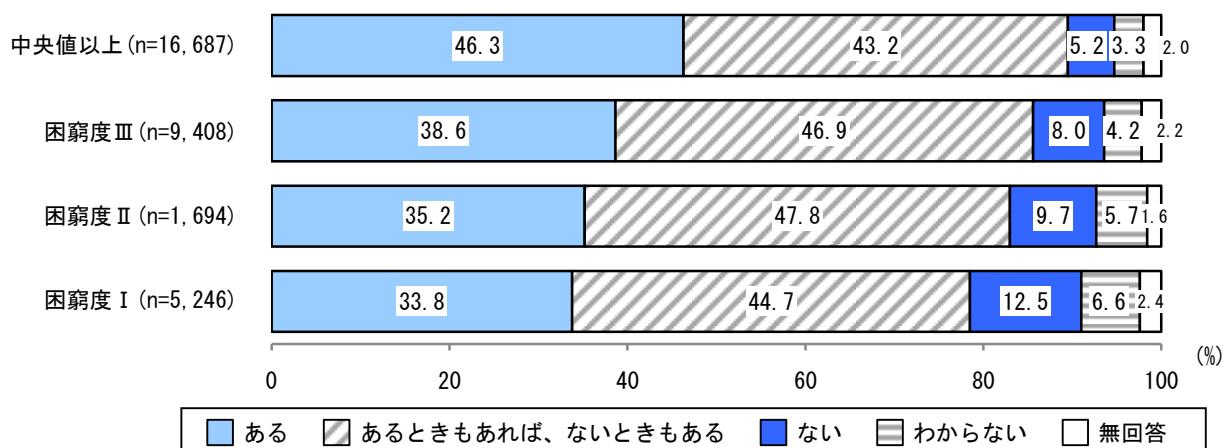


図 93. 困窮度別に見た、心の状態（将来に対して希望を持っているか）

困窮度別に将来への希望を見ると、困窮度が高くなるにつれ、「希望が持てない」と回答した割合は高くなっている。

困窮度別に見た、心の状態（ストレスを発散できるものがあるか）（保護者票問 21(3)）

<大阪府内全体>



<交野市>

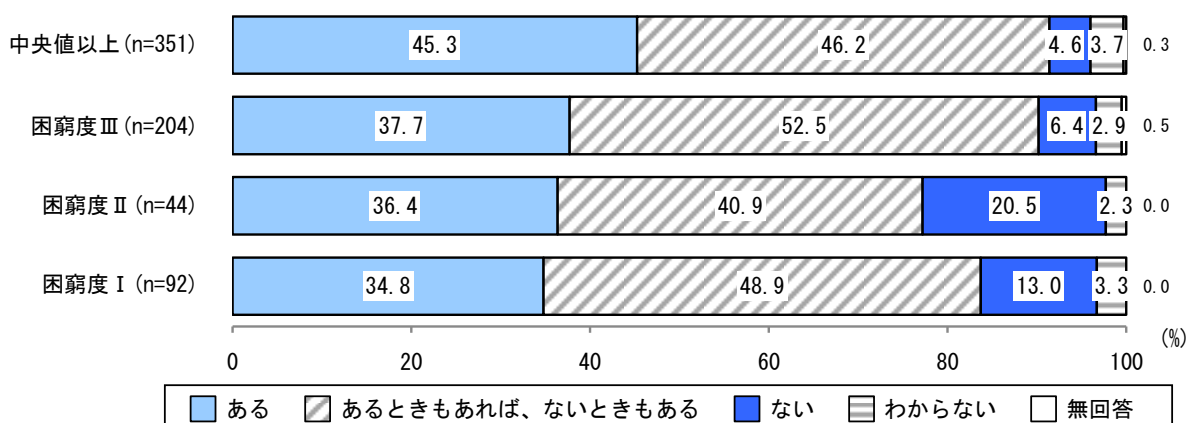
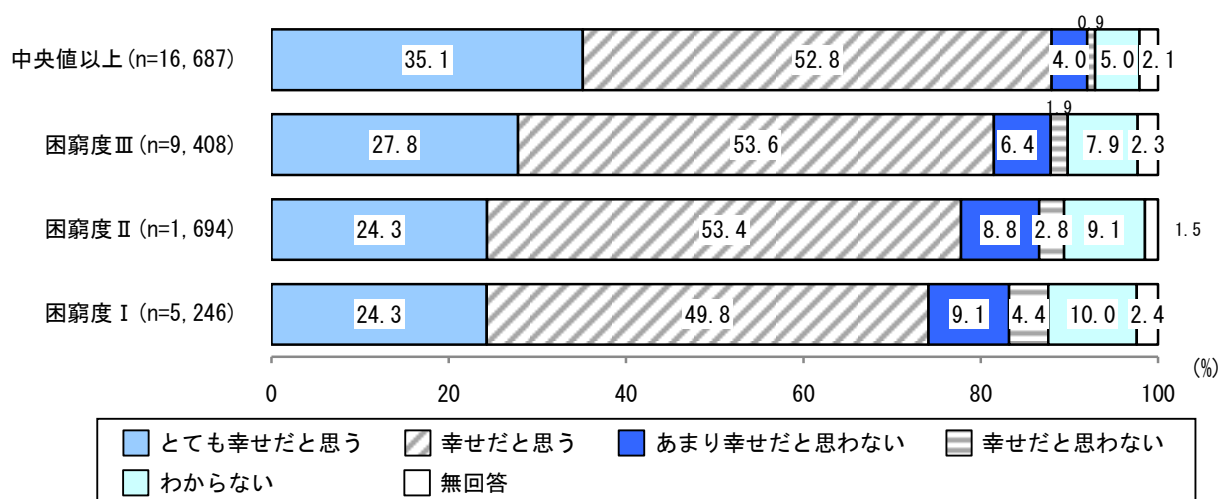


図 94. 困窮度別に見た、心の状態（ストレスを発散できるものがあるか）

困窮度別にストレスを発散できるものについて、困窮度が高くなるにつれ、「ある」と回答した割合は低くなっている。また、「ない」の割合は、中央値以上群が4.6%であるのに対し、困窮度Ⅱ群は20.5%と高くなっている。

困窮度別に見た、心の状態（自分が幸せだと思うか）（保護者票問 21(4)）

<大阪府内全体>



<交野市>

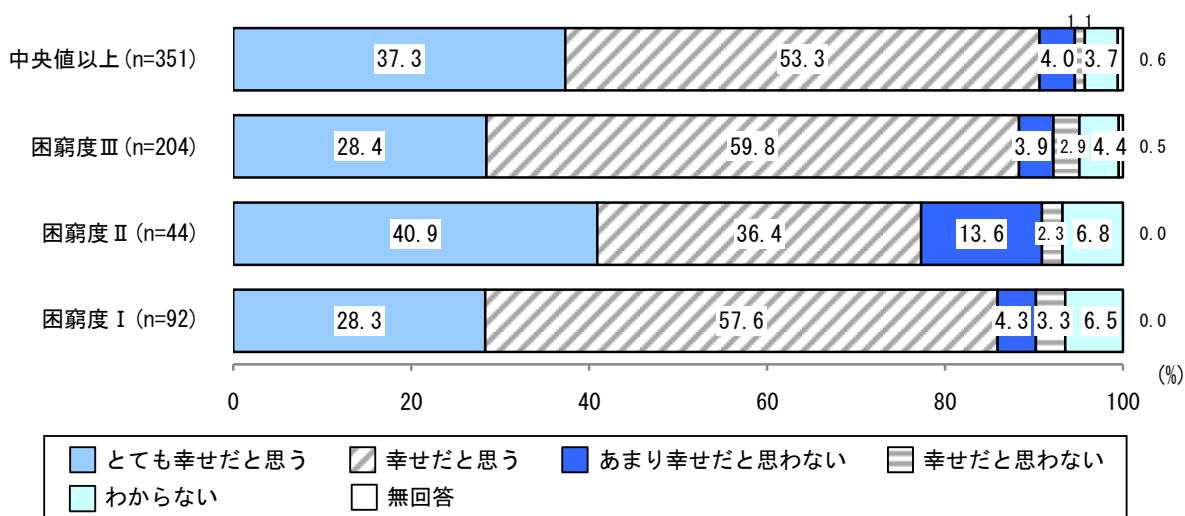


図 95. 困窮度別に見た、心の状態（自分が幸せだと思うか）

困窮度別に幸せだと思うかを見ると、中央値以上群の自分が幸せだと思うと回答した割合は90.6%（「とても幸せだと思う」37.3%、「幸せだと思う」53.3%）で最も高く、困窮度Ⅱ群の割合は77.3%（「とても幸せだと思う」40.9%、「幸せだと思う」36.4%）で最も低くなっている。

＜健康に関する考察＞

まず、困窮度別に生活習慣と健康状態について、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目して述べる。朝食の頻度では、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「毎日またはほとんど毎日」(87.9%対78.6%)が約10ポイント高くなっている。子どもの自覚症状では、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「よくかゆくなる」(26.0%対20.2%)が5ポイント以上高く、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「とくに気になるところはない」(32.1%対25.7%)が5ポイント以上高くなっている。保護者の自覚症状では、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「ねむれない」(15.2%対9.7%)、「よく頭がいたくなる」(32.6%対23.4%)、「やる気が起きない」(21.7%対16.0%)、「よく肩がこる」(52.2%対45.6%)、「よく腰がいたくなる」(31.5%対24.5%)がいずれも5ポイント以上、「不安な気持ちになる」(34.8%対21.1%)では10ポイント以上高くなっている。また、保護者の心の状態を見ると、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、将来に対して「希望が持てない」(17.4%対4.0%)が10ポイント以上高くなっており、一方で中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、ストレスを発散できるものが「ある」(45.3%対34.8%)が10ポイント以上、自分が「とても幸せだと思う」(37.3%対28.3%)が9ポイント高くなっている。

次に、経済的な理由による経験の該当数を見ると、個数が増えるにしたがって、「元気いっぱい」で「いつもそうだ」の割合が低くなる傾向にある。自覚症状では、個数が増えるにしたがって子どもは「よくかゆくなる」の割合が高くなる傾向にあり、保護者では「ねむれない」「よく頭がいたくなる」「不安な気持ちになる」「よくかゆくなる」「まわりが気になる」「やる気が起きない」「イライラする」「よく肩がこる」「よく腰がいたくなる」の割合が高くなる傾向にある。これらの結果から、経済的に困難な世帯では、保護者では不安やイライラなどのメンタルヘルスに影響が出ている可能性があり、同時に肩こりや腰痛が多く、肉体労働に従事している可能性や、自身の休養が不十分である可能性がうかがえる。また、経済的に困難な世帯では、保護者・子どもいずれもかゆみを感じており、衛生状態が懸念される。一方で経済的に困難のない世帯の保護者は、ストレス発散ができていたり、幸福感を感じていたりするなど、望ましい状態で過ごすことができている。

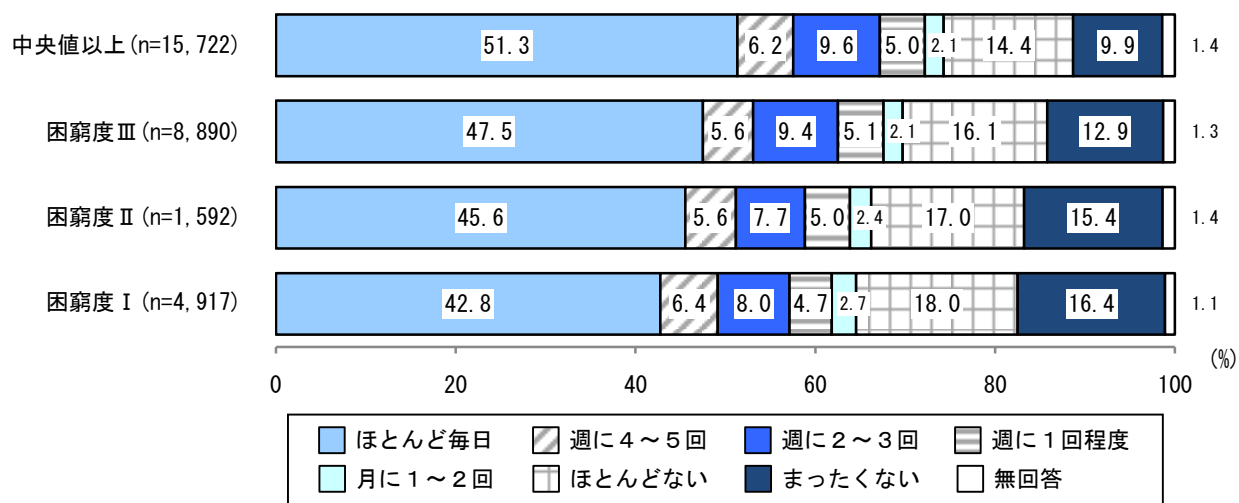
続いて、保護者の就業状況別の生活習慣や健康状態を見てみる。親の就業状況別の朝食の頻度では、「正規群」「自営群」および「非正規群」が「無業群」に比べて、「毎日またはほとんど毎日」朝食を摂っている割合が高く(88.4%、76.1%、78.9%、40.0%)、なっている。この結果から、保護者が何らかの勤めをする世帯では、朝食をとる習慣が定常化されていることがうかがえる。

最後に、食事習慣別の親子関係や健康状態に着目する。朝食の頻度別に見ると、朝食を「毎日またはほとんど毎日」食べている群では、「週に1回程度」群と比べ、子どもを「とても信頼している」(50.8%対40.0%)、子どもと会話を「よくする」(66.3%対20.0%)が10ポイント以上、「食べない」群と比べて子どもの将来に「とても期待している」(20.8%対13.3%)がいずれも5ポイント以上高くなっている。また、「食べない」群では「毎日またはほとんど毎日」食べている群に比べ、休日に子どもと関わる時間が「2時間未満」(20.0%対16.0%)が4ポイント高くなっている。子どもの自己効力感では、朝食を「毎日またはほとんど毎日」食べている群は「食べない」群と比べて1点(平均8.54点対7.22点)、学校が休みの日の昼食を「必ず食べる」群では「食べない」群と比べて約0.3点(平均8.68点対8.4点)高くなっている。これらの結果から、ほぼ毎日規則正しく朝食・昼食を摂ることは、保護者と子どもの関係をよりよくするとともに、子どもの自己効力感を高める可能性が示唆された。

4-4. 家庭生活、学習

困窮度別に見た、おうちの大人の人と一緒に朝食を食べているか（子ども票問8①）

<大阪府内全体>



<交野市>

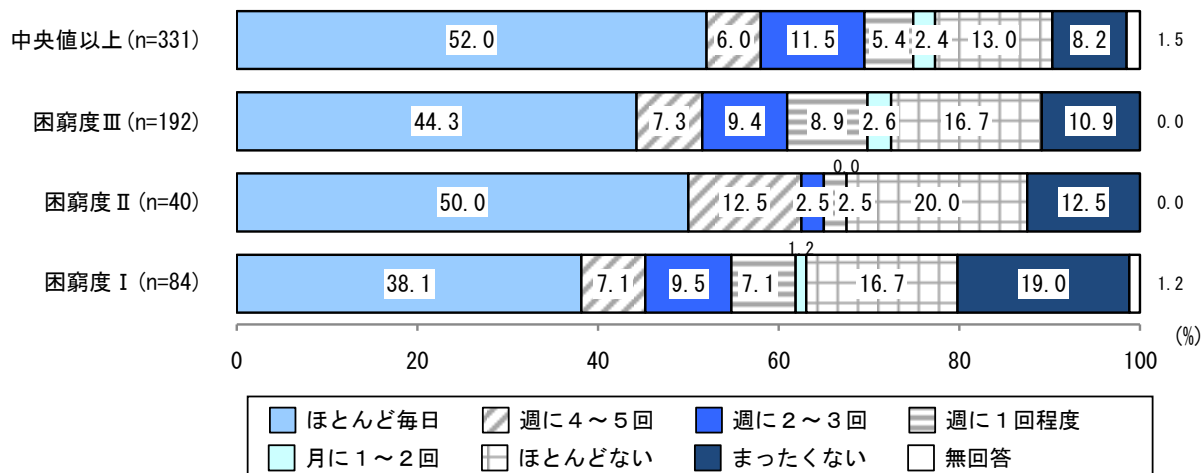
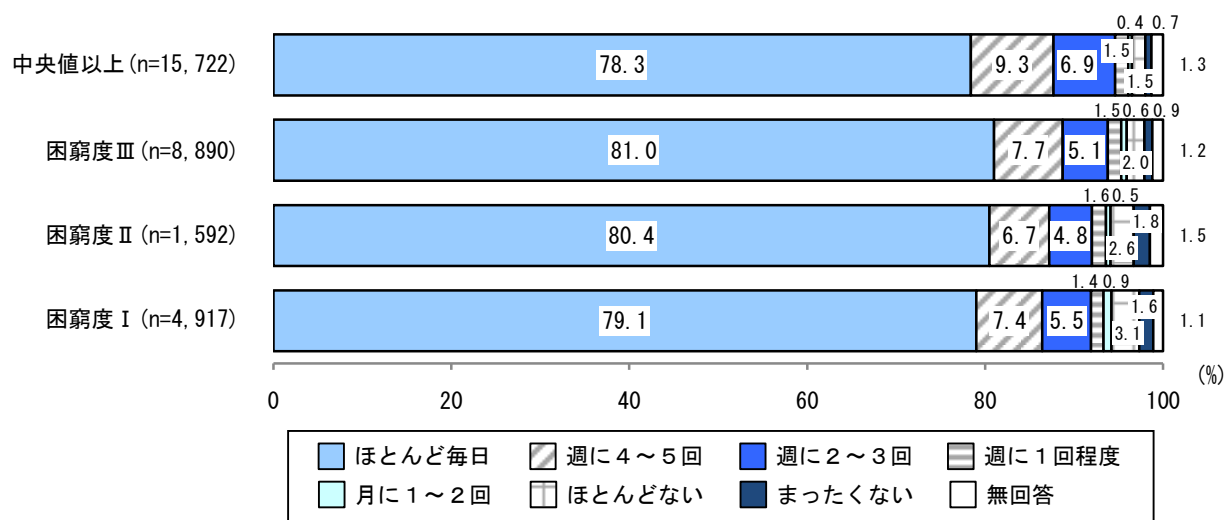


図 96. 困窮度別に見た、おうちの大人の人と一緒に朝食を食べているか

困窮度別におうちの大人の人と一緒に朝食を食べているかを見ると、困窮度が高くなるにつれ、「まったくない」と回答した割合は高くなっている。また、「ほとんど毎日」の割合は、中央値以上群が52.0%であるのに対し、困窮度Ⅰ群は38.1%と低くなっている。

困窮度別に見た、おうちの大人の人と一緒に夕食を食べているか（子ども票問8②）

<大阪府内全体>



<交野市>

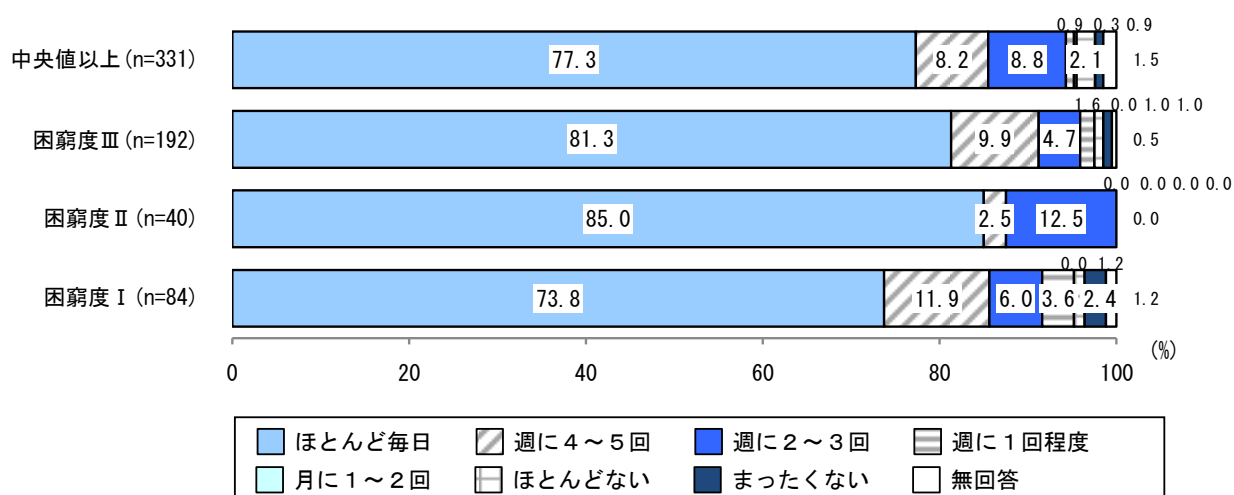
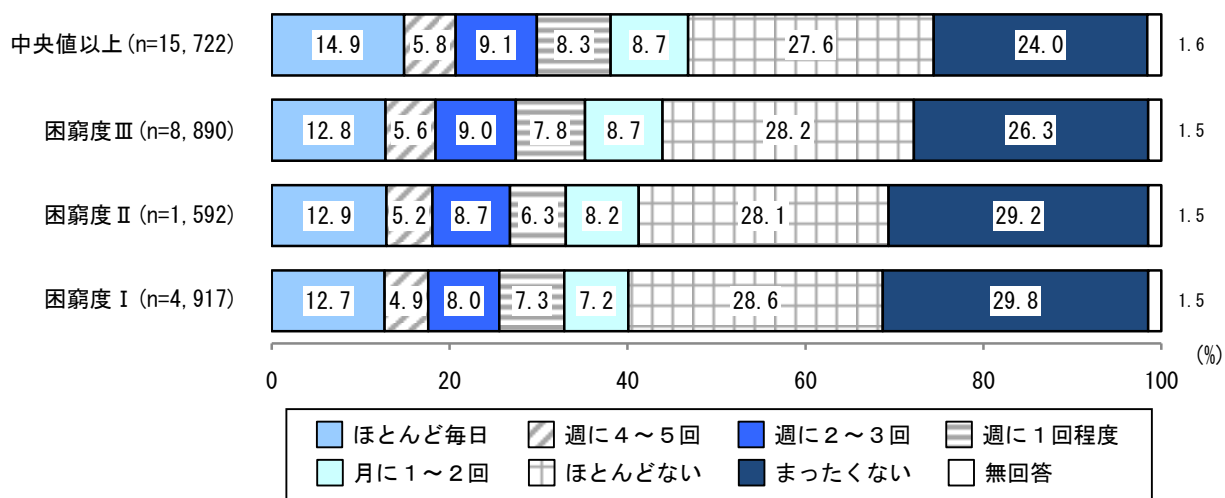


図 97. 困窮度別に見た、おうちの大人の人と一緒に夕食を食べているか

困窮度別におうちの大人の人と一緒に夕食を食べているかを見ると、「まったくない」と回答した割合は、困窮度Ⅰ群が2.4%で最も高くなっている。

困窮度別に見た、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか（子ども票問8⑤）

<大阪府内全体>



<交野市>

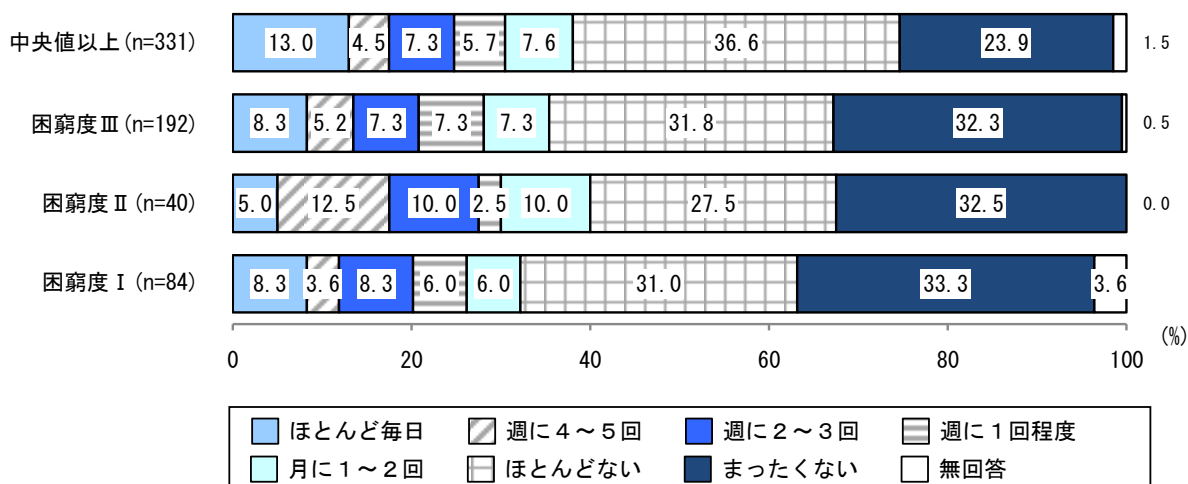
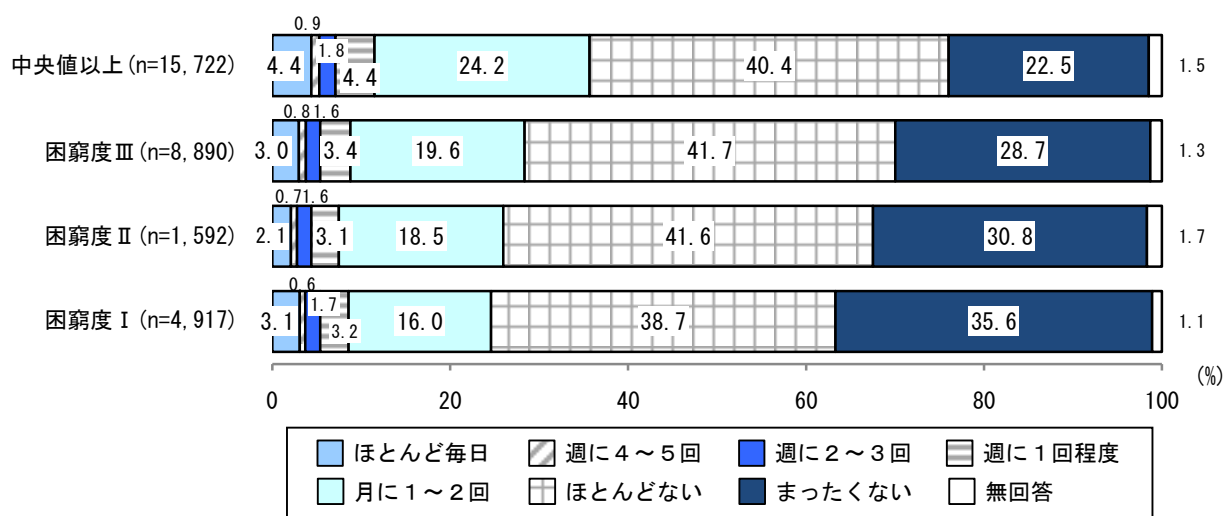


図 98. 困窮度別に見た、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか

困窮度別に保護者と子どもの関わり（おうちの大人に宿題をみてもらうか）を見ると、困窮度が高くなるにつれ、「まったくない」と回答した割合は高くなっている。

困窮度別に見た、おうちの大人の人と文化活動をするか（子ども票問8⑨）

<大阪府内全体>



<交野市>

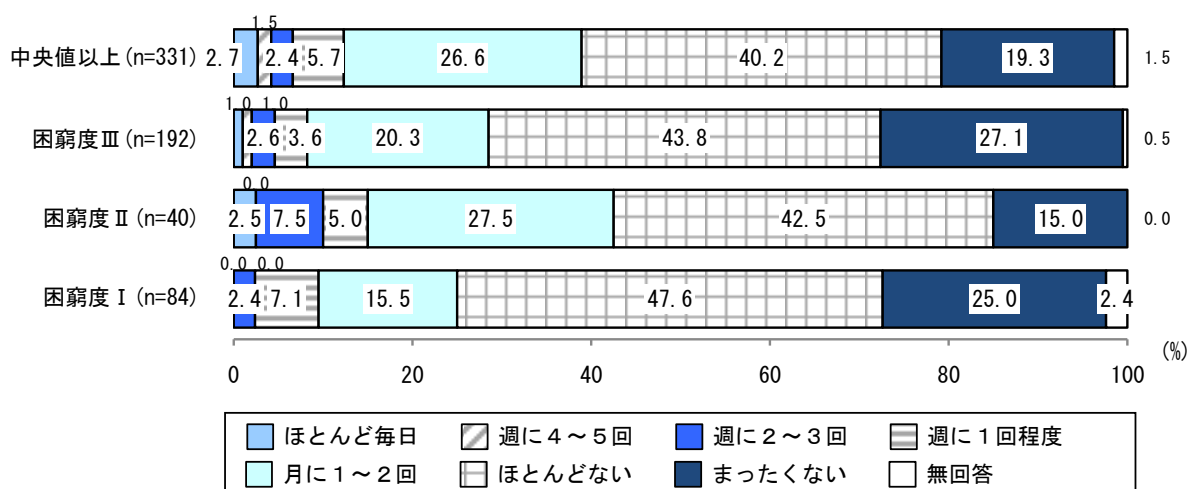
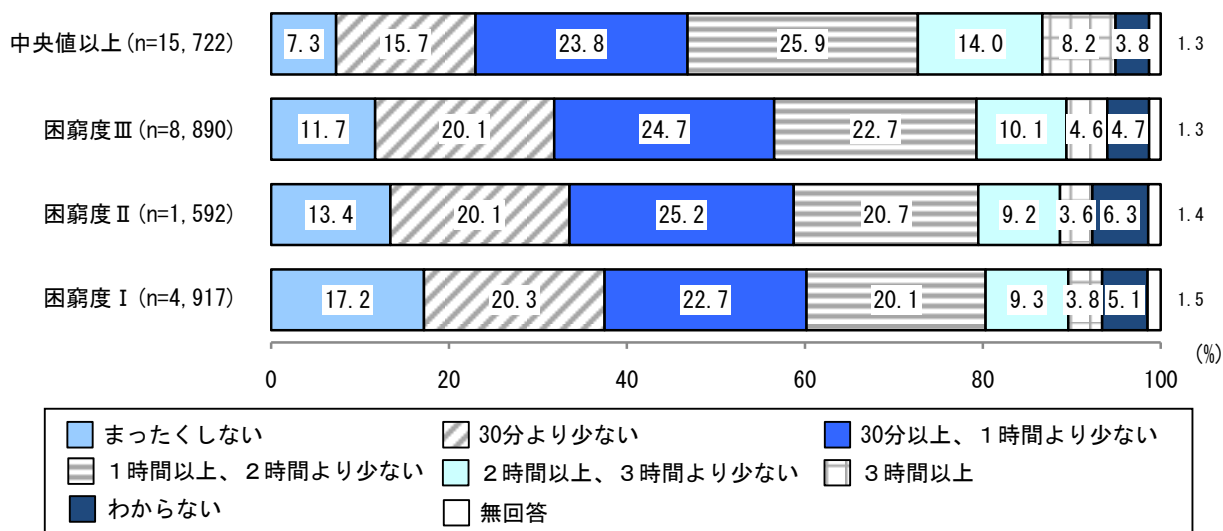


図 99. 困窮度別に見た、おうちの大人の人と文化活動をするか

困窮度別におうちの大人の人と文化活動をするかを見ると、月に1回以上おうちの大人の人と文化活動をすると回答した割合は、中央値以上群、困窮度Ⅱ群が高くなっている。

困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ①学校がある日（月～金曜日）
（子ども票問13①）

<大阪府内全体>



<交野市>

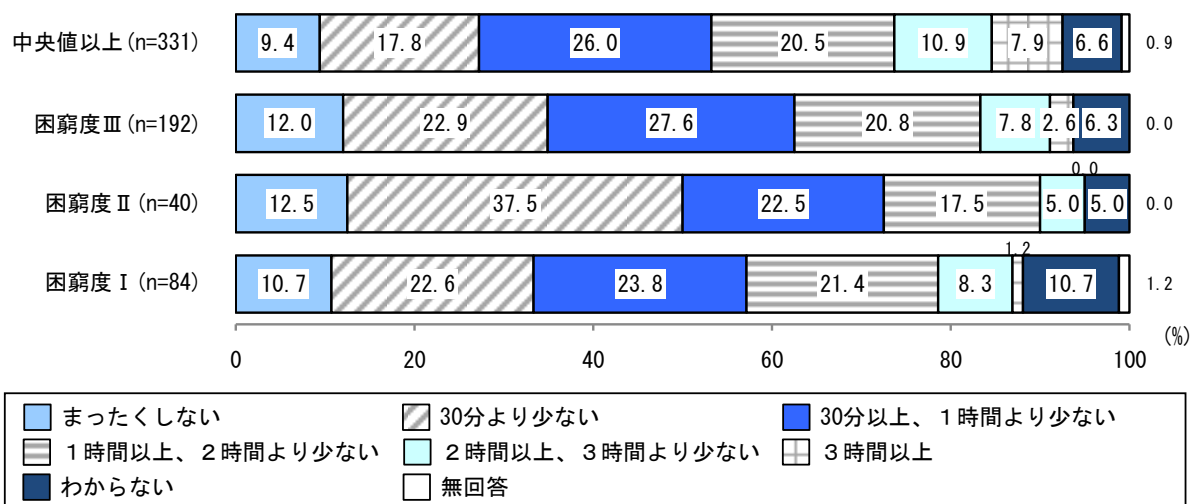
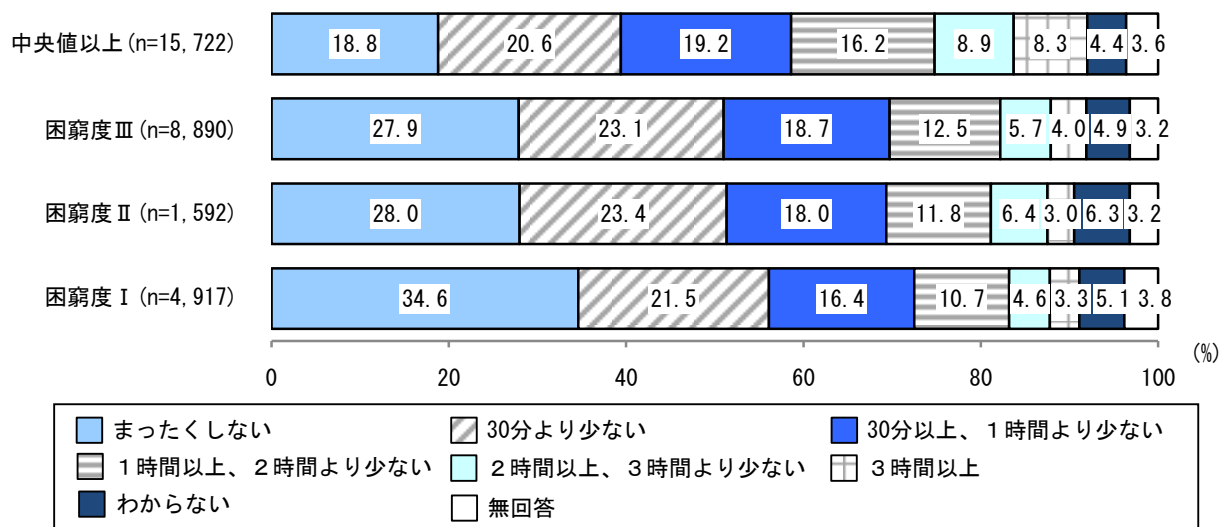


図 100. 困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）

困窮度別に授業以外の勉強時間を見ると、学校がある日、授業時間以外の1日あたりの勉強時間を30分未満であると回答した割合は、困窮度Ⅱ群が50.0%（「まったくしない」12.5%、「30分より少ない」37.5%）で最も高くなっている。また、「3時間以上」の割合は、中央値以上群が7.9%で最も高くなっている。

困窮度別に見た、授業時間以外の１日あたりの勉強時間 ②学校がない日（土・日曜日・祝日）
（子ども票問 13②）

<大阪府内全体>



<交野市>

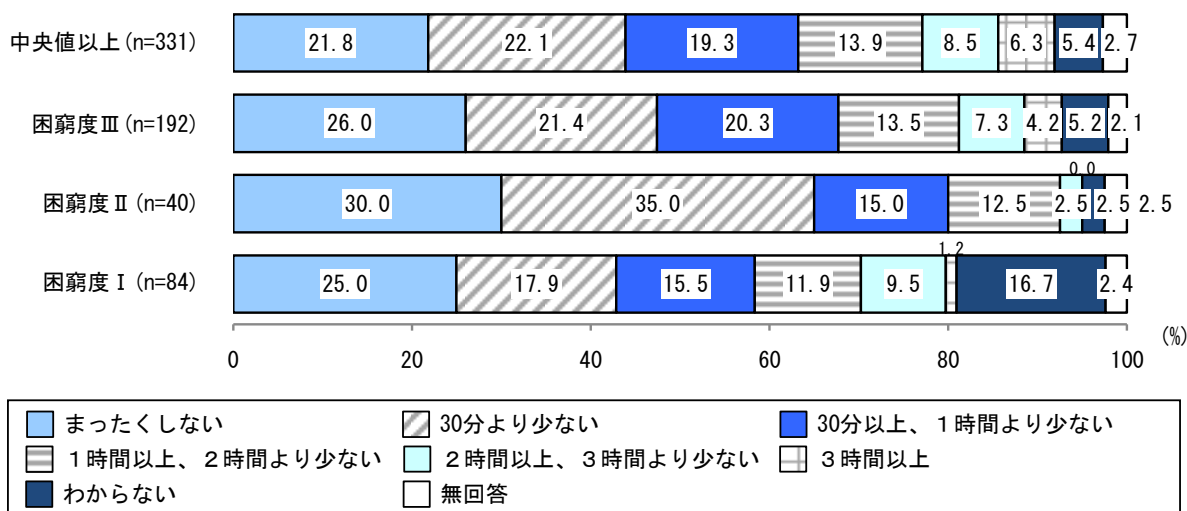
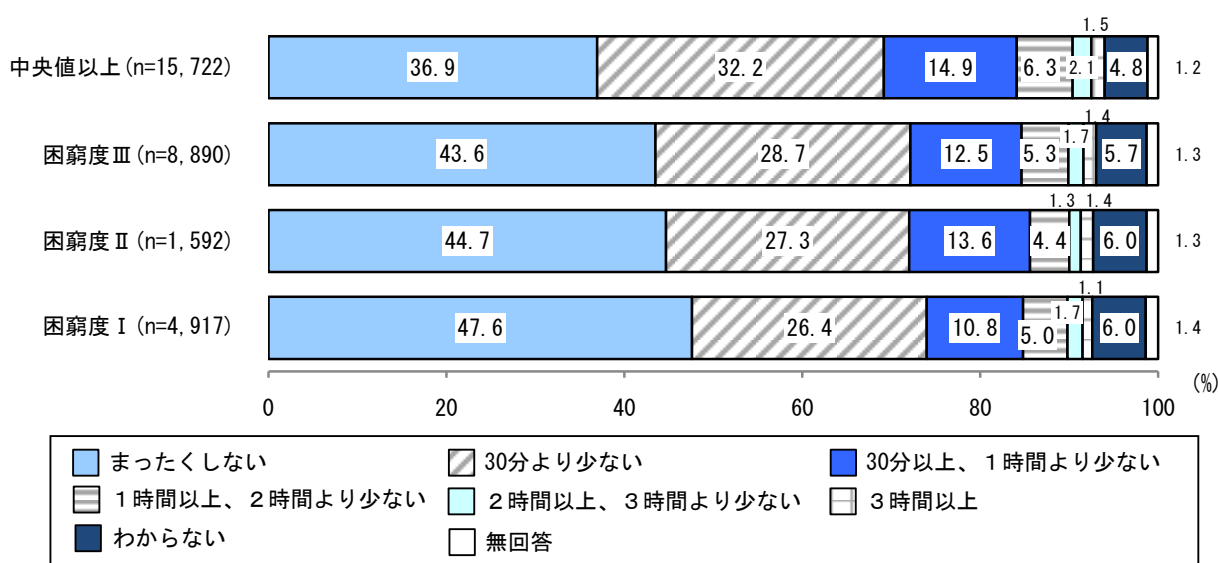


図 101. 困窮度別に見た、授業時間以外の１日あたりの勉強時間（学校がない日）

困窮度別に授業以外の勉強時間を見ると、学校がない日、授業時間以外の１日あたりの勉強時間を30分未満であると回答した割合は、困窮度Ⅱ群が65.0%（「まったくしない」30.0%、「30分より少ない」35.0%）で最も高くなっている。また、「3時間以上」の割合は、中央値以上群が6.3%で最も高くなっている。

困窮度別に見た、授業以外の読書時間（子ども票問 15）

<大阪府内全体>



<交野市>

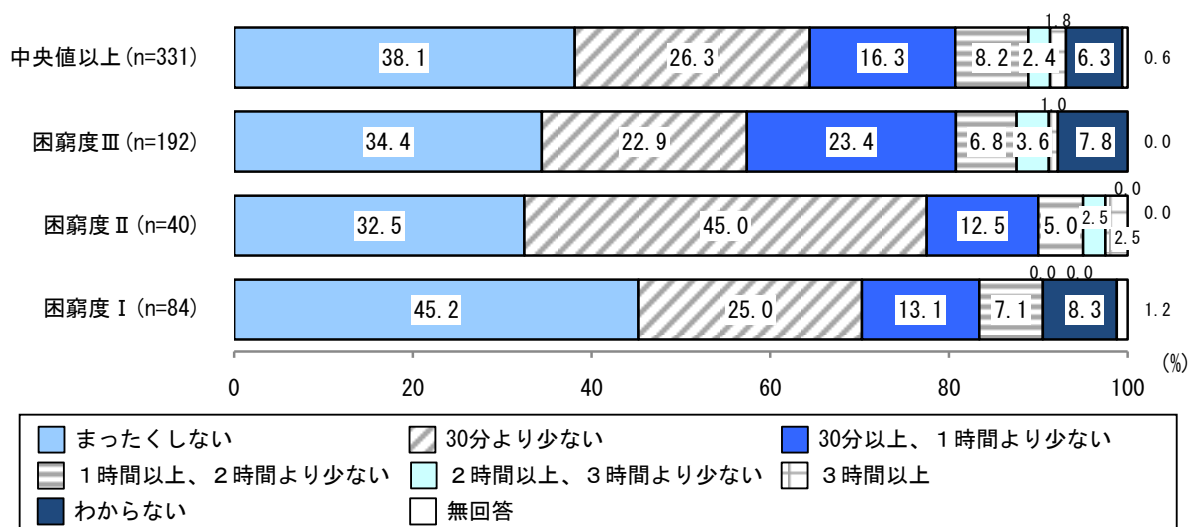
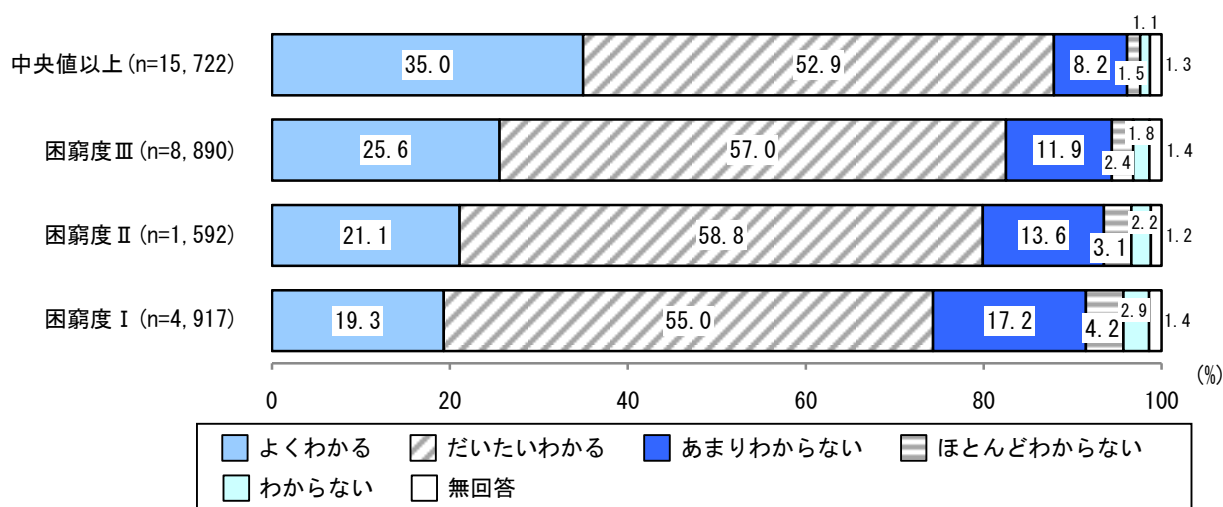


図 102. 困窮度別に見た、授業以外の読書時間

困窮度別に授業以外の読書時間を見ると、授業以外の読書時間を30分未満であると回答した割合は、困窮度Ⅱ群が77.5%（「まったくしない」32.5%、「30分より少ない」45.0%）で最も高くなっている。

困窮度別に見た、学校の勉強で気持ちに近いもの（子ども票問 14(1)）

<大阪府内全体>



<交野市>

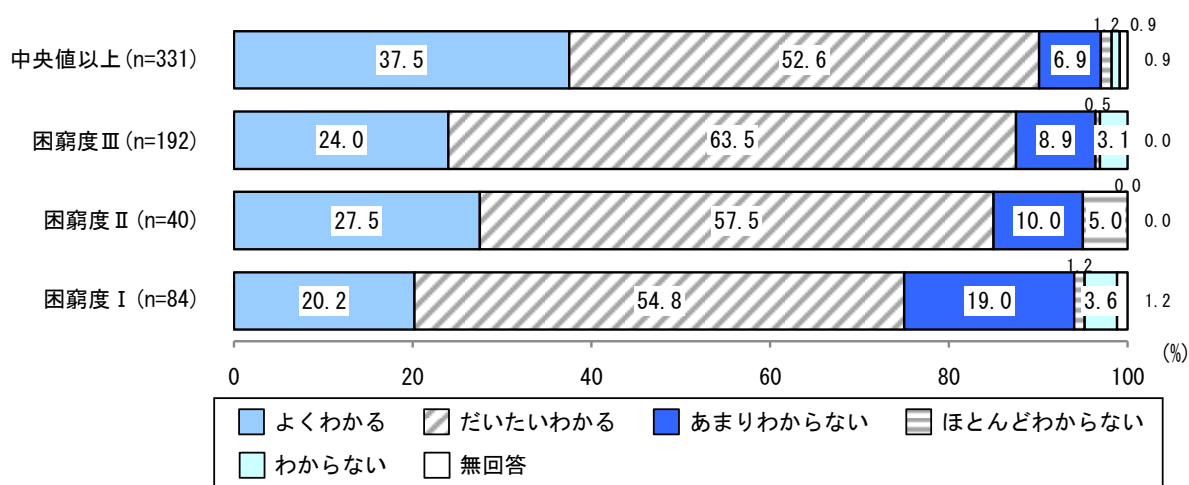


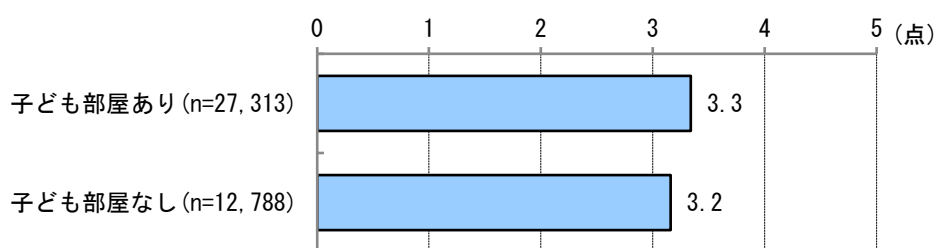
図 103. 困窮度別に見た、学校の勉強で気持ちに近いもの

困窮度別に学校の勉強で気持ちに近いものを見ると、学校の勉強をわかると回答した割合は、中央値以上群が90.1%（「よくわかる」37.5%、「だいたいわかる」52.6%）で最も高くなっている。また、困窮度が高くなるにつれ、「あまりわからない」の回答した割合は高くなっている。

子ども部屋の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間の平均値 ①学校がある日
(月～金曜日)(子ども票問21×子ども票問13①)

※勉強時間について、「1. まったくしない」「2. 30分より少ない」「3. 30分以上、1時間より少ない」「4. 1時間以上、2時間より少ない」「5. 2時間以上、3時間より少ない」「6. 3時間以上」の6つの時間枠からひとつを選択させた(「7. わからない」は除く)。項目番号を勉強時間の得点とみなし、得点が高いほど、勉強時間が長いことを表す。

<大阪府内全体>



<交野市>

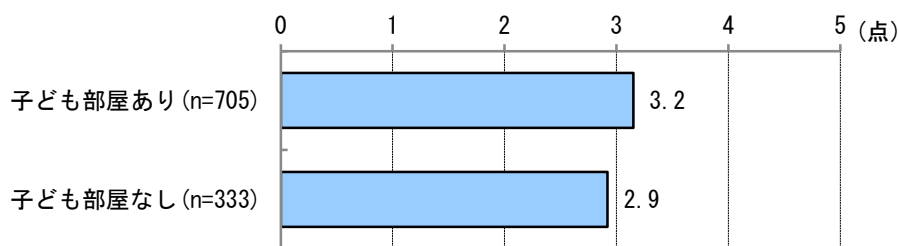
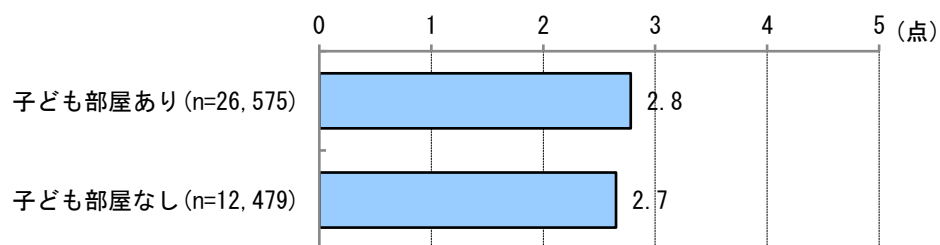


図 104. 子ども部屋の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間の平均値 (学校がある日)

子ども部屋の有無別に学校がある日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、子ども部屋がある子どもの方が、勉強時間が長くなっている。

子ども部屋の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間の平均値 ②学校がない日
(土・日曜日・祝日)(子ども票問21×子ども票問13②)

<大阪府内全体>



<交野市>

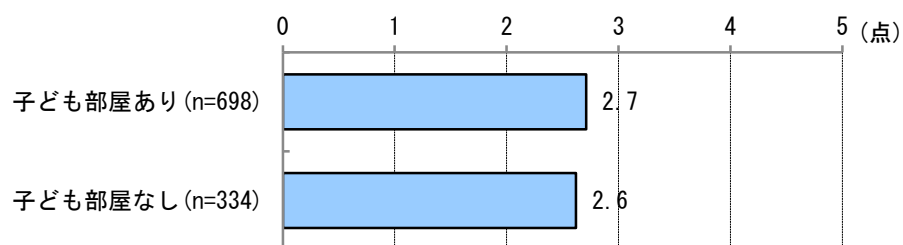
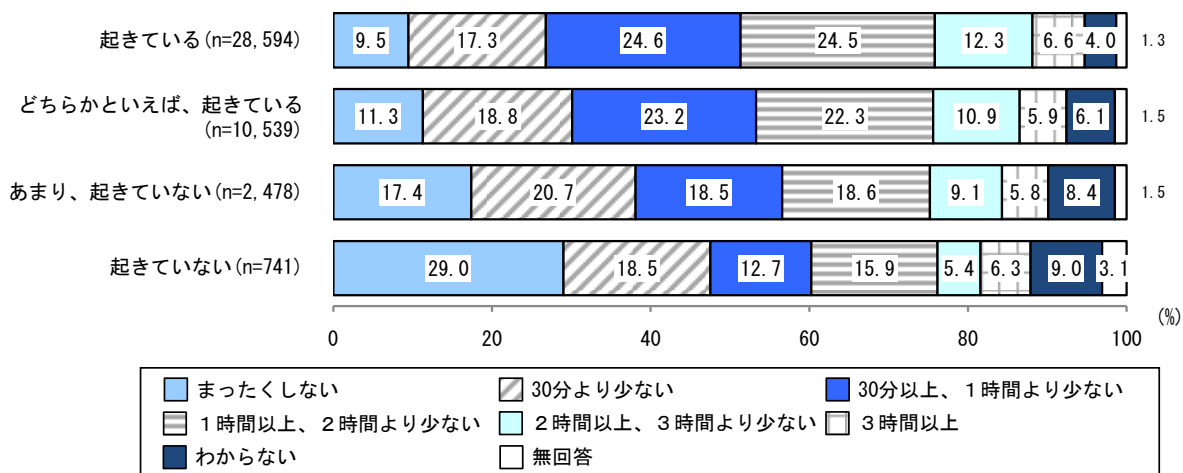


図 105. 子ども部屋の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間の平均値 (学校がない日)

子ども部屋の有無別に学校がない日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ても、大きな差はみられなかった。

起床時間の規則性別に見た、授業時間以外の 1 日あたりの勉強時間 ①学校がある日（月～金曜日）（子ども票問 2 × 子ども票問 13①）

<大阪府内全体>



<交野市>

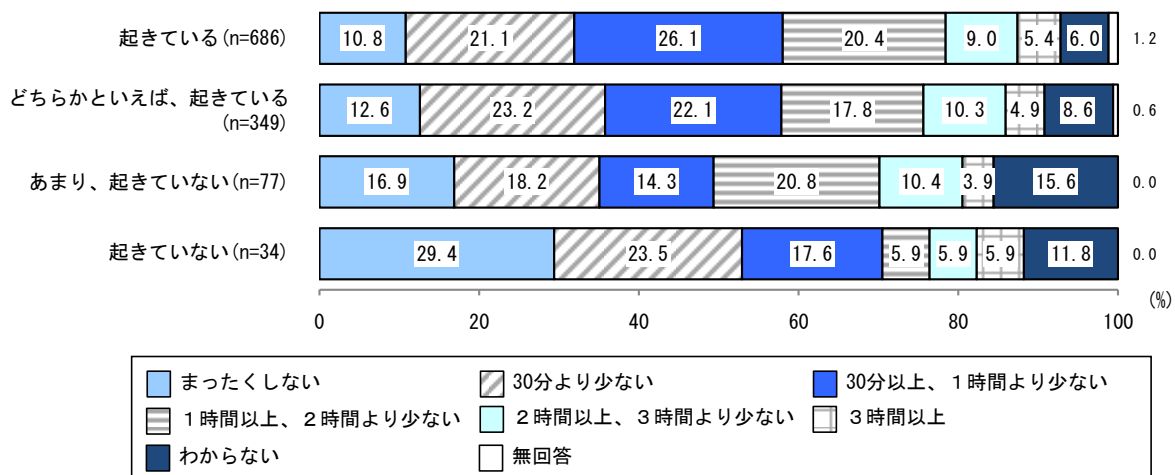
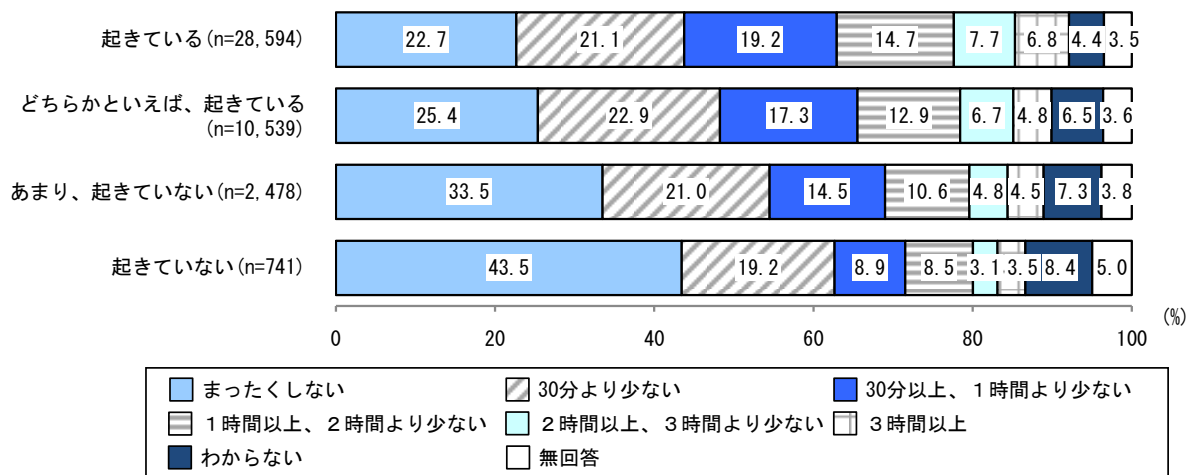


図 106. 起床時間の規則性別に見た、授業時間以外の 1 日あたりの勉強時間（学校がある日）

起床時間の規則性別に学校がある日の授業時間以外の 1 日あたりの勉強時間を見ると、ふだん同じ時刻に起きていない人ほど「まったくしない」と回答した割合が高くなっている。

起床時間の規則性別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ②学校がない日（土・日曜日・祝日）（子ども票問2×子ども票問13②）

<大阪府内全体>



<交野市>

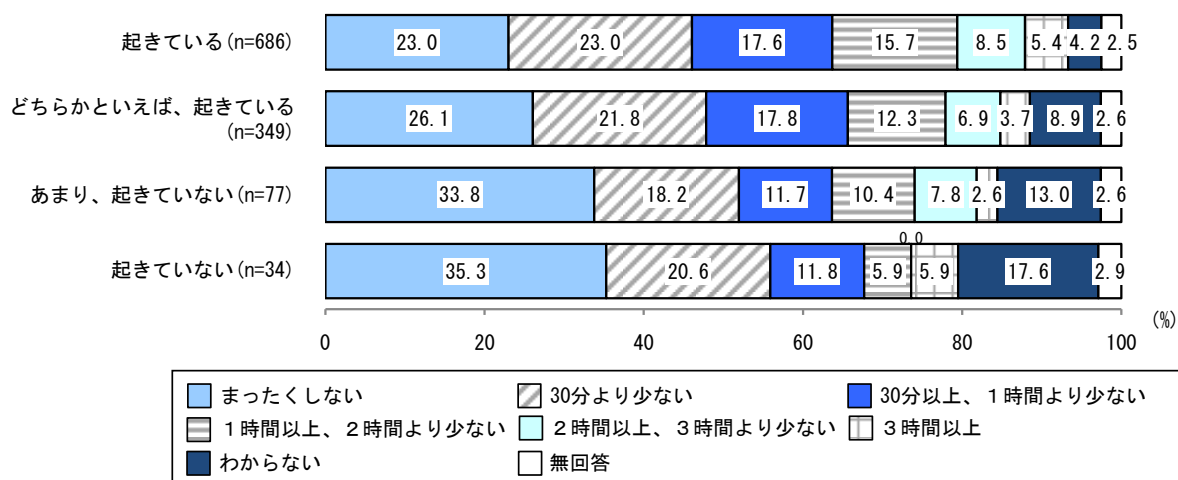
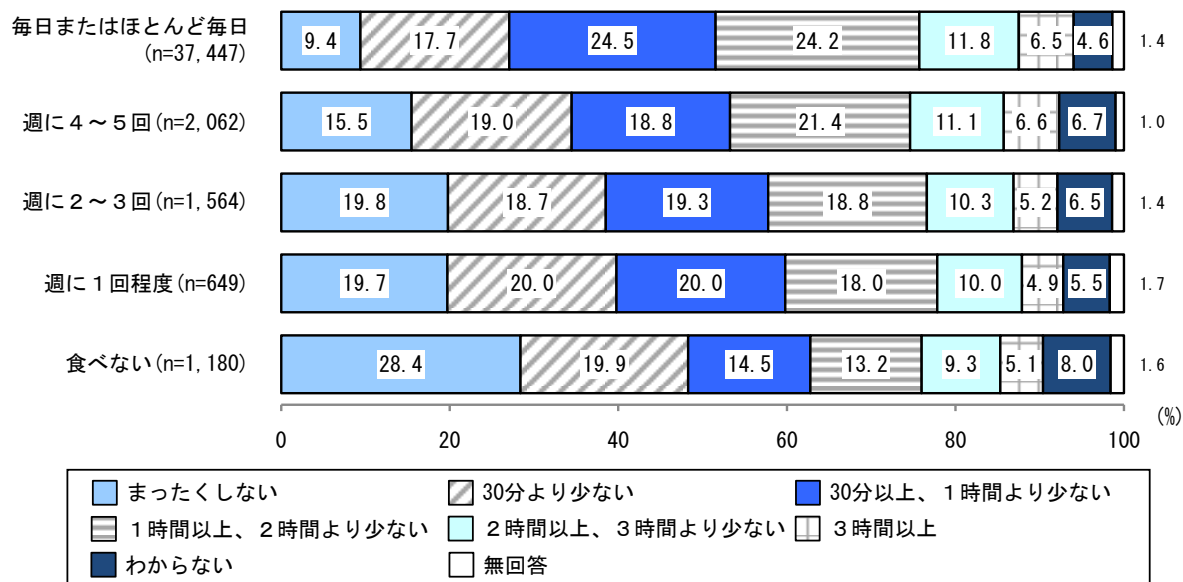


図 107. 起床時間の規則性別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）

起床時間の規則性別に学校がない日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、ふだん同じ時刻に起きていない人ほど「まったくしない」の回答の割合が高くなり、一方で「1時間以上、2時間より少ない」は低くなっている。

朝食の頻度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ①学校がある日（月～金曜日）
（子ども票問4(1)×子ども票問13①）

<大阪府内全体>



<交野市>

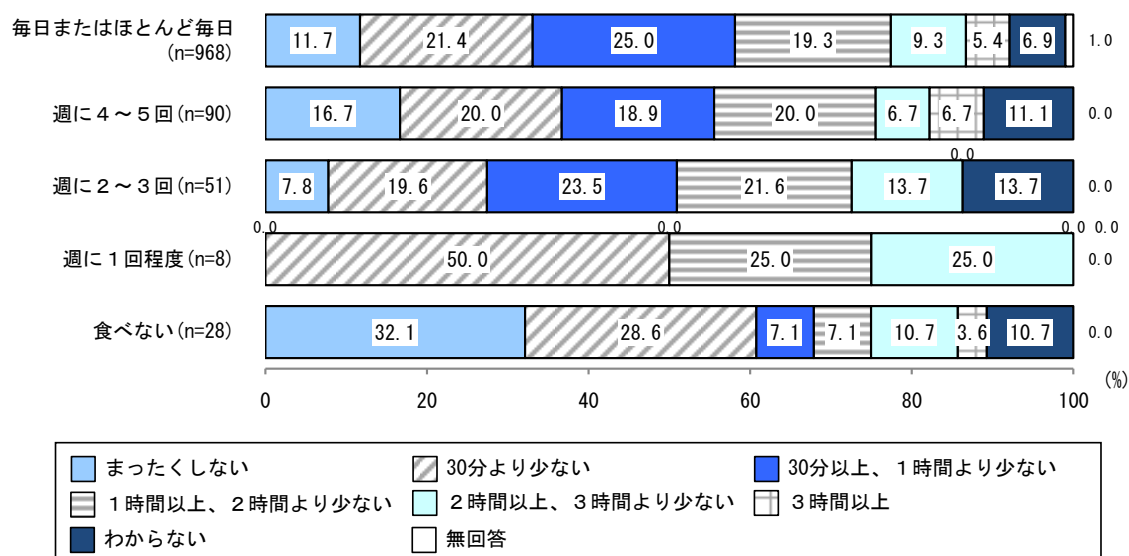
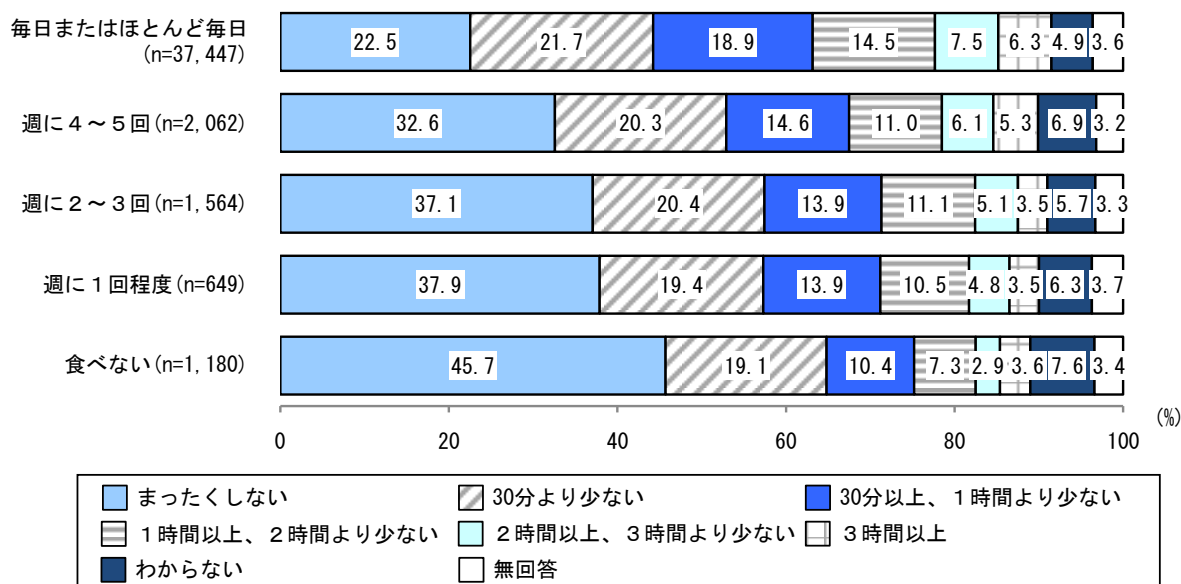


図 108. 朝食の頻度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）

朝食の頻度別に学校がある日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、「まったくしない」と回答した割合は、朝食を週に1回以上食べる人はいずれも20.0%未満であるのに対し、朝食を食べない人は32.1%と高くなっている。

朝食の頻度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ②学校がない日（土・日曜日・祝日）（子ども票問4(1)×子ども票問13②）

<大阪府内全体>



<交野市>

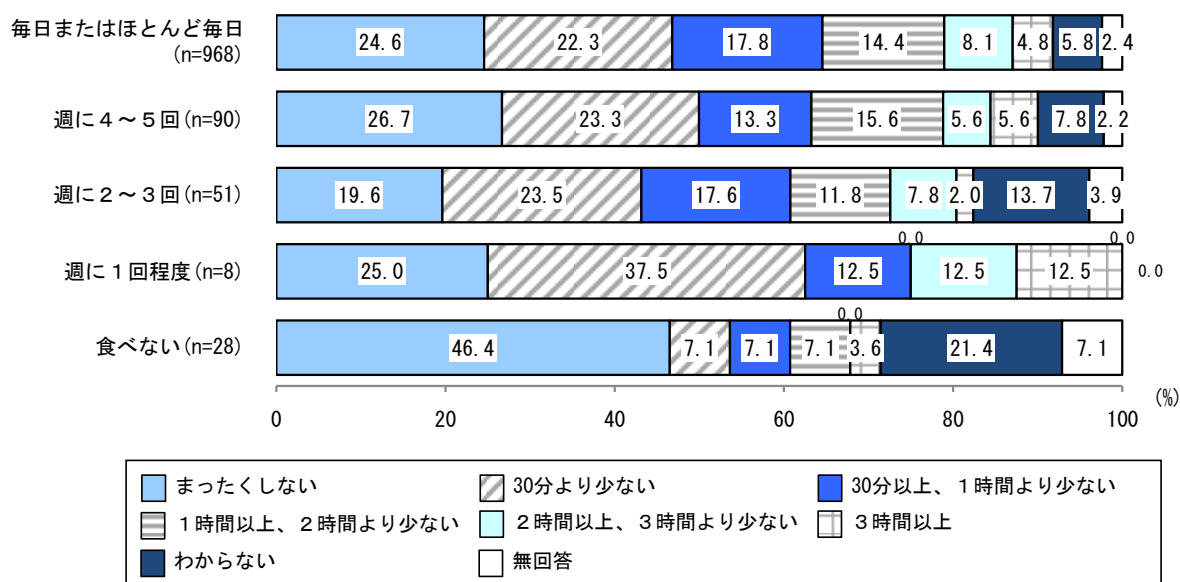
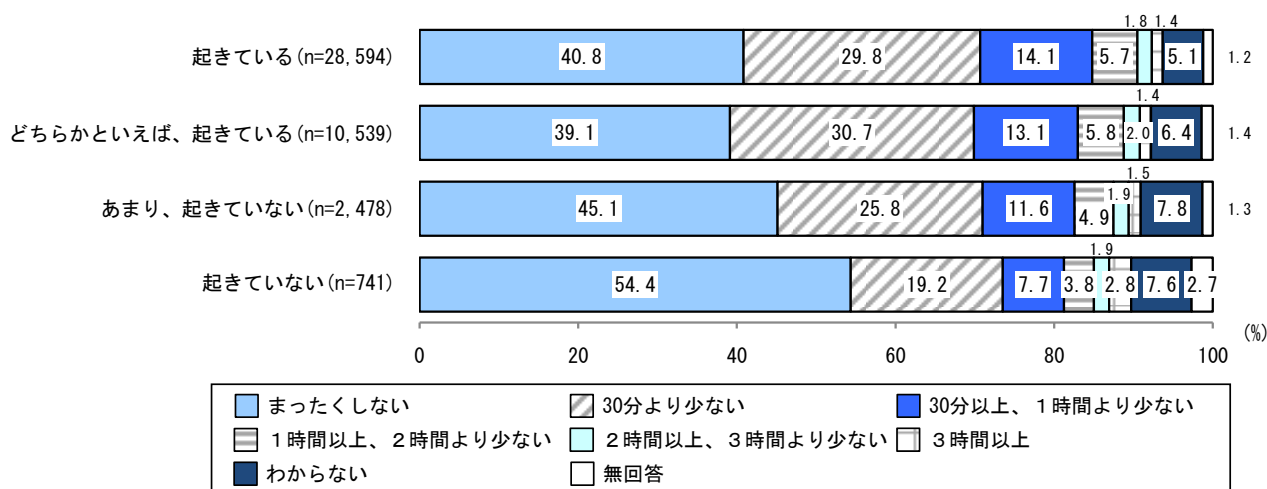


図 109. 朝食の頻度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）

朝食の頻度別に学校がない日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、朝食を週に1回以上食べる人がいずれも30.0%未満であるのに対し、朝食を食べない人は46.4%と高くなっている。

起床時間の規則性別に見た、授業以外の読書時間（子ども票問2×子ども票問15）

<大阪府内全体>



<交野市>

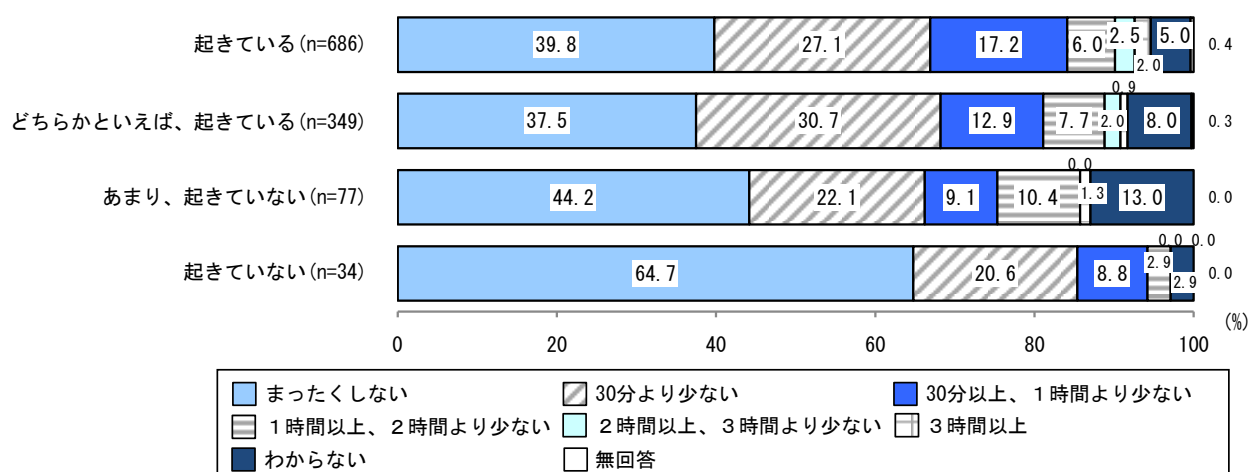
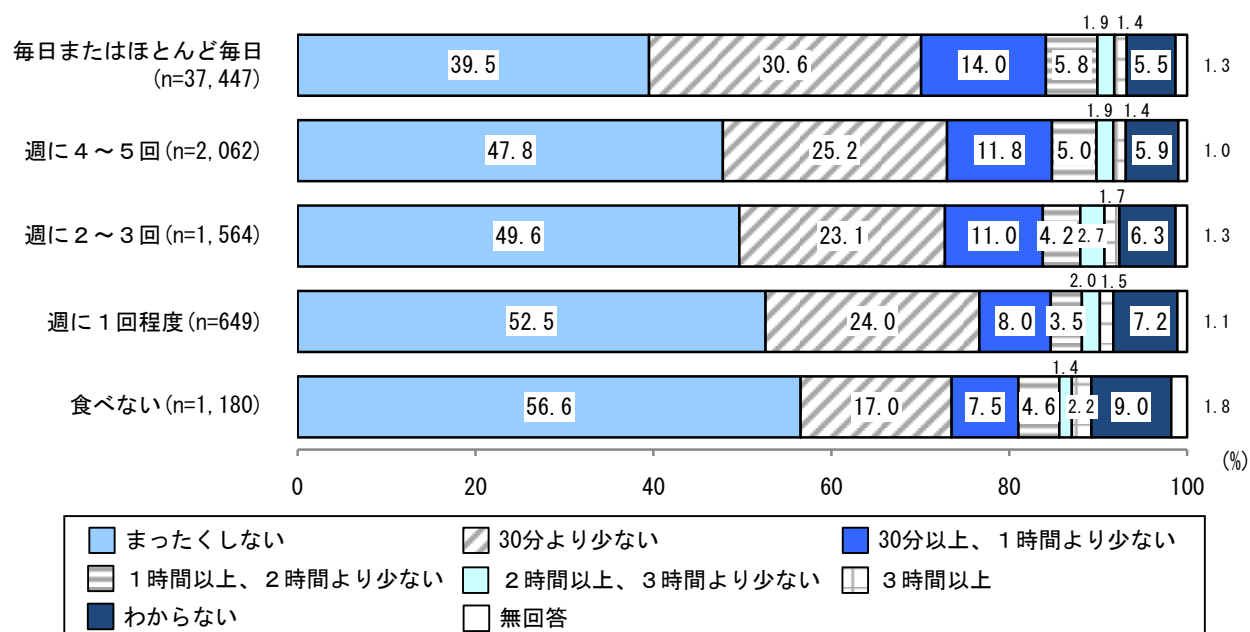


図 110. 起床時間の規則性別に見た、授業以外の読書時間

起床時間の規則性別に授業以外の読書時間を見ると、「まったくしない」と回答した割合は、同じ時刻に起きていない人は64.7%で最も高くなっている。

朝食の頻度別に見た、授業以外の読書時間（子ども票問 4 (1) × 子ども票問 15)

<大阪府内全体>



<交野市>

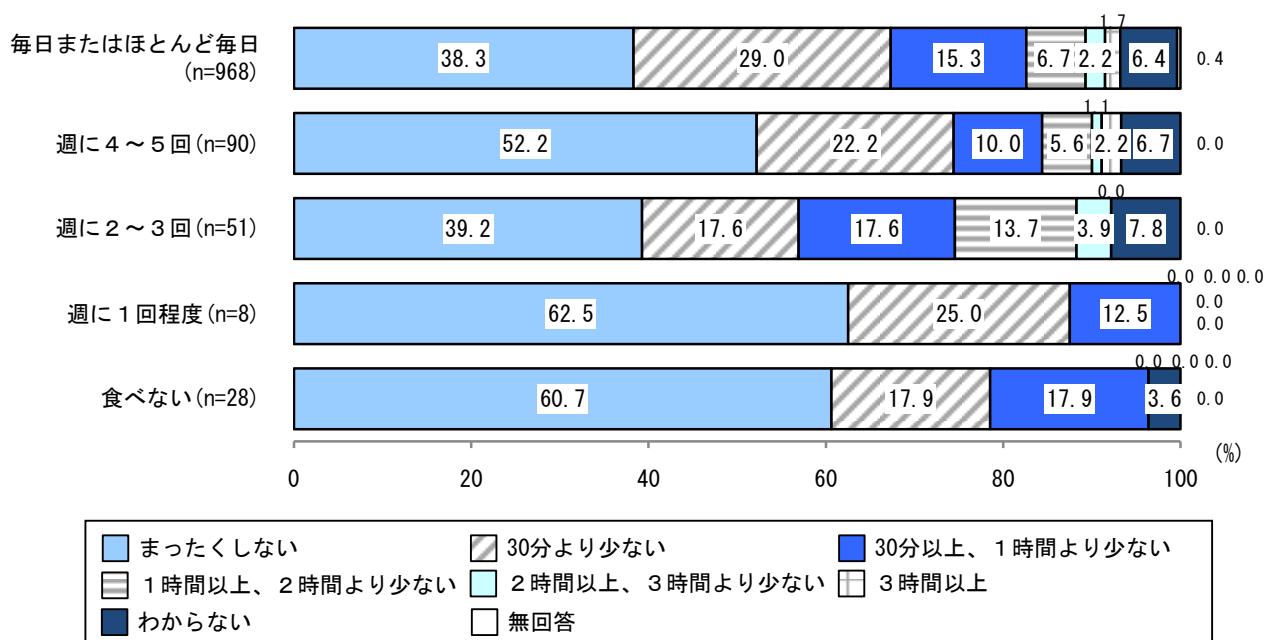
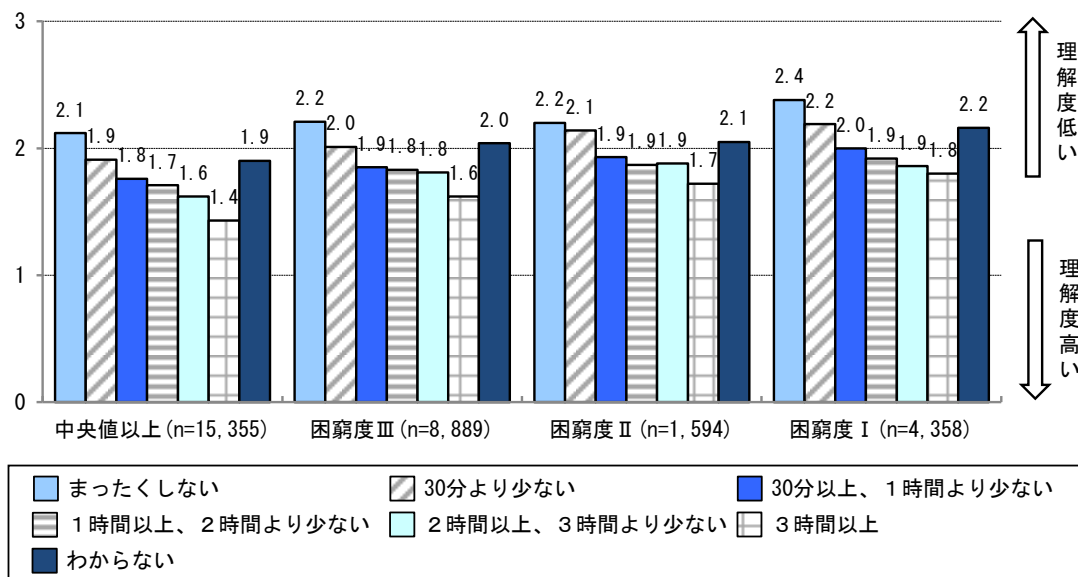


図 111. 朝食の頻度別に見た、授業以外の読書時間

朝食の頻度別に授業以外の読書時間を見ると、「まったくしない」と回答した割合は、毎日またはほとんど毎日朝食を食べる人が38.3%で最も低く、週に1回程度朝食を食べる人が62.5%で、最も高くなっている。

困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）と学習理解度の関連
（子ども票問14(1)×子ども票問13①）

<大阪府内全体>



<交野市>

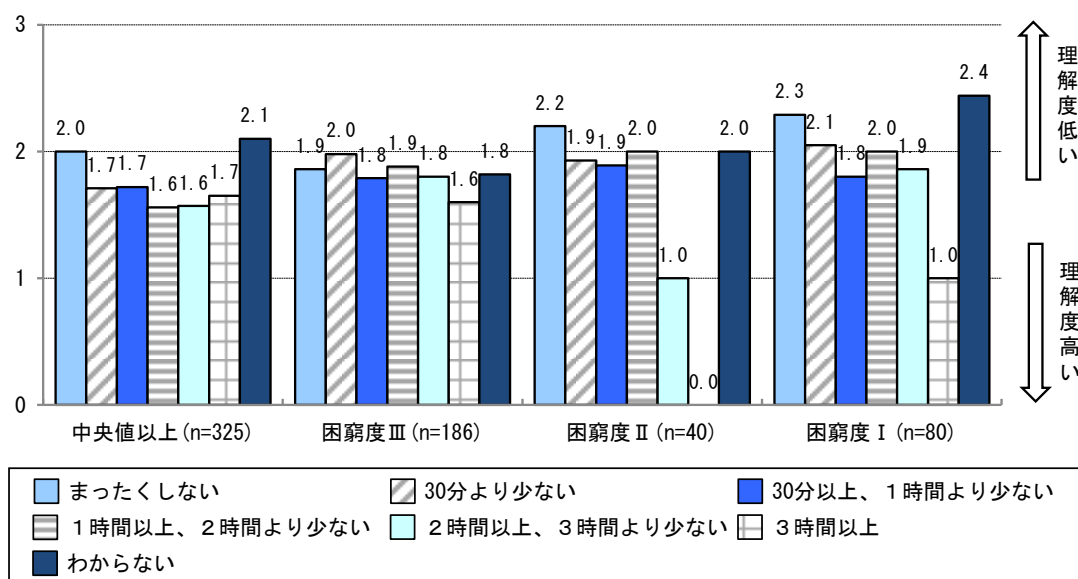
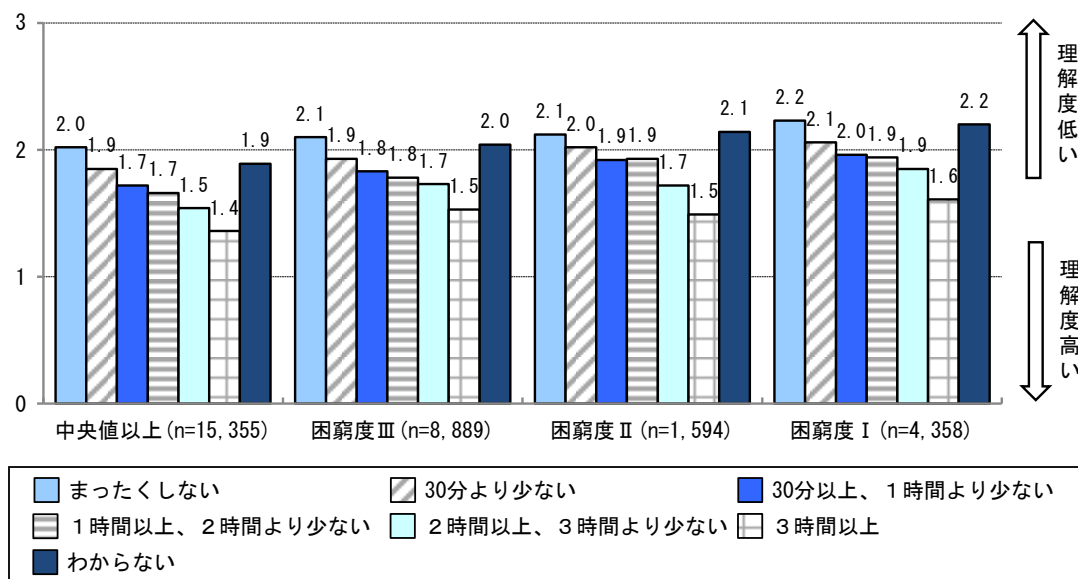


図 112. 困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）と学習理解度の関連

困窮度別に学校がある日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間と学習理解度の関連を見ると、中央値以上の群の子どもは、概ね勉強時間が長くなるほど学習理解度が高まるが、それ以外の群の子どもは学習時間と学習理解度が関連しない。

困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）と学習理解度の関連
（子ども票問14(1)×子ども票問13②）

<大阪府内全体>



<交野市>

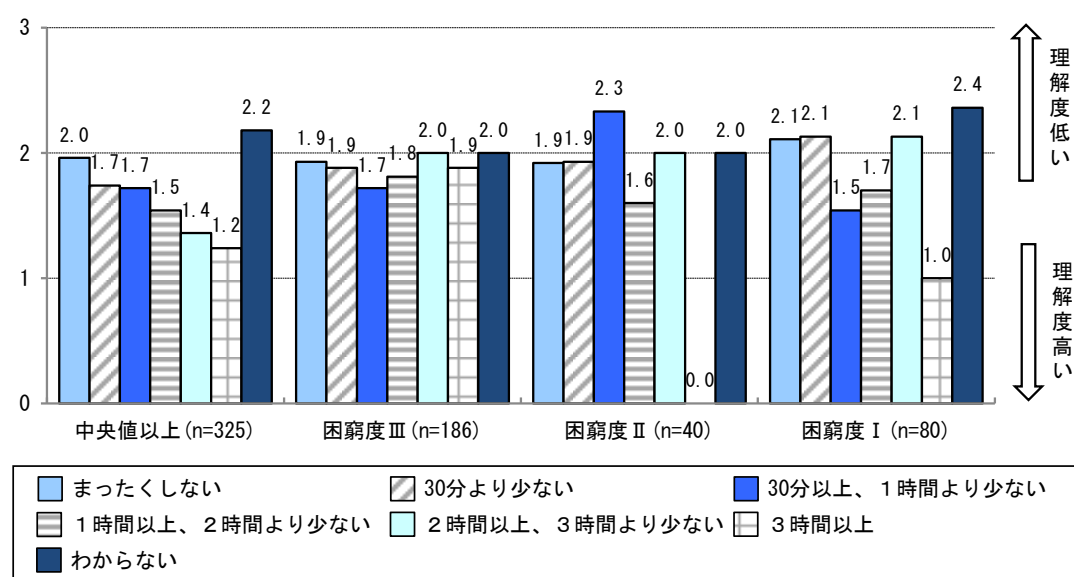
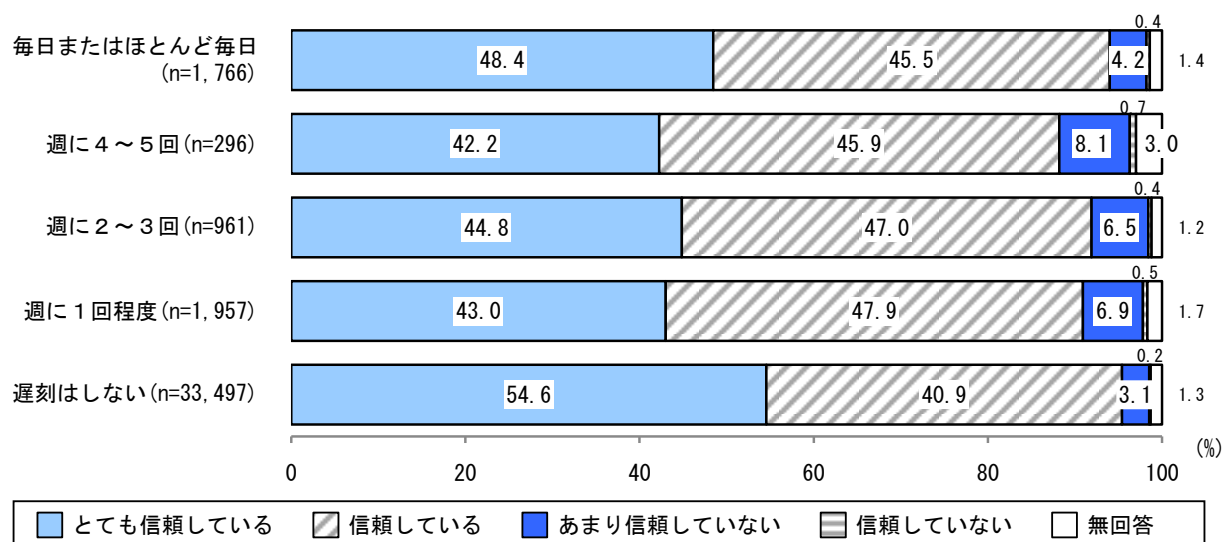


図 113. 困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）と学習理解度の関連

困窮度別に学校がない日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間と学習理解度の関連を見ると、中央値以上の群の子どもは、勉強時間が長くなるほど学習理解度が高まるが、それ以外の群の子どもは、学習時間と学習理解度が関連しない。

学校への遅刻別に見た、子どもへの信頼度（子ども票問 7 × 保護者票問 13(1)）

<大阪府内全体>



<交野市>

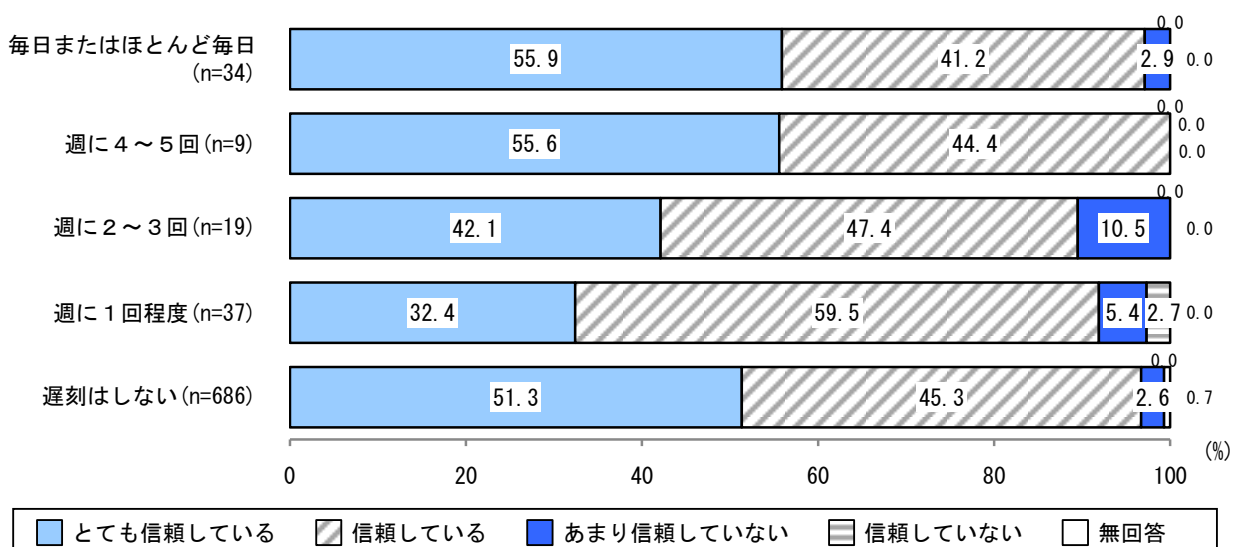
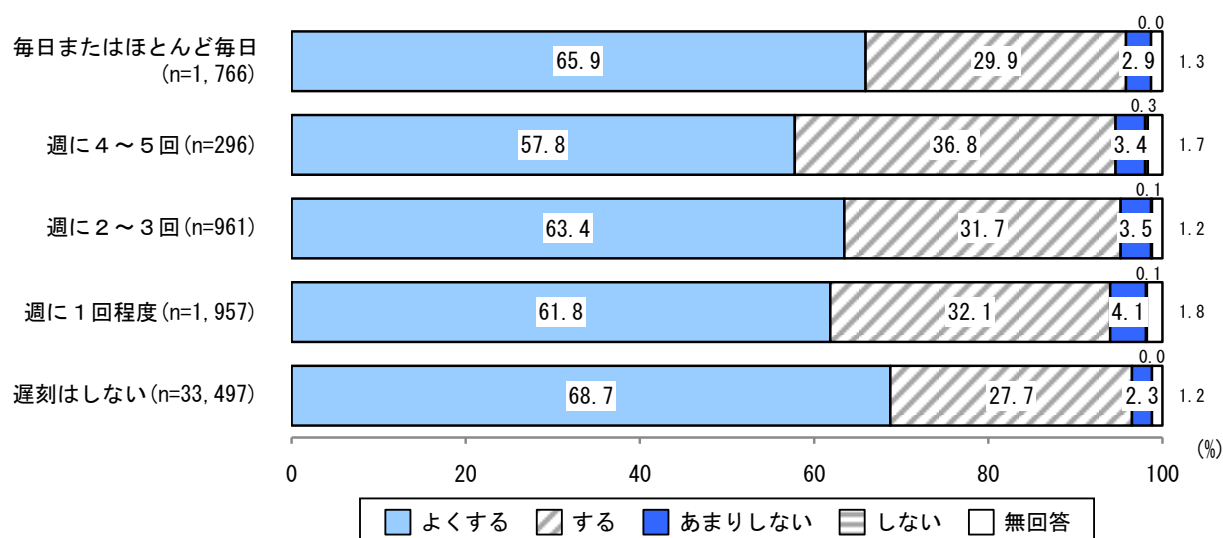


図 114. 学校への遅刻別に見た、子どもへの信頼度

学校への遅刻別に子どもへの信頼度を見ると、「あまり信頼していない」と回答した割合は、週に 2 ～ 3 回遅刻をしている子どもが 10.5% で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、子どもとの会話頻度（子ども票問7×保護者票問13(2)）

<大阪府内全体>



<交野市>

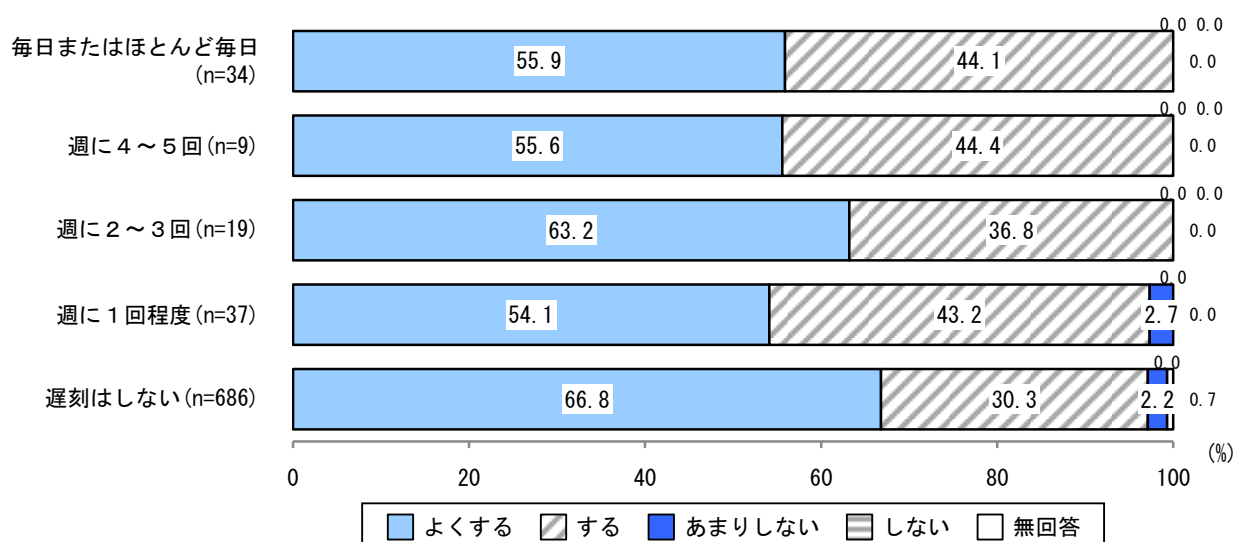
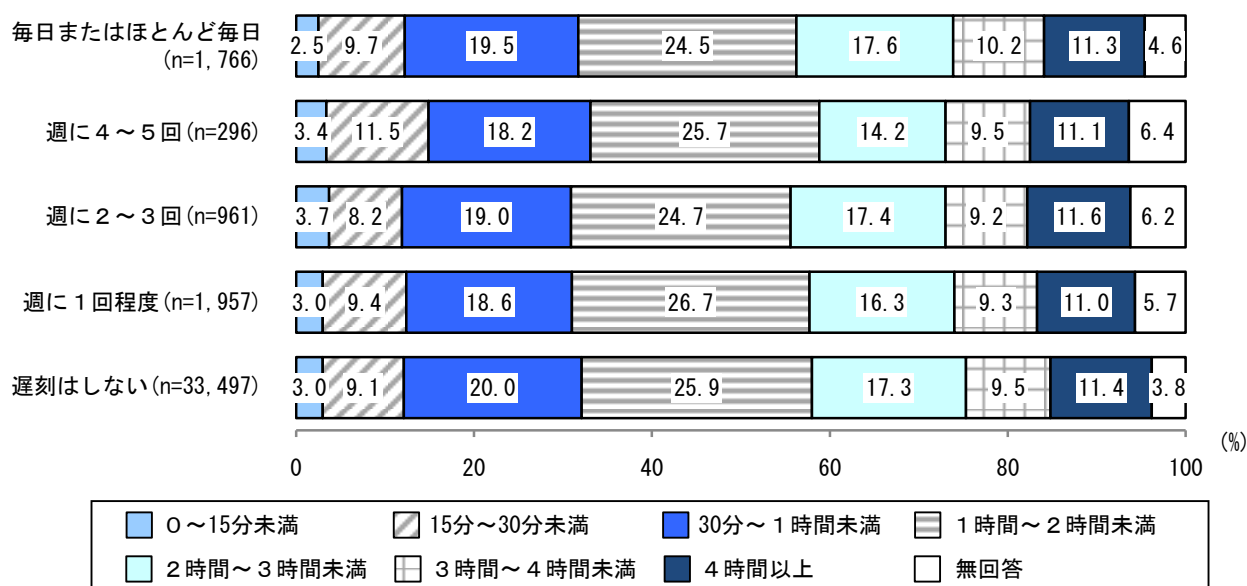


図 115. 学校への遅刻別に見た、子どもとの会話頻度

学校への遅刻別に子どもとの会話頻度を見ると、「よくする」と回答した割合は、遅刻はしない子どもが66.8%で最も高く、次いで週に2～3回遅刻をする子どもが63.2%となっている。

学校への遅刻別に見た、平日での子どもとの関わり時間（子ども票問7×保護者票問13(3)）

<大阪府内全体>



<交野市>

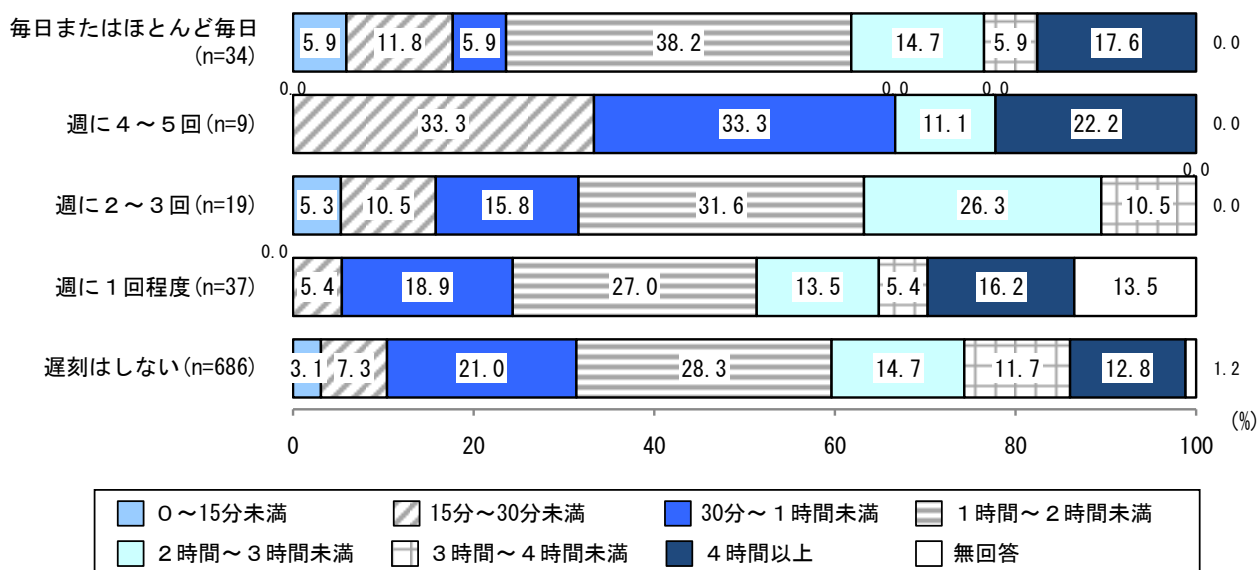
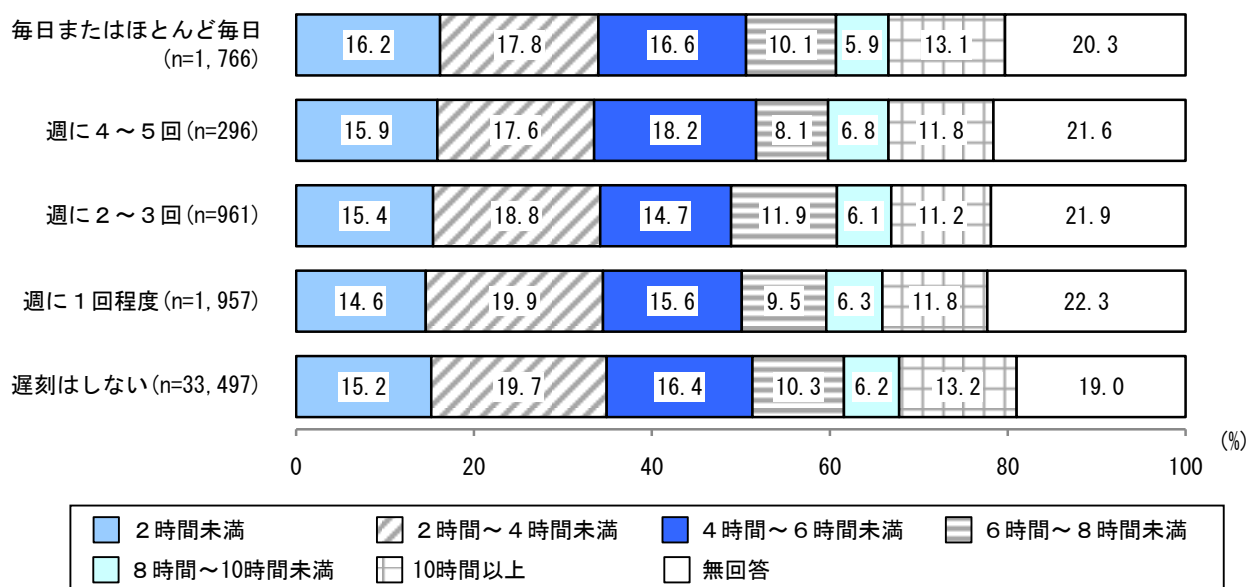


図 116. 学校への遅刻別に見た、平日での子どもとの関わり時間

学校への遅刻別に平日での子どもとの関わり時間を見ると、平日、子どもと2時間以上関わると回答した割合は、遅刻はしない子どもが39.2%（「2時間～3時間未満」14.7%、「3時間～4時間未満」11.7%、「4時間以上」12.8%）で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、休日での子どもとの関わり時間（子ども票問7×保護者票問13(3)）

<大阪府内全体>



<交野市>

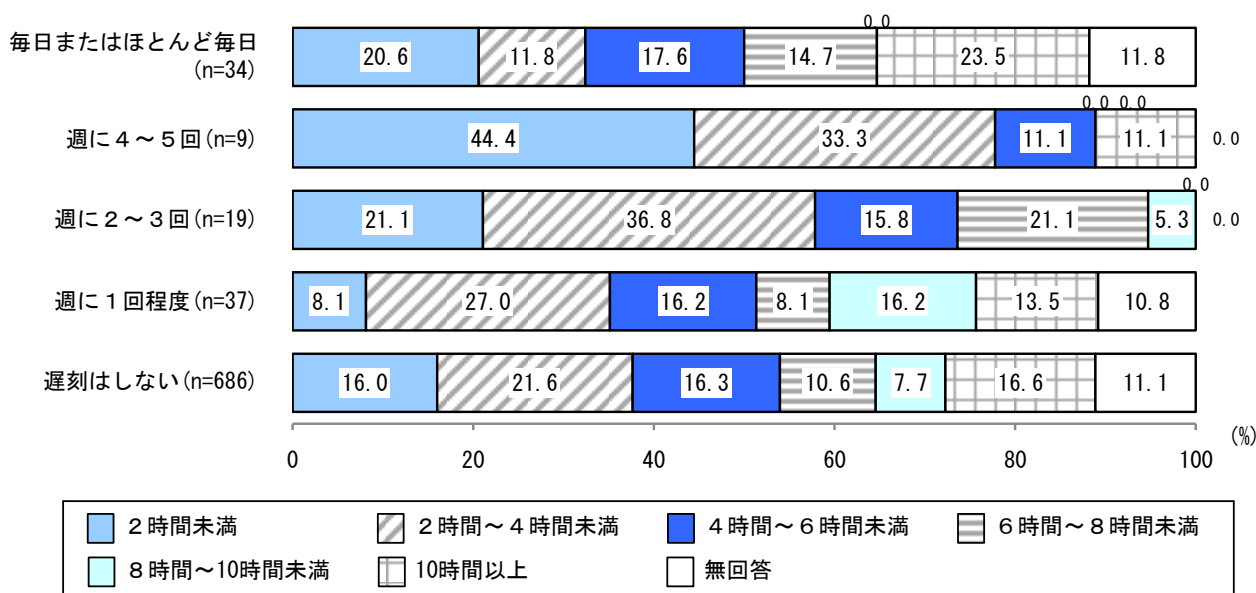
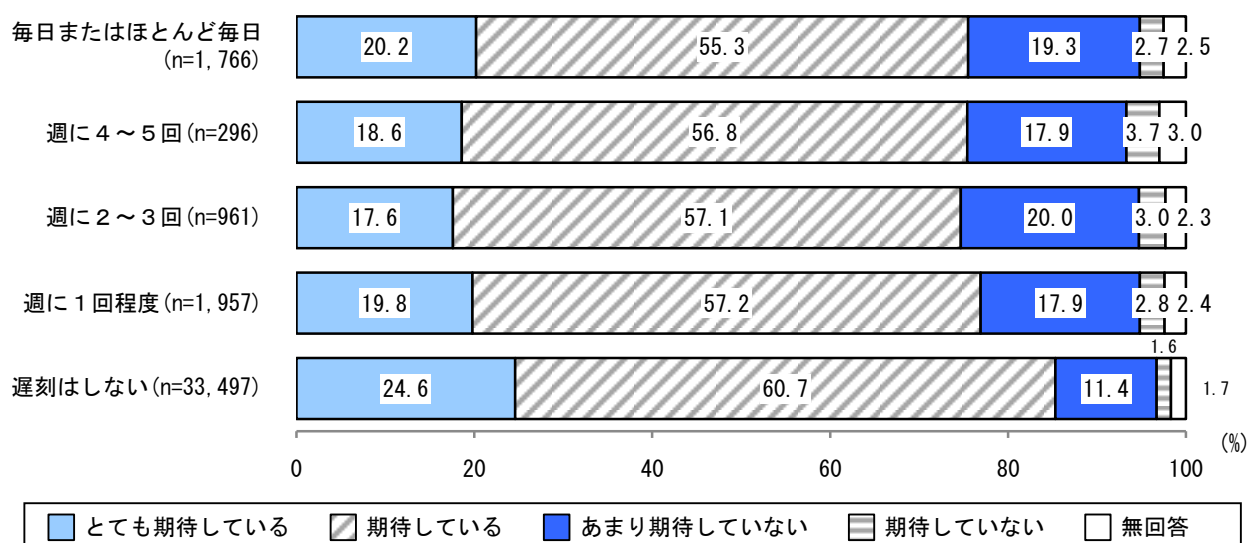


図 117. 学校への遅刻別に見た、休日での子どもとの関わり時間

学校への遅刻別に休日での子どもとの関わり時間を見ると、「2時間未満」と回答した割合は、週に4～5回遅刻をする子どもが44.4%で最も高く、週に1回程度遅刻をする子どもが8.1%で最も低くなっている。

学校への遅刻別に見た、子どもの将来への期待度（子ども票問 7 × 保護者票問 13(4)）

<大阪府内全体>



<交野市>

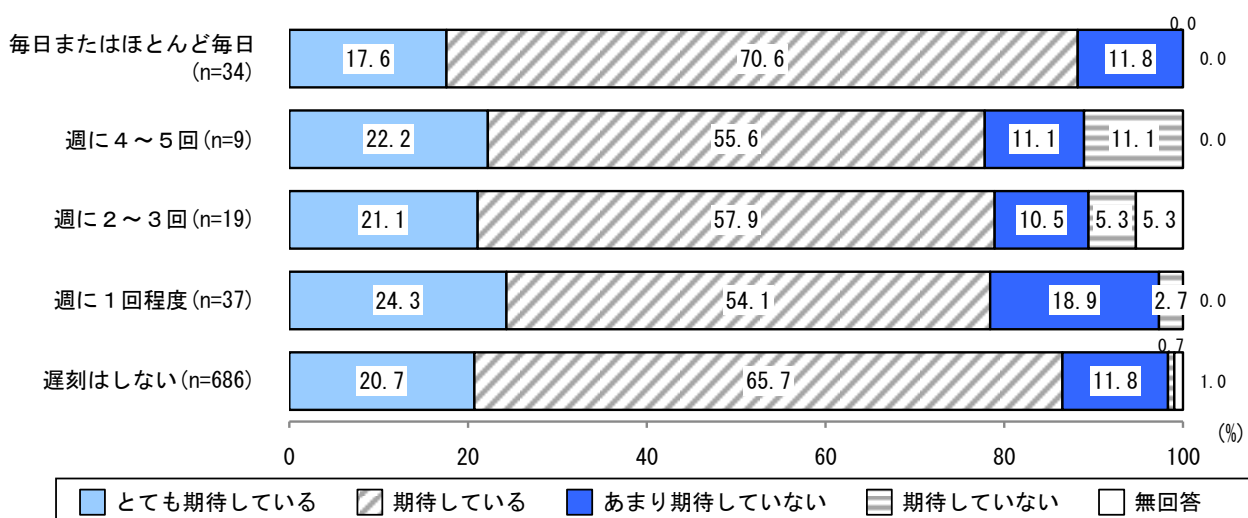
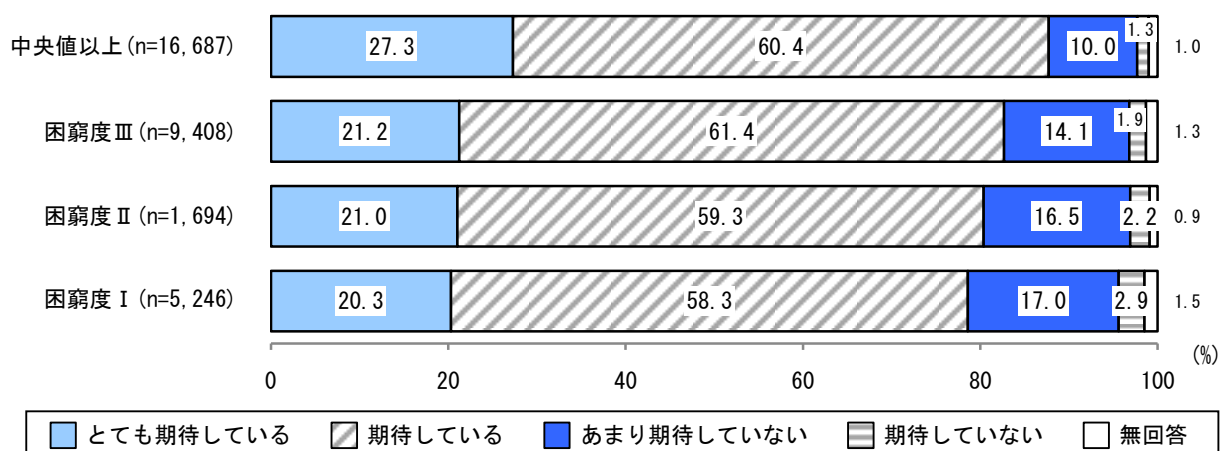


図 118. 学校への遅刻別に見た、子どもの将来への期待度

学校への遅刻別に子どもの将来への期待度を見ると、子どもの将来に期待していないと回答した割合は、週に 4 ～ 5 回遅刻をする子どもが 22.2%（「あまり期待していない」 11.1%、「期待していない」 11.1%）で、最も高くなっている。

困窮度別に見た、子どもの将来への期待度（保護者票問 13(4)）

<大阪府内全体>



<交野市>

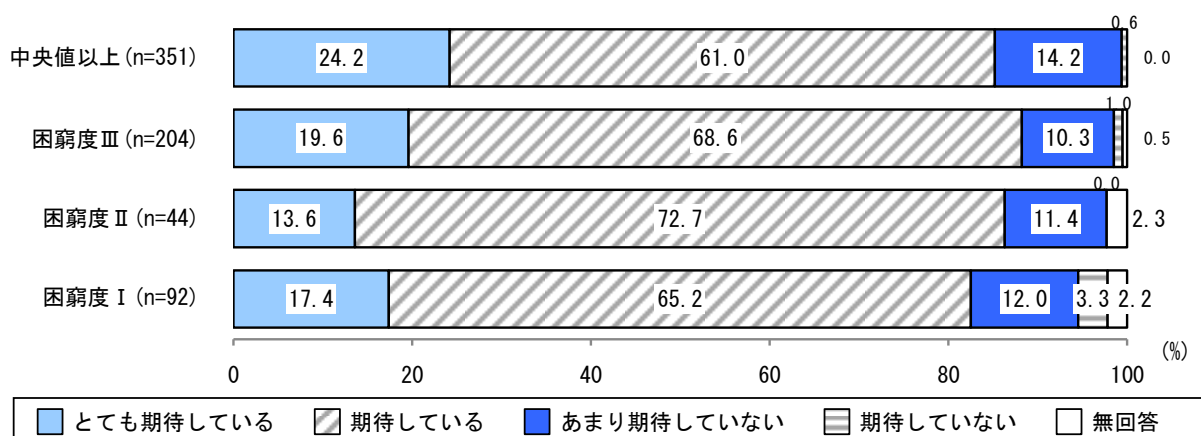
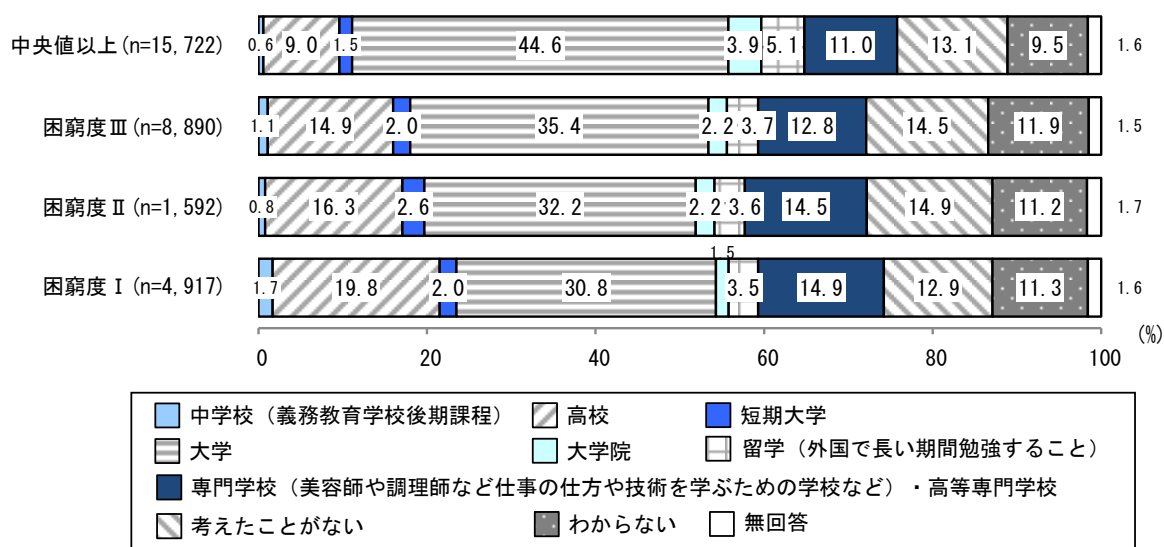


図 119. 困窮度別に見た、子どもの将来への期待度

困窮度別に子どもの将来への期待度を見ると、子どもの将来に期待していると回答した割合は、困窮度Ⅲ群が88.2%（「とても期待している」19.6%、「期待している」68.6%）で、最も高くなっている。

困窮度別に見た、希望する進学先（子ども票問 24）

<大阪府内全体>



<交野市>

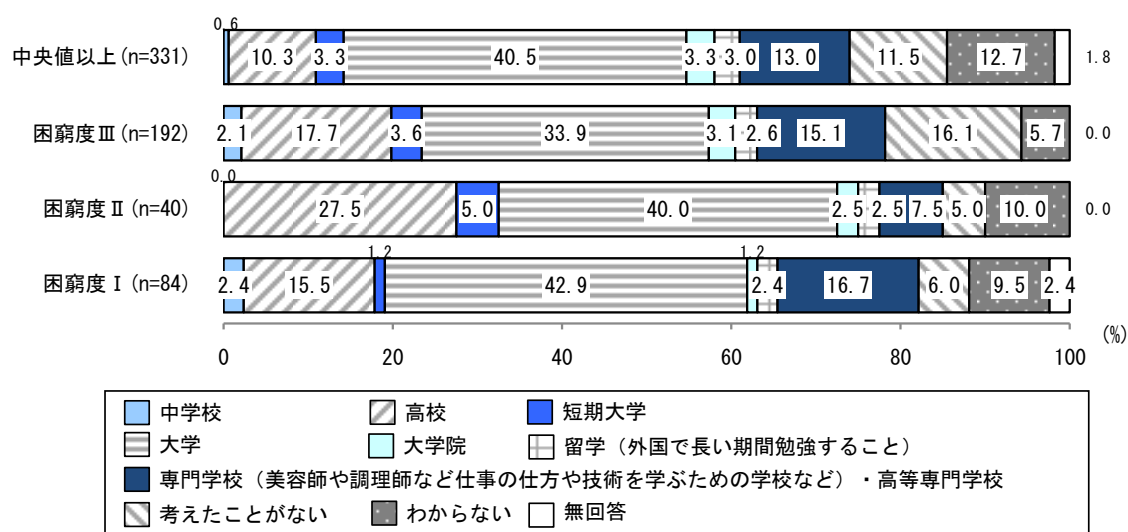
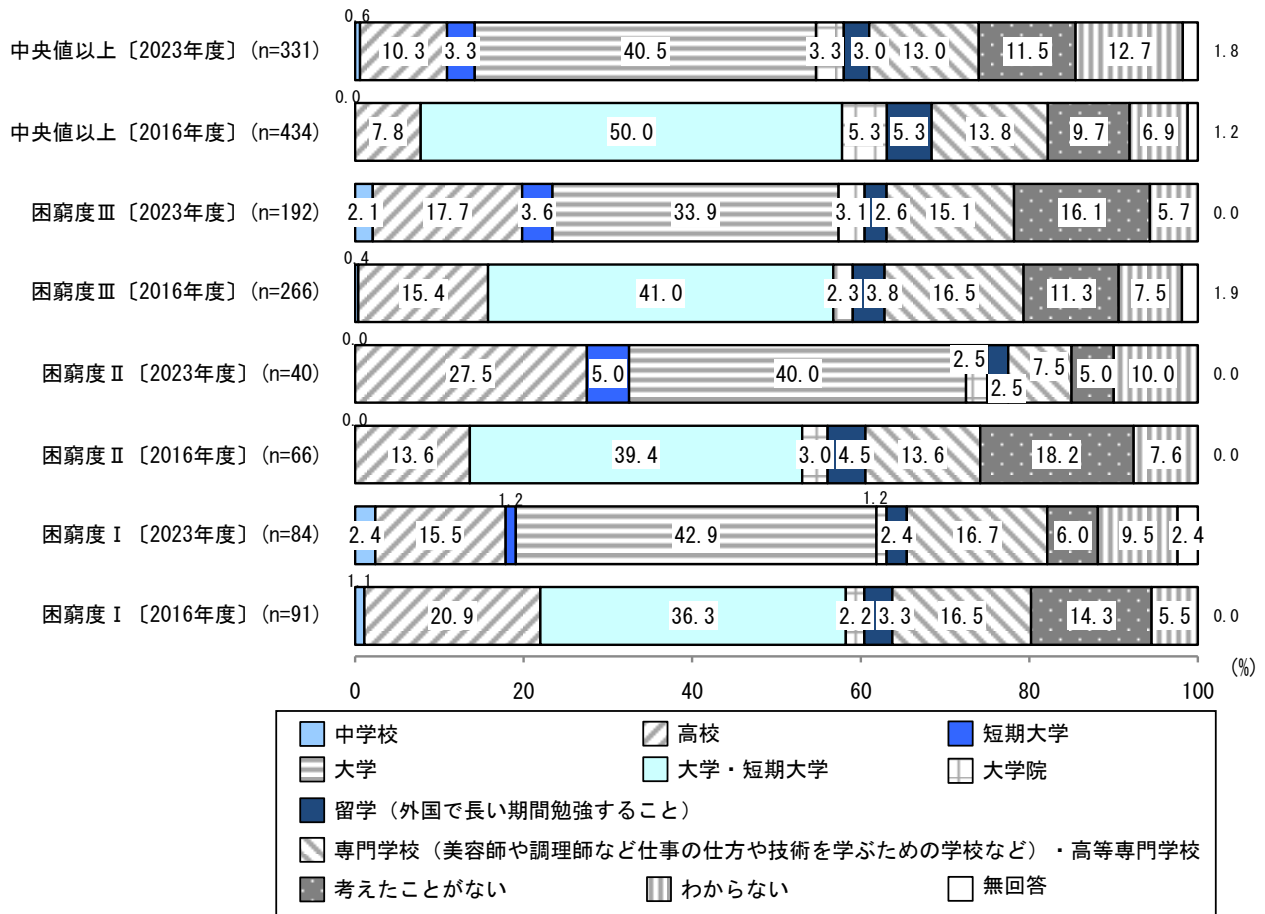


図 120. 困窮度別に見た、希望する進学先

困窮度別に子どもの希望する進学先を見ると「高校」と回答した割合は、中央値以上群が10.3%で最も低く、困窮度Ⅱ群が27.5%で最も高くなっている。

<2016 年度調査との比較／交野市>



※1 「短期大学」「大学」は、2016 年度調査では「大学・短期大学」

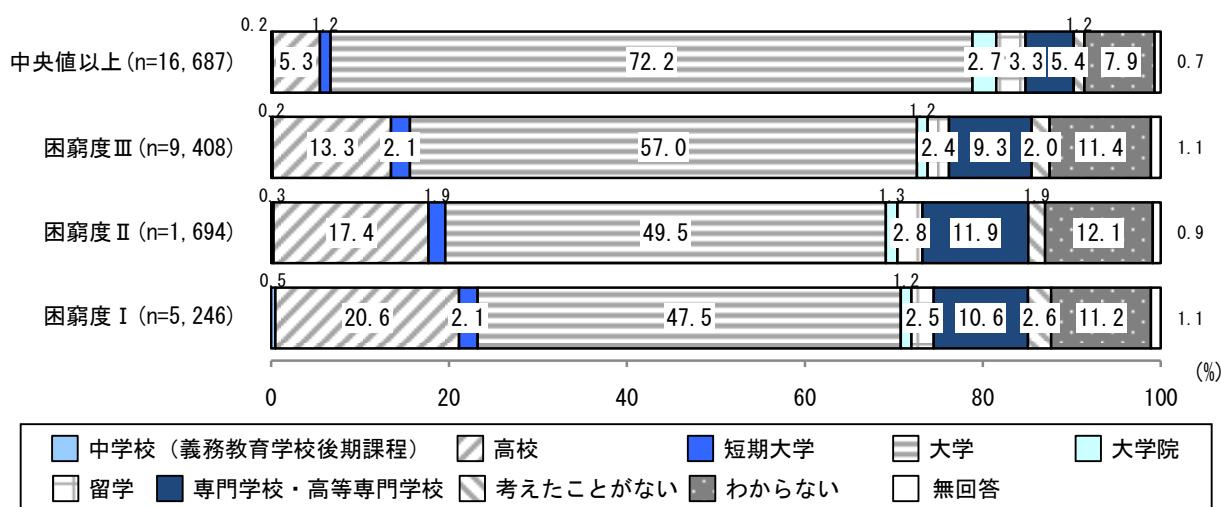
※2 「専門学校（美容師や調理師など仕事の仕方や技術を学ぶための学校など）・高等専門学校」は、2016 年度調査では「専門学校」

図 121. 困窮度別に見た、希望する進学先（2016年度調査との比較）

2016年度調査と比較すると、困窮度Ⅱ群以外の困窮度では、「中学校」と回答した割合は、2016年度調査に比べて高くなっている。

困窮度別に見た、子どもに希望する進学（保護者票問 14）

<大阪府内全体>



<交野市>

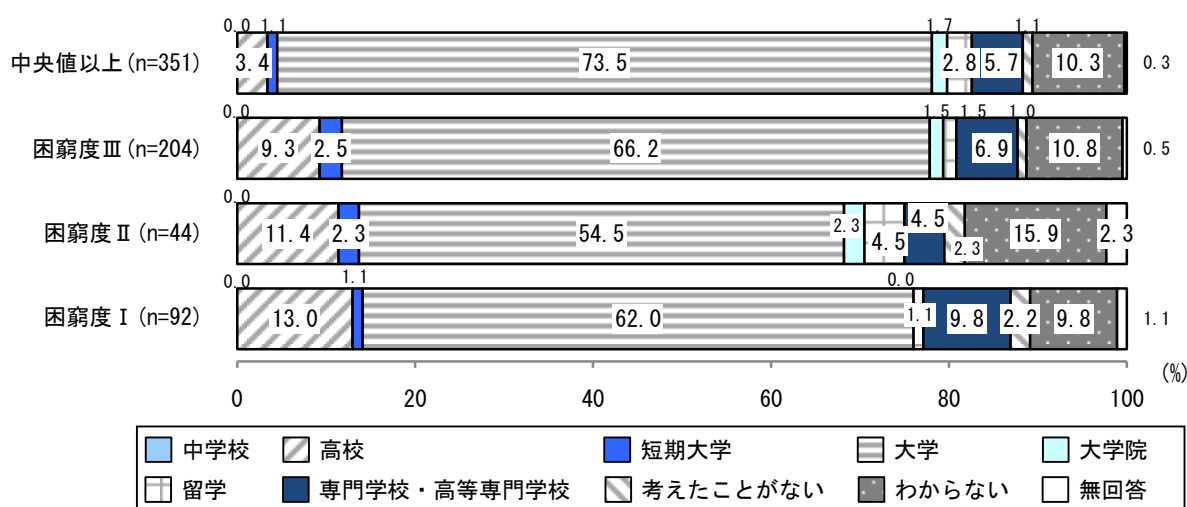
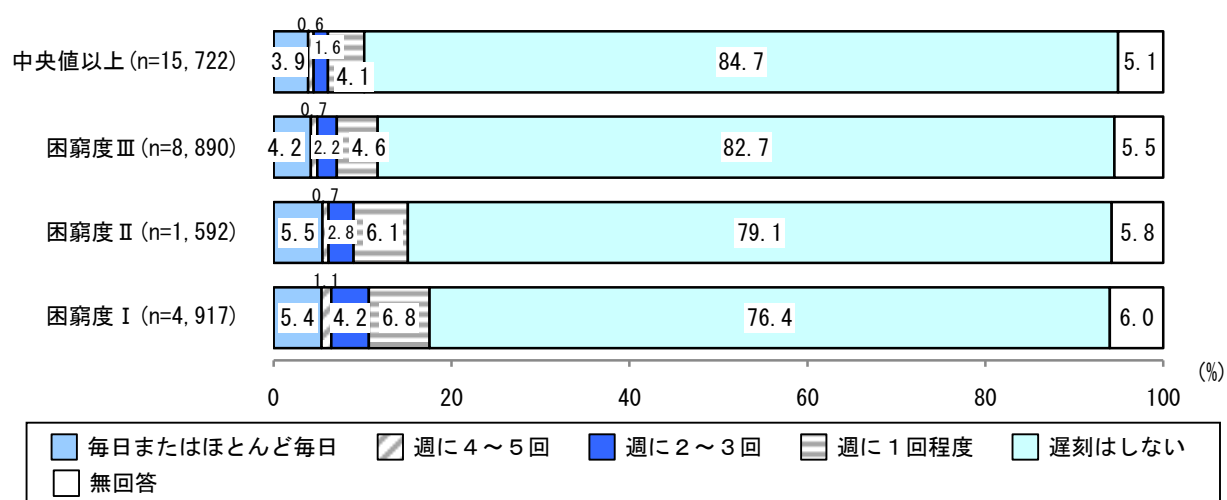


図 122. 困窮度別に見た、子どもに希望する進学

困窮度別に子どもの希望する進学を見ると、困窮度が高くなるにつれ、「高校」と回答した割合は高くなっている。

困窮度別に見た、学校への遅刻（子ども票問7）

<大阪府内全体>



<交野市>

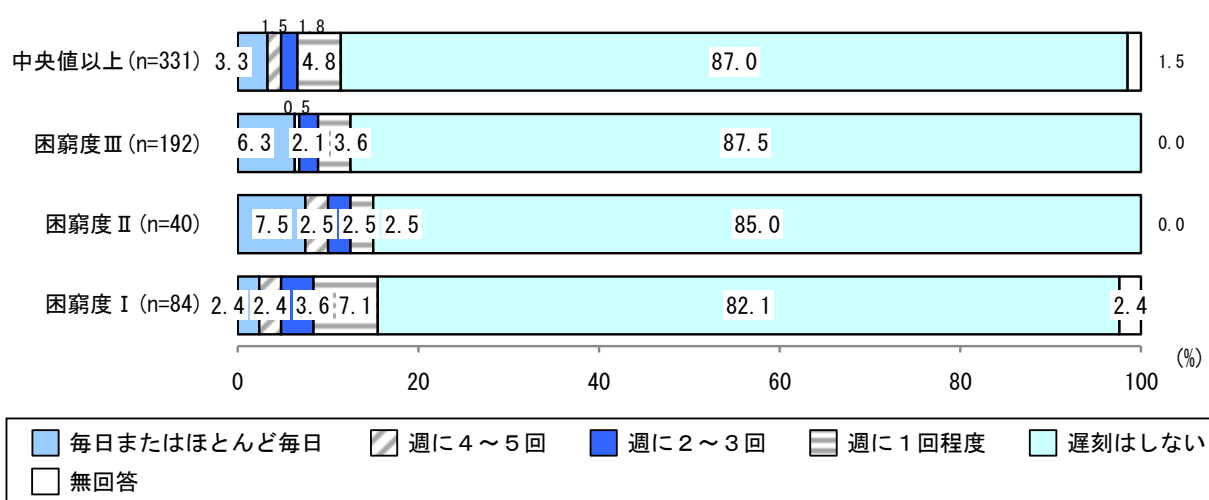
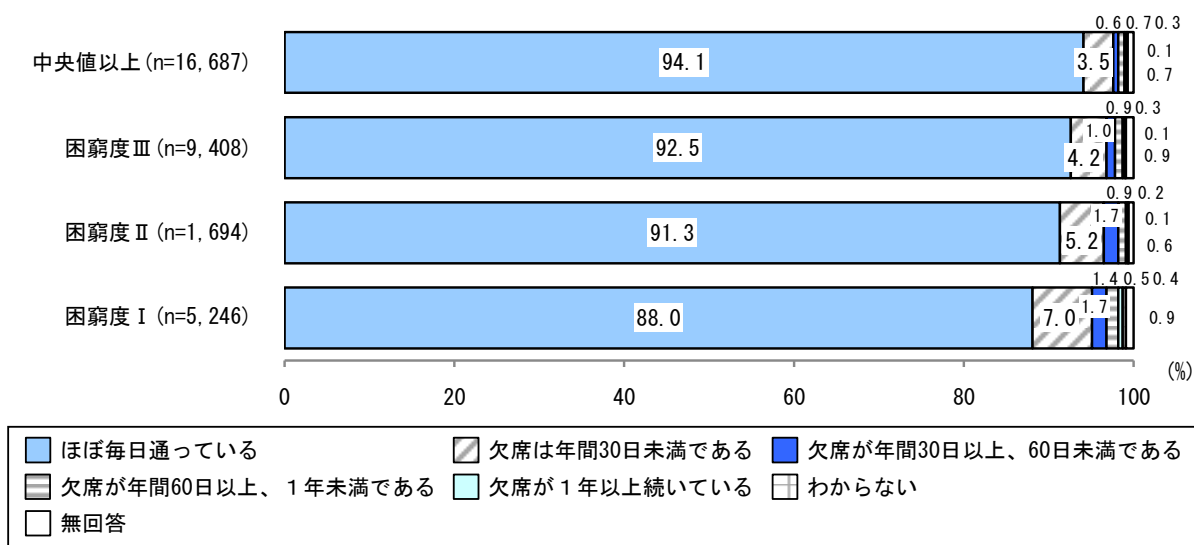


図 123. 困窮度別に見た、学校への遅刻

困窮度別に学校への遅刻を見ると、「遅刻はしない」と回答した割合は、困窮度Ⅲ群が87.5%で最も高く、次いで中央値以上群が87.0%となっている。

困窮度別に見た、子どもの通学状況（保護者票問 15）

<大阪府内全体>



<交野市>

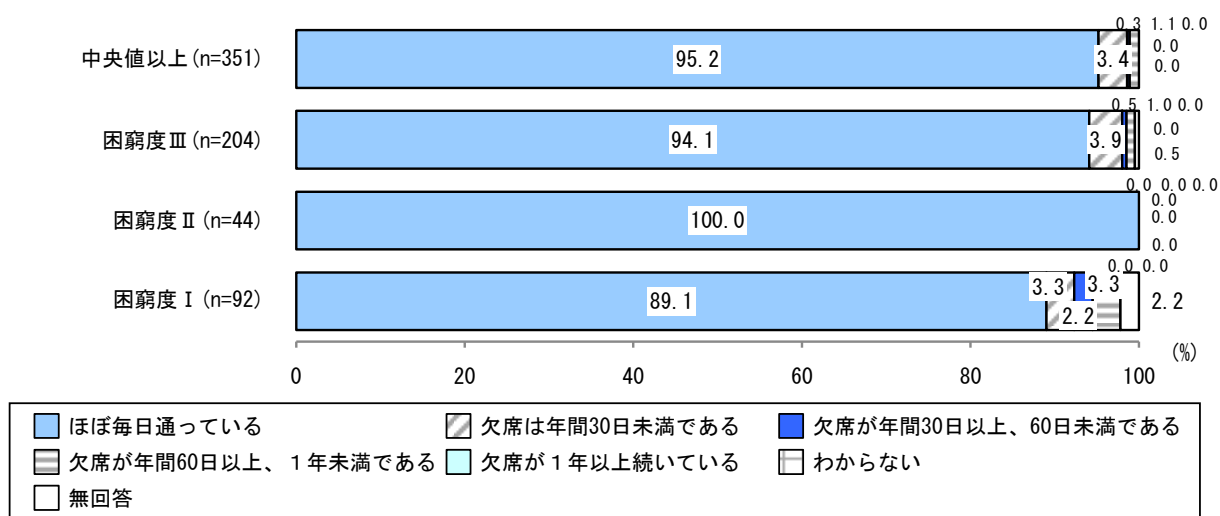
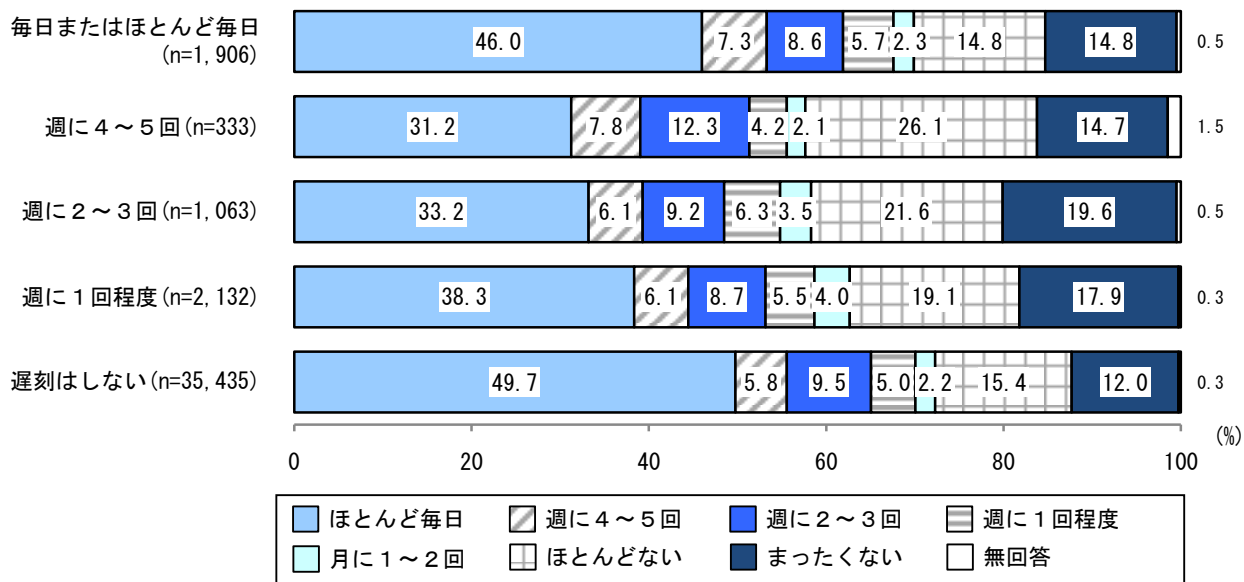


図 124. 困窮度別に見た、子どもの通学状況

困窮度別に子どもの通学状況を見ると、「ほぼ毎日通っている」と回答した割合は、困窮度Ⅰ群が89.1%で、最も低くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に朝食を食べているか
(子ども票問7×保護者票問8①)

<大阪府内全体>



<交野市>

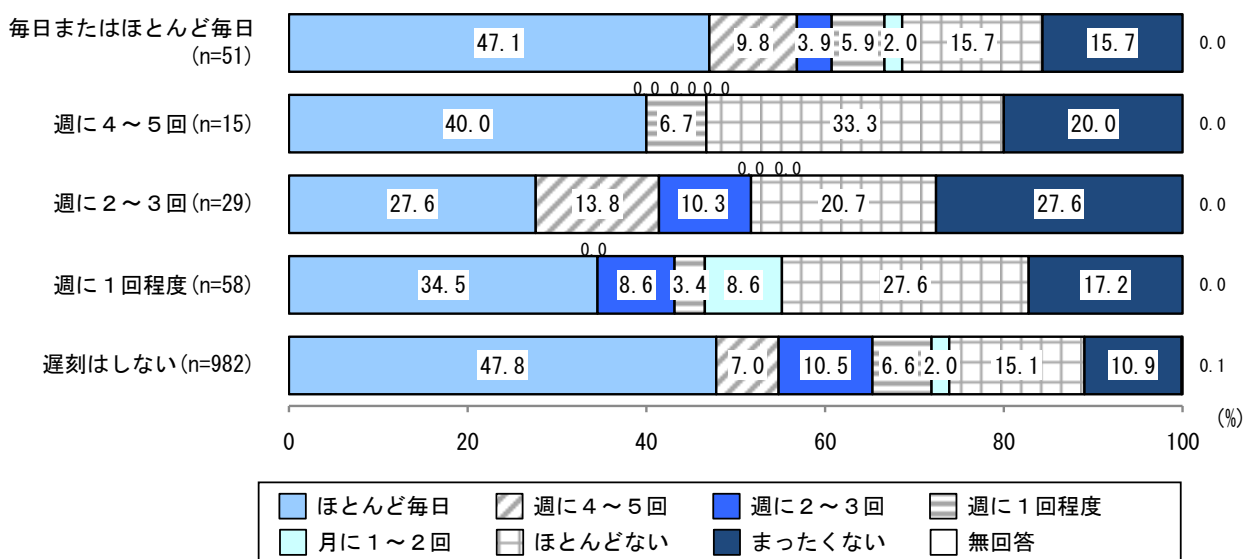
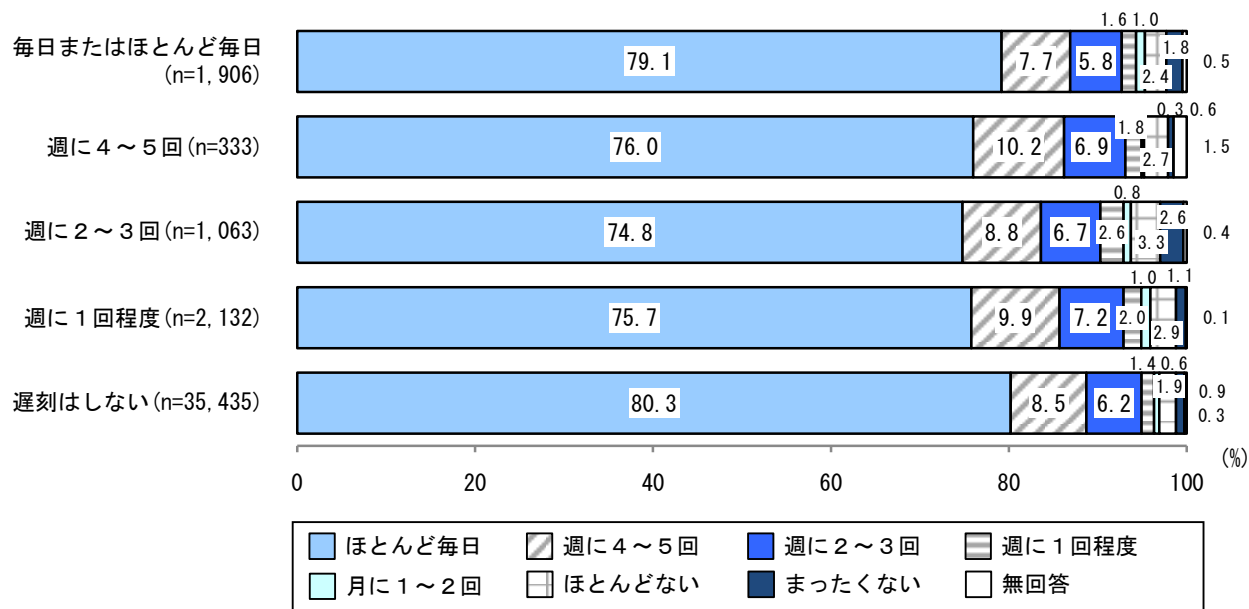


図 125. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に朝食を食べているか

学校への遅刻別におうちの大人の人と一緒に朝食を食べているかを見ると、「ほとんど毎日」と回答した割合は、遅刻はしない子どもが47.8%で最も高くなっている。また、週に2～3回遅刻をする子どもは「ほとんど毎日」の割合が27.6%で最も低く、「まったくない」の割合は27.6%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に夕食を食べているか
(子ども票問7×保護者票問8②)

<大阪府内全体>



<交野市>

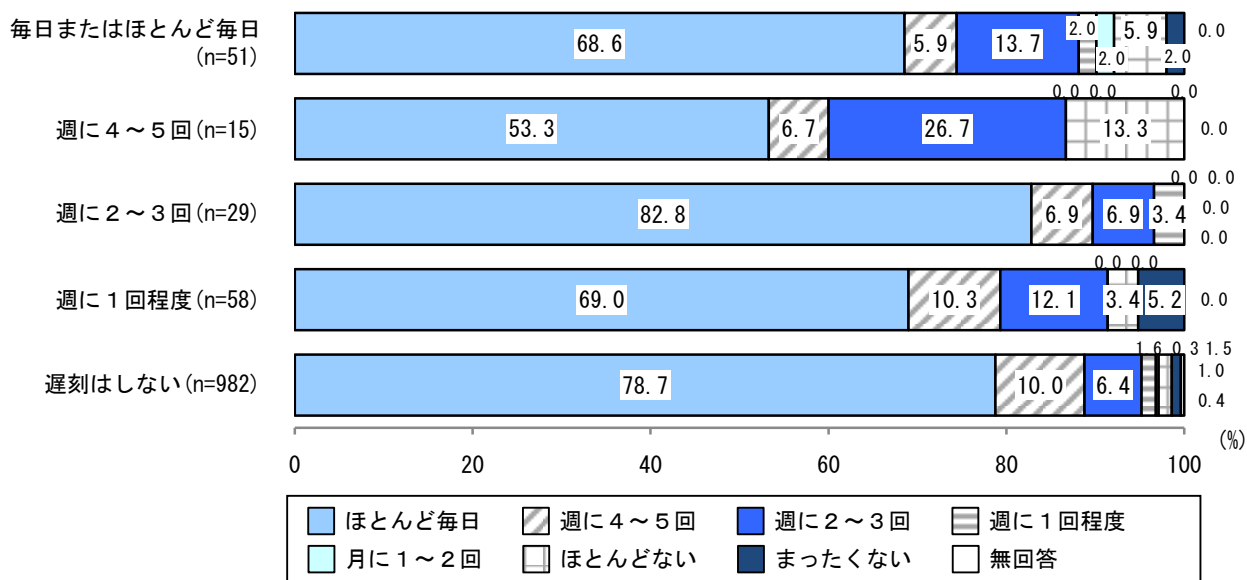
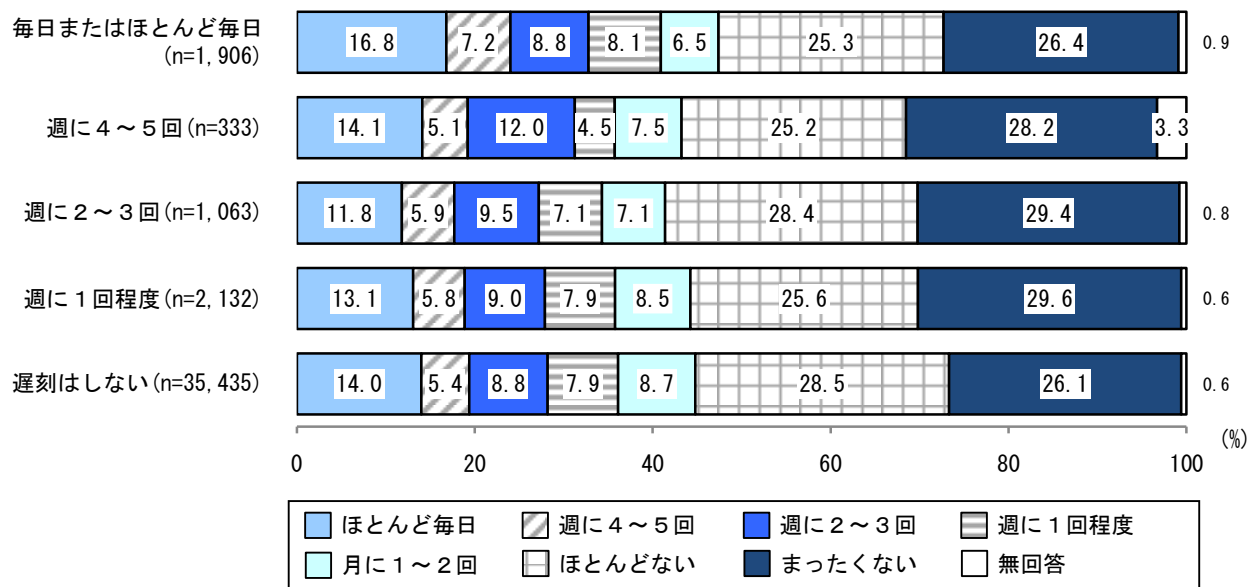


図 126. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に夕食を食べているか

学校への遅刻別におうちの大人の人と一緒に夕食を食べているかを見ると、「ほとんど毎日」と回答した割合は、週に4～5回遅刻をする子どもが53.3%で最も低くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか
（子ども票問7×保護者票問8⑤）

<大阪府内全体>



<交野市>

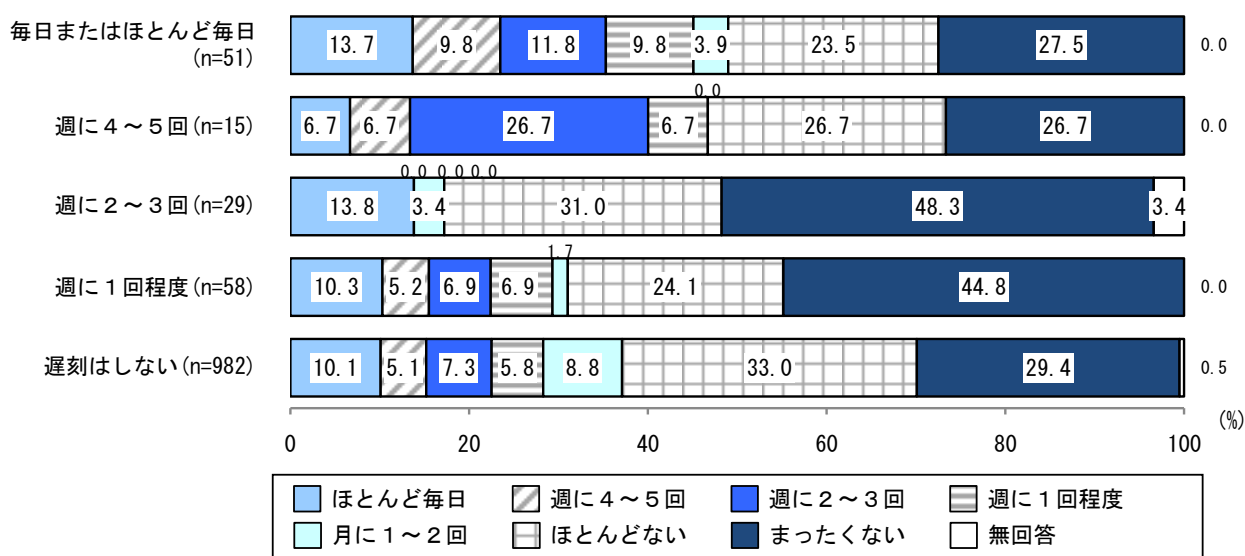
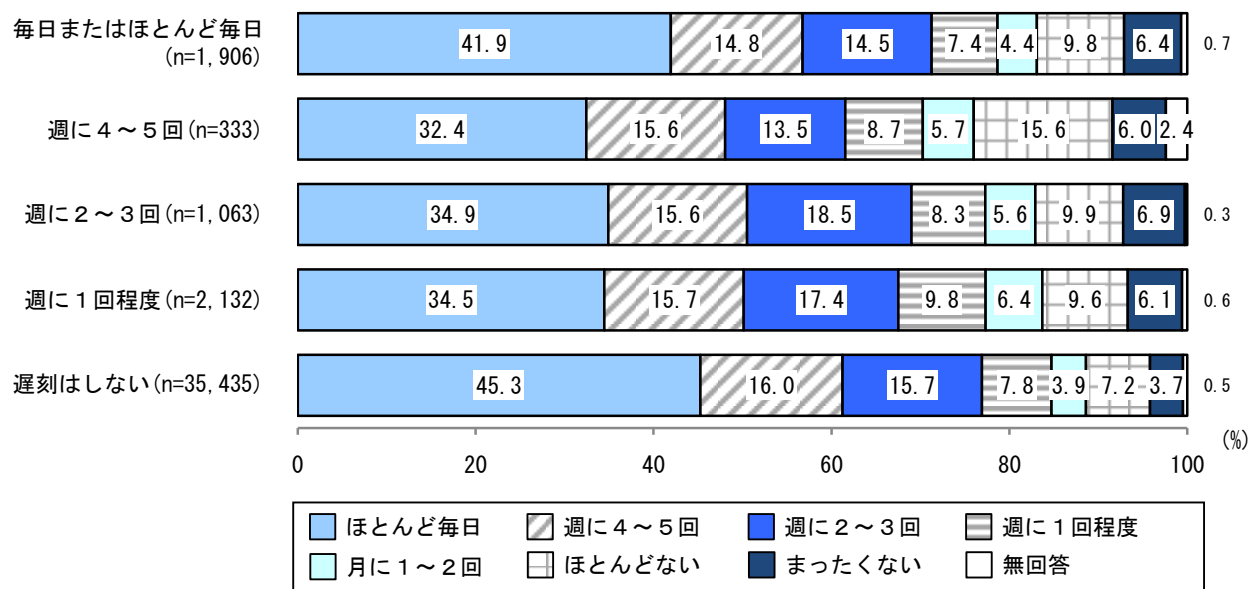


図 127. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか

学校への遅刻別におうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうかを見ると、「まったくない」と回答した割合は、週に2～3回遅刻をする子どもが48.3%で最も高く、一方で「ほとんど毎日」の割合も13.8%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すか
(子ども票問7×保護者票問8⑥)

<大阪府内全体>



<交野市>

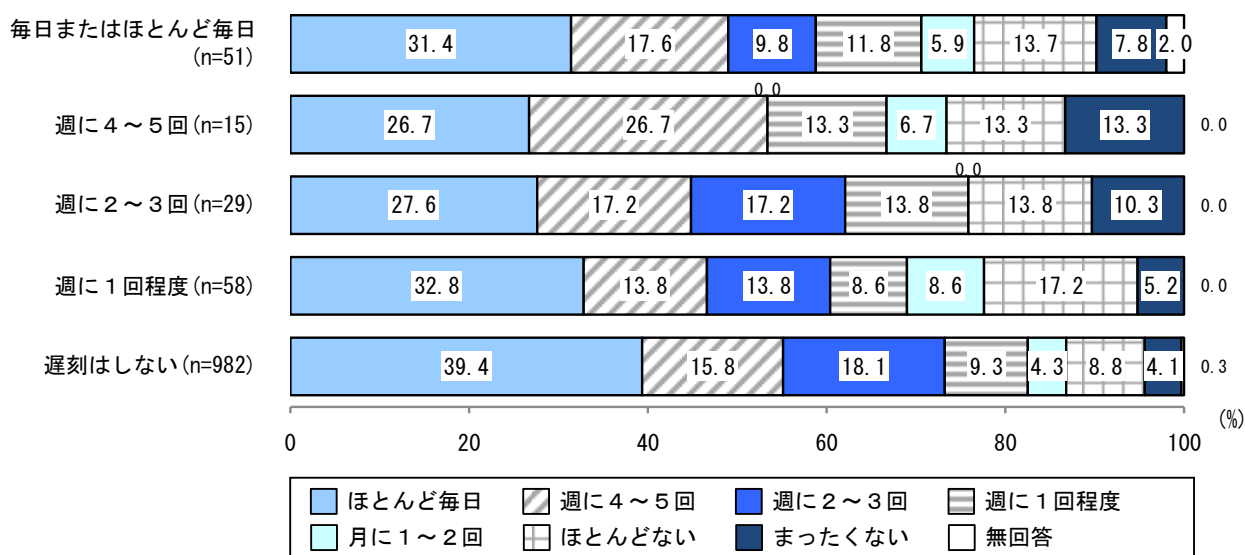
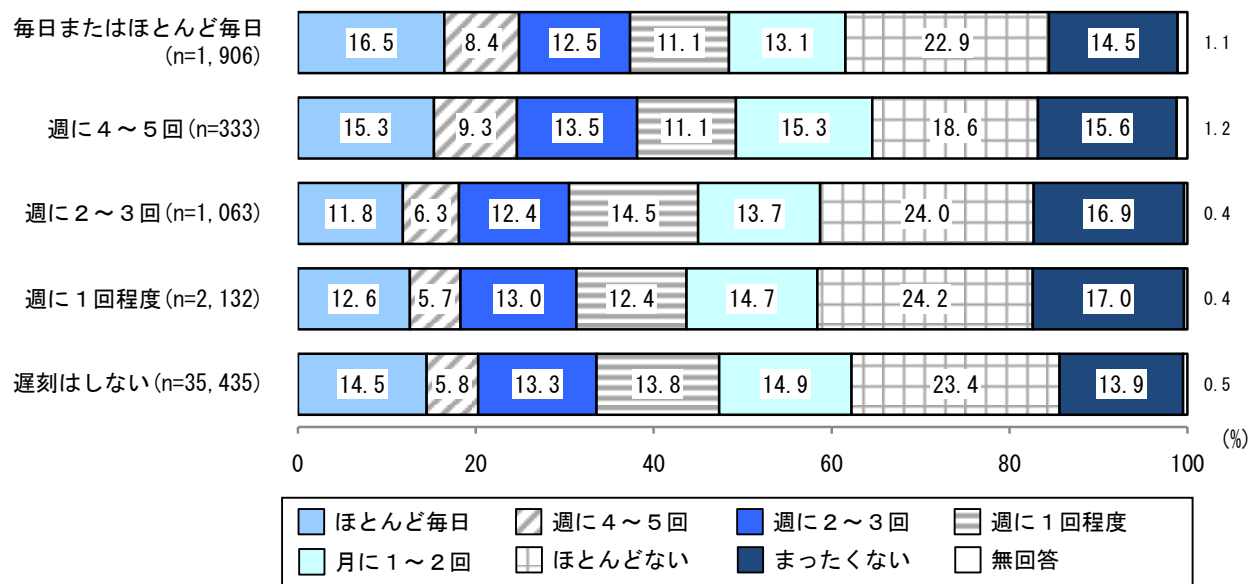


図 128. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すか

学校への遅刻別におうちの大人の人と学校でのできごとについて話すかを見ると、「ほとんど毎日」と回答した割合は、遅刻はしない子どもが39.4%で最も高く、週に4～5回遅刻をする子どもが26.7%で最も低くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするか
(子ども票問7×保護者票問8⑦)

<大阪府内全体>



<交野市>

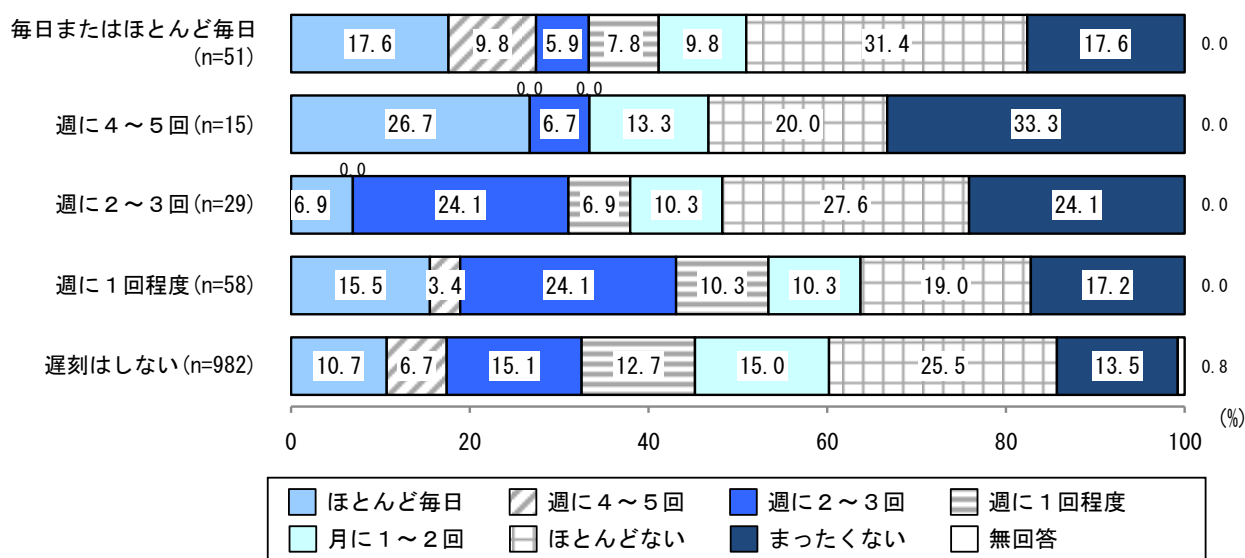
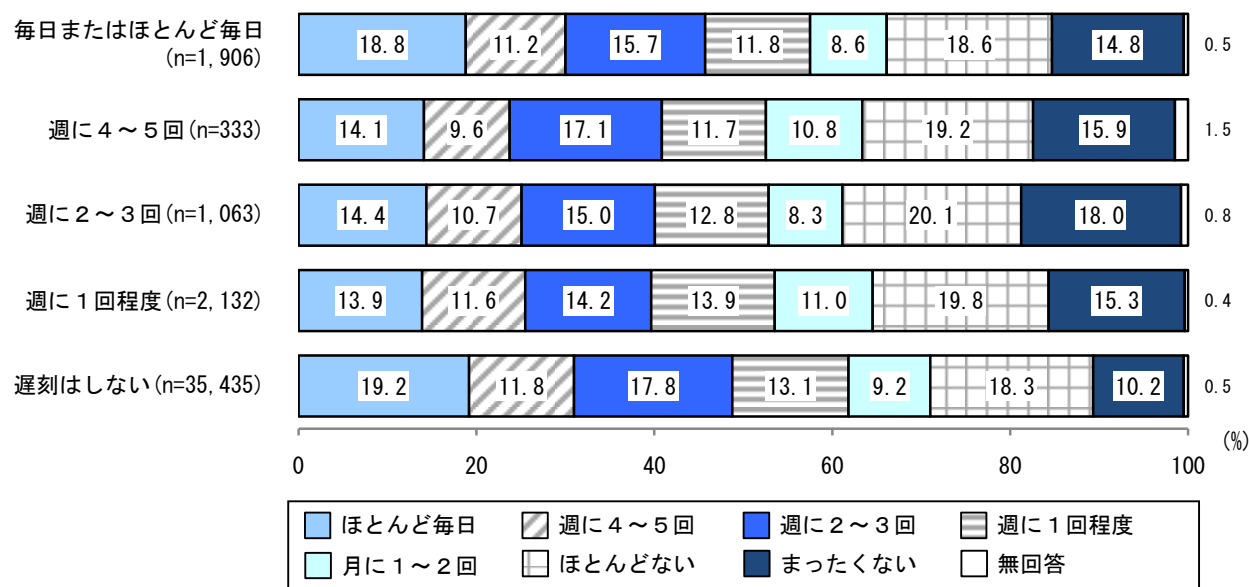


図 129. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするか

学校への遅刻別におうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするかを見ると、毎日またはほとんど毎日遅刻をする子どもを除くと、遅刻の頻度が低くなるにつれ「まったくない」の回答の割合は低くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すか
(子ども票問7×保護者票問8⑧)

<大阪府内全体>



<交野市>

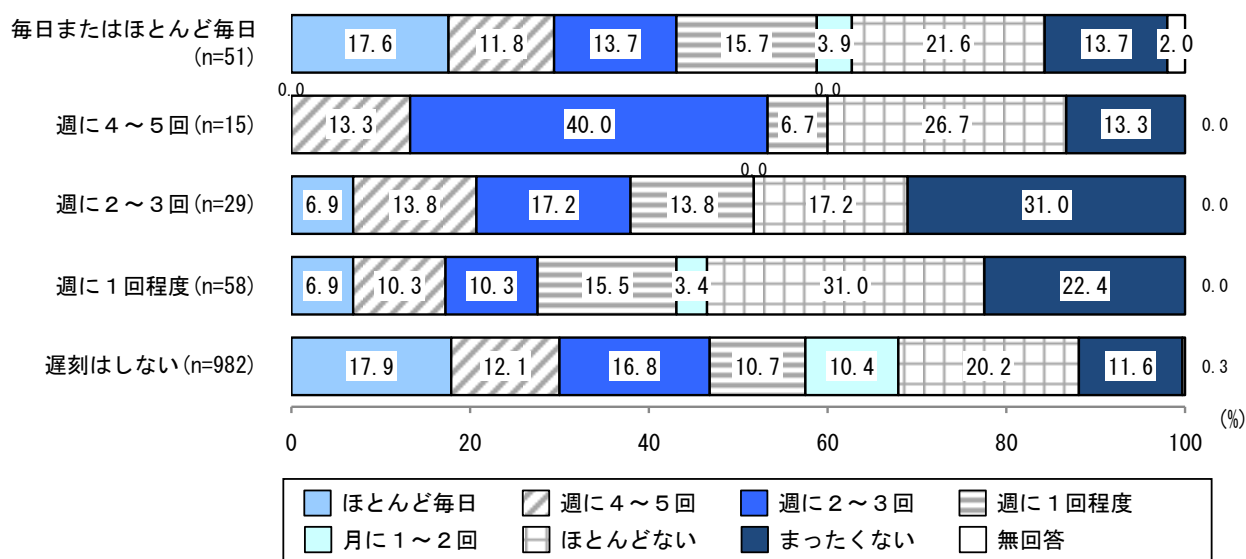
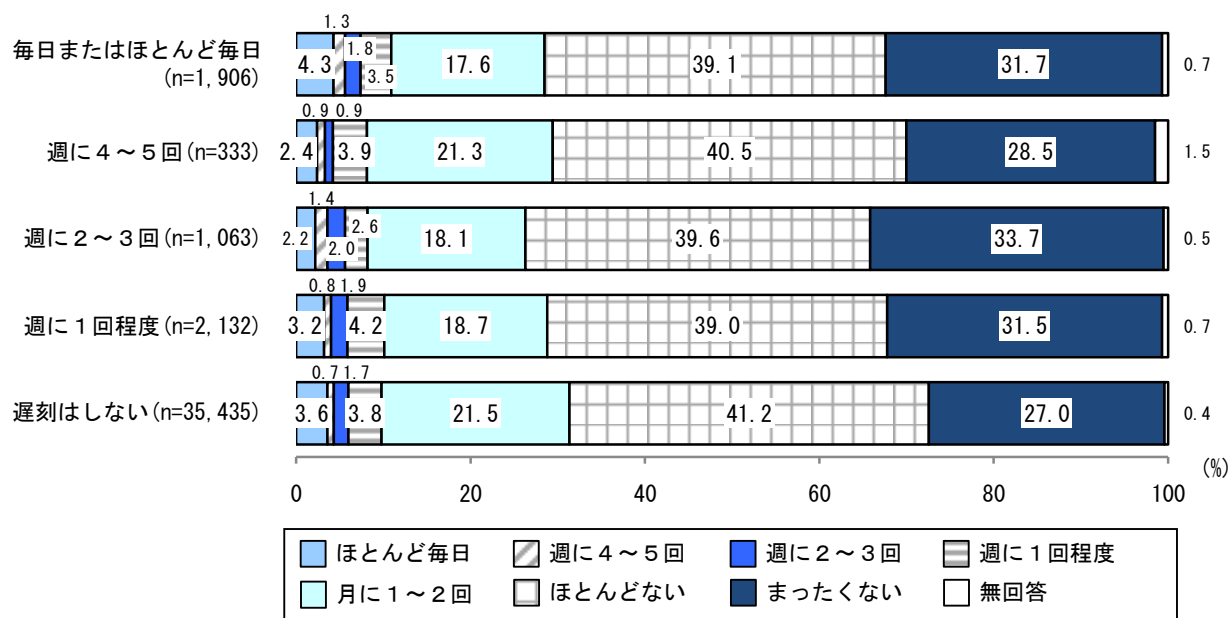


図 130. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すか

学校への遅刻別におうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すかを見ると、「まったくない」と回答した割合は、遅刻はしない子どもが11.6%で最も低く、週に2～3回遅刻をする子どもが31.0%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と文化活動をするか
(子ども票問7×保護者票問8⑨)

<大阪府内全体>



<交野市>

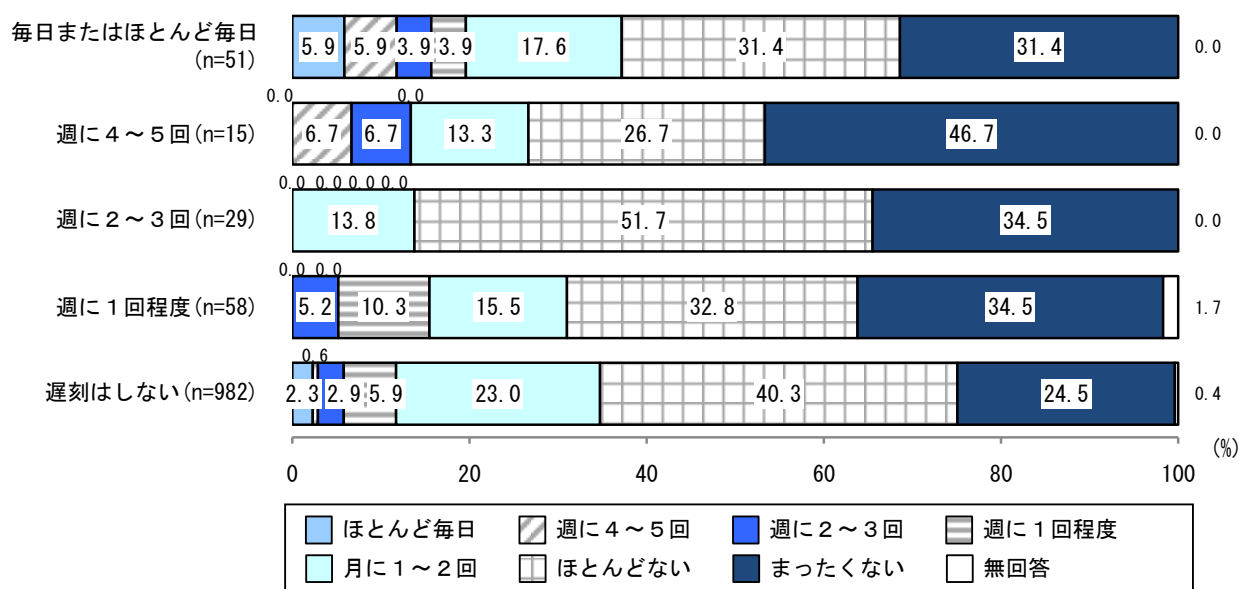
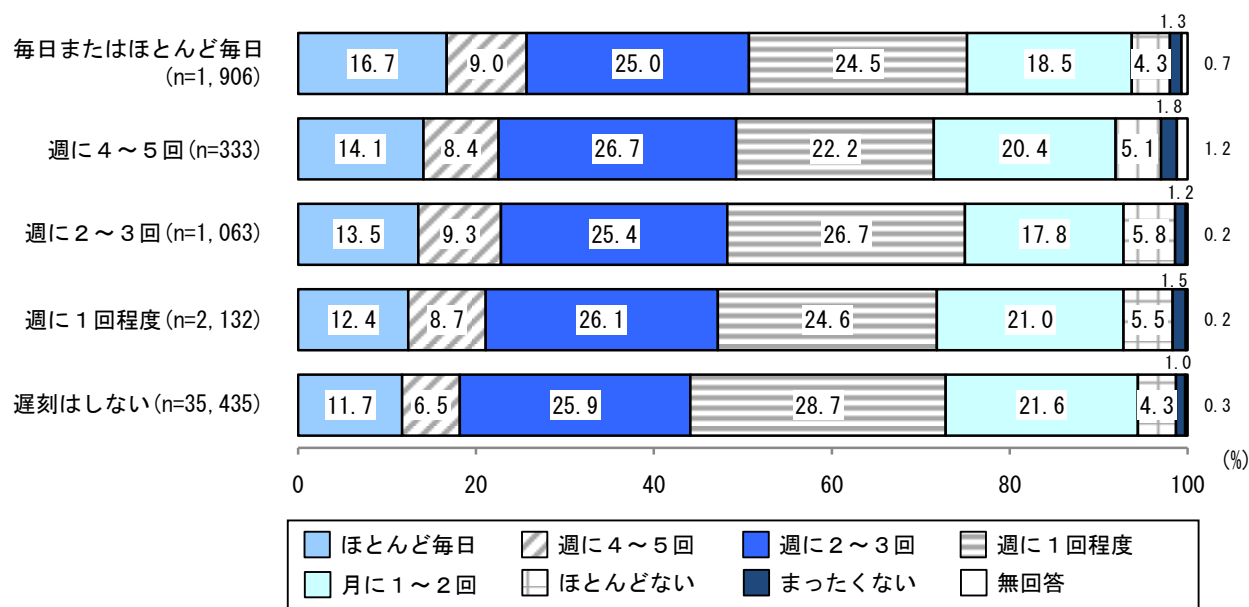


図 131. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と文化活動をするか

学校への遅刻別におうちの大人の人と文化活動をするかを見ると、「まったくない」と回答した割合は、遅刻はしない子どもが24.5%で最も低く、週に4～5回遅刻をする子どもが46.7%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に外出するか
(子ども票問7×保護者票問8⑩)

<大阪府内全体>



<交野市>

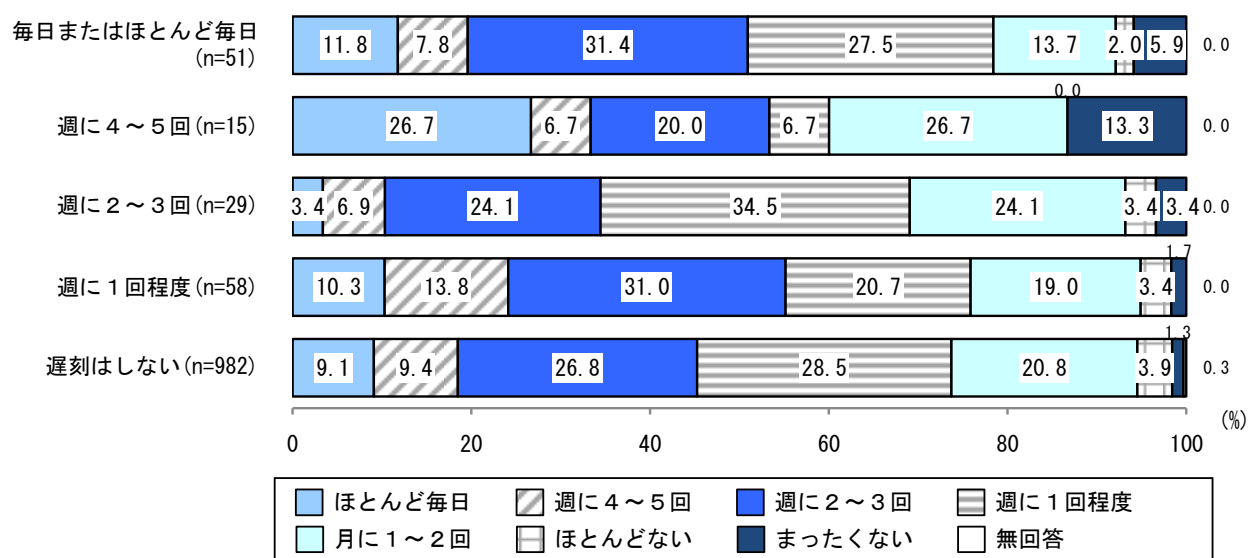
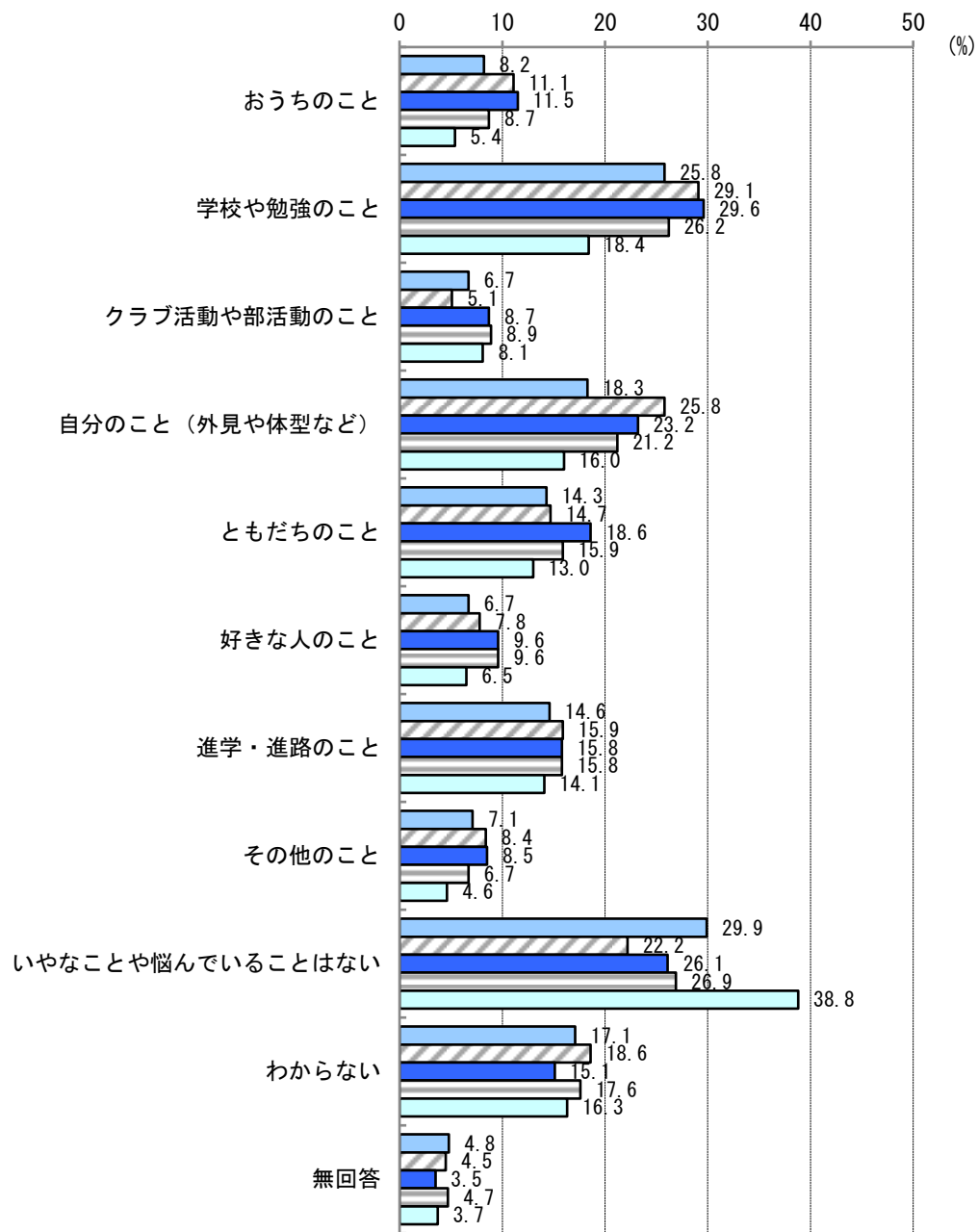


図 132. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に外出するか

学校への遅刻別におうちの大人の人と一緒に外出するかを見ると、「まったくない」と回答した割合は、遅刻はしない子どもが1.3%で最も低く、週に4～5回遅刻をする子どもが13.3%で最も高くなっている。また、一方で週に4～5回遅刻をする子どもは「ほとんど毎日」も26.7%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、嫌なことや悩んでいること（子ども票問7×子ども票問17）

<大阪府内全体>



■ 毎日またはほとんど毎日 (n=1,906)
 ■ 週に4～5回 (n=333)
 ■ 週に2～3回 (n=1,063)
■ 週に1回程度 (n=2,132)
 ■ 遅刻はしない (n=35,435)

<交野市>

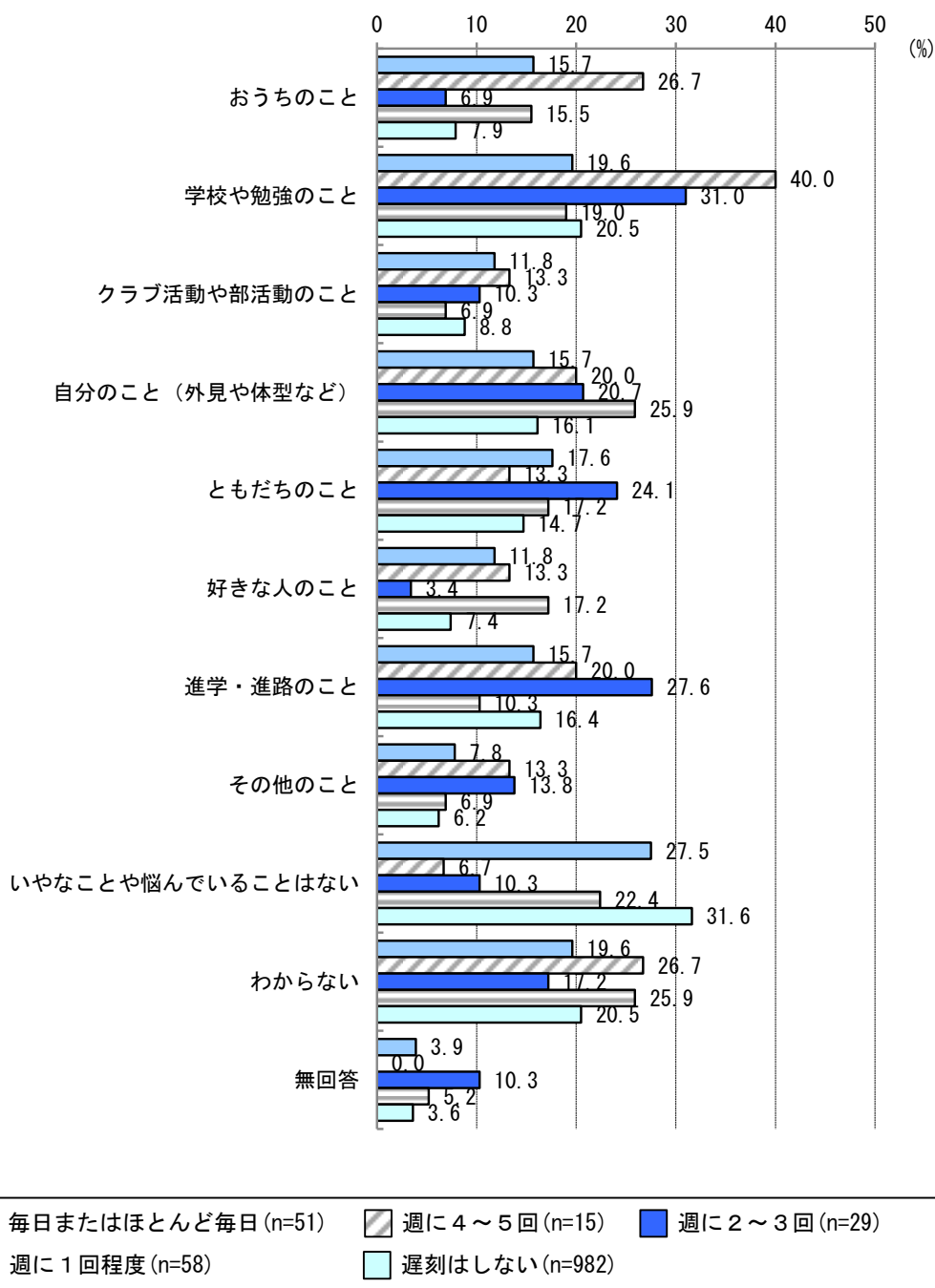
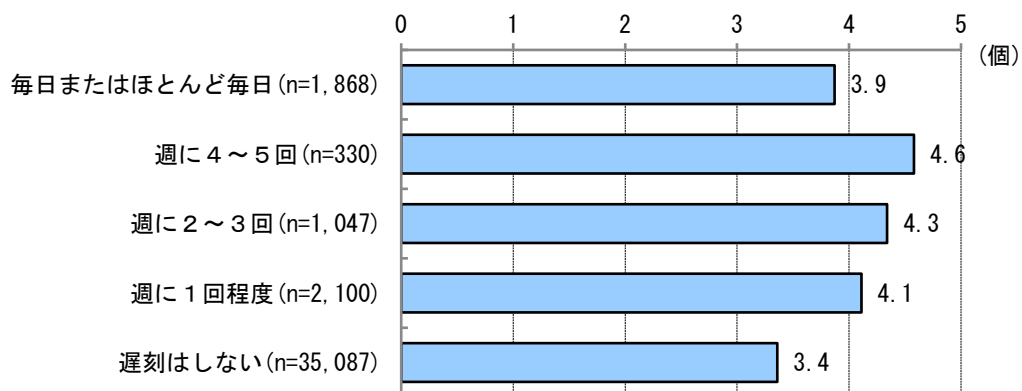


図 133. 学校への遅刻別に見た、嫌なことや悩んでいること

学校への遅刻別に見た嫌なことや悩んでいることを見ると、「学校や勉強のこと」と回答した割合は、週に4～5回遅刻をする子どもが40.0%で最も高くなっている。また、「いやなことや悩んでいることはない」の割合は、遅刻はしない子どもが31.6%で最も高く、週に4～5回遅刻をする子どもが6.7%で最も低くなっている。

学校への遅刻別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数
(子ども票問7×子ども票問19・20)

<大阪府内全体>



<交野市>

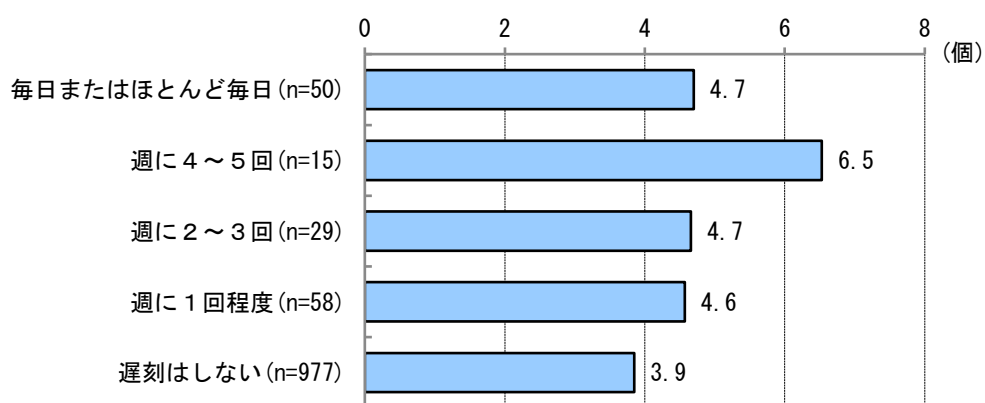
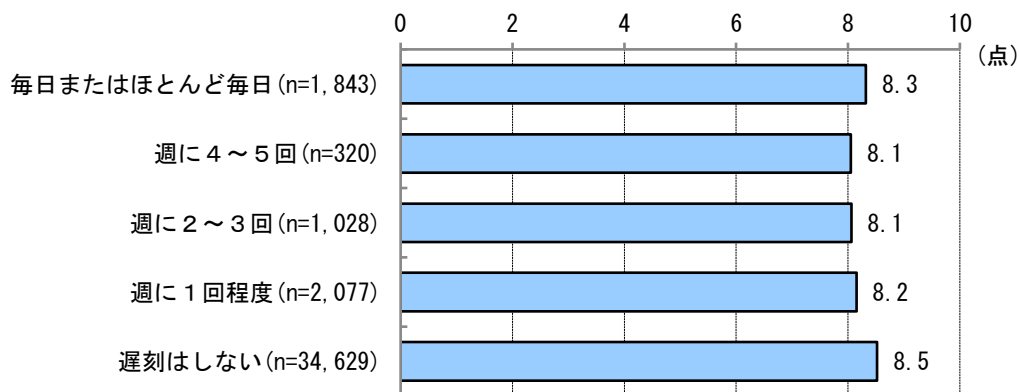


図 134. 学校への遅刻別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数

学校への遅刻別に自分の体や気持ちで気になることの該当個数を見ると、遅刻はしない子どもが3.9個で最も少なくなっている。

学校への遅刻別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）
（子ども票問7×子ども票問23）

<大阪府内全体>



<交野市>

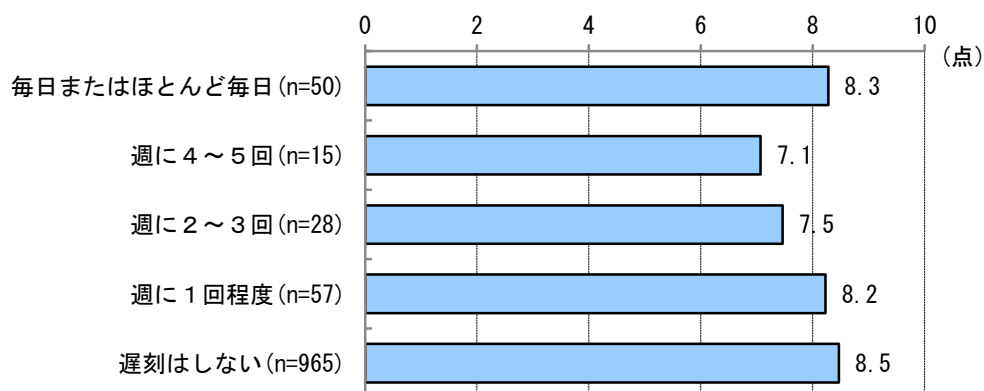
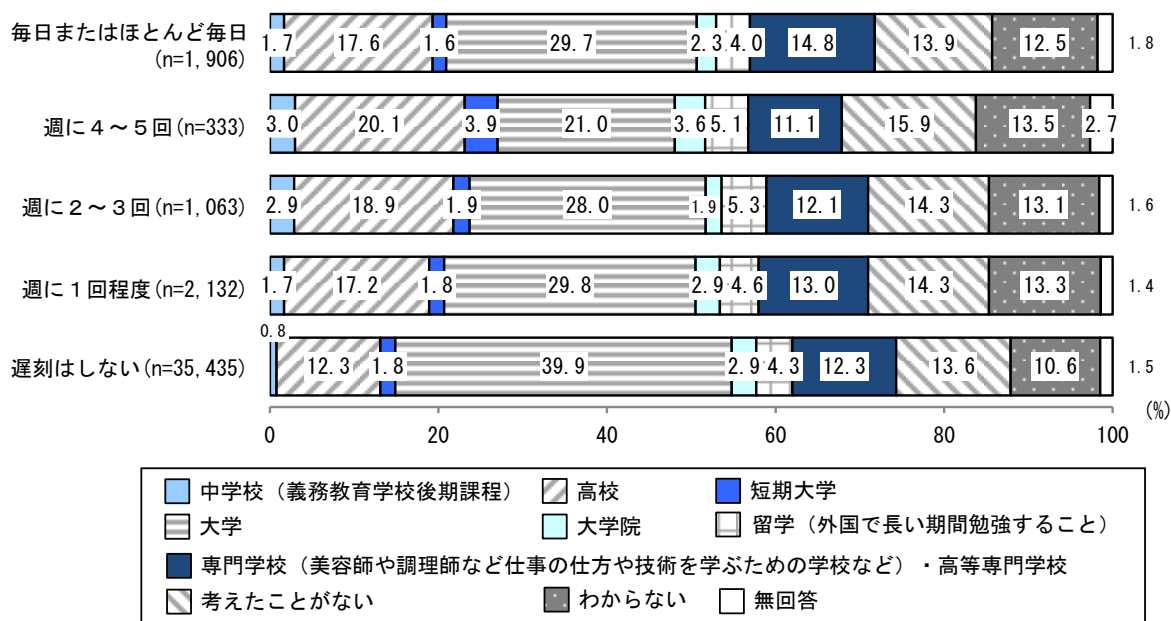


図 135. 学校への遅刻別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

学校への遅刻別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の得点を見ると、週に1回以上遅刻している子どもは、遅刻はしない子どもよりも自己効力感（セルフ・エフィカシー）が低くなっている。

学校への遅刻別に見た、希望する進学先（子ども票問7×子ども票問24）

<大阪府内全体>



<交野市>

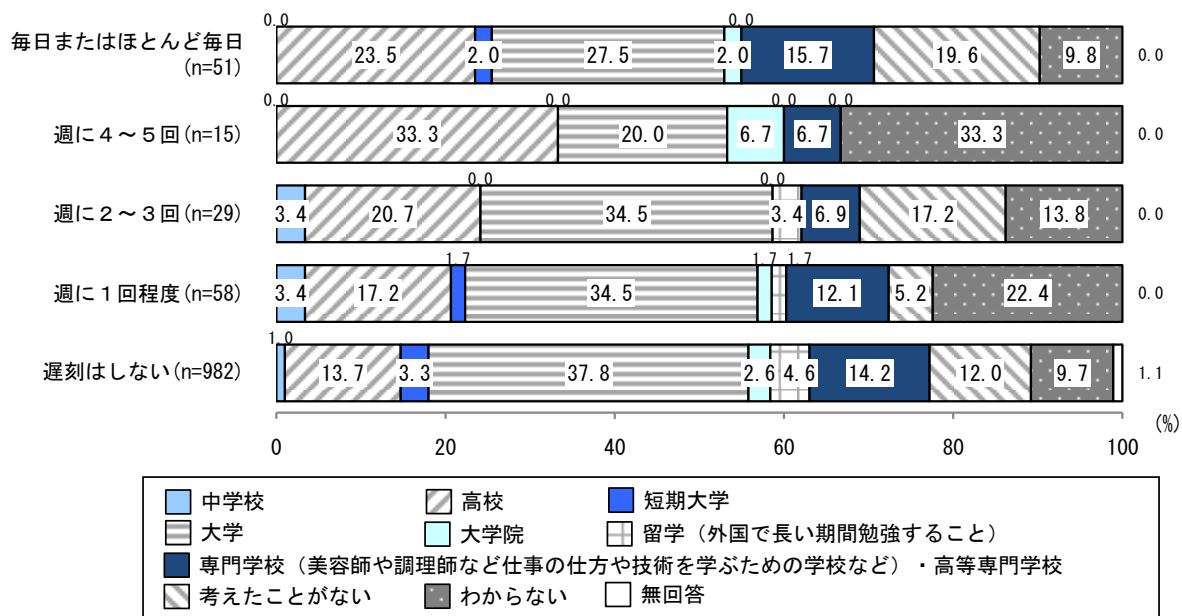
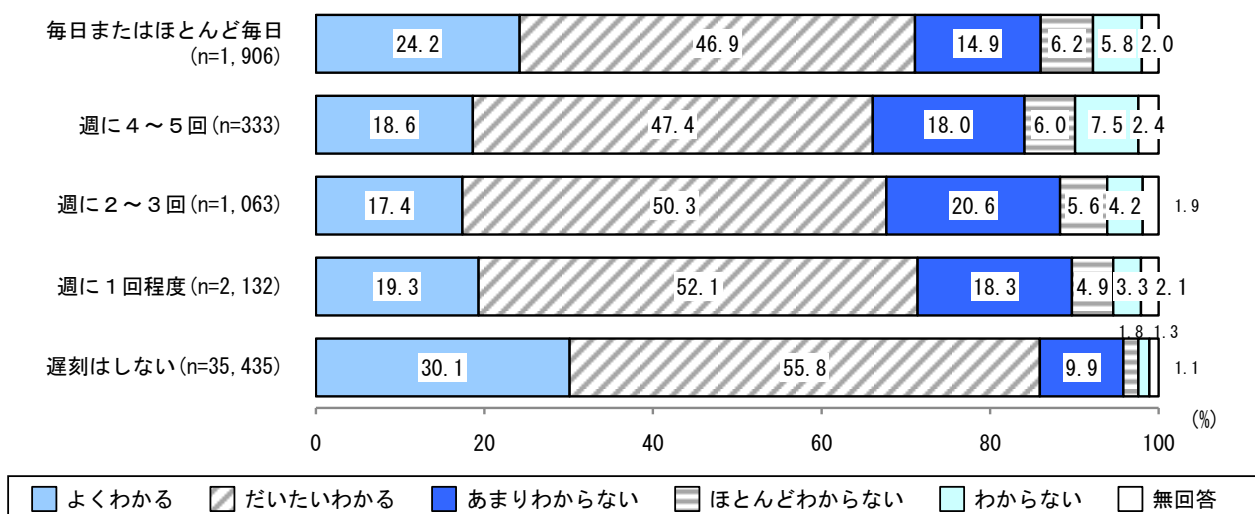


図 136. 学校への遅刻別に見た、希望する進学先

学校への遅刻別に希望する進学先を見ると、「大学」と回答した割合は、遅刻はしない子どもが37.8%で最も高く、週に4～5回遅刻をする子どもが20.0%で最も低くなっている。

学校への遅刻別に見た、学校の勉強で気持ちに近いもの（子ども票問7×子ども票問14(1)）

<大阪府内全体>



<交野市>

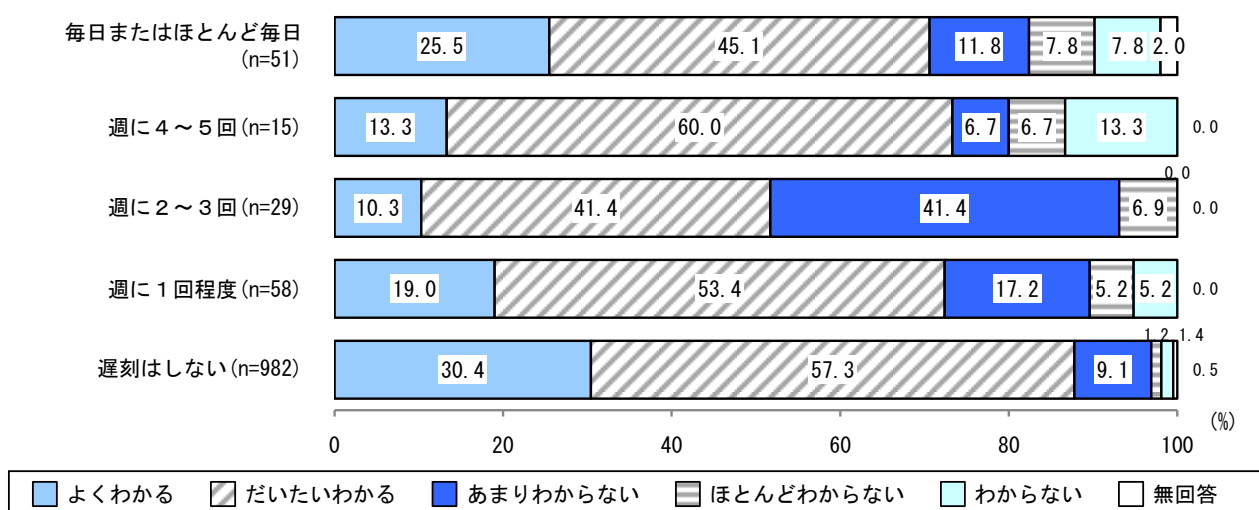
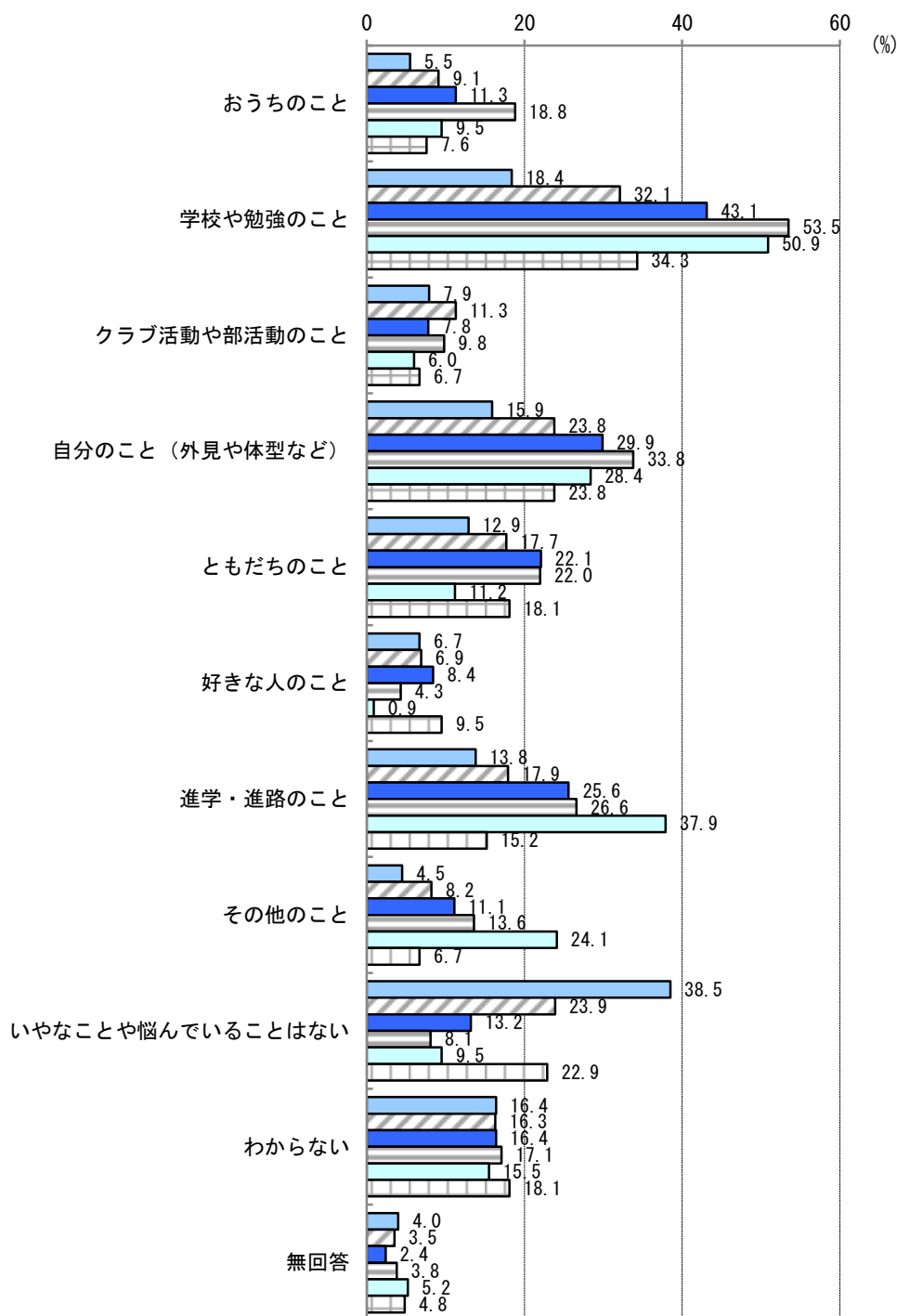


図 137. 学校への遅刻別に見た、学校の勉強で気持ちに近いもの

学校への遅刻別に学校の勉強で気持ちに近いものを見ると、学校の勉強がわかると回答した割合は遅刻はしない子どもが87.7%（「よくわかる」30.4%、「だいたいわかる」57.3%）で最も高く、週に2～3回遅刻をする子どもが51.7%（「よくわかる」10.3%、「だいたいわかる」41.4%）で最も低くなっている。

子どもの通学状況別に見た、嫌なことや悩んでいること（保護者票問 15×子ども票問 17）

<大阪府内全体>



■ ほぼ毎日通っている (n=37,661) ■ 欠席は年間30日未満である (n=1,775)
■ 欠席が年間30日以上、60日未満である (n=371) ■ 欠席が年間60日以上、1年未満である (n=346)
■ 欠席が1年以上続いている (n=116) ■ わからない (n=105)

<交野市>

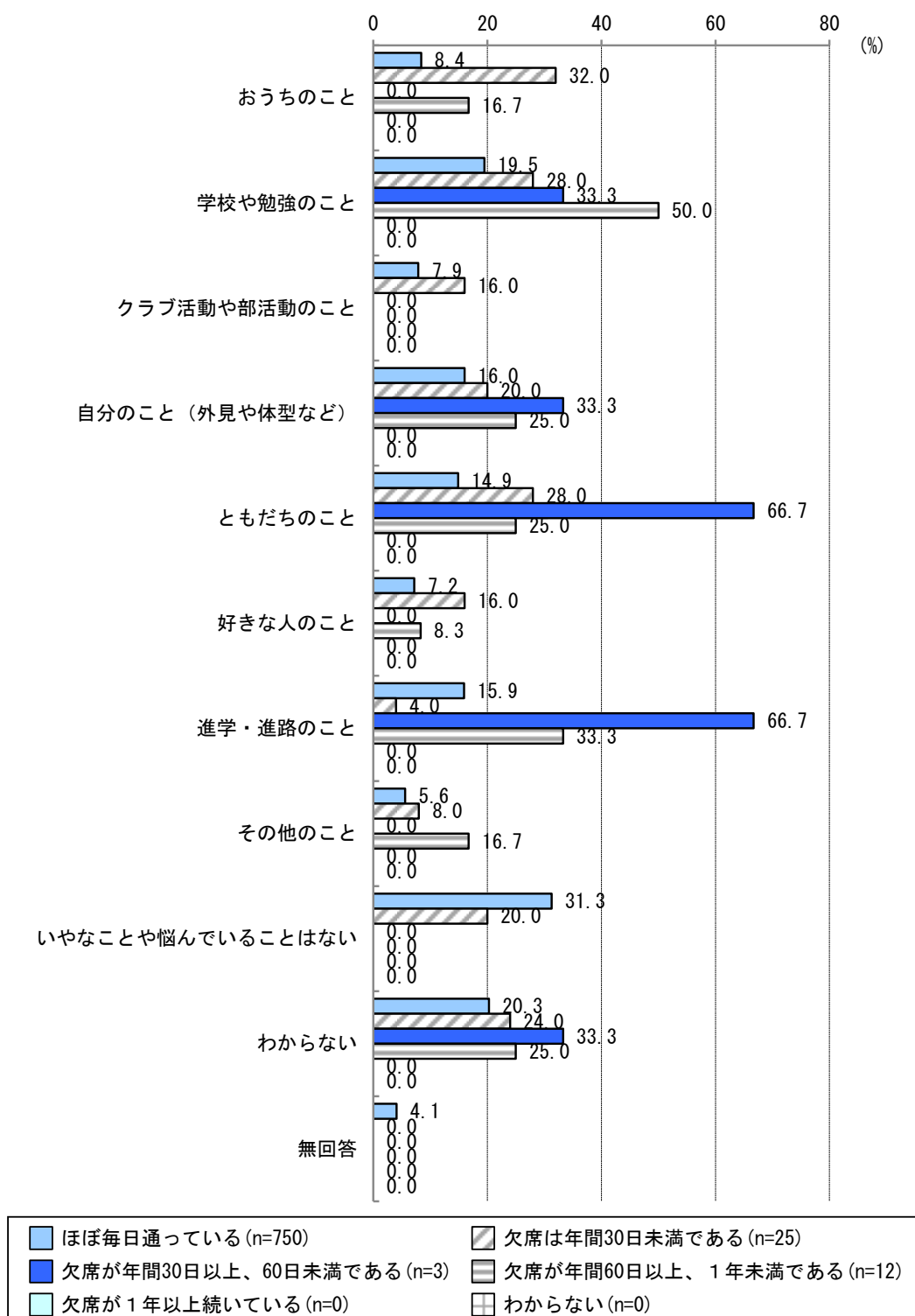
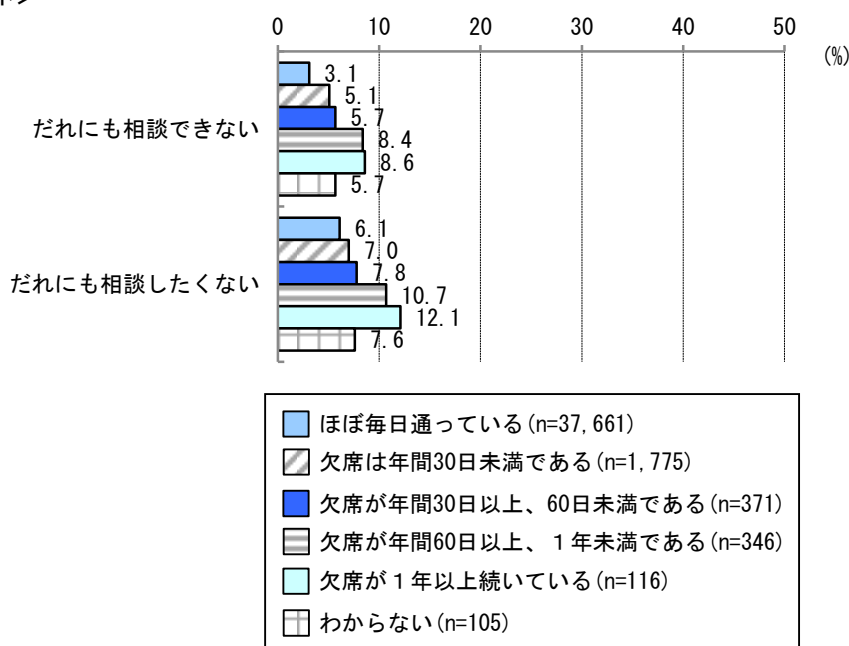


図 138. 子どもの通学状況別に見た、嫌なことや悩んでいること

子どもの通学状況別に嫌なことや悩んでいることを見ると、「学校や勉強のこと」の回答の割合は、子どもが欠席が多くなるほど高くなっている。

子どもの通学状況別に見た、悩んだ時の対処を教えてくれる人のいない割合
(保護者票問 15×子ども票問 18)

<大阪府内全体>



<交野市>

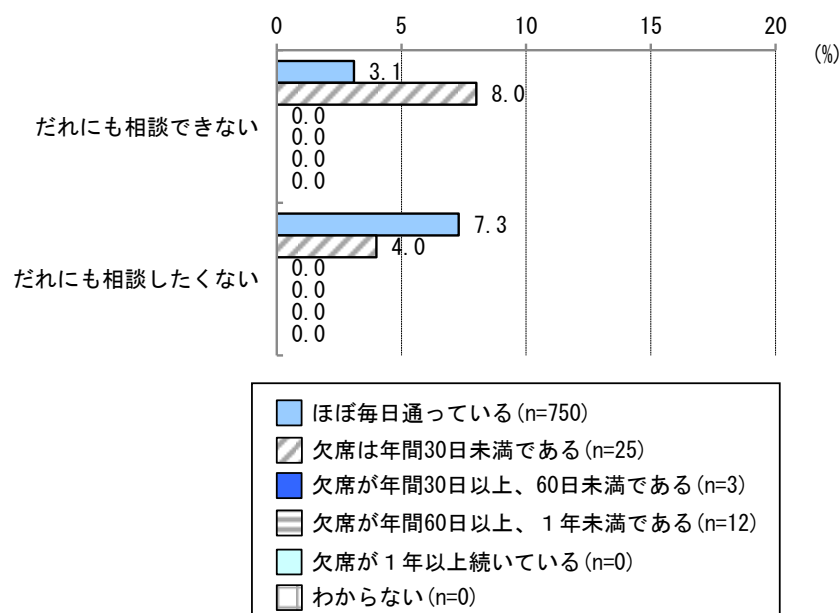
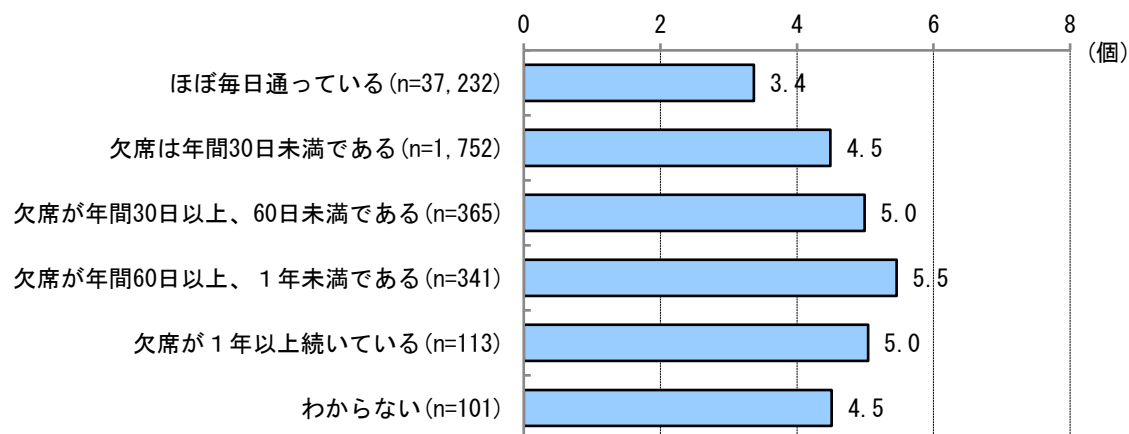


図 139. 子どもの通学状況別に見た、悩んだ時の対処を教えてくれる人のいない割合

子どもの通学状況別に悩んだ時の対処を教えてくれる人のいない割合を見ると、「だれにも相談できない」と回答した割合は、欠席は年間30日未満である子どもが8.0%で最も高く、「だれにも相談したくない」の割合はほぼ毎日通っている子どもが7.3%で最も高くなっている。

子どもの通学状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数
(保護者票問 15×子ども票問 19・20)

<大阪府内全体>



<交野市>

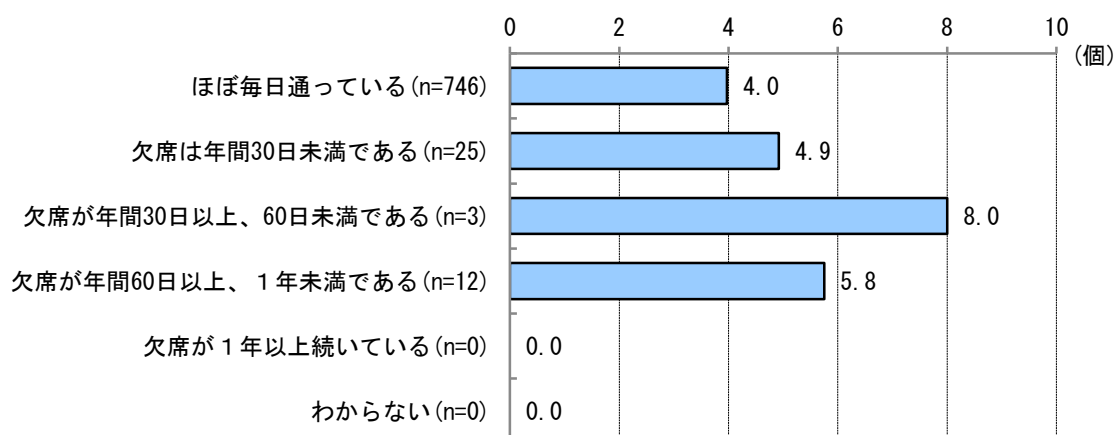
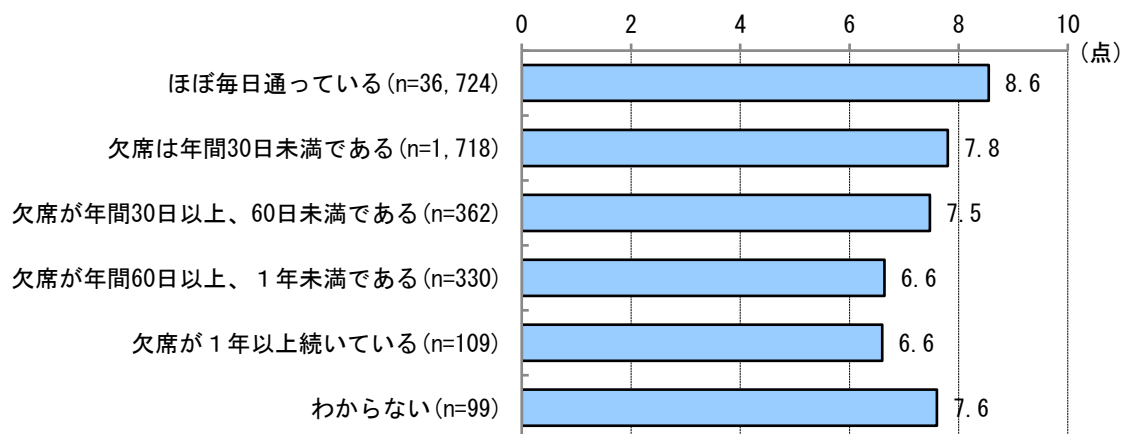


図 140. 子どもの通学状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数

子どもの通学状況別に自分の体や気持ちで気になることの該当個数を見ると、欠席が年間30日以上、60日未満である子どもが8.0個で最も多く、次いで欠席が年間60日以上、1年未満である子どもが5.8個となっている。

子どもの通学状況別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）
（保護者票問 15×子ども票問 23）

<大阪府内全体>



<交野市>

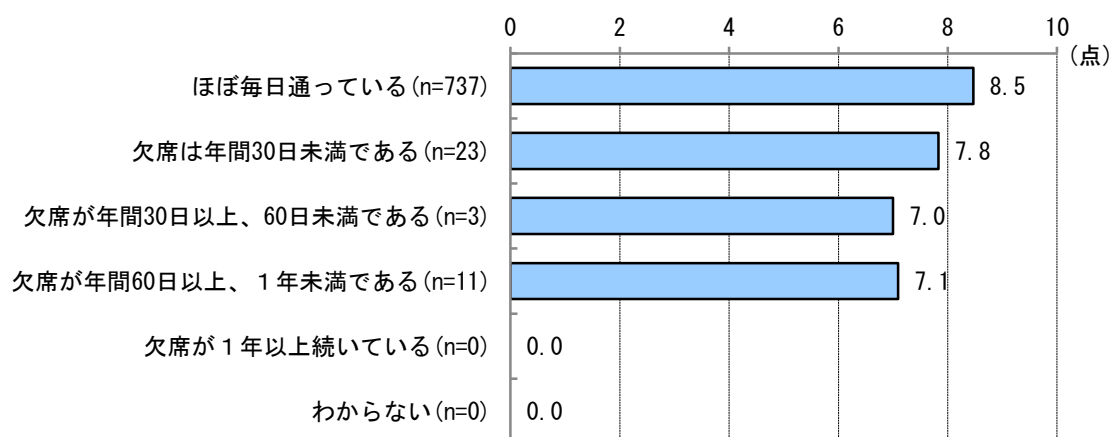
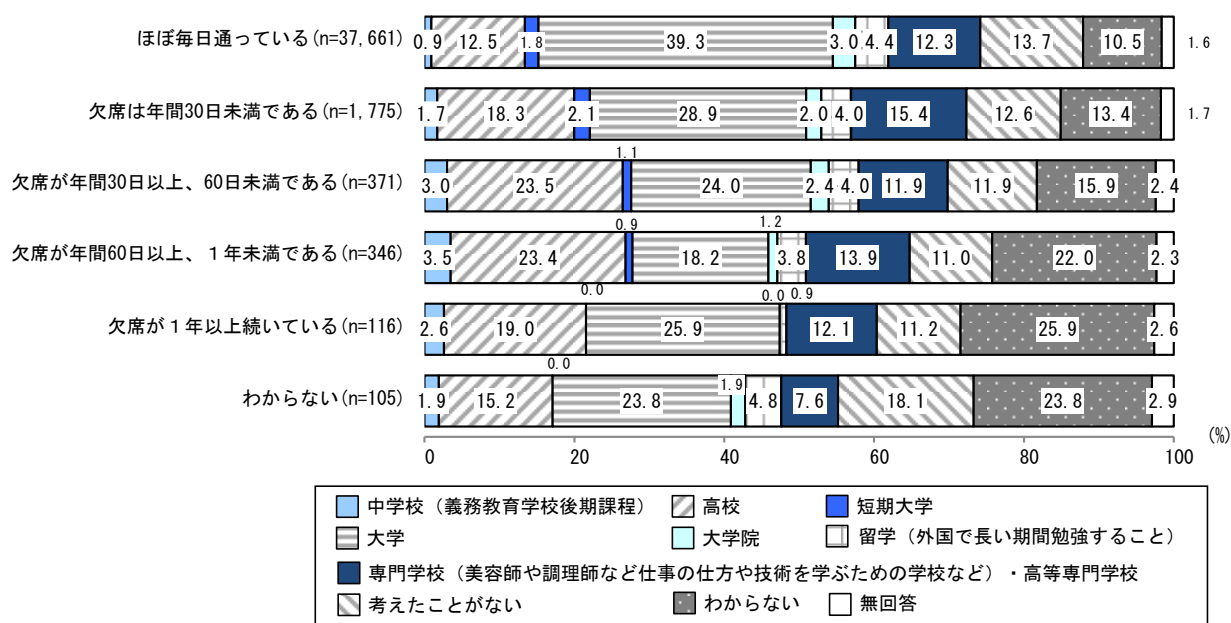


図 141. 子どもの通学状況別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

子どもの通学状況別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）を見ると、ほぼ毎日通っている子どもの得点が8.5点であるのに対し、欠席が年間30日以上、60日未満である子どもは7.0点、欠席が年間60日以上、1年未満である子どもは7.1点と、通学日数が少ない子どもほど、セルフ・エフィカシーが低い結果となった。

子どもの通学状況別に見た、希望する進学先（保護者票問 15×子ども票問 24）

＜大阪府内全体＞



＜交野市＞

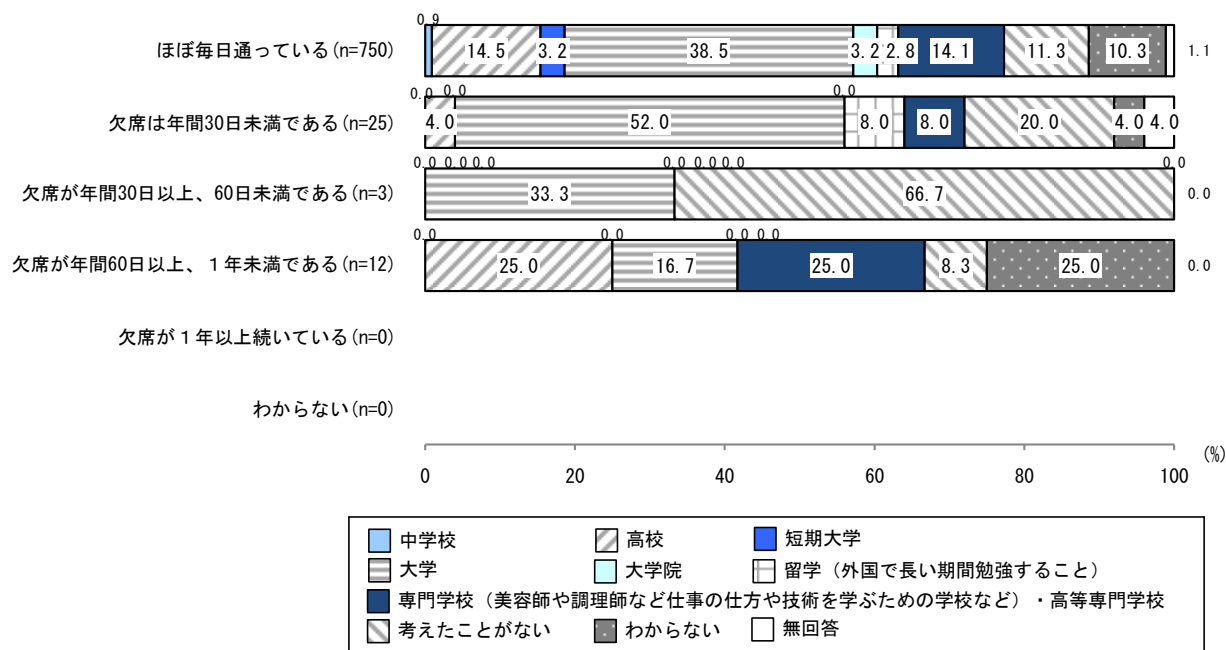
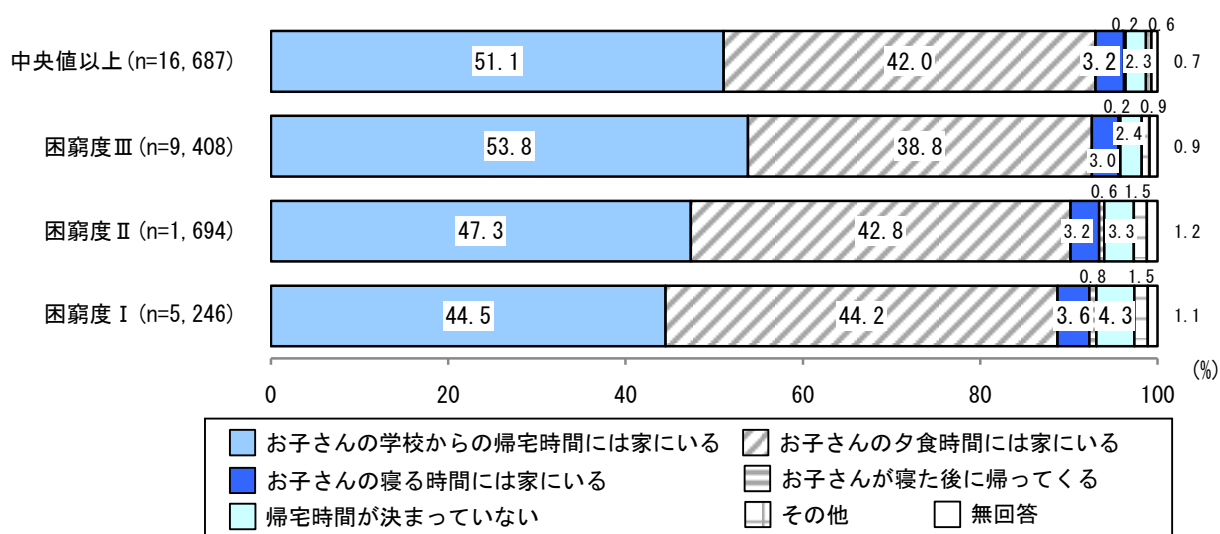


図 142. 子どもの通学状況別に見た、希望する進学先

子どもの通学状況別に希望する進学先を見ると、ほぼ毎日通っている子どもにのみ、「中学校」、「短期大学」、「大学院」の回答がみられた。また、「専門学校（美容師や調理師など仕事の仕方や技術を学ぶための学校など）・高等専門学校」の回答の割合は、欠席が年間60日以上、1年未満である子どもが25.0%で最も高くなっている。

困窮度別に見た、保護者が家にいる時間帯（保護者票問 10）

<大阪府内全体>



<交野市>

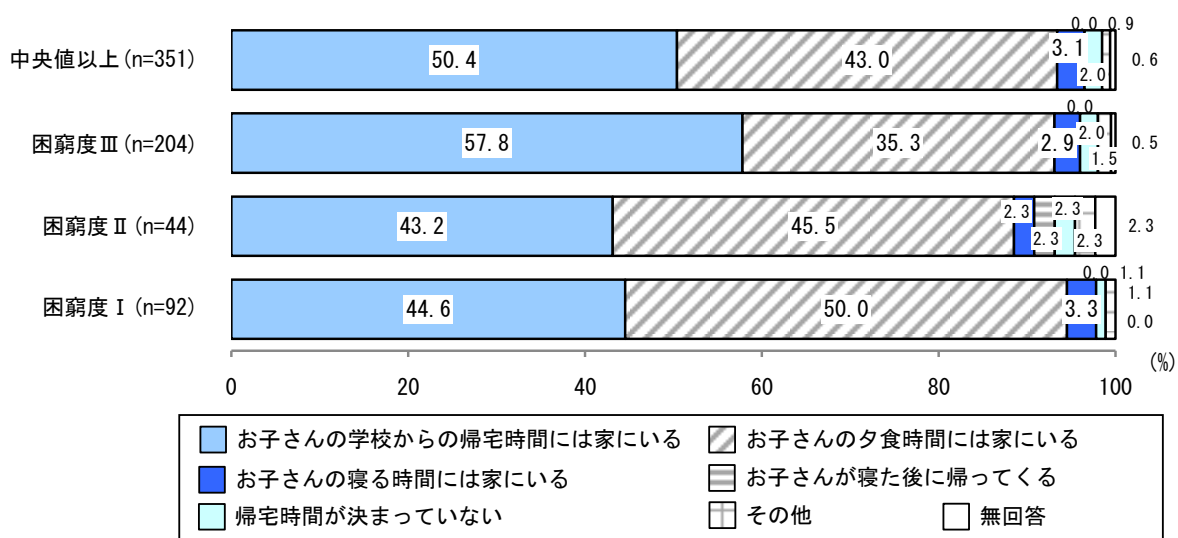
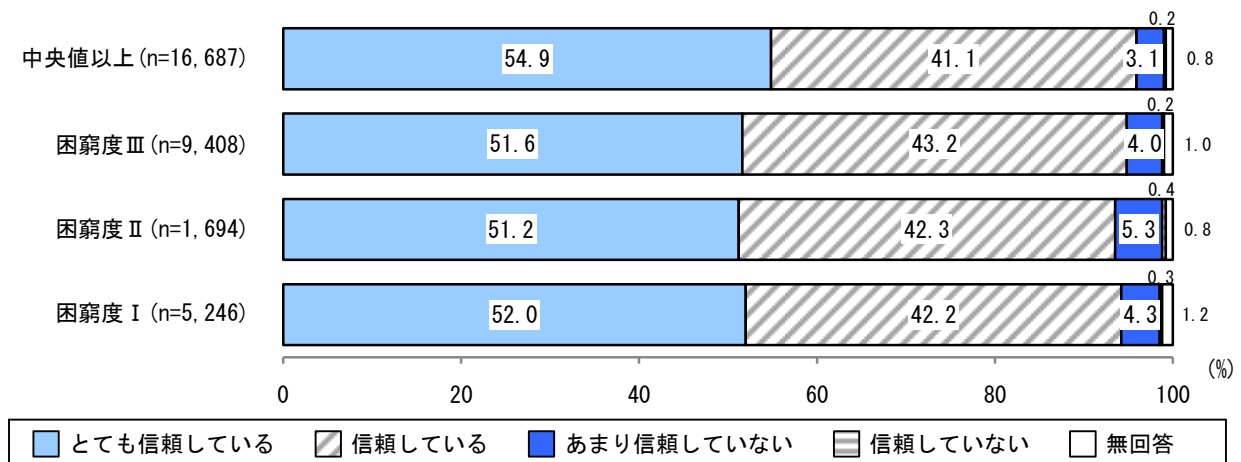


図 143. 困窮度別に見た、保護者が家にいる時間帯

困窮度別に保護者が家にいる時間帯を見ると、「お子さんの学校からの帰宅時には家にいる」と回答した割合は、困窮度Ⅲ群が57.8%で最も高く、次いで中央値以上群が50.4%となっている。

困窮度別に見た、子どもへの信頼度（保護者票問 13(1)）

<大阪府内全体>



<交野市>

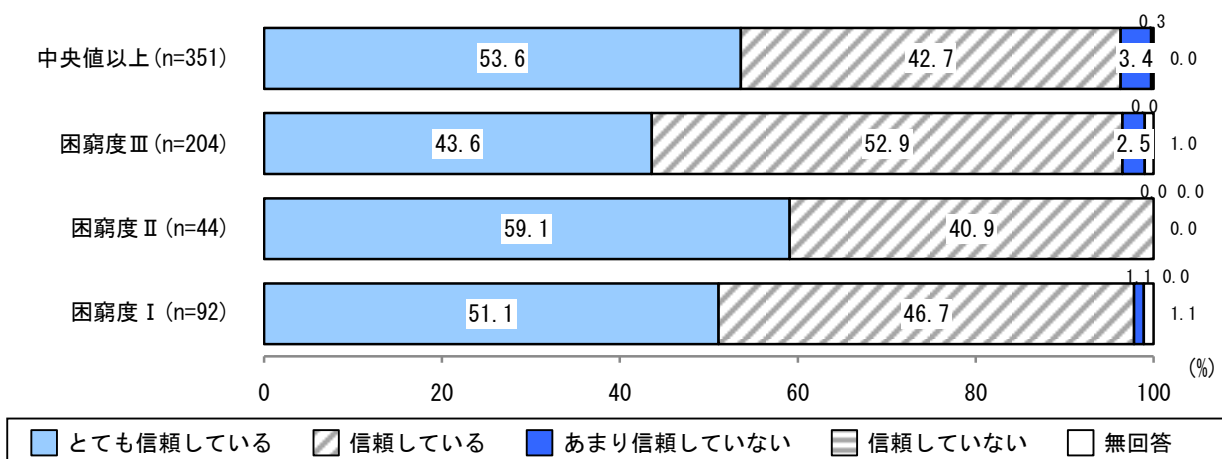
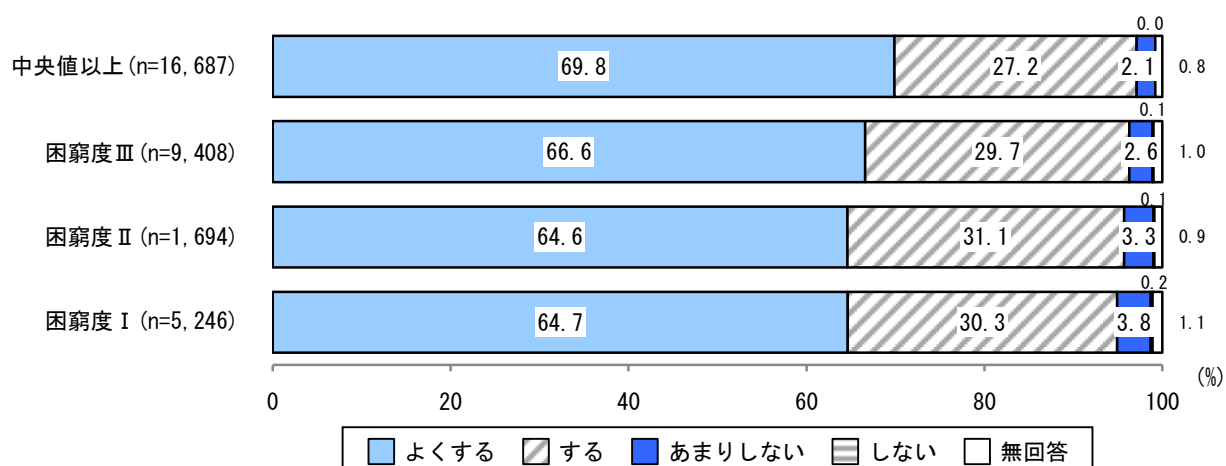


図 144. 困窮度別に見た、子どもへの信頼度

困窮度別に子どもへの信頼度を見ると、「とても信頼している」と回答した割合は、困窮度Ⅱ群が59.1%で最も高く、次いで中央値以上群が53.6%となっている。

困窮度別に見た、子どもとの会話頻度（保護者票問 13(2)）

<大阪府内全体>



<交野市>

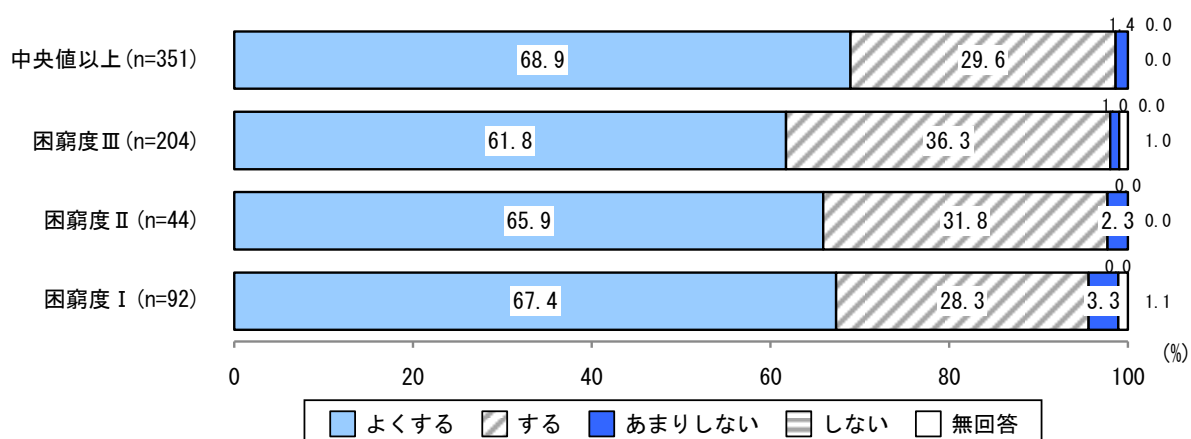
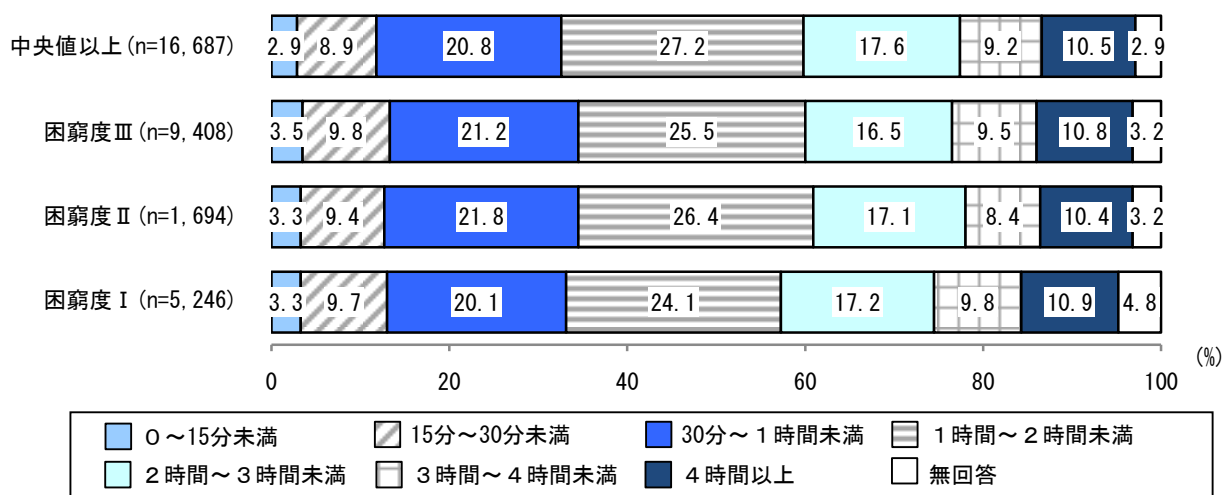


図 145. 困窮度別に見た、子どもとの会話頻度

困窮度別に子どもとの会話頻度を見ると、「よくする」と回答した割合は、中央値以上群が68.9%で最も高く、困窮度Ⅲ群は61.8%で最も低くなっている。

困窮度別に見た、平日での子どもとの関わり時間（保護者票問 13(3)）

<大阪府内全体>



<交野市>

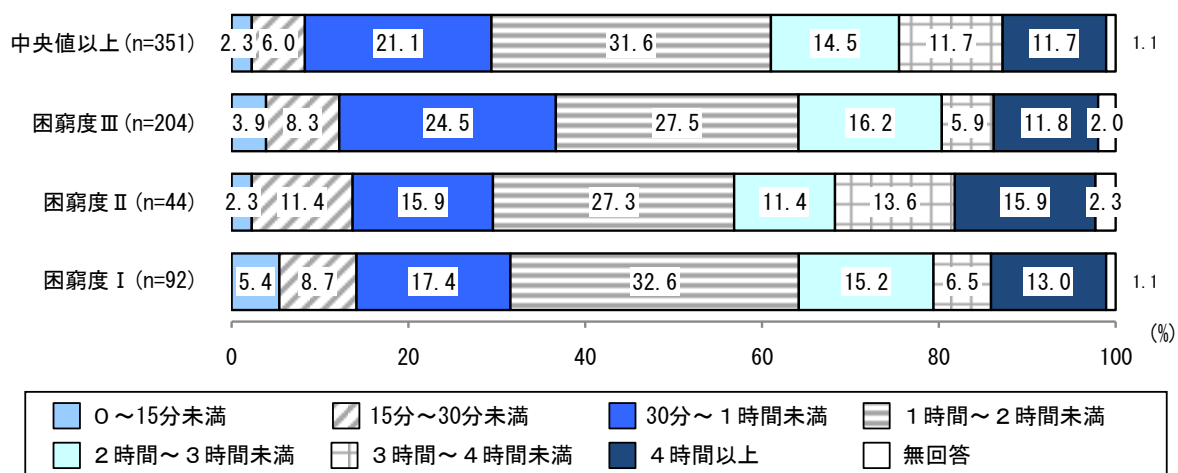
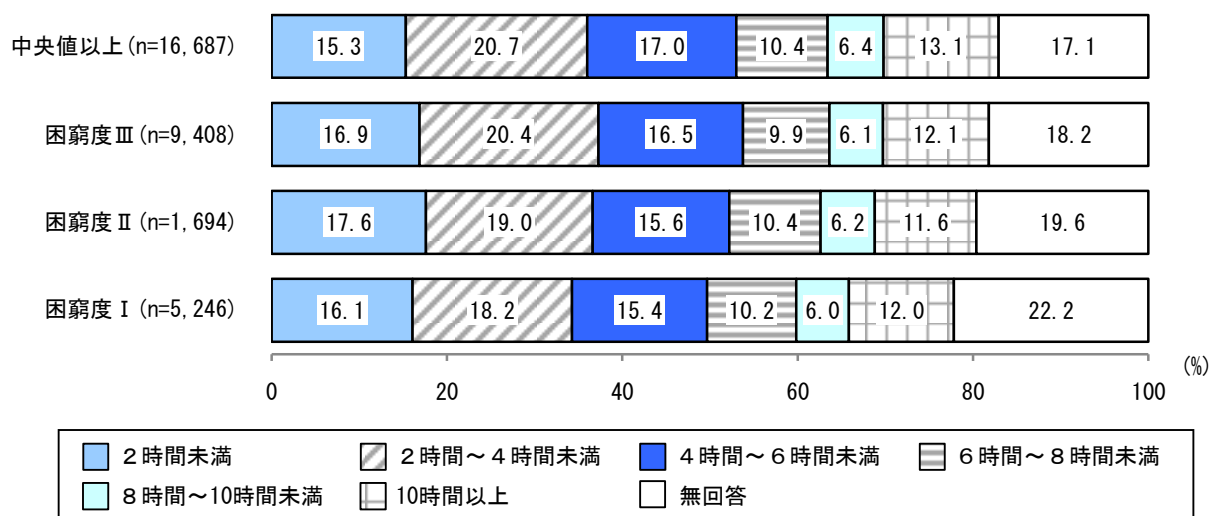


図 146. 困窮度別に見た、平日での子どもとの関わり時間

困窮度別に平日での子どもとの関わり時間を見ると、平日、子どもとの関わり時間が30分未満であると回答した割合は、困窮度が高くなるにつれ高くなっている。

困窮度別に見た、休日での子どもとの関わり時間（保護者票問 13(3)）

<大阪府内全体>



<交野市>

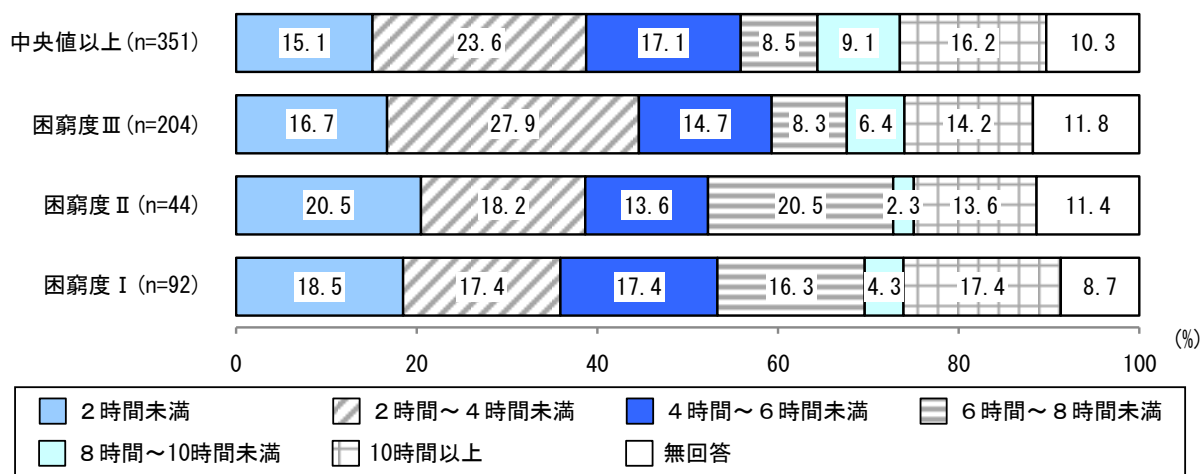
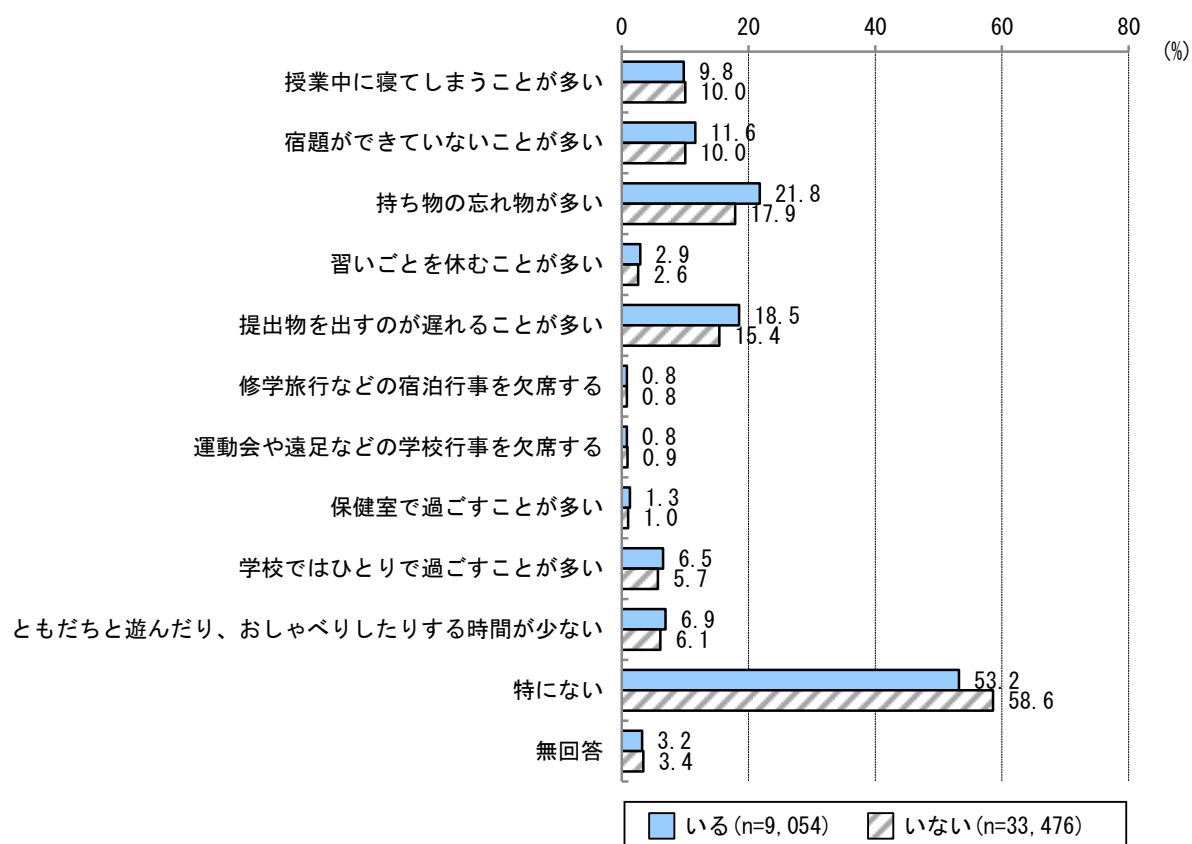


図 147. 困窮度別に見た、休日での子どもとの関わり時間

困窮度別に休日での子どもとの関わり時間を見ると、「2時間未満」と回答した割合は、困窮度Ⅱ群が20.5%で最も高く、中央値以上群は15.1%で最も低くなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、学校や学校の行事等の状況
(子ども票問 26(1) × 子ども票問 16)

<大阪府内全体>



<交野市>

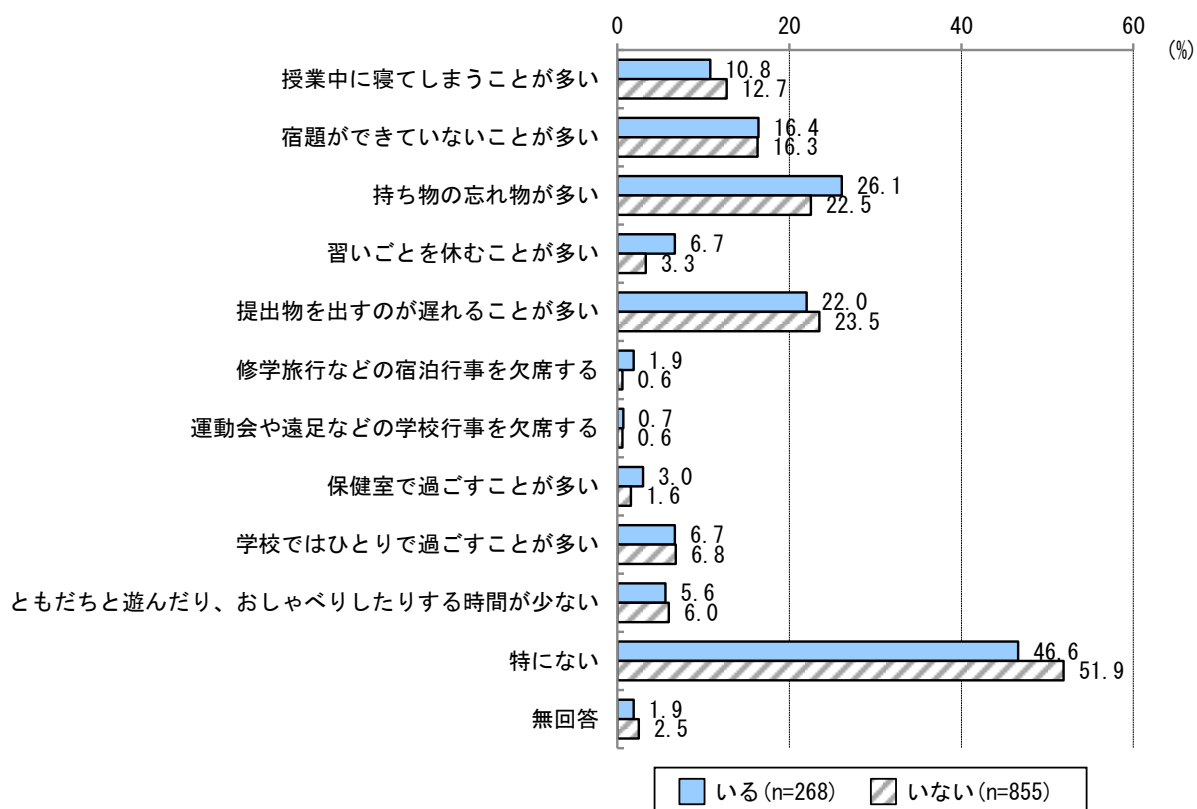
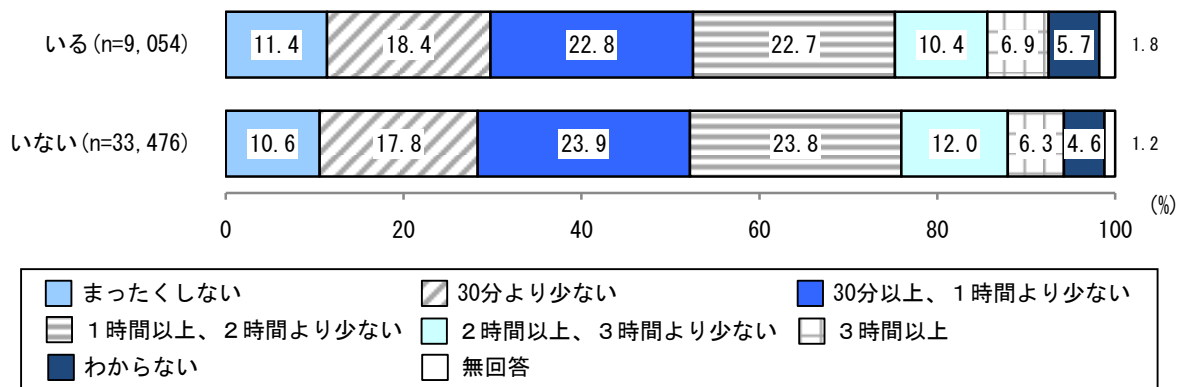


図 148. 自分が世話をしている人の有無別に見た、学校や学校の行事等の状況

自分が世話をしている人の有無別に学校や学校の行事等の状況を見ると、複数の項目で世話をしている人がいない子どもよりいる子どものほうが回答の割合が高くなっており、特に「持ち物の忘れ物が多い」は差が大きくなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ①学校がある日（月～金曜日）（子ども票問26(1)×子ども票問13①）

<大阪府内全体>



<交野市>

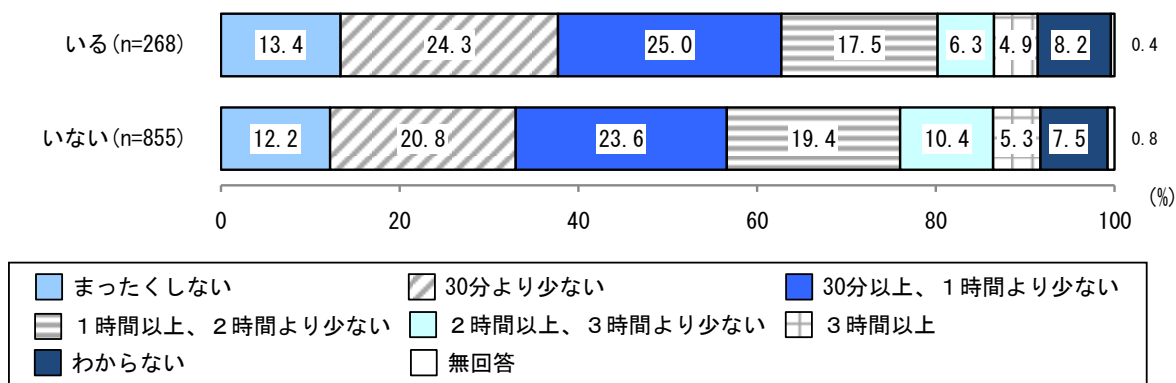
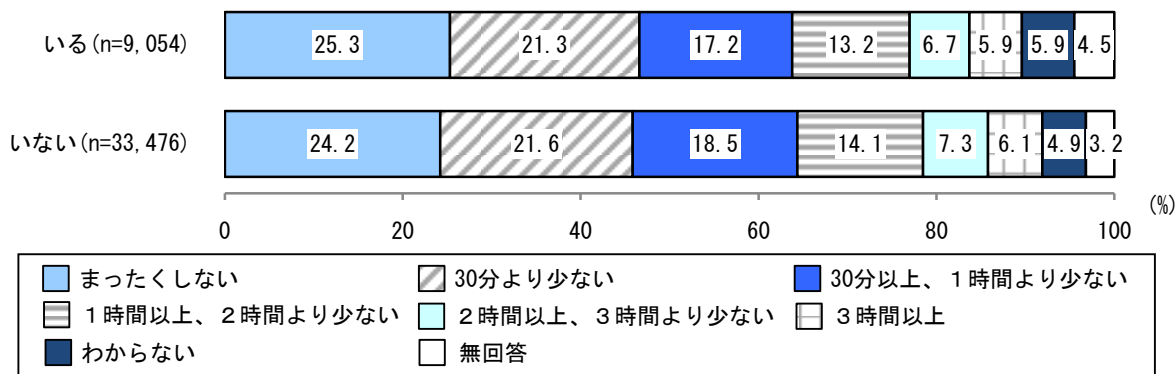


図 149. 自分が世話をしている人の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）

自分が世話をしている人の有無別に学校がある日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、世話をしている人がいる子どもはいない子どもより「まったくしない」、「30分より少ない」、「30分以上、1時間より少ない」と回答した割合が高くなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ②学校がない日（土・日曜日・祝日）（子ども票問26(1)×子ども票問13②）

<大阪府内全体>



<交野市>

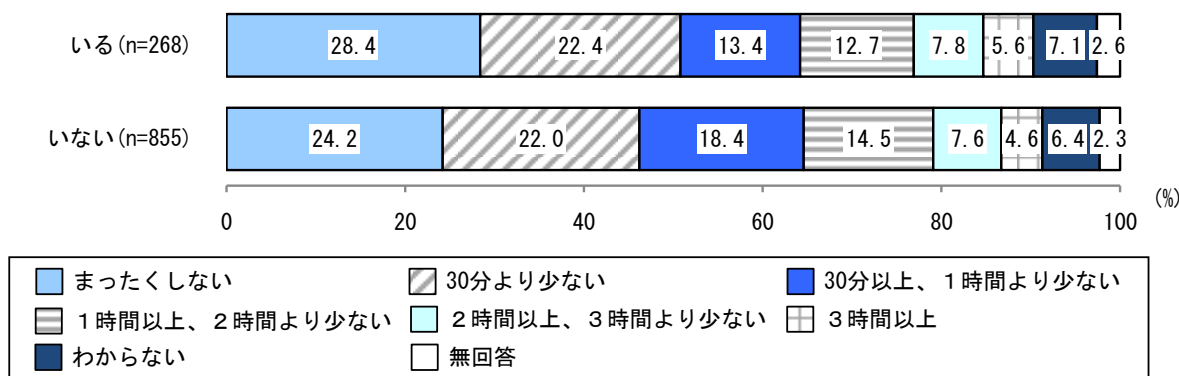


図 150. 自分が世話をしている人の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）

自分が世話をしている人の有無別に学校がない日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、「まったくしない」、「30分より少ない」、「2時間以上、3時間より少ない」、「3時間以上」と回答した人の割合は、世話をしている人がいない子どもより、いる子どものほうが割合が高くなっている。

<家庭生活・学習に関する考察>

まず、経済状況と家庭生活における子どもと保護者のかかわりについて、困窮度が中央値以上群と困窮度Ⅰ群の間の差に着目しながら確認する。おうちの大人の人と一緒に朝食を食べる頻度を見ると、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「まったくない」(19.0%対8.2%)が10.8ポイント高くなっている。保護者が家にいる時間帯では、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる」(50.4%対44.6%)が5.8ポイント高くなっている。保護者の子どもの将来に対する期待度を見ると、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「とても期待している」(24.2%対17.4%)は6.8ポイント高くなっている。これらの結果から、経済的に困難な世帯の子どもは朝食を保護者と一緒に食べる習慣がなく、学校から帰宅しても保護者が家にいないため、保護者とかかわりを持ちにくくなっている可能性が示唆された。また、経済的に困難な家庭の保護者は子どもの将来に対して期待を抱きにくく、経済的事情が子どもの生活状況や保護者の子どものかかわり方と関連している可能性がある。

次に、学校への遅刻状況と家庭生活における子どもと保護者のかかわりの関連について確認する。「毎日またはほとんど毎日」遅刻する群は「遅刻はしない」群と比べ、「おうちの大人の人と一緒に朝食を食べている」ことにおいて「ほとんどない」と「まったくない」の合計(31.4%対26.0%)が5.4ポイント、「おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりする」ことにおいて「ほとんどない」と「まったくない」の合計(49.0%対39.0%)が10.0ポイント高くなっている。一方、「遅刻はしない」群は「毎日またはほとんど毎日」遅刻する群と比べ、「おうちの大人の人と一緒に夕食を食べている」ことにおいて「ほとんど毎日」(78.7%対68.6%)が10.1ポイント、「おうちの大人の人と学校のできごとについて話す」ことにおいて「ほとんど毎日」(39.4%対31.4%)が8.0ポイント、保護者が子どもと会話を「よくする」(66.8%対55.9%)が10.9ポイント高くなっている。これらの結果から、学校への遅刻は保護者と一緒に朝食・夕食を食べることや活動をする、日常における会話に影響が出ている可能性が示された。

経済状況と子どもの学習にかかわる習慣や進学希望の関連について、困窮度が中央値以上の群と困窮度Ⅰ群の間の差に着目して述べる。通学状況を見ると、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「ほぼ毎日通っている」(95.2%対89.1%)が6.1ポイント高くなっている。学校がある日の勉強時間では、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「まったくしない」と「30分より少ない」の合計(33.3%対27.2%)が6.1ポイント高くなっている。文化活動を見ると、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、おうちの大人との文化活動頻度では「まったくない」(25.0%対19.3%)が5.7ポイント、授業以外の読書時間では「まったくしない」(45.2%対38.1%)が7.1ポイント高くなっている。学習理解度を見ると、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「よくわかる」(37.5%対20.2%)が17.3ポイント高くなっている。希望進学先を見ると、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、子ども自身の希望する進学先で「高校」(15.5%対10.3%)は5.2ポイント、保護者の希望する進学先で「高校」(13.0%対3.4%)は9.6ポイント高くなっている。これらの結果から、経済的に困難な世帯の子どもは、通学が困難になっており、学習習慣や読書習慣、家庭内での文化活動の習慣がないため、学習理解が不十分になっている可能性が示唆された。また、経済的に困難な世帯では子ども自身も保護者も、高校までの進学を希望する割合が高く、このことは経済的事情や学習理解の低さが影響している可能性がある。

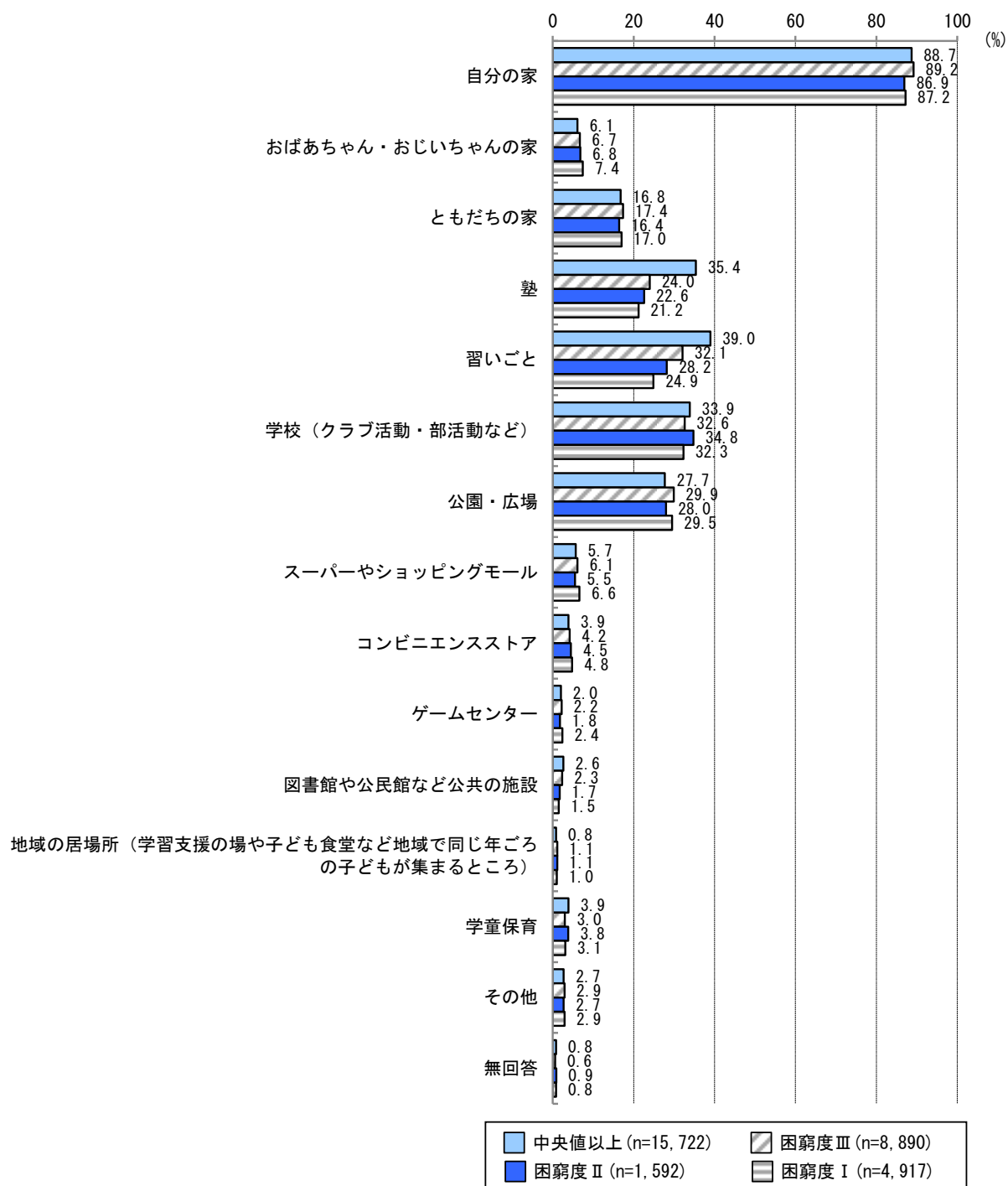
次に、朝の習慣や学校への遅刻状況と子どもの学習にかかわる習慣の関連について確認する。起床時間の規則性別に学習時間を見ると、ほぼ同じ時刻に「起きていない」群は「起きている」群と比べ、学校がある日の勉強時間では「まったくしない」(29.4%対10.8%)が18.6ポイント、学校がない日の勉強時間では「まったくしない」(35.3%対23.0%)が12.3ポイント、授業以外の

読書時間では「まったくしない」(64.7%対39.8%)が24.9ポイント高くなっている。朝食の頻度別に見ると、「食べない」群は「毎日またはほとんど毎日」食べる群と比べ、学校がある日の勉強時間では「まったくしない」(32.1%対11.7%)が20.4ポイント、学校がない日の勉強時間では「まったくしない」(46.4%対24.6%)が21.8ポイント、授業以外の読書時間では「まったくしない」(60.7%対38.3%)が22.4ポイント高くなっている。学校への遅刻の頻度別に文化活動習慣を見ると、「毎日またはほとんど毎日」遅刻する群は「遅刻しない」群に比べ、おうちの人との文化活動頻度では「まったくしない」(31.4%対24.5%)が6.9ポイント、学習理解度において「ほとんどわからない」と「わからない」の合計(15.6%対2.6%)が13.0ポイント、子ども自身の希望する進学先で「高校」(23.5%対13.7%)が9.8ポイント高くなっている。これらの結果から、朝の習慣が身につけていないことは、日々の学習習慣や読書習慣の形成に影響している可能性が示唆された。さらに、朝の習慣が身につけていないと遅刻に繋がり、授業を十分に受けることができなくなるため、学習理解に影響が出ている可能性がある。

4-5. 対人関係

困窮度別に見た、放課後を過ごす場所（子ども票問11）

<大阪府内全体>



<交野市>

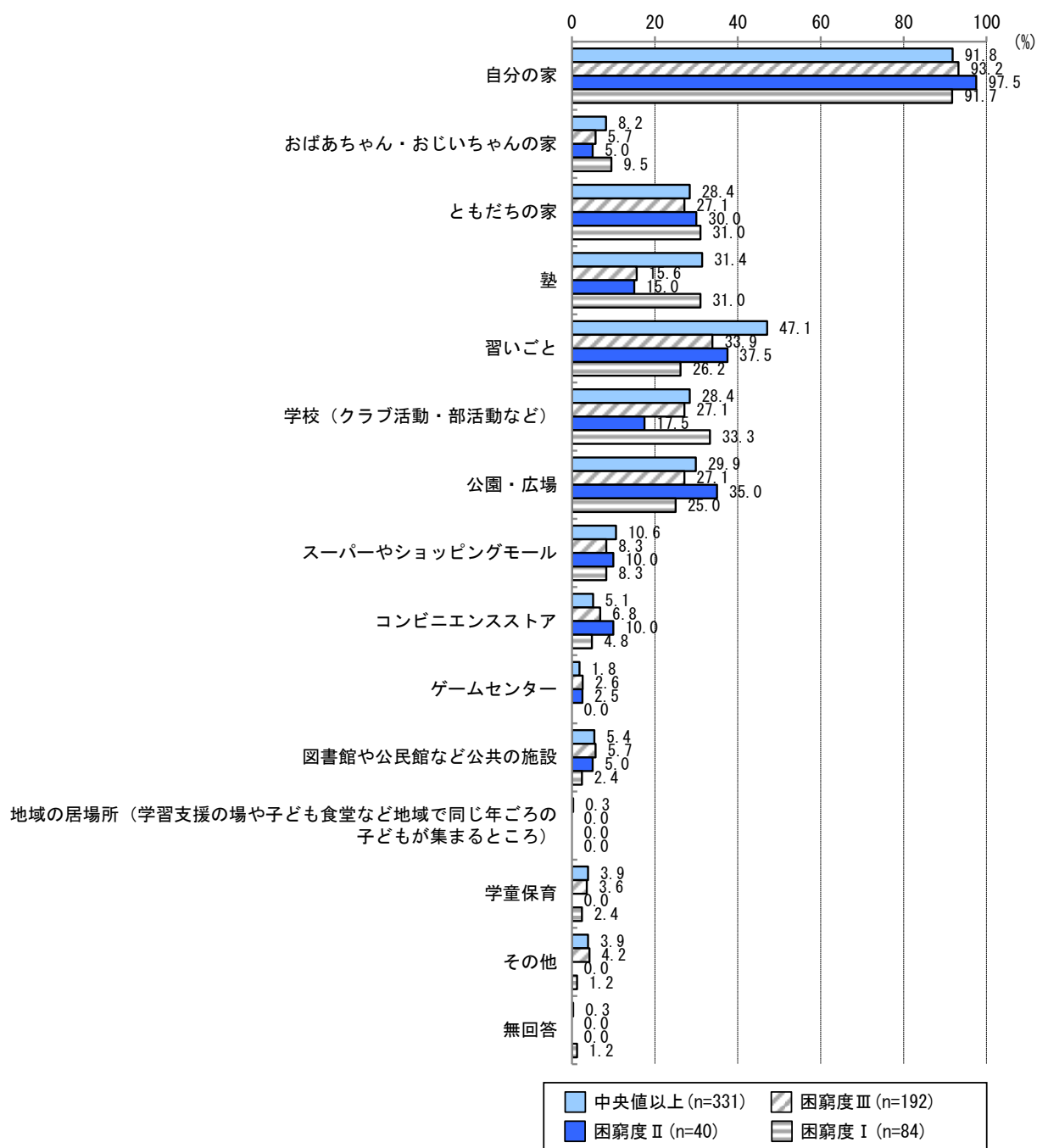
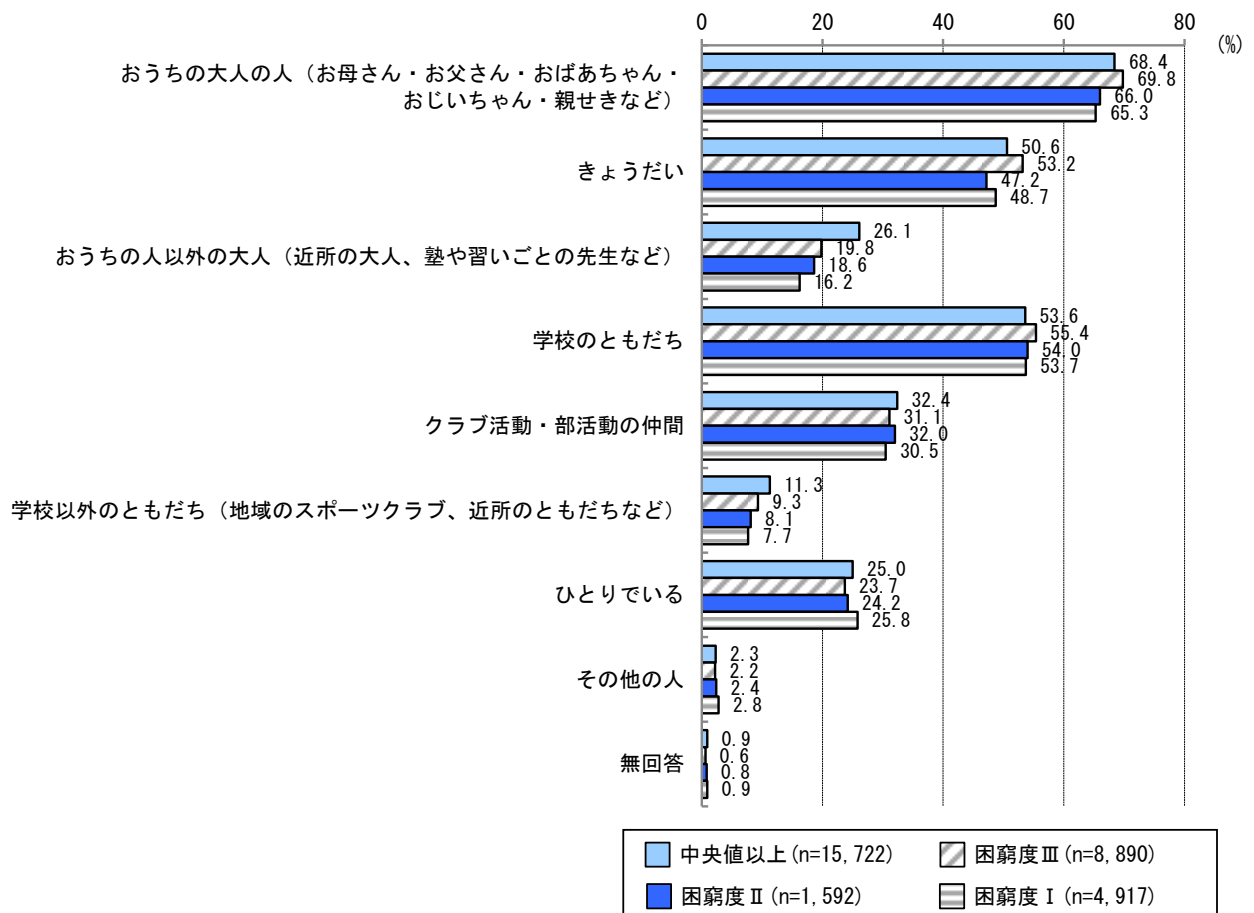


図 151. 困窮度別に見た、放課後を過ごす場所

困窮度別に子どもが放課後に過ごす場所を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「おばあちゃん・おじいちゃんの家」9.5%（中央値以上群に対して1.2倍）、「学校（クラブ活動・部活動など）」33.3%（同じく1.2倍）、「ともだちの家」31.0%（同じく1.1倍）となっている。一方、中央値以上群では、「図書館や公民館など公共の施設」5.4%（困窮度Ⅰ群に対して2.3倍）、「習いごと」47.1%（同じく1.8倍）、「学童保育」3.9%（同じく1.6倍）、「スーパーやショッピングモール」10.6%（同じく1.3倍）などが高くなっている。

困窮度別に見た、放課後を一緒に過ごす人（子ども票問10）

<大阪府内全体>



<交野市>

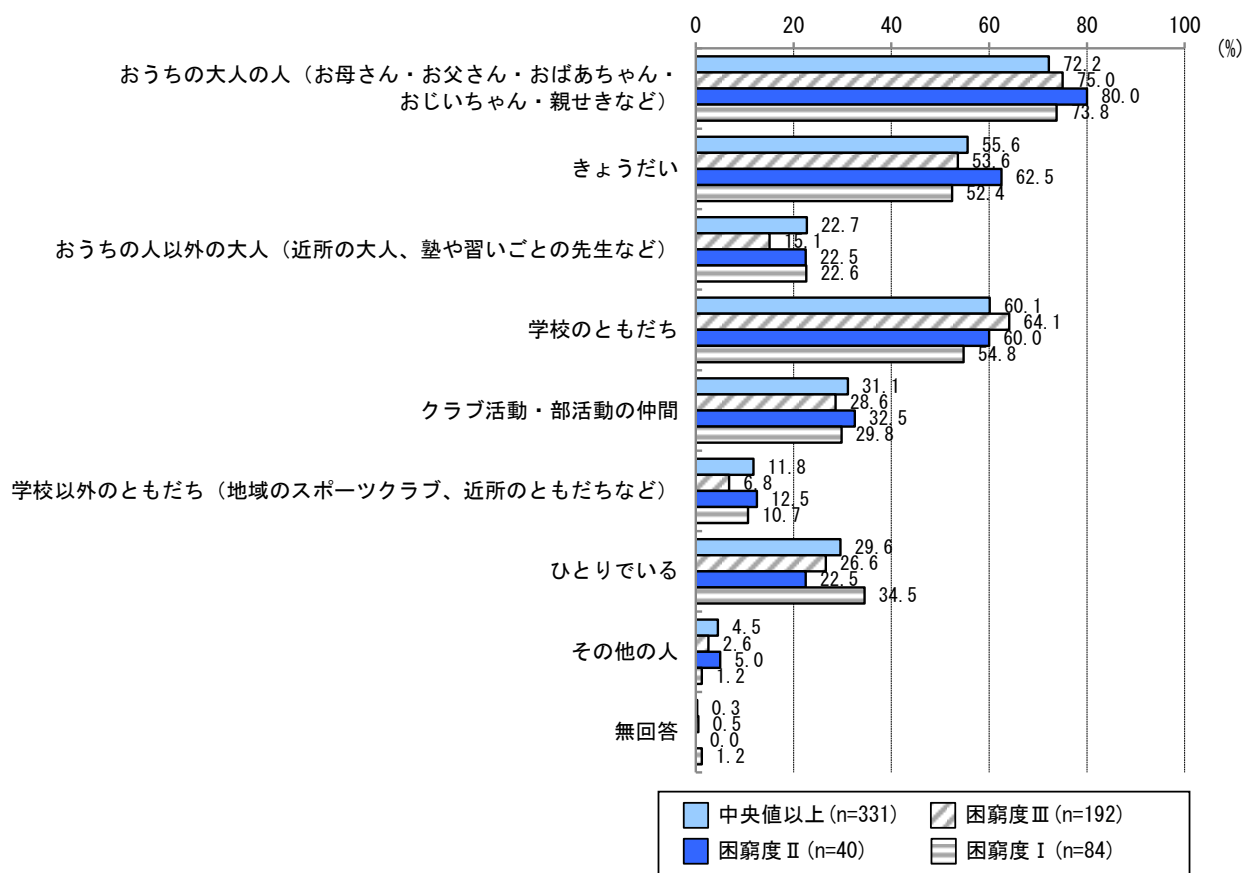
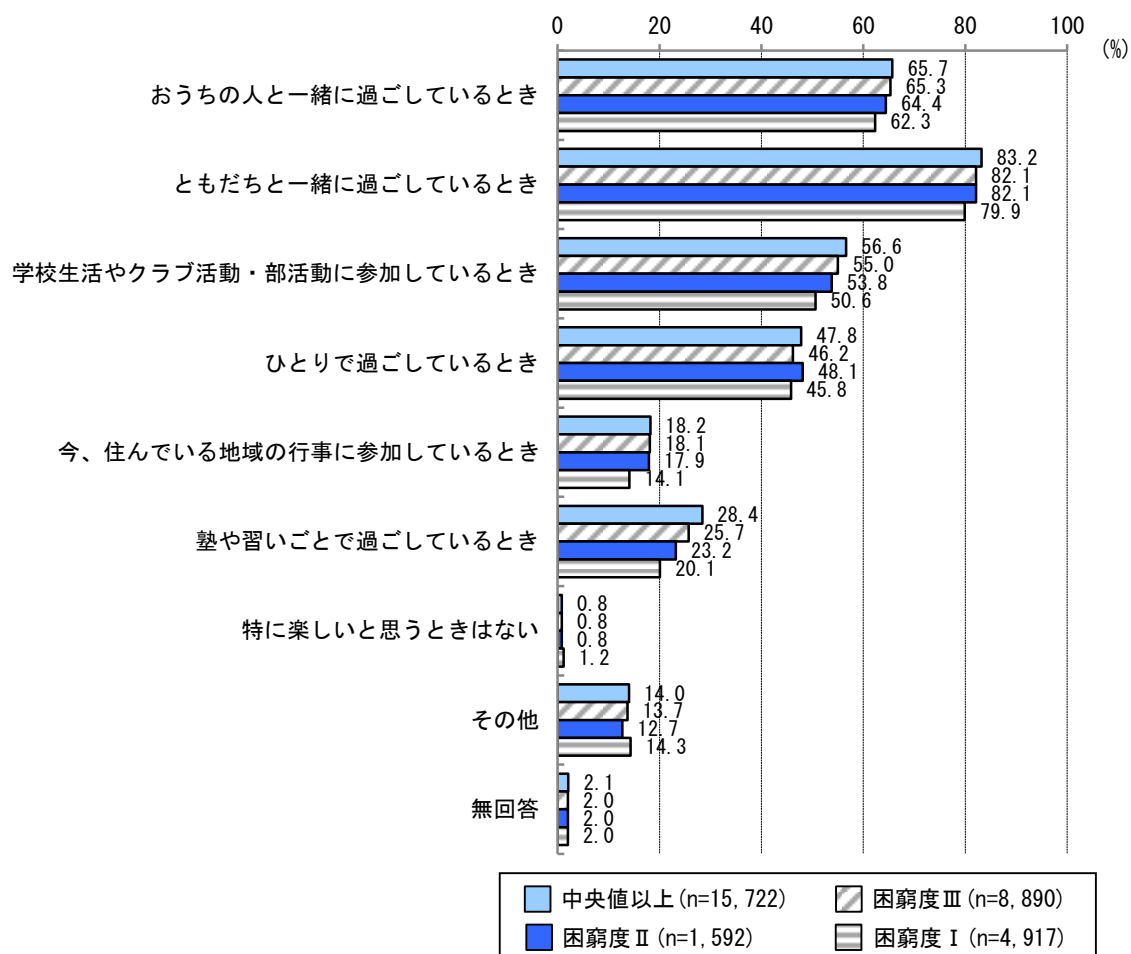


図 152. 困窮度別に見た、放課後を一緒に過ごす人

困窮度別に子どもが放課後一緒に過ごす人を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目すると、中央値以上群では「きょうだい」55.6%（困窮度Ⅰ群に対して1.1倍）、「学校のともだち」60.1%（同じく1.1倍）、「学校以外のともだち（地域のスポーツクラブ、近所のともだちなど）」11.8%（同じく1.1倍）が高くなっている。

困窮度別に見た、毎日の生活で楽しいこと（子ども票問9）

<大阪府内全体>



<交野市>

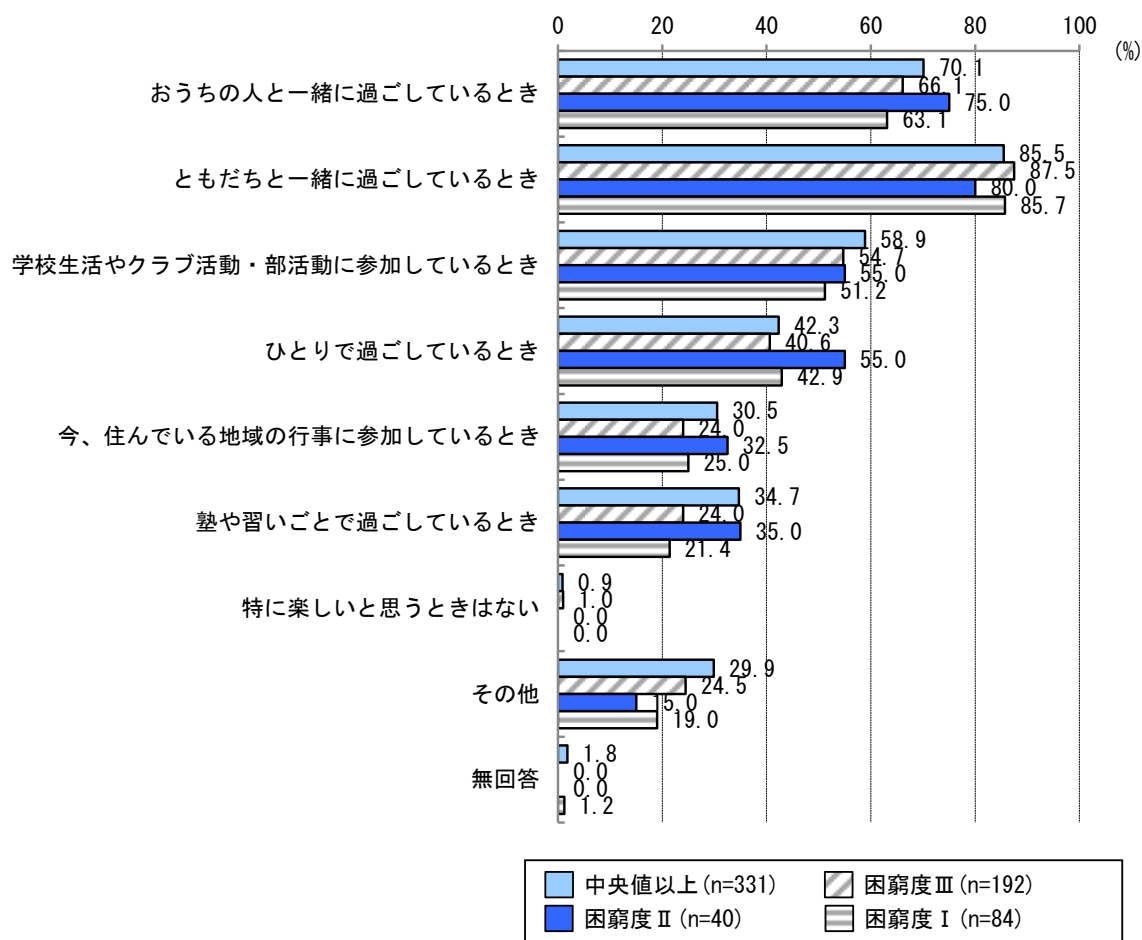
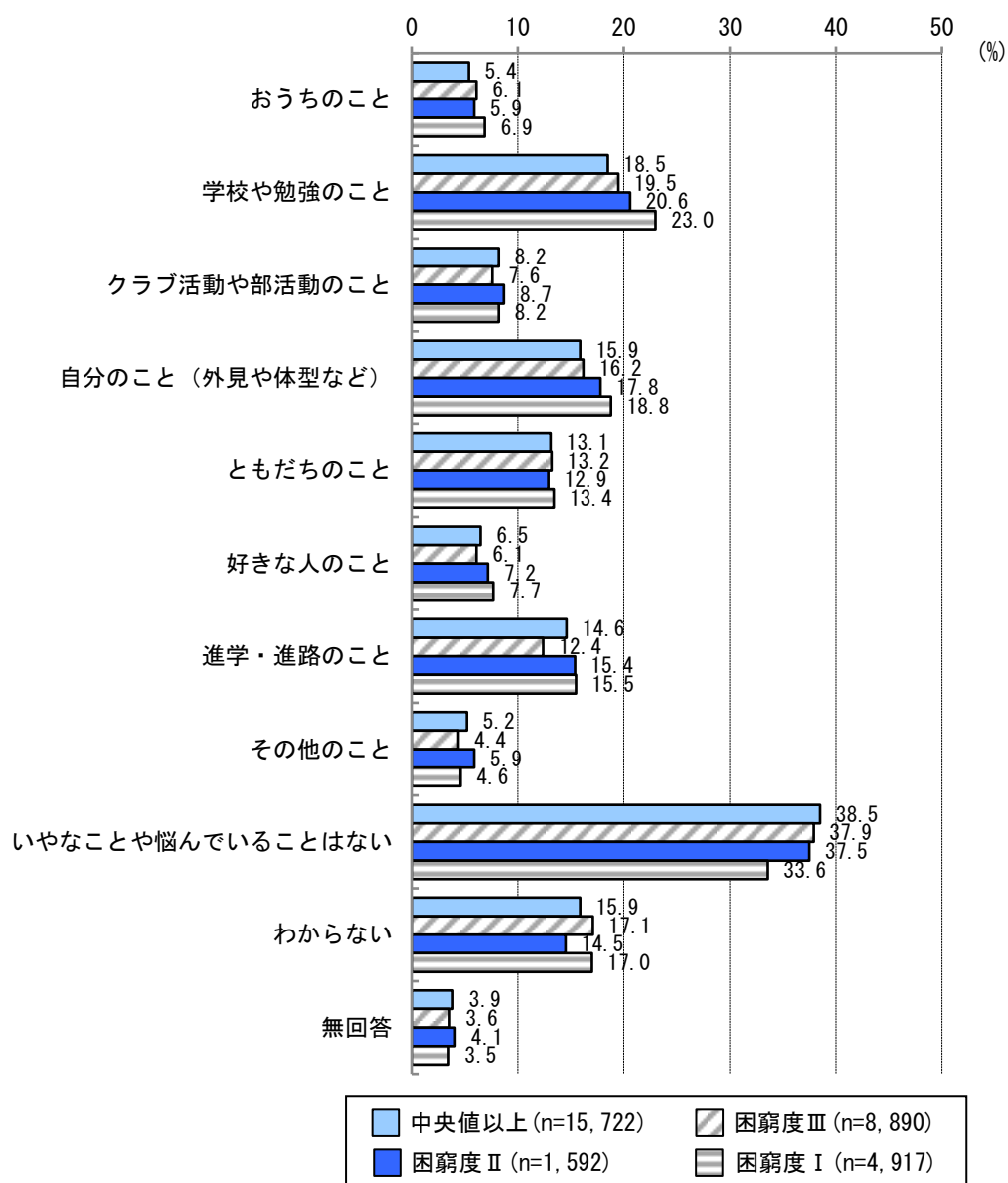


図 153. 困窮度別に見た、毎日の生活で楽しいこと

困窮度別に子どもが毎日の生活で楽しいことを見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、中央値以上群の数値を挙げると、「塾や習いごとで過ごしているとき」34.7%（困窮度Ⅰ群に対して1.6倍）、「学校生活やクラブ活動・部活動に参加しているとき」58.9%（同じく1.2倍）、「今、住んでいる地域の行事に参加しているとき」30.5%（同じく1.2倍）が高くなっている。

困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいること（子ども票問17）

<大阪府内全体>



＜交野市＞

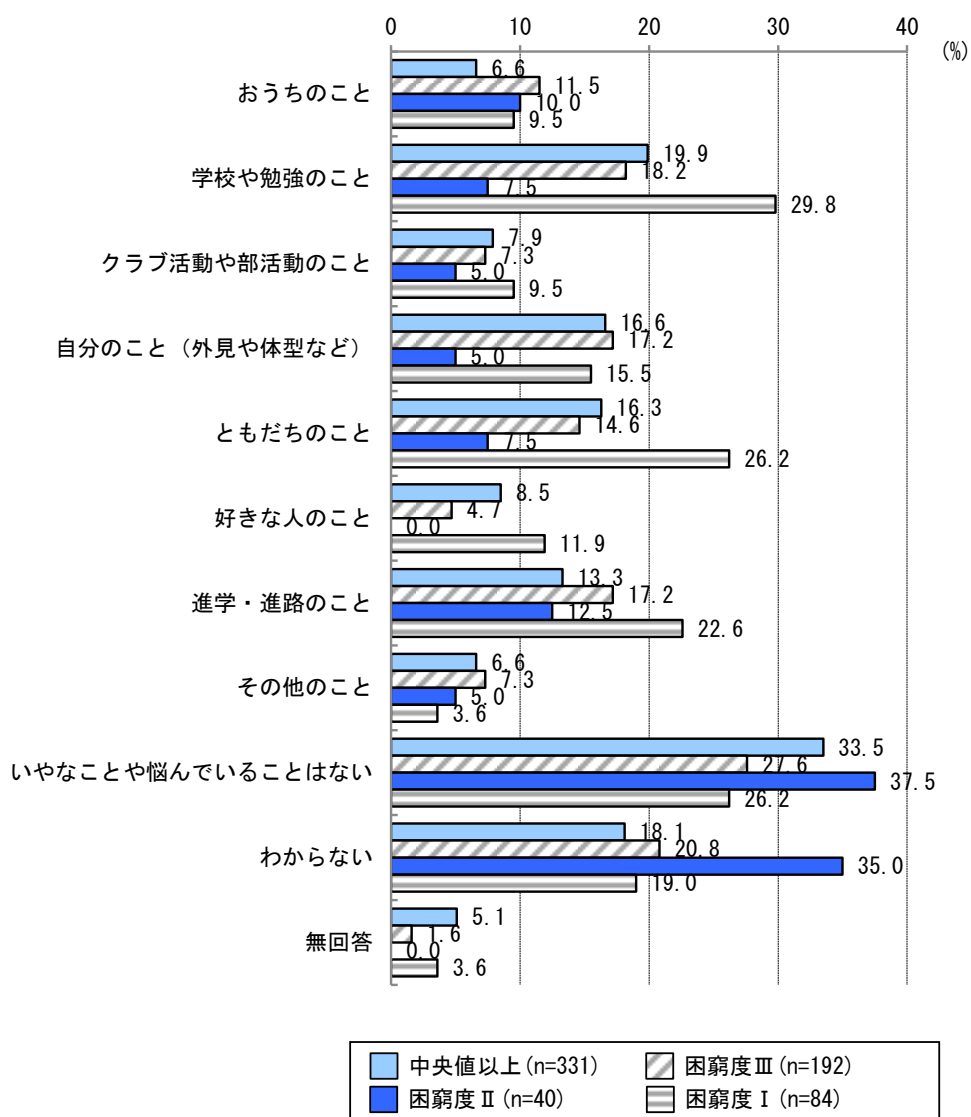
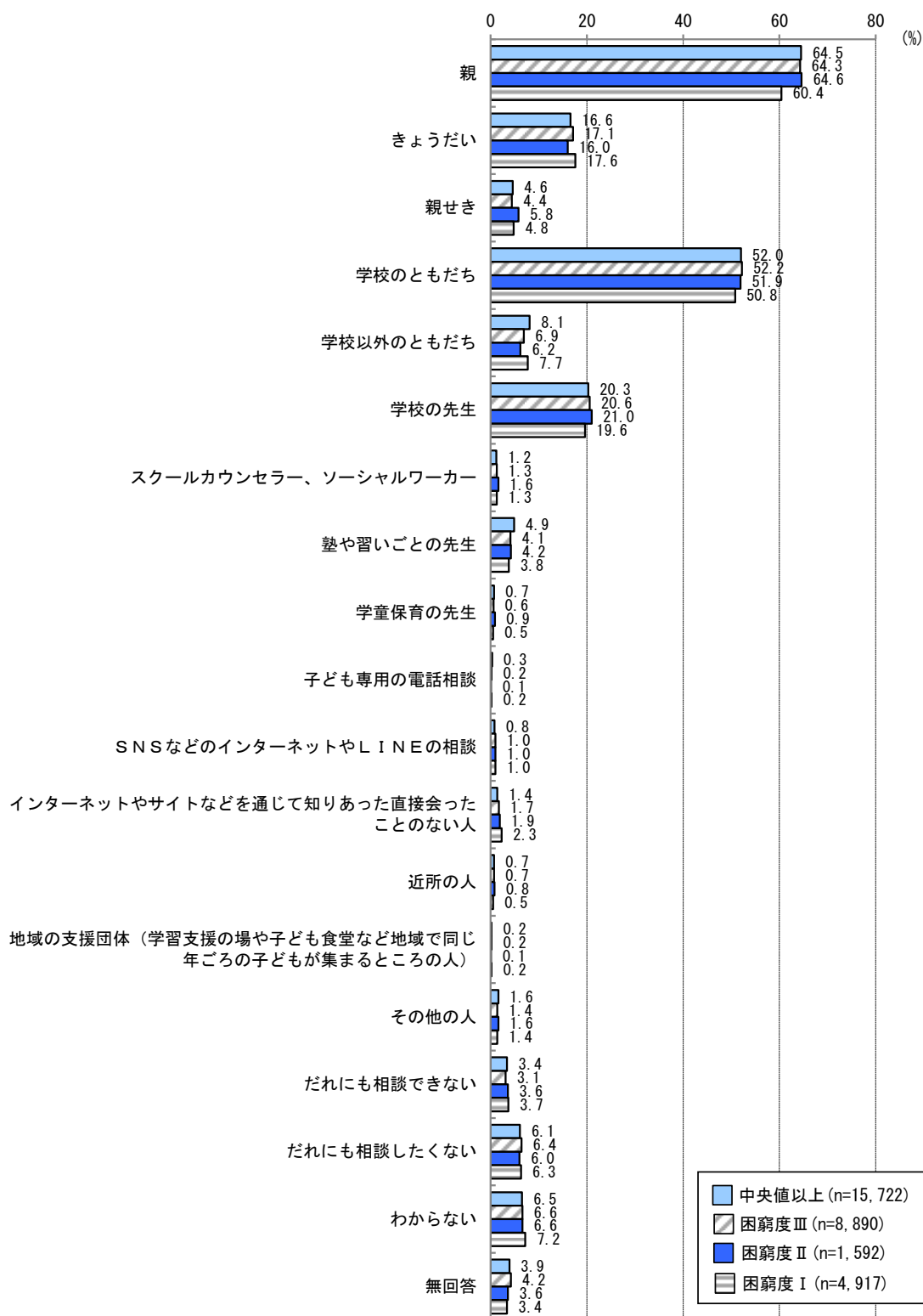


図 154. 困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいること

困窮度別に子どもが悩んでいることを見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目すると、困窮度Ⅰ群では、「進学・進路のこと」22.6%（中央値以上群に対して1.7倍）、「ともだちのこと」26.2%（同じく1.6倍）、「学校や勉強のこと」29.8%（同じく1.5倍）が高く、中央値以上群では「自分のこと（外見や体型など）」16.6%（困窮度Ⅰ群に対して1.1倍）が高くなっている。

困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手（子ども票問 18）

<大阪府内全体>



<交野市>

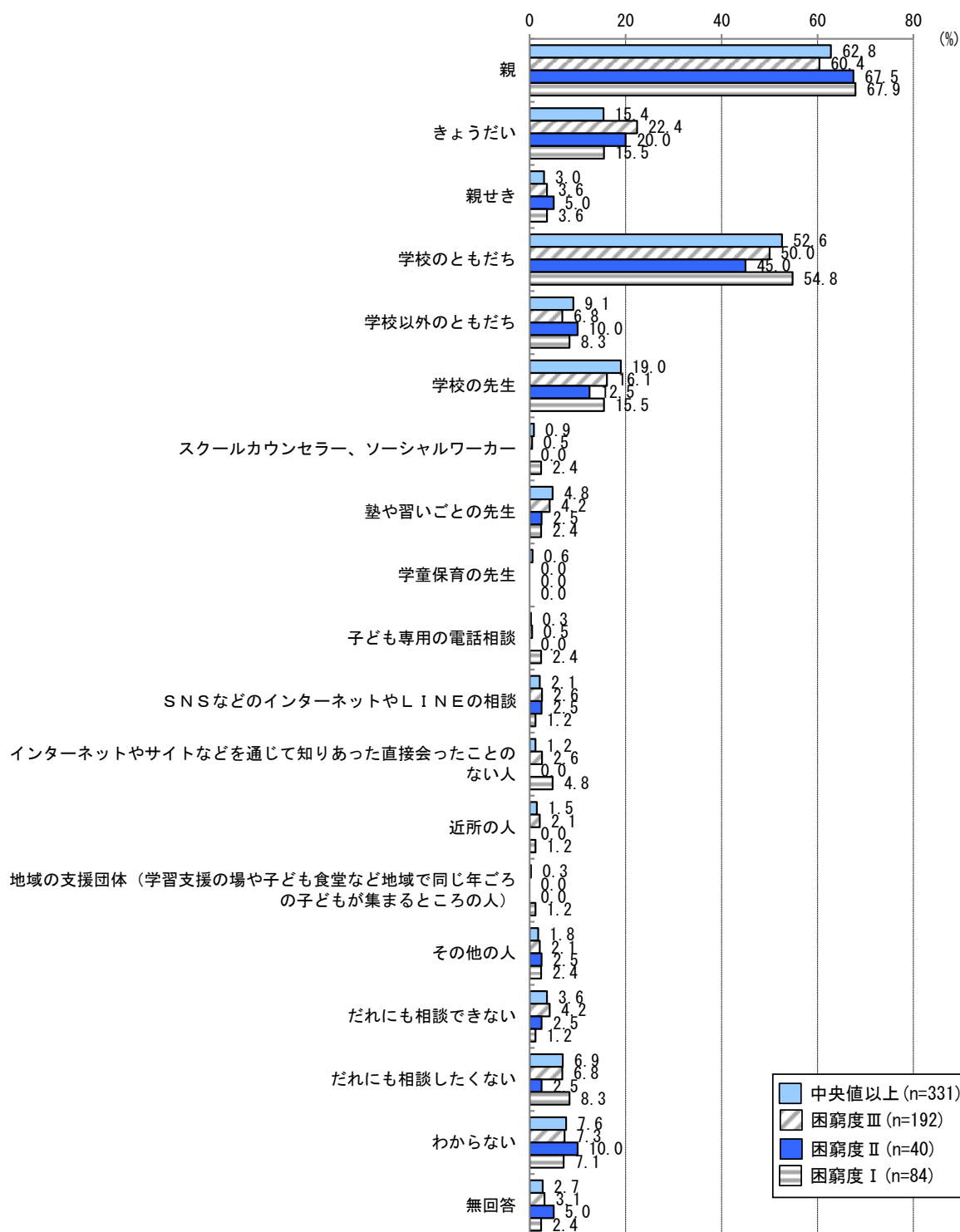
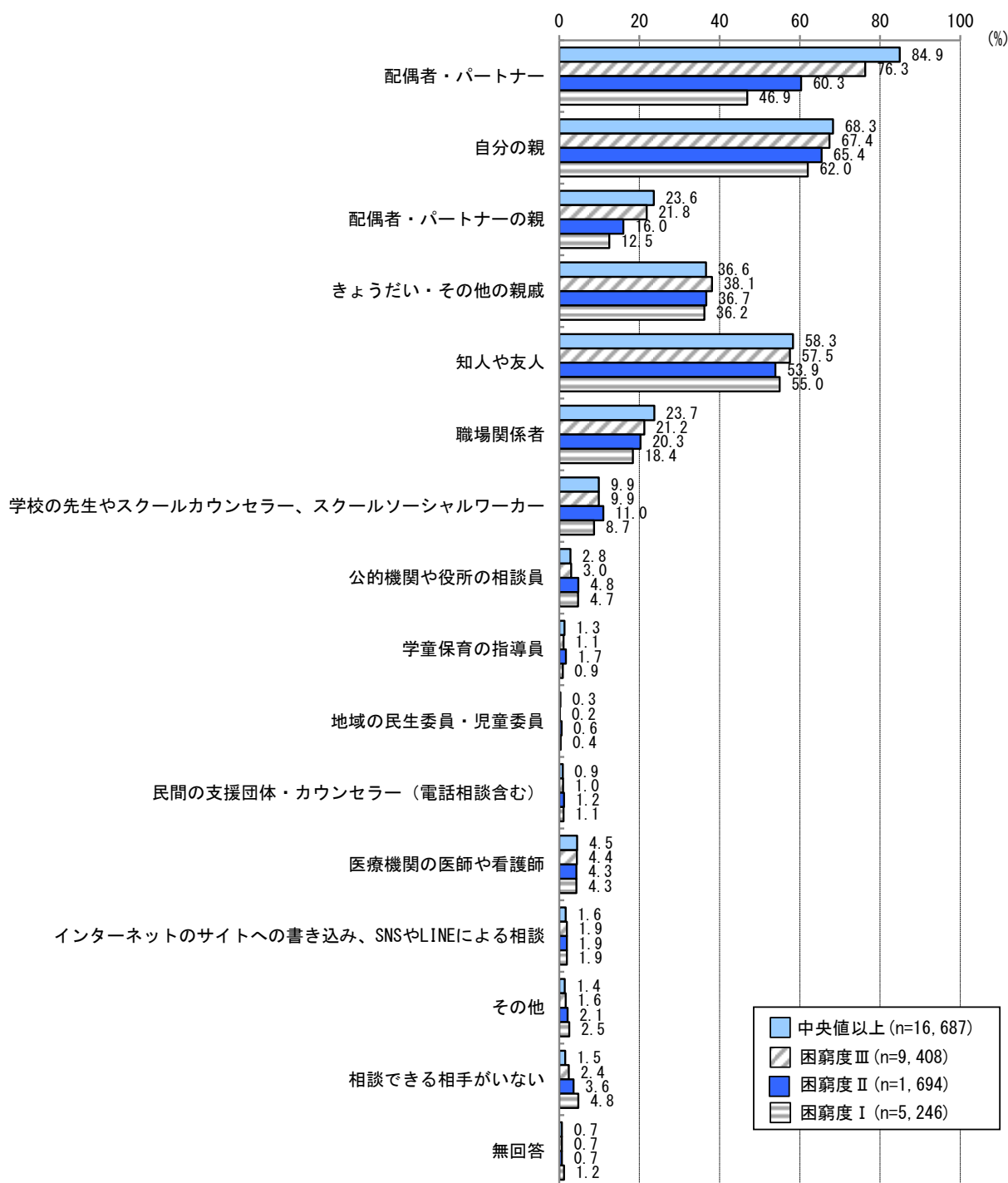


図 155. 困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

困窮度別に子どもの嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「子ども専用の電話相談」2.4%（中央値以上群に対して8.0倍）、「インターネットやサイトなどを通じて知りあった直接会ったことのない人」4.8%（同じく4.0倍）、「地域の支援団体（学習支援の場や子ども食堂など地域で同じ年ごろの子どもが集まるところの人）」1.2%（同じく4.0倍）となっている。

困窮度別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先（保護者票問 19）

<大阪府内全体>



＜交野市＞

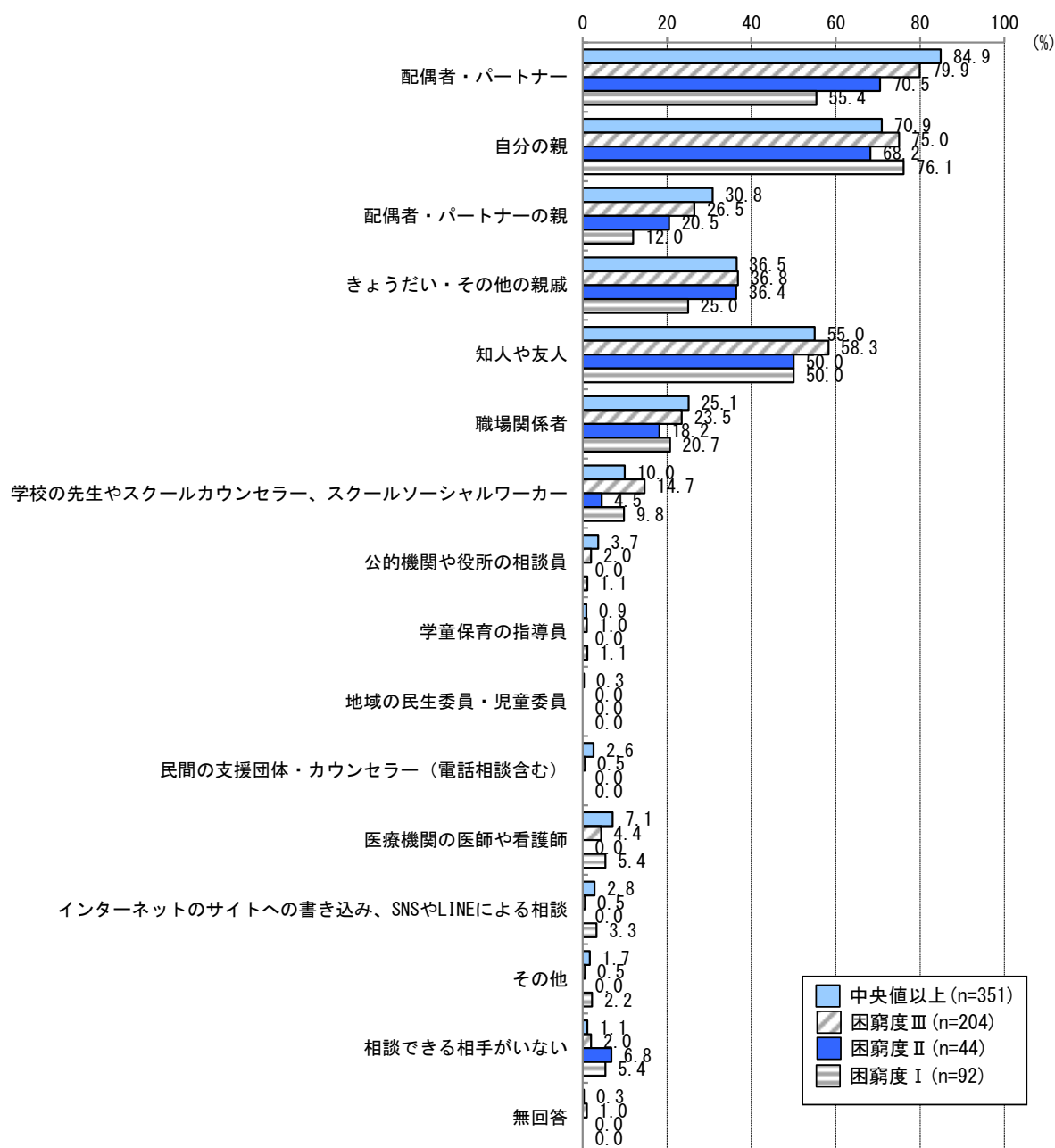
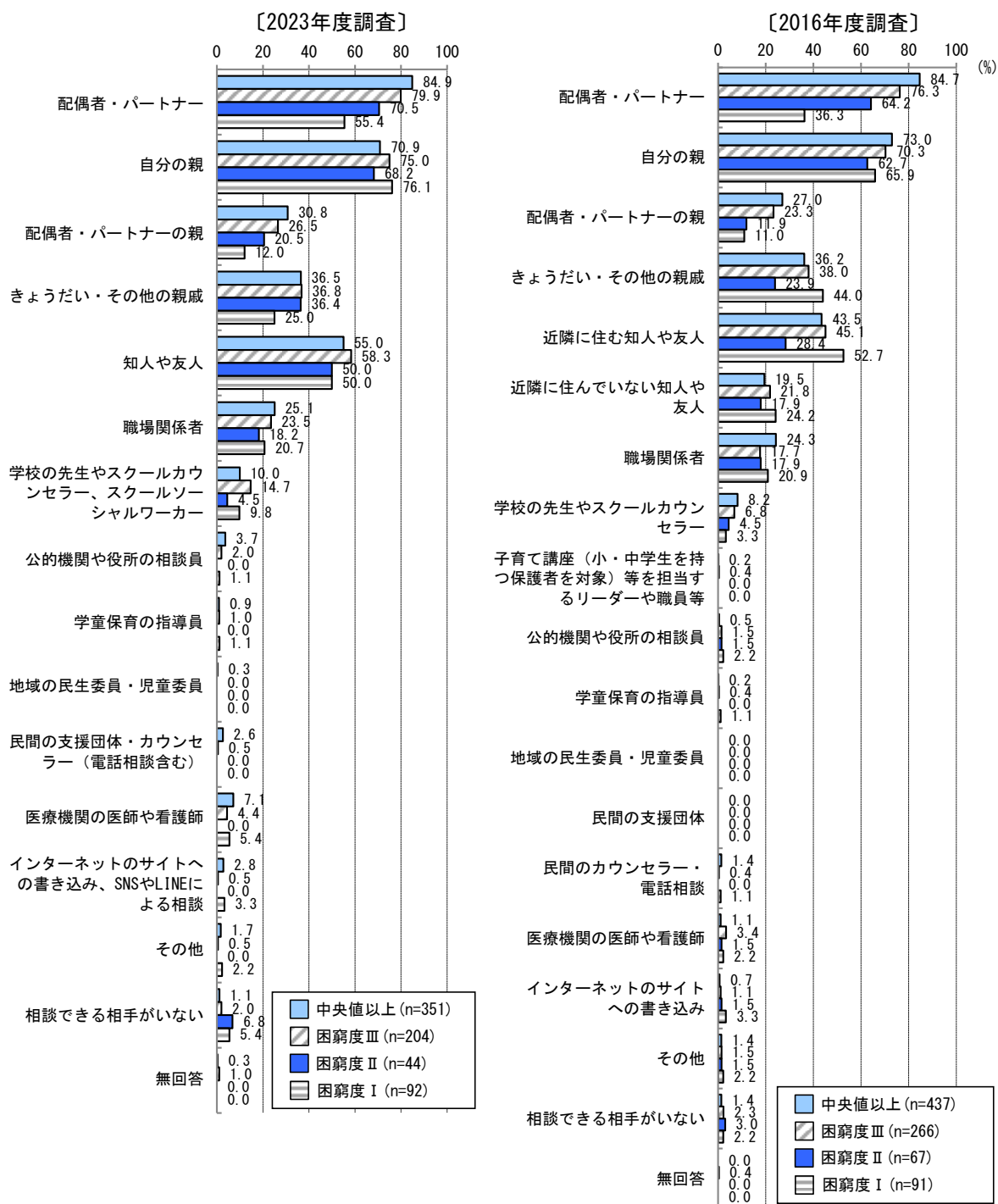


図 156. 困窮度別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先

困窮度別に本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「相談できる相手がいない」5.4%（中央値以上群に対して4.9倍）、「学童保育の指導員」1.1%（同じく1.2倍）となっている。中央値以上群の数値を挙げると、「公的機関や役所の相談員」3.7%（困窮度Ⅰ群に対して3.4倍）、「配偶者・パートナーの親」30.8%（同じく2.6倍）、「配偶者・パートナー」84.9%（同じく1.5倍）、「きょうだい・その他の親戚」36.5%（同じく1.5倍）となっている。

<2016 年度調査との比較／交野市>



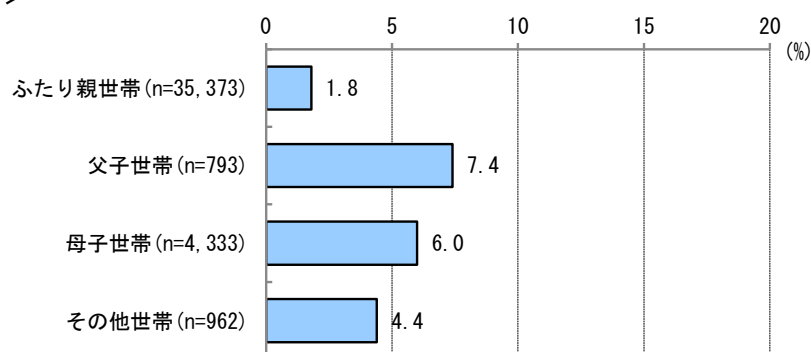
- ※1 「知人や友人」は、2016年度調査では「近隣に住む知人や友人」と「近隣に住んでいない知人や友人」
 ※2 「学校の先生やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー」は、2016年度調査では「学校の先生やスクールカウンセラー」
 ※3 2016年度調査の「子育て講座（小・中学生を持つ保護者を対象）等を担当するリーダーや職員等」は今回は削除
 ※3 「民間の支援団体・カウンセラー（電話相談含む）」は、2016年度調査では「民間の支援団体」と「民間のカウンセラー・電話相談」
 ※4 「インターネットのサイトへの書き込み、SNSやLINEによる相談」は、2016年度調査では「インターネットのサイトへの書き込み」

図 157. 困窮度別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先（2016年度調査との比較）

2016年度調査と比較すると、「配偶者・パートナー」「配偶者・パートナーの親」「学校の先生やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー」と回答した割合は、いずれの困窮度も2016年度調査に比べて高くなっている。

世帯構成別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先がない割合
(保護者票問2×保護者票問19)

<大阪府内全体>



<交野市>

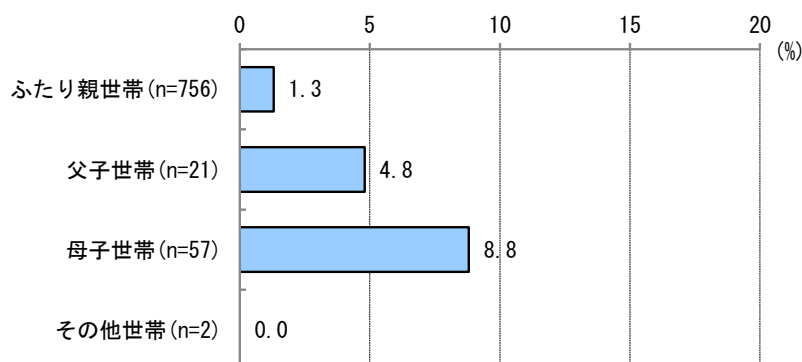


図 158. 世帯構成別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先がない割合

世帯構成別に本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先がない割合を見ると、「相談できる相手がない」と回答した人は、母子世帯で8.8%、父子世帯で4.8%いる。

<2016年度調査との比較／交野市>

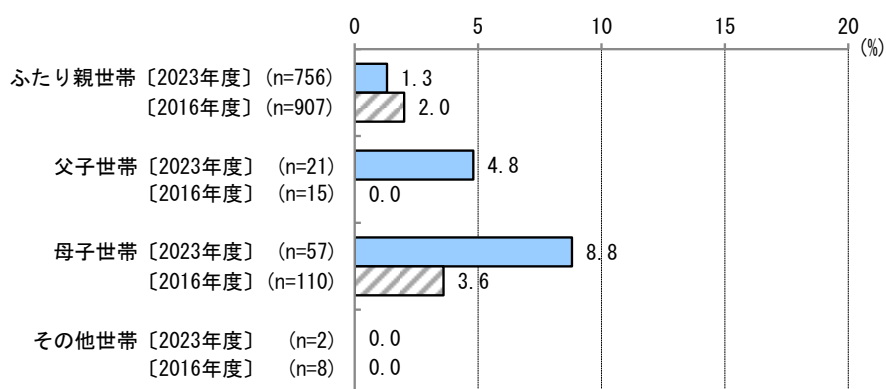
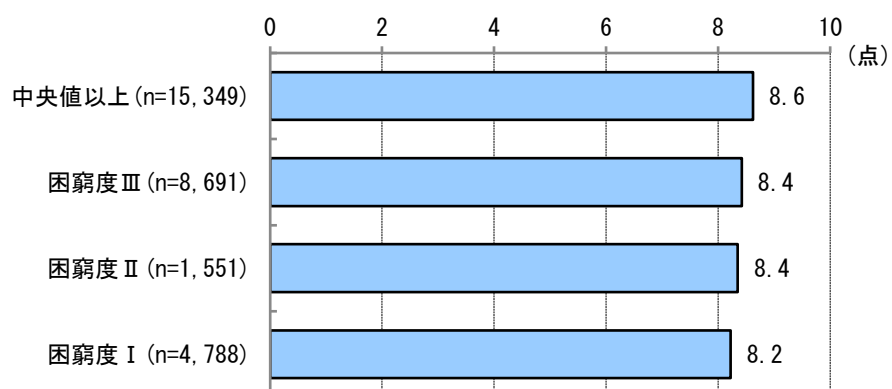


図 159. 世帯構成別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先がない割合 (2016年度調査との比較)

2016年度調査と比較すると、父子世帯と母子世帯の割合は、2016年度調査に比べて高くなっており、一方で、ふたり親世帯は2016年度調査に比べて割合が低くなっている。

困窮度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）（子ども票問 23）

<大阪府内全体>



<交野市>

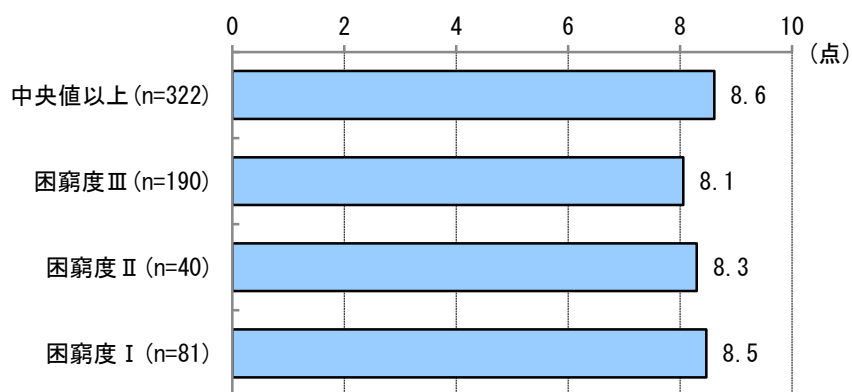
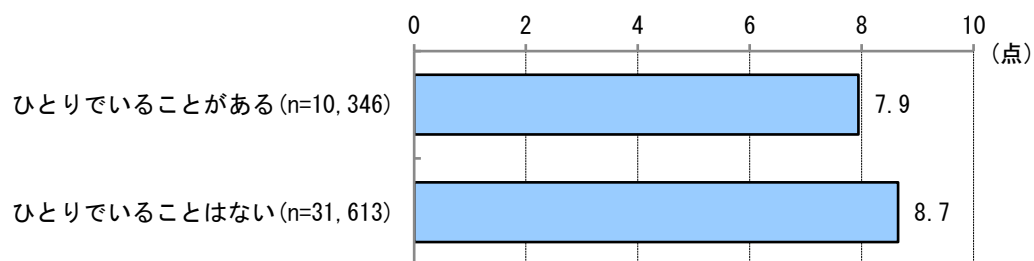


図 160. 困窮度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

困窮度別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）を見ると、中央値以上群が8.6点で最も高く、困窮度Ⅰ～Ⅲ群はいずれも中央値以上群よりもセルフ・エフィカシーが低くなっている。

子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかと、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）
（子ども票問 10×子ども票問 23）

<大阪府内全体>



<交野市>

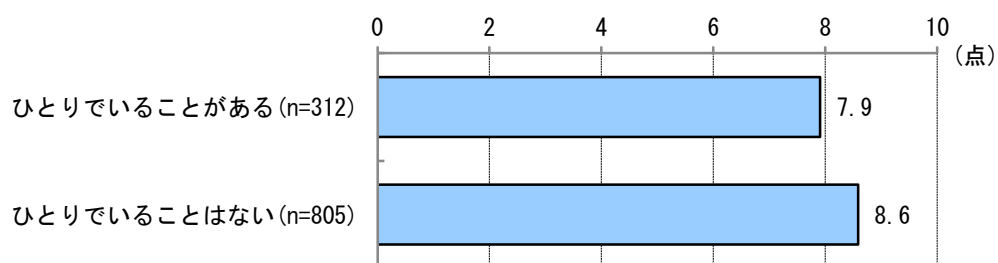


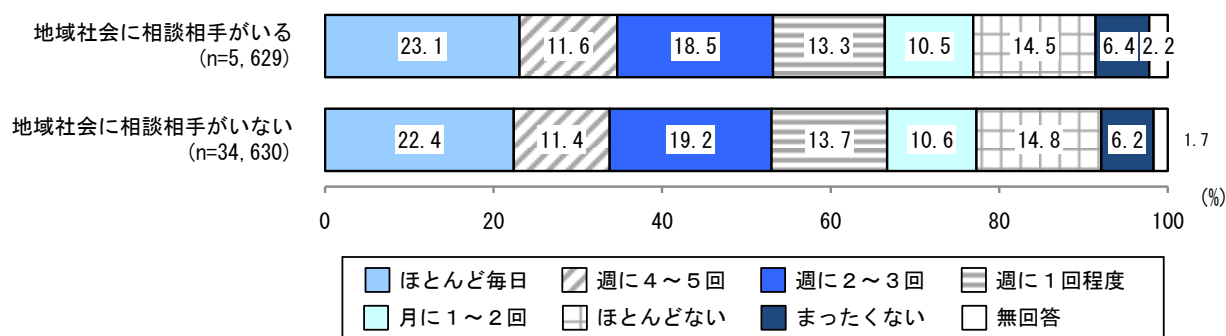
図 161. 子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかと、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかによって子どもの自己効力感(セルフ・エフィカシー)を見ると、放課後ひとりで過ごす子どもの方がそれでない子どもよりも自己効力感（セルフ・エフィカシー）が低くなっている。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの手伝いをしているか
(保護者票問 19×子ども票問 8④)

※「あなたが本当に困ったときや悩みがあるとき、相談相手や相談先はどこですか」という問に対し、「学校の先生やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー」「公的機関や役所の相談員」「学童保育の指導員」「地域の民生委員・児童委員」「民間の支援団体・カウンセラー（電話相談含む）」「医療機関の医師や看護師」のうち少なくとも1つを選択した人を、「地域社会に相談相手がいる」とした。

<大阪府内全体>



<交野市>

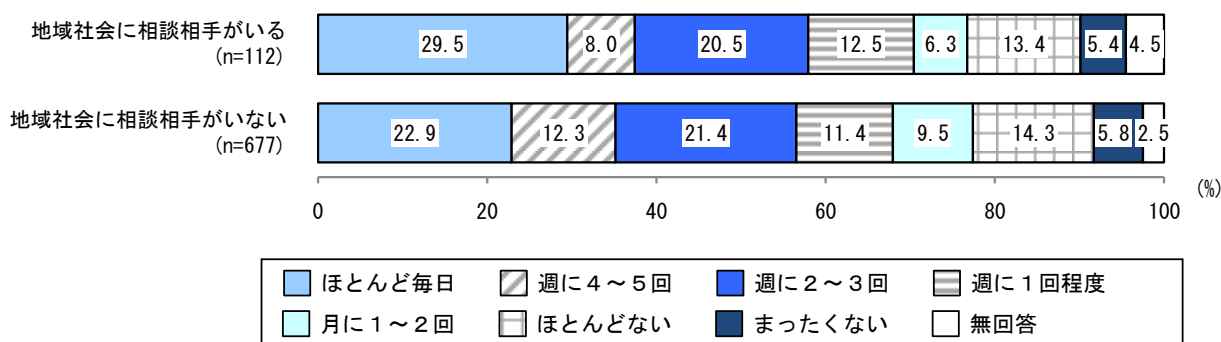
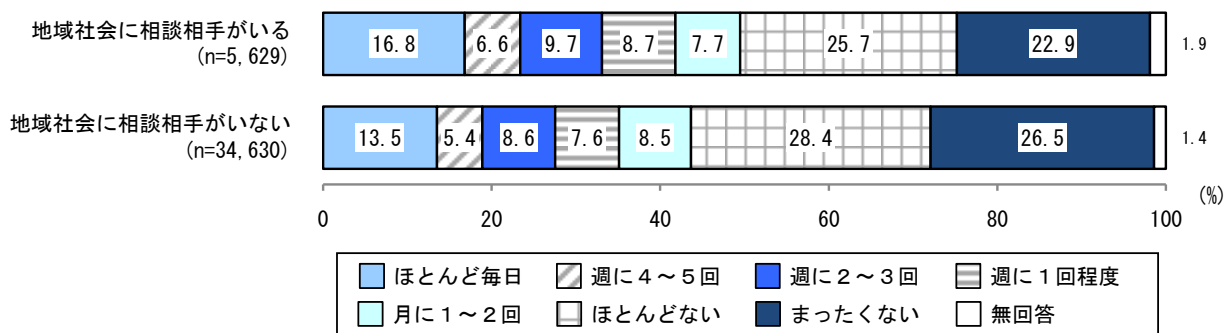


図 162. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの手伝いをしているか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、家の手伝いをしているかを見ると、地域社会に相談相手がいる人の方が、地域社会に相談相手がない人よりも、子どもがおうちの手伝いをしているかに「ほとんど毎日」、「週に1回程度」と回答する割合が高くなっている。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか
（保護者票問 19×子ども票問 8 ⑤）

<大阪府内全体>



<交野市>

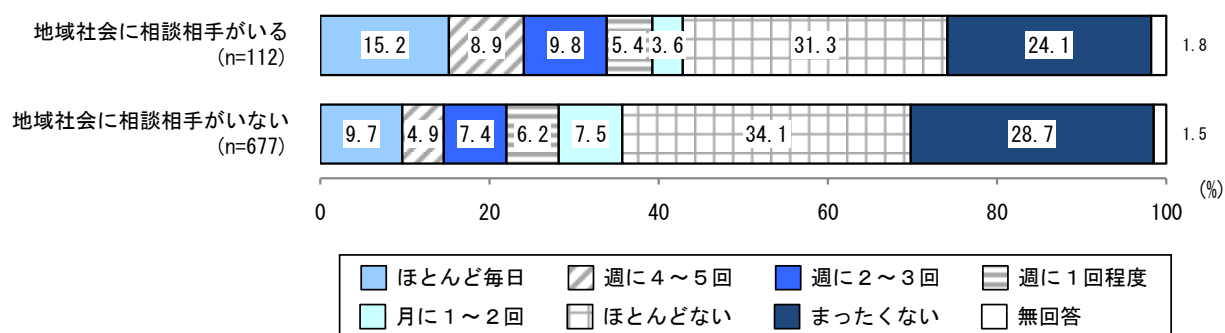
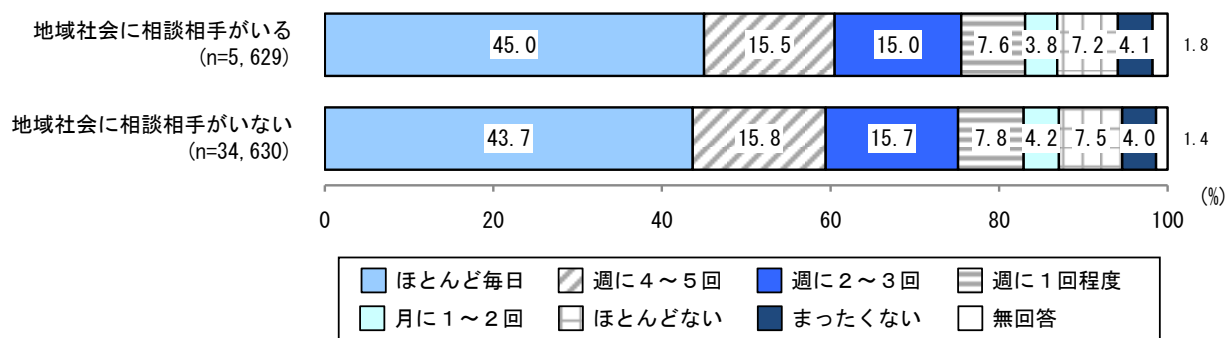


図 163. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうかを見ると、地域社会に相談相手がいる人の方が、地域社会に相談相手がない人よりも、おうちの大人の人に宿題（勉強）を見てもらっているかに「ほとんど毎日」、「週に4～5回」、「週に2～3回」と回答する割合が高くなっている。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人のひとと学校でのできごとについて話すか
(保護者票問 19×子ども票問 8 ⑥)

<大阪府内全体>



<交野市>

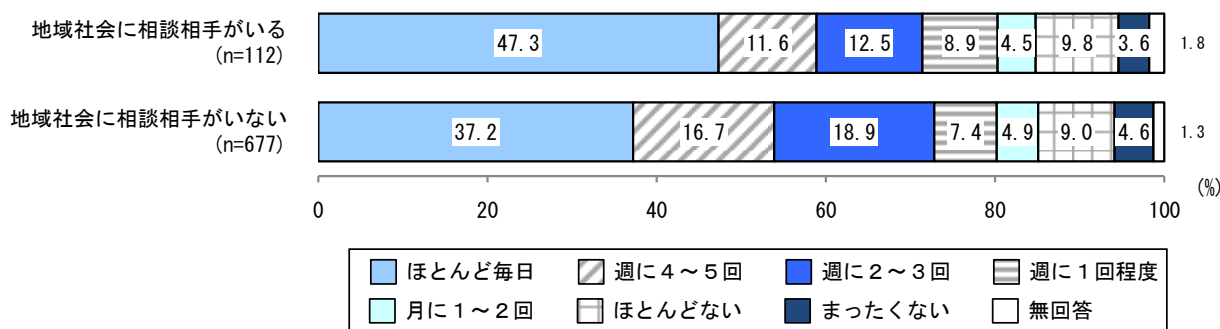
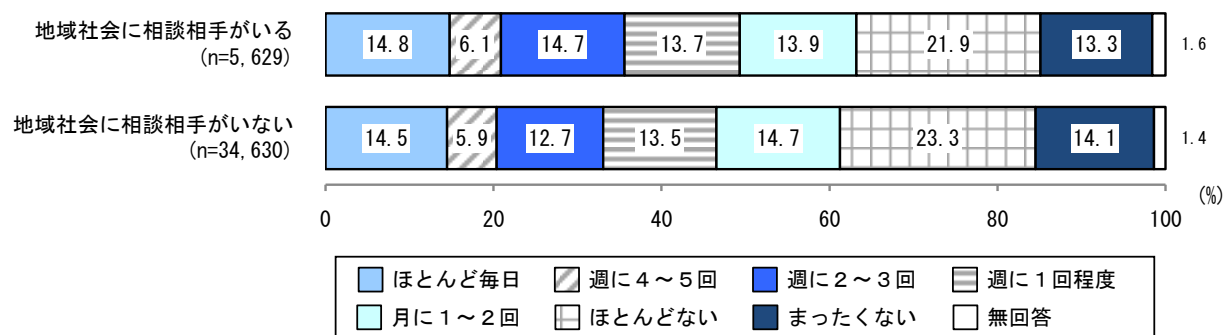


図 164. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人のひとと学校でのできごとについて話すか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人のひとと学校でのできごとについて話すかを見ると、地域社会に相談相手がいる人の方が、地域社会に相談相手がない人よりも、おうちの大人のひとと学校でのできごとについて話すかに「ほとんど毎日」、「週に1回程度」、「ほとんどない」と回答する割合が高くなっている。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするか
(保護者票問 19×子ども票問 8⑦)

<大阪府内全体>



<交野市>

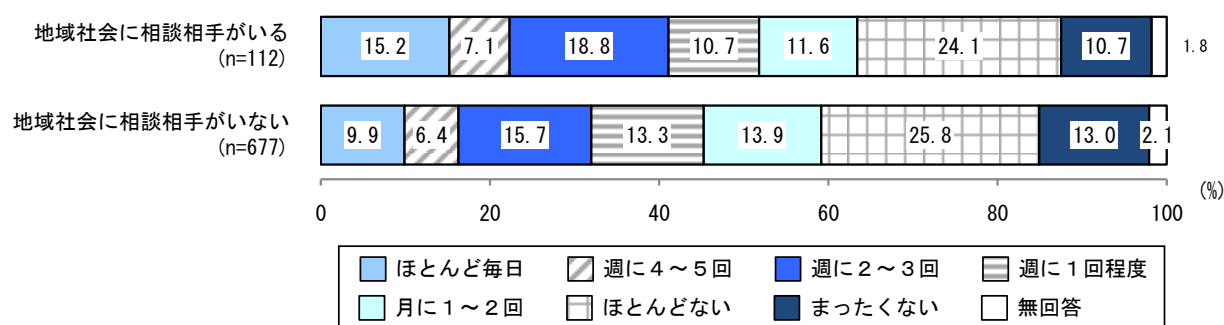
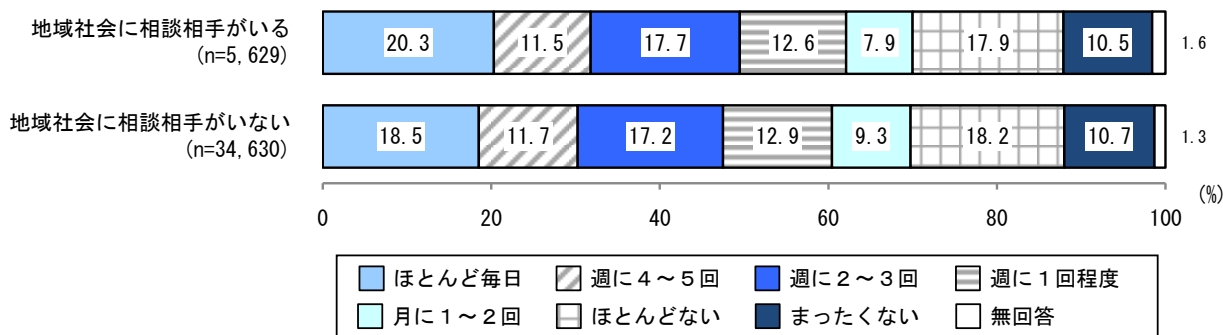


図 165. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするかを見ると、地域社会に相談相手がいる人の方が、地域社会に相談相手がない人よりも、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするかに「ほとんど毎日」、「週に4～5回」、「週に2～3回」と回答する割合が高くなっている。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すか（保護者票問 19×子ども票問 8 ⑧）

<大阪府内全体>



<交野市>

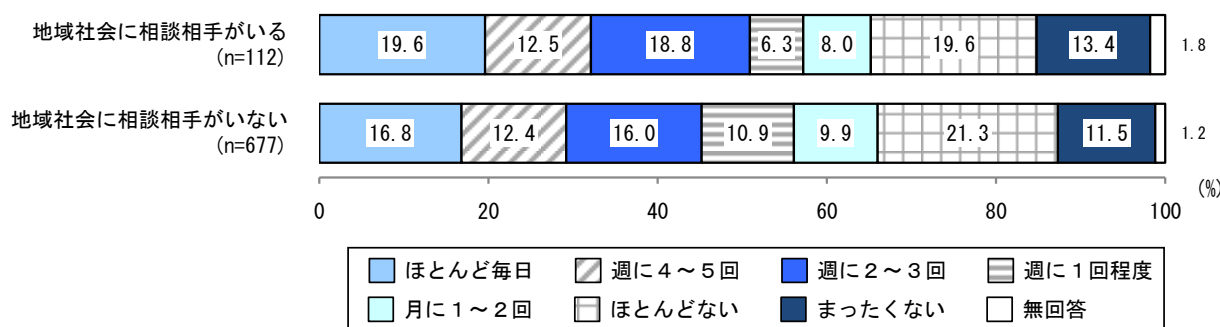
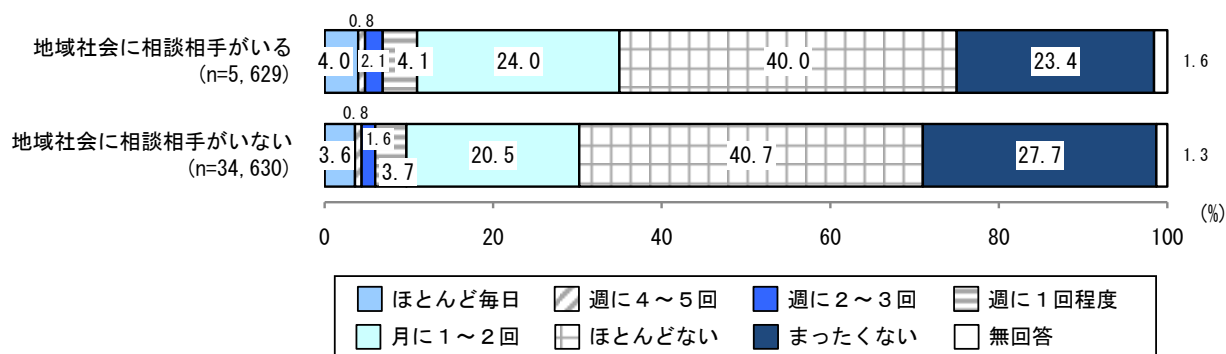


図 166. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すかを見ると、地域社会に相談相手がいる人の方が、地域社会に相談相手がない人よりも、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すかに「ほとんど毎日」、「週に4～5回」、「週に2～3回」、「まったく」と回答する割合が高くなっている。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と文化活動をするか
(保護者票問 19×子ども票問 8 ⑨)

<大阪府内全体>



<交野市>

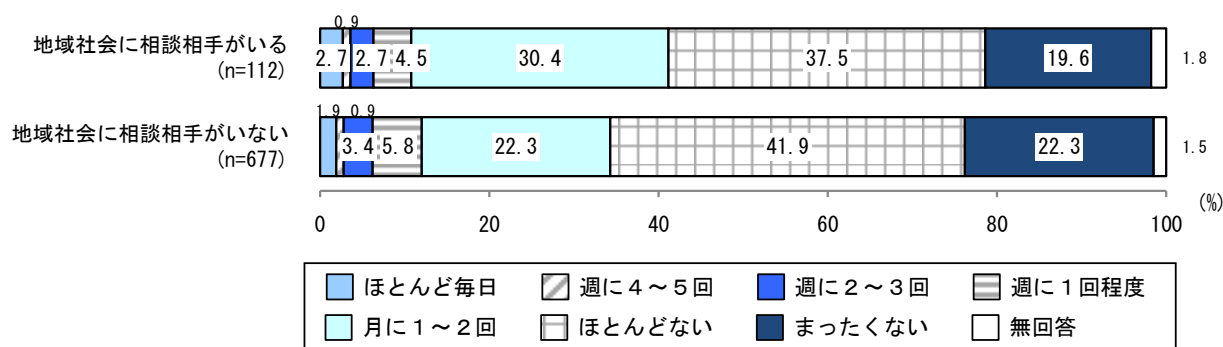
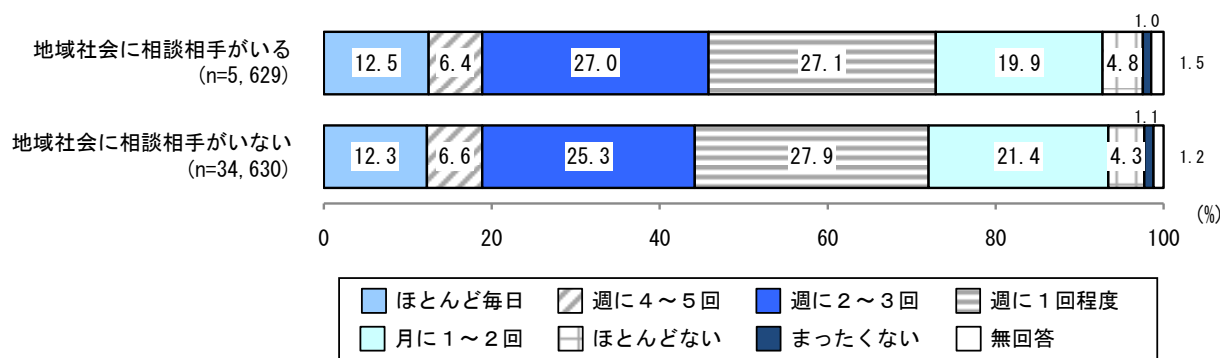


図 167. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と文化活動をするか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と文化活動をするかを見ると、地域社会に相談相手がいる人の方が、地域社会に相談相手がない人よりも、おうちの大人の人と文化活動をするかに「ほとんど毎日」、「月に1～2回」と回答する割合が高くなっている。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と一緒に外出するか
(保護者票問 19×子ども票問 8 ⑩)

<大阪府内全体>



<交野市>

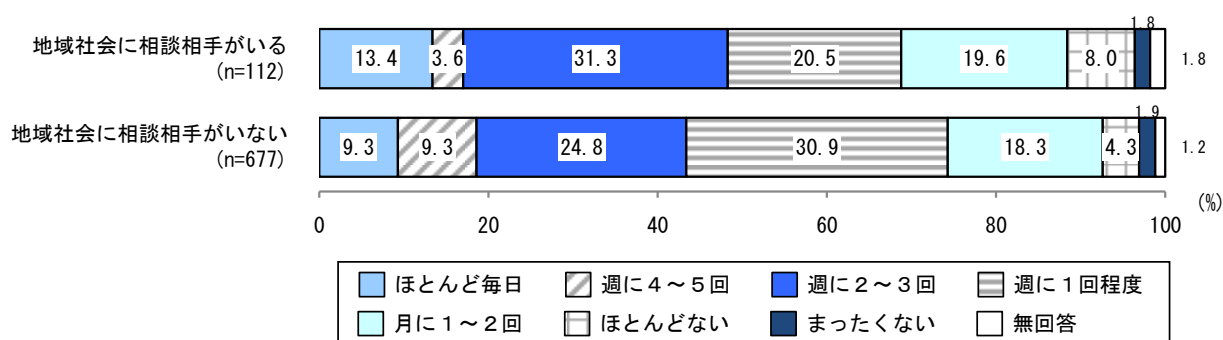
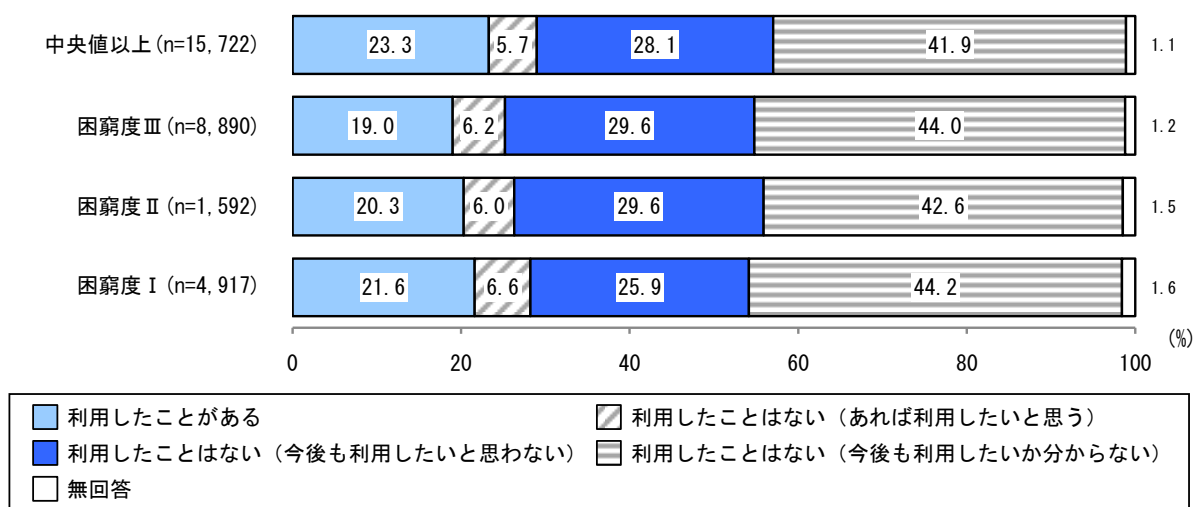


図 168. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と一緒に外出するか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と一緒に外出するかを見ると、地域社会に相談相手がいる人の方が、地域社会に相談相手がない人よりも、おうちの大人の人と一緒に外出するかに「ほとんど毎日」、「週に2～3回」、「月に1～2回」、「ほとんどない」と回答する割合が高くなっている。

困窮度別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所（子ども票問 25(1)①）

<大阪府内全体>



<交野市>

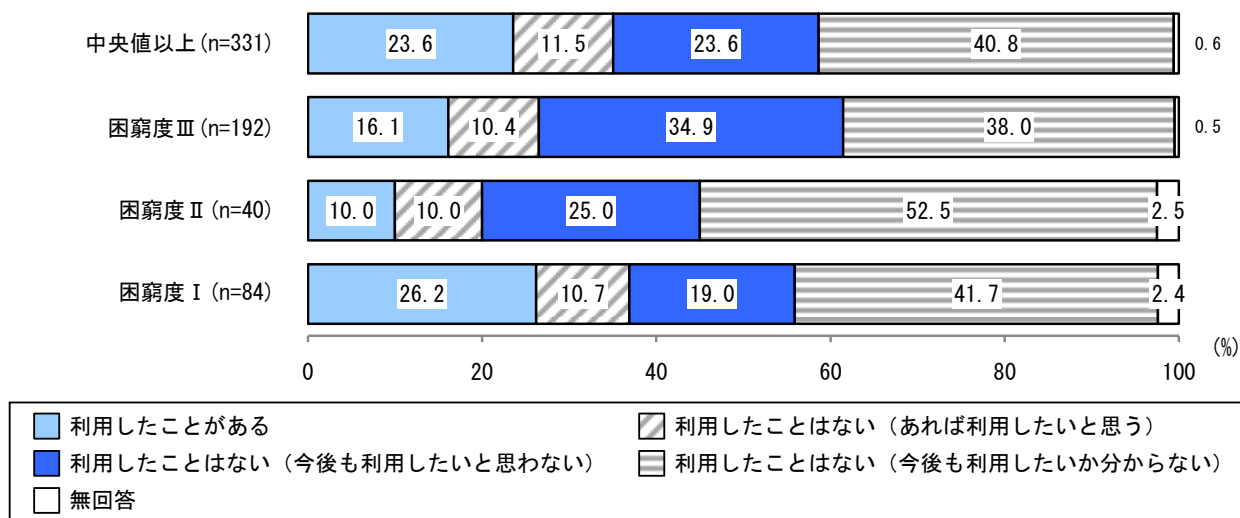
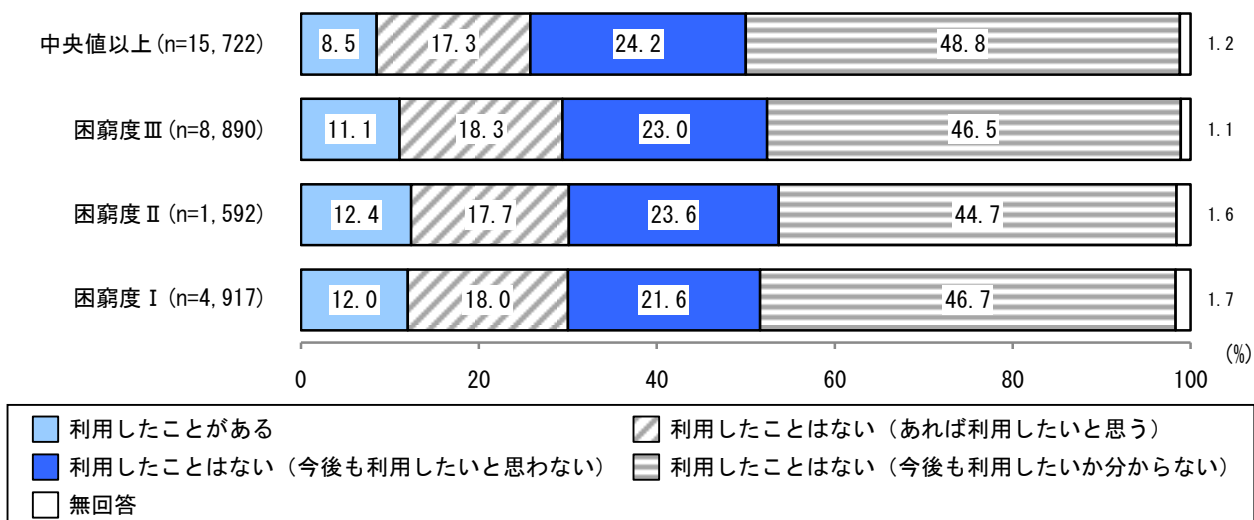


図 169. 困窮度別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所

困窮度別に平日の夜や休日を過ごすことができる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した割合は、困窮度Ⅰ群が26.2%で最も高く、困窮度Ⅱ群が10.0%で最も低くなっている。

困窮度別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所
(子ども票問 25(1)②)

<大阪府内全体>



<交野市>

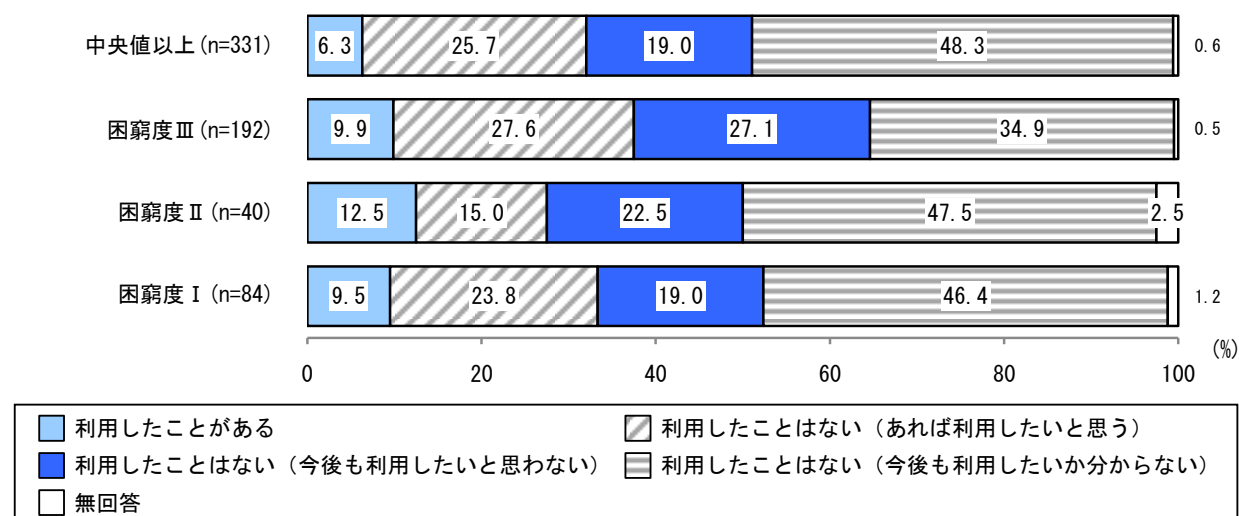
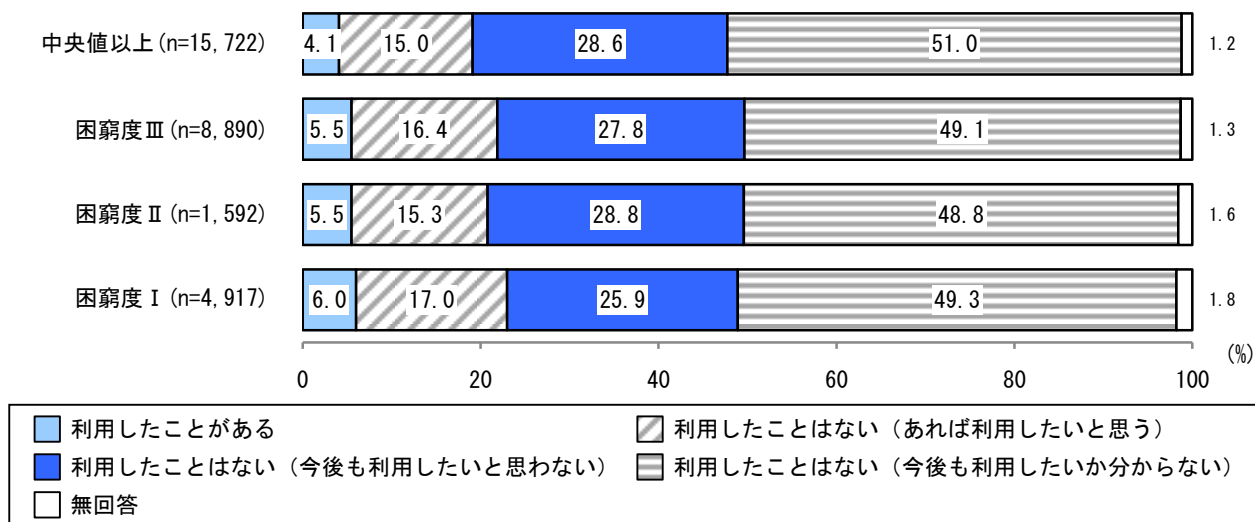


図 170. 困窮度別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所

困窮度別に昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所を見ると、「利用したことはない (今後も利用したいか分からない)」と回答した割合は、中央値以上群が48.3%で最も高くなっている。

困窮度別に見た、勉強を無料か安い料金でみしてくれる場所（子ども票問 25(1)③）

<大阪府内全体>



<交野市>

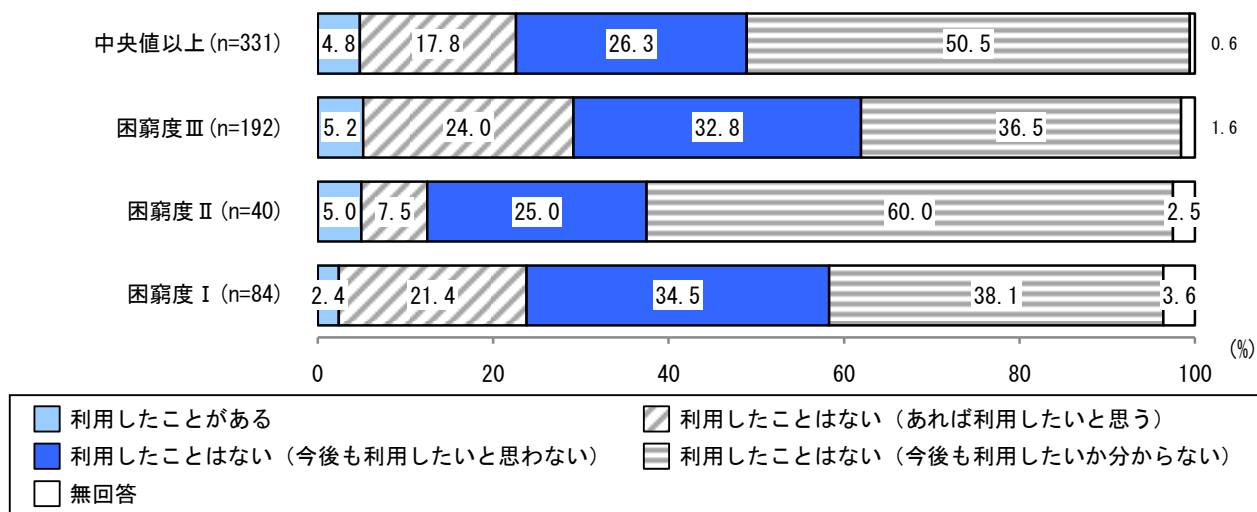
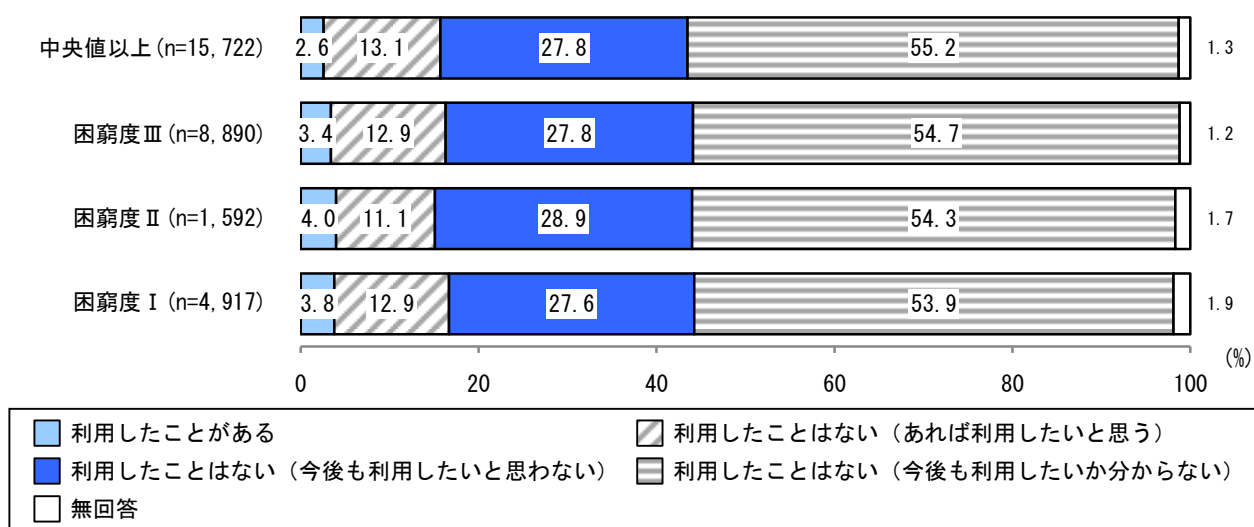


図 171. 困窮度別に見た、勉強を無料か安い料金でみしてくれる場所

困窮度別に勉強を無料か安い料金でみしてくれる場所を見ると、「利用したことはない (今後も利用したいと思わない)」と回答した割合は、困窮度Ⅰ群が34.5%で最も高くなっている。

困窮度別に見た、何でも相談できる場所（子ども票問 25(1)④）

<大阪府内全体>



<交野市>

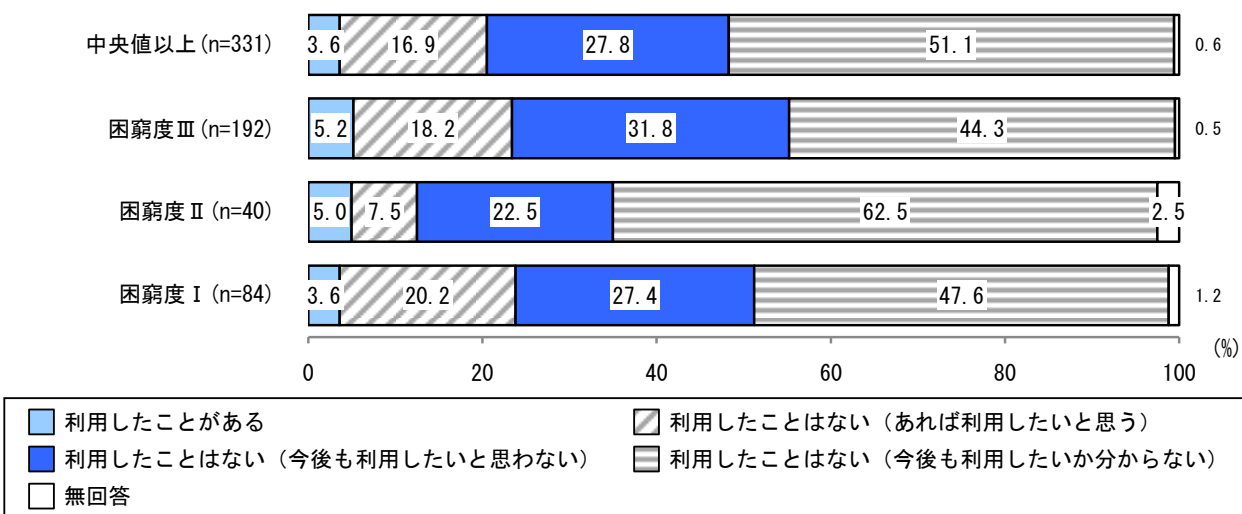
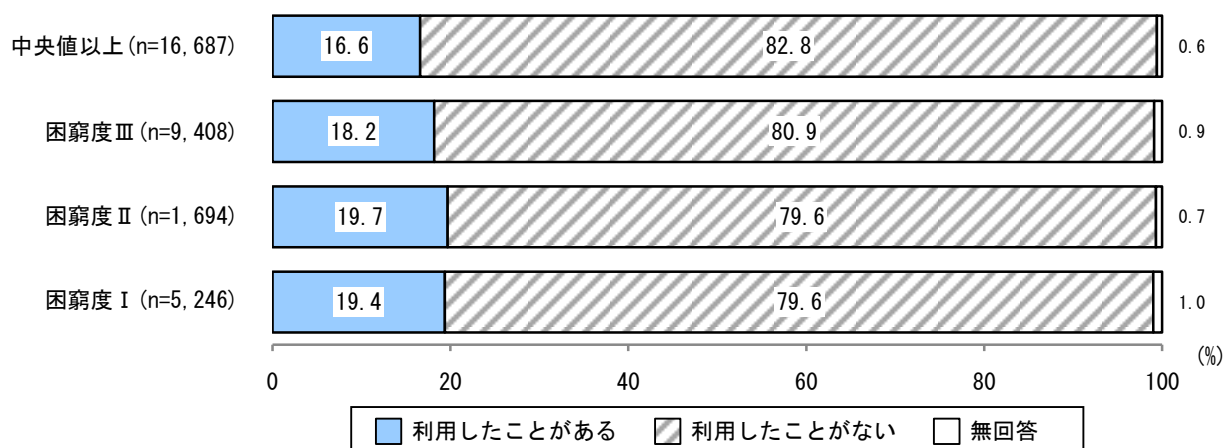


図 172. 困窮度別に見た、何でも相談できる場所

困窮度別に何でも相談できる場所を見ると、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」と回答した割合は、困窮度Ⅱ群が62.5%で最も高くなっている。

困窮度別に見た、子どもの居場所の利用経験（保護者票問 16(1)）

<大阪府内全体>



<交野市>

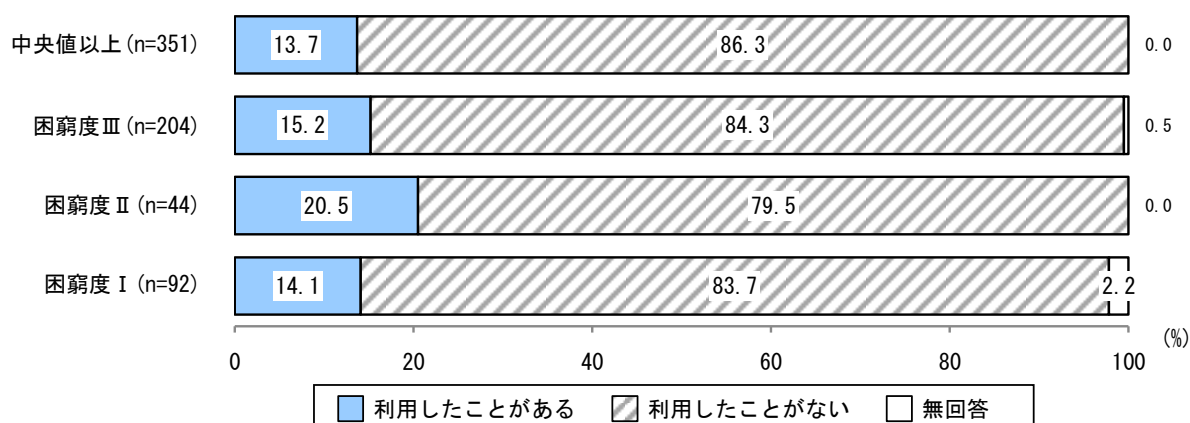
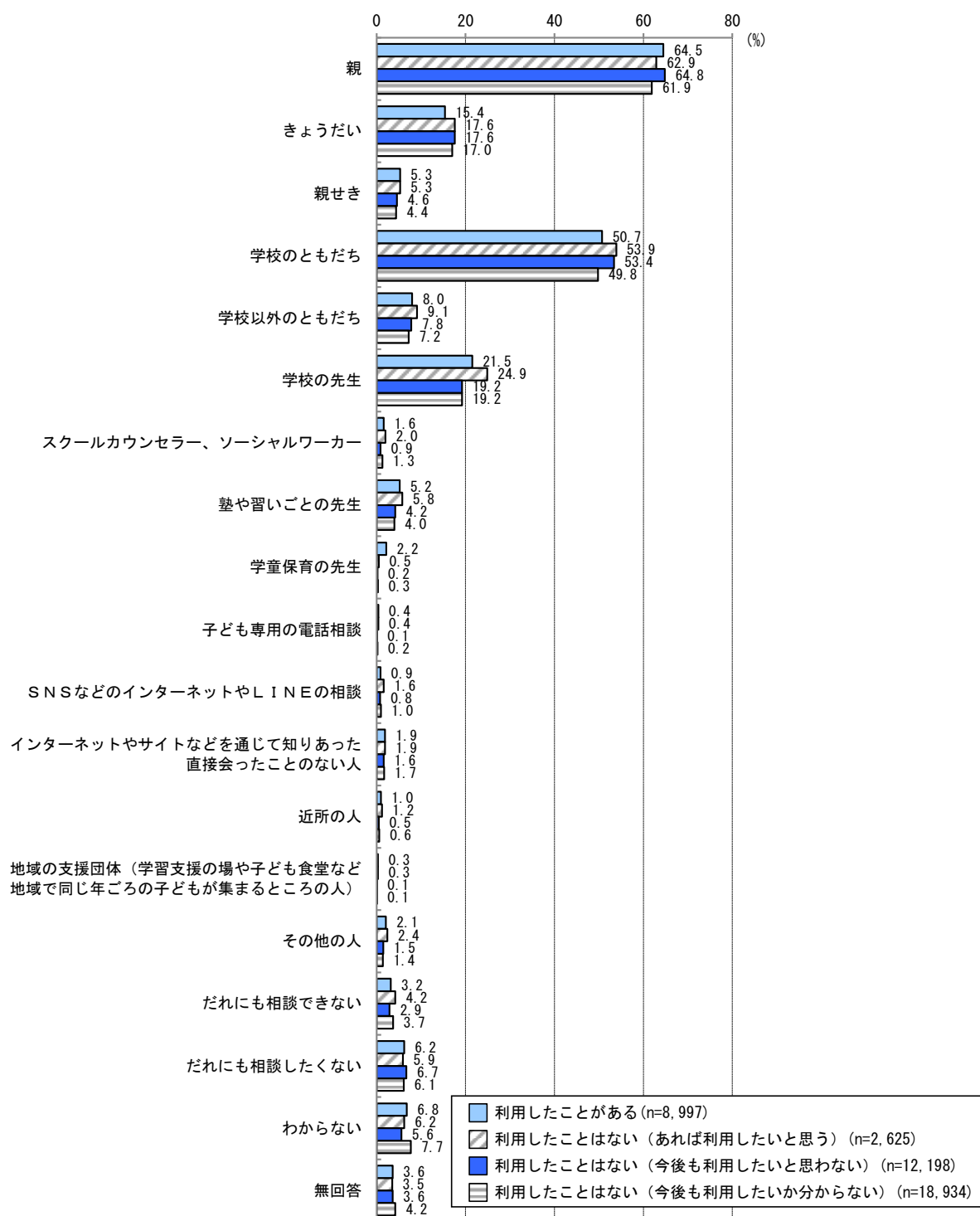


図 173. 困窮度別に見た、子どもの居場所の利用経験

困窮度別に子どもの居場所の利用経験を見ると、「利用したことがある」と回答した割合は、中央値以上群が13.7%で最も低く、困窮度Ⅱ群が20.5%で最も高くなっている。

平日の夜や休日を過ごすことができる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手
(子ども票問 25(1)①×子ども票問 18)

<大阪府内全体>



<交野市>

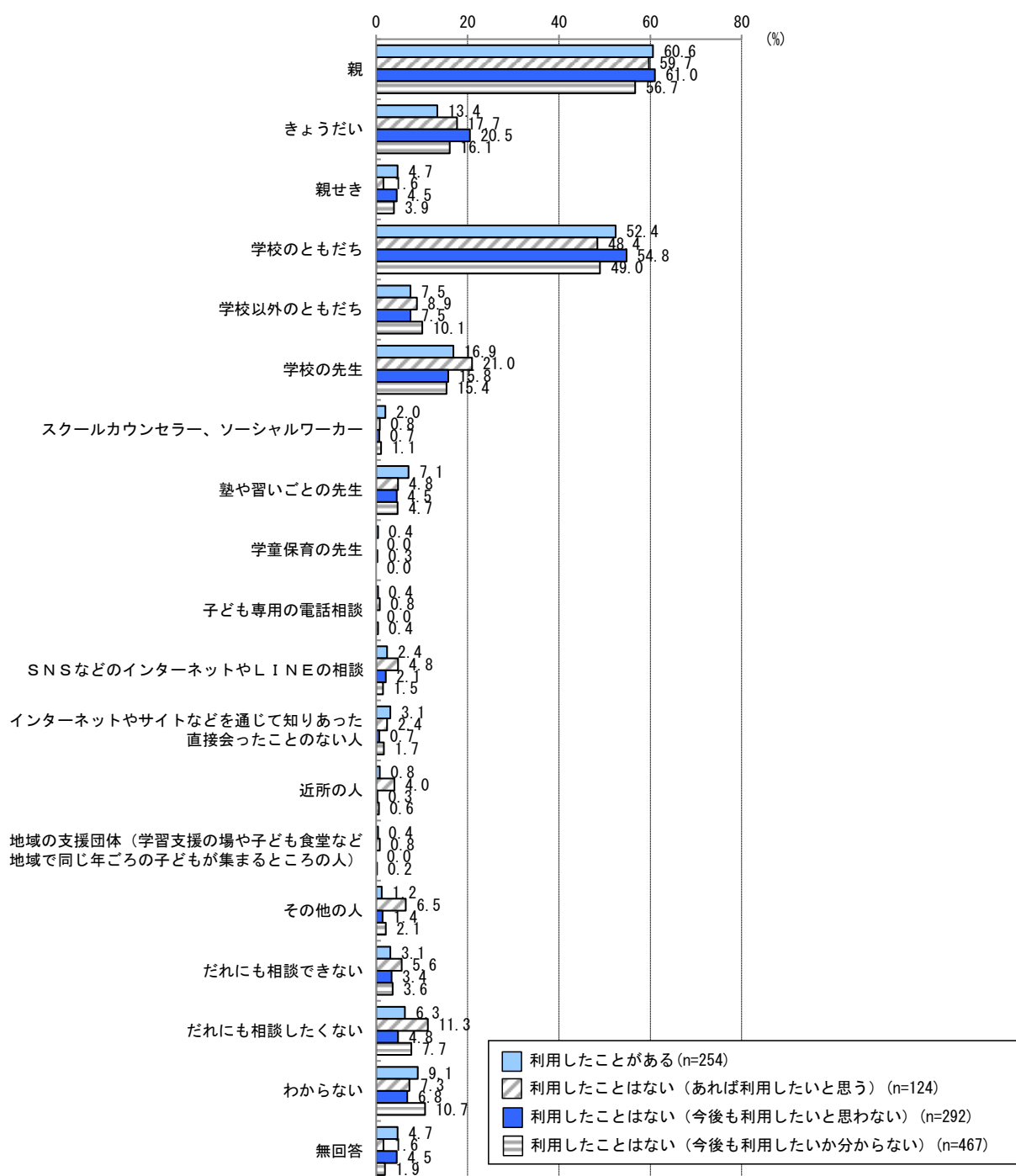
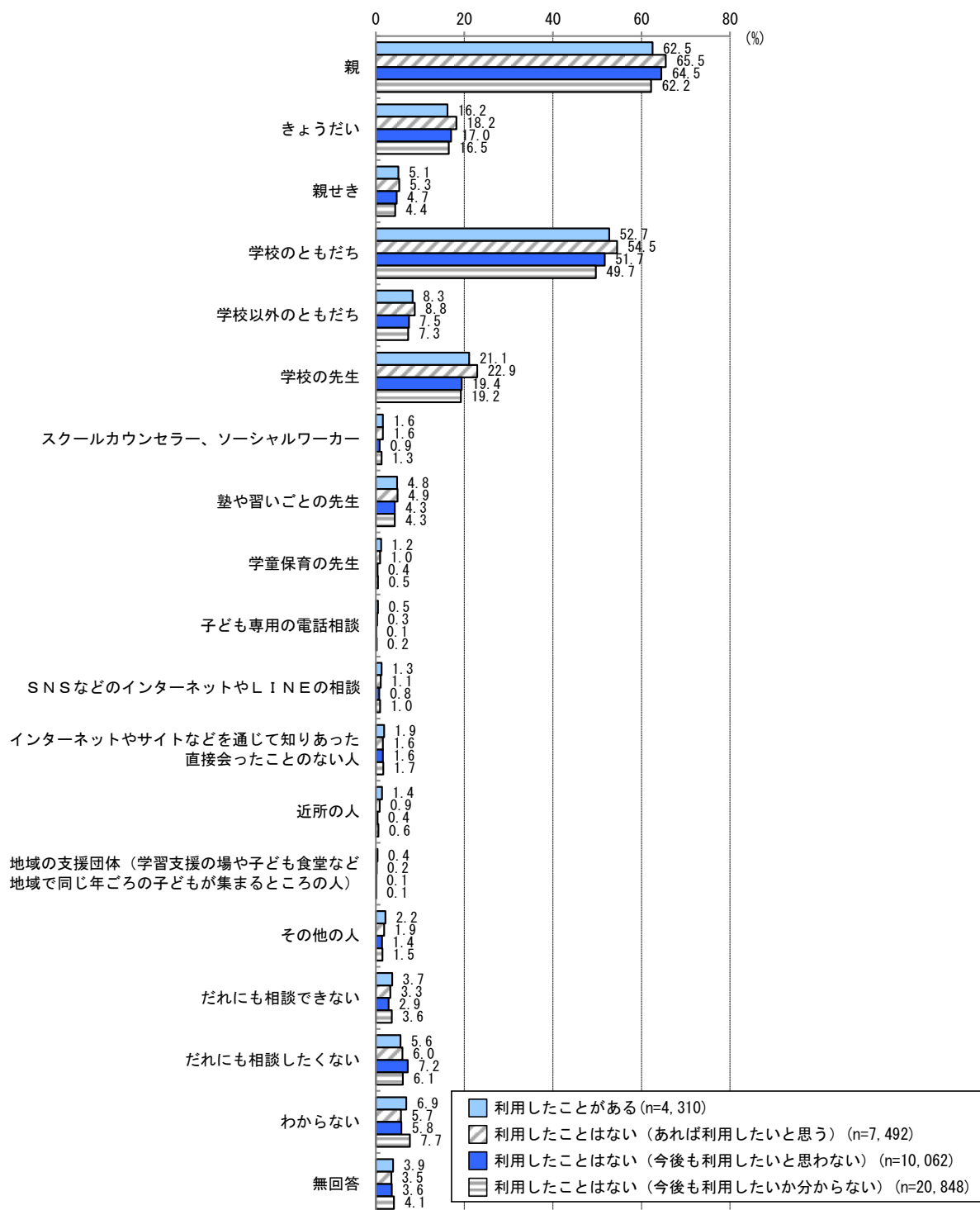


図 174. 平日の夜や休日を過ごすことができる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

平日の夜や休日を過ごすことができる場所別に嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、複数の項目で利用したことがある人が利用したことがない人よりも高くなっているが、「塾や習いごとの先生」は特に差が大きくなっている。

昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手（子ども票問 25 (1)②×子ども票問 18)

<大阪府内全体>



<交野市>

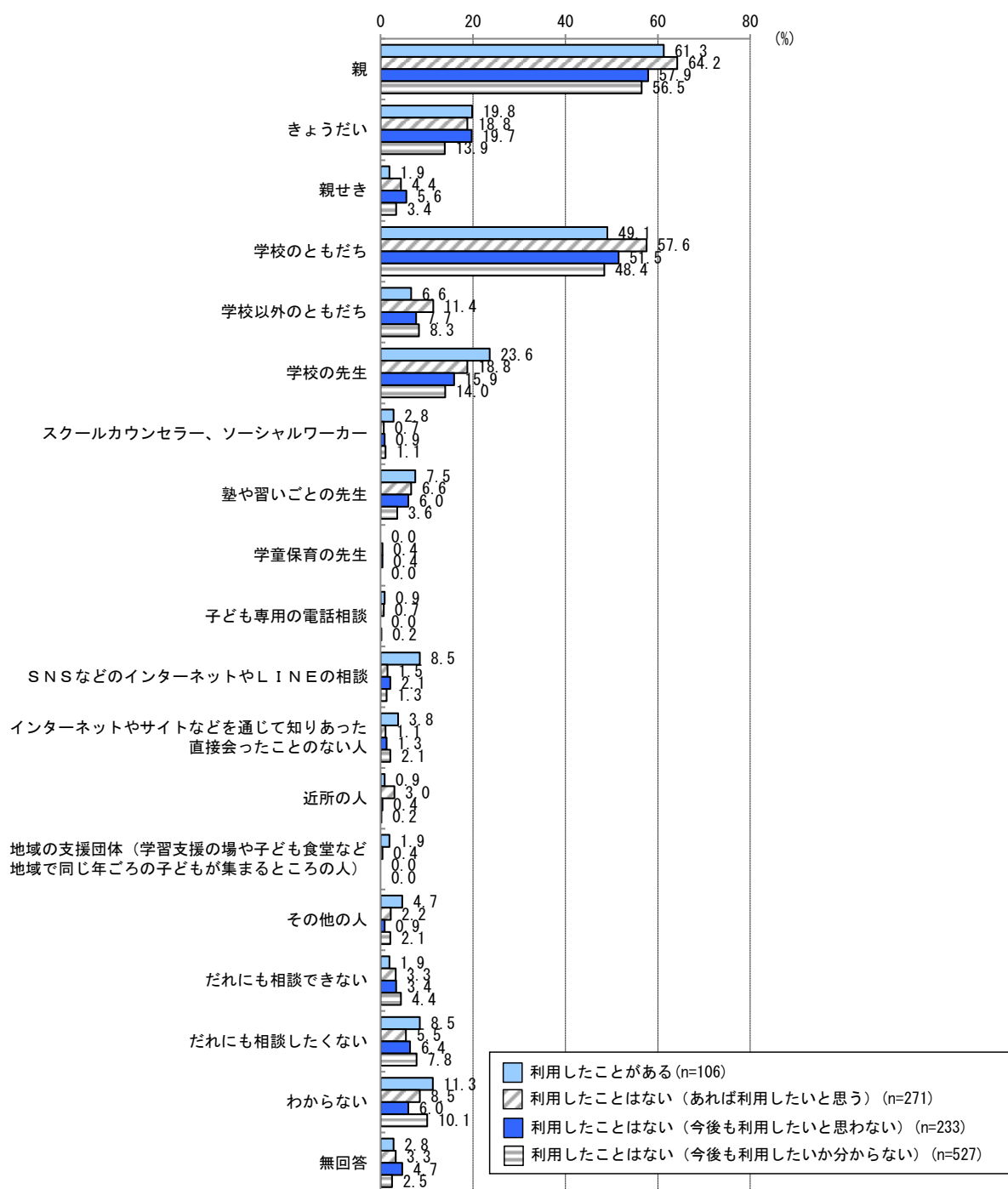
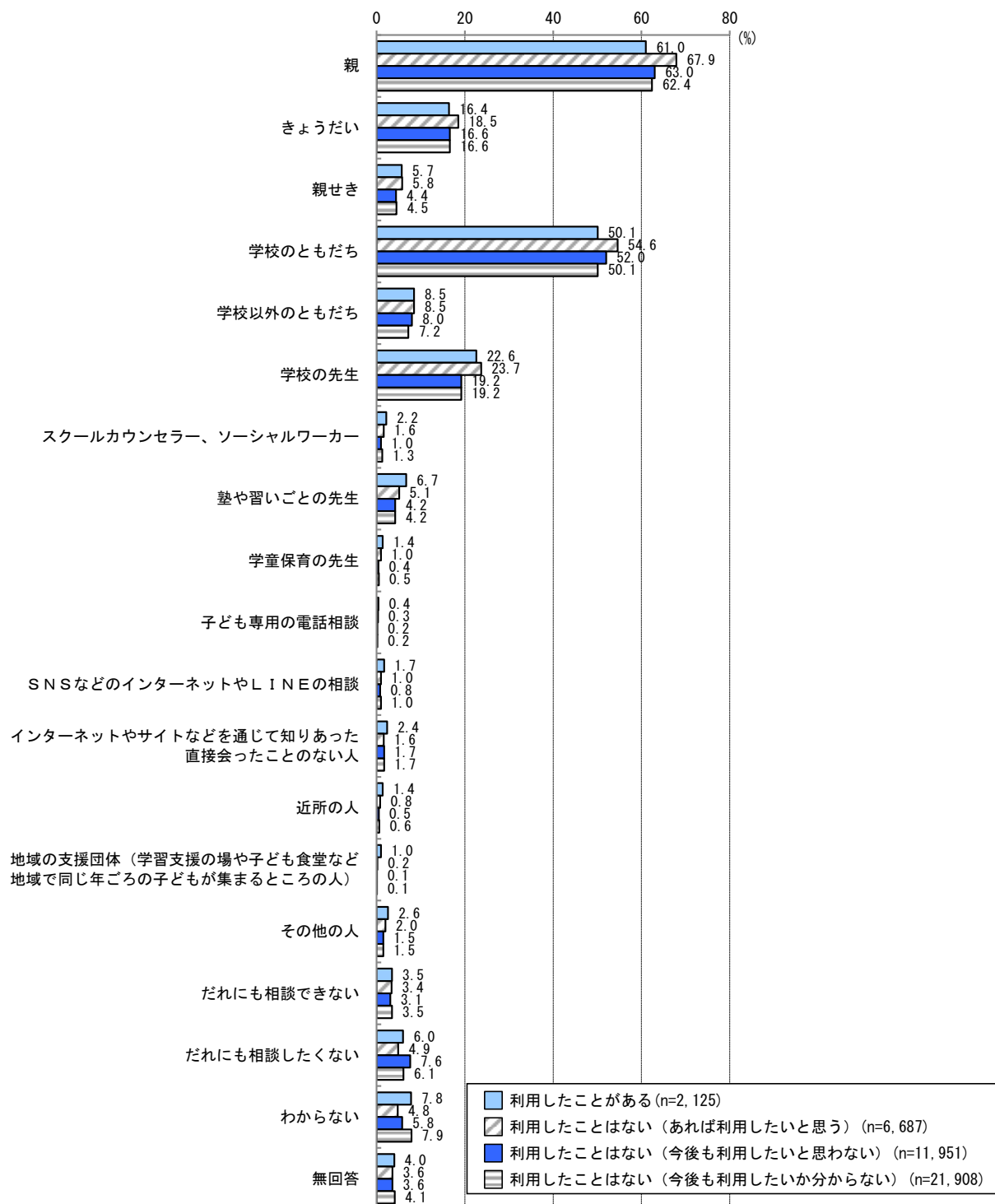


図 175. 昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所別に嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、複数の項目で利用したことがある人が利用したことがない人よりも高くなっているが、「SNSなどのインターネットやLINEの相談」は特に差が大きくなっている。

勉強を無料か安い料金でみてくれる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手
(子ども票問 25(1)③×子ども票問 18)

<大阪府内全体>



<交野市>

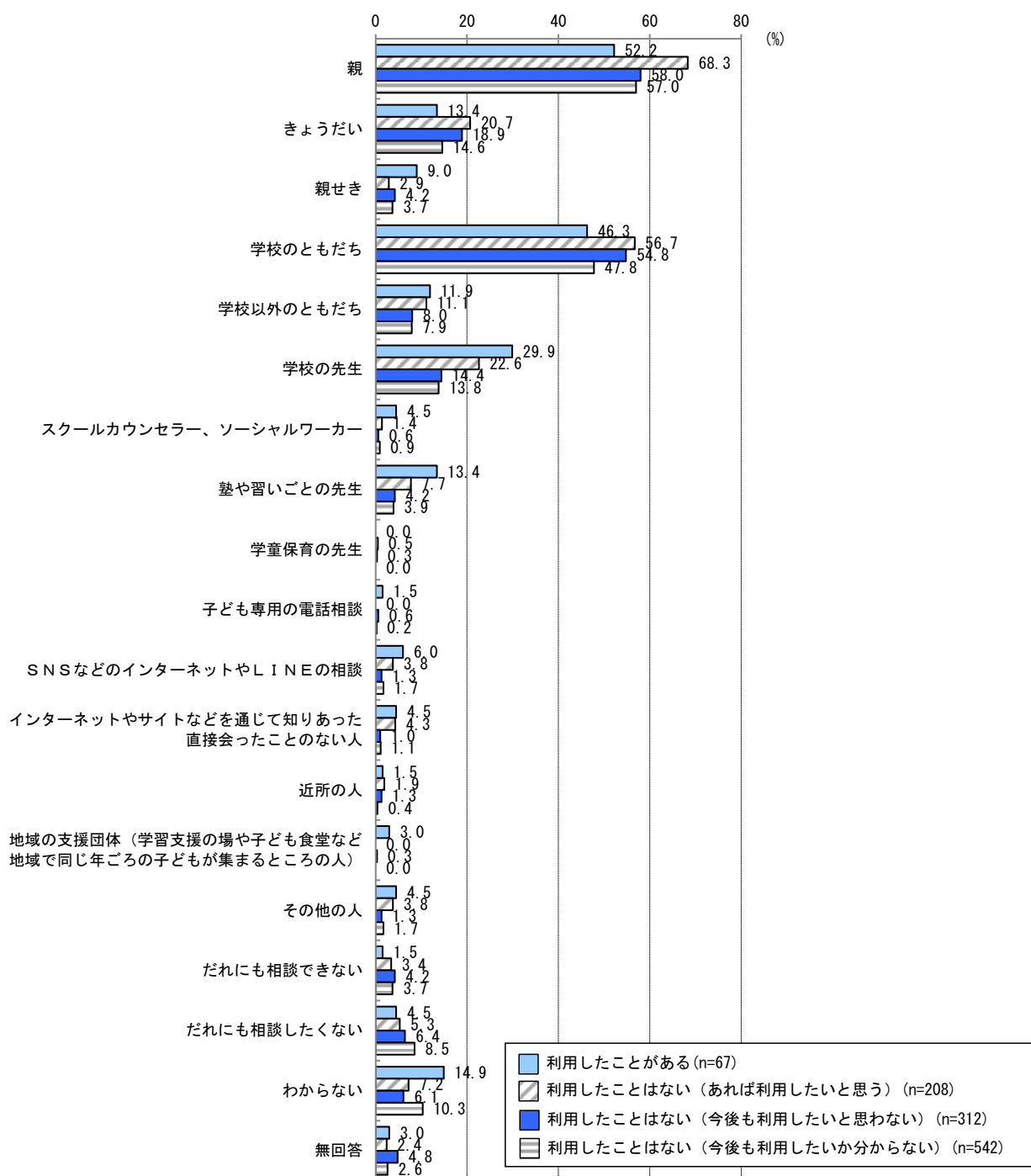
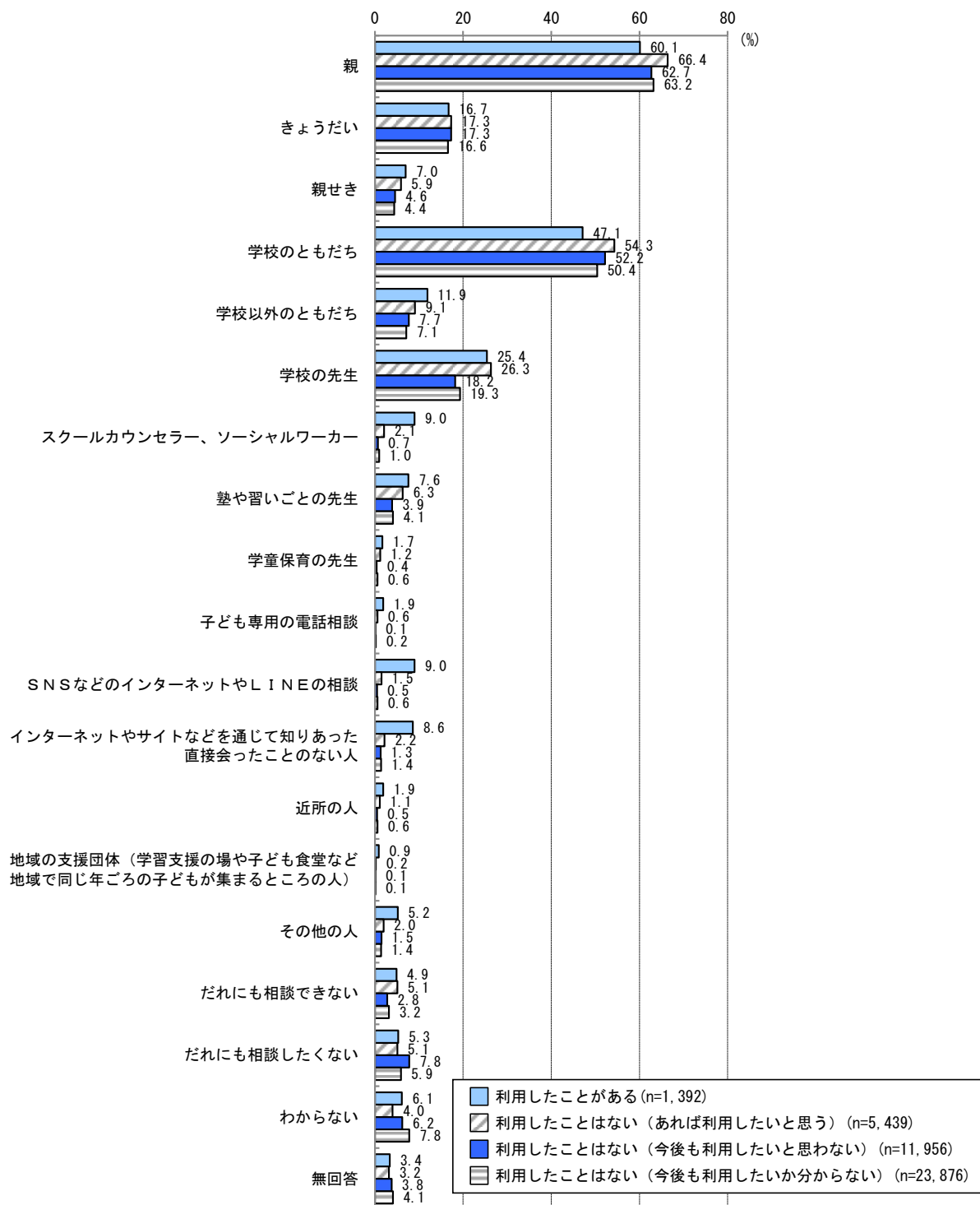


図 176. 勉強を無料か安い料金でみてくれる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

勉強を無料か安い料金でみてくれる場所別に嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、複数の項目で利用したことがある人が利用したことがない人よりも高くなっているが、「学校の先生」は特に差が大きくなっている。

何でも相談できる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手
(子ども票問 25(1)④×子ども票問 18)

<大阪府内全体>



＜交野市＞

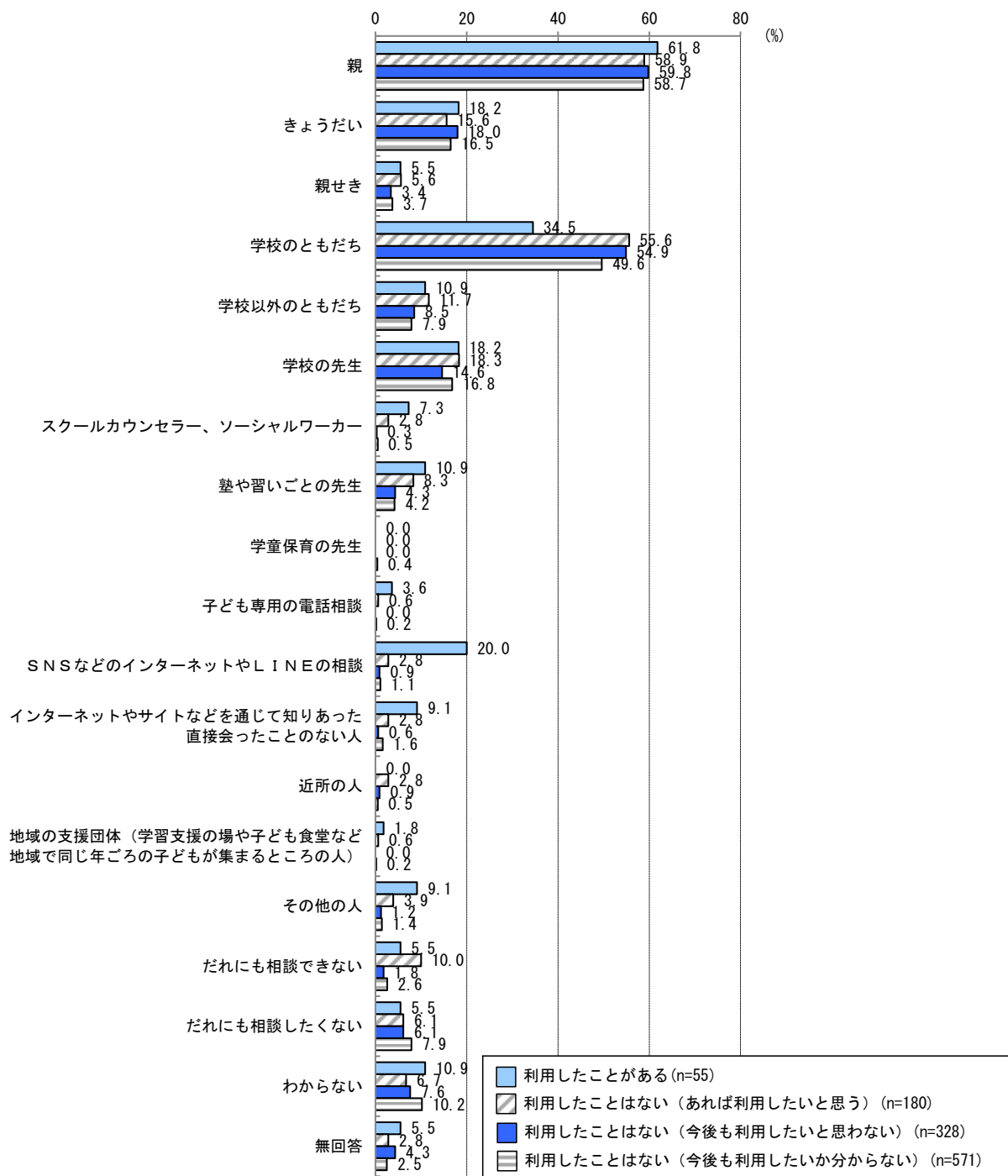
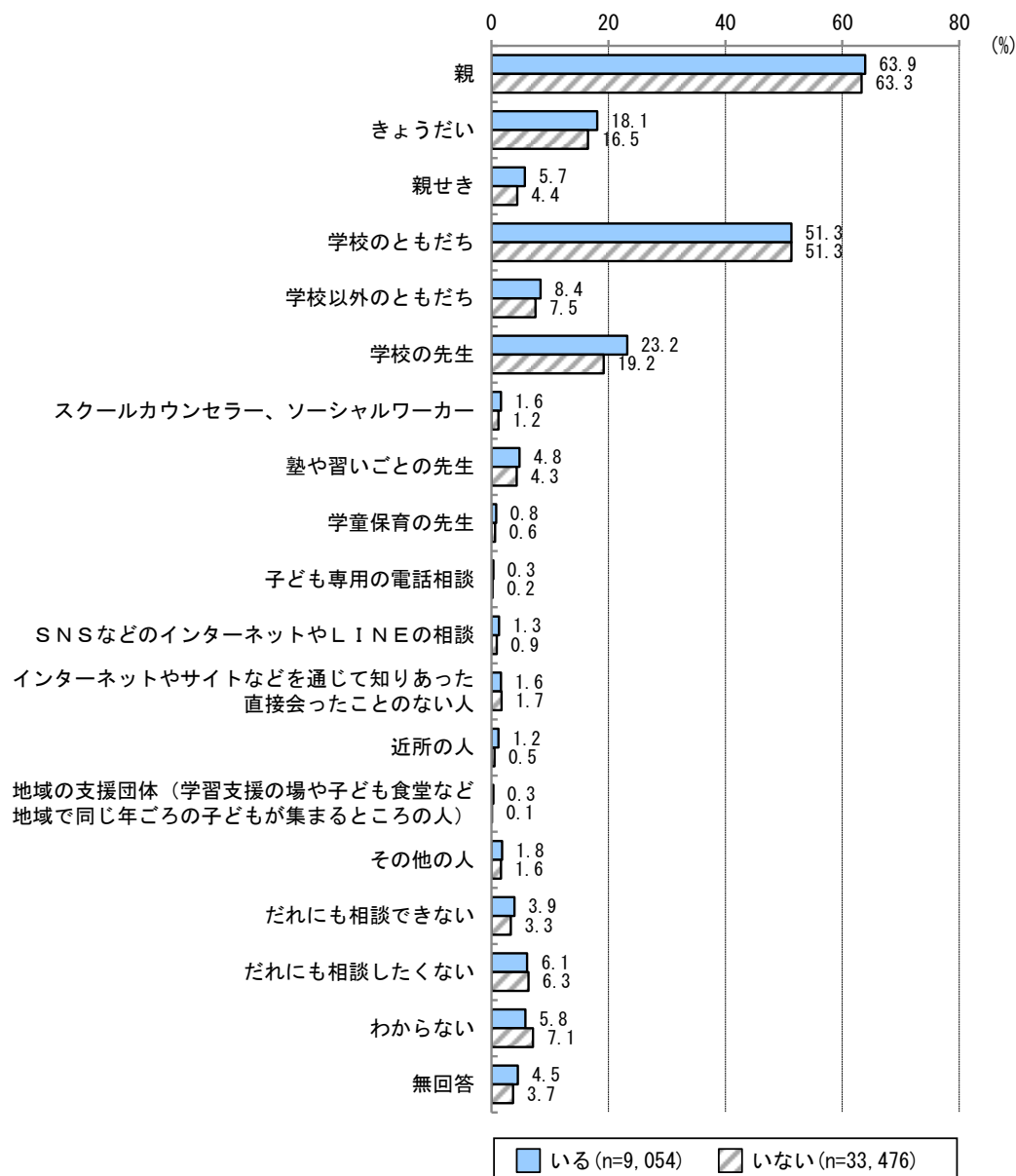


図 177. 何でも相談できる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

何でも相談できる場所別に嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、複数の項目で利用したことがある人が利用したことがない人よりも高くなっているが、「SNSなどのインターネットやLINEの相談」は特に差が大きくなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手
(子ども票問 26(1) × 子ども票問 18)

<大阪府内全体>



<交野市>

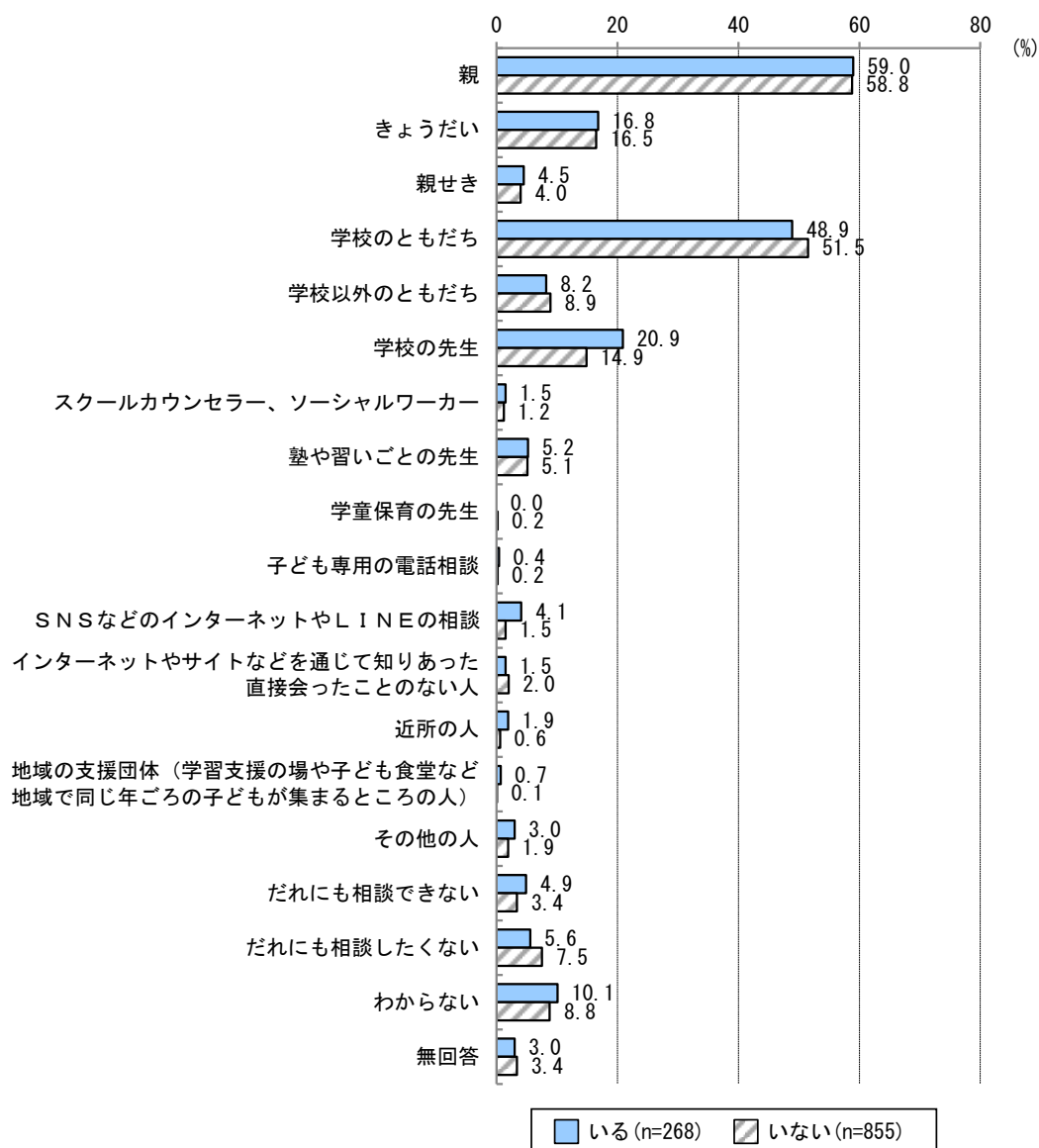
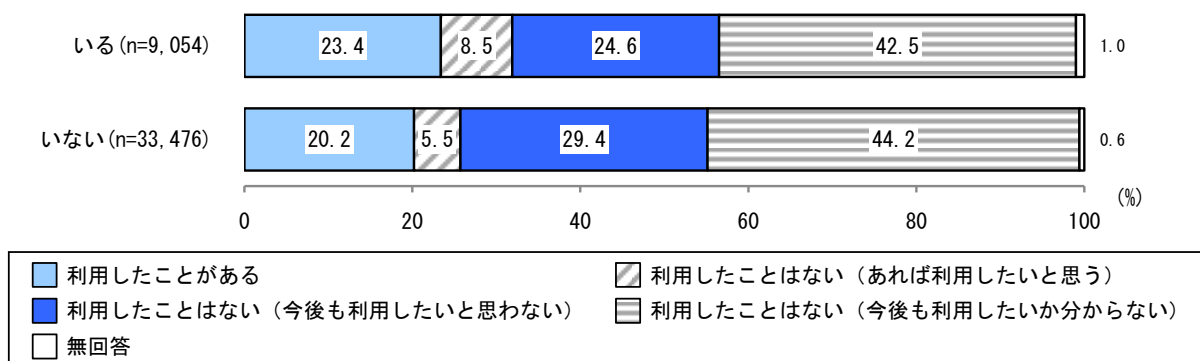


図 178. 自分が世話をしている人の有無別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

自分が世話をしている人の有無別に嫌なことや悩んでいるときの相談相手をみると、「学校の先生」と回答した人の割合は、世話をしている人がいない人よりいる人のほうが高く、世話をしている人がいる人では20.9%となっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所
(子ども票問 26(1) × 子ども票問 25(1)①)

<大阪府内全体>



<交野市>

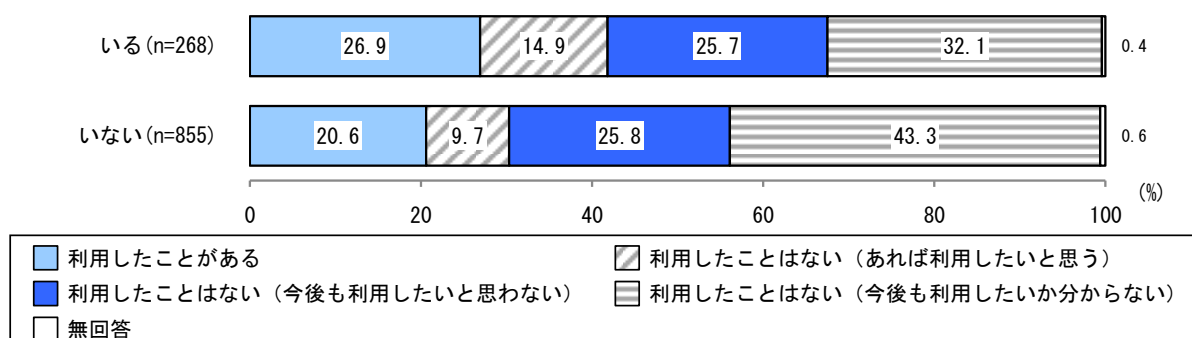
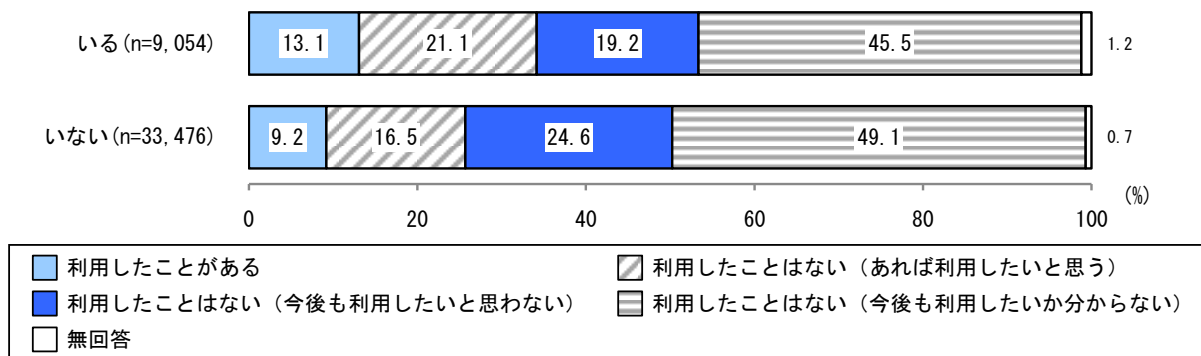


図 179. 自分が世話をしている人の有無別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所

自分が世話をしている人の有無別に平日の夜や休日を過ごすことができる場所を見ると、平日の夜や休日を過ごすことができる場所を「利用したことがある」、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」と回答した人の割合は、世話をしている人がいない人よりいる人のほうが高くなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども票問 26(1) × 子ども票問 25(1)②）

<大阪府内全体>



<交野市>

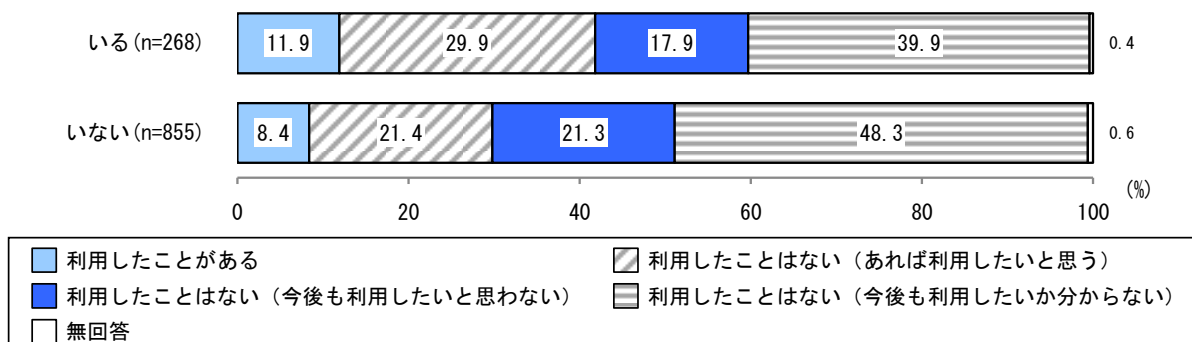
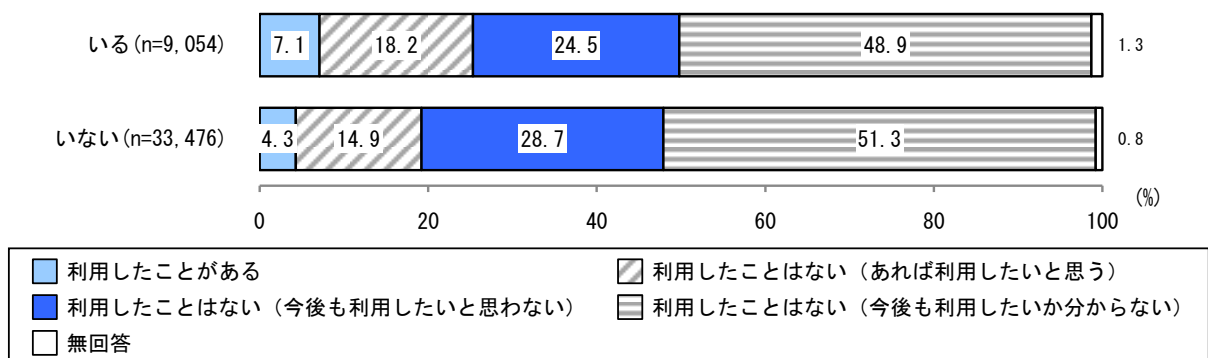


図 180. 自分が世話をしている人の有無別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所

自分が世話をしている人の有無別に昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所を見ると、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所を「利用したことがある」、「利用したことはない (あれば利用したいと思う)」と回答した人の割合は、世話をしている人がいない人よりいる人のほうが高くなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、勉強を無料か安い料金でみてる場所
(子ども票問 26(1) × 子ども票問 25(1)③)

<大阪府内全体>



<交野市>

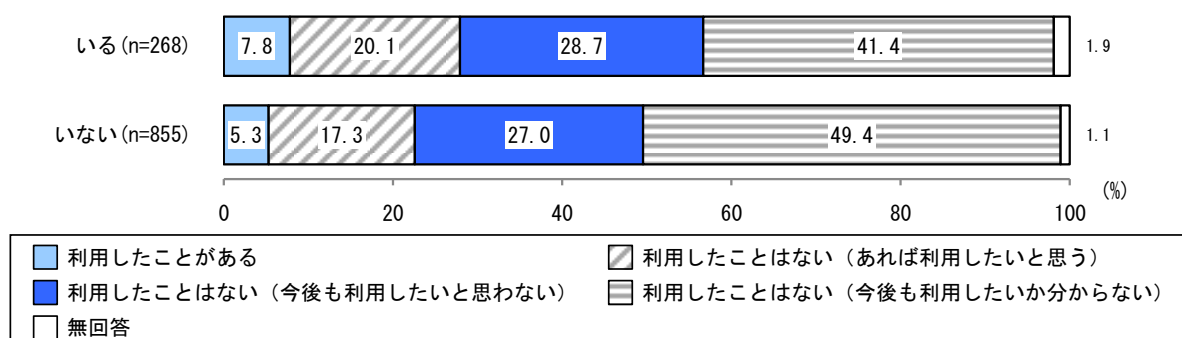
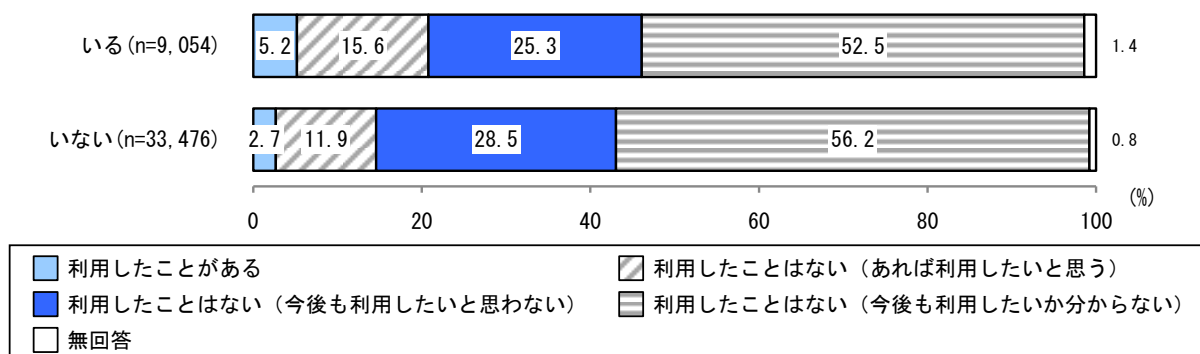


図 181. 自分が世話をしている人の有無別に見た、勉強を無料か安い料金でみてる場所

自分が世話をしている人の有無別に勉強を無料か安い料金でみてる場所を見ると、勉強を無料か安い料金でみてる場所を「利用したことはない(今後も利用したいか分からない)」と回答した人の割合は、世話をしている人がいない人よりいる人のほうが低くなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、何でも相談できる場所
(子ども票問 26(1) × 子ども票問 25(1)④)

<大阪府内全体>



<交野市>

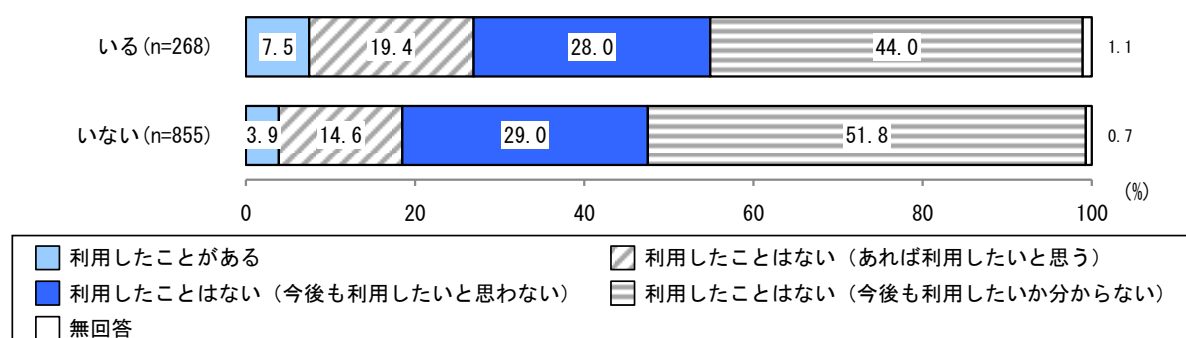
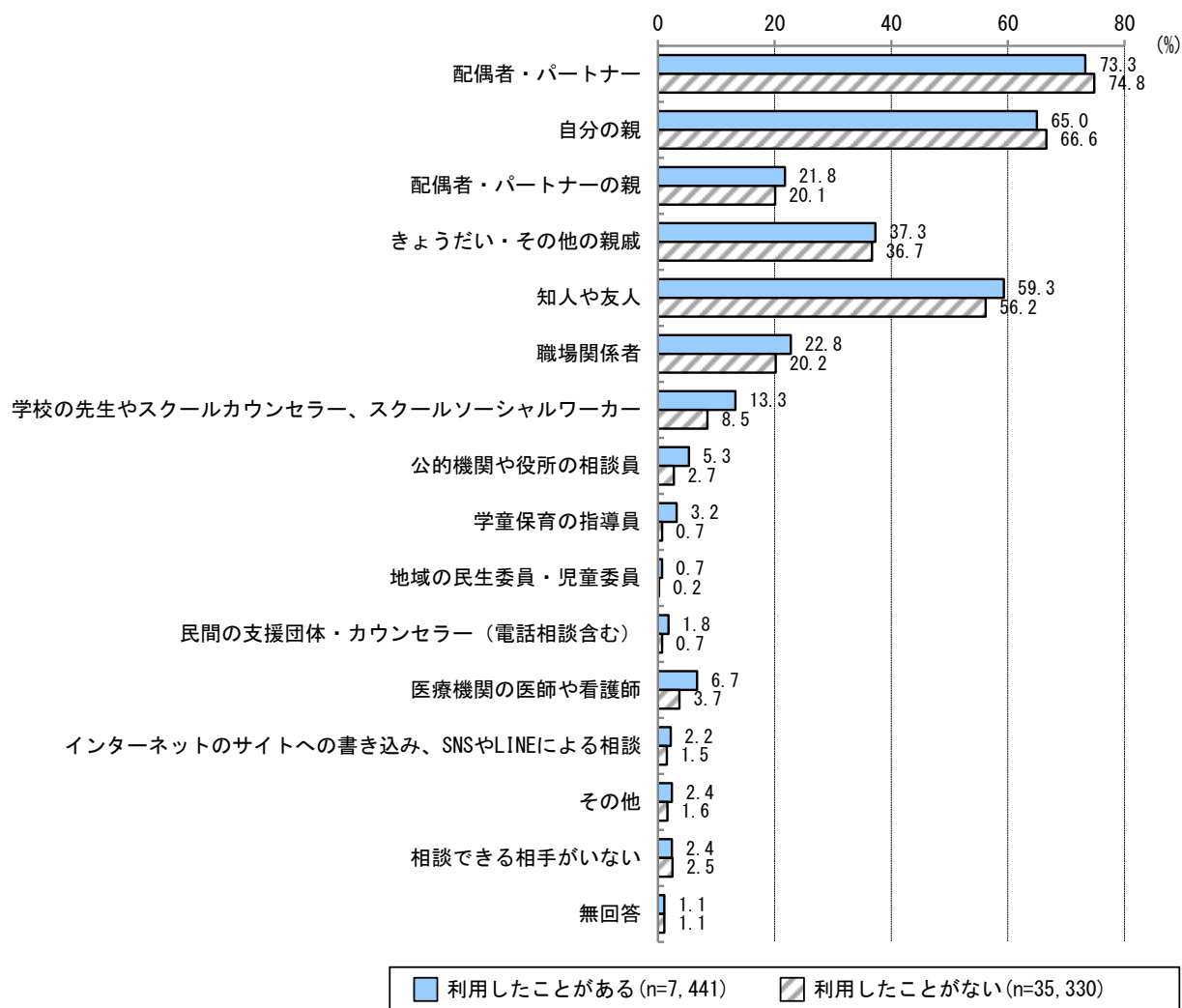


図 182. 自分が世話をしている人の有無別に見た、何でも相談できる場所

自分が世話をしている人の有無別に何でも相談できる場所を見ると、何でも相談できる場所を「利用したことがある」、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」と回答した人の割合は、世話をしている人がいない人よりいる人のほうが高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先
(保護者票問 16(1) × 保護者票問 19)

<大阪府内全体>



<交野市>

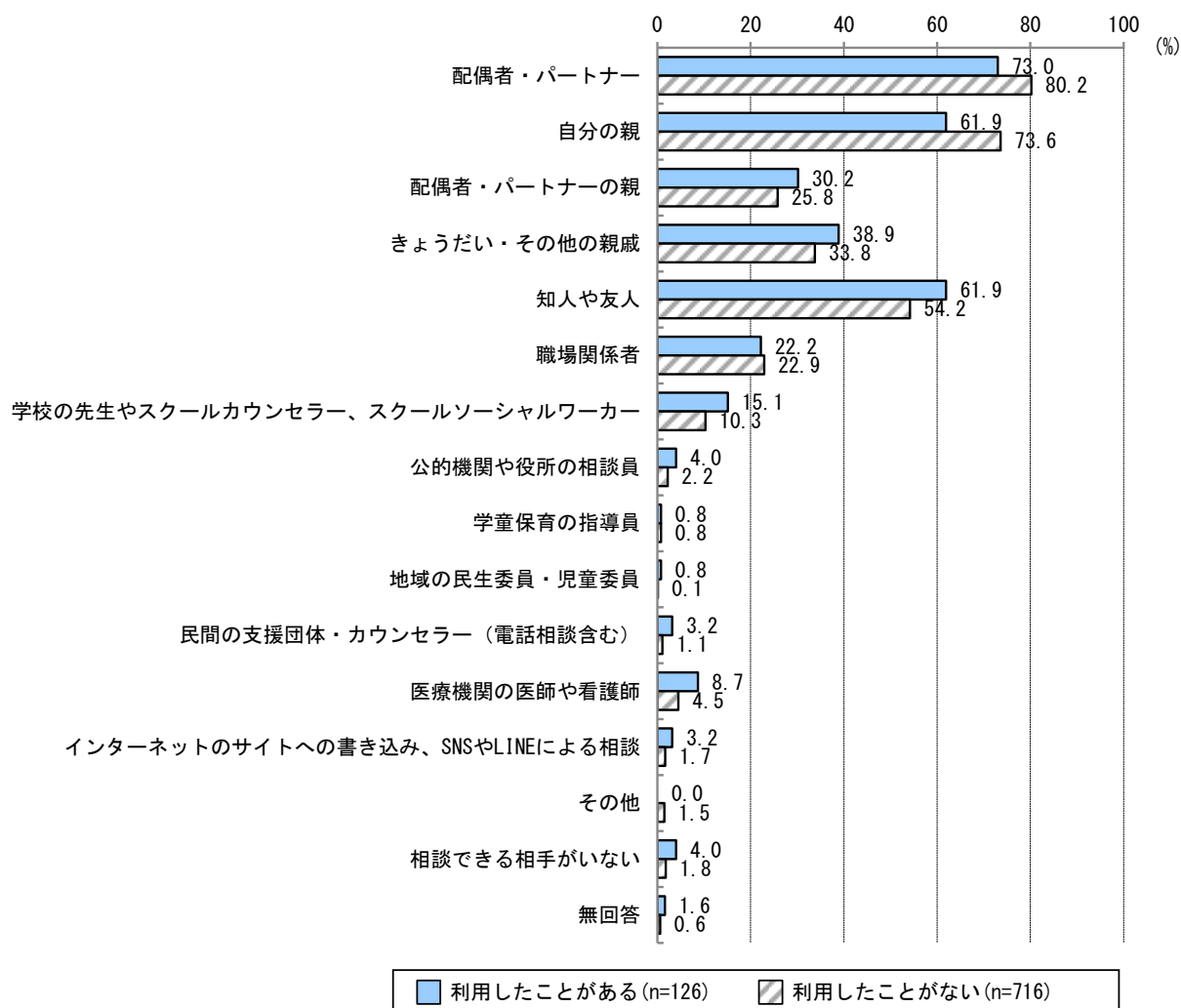
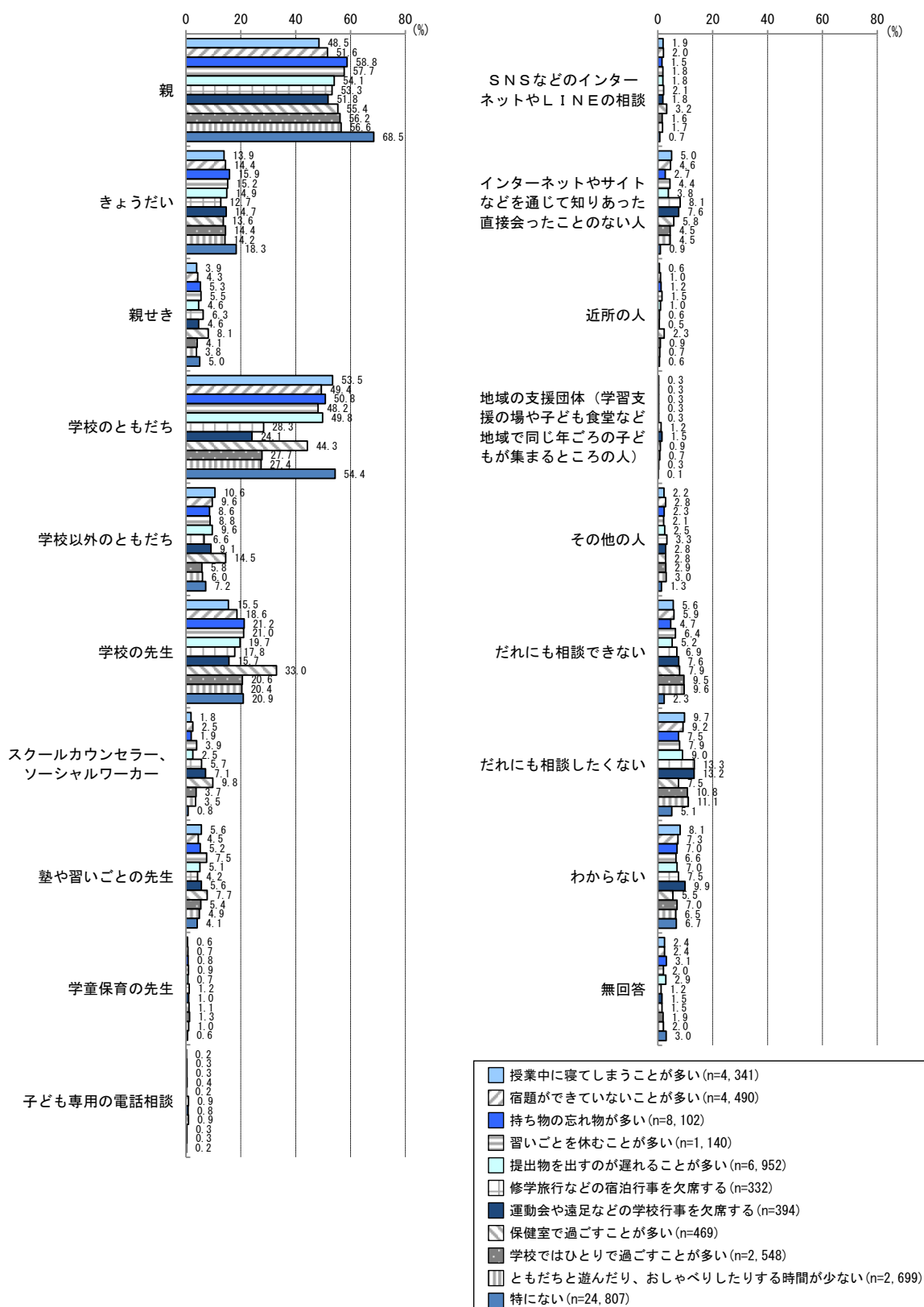


図 183. 子どもの居場所の利用経験別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先

子どもの居場所の利用経験別に本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先を見ると、「配偶者・パートナー」、「自分の親」、「職場関係者」と回答した人の割合は、子どもの居場所を利用したことがある人より利用したことがない人のほうが高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手
(子ども票問 16×子ども票問 18)

<大阪府内全体>



<交野市>

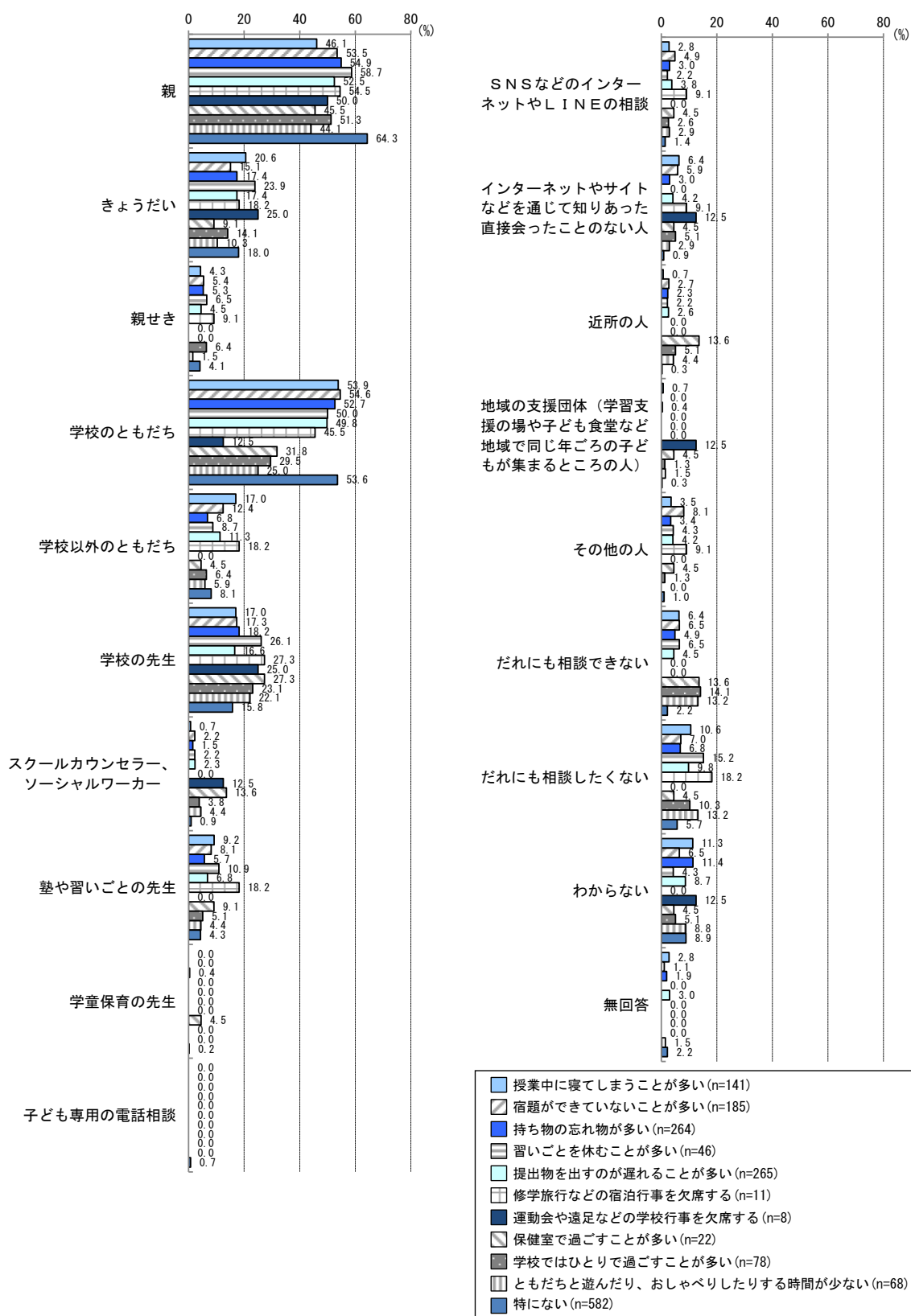
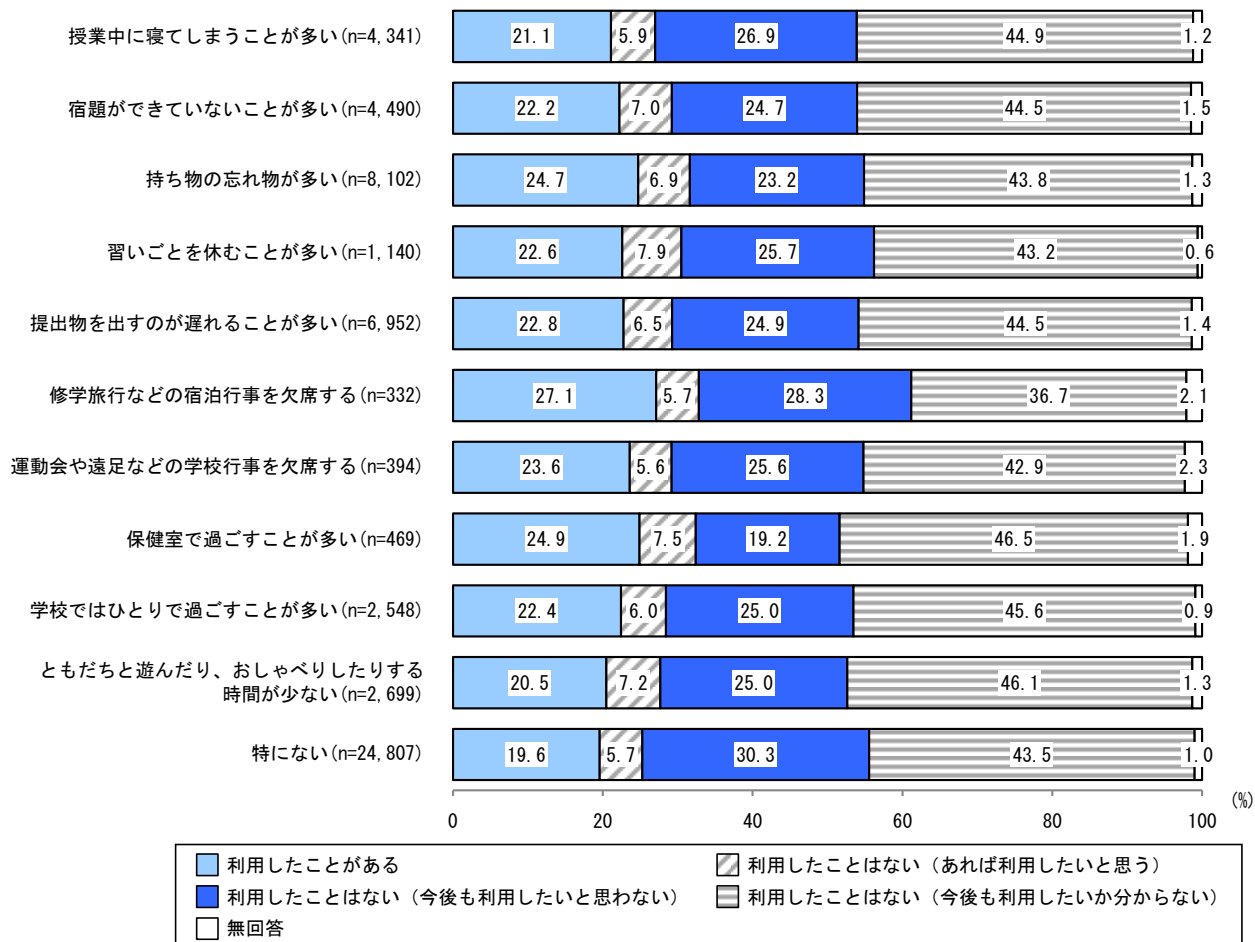


図 184. 学校や学校の行事等の状況別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

学校や学校の行事等の状況別に嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、「親」と回答した人の割合は「習いごとを休むことが多い」と回答した人の割合が58.7%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所
(子ども票問 16×子ども票問 25(1)①)

<大阪府内全体>



<交野市>

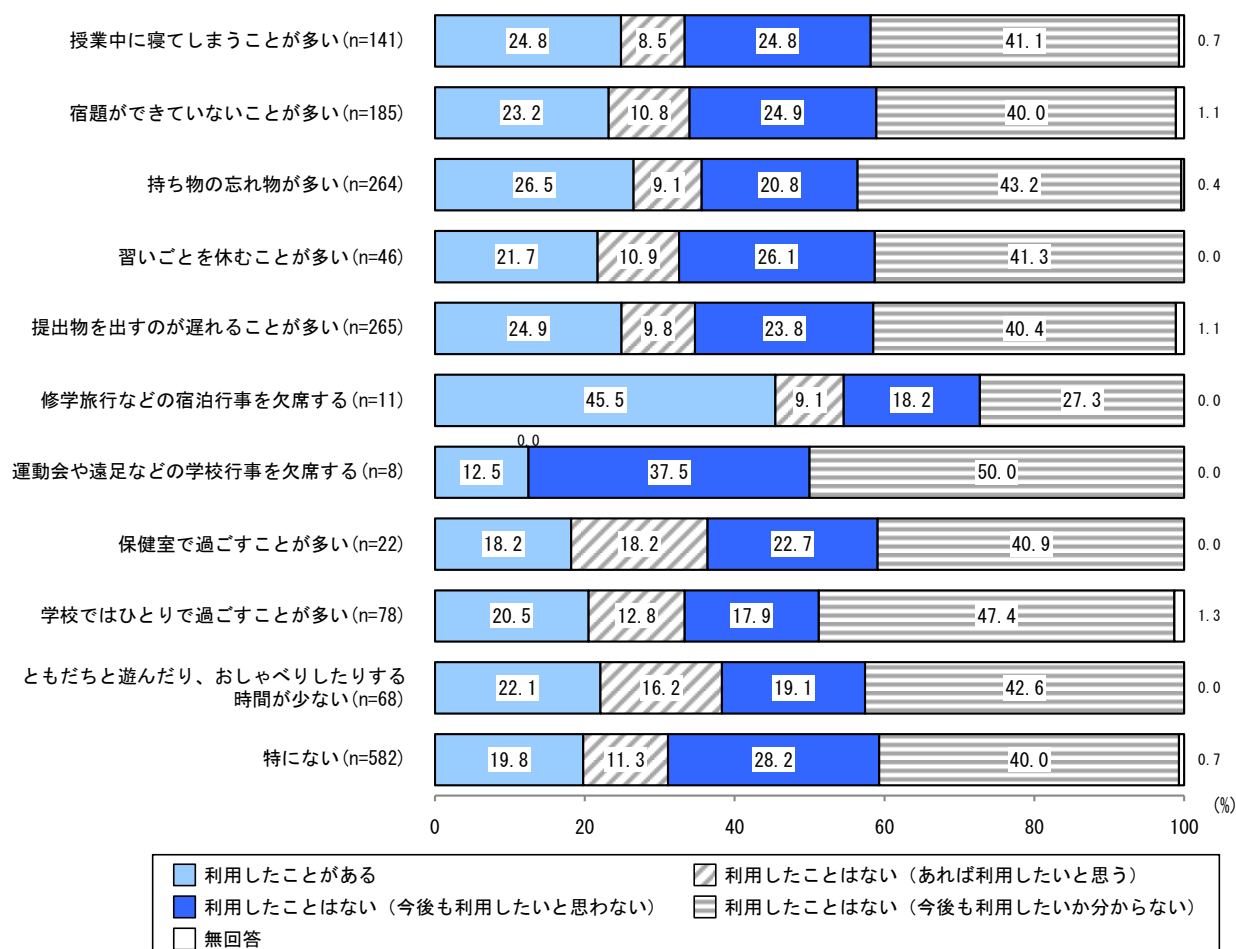
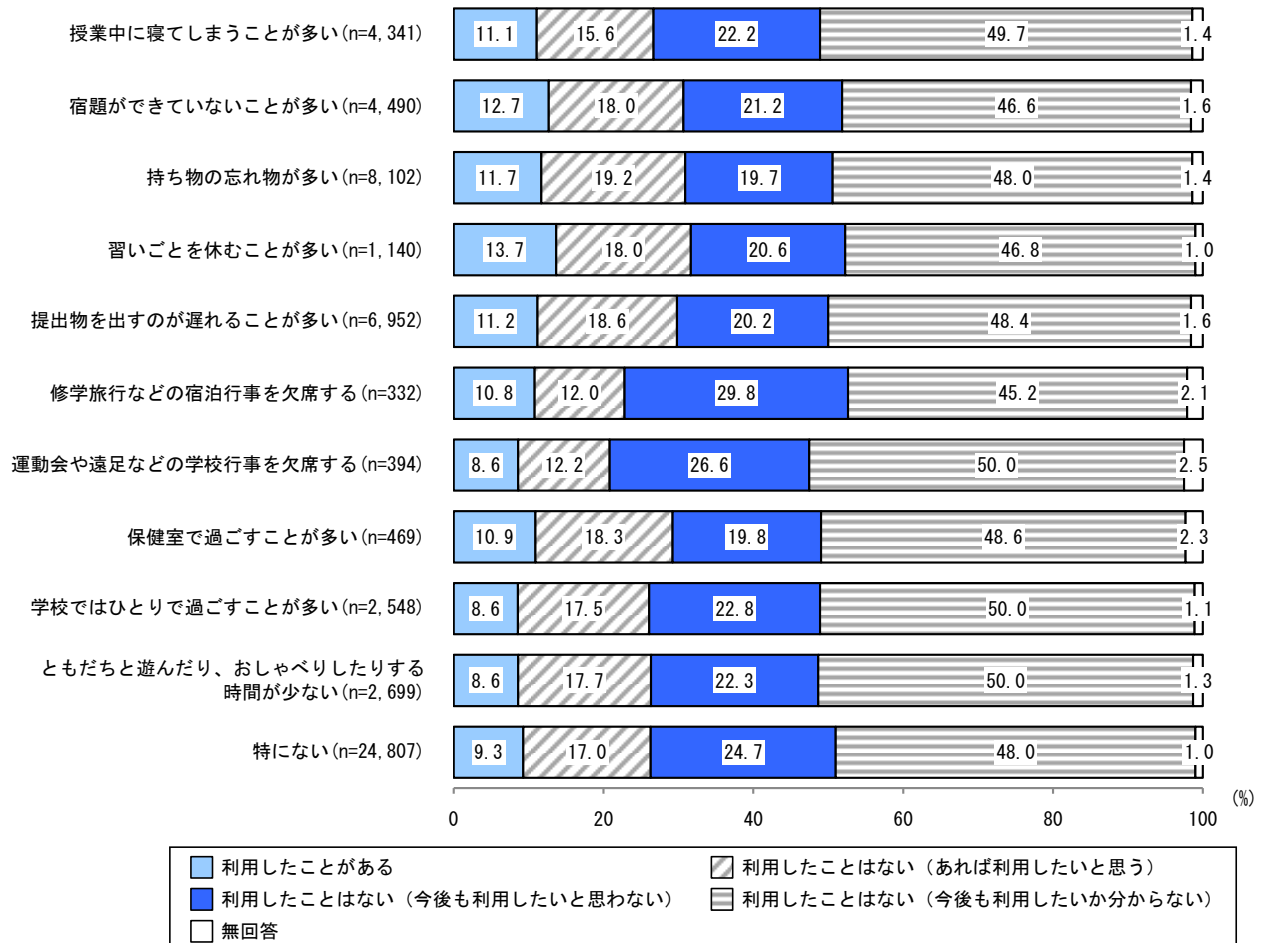


図 185. 学校や学校の行事等の状況別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所

学校や学校の行事等の状況別に平日の夜や休日を過ごすことができる場所を見ると、項目によっては母数が少ないため、一概には言えないが、「利用したことがある」と回答した人の割合は「修学旅行などの宿泊行事を欠席する」が45.5%で最も高く、次いで「持ち物の忘れ物が多い」が26.5%となっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども票問 16×子ども票問 25(1)②）

<大阪府内全体>



<交野市>

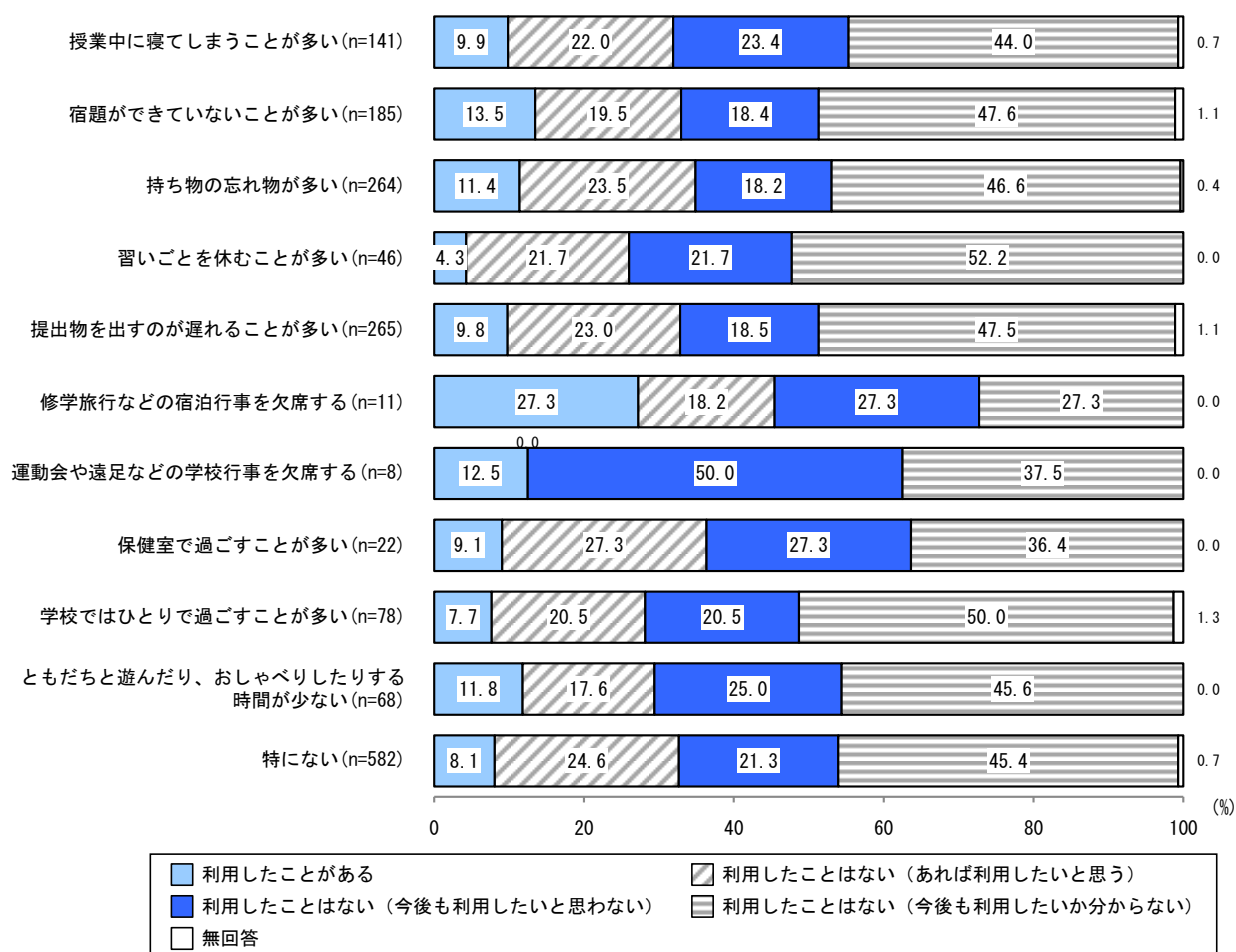
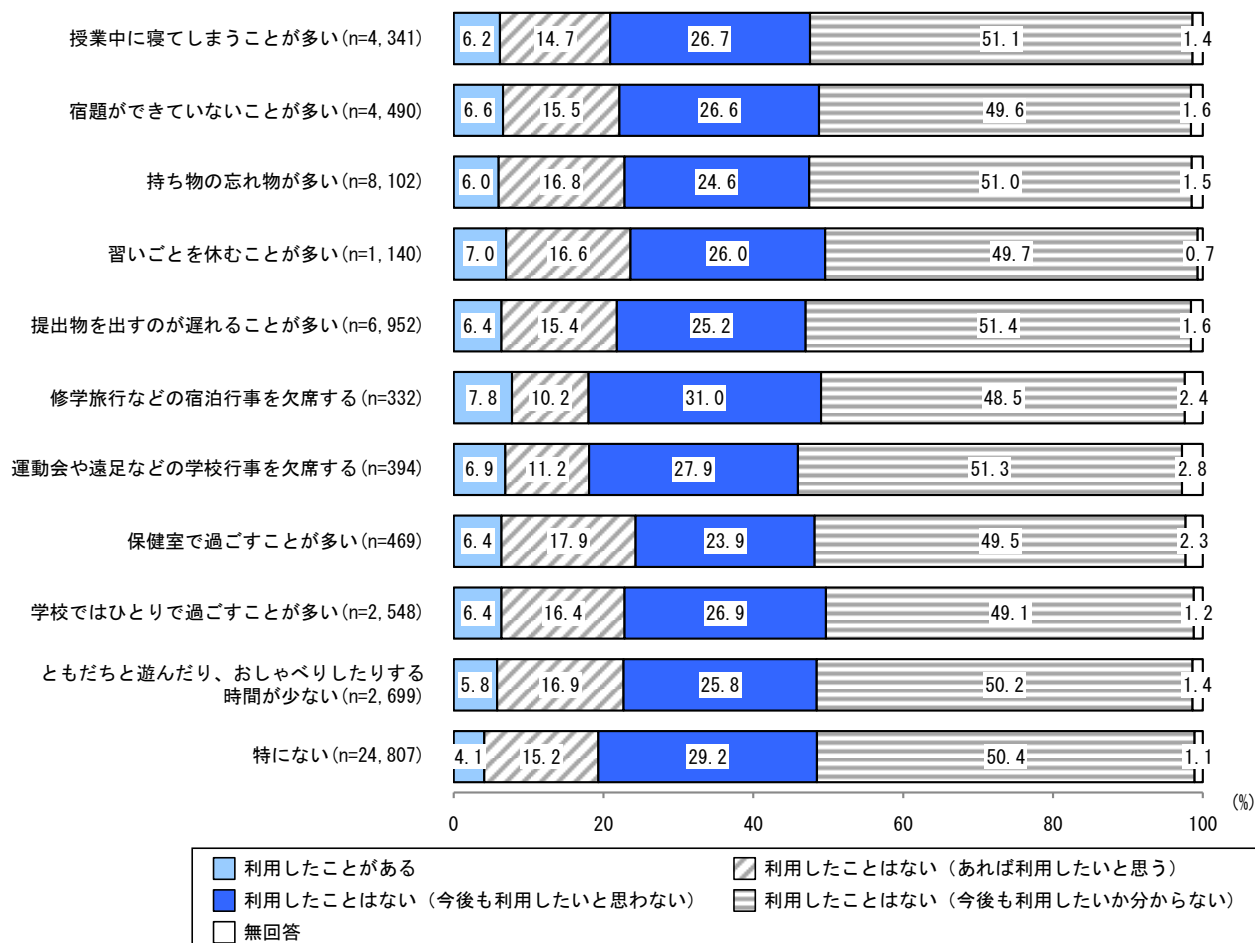


図 186. 学校や学校の行事等の状況別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所

学校や学校の行事等の状況別に昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所を見ると、項目によっては母数が少ないため、一概には言えないが、「利用したことがある」と回答した人の割合は「修学旅行などの宿泊行事を欠席する」が27.3%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所
(子ども票問 16×子ども票問 25(1)③)

<大阪府内全体>



<交野市>

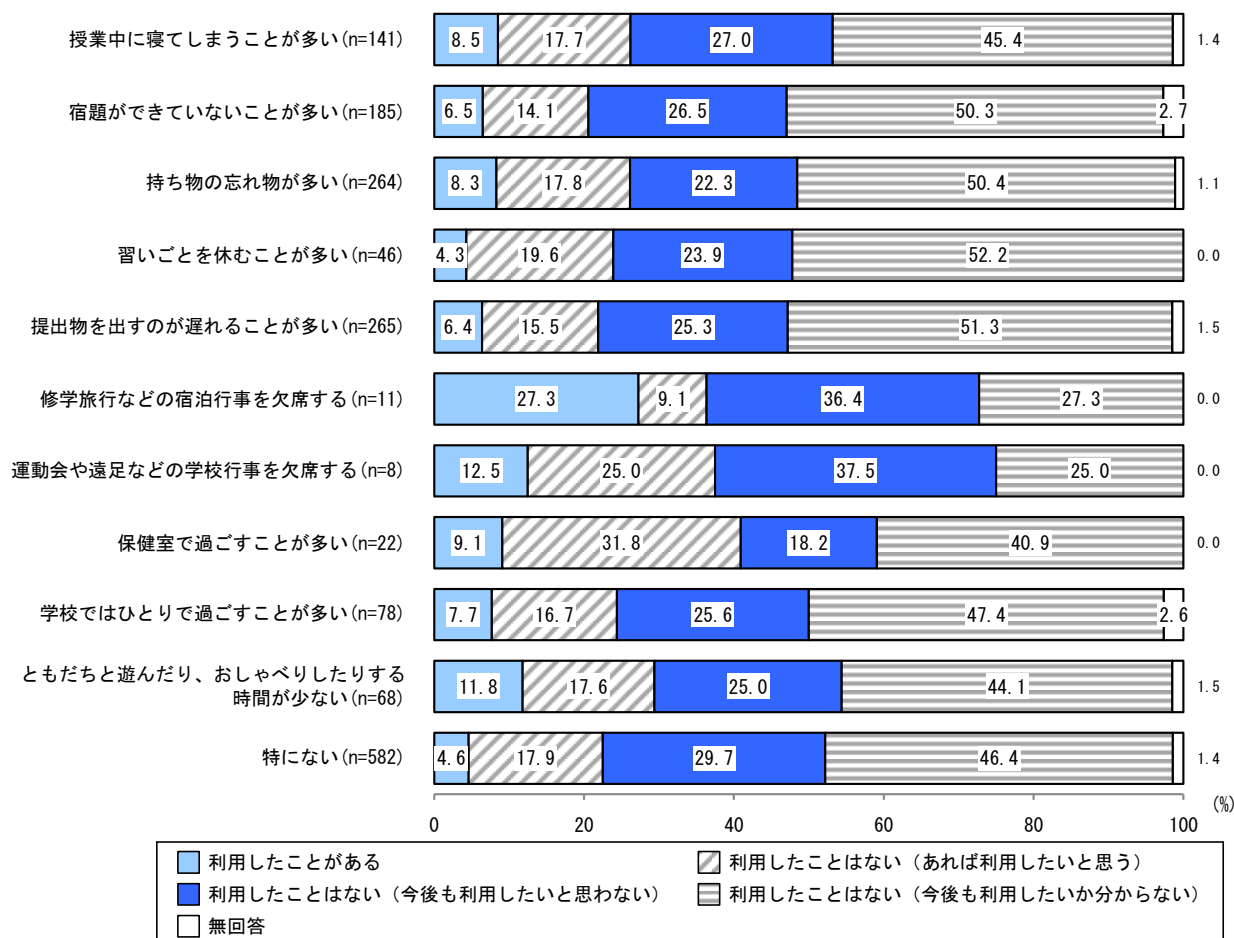
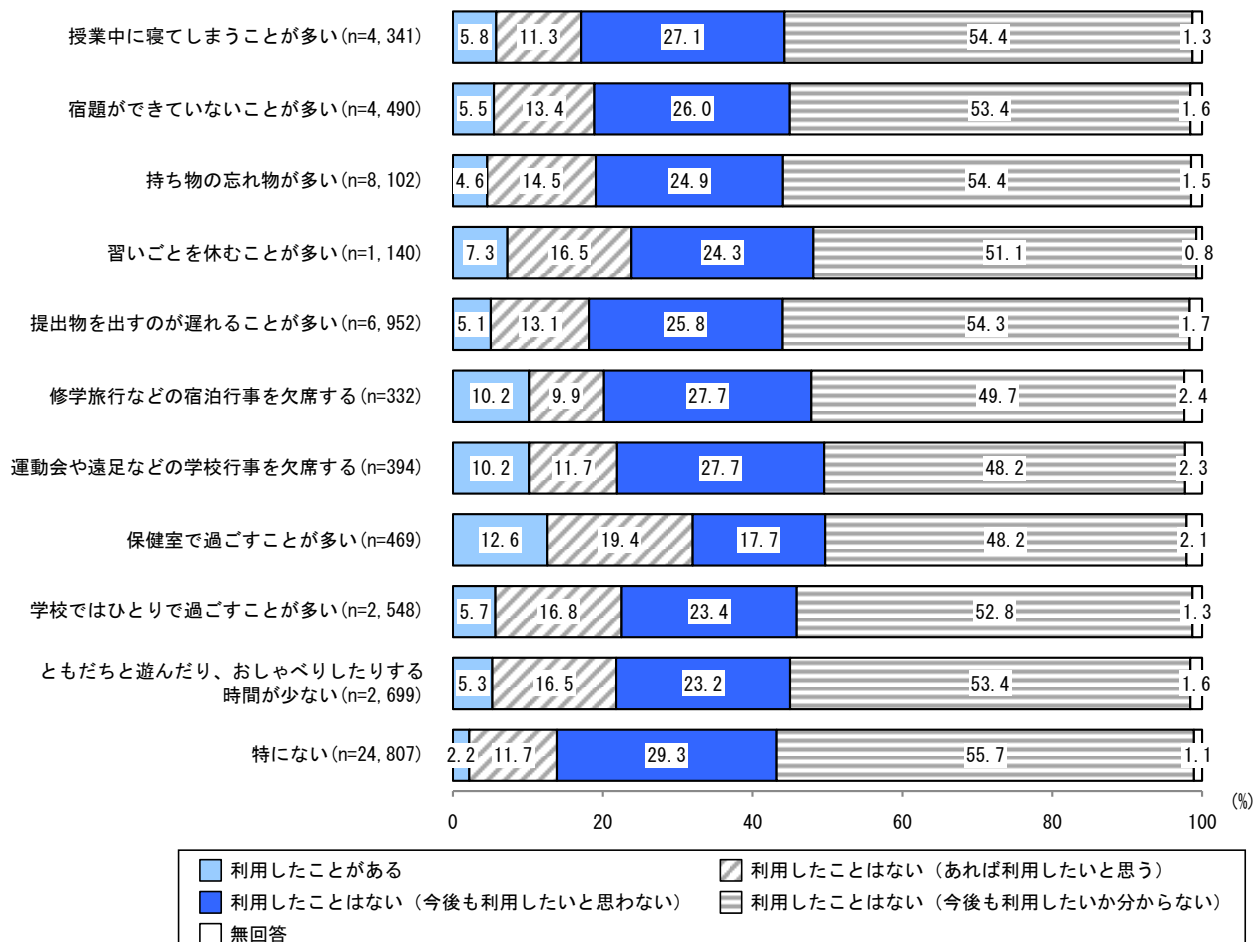


図 187. 学校や学校の行事等の状況別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所

学校や学校の行事等の状況別に勉強を無料か安い料金でみてくれる場所を見ると、項目によっては母数が少ないため、一概には言えないが、「利用したことはない (あれば利用したいと思う)」と回答した人の割合は「保健室で過ごすことが多い」が31.8%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、何でも相談できる場所
(子ども票問 16×子ども票問 25(1)④)

<大阪府内全体>



<交野市>

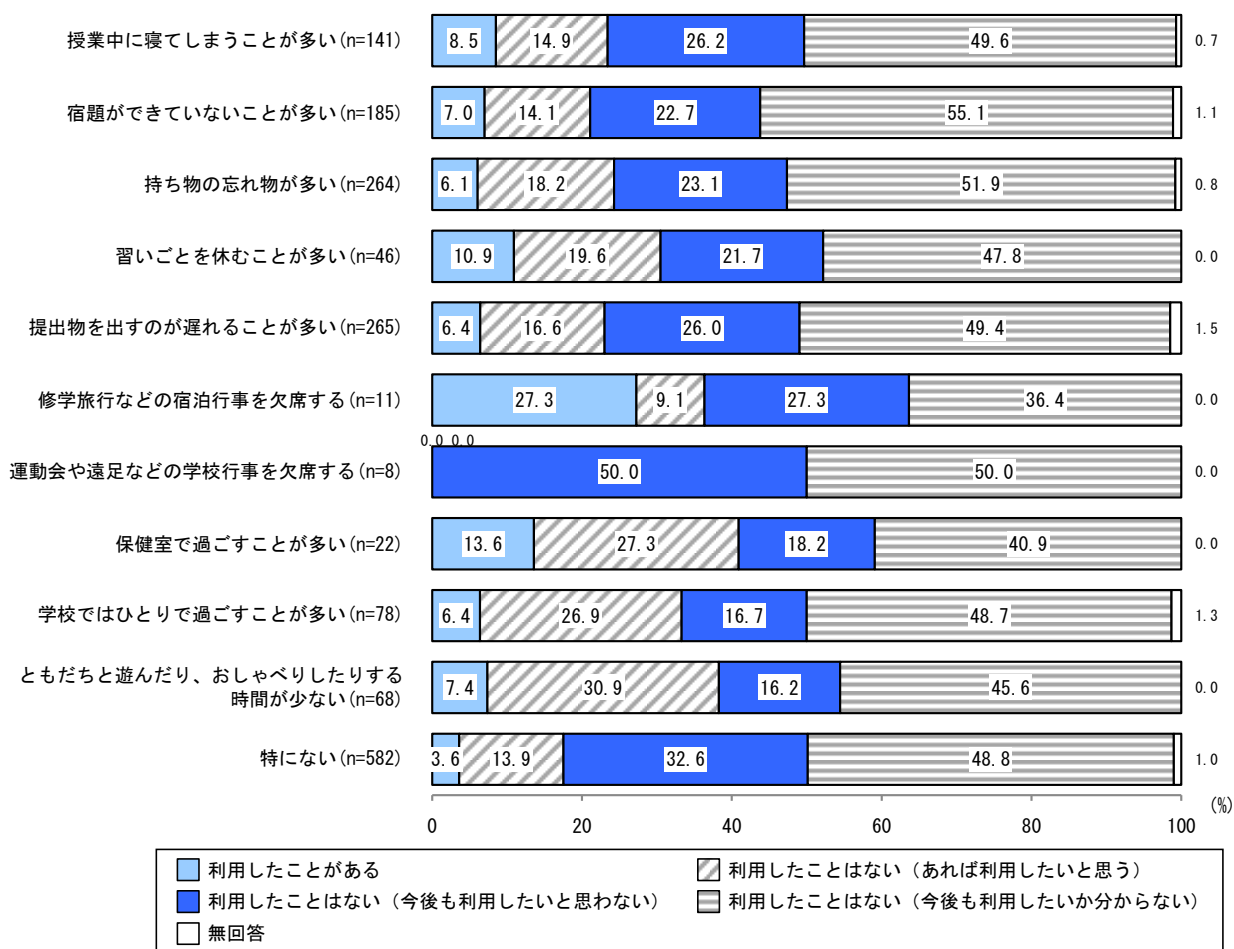
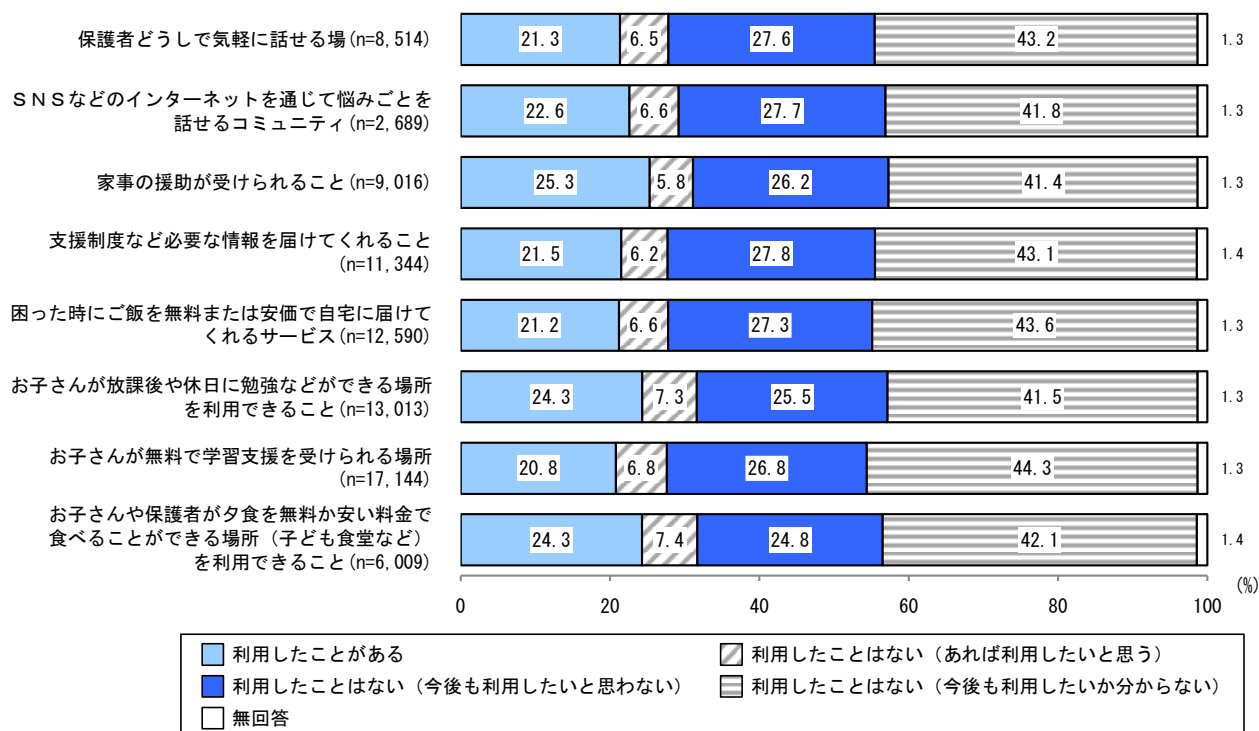


図 188. 学校や学校の行事等の状況別に見た、何でも相談できる場所

学校や学校の行事等の状況別に何でも相談できる場所を見ると、項目によっては母数が少ないため、一概には言えないが、「利用したことがある」と回答した人の割合は「修学旅行などの宿泊行事を欠席する」が27.3%で最も高く、次いで「保健室で過ごすことが多い」が13.6%となっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所
(保護者票問 20×子ども票問 25(1)①)

<大阪府内全体>



<交野市>

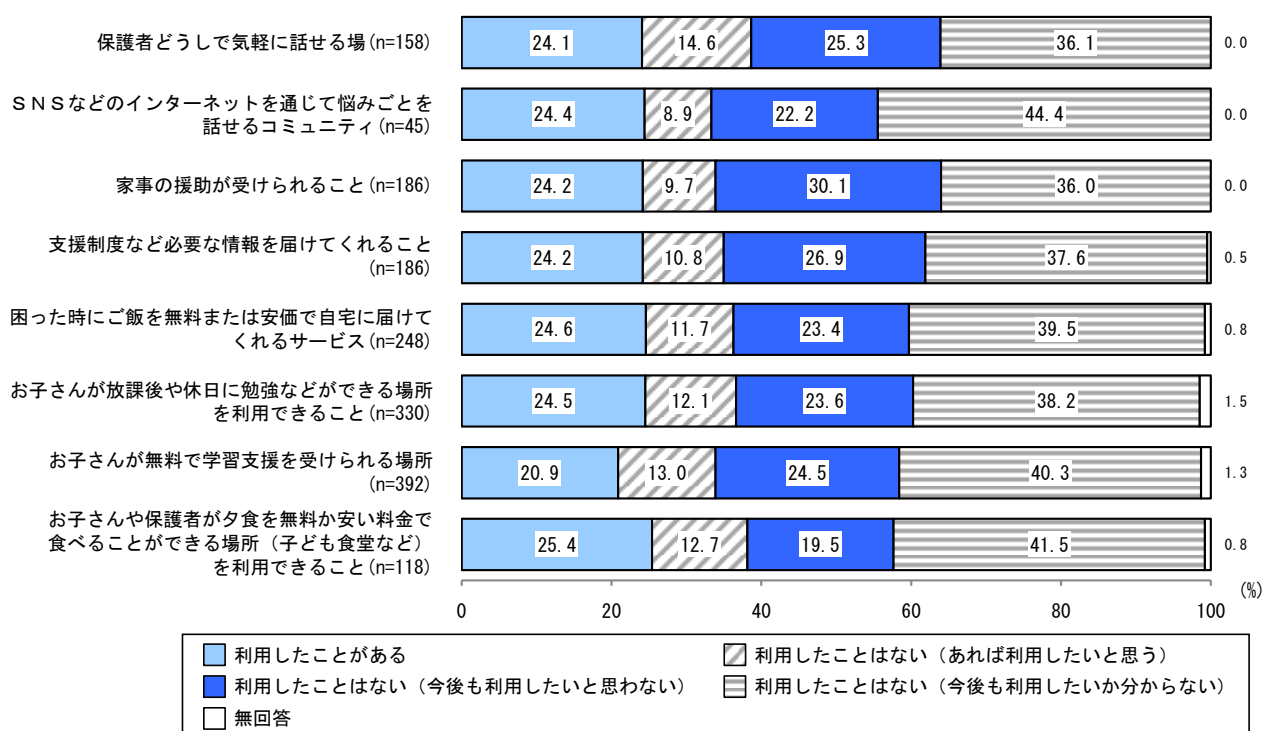
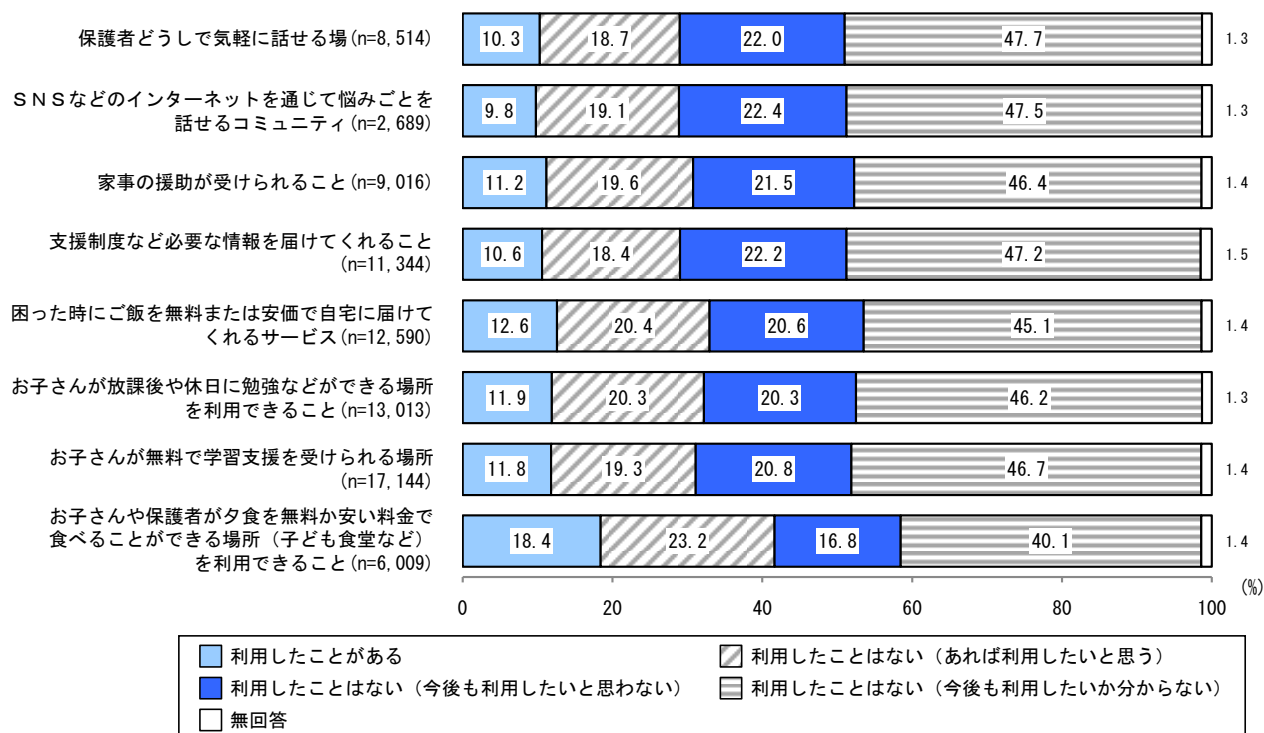


図 189. 身近にあるといいと思うこと別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所

身近にあるといいと思うこと別に平日の夜や休日を過ごすことができる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した人の割合は「お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所 (子ども食堂など) を利用できること」が25.4%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金を食べることができる場所（保護者票問 20×子ども票問 25(1)②）

<大阪府内全体>



<交野市>

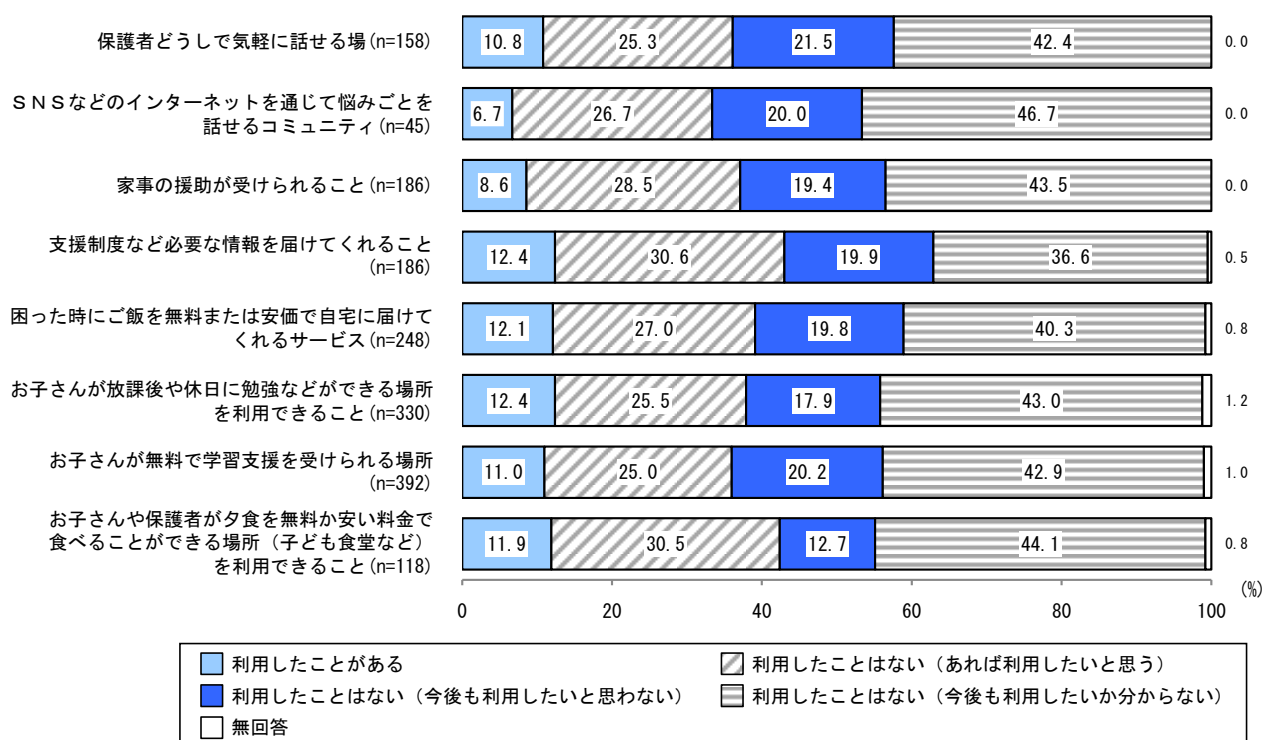
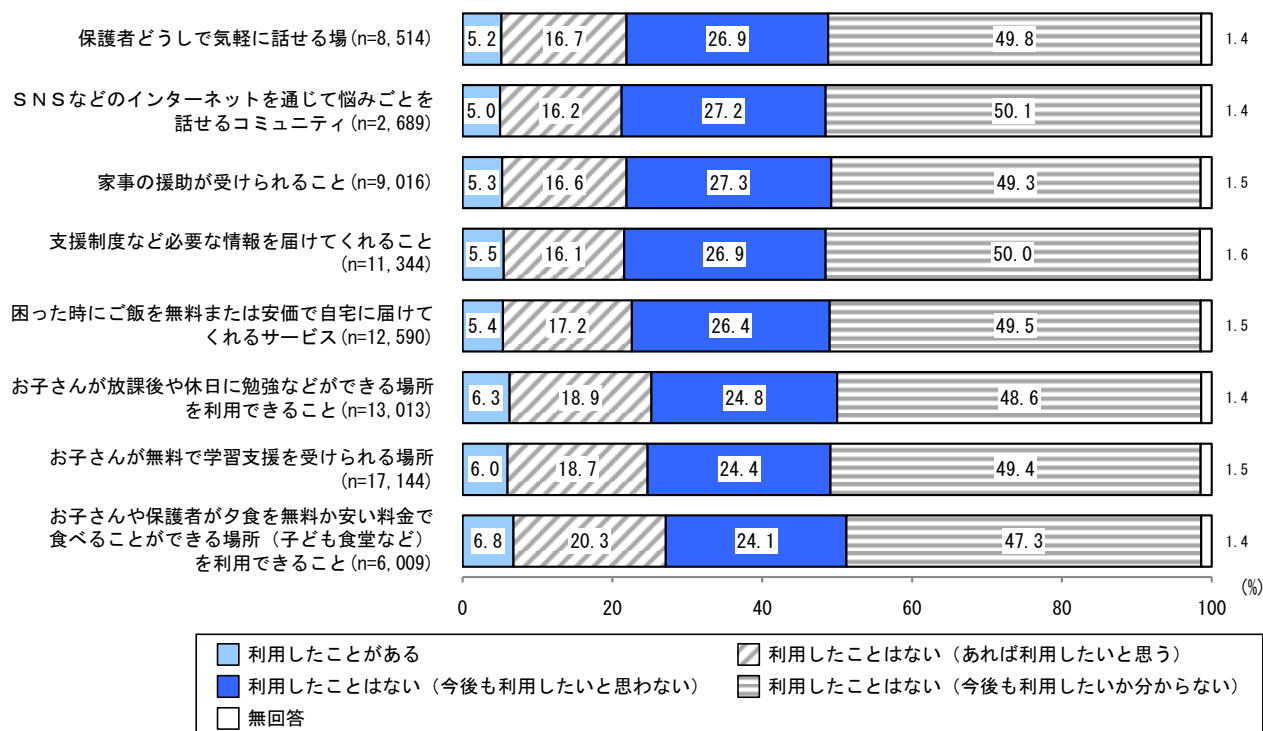


図 190. 身近にあるといいと思うこと別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所

身近にあるといいと思うこと別に昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した人の割合は「支援制度など必要な情報を届けてくれること」、「お子さんが放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること」がいずれも12.4%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所
(保護者票問 20×子ども票問 25(1)③)

<大阪府内全体>



<交野市>

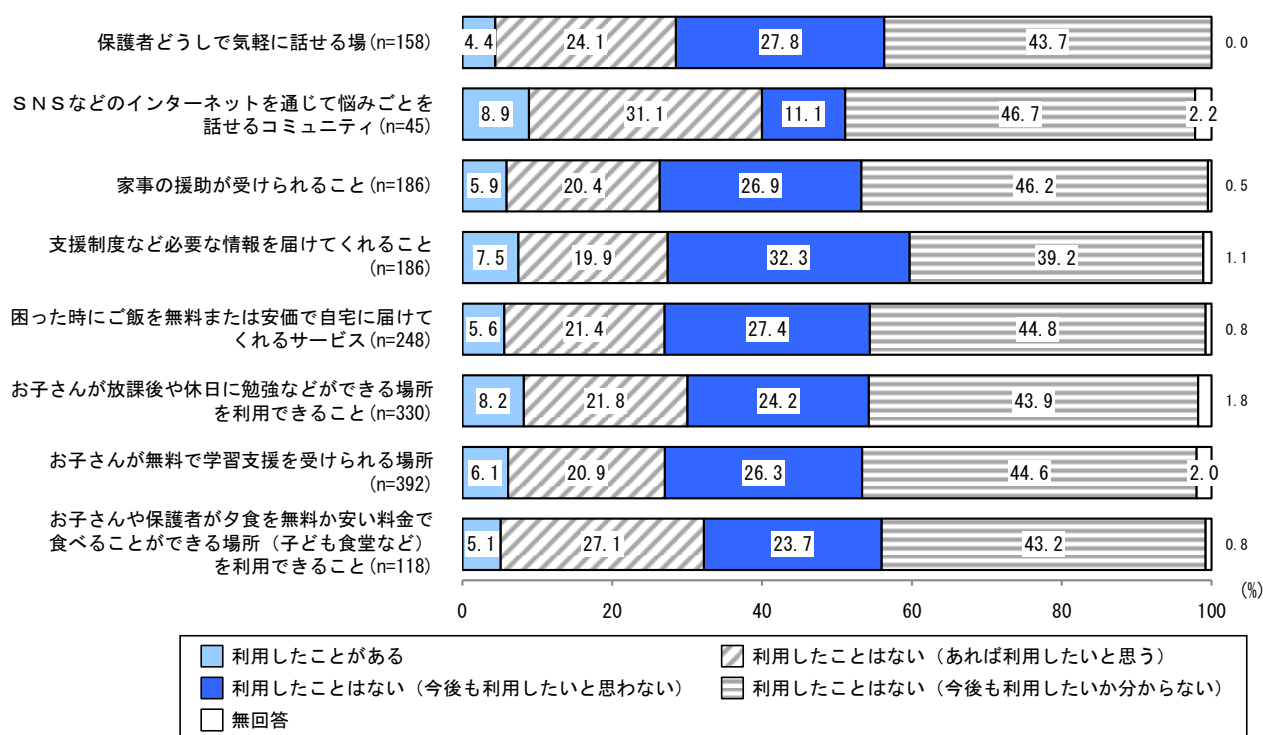
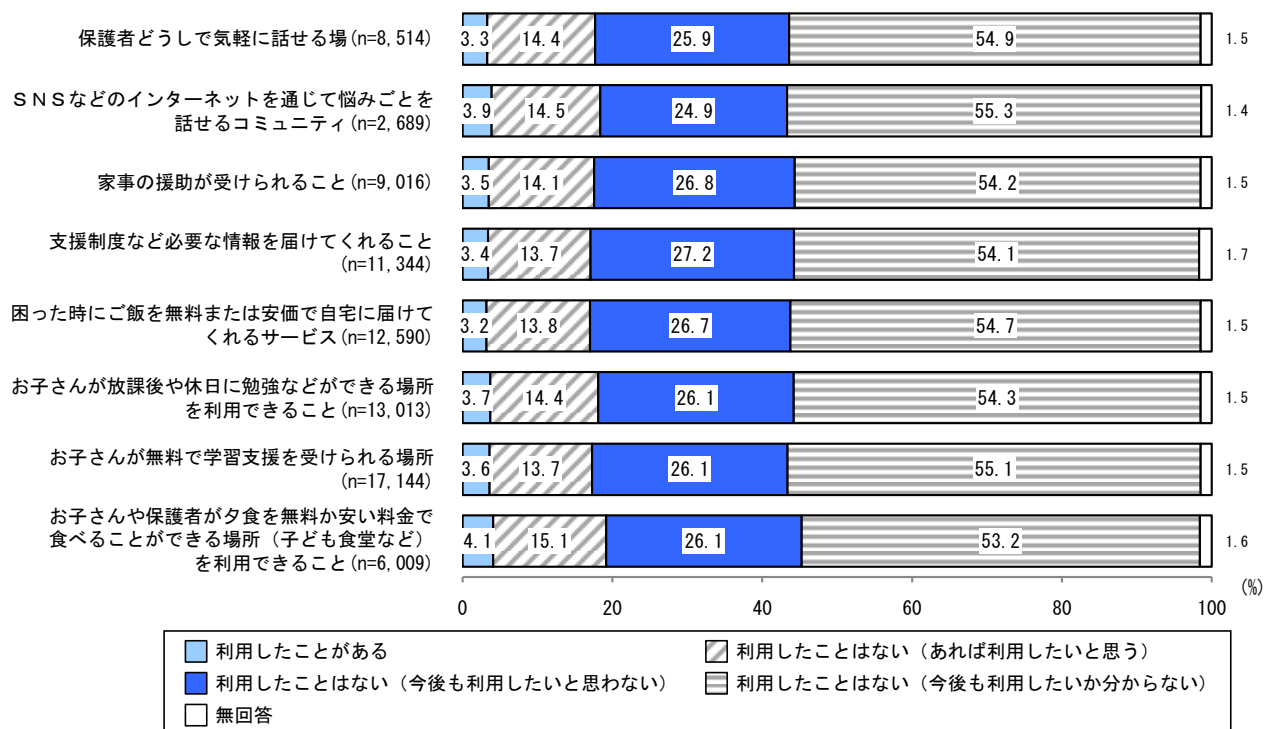


図 191. 身近にあるといいと思うこと別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所

身近にあるといいと思うこと別に勉強を無料か安い料金でみてくれる場所を見ると、「利用したことはない (あれば利用したいと思う)」と回答した人の割合は、「SNSなどのインターネットを通じて悩みごとを話せるコミュニティ」が31.1%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、何でも相談できる場所
(保護者票問 20×子ども票問 25(1)④)

<大阪府内全体>



<交野市>

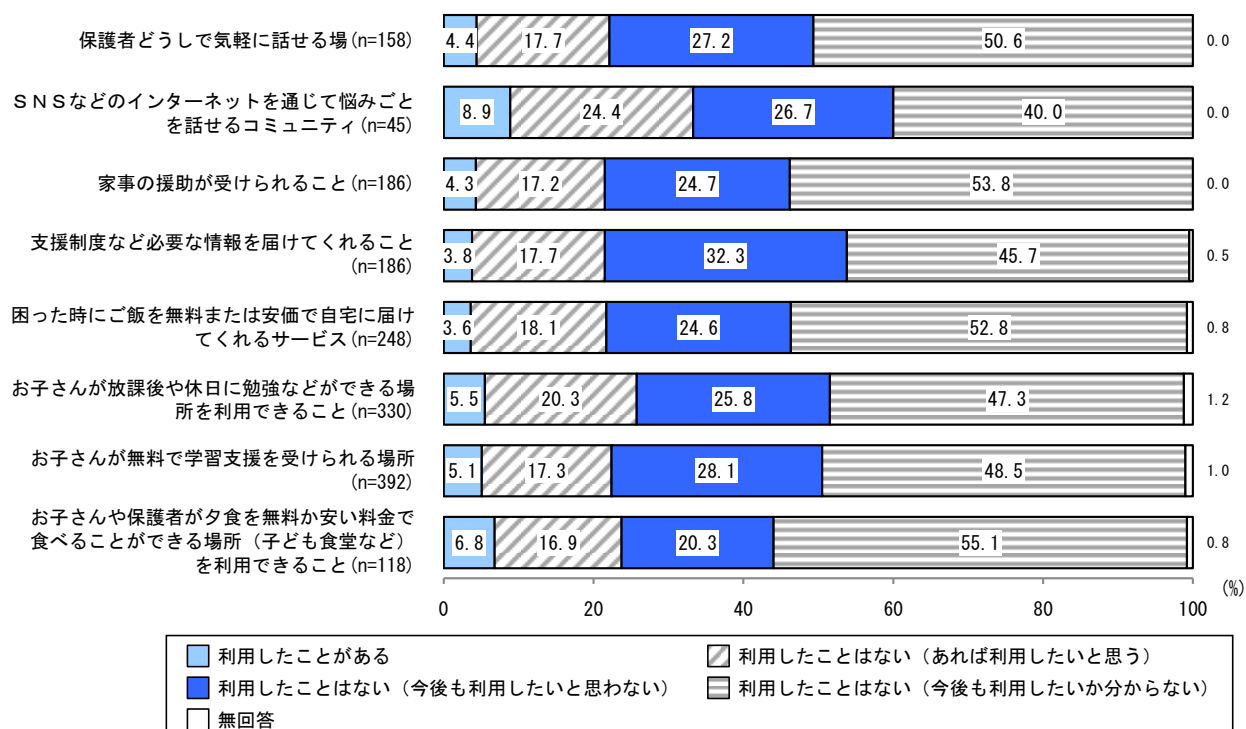
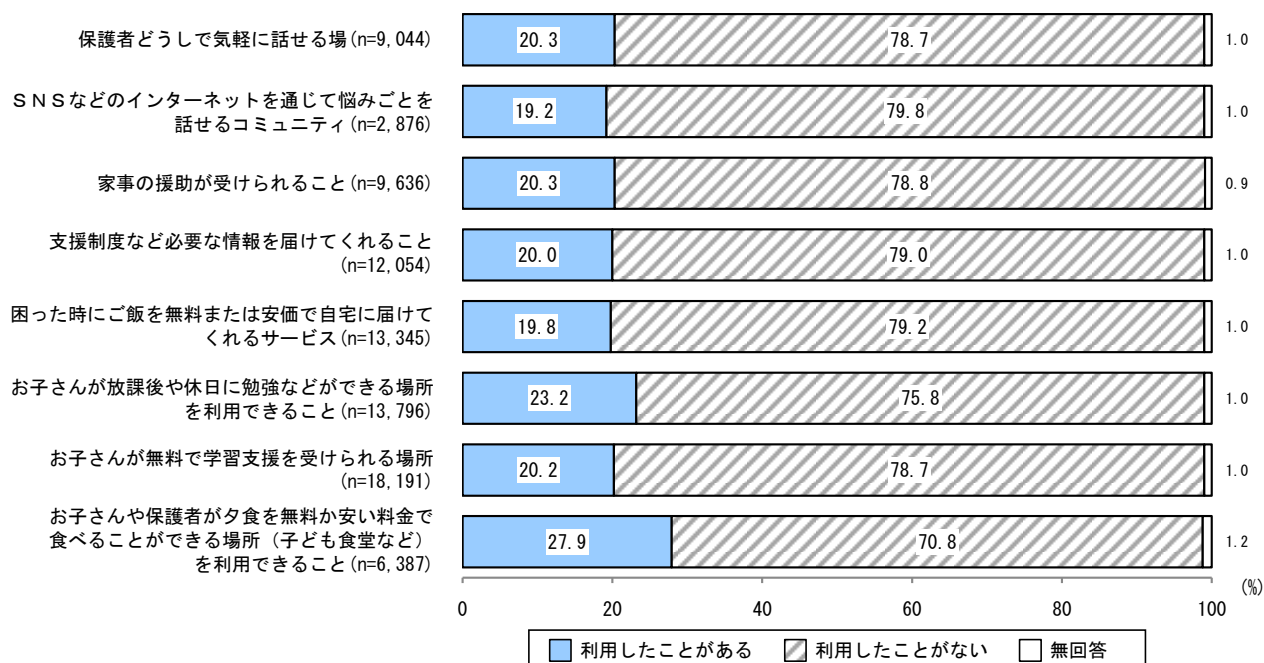


図 192. 身近にあるといいと思うこと別に見た、何でも相談できる場所

身近にあるといいと思うこと別に何でも相談できる場所を見ると、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」と回答した人の割合は、「SNSなどのインターネットを通じて悩みごとを話せるコミュニティ」が24.4%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、子どもの居場所の利用有無
(保護者票問 20×保護者票問 16(1))

<大阪府内全体>



＜交野市＞

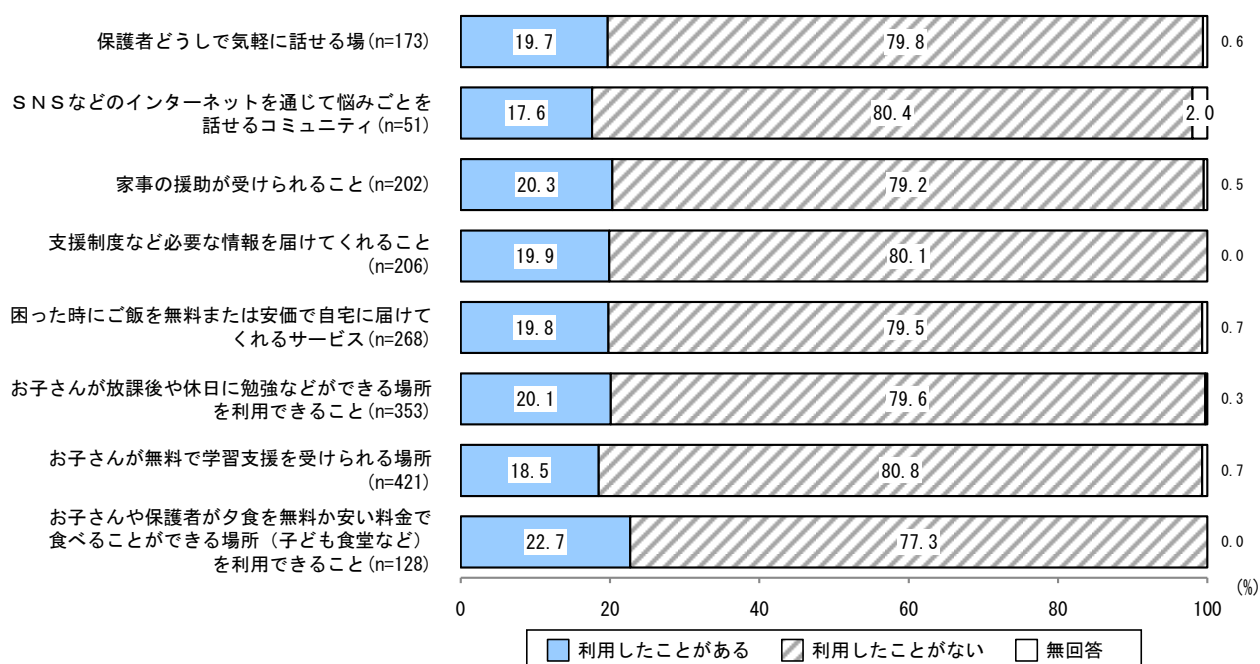
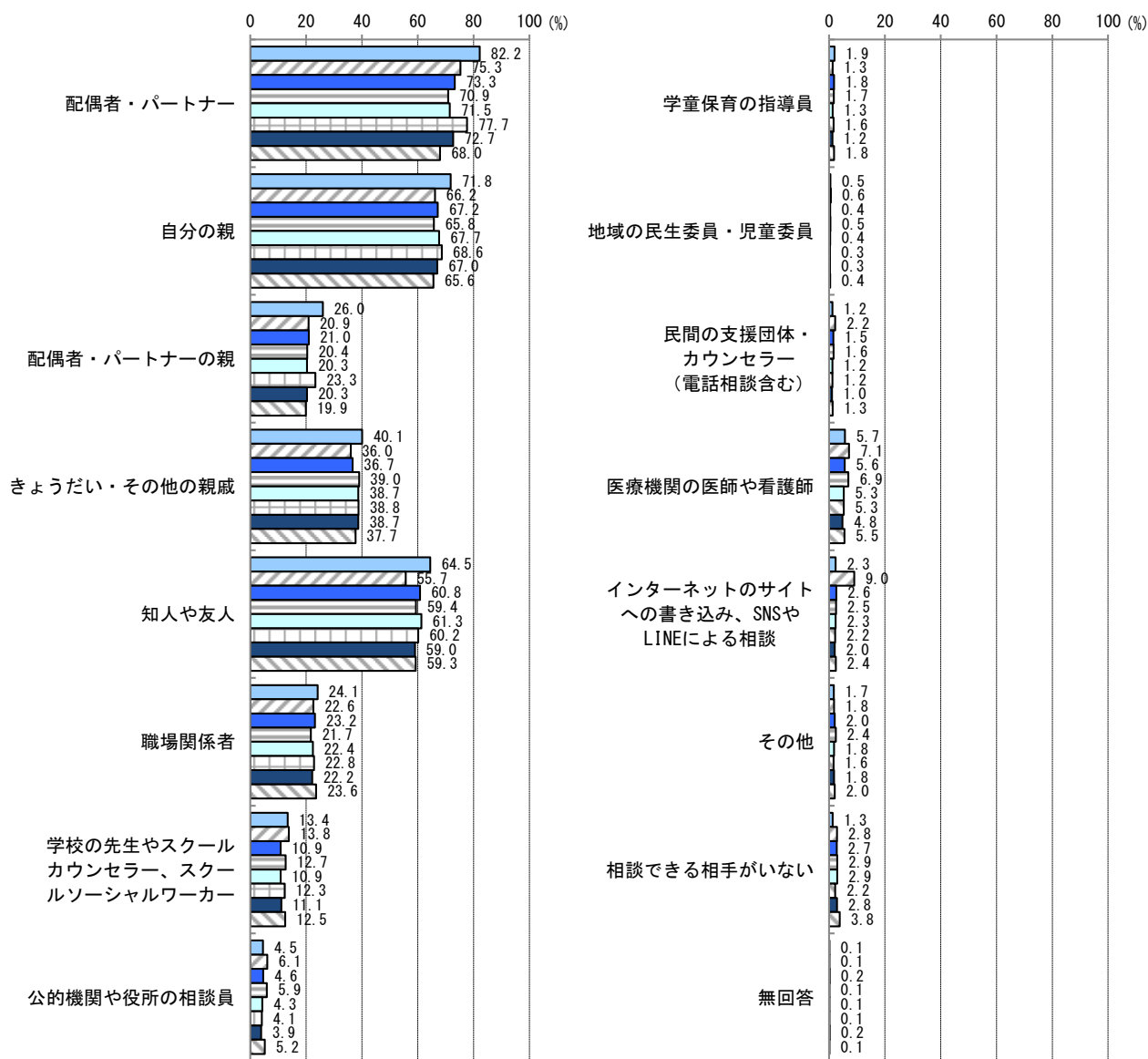


図 193. 身近にあるといいと思うこと別に見た、子どもの居場所の利用有無

身近にあるといいと思うこと別に子どもの居場所の利用有無を見ると、「利用したことがある」と回答した人の割合は、「お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども食堂など）を利用できること」が22.7%で最も高く、次いで「家事の援助が受けられること」が20.3%となっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先（保護者票問 20×保護者票問 19）

<大阪府内全体>



- 保護者どうして気軽に話せる場 (n=9, 044)
- SNSなどのインターネットを通じて悩みごとを話せるコミュニティ (n=2, 876)
- 家事の援助が受けられること (n=9, 636)
- 支援制度など必要な情報を届けてくれること (n=12, 054)
- 困った時にご飯を無料または安価で自宅に届けてくれるサービス (n=13, 345)
- お子さんが放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること (n=13, 796)
- お子さんが無料で学習支援を受けられる場所 (n=18, 191)
- お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども食堂など）を利用できること (n=6, 387)

<交野市>

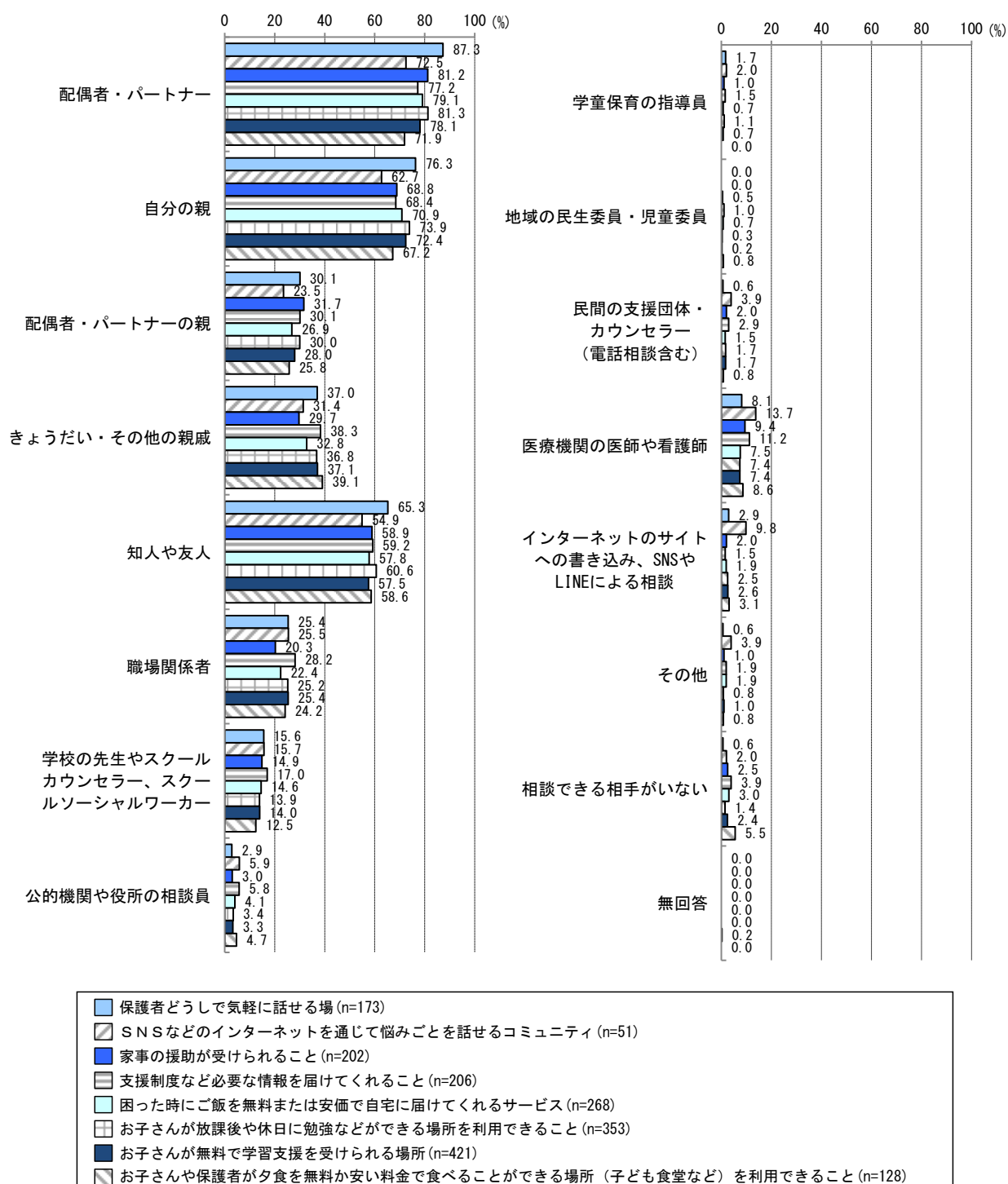


図 194. 身近にあるといいと思うこと別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先

身近にあるといいと思うこと別に本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先を見ると、「配偶者・パートナー」と回答した人の割合は、「保護者どうして気軽に話せる場」が87.3%で最も高く、次いで「お子さんが放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること」が81.3%となっている。

＜対人関係に関する考察＞

中央値以上群と困窮度Ⅰ群間の差が大きい項目に着目し分析結果を以下にまとめる。子どもが放課後に過ごす場所では、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「習いごと」(47.1%対26.2%)の利用が20ポイント以上高くなっている一方、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「学校(クラブ活動・部活動など)」(33.3%対28.4%)の利用が約4ポイント高くなっている。子どもが放課後を一緒に過ごす人では、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「学校のともだち」(60.1%対54.8%)、「きょうだい」(55.6%対52.4%)が3～5ポイント高くなっている。毎日の生活で楽しいことでは、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「塾や習いごとで過ごしているとき」(34.7%対21.4%)が10ポイント以上、「おうちの人と一緒に過ごしているとき」(70.1%対63.1%)、「学校生活やクラブ活動・部活動に参加しているとき」(58.9%対51.2%)、「今、住んでいる地域の行事に参加しているとき」(30.5%対25.0%)が5ポイント以上高くなっている。一方、悩んでいることでは、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「学校や勉強のこと」(29.8%対19.9%)、「ともだちのこと」(26.2%対16.3%)、「進学・進路のこと」(22.6%対13.3%)が5ポイント以上高くなっている。また、子どもの自己効力感では、中央値以上群は困窮度Ⅰ群よりも高く(平均点8.61対8.47)、放課後一人で過ごさない子どもは過ごす子どもと高くなっている(平均点8.59対7.91)。これらの結果から、経済状況によって、子どもの教育的な活動へのアクセス、家族以外の社会交流や人間関係を築く機会が制限されるだけでなく、子どもの自己効力感にも影響を及ぼす可能性があることが示唆された。

子どもが放課後や休日に自分や友達の家以外で利用した場所では、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ「利用したことがある」(14.1%対13.7%)、さらに「平日の夜や休日に過ごすことができる場所(学童保育など)」(26.2%対23.6%)、「昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所(子ども食堂など)」(9.5%対6.3%)が約3ポイント高くなっている。一方、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ「勉強や無料か安い料金でみてる場所」(4.8%対2.4%)の利用が高くなっている。嫌なことや悩んでいるときの相談相手は、自分が世話をしている人がいる子ども群は世話をしている人がいない群と比べ、「学校の先生」(20.9%対14.9%)が5ポイント高く、「平日の夜や休日を過ごすことができる場所(学童保育など)」(26.9%対20.6%)、「昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所(子ども食堂など)」(11.9%対8.4%)、「勉強を無料か安い料金でみてる場所」(7.8%対5.3%)、「何でも相談できる場所」(7.5%対3.9%)を利用している割合が高くなっている。これらの結果から、経済的困難な家庭や子どもが家族の世話を担っているケースでは、周りの支えが重要であり、社会的支援を必要としていることが示唆された。

本当に困ったときや悩みがあるときの保護者の相談相手・相談先では、子どもの居場所を利用したことがある群はない群と比べ、「知人や友人」(61.9%対54.2%)、「きょうだい・その他の親戚」(38.9%対33.8%)が5ポイント以上、「学校の先生やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー」(15.1%対10.3%)、「配偶者・パートナーの親」(30.2%対25.8%)、「医療機関の医師や看護師」(8.7%対4.5%)、「公的機関や役所の相談員」(4.0%対2.2%)、「民間の支援団体・カウンセラー(電話相談含む)」(3.2%対1.1%)が高くなっている。これらの結果から、子どもの居場所が様々な専門家や機関との連携を可能にしており、総合的なサポート体制として機能していると考えられる。

Ⅲ 総合考察

本報告書における「子どもの貧困」概念の捉え方であるが、基本的に、2016年の調査で扱った貧困概念に基づいている。簡単に述べると、子どもの貧困を相対的貧困で捉えた上で、①所得や資産などの経済的資本、②健康や教育などのヒューマン・キャピタル、③つながりやネットワークなどのソーシャル・キャピタルの3つのキャピタルの欠如を枠組みとしている。この数年で、「子どもの貧困」「相対的貧困」概念も十分に知られるようになったことから、詳細な説明はここでは割愛するが、山野則子編著（2019）を参照されたい。

次に、総合考察において大阪府つまりほかにも各市町村が実施した数値で検討を行う（大阪府は府が直接実施した25市町村分であり前回比較2016年度実施の30市町村分で行う）。各ページにはグラフコメントやクロス分析を考察したセクションコメント（経済状況、雇用、健康、家庭状況制度、家庭生活と学習、対人関係）を記載している。総合考察において、同じことを書くのではなく、総合考察として、これらセクションコメントを踏まえ、2016年度と比較し変化のあるものや新規項目など、まさに考察すべきものを中心に記載している（一部、要望により同傾向でも記載あり）。単純集計はセクションコメントに出てこないのもので、可能な限り数字を入れて説明する。そして、全体はこれらの結果から政策の評価を行うものである。

1）大阪府共同調査の意義

本調査では、交野市の調査のみならず大阪府内43自治体で共同実施して把握したことは、その回答者数の多さにおいても都道府県レベルで域内すべての自治体の対象者が入っている点においても、意義がある。その上で、大阪府内全自治体の結果は、傾向として交野市の調査結果を裏付けけるものであった。これは無作為抽出であっても全体と比較してみることで、傾向の把握が可能であり、信頼性があることを示すものとなった。

本報告では、すべての項目に大阪府内全自治体のグラフを入れることで、結果をわかりやすくしている。本調査は、子どもの貧困対策の評価につながる基礎調査である。

2）単純集計

<経済面・家庭状況制度面>

2016年度と比較して、大阪府の可処分所得の分布はほぼ前回と同じような形になっており、世帯構成や人数などに関しても大きな差は見られない。

交野市でも、2016年度の前回調査（以後、前回調査とする）では20.6%の世帯が赤字であったが、今回はやや低くなり、17.5%であった。前回と同様に、中学生の世帯が小5の世帯よりも高くなっている。前回と同傾向であったことから、前回明らかにしたクラブや塾など小学生よりも中学生の方が家計を圧迫していることに十分対応できていないことが考えられる。また、子どものための貯蓄をしたいができない状態が、前回34.7%が今回26.7%であった。持ち家率は前回85.3%だったのが、今回89.9%とやや上がった結果である。赤字貯蓄ともにおおむね5ポイントくらいの差でよくなった結果の中で、持ち家の傾向をどう見るのかはコロナも含め災害が多発することで持ち家への価値観が変化してきたかとも考えられる。

経済的な理由で経験できなかったこと（はく奪項目）について、生活における食費の切りつめやレジャーを控えるなどの項目は、2016年に比較して当てはまる回答数が減少している。それに呼応して、どれにもあてはまらないという回答は前回29.0%、今回32.1%と高くなっている。家

計の赤字の数も減り、全体を見たときに、2016年度から少しではあるが、好転しているようにとらえられる。

ただし、経済的理由による子どもに関する経験（子どものはく奪）に関しては、「子どもを医療機関に受診させることができなかった」が前回2.0%、今回0.4%と減少しているが、ほか残念ながら目立った好転がみられない（「子どもの学校行事などに参加することができなかった」前回0.7%、今回0.7%、「子どもの誕生日を祝えなかった」前回0.6%、今回0.9%、「子どもを習い事に通わすことができなかった」前回8.9%、今回7.3%、「家族旅行（テーマパークなど日帰りのおでかけを含む）ができなかった」前回14.7%、今回15.2%など）。この結果は、医療面での子どものいる世帯での施策は、各自治体において広く実施されその成果と思われる。

また、子どもが持っているものや使えるものを見ると、本は前回78.1%、今回63.1%、子ども部屋前回80.8%今回66.7%、自転車前回95.2%、今回84.8%と下がっているものが多い中、極端に上がったのは、スマートフォンやタブレット（前回55.3%、今回74.9%）であり、これらは学校からの配布の成果であろう。

以上から、家計の状況は少し改善がみられるが、医療補助を受けられない究極の場合は少なくなるなど効果的であったが、基本的には家計の改善を子どもに回す余裕には至っていない。経済的理由による子どもにできなかった経験（上記に挙げたようなこと）がどの家庭でも実現できるような方策が非常に重要である。

2016年度に養育費の取り決めについては設問を入れていなかったため、交野市での正確な比較はできないが、今回養育費の取り決めをして受け取っているのは約3割であった。反面、養育費を取り決めているが、受け取っていないのは2割を超えていた。2016年度全国ひとり親世帯等調査（厚生労働省2017）では、ひとり親家庭のうち養育費についての取決めをしている割合が母子世帯で42.9%、父子世帯で20.8%、ひとり親家庭で養育費を受け取っていない子どもの割合が、母子世帯54.2%、父子世帯74.4%という値であり、今回の結果は、養育費関連の施策の成果はあったのではないかと想定できる。

<雇用・健康>

持ち家など居住形態など2016年度と大きな変化はない。学歴については、母親の学歴を取り上げると、高校卒業が前回24.1%、今回17.1%、7ポイント上昇、大学卒業が前回17.9%、今回29.1%、約11ポイント上昇した。雇用状況では、何等かに仕事をしている母親は、前回78.5%、今回86.7%と8.2ポイント上昇している。そのなかで、正規職員が前回19.5%、今回27.0%で約8ポイント増えている。これらは、世の中の人手不足と相まって働く人が増加したことにより、可処分所得も増加したことと関連するであろう。社会の認識の変化や政策による変化があったのではないかと考えられる。子どもの貧困の世論が広まり、各所に出された政策の効果と考えられよう。

支援制度の利用状況は、就学援助は前回9.6%、今回9.3%、児童扶養手当が前回7.5%、今回11.3%、生活保護が前回0.7%、今回0.1%であった。就学援助制度について、「利用したことがない」との回答が前回59.1%、今回82.4%であり、かなり増加し、その理由を今回のみ聞いているが、「自身が該当しない」が91.0%でほぼ皆がそう思っていることがわかった。この数値は可処分所得の結果から考えてももっと受けることができる世帯があると思われるが、受けていない。前回も「あなたが受けることができる権利がある」メッセージを必要な人にどう届けるのか大きな課題であったが、改善に至っていない。各制度を正しく知らせ、他人ごとにせず、そこでのスティグマ（差別・偏見）を無くし受けやすくする工夫がさらに必要である。

<健康・家庭生活・学習・対人関係>

まず食事から確認する。「朝食を食べない」(週に1回も食べていない)が前回1.5%、今回2.4%、0.9ポイントではあるが増えている。食べない理由に「用意されていないから」が、前回1.0%、今回2.3%「食べる習慣がない」が前回4.1%、今回5.6%であった。小学生の11名が毎日は食べていない。このことは、2016年度も話題になったが、改善すべき喫緊の課題である。また、家族の人と食事をしていない子どもは、「ほとんどない」、「まったくない」を合計して、朝食では、小学5年生の子どもが143名いること、夕食では小学5年生で15名の子どもがおうちの人と夕食を食べしていない。これらは2016年の1回目に警鐘をならすべきこととしてとらえられていたが、より重視すべきである。

おうちの人と関わる設問は、2016年と傾向はほぼ変わらなかった。放課後過ごす場所は、「友だちの家」が前回27.5%、今回27.7%、「学校(クラブ活動など)」が前回34.9%、今回28.8%と、学校の数値が減少しており、コロナの影響による社会的交流活動の変化からの可能性が考えられる。友人との関係性が薄れることは、孤立や孤独へ向かう懸念も生じる。

勉強に関しては、今回調査から「授業がわからなくなった時期」小学生なら3,4年生(52.6%)、中学生なら1年生(48.1%)でつまづいていることがわかった。相談相手では、誰にも相談できない、相談したくないと感じている子どもは、前回13.8%、今回は10.8%、2016年よりも3ポイント減っている。前回は身体や気持ちで気になることを聞き、今回は身体の状態で気になること、「この1週間の気持ちの状況」で気になることを聞いているため単純に比較はできないが、「特に気になるところがない」が前回27.7%、今回28.7%(体調)、「やる気が起きない」において「そんなことはない」が31.8%であった。

悩みについては、2016年度と数値も傾向も変わらない。最も多いのが、「学校や勉強のこと」ついで「自分のこと(外見や体型のこと)」「進学・進路のこと」であった。

制度やサービスでいうと、子どもの居場所において、「平日の夜や休日過ごす居場所」の利用では小5が25.1%、中2が19.1%の子どもが利用したことがあり、「食事提供の居場所」は小5が11.0%、中2が7.4%、「学習支援の居場所」は小5が6.8%、中2が4.9%、「何でも相談できる場所」は、小5が5.3%、中2が4.3%の子どもが利用したことがあった。これら併せて居場所の効果として「友だちの増加」が小学生で27.0%、中学生で35.4%、「生活の中に楽しみなことが増えた」は小5が12.0%、中2が8.8%、「気軽に話せる大人が増えた」は小5で9.0%、中2で8.2%という結果であった。このことは今後の展開に大きな意味をなすであろう。ただし、中学2年生は、友達が増えたと回答しているのに対し、「特に変化なし」と17.7%が回答している。そのため、早期に居場所に繋ぎ、居場所が誰にとっても当たり前の選択肢にする必要がある。「平日の夜や休日過ごせる居場所」以外は、利用頻度は「食事提供の居場所」約9%、「学習支援の居場所」約6%、「何でも相談できる場所」は5%と少なくなり、将来の利用に関する積極的な利用希望も「食事提供の居場所」が小中合わせて23.6%、「学習支援の居場所」が小中合わせて18.1%ほどになる。子どもたちの希望があるととらえられ、「放課後過ごす場所」において、「友だちの家」や「学校(クラブ活動など)」が減少していることと併せて、子どもたちに多くの選択肢を提供できる方がよいと考えられること、自分には関係ないとする傾向があるかもしれないこと、などから居場所の充実とより自然な提供が望まれる。

最後に、ヤングケアラーの項目である「家族に世話をしている人」がいるかどうかについては、厚生労働省の研究事業として実施された調査結果と比べると、小学生6.5%(日本総研2022)、中学生5.7%(MURC2021)という値よりはるかに高い、小5が32.3%、中2が14.1%であり、内容もきょうだいの世話が最も多く、小5は74.7%(小学6年生28.5%:日本総研2022)、中2が65.4%(中学生79.8%:MURC2021)である。小学生の世話が国に比べてきょうだいの世話の割合が高い。「家事」

は、本調査では複数の質問にまたがっていることや複数回答可にしていることから単純に比較できないが、先述した厚生労働省の研究事業では、小6の世話の内容を家事と答えたのが、35.2%（日本総研2022）できょうだいの世話より高いが、本調査では逆であった。時間をみると1時間未満が最も多く、定義のあいまいさが子どもに伝えにくくさせている可能性もあるであろう。今後、イギリスのように定義を明確にしていくことも検討を行う必要がある。

今回の調査で保護者が身近にあるといいと思うことは、上位3つが「無料で学習支援が受けられる場所」49.6%、「放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること」41.6%、「困ったときにご飯を無料または安価で自宅に届けてくれるサービス」31.6%であった。学習に関して最も気にしていることがわかり、これらのサービスを利用している率の低さから、身近に届けられるような工夫が必要である。

3) クロス集計

各セクションコメントでは、2023年度の項目のみで確認してきたが、ここでは可能な限り2016年と比較する。まず経済面では、できなかった経験、つまりはく奪指標として、2016年度も検討してきた項目でまず確認する。

経済面から確認する。「家賃や住宅ローンの支払いが滞ったことがある」「電話（固定・携帯）など通信料の支払いが滞ったことがある」「国民年金の支払いが滞ったことがある」などの項目では2016年度よりも減少、特に困窮度Ⅰ群においては半減に近い減少がみられる。ただし「生活の見通しがたたなくて不安になったことがある」の減少はそこまで大きくなく、将来への不安感の減少にまで至っていない。経済的な大人のはく奪に比べ、子どものはく奪に関して、「お子さんの進路を変更した」、など2016年度と比較して増加している。これは、コロナ禍となったこともあり、経済的リスクのしわ寄せが子どもに向かった可能性がある。しかし、絶対避けないといけないことであり、警鐘を鳴らす必要性とともに対策を講ずべきである。また家計を住居の所有状況別にみると、「府営、市営の住宅」において、家計が赤字の世帯の割合が約半数（前回38.7%、今回27.3%）、子どものために「貯蓄したいが、できていない」割合が約7割（前回67.7%、今回63.6%）と他と比較して家計の厳しさが示されたと言える。

支援制度に関しては、まず就学支援制度は、申請すれば利用できるはずである困窮度Ⅰ群であっても利用したことがない人が、2016年度18.7%あり、これを減らすことを第一目的に考えたほどであったが、2023年度困窮度Ⅰ群で46.7%と増加している。現在利用している人をとっても、2016年度61.5%だったところ2023年度は50.0%になっている。児童扶養手当も困窮度Ⅰ群で利用したことがない人が、2016年度37.4%、2023年度11.8%と大幅に減少している。「生活保護制度」について、困窮度Ⅰ群において「利用している」が2016年度2.2%から2023年度0.0%と、やはり利用は少ない。これら設問の文言（例「受けたことがある」→「利用したことがある」など）の違いはあるものの、困窮度Ⅰ群にとって、つまり厳しい家庭にとって、制度利用は決して進んでおらず、さらに厳しい状況となったとも推察できる。

子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況は、本調査において全体で5.9%、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金は0.7%である。全国レベルのデータを見ると、2020年コロナ発生後の10月の調査（厚生労働科学特別研究）において、収入200万未満の世帯で35.6%（山野研究室2021）である。これらの数値を直接比較することはできないが、いずれにおいても割合の低さから、2016年以降子どもの貧困が周知されるようになり、コロナ禍となって、さらに支援制度の広がりや周知が今まで以上になされたが、大阪においてもその活用が広がり切れなかったと言わざるを得ない。これら最も厳しい世帯における利用が減少した要因を探る必要があろう。

10代で親になった世帯の厳しさは2016年度同様であり、たとえば母親の最終学歴について初めて親となった年齢別では、中卒（「中学校卒業」および「高等学校中途退学」）が半数近く、他の年齢群に比べて高い割合を示している。また、就労状況において正規社員の割合が、他の年齢群と比べて低くなっている。出産などによって学業を中断せざるを得なかった10代への教育支援や就業支援もさることながら、そもそもの予防的支援として、自分を大切にすることや将来を見越すことなど小学生から高校生まで、性教育含む生きる教育（西澤・西岡ほか2022）を根本的に見直し、積極的に導入を進めるべきである。

雇用に関しては、質問形態が違うため安易に2016年と比較できないが、非正規雇用の方が、困窮度が増すことや、最終学歴が低いほど困窮度Ⅰ群に占める割合が高くなる傾向は2016年と同じである。世帯構成と就労状況の関係を見ると、ふたり親世帯と比べて、母子世帯では非正規雇用の割合が前回27.6%、今回28.1%とやや高くなった。また困窮度Ⅰ群では、「非正規」群高くなっている点も変わらない。基本的に、さらにひとり親世帯への重点支援を検討すべきである。

健康に関しても傾向は、2016年度と2023年度はほぼ変わらない。つまり困窮度が増すほど身体面、精神面不調が高くなる。セクションコメントで述べてきたように、毎日の規則正しい朝食・昼食摂取が、保護者と子どもがよりよい関係となって、子どもの自己効力感を高める可能性があり、自己肯定感や将来の夢や目標があるほど、日常生活の中で元気に過ごしているという傾向があることから、基本的な生活習慣を維持できるような取り組み、将来の夢や目標が持てるような取り組みの工夫が必要である。

家庭生活や学習に関する傾向も2016年度の調査と変わらない。経済状況が保護者と子どもの間のコミュニケーションや子どもの生活リズムに影響を及ぼしうると考えられる。遅刻頻度の多さは保護者と子どものコミュニケーション不足を暗示しうる。経済的に困難な世帯の子どもは、通学が難しくなっているほか、学習習慣や家庭内での文化活動の習慣がなく、結果的に学習理解が不十分となっている可能性が示された。また、子ども自身も保護者も大学以上の高いレベルの教育を望まなくなっており、これは経済的事情と学習理解の低さのいずれもが要因となっている可能性がある。子どもの将来に関して、困窮度Ⅰ群と中央値以上群の差は2016年から変わっていない。つまり、将来への希望が持てていない。

生活習慣や学習習慣・読書習慣の形成に影響が出ている可能性が示唆された。また、生活習慣が身についていないと遅刻につながり、学習理解に影響が出ている可能性がある。こうした学習習慣と家庭状況は大きく関係するため、横断的に判断できて支援に繋ぐような、例えば家庭学習を補完するためにも、学習支援や学校での支援を展開するメンターの導入などが望ましい。

対人関係においても2016年の結果とクロスの傾向は変わらない。変わるところで述べると、放課後過ごす人の回答は「学校以外の友だち」が今回、困窮度Ⅰが10.7%、中央値以上が11.8%、前回の差（困窮度Ⅰ群が5.5%と中央値以上群が15.0%）と傾向が変わり、数値差は狭まった。また場所としても前は困窮度Ⅰ群対中央値以上群ではスーパーが5.5%対3.0%、コンビニ7.7%対0.9%、ゲームセンター1.1%対0.2%が特徴的で困窮度Ⅰ群の方が高かったが、今回は同じく、スーパーが8.3%対10.6%、コンビニ4.8%対5.1%、ゲームセンター0.0%対1.8%と、これらの項目がやや逆転した。塾や習い事は、前は困窮度Ⅰ群対中央値以上群では塾18.7%対30.4%、習い事24.2%対40.1%が、今回同じく塾31.0%対31.4%、習い事26.2%対47.1%と塾の差が狭まり、習い事の格差が広がった。コロナ禍でコンビニでさえ出なくなっていることも懸念される。

経済状況によって、子どもの教育的な活動へのアクセス、家族以外の社会的交流や人間関係を築く機会が制限されるだけでなく、子どもの自己効力感にも影響を及ぼす可能性があることが示唆された。また、経済的に困難な家庭では、子どもが家族の世話を担っているケースが多く、家族

の世話をしている子どもにとって、周りの支えが重要であり、社会的支援を必要としていることが示唆された。経済状況や世帯構成によって保護者の相談相手が異なり、とくに困難な経済状況にある世帯や特定の世帯構成の保護者が支えや相談相手の不足を経験していることが示された。子どもの居場所が様々な専門家や機関との連携を可能にしており、総合的なサポート体制として機能していると考えられる。

最後に、子どもが保護者以外に話せる機会が必要である。家庭と学校しかないソーシャルキャピタルの欠如がある子どもたちにとって、今回の調査において、おうちの人に関する悩みはおうちの人と学校の友達に話しにくいという結果であった。これは、ますます経済的に厳しい子どもたちを孤立させ、ソーシャルキャピタルを欠如させてしまう。おうちの人や学校の友達に相談すること自体難しいと考えられるが、おうちの人や友達に話せないという今回の結果から、自然と話せるような場や人材を学校から自然に流れるような仕組みを充実させる必要がある。

まとめ

今回の調査結果から、子どもの貧困に関する対策の結果として、親の就労や学歴、所得状況は改善がみられ、中央値は上昇する結果であった。これは2021年度の厚生労働省の国民生活基礎調査の結果をみても同様の傾向である。

しかし、その分が子どもに回っておらず、物価高の影響等々考えられる。肝心の困窮度Ⅰ群の世帯あるいは子どもの状況の改善は見られず、悪化している部分もあった。このことは子どもの貧困を考える立場にとっては厳しい結果である。この解決には、国が縦割りを解消しようとしてこども家庭庁を設立し、データ連携等々新たな動きをしているなか、同様に教育や福祉という既存の枠組みを越えて、子どもをまんやかに実行できる体制や制度設計を早急に考えるべきである。以下のような覚悟ある対策をとる必要がある。

1. 経済面：母子世帯への支援や収入のアップを企業側が実行できるような施策が必要である。
2. 学習面：学校だけでなく、しかしすべての子どもが通う学校と連携した学びの保障を検討する。方策として、コミュニティスクールや学習支援、無料塾の創設などの活用である。保護者のニーズのある無料塾は、例えば沖縄で導入している。貧困調査の結果から支援員を大々的に投入し、訪問による給付や支援の申請書書きのサポートなどの人的支援方策を実施した。そういう方法を検討する必要がある。あるいはそれをクラウドデータで行えるようなデータ連携と社会資源を選択できるよう可視化と自治体内でどこかの部署でも所持するような共有化が必要である。
3. 無償化の対象にならない部活の費用などの補助を行う。塾代助成のような方策を検討し、かつ申請をしなくても必要な人には利用できるよう、塾側に措置費のような形で配分する枠組みの提示や方策の提案を行う。
4. 価値の創造：教育の力はすべての子どもに影響することが出来る。年齢に応じて子どもの人権や生きる価値など人間尊重の理念から獲得できるような学びとその方法を導入する。小学1年生から体験的に教育を受ける生きる教育（西澤・西岡 2022）やブレインストーミングのように子どもたちとの対話で進めるフィンランドの教育（北川 2005）、実際的な生活課題から制度やサービス、権利に関して体験的に学ぶスウェーデンの社会科（リンドクウィスト・ウエステル 1997）のように、その年齢に合わせて体験型であり、自身の意見を出し、周りの意見を聞きながら進めるレクチャー型ではない教育の進め方を根本から検討すべきである。

そのことによって、10代の妊娠やいじめ、ヤングケアラーなど家庭状況を抱えるようになってからも早期にSOSが出せたり、自身で支援を選択できる力を養うことができる。

5. 地域資源：支援の場所を周知することである。自治体のパンフなど見やすい形で大阪府下全市に拡充する必要がある。子ども食堂に限らず、様々な機能（駄菓子屋や公園などほっと寄れるような場を使ったたまり場など）を持つ居場所や体験交流できる場かつ子どもが自力で行ける小学校区に必要である。学校が場所を開放するのがベストである。その場所が子どもにとっても親にとってもわかりやすく、行きやすい場所にあり、選択肢が増え、可視化し利用しやすくする必要がある。相談機関を増やしても子どもや親からの相談の数値は決して上がらず、居場所などの場の方が有効である。
6. 連携の考え方：連携とは個人情報共有をしなければできないわけではない。個人情報は把握しないまま連携することが重要である。これが社会資源を知らない教師と個人情報を持ってない地域の居場所の新しい連携の方法であり、これらを周知徹底させることである。
7. すべての子どもを視野に入れ、そこから自然につながる仕組みなど、今までの縦割りとは次元の違う支援の仕組みが必要である。
8. 社会福祉協議会など居場所の中間支援を行う機関の役割を明確化し、機能的に促進させる。社会教育分野が持つ公民館や図書館や博物館なども場であり、さらなる協働を明確にする。（子ども食堂等居場所の活動団体が無料で入れる、利用できるなど）
9. 全数からの仕組み：必要な子どもが確実に発見され自然につながるためには、スクリーニングから繋ぐ機能まで持った、例えば文部科学省推奨（2020）のYOSSスクリーニング（山野研究室2021）の仕組みが必要である。今回の調査で2016年からの比較によってアウトリーチでは乗り越えられなかった壁が明らかになった。相談ではなく、自然に伴走する支援を厳しい家庭の保護者や子どもたちは求めていることがわかる。必要な子どもを早期に発見し、伴走しながら、必要な制度や仕組みを紹介し、利用を増やすことで生活の改善をはかることと、伴走することで子どもや保護者本人の力をアップさせ、資源を活用できるようにする機能が必要である。
10. システム化：洩れなく持続可能に巡回させるためには、人に頼るだけでなく、福祉と学校のデータ連携を推奨し、地域資源の可視化のためにクラウド化することも考慮すべき点である。クラウドによっていち早く支援場所や居場所が学校にもすぐにわかり、地域活動と支援の必要な子どもを結び、支援提供を展開する必要がある。
11. 人材：これら学校においてすべての子どもの検討、発見から支援に繋ぐ校内の体制作りができる人材養成に力を入れる必要がある。スキルを取得する訓練講座の予算化や新たな認定制度になることも家庭ソーシャルワーク養成制度の活用などである。
12. その専門職の1つがスクールソーシャルワーカーである。各校に1名配置できるよう、正規職化への働きかけ、あるいは各自治体での正職化計画を立てる必要がある。
13. 法制化：これらは連携ではなく仕組み作りであり、制度化である。要項や規定を作成し、自治体や機関として動きやすいように作成すべきである。
14. 制度設計：デジタル化のために補助金や助成金を検討することも必要である。なぜなら、どこに必要な子どもが存在するのかわからない。データ連携することでどこに必要な子どもが存在し、様々な制度を活用してどうだったかを検証できるように作りこむことである。これらのシステム費用がベンダーロックにより莫大な金額がかかる課題がある。企業を巻き込むと同時に、自治体や政府からクラウド化に向けた助成制度を創設する必要がある。

引用・参考文献

- アーネ・リンドクウィスト&ヤン・ウェステル, 川上 邦夫 (翻訳) (1997)『あなた自身の社会: スウェーデンの中学教科書』新評論.
- 大阪府 (2023)「大阪府子ども (子育て世帯) に対する食費支援事業 (第2弾)」
(<https://www.pref.osaka.lg.jp/attach/20980/00457638/2-9.pdf>)
- 大阪府立大学 (2017)「大阪府子どもの生活実態調査」
- 北川達夫 (2005)「図解フィンランド・メソッド入門」経済界.
- 厚生労働省 (2004)「ワークシェアリング導入促進に関する秘訣集及びリーフレットについて」
(<https://www.mhlw.go.jp/houdou/2004/06/h0630-2.html>)
- 厚生労働省 (2017)「平成28年度 全国ひとり親世帯等調査結果報告」
(<https://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-11923000-Kodomokateikyoku-Kateifukishika/0000190325.pdf>)
- 厚生労働省 (2022)「2022 (令和4) 年国民生活基礎調査の概況」
(<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa22/index.html>)
- 柴田悠 (2016)『子育て支援が日本を救う—政策効果の統計分析』勁草書房.
- 内閣府 (2010)「平成21年度インターネットによる子育て費用に関する調査」
(https://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/13024511/www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/research/cyousa21/net_hiyo/mokuji_pdf.html)
- 西澤哲・西岡加名恵ほか (2022)『『生きる』教育: 自己肯定感を育み, 自分と相手を大切にする方法を学ぶ』日本標準.
- 日本総研 (2022)「令和3年度子ども・子育て支援推進調査研究事業: ヤングケアラーの実態に関する調査研究」厚生労働省.
- 三菱UFJリサーチコンサルティング(株) (2021)「令和2年度子ども・子育て支援推進調査研究事業: ヤングケアラーの実態に関する調査研究」厚生労働省.
- 文部科学省 (2023)「令和5年度就学援助の実施状況」
(https://www.mext.go.jp/content/20210324-mxt_shuugaku-000013450_27.pdf)
- 文部科学省・山野研究室 (2020)「スクリーニング活用ガイド」
(https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/_icsFiles/afieldfile/2020/03/27/20200327_mxt_kouhou02_2.pdf)
- 山野則子編著 (2019)『子どもの貧困調査—子どもの生活に関する実態調査から見えてきたもの』明石書店.
- 山野則子 (2018)『学校プラットフォーム』有斐閣.
- 山野則子研究室 (2021)「コロナ禍における子どもへの影響と支援方策のための横断的研究 保護者調査・子ども調査報告書」厚生労働省.
- 山野則子研究室 (2021)「スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーの常勤化に向けた調査研究」文部科学省.
- 柳澤靖明・福島尚子 (2019)『隠れ教育費: 公立小中学校でかかるお金を徹底検証』太郎次郎社エディタス.
- UNESCO(2020) ‘International technical guidance on sexuality education: an evidence-informed approach (jpn)’ (<https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000374167>)

図表目次

図 1. 困窮度別に見た、経済的な理由による経験	232
図 2. 困窮度別に見た、子どもへの経済的な理由による経験	234
図 3. 困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるもの.....	236
図 4. 困窮度別に見た、経済的な理由による経験の該当数の平均.....	237
図 5. 困窮度別に見た、子どもへの経済的な理由による経験の該当数の平均.....	238
図 6. 困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるものの該当数の平均.....	239
図 7. 困窮度別に見た、世帯員の構成	240
図 8. 困窮度別に見た、世帯員の構成（2016 年度調査との比較）	241
図 9. 世帯構成別に見た、家計の状況	242
図 10. 困窮度別に見た、子どもの人数	243
図 11. 困窮度別に見た、住居形態	244
図 12. 困窮度別に見た、家計の状況	245
図 13. 困窮度別に見た、子どもの将来のための貯蓄状況	246
図 14. 困窮度別に見た、自分が世話をしている人の有無	247
図 15. 困窮度別に見た、就学援助の利用状況	250
図 16. 困窮度別に見た、就学援助の利用状況（2016 年度調査との比較）	251
図 17. 困窮度別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）	252
図 18. 困窮度別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）（2016 年度調査との比較）	253
図 19. 困窮度別に見た、生活保護の利用状況	254
図 20. 困窮度別に見た、生活保護の利用状況（2016 年度調査との比較）	255
図 21. 困窮度別に見た、離婚相手との養育費の取り決めや受け取り（ひとり親世帯のみ）	256
図 22. 困窮度別に見た、初めて親となった年齢	257
図 23. 困窮度別に見た、初めて親となった年齢（母親の回答者のみ）	258
図 24. 初めて親となった年齢別に見た、お母さんの最終学歴（母親の回答者のみ）	259
図 25. 初めて親となった年齢別に見た、お父さんの最終学歴（母親の回答者のみ）	260
図 26. 初めて親となった年齢別に見た、就労状況（母親の回答者のみ）	261
図 27. 初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること（母親の回答者のみ）	263
図 28. 初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数（母親の回答者のみ） ...	265
図 29. 住居形態別に見た、家計の状況	266
図 30. 住居形態別に見た、子どもの将来のための貯蓄状況	267
図 31. 子どもの居場所の利用経験別に見た、就学援助の利用状況.....	268
図 32. 子どもの居場所の利用経験別に見た、生活保護の利用状況.....	269
図 33. 子どもの居場所の利用経験別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況.....	270
図 34. 子どもの居場所の利用経験別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）	271
図 35. 子どもの居場所の利用経験別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況	272
図 36. 子どもの居場所の利用経験別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況 ...	273
図 37. 子どもの居場所の利用経験別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況	274
図 38. 学校や学校の行事等の状況別に見た、就学援助の利用状況.....	276
図 39. 学校や学校の行事等の状況別に見た、生活保護の利用状況.....	278
図 40. 学校や学校の行事等の状況別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況	280
図 41. 学校や学校の行事等の状況別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）	282
図 42. 学校や学校の行事等の状況別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況	284
図 43. 学校や学校の行事等の状況別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況	286
図 44. 学校や学校の行事等の状況別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況	288
図 45. 身近にあるといいと思うこと別に見た、就学援助の利用状況.....	289
図 46. 身近にあるといいと思うこと別に見た、生活保護の利用状況.....	290
図 47. 身近にあるといいと思うこと別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況	291

図 48. 身近にあるといいと思うこと別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）	292
図 49. 身近にあるといいと思うこと別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況	293
図 50. 身近にあるといいと思うこと別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況	294
図 51. 身近にあるといいと思うこと別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況	295
図 52. 困窮度別に見た、就労状況	297
図 53. 困窮度別に見た、お母さんの最終学歴	298
図 54. 困窮度別に見た、お父さんの最終学歴	299
図 55. お母さんの最終学歴別に見た、就労状況	300
図 56. お父さんの最終学歴別に見た、就労状況	301
図 57. 世帯構成別に見た、就労状況	302
図 58. 就労状況別に見た、家計の状況	303
図 59. 困窮度別に見た、朝食の頻度	305
図 60. 就労状況別に見た、朝食の頻度	306
図 61. 朝食の頻度別に見た、子どもへの信頼度	307
図 62. 朝食の頻度別に見た、子どもとの会話頻度	308
図 63. 朝食の頻度別に見た、平日での子どもとの関わり時間	309
図 64. 朝食の頻度別に見た、休日での子どもとの関わり時間	310
図 65. 朝食の頻度別に見た、子どもの将来への期待度	311
図 66. 朝食の頻度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）	312
図 67. 休日の昼食の頻度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）	313
図 68. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ①楽しみにしていることがたくさんある	314
図 69. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ②遊びにでかけるのが好きだ	315
図 70. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱいだ	316
図 71. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ④やろうと思ったことがうまくできる	317
図 72. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑤一人ぼっちのような気がする	318
図 73. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑥不安な気持ちになる	319
図 74. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる	320
図 75. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない	321
図 76. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑨いらいらする	322
図 77. 困窮度別に見た、自分の体の状態で気になること	324
図 78. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ①楽しみにしていることがたくさんある	325
図 79. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ②遊びにでかけるのが好きだ	326
図 80. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱいだ	327
図 81. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ④やろうと思ったことがうまくできる	328
図 82. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑤一人ぼっちのような気がする	329
図 83. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑥不安な気持ちになる	330
図 84. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる	331
図 85. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない	332
図 86. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑨いらいらする	333
図 87. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、自分の体の状態で気になること	335
図 88. 困窮度別に見た、自分の体や気持ちで気になること	337
図 89. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、自分の体や気持ちで気になること	339
図 90. 就労状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数	340
図 91. 就労状況別に見た、支えてくれる人得点	341
図 92. 困窮度別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）	342
図 93. 困窮度別に見た、心の状態（将来に対して希望を持っているか）	343
図 94. 困窮度別に見た、心の状態（ストレスを発散できるものがあるか）	344
図 95. 困窮度別に見た、心の状態（自分が幸せだと思うか）	345

図 96. 困窮度別に見た、おうちの大人の人と一緒に朝食を食べているか.....	347
図 97. 困窮度別に見た、おうちの大人の人と一緒に夕食を食べているか.....	348
図 98. 困窮度別に見た、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか.....	349
図 99. 困窮度別に見た、おうちの大人の人と文化活動をするか.....	350
図 100. 困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）.....	351
図 101. 困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）.....	352
図 102. 困窮度別に見た、授業以外の読書時間.....	353
図 103. 困窮度別に見た、学校の勉強で気持ちに近いもの.....	354
図 104. 子ども部屋の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間の平均値（学校がある日）.....	355
図 105. 子ども部屋の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間の平均値（学校がない日）.....	356
図 106. 起床時間の規則性別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）.....	357
図 107. 起床時間の規則性別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）.....	358
図 108. 朝食の頻度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）.....	359
図 109. 朝食の頻度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）.....	360
図 110. 起床時間の規則性別に見た、授業以外の読書時間.....	361
図 111. 朝食の頻度別に見た、授業以外の読書時間.....	362
図 112. 困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）と学習理解度の関連.....	363
図 113. 困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）と学習理解度の関連.....	364
図 114. 学校への遅刻別に見た、子どもへの信頼度.....	365
図 115. 学校への遅刻別に見た、子どもとの会話頻度.....	366
図 116. 学校への遅刻別に見た、平日での子どもとの関わり時間.....	367
図 117. 学校への遅刻別に見た、休日での子どもとの関わり時間.....	368
図 118. 学校への遅刻別に見た、子どもの将来への期待度.....	369
図 119. 困窮度別に見た、子どもの将来への期待度.....	370
図 120. 困窮度別に見た、希望する進学先.....	371
図 121. 困窮度別に見た、希望する進学先（2016年度調査との比較）.....	372
図 122. 困窮度別に見た、子どもに希望する進学.....	373
図 123. 困窮度別に見た、学校への遅刻.....	374
図 124. 困窮度別に見た、子どもの通学状況.....	375
図 125. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に朝食を食べているか.....	376
図 126. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に夕食を食べているか.....	377
図 127. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人のの人に宿題（勉強）をみてもらうか.....	378
図 128. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と学校のできごとについて話すか.....	379
図 129. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするか.....	380
図 130. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すか.....	381
図 131. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と文化活動をするか.....	382
図 132. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に外出するか.....	383
図 133. 学校への遅刻別に見た、嫌なことや悩んでいること.....	385
図 134. 学校への遅刻別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数.....	386
図 135. 学校への遅刻別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）.....	387
図 136. 学校への遅刻別に見た、希望する進学先.....	388
図 137. 学校への遅刻別に見た、学校の勉強で気持ちに近いもの.....	389
図 138. 子どもの通学状況別に見た、嫌なことや悩んでいること.....	391
図 139. 子どもの通学状況別に見た、悩んだ時の対処を教えてくれる人のいない割合.....	392
図 140. 子どもの通学状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数.....	393
図 141. 子どもの通学状況別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）.....	394
図 142. 子どもの通学状況別に見た、希望する進学先.....	395
図 143. 困窮度別に見た、保護者が家にいる時間帯.....	396

図 144. 困窮度別に見た、子どもへの信頼度	397
図 145. 困窮度別に見た、子どもとの会話頻度	398
図 146. 困窮度別に見た、平日での子どもとの関わり時間	399
図 147. 困窮度別に見た、休日での子どもとの関わり時間	400
図 148. 自分が世話をしている人の有無別に見た、学校や学校の行事等の状況	402
図 149. 自分が世話をしている人の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日） ..	403
図 150. 自分が世話をしている人の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日） ..	404
図 151. 困窮度別に見た、放課後を過ごす場所	408
図 152. 困窮度別に見た、放課後を一緒に過ごす人	410
図 153. 困窮度別に見た、毎日の生活で楽しいこと	412
図 154. 困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいること	414
図 155. 困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手	416
図 156. 困窮度別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先	418
図 157. 困窮度別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先（2016年度調査との比較）	419
図 158. 世帯構成別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先がない割合	420
図 159. 世帯構成別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先がない割合（2016年度調査との比較）	420
図 160. 困窮度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）	421
図 161. 子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかと、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）	422
図 162. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの手伝いをしているか	423
図 163. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人のひとに宿題（勉強）をみてもらうか	424
図 164. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人のひとと学校でのできごとについて話すか	425
図 165. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人のひとと遊んだり、体を動かしたりするか	426
図 166. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人のひととニュースなど社会のできごとについて話すか	427
図 167. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人のひとと文化活動をするか	428
図 168. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人のひとと一緒に外出するか	429
図 169. 困窮度別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所	430
図 170. 困窮度別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所	431
図 171. 困窮度別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所	432
図 172. 困窮度別に見た、何でも相談できる場所	433
図 173. 困窮度別に見た、子どもの居場所の利用経験	434
図 174. 平日の夜や休日を過ごすことができる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手	436
図 175. 昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手	438
図 176. 勉強を無料か安い料金でみてくれる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手	440
図 177. 何でも相談できる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手	442
図 178. 自分が世話をしている人の有無別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手	444
図 179. 自分が世話をしている人の有無別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所	445
図 180. 自分が世話をしている人の有無別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所	446
図 181. 自分が世話をしている人の有無別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所	447
図 182. 自分が世話をしている人の有無別に見た、何でも相談できる場所	448
図 183. 子どもの居場所の利用経験別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先	450
図 184. 学校や学校の行事等の状況別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手	452
図 185. 学校や学校の行事等の状況別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所	454
図 186. 学校や学校の行事等の状況別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所	456
図 187. 学校や学校の行事等の状況別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所	458
図 188. 学校や学校の行事等の状況別に見た、何でも相談できる場所	460
図 189. 身近にあるといいと思うこと別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所	462
図 190. 身近にあるといいと思うこと別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所	464
図 191. 身近にあるといいと思うこと別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所	466

図 192. 身近にあるといいと思うこと別に見た、何でも相談できる場所.....	468
図 193. 身近にあるといいと思うこと別に見た、子どもの居場所の利用有無.....	470
図 194. 身近にあるといいと思うこと別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先	472

IV 資料編

おおさかふ こ せいかつ かん じったいちようさ
大阪府子どもの生活に関する実態調査

しょうがくせい ちゅうがく せい む ちようさ ちようさひよう かたのし
小学生・中学生向け調査 調査票【交野市】

ちようさ きょうりよく ねが
< 調査への協力のお願い >

- ◆この調査は、大阪府内の小学生・中学生のみなさんの学校や家での生活の様子、将来についての考えや希望などについてたずねるものです。
- ◆この調査は、小学生または中学生のあなたが自分で答えてください。
- ◆名前を書く必要はありません。テストではありませんので、思ったとおりに答えてください。
- ◆答えたくない質問は答える必要はありません。
- ◆答えに迷う場合には、あなたの気持ちや考えにできるだけ近いものを選ぶようにしてください。
- ◆あなたが答えた内容は、おうちの人や先生に見せる必要はありません。
- ◆交野市はこの調査結果を参考に、子どもたちのために何ができるかを考えていきますので、ご協力をお願いします。
- ◆Webまたは紙の調査票のどちらかで令和5年7月20日までに回答してください。

うえぶ かいとう
(1) Webによるご回答

- この調査は、Webから回答することができます。
- 回答方法は、16ページをのぞいてください。
- ※Webでの回答は1回限りです。回答を送信すると、そのあとの修正はできません。

かみ ちようさ ひよう かいとう
(2) 紙の調査票によるご回答

- ・調査票に記入後、「小学生・中学生用」と書かれた封筒に入れ、シールをはがしてフタを閉じて、先生に渡してください。

きげん れいわ ねん がつ にち もくようび
◆期限： 令和5年7月20日（木曜日）◆

ちようさ かん といあわ さき
【調査に関するお問合せ先】

かたのしすこ ぶ こそだ しえんか
交野市健やか部 子育て支援課

でんわ ちよくつう
電話 072-893-6406 (直通)

※9:00～17:30 土・日曜日・祝日を除く

ふあくしみり
ファクシミリ 072-892-0525

質問の回答方法について

◆それぞれの質問について次のように教えてください。

(例) あなたの好きな色は何色ですか。

1. 赤色	3. 緑色
2. 黄色	4. その他の色

※答えは、あてはまる番号に○をつけてください。

※○のつけかたは、質問文の終わりに「あてはまる番号 1 つに○をつけてください」や「あてはまる番号すべてに○をつけてください」などを書いてありますので、それにしがってください。

あなたについておたずねします。

問1 あなたは小学生ですか、それとも中学生ですか。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. 小学生	2. 中学生

あなたのふだんの生活のことについておたずねします。

問2 あなたは、ふだん(月曜日～金曜日)、ほぼ同じ時刻に起きていますか。

(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. 起きている	3. あまり、起きていない
2. どちらかといえば、起きている	4. 起きていない

問3 あなたは、ふだん(月曜日～金曜日)、何時に寝ていますか。

(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. 午後9時より前	4. 午後11時台	7. きまっていない
2. 午後9時台	5. 午前0時台	
3. 午後10時台	6. 午前1時より後	

問4 朝食についておたずねします。

(1) あなたは、週にどのくらい、朝食を食べていますか。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. 毎日またはほとんど毎日	3. 週に2～3回	5. 食べない
2. 週に4～5回	4. 週に1回程度	

(2) 前の質問で「1. 毎日またはほとんど毎日」に○をつけた方以外におたずねします。あなたが朝食を食べない理由はなんですか。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. 時間がない	3. 用意されていない	5. わからない
2. おなかがすいていない	4. 食べる習慣がない	

問5 夕食についておたずねします。

(1) あなたは、週にどのくらい、夕食を食べていますか。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. 毎日またはほとんど毎日	3. 週に 2 ～ 3 回	5. 食べない
2. 週に 4 ～ 5 回	4. 週に 1 回程度	

(2) 前の質問で「1. 毎日またはほとんど毎日」に○をつけた方以外におたずねします。あなたが夕食を食べない理由はなんですか。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. 時間がない	3. 用意されていない	5. わからない
2. おなかがすいていない	4. 食べる習慣がない	

問6 お休みの日の昼食についておたずねします。

(1) あなたは、学校がお休みの日に昼食を食べますか。(夏休みなどの長期のお休みの日もふくみます。)(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. 必ず食べる	3. 食べないことが多い	5. わからない
2. 食べることが多い	4. 食べない	

(2) 前の質問で「1. 必ず食べる」に○をつけた方以外におたずねします。あなたが、学校がお休みの日に昼食を食べない理由はなんですか。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. 時間がない	3. 用意されていない	5. わからない
2. おなかがすいていない	4. 食べる習慣がない	

問7 あなたは、学校に遅刻することがありますか。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. 毎日またはほとんど毎日	3. 週に 2 ～ 3 回	5. 遅刻はしない
2. 週に 4 ～ 5 回	4. 週に 1 回程度	



とい 問8 あなたは、次のようなことをどのくらいしていますか。（①～⑩それぞれについて、あてはまる番号ばんごう
ひと まる
1つに○をつけてください）

	ほとんど毎日 まいにち	週に4～5回 しゅう かい	週に2～3回 しゅう かい	週に1回程度 しゅう かい いど	月に1～2回 つき かい	ほとんどない	まったくない
① おうちの大人のひとと一緒に朝食を食べていますか。	1	2	3	4	5	6	7
② おうちの大人のひとと一緒に夕食を食べていますか。	1	2	3	4	5	6	7
③ おうちの大人のひとに朝、起こしてもらいますか。	1	2	3	4	5	6	7
④ おうちの手伝いをしていますか。	1	2	3	4	5	6	7
⑤ おうちの大人のひとに宿題（勉強）をみてもらいますか。	1	2	3	4	5	6	7
⑥ おうちの大人のひとと学校でのできごとについて話しますか。	1	2	3	4	5	6	7
⑦ おうちの大人のひとと遊んだり、体を動かしたりしますか。	1	2	3	4	5	6	7
⑧ おうちの大人のひととニュースなど社会のできごとについて話しますか。	1	2	3	4	5	6	7
⑨ おうちの大人のひとと文化活動（図書館や美術館、博物館、音楽鑑賞に行くなど）をしますか。	1	2	3	4	5	6	7
⑩ おうちの大人のひとと一緒に外出しますか。（散歩する・買い物に出かける・外食をするなど）	1	2	3	4	5	6	7

とい 問9 あなたは、毎日の生活でどのようなときに楽しいとおもいますか。

（あてはまる番号ばんごうすべてに○をつけてください）

1. おうちのひとと一緒に過ごしているとき	5. 今、住んでいる地域の行事に参加しているとき
2. ともだちと一緒に過ごしているとき	6. 塾や習いごとで過ごしているとき
3. 学校生活やクラブ活動・部活動に参加しているとき	7. 特に楽しいと思うときはない
4. ひとりで過ごしているとき	8. その他

とい
問10 あなたは、ふだん（月曜日～金曜日）の放課後、だれと過ごしますか。
（あてはまる番号すべてに○をつけてください）

1. おうちの大人の人（お母さん・お父さん・おばあちゃん・おじいちゃん・親せきなど）
2. きょうだい
3. おうちの人以外の大人（近所の大人、塾や習いごとの先生など）
4. 学校のともだち
5. クラブ活動・部活動の仲間
6. 学校以外のともだち（地域のスポーツクラブ、近所のともだちなど）
7. ひとりでいる
8. その他の人

とい
問11 あなたは、ふだん（月曜日～金曜日）の放課後、どこで過ごしますか。
（あてはまる番号すべてに○をつけてください）

1. 自分の家	9. コンビニエンスストア
2. おばあちゃん・おじいちゃんの家	10. ゲームセンター
3. ともだちの家	11. 図書館や公民館など公共の施設
4. 塾	12. 地域の居場所（学習支援の場や子ども食堂など地域で同じ年ごろの子どもが集まる場所）
5. 習いごと	13. 学童保育（※）
6. 学校（クラブ活動・部活動など）	14. その他
7. 公園・広場	
8. スーパーやショッピングモール	

※「学童保育」とは、「放課後児童クラブ」、「いきいき放課後児童クラブ」、「留守家庭児童会（室）」、「学童クラブ」、「仲良しクラブ」もふくみます。

とい
問12 あなたは、ふだん学校の授業以外で、どのように勉強をしていますか。
※勉強には学校の宿題もふくみます。（あてはまるものすべてに○をつけてください）

1. 自分で勉強する	6. おうちの人に教えてもらう
2. 塾で勉強する	7. ともだちと勉強する
3. 学校の補習を受ける	8. その他
4. 家庭教師に教えてもらう	9. 学校の授業以外で勉強はしない
5. 地域の人などが行う無料の勉強会に参加する	

とい 問13 あなたは、授業時間以外に1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。
 (塾などの時間もふくみます。) (①、②それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください)

	まったくしない	30分より少ない	30分以上、1時間より少ない	1時間以上、2時間より少ない	2時間以上、3時間より少ない	3時間以上	わからない
① 学校がある日 (月～金曜日)	1	2	3	4	5	6	7
② 学校がない日 (土・日曜日・祝日)	1	2	3	4	5	6	7

はんぶん
あと半分だよ。
がんばってね！

とい 問14 学校の勉強についておたずねします。
 (1) 学校の勉強について、一番あなたの気持ちに近いものはどれですか。
 (あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. よくわかる	3. あまりわからない	5. わからない
2. だいたいわかる	4. ほとんどわからない	

(2) 前の質問で「3. あまりわからない」「4. ほとんどわからない」「5. わからない」に○をつけた方に
 おたずねします。いつごろから、授業がわからないことがあるようになりましたか。
 (あてはまるもの1つに○をつけてください)

1. 小学1・2年生のころ	3. 小学5年生になってから	5. 中学1年生のころ
2. 小学3・4年生のころ	4. 小学6年生のころ	6. 中学2年生になってから

とい 問15 あなたは、学校の授業時間以外に、1日あたりどれくらいの時間、読書をしますか。
 (教科書や参考書、マンガや雑誌をのぞきます。) (あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. まったくしない	5. 2時間以上、3時間より少ない
2. 30分より少ない	6. 3時間以上
3. 30分以上、1時間より少ない	7. わからない
4. 1時間以上、2時間より少ない	

とい 問16 あなたは、^{がっこう}学校や^{がっこう}学校の^{ぎょうじ}行事等で次のようなことがありますか。

(^{ばんごう}あてはまる番号^{まる}すべてに○をつけてください)

1. ^{じゅぎょう} 授業中に ^ね 寝てしまうことが多い	7. ^{うんどうかい} 運動会や ^{えんそく} 遠足などの ^{がっこうぎょうじ} 学校行事を ^{けっせき} 欠席する
2. ^{しゅくだい} 宿題ができていないことが多い	8. ^{ほけんしつ} 保健室で ^す 過ごすことが多い
3. ^も 持ち物の ^{わす} 忘れ物が ^も 多い	9. ^{がっこう} 学校では ^{ひとり} ひとりで ^す 過ごすことが多い
4. ^{なら} 新しいことを ^{やす} 休むことが ^{おほ} 多い	10. ^{ともだち} ともだちと ^{あそ} 遊んだり、 ^{おしゃべり} おしゃべりしたりする ^{じかん} 時間が
5. ^{ていしゅつぶつ} 提出物を ^だ 出すのが ^{おく} 遅れることが ^{おほ} 多い	^{すく} 少ない
6. ^{しゅうがくりょこう} 修学旅行などの ^{しゅくはくぎょうじ} 宿泊行事を ^{けっせき} 欠席する	11. ^{とく} 特にない

とい 問17 今、あなたは、いやなことや^{なや}悩んでいることはありますか。

(^{ばんごう}あてはまる番号^{まる}すべてに○をつけてください)

1. ^{うち} おうちのこと	6. ^す 好きな ^{ひと} 人のこと
2. ^{がっこう} 学校や ^{べんきょう} 勉強のこと	7. ^{しんがく} 進学・ ^{しんろ} 進路のこと
3. ^{くらぶ} クラブ活動や ^{ぶかつどう} 部活動のこと	8. ^た その他のこと
4. ^{じぶん} 自分のこと（ ^{がいけん} 外見や ^{たいけい} 体型など）	9. いやなことや ^{なや} 悩んでいることはない
5. ^{ともだち} ともだちのこと	10. ^{わからぬ} わからない

とい 問18 あなたは、いやなことや^{なや}悩んでいることがあるとき、だれかに^{そうだん}相談しますか。（だれに^{はな}話しますか。）

(^{ばんごう}あてはまる番号^{まる}すべてに○をつけてください)

1. ^{おや} 親	12. ^{いんたーねっと} インターネットや ^{さいと} サイトなどを ^{つうし} 通じて ^し 知りあった
2. ^{きょうだい} きょうだい	^{ちよくせつ} 直接 ^あ 会ったことの ^{ひと} ない人
3. ^{しん} 親せき	13. ^{きんじよ} 近所の ^{ひと} 人
4. ^{がっこう} 学校の ^{ともだち} ともだち	14. ^{ちいき} 地域の ^{しえんだんたい} 支援団体
5. ^{がっこう} 学校以外の ^い ともだち	^{がくしゅうしえん} （学習支援の ^ば 場や ^こ 子ども ^{しょくどう} 食堂など ^{ちいき} 地域で
6. ^{がっこう} 学校の ^{せんせい} 先生	^{おなとし} 同じ ^こ 年ごろの ^{あつ} 子どもが ^{ひと} 集まるところの ^{ひと} 人）
7. ^{すくー} スクール ^{かうんせらー} カウンセラー、 ^{そーしゃるわーかー} ソーシャルワーカー	15. ^た その他の ^{ひと} 人
8. ^{じゅく} 塾や ^{なら} 習いごとの ^{せんせい} 先生	16. ^{だれ} だれにも ^{そうだん} 相談 ^{できない} できない
9. ^{がくどうほいく} 学童保育の ^{せんせい} 先生（※）	17. ^{だれ} だれにも ^{そうだん} 相談 ^{したくない} したくない
10. ^こ 子ども ^{せんよう} 専用の ^{でんわ} 電話 ^{そうだん} 相談	18. ^{わからぬ} わからない
11. ^{えすえぬえす} SNSなどの ^{いんたーねっと} インターネットや ^{らいん} LINEの ^{そうだん} 相談	

※「学童保育」とは、「^{がくどうほいく}放課後児童クラブ」、「^{ほしか}いきいき放課後児童クラブ」、「^{るす}留守家庭児童会（室）」
、「^{がくどうくらぶ}学童クラブ」、「^{なかよ}仲良し^{くらぶ}クラブ」もふくみます。

問19 わたしたちは、楽しい日ばかりではなく、ちょっとさみしい日も、楽しくない日もあります。あなたが、この一週間、どんな気持ちや状況だったのか、教えてください。良い答え、悪い答えはありません。思ったとおりに教えてください。

(①～⑨それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください)

	そう うっ だも	とき どき そう だ	そ ん な い こ と
① 楽しみにしていることがたくさんある	1	2	3
② 遊びにでかけるのが好きだ	1	2	3
③ 元気いっぱいだ	1	2	3
④ やろうと思ったことがうまくできる	1	2	3
⑤ 一人ぼっちのような気がする	1	2	3
⑥ 不安な気持ちになる	1	2	3
⑦ まわりが気になる	1	2	3
⑧ やる気が起きない	1	2	3
⑨ いらいらする	1	2	3

問20 あなたは、自分の体の状態で気になることはありますか。

(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. ねむれない	6. よくかゆくなる
2. よく頭がいたくなる	7. とくに気になるところはない
3. 歯がいたい	8. その他
4. よくおなかがいたくなる	9. わからない
5. よくかぜをひく	



答えたくない質問は答える必要はないよ。

答えに迷うときは、あなたの気持ちや考えに

できるだけ近いものを選んでね。

とい 問21 あなたが、持っているものや、あなたが使うことができるものを選んでください。

(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. 本 (学校の教科書やマンガ・雑誌はのぞく)	8. テレビ
2. マンガ・雑誌	9. けいたい電話
3. 子ども部屋 (ひとり部屋やきょうだいと 一緒に使っている部屋など)	10. スマートフォン・タブレット機器
4. インターネットにつながるパソコン (学校のパソコンはのぞく)	11. 化粧品・アクセサリ
5. 運動用具 (ボール・ラケットなど)	12. 習いごとなどの道具 (ピアノなど)
6. ゲーム機	13. 自分で選んだ服
7. 自転車	14. キャラクターグッズ
	15. その他
	16. あてはまるものはない

あなたが、ふだん 考 えていることについておたずねします。

とい 問22 あなたは、つらいことがあってもすぐ立ち直ることができますか。

(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. そう思う	3. どちらかというそう思わない
2. どちらかというそう思う	4. そう思わない

とい 問23 あなたがふだん 考 えていることについて、次の (1) ~ (3) について教えてください。

(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

(1) 自分に自信がある

1. ある	3. どちらかというたない
2. どちらかというとある	4. ない

(2) 自分の考えをはっきり相手に伝えることができる

1. できる	3. どちらかというとできない
2. どちらかというとできる	4. できない

(3) 自分の将来の夢や目標を持っている

1. 持っている	3. どちらかというと持っていない
2. どちらかというと持っている	4. 持っていない

とい 問24 あなたは、将来どの学校まで行きたいと思いますか。

(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. 中学校	6. 留学 (外国で長い期間勉強すること)
2. 高校	7. 専門学校 (美容師や調理師など仕事の仕方や技術を学ぶための学校など) ・高等
3. 短期大学	せんもんがっこう
4. 大学	専門学校
5. 大学院	8. 考えたことがない
	9. わからない

あともう少しだよ！

がんばってね！



©2014 大阪府もずやん

あなたのことについて、おたずねします。

問25 自分やともだちの家以外の場所についておたずねします。

- (1) あなたは、次の①～④のような場所を利用したことがありますか。また、利用したことがない場合、今後利用したいと思いますか。

(①～④それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください。)

	利用したことがある	利用したことはない (あれば利用したい と思う)	利用したことはない (今後利用したい と思わない)	利用したことはない (今後利用したい か分からない)
① 平日の夜や休日を過ごすことができる 場所 (学童保育など)	1	2	3	4
② 昼食や夕食、お弁当を無料か安い 料金で食べることができる場所 (子 ども食堂など)	1	2	3	4
③ 勉強を無料か安い料金でみくれる 場所 (一般的な学習塾とはちがう 学習支援など)	1	2	3	4
④ 何でも相談できる場所 (電話や ネットの相談をふくむ。)	1	2	3	4

- (2) 前の質問で、1つでも「利用したことがある」と答えた方におたずねします。そこを利用したことで、次のような変化がありましたか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. ともだちが増えた	6. 勉強がわかるようになった
2. 気軽に話せる大人が増えた	7. 勉強する時間が増えた
3. 生活の中で楽しみなことが増えた	8. その他
4. ほっとできる時間が増えた	9. 特に変化はない
5. 栄養のある食事をとれることが増えた	

(3) 問25(1)の質問で、「利用したことがある」に○をつけた方以外におたずねします。利用したことがないのはなぜですか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. どこにあるか知らないから	7. Wi-fi (インターネット通信環境) がないから
2. 家の近く(ひとりでいける場所)にないから	8. 行きたいと思わないから
3. 家で過ごしたいと思うから	9. 何をしているかわからないから
4. 楽しくなさそうだから	10. 利用していることを近所の人やともだちに知られたくないから
5. 「行ってもいけない」と親などの大人に言われるから	11. その他
6. 行きたい日・時間に開いていないから	

問26 あなたがおうちでしているお世話の様子についておたずねします。

(1) おうちの人のなかあなたが世話をしている人はいますか。

(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. いる	2. いない

(2) 前の質問で「1. いる」に回答した方におたずねします。誰のお世話をしていますか。

(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. お母さん	4. おじいちゃん
2. お父さん	5. きょうだい
3. おばあちゃん	6. その他

(3) 問26(1)の質問で「1. いる」に回答した方におたずねします。あなたがやっているお世話の内容を教えてください。(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. 料理や買い物、食器洗いなど	5. 病院へ一緒に行くことやお風呂・トイレのお世話、見守りをする、話し相手になる、通訳をする、お金の管理、薬の管理など
2. 洗濯など	6. その他
3. そうじやゴミ捨てなど	
4. きょうだいのめんどろを見ることや保育所のおむかえなど	

(4) 前の質問で「6. その他」に○をつけた方は、具体的な内容を書いてください。

(5) 問26(1)の質問で「1. いる」に回答した方におたずねします。お世話をするのはどれくらいありますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. ほぼ毎日	3. 週に1日または2日
2. 週に3日～5日	4. 1か月に数日

(6) 問26(1)の質問で「1. いる」に回答した方におたずねします。学校がある日に、お世話を1日のうちどれくらいしていますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 1時間より少ない	4. 3時間以上、5時間より少ない
2. 1時間以上、2時間より少ない	5. 5時間以上、7時間より少ない
3. 2時間以上、3時間より少ない	6. 7時間より多い

(7) 問26(1)の質問で「1. いる」に回答した方におたずねします。お世話をしていることによって次のようなことがありますか。(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. おうちの人と話したり遊んだりすることが ふ 増える	8. とても疲れることがある
2. 時間の使い方を工夫できる	9. いろいろしやすい
3. 家の中で気持ちよく過ごすことができる	10. 気持ちが落ち込む
4. おうちの人健康に過ごすことができる	11. 学校を欠席や遅刻、早退することがある
5. 「お世話」にやりがいを感じる	12. その他
6. おうちの人以外と話す時間が減る	13. 特にない
7. 自分のことをする時間がない	

問27 あなたの性別をえらんでください。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 男子	3. その他
2. 女子	4. 答えたくない

質問はこれで終わりです。調査にご協力いただきありがとうございました。

「小学生・中学生用」と書いてある封筒に入れ、シールをはがしてフタを閉じて、先生に渡してください。

相談窓口のご案内

○親子やきょうだいのことなど家庭での悩みについては

＜子どもの悩み相談フリーダイヤル＞

TEL : 0120-7285-25

24時間 365日

LINE <https://www.pref.osaka.lg.jp/kateishien/sodanliner3/index.html>

＜親子のための相談LINE＞

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_29751.html

＜交野市教育センター＞

TEL : 072-892-8203

月曜日～金曜日 : 9時～17時30分（※祝日・年末年始を除く）

＜交野市家庭児童相談＞

TEL : 072-810-8310

月曜日～金曜日 : 9時～17時30分（※祝日・年末年始を除く）

○友人関係など学校での悩みについては

＜すこやかホットライン＞

TEL : 06-6607-7361

月曜日～金曜日 : 9時～17時30分（※祝日・年末年始を除く）

Eメール sukoyaka@edu.osaka-c.ed.jp



【ひとりで悩まないで、相談してね。】

本調査は、大阪府と共同実施しております★

@2014 大阪府もずやん

パソコン・スマートフォン・タブレット端末でも回答できます！

■ WEBで回答された場合は、同封の調査票の返送は不要です。

■ 携帯電話（ガラケー）では回答できませんのでご注意ください。

- ◆ スマートフォン・タブレット端末の場合は、カメラで次の二次元バーコードを読み取ってください。

[二次元バーコード]



- ◆ パソコンの場合は、次のURL（「https…」から始まるアドレス）を検索画面に手入力し、エンターキーを押してください。

[URL] <https://src.webcas.net/form/pub/src/2700082>

- ◆ 最初の画面がでてきたら、次のIDを入力し、「次へ」ボタンを押し、ログインしてください。

◇ ID

※ IDは、個人を特定するものではありません。

- ◆ ログイン後は、質問の番号順に沿って回答してください。

おおさかふ こ せいかつ かん じったいちようさ
大阪府子どもの生活に関する実態調査
ほごしやむ ちようさ ちようさひよう かたのし
保護者向け調査 調査票【交野市】

ちようさ きようりよく ねが
< 調査への協力をお願い >

- ◆この調査は、保護者の方に家庭状況などをお聞きし、大阪府の子どものための支援策に役立てるために実施します。皆様からの回答を支援策の充実や改善につなげていきたいと考えていますので、お忙しい中お手数ですが、調査への協力をお願いします。
- ◆調査の対象は、5歳児、小学5年生と中学2年生です。
- ◆お名前や住所を書く必要はありません。調査の集計は統計的に処理し、個人や学校を特定することはありません。また、目的以外に使うことはありません。
- ◆この調査で「お子さん」とは、調査票を受け取ったお子さんのことです。「お子さん」と書かれた質問には調査票を受け取ったお子さんについてのみお答えください。
- ◆ごきょうだいなどで、この調査用紙が複数届いた場合も、お手数ですが、それぞれのお子さんについて、それぞれの調査用紙（またはWebフォーム）に回答してください。
- ◆Webまたは紙の調査票のどちらかで令和5年7月20日までに回答してください。

う え ぶ かいたう
(1) Webによるご回答

- この調査は、Webから回答することができます。
- 回答方法は、16ページをごらんください。
- ※Webでの回答は1回限りです。回答を送信すると、そのあとの修正はできません。

かみ ちよう さ ひよう かいたう
(2) 紙の調査票によるご回答

- ・調査票に記入後、「保護者用」と書かれた封筒に入れ、シールをはがして封をしてください。返信用封筒に入れて、期限までに学校へ提出してください。
- なお、調査票を学校で開封することはありません。
- ※児童につきましては、学校にて調査を行い回収させていただきます。

きげん れいわ ねん がつ にち もくようび
◆期限： 令和5年7月20日（木曜日）◆

ちようさ かん といあわ さき
【調査に関するお問合せ先】

かたのしすこ ぶ こそだ し えん か
交野市健やか部 子育て支援課

でんわ ちよくつう
電話 072-893-6406（直通）

※9:00～17:30 土・日曜日・祝日を除く

ふあくしみり
ファクシミリ 072-892-0525

質問の回答方法について

◆それぞれの質問について次のように教えてください。

(例) あなたの好きな色は何色ですか。

1. 赤色	3. 緑色
2. 黄色	4. その他の色

※答えは、あてはまる番号に○をつけてください。

※○のつけかたは、質問文の終わりに「あてはまる番号 1 つに○をつけてください」や「あてはまる番号すべてに○をつけてください」などを書いてありますので、それにしたがってください。

最初に、あなたとお子さんの関係についておたずねします。

問1 この調査に回答いただいている方におたずねします。お子さんとあなたの続柄について教えてください。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. お母さん	4. おじ、おばなど親戚
2. お父さん	5. 施設職員・ファミリーホーム・里親
3. おじいさん・おばあさん	6. その他の人

世帯の状況についておたずねします。

※あなたの世帯について、令和5年4月1日現在の状況を教えてください。

※世帯とは、普段、住居と生計を共にしている方々(世帯員)の集まりをいいます。血縁関係のない人でも同居していれば世帯に含んでください。また、単身赴任の方も含みます。

※世帯員には、旅行や出張などで一時的に自宅を離れている人や船員など就業場所を移動する人を含みます。

※また、病院・診療所に入院している人を含みますが、住民登録を病院・診療所に移している人は除きます。さらに、学業で世帯を離れている人、老人福祉施設などの社会福祉施設に入所している人を除きます。

問2 あなたの世帯の構成と人数をお答えください。（①～⑧それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください）（⑧は、あなたや対象のお子さんを含んだ人数をお答えください。）

①おばあさん	②おじいさん	③お母さん	④お父さん	⑧合計 (あなたや対象のお子さんを含む)
0. いない 1. 1人 2. 2人	0. いない 1. 1人 2. 2人	0. いない 1. 1人	0. いない 1. 1人	1. 2人 2. 3人 3. 4人 4. 5人 5. 6人 6. 7人 7. 8人 8. 9人 9. 10人以上
⑤姉・兄	対象のお子さん (本人) (※)	⑥妹・弟	⑦その他	
0. いない 1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人以上	1人	0. いない 1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人以上	0. いない 1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人以上	

※「対象のお子さん」とは、調査票を受け取ったお子さんのことです。

問3 お子さんと同居し、生計を共にしている親の婚姻状況を教えてください。
(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 結婚している（再婚や事実婚を含む。）	4. 未婚
2. 離婚	5. わからない
3. 死別	6. いない

問4 前の質問で「2. 離婚」に○をつけた方におたずねします。

離婚相手とお子さんの養育費の取り決めをしていますか。

また養育費を現在受け取っていますか。（あてはまる番号1つに○をつけてください）

1. 取り決めをしており、受け取っている
2. 特に取り決めはしていないが、受け取っている
3. 取り決めをしているが、受け取っていない
4. 取り決めをしておらず、受け取っていない

問5 あなたの住居は、次のどれにあてはまりますか。（あてはまる番号 1 つに○をつけてください）

1. 持ち家（親・きょうだいの名義を含む）	4. 民間の賃貸住宅
2. 府営・市営の住宅	5. 官舎・社宅
3. UR賃貸住宅・公社賃貸住宅	6. その他

問6 あなたの家計の収支状況についておたずねします。

（1） 前年（2022年）の1年間のあなたの家計の状況について、あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

1. 貯蓄ができています	3. 赤字でもなく黒字でもない
2. 赤字である	4. わからない

（2） お子さんの将来のために貯蓄をしていますか。（あてはまる番号 1 つに○をつけてください）

1. 貯蓄をしている	3. 貯蓄をするつもりはない
2. 貯蓄をしたいが、できていない	

問7 あなたの世帯では、経済的な理由で、次のような経験をされたことがありますか。おおむね半年の間でお考えください。（あてはまる番号すべてに○をつけてください）

1. 食費を切りつめた	13. 鉄道やバスの利用を控え、自転車を使ったり歩くようにした
2. 電気・ガス・水道などが止められた	14. 電話（固定・携帯）などの通信料の支払いが滞ったことがある
3. 医療機関を受診できなかった	15. 家賃や住宅ローンの支払いが滞ったことがある
4. 国民健康保険料の支払いが滞ったことがある	16. 趣味やレジャーの出費を減らした
5. 国民年金の支払いが滞ったことがある	17. 冷暖房の使用を控えた
6. 金融機関などに借金をしたことがある	18. 友人・知人との外食を控えた
7. クレジットカードの利用が停止になったことがある	19. 敷金・保証金などを用意できないので、住み替え・転居を断念した
8. 新しい衣服・靴を買うのを控えた	20. 理髪店・美容院に行く回数を減らした
9. 新聞や雑誌を買うのを控えた	21. 子ども部屋が欲しかったがつくれなかった
10. スマートフォンへの切替・利用を断念した	22. 1～21の項目には、どれもあてはまらない
11. 冠婚葬祭のつきあいを控えた	
12. 生活の見通しがたたなくて不安になったことがある	

問8 お子さんのお母さんとお父さんの最後に通った学校を教えてください。（あてはまる番号1つに○をつけてください）（現在、ひとりでお子さんを育てている場合（ひとり親の場合）はあてはまる方だけに○をつけてください。）

お母さん	お父さん
1. 中学校卒業	1. 中学校卒業
2. 高等学校中途退学	2. 高等学校中途退学
3. 高等学校卒業	3. 高等学校卒業
4. 高専、短大、専門学校等卒業	4. 高専、短大、専門学校等卒業
5. 大学卒業	5. 大学卒業
6. 大学院修了	6. 大学院修了
7. その他の教育機関卒業	7. その他の教育機関卒業
8. 答えたくない	8. 答えたくない

問9 お子さんの保護者の方の現在の就業状況についておたずねします。（複数か所にお勤めされている方はあてはまる番号をすべて選んでください）

※お母さん、お父さん以外の方が主として家計を支えている場合、「お母さん、お父さん以外の方」にもご記入をお願いします。

※現在、育児休業などで休業中の方は、復職するときの仕事の番号を選んでください。

お母さん	1. いる	2. いない



「1. いる」に回答された方は、次のあてはまる番号すべてに○をつけてください。

「7. 仕事を探していない」に○をつけた方は、仕事を探していない主な理由について①～⑦のあてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 勤め（常勤・正規職員） 2. 勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務） 3. 勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で2か所以上に勤務） 4. 自営業・家業 5. その他の就業形態 6. 仕事を探している	7. 仕事を探していない ①家事や育児に専念したため ②学生のため ③おうちの人の介護や介助のため ④病気療養のため ⑤年金収入があるため ⑥家賃収入、株式運用などの収入があるため ⑦その他

とう お父さん	1. いる	2. いない



「1. いる」に回答された方は、次のあてはまる番号すべてに○をつけてください。

「7. 仕事を探していない」に○をつけた方は、仕事を探していない主な理由について①～⑦のあてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 勤め（常勤・正規職員） 2. 勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務） 3. 勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で2か所以上に勤務） 4. 自営業・家業 5. その他の就業形態 6. 仕事を探している	7. 仕事を探していない ①家事や育児に専念したため ②学生のため ③おうちの人の介護や介助のため ④病気療養のため ⑤年金収入があるため ⑥家賃収入、株式運用などの収入があるため ⑦その他

お母さん、お父さん以外に主として家計を支えている方（おばあさん、おじいさん、おじ、おば、親戚など）	
1. いる	2. いない



「1. いる」に回答された方は、次のあてはまる番号すべてに○をつけてください。

「7. 仕事を探していない」に○をつけた方は、仕事を探していない主な理由について①～⑦のあてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 勤め（常勤・正規職員） 2. 勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務） 3. 勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で2か所以上に勤務） 4. 自営業・家業 5. その他の就業形態 6. 仕事を探している	7. 仕事を探していない ①家事や育児に専念したため ②学生のため ③おうちの人の介護や介助のため ④病気療養のため ⑤年金収入があるため ⑥家賃収入、株式運用などの収入があるため ⑦その他

問10 お子さんの保護者の方が家にいる時間帯で、多い時間帯を選んでください。（あてはまる番号1つに○をつけてください）

※保護者の方には、おばあさん、おじいさん、おじ、おばなど親戚を含みます。

※自宅が仕事場の場合は、お仕事が終わる時間帯を選んでください。

1. お子さんの学校(園)からの帰宅時間には家にいる	4. お子さんが寝た後に帰ってくる
2. お子さんの夕食時間には家にいる	5. 帰宅時間が決まっていない
3. お子さんの寝る時間には家にいる	6. その他

問11 ご家庭ではどれくらい、日本語以外の言語を使用していますか。（あてはまる番号1つに○をつけてください）

1. 日本語のみを使用している
2. 日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い
3. 日本語以外の言語を使うことが多い

お子さんに関することについておたずねします。

問12 あなたの世帯では、経済的な理由で、次のような経験をされたことがありますか。（おおむね1年の間で考えてください。）（あてはまる番号すべてに○をつけてください）

1. お子さんを医療機関に受診させることができなかった	9. お子さんを学習塾に通わせることができなかった
2. お子さんの進路を変更した	10. お子さんの誕生日を祝えなかった
3. お子さんのための本や絵本が買えなかった	11. お子さんにお年玉をあげることができなかった
4. お子さんにおこづかいを渡すことができなかった	12. お子さんの学校(園)行事などに参加することができなかった
5. お子さんに新しい服や靴を買うことができなかった	13. 子ども会、地域の行事（祭りなど）の活動に参加することができなかった
6. お子さんを学校（園）の遠足や修学旅行へ参加させることができなかった	14. 家族旅行（テーマパークなど日帰りのおでかけを含む）ができなかった
7. お子さんを習い事に通わすことができなかった	15. 1～14の項目には、どれにもあてはまらない
8. お子さんを学校のクラブ活動・部活動に参加させられなかった	

問13 あなたとお子さんとの関係について、次の項目でもっとも近いものを選んでください。

(1) あなたは、お子さんを信頼していますか。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. とても信頼している	3. あまり信頼していない
2. 信頼している	4. 信頼していない

(2) あなたは、お子さんとよく会話をしますか。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. よくする	3. あまりしない
2. する	4. しない

(3) あなたがお子さんと一緒に何かをしたり、相手をしたりしている時間は、1 日あたり平均すると、だいたいどれくらいになりますか。(平日、休日それぞれについて、あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

平日	休日
1. 0～15 分未満	1. 2 時間未満
2. 15 分～30 分未満	2. 2 時間～4 時間未満
3. 30 分～1 時間未満	3. 4 時間～6 時間未満
4. 1 時間～2 時間未満	4. 6 時間～8 時間未満
5. 2 時間～3 時間未満	5. 8 時間～10 時間未満
6. 3 時間～4 時間未満	6. 10 時間以上
7. 4 時間以上	

(4) あなたは、お子さんの将来に期待していますか。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. とても期待している	3. あまり期待していない
2. 期待している	4. 期待していない

(5) お子さんの授業参観や運動会などの学校(園)行事に参加していますか。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. よく参加している	3. あまり参加していない
2. ととき参加している	4. まったく参加していない

問14 あなたは、お子さんの進学について、どこまで希望されていますか。

(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. 中学校	4. 大学	7. 専門学校・高等専門学校
2. 高校	5. 大学院	8. 考えたことがない
3. 短期大学	6. 留学	9. わからない

問15 お子さんの通学（通園）状況について、もっとも近いもの1つに○をつけてください。

1. ほぼ毎日通っている
2. 欠席は年間30日未満である
3. 欠席が年間30日以上、60日未満である
4. 欠席が年間60日以上、1年未満である
5. 欠席が1年以上続いている
6. わからない

問16 子どもの居場所について、おたずねします。

（1）あなたのお子さんは、次のような「子どもの居場所」を利用したことがありますか。

（あてはまる番号1つに○をつけてください）

- ・自宅や学校以外の場所で、子どもたちが本を読んだり、みんなで遊んだりできるような場所
- ・子どもが無料又は低額で食事ができる場所（子ども食堂）
- ・自宅や学校、塾以外の場所で、無料でボランティアの方などが勉強を教える学習支援の場

1. 利用したことがある	2. 利用したことがない

（2）前の質問で「1. 利用したことがある」と答えた方におたずねします。

お子さんが子どもの居場所を利用することで良いと思うことは何ですか。

（あてはまる番号すべてに○をつけてください）

1. 地域の人とつながれるから	6. 宿題など勉強を見ってくれるから
2. お子さんが一人でご飯を食べなくてすむから	7. お子さんが楽しんでいるから
3. 栄養バランスのとれた食事がとれるから	8. 特になし
4. 運営者が相談に乗ってくれるから	9. その他
5. 低額（または無料）でご飯が食べられるから	

（3）問16（1）の質問で「2. 利用したことがない」と答えた方におたずねします。

子どもの居場所を利用しないのはなぜですか。（あてはまる番号すべてに○をつけてください）

1. どこにあるかわからないから	6. 行きたい日・時間に開いていないから
2. 家の近く（小学校区内）にないから	7. 利用したいと思わないから
3. 家で過ごしてほしいと思うから	8. 何をしているかわからないから
4. 居場所のイメージがよくないから	9. その他
5. お子さんが「行きたくない」と言っているから	

あなたのことについておたずねします。

問17 初めて親となった年齢はいくつですか。(実子以外も含みます)

(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. 10代	3. 24～26歳	5. 31～34歳	7. 40歳以上
2. 20～23歳	4. 27～30歳	6. 35～39歳	

問18 次の①～⑦について、おうちの方を含め（お子さんは除く）、あなたを支えてくれて、手伝ってくれる人はいますか。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

	いる	いない	わからない
① 心配ごとや悩みごとを親身になって聞いてくれる人	1	2	3
② あなたの気持ちを察して思いやってくれる人	1	2	3
③ 趣味や興味のあることを一緒に話して、気分転換させてくれる人	1	2	3
④ お子さんとの関わりについて、適切な助言をしてくれる人	1	2	3
⑤ お子さんの学びや遊びをゆたかにする情報を教えてくれる人 (運動や文化活動)	1	2	3
⑥ お子さんの体調が悪いとき、医療機関に連れて行ってくれる人	1	2	3
⑦ 留守を頼める人	1	2	3

問19 あなたが本当に困ったときや悩みがあるとき、相談相手や相談先はどこですか。

(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. 配偶者・パートナー	9. 学童保育の指導員(※)
2. 自分の親	10. 地域の民生委員・児童委員
3. 配偶者・パートナーの親	11. 民間の支援団体・カウンセラー(電話相談含む)
4. きょうだい・その他の親戚	12. 医療機関の医師や看護師
5. 知人や友人	13. インターネットのサイトへの書き込み、SNSやLINEによる相談
6. 職場関係者	14. その他
7. 学校の先生やスクールカウンセラー、 スクールソーシャルワーカー	15. 相談できる相手がいない
8. 公的機関や役所の相談員	

※「学童保育」とは、「放課後児童クラブ」、「いきいき放課後児童クラブ」、「留守家庭児童会(室)」、「学童クラブ」、「仲良しクラブ」も含みます。

とい 問20 次のうち、身近にあるといいと思うことは何ですか。（あてはまる番号すべてに○をつけてください）

1. 保護者^{ほごしや}どうして気軽に^{きがる}話せる^{はな}場^ば 2. SNS^{えすえぬえす}などのインターネット^{いんたーねっと}を通じて^{つう}悩み^{なや}ごとを話せる^{はな}コミュニティ^{こみゆにてい} 3. 家事^{かじ}の援助^{えんじよ}が受け^うられること 4. 支援^{しえん}制度^{せいど}など必要な^{ひつよう}情報^{じょうほう}を届^{とど}けてくれること 5. 困^{こま}った時^{とき}にご飯^{はん}を無料^{むりよう}または安価^{あんか}で自宅^{じたく}に届^{とど}けてくれるサービス^{さーびす}	6. お子^こさんが放課^{ほうか}後^ごや休日^{きゅうじつ}に勉強^{べんきよう}などができる^{ばしよ}場所^{ばしよ}を利用^{りよう}できること 7. お子^こさんが無料^{むりよう}で学習^{がくしゅう}支援^{しえん}を受け^うられる場所^{ばしよ} 8. お子^こさんや保護^{ほご}者^{しや}が夕食^{ゆうしよく}を無料^{むりよう}か安い^{やす}料金^{りようきん}で食べる^たこととができる場所^{ばしよ}（子ども食堂^{こどもしきどう}など）を利用^{りよう}できること

とい 問21 あなたの心^{こころ}の状態^{じょうたい}についておたずねします。

（1）生活^{せいかつ}を楽し^{たの}んでいますか（仕事^{しごと}や家事^{かじ}、育児^{いくじ}など）。

（あてはまる番号1つに○をつけてください）

1. とても楽し ^{たの} んでいる	3. あまり楽し ^{たの} んでいない	5. わからない
2. 楽し ^{たの} んでいる	4. 楽し ^{たの} んでいない	

（2）将来^{しょうらい}に対して希望^{たい}を持^{きぼう}っていますか。（あてはまる番号1つに○をつけてください）

1. 希望 ^{きぼう} が持 ^も てる	3. 希望 ^{きぼう} が持 ^も てない
2. 希望 ^{きぼう} が持 ^も てるときもあれば、持 ^も てないときもある	4. わからない

（3）ストレス^{すとれす}を発散^{はつさん}できるものがありますか。（あてはまる番号1つに○をつけてください）

1. ある	3. ない
2. あるときもあれば、ないときもある	4. わからない

（4）あなた^{じぶん}は、ご自分^{しあわ}が幸^{おも}せだと思^{おも}いますか。（あてはまる番号1つに○をつけてください）

1. とても幸 ^{しあわ} せだと思 ^{おも} う	4. 幸 ^{しあわ} せだと思 ^{おも} わない
2. 幸 ^{しあわ} せだと思 ^{おも} う	5. わからない
3. あまり幸 ^{しあわ} せだと思 ^{おも} わない	

とい
問22 あなたは、自分の^{じぶん}体^{からだ}や^き気^も持^きちで^き気^きになることはありますか。

(あてはまる^{ばんごう}番^{まる}号^{ごう}すべてに○をつけてください)

1. ねむれない	10. まわりが ^き 気 ^き になる
2. よく ^{あたま} 頭 ^{あたま} がいたくなる	11. やる ^き 気 ^き が起 ^お きない
3. ^は 歯 ^は がいたい	12. ^{いら} イ ^{いら} ラ ^{いら} する
4. 不安 ^{ふあん} な ^き 気 ^も 持 ^き ちになる	13. よく ^{かた} 肩 ^{かた} がこる
5. ものを見 ^み づらい	14. よく ^{こし} 腰 ^{こし} がいたくなる
6. ^き 聞 ^き こえにくい	15. とくに ^き 気 ^き になるところはない
7. よくおなかがいたくなる	16. その他 ^た
8. よくかぜをひく	17. わからない
9. よくかゆくなる	

^{こた}答^{こた}え^{しつもん}た^{こた}く^{ひつよう}ない^{ひつよう}質^{ひつよう}問^{ひつよう}に^{ひつよう}答^{ひつよう}え^{ひつよう}る^{ひつよう}必^{ひつよう}要^{ひつよう}は^{ひつよう}あ^{ひつよう}り^{ひつよう}ま^{ひつよう}せ^{ひつよう}ん。

^{こた}答^{こた}え^{まよ}に^{まよ}迷^{まよ}う^{まよ}場^{まよ}合^{まよ}い^{まよ}には、あ^きな^きた^きの^き気^も持^きち^{かんが}や^{かんが}考^{かんが}え^{かんが}に^{かんが}で^{かんが}き^{かんが}る^{かんが}だ^{かんが}け^{かんが}近^{かんが}い^{かんが}の^{かんが}も^{かんが}の^{かんが}を^{かんが}選^{かんが}ぶ^{かんが}よ^{かんが}う^{かんが}に^{かんが}し^{かんが}て^{かんが}く^{かんが}だ^{かんが}さ^{かんが}い。

問23 あなたの世帯では、以下の支援制度をこれまでに利用したことがありますか。

(a～gそれぞれについて、1～3のあてはまる番号1つに○をつけてください)

また、「3 利用したことがない」場合、その理由は何ですか。(①～⑤のあてはまる番号1つに○をつけてください)

	a 就学援助 ※1	b 生活保護 ※2	c 生活困窮者の 自立支援相談窓口 ※3	d 児童扶養手当 ※4	e 母子家庭等就業・ 自立支援センター ※5	f 低所得の子育て世帯に対する子育て 世帯生活支援特別給付金 ※6	g 新型コロナウイルス感染症に伴う 生活福祉資金(貸付金) ※7
現在利用している	1	1	1	1	1	1	1
現在利用していないが、 以前利用したことがある	2	2	2	2	2	2	2
利用したことがない	3	3	3	3	3	3	3
制度の対象外 (収入などの条件を 満たさない) だと思う から	①	①	①	①	①	①	①
利用はできるが、特に 利用したいと思わな かったから	②	②	②	②	②	②	②
利用したいが、今まで この支援制度を知ら なかったから	③	③	③	③	③	③	③
利用したいが、手続が わからなかったり、 利用しにくいから	④	④	④	④	④	④	④
それ以外の理由	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤

3に○をつけた場合、
①～⑤のあてはまるもの1つに○をつけてください

(参考)

※1 就学援助：経済的理由により子どもの就学が困難な場合に、学用品費などを補助する制度。

- ※ 2 生活保護：病気や失業などにより生活費等に困り、他に方法がないときに一定の援助が受けられる制度。
- ※ 3 生活困窮者の自立支援相談窓口：お金、仕事、住宅など、様々な課題を抱えた生活に困窮する方のための相談窓口。専門の支援員が具体的な支援プランを作成し、課題の解決に向けた支援を行う。
- ※ 4 児童扶養手当：所得が一定水準以下のひとり親世帯の生活支援のための手当。（児童手当とは異なります。）
- ※ 5 母子家庭等就業・自立支援センター：ひとり親の方が、仕事探しに関する相談や講習を受けられる支援センター。養育費の取り決めなどに関する相談も受けることができる。
- ※ 6 低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金：新型コロナウイルス感染症による影響が長期化する中で、低所得の子育て世帯（児童扶養手当受給者など）に対し子育て世帯生活支援特別給付金を支給する制度。
- ※ 7 新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）：新型コロナウイルス感染症の発生による休業や失業などにより、一時的又は継続的に収入減少した世帯を対象に、生活福祉資金貸付制度における生活支援費などを支給する制度。

世帯の経済状況についておたずねします。

問24 前年（2022年）のあなたの世帯の手取り収入の合計額は、およそいくらでしたか。

（あてはまる番号1つに○をつけてください）

※収入には、働いて得た給料だけでなく、株式配当や副収入を含めて合計してください。

税金や社会保険料を払ったあとの額でお答えください。

※また、公的な援助手当や養育費・仕送りを含んだ額でお答えください。

1. 50万円未満	12. 550～600万円未満	23. 1,200～1,300万円未満
2. 50～100万円未満	13. 600～650万円未満	24. 1,300～1,400万円未満
3. 100～150万円未満	14. 650～700万円未満	25. 1,400～1,500万円未満
4. 150～200万円未満	15. 700～750万円未満	26. 1,500～1,750万円未満
5. 200～250万円未満	16. 750～800万円未満	27. 1,750～2,000万円未満
6. 250～300万円未満	17. 800～850万円未満	28. 2,000～2,250万円未満
7. 300～350万円未満	18. 850～900万円未満	29. 2,250～2,500万円未満
8. 350～400万円未満	19. 900～950万円未満	30. 2,500～2,750万円未満
9. 400～450万円未満	20. 950～1,000万円未満	31. 2,750～3,000万円未満
10. 450～500万円未満	21. 1,000～1,100万円未満	32. 3,000万円以上
11. 500～550万円未満	22. 1,100～1,200万円未満	33. わからない

新型ウイルスの感染状況についておたずねします。

問25 この1年間でお子さんを含め、同居家族が新型コロナウイルスに感染したのべ回数を教えてください。
（例：母 1回、長男 1回 ⇒ 2回とお答えください。）

	かい 回

問26 あなたの住居環境についておたずねします。

（1）あなたが住まいの住居の間取りは、次のどれにあてはまりますか。（あてはまる番号1つに
まる
○をつけてください）

1. ワンルーム	3. 居室2部屋（2K、2DK、2LDK）
2. 居室1部屋（1K、1DK、1LDK）	4. 居室3部屋（3K、3DK、3LDK）以上

（2）その住居には、何人でお住まいですか。（□に数字をお書きください。）

	にん 人

質問は以上です。調査にご協力いただきありがとうございました。

相談窓口のご案内

○生活困窮者自立支援相談窓口（社福）交野市社会福祉協議会
電話 072-895-1185 月曜日～金曜日：9時～17時30分（※祝日・年末年始を除く）

○大阪府立母子・父子福祉センター <https://osakafu-boshiren.jp/>

○交野市ひとり親家庭相談【要予約】
電話 072-893-6406 月曜日～金曜日：9時～17時（※祝日・年末年始を除く）

<子育てや親子関係の悩みについては>

○交野市教育センター
電話 072-892-8203 月曜日～金曜日：9時～17時30分（※祝日・年末年始を除く）

○交野市家庭児童相談
電話 072-810-8310 月曜日～金曜日：9時～17時30分（※祝日・年末年始を除く）

○親子のための相談LINE https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_29751.html

★本調査は、大阪府と共同実施しております★

パソコン・スマートフォン・タブレット端末でも回答できます！

- WEBで回答された場合は、同封の調査票の返送は不要です。
- 携帯電話（ガラケー）では回答できませんのでご注意ください。

- ◆ スマートフォン・タブレット端末の場合は、カメラで次の二次元バーコードを読み取ってください。

[二次元バーコード]



- ◆ パソコンの場合は、次のURL（「https…」から始まるアドレス）を検索画面に手入力し、エンターキーを押してください。

[URL] <https://src.webcas.net/form/pub/src/2700081>

- ◆ 最初の画面が表示されたら、次のIDを入力し、「次へ」ボタンを押し、ログインしてください。

◇ ID

※ IDは、個人を特定するものではありません。

- ◆ ログイン後は、質問の番号順に沿って回答してください。

子ども・保護者のみなさまに本調査にご協力いただきました。ご多忙の中快くお引き受けくださりご協力くださいましたことを、ここに厚くお礼申し上げます。

交野市子どもの生活に関する実態調査

令和6年3月

交野市

調査研究業務 受注者

公立大学法人大阪 大阪公立大学